ウイグル文

アビダルマ論書の文獻學的研究

庄垣内　正弘　著

Uighur Abhidharma Texts:
A Philological Study

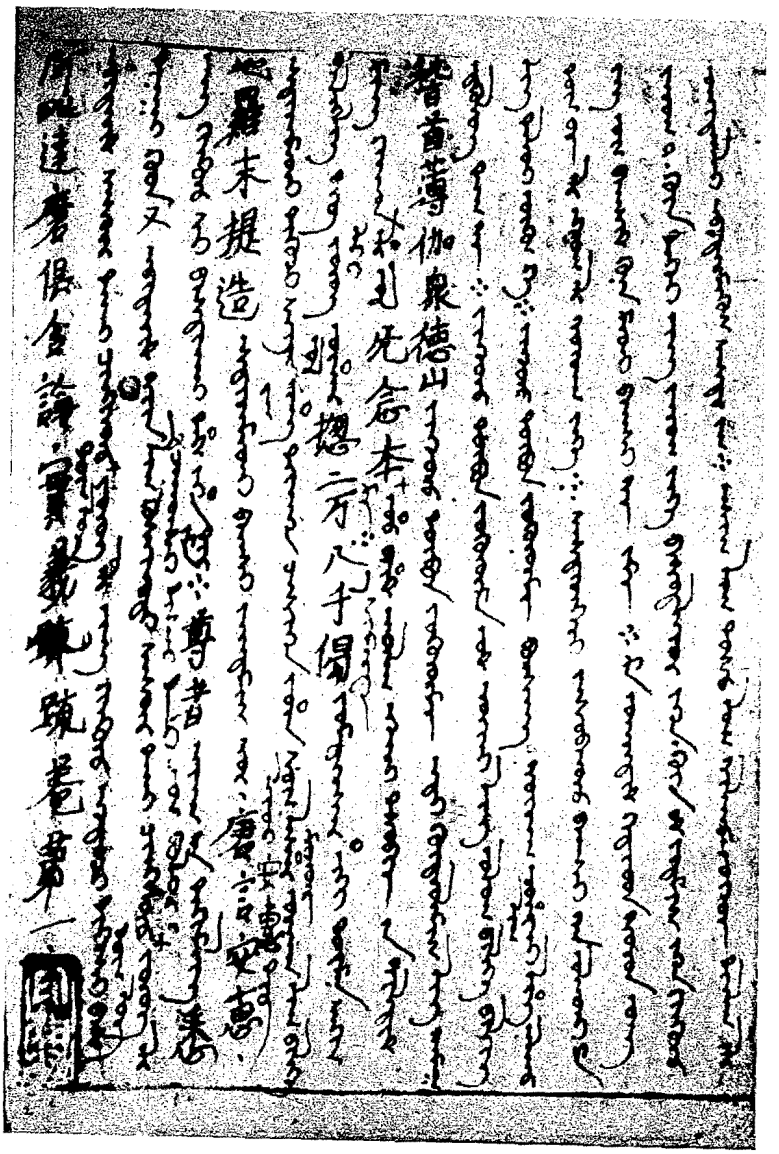
by
Masahiro SHŌGAITO

SHOUKADOH
2008年2月

中西印刷株式会社出版部　松香堂

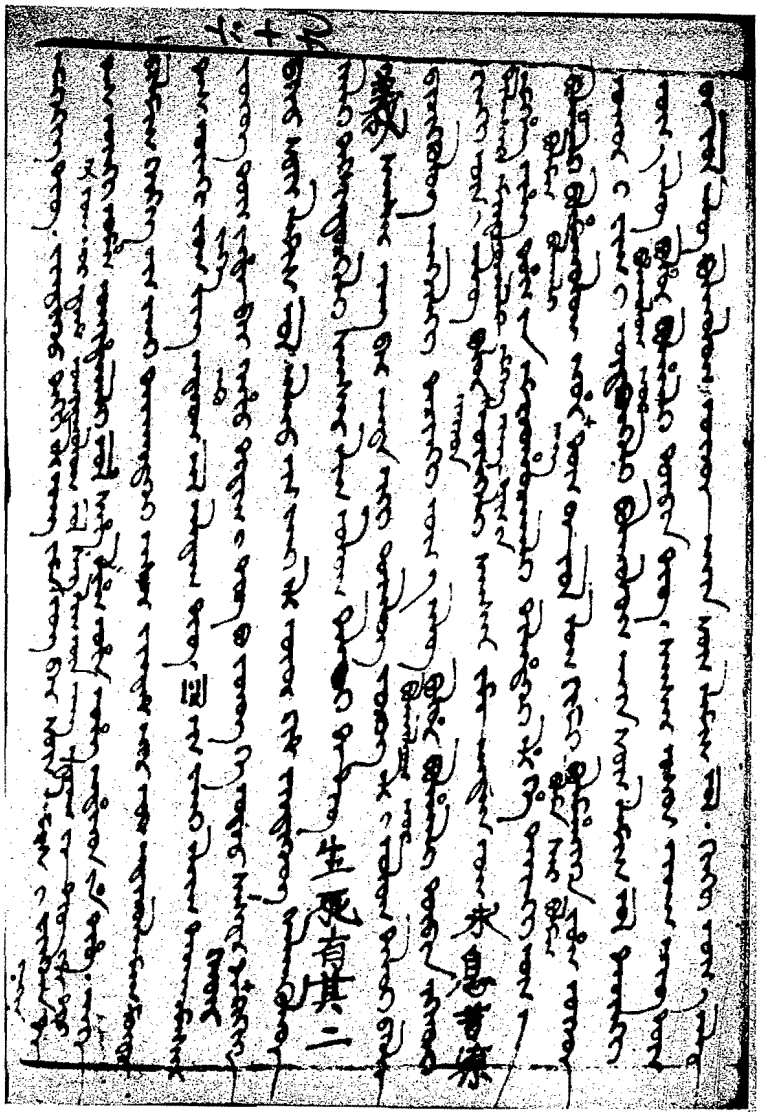
平成19年度日本学術振興会
科学研究費補助金（研究成果公開促進費）助成出版
松　香　堂

Printed by
Nakanishi Printing Co., Ltd.
Kyoto JAPAN



大英圖書館藏　Or. 8212-75A

1a *ll.* 1-15

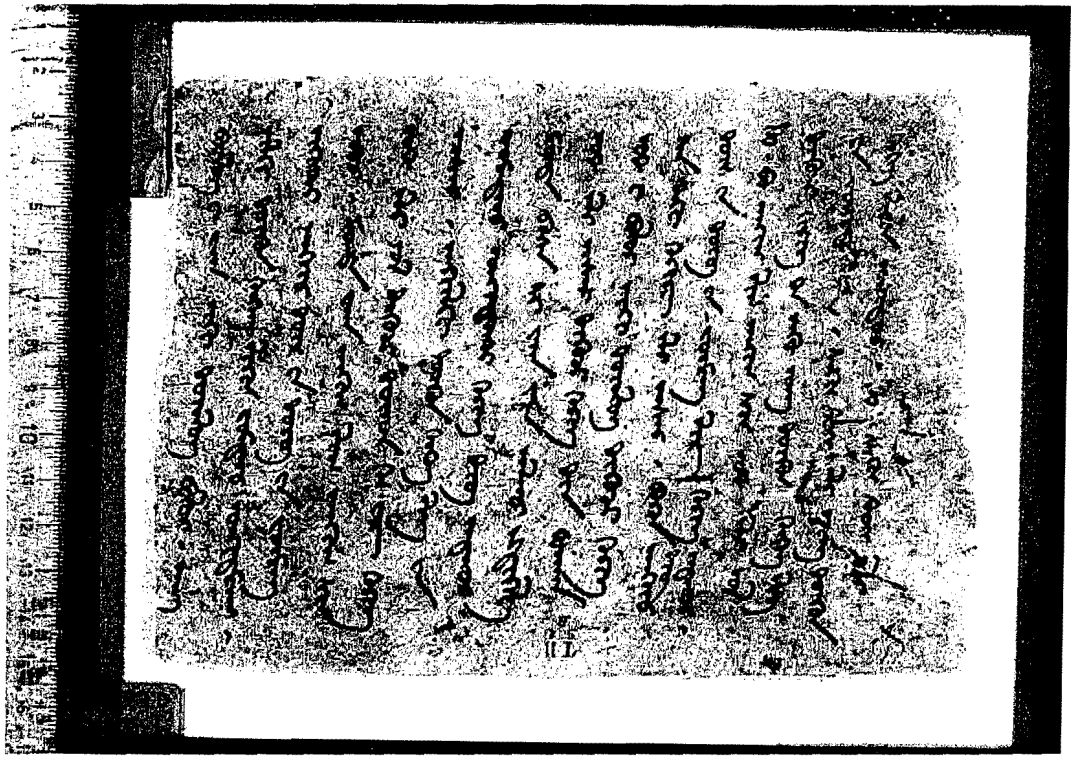


大英圖書館藏　Or.8212-75A

69a *ll.* 2049-2063



ロシア科學アカデミー東洋文獻研究所藏　SI Kr. 1/24　G *ll.* 1-58



ベルリン・ブランデンブルグアカデミー蔵　U5650 *ll.* 1-16

はじめに

19 世紀末頃から盛んになる中央アジア學術探檢は敦煌やタリム盆地周縁部から膨大な量の古文獻を發見し各國に將來する。これら中央アジア古文獻は約 20 種の言語で書かれており、その中にはウイグル人の書き遺したウイグル語文獻も含まれている。

ウイグル語文獻は宗教文獻と俗文書とに區分できる。宗教文獻にはマニ教やキリスト教のものも有るが、ほとんどは佛典である。俗文書は宗教文獻に比して量は極端に少ない。ウイグル語文獻の研究は 20 世紀初頭から始まり現在も續いている。佛典の研究も當初より盛んに行われてきたが、經典の研究が中心で、論書の研究はとりわけ海外においてはあまり熱心ではなかった。

ウイグル語で書かれたアビダルマ論書には『阿毘達磨俱舍論』『阿毘達磨順正理論』『阿毘達磨俱舍論實義疏』『俱舍論頌疏』、その他佛典名は不明であるが『俱舍論』『入阿毘達磨論』『俱舍論頌疏』のそれぞれ注釋書が遺されている。このうち『阿毘達磨俱舍論實義疏』と『阿毘達磨俱舍論』以外はいずれも小斷片の部類に入る。

本書では『阿毘達磨俱舍論實義疏』を中心にウイグル文アビダルマ論書について考察する。

ウイグル文『阿毘達磨俱舍論實義疏』には 3 種がある。第 1 種は、1907 年にスタイン（Aurel Stein）によって敦煌から將來された 2 册の册子本で、本書ではこれを「ロンドン本」とよぶ。第 2 種と第 3 種はいずれも中國の研究者によってやはり敦煌で發見されたものである。第 2 種は 80 年代に發見された卷子本で 1249 行を保っており、これを「甘肅本」とよぶ。第 3 種は最近になって發見された貝葉型の 3 枚の斷片で、これを「北區石窟本」とよぶ。

『阿毘達磨俱舍論實義疏』のサンスクリット原典は長らく不明であったが、つい最近になってチベットから發見された。中間の一部を缺くがこの發見はアビダルマ研究における極めて重大なことがらである。このサンス

クリット原典の研究は現在大谷大學の小谷信千代教授を中心に進められているとのことである。一方チベット語譯（15 世紀後半～ 16 世紀初頭）は完本として傳わっているが、書かれたチベット語自體が難解という理由で研究はあまり進んでいない。小さな部分譯を除いては翻譯も提出されていない。チベット語譯から重譯されたモンゴル語譯もあるが、これまでのところ研究は爲されていない。

『阿毘達磨俱舍論實義疏』の漢譯に關してはパリ國立圖書館に保管されている敦煌出土漢文の中からその節略本が羽田亨博士によって 1920 年代に發見されている。その後中國北京圖書館敦煌遺書の中から第 3 卷がほぼ完全な形で見つかり、1995 年になって出版された。

ウイグル文の『阿毘達磨俱舍論實義疏』は漢譯からの重譯である。ロンドン本は漢譯第 1 卷に相當する全てと第 4 卷に相當する一部とを保存しており、北京圖書館の漢譯第 3 卷とは殘念ながら重ならない。節略漢譯本には重なるが、極端な節略のため、その分量は極めて僅かである。

このロンドン本『阿毘達磨俱舍論實義疏』は 7015 行を保有しており、それはウイグル語文獻の中では『彌勒會見記』（Maitrisimit）『金光明最勝王經』（Suvarṇaprabhāsa）『大慈恩寺三藏法師傳』と竝んで最大級の分量に相當する。ウイグル文『阿毘達磨俱舍論實義疏』は大部であるだけでなく、内容および構文の複雜さから發見當初より特に難解とされてきた。海外の研究者が觸れることを敬遠する中で、1925 年に日本の羽田亨博士がこの文獻の概要について發表される。その記述は實に的確で極めて水準の高いものであった。當時、羽田博士を措いて同じ記述を行える者は居なかった。この概要の内容から推して、おそらく羽田博士ならこの文獻の全てを容易に解明することができたものと思える。しかし殘念なことに博士の學問的興味は徐々に歷史研究に移動し、爾來このウイグル語文獻について議論されることは無かった。その後年月を經て 1991 年と 1993 年に本書の著者は辛うじて轉寫テキストと翻譯を提出することができた。しかし、なお完全な内容解明には至らなかった。とりわけ 1991 年に出版した第 1 卷は、書寫人によって爲された補筆訂正に頼りすぎたあまりに結果として多くの不適切な轉寫や和譯文を提出することになった。その誤謬が明らかになったのは甘肅本ウイグル文を目にすることができてからである。また、わずか 3 葉ではあるが北區石窟本のウイグル文の内容も北京圖書館藏の漢譯第 3 卷と竝んでウイグル語譯『阿毘達磨俱舍論實義疏』の性格を知る上で役に立った。だが、1991 年以降の『阿毘達磨俱舍論實義疏』研究にとってもっとも役立ったのはストックホルム民族學博物館所藏の 2 千行を越えるウイグル文『阿毘達磨俱舍論』の使用が可能になったことである。このウイグル

文獻の存在は 30 年前から知っていたが、不幸なことに昨春までこれを扱う機會を得なかった。このウイグル文『阿毘達磨倶舍論』は漢文と完全に對應するのでウイグル語の佛教術語を漢語と對應させ、その意味を決定することが容易にできる。決定されたウイグル語術語は『阿毘達磨倶舍論實義疏』にも適用できる。さらに、内蒙古圖書館所藏のモンゴル語譯『阿毘達磨倶舍論實義疏』のマイクロフィルムを入手できたことも重要である。モンゴル語譯文はウイグル文の不明箇所の解明に助けとなる。また、ここ十數年の間に携わってきたロシア所藏のウイグル語文獻の研究の成果も『阿毘達磨倶舍論實義疏』研究に役立った。

本書の第 1 の目的は、著者が 1991 年以降に得ることのできたアビダルマ論書に關する新たな知見に基づいてロンドン本『阿毘達磨倶舍論實義疏』の内容を解説し直し、新出テキストとの比較をもってその第 1 卷 4585 行の校訂テキストとその和譯および注釋を提出することである。なお、第 4 卷 2430 行分は今のところ改訂の必要はない。

本書では、さらにアビダルマ論書の中から『阿毘達磨倶舍論』頌の注釋書および『入阿毘達磨論』の注釋書について考察し、これらもテキストを提出する。前者はベルリンのトルファン・コレクションに保管されている 2 葉の斷片でその内容は『倶舍論記』と重なるところが多い。後者はロシア科學アカデミー東洋文獻研究所（舊ロシア科學アカデミー東方學研究所サンクトペテルブルグ支所）の保管する 6 斷片である。いずれも複雜な内容を持つが、アビダルマ論書研究にとっては重要な文獻といえる。

ウイグル語文獻のほとんどは佛教文獻である。まだ未整理の文獻も多く殘っており、中國からは新たな發見もある。各文獻の内容の解明には書かれたウイグル語に關する文獻學的・言語學的知識、さらに佛教學的な知識が必要である。本書の内容がそれらの知識を充分に活用できたとは思わない。しかし、今後のウイグル語佛典研究に多少なりとも役立つことがあれば幸いである。なお、卷末に掲げた語彙がウイグル佛教術語辭典として一般に利用されることも期待している。

著者はこれまで本書の内容に類する記述には、2 種類の漢字の字體を使用してきた。すなわち、漢文佛典からの引用文には舊字體を、そして説明文には新字體を用いた。しかし、この不統一は、とりわけ辭書を驅使して漢字を讀む海外の研究者には好まれない。日本人研究者には古風な感を與えるかも知れないが、本書では敢えて舊字體に統一し海外研究者の利便を圖った。

本書刊行にあたっては、多くの若い研究者の協力を得た。ウイグル文テキストからの和譯文は大谷大學の箕浦曉雄氏がチェックしてくださった。

モンゴル文の翻譯には山口周子氏の協力を得た。また、厄介な校正作業では大﨑紀子氏を中心に橘堂晃一氏、小川サユリ氏らの手を煩わせた。著者に苦手なコンピュータ關連の作業は千田俊太郎氏が引き受けてくれた。この場を借りて各氏にお禮申し上げたい。また、出版過程での我が儘を默って聞き入れてくださった中西印刷株式會社の中西秀彦專務取締役にも感謝の意を表したい。

2008年1月21日

著者

目　次

0.ウイグル文アビダルマ論書 …… 1
1.ウイグル文『阿毘達磨倶舎論實義疏』解説 …… 3
1.1 ロンドン本『實義疏』の解説 …… 5
1.1.1　出土場所 …… 5
1.1.2　體裁 …… 5
1.1.3　奥書 …… 6
1.1.4『實義疏』のウイグル語名 …… 8
1.1.5　ウイグル文『實義疏』の内容 …… 10
1.1.5.1　ウイグル文『實義疏』と漢譯『倶舎論』との關係 …… 10
1.1:5.2 Or.8212-75A と『倶舎論』との對應關係 …… 11
1.1.5.3 Or.8212-75A の注釋の方法 …… 11
1.1.5.4 Or.8212-75A における『倶舎論』からの引用文とその注釋文の位置 …… 12
1.1.5.5 Or.8212-75B の注釋の方法 …… 15
1.1.5.6　ウイグル文中の引用文の翻譯原典 …… 15
1.1.6　ウイグル文『實義疏』とチベット文・モンゴル文『實義疏』との關係 …… 17
1.1.6.1　テキスト構成法の比較 …… 17
1.1.6.2　ウイグル文とチベット文・モンゴル文との内容の比較 …… 23
1.1.7　ウイグル語譯『實義疏』と漢譯『實義疏』との關係 …… 31
1.1.7.1　パリ本漢譯『實義疏』との關係 …… 31
1.1.7.1.1　Or.8212-75A とパリ本漢譯『實義疏』 …… 31
1.1.7.1.2　Or.8212-75B とパリ本漢譯『實義疏』 …… 37
1.1.7.1.3 パリ節略本漢譯『實義疏』と北京本漢譯『實義疏』との關係 …… 38
1.1.8　書寫人によるウイグル文の訂正 …… 40
1.1.8.1　訂正の方法 …… 40
1.1.8.2　對應佛典と訂正の正確性 …… 43
1.1.8.2.1 節略漢文『實義疏』と對應する部分の訂正 …… 44
1.1.8.2.2『順正理論』からの引用文に對する訂正 …… 45
1.1.8.2.3『倶舎論』からの引用文に對する訂正 …… 47
1.1.8.2.4 まとめ …… 48
1.1.9　ウイグル文の誤譯と誤寫 …… 48
1.1.9.1　文レベルの誤り …… 49
1.1.9.2　單語レベルの誤り …… 49
1.2　中國所藏ウイグル文『實義疏』 …… 50
1.2.1　甘肅博物館藏ウイグル文『實義疏』 …… 50
1.2.1.1　插入漢字列から解る同一ウイグル文の使用 …… 51
1.2.1.2　ウイグル文の訂正からみる兩寫本の性格 …… 52
1.2.1.2.1 甘肅本はロンドン本の訂正前のウイグル文とよく合致する …… 52
1.2.1.2.2 本文中の訂正は兩寫本に共通する …… 55

1.2.1.2.3 ロンドン本にはみられない甘粛本本文中の訂正 …… 57
1.2.1.2.4 甘粛本本文の内容がロンドン本の訂正文と合致する例 …… 58
1.2.1.3 甘粛本とロンドン本ウイグル語との言語上の違い …… 60
1.2.1.3.1 音韻上の違い …… 60
1.2.1.3.2 形態上の違い …… 60
1.2.1.3.3 統語上の違い …… 61
1.2.1.3.4 語彙上の違い …… 62
1.2.1.3.5 挿入漢字の違い …… 63
1.2.1.3.6 ウイグル語の漢字への置き換え …… 64
1.2.2 北區石窟本ウイグル文『實義疏』 …… 65
1.2.2.1 北區石窟出土 B52 乙:17 …… 66
1.2.2.1.1 B52 乙:17 の轉寫テキスト …… 67
1.2.2.1.2 B52 乙:17 とロンドン本との對應 …… 69
1.2.2.1.3 B52 乙:17 の翻譯と注 …… 72
1.2.2.2 北區石窟出土 B128:13 …… 80
1.2.2.2.1 B128:13 の性格 …… 80
1.2.2.2.2 B128:13 の轉寫テキスト …… 81
1.2.2.2.3 B128:13 の翻譯と注 …… 83
1.3 ウイグル文及び漢文『實義疏』と『倶舎論』との關係圖 …… 86
1.4.『實義疏』の使用したウイグル語の特徴 …… 87
1.4.1 文字 …… 87
1.4.2 音韻と形態 …… 90
1.4.2.1 子音間への母音挿入 …… 90
1.4.2.2 希有な形態 …… 90
1.4.2.2.1 希有な自由形態素 …… 90
1.4.2.2.2 希有な拘束形態素 …… 93
1.4.3 佛教術語 …… 95
1.4.3.1 譯語としての佛教術語 …… 95
1.4.3.1.1 説明的な譯語 …… 95
1.4.3.1.2 直譯的な譯語 …… 97
1.4.3.2 音借用された佛教術語 …… 99
1.4.3.2.1 漢語からの借用 …… 99
1.4.3.2.2 サンスクリットからの借用佛教術語 …… 105
1.4.3.2.2.1 語末形式の特徴 …… 105
1.4.3.2.2.2 後期形式の特徴 …… 108
1.4.4 構文 …… 112
1.4.4.1 擬漢構文 …… 112
1.4.4.1.1 語順 …… 112
1.4.4.1.2 定型語法 …… 117
1.4.4.1.2.1 類似する意味をもつ漢字の使い分け …… 117

1.4.4.1.2.2 「令」による使役表現 …… 119
1.4.4.1.2.3 「雖」と「豈」の表現 …… 120
1.4.4.1.2.4 同一漢字の使い分け …… 120
1.4.4.1.2.5 異なる漢字の同一表現 …… 121
1.4.4.1.2.6 接續詞の定譯化 …… 122
1.4.4.1.3 まとめ …… 122
1.4.5 漢字の訓讀と漢文の訓讀 …… 123
1.4.5.1『實義疏』ウイグル語文中の漢字の讀み方 …… 123
1.4.5.1.1『實義疏』ウイグル語文中漢字の訓讀 …… 123
1.4.5.1.2『實義疏』ウイグル語文中漢字の音讀 …… 126
1.4.5.2 漢文との對照を前提として書かれた『實義疏』ウイグル文 …… 127
1.4.5.3 漢文訓讀の書き下し文としての『實義疏』ウイグル文 …… 131
1.4.5.4 まとめ …… 133
2.『阿毘達磨俱舍論實義疏』以外のアビダルマ論書 …… 135
2.1 ウイグル文『入阿毘達磨論』の注釋書斷片 …… 135
2.1.1『入阿毘達磨論』注釋書の體裁 …… 135
2.1.2『入阿毘達磨論』注釋書の文字轉寫テキスト …… 137
2.1.3『入阿毘達磨論』注釋書の音素轉寫・翻譯・註 …… 142
2.2『阿毘達磨俱舍論』頌の注釋書斷片 …… 155
2.2.1『阿毘達磨俱舍論』頌の注釋書斷片の性格 …… 155
2.2.2『阿毘達磨俱舍論』頌の注釋書の文字轉寫テキスト …… 156
2.2.3『阿毘達磨俱舍論』頌の注釋書の音素轉寫・翻譯・注 …… 158
3. ロンドン本『阿毘達磨俱舍論實義疏』Or.8212-75A のテキスト …… 165
4. 語彙リスト …… 467
略號表と參照文獻 …… 746

0. ウイグル文アビダルマ論書

ウイグル文のアビダルマ論書の研究は『阿毘達磨倶舎論實義疏』を中心に行われる。それは、この文獻が分量において他を凌駕するだけでなく、ウイグル語學や佛教學にとって極めて重要な内容をもっているからである。しかしウイグル文の翻譯原典となる確かな漢譯が見つかっていないので、難解な内容を解明するためには他のアビダルマ論書の助けを借りねばならない。幸いなことにここ十數年の間に、種々のウイグル文アビダルマ論書の斷片が利用できるようになった。とりわけストックホルム民族學博物館所藏のウイグル文『阿毘達磨倶舎論』は漢文と對照できる纏まった量の文獻で、ウイグル文『阿毘達磨倶舎論實義疏』の内容解明に大いに役立つ。

本書はウイグル文『阿毘達磨倶舎論實義疏』を中心に据えた文獻學的研究であるが、本書表題にあるごとくウイグル文アビダルマ論書全體を考察の對象としており、著者の利用できる斷片類には全て目を通した。さらに、ロシア所藏の『入阿毘達磨論』とドイツ所藏の『阿毘達磨倶舎論』頌の注釋書は詳細に分析しテキストと譯・注も提出する。

管見によれば現在保管されているウイグル文アビダルマ論書は以下のごとくである。

1)『阿毘達磨倶舎論』: a) ストックホルム民族學博物館藏 (1935-25~40) 16 葉合計 2066 行。b) 北京圖書館藏 1 葉 129 行。c) 甘肅省博物館藏 1 葉 128 行。d) 藤井有隣館藏 1 葉斷片 50 行[1]。

2)『阿毘達磨倶舎論實義疏』: a) 大英圖書館藏 2 册 (Or.8212-75A/B)。75A は 4585 行、75B は 2430 行、合計 7015 行。b) 甘肅省博物館藏 1 卷斷簡 1249 行。c)『敦煌莫高窟北區石窟』第 1, 2, 3 卷所收 3 葉 (B52 乙:17, B128:13, B157:15) 合計 163 行[2]。

3)『阿毘達磨倶舎論本頌』イスタンブル大學圖書館藏 (No.13) 25 行[3]。

---

1 a) はかつて百濟 (1984 pp.73-76) において概要が詳しく論じられ、『倶舎論』の第 7, 8, 13, 14, 17, 18, 22, 23, 29, 30 卷の内容の一部に對應することが明らかにされた。本書の著者は全體のテキストと譯注を完成させ、現在出版準備段階に入っている。本書でもこの『倶舎論』の内容は利用する。b) は張鐵山・王梅堂 (1994) において、c) は耿世民 (1987) と耿世民 (2001 pp.435-447) において、d) は百濟 (1984 pp.66-72) においてそれぞれテキストが提出されている。b) の内容は『倶舎論』の第 5 卷に、c) は第 8 卷に、d) は第 3 卷に所屬する。これら 4 カ所に保管されている貝葉斷片は體裁から判斷してもともと同一文獻に所屬するものといえる。

2 a) も b) も次章において詳しく議論する。a) は庄垣内 (1991, 1993) においてテキストが提出された。b) は耿世民 (2002) で概要と大英圖書館本との比較が行われた。c) の 1 葉 (B157:15) は Aydar (2005) で、殘る 2 葉の内 B52 乙:17 は庄垣内 (2000) で、B128:13 は庄垣内 (2004) でテキストが提出された。なお、B52 乙:17 は後に張鐵山によって庄垣内 (2000) と類似の研究が發表提出された：張鐵山「敦煌莫高窟北區 B52 窟出土回鶻文ー『阿毘達磨倶舎論實義疏』殘葉研究」『敦煌學輯刊』第 41 期 2002 年。

3 Kudara (1981) においてテキストが提出された。

4)『阿毘達磨倶舍論』頌の注釋書：a) ベルリン・ブランデンブルグ・科學アカデミー藏 1 葉（U5491）9 行、b) 2 葉（U5650, U5674）合計 63 行。c) 北京大學圖書館藏 1 葉（D012V）22 行。d)『敦煌莫高窟北區石窟』第 3 卷所收 1 葉 70 行。e) 大英圖書館藏（Or.8212-108）1 頁 13 行[4]。

5)『入阿毘達磨論』の注釋書：a) ロシア科學アカデミー東洋文獻研究所藏 6 斷簡（SI Kr. 1/24, 27, 28, 29, 30, 33) 合計 108 行。b) ストックホルム民族學博物館藏（1935-21~23）3 葉合計 221 行。c) 羽田家所藏寫眞 4 葉合計 204 行[5]。

6)『阿毘達磨順正理論』：a) 藤井有隣館藏 2 葉合計 71 行。b) 羽田家所藏寫眞 1 葉 22 行[6]。

以上に掲げたウイグル語テキストは言語特徵や發見の場所から考えて元朝時代に書かれたものと推定できる。上掲テキストを構成上から分類するなら次のようになる。

a. 全譯

a-1 漢字の插入：a-2, a-3 及び b 以外の文獻。

a-2 漢字の非插入：上掲 5-a の『入阿毘達磨論』の注釋書。

a-3 漢字の非插入チベット文字の插入：上掲 4-b の『阿毘達磨倶舍論』頌の注釋書。

b. 拔粹譯

上掲 2-c の『阿毘達磨倶舍論實義疏』（B52 乙:17, B157:15)、6-a,b の『阿毘達磨順正理論』。いずれも漢字の插入有り。

---

4 a) と c) とは明らかに漢文『倶舍論頌疏論本』（大正 Vol.41, No. 1823）の內容に對應する。a) は P. Zieme 氏が同定したもので、大正 Vol.41 の p.929c *ll.*10-14 に對應する。本書の著者は私信によってそれを知り得た。この場を借りて Zieme 氏に感謝の意を表したい。c) は張鐵山（2001）にテキストが提出された。「大正大藏經」Vol.41 の p.814a *ll.*4-17 行目に對應する。a) も c) も句あるいは文ごとに漢字を冠し、それにウイグル文が後續する構成である。d) と e) は『倶舍論』頌の注釋であるが對應する漢文は見つかっていない。d) は『敦煌莫高窟北區石窟』第 3 卷圖版 109 に 1 葉からの 5 枚の斷片として掲げられている。總行 70 行のうち、1 小斷片分 22 行のテキストが張鐵山（2003 pp.49-52）に提出されている。e) は韻文テキストに付加的に綴じられた 1 頁で、百濟（1980a）でテキストが提出されている。b) は庄垣內（2006）でテキストが提出された。漢字を內在せず、代わりにチベット文字をもつ。內容の一部は『倶舍論記』と對應する。本書の 2.2 で再度扱う。

5 a) は庄垣內（2004b）でテキストが提出された。本書 2.1 で再度扱う。b) と c) は百濟（1980b）において概要が論じられ、それぞれから若干行のテキストが提出された。

6 a) b) 共に百濟（1982b）で議論され、テキストが提出された。ただ、藤井有隣館藏の 1 葉（No.11）は『實義疏』（Or.8212-75B）の內容とも重なるので、すでに本書の著者によって 1981 年に議論されテキストも提出されている：cf.「ウイグル文『中阿含經』斷片四葉について」（『神戸外大論叢』Vol.32, No.1, pp. 87-105）pp.90-92。

1. ウイグル文『阿毘達磨倶舎論實義疏』解説[7]

ヴァスバンドゥ（Vasubandhu　漢名世親）はインド佛教4大學派の1つである説一切有部の學説をまとめて綱要書『阿毘達磨倶舎論』（Abhidharmakośabhāṣya）を著す。この綱要書の注釋書としてはヤショーミトラ（Yaśomitra　漢名稱友）の『倶舎論明瞭義』（Sphuṭārthābhidharma-kośa vyākhyā）やプールナヴァルダナ（Pūrṇavārdhana 漢名滿增）の『倶舎注疏隨相』（Lakṣaṇānusārīṇī）と竝んでスティラマティ（Sthiramati　漢名安慧 510-570, 480-540?）の『阿毘達磨倶舎論實義疏』（Abhidharmakośabhāṣya-ṭīkā Tattvārthā）がよく知られている。『倶舎論明瞭義』はサンスクリット原典とそのチベット語譯が、また『倶舎注疏隨相』はチベット語譯が遺されている[8]。『阿毘達磨倶舎論』の注釋書としてはこれまでサンスクリット原典の利用が可能であった『倶舎論明瞭義』がもっともよく研究されてきたが、その著者ヤショーミトラはこの注釋書以外には知られていない人物である。これに對してスティラマティは高名な瑜伽行派の論師で『阿毘達磨倶舎論實義疏』以外にも數々の著作がある。一方、『倶舎注疏隨相』の内容の多くは『阿毘達磨倶舎論實義疏』に依るものといわれる。したがってスティラマティの手による『阿毘達磨倶舎論實義疏』は『阿毘達磨倶舎論』の重要な注釋書として早くから注目されてきた。しかし、サンスクリット原典が長らく不明のままであった上に、完本として傳わっているチベット語譯が難解であるために研究はあまり進んでいない。翻譯もわずかに小さな部分譯のみが發表されている。チベット語譯から重譯されたモンゴル語譯もあるが、研究は無い。だが、序文にも觸れたようについ最近になってチベットから『阿毘達磨倶舎論實義疏』のサンスクリット原典が發見された。中間の一部を缺いており完本ではないが、この原典の解明が進めば『阿毘達磨倶舎論實義疏』の研究は飛躍的に發展するものと期待できる。

さて、ウイグル文『阿毘達磨倶舎論實義疏』（以下『實義疏』）ロンドン本は敦煌の莫高窟から出土したもので、1907年に英國の スタイン（Aurel Stein）が彼の第2次中央アジア探檢の過程で入手し、大英博物館（British Museum）に收めたものである。スタインの著したセリンディア（Serindia）の第2卷には Ch. xix 001, 002 の文獻番號が付けられている[9]。その後このウイグル語文獻は大英圖書館（British Library）に移管されて文獻番號も Or.8212-75A/B に改められた。75A（Ch. xix 001）と 75B（Ch. xix 002）は別個の冊子である。實は75Aには20葉ほどからなるさらに別の1冊がこれに付屬している。この1冊もセリンディアや羽田亨の記述では同じく『實義疏』の内容をもつものとされてきたが[10]、後にテキン（Şinasi Tekin）がこれを『實義疏』と

---

7 第1章「ウイグル文『阿毘達磨倶舎論實義疏』解説」は庄垣内（1991, 1993ab）の解説部分を基礎にして、それ以降の著者の研究内容を加えて發展させたものである。なお、本章でのウイグル文は基本的に音素轉寫で掲げる。だだし軟口蓋鼻子音は ng で表す。

8 最近になってトルファン出土のサンスクリット斷片が『倶舎注疏隨相』に同定されたという。Cf. 冀浦 (2004) p.96.

9 Stein, A.（1921）: *Serindia*,Vol.II, Oxford, p.925.

10 羽田亨はこれを「卷第四、分別根品第一之二の中に説きたる相應の義に附したる釋の譯（?）」としている。羽田亨（1925）pp.752,（1975）p.153.

は無關係とし[11]、その後著者はその内容がアヴァダーナであることを明確にしてテキストと翻譯を1976年に出版した[12]。

ウイグル語で書かれた『實義疏』はこのロンドン本の他に、1980年代に入って甘肅省博物館所藏文獻中から耿世民が同定した1200行を越える卷子斷片がある。さらに最近になって敦煌莫高窟北區石窟から500點を超えるウイグル語文獻斷片が出土したが、その中にも『實義疏』の内容をもつものが3葉發見されている。

ウイグル語譯『實義疏』は漢譯からの重譯である。したがってウイグル語文を讀み解くには對應する漢譯本『實義疏』の存在が望ましい。しかし、ウイグル本と重なる内容をもつ漢文は曾てパリ國立圖書館で羽田亨の發見した極端に節略された1本以外にはない。北京圖書館には漢譯『實義疏』の第3卷がほぼ完全な形で保管されており、1995年に全文が公開されたが[13]、ウイグル語譯とは重ならない。

ロンドン本『實義疏』の研究は先ずロス（E. D. Ross）によって始められた。この文獻を將來したスタインはロスにその研究を依頼する。ロスは上掲セリンディアに文獻の概要について短い情報を提供し、この文獻がスティラマティの『實義疏』のさらにその注釋であると誤って報告する。ロスはそれ以上の研究成果を提出していない。その後、1925年に羽田亨が詳細な概要を發表する[14]。この内容は優れておりその後半世紀以上にわたって利用された。1970年にテキンがこの文獻のファクシミリを出版し、序文に短い解説を書くが[15]、羽田亨の記述内容をほとんど發展させることはなかった。1980年代に入って百濟康義がこの文獻中の論師・論書のサンスクリット名、さらにサンスクリット文法のウイグル語譯についての論文を發表する[16]。本書の著者は1988年にこの文獻中に『順正理論』からの引用文を抽出して論文にまとめ、さらに1989年とその翌年にかけて75Aの轉寫テキストを發表した[17]。1990年にバルートゥチュ（Sema Barutçu）がこの文獻の「三無爲」に關する内容をもつ28葉分（75A*ll*.2927-3868）のテキストを提出した[18]。著者は1989-1990年に提出した轉寫テキストを土臺にして1991年に75Aの全テキストと翻譯を出版した。また1993年には75Bの全テキストと翻譯、さらに同年に兩寫本のファクシミリを出版した[19]。今世

11 Tekin（1970）pp.IX-X.

12 庄垣内（1976）。1976年には韻文形式のテキストを出さなかったので、庄垣内（1982）で改訂テキストを提出した。改訂版のドイツ語譯が1988年に出版された：Shōgaito, M., "Drei zum Avalokiteśvara-sūtra passende Avadānas", *Der türkische Buddhismus in der japanischen Forschung*. Wiesbaden. pp. 56-99.

13 蘇軍（1995）pp.169-250.

14 羽田（1925）。

15 Tekin（1970）pp.IX-XVIII.

16 百濟（1982a）。また、K. Röhrborn(1983)は『實義疏』中の佛教用語について若干の議論をなす。

17 庄垣内（1988, 1989, 1990）。

18 Barutçu（1990）。Barutçuは『實義疏』中の「三無爲」に關する内容を含む部分を扱うが、テキストには初歩的な誤謬が目立った。また、この部分には ädgü「善」のウイグル文字綴りが簡略化され、表音文字としては分析できない一種の表意文字化した形式が6つ出てくる（cf. 本書1.4.1）。同氏はこれをチベット文字と勘違いし、このウイグル語文獻がチベット語から翻譯されたという可能性を示唆する（pp.10-11）。もちろんこの示唆は何人にも受け入れられなかった。その後同氏は1998年に同名の改訂版を出版するが、そこでは正しく ädgü と修正されているし、テキストも完成している。

19 庄垣内（1991, 1993ab）。

紀に入って、耿世民が甘肅省博物館所藏のウイグル文『實義疏』とロンドン本とを、とりわけ語彙の異同について考察し發表した[20]。また敦煌莫高窟北區から發見された『實義疏』斷片3葉の内2葉を著者が、1葉をアイダル・ミルカマル（Aydar Mirkamal）が研究し發表した[21]。

著者が1991年にロンドン本75Aを出版した時點では利用できる資料に大きな制限があった。その後、75Aの研究を大きく發展させることのできる4點の資料の利用が可能になった。まず1點目は甘肅本ウイグル文『實義疏』の複製寫眞を入手できたことである。これは75Aの1942行目から3191行目までと重複し、テキストの校訂に役立つ。2點目はストックホルム民族學博物館所藏の2066行のウイグル文『倶舍論』を扱えるようになったことである。この文獻の研究は『實義疏』中の佛教術語の確定に役立つ。3點目は北京圖書館所藏の漢譯『實義疏』第3卷の公表である。この漢文テキストはウイグル文の翻譯原典の性格を知る上でとりわけ重要である。4點目はチベット語から翻譯されたモンゴル語譯『實義疏』の複製寫眞を入手したことである。チベット語譯の研究が進んでいない現狀ではモンゴル語譯はウイグル文の内容解明に大いに役立つ[22]。

1.1 ロンドン本『實義疏』の解說

1.1.1 出土場所

スタインの記述によれば、Or.8212-75A（Ch. xix 001）と75B（Ch. xix 002）は、敦煌莫高窟、ペリオ編號第163窟（現在の第17窟）すなわち11世紀前半に封藏された藏經洞を耳洞として内藏する洞窟において、この耳洞から搬出され山積みされた文獻類の頂上に置かれていたという。しかし實際にはこの文獻は藏經洞に封入されていたものではなく、この藏經洞の發見者である王圓籙道士の手でさらに北よりの元朝時代の洞窟から持ち込まれたものであるという。この元朝時代の洞窟はペリオ編號の181窟か182窟に該當する[23]。

1.1.2 體裁

Or.8212-75Aは本文149葉と、表紙とおぼしき2葉とを袋とじして作った冊子本である[24]。紙は淡黄色薄手のいわゆるrice paperを用いている。各頁の大きさは、縦6⅝横4¾（~5）インチ（17cm × 12cm）である。本文には「一」から「一百四十九」の丁數がついているが、「一百十一」から「一百四十八」までは「一百」の數を省略して、たとえば「十一」「四十八」のごとく記されている。

Or.8212-75Bは縦7½　横5⅛インチ（19cm × 14cm）、75Aと同樣の紙を用いた袋と

20 Geng (2002).

21 庄垣内（2000）pp. 173-189。庄垣内（2004a）。Aydar (2005).

22 モンゴル語譯は内蒙古自治區圖書館藏のモンゴル・タンジュールに含まれるもので、1984年に北京圖書館が撮影したマイクロフィルムの複製を使用した。現物も眼にしたが保存狀態はあまり良くなく、全體に文字が薄れている。

23 Cf. 前掲 *Serindia*, Vol.II pp.828-829, 923. 森安孝夫（1985）p.72. 梅村坦（1980）pp.190-191.

24 Or.8212-75A/Bのサイズなどの體裁に關しては前掲 *Serindia*（Vol.II p.925）に從った。

じ冊子本である。第 24 葉目の裏面から 105 葉目の表面が遺されている。丁數は「二十五」から「一百五」までが付されている。ただこの 75B の第 93 葉から第 95 葉の間は、出回っている寫眞によって異なりがある。東洋文庫所藏のものは第 94 葉が第 95 葉と入れ替わっている。1970 年に出版されたテキン（Tekin 1970）のファクシミリでは丁數は合っているのに第 93 葉の裏面に本來の第 95 葉の裏面が、第 94 葉の裏面に第 93 葉の裏面が、第 95 葉の裏面に第 94 葉の裏面が付けられている。ところが、1921 年に羽田亨が撮影し、現在京都大學大學院文學研究科に保管されている寫眞には第 93 葉から第 95 葉までが正確に竝んでいる。その寫眞では、この冊子が解體されて撮影されている樣子が寫っているので、おそらく綴じ直す段階で入れ替えが生じたのであろう。その時點では東洋文庫所藏の寫眞が示すように單純に第 94 葉と第 95 葉とが入れ替わった。その後、誰かが丁數の不順に氣づき、揃えようとした。しかし袋綴じの折り返し部分は擦り切れて各葉は 2 枚に分斷されている。丁數の無い裏面半葉の順序を混亂してしまい、その結果テキンのファクシミリのように誤って綴じ直されたのであろう。なお、羽田亨撮影複製寫眞の第 31 葉裏面には第 33 葉表面が重複して寫っており、もとの第 31 葉裏面は缺落している。この半葉一面を除くと羽田寫眞がもとの頁順を保存しており、寫眞畫面も鮮明である。羽田亨は、75A の複製寫眞も將來したが、それはロス（E. D. Ross）所藏のロートグラフから 1920 年に複製したもので、綴じ込み部分に難點が見られる[25]。1993 年に出版した著者のファクシミリは羽田亨將來の寫眞を使用した[26]。

1.1.3 奥書

75A には 5 箇所の奥書らしきものが見られる。これらについては先ず羽田亨が記述し、テキン（Tekin 1970）の修正を踏まえて、著者が解說を加え、2 度に亙って修正を施した[27]。

75A には『實義疏』とは別に 20 葉ほどの 1 冊が所屬し、それが『實義疏』とは無關係のアヴァダーナの內容をもつ佛典であるということは先に述べた。このアヴァダーナの 240 行目、すなわち丁數「十一」のついた面の裏面 5 行目には次のような一文がある。

（A） tükäl tämür tu-qya čïzïndïm qoyïn yïl onunč ay beš otuzqa saču balïqta 善哉[28]

「テュケル・テミュル・トゥキヤが書いた。羊年第十月二十五日、沙州城で。善哉。」

---

25 ロス氏所藏のロートグラフからの複製については羽田（1925）p.746,（1975）p.149 を參照。

26 本書ではウイグル文『阿毘達磨俱舍論實義疏』のファクシミリは見本のみを載せた。ファクシミリの全體は庄垣內（1993b）を參照されてたい。また、本書では Or.8212-75B についても議論するが、全體のテキストと和譯は庄垣內（1993a）を參照されたい。

27 奥書に關しては以下を參照されたい：羽田（1925）pp.774-777,（1975）pp.167-169. Tekin（1970）X-XII. 庄垣內（1976）pp.03-05,（1982）pp.9-10, 庄垣內（1993c）pp.2-4.

28 tükäl tämür tu-qya の tu-qya の qya は指小辭である。tu は「都統」あるいは「奴」（奴隸）を指す。ここではあえて「トゥキヤ」とした。

さらに、このアヴァダーナの末尾には丁数の書かれていない1葉がある。そこには次の記述がある。

(B) 1) bu čaγsï män tükäl tämür-ningol tep bir käzigkiyä bitimiš boldum čïn

(C) 2) män tonga buqa šabi oqïyu tägindim

3) sadu sadu bolzun qutluγ bečin yïl ikint(i ay)

4) beš yangïqa saču balïqta üdig

5) qïlïp bititim kenki körgü bolzun tep

(B)「この冊子はわれテュケル・テミュルのものなりと、一行のみ書いた。正しい」

(C)「われトンガ・ブカ沙彌が讀み了えた。
善哉善哉。福ある猿年第二月
五日に沙州城で祈願
して書いた。後のものが見ることとなるべし、と。」

一方、75A『實義疏』には本文の始まる頁に先行して、もう2葉が綴じられているが、その第1葉裏面には次の文が記されている。

(D) 1) namo bud namo dram namo sang yükünürmän

2) tonga buqa alqu burxanlar bodistvlar qutïng(a)

「南無佛、南無法、南無僧、われトンガ・ブカが、諸佛菩薩の福に敬禮する、」

さらに、續く第2葉表面には次の文が見られる。

(E) 1) munï birlä bir kšan

2) -lïγ adïnlar köngüli

3) munï birlä bir kšan

4) -lïγ adïnlar köngüli

5) munï birlä bir kšanlïγ

6) adïnlar köngüli

7) luu yïl ikinti ay beš yegirmikä män tükäl tämür bu nomnï

8) luu yïl ikinti ay beš yegirmikä män tükäl tämür bu nomnï bitigäli

9) tägdim yamu sadu bolzun

「龍年第二月十五（日）に、われテュケル・テミュルが、この經を書き了えた。善哉」(8～9)

一應これらを全て「奥書」とよびたい。5つに區分した「奥書」中、トンガ・ブカの現れる(C)と(D)は明らかに他とは異なった手によるものである。おそらくテュケル・テミュルのものより後に書かれたのであろう。(A)はアヴァダーナの本文

に續けて書かれたものであって、このアヴァダーナをテュケル・テミュルが書寫したと決定できる。一方、(E) は『實義疏』の本文に先行する餘白頁に書かれた一種の落書きである。7 行目と 8 行目は同じ内容を繰り返している。1 行目から 6 行目までの内容は實は『實義疏』本文の一部に對應している。

bu kušantaqï adïnlar köngülin bildäči bilga biligning ulatï munï
birlä bir kšanlïγ adïnlar köngüli-ning ikigününg birlä ägsük üčün
basutčïsï (A3676-3679)
「この刹那にある他のものらの意を知る慧及びこれと同一刹那に屬する他のものらの意の、二つのものがともにその縁を缺くために」

上掲下線部分のウイグル語を 3 度繰り返して書いたものであって、多分、書寫過程での筆馴らしのごときものと推定できる。

アヴァダーナを書寫したテュケル・テミュルが、果して『實義疏』の書寫人と言えるのか否か、永らく判斷しかねるところであったが、この繰り返し文が『實義疏』本文中のものと一致することにより、すくなくとも 75A においては、テュケル・テミュルが書寫人であったことが明白になる[29]。テュケル・テミュルの手によるものであるなら、『實義疏』の書寫が「龍年第二月十五日」、アヴァダーナが「羊年第十月二十五日」であるから、最短なら、龍年に續く羊年ということで 3 年の期間を經て兩者は書寫されたことになる。しかしこの「龍年」が西暦の何年に該當するのかは決定できない。ただ、『實義疏』と同じ元朝時代の窟から出土したと信じられている、大英圖書館藏のナーローパ (Nāropa) によるタントラ (Or.8212-109) には至正 10 年、すなわち西暦 1350 年に書寫された旨を記した奥書があるので、この「龍年」がそれに近い年代であった可能性はある[30]。なお、75A と 75B の書體は酷似しているので、遺されている寫本が同一人の手によって書寫された可能性はある。

1.1.4 『實義疏』のウイグル語名

チベット文の冒頭には次のような題目が掲げられている：

rgya gar skad du / abhi dharmma ka .so bh'a .sya .t'i k'a ta tw'artha n'a ma / bod skad du / chos mngon pa mdzod kyi bshad pa'i rgya cher 'grel pa / don gyi de kho na nyid ces bya ba (1a1-3)
「インド語では Abhidharmakośabhāṣyaṭīkā tattvārthā-nāma. チベット語では『義の眞實と名づけられる阿毘達磨倶舍論の詳しい注解』」。

チベット語から翻譯されたモンゴル文の冒頭には次のような題目が掲げられている。

29 下線部のウイグル語が 75A の内容に一致することは 1991 年にテキストの翻譯を出すまでは不明であった。そのことは庄垣内 (1993 pp.3-4) において明らかにされた。
30 Cf. 羽田 (1925) pp.767-768, 庄垣内 (1974) p.045.

enetkeg keleber : abhidharmakośabhāṣyaṭīkā tattvārthā-nāma : töbed-ün keleber : cos mngon ba mzod kyi bshad pii rgy a car 'grel pa : don gyi de ko na nyid ces byab a : mongγul-un keleber : a-bhi darma-yin sang-un udq-a-yin tere imaγta cinar-un nomlalγ-a-yin aγui yeke tayilburi kemegdekü : [2b1-10]

「インド語では Abhidharmakośabhāṣyaṭīkā tattvārthā-nāma. チベット語では chos mngon pa mdzod kyi bshad pa'i rgya char 'grel pa don gyi de kho na nyid ces bya ba モンゴル語では『阿毘達磨倶舎論の義について眞實に説いた詳しい注解』といわれる」。

モンゴル文の題目はチベット文のものにモンゴル文を付け足したものといえる。

これらに對してウイグル文テキストの巻頭には題名と目される次の一文が掲げられている：

阿毗達磨倶舎論實義疏卷第一 abidarim šastr-taqï čïnkertü yörüglärning kengürü ačdačï tiki-sï baštïnqï küün (*ll.*1-3)

漢字列による漢文題名に續くウイグル文は「阿毘達磨論にある眞實義の詳解注、初巻」と和譯できる。實はこのウイグル文には補筆および複數の訂正文が添えられており、それらをすべて含めると以下のようになる：

阿毗達磨倶舎論實義疏卷第一 abidarim šastr-taqï čïnkertü (tözlüg) yörüglärning kengürü ačdačï tiki-sï baštïnqï küün 又 abidarim qïïnlïγ košavarti šastr-taqï čïnkertü (tözlüg) yörüglärning kengürüsi baštïnqï tägzinč (又 čaγtsï tesär taqï uz bolur.) ymä/ter :: (*ll.*1-4)

「阿毘達磨論（Abhidharma-śāstra）にある眞實性もてる義の、詳解する注（ṭīkā）、初巻。又、阿毘達磨倶舎の Kośavṛtti-śāstra にある眞實性もてる義のその廣説、初巻（又、册子といえば更によくなる、）ともいう」

元の abidarim šastr-taqï čïnkertü yörüglärning kengürü ačdačï tiki-sï baštïnqï küün にある čïnkertü yörüglärning「眞實義の」には tözlüg が插入されて「眞實性もてる義」となる。この元のウイグル語題目の後には「又」が 2 度現れ訂正補筆がなされている。最初の「又」以下は題目の全面的な言い換えである：abidarim qïïnlïγ košavarti šastr-taqï čïnkertü (tözlüg) yörüglärning kengürüsi baštïnqï tägzinč「阿毘達磨倶舎の Kośavṛtti-śāstra にある眞實性もてる義のその廣説、初巻」。これに續く括弧内の「又」以下 čaγtsï tesär taqï uz bolur「册子といえば更によくなる」は tägz-inč「巻（子）」を čaγtsï「册子」(< M.Chin. tʂ'ak tsiɐi) に置き換えることを意味している。

ところでこのテキストの巻末にもやはりこの注釋書の題目が現れる：

阿毘達磨倶舎論實義疏卷第一 abidarmakoš šastr-taqï čïnkertü yörüglärning kengürü ačdačï tiki-sï baštïnqï küün 又 abidarim qïïnlïγ košavartï šastr-taqï čïn-kertü yörüglärning kengürüsi ymä/ter (*ll.*4583-4585)

ここにもまた「又」以下の訂正をもつ。「又」に先行するウイグル文は上掲巻頭の無訂正の題目とほぼ同一である。ただ、巻頭では abidarim šastr すなわち Skt. abhidharma-śāstra「阿毘達磨論」とあるのが、巻末では abidarmakoš šastr すなわち Skt. abhidharma-kośa-śāstra「阿毘達磨倶舎論」となっている。「又」以下も巻頭の訂正とよく似ている。すなわち abidarmakoš šastr-taqï čïnkertü yörüglärning kingürü ačdačï tiki-sï

を abidarim qïïnlïγ košavarti šastr-taqï čïnkertü yörüglärning kengürüsi「阿毘達磨倶舎の Kośavṛtti-śāstra にある眞實義のその廣説」と直している。

さて、巻頭では čïnkertü yörüglärning「眞實義の」を čïnkertü (tözlüg) yörüglärning「眞實性もてる義」としているが、本文 A607 行目には čïnkertü yörügüg ulatï tïdγalï čïnkertü körümüg が現れ、これは漢文『倶舎論』の「實義及障眞見」に對應する。したがって「眞實義」を表現するのに tözlüg の補筆は不要である。またこれらに續く訂正文中の baštïnqï tägzinč「初巻」は訂正前の baštïnqï küün と同義であり、兩者に内容上の違いはない。tägzinč に對する küün は漢語「巻」(< M.Chin. kɪuɛn) からの音借用である。ここでは翻譯原典であった漢文『阿毘達磨倶舎論實義疏』の「第一巻」(volume 1) を表している。これを更に baštïnqï čaγtsï「初めの册子」に訂正しているのは küün や tägzinč の本來もつ「巻子」(scroll) の意味と關連している。この書物が巻子體ではなく册子體であるので「册子」に訂正したものと推定できるが、適當な訂正とはいえない。さらに巻頭と巻末の訂正文にある qïïn-lïγ の qïïn というウイグル語は「いれもの、鞘」を意味しここでは kośa「藏、倶舎」(Cf. *l.*1932) を表すので訂正の必要はない。なお、巻頭訂正部分の košavarti šastr (Skt. Kośavṛtti-śāstra) はここでは『倶舎論』を指すが、「倶舎疏論」と直譯できる。

結局この注釋書のウイグル語題目としては巻末無訂正の以下の文が最適といえる：

abidarmakoš šastr-taqï čïnkertü yörüglärning kengürü ačdačï tiki-sï baštïnqï küün

「阿毘達磨倶舎論にある眞實義の詳解注・初巻」[31]

1.1.5 ウイグル文『實義疏』の内容

ここでは、ウイグル文『實義疏』に關して、『倶舎論』と對應させたり、漢譯やチベット文、モンゴル文の『實義疏』と比べることによって、その内容を明らかにしたい。

1.1.5.1 ウイグル文『實義疏』と漢譯『倶舎論』との關係

ウイグル文『實義疏』が全體として『倶舎論』のどの部分を對象とした注釋であるかについては、早い時代に羽田亨の指摘がある[32]。羽田亨は上に述べたアヴァダーナの一册を「巻第四、分別根品第一之二の中に説きたる相應の義に附したる釋の譯(?)」としたが、これは「『觀音經』に相應しい三篇のアヴァダーナ」と名づけることのできる佛典であって、『實義疏』とは無關係の 1 册である。これを除くと、羽田亨の指摘は大凡正確である。いま「大正新脩大藏經」の玄奘譯『阿毘達磨倶舎論』(No.1558) に從うと、Or. 8212-75A は 1 頁上段 (a)『倶舎論』第 1 巻「分別界品第一」の巻頭から、2 頁中段 (b) 5 行目の「如是等類。是有漏法。隨義別名」まで、75B は『倶舎論』第 2 巻「分別界品一之二」に所屬する 9 頁下段 (c) 19 行目の「我執依止故。假説心

31 なお、巻頭の前ページ餘白に、又 abidarim qïïn-lïγ qïïn kengürü-si abidarmakoš šasdr-taqï ymä / ter として訂正文が 1 行付加されている。これは「また、阿毘達磨倶舎もてる倶舎の廣説、阿毘達磨倶舎論にある、ともいう」と譯せる。

32 Cf. 羽田 (1925) pp.750-753.

爲我。」から、13 頁上段（a）「於遊等至及受生時。隨其所應或同或異」（～ 9 行目）までのそれぞれの内容を對象とする注釋である。75A についての羽田亨の記述は正確である。75B に對しては、「Ch. XIX, 002 は卷第二、分別界品第一之二の本頌「應善調伏　心調能引樂」に對する長行より、同本頌「眼不於身・・・・・・・意不定應知」に對する長行までに附したる釋の譯」と記述している。Ch. XIX, 002 は 75B の舊番號である。始まりとする「應善調伏　心調能引樂」は大正大藏經の 9 頁下段 22 行目に當るが、「我執依止故。假説心爲我。」はそれに遡る同じ下段 19 行目に位置するので、羽田亨の記述は若干ずれている。一方末尾を頌である「眼不於身・・・・・・・意不定應知」に對する長行としている。その長行の中に上の「於遊等至及受生時。隨其所應或同或異」は含まれているので、羽田亨の記述は外れてはいない。

1.1.5.2　Or.8212-75A と『倶舎論』との對應關係

まず、75A は上の 1.1.4 にも掲げたとおり「阿毘達磨倶舎論實義疏卷第一」という題名にはじまり、同樣の題名に終わっている。このことは 75A がウイグル文『實義疏』の第 1 卷であったと考えられる。實際に、この『實義疏』第 1 卷が最後に注釋の對象とする『倶舎論』の一文「如是等類。是有漏法。隨義別名」までは『倶舎論』中に完結した内容をもっており、「國譯大藏經」の分類を借りると『倶舎論』の「總序」と本論第一「界品」の第一章「萬有分類の基礎 — 有漏無漏及び有爲無爲」の全てを含んでいる。そしてこれらの内容に對して注釋したものを、ウイグル文は「第一卷」と稱している。おそらく翻譯原典である漢譯『實義疏』でもこの部分の内容を「第一卷」としたのであろう。

またテキスト 2581 行目から 2583 行目にかけて次のような文が現れる。

上辯異説竟 üstürti bärü öngi sözlädačilärig uqïtïp ärtdi. abidarmavat tükädi 了/也 善哉 莎土 印於初卷了了也。第二 bašladï ymu ::
「上以來、異説を辯じ竟えた。阿毘達磨論（abhidharma-vāda）は了った。善哉莎土印於初卷了了也。第二が始まった。」

「上辯異説竟」に續くピリオドまでのウイグル文はこの文中漢文の譯文である。「上辯異説竟」に先行するウイグル文の内容は『倶舎論』第 1 頁中段（b）27 行目の「・・・毘婆沙師傳説如此」までの注釋であるが、この部分はちょうど『倶舎論』の「總序」に該當している。ウイグル文ではこの「總序」を以下の本論と區別して「初卷」と付したのである。本論の始まりを「第二」としている。漢文にこのような區別が有ったか否かはここでは判斷できない。

1.1.5.3 Or.8212-75A の注釋の方法

75A の注釋の體裁は『倶舎論』のまとまった量の文を抽出して掲げ、それをさらに小さく分節しながら釋を與えていく方法をとっている。

論 munung umïš üčün tarïqγalï qarangγusï anïn atamïš ol tarïqmïš qarangγuluγ tep. 釋曰 munung umïš üčün tarïqγalï qarangγusï teptemiši ärsär. uγrasar yörgäli bu yörügüg säkiz türlüg vibakti-larnïng arasïnda iki vibakti üz-ä uqïtu yörmiš kärgäk ..... (A544-547)
「論：「此れは、能く闇を破った故、それで冥を滅したと名づけた」(此能破闇故稱冥滅) と。釋：「此れは、能く闇を破った故」といったが、この義を釋すことを欲するなら、八種の格の間で、二つの格によって解釋せねばならない。・・・」

『倶舍論』から纏まった文を引用しそれに注釋文を續けるこの方法は北京圖書館所藏の漢文『實義疏』第3卷とも一致する：
Ex. **論**若謂此經顯過去等一一色等格別名蘊是故一切過去色等一一實物各各名蘊**釋曰**毘婆沙師若更釋云雖即世尊此經中說聚義爲蘊・・・(蘇軍 (1995) p.183)

1.1.5.4 Or.8212-75A における『倶舍論』からの引用文とその注釋文の位置

『倶舍論』から抽出引用された文とそのウイグル文の位置とを下に示したい。引用文間の長さが釋文の長さを表すといえる[33]。

(1a03) 阿毘達磨倶舍論卷第一

尊者世親造
三藏法師玄奘奉　詔譯

[1]「分別界品第一
諸一切種諸冥滅　　拔衆生出生死泥
敬禮如是如理師　　對法藏論我當說
論曰。今欲造論。爲顯自師其體尊高超諸聖衆故。」[2]「先讚德方申敬禮。」[3]「諸言所表謂佛世尊。」[4]「此能破闇故稱冥滅。」[5]「言一切種諸冥滅者。謂滅諸境一切品冥。以諸無知能覆實義及障眞見。故說爲冥。唯佛世尊得永對治於一切境一切種冥。證不生法故稱爲滅。」[6]「聲聞獨覺雖滅諸冥。以染無知畢竟未斷故非一切種。所以者何。由於佛法極遠時處及諸義類無邊差別。不染無知猶未斷故。」[7]「已讚世尊自利德滿。」[8]「次當讚佛利他德圓。」[9]「拔衆生出生死泥者。」[10]「由彼生死是諸衆生沈溺處故難可出故。所以譬泥。」[11]「衆生於中淪沒無救。」[12]「世尊哀愍」[13]「隨授所應正法教手拔濟令出。」[14]「已讚佛德。次申敬禮。」[15]「敬禮如是如理師者。稽首接足故稱敬禮。諸有具前自他利德。故云如是。如實無倒教授誡勗。名如理師。如理師言顯利他德。能方便說如理正教。從生死泥拔衆生出。不由威力與願神通。」[16]「禮如理師欲何所作。對法藏論我當說者。(1b01) 教誡學徒故稱爲論。」[17]「其論者何。謂對法藏。」[18]「何謂對法。頌曰。
淨慧隨行名對法　　及能得此諸慧論
[19]「論曰。慧謂擇法。淨謂無漏。」[20]「淨慧眷屬名曰隨行。如是總說無漏五蘊名爲對

33 漢文の左肩に掲げた數字がウイグル文の位置を示す。なお、ここに掲げる漢譯『倶舍論』は「大正藏經」Vol.29の「宋元明本」を基にした。

法。」[21]「此則勝義阿毘達磨。」[22]「若說世俗阿毘達磨即能得此。諸慧及論。慧謂得此有漏修慧思聞生得慧及隨行。論謂傳生無漏慧教。此諸慧論。是彼資糧故亦得名阿毘達磨。」[23]「釋此名者能持自相。故名爲法。若勝義法唯是涅槃。若法相法通四聖諦。此能對向或能對觀。故稱對法。」[24]「已釋對法。何故此論名對法藏。」[25]「頌曰。

攝彼勝義依彼故　　此立對法倶舍名

論曰。由彼對法論中勝義入此攝故。此得藏名。」[26]「或此依彼。從彼引生。是彼所藏。故亦名藏。是故此論名對法藏。」[27]「何因說彼阿毘達磨。誰復先說阿毘達磨。而今造論恭敬解釋。」[28]「頌曰。

若離擇法定無餘　　能滅諸惑勝方便
由惑世間漂有海　　因此傳佛說對法

論曰。若離擇法無勝方便能滅諸惑。諸惑能令世間漂轉生死大海。」[29]「因此傳佛說彼對法。欲令世間得擇法故。」離說對法。弟子不能於諸法相如理揀擇。然佛世尊處處散說阿毘達磨。[30]「大德迦多衍尼子等諸大聲聞結集安置。猶如大德法救所集無常品等鄔拖南頌。」[31]「毘婆沙師傳說如此。」[32]「何法名爲彼所揀擇。因此傳佛說對法耶。」[33]「頌曰。

有漏無漏法　　除道餘有爲（1c01）
於彼漏隨增　　故說名有漏
無漏謂道諦　　及三種無爲
謂虛空二滅　　此中空無礙
擇滅謂離繫　　隨繫事各別
畢竟礙當生　　別得非擇滅

論曰。說一切法略有二種。謂有漏無漏。有漏法云何。謂除道諦餘有爲法。所以者何。諸漏於中等隨增故。」[34]「緣滅道諦諸漏雖生。而不隨增故非有漏。不隨增義隨眠品中自當顯說。」[35]「已辯有漏。無漏云何。謂道聖諦及三無爲。何等爲三。虛空二滅。二滅者何。擇非擇滅。此虛空等三種無爲及道聖諦。名無漏法。」[36]「所以者何。諸漏於中不隨增故。於略所說三無爲中。虛空但以無礙爲性。由無障故色於中行。」[37]「擇滅即以離繫爲性。諸有漏法遠離繫縛證得解脫。名爲擇滅。」[38]「擇謂簡擇即慧差別。各別簡擇四聖諦故。擇力所得滅名爲擇滅。如牛所駕車名曰牛車。略去中言故作是說。」[39]「一切有漏法同一擇滅耶。不爾。云何隨繫事別。謂隨繫事量。離繫事亦爾。」[40]「若不爾者於證見苦所斷煩惱滅時。應證一切所斷諸煩惱滅。若如是者。修餘對治則爲無用。」[41]「依何義說滅無同類。依滅自無同類因義亦不與他。故作是說。非無同類。」[42]「已說擇滅。」[43]「永礙當生得非擇滅。謂能永礙未來法生。得滅異前名非擇滅。得不因擇但由闕緣。」[44]「如眼與意專一色時餘色聲香味觸等謝。緣彼境界五識身等。住未來世畢竟不生。（2a01）由彼不能緣過去境。緣不具故得非擇滅。」[45]「於法得滅應作四句。或於諸法唯得擇滅。謂諸有漏過現生法。」[46]「或於諸法唯非擇滅。謂不生法無漏有爲。」[47]「或於諸法俱得二滅。謂彼不生諸有漏法。」[48]「或於諸法不得二滅。謂諸無漏過現生法。」[49]「如是已說三種無爲。」[50]「前說除道餘有爲法。是名有漏。何謂有爲。」[51]「頌曰。

又諸有爲法　　謂色等五蘊
亦世路言依　　有離有事等

論曰。色等五蘊謂初色蘊乃至識蘊。如是五法具攝有爲。」[52]「衆緣聚集共所作故。無有少法一緣所生。是彼類故。未來無妨。如乳如薪。」[53]「此有爲法亦名世路。」[54]「已行正行當行性故。或爲無常所呑食故。」[55]「或名言依。言謂語言。此所依者即名俱義。如是言依具攝一切有爲諸法。若不爾者應違品類足論所說。彼說言依十八界攝。」[56]「或名有離。離謂永離。即是涅槃。一切有爲有彼離故。」[57]「或名有事。以有因故。事是因義。毘婆沙師傳說如此。」[58]「如是等類是有爲法差別衆名。」[59]「於此所說有爲法中。」[60]「頌曰。

有漏名取蘊　　亦說爲有諍
及苦集世間　　見處三有等

論曰。此何所立。謂立取蘊亦名爲蘊。或有唯蘊而非取蘊。謂無漏行。」[61]「煩惱名取。蘊從取生故名取蘊。如草糠火。或蘊屬取故名取蘊。如帝王臣。或蘊生取故名取蘊。如花果樹。」[62]「此有漏法亦名有諍。煩惱名諍。觸動善品故。損害自他故。諍隨增故。名爲有諍。(2b01) 猶如有漏。」[63]「亦名爲苦。違聖心故。亦名爲集。能招苦故。亦名世間。可毀壞故。有對治故。亦名見處。見住其中隨增眠故。亦名三有。有因有依三有攝故。」[64]「如是等類是有漏法隨義別名。」

對應するウイグル文の位置

1) A69-78
2) A448-449
3) A482-483
4) A544-545
5) A603-611
6) A855-860
7) A1021-1022
8) A1088-1089
9) A1098-1099
10) A1003-1006
11) A1175-1176
12) A1185
13) A1201-1202
14) A1294-1395
15) A1300-1313
16) A1544-1547
17) A1586-1587
18) A1593-1594
19) A1595-1596
20) A1610-1613
21) A1667
22) A1684-1694
23) A1813-1818
24) A1916-1918
25) A1927-1932
26) A1942-1945
27) A1961-1963
28) A2036-2043
29) A2069-2071
30) A2126-2130
31) A2150
32) A2584-2586
33) A2591-2595
34) A2823-2826
35) A2926-2934
36) A3091-3094
37) A3212-3217
38) A3310-3316
39) A3368-3371
40) A3401-3404
41) A3458-3461
42) A3590-3591
43) A3598-3602
44) A3623-3628
45) A3767-3770
46) A3813-3814
47) A3834-3836
48) A3857-3858
49) A3861-3862
50) A3868-3870
51) A3879-3884
52) A3888-3890
53) A3936-3937
54) A3949-3952
55) A3984-3989
56) A4124-4126
57) A4190-4192
58) A4263-4265
59) A4298
60) A4304-4309
61) A4333-4339
62) A4420-4424
63) A4465-4472
64) A4577-4578

1.1.5.5 Or.8212-75B の注釋の方法

上に示したように 75A では、常に注釋の對象となる『倶舎論』からのまとまったウイグル文を掲げ「釋曰」以下にそれをさらに小さく分節しながら釋を施している。これに對して 75B では、『倶舎論』からの長文の引用を掲げることはない。すなわち「論曰」に始まる文は存在しない。

釋曰此 bu soturantike nikay-lïγ baxšïlarnïng seziki ärür bilig bar bolmïš orunta köz temin uyur körgäli bolmasar bilig körmäz üčün anïn bilmiš kärgäk äšidmäktä ulatïlar ärür biligning ädrämi tep 釋曰此毘 bu vaybašike-lïγ baxšïlarnïng kikinči ärür birök bilig körsär bilig tïdïγsïz üčün körgü kärgäk tïdïγlïγ önglärig... (B992-997)

「釋曰、この經量部の師の疑いは、識を有した處において眼は方に見ることができる。識がないなら、見ない故、それで聞等は識の功能である、と知らねばならない、と。釋曰、この毘婆沙師の答えは、もし識が見るなら、識は無對のため、障色を見ねばならない。・・・」

二つの「釋曰」があるが、本來は、これらの釋の對象として『倶舎論』中の「若爾則應彼能依識見色非眼。不爾眼識定非能見。所以者何。傳説。不能觀障色故。現見壁等所障諸色則不能觀。若識見者識無對故。壁等不礙應見障色。」(大正 Vol.29, p.10c) の内容に相當するウイグル文が先行して掲げられねばならない。

1.1.5.6 ウイグル文中の引用文の翻譯原典

注釋の對象としての『倶舎論』からの引用文は、ウイグル文からも文中に散在する漢字列からも玄奘譯『阿毘達磨倶舎論』を使用したことが解る。したがって翻譯原典であった漢文『實義疏』がそれを利用したことも確かである。

擇滅謂離繫 bilip öčmäk ärsär qaltï baytïn öngi üdrülmäk ärür. bay boldačï ädi eyin öngin々 adïrïlur tep (A3212-3214)

「擇滅は謂わく、離繫なり。繫事に隨って、各々別れる、と」

この文は『倶舎論』の「擇滅謂離繫　隨繫事各別」(大正 Vol.29, p.1c) と對應する。ウイグル文に冠された漢字列は玄奘譯と一致している。

次の文には漢字列が入っていないが玄奘譯の漢文と大凡一語一語が對應する。語順も漢文に順じている。ちなみにウイグル語の語順は本來日本語と同じである。和文に付した番號順に讀めば日本語あるいはウイグル語の語順になる。

birök [1] köz [2] umaq [3] üzä körgäli [4] köz [5] ärür [6] körüm [7]
若し 眼は[1] 能くするので[3] 見ること[2] 眼は[4] である[6] 見[5]
tep tesär [8] kimning [9] ärür [10] körmäklig [11] iš [12] (B1301-1302)
というなら 誰のものが[7] であるのか[9] 見の 用[8]

『倶舎論』:「若[1]眼[2]能[3]見[4]眼[5]是[6]見[7]者[8]誰[9]是[10]見[11]用[12]」(大正 Vol.29, p.11a)

また、ウイグル文中にはかなり大量の『順正理論』からの引用がある。その内容も玄奘譯『阿毘達磨順正理論』と一致している。次の 2 例はウイグル文中に插入されて

いる漢字列も漢文と一致している。

amtï sözlämäk üzä tayanïnglar tep. birök uqïtur ülgü yörügüg tep tesär yörügi odγuraq antaγ ärmäz. 如何世尊 nätägin atï kötrülmiš ašnuča yrlïqap tört türlüg ülgülärig. inčip amtï yrlïqaγay suduruγ oq bolur ülgü tep azuča ymä tägimlig ärti ašnu ötdä tayaqïγ yindäm bir ök ol tep yrlïqaγalï nätäginteptesär. nom ulatï üčägü sudurta tutulmïš üčün azuča ymä inčip anta tïda tükätip kišikä tayanmaqïγ ymä ök inčip ötlämiš ärür. tayanïnglar sudurnung adruqïnga tep. (A2352-2360)

「今、「汝ら依るべし」ということによって、もし、量の義を顯わすというなら、その理は必らずやそのとおりではない。如何にして世尊は先に四種の量を説かれて、而して、今、(ただ) 經をのみ量と爲すと説かれるのであろうか？或は應に、先時には依を「唯一つなり」と説かれるべきであった。如何にというなら、法等の三つは經において、攝せられたもの故に。或は即ち、そこにおいて、人へ依ることを遮り已えて、亦、即ち「經の差別へ汝ら依るべし」と勸めた。」

「又今言依。欲顯何義。若顯量義。理未必然。如何世尊先説四量。而今但説經爲量耶。或應先時依唯説一。以法等三經所攝故。或即於彼已遮依人。亦即勸依經之差別。」(大正 Vol.29, p.330a)

我謂於自境 män ärsär qaltï öz atqanγusïnta uzatï ärkčä tapča yorïdačï ärür köngülnüng arïtï bulduqmaz ödi yorïmaγuluq öz atqanγusïnta (B69-72)

「我とは謂わく自境において常に自在に行ずるものである。心の曾つて自境において行じなかった時は無い。」

「我謂於自境常自在行。心曾無有時不行自境」(大正 Vol.29, p.360c)

翻譯原典の漢文も玄奘譯の『順正理論』を使用したことは、節略漢文『實義疏』からも判斷できる。

abidarim odγuraq ärür tngri burxan yrlïqamïš. tngri burxan ičgärmiš täginmiš üčün üč aγïlïq nomuγ qaltï atï kötrülmiš yrlïqamïš ol qarï qïlï äv-tin ünmiš-ä tutmaqïng mäning üč aγïlïq nom-umïn ärtingü alp bulγuluq ärür tep (A2426~2429)

「阿毘達磨は定んで佛が説かれたものである。佛は三藏教を攝受した故。謂わく、世尊は「老耄の出家したものよ、吾が三藏教を汝が持することは甚だ得難いのである」と説かれた。」

『順正理論』:「阿毘達磨定是佛説。由佛攝受三藏教故。如世尊説。老耄出家持吾三藏甚爲難得。」(大正 Vol.29, p.330b)。

『順正理論』の「如世尊説」以下の内容は節略本漢文『實義疏』にも現れる：「佛云。老耄出家持吾三藏甚爲難得。」(大正 Vol.29, 325c)。「如世尊説」と「佛云」の違いを除けば完全に一致している。

1.1.6 ウイグル文『實義疏』とチベット文・モンゴル文『實義疏』との關係

序文で述べたようについ最近になって『實義疏』のサンスクリット原典が發見された。しかしその研究はなお端緒を開いたばかりで、具體的な研究報告は提出されていない。したがって今の時點で原典を利用することはできない。一方、サンスクリット原典から 15 世紀後半～ 16 世紀初頭の間に翻譯されたチベット文『實義疏』とさらにチベット語譯からの重譯であるモンゴル語譯が利用できる。チベット文はいくつかの論文で部分的な翻譯をみることができるが、モンゴル文の研究は無い[34]。ここでは參照できるチベット文[35]あるいはモンゴル文とウイグル文とを比較し、ウイグル語の翻譯原典となった漢譯文の性格について考えてみたい。

1.1.6.1 テキスト構成法の比較

先ず、テキストの構成法に關しては 75A とチベット文・モンゴル文との間に次の 4 つの相違點が見られる。

1) 總序と本論との區別

ウイグル文では A2582-2583 行目で『倶舎論』の總序と本論とが區別されており、さらに A4585 行目すなわち卷末には卷末を表す一文が掲げられている。しかし、チベット文にもモンゴル文にもそのような表示は見られない。

2) 冒頭の構成

チベット文・モンゴル文『實義疏』は佛典名に續いて「一切の佛と菩薩に敬禮する」旨（Tib. sangs rgyas dang byang chub sems dpa' thams cad la phyag 'tshal lo. Mong. qamuγ burqan kiged bodhi satuva nara mörgümüi）を述べ、直後に『倶舎論』の第 1 頌を掲げてその注釋を開始する。これに對してウイグル文では佛典名の後に序頌（歸敬序）が掲げられ、さらに『倶舎論』八品の次第とその道理が詳細に説かれている（A1 ～ 69）。序頌と八品次第はチベット文・モンゴル文には現れない。チベット文がサンスクリット原典を忠實に翻譯したものなら、ウイグル文の序頌と八品次第は漢譯において特別

---

34 チベット文『實義疏』の研究の進展が芳しくないのは遺されているチベット文自體の不完全さに因るところが大きい。江島（1986）はこのことについて次のように述べている：「現在傳えられるチベット語譯本は、その奥書によれば、おそらくプトゥンの『佛教史』の記述に基づくかと思われるが、『眞實義』の別名が『雹雷光』として傳えられていたという事實が分かるとともに、部分的に缺落のあるサンスクリット本によりながら、しかもサンスクリットの理解に充分な自信を抱きえないダルマパーラバドラ（Dharmapālabhadra 一四四一－一五二八）が苦勞しながらチベット語に移そうとして、成立したということが明らかである・・・少なくとも筆者にとっては譯文に問題なしとは斷定できない個所が混在している。原サンスクリット本の状態が惡いこともあったろうし、また書體が古いといったことがあったかもしれない。そのために、ときどきサンスクリット文をそのまま音寫し、意味が取れないときはそのまま放置し、多少意味が明らかなときは割註の形でチベット誤譯を附するという擧に出ている。その音寫されたサンスクリット語の語句や文章にしても、いま筆者が自信をもって意味を把握できるものは、殘念ながら多いとは言えない」（pp.6-7）。

35 *Abhidharma-kośa-bhāṣya-ṭīkā tattvārtha-nāma* 北京版第 146 卷 no.5875. デルゲ版 no. 4421. チベット文の轉寫テキストと和譯は大谷大學の宮下晴輝氏の未定稿「チベット文 *Abhidharma-kośa-bhāṣya-ṭīkā tattvārthā-nāma*」に依るところが大きい。また、チベット文の校訂には愛知縣立大學の高橋慶治氏と神戸市外國語大學の林範彦氏の協力を得た。この場をかりて各氏に謝意を表したい。

に挿入されたものといえる[36]。節略漢文『實義疏』にも序頌部分は現れる。一方、『實義疏』を參照して作成されたといわれている滿增（Pūrṇavārdhana）の『俱舍注疏隨相』（Lakṣaṇānusārīṇī）にも序頌と八品次第は見られる。序頌の内容はウイグル文とは異なるが八品次第に關する内容はウイグル文とよく對應する[37]。ウイグル文あるいは漢文と『俱舍注疏隨相』とのこの一致に關しては今のところ理由がよく分からない。もちろん漢譯『實義疏』が『俱舍注疏隨相』を參照した可能性はある。八品のウイグル文題目を以下に掲げておく：

datukooš （< Skt. dhātu-kośa）	「界俱舍」
indrayakoš （< Skt. indriya-kośa）	「根俱舍」
lokakoš （< Skt. loka-kośa）	「世間俱舍」
karmakoš （< Skt. karma-kośa）	「業俱舍」
anušayakoš （< Skt. anuśaya-kośa）	「隨眠俱舍」
margapudgalakoš （< Skt. mārgapudgala-kośa）	「賢聖俱舍」
iyanakoš （< Skt. jñāna-kośa）	「智俱舍」
samapatikoš （< Skt. samāpatti-kośa）	「定俱舍」

『俱舍論』第九品の「破執我品」は出てこないが、この品の注釋はチベット文にも缺けている。

3）『俱舍論』からの引用

1.1.5.3 でも述べたように 75A のウイグル文では『俱舍論』のかなり長い文を引用して掲げ、それから語句を引いて釋を與える形式をとっているが、チベット文・モンゴル文では通常、このような長文を掲げることはしない。たとえば最初の注釋の對象となる『俱舍論』第 1 頌はチベット文・モンゴル文でもその全てが引用されているが、ウイグル文ではさらに頌に續く長行部分まで含んでいる：

＜チベット文＞

gang zhig kun la mun pa gtan bcom zhing / 'khor pa'i 'dam las 'gro ba drangs mdzad pa / don bzhin ston pa de la phyag 'tshal nas // chos mngon mdzod kyi bstan bcos rab bshad bya // (1b5-2a1)

「あらゆるものに對する闇を完全に破り、人々を輪廻の泥沼から抜き出したまうた。

---

36 江島（1986）ではこのことについて次のような意見を述べている：「ここで、漢譯抜書き本『俱舍論實義疏』とウイグル語譯本にある歸敬偈が現存のチベット語譯本に缺けるという事實は、なんら異とするに足りない。というのは、著者自身が歸敬偈を掲げないで註釋を開始することは、インドの通例に從えば、まず考えられないし、チベット語譯が基づいた寫本にはこれを含む最初の一、二葉が缺落していたと想定した方がその奥書の記述に照らしあわせても、より自然である。」（p.7）。一方、櫻部（1975）では「どうしてそれ（歸敬偈）がチベット譯には見られないのであろうか。もし本來は無かったものとしたら、漢譯本にそれがいついかにして附加されたのであろうか。」（p.96）と書かれている。（歸敬偈）は著者が書き込んだ。

37 このことに關しては松濤（1995 pp.171-198）に詳述されている。

眞實の師である彼の方に敬禮し、阿毘達磨倶舎という論書を私は説こう。」

＜モンゴル文＞

alimad qotala-ta qarangqui-yi asida daruyad : amitan-i orucilang-un balciγ-aca tatan jokiyaγsan : aqu udqas-un yosuγar üjügülügci tegün-dür mörügüjü bür-ün : a-bhi-dharma-yin sang-un sasitar-i nomlasuγai :: (2b11-16)

「あらゆる闇を永久に制壓し、衆生を輪廻の泥沼から抜きだした。(そして) 眞實義の通りに示す者、彼の方に敬禮して、阿毘達磨倶舎について正しく説こう。」

＜ウイグル文＞

kim alqu türlüglär üzä alqu bilgülük nomlarta tarïqmïš qarangγu qararïγlïγïn. tartïp tašγarïp tïnlγlarïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök (titig)tin. ayayu aγïrlayu yükünüp ol antaγ osuγluγ čïnkertü tözlüg baxšïqa. abidarmakoš šastir-ïγ mn inčip sözläyin tep 論曰 šastr-ta sözläti ärti 今欲造論 amtï uyraduqta šastr yaratγalï uqïtγalïr üčün öz baxšïsïnïng. anïng ät'özining yeg ayaγuluq ärtüki üzä ärtmišïn ašmïšïn alqu tüzünlär quvrayïnda tep (A71-78)

「だれか一切種による一切所知の法において、冥を滅したものが、衆生を生死の泥から抜いて出したなら、このごとき如理師へ敬禮して、阿毘達磨倶舎論を我當に説くべしと。論に曰く。今、論を造ることを欲ったとき、自師の其の體の尊高なることにおいて、諸々の聖衆を超えたことを顯わす故に」(諸一切種諸冥滅　拔衆生出生死泥。敬禮如是如理師　對法藏論我當説。　論曰。今欲造論爲顯自師其體尊高超諸聖衆)

と

下線部分はチベット・モンゴル文には無い。

4)「問答」の形式

ウイグル文はしばしば「問答」の形式をとる。このような形式はチベット文・モンゴル文には無い。

＜ウイグル文＞

burxan atï kötrülmištä öngi käntü adïn alqu tüzünlärtä yoq üčün bu altï türlüg yörüglär. anïn atamïš ol atï kötrülmišig bagavan tep. **問** nä üčün qatïn sözlädi burxan atï kötrülmiš tep. **答** atï kötrülmišning ädgüläri qatïn ärür. tägimlig ärmäz yalïndïq at üzä uqïtγalï burxan tep 师子之義 baxšïlï tïtsïlïnïng yörügi üzä törü ol qavšurup qatnayu sözlägülük burxan atï kötrülmiš tep bu savïγ čatiškoti. tört padak qïlmïš kärgäk. bar munta burxan bolup atï kötrülmiš bolmadačï. inčip pratikabud-lar ärür. bar munta atï kötrülmiš bolup burxan bolmadačï. qaltï bodistv-lar ärür. bar ymä munta atï kötrülmiš bolup burxan yma boldačï. qaltï burxan atï kötrülmiš ärür. bar atï kötrülmiš ymä bolmadïn burxan ymä bolmadačï qaltï midik partakčan-lar alqu taš azaq nomluγta ulatïlar tetir. anï üčün šastr-ta sözlämiš ol burxan atï kötrülmiš tep (A532-544)

「佛世尊よりほかに、自他の諸聖者にはこの六種の義は無い故、それで世尊を「薄伽梵」(bhagavān) と名づけた。**問**：何故、「佛世尊」と重ねて説いたのか？**答**：世尊の

徳は重複している。應に單純な名において「佛」と立てるべきではない。師と弟子との義における道理である。合わせ重ねて「佛世尊」と説くべし、と。この言を四句に作らねばならない：ここに佛となって世尊とならないもの有り、即ち獨覺である。ここに世尊となって佛とならないもの有り、謂わく菩薩である。また、ここに世尊となって佛にもなるもの有り、謂わく佛世尊である。世尊にもならず佛にもならないもの有り、謂わく凡夫ら、諸々の外邪法もてるもの等という。それ故、論に「佛世尊」と説いたのである、と。」

＜チベット文＞

gal te sangs rgyas kho na bcom ldan 'das yin gyi gzhan ma yin na ci'i phyir sangs rgyas dang bcom ldan 'das gnyi ga smos she na / gang gi phyir sangs rgyas kyi (D. sgra) nye ba'i tshig dang bral ba ni nyan thos dang rang sangs rgyas dang yang dag par rdzogs pa'i sangs rgyas dang gsum ka la 'jugs (D. 'jug) pas de'i phyir bcom ldan 'das zhes [sic.] smos so // bcom ldan 'das kyi sgra yang bdag nyid ma sbyangs pa kha cig gis gzhan du yang sbyar bas na sangs rgyas zhes smos so // yang na nye ba'i tshig med par bcom ldan 'das kyi mtshan nas smos pa ma rigs pas gnyi ga smos so // (8a1-39) [38]

「もし、佛陀のみが世尊である、(それ) 以外でないのならば、なぜ「佛陀」、「世尊」の二つともを語るのか？ なぜなら、「佛陀」の尊稱を缺いた語は、聲聞、獨覺、正覺者の三者ともを意味するからであり、それ故に「世尊」と語るのである。また「世尊」という語は、自ら鍛錬していない者によって、他の者に對しても用いられる故に、「佛陀」と語るのである。あるいはまた、尊稱なしで世尊をさして語るのは適切でないから雙方とも語るのである。」

＜モンゴル文＞

kerbe burqan imaγta ilaju tegüs nögcigsen mön bui-y-a öber-e busu bügetele yaγun-u tula burqan kiged ilaju tegüs nögcigsen qoyaγula-yi ögülemüi kemebesü alin-u tula burqan-u ciqula üges-ece anggijiraγsan anu siravang kiged bratikabud ba üneker tuγuluγsan burqan-luγ-a γurbaγul-dur oruqu teyimü-yin tula ilaju tegüs nökcigsen kemen ögülebei : ilaju tegüs nögcigsen-ü daγun-i ber öber-iyen ese suduluγsan jarim-ud ber busud-tur nayiraγulaqu-yin tula burqan kemen ögülegsen bolai : esebesü sidar üges ügegüy-e ilaju tegüs nögücigsen-i nereljü ögülekü jokis-ügei-yin tula qoyaγula-yi ögülegsen bolai : (9b24-10a9)

「もし、佛のみが世尊である、(それ) 以外ではないのであれば、なぜ「佛」と「世尊」の兩者を説くのかといえば、「佛」の尊稱を缺いた聲聞と獨覺、そして正等覺者の三者ともを意味するため、「世尊」と云った。「世尊」と云う語は、自ら鍛錬しない者等が他者に對して用いるため、「佛」と云ったのである。或いは、敬稱の 無いままに、「世尊」を名づけて語ることは適切でないため、雙方ともを述べたのである。」

38 チベット文中のDはデルゲ版を示す。

『倶舎論』の「諸言所表謂佛世尊」の「佛世尊」についての釋である。ウイグル文はチベット文やモンゴル文にはみられない「問答」の形式をとっている。さらに内容を四句の形式（catuṣ-koṭi）に調えて詳解している。

「問答」形式は漢譯『實義疏』の節略本では確認できないが、北京所藏の『實義疏』第3卷を見れば、やはり現れている：釋曰：離身支分、即無身根、不覺觸故。由此義知、眼等諸根、不名所斫。**問**：若如是者、如見劓鼻、雖被劓已、卻安本處、封藥附之、後復如本亦能覺觸。故前所言支分離身便不覺觸。此義如何？**答**：被異熟根既被截已、更不相續。彼卻續者、是長養根還能覺觸（蘇軍 1995, p.248）。

しかし、ウイグル文での「問答」形式の使用はこの漢譯第3卷のものに比べて遙かに頻繁に現れる。もちろん元の漢文第1卷にそれらがウイグル文と同じ回數だけ書かれていた可能性はある。しかし一方、次の二つの理由でウイグル文が獨自にこの「問答」形式を作り出した可能性の方がより大きいといえる。一つは、ストックホルム所藏のウイグル文『倶舎論』に漢文には無い「問答」が插入されていることである：

a) **問** näčuk ol yindäm öz uγušluγïnta oq mu öngdünkisi uyur kenkisingä tüz arasïz basutčï bolγalï tep **答** antaγ ärmäz tep **問** nätäg ol tep **答** öngdünki köngül bölüklüg nom yumdaru kenki bölüklügingä tüz arasïz basutčï bolur yindäm öz uγušluγïnga oq ärmäz：（H25V15）
「豈唯自類前能爲後等無間緣。不爾。云何。前心品法總爲後品等無間緣。非唯自類。」

b) **問** amtï saqïnmïš adïrtlamïš krgäk uqïtur ulatï uqïtmazta kimlär tükällig bolurlar qayusïnga qayu öd ülüši tägінčä tep **答** munta uqïtur tükällig bolmaqïγ uqïtmaz sanvar-qa asanvar-qa tep （H31V18-22）
「今應思擇。表及無表誰成就何。齊何時分。且辯成無表律儀不律儀。」

もう一つの理由は、マインツ所藏の漢文『倶舎論』斷片（Mainz 728）に見られるウイグル僧による漢字「問答」の添加である。この漢文斷片は版本で『倶舎論』第6卷末部に所屬する[39]。卷末の餘白に yïl üčünč ay toquz ygrmingä [ ] bïratï atlγ tüzülmiš töz [ ]' [ ]のごときウイグル文がウイグル文字で書かれているので、この漢文がウイグル僧によって使用されたことが解る。題目を含めて32行のみが殘され、しかも下部半分が缺落しているが、4箇所に朱で「問」あるいは「答」が行間に手書きされている。その部分を拔き出してみる：

39 この漢文斷片の4行目と5行目の間には契丹文字によく似た5文字がみられるが、契丹文字のリストから同じ文字を探し出すことはできなかった。「契丹大藏經」の特徴は竺沙雅章教授によれば1行17字で書かれ、始めと終わりの經題のところに罫線が縱に引かれていること、さらに「涅槃」の「槃」が「盤」で書かれることが擧げられている。ここの『倶舎論』斷片には「涅槃」は登場しないが確かに1行17字で書かれ、卷末の「説一切有部倶舎論」の左右には罫線が引かれている。Cf. 竺沙雅章（2003）「漢文大藏經の歷史－特に宋元版大藏經について－」「斯道文庫論集」第37輯, p.20. 竺沙雅章『宋元佛教文化史研究』（2000）pp.83-109, 292-335. なお、このマインツ所藏漢文斷片の存在は橘堂晃一氏から情報を頂いた。

15 果謂如眼識等爲[眼根等果四修習果謂如]
16 化心等爲諸靜慮[果如是四果皆是士用增]
問
17 上果攝説因果已[復應思擇此中何法幾因]
答
18 所生法略有四謂[染汚法異熟生法初無漏]
19 法三所餘法餘法[者何謂除異熟餘無記法]
20 除初無漏諸餘善[法如是四法頌曰]
21 染汚異熟生餘初聖[如次除異熟遍二及同類餘生]
22 此謂心心所餘及除[相應]
23 論曰諸染汚法[除異熟因餘五因生異熟生法]
24 除遍行因餘五因[生三所餘法雙除異熟遍]
25 行二因餘四因生[初無漏法雙除前二及同]
問
26 類因餘三因生如[是四法爲説何等謂心心]
問
27 所不相應行及[色四法復幾因生如心心所]
28 所除因外及除相[應應知餘法從四三二餘]
29 因所生此中染[汚異熟生法餘四因生三所]
30 餘法餘三因生初[無漏法餘二因生一因生法]
31 決定無有[ ]
32 説一切有部倶舍[論卷第六]
(Mainz 728) (大正 Vol.29 36a12-36b2)

行間に朱で書かれた上掲の「問」「答」は本文と次のような關係にある：
問： [此中何法幾因]所生。**答**：法略有四謂[染汚法異熟生法初無漏]法三所餘法。
問：如[是四法爲説何等]。[**答**]：謂心心]所。**問**：不相應行及[色四法復幾因生]。
[**答**]：[如心心所]所除因外及除相[應應知餘法從四三二餘]因所生.

このようにウイグル僧はアビダルマ論書において、もとの漢文を問答形式に調えることを一般に行ったといえる。從ってウイグル文『實義疏』第 1 卷の「問」「答」の中にはウイグル側で挿入されたものの存在する可能性が大きい。

5) ウイグル文には、疏主「安慧」(Sthiramati) が三人稱で現れ、しばしば漢字列「疏主云」を冠する。また「疏主難」を冠する場合もある。チベット文・モンゴル文には三人稱の「安慧」は登場しない。

a) 疏主云 ästiramati baxšï sözlär alqu ni'kay-larta sözlägüči alqu abidarim-larnïng yörügin bir ikintikä sïp tanïp bir ikintikä qaršï arqa bolmïšqa 又 yaršmalašu ymä/ter. bu tïltayïn ni'kay-lar bölünüp säkiz ygrmi bolmïš ol (A2394-2397)

「安慧師が云う：諸部に所説の諸々の阿毘達磨の義を、互いに否定し、互いに矛盾しあって、これに因って部が分かれて十八となったのである。」

b) 疏主難 ästiramati baxšï sezik ayïtu sözlär. birök antaγ ärsär öčmäkli yollï atqaγlïγ nizvanï-larnïng ymä ök adaqtaqïsïnda bolur <ortunqï>sï ortunqïsïnda tuγar baštïnqïsï. (A2757-2759)
「安慧師が難問する：もしそのようなら、滅と道とを所縁とする煩惱のまた下にあるものにおいては、その中のものが成ずる、中のものにおいてはその上のものが生まれる。」

北京圖書館藏の漢文『倶舎論』第 3 巻には「疏主」も「安慧」も現れないので、疏主「安慧」(Sthiramati) はウイグル文において新たに挿入された可能性が大きい。

1.1.6.2 ウイグル文とチベット文・モンゴル文との内容の比較

著者にとってチベット語譯を扱うのは至難の業である。一方チベット語譯からの重譯であるモンゴル語譯文は比較的容易である。本書第 3 章でテキストを提出する Or.8212-75A についてはウイグル文テキストの全體をモンゴル文と對照させてを觀察してみた[40]。ウイグル文とチベット・モンゴル文は先に述べたように構成法において大きな違いを示すが、内容においてはかなりよく對應する。しかし、チベット・モンゴル文にはみられない比喩や長文の説話がウイグル文には含まれている。一方で、ウイグル文にみられない内容がモンゴル文に現れることもある。ウイグル文とチベット文・モンゴル文の内容の異同を示すために若干の對照文例を以下に掲げてみたい。

a)

＜ウイグル文＞

anïn šastr-ta sözlämiš ol uqïtγalïr üčün öz baxšïsïnïng anïng ät'özining yeg ayaγuluq ärtüki (üzä) ärtmiš ašmïšïn alqu tüzünlär quvraγïnda anïn ašnuča ögüp ädgülärin basa temin ayayu aγïrlayu yükünmišin uqïtur tep 問 nä üčün ästiramati baxšï šastr-nïng abipiray-ïnta taš ikiläyü sözlädi. tngri burxanïγ ögmäk ärür ikigütä aγïr ayančang köngülüg tuγurmaqnïng tïltaγï tep 答 理實如是 yörüg tözindäkičä ärsär čïnkertü antaγ oq ol :: munta uqïtmaqï ärsär yeg ayaγuluq bolmaqïn bu oq inčip ärür. tngri burxanta šastr-ta aγïr ayančang köngülüg tuγurmaqnïng tïltaγï. birök antaγ ärmäsär šastr-nïng bašïnda iši nägü ärti uqïtïp tngri burxanïng yeg ayaγuluq ärtükin. (A142-154)
「それ故、論に曰く：「自師の其の體の尊高であることによって、諸々の聖衆を超えることを顯わす故に、それで先ず德を讃じて、次に方に敬禮を申す」と。問：何故、安慧師は論の意趣のほかに、更に佛を讃ずることが兩方に敬重心を起こすことの因であると説いたのか、と。答：理實としては、眞實その通りである。ここで尊高を顯わす

40 モンゴル語譯とチベット文との内容の對應は調査した部分に關してはほぼ完全である。チベット文が難解と云われているが、モンゴル文もやはり難解で、文意のとれない箇所が頻出する。

ことは、これ則ち佛と論に敬重心を起こすことの因である。もしそのようでないなら、論の初頭におけるその作用は何であつたのか？」

＜チベット文＞

che ba'i bdag nyid shes par bya ba'i don du yon tan brjod pa sngon du 'gro bas de la phyag 'tshal brtsom mo zhes te / de ni bstan bcos dang ston pa la gus pa skyes pa'i rgyu mtshan gyi phyir gsungs pa bden no // rnam pa gzhan du na bstan bcos kyi thog mar che ba'i bdag nyar (D. nyid) rab tu bstan pas ci zhig bya ste / (3al-2) [41]

「というのは、「偉大なる自性を知るべきである理由として、まず功徳を述べることを準備するので、その方に禮拜するのである」と（本論にあるからである)。なるほどそれは、論と師とに尊敬が生ずる原因であるが故に、仰ったことは眞實である。さもなければ、論の初めに（師の）偉大なる自性を示すことに何の意味があろうか。」

＜モンゴル文＞

yeke-yin mön cinar-i medeküi-yin tulada erdem-i ögüleküi-yi urida yaburγulqui ber tegün-dür mörgül-i tuγurbimui kemegsen buyu :tere inu sastar kiged baγsi-dur bisirel törügülküi-yin ucir siltaγan mön-u tula nomlaγsan ünen bolai : busu jüil-dur bügesü sastar-un terigün-dür yeke-yin mön cinar-i saytur üjügülügsen-iyer yaγun nigen-i üiledkü buyu : (3b7-15)

「「偉大なる自性を知るべきであるが故に、功徳を述べることを準備するので、その方に對して禮拜するのである」(と本論にあるからである)。それは論と師に對する尊敬を生ぜしめる因である故に、仰ったことは眞實である。さもなければ、論の初めにおいて（師の）偉大なる自性をよく示したことによって、何の（の意味）を爲すであろうか。」

上掲文は『倶舍論』の「爲顯自師其體尊高超諸聖衆故」に對する釋である。チベット文とモンゴル文の和譯には文意を明確にするために（ ）を用いて語句を補った。一方、ウイグル文にはその必要が無いばかりか、「問答」形式や疏主「安慧」を書き加えて文全體を整えており理解が容易である。

b) [42]

＜ウイグル文＞

nätägin bolur bilgäli sudur-ta yrlïqamïšïn köngülüg bolur mn tep 釋曰 bu sudur-ta täk sözlämiš ol uz turulduryuluq yavalduryuluq ol mäning tep inčip ymä ök köngülüg bolur mn tep sözlämiš ol mn ärsär bu oq inčip ärür köngül tep anïn bu sudur-ta yänä tartïp adïn sudur-uγ tanuq qïlïp bütürür bu yörügüg tep 釋曰前經中言 öngdünki sudur-ta sözläp turulmaq yavalmaq uγurïnta mäning bilgälär bolurlar tuγγalï tängri yerindä tep sudur-ta yänä sözlämäk üzä tägimlig ol turulduryalï yavalduryalï köngülüg köngülüg turuldurdačïlar uyurlar

41 D はデルゲ版を示す：Tho 2b2-3.

42 チベット文の内容とモンゴル文の内容は a) に見るごとくほとんど變わりはない。從って b) 以下の例文はいずれか一方のみを掲げたい。

tartγalï mängig tep inčip bilmiš kärgäk tängri yerintä tuγmaqnïng mängig tartmaqnïng yörüg abipiray-ï odγuraq bir täk ärür öngdünki mnning kenki köngülnüng yörügi odγuraq bolur bir šastïr-ta käntü tügüp sözlämiši ol tep (B1-15)

「如何にして經に「心を我と爲す」(心爲我) と説かれたのを知りうる、と。釋曰、(1) この經にはただ、「善く我を調伏すること」(善調伏我) と説いた。而して「心を我と爲す」(心爲我) と。(すなわち)「我はこれ即ち心なり」と説いた。それ故に、この {論} において、また餘の經を引いて證據となして、この義を完成する、と。釋曰、(2) 前の經に「我を調伏することに由って智者は天に生じうる」(由善調伏我 智者得生天) と説き、(後の) 經にまた、「應に心を調伏すべし、心を調えるものは樂を引くことができる」(應善調伏心 心調能引樂) と説くことによって、而して「天に生ずること」(生天) と「樂を引くこと」(引樂) の義の意趣は定んで同一である (ので)、前にある「我」と後にある「心」の義は定んで同一となる、(それで) 論に自ら結んで説いたものである、と知るべし。」

<チベット文>

'dir sems la bdag tu 'dogs so zhes bya ba 'di yang ji ltar rtogs she na / de'i phyir / mkhas pas bdag nyid 'dul bas ni zhes rgya cher 'byung ngo // 'di yang lung gzhan la bltos te don de nyid kyi shes byed yin gyi / yan gar ba ni ma yin no zhes bstan pa'i phyir bcom ldan 'das kyis gzhan las zhes rgya cher gsungs te / 'di las ni / sems 'dul bas ni bde ba 'dren zhes sems 'dul ba gsungs so // de'i phyir 'dir bdag gi sgra sems kho na la mngon par bzhed do zhes bya bar shes par bya'o // bdag nyid legs par 'dul ba yi // mkhas pas mtho ris thob par 'gyur zhes so // (130a-b)

「ここで心に關しては自己を結びつけられるということは、またどのようにして理解されるのか。(1) それ故に、「知者が自性を制することによって」云々と言う。さらに、これはまた他の教えを見て、意義が自性の原因であって、他のものではないと示すために、「また他のところで世尊は」云々と説く。(2) そのところで「心が制されるなら樂がもたらされる」というように、心を制することについて述べている。その故にここで「自己」という語は心のみにおいて明らかにお認めになると言われていることであると知るべきである。「自己をよく制する知者は天を得る」と (言われている)。」

上掲のウイグル文とチベット文は次の『倶舎論』の内容を釋の對象としている：「我依名内。外謂此餘。我體既無内外何有。我執依止故。假説心爲我。故契經説 由善調伏我 智者得生天 世尊餘處説調伏心。如契經言 應善調伏心 心調能引樂」(大正 Vol.29, p.9c *ll*.18-22)

ウイグル文からの和譯には漢文『倶舎論』からの引用を ( ) 内に示した。ウイグル文は、注釋箇所及び基本的内容においてチベット文のものと一致していることがわかる。しかし、若干ではあるがウイグル文はチベット文よりは詳細な内容をもっている。なお、ウイグル文の2つめの bu sudurta「この經において」は bu šastrta「この論において」の誤寫である。

c)

＜ウイグル文＞

釋曰此中何以 munta qayu tïltayïn öngi ketärür anïng öz tözin tep tesär alqu nomlarnïng öz töztä bolmaz üčün iši küdüki qaltï körgitmäk käntü özin körgittäči ärmäz bičäk käntü özin yonmamïš täg yänä ymä qayu tïltay öngi ketärür birlä bolmïš nomlarïy tep tesär birlä bolmïš nomlar ärsär bolur anta iki türlüg qaltï köngültäki ulatï köngültä öngi köngüldäkisi köngül bilig bir täk bir atqaylïy ärür qayu köngül atqansar munï ötrü atï bolmaz bir täk bir atqaylïy tep 或 心或緣心 azuča ymä köngültäki nomuy köngültäki nom ymä ök bir täk munga atqay bolyu kärgäk bolmaz üčün öz töznüng öz tözüg atqanmaqï ymä ök atï bolmaz bir täk bir atqaylïy tep ol köngültä öngi nomlar otyuraq bir ikintikä yaqïn birsi ärür ymä ök umaz atqanyalï qaltï köztäki otuy käntü özi umamïš täg körgüli (B317-329)

「釋曰、ここにおいて何を以って「それの自體を除く」というなら、一切の法には自體においてその作用がないため（である)。謂わく指し示すことは自己を示すものではない。刀刃が自身を切らなかったごとし。また何の因が「俱有法を除く」というなら、俱有法はそこで二種となる。謂わく、心所及び心不相應（である)。心所は心（と）同一の緣もてるものである。若し心がこれを緣ずるなら、即ちその名は「同一の緣もてるもの」とはならない。或は、(心が）心所法を（緣ずるなら)、心所法もまた同じくこれへの緣となるべし。自體が自體を緣ずることはない故、その名は「同一の緣もてるもの」とはならない。その心不相應法は定んで互いに近接の一つである。また緣ずることはできない。謂わく眼にある藥を自ら見ることができなかったごとし。」

＜チベット文＞

rang gi bdag nyid la byed pa 'gal ba'i phyir dang / dmigs pa mtshungs pa'i phyir dang / shin tu nye ba'i phyir rang gi ngo bo dang lhan cig 'byung ba la dmigs pa ma yin no // lhan cig 'byung ba smos pas mtshungs par ldan pa yang gzung ngo // (132b-133a)

「それ自體に對して働くことは矛盾であり、認識對象が同じであり、きわめて近くにあるから、「それ自身と（それと）共に在るもの」を認識對象とはしないのである。「共に在るもの」という言葉によって、連合するものも含まれている。」

上掲のウイグル文とチベット文は『俱舍論』の「彼除自體及俱有法餘一切法皆所緣」（大正 Vol.29, p.10a *ll*.9-10）に對する釋である。チベット文に比べてウイグル文の内容がかなり詳細であることがわかる。ウイグル文に見られる「刀刃が自身を切らなかったごとし」と「眼にある藥を自ら見ることができなかったごとし」の二文は佛典にはよく使用される比喩で、漢譯本において追加説明されたものと考えられる。ちなみに、ヤショーミトラ（Yaśomitra 稱友）の『俱舍論明瞭義』(Sphuṭārthābhidharma-kośa vyākhyā）にも同じ『俱舍論』の内容を對象とした釋文中にこれらと類似する二文が

使用されている[43]。

d)

＜ウイグル文＞

釋曰問云何名 qayunung atï bolur körmäktä taryaryuluq tep qayunung atï bolur bïšrunmaqta taryaryuluq tep qayunung atï bolur taryarmaγuluq tep 答 qayu nom körmäk yolta taryaryuluq bolsar atamïš ol körmäktä taryaryuluq tep qayu ärür ärsär bïšrunmaq yolta taryaryuluq atamïš ol bïšrunmaqta taryaryuluq tep atamïš ol bïšrunmaqta taryaryuluq tep bu iki yollarta taryaryuluq ärmäsär atamïš ol taryarmaγuluq tep qaltï arïγsïzta ulatïlar ärür 或 azuča ymä toquz bölük nizvanïlar bir täk bir bölüktä taryaryuluq bolsar qaltï inčip körmäk ärür atamïš ol körmäktä taryaryuluq tep 若九品法 birök toquz bölük yollar üzä angayu angayu inčip taryaryuluq bolsar atamïš ol bïšrunmaq yolta taryaryuluq tep bu iki yollarta taryaryuluqta öngisin atamïš ol taryarmaγuluq tep (B518-532)

「問、何の名が「見所斷」となるのか？何の名が「修所斷」となるのか？何の名が「非所斷」となるか？答、若し法が見道において所斷となるなら「見所斷」と名づけた。若し修道において所斷であるなら「修所斷」と名づけた。この二道において所斷でないなら「非所斷」と名づけた。謂わく（無漏）等である。或は九品の煩惱が同一品（として）所斷となるなら、謂わく即ち見である。「見所斷」と名づけた。若し九品（の法が）道において別々に即ち所斷となるなら、「修道における所斷」と名づけた。この二道における所斷よりほかを「非所斷」と名づけた。」

＜チベット文＞

mthong bas spang bar bya ba'i khams rnams ni du zhes rgya cher 'byung ba la / de la gang dag mthong ba'i lam gyis spong bar 'gyur ba de dag ni mthong bas spang (D. spong) bar bya ba ste / rnam pa dgu car yang lam rnam pa gcig gis spong ba gang yin pa de dag ni mthong bas spang (D. spong) bar bya ba rnams so // rnam pa dgu lam rnam pa dgu nyid kyis spong ba gang yin pa de ni bsgom pas spang bar bya ba rnams so // (134a5-7)

「「見所斷と言われるいくつかの界において」と廣く言われており、その場合、見道によって斷じられるものが見所斷であり、九品が一度に一道によって斷じられるものが見所斷である。九品が九道自體によって斷じられるものが修所斷である。」

上掲二文は『倶舎論』の「十八界中幾見所斷。幾修所斷。幾非所斷」（大正 Vol.29, p.10b *ll.*13-14）に對する注釋である。ウイグル文は問答形式を用いて詳細に述べられている。

43 Cf.「而して彼に自性倶有除とは、自性と倶有とを除けるが自性倶有法なり、一切法は彼の識の所縁なり、自性に非ず、自體に於て用は相違するが故なれ、所以は、指頭は指頭に觸れざればなり、刀刃は刀刃自身を研らざればなり、（又）倶有に（も）非ず、（倶有は）相應或は不相應なり、（是等は）餘りに近くにあればなり、所以は、眼中の藥は自ら見ざればなり、」（荻原(1933) pp.117-118）。

以上の4例を見る限りでは、ウイグル文はチベット文（あるいはモンゴル文）より多くの内容を含んでいる。チベット文がサンスクリット原典を忠實に翻譯していると考えるなら、ウイグル文の構成や内容は後に變改されたことになる。變改は、サンスクリット原典の内容に若干の解説を付加することによって理解の助けとなしている。時には引用原典をわざわざ掲げる場合もある。

e)

＜ウイグル文＞

問 anïng ät'özining yeg ayaγuluq ärdüki üzä teptedi ärti munung bar qayu yörügi tep 答 ät'özining yeg ayaγuluq bolmaqï ärsär ärtmäk ašmaq ärür qamaγ tüzünlärtä ymä ök umaq ärür alquqa umunγuluq tayanγuluq orun bolγalï. nätägin bilgäli bolur ärtmišin ašmïšïn qamaγ tüzünlärtä teptesär. anïn eka'utar agam-ta sözlämiš ol. alqu tïnlγlarta adaqsïzlarta iki adaqlïγlarta tort adaqlïγlarta. üküš adaqlïγlarta ančulayu kälmiš. anta qamaγta bolmïš ol. yeg adruq tep 是智斷德 tükällig ärdüki üzä bilgä biliglig taryarmaqlïγ ädgülärkä. qamaγta ayaγuluq qamaγta yeg ärur. adïn tüzünlärtä yoq üčün. anïn bu šastr-nïng bašïnda uqïtmaq üzä bu iki türlüg ädgülärin. uqïtur ärtmišin ašmïšïn qamaγ tüzünlärtä nä ymä tartïp tašγarïp tïnlγlarïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök titigtin tep temiši ärsär. uqïtur tngri burxannïng. alqu tïnlγlarqa umunγuluq tayanγuluq orun ärdüki üzä umuγ ïnaγ boldačï<sïn tep>（A410-427）

「問：「その體の尊高であることにおいて」（其體尊高）と云った。これに何の義があるのか？と。答：その體の尊高であることは衆聖を超越するものであり、また能く一切への歸依處となるものでもある。如何にして衆聖を超越したのを知り得るのかと云えば、そこで『増一阿含』に説いたのである：諸衆生の中で、無足において、二足もてるものにおいて、四足もてるものにおいて、多足もてるものにおいて、如來が全ての中で最も優れている、と。智と斷の德が圓滿であることを以て最尊最勝である。餘の聖者らには無い故。それでこの論の初めに二種の德を立てることで、衆聖を超越したことを顯わす。ともあれ「衆生を生死の泥から拔いて出したなら」（拔衆生出生死泥）と云ったのは、佛が、一切衆生への歸依處であること、救濟となることを顯わす、と。」

このウイグル文では「諸衆生の中で、無足において、二足もてるものにおいて、四足もてるものにおいて、多足もてるものにおいて、如來が全ての中で最も優れている」というのが『増一阿含』から引用されていることをわざわざ述べている[44]。しかし、チベット文にもモンゴル文にもそのことは書かれていない。たとえばモンゴル文では次のように書かれている：

＜モンゴル文＞

yeke-yin mön cinar-i medekü-yin tulada. kemekü-dür yeke-yin mön cinar-un bodas anu

44「諸有衆生。二足四足衆多足者。有色無色。有想無想至尼維先天上。如來於中最尊最上無能及者。」（『増一阿含』大正 Vol.2, p.602a *ll.*1-4）。「譬如一切衆生。無足兩足。四足多足。色無色。想無想。非想非無想。如來爲第一」（『雜阿含』大正 Vol.2, p.222c *ll.*1-3）。

yeke-yin mön cinar böged qamuγ amitan-u degedü kiged qamuγ amitan-u abural-dur jokistai boluγsan bolai : eyin kemer-ün :: alimad köl-ügei ba qoyar köl-ten ba dörben köl-ten ba olan köl-ten böged tedeger-ün dotur-a-aca tegüncilen iregsen-i degedü kemekü buyu kemegsen metü bolai : belge bilig kiged tebcil qotala tegüsügsen kemen nomlaγsan-iyar qamuγ amitan-u degedü kemen üjügülUgsen buyu : tegün-ece busad-tur anu deger-e ügei belge bilig kiged tebcil-ügei-yin tula bolai : (7a7-21)

「尊高なる眞實性を知るために述べるに當たって、尊高なる眞實性の自體は尊高なる眞實性（そのもの）であって、衆生のうちで最勝のものであり、一切衆生の歸依にふさわしいものとなったのである。このように云う：諸の無足と二足と四足と多足のもの等があれども、それらの中で如來が最上のものと云うが如しである。智慧と斷滅とを圓滿にしたと説くことにより、すべての衆生のうち最勝のものであると示したのである。彼より他においては、無上の智慧と斷滅はないためである。」

さらに、サンスクリット原典の内容に漢譯側で手を加えた證據がウイグル文の中から見出せる場合がある。

f)

＜ウイグル文＞

kök qalïq iki türlüg öčmäklär teptemiši ärsär 准梵本 änätkäkčä pun-ïndaqï yangča ärsär bu kök qalïqnïng basasïnda bar ol ulatï tegüči užik ililtürmiš tutulturmïš ärür iki türlüg öčmäklärig (A3038-3041)

「「虚空、二種滅」といった。（これを）梵語の書にあるものに則るなら、この「虚空」の次に「及び」という字がある。「二種の滅」を繋いだのである。」

「虚空、二種滅」は『倶舎論』「虚空二滅」（大正 Vol.29, p.1c *ll.*3,11）の引用である。これは「虚空二種滅」というのが、「虚空と二種滅」であることをサンスクリット原典に則て解説したもので、原典にこの解説が存在するはずはない。ちなみに『倶舎論』原典では 'ākāśaṃ dvau nirodhau ca ' と表現され[45]、ca が「及び」にあたる。

・ウイグル文『實義疏』のとりわけ Or.8212-75B には、衆賢（Saṃghabhadra）の著した『阿毘達磨順正理論』からの引用文が大量に含まれているが、ウイグル文には原典をはなれて『順正理論』を參照し直した箇所も見られる。たとえば、75B の 37 行目から 107 行目までの『順正理論』からの引用文は、チベット文には存在しない。ただ、37 行目から 80 行目までにあたる『順正理論』の内容に對する注釋はチベット文にも存在し、同じ注釋内容はウイグル文の 108 行目から 200 行目に對應する。だが、ウイグル文の 201 行目から 238 行目までは 80 行目以降にある『順正理論』からの引用文に對する注釋であって、それに對應するチベット文はない。すなわち、ウイグル文は、本來の注の對象となった部分と、それを超える部分の『順正理論』そのものを引用し、

45 Cf. Ejima (1989) p.4, *l.*4.

超えた部分にまで注釋を施しているのである。

一方で漢譯・ウイグル語譯における變改には希ではあるがこれまでの例とは逆に原典の内容を省略したところも有る。たとえば『倶舍論』の一文「論 munung umïš üčün tarïqγalï qarangγu-sï anïn adamïš ol tarïqmïš qarangγu-luγ tep」(A544-545)「此れは、能く闇を破った故、それで冥を滅したと名づけた」(此能破闇故稱冥滅)を註釋するのにウイグル文は複合語の構成法をもち出して説明している。その内容に對應するチベット文・モンゴル文には複合語の構成法の外に次のような譬喩が登場する。これらの譬喩はウイグル文には見られない。

g)
<チベット文>
dper na khyod gdong utpala sngon po'i 'dab 'dra'i mig // de yi ze 'bru dang mtshungs dri ldan 'di'i zhes so // (9a3)

<モンゴル文>
ürigelebesü cinü niγur köke udbala-yin nabci metü nidütü tegün-ü toγulcaγ-luγ-a adali ünür tegülder
「例えば『汝の顔は青い優曇華の花びらのような眼をもち、その花蕊に相應する香を具えている』と」(11r23-25)

h)
<チベット文>
dper na chang gi btung ba dang mig nyams pa mig nyams bzhin no // myos pa 'am mig zhar bas btung ba'i gzhi dang mig gi gzhi shes par mi 'gyur ro // 'o na ci zhe na gang zhig ma myos pa 'am ma long ba des ni btung ba'i yul dang mig gi yul yang rnam par shes so // (9a4-6)

<モンゴル文>
üligerlebesü arikin üγuγsan kiged nidün baγuraγsan nidün baγuraγsan yosuγar bolai : soγtuqu buyu soqur nidü-ten ber uγuqu-yin orun kiged nidün-ü orun-i medekü ülü bolumu : teyin bügesü yaγun kemebesü alimad ese soγtaγuraγsan ba ese soquraγsan tere ber umdaγan-u orun kiged nidün-ü orun-i ber teyin medekü bolai : (11a31-11b7)
「例えば、酒を飲んだ人や眼を患った人は、あたかも眼を患った人の如くである。酔(った人)或いは盲いた眼もてる人は、飲みものや、眼に見るところのものを認識することがない。ならば、誰が(知るのか)というならば、酔っていない人と、盲いていない人が、飲むところのものや眼に見るところのものを認識するのである。」

かつてロス(E. D. Ross)は、ウイグル語譯を『實義疏』の内容の一々を引いて議

論した「『實義疏』の疏」(Super-commentary) とよべるものと推定した[46]。この推定は正しくないが、『實義疏』の「講義録」に若干近い一面をもっていると言えるかもしれない。また、ウイグル文に一貫している擬漢構文の使用は、原典からのこの變改がウイグル側で行われたのではなく、翻譯原典となった漢文においてすでに行われていたことを示すものである。もっとも、この「變改」の中には實は漢譯における變改ではなく、チベット語譯の翻譯原典サンスクリットと漢譯の翻譯原典サンスクリットとの違いによって生じた可能性も否定できない。

1.1.7 ウイグル語譯『實義疏』と漢譯『實義疏』との關係

1.1.7.1 パリ本漢譯『實義疏』との關係

パリ國立圖書館所藏の卷子本、『倶舎論實義疏』は漢譯『實義疏』5 卷までを含むが、極端な節略抄本で、全體を合わせても、「大正大藏經」の 3 頁と 3 分の 1 頁分しかない[47]。第 1 卷と第 5 卷には若干の長行をとどめているが、第 2, 3, 4 の各卷においては大部分が『倶舎論』中の頌からの抜粋である。

かつて、この節略本の存在自體を明らかにした羽田亨は、その初頭に現れる題目と撰者名さらに歸敬の頌がウイグル語譯の初頭と一致することについて、1925 年に記述している[48]。同時に、「この漢文の實義疏といふものは、甚だ簡單なもので、ここに述べた如く、到底倶舎論の要約なるに過ぎないものである。かかる譯であるから、同樣に倶舎論實義疏と題されて居るに拘らず、此等の漢回兩疏の内容は、全然相合せざるものであることは言ふまでもない。」と、さらに「敦煌より出た漢文の實義疏といふものは、全く安慧の作とは認め難いのであるから、かく卷首の部分だけが兩者相合致することについては、甚だ奇異に感ずるものであるが、所詮曾て行はれた安慧の名と、卷首の歸敬の偈とを、この倶舎論の抄の如きものに前付したに過ぎぬのであらう。」と述べた[49]。「漢回」の「回」というのは「回鶻」(ウイグル) のことである。このパリ本漢譯が「安慧の作とは認め難い」という説については、チベット語譯『實義疏』とこの漢譯節略本との比較から否定されているが[50]、節略本の内容はウイグル語譯中にも見出すことができる。さらにいえば、チベット語譯には對應しない部分に關してもウイグル語とはよく對應している。おそらくこの漢譯本はウイグル文の翻譯原典に極めて近い内容をもった漢文からの抜粋であったと考えられる。

1.1.7.1.1 Or.8212-75A とパリ本漢譯『實義疏』

漢譯『實義疏』節略本の第 1 卷は 75A との對應部分を比較的よく保存している。

---

46 Cf.上掲 *Serindia*,Vol.II p.923.

47 大正 Vol.29, No.1561, pp.325-328. 殘されている最終行は『倶舎論』第 3 卷の第 9 番目の頌 (大正 Vol.29, p.15c *ll.*8-9) の引用である。

48 Cf. 羽田 (1925) pp.757-759.

49 Cf. 羽田 (1925) pp.759.

50 Cf. 櫻部建 (1975) pp.95-107.

以下には、節略本の第1巻を掲げ、75Aとの對應部分を示したい。左肩に付した番號と「　」でもってウイグル文のとの對應を表示する。

倶舍論實義疏卷第一　　惣二萬八千偈

尊者悉地羅末底造 唐言安惠

[1]「稽首薄伽衆德山　稽首達磨大智海
稽首僧伽和合衆　掣斯論主及吾師
我將螢燿助陽光　隨力弘宣對法藏
爲利群生法久住　願以威神見護持」

分別界品第一　七義。*「謂智圓滿。斷圓滿。利他圓滿。方便圓滿。應供圓滿。期心圓滿。

方便圓滿。由敬法故常樂聽聞。由聽聞故發生聞惠。由聞惠故發□思惠故。發起修惠故生無漏惠。由無漏惠能斷諸惑。爲諸惑斷故即證卅。故名所爲之利益。七義者。頌言一切種冥滅。是知圓滿。諸滅是斷圓滿。拔衆生出生死泥者。利他圓滿。敬禮如是者。應供圓滿。如理師者。方便圓滿。」由佛世尊有勝方便説如理教利有情故。論我者當説者。期心圓滿。欲造論故。對法藏者。立名圓滿。惣攝七義。頌曰。

智斷及利他　方便期造論
立名對法藏　惣七義應知

[2]「色法.心法.心所有法.不相應法。及無爲法。於此五法所知境中。世皆不了。唯佛獨悟。永斷諸惑故。」[3]「極遠時者。謂過去未來三阿僧祇劫外聲聞獨覺不能知。何以得知。如昔有一人。於舍利子邊求出家。時舍利子觀二阿僧祇劫。此人無出家善根。遂不許。此人詣佛以求出家。世尊觀之。出僧祇外此人有少善根。遂許出家。説偈言。

彼人解脱種　我觀極微細
猶如諸礦中　眞金隱茲住」

[4]「目連觀其母。不知生處。往問佛。佛告。汝母生在摩利支世界三千界外。」[5]「如是多種分別中。聲聞等智皆不了達。」修福及智所得果。皆爲利他非自利。猶月光淨照十方。世尊悲願亦如是。又頌云。

[6]「迴施之福及利己　自修迴施二福德
復因利樂諸有情　如上衆多福智聚
果證非他遂自得　行願福及迴施福
自他俱利不唐捐

如是雖説自利從因及果亦能利他人。有頌言。

乳母甘膳用資身　爲子獲安非爲己
佛修福智趣菩提　本爲利生非爲自」

頌云。

[7]「時雨雖普降　無種芽不生
佛雖化世間　緣闕不得果」

又頌。

[8]「善知識者誰　謂佛令生智
離放逸惡行　違此即捨離」

[9]「對法宜如生得惠與聞惠爲因。聞惠與思爲因。思惠與修惠爲因。修惠與漏惠爲因。漏惠與涅槃爲因。以此義故得名對法。以能增長聞等惠故。」[10]「或諸有爲悉皆棄捨。唯樂涅槃故名殊勝。」[11]「苦集道諦爲涅槃惠。」[12]「佛教依法不依人。」頌曰。

[13]「若離擇法定無餘　　能滅諸惑勝方便
　　由惑世間漂有海　　因此德佛説對法

論曰。若離擇法無勝方便能滅諸惑。」[14]「佛告阿難。我在依於我。我滅度無別所依。應依杖經。勿令忘失。」[15]「佛云。老耄出家持吾三藏。甚爲難得。」[16]「三藏一經二律三雜藏。」[17]「昔迦葉佛時有一苾芻。聰明博學具閑三藏。嘗以語業毀罵出家在家人等。

爲鵄鵂魚狗諸禽獸等。命終之後。承此業報。生於海中。受大魚身。其形甚大。有十八頭具受衆苦。世尊出世猶未得脱。後有漁人。其數一千。困捕魚次。網著此魚。曳之不出。後數千人同共曳出。見其異類多頭形貌可怖。世尊觀見知具報終。遂將大衆至彼海岸敷座。坐已呼彼魚云。三藏。汝豈不是過去佛時三藏苾芻。彼魚聞已涕淚盈目。爾時世尊爲説宿因。其魚生悔更不飲噉。因茲命終生於天上。於彼時中聞法之衆各於自乘獲大法利。」

[18]「五蘊不能攝一切法。是故不依五蘊」[19]「而説先有染後要其淨。淨彼染故以先説有漏之法後説無漏。」無爲頌。

[20]「苾芻意寂靜　　於事得永斷
　　能盡生死際　　更不受後有」。　　（大正大藏經 Vol.29, p325a *l.*8-p.326a *l.*1）

ウイグル文との對應關係：

1) A9-17	8) A1290-1293	15) A2427-2429
2) A615-618	9) A1787-1796	16) A2434-2435
3) A901-914	10) A1841-1843	17) A2485-2506
4) A919-923	11) A1846-1847	18) A2611-2613
5) A939-940	12) A1989-1990	19) A2632-2634
6) A1068-1084	13) A2036-2042	20) A4243-4245
7) A1271-1273	14) A2360-2364	* A1529-1536

先に述べたようにチベット語譯には上掲對應表の 1) に相當する巻頭の歸敬頌は存在しない。17) は纏まった量の説話である。これがチベット語譯に現れないことは既に述べられているが[51]、ウイグル語譯には漢文とほぼ完全な對應をもつ文が見られる。

a)

öngrä kašip tngri burxan ödintä bar ärti bir toyïn tetik yaruq bilgä biliglig keng bilmäklig tüzü tükäl uqmïš ärti üč ayïlïqlarïγ 常以口業 uzatï tiltäki qïlïnč üzä irär münäyür ärti. alqu kišilärig. täglükän. balïq. quš. it. äsringü uγušluγ quš käyik tep. ken bu qïlïnčïnga tayaqlïγïn.

51 Cf. 櫻部 (1975) p.98.

tuγup taluy ögüztä tägindi uluγ balïq ät'özin anïng ät'özi keng uluγ säkiz ygrmi bašlïγ. tüzü tükäl tägindi alqu ämgäklärig. atï kötrülmiš ündüktä bälgürdüktä yertinčütä anïlayu oq bolmatï ozyalï. ken bar ärti balïqčï kiši anïng sanï mïng balïq tutγu tïltayïnda basa toor yadïp 此魚拽之不出 bu balïqïγ tartïp ündürmätin ken sanï mïng kišilär birgärü birikip tartïp ündürüp körtilär anïng üküš tälim bašïn körkining oxšatïγïnïng qorqïnčïγïn atï kötrülmiš qolulap körüp. bilip anïng tüšining üzülmišin ärü ärü uduzup uluγ quvrayïγ. tägip ol taluynung qïdïγïnga. orun töltäp oluru tükätdüktä oqïyu ol balïqïγ sözlädi tripitake-ya sän näčük'ol. ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan. ödindäki tripitake toyïn tep. ol balïq äšidü tükätdüktä közindä tolu yašï kölärdi. atï kötrülmiš nomladuqta öngräki ažuntaqï tïltayïn ol balïq köngülindä tuγurup ökünmäk qïnanmaqïγ. ikiläyü ičmädin yemätin munung tïltayïnda ölüp tuγdï tngri yerindä 彼時聞（法）之衆 ol ödtä nom äšidigmä quvrayγ öngin 々 öz kölüngülärinčä. buldïlar nomluγ asïγïγ tep. （A2485-2506）

「昔、迦葉佛時に、一苾芻がいた。聰明な智をもち、博學で、三藏を完全に了じた。常に語業を以って、すべての人、鵄鴞、魚、狗、各類の禽獸等を毀つのであった、と。後にこの業に依って、海に生まれ、大魚身を受けた。其の身は甚大、十八頭を有し、衆苦を俱受した。世尊が世に出現したとき、猶、脱し得なかった。後に、漁人が有った。其の數、千。魚を捕るべき因において、次に網を廣げて、この魚を曳いたが出せなくて、後にその數、千の人々が共同して曳き出して、其の多頭や、形貌の恐怖を見た。世尊は觀見して、その報の終わりを知り、遂に大衆を將いて、彼の海岸へ至り、敷座をなして、坐りおえたときに、彼の魚を呼んで云った「三藏よ、如何にして汝は過去佛時の三藏苾芻ではなかったのか？」と。彼の魚は、聞き已えたとき、その目には一杯涙が溢れた。世尊が宿因を説いたときに、其の魚は心に悔を生じて、更に飲食せず、この因で死に、天上に生まれた。その時に法を聞く衆は各々の自乘によって、法利を獲た、と。」

「昔迦葉佛時有一苾芻。聰明博學具閑三藏。嘗以語業毀罵出家在家人等。爲鴟鴞魚狗諸禽獸等。命終之後。承此業報。生於海中。受大魚身。其形甚大。有十八頭具受衆苦。世尊出世猶未得脱。後有漁人。其數一千。困捕魚次。網著此魚。曳之不出。後數千人同共曳出。見其異類多頭形貌可怖。世尊觀見知具報終。遂將大衆至彼海岸敷座。坐已呼彼魚云。三藏。汝豈不是過去佛時三藏苾芻。彼魚聞已涕淚盈目。爾時世尊爲説宿因。其魚生悔更不飲噉。因茲命終生於天上。於彼時中聞法之衆各於自乘獲大法利。」

また、6）に現れる頌「乳母甘膳用資身　爲子獲安非爲己　佛修福智趣菩提　本爲利生非爲自」もチベット語譯には無いが[52]、やはりウイグル語譯には見られる。

b)

乳母甘前饍用資身 avïrta analarnïng süčig tatïγlïγ ašlarïγ išlätip ilgündürmäklärі ärsär ät'özin

52 チベット文にこの頌が無いことについては櫻部（1975）を參照。

oγlanqγalarïnga bulduryu üčün ärip enčgüg äsängüg näng käntü özi üčün ärmämiš täg ančulayu oq ymä burxanlarnïng bïšrunup buyanlï bilgä biliglig barmaqlarï ärsär tuyunmaqqa tözi asïγ tusu qïlγu üčün ärür tïnlγlarqa näng käntü özi üčün ärmäz tep （A1079-1085）
「乳母が甘い食を用いて身を資するのは、子らへ平安を獲させるためであり決して自己のためではないように、そのようにまた佛が福と智とを修し菩提へ趣くことは、その根本は衆生へ利益をなすためであり決して自身のためではない、と」

上掲のようにチベット語譯に缺落した説話や頌以外にも、チベット語譯よりは節略本とはよく對應するウイグル文が見られる。たとえば、次の c）の「阿毘達磨が佛説であるか、否か」の議論においてもそれは伺える。

c)
＜ウイグル文＞
sanggabadre baxšï yänä sözläsär siz. amtï sözlämäk üzä tayanïnglar tep. birök uqïtur ülgü yörügüg tep tesär yörügi odγuraq antaγ ärmäz. 如何世尊 nätägin atï kötrülmiš ašnuča yrlïqap tört türlüg ülgülärig. inčip amtï yrlïqaγay sudur-uγ oq bolur ülgü tep azuča ymä tägimlig ärti ašnu ödtä tayaqïγ yindäm bir ök ol tep yrlïqaγalï nätäginteptesär. nom ulatï üčägü sudur-ta tutulmïš üčün azuča ymä inčip anta tïda tükätip kišikä tayanmaqïγ ymä ök inčip ötlämiš ärür. tayanïnglar sudur-nung adruqïnga tep. qaltï tngri burxan yrlïqamïš ol anant-qa män amtï äsän ärkän yertinčütä sizlär manga tayaqlïγ ärür sizlär män nirvan bulmïšta ken yoq ärür angayu tayaqïngïzlar tayanmïš yölänmišingizlär kärgäk sudur-qa näng kim unïtmatïn ittürmätin tep ulatï. 豈以祇令 näčükin yalïndïq yrlïqap sudur-qa tayanmaqïγ yölänmäkig. inčip yrlïqamaγay adïn vinay šastr-ta ulatïlarqa tayanmaqïγ tep. birök muntaγ sözläsär inčip uyur sizlär ündürgäli ol soturantike ni'kay-lïγnïng nägü münin qadaγïn qaltï tngri burxan yrlïqamïš ol anant-a sizlär ašnuča kišikä tayaqlïγ ärdingizlär. män nirvan bulmïšta kẹn yoq ärür angayu tayaqïngïzlar. yindäm tayanmïšïngïzlar kärgäk sudur-qa näng kim unïtmatïn ittürmätin tep abipiray üzä uqïtur anant-nïng täg sudur-qa tayanmïšïn adïnqa tayanmamïšïn teptesär munta bolur nägü mün qadaγ tep. （A2351-2373）
衆賢がまた云う：「今、『汝ら依るべし』ということによって、もし、量（經典）の義を顯わすというなら、その理は必らずやそのとおりではない。如何にして世尊は先に四種の量を説かれて、而して、今、（ただ）經をのみ量と爲すと説かれるのであろうか？或は應に、先時には依を「唯一つなり」と説かれるべきであった。如何にというなら、法等の三つは經において、攝せられたもの故に。或は即ち、そこにおいて、人へ依ることを已に遮り、亦、即ち『經の差別へ汝ら依るべし』と勸めた。謂わく、佛は阿難へ告げた『我れは今この世に健在であるので汝ら我に依るものである。我れが滅度した後は汝らに別の所依は無い。應に經へ依らねばならない。決して忘失させることなしに。』となど。ただ經へ依ることを説かれ、而して餘の律、論等へ依ることを説かれなかったか、と。もしこのように云うなら、而して汝らは經量部の何らかの過失を上らせることができる。謂わく、佛は説かれた：『阿難よ、汝ら先には人に依るものであった。我れが滅度した後には別の依は無いのである。唯、經に依るべし。

決して忘失させずに。』」と。意趣によって阿難のもののごとく、經へ依ったことを、餘へ依らなかったことを顯わすというなら、ここにおいて何の過失となるのか？と。

＜チベット文＞[53]

gang yang mdo sde la rton par bya'o // zhes gsungs pa'o // 'dir rton pa'i sgra tshad ma'i don ma yin no // 'o na ci zhe na / sngar ni bdag med pa dang sems can med pa dang gang zag med pa la rton par gyur la / da ni mdo sde brjed pa med pa lhur bya'o zhes pa 'di ni (D. 'di'i) don to [sic.] // de ltar na yang gtan tshigs 'ga' zhig la skyon bshad pa med do // 'o na ci zhe na / gtan tshigs kyi nus pa nyid 'di la gnod byed ma yin no zhes rnam par bshad pa'o // (28a7-b1)

また「經に依止すべきである」と説かれている。ここで依止という言葉は論理の意味ではない。それでは何であるかと言えば、初めに無我と無衆生（ni*satt-va）と無プトガラ（ni*pudgala）に依止して、さらに、經を忘れることがないように一生懸命になるべきだというのが、この意味である。この様にすれば、またいくつかの因に於いて過失を説くことはない。それはまたどのような事かと言えば、原因のこの效力において害をなさないと解釋されるのである。

上掲二文の内容の大部分は『順正理論』巻第1からの引用である。ウイグル文の和譯にはその引用文を「　」で括ってある。その『順正理論』漢文は以下のごとくである：又今言依。欲顯何義。若顯量義。理未必然。如何世尊先説四量。而今但説經爲量耶。或應先時依唯説一。以法等三經所攝故。或即於彼已遮依人。亦即勸依經之差別。而今復説有唐捐過。故今言依。應顯別義謂汝昔來心屬於我。是則依仗補特伽羅。自今以往無別所依。應唯仗經勿令忘失。（大正 Vol.29, p.330a *ll.*7-13）

上掲ウイグル文とその和譯に施した下線部は實は節略本『實義疏』にも現れる：佛告阿難。我在依於我。我滅度無別所依。應依杖經。勿令忘失。この部分は節略本『實義疏』とウイグル文とがよく對應しており、チベット文とは異なっている。それ以外の部分もウイグル、チベット兩文の間には違いが見られる。

漢文節略本はチベット語譯よりむしろウイグル語譯と基本的な一致を示すことが解った。しかし、この節略の基となった漢文『實義疏』がウイグル文の眞の翻譯原典であるかどうかは疑わしい。というのはウイグル文には見られない内容が節略本には存在する。上掲のウイグル文と漢文の對照表に「*」印を付けた部分、すなわち「謂智圓滿。斷圓滿。」から「如理師者。方便圓滿。」までは部分的な對應しか示さない。さらに「*」印の對應部分の後「由佛世尊有勝方便説如理教利有情故。」から五字四句の頌の最後「惣七義應知」までは對應する内容がウイグル文には見あたらない。そしてこの状況はチベット語譯やモンゴル語譯にも當てはまる[54]。

53 このチベット文の和譯は、松涛（1990 pp.7-8）に從った。この論文の中で扱われたチベット文の全體はウイグル文の A1961-2480 行に對應する。なお、松涛（1989）に載せられたチベット文はウイグル文の A3990-4142 行に對應する。

54 この部分の節略漢文がチベット語譯文に無いことについては櫻部（1975）p.97 を參照。

ところで、節略本第1巻末は頌で終わっているが、75Aのウイグル語譯はこの頌の現れるA4243～4245行以降、この寫本の末尾までになお300行以上を殘している。寫本末には先に述べたように、「阿毘達磨倶舎論實義疏卷第一」を表す一文が書かれている。すなわち『實義疏』第1巻末である。一方、節略本の第2巻は「諸佛出現樂
演説正法樂　僧衆和合樂　同修勇進樂」の頌に始まるが、これは『倶舎論』「界品」の「第二章」の四つ目の頌（大正 Vol.29, p.2c）にあたる。ウイグル文は「界品」の「第一章」末の注釋に終わっているのでこの頌は含まない。節略本第1巻末と第2巻初頭までの間に、元はかなりの量の漢文が詰まっていたものと考えられる。そしてその部分には「界品」の「第一章」末の釋が有り、漢譯『實義疏』の第1巻末を構成しており、ウイグル文の巻末と一致していたにちがいない。なお、チベット語譯はこの部分を特に巻末とはしていないので、この區別は漢文において作られたものであろう。

1.1.7.1.2　Or.8212-75Bとパリ本漢譯『實義疏』

75Bは前後が切斷された一册で、内容は本來、漢譯『實義疏』の第4巻に收まるものである。しかし節略本の第4巻は「大正大藏經」所收のものでわずか24行が殘されるのみである[55]。この24行には『倶舎論』からの3箇所の頌とその前後に續く長行とが20行を占め、『倶舎論』に對する釋は末尾の4行のみである。殘念ながら、この4行は、ウイグル文には殘っていない[56]。節略本第4巻中、テキストBのもつ内容の範圍に入るものは次の部分である。

1)　十八界中幾是見幾非見。頌曰
　　眼法界一分　八種説名見
　　五識倶生慧　非見不度故
　　眼見色同分　非彼能依識
　　傳説不能觀　被障諸色故
　論曰。眼全是見故。法界一分八種是見。餘皆非見。
2)　論今當略辯。此決定相。頌曰
　　眼不下於身　色識非上眼
　　色於識一切　二於身亦然
　　如眼耳亦然　次三皆自地
　　身識自下地　意不定應知　　（大正 Vol.29, p.327a *ll.*2-13）

1）は『倶舎論』すなわち「大正大藏經」29巻の10頁下段に、2）は12頁下段にそれぞれ掲げられている。一方、ウイグル文『實義疏』では1）はB844行目すなわち「印第七卷初也」と書かれた、ウイグル本の第7巻「見非見門」を説く冒頭にあたる。しかしウイグル文には上掲漢文の頌の内容を、まとまった形で表現した部分は見あた

55 『阿毘達磨倶舎論實義疏』卷第四「大正新脩大藏經」Vol.29, pp.326-327.
56 この漢譯『實義疏』の注釋部分4行は、『倶舎論』中の「經中説二十二根」（大正 Vol.29, p.13a l.20）の「經」について、實際にその「經」の内容を引用したものである。

らない。また、2）はウイグル文の B2297 ～ 2343 中の内容に相當するがやはりこの漢文の頌に相當するウイグル文は現れない。すなわち、75B に關するかぎり、節略漢譯本とは直接の對應部分をもたない。この二つの頌が 75B にみられないのは、1.1.5.5 に述べたように、75B が『倶舍論』からのまとまった引用文を省略しているためである。この二つの頌は漢文『實義疏』にはもともと存在していたといえる。

1.1.7.1.3 パリ節略本漢譯『實義疏』と北京本漢譯『實義疏』との關係

北京圖書館所藏の漢譯『實義疏』（L3736, 北新 1445）は 1980 年代に同館所藏敦煌文獻の整理中、蘇軍によって發見されたもので、1993 年に内容の解説と漢文テキストの一部が發表され、1995 年に校訂本が出版された[57]。校訂本によれば、内容は漢譯『實義疏』の第 3 卷に所屬する。ほぼ完本に近い形に校訂されている。漢譯『倶舍論』の第 1 卷大正大藏經 4 頁下段 11 行目の長行「已説諸蘊及處界攝當説其義此蘊處界別義云何」を掲げることと、その釋から始まる。また卷末は大正の 9 頁上段 11 行目の「唯外四界名」から 16 行目の「所稱唯重。」までの長行の釋に終わる。「國譯大藏經」の章だてを借りるなら、『倶舍論』本論第 1 篇「界品」第 3 章第 3 節「蘊處界の意義」の途中から、第 5 章第 8 節「能斫所斫等三門」末までの注釋を表したものである[58]。

パリ節略本の第 3 卷の内容は、北京本の最初の釋に該當する釋からはじまり、本來は後半に所屬する部分、すなわち『倶舍論』では大正の 8 頁上段末の「説五無分別」にはじまる頌とそれに續く長行に對する釋に終わっている。即ち蘇軍（1995）では 171 頁～ 236 頁の間に含まれる。しかしパリ節略本の分量は大正の 362 頁中段から下段へかけて僅か 29 行のみである。

以下にはこのパリ節略本がどのような性格をもつのかを北京本との比較から考えてみたい。

節略本第 3 卷は長行と 4 つの頌とから成っている。4 頌の内一つを除けば『倶舍論』からの引用である。ただし、最後の頌は 8 句あるが前半の 4 句と後半の 4 句は本來別々の箇所にあったものを接合したものである。頌のうち次のものは『倶舍論』には無い。

如魚處泥中　躍水令渾濁
無明中倒想　汚患亦復然（大正 Vol.29 p.326c *ll.*3-4）

同じ頌は蘇軍（1995）では 187 頁に見られる。ただし、節略本の「患」に對しては「慧」が立っている。この頌の存在はパリ節略本がやはり正眞の漢譯『實義疏』からの抜粋文を繋げたものであることを證明している。頌以外にも『倶舍論』以外からの抜粋文は見られる。

「心心所法生長門義是處義。訓釋詞者。謂能生長心心所法故名爲處。是能生長彼作用義。法種族義是界義。如一山中有多銅鐵金銀等族説名多界。如是一身。或一相續有十八類諸法種族名十八界」（『倶舍論』大正 Vol.29, p.5a *ll.*2-7）

57 Cf. 蘇軍（1993）及び（1995）。
58「國譯大藏經」論部 Vol.11（1975 年國民文庫刊行會編復刻版）pp.50-104.

この『倶舎論』の内容を北京本『實義疏』は次のように注釋する。
論：「心、心所法生長門義、是處義、訓釋詞者、謂能生長心、心所法、故名爲處。是能生長彼作用義」。釋曰：何故言處是生門義？生誰之門？以“訓釋詞”故。前生門義、生誰之門？生心、心所法。“生長門義是處義、訓釋詞者”、如論中云：“謂能生長心、心所法、故名爲處。是能生長彼作用義。”“作用義”者、如依眼、色生於眼識、乃至意、法、應知亦然。『如契經説：梵志當知、以眼爲門、唯爲見色。此經唯證門義有六。然心所法有十二門、故契經説“眼、色爲緣、生於眼識、三和合觸俱、起受、想、思、如是乃至意、法爲緣、生於意識、三和合觸、起受、想、思”』。 論：「法種族義、是界義。如一山中有多銅鐵金銀等族、説名多界。如是一身或一相續、有十八類諸法種族、名十八界」。 釋曰、如是知族是其義？・・(蘇軍(1995) p.176-177)

一方、パリ節略本は次のごとくである。

三科一聚二生門三種族。聚蘊義。生門義。心心所法生長門義。生於眼識『以眼爲門。此經證門義有六。然心所法有十二。故契經説。眼色爲緣生於眼識。三和合。觸起倶受想思 如是。乃至意法爲緣生於意識三和合。』 「(法) 種族義是界義。如一山中有多銅鐵金銀界族説名多界。如是一身或一相續。有十八類。諸法種族名十八界」。(パリ節略本 第3卷初頭)

『倶舎論』からの引用文を「 」で示した。下線を施した部分は兩『實義疏』における論に對する注釋部分であり、よく一致している。なお、『 』に閉じた部分は以下の『順正理論』からの引用である。
『(心心所法於中生長。故名爲處。是能生長彼作用義。) 如契經説。梵志當知。以眼爲門。唯爲見色。此經唯證門義有六。然心心所法有十二門。故契經説。眼及色爲緣生於眼識。三和合觸起受想思。如是乃至。意及法爲緣生於意識。三和合觸倶起受想思。』
(順正理論 大正 Vol.29, p.343c *ll.*4-9)

上掲パリ節略本の冒頭「三科一聚二生門三種族。聚蘊義。」は北京本には對應部分がない。しかし上掲文に先行する、すなわち第3卷の最初の釋文に現れている：
釋曰：□・・・□欲顯示三科別異之義、先以三法□・・・□義、顯三差別。言三法者、一聚、二生門、三種族。此三如此、即蘊、處、界。或復於此三科之中有彼三義、非異名也。謂聚、生門、種族是蘊、處、界之義、依主釋也。如何得知聚是蘊義？論自答云
(蘇軍(1995) p.171)

パリ節略本の「聚蘊義」はおそらく「聚是蘊義」の誤寫であろう。いずれにしてもパリ節略本が北京本の中に收まることが理解できた。また、パリ節略本も北京本も『倶舎論』と『順正理論』からの引用は玄奘譯漢文からおこなわれたことがわかる。そしてそれはウイグル文とも一致する。さらにウイグル文が「論曰」を掲げて『倶舎論』を引用し、「釋曰」以下にその注釋を續ける方法においても北京本と一致する。すな

わち、ロンドン本ウイグル語寫本 Or.8212-75A の構成法は北京本漢譯『實義疏』と完全に一致するといえる。

1.1.8 書寫人によるウイグル文の訂正

ロンドン本ウイグル語寫本には、書寫人あるいは翻譯者の手によると推定できる大量の「訂正」がみられる[59]。

1.1.8.1 訂正の方法

1) 本文に插入された訂正

第1番目の訂正は、「又・・・ymä ter」(又・・・ともいう) あるいは「又・・・ymä tigü täg」(又・・・ともいうごとし) の「・・・」の部分に訂正した形式を書き込むものである。ymä ter や ymä tegü täg は小さく横に並列される場合が多い[60]。ここでは「訂正」という表現に統一したが、「訂正」の内容には單なる注記の場合もある。

實はこの方法を用いた訂正は甘肅本にも同一箇所に現れるので兩ウイグル文の元の文を書いた、あるいは寫した人物によって直接に行われた訂正といえる。

「又・・・ymä ter」(「又・・・ymä tegü täg」) を用いた訂正は、接尾辭から語句、文に及び、必ずしも訂正の對象となる形式の直下に置かれるとはかぎらない。すこし後方にずれる場合もある。

a) ang'ilki šlok sözlär 又 karïk ymä/ter (A70-71)
「第一 šlok を説く。又 karïk ともいう。」

この文は『倶舍論』の「第一頌を説く」という内容をもっている。ウイグル文『實義疏』では「頌」には šlok (Skt. śloka) と karik (Skt. kārikā) の二語を用いるが、『倶舍論』からの引用はすべて後者の形式に統一されているので、ここではそう直したのである。

b) atlïγ küülüg üčün atmanggal üčün 又 lïγ ymä/ter ulatï yig ayaγuluq üčün (A529)
「名聲のため、atmanggal のため、又 lïγ ともいう、更に尊高のため、」

訂正は atmanggal「吉祥」 を、atmanggal-lïγ「吉祥もてるもの」とするよう指示したものである。

c) qaltï tïdar tört türlüg nom-lar-ïγ. olar törtägü ymä qayu ol teptesär ang'il-ki burxan nom(-ïn) ikinti ärtä ïraq ödüg 三 ärtä ïraq orun-uγ 四 ulatï alqu yörüg uγuš-ï-nïng uučsuz qïdïγ-sïz adïrt-ïn :: 又 burxan nomïn-taqï. ödtäki. orun-taqï. adïrt-ïn-taqï ymä/ter. (A886-890)

59 ここでのロンドン本の訂正に關しては庄垣内 (1993a pp.4-13) と庄垣内 (1996) の内容を基にした。
60 ymä ter や ymä tegü täg のほか、ymä terlär (A3175) ymä tegü täg turur (A1383) なども現れる。

「謂わく、四種の法を妨げる。それら四つはまた何かといえば、第一は「佛法を」、第二は「極遠時を」、第三は「極遠處を」、第四は「及び諸々の義類の無邊際の差別を」。又、「佛法にあるもの」「時にあるもの」「處にあるもの」「差別にあるもの」ともいう。」

「又」以下の訂正は實線を施した4つの接尾辭を波線の形式に書き換えるよう指示したものである。訂正後の内容は「謂わく、四種の法を妨げる。それら四つはまた何かといえば、第一は佛法にあるもの、第二は極遠時にあるもの、第三は極遠處にあるもの、第四は及び諸々の義類の無邊際の差別にあるもの」のように適切なものになる。

d) čïnkertü tätrü-süz öt ärig berip ötlätäči ärigläďäči üčün 又 öt qïndačï-lar-ïγ ärigläďäči üčün ymä/ter 又 öt berip ärigläp qïïndurmïš-qa ymä/ter. atamïš ol čïnkertü töz-lüg baxšï tep (A1305-1308)

「眞實無倒に教授し教誡するもののため、又、教勗するものを教えるもののため、又、教授し誡勗したものに、ともいう、如理師と名づけた」

訂正は二度おこなわれている。結局「眞實無倒に教授し、誡勗したものに、如理師と名づけた」と適切な内容になる。

このタイプの訂正、すなわち本文に挿入された訂正は大概正しくなされている。また、訂正文がもとの文よりは正しいものであるということを、本文にわざわざ書き加えた例も見られる。

e) 无漏謂道諦 aqïγ-sïz ärsär qaltï alqu yol kertü ulatï üč etigsiz ärür tep 又 aqïγ-sïz ärsär qaltï yol tüz-ün-lär kertü-si ulatï üč etigsiz-lär ärür ymä/ter. bu köni ol (A2927-2930)

「無漏は謂わく、諸道諦、及び三無爲である、と。又、無漏は謂わく、道聖諦、及び三無爲である、ともいう。これが正しい。」

上掲ウイグル文は『倶舎論』の長行「謂道聖諦及三無爲」(大正 Vol.29, p.1c *ll.*10-11)の引用である。文中漢字列の「无漏謂道諦」は注釋の對象となるこの長行に先行する頌の一句である。etigsiz をその複數形 etigsizlär に訂正したことは特に重要ではない。alqu yol kertü「諸道諦」は「諸」が冠されてはいるもののウイグル文中漢字列の「道諦」と一致している。一方訂正文中の yol tüz-ün-lär kertü-si は長行中の「道聖諦」と一致している。そう訂正したことに對して bu köni ol「これが正しい」と訂正した人物が付け加えている。このウイグル文は甘肅本にもある：无漏謂道諦 aqïγ-sïz ärsär qaltï yol kertü ulatï üč türlüg etigsiz-lär ärür tep 論 aqïγsïz-ï ärsär qaltï alqu yol tüz-ün-lär kertü-si ulatï üč türlüg etig-siz-lär ärür. (*ll.*667-669)「無漏は謂わく道諦、及び三種無爲であると。論、無漏は謂わく諸道聖諦、及び三種無爲である。」。甘肅本の「論」は「又」の誤りというよりは論(『倶舎論』)では yol kertü「道諦」に對して alqu yol tüz-ün-lär kertü-si「諸道聖諦」が書かれていることを示している。その「又」が「論」になっ

ている點を除けばロンドン本と甘肅本とは訂正文を含めてほぼ同一である[61]。「諸道聖諦」は上述したように大正藏『倶舍論』では「諸」が無い。翻譯原典であった漢文『實義疏』に「道諦」、「道聖諦」、「諸道聖諦」の一體いずれが入っていたのかここでは判斷できない。

bu köni ol「これが正しい」の代わりに oqïš 正 ol「この讀みが正しい」と書かれたものもある：

f) öngrä yorïmïš amtï yorïp turur ken yorïdačï töz-lüg azu-ča ymä ürlügsüz-nüng singirgü-lük ašayuluq-ï üčün tep. 又 azu-ča ymä bolur üčün ürlügsüz-kä singirgü-lük ašayuluq tep ymä/ter bu oqïš 正/ol (A3949-3952)

「已行、正行、當行の性もてる（故に）、或は、無常の呑食されるところ故、と。又、或は、無常に呑食されるところとなる故、と。この讀みが正しい」

このウイグル文も『倶舍論』の「已行正行當行性故。或爲無常所呑食故。」（大正 Vol.29, p.2a）から引用された。訂正文は次のように漢文語順ともよく對應している。

azu-ča ymä bolur üčün ürlügsüz-kä singirgü-lük ašayuluq
或　爲（故）無常　所呑食

ウイグル文『實義疏』は後に議論するように擬漢文構文で書かれている（cf. 1.4.4.1）。ただし、「故」を表す üčün は動詞に後接しなければ意味を爲さないので常にこのような位置に立つ。

もう一箇所類似の訂正文が存在するが、それはウイグル文の理解を容易にするよう改めたものである。

g) qarangγu qararïγ-lar-nïng tanuqlayu yrlïqamïš üčün tuγmaq-sïz törün anïn atamïš ol tarïqmïš tep :: 又 tuγmaq-sïz törün tanuqlayu yrlïqamïš üčün ymä ter 此正彼 :: (A610-612)

「冥の不生法を證したまうた故に、それで滅したと稱した」

このウイグル文は『倶舍論』からの引用である。訂正前の語順は次のようである：

qarangγu qararïγ-lar-nïng tanuqlayu yrlïqamïš üčün tuγmaq-sïz törün....
冥の　證し　たまうた故に　不生法を

訂正前のウイグル文は漢文の「冥證不生法故」によく對應する。しかし、qarangγu qararïγ-lar-nïng「冥の」が tuγmaq-sïz törün「不生法」に係るには遠すぎてウイグル語として理解しにくいので次のように訂正した：

61 ロンドン本の üč edigsiz-lär「三無爲」に對して甘肅本は üč türlüg edigsiz-lär「三種無爲」と書かれている。

qarangγu qararïγ-lar-nïng tuγmaq-sïz törün tanuqlayu yrlïqamïš üčün....
冥の　不生法を　證し　たまうた故に

この訂正に對して「此正彼」を立てている。この漢字列は先に掲げた bu köni ol「これが正しい」を表す[62]。

訂正文に對して、これを「正しい」と付加するのは、すべて 75A に存在し、しかも、何れも『倶舎論』からの引用文である。甘肅本にはこのような訂正を評價する文は書かれていない。

2) 行間に加筆された訂正

訂正法の第 2 は、本文に印を付けて、書換えや挿入あるいは削除を行間において指示するものである。訂正は接尾辭から文のレベルに至る。

munung (ymä ök bar ärür) uγurï birök yoq ärsär bilgä biliblig ädgüsi <kim-lär-ning> yoq (ärti) ärsär taryarmaqlïγ ädgüsi (A812-813)
「これには（また）條件が（ある）。もし智徳が無いなら、＜誰かに＞斷徳が無か（った）なら、」

（ ）は挿入、＜ ＞は書換え部分である。挿入部分には ＋ の記號が行間の右傍に記され、左傍に挿入文が添えられている。書換えは、對象となる語の右傍に○を記し、左傍に訂正文が添えられる。上の <kim-lär-ning> は birök（「若し」）を書き換えたものである。この他、片假名のトに似た記號を語の右傍に施して削除を表す。このトは○の代わりにも使用される。

ウイグル文の訂正はこの寫本が如何に書寫されたかを知る上で極めて重要である。

75A にはこの種の訂正が頻繁に現れるので、節略漢文『實義疏』や漢文『倶舎論』との對應部分、あるいは引用された『順正理論』の漢文との比較によって訂正の性格が判斷できる。さらに甘肅本がロンドン本と大凡の一致を示すことから甘肅本を對照することによって判斷の得られるところも大きい。

1.1.8.2 對應佛典と訂正の正確性

ウイグル文『實義疏』の内容と對應する主要な漢文佛典は節略漢文『實義疏』、『倶舎論』、『順正理論』である。これらの内容と訂正文の正確性について檢討してみたい。

62 「此」は bu に 「正」は köni に「彼」は ol に對應する。ol は三人稱單數の人稱代名詞「彼」の他に繋辭の役割もはたす。このウイグル文では繋辭として機能しているにも拘わらず「彼」をあてている。

1.1.8.2.1 節略漢文『實義疏』と對應する部分の訂正

まず、『倶舎論』以外の漢文佛典との對應部分に關しては、ウイグル語譯の訂正文は對照とする漢文からみて必ずしも正確なものではない。以下には節略漢文『實義疏』との對應部分の訂正について議論したい。

a) ol kiši<-tä> qutrulmaq-lïγ uruγ-ï-nïng : män körd-üm ärtä yinčgä-sin : inčä qaltï alqu (qamaγ) altun taš<-lar-ï-nïng ar-a-sïn-ta> : čïn altun örtülüp kizlälip turmïš täg tep (A912-914)

「彼の人において解脱の種子の、極微細を我は觀た。猶、諸々の礦の中に、眞金が隱されていたごとし、と。」

ol kiši<-tä>「彼の人において」は ol kiši-ning「彼の人の（中に）」を、 alqu (qamaγ) altun taš <-lar-ï-nïng ar-a-sïn-ta>「諸々の礦の中に」は alqu altun taš-ïnda を書き換えたものである。a) のウイグル文は節略漢文『實義疏』と對應する：「彼人解脱種我觀極微細猶如諸礦中眞金隱茲住」（大正 Vol.29, p.325b)。alqu qamaγ も alqu も何れも漢語「諸」の譯語となりうる。altun taš<-lar-ï-nïng ar-a-sïn-ta> は素直に譯すと「礦の間に」となり、altun taš-ïnda は「礦において」となり、どちらも漢文の「礦中」を表現しうるが、後者の形式がより一般的である。訂正前の ol kiši-ning「彼の人の（中に）」も誤譯ではない。訂正後のウイグル文の方がウイグル語としては確かに理解し易いが、もとのウイグル文が誤りとはいえない。むしろ漢文の内容にはより忠實といえる。つまり a) は訂正前のウイグル文と訂正後のウイグル文に大きな差異は無いが、どちらかと言えば訂正前の方がより漢文に忠實な譯文と言える。

b) ayaγ-qa tägimlig modgalayane arxant körüp ol ölmiš anasï-nïng. bilmädin tuγmïš orun-ïn barïp ayït-tï atï kötrülmiš-kä (A919-921)

「尊者目連阿羅漢は觀たが、その死んだ母の生處を了ぜず、世尊（のところ）へ往って問うた。」

このウイグル文は次のように訂正された：

ayaγqa tägimlig modgalayane arxant körüp <käntü özining> ölmiš <ana-sin> bilmädin tuγmïš orunïn barïp ayïttï atï kötrülmiškä

「尊者目連阿羅漢は自身の死んだ母を觀て、その生處を了ぜず、世尊（のところ）へ往って問うた。」。

Cf. 節略本『實義疏』:「目連觀其母不知生處往問佛」（大正 Vol.29, p.325b)

ol ölmiš anasï-nïng「その死んだ母の」は<käntü özining> ölmiš <ana-sin>「自身の死んだ母を」に訂正されている。訂正前の ol「その」は漢文の「其」を忠實に表現している。<käntü özining>「自身の」は漢文にはないが、この方がわかりやすいので、そう書き換えたのであろう。

c) 善知識者誰 ädgü ögli biliš bösük kim ol teptesär. qaltï kim tuγurup čïnkertü bilgä biligig.

öngi üdrültürdäči-lär ärür osal sïmtaγ ayïγ yorïq-tïn munung tägšütinčä-si ärsär inčip titip öngi üdrülgülük ol tep (A1290-1294)

「善知識者はだれかといえば、謂わく、眞實の智を生じさせ、放逸の惡行から離れさせるものらである。これの違は即ち捨離である、と」。

このウイグル文は次のように訂正されている：

善知識者誰 ädgü ögli biliš bösük kim ol teptesär. qaltï kim tuγurup čïnkertü bilgä biligig. öngi üdrültürdäči<-si> ärür osal sïmtaγ (bolmaq-lïγ) ayïγ yorïq-tïn munung tägšütinčä-si ärsär inčip titip öngi üdrülgülük <ayïγ ögli> (ärür) tep

「善知識者はだれかといえば、謂わく、眞實の智を生じさせ、放逸となる惡行から離れさせるものである。これの相違は即ち捨離すべき邪智であると」。

Cf. 節略本『實義疏』:「善知識者誰　謂佛令生智　離放逸惡行　違此即捨離」(p.325b)

訂正文の öngi üdrültürdäči<-si>「(その) 離れさせるもの」は、訂正前は öngi üdrültürdäči-lär「離れさせるものら」と書かれているが、誤りではない。 Cf. arïγ bilgä biligning terinining quvraγïnïng atï bolur eyin yorï-dačï-lar (A1610-1612)「淨慧の眷屬の名は隨行となる」「淨慧眷屬名曰隨行」(『倶舎論』p.1b)。 munung tägšütinčä-si ärsär inčip titip öngi üdrülgülük <ayïγ ögli> (ärür)「これの相違は即ち捨離すべき邪智である」の訂正前は munung tägšütinčä-si ärsär inčip titip öngi üdrülgülük ol「これの相違は即ち捨離なり」となっている。漢文「違此即捨離」に一致するのはむしろ訂正前のウイグル文である。訂正文の「邪智」は漢文にはない。

1.1.8.2.2 『順正理論』からの引用文に對する訂正

a) bošumïš ärür xormuz-ta tngri-ning ötüngüsin ayïtγu-sïn vatsi uγuš-luγ-nung ötüngü-sin ayïtγu-sïn ymä antaγ oq (A1678-1680)

「帝釋天の請問を許したのである。筏嗟の類の請問をもまたそのようにした。」

このウイグル文は次のように訂正されている：

bošumïš <täg> xormuzta tngrining ötüngüsin ayïtγusïn <taplamïš ärür 又 vasištasagotre braman><-nïng> ötüngüsin ayïtγusïn ymä antaγ oq

「帝釋天の請問を許したごとく、又、'筏蹉' 婆羅門の請問もまたそのように許した。」

このウイグル文は『順正理論』の「恣天帝釋隨意請問　恣筏蹉類請問亦爾」(大正 Vol.29, p.329b) と對應する。

漢文には訂正後の <täg>「ごとく」を表す語はない。訂正後の <vasištasagotre braman> はサンスクリット Vasiṣṭha-sa-gotra-brāhmaṇa からの、訂正前の vatsi は Vātsya からの借用形である。「筏蹉」に對應するサンスクリットは普通は Vātsya である。訂正前の vatsi uγušluγ は「筏蹉類」を素直に表し、漢文とよく對應していることがわかる。一方、訂正後の vasištasagotre braman には「'筏蹉' 婆羅門」の譯語を與えたが、サンスクリット Vasiṣṭha (Uig. vasišta) に「筏蹉」をあてるのは一般的ではない。 sa-gotra (Uig. sagotre) は「類」に對應する内容をもつが、brāhmaṇa (Uig.

braman)「婆羅門」にあたる漢語はない。何れにしても漢文とは訂正前のウイグル文がよく對應する。

b) azu-ča ymä inčip anta tïda tükätip kiši-kä tayanmaq-ïγ ymä ök inčip ötlämiš ärür. tayanïnglar sudur-nung adruq-ïnga tep. (A2358-2360)

「或は即ち、そこにおいて、人へ依ることを遮り已えて、亦、即ち經の差別へ汝ら依るべしと勸めた。」

このウイグル文は次のように訂正されている：

azu-ča ymä inčip anta <tïdïp> kiši-kä tayanmaq-ïγ ymä ök inčip ötlämiš ärür. tayanïnglar sudur-nung adruq-ïnga tep

「或は即ち、そこにおいて、人へ依ることを遮って、亦、即ち經の差別へ汝ら依るべしと勸めた。」

『順正理論』:「或即於彼已遮依人亦即勸依經之差別」(大正 Vol.29, p.330a)

訂正前は tïda tükätip kiši-kä tayanmaq-ïγ「人へ依ることを遮り已えて」となっているが、この tïda tükätip「遮り已えて」が漢文の「已遮」と一致しているのであって、訂正後の形式 <tïdïp>「遮って」には、「已」の意味が缺落している。

c) tngri burxan birök yrlïqamamïš ärsär. šarïputre-ta ulatï alqu maxa širavak-lar-nïng ymä ök bolmaγay ärti umaq-ï alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz-inčä saqïnγalï adïrtlaγalï (A2073-2076)

「佛がもし説かれなかったなら、舍利子等の諸大聲聞には、亦、諸法の相を理のごとくに能く揀擇することが無かったであろう。」。

このウイグル文はつぎのように訂正されている：

tngri burxan birök <nomlamadï> ärsär. šarïputre-ta ulatï alqu maxa širavak-lar-nïng ymä ök <bolmaz> ärti <ädräm>-i alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz-inčä saqïn<γuluq> adïrtla<γuluq> (A2073-2076)

「佛がもし説かなかったなら、舍利子等の諸大聲聞には、亦、諸法の相を理のごとくに揀擇するべき德はなかった。」。

『順正理論』:「佛若不説。舍利子等大聲聞。亦無有能於諸法相如理揀擇」(大正 Vol. 29, p.329c)

漢文は「佛若し説かざれば、舍利子等の諸の大聲聞も亦、能く諸法に於て、理の如く揀擇することあることなし。」と讀める。漢文の「不説」は佛が動作主なので yrlïqamïš を用いたのであって、むしろ訂正文の nomlamadï よりは適している。bolmaz に對して訂正前の bolmaγay を使用しても漢文の文意を損なうことはない。訂正前の umaq-ï と saqïn-γalï adïrtla-γalï のセットで、「能く揀擇すること」を表し漢文の「能・・揀擇」に對應する。一方訂正後の ädräm-i と saqïn<-γuluq> adïrtla<-γuluq>のセットは「揀擇するべき德」を表すが、この内容は漢文には存在しない。

このように、75A における訂正文は對應する漢文の『實義疏』や『順正理論』の内容を無視した形式に書き改めていることがわかる。すなわち訂正前のウイグル文の方が漢文とはよく一致していて、訂正には「過剰訂正」と呼べるものが多い。

1.1.8.2.3 『倶舎論』からの引用文に對する訂正

a) qayu nom bälgülüg nom ärsär yumdaru tört türlüg tüz-ün-lär kirtü-si ärür (A1815-1817)
「もし法相の法なら通して四聖諦である」
『倶舎論』:「若法相法通四聖諦」(大正 Vol.29, p.1b)

訂正前は nom bälgülüg nom ärsär yindäm ärür yumdaru「法相の法なら唯通して」のごとく、下線部の語が存在した。しかし、yindäm「唯」にあたる漢語はないし、ärür「・・・である」は文末に 1 つあるのでこれも餘分である。そこでこの 2 語に削除記號がいれられた。この訂正は正しい。

b) öčmäk-ig käntü öz-i oxšatï tïltaγ-sïz bolmaq-lïγ yörüg-ingä (A3459-3460)
「滅それ自身が同類因をもたない義へ、」
『倶舎論』:「滅自無同類因義」(大正 Vol.29, p.1c)

この文は öčmäk-ig käntü öz-i oxšatï-sïz tïltaγ-sïz bolmaq-lïγ yörüg-ingä を訂正した文であるが、oxšatï-sïz tïltaγ-sïz を漢語の「無同類因」にあてることはできない。訂正形 oxšatï tïltaγ-sïz は正しい。

c) bululmaq-ï (bilmäk) tïltaγ-ïnda <ärmäz> täk basutčï-sï ägsük bolmaq uγur-ïnda ärür tep (A3601-3602)
「得られることは擇の因においてではない。ただ、縁が缺けることに由ってである」
『倶舎論』:「得不因擇但由闕緣」(大正 Vol.29, p.1c)

訂正前のウイグル文は次のごとくであった:
bululmaq-ï tïltaγ-ïnda ärsär täk basutčï-sï ägsük bolmaq uγur-ïnda ärür tep
「得られることが因においてであるなら、ただ、縁が缺けることに由ってである」

訂正前の文は漢文の「擇」(bilmäk) と「不」(ärmäz) を表す語が缺けているので訂正文はそれを正した。

このように『倶舎論』からの引用部分に關しては正確に訂正されている。すなわち、75A の書寫人は『倶舎論』を對照させてこの訂正を行ったと推定してよい。

さらに、元の漢文『實義疏』には存在しなかったと考えられる、『倶舎論』からの文の追加も見られる。

d) bu tïltaγ-ïn ter-lär tngri burxan yrlïq-amïš ol abidarim-ïγ küsämiš üčün kim

yertinčü-täki-lär-kä (bulduryalï) nom adïrt-lamaq-ïγ tep ulatï tep（A2069-2071）

「此れに因って傳説する、佛が阿毘達磨を説いた、世間のものらに擇法を得させることを欲したため。と、などと。」

この文を次のように訂正している：

bu tïltaγ-ïn ter-lär tngri burxan yrlïq-amïš ol abidarim-ïγ küsämiš üčün kim yertinčü-täki-lär-kä (bulduryalï) nom adïrt-lamaq-ïγ <abidarim-ïγ nomlamaq-ta öngi tïtsï-lar umaz üčün alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz-indäki-čä bölgäli adïrt-laγalï inčip atï kötrülmiš orun orun sayu sačuq-luγ-ïn yrlïqamïš ärür abidarim-ïγ tep ::>

「此れに因って傳説する、佛が阿毘達磨を説いた、世間のものらに擇法を得させることを欲したため。阿毘達磨を説くことを離れて弟子は諸法の相を理のごとく揀擇することができないため。然るに、世尊が處々に阿毘達磨を散説されたのである、と」

『倶舍論』:「因此傳佛説彼對法。欲令世間得擇法故。離説對法。弟子不能於諸法相如理揀擇。然佛世尊處處散説阿毘達磨。」（大正 Vol.29, p.1b）

(bulduryalï)「得させることを」は單純な語の缺落を訂正したものである。< >に閉じた長い訂正文は本文の左傍から欄外に續けて書かれている。この部分の訂正前は、tep ulatï tep「と、などと」（云々と）と書かれており、「以下省略」を意味する。訂正文はその省略部分、すなわち上で波線を施した漢文に相當する内容を追加したものである。おそらく漢譯『實義疏』にもこの部分は省略されていたのであろう。追加部分のウイグル語も擬漢構文を用いているので參照した『倶舍論』も漢文であったと考えたくなる。しかし、ストックホルム所藏のウイグル語譯『倶舍論』がやはり擬漢構文で書かれているところから、既に存在したウイグル文『實義疏』を參照した可能性は否定できない。

もちろん、75A の訂正文には『倶舍論』からの引用文以外の文にも、語句や文法要素を正確に訂正した箇所は多い。しかし、それらはウイグル文の文脈から行われたものと考えてよい。

傍注による上記のごとき訂正は、75A では 400 行を越える箇所に見られる。だが、75B では僅か 15 行にのみ現れるので、75B に關してはこのような訂正文から書寫の性格をとらえることは難しい。

1.1.8.2.4 まとめ

ウイグル文『實義疏』に見られる訂正文で、書寫人の手で行間に書かれた内容はすくなくとも 75A に關しては、『倶舍論』を對照して行われた。しかし、書寫人が『實義疏』や『順正理論』を對照することはなかったと推定できる。

1.1.9 ウイグル文の誤譯と誤寫

75A には大量の訂正箇所がみられ、上に述べたごとく結果として翻譯原典を歪めたものもあったが、正しく誤譯・誤寫を訂正したものも多かった。すなわち書寫人は内

容を理解しながら作業を進めた。しかし 75B には訂正箇所は少ない代わりに本文中に大量の誤譯、或は誤寫が認められる。以下に若干例を掲げてその特徴を考えてみたい。先ず、ウイグル文の誤りは文レベルのものと單語レベルのものとに分類できる。

1.1.9.1 文レベルの誤り

文レベルの誤りは『順正理論』の引用部分から容易に判斷できる。

a) yertinčü-täki-lär-kä yomγï-qa bililmiš üčün körmäk yaruq yašuq öngüg
「世間へ共に照る色を觀ることが了ぜられた」(B851-852)

ウイグル文は『順正理論』の「世間共了觀照色故」を引用したものである。この漢文は「世間に共了す。色を觀照するが故に」と讀めるので、正しくは yertinčü-täki-lär-kä yomγï-qa bililmiš (ol) yaltïrtu körmiš üčün öngüg 「世間へ共に了ぜられる。色を觀照する故に」と書かれるべきであった。

b) an sudur-ta yrlïqamïš ol yalnguz-ïn yorïdačï üčün ol iišläšip köngül-kä tayaq-lïγ-ïn uyur üčün yorïγalï atqanγu-lar-ta tep
「それを經において、獨行故に、彼は要ず心に依って境などに行ずることができる故に、と説かれた」(B74-76)

『順正理論』の「經説獨行故　彼要依心能行境故」を引用したものである。この漢文は「經に『獨行』と説く故に。彼は要ず心に依って能く境を行ずる故に。」と讀まねばならないので、ウイグル文は anï sudur-ta yrlïqamïš üčün yalnguz-ïn yorïdačï tep ol iišläšip köngül-kä tayaq-lïγ-ïn uyur üčün yorïγalï atqanγu-lar-ta tep と書かれるべきであった。

c) körmäk yol-nung baštïnqï kšan-ïn-ta turmïš-lar partakčan töz-i-ning pirapti-sïnga birtämläti tükäl-lig bolmaz-lar (B595-597)
「見道の最初の刹那に住したものらは異生性の得が永く成就しない」

このウイグル文は『順正理論』の「諸異生性一切皆得永不成就」すなわち「諸の異生性は一切皆な永く成就せざることを得て」の「諸」と「一切皆」を缺いた漢文「異生性得永不成就」と對應する。ウイグル文は「異生性が永く成就せざることを得て」と讀むかわりに、「異生性の得が永く成就しない」と讀んだ。partakčan töz-i-ning pirapti(-sïnga)「異生性の得」の pirapti「得」はサンスクリットの prāpti (「得」「至得」「至」) にあたる。「得て」と讀むためには動詞語幹 bul- を用いねばならない。

1.1.9.2 單語レベルの誤り

單語レベルの誤りのほとんどは綴字が外見上類似するものであり、これらが書寫の段階で起こったことが理解できる。例えば、tüš「果」と töz「性」とは綴字において、末尾の š と z の僅かな違いによって區別されるが、B109 B700 B816 は明らかに前者を後者に取り違えている。また B1100 はその逆である。この程度あるいはもう少し

程度の大きな誤寫は頻繁に見られる[63]。

bir「一」～ bar「有る」(B472 B1161 B1680)、kertü「諦」～ käntü「己」(B751)、adqaγ「執」～ andaγ「そのように」(B53)、arduqraq「極めて」～ odγuraq「定んで」(B43)、uγuš「界」～ uγur「機會」(B347)、taγarmïš「斷じた」～ tayanmïš「依った」(B665 B666)、alqu「全て」～ aqïγ「漏」(B915)、közsüz「無眼」～ küsüš「願」(B1110)、yaruq「燈」～ yoq「無」(B1520)、bilmäz「了じない」～ bolmaz「・・しえた」(B1559)、köz-nüng「眼の」～ köz ök「眼(は)」(B1437)、köz-nüng「眼の」～ köz-üg「眼を」(B692)、yïngaq-taqïγ「方維にあるものを」～ yïngaq tayaq「方維、依」(B1573)、ïraq-taqïγ「遠いものを」～ ïraq tayaq「遠、依」(B1493)、ün-nüng「聲の」～ ün öng「聲、色」(B1684)、köz uγur「眼が・・できる」～közünür「現れる」(B1227) etc.

上掲のものは皆、左邊のものが右邊に誤寫されている。兩邊のものは全く意味が違うのに、綴字においてはよく似ている。たとえば、ün-nüng ('wyn nwnk) と ün öng ('wyn 'wynk) との綴りの違いは n と ' とに外見上の區別がないので、結局 nk の前の文字要素 y の有無のみである。かなり異なっているように見える köz uγur と közünür も、文字轉寫してみれば kwyz 'wywr と kwyswnwr になる。後者の中間文字 s はここでは z 音によまれるものであり、kwyz wnwr とも書ける。'wywr と wnwr は外見上よく似ているので kwyz 'wywr を közünür とよみ誤り、kwyswnwr と書いたのであろう。

しかし、ときには誤寫と誤譯の何れなのか判斷の難しい場合もある。たとえば、adïn qamaγ-ta yorïdačï eyin yorïdačï-lar「餘の遍行、隨行」(B796) は adïn qamaγ-ta yorïdačï eyin yatdačï-lar「餘の遍行、隨眠」の誤りである。yorïdačï-lar「行」が、yatdačï-lar「眠」の誤譯か、誤寫かの判斷は難しい。

上に掲げた文レベルにおける誤譯は、75B におけるウイグル語への譯者が優秀でなかったことを示している。又、單語レベルにおける大量の誤寫は書寫人が内容を十分に把握しないで作業にあたったことを表している。何れにしても 75B は、75A に比べると稚拙な譯文であり、配慮を缺いた書寫である。

1.2 中國所藏ウイグル文『實義疏』

1.2.1 甘肅博物館藏ウイグル文『實義疏』

このウイグル語文獻は卷子漢文佛典『大般若經』の裏面に書かれたもので、1249行が保存されている。ウイグル文の内容が『實義疏』であることは耿世民によって同定された。同氏は耿世民 (2002) でその内容がロンドン本の A1942-3191 に對應する

63 この 1.1.9.2 では/t/と/d/とは區別せず文字轉寫のまま掲げた。また分かち書きもそのままにした。

ことを述べ、兩ウイグル文の違いについて簡單に議論し、相違點の一部を列擧した[64]。本書では語句レベルの相違點は第 3 章の「ロンドン本『阿毘達磨倶舎論實義疏』Or.8212-75A のテキスト」で注記として掲げる。本節では兩テキストの性格について論じてみたい[65]。

1.2.1.1 插入漢字列から解る同一ウイグル文の使用

ロンドン本においてウイグル文中に見られる漢字列は大きく 3 種に分類できる。第 1 は規則性あるいは必然性をもって插入された漢字列である。この中には『倶舎論』からの引用文に漢字「論曰」を與え、漢字「釋曰」を續けたものや、「問答」形式の文に漢字「問」「答」を書いたもの、あるいは發言者に「疏主云」「衆賢云」「有餘師説」などの漢字列を書いたものなどが含まれる。第 2 は漢文『實義疏』中の語句を拔き出してウイグル文に冠したもので、漢字列の選擇に一定の法則性を認めがたいもの。第 3 は數字や簡單な語單位のウイグル語をウイグル側で獨自に漢字に置き換えたものである。これも隨意的である。

この 3 種の漢字表記についてロンドン本と甘肅本とを比べてみれば、第 1 と第 2 は兩寫本において基本的に合致する。とくに第 2 の恣意性に富んだ漢字列の現れ方が一致するのは兩寫本が同じウイグル文から發していることを示している。

＜ロンドン本＞

birök munï tuda söz-läsär anïng üžik-i äšidtäči-lär-kä eyin bolmamaq üz-ä alp uqγuluq üčün adïn qavïr-a nom-lar. umaz yegäd-gäli bu aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-ta 若唯言法 birök yindäm söz-läsär nom tep. bililmäz ärti munung qayu nom ärdüki. birök täk söz-läsär aqïγ-lïγ aqïγ-sïz

64 Geng Shimin (2002) で、耿教授は甘肅本をロンドン本と比較しているが、ロンドン本は筆者の 1991 年のテキストを用いている。その内容の中で A2582-2583 に現れる漢字合字 （「了也」）に關する同教授の意見は受け入れがたいものである。同じ合字は甘肅本(*l*.465)にも見られる。ロンドン本は「abidarmavat tükädi 善哉莎土」（阿毘達磨論は了った。善哉莎土）と書かれさらに「印於初卷了了也。第二 bašladï ymu」が續く。甘肅本のものは合字の下に漢字で「了也第二卷初」と續けている。「初」はロンドン本の bašladï (ymu) に對應する。ロンドン本と甘肅本に見られるこの合字について耿（Geng）氏は次のような見解を示している：" Here, as to the special sign , I don't think it is a ligature consisting of two Chinese characters 了也 (as Prof. Haneda and Shōgaito did it). It is would be a sign of 'goodness' put at the end of a chapter or a book. It seem to me that it is a deformed swastika put at the end of a book (like the Mongolian Buddhist scriptures. It would have the same meaning like the Chinese '善哉 shanzai (good)' and the Sanskrit '莎土 sādhu (good)' after it." (pp.79-80). この合字については羽田（1925, 1975 年版 pp.166-167）で最初に議論された。羽田博士は 75B（52b *l*.843）に漢字「了也」が先ず横に竝べて書かれ、さらにその下に縦に竝べられた例の有るのを示し、竝列の形態が合字化の前段階を表すものとして、この記號を「了也」の合字と決定された。大英圖書館藏の Or.8212-109 にも類似の文脈で「善哉了也莎土了也」(庄垣内 (1974) p.044, Zieme/Kara (1978) p.341, pl.58b) と縦書きされた例がみられるので、羽田博士の意見に不合理な點はない。耿 (Geng) 教授のいう 'goodness' を表す記號化された文字としては Or.8212-109 の 46b あるいは Or.8212-108 (*Eski Türk Šiiri* p.459) にみられるブラーフミー文字 Sādhu を縦に結合したものがある (Zieme/Kara (1978) p.341, 46b)。いずれも「實義疏」と同じ時代のウイグル語佛典である。'goodness' を表現するのならこのブラーフミーを使用したであろう。

65 1.2.1 ではロンドン本と甘肅本との表記の違いを示すために 1.1.9.2 と同樣に/t/と/d/とは區別せず文字轉寫のまま掲げ、分かち書きもそのままにした。

tep. ymä ök bililmäz ärti munï üz-ä qayu-nï körgidür-i anïn munda sezik ayïdu söz-lädüktä qayu-nung adï bolur aqïγ-lïγ tep. qayu-nung adï bolur aqïγ-sïz tep. anïn karikda kikinč berü söz-lämiš ol 除道餘 有法 yol-uγ öngi kedärip adïn ediglig nom-lar-ta tep. qaltï nom birök edigsiz ärsär. odγuraq ärür aqïγ-sïz. käntü bar ediglig alqu uγur-ïn aqïγ-lïγ ärmäz. munung bar qayu yörügi birök söz-läsär ediglig qayu ärsär aqïγ-lïγ ymä ol oq ol tep inčip tüz-ün yol-ta ulatï-lar munda aqïγ-lïγ bolγu kärgäk 以聖道是爲故 nädägin teptesär tüz-ün yol ärür üčün ediglig tïdγalïr üčün bu mün qadaγ-ïγ. anïn söz-lämiš ol yoluγ öngi kedärip adïn ediglig nom-lar-ta tep. (A2665-2681)

＜甘肅本＞

birök munï tuda söz-läsär anïng üžiki äšidtäči-lär-kä eyin bolmamaq üz-ä alp uqγu-luq üčün adïn qavïr-a nomlar umaz yegädgäli bu aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-ta 若唯言法 birök yindäm söz-läsär nom tep. bililmäz ärti munung qayu nom ärdüki. birök täk söz-läsär aqïγ-lïγ aqïγ-sïz tep. ymä ök bililmäz ärti. munï üz-ä qayu-nï körgidür-i. anïn munda sezik ayïdu söz-lädüktä qayu-nung adï bolur aqïγ-lïγ tep. qayu-nung adï bolur aqïγ-sïz tep. anïn karik-ta kikinč berü söz-lämiš ol 除道餘有法 yol-uγ öngi ketärip adïn ediglig nom-lar-ta tep. qaltï nom birök edigsiz ärsär. odγuraq ärür aqïγ-sïz. käntü bar ediglig alqu uγurïn aqïγ-lïγ ärmäz. munung bar qayu yörügi birök söz-läsär ediglig qayu ärsär aqïγ-lïγ ymä ol oq ol tep. inčip tüz-ün yol-ta ulatï-lar munda aqïγ-lïγ bolγu kärgäk .以聖道是有爲故 nädägin tep tesär tüz-ün yol ärür üčün ediglig tïdγalïr bu mün qadaγ-ïγ. anïn söz-lämiš ol yol-uγ öngi kedärip adïn ediglig nomlar-ta tep. (*ll.*515-524)

上掲兩寫本に同じく現れる漢字列には翻譯あるいは寫本作成においてそれらを選擇せねばならない必然性はない。兩寫本が同一のウイグル文を基にしている證據といえる[66]。

1.2.1.2 ウイグル文の訂正からみる兩寫本の性格

1.2.1.2.1 甘肅本はロンドン本の訂正前のウイグル文とよく合致する[67]

1.1.8 でロンドン本に見られる大量の訂正文が、『倶舍論』からの引用文を除いては正確さに缺けること、むしろ訂正前のウイグル文が正しい内容を表現している場合が多いと先に述べた。ロンドン本の訂正にはいくつかの種類があったが、そのうち、語句の入れ替えや削除によってできた訂正文は甘肅本とは大概一致しない。むしろ訂正前のウイグル文とよく對應する。

---

66 ロンドン本の 2680 行目の üčün は甘肅本には缺落している。

67 Geng (2002 p.81) においても甘肅本がロンドン本の訂正前の語句に對應することが述べられている：As Prof. Shogaito said in his book (Vol.III, introduction, pp.4-13), in SM (75A) there are many revision-corrections (about 400). In LM is more or less the same like the SM before corrections made. LM というのは甘肅本のことである。

a)
＜ロンドン本＞
yangluq turγurmïš üčün öngi yangγarïq-ïγ. nädägin teptesär tngri burxan yrlïqamïš ol. sudur-ta söz-lämäki ärsär tayanïnglar nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep. tngri burxan-nïng nomlamïš nomïn-ta (inčip) kerdgünüp täginip tuγuryuluq ol adïrt-lïγ odγuraq uqmaq ongarmaq-ïγ（1995-1999）
「別に企圖を妄起した故。如何にしてというなら、佛は説かれたのである：經に説いたことは汝ら法に依るべし人へ依るべきではないと。佛の説いた法において當に信受し、決定に了悟を起こすべきである。」

このウイグル文は次のように訂正されている：
yangluq(-ïnca) turγurmïš üčün öngi<-sin yangïγ kibig>. nädägin teptesär tngri burxan <-nïng sudur-ta yrlïqa-maq-ï ärsär inčä tep> tayanïnglar nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep. tngri burxan-nïng nomlamïš nomïn-ta (inčip) kerdgünüp täginip tuγuryuluq ol adïrt-lïγ ödγuraq uqmaq ongarmaq-ïγ[68]
「別に企圖を妄起した故。如何にしてというなら、佛が經において説かれたことは、このように、法に依るべし、人へ依るべからず、と。佛の説いた法において、當に、信受して、決定に了悟を起こすべし。」

＜甘肅本＞
yangluq turγurmïš üčün öngi yangγarïq-ïγ. nädägin tep tesär tngri burxan yrlïqamïš ol. sudur-ta söz-lämäki ärsär tayanïnglar nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep. tngri burxan-nïng nomlamïš nomïn-ta. inčip kertgünüp täginip tuγuryuluq ol adïrtlïγ odγuraq uqmaq ongarmaq-ïγ（*ll.*38-41）

甘肅本は訂正前のウイグル文とほぼ同一である。ただ、ロンドン本の行間に插入された（inčip）は甘肅本では本文中に現れる。1.1.8.2.3 では『實義疏』からの大幅な追加引用文が加筆されている例を示した。テキストだけをもう一度掲げてみたい。

b)
＜ロンドン本＞
bu tïldaγ-ïn ter-lär tngri burxan yrlïq-amïš ol abidarim-ïγ küsämiš üčün kim yerdinčü-täki-lär-kä (bulduryalï) nom adïrt-lamaq-ïγ <abidarim-ïγ nomlamaq-ta öngi tïdsï-lar umaz üčün alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz-indäki-čä bölgäli adïrt-layalï inčip adï ködrülmiš orun orun sayu sačuq-luγ-ïn yrlïqamïš ärür abidarim-ïγ tep ::>

68 この例の angluq(-ïnca) turγurmïš üčün öngi<-sin yangïγ kibig>までは Geng（2002）p.80 にも掲げられている。

このウイグル文は實は次の文を訂正したものである：

bu tïldaγ-ïn ter-lär tngri burxan yrlïq-amïš ol abidarim-ïγ küsämiš üčün kim yerdinčü-täki-lär-kä (bulduryalï) nom adïrt-lamaq-ïγ tep ulatï tep（A2069-2071）

これに對して甘肅本は次のごとくである：

＜甘肅本＞

bu tïldaγ-ïn ter-lär tngri burxan yrlïqamïš ol abïdarïm-ïγ küsämiš üčün kim yerdinčü-täki-lär-kä bulduryalï nom adïrtlamaq-ïγ tep uladï tep（*ll.*92-93）

ロンドン本の< >に閉じたウイグル文は寫本の欄外に加筆されたものである。甘肅本はこの加筆以前のロンドン本のテキストと一致している。本書第3章の轉寫テキストあるいは注記では、記號< >はウイグル文本文の語句が書寫人によって行間に注記された語句と置き換えるよう指示された訂正文に使用した。上掲 b）では追加文として欄外に書かれているもので置き換えではない。そして、このような場合も含めて< >に閉じた訂正文は基本的に甘肅本には書かれていない。ロンドン本において二次的に加筆されたものと推定できる。

ロンドン本の< >に閉じた語句は二次的なものであった。一方、轉寫テキストで（）に閉じた加筆も行間に插入された語句で、大概は甘肅本の本文に現れる。すなわちロンドン本で一次的な書寫に際しての脱落を單純に補ったものである。

c）

＜ロンドン本＞

yörüg töz-indä bar qayu tïdïγ-ï tep bu yörüg-kä udru šasdr-ta (käntü) kikinč berü söz-lämiš ol（2053~2054）

「理において何の障礙が有るのか？と。この義に對して、論に自ずから答えて説いた」

このウイグル文は次のように訂正されている：

yörüg töz<-ingä> bar <nägü> tïdïγ-ï tep bu yörüg-kä udru šasdr-ta (käntü) kikinč berü söz-lämiš ol

「理へ何の障礙が有るのか？と。この義に對して、論に自ずから答えて説いた」

＜甘肅本＞

yörüg töz-indä bar qayu tïdïγ-ï tep bu yörüg-kä uduru šastïr-ta käntü kikinč berü söz-lämiš ol（*ll.*80-81）

甘肅本はロンドン本の（）内 käntü を含めた訂正前の文に一致している。

d)
＜ロンドン本＞
odγuraq-lap qamaγ sudur-lar-nïng (qayu barïnča odγuraq) yörügin（2377）
「衆經の所有る定義を決めて」
この句は odγuraq-lap qayu barïnča qamaγ sudur-lar-nïng yörügin「所有る衆經の義を決めて」を訂正したものである。

＜甘肅本＞
odγuraq-lap qamaγ sudur-lar-nïng qayu barïnča odγuraq yörügin（*l*.304）
やはりロンドン本の（ ）内の qayu barïnča odγuraq は甘肅本には現れる。

このようにロンドン本の行間に加筆された語句は一般に一次的な加筆である。しかし、時には甘肅本に對應をもたない場合がある。たとえば、sanggabadre baxšï uqmadïn sudur(-nung) abipiray-ïn（1994）の (-nung) や (iišläšip) üklitdäči-si ašdačï-sï ärsär（2736）の(iišläšip) は甘肅本には書かれていない。また、その逆も見られる。
taqï ymä bar adïn baxšï-lar-ta kengürü uqïtdačï sïmaq tanmaq-lïγ yörügüg. yangšaq keng bolγay temiš üčün teptemiš（2576-2578）「更にまた餘師には「混亂した義を詳しく顯わすものは冗長となるであろうと言った故」と述べるものが居る。」
下線部を甘肅本は bar（ärdi）adïn baxšï-lar-ta（*l*.462）と訂正している。ここでは bar は述語「居る」を表現し adïn baxšï-lar は「餘の師」を表す。一方で本テキストには bar adïn baxši-lar「有餘師」という術語もあるので、それとの混同を避けるために甘肅本は bar (ärdi)として bar が述語動詞であることを丁寧に強調したのである。

1.2.1.2.2 本文中の訂正は兩寫本に共通する
ロンドン本の本文中に「又・・ymä ter」「又・・tegü täg」をもって先行するウイグル文の語句を訂正する場合がある。この訂正文がそっくり甘肅本に見られるのはとりわけ興味を引く。
a)
＜ロンドン本＞
yänä sanggabadre baxšï söz-lär siz 又 söz-läsär siz tegü/täg（2023~2024）
「又、衆賢師あなたは・・・・説く。“又、あなたは説くならというがごとし”」

＜甘肅本＞
yänä sanggabadre baxšï söz-lär siz 又 söz-läsär siz tegü täg（*l*.58）

兩者の違いは tegü　täg「というがごとし」の 2 語がロンドン本では小さく竝記されている點だけである。

b)
<ロンドン本>
漂轉者 qalangulamaq tägzinmäk ärsär. üč uγuš-lar-ta beš ažun-lar-ta basa basa alïp alqu ažun-larïγ 又 tïnlγ-lar alqu ažun-lar-ta ymä/ter. (2064-2066)
「「漂轉」とは、三界、五趣において、次々と諸の生を得て、"又衆生は諸生においてともいう"」

<甘肅本>
漂轉者 qalangulamaq tägzinmäk ärsär üč uγuš-lar-ta beš ažun-lar-ta basa basa alïp alqu ažun-lar-ïγ 又 tïnlγ-lar alqu ažun-lar-ta ymä/ter. (2064-2066)

兩者の違いは ažun-larïγ を甘肅本が ažun-lar-ïγ と綴っているだけである。

c)
<ロンドン本>
問 kök qalïq iki türlüg öčmäk-lär tegüči üz-ä 又 sav üz-ä ymä tegü/täg (3028-3029)
「問:「虚空、二種滅」ということによって、"又、言によってとも言うがごとし"」

<甘肅本>
問 kök qalïq iki türlüg öčmäk-lär tegüči üz-ä 又 sav üz-ä ymä tegü täg (*ll.*731-732)

兩者の違いは「又」以下が甘肅本では行間に付加されている點である。

d)
<ロンドン本>
pradniyapdipat šasdr-ïγ ayaγ-qa tägimlig kadyayane arxant ärür 又 užik-indä maxa-modgala-yane arxant yaradmïš ärür ymä/temiš (2112-2114)
「施設足論を尊者迦多衍那阿羅漢(が造った)のである。"又、文においては大目乾連阿羅漢が造ったのであるともいった。"」
<甘肅本>
pratyap'dipat šastïr-ïγ ayaγ-qa tägimlig kadyayane arxant yaradmïš ärür 又 užik-indä maxa-modgala-yane arxant yaradmïš ärür ymä/temiš (*ll.*126-127)

甘肅本における yaradmïš「造った」はロンドン本では缺落している。

また例外的にロンドン本の「又・・ymä/ter」の訂正文が甘肅本では本文として書かれている場合もある。

e)
＜ロンドン本＞
aqïγ-sïz ärsär qaltï alqu yol kerdü ulatï üč edigsiz ärür tep 又 aqïγ-sïz ärsär qaltï yol tüz-ün-lär kerdü-si ulatï üč edigsiz-lär ärür ymä/ter. bu köni ol. qayu-lar ol üč teptesär (2927~2930)
「無漏は謂わく、諸道諦、及び三無爲である。“又、無漏は謂わく、道聖諦、及び三無爲であるともいう。これが正しい。”何がその三かといえば」

＜甘肅本＞
aqïγ-sïz ärsär qaltï yol kertü ulatï üč türlüg edigsiz-lär ärür tep 論 aqïγsïz-ï ärsär qaltï alqu yol tüz-ün-lär kertü-si uladï üč türlüg edig-siz-lär ärür.qayu-lar ol üč tep tesär (*ll*.667-669)
「無漏は謂わく道諦、及び三種無爲であると。論では「無漏は謂わく諸道聖諦、及び三種無爲」である。何がその三かといえば」

この例文については 1.1.8.1 にも議論したように、内容は『倶舎論』の「無漏云何謂道聖諦及三無爲何等爲三」に對應する。「又・・ymä/ter」を用いた訂正文に對して甘肅本は「論」を冠して類似のウイグル文を本文中に立てている。「論」は『倶舎論』を表し、『倶舎論』では yol kirtü「道諦」に對して alqu yol tüz-ün-lär kertü-si「諸道聖諦」が書かれていることを述べている。ロンドン本のように訂正文ではない。

1.2.1.2.3 ロンドン本にはみられない甘肅本本文中の訂正
また、甘肅本にはロンドン本にはみられない、「又・・ymä/ök」を用いた獨自の訂正文も現れる。

a)
＜ロンドン本＞
olar näčä söz-läsär ymä bar ünüš-lüg yol tep ol čïnkertü ymä ök umaz ündürgäli öngi üdrüldürgäli yänä bar šasdr yaradïp söz-lädäči (bu) boldurur tuγuryalï tngri yer-indä tep (1976~1978)
「彼らが如何に有出離道と説いても、それは眞實にまた出離させることができない。又、論を造って、これが天界に生じさせうると説くものが居る。」
このロンドン本は次のように訂正されている：
<anda> näčä söz<-läp> bar ünüš-lüg yol tep ol čïnkertü ymä ök umaz ündürgäli öngi üdrüldürgäli yänä bar <yaradmïš šasdr> söz<-läp> (bar šasdr yaratdačï-lar ymä/ter.) (bu) boldurur tuγuryalï tngri yer-indä tep. yörüg töz-indäki-čä ärsär
「そこにおいて如何に有出離道と説いても、それは眞實にまた出離させることができない。又、造論が有って、これが天界に生じさせうる、と説いて」

＜甘肅本＞
olar näčä söz-läsär ymä bar ünüš-lüg yol tep 又 anda ymä/ter ol čïnkertü ymä ök umaz

ündürgäli öngi üdrüldürgäli yänä bar šastïr yaradïp söz-lädäči boldurur tuγuryalï tngri yer-indä tep（*ll*.25-26）

「又 anda ymä/ter」は olar「彼ら」を anda に訂正している。ロンドン本の< >に括った訂正と同じである。

b)
＜ロンドン本＞
abïdarïm-ta kengürü yörär ärip sudur-uγ（2278）
「阿毘達磨においては契經を廣釋するのであって」

この文は yörär ärip に削除記號を付しそれを yörär に置き換えるよう訂正されている。すなわち abidarim-ta kengürü <yörär> sudur-uγ「阿毘達磨においては契經を廣釋する」のように訂正されている。

＜甘肅本＞
abidarim-ta kengürü yörär ärip sudur-uγ 又 yörär ymäter（*ll*.234-235）

甘肅本の「又」以下を採用すればロンドン本の< >に括った訂正と同じ内容になる。

c)
＜ロンドン本＞
söz-läsär kušudir-a pidak ärsär bu oq inčip ärür üčünč tep（2461）
「雜藏をこれ即ち第三であると説くなら」

この文の kušudir-a pidak「雜藏」は kušudir-a pidak<-ïγ>「雜藏を」に訂正されている。

＜甘肅本＞
söz-läsär kušudir-a pidak ärsär 又 -ïγ ymä ter（*l*.372）
「又・・ymä ter」を用いて kušudir-a pidak-ïγ への訂正を書いている。
甘肅本の「又・・ymä」の訂正文はロンドン本の行間に書かれた訂正文と對應しているが、その對應は各々獨立したものであって、連絡しあったものではない。兩者が内容を理解してそれぞれ訂正したものである。

1.2.1.2.4 甘肅本本文の内容がロンドン本の訂正文と合致する例
甘肅本の本文の内容がロンドン本の訂正文と合致する場合も見られる。
a)
＜ロンドン本＞
疏主云 <äsdiramati> baxšï（2233）

この文は「疏主云 vasbandu baxšï」を訂正したものである。「疏主」に「論主」である vasbandu「世親」を當てるのは間違いである。

＜甘肅本＞
疏主云 äsdiramati baxšï（*l*.204）

甘肅本は正しく書かれている[69]。

b)
＜ロンドン本＞
yindäm aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-qa tayaq-lïγ-ïn söz-läti iki türlüg (bolur) tep （2610-2611）
「唯、有漏無漏へ依ることで二種になると説いたのか？」

これは訂正された文である。訂正前のウイグル文は yindäm aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-qa tayaq-lïγ-ïn söz-läti bolur iki türlüg tep のように明らかに bolur「なる」の位置が不適當である。

＜甘肅本＞
yindäm aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-qa tayaq-lïγ-ïn. söz-lädi iki türlüg bolur tep（*l*.481）
ロンドン本の訂正後の文と一致している。

c)
＜ロンドン本＞
非无漏上緣 aqïγ-sïz-ï üsdün uγuš<-nung adqaγ-ï> ärmäz tudulmaz üčün qaršï bolur üčün tep （2896-2897）
「無漏と上界の緣とではない。攝さない故、違となる故」
この文の訂正前：
非无漏上緣 aqïγ-sïz-ï üsdün uγuš<-uγ adqandačï> ärmäz tudulmaz üčün.
üsdün uγuš<-uγ adqandačï>「上界を緣ずるもの」が üsdün uγuš<-nung adqaγ-ï>「上界の緣」に訂正されている。

＜甘肅本＞
非无漏上緣 aqïγ-sïz-ï üsdün uγuš-nung adqaγï ärmäz tudulmaz üčün qaršï bolur üčün tep （*ll*.648-649）

甘肅本は訂正後のウイグル文と一致する。

69 ただし甘肅本の「疏主云」は實際には「疏云主」と書かれ、「云」と「主」の間の右傍に入れ替えを示す記號「レ」が施されている。

ロンドン本の訂正文が甘肅本の本文と合致するものはロンドン本における單純な誤寫の訂正に限られる。

1.2.1.3 甘肅本とロンドン本ウイグル語との言語上の違い

1.2.1.3.1 音韻上の違い

サンスクリット起源の語彙の形式はロンドン本の Or.8212-75A と Or.8212-75B では若干の違いをみせる：

		75A	75B
Skt. Sthiramati「安慧」	ästiramati	53 回	0 回
	istiramati	5	4
Skt. śāstra 「論」	šastr	236	0
	šastir	4	30

Sthiramati への語頭音添加は 2 種ある。甘肅本では前半部は 75A に一般の ästiramati が、後半では 75B と同じ istiramati が現れる。すなわち書寫人の手が替わったことを反映している。一方、上の表の 75B の šastir は語中に母音挿入されており、75A よりもウイグル語の音韻構造に順化した形式といえる。甘肅本では 75B 同様に常に šastir で表される。このような母音挿入は intrayakoš「根倶舍（indriya-kośa）」(189) に對して intirayakoš (*l*.836)、antrabav「中有（antarā-bhava）」(2412) に對して antirabav (*l*.331) のような平行例をもつ。さらにウイグル語本來の單語にも adruq-ïnga「差別へ」(2360) に對して aduruq-ïnga のように母音の挿入がある。このような母音挿入は 75B とよく平行している。

1.2.1.3.2 形態上の違い

	ロンドン本	甘肅本
1	ašnu-ča (1986)	ašnu (*l*.32)
2	azu-ča (2013)	azu (*l*.51)
3	öngi kedärü tükädmäk (2952)	öngi kedärip tükädmäk (*ll*.682-683, *l*.828)
4	iki türlüg yörüg-lär-i (2056)	iki türlüg yörügi (*l*.81)
5	tüzü bolmayu (3151)	tüzü-tä bolmayu (*ll*.809-810)
6	nägü ol (3126, 3179)	nägül (*l*.794)

上掲の 1「以前」と 2「或いは」はロンドン本に等格が付いている。3「除き已えること」は kidär- に結合する副動詞表示がロンドン本は -u 甘肅本は -ip を使用している。4「二種の義」はロンドン本が yörüg-lär-i のように「義」に複數表示の接辭をつけているのに甘肅本にはそれがない。5「遍在しないもの」は tüzü「偏在」に甘肅本が位格表示の接辭をともなっている。6「何か」はロンドン本の 2 語が甘肅本では結合して 1 語になったもので、發展形といえる。ここまでの 7 例はロンドン本も甘肅本も内容の違いを示すものではない。

1.2.1.3.3 統語上の違い

a)

＜ロンドン本＞

käntü öz-üm ozup qudrulup ymä ök adïn-larïγ ozγurayïn qudγarayïn tep. küsämiš ärür (2159-2161)

「自身解脱し、また餘らを解脱させたいと欲したのである」

＜甘肅本＞

käntü öz-üm ozup qudrulup ymä ozγurayïn qudγarayïn {tep} adïn-larïγ küsämiš ärti.

{tep}は單純な缺落であるので著者が補った。甘肅本は下線で示した從屬節の目的語である「餘らを」を述語の後に置いている。これは元の漢文の語順に近いものといえる。

b)

＜ロンドン本＞

yrlïqamamïš ol abidarim-qa tayan-zun tep (2187)

「阿毘達磨へ依るべしとは説かれなかったのである」

＜甘肅本＞

yrlïqamamïš ol abidarim-qa tayaγ-lïγ-ïn tep (*l*.176)

「阿毘達磨へ依ってとは説かれなかったのである」

ロンドン本が動詞の命令形を使用しているのに對して甘肅本は名詞の具格形を使用しており、内容にも違いがある。

c)

＜ロンドン本＞

ödrü tägimlig ärti uqïdu söz-lägäli inčä tep (2886)

「即ち、應に次のようにと顯説すべきであった」

＜甘肅本＞

ödrü tägimlig ärür uqïdu söz-lägäli inčä tep (*l*.641)

「即ち、應に次のようにと顯説すべきである」

文脈から考えて är- のアオリスト形式 ärür を使用した甘肅本がより適切であるが、ロンドン本も誤りとは言えない。

d)
＜ロンドン本＞
näčükin yalïndïq yrlïqap sudur-qa tayanmaq-ïγ yölänmäkig. inčip yrlïqamayay adïn vinay šasdr-ta ulatï-lar-qa tayanmaq-ïγ tep（2365-2366）
「どうして、ただ、經へ依ることを説かれて、而して餘の律、論等へ依ることを説かれなかったか？」

＜甘肅本＞
näčükin yalïndïq yrlïqap sudur-qa tayanmaq-ïγ yölänmäkig inčip yrlïqamadï adïn vinay šastir-ta ulatï-larqa tayanmaq-ïγ tep (*ll.*295-296).

ロンドン本の yrlïqamayay「説かれないだろう」に對して甘肅本では yrlïqamadï「説かれなかった」（*l.*296）が書かれている。この文は漢語「豈」に對應する反語文であるので、ウイグル語としては「näčükin・・-γay/gäy」が定型構文といえる。

e)
＜ロンドン本＞
bu tïldaγ-ïn ašnu söz-läp aqïγ-lïγ-ïn ken söz-lämiš ärür aqïγ-sïz-ïn（2633-2634）
「これに因って先に有漏を説き、後で無漏を説いたのである」

＜甘肅本＞
bu tïldaγ-ïn ašnu söz-läp aqïγ-lïγ-ïn ken söz-lämiš ol aqïγ-sïz-ïn（*ll.*495-496）

助動詞表示の ärür に對して繫辭表示の ol が使用されているが、内容にほとんど違いはない。

1.2.1.3.4 語彙上の違い

ロンドン本	甘肅本
1 bölgälir adïrγalïr（2086）	bölgälir adïrtlaγalïr（*l.*105）
2 nä ymä（2544）	azu yänä（*l.*434）
3 sïčï-lïγ	čïzïγ-lïγ（*l.*450）
4 näčä näčä（2762）	näčä tänglig（*l.*571）
5 köni tuymaq（2162-2163）	köni tüz tuymaq（*l.*160）
6 burxan（2500）	kaškip tngri burxan（*l.*402）
7 öl ši-i ton（2806, 2807, 2812）	öl ši ton（*ll.*596, 597, 600）

1「簡擇する」は二詞一語を構成する後部要素がロンドン本は動詞語幹 adïr-を、甘肅本は adïrtla-を使用している。この二詞一語では甘肅本の語幹形式が一般的である。2 は diravï-sïnga yaraši ol körüp uqïdz-un-lar :: :: nä ymä söz-läsär（2543-2544）「實體へ相應しい。觀て立てるべし。ともあれ・・」に對して甘肅本では diravi-sïnga yaraši ol azu

yänä söz-läsär (*ll.*433-434)「實體へ相應しい。或いはまた・・」と書かれており、下線部は「ともあれ」「或いはまた」のように内容も違う。またロンドン本の波線の部分「觀て立てるべし」は甘肅本には書かれていない。3 の sičï-lïγ は漢語「四至」の音寫形式である。それに對して甘肅本ではウイグル語 čïzïγ-lïγ「境界線もって」が書かれている。4 は漢語「幾許々々」に對應するウイグル語である。näčä näčä も näčä tänglig もいずれも漢語の内容を表現しうる。5 の köni tuymaq は漢語の「正覺」に對應し köni tüz tuymaq は「正等覺」に對應する。ここでは、成正覺時 tükäl-lig bolmïš ötdä köni tuymaq-qa (2162-2163) のごとくウイグル文に漢字列「成正覺時」が冠されているので、ロンドン本が正確な表現といえる。6 は dripidake-y-a sän näčük'ol. ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn (2500-2501)「三藏よ、如何にして汝は過去佛時の三藏苾芻ではなかったのか？」に對して甘肅本は dripidake-y-a sän näčük'ol. ärmäz mü ärding ärtmiš ödki kaškip tngri burxan ödintä-ki dripidake toyïn (*l.*402)「三藏よ、如何にして汝は過去の迦葉佛時の三藏苾芻ではなかったのか？」と書かれている。ここには節略本『實義疏』からの對應漢文がある：「汝豈不是過去佛時三藏苾芻」。この漢文と對照する限りにおいてはロンドン本が正確である。

7 の單語は次のような文脈に現れる：

猶如濕衣 inčä qaltï öl ši-i ton-ta tooz topraq iyin yapšïnmïš-ï täg (2805-2806)

「猶、濕衣にほこりが、隨着したもののごとし」

ši-i ton の ši-i は冠せられた漢字列にある「濕衣」の音寫形式である。öl は「濕った」、ton は「衣」を意味するので逐語的には「濕った濕衣衣」となる。甘肅本はこの語には öl ši ton を與えているので「濕った濕衣」となる。ši-i あるいは ši は衣の種類を表示するものとして扱われ、「濕った・・衣」の中に插入されている。

1.2.1.3.5 插入漢字の違い

ロンドン本	甘肅本
1猶如四洲 (2562)	猶如四州 (*l.*449)
2此魚拽之不出 (2494)	此魚曳之不出」(*l.*397)
3如何違證 (2193)	如何證 (*l.*179)
4又衆賢云 (2341)	又賢云 (*l.*279)
5衆賢又云 (2388)	衆賢云 (*l.*312)
6釋曰无爲義少 (3067)	无爲義少 (*l.*756)
7以聖道是爲故 (2678-2679)	以聖道是有爲故 (*l.*522) [70]
8大德衆賢 (2200)	大德衆賢云 (*l.*184)
9從有爲 (2978)	從有爲簡 (*l.*700)

上掲のうち 1 と 2 とは單に漢字の違いである。2 ～ 6 はロンドン本に存在する字が甘肅本では缺落している。7 ～ 9 はその逆である。この漢字の缺落をもってどちらか

70 この例は Geng (2002) p.84 にも掲げられている。

一方を書寫の原本とすることはできない。

このような漢字列の後には漢字列と同じ内容のウイグル語が後續する。しかし、若干の例外もある。例えば、甘肅本の「疏主云 istiramadi baxšï söz-lär. birök mundaγ söz-läsär」(*l*.579) に對してロンドン本は「疏主云 birök mundaγ söz-läsär」(2776) のごとく「疏主云」に對應する istiramadi baxšï söz-lär が省略されている。また、甘肅本の「衆賢云 sanggabadire baxšï söz-lär. az turz-un」(*l*.581) 對してロンドン本は「衆賢云 az turz-un」(2779) と書かれている。

一方、漢字列が甘肅本で分割されている例もある。ロンドン本の「疏主答云 ästiramati baxšï kikinč berü söz-lär」(3050-3051) に對して甘肅本では「疏主 istiramati 答云」(*l*.745) と書かれている。すなわち甘肅本はロンドン本の kikinč berü söz-lär に對して漢字列「答云」をあてている。

1.2.1.3.6 ウイグル語の漢字への置き換え

甘肅本のウイグル語をロンドン本では漢字に置き換えている。

甘肅本ではウイグル語で表現されているのに、ロンドン本では漢字で表されている語が見られる。その多くは漢數字である。(上段がロンドン本、下段が甘肅本)

a) 二 yrlïqamamaq üz-ä tayanïnglar tep. 三 taplaγ-lar ni'kay-lar adïrïlmaq üz-ä. 四 qaršï tanuq-luq-ï üz-ä (2181-2182)
ikinti yrlïqamamaq üz-ä tayanïnglar tep üčünč taplaγlar ni'kay-lar adïrïlmaq üz-ä törtünč qaršï tanuq-luq-ï üz-ä (*ll*.172-173)

b) ang'ilki aqïγ-lïγ 二 aqïγ-sïz 三 aqïγ-lïγ aqïγ-sïz (2605)
ang'ilki aqïγ-lïγ 二 aqïγ-sïz üčünč aqïγ-lïγ aqïγ-sïz (*ll*.477-478)

c) 二 söz-läyür bir täk tep 三 -ünč söz-läyür (2904)
ikinti söz-läyür bir täk tep üčünč söz-läyür (*l*.653)

漢數字以外に同じ單語の繰り返しにロンドン本では漢字「々」をしばしば使用している。

d) sudur-ta orun 々 sayu (2343)
sudur-ta orun orun sayu (*l*.281)

e) öngi 々 söz-läyür (2421)
öngi öngi söz-läyür (*l*.339)

f) söz-lädi ädgü ay 々 々 sän-ing amtï (2258)
söz-lädi ädgü ay sän amtï (*l*.221)

最後の例 f) は甘肅本では繰り返しが無い。ロンドン本の「々」をウイグル語に換えると söz-lädi ädgü ay ädgü ay sän amtï となる。次の例は甘肅本のウイグル語單語と漢語から音寫された單語とをロンドン本が漢字に置き換えている。

g) 先-ki oqïš 大力奴 baxšï-nïng qïlmïš diravi-sïnga yaraši ol （2542-2543）
öngdünki oqïš tailigdu baxšï-nïng qïlmïš diravi-sïnga yaraši ol （*Il.*433-434）
「先の讀みは大力奴師のなした實體へ相應しい。」
öngdünki は öngdun に「先」を充てて形容詞接辭の-ki を後接している。tailigdu は「大力奴」の音寫形式であるので、それに漢字を與えている[71]。

以上、ウイグル文中の漢字について考えてみた。最後のロンドン本においてウイグル語に換えて插入された漢字を別にすれば漢字列の出現はロンドン本甘肅本の兩寫本に合致している。しかし、一箇所だけ例外がある。それはロンドン本には漢字列が現れないのに甘肅本に見られるものである：iišläšip asïγ tusu qïlsar käntü öz-ingä (2733-2734)「要して自身に利益をなすなら」。これに對して甘肅本は iiš-läšip kärgäk-läp asïγ tusu qïlsar 於我 käntü öz-ingä (*l.*555) と書かれている。iišläšip に甘肅本では iiš-läšip kärgäk-läp が與えられているが、内容は同じである。甘肅本の「於我」は元々漢文に存在して、兩ウイグル本の元のテキストもそれを有していた可能性は大きい。ウイグル語は「於我」を käntü öz-ingä「自身に」と譯したものと思われる。

ロンドン本と甘肅本との比較から、兩者には内容にも係わる差異の存在することが解った。しかし、その差異は小さなもので、書寫の段階で生じたということができる。いずれにしても兩本は同じウイグル文を來源にしているといえる。

1.2.2 北區石窟本ウイグル文『實義疏』

近年、中國人研究者の手で敦煌莫高窟北區の洞窟から新たに 500 點を超えるウイグル語文獻が發掘された。それらウイグル語文獻の一部は北京文物出版社から出版された『敦煌莫高窟北區石窟』において體裁と寫眞が掲載された[72]。その中に貝葉型 3 葉の『實義疏』斷片も含まれている。この 3 斷片の内容構成法には 2 種ある。1 種は拔粹文を繋げた形式で B52 乙:17 と B157:15 がこれに所屬し、内容はいずれも『實義疏』の第 1 卷に所屬する。もう 1 種 B128:13 は拔粹形式ではなく、その内容は第 2 卷に所屬する。前者に所屬し、アイダル・ミルカマル（Aydar Mirkamal）の手でテキストが出版された B157:15 は上掲書には 1 葉として記載されているが實際には 2 葉の小斷片

71「大力奴」に關しては Geng (2002 p.79) も觸れている。耿 (Geng) 教授は甘肅本のウイグル文字を tiläkdu と讀み、さらに次のように述べている：tiläg < talig is the transcription of the Chinese words "大力 da li". It corresponds to Sanskrit baladāsa. As to the historical phonological relation between t/du and nu, l would leave this problem to Sinologist-phonologist to solve. tiläkdu は明らかに tailigdu と讀むべきである。tai-lig-du は正常なウイグル漢字音で書かれている。本書 1.4.3.2.1 を參照されたし。

72 Cf. 彭金章/王建軍/敦煌研究院編 (2000, 2004ab)。Yakup (2006) はこの本に收録されたウイグル語斷片をリストアップし、そのうちの多くの内容を同定している。更に 9 斷片についてはテキストを提出している。

からなる。B157:15 の内容は本書第 3 章でテキストの注記として解説する。ここでは、残る 2 葉について議論したい[73]。

1.2.2.1 北區石窟出土 B52 乙:17

『敦煌莫高窟北區石窟』第 1 巻圖版 59 に「回鶻文『實义疏』殘葉 B52（乙）:17」として寫眞の掲げられたウイグル語斷片には「實义疏第一卷　四十一葉」と漢字で表題が書かれている。この斷片のウイグル文の特徴は抜粋ウイグル文を連ねた點で、各抜粋部分の初頭には漢字列が冠されている。この漢字列は翻譯原典の漢文から引用したものでその内容は續くウイグル文の初頭とも一致する。

ロンドン本にも漢字列は散在するがこの抜粋文に冠された漢字と符號する例もある。たとえば表面（Recto）1 行目の「所」はロンドン本の「所緣之外」（A3638）の初頭に、裏面（Verso）23 行目の「更」は「更有何餘識」（A3695-3696）の初頭にそれぞれ符合する。また表面 19 行目～ 20 行目の「衆賢云」はロンドン本では「阿闍梨」（A3665）と書かれているが、これはもともと「阿闍梨衆賢云」であって、抜粋本が後ろ半分を、ロンドン本が前半分を引用した結果である。このようなロンドン本と B52 乙:17 の漢字の一致は偶然である。

抜粋ウイグル文は語單位以上の内容をもつ。これをロンドン本と比べてみると先の甘肅本とは異なってかなりの違いが見られる。

＜北區石窟本＞

此 bu kšan-taqï köngül bilig-ingä tägimlig ärip turγurup::-ig 合 yaraši ärsär atqanγalï bu kšan-taqï :: -in 又 tägimlig ärsär ymä ter（B52 乙:17, Recto 26-29）

「この刹那にある意識に對して、應に・・であって・・生じさせ・・この刹那にある・・緣じるのに適合であるなら」

＜ロンドン本＞

<bu> kšan-taqï köngül bilig-indä turγurup adïn-lar köngül-in bildäči bilgä biligig yaraši adqanγalï tägimlig-i ärsär bu kšan-taqï adïn-lar-nïng köngül-in（A3671-3673）

「この刹那にある意識において、他のものらの意を生じさせ慧を知るものがこの刹那にある他のものらの意を應に適切に緣ずるべきなら」

まず B52 乙の yaraši の後の ärsär はロンドン本には無い。むしろこれは不要と考えられる。tägimlig ärip は文末の「又」以下でロンドン本と同じ tägimlig ärsär に直されている。この tägimlig ärsär は漢文の「應」に對應しており動詞接尾辭 -γalï/-gäli を要求するので、ここでは atqanγalï「緣ずる」と結合する。tägimlig ärsär はロンドン本ではウイグル語順に隨って atqanγalï に後接しているのに對して、抜粋本では köngül bilig-ingä tägimlig (ärsär) turγurup となっている。これはおそらく元の漢文が「意識應生」であり、抜粋本がロンドン本以上に漢語語順に忠實にウイグル語譯したことを示して

73 ここでの議論は庄垣内（2000）と庄垣内（2004a）に基づいて行われる。

いる。但し tägimlig (ärsär) と結合すべき atqanγalï は次の「合」以下の抜粋文に含まれる。-ig と-in は接尾辞の抜粋である。前者は bilgä bilig-ig「慧を」のごとく對格表示、後者は köngül-in「(その) 意を」のごとく 3 人稱對格表示の接尾辞である。このような接尾辞の抜粋はほかにも-in (V3)、-düktä (R25)、-lïγ (V10) に見られる。ロンドン本との照合により語幹との結合形式が köngül-in, öč-düktä, bolmaq-lïγ であることがわかる。

また抜粋接尾辞にはウイグル文の本文中にそれの結合した單語を有することもある：

更 ikiläyü taqï bar qayu adïn bilig bu turmamaq üz-ä bilmädin öčmak bululγuluq 又 bar ärip :: bu -mamaq üz-ä bululur ymä ter : (V18-21)

「更に何か餘の識にしてこの不生において非擇滅の得られることが有るのか。又、有って、この-mamaq において得られる、とも云う」

この-mamaq は先行する tur-mamaq の接尾辞部分の抜粋である。「又」以下は言い換え文で、それを適用すれば全體は以下のようになる：

更 ikiläyü taqï bar ärip qayu adïn bilig bu turmamaq üz-ä bululur bilmädin öčmak

「更に何か餘の識が有って、この不生において非擇滅が得られるのか」

兩文の内容に大きな違いはないが、bu turmamaq üz-ä bilmädin öčmak bululγuluq と bu turmamaq üz-ä bululur bilmädin öčmak では語順が異なる。漢文はおそらく「於此不生得非擇滅」であり、言い換え文と一致する。語順を漢文のものに適合させるべく言い換えたと考えられる。

この抜粋文作成の目的やロンドン本との譯文の違いがどうして生じたのかについては 1.4.5 で解説する。以下にはロンドン本と比べながらこの抜粋『實義疏』の内容を檢討してみたい。

1.2.2.1.1 B52 乙:17 の轉寫テキスト

かなり個性的な草書體文字を使用しているので、文字轉寫は難しい。ここでは「音素轉寫」を施した[74]。

Recto

1) ilinip 執 adqansar yapsïnsar. 所
2) qayu adqaγïnta taš. 餘 adïn tep ::
3) tidilmäk ärsär barmaq tep yörüg
4) ol. 住 turur ärip bir adqanγu-ta
5) 五 beš adqanγu-larïγ 緣之 adqanïp

74 文字 t と d とは混用されている。轉寫テキストではそれらを文字轉寫のまま殘すが、「翻譯と注」では音素轉寫する。

6) munï örgürmädin täkin quruγ-ïn tüš
7) -rülmiš kämišilmiš-kä ärdmiš ödkä
8) adamïš ol munï tidilmäk tep . 又
9) yoqsuz qïrï bolup ymä ter. （又 yoq tägінčä bolup tetir ::） 如 qaltï
10) qayu-nung atï bolur adqanïp örgür
11) -mämäk tesär. 四 tört türlüg basu
12) -tčï-lar-ta. 彼 ol kšan-taqï
13) ol adqanγuγ. adqanγalï tägimlig beš
14) bilig-lär-tä. 如 qaltï nädägin bil
15) -gülük ol ikiläyü turmaz-ïn tesär
16) 一向 bir intäm adqanïp köz-ünür
17) ödkig ävrilür. 无 bolmaz adqanmaq
18) -lïγ iši küdüki. 境 adqanγu-sï
19) birök közünür ödtä bolsar. 衆
20) 賢云 söz-lär vasubandu baxšï munda
21) -qï. 中 yörügіndä bar qïlmïš ärür ägšü
22) -tmäk iz-mäkig tägimlig ol yaraši
23) üsdgäli munga. 所 qayu söz-lägüči
24) beš adqanγu-lar tidiltükdä barduq-ta
25) anga körü yarïmča:: -düktä 云
26) söz-lälim 此 bu kšan-taqï köngül bilig
27) -ingä tägimlig ärip tuγurup::
28) -ig 合 yaraši ärsär adqanγalï bu
29) kšan-taqï :: -in 又 tägimlig ärsär ymä ter

Verso
實义疏第一卷 四十一葉
1) 无容 bolmaz uγurï yïq-ï turγurup
2) 緣 adγanγalï uγuluq bu kšan-taqï ::
3) -in 及 uladï munï birlä bu bir
4) kšan-lïγ atïn-lar köngül-i-ning 又
5) bir kšan-taqï ymä ter : 俱 ikägü-nüng
6) birlä ägsük üčün basudčï-lar-ï 故
7) anïn söz-lämiš ol : 此 munda sangabadire
8) baxšï irgü qïnaγu üčün :: vasubandu
9) baxšï-nïng ägsüdmiš-in 法 nom orun
10) -nung :: -lïγ yörügin : 疏主 söz-lär
11) munda vasubandu baxšï-nïng ymä ök
12) yoq arür ägsüdmiš az-mïš-ï : anïn
13) tägimlig ärmäz üsdägälï : 亦 ymä

14) ök (bu) büdün tükäl : 不 ärmäz 說 söz
15) -lämiš ärsar : šu ödrü sözlägü ärti
16) ägsüdmiš azudmïš ärür tep 別有
17) 一师 angayu bar bir baxšï : 云
18) söz-lär 轉 ävrildükdä 更 ikiläyü
19) taqï bar qayu adïn bilig bu turmamaq
20) üz-ä bilmädin öčmak bululγuluq 又 bar
21) ärip :: bu -mamaγ üz-ä bululur ymä ter :
22) 何以 qayu tïlday-ïn tesär 有 bolmaq
23) üz-ä 此 bu kšan-taqï 更 ikiläyü
24) taqï bar qayu adïn bilig bu tidildük
25) -tä barduq-ta :: luq 若 birök ken turdačï
26) bilig ol tep tesär : 可 yarašï
27) adqanγuluq : 答 tägägari(?) söz-lar : 許
28) tapläyü söz-lap 有 bolur 不許

1.2.2.1.2 B52 乙:17 とロンドン本との對應

B52 乙:17 の内容はロンドン本の中に含まれる。どのように抜粋されているのかを以下に示してみたい：

qaltï közli köngülli bir učluγïn bir öngdä bolmïš ödtä teptemiši ärsär bir kšantaqï köz ärklig ulatï birlä yänä köz biligi bir učluγïn adqansar bir kök öngüg. nädägin adatï bir učluγïn teptesär qaltï köz ärklig öng adqanγuta tïdïlsar yapšïnsar. köz biligi adqaγïnda adqansar yapšïnsar adï bolur bir učluγïn tep. adïn öng ün yïd tadïγ büridigtä ulatïlar ärdär teptemiši ärsär 所緣之外 adqaγïnda taš alqu öng ün yïd tadïγ büridmäktä ulatïlarnïng adï bolur adïn tep. ärdär teptemiši ärsär barmaq tep yörüg'ol alqïnmaq tep yörüg'ol öčmäk tepyörüg'ol qayu kšanta köz ärklig ulatï bilig tursar bir adqanγuta. ol oq kšanta adïn beš adqanγularïγ. köz ärklig bilig birlä adqanu örgürmätin quruγïn tüšürülür üčün ärtmiš ödkä adï bolur ärdmäk tep nädägin adatï adqanu örgürmätin teptesär. qaltï ol nomlar közünür ödtä turmïš ödtä tört basudčïlarta. näčä bolsar ymä tïlday atlïγ basudčï adqaγ atlγ basudčï. ärksinmä atlγ basudčï ägsük bolmaq üzä ol tüz arasïz basudčï anïn sözlämiš ol adqanu irgürmätin tep 緣彼境界 ol adqanγu uγušuγ adqantačï beš bilig quvraγïnda ulatïlar turup kälmädük ödtä birdämläti tuγmaz teptemši usar ol kšanta ol adqanγuγ adqanγalï tägimlig beš biliglärtä tuγmadačïsï ärsär birdämläti ikiläyü tuγmaz üčün adamïš ol birdämläti tuγmaz tep. nädägin bilgäli bolur ikiläyü tuγmadačïsïn teptesär. kikinč birgälir üčün bu savqa. anïn basa šasdrta sözlämiš ol. ol umamaqïnïng uγurïnda adqanγalï ärtmiš ödki adqanγularïγ tep. munda bar qayu yörüg teptesär. köztä ulatï beš biliglär bir yindäm adqanïp közünür ödüg ävrilür. ärtmiš ödki öngtä ulatï adqanγularïγ bolmaz adqanmaqlïγ iši küdüki. nädägin teptesär basudčïsï ägsük üčün. anïn birdämläti tuγmaz basudčïsï tükal ärmäz üčün 又 basudčïsï ägsük üčün ymä/ter. bululur bilmätin öčmäk teptemiši ärsär. 心心所法 köngül köngültäki nomlar odyuraq tört basudčïlïγïn tuγar. basudčïsï ägsük ärsär tuγmaz adqanγusï birök közünür ödtä bolsar ägsük

bolur tüz arasïz basudčïsï. adqanγusï birök ärtmiš ödtä bolsar ägsük bolur adqaγ atlγ basudčïsï. ägsük bolmaq üzä bu tüz arasïz basudčï anïn bululur bilmätin öčmäk tep. 阿闍梨 ayaγqa tägimlig sanggabadre baxšï sözlär. vasubandu baxšï bu bilmätin öčmäkning yörügindä bar qïlmïš ärür ägsüdmäk azudmaqïγ. tägimlig ol yaraš ï üsdägäli. qayu sözlägüči beš adqanγularïγ. är{t}tükdä barduqta. anga körü yarïmča köngül orun nom orun är{t}tükdä öčdüktä bululur bilmätin öčmäk tep. 此中意云 [munda] abïpïrayïn sözlälim. qaltï bir kšanta köz ärklig bilig bir učluγïn adqanmïš ödtä bir kök öngüg. [bu] kšantaqï köngül biligindä turγurup adïnlar köngülin bildäči bilgä biligig yaraš ï adqanγalï tägimlig ärsär bu kšantaqï adïnlarnïng köngülin. ol köngül biligi köz birlä azlanmïš adqanmïš üčün ol kök öngüg bulduqmaz üčün uγurï γïqï. tuγurup adïnlar köngülin bildäči bilgä biligig adqanγalï uγuluq bu kšantaqï adïnlar-nïng köngülin 此念他心智 bu kšantaqï adïnlar köngülin bildäči bilgä biligning ulatï munï birlä bir kšanlïγ adïnlar köngülining ikigününg birlä ägsük üčün basudčïsï tüšürülüp kämišilip ärtmiš ödkä. bululur üčün bilmätin öčmäk. anïn sözlämiš ol yarïmča köngül orun nom orun ärttükdä öčtükdä bululur bilmätin öčmäk tep. munda sanggabadre baxšï 責論主. irgälir qïnaγalïr üčün vasubandu baxšïγ. ägsüdmiš üčün bu yarïmča köngül orunnung nom orunnung basudčïsï ägsük bolmaqlïγ yörügin. anïn bar qïlmïš ol bu savïγ tep ästiramati baxšï sözlär :: munda ymä ök yoq üčün ägsüdmäk azudmaqï. anïn tägimlig ärmäz üztägäli. köztä ulatï beš [bilig]lär. täk ärür anga yöläšürüg ymä büdün bilmätin öčmäkning yörügi ärmäz üčün. anïn ymä ök mün qadaγ bolmaz. 若約一切法上 birök alqu nomtaqï bilmätin öčmäkig tuda sözläsär. ödrü sözlägü ärti ägsüdmiš azudmïš ärür tep. munda täk yarïmča köz biligin tuda yöläšürüg qïlmïš ärür nädägin sözläyür siz ägsüdmiš azudmïš ärür tep. bar bir baxšï sezig turγurup ayïdu sözlär. köz ärklig köz biligi bir adqanγuta ävrildükdä ikiläyü nädägin bolur adïn biliglär tuγmamaq üzä bilmätin öčmäk bulγuluq nädägin teptesär. bar bir käzigtä yindäm bolup bir bilig bu kšantaqï köz bilig birlä uγrayu adqanu tükädmäk üzä öngüg 更有何餘識 ikiläyü bar qayu adïn bilig är{t}düktä barduqta bulγuluq bilmätin öčmäk birök 當 ken turdačï bilig ol teptesär. käntü bar angayu adqanγuluq adqanγusï ärür üčün angayu kšanlïγ tep 答 bu sezigingizlär andaγ ärmäz. taplap sözläsär. birök bir käzigtä yindäm bolur bir bilig tep. taplamasar basudčïsï ägsük bolmaqlïγ yörügüg bu bir kšantaqï köz biligining. köz ärkligkä körü bolur tïldaγ atlγ basudčï. öng adqanγuqa körü bolur. adqaγ atlγ basudčï. adïn nomlarqa körü bolur. ärksinmä atlγ basudčï. bu kšantaqï köz biligindä taplasar bolur bu üč basudčïlar tep. (A3631-3704)

「謂わく、眼と意とが專ら一色にあるとき」(如眼與意專一色時) といった。一刹那にある眼根竝びに眼識が專ら一青色を縁ずるとき、如何にして「專ら」と名づけたといえば、眼根が色境に妨げられて執着するなら、眼識が所縁に執着するなら、その名が「專ら」である。「餘の色、聲、香。味、觸などは謝する」(餘色聲香味觸等謝) といった。所縁の外の諸々の色、聲、香、味、觸などの名が「餘」である。「謝する」といったが、それは「行く」という義であり、「盡きる」という義であり、「滅する」という義である。ある刹那において眼根および識が一境において住するなら、その刹那においては餘の五境を眼根と識がともに縁じても生起せず、(餘の五境は) 空しく過去世へ落ちるので、その名は「謝」である。如何にして「縁じても生起せず」と名

づけたといえば、謂わく、その法が現在時に起きたときに四縁において如何に因縁、所縁縁、増上縁が成じても、等無間縁が缺けることになるので、それで「縁じても生起せず」と説いた。「彼の境界を縁ずるべき五識身等は未來世に住し、畢竟じて生じない」（縁彼境界五識身等住未來世畢竟不生）といった。その刹那にその境を縁ずることができるなら、應に五識において生じないものは畢竟じて更に生じないため、「畢竟じて生じない」（畢竟不生）と名づけた。如何にして更に生じないものを知ることができるといえば、この言への答えとして次のごとく論に説いた：「過去世の境を縁ずることができないことに由って」（由彼不能縁過去境）と。ここに何の義が有るのかといえば：眼等の五識は一向に現在世を縁じて轉ずる、過去世などの境を縁ずることの作用は無い、如何にしてというなら縁が缺ける故に畢竟じて生じない。「縁が具わっていない故、（また縁が缺ける故ともいう）、非擇滅が得られる」（縁不具故得非擇滅）といった。心心所法は定んで四縁によって生ずる、縁が缺けているなら生じない、境がもし現在世にあれば等無間縁が缺ける、境がもし過去世にあれば所縁縁が缺ける、この等無間縁が缺けることによって非擇滅が得られる、と。尊者衆賢師が云う：世親師はこの非擇滅の義において缺略を有した、所説の五境を應に適切に加えるべし、すなわち謝往したときに、彼に對して少分の意處法處が謝滅したときに、非擇滅が得られる、と。ここにおいてその意趣を云いたい：若し、一刹那において眼根と識が專ら一青色を縁ずるときには、この刹那にある意識において、他のものらの意を起こし、智を知るものがこの刹那にある他らの意を應に縁じようとするなら、その意識が眼とともにその青色を愛著することで他のものらの意を起こし、智を知るものは、この刹那にある他のものらの意を縁じうる容き機會が無いので、この刹那にある、他のものらの意を知る智の、及びこれと同一刹那に屬する他のものらの意の、二つのものがともにその縁を缺くので、過去世へ落ちて非擇滅が得られる故に、少分の意處、法處が謝滅したとき、非擇滅が得られる、と説いた。ここで衆賢師は世親師を責めるために、この少分の意處と法處の縁が缺ける義を（世親師が）缺略した故に、それでこの言を有した、という。安慧師が説く：ここでも（世親師の）缺略は無い故に應に付加すべきではない、眼等の五識は單にそれへの比喩である、亦、完全な非擇滅の義ではない故にまた過失ともならない、もし諸法にある非擇滅を約して説くなら、則ち缺略したものであると説くべきであった、ここではただ少分の眼識を約して比喩をなしたのみである、如何にして缺略したものであると説くのか、と。有一師が疑いを起こして問うて云う：眼根、眼識が一境において轉じたとき、更に餘の識が如何にして、不生において非擇滅を得ること有るのか、如何にしてというなら、一相續において、唯、一識となって、この刹那にある眼識がともにまさに色を縁じおえることによるものが有る、更に何の餘識が謝往において非擇滅を得ること有るのか、若し後に起きるものが識なりというなら、已有の別の所縁境は別の刹那に屬するため、と。答：この汝らの疑いは正しくない、もし一相續に唯、一識が有ると許して説くなら、縁が缺ける義を許さないなら、この同一刹那にある眼識のものは、眼根に對して因縁となる、色境へ對して所縁縁となる、餘の法へ對して増上縁となる、この刹那にある眼識において許されるなら、この三縁となる、と。

1.2.2.1.3 B52 乙:17 の翻譯と注

Recto

1

1) ilinip 執 atqansar yapšïnsar.

「とらわれて・・・執着するなら」

＜ロンドン本＞

köz biligi atqaγïnda atqansar yapšïnsar atï bolur bir učluγïn tep.

「眼識が所縁に執着するなら、その名が「專ら」である」

ilinip「とらわれて」はロンドン本のこの文に先行する tïdïlsar yapšïnsar の yapšïnsar「執着するなら」に對應する。漢字「執」はもとの漢文「執著」の 1 字と考えられる。

2

1) 所 2) qayu atqaγïnta taš. 餘 adïn tep :: 3) titilmäk ärsär barmaq tep yörüg 4) ol

「所縁の外・・・餘（である）と・・・「謝すること」は「行く」という義である」

＜ロンドン本＞

所縁之外 atqaγïnda taš alqu öng ün yïd tatïγ büritmäktä ulatïlarnïng atï bolur adïn tep. ärtär teptemiši ärsär barmaq tep yörüg'ol

「所縁の外の諸々の色、聲、香、味、觸などの名が「餘」である。「謝する」といったが、それは「行く』という義である」

atqaγ は「所縁」（認識の對象）を表すので、qayu は不要である。qayu が漢語の「所」に對應する場合があるので「所縁」に對して qayu atqaγ を用いたとも考えられる：cf. bu qayu sözlägüči etiglig nomlarta「於此所説有爲法中」qayu barïnča maxabutlar「所有大種」（本書第 4 章 qayu の項）。ウイグル文中の漢字「所」はロンドン本の「所縁之外」の「所」に當たる。ロンドン本の ärtär teptemiši「謝するといった」（過ぎる、行く）に對して titilmäk ärsär「捨てられることは（謝することは）」が當てられている。

3

4) 住 turur ärip bir atqanγu-ta 5) 五 beš atqanγu-larïγ 縁之 atqanïp 6) munï örgürmädin täkin quruγ-ïn tüš 7) -rülmiš kämišilmiš-kä ärtmiš ödkä 8) atamïš ol munï titilmäk tep . 又 9) yoqsuz qïrï bolup ymä ter. （又 yoq tägінčä bolup tetir ::)

「一境において住しており・・・五境を・・・之を縁じても生起せず空しく過去世へ落ちたため、これを「謝」と名づけた・・・」

＜ロンドン本＞

qayu kšanta köz ärklig ulatï bilig tursar bir atqnyuta. ol oq kšanta adïn beš atqanyularïγ. köz

ärklig bilig birlä atqanu örgürmätin quruγïn tüšürülür üčün ärtmiš ödkä atï bolur ärtmäk tep
「ある刹那において眼根および識が一境において住するなら、その刹那においては餘の五境を眼根と識がともに縁じても生起せず、(餘の五境は) 空しく過去世へ落ちるので、その名は「謝」である」

täk-in quruγ-ïn「空しく」。 täk-in quruγ-ïn は *Suv* にも見られる：arïtï buyansïz ädgü qïlïnčsïz täkin quruγïn yorïmaq alp ämgäk tetir (p.110 *ll.*6-8)「未曾積集功德難」(大正 Vol. 16 p.412b)。漢字「又」以後 ymä ter まではこの 6 行目の täkin quruγ-ïn「空しく」に代えた讀み方である：yoqsuz qïrï bolup 「空しくなって」。yoqsuz qïrï はブラーフミー文字で書かれた TTVIII にも現れる：yoqsuz heri 'wegen seines vergeblich' (A-v.9). *EDPT* (p.907b) ではこれを'heri is prob. a misreading of yeri'としているが決して yeri の誤讀ではない。9 行目の括弧内「又 yoq tägінčä bolup tetir ::」(又、無ほどになって、という) も「空しく」の交換形である。tüšrülmiš kämišilmiš-kä を「落ちたため」と譯したが、直譯すれば「落ちたことに對して」となる。tüšrül- kämišil-「落ちる、落とされる」：basutčïlar tüšürül-üp kämišil-ip turmaz「縁は落ちて住さない」(A3708)。

4

9) 如 qaltï 10) qayu-nung atï bolur atqanïp örgür 11) -mämäk tesär. 四 tört türlüg basu 12) -tčï-lar-ta.
「ちょうど何の名が「縁じても生起しないもの」かといえば・・・四種の縁において」

＜ロンドン本＞
nätägin atatï atqanu örgürmätin teptesär. qaltï ol nomlar közünür ödtä turmïš ödtä tört basutčïlarta. näčä bolsar ymä tïltaγ atlïγ basutčï atqaγ atlγ basutčï. ärksinmä atlγ basutčï
「如何にして「縁じても生起せず」と名づけたといえば、謂わく、その法が現在時に起きたときに四縁において如何に因縁、所縁縁、増上縁が成じても」

5

12) 彼 ol kšan-taqï 13) ol atqanγuγ. atqanγalï tägimlig beš 14) bilig-lär-tä.
「彼の刹那にあるその境を縁ずることが (できるなら)、應に五識において」
＜ロンドン本＞
usar ol kšanta ol atqanγuγ atqanγalï tägimlig beš biliglärtä tuγmadačïsï ärsär birtämläti ikiläyü tuγmaz üčün
「その刹那にその境を縁ずることができるなら、應に五識において生じないものは畢竟じて更に生じないため」

atqanγalï tägimlig を「應に縁ずるべし」とも譯せるが、その場合はふつう tägimlig の後に ol が立つ：第 4 章 tägimlig の項參照。ここでは ol kšan-taqï 「その刹那にある」の前に usar「できるなら」が省かれていると考えた。

6

14) 如 qaltï nätägin bil 15) -gülük ol ikiläyü turmaz-ïn tesär
「ちょうど如何にして更に生じないものを知るべきかといえば」

＜ロンドン本＞
nätägin bilgäli bolur ikiläyü turγmadačïsïn teptesär.
「如何にして更に生じないものを知ることができるといえば」

7

16) 一向 bir indäm atqanïp köz-ünür 17) ödkig ävrilür. 无 bolmaz atqanmaq 18) -lïγ iši küdüki.
「一向に現在世を縁じて轉ずる・・・縁ずることの作用は無い」

＜ロンドン本＞
köztä ulatï beš biliglär bir yintäm atqanïp közünür ödüg ävrilür. ärtmiš ödki öngtä ulatï atqanγularïγ bolmaz atqanmaqlïγ iši küdüki.
「眼等の五識は一向に現在世を縁じて轉ずる、過去世などの境を縁ずることの作用は無い」

indäm~ yindäm にはふつう漢語の「唯」「純」が對應するが、ここでは bir yindäm で「一向」（ひたすら、唯一筋に）を表す。

8

18) 境 atqanγu-sï 19) birök közünür ödtä bolsar
「境がもし現在世にあれば」

＜ロンドン本＞
atqanγusï birök közünür ödtä bolsar ägsük bolur tüz arasïz basutčïsï.
「境がもし現在世にあれば等無間縁が缺ける」

9

19) 衆 20) 賢云 söz-lär vasubandu baxšï munda 21) -qï. 中 yörügindä bar qïlmïš ärür ägšü 22) -tmäk iz-mäkig tägimlig ol yarašï 23) üstgäli munga. 所 qayu söz-lägüči 24) beš atqanγu-lar titiltükdä barduq-ta 25) anga körü yarïmča:: -düktä 云 26) söz-lälim
「衆賢が云う：世親師はここにある義において缺略を有した。所説の五境が謝往したときに、彼に對して少分・・と應にここに適切に加えるべし・・・云いたい」

＜ロンドン本＞
阿闍梨 ayaγqa tägimlig sanggabadre baxšï sözlär. vasubandu baxšï bu bilimätin öčmäkning

yörügindä bar qïlmïš ärür ägsütmäk azutmaqïy. tägimlig ol yarašï üstägäli. qayu sözlägüči beš atqanγularïγ. ärttükdä barduqta. anga körü yarïmča köngül orun nom orun ärttükdä öčdüktä bululur bilmätin öčmäk tep. 此中意云 [munda] abïpïlayïn sözlälim.
「尊者衆賢師が云う：世親師はこの非擇滅の義において缺略を有した、所説の五境を應に適切に加えるべし、すなわち謝往したときに、彼に對して少分の意處法處が謝滅したときに、非擇滅が得られる、と。ここにおいてその意趣を云いたい」

漢字「衆賢云」はもとの漢文での「阿闍梨衆賢云」の一部と考えてよい。 beš atqanγu-lar 「五境」は titiltük-dä barduq-ta「謝往する・・」の主語になっているが、ロンドン本では對格接尾辭をつけて üstä-gäli「加える・・」の目的語としている。-düktä はロンドン本に見られる öč-düktä の一部である。漢字「中」はそれに先行する munda-qï に該當する漢語「此中」の「中」と考えられる。漢字「云」はロンドン本中の「此中意云」の「云」。

10

26) 此 bu kšan-taqï köngül bilig 27) -ingä tägimlig ärip tuγurup:: 28) -ig 合 yaraši ärsär atqanγalï bu 29) kšan-taqï :: -in 又 tägimlig ärsär ymä ter
「この刹那にある意識に對して、應に・であって・起こして・・この刹那にある・・縁じるのに適合であるなら」

＜ロンドン本＞
[bu] kšantaqï köngül biligindä turγurup adïnlar köngülin bildäči bilgä biligig yarašï atqanγalï tägimligi ärsär bu kšantaqï adïnlarnïng köngülin.
「この刹那にある意識において、他のものらの意を起こし、智を知るものがこの刹那にある他らの意を應に縁じようとするなら」

漢字「又」以下 tägimlig ärsär「應に・・であるなら」は tägimlig ärip を訂正したものである。-ig はロンドン本の bilgä bilig-ig の-ig(acc.)を、-in は köngül-in の-in(3.sg.acc.)を表す。

Verso
11

1) 无容 bolmaz uγurï yïq-ï turγurup 2) 緣 atγanγalï uγuluq bu kšan-taqï ::
「起こし・・この刹那にある・・縁じうる容き機會が無い」

＜ロンドン本＞
ol köngül biligi köz birlä azlanmïš atqanmïš üčün ol kök öngüg bultuqmaz üčün uγurï yïqï. turγurup adïnlar köngülin bildäči bilgä biligig atqanγalï uγuluq bu kšantaqï adïnlar-nïng köngülin
「その意識が眼とともにその青色を愛著することで他のものらの意を起こし、智を

知るものは、この刹那にある他のものらの意を縁じうる容き機會が無いため」

漢字「无容」は「縁じうる容き機會が无い」の下線部に相當する。「・・す容き機會」はロンドン本ではふつう uγurï yïq-ï....-γuluq/gülük で表現する：cf. 本書 1.4.4.1.2.1。ここでは uγurï yïq-ï ... uγuluq がこれに當たる。bolmaz「无い」に對してロンドン本では bultuqmaz が、turγurup「起こし」に對して tuγurup が立つが、いずれも同じ内容を表しうる。漢字「縁」は atγan-γalï に對應する。kšan < Skt. kṣaṇa「刹那」。

12

3）-in 及 ulatï munï birlä bu bir 4）kšan-lïγ adïn-lar köngül-i-ning 又 5）bir kšan-taqï ymä ter : 俱 ikägü-nüng 6）birlä ägsük üčün basutčï-lar-ï

「及びこれとこの同一刹那に屬する他のものらの意の、二つのものが俱にその縁を缺くので」

＜ロンドン本＞

ulatï munï birlä bir kšanlïg adïnlar köngülining ikigününg birlä ägsük üčün basutčïsï

「及びこれと同一刹那に屬する他のものらの意の、二つのものが俱にその縁を缺くので」

-in はロンドン本上掲文冒頭の ulatï より更に 4 つ前の語 köngülin の-in（3.sg.acc.）を指す。漢字「及」は ulatï を指す。又 bir kšan-taqï ymä ter「又同一刹那にある、ともいう」は bir kšan-lïγ 「同一刹那に屬する」の交替形を表現している。漢字「俱」は birlä に對應する。

13

6）故 7）anïn söz-lämiš ol :

「故に・・・説いた」

＜ロンドン本＞

bululur üčün bilmätin öčmäk. anïn sözlämiš ol yarïmča köngül orun nom orun ärttükdä öčtükdä bululur bilmätin öčmäk tep

「非擇滅が得られる故に、少分の意處、法處が謝滅したとき、非擇滅が得られる、と説いた」

「故」はロンドン本のごとく üčün.....anïn で表されるが、üčün の位置が離れているので anïn のみが書かれている。

14

7）此 munda sangabadire 8）baxšï irgü qïnaγu üčün :: vasubandu 9）baxšï-nïng ägsütmiš-in

「ここで衆賢師が世親師の缺略したのを責めるために」

＜ロンドン本＞

munda sanggabadre baxšï 責論主. irgälir qïnayalïr üčün vasubandu baxšïγ

「ここで衆賢師は世親師を責めるために」

漢字「此」は munda に對應する。ロンドン本の「責論主」はもとの漢譯『實義疏』を引いている。おそらく「責論主」の後には「缺略」を意味する漢語があり、「缺略」をロンドン本では後續文の要素とみなしたのに對して、拔粹文では論主すなわち世親師と直結させている：cf. 次項 15。

15

9）法 nom orun 10）-nung :: -lïγ yörügin :

「法處の・・・義を」

＜ロンドン本＞

ägsütmiš üčün bu yarïmča köngül orunnung nom orunnung basutčïsï ägsük bolmaqlïγ yörügin

「この少分の意處と法處の緣が缺ける義を（世親師が）缺略した故に」

ロンドン本の ägsüt-miš「缺略した」は前項 14 の 9 行目 ägsütmiš-in に當たる。漢字「法」は「法處」nom orun の nom に對應する。-lïγ yörügin の-lïγ はロンドン本の bolmaq-lïγ の所有表現の接尾辭と考えられる。

16

10）疏主 söz-lär 11）munda vasubandu baxšï-nïng ymä ök 12）yoq arür ägsütmiš az-mïš-ï : anïn 13）tägimlig ärmäz üstägälï :

「疏主が説く：ここでは世親師のまた缺略は無い、故に應に付加すべきではない」

＜ロンドン本＞

ästiramati baxšï sözlär :: munda ymä ök yoq üčün ägsütmäk azutmaqï. anïn tägimlig ärmäz üztägäli.

「安慧師が説く：ここでも（世親師の）缺略は無い故に應に付加すべきではない」

漢字「疏主」にはウイグル語譯がない。「疏主」は「安慧」ästiramati baxšï を指す。

17

13）亦 ymä 14）ök (bu) bütün tükäl : 不 ärmäz

「亦完全な・・・ではない」

＜ロンドン本＞

ymä bütün bilmätin öčmäkning yörügi ärmäz üčün. anïn ymä ök mün qadaγ bolmaz

「亦、完全な非擇滅の義ではない故にまた過失ともならない」

ロンドン本の bütün「完全な」に對して、更に tükäl を付加している。

18

14) 説 söz 15) -lämiš ärsar : šu ötrü sözlägü ärti 16) ägsütmiš azutmïš ärür tep
「説いたなら、則ち缺略したものであると説くべきであった」

＜ロンドン本＞
若約一切法上 birök alqu nomtaqï bilmätin öčmäkig tuta sözläsär. ötrü sözlägü ärti ägsütmiš azutmïš ärür tep
「もし諸法にある非擇滅を約して説くなら、則ち缺略したものであると説くべきであった」

19

16) 別有 17) 一師 angayu bar bir baxšï : 云 18) söz-lär
「別に有一師・・・云う」

＜ロンドン本＞
bar bir baxšï sezig turγurup ayïtu sözlär
「有一師が疑いを起こして問うて云う」

「別」angayu を指す語はロンドン本には無い。「有一師」は bar bir baxšï に相當する。

20

18) 轉 ävrildükdä 更 ikiläyü 19) taqï bar qayu adïn bilig bu turmamaq 20) üz-ä bilmädin öčmak bululγuluq 又 bar 21) ärip :: bu -mamaq üz-ä bululur ymä ter :
「轉じたとき、更に何か餘の識にしてこの不生において非擇滅の得られることが有るのか」

＜ロンドン本＞
köz ärklig köz biligi bir atqanγuta ävrildükdä ikiläyü nätägin bolur adïn biliglär tuγmamaq üzä bilmätin öčmäk bulγuluq
「眼根、眼識が一境において轉じたとき、更に餘の識が如何にして、不生において非擇滅を得ることが有るのか」

ロンドン本との間にかなりの違いが見られる。「又....ymä ter」は bar を bar ärip「有って」へ、bululuγuluq を bululur「得られる」へ言い換えることを示している。-mamaq は tur-mamaq の省略形。

21

22) 何以 qayu tïltaγ-ïn tesär 有 bolmaq 23) üz-ä 此 bu kšan-taqï
「何を以てというなら・・・この刹那にある・・有るので」

＜ロンドン本＞
nätägin teptesär. bar bir käzigtä yintäm bolup bir bilig bu kšantaqï köz bilig birlä uγrayu atqanu tükätmäk üzä öngüg
「如何にしてというなら、一相續において、唯、一識となって、この刹那にある眼識がともにまさに色を緣じおえることによるものが有る」

22

23) 更 ikiläyü 24) taqï bar qayu adïn bilig bu titildük 25) -tä barduq-ta :: -luq
「更に何の餘識がこの謝往において・・・有るのか」

＜ロンドン本＞
更有何餘識 ikiläyü bar qayu adïn bilig ärttktä barduqta bulγuluq bilmätin öčmäk
「更に何の餘識が謝往において非擇滅を得ること有るのか」

-luq はロンドン本の bulγu-luq の接尾辭を表したものである。

23

25) 若 birök ken turdačï 26) bilig ol tep tesär : 可 yaraši 27) atqanγuluq :
「若し後に起きるものが識なりというなら、適切な所緣」

＜ロンドン本＞
birök 當 ken turdačï bilig ol teptesär. käntü bar angayu atqanγuluq atqanγusï ärür üčün angayu kšanlïγ
「若し後に起きるものが識なりというなら、己有の別の所緣境は別の刹那に屬するため」

文末の atqanγuluq の後に更に atqanγusï が立って「所緣境」を表す。yaraši「適當な」に對してロンドン本では angayu「別の」が立っている。漢字「可」が yaraši に對應しているのかもしれない。

24

27) 答 tägägari(?) söz-lar : 許 28) tapläyü söz-lap 有 bolur 不許
「答える：・・・有ると許して説いて・・・不許」

＜ロンドン本＞
答 bu sezigingizlär antaγ ärmäz. taplap sözläsär. birök bir käzigtä yintäm bolur bir bilig tep.

taplamasar
「答この汝らの疑いは正しくない。もし一相續に唯、一識が有ると許して説くなら、緣が缺ける義を許さないなら」

1.2.2.2 北區石窟出土 B128:13

『敦煌莫高窟北區石窟』第 2 卷には B128:13 の番號を付したウイグル語寫本斷片 1 葉の寫眞が載せられている [75]。それについて同書本文には以下のような解説がある：

「標本 B128:13、存完整的一葉兩面、白麻紙、泛黃、纖維交織較勻。表面研光。紙較厚、質硬。正背面都有文字、文字爲硬筆墨書、上下有紅色單綫邊框。正面存文字 28 行、左邊有一行漢文“疏卷第二　七十五葉”。標明書名及頁碼。背面存文字 28 行。文字中雜有漢字、系譯自漢文。該殘葉系譯自漢文本《阿毘達磨俱舍論實義疏》。文書寬 37.0、高 14.0、文面高 9.4 厘米。」[76]

上揭文にはこの 1 葉に書かれたウイグル文の内容が漢文『阿毘達磨俱舍論實義疏』からの譯文とされている。實際に以下で示すウイグル文の内容から判斷してその推定は間違っていない。

1.2.2.1 で議論した B52 乙:17 とこの B128:13 との間には佛典略名と卷數標示に違いが有る。すなわち B52 乙:17 は「實义疏第一卷　四十一葉」と書かれているのに對してここでは「疏卷第二　七十五葉」と書かれている。また葉の寸法も異なる [77]。何より大きな違いは B52:乙 17 が小さな抜粹文を繋ぎ合わせた構成になっていることである。したがって B52 乙:17 を B128:13 と連續する寫本の一部と見なすことはできない。

以下には B128:13 についてテキストを提出し内容について言及してみたい。

1.2.2.2.1 B128:13 の性格

B128:13 は漢字の散在する草書體ウイグル文字で書かれている。欄外に「疏卷第二」とあるように確かに漢譯版『實義疏』第 2 卷の一部に相當する内容を持つものと推定できる。注釋の對象である『阿毘達磨俱舍論』からこれを檢討してみると次のようになる。

ロンドン本 75A の末尾すなわち『實義疏』第 1 卷末の内容から推定して、ウイグル文あるいは漢文『實義疏』の第 2 卷は『俱舍論』第 1 卷、「大正藏經」の第 29 卷でいえば 2 頁中段 7 行目の頌「色者唯五根　五境及無表」を對象とした注釋に始まると推定できる [78]。一方、北京圖書館藏漢文『實義疏』第 3 卷は『俱舍論』第 1 卷、「大正藏經」の第 29 卷 4 頁下段 11 行目の長行「已説諸蘊及處界攝當説其義此蘊處界別義

75 彭金章/王建軍/敦煌研究院編（2004a）圖版 87.
76 彭金章/王建軍/敦煌研究院編（2004a）p.188-(2).
77 彭金章/王建軍/敦煌研究院編（2000, p.183）では、B52 乙:17 は「文書寬 25.3、高 9.0、文面高 7.3 厘米」とある。
78 ロンドン本 75A の『俱舍論』からの最後の引用はこの頌に先行する長行に當たる： cf. 本書第 8 章, *ll.*4577-4578.

云何」に對する注釋に始まる[79]。ここに扱うB128:13のウイグル文テキストの内容は、『倶舎論』第1巻「分別界品第一」の「受想行三蘊と法所・界の建立」を表す頌に續く以下の下線を施した長行に對する注釋である。

受領納隨觸　想取像爲體
四餘名行蘊　如是受等三
及無表無爲　名法處法界
論曰受蘊謂三領納隨觸即樂及苦不苦不樂此復分別成六受身謂眼觸所生受乃至意觸所生受

上記漢文は「大正藏經」の3頁下段28行目から4頁上段4行目に現れる。この部分は確かに元の漢文あるいはウイグル文『實義疏』の第2巻に所屬するものといえる。

1.2.2.2.2　B128:13の轉寫テキスト

多音字性の大きな草書體ウイグル文字を使用しているので、文字轉寫に困難なところがある。以下では基本的に音素轉寫を掲げる。ただし文字 d,t は音素 d,t を表記するのに混用されているので、これらは文字轉寫で示す。[ ] は缺落部分、( ) は行間の添加部分を表す。「+」はウイグル文の右傍に添えられた記號で削除を意味する。「゜」は行間の追加單語の上部に添えられた記號であるが、やはり削除を示す。

Recto

1) üčün (anïn) adamïš ol bolur mängi tep :
2) yügärü-ki adqanγu-larta köngül-kä
3) qaršï-sïn bu tuγurur üčün : örläd
4) -mäkin anïn adamïš ol bolur ämgäk tep
5) [　]dünki iki bälgü-lär yoq üčün
6) [　　]öz-lämiš ol iki ärmäz tep
7) [　] täginmäk uyur üčün öz
8) -kä alïnγ[　　]rtmäkig anïn söz
9) -lämiš ol ü[　　]ndäči tep bu oq
10) inčip ärür üčün [　] vibakdi
11) ymä ök är-kä tayaq-lïγ temiš-täki
12) nïng samaz tägingäli ašγalï [　]ïnga
13) tayaq-lïγ-ïn : yänä bölünüp bolur
14) üč 能益身心 uyur üčün
15) üklidgäli ät'öz-li köngül-lig anïn
16) adï bolmïš ol mängi tep : uyur üčün
17) quruldurγalï ät'öz-li köngül-lig

79 Cf. 蘇軍（1995）p.170.

18) anïn adï bolmïš ol ämgäk tep :
19) bar öz-kä alïnγu-luq-ï : inčip
20) ämgäk ymä mängi ymä ärmäz : adï bolur
21) täng tep : qaltï qara ymä ärmäz
22) yürüng ymä ärmäz qïlïnč temiš
23) täg : tïlday-ïn tuta bölünüp altï
24) bolur qaltï köz bürtmäk-intin
25) tuγmuš täginmäk ulatï köngül bürd
26) -mäkintin tuγmïš täginmäk ärür :
27) qaltï ärklig adqanγu bilig üčägü
28) qatïlmaq qavïšmaq-ïntïn birgärü

Verso

疏卷第二　　七十五葉

1) tuγar bürtmäk (° bürdmäk) tuγurur üčün +bürd
2) +mäkin täginmäk-in adamïš ol köz
3) bürtmäk-intin tuγmïš täginmäk
4) tep : ančulayu oq bilmiš krgäk
5) burun til ät'öz köngül-tä ulatï
6) antaγ oq tep : 阿闍梨 ač[ ]
7) ayaγ-qa tägimlig sangga[ ]
8) söz-lär : bürtmäk [ ]
9) öz-kä alïndačï[ ]
10) ulatï sävinč[ ] üčün [ ]
11) ynč' [ ] atï bolur täginmäkig
12) ü[ ] tep : inčip munta
13) [ ]či ašadačï tep yörüg ol :
14) [ ]nä bölünüp üč bolur : qaltï
15) mängi ulatï ämgäk täg anïn adï
16) kötrülmiš yrlïqamïš ol : mängi tägin
17) -mäk-kä eyin yaraši bürtmäk ämgäk
18) täginmäk-kä eyin yaraši bürtmäk
19) ulatï täng täginmäk-kä eyin yaraši
20) bürtmäk tep 是 munta mängi täginmäk
21) -tä ulatï-lar-ta öz-kä alïnγu-luq
22) bürtmäk tep yörüg ol : 領所緣
23) 受 adqaγ-ïn öz-kä alïndačï täginmäk
24) -ning bir adqanγu(-luq nom) birlä-ki : adïrt
25) öngi bälgü-sin alp bolur uqγalï
26) bilgäli anïn eyin yaraši bürtmäk

27) öz-kä alïntačï-sï-nïng adï bolur
28) täginmäk tep 疏主彼不應理 ol

1.2.2.2.3 B128:13 の翻譯と注

譯文に先行させるウイグル文は、文字 d, t も含めて音素轉寫した。缺落部分は[ ]の中にできる限り再構した。{ }には省略された文字を補った。

1

<Recto> 1) üčün (anïn) atamïš ol bolur mängi tep : 2) yügärü-ki atqanγu-larta köngül-kä 3) qaršï-sïn bu tuγurur üčün : örlät 4) -mäkin anïn atamïš ol bolur ämgäk tep 5) [öng]dünki iki bälgü-lär yoq üčün 6) [anïn s]öz-lämiš ol iki ärmäz tep 7) [ ] täginmäk uyur üčün öz 8) -kä alïnγ[alï eyin bü]rtmäkig anïn söz 9) -lämiš ol ü[kmäk tägi]ndäči tep bu oq 10) inčip ärür üčün [nïng] vibakti 11) ymä ök är-kä tayaq-lïγ temiš-täki 12) nïng samaz tägingäli aš{a}γalï [umaq]ïnga 13) tayaq-lïγ-ïn : yänä bölünüp bolur 14) üč

「故に「樂である」と名づけた。 現前の境において心への違（によって）、これが惱亂を生む故、それで「苦である」と名づけた。前の二相が無い故、それで「非二」と説いた。・・受は隨觸を能く領納する故、それで「受蘊」と説いた。これすなわち屬格また依士釋である故、能く受用することに依て、また別れて三となる。」

上記ウイグル文の内容は 1.2.2.2.1 に掲げた『倶舎論』中の頌に續く長行、すなわち「論曰受蘊謂三領納隨觸即樂及苦不苦不樂」を釋したものである。3) の qaršï-sïn の-sïn は 3 人稱單數對格を表す。ここでは具格表現として譯したが、本來具格は qaršï-n で表わされる。一方對格表現として「現前の境において心への違をこれが生む故、惱亂によってそれで「苦となる」と名づけた」と讀めなくもない。6) 行目の iki ärmäz「非二」(何れでもないこと) は、「樂及苦不苦不樂」すなわち「樂」(mängi) と「苦」(ämgäk) と「不苦不樂」の三のうちの「不苦不樂」に對して用いられた： cf.「順樂苦非二」(『倶舎論』大正 Vol.29, p.81a *l.*20),「明無非二」(『倶舎論』大正 Vol.29, p.52c *l.*15)。7)~8) の täginmäk uyur üčün öz-kä alïnγ[alï eyin bü]rtmäkig「受は隨觸を能く領納する故」は 1.2.2.2.1 で掲げた『倶舎論』頌の第 1 句「受領納隨觸」に相當する。9) 行目 ü[kmäk tägi]ndäči「蘊を受けるもの」を「受蘊」に當てたが、本來なら täginmäk ükmäk (~täginmäklig ükmäk) が立つ： cf. öng yükmäk「色蘊」 qïlïnč yükmäk「行蘊」 bilig yükmäk「識蘊」(第 4 章 yükmäk~ükmäk の項)。 bu oq inčip は「これすなわち」(此則) を顯す：bu oq inčip ärür čïnlayu abidarim「此則勝義阿毘達磨」(第 4 章 oq の項)。10)~12) 行目 nïng vibakti「屬格」、nïng は屬格表示接尾辭、vibakti < Skt. vibhakti「名詞格」。är-kä tayaq-lïγ temiš-täki nïng samaz の är-kä tayaq-lïγ は「士に依るもの」すなわち「依士」、nïng samaz は「nïng 語釋」すなわち「依士釋」。samaz < Skt. samāsa. är-kä 以下の全體は「士に依るものというものにある依士釋」と直譯できるが、結局「依士釋」を表示する。全く同じ表現がロンドン本 A564 にも見られる。「屬格」「依士釋」については 1.4.3.1.1 を參照。12) 行目 tägingäli aš{a}γalï [umaq]「能く受用すること」＝「感覺が對象を能く享受すること」。

2

能益身心 uyur üčün 15) üklitgäli ät'öz-li köngül-lig anïn 16) atï bolmïš ol mängi tep : uyur üčün 17) quruldurγalï ät'öz-li köngül-lig 18) anïn atï bolmïš ol ämgäk tep : 19) bar öz-kä alïnγu-luq-ï : inčip 20) ämgäk ymä mängi ymä ärmäz : atï bolur 21) täng tep : qaltï qara ymä ärmäz 22) yürüng ymä ärmäz qïlïnč temiš 23) täg :

「能く身と心とを益す故、それで名は「樂」と爲る。能く身と心とを損ずる故、それで名は「苦」と爲る。納領するところ有り、而して苦も樂も非ず。名は「等」と爲る。ちょうど黒にも非ざる、白にも非ざる業といった如し。」

上掲ウイグル文は以下の『順正理論』とほぼ一致する： 能益身心故名爲樂能損身心故名爲苦有所領納而非苦樂名不苦不樂如非黒非白（『順正理論』大正 Vol.29, p.338c *ll.*7-9)。ウイグル文は「名不苦不樂」に對して 21) 行目 täng「等」が當てられているところが『順正理論』と大きく異なる。19) 行目 öz-kä alïnγu-luq-ï「自らへ得られるところ」=「領納」(Skt. vedanā)

3

tïltaγ-ïn tuta bölünüp altï 24) bolur qaltï köz bürtmäk-intin 25) tuγmuš täginmäk ulatï köngül bürt 26) -mäkintin tuγmïš täginmäk ärür : 27) qaltï ärklig atqanγu bilig üčägü 28) qatïlmaq qavïšmaq-ïntïn birgärü <Verso> 1) tuγar bürtmäk tuγurur üčün 2) täginmäk-in atamïš ol köz 3) bürtmäk-intin tuγmïš täginmäk 4) tep : ančulayu oq bilmiš krgäk 5) burun til ät'öz köngül-tä ulatï 6) antaγ oq tep :

「その因を取って別れて六と成る。謂く眼觸から生じた受（より）、乃至意觸から生じた受である。謂く根境識の三和合から俱に生じる觸を起こさせる故受を「眼觸から生じた受」と名づけた。このように知らねばならない。鼻舌身意等もこの如し。」

このウイグル文の内容は 1.2.2.2 で掲げた『倶舍論』長行中の「此復分別成六受身謂眼觸所生受乃至意觸所生受」を釋したものである。また、『倶舍論』第 10 卷の次の内容と類似するところがある：「觸有六種所謂眼觸乃至意觸此復是何三和所生謂根境識三和合故有別觸生」(大正 Vol.29, p.52b *ll.*7-9)

23) 行目からの altï bolur「六と成る」というのは眼、耳、鼻、舌、身、意の觸に應ずる受となることをいう。28) 行目 qatïlmaq qavïšmaq「和合」: cf. yänä parmanuta öngi yoq qatïl-mïš qavïš-mïš öng「又離極微無和合色」(第 4 章 parmanu の項)。

4

阿闍梨 ač[ari] 7) ayaγ-qa tägimlig sangga[badre baxšï] 8) söz-lär : bürtmäk [eyin inčip tuγup] 9) öz-kä alïndačï[sävinč] 10) ulatï sävinč[siz] üčün [ ] 11) ynč' [ ] atï bolur täginmäkig 12) ü[kmäk] tep : inčip munta 13) [tägindä]či ašadačï tep yörüg ol : 14) [bu yä]nä bölünüp üč bolur : qaltï 15) mängi ulatï ämgäk täg

「阿闍梨、尊者衆賢が云う：觸に隨って而して生じ、可愛及び不可愛・・領納するもの・・・名は受蘊・・と爲す。即ちここで能受用という義である。此れはまた分かれて三となる。謂く樂及び苦のごとし。」

7）行目 sangga[badre] は Skt. saṃghabhadra（衆賢）に對應する。ayaγ-qa tägimlig sangga[badre baxšï] söz-lär はロンドン本にも現れ、そこでは「阿闍梨衆賢云」（75B36）あるいは「大衆賢説」（A1805）の漢字が冠されている。ここでは單に「阿闍梨」とあるが、もとの漢文にはおそらく「阿闍梨衆賢云」が入っていたであろう。漢文『實義疏』第3卷にもやはり「阿闍梨衆賢云」が複數箇所現れる： cf. 蘇軍（1995）pp.179, 182. この ayaγ-qa tägimlig sangga[badre baxšï] söz-lär「尊者衆賢が云う」以降 26）行目までは『順正理論』の 2 カ所からの引用である。上の 15）行目までは以下の一文と對應している。 隨觸而生領納可愛及不可愛俱相違觸名爲受蘊領納即是能受用義此復三種謂樂及苦（『順正理論』大正 Vol.29, 338c *l*.5-7）。

5

anïn atï 16）kötrülmiš yrlïqamïš ol : mängi tägin 17）-mäk-kä eyin yarašï bürtmäk ämgäk 18）täginmäk-kä eyin yarašï bürtmäk 19）ulatï täng täginmäk-kä eyin yarašï 20）bürtmäk tep 是 munta mängi täginmäk 21）-tä ulatï-lar-ta öz-kä alïnγu-luq 22）bürtmäk tep yörüg ol : 領所緣 23）受 atqaγ-ïn öz-kä alïndačï täginmäk 24）-ning bir atqanγu(-luq nom) birlä-ki : adïrt 25）öngi bälgü-sin alp bolur uqγalï 26）bilgäli anïn eyin yarašï bürtmäk 27）öz-kä alïntačï-sï-nïng atï bolur 28）täginmäk tep 疏主彼不應理 ol

「故に世尊は言われた：「樂受に順ずる觸、苦に順ずる觸、及び等受に順ずる觸」と。ここは「樂受等における所領の觸」という義である。所緣を領ずる受の一境もてる法とともにある差別相を了知することは難しい。故に隨觸を領納するものの名は受となると。彼の」

上掲ウイグル文の 26）行目までは次の『順正理論』と對應している： 故世尊言順樂受觸順苦受觸及順不苦不樂受觸是樂受等所領觸義領所緣受與一境法差別之相難可了知（大正 Vol.29, p.338c29-339a1）。20）行目の漢字「是」は「文」とも讀める。しかし、「是」に續く munta と同一内容であり、『順正理論』漢文の「是樂受等」の「是」を挿入したものと考えるべきである。22）~23）行目の「領所緣受」も同じ内容が直下にウイグル語譯されている。26）行目から 28）行目までの eyin yarašï bürtmäk öz-kä alïntačï-sï-nïng atï bolur täginmäk「隨觸を領納するものの名は受となる」というのは 1.2.2.2.1 で掲げた頌の第 1 句「受領能隨觸」に當たる。28）行目「疏主彼不應理」の「疏主」は Sthiramati（安慧）を指す。ロンドン本では「疏主」の冠された漢字列の直下には ästiramati (~istiramati) が立つが、ここではそれが省略されて釋文初頭の「彼」が ol として譯出されている。Cf. 疏主此説非理 istiramati baxšï sözlär bu sözlämišingizlär törüsüz ärür「安慧師が解く：この汝らの説は非理である。」（75B1653-1654）。

1.3 ウイグル文及び漢文『實義疏』と『倶舍論』との關係圖

以上をふまえて、現在傳わっているウイグル文と漢文の『實義疏』、及びそれらと『倶舍論』との對應關係を圖示してみれば次のごとくになる。



1.4.『實義疏』の使用したウイグル語の特徴

ここでは、『實義疏』に使用されたウイグル語についてロンドン本を中心に考えてみた。

1.4.1 文字

ロンドン本『實義疏』に使用されたウイグル文字はいわゆる「後期草書體文字」といわれる文字で、多音文字化が進んでいる。語頭と語中位で y と v の音を表す文字の區別はなく、いずれも文字 y で表記される。語中位の a/ä 音を表す文字 ' は n 音を表す文字と、特別の場合を除いて字體上の區別はない。語中位では文字 ' と文字 r との字體上の區別もかなり難しい。語中位の q/γ 音を表す文字 q も特別の場合を除いては文字列", 'n, 'r, n', r', nr, rn との區別が困難である。s š 音も特別の場合を除いては區別されず、いずれも文字 s で表記される。文字 s は語中位では z ž 音表示にも使用される。これらにさらに母音表記文字の多音字性が加わるので、語形式の決定は容易ではない。上で「特別の場合」というのは、n 表示文字の左傍に 1 點を、q/γ 表示文字の左傍に 2 點を、š 表示の右傍に 2 點を付けてこれらの音を明示するもので、次の場合に使用される。

1)「'」 の連用される場合

tarγaryuluq (A50) t'rq'rqwlwq, 3 つの文字 q の左傍に各 2 點が付されている。前の 2 つは γ を表し、後のものは q を表す。これらの點がなければ單純には t""""wlwq のごとく文字轉寫でき、單語形式の決定は困難になる。ornanu (B1949) 'wrn'nw の n にも各 1 點が付せられているが點がなければ單純には 'w""w のごとく文字轉寫することもできる。

2)「'」が明示されずに線として表記される場合

adaγalï (A771) は "d — ly と綴られているが、— の中程の左傍には 2 點が付けられている。この 2 點はこの位置に γ のあることを示したのである。bolγay (A801) も bwl — y と綴られ、やはり 2 點がある。これも γ を表示した。

3) 語が行末で分斷され、次行にわたって分かち書きされる場合

ayančang (A170-171) üntürüp (A2495-2496) は "y'n-č'nk 'wyn-twrwp と綴られているが、"y'n と 'wyn の n の左傍には各 1 點が付せられている。baxšï (A185-186) は p'q-šy と綴られている。q と š には各 2 點が付されている。

4) 借用語を表記する場合

anušayakoš (< Skt. anuśyakośa A2826) "nwš'y'kwš ši-i (< Chin. 濕衣 A2806) šy-y aširay (< Skt. āśraya B47) "šyr'y viyančan (< Skt. vyañja-na B755) vyy'n-č'n 文字轉寫形式の n と š にはすべて點が施されている。

ウイグル文獻中、とりわけ初期のテキストでは γ と區別するために q を表示する

文字に 2 點を施したが、『實義疏』では兩者を區別するためではなく、上に述べたごとくγやqを' (a, ä), n, rなどと區別するために施されている。なお n に 1 點をつけて ' と區別するのは後期ウイグル語文獻の特徴である。

ウイグル語文獻におけるウイグル文字 t と d との混用は 10 世紀末か 11 世紀初頭に書かれたと推定される『大慈恩寺三藏法師傳』にもすでに現れている。しかし、混用が頻繁になるのは元朝時代の後期ウイグル語文獻においてである。とりわけ t 音に對して文字 d を多用する。この後期ウイグル語の特徴は『實義疏』にも見られる。Ex. titig「泥」tydyk A1116, A1124, A1153 qatïn「層」q'dyn A63, A534, B813, B2053. 混用の原因についての定説はない。今、その原因について少し考えてみたい。まず、後期ウイグル語が漢語との接觸によって音韻面において大きな影響を蒙り、その結果、聲の對立が氣音の對立に變わり、有聲と無聲の區別が困難となって、たまたま文字上からその區別をもつ齒莖音にそれが現れたと假定することができる。實際現代チュルク語の中にはサリグ・ヨグル語やサラル語のように周邊の漢語話者との交流から、音韻體系が漢語化した言語もある。聲の對立が氣音の對立に移行した場合、無聲音は有氣音に、有聲音は無氣音に變わる傾向があり、サリグ・ヨグル語やサラル語にもそれは見られる。しかし、もとの無聲音の多くがまた無氣音でも現れている。これと同樣のものが後期ウイグル語において起こったとしたらどうであろう。有氣音はウイグル文字 t で、無氣音は文字 d で表記される可能性はある。そして無氣音化した元の無聲音が d で表記されるなら、もとのウイグル語の t 音に文字 d で書かれるものが頻出する。だが、サリグ・ヨグル語やサラル語では初頭音においてももとの無聲音に對する無氣音がしばしば現れる[80]。したがって後期ウイグル語のテキストにも語頭位の文字 d が出るはずだか、借用語を除いてそれはない。したがって、文字 t と 文字 d との頻繁な混用が漢語音化の結果と考えるのは無理である。

一方、これをモンゴル語の影響と考えてみた場合はどうであろうか。元朝時代のモンゴル語が有聲對無聲の對立を持っていたのか、あるいは現在のハルハ方言のように軟音對硬音の對立を持っていたのかは判然としない。しかし t 音と d 音の區別はあった。ただその分布にはウイグル語と大きな違いがある。ウイグル語では語頭には t 音のみで d 音は現れないが、モンゴル語には d 音も現れる。一方語末位ではウイグル語は壓倒的に t 音が現れるのに、モンゴル語の語末は d 音のみが現れ t 音は現れない。ただし、正字法では語頭と語末では文字 t を用いる。語中位では子音の前では文

80 ウイグル語の t に對してサリグ・ヨグル語とサラル語では次のような對應を示す。

Uig.	S.yoγur	Salar	
at	aʰtʰ	atʰ	「馬」
ot	oʰtʰ	tʃob < Chin.	「草」
teri	tʰerə	tʰirə	「皮膚」
taγ	tʰaʁ	taʁ	「山」
tar	tʰar	tar	「狹い」
taš	tas	taʃ	「石」
altun	aʰltən	altʰun	「金」

字 t が現れるが、それ以外は t 音にも d 音にも文字 d を使用する。モンゴル語ではウイグル文字を獨自に組織化し、獨自の表記法を使用した。この表記法はすでに元朝時代に書かれたモンゴル語文獻にも見られる。もし、ウイグルがこのモンゴル語の表記法に影響されたとすれば、語中位の文字 d が t と d の兩音に使用される點のみである[81]。

もう 1 つの考えは、ウイグル語の文字 t と d との混用が字體の變化に關連して起こったというものである。もともと d はイイのように一旦筆を離して次文字を續ける必要があったのを、この時代においてはイのごとく一筆に次文字と連續させることができるようになった。文字 t もイのように一筆に書けるが、d よりは複雑な文字である。一方文字 n r q は上掲のごとく後期の草書體文字においては文字 ' あるいはその結合形式 " と區別できなくなる。したがって w と ' との結合からなる草書體文字 t は ' をもつことによって、語中の文字分節を複雑にする。それよりは文字 d に音素 t と d を擔わせた方が合理的である。讀み手あるいは書き手にとって、視覺における文字分節の複雑さよりは 1 文字内の音の選擇の方が容易である。この理由で語中の文字 t と文字 d との混用が起こった可能性はある。

以上ウイグル文字 t と d との混用の原因について考えてみた。現時點では原因の可能性しか述べられない。

このテキストにおいても文字 v と y の區別は無い。文字 v はおそらく形態の類似する文字 w との混同を避けるために、後期文獻では y と同形になり、文字 y の中に音素 y i ï e と竝んで v を選擇させることになったと考えられる。音素配列上 w との混同よりはその選擇の方が容易である。

『實義疏』中には頻出する單語形式の綴りが簡略化され 1 種の記號となるものがある。ädgü は 75A において、2733 行目までは 'dkw と綴られているが、それ以後に現れる形式は𐽆 (A3556, A3562, A3564, A3572, A3579) 𐽆 (A4360, A4372, A4452, A4454, A4456) のごとく段階を經て記號化している。これは表音文字であるウイグル文字が漢字の影響を受けて表意文字化した結果であるということもできる。

ところで、75A と 75B との間には、若干ではあるが、綴字法上の異なりが確認できる。たとえば、文字 t と d とは兩テキストにおいて共に混用されているにも拘らず、yindäm「唯」は 75A では全て yynd'm と綴られ、75B では若干の例外を除いて常に yynt'm と綴られている。また ulatï「及び」や qaltï「謂わく」は 'wl'ty, q'lty と綴られるのが一般的であるのに、75B には 'wl'dy, q'ldy の綴字例もかなりある。また、tep temiš「・・といった」や tep tesär「・・というなら」は 75A では typtymys や typtys'r のように連續書きされているのに 75B では常に typ tymys, typ tys'r と分かち書きされている。このような異なりが翻譯者の表記の相違によるものか、書寫人の表記の相違

81 ただし、ウイグル語では希ではあるが d が文字 t で書かれることもある。

によるものかの判斷は難しい。

1.4.2 音韻と形態

ロンドン本『實義疏』のウイグル語にみられる音韻・形態は傳統的ウイグル文語から際だって異なる特徵を示さない。ただ若干の音變化にともなって生じた形態上の特徵は、このウイグル語が後期のものであることを示している。ärdäm に對する ädräm「德」「功能」(A44, A186, A1032, B227, B413, B940)、qurtul-に對する qutrul-「解脫する」(A256, A386, A1012, B737, B740, B831)、al-ï「得て」(副動詞) に對する al-u (B442)、bil-ir「知る」(アオリスト) と併用される bil-ür (B680)、kärgäk-läp「必ず」と併用される käräk-läp (B767) はいずれも後期ウイグル語に特徵的な形態といえる。さらに、最後期に起こったと考えられる子音間への母音の插入、あるいはウイグル語文獻中では希有と云える形式について以下に觸れてみたい。

1.4.2.1 子音間への母音插入

子音間への母音插入もこのテキストにはしばしば見られる[82]。

asïra「下」(A1144, A2622, B1272, B2361) ← asra
bürit-「觸れる」(B1455, B1457, B1459, B1664) ← bürt-
qalngula-「漂う」(A2039, A2100, A2102) ～ qalangula- (A2064)
qatnayu「重ねて」(A357, A537, A965, etc.) ～ qatïnayu (B256, B1344, B1597)
qutrul-「解脫する」(A256, A322, A897, A912, A1101, A1170) ～ quturul- (B778)
utru「對して」(A2053) ～ uturu (B984)
yalnguq「人」(A304, A305, A307, A764) ～ yalanguq (A183, A262)
yaltrïq「明」(A3173) ～ yaltïrïq (B1535, B1678, B2206, B2212, B2214)

上揭例から判斷できるように母音插入は 75A より 75B においてより進んでいることが解る。1.2.1.4 にも述べたように 75B は 75A より遲い時代のウイグル語の特徵を示している。

1.4.2.2 希有な形態

『實義疏』には他のウイグル文獻に例を見ないか、あるいはごく希にしか見られない形態も多い。75A に現れるものは第 3 章のテキスト注に解說したが、語源の不明なものもある。だが、漢語との對照あるいは文脈からそれらの意味は明確にできる。

1.4.2.2.1 希有な自由形態素

1) tüšüt と yïd yuq

たとえば、tüšüt はこれまで、BTT-XIII (Zieme 1985) に tüšüt ögrätig として一度現

82 サンスクリット起源語彙の母音插入については 1.2.1.3.1 に觸れた。

れた。語源は明確でないが、P. ツィーメはこの熟語に 'Denken' の譯語を與えている[83]。この熟語形式は『實義疏』には 4 箇所にみられる （A835, A993, A1006, A1012)。さらに、tüšüt に 接尾辭 -lüg の付いた形式 tüšütlüg が B2356 に現れる。

altïn oruntaqï köz 慣 tüšüt-lüg üčün yoγun öngüg körmäktä （B2356-2357)

tüšüt-lüg には漢字「慣」が先行しているので、その漢字のウイグル語譯と考えられる。この文脈は『順正理論』巻八の「串見麁色」（大正 Vol.29, p.375c）とも對應するので tüšüt-lüg が漢語「慣」や「串」に當たる意味をもっていたと判斷できる。このウイグル文を「下地にある眼は麁色を見ることにおいて慣れている（串れている）故」と譯すことができる。一方、tüšüt ögrätig の ögrätig は「教えること」あるいは「習うこと」を意味する。tüšüt が「慣」を表すので、この熟語には「慣習」の語義を與えることができる。實際、次の文脈においてこの語義は文意に適合している[84]。

nizvanïta ür kič tüšüt ögrätig qïlmïš üčün nizvanïqa oxšatï turmïšqa anïn bulmïš ol yïd yuq tegüči atïγ （A1006-1008)

「煩惱において久遠に慣習と爲した故に、煩惱に類似して起こったものは、それで習氣という名を得た」

また、上掲ウイグル文中に波線を施した yïd yuq は 75A に始めて現れる熟語形式である。yïd は「香」「薫」として知られているが、yuq はウイグル文獻には知られていない。だが、Kāšγarī には yūq 'remainder of food (bowl)' が、また新ウイグル語には yuq「付着在器物上的東西」が見られる[85]。文脈から判斷してこの熟語の内容を「薫習」「習氣」 （Skt. vāsanā）と決定できる[86]。

2) miyi suv-ï

miyi suv-ï という形式が 75B の 3 箇所に現れる （B1961, B1964, B1967)。miyi は myyy と綴られているので、mivi とも讀める。suv は「水」である。mivi はペルシャ語の miva「果物」とも通じるので mivi suv-ï「果水」と考えたくなる。實際にトルコ語では meyva suy-u は「果水」を意味する。miyi suv-ï は次の文脈に現れる。

ol tiltä tüü učïnča tänglig ülgülüg yoq til ärkligning parmanu-sï aš ičgü ašaduqta til ärklig tuyar tatïγïn ašïγ singirgäli uγramïš ödtä tüpütin bir tamïzïm miyi suv-ï tüšüp turup aš

83 Cf. Zieme (1985) p.239.

84 ここでは「慣」「串」は類似の内容をもつが、翻譯の原典には後者の形式が現れる。ウイグル文中の「慣」は書寫人が任意で入れた可能性が大きい。

85 Cf. Kāšγarī 3, p.234, 『漢維詞典』p.611.

86 Cf. 若於諸法味勢熟德數量處時同異等相。不能如實覺。是不染無知。此不染無知。即名習氣。(『順正理論』大正 Vol.29, p.502a)。

üzäsintä aš birlä yörgälip boyuzqa enär birök sözläsär til ärklig tüzü til üzäsindä bolur tep miyi suv-ï aqmïš ödtä anïng tatïγï alγuluq ärdüki üzä 問 ötrü qošγu kärgäk ol qayu ašamïš ašïγ nätäg tep tesär tiltä yarïmča yoq üčün ol til ärkligning parmanu-sï anïn tuymaz ol miyi suv-ï-nïng yavïz tatïγïn (B1960-1967)

「その舌には毛端に等しい量でもって舌根（= 味覺）の極微（= 原子）が無い。飲食を食したときに舌根は味を覺る。食物をまさに飲み込もうとしたとき、上から一滴の miyi suv-ï が落ちてその食物の上にとどまり、食物とくるまって喉へ降りる。もし舌根が遍く舌の上にあると説くなら、miyi suv-ï が流れ（落ち）たときに，それ（=miyi suv-ï）の味は、得られた所（=落ちた所）において、即ち食した食物と結び付くにちがいない。如何にしてというなら、舌において舌根の極微は少分として（=一部分に）存在しない故、それで（そこに落ちるなら）miyi suv-ï の惡い味を覺らない。」

上掲ウイグル文中の「問」は不要である。miyi suv-ï が「果水」でも、文脈を外れるものではない。しかし、「舌根」(jihvêndriya) について『倶舍論記』には次のような文がみられる。

「醫方家説。於舌根中如毛端量無舌根處。是末磨死節。若針刺著其人即死。舌中法爾有斯空所又解於人腦中有極臭穢不淨腦垢。若見飲食腦垢流出滯此空處。若無此處承此腦垢。觸著舌根令人嘔吐不能飲食」（大正 Vol.41, p.53 *ll.*13-18）

この漢文の内容は上のウイグル文のものと重なる。miyi suv-ï は「腦垢」に對應している。miyi「腦」は *beñi から發達した形式で、ウイグル文獻には Zur Heilkunde der Uiguren I の 63 行目と 89 行目に 2 例が知られている[87]。miyi suv-ï は直譯すると「腦水」となるが、ここでは「腦垢」を意味したことが理解できる。。

3）ödüt äšid-

ödüt は副詞として「しばしば」(B1956) を表したり、ödüt äšid-（～ äšidil-）で「傳聞する」(2015, 2106, 2532, 2534) の内容を表す。

以先傳聞 ašnu öngrä ödüt äšidmäk üzä bu abidarim ärür katyanaputre arxant yaratmïš tep (A2015-2016)

「先に、この阿毘達磨は迦多衍尼子阿羅漢が造ったと傳聞することによって」

ödüt は öd「時」にモンゴル語の複數表示接尾辭 -üt (< -üd) の付いたものと考えたい。

87 Cf. G. R. Rachmati, Zur Heilkunde der Uiguren, *SPAW* 1930, pp. 451-473.

1.4.2.2.2 希有な拘束形態素

拘束形態素にも新形あるいは、従來の形式ではあるがその用法において特異なものがみられる。

1) (bir)-si

數詞 bir「1」に人稱所有接尾辭（3 人稱）のついた形式はウイグル語では bir-i が一般的であるが、語幹末が母音におわる iki「2」に同種の接尾辭のついた形式 iki-si からの類推形 bir-i-si の現れることもある。しかし『實義疏』には bir-i-si をさらに發展させた形式である bir-si が使用される（A1775, A1756, A1809, A2542, B328, B760）。この形式は滅多に現れないものである[88]。

bïšrunmaq tözlüg bilgä bilig yaqïn bir-si ärür （A1808-1809）
「修の性もてる慧は無漏慧に近い一つである」

2) (ikinti)š-kä

bir ikintiš-kä「お互いに」は古くは TTVIII に同形が現れ、*EDPT*（p.111b）のように誤寫形と考えられていた[89]。しかし、この形式は『阿含經』などの後期文獻に希に見られることがわかった[90]。『實義疏』にも 2 箇所に同じ形式が現れる（B344, B1730）。

odγuraq bir ikintiš-kä qošuγluγ sanïšlïγ ärür （B344-345）
「定んで互いに屬するものである」

ikinti-š の -š は動詞相互形表示の -š からの類推形と推定できる。

3) -mtï （指小表示）

qara-mtï（B2112, B2123, B2160）は「闇い」「闇黒」の内容を表す。

öz tözi birök qurulmïš ärsär ünmiš tuγmïš bilig ötrü qara-mtï bolur （B2111-2112）
「自性がもし損じたなら、發起した識は即ち闇黒となる」

-mtï は指小表現の接尾辭と考えられるが、現代チュルク語にも類似の形態がみられる。アルタイ方言には qara-mtu「黒っぽい」が存在するし[91]、新ウイグル語には qara-mtul「淡黒的」がある[92]。-mtï は -mtïr あるいは -mïtïl の形式に遡るものと考えられる。

---

88 他にはやはり後期ウイグル語で書かれたタントラテキストである BTTVII (Kara/Zieme(1976)) p.41, *l*.234 に yïčïn oot bir-si として現れる。

89 A.von Gabain（1954）: Türkische Turfan-Texte VIII *ADAW*, p.50 G18 ikindiškā.

90 Cf. 庄垣内（2003b）p.215 *l*.1.

91 Cf. Shcherbak（1977）: *Ocherki po sravnitel'noj morfologii tjurkskikh jazykov*, Leningrad, p.116.

92 Cf.『維漢』p.678.

4) -γalïr/gälir （目的表示）

動詞の接尾辭 -γalïr/gälir は、目的表示の接尾辭 -γalï/gäli の擴張形と考えたい。この形式は『實義疏』では üčün「故に」に先行してしばしば漢語の「爲・・・故」に對應する。同じ用法は Daśakarmapathāvadānamālā にもみられる[93]。

angayu adïrïp üč qïlmaqï ärsär uqïtγalïr üčün ärür partakčan bošγutluγ bošγutsuz orun üzä üč körümlärning adïrïlmïšïn （B875）

「別に開いて三と爲すのは、異生、有學、無學地における三つの見が區別されたことを顯わすためである。」 漢文：別開三者爲顯異生學無學地三見別故。

5) u （接續詞）

ペルシャ語の接續詞 va（「そして」「また」）は現代チュルク語では新ウイグル語やウズベク語あるいはトルコ語などに借用されている。この接續詞は、ウイグル語においては明代に作られた『高昌館譯語』（「華夷譯語」）のいわゆる「來文」に u として現れることが知られている[94]。ところで『實義疏』の A3588, B473, B709, B972 に現れる文字 w を u と讀んだが、この u が『高昌館譯語』のものと同じく「そして」「また」を表すペルシャ語 va からの借用語形式の可能性はある。

ärklig ulatï atqanγu bilig (bir) bolup u ol bir ikintikä eyin udu yörüglüg üčün anïn atï bolmïš ol birikmäk tep （B472-474）

「根、及び境、識が一つとなって、そして（また）、それが相互に隨順する義をもっている故、それでその名は同となった。」

實はこの接續詞はウイグル文獻にもう 1 箇所、すなわち龍谷大學所藏の極小斷片 No.7166 にも現れる。この斷片のものは『高昌館譯語』の u と同じくアラビア文字の wāw に似せたかのように文字 w が縱に長く書かれている[95]。

6) šu （願望・命令の強調）

動詞命令形に先行する小詞 šu が 3 箇所 （A622, A3978, B1659）みられるが、文脈から判斷してこの小詞は「願望・命令の強調」を表するものと考えたい。

kkirlig bilmämäk šu bolzun yumdaru tört kertülärtä ulatï bïšrunmaq yolta taryaryuluq （A621-623）

「染無知は總じて四諦において、及び修道において、所斷となるべし！」

---

93 Uigurica III pp.54 *l.*17, 68. *l.*29. 庄垣内他（1998）p.144, *l.*1197. なお Erdal（2004 pp.271, 490）では、-γalïr/gälir が-γalï/gäli と är-の結合からできた可能性を述べている。

94 Cf. L.Ligeti, Glossaire supplélementaire au vocabulaire sino-ouigour du Bureau des Traducteurs. *AOH* XXII（1969）p.206.

95『西域文化研究』第四（1961）p.197.

この小詞は本書 2.2 の『倶舎論』頌の注釋書斷片にも現れるが、そこでは動詞に直結していない。:

birök tutulsar šu säkiz koošlardaqï yörüglärning kärgäklig tügünin yumdarïp uqïtzun (D23-25) [96]

「もし保たれているなら八倶舎にある義の要綱を總じて標すべし！」

以上でみた特異な形態はいずれも後期ウイグル語の特徴として捉えることができる。

1.4.3 佛教術語

ウイグル語の佛教術語の主體は、トカラ語やソグド語を仲介して定着したサンスクリット起源の形式と漢語からウイグル語譯された形式から構成されている。ソグド語を仲介したサンスクリットはマニ教を通して導入された。しかし大多數のサンスクリットはトカラ語を經由している。トカラ語佛典には論書も見られるが、多くは説話を中心とした經典類であり、ウイグル語中のトカラ語經由の語彙も基本的には經典を通して導入された。

現在知られているウイグル文アビダルマ論書は全て漢語から翻譯されている。その中にはサンスクリット起源の語彙も含まれるが、佛教術語の多くは漢語からウイグル語譯された語彙である。一方そう多くはないが漢語からの音借用形式もある。本節では『實義疏』以外のアビダルマ論書のデータも參考として使用する。

1.4.3.1 譯語としての佛教術語

ウイグル語に翻譯された術語は『實義疏』内だけでなくアビダルマ論書一般に通用する安定したものである。これら術語の構成法には、説明的なものと、直譯的なものとがある。

1.4.3.1.1 説明的な譯語

下例に示すように説明的な譯語というのは語の内容をウイグル語で説明した譯語であり、ウイグル語文法にも從っている。

amtï yorïyu turur 「今行っている」=「正行」(A3964) Skt. gacchat

atqaγ atlγ basutčï「所緣という緣」=「所緣緣」(A1783, A3647, A3664, H25R15, H26V25) Skt. ālambana-pratyaya

96 Käšγarï (2, p.259) には baryil šu 'Go!' のごとく動詞命令形に後續したものを見ることができる。šu はベルリン・ブランデンブルグ・科學アカデミー藏『阿毘達磨倶舎論』頌の注釋書斷片 (U5650) にも現れる： birök tutulsar šu säkiz koošlardaqï yörüglärning kärgäklig tügünin yumdarïp uqïtzun「もし保たれているなら八倶舎にある義の要綱を總じて標すべし！」 本書 2.2.3, D23.

ärksinmä atlγ basutčï 「増加という縁」=「増上縁」(A3703, A3754, H25R11)
Skt. adhipati-pratyaya
ärtmiš öd「過ぎた世」=「過去世」(A333) Skt. atīta
bilip öčmäk 「知って、滅すること」=「擇滅」(A675, A676, A679) Skt. pratisaṃkhyā-nirodha
bilmädin öčmäk「知らずに、滅すること」=「非擇滅」(A2932, A2996, H39R52, V54) Skt. apratisaṃkhyā-nirodha
kälmädük öd「來なかった世」=「未來世」(A202, H25V28) Skt. anāgata
ken yorïdačï「後に行くであろう」=「當行」(A3964) Skt. gamiṣyat
közünür öd「現れる世」=「現在世」(A259, H31V62) Skt. pratyutpanna
köngültäki nom 「心にある法」=「心所法」(A615, A928, A1632, A1633, H25R21, H26V16) Skt. caitasiko dharmaḥ
köngül köngültäki nomlar「心と心にある法」=「心心所法」(A1000, A1005, A1012, B39, H25R9) Skt. citta-caittā dharmaḥ
köngültä öngi nom「心より外の法」=「心不相應法」(A615, A981) Skt. asaṃprayukta
kertgünč eyin yorïdačï äränlär「信に隨って行く士」=「隨信行者」(A3822)
Skt. śraddhânusārin
öngrä yorïmïš「前に行った」=「已行」(A3964) Skt. gata
özkä asïγ qïlmaq「自らへ利を爲す」=「自利」(B2021, B2037, B2061) Skt. svârtha
taš azaq nomluγ「外の邪の法もてるもの」=「外道」(H31R28) Skt. tīrthakara ~ tīrthika
tüz arasïz basutčï「等しく間の無い縁」=「等無間縁」(A3648, A3663, B2030, B2031)
Skt. samanantara-pratyaya
udušulmïš yörüglüg「理解された義もてる」=「了義」(A2308, A2309, H37V10)
Skt. nītârtha
udušyuluq yörüglüg「理解されるべき義もてる」=「未了義」(A2308) Skt. neya-artha
yertinčülügdä yeg nom「世において優れた法」=「世第一法」(B601) Skt. laukiâgra-dharma
yoγun saqïnčlïγ yinčgä saqïnčlïγ「粗い考えもてるもの細かい考えもとるもの=「有尋有伺」(B161) Skt. savitarkāḥ savicārāḥ
yolta basaqï bilgä bilig「道において連なる智」=「道類智」(A3831, H38V11)
Skt. mārgânvaya-jñāna
yügärü uqmaq「現に見ること」=「現觀」(A1663, A1897, A2454, H38R12)
Skt. abhisamaya

これらの説明的な譯語の中には漢語とは別の言語からウイグル語譯されたものの存在も否定できない。たとえば yolta basaqï bilgä bilig は漢語では「道類智」に對應する。「類」には普通 uγuš, türlüg, osuγluγ, tözlüg が對應するのに、ここでは -ta basaqï「の次にある」が立つ。一方サンスクリットは mārga-anvaya-jñāna (道-連結 (=類) -智) で、ウイグルはむしろサンスクリットの意味とよく合う。

また以上の他に、サンスクリットの六種の複合語構成の分類を表すいわゆる「六離

合釋」は altï türlüg adïra qabšuru yörgülük samazlar「六種の離れ合して釋する合成語」(A1919) のごとく説明される。さらに八種の格分類を表すいわゆる「八轉聲」は säkiz türlüg sav ävriši vibaktilar「八種の語の轉變」(A1941) と説明される。そして、個々の複合語や格の表現はウイグル語の 3 人稱單數人稱代名詞、格接尾辭、後置詞、小詞によって行われる。たとえば、「依士釋」は ärkä tayaqlïγ temištäki nïng samaz「士へ依るものといったものにある nïng (・・の) 複合語」(A564)、「有財釋」は üküš tavar-lïγ tegüči lïγ samaz「多くの財もてるものという lïγ (・・もてる) 複合語」(A1920)、「主格」は ol tegüči vibakti「それ (は) という格」(A3991)、「與格」は anga tigüči kä vibakdï「それへという kä (・・へ) 格」(A1339) のごとく説明される。なお、個々の複合語と格のウイグル語形式は次のごとくである。

oq samaz「持業釋」(karmadhāraya A4413, A4418) oq は小詞 (「すなわち」)。Ex. ol oq ol「それ即ちそれ」。

nïng samaz「依士釋」(tatpuruṣa A564, A566, A573, A583, A1933, A1941, A1960, A3518, A4357, A4395) nïng は屬格表示接尾辭。Cf. nïng tegči sav「「の」という語」(SE20) =「依士釋」

lïγ samaz「有財釋」(bahuvrīhi A569, A572, A573, A577, A586, A1920, A1933, A1947, A1955, A1960, A3515) lïγ は所有・所屬表現の接尾辭。

üzä vibakti「具格」(A548) üzä は後置詞 (「・・によって」)。

kä vibakti「與格」(A1339) kä は與格表示接尾辭。

tïn vibakti「從格」(奪格) (A3288, A4355, A4572) tïn は奪格表示接尾辭。

ta vibakti「依格」(位格) (A563, A3287, A4575) ta は位格表示接尾辭。

nïng vibakti「屬格」(A548, A1942, A4393) nïng は屬格表示接尾辭。

samaz < Skt. samāsa「語釋、合成語」

vibakti < Skt. vibhakti「名詞の格」

1.4.3.1.2 直譯的な譯語

アビダルマ論書に現れる佛教術語には明らかに漢語からの直譯形式と考えられるものも少なくない。それらの多くは本來のウイグル語の構造を逸脱したものである。

a)

män atqaγ「我執」(B56, B142, B144, B146, B153, B164, B168) ātma-grāha

män az「我愛」(A1131, A2798, A2806) ātma-tṛṣṇā

män küvänč「我慢」(A1136, A1139) asmimāna

män körüm「我見」(A2798, A2806) ātma-dṛṣṭi

yïd yuq「薰習」(A631, A634, A646, A647, A648) parïbhāvitā~bhāvanā~vāsanā

b)

män mäninglig「我我所」(A1130, A2599, A2601) ātmâtmīyatva

küč qorqïnčsïz「力無畏」(A891)「十力」+「四無畏」bala-vaiśāradya

tügün kärgäklig「綱要」(U5650 R2)「結び目」+「有要」

上段の a) は裸の名詞が名詞あるいは形容詞に前接して漢語と正確に對應している。たとえば män körüm は「われ」と「見」が直接結合して、「自我が有るという見解」を表現する。句構成法は本來のウイグル語としては馴染みのないものである。次の例は存在詞や後置詞が他の構成要素に先行して句をなすものである。

c)

bar adïn baxšï「有餘師」(A220, A460, B1315, B1512, H28V10, H36R39) anye
bar ät'öz körüm「有身見」(A2741, H34R7) satkāya-dṛṣṭi
bar bir baxšï「有一師」(A2985, A3031, A3289, A3389)
eyin yatdačï「隨眠」(A48, B559, B573, B579, B580, H28R33) anuśaya
eyin yorïdačï「隨行」(A1600, A1611, A1690, A1734) anugama~sānucara
birlä bolmïš nom「俱有法」(B321, B331, B565, B580) sahabhū

上掲からたとえば bar ät'öz körüm は「在る－身－見」、eyin yatdačï は「・・に隨って－眠るもの」、birlä bolmïš nom 「・・と俱に－有った－法」と直譯できるが、本來のチュルク語では名詞句として成立しない結合形式である。しかしこれらはウイグル文中で名詞句として分節され、漢語術語「有身見」(Skt. satkāya-dṛṣṭi)、「隨眠」(Skt. anuśaya)、「俱有法」(Skt. sahabhū) の譯語として機能している。このような語の存在はウイグル文アビダルマ論書の文構造の分析を困難にする原因のひとつである。

d)

ol	oq	on	eyin	yat-dačï-lar	ulatï	birlä	bol-mïš	bol-mïš	nom-lar	birlä	yänä
dem. par.	num.	post.p.	stem-v.noun-pl.		conj.	post.p.	stem-v.noun	stem-v.noun	noun-pl.	post.p.	conj.
彼の	十	に	隨って眠るもの		及び	と俱に	有った	有った	法		并びに

eyin	yat-dačï-lar	täg-mäk-lär	är-ür	aqïγlïγ	(B579-581)
post.p.	stem-v.noun-pl.	stem-v.noun-pl.	stem-aor.	noun	
に	隨って眠るもの	至ること	である	有漏	

このウイグル文は通常のウイグル語文法では分析できない。ウイグル文の文脈から先ず漢語ベースの佛教術語に該當するウイグル語形式を決定し、その上で文全體を分析せねばならない。分析過程でこのウイグル文に二つの誤りが見つかる。bolmïš が 2 つ竝んでいるが一つは餘分である。また、eyin yatdačïlar「に隨って眠るもの」(隨眠) も 2 度現れる。2 番目のものは eyin yorïdačïlar「・・に隨って行ずるもの」(「隨行」Skt. sānucara) の誤寫と考えられる。なおここでの tägmäklär「至ること (複數)」は「得」(Skt. prāpta) を意味する。ウイグル文全體は次のように構成素分析できる：

{ol oq}[1] {on}[2] { eyin yatdačïlar}[3] {ulatï}[4] {birlä bolmïš nomlar}[5] {birlä yänä}[6] {eyin yorïdačïlar}[7] {tägmäklär}[8] {ärür}[9] {aqïγlïγ}[10]

{彼の}[1] {十}[2] {に隨って眠るもの}[3] {及び}[4] {と倶に有った法}[5] {并びに}[6] {に隨って行ずるもの}[7] {至ること}[8] {である}[9] {有漏}[10]

↓↓

{彼の}[1] {十}[2] {隨眠}[3] {及び}[4] {倶有法}[5] {并びに}[6] {隨行}[7] {得}[8] {である}[9] {有漏}[10]

↓↓

*彼十隨眠及倶有法并隨行得是有漏

「彼の十隨眠及び倶有法并びに隨行と得は有漏である」

結局、このウイグル文は上のような漢文を翻譯したものと推定できる。

e)

bar adïn baxšï sözlä-r ymä ök yumdar-u üklimä ärür tep (H28V10-11)

exist.v. adj. noun stem-aor. conj. par. stem-conv. noun copula

{有る 餘の 師}{言う}{亦}{通じて} {長養}{である}{と}

↓↓

有餘師言亦通長養

「有餘師は言う、亦、長養にも通ずと」

アビダルマ論書には、このようにウイグル語としては不自然な形態素結合の語句が術語として定着していた。ストックホルム民族學博物館藏『倶舎論』中には körmäk-tä taryar-γuluq「見ることにおいて斷たれること」=「見所斷」(darśana-prahātavya) が一語として切れ目なしに綴られている例がある：kwrm'kt'd'rq'rqwlwq (H34R65)。この句が一術語として定着していた證據となる。1.4.4.1 で述べる擬漢構文と同じく、これらを「擬漢語彙」とよぶこともできる。

1.4.3.2 音借用された佛教術語

1.4.3.2.1 漢語からの借用

ウイグルが唐末西北漢語音の體系を基礎とする漢字音を保有していたことについてはいくつかの議論を經て現在は定着した知識となっている。とりわけロシア科學アカデミー東洋文獻研究所から發見されたウイグル文字表記漢文の斷片類はウイグル漢字音の存在と性格を決定するのに役立った。その斷片の一部をここに掲げてみる[97]：

a)

(1)*[t'y kwnk yw c' t'y t']m ywq : ['yrsy t'm ywq qyy/q'y cw t'n t'y ywq]*

(2)*[sy]kšy 'wd'y l'q : t[']y "ń l'q c' t'yky s[wq]:: [t']yky šyqyw qwd'y šyn :*

(3)*t'yšyq pykyp t'ykysw : t'ymykyp y[w] t'y qwd'y : t'ycwnk vyc' šyqwd'y ::*

97 ウイグル漢字音に關しては、庄垣内 (1995, 1997, 2003b) を參照。ここに例示した漢字音寫テキストは庄垣内 (2003b) pp.15-17 を參照した。

(4)*cy'wq̈wd'y cykwky : qyw v'ńd'w qyw t'ycwnk s̈yńk : vw'wń p'w 'wn*
(5)*qyyq̈wd'y : kyńcwnk syksy q̈wd'ykyn :: q'yc' cypcy t[']yq̈'ń q-' : t'yq̈'ń*
(6)*q'cwnk s̈ylyyyk : t'yq'n q'dwy kycwńk ky : t'yq'nq' t'yq̈'ń q̈-'*
(7)*cwnk s̈yq'n s̈wr :: t'ys̈y cwc[wnk] swyvyswn : t'ycy q'y cwnk cyś̈wś̈yńk :*
(8)*['w]d'y s̈[y]ńs̈wq̈ sykkynq̈w : [yy t']ysysyń [syr ky s̈']:: yyd['y] [s̈_yn]dy cw*
(9)*sylw : yyd'y cykw lycyś̈yń : kwswq̈ t'ylyk t[']y]vwpyn : t'ykwń*
(10)*s̈ynk cy s̈yd'y q̈'y :: t'ysw swsy ['w]lw pyń : yyks̈y t'yvy s̈ynk*
(11)*cykw : yyw d'y cykw kwd'y cy : t'yq̈'y syks̈y t'yvw pyń ::* (Kr.IV266)

上掲 a) の文字轉寫テキストは b) の漢文『聖妙吉祥眞實名經』の漢文を音寫したものである。

b)
(1)大供養者大貪欲一切貪欲皆 除斷大欲
(2)即是於大樂大安樂者大喜足大境色與廣大身
(3)大色并及大形像大明及與大廣大大中圍者是廣大
(4)持於廣大智慧器鉤煩惱鉤大中勝普聞妙聞
(5)皆廣大顯中即是廣大顯解者執持大幻化大幻
(6)化中成利益 大幻化內喜中喜大幻化大幻化
(7)中施幻術大施主中最爲尊大持戒中持殊勝
(8)於大忍辱即堅固以大精進悉棄捨以大禪定住
(9)靜慮以大智慧令持身具足大力大方便大願
(10)勝智是大海大慈自性 無量邊亦是大悲勝
(11)智慧有大智慧具大智大解即是大方便

a) の文字轉寫テキストはウイグル漢字音の音韻體系を適用することによって c) のようなウイグル漢字音テキストに再構できる：

c)
(1) tai kuŋ yo cä tai tam yuγ : `irsi tam yuγ qïi/qai cu tan tai yuγ
(2) sigši `utai laγ : tai an laγ cä taixi suγ :: taike šïγyu qotai šin :
(3) taišïγ pekib taixeso : taimekib yu tai qotai : taicuŋ vicä šiqotai ::
(4) ci`uqotai cixuki : qïu fandau qïu taicuŋ šiŋ : fu`un beu `un
(5) qïiqotai : xencuŋ sigši qotaixen :: qaicä cibci taiχan χa : taiχan
(6) χacuŋ šeliyeg : taiχan χadoi xicuŋ xi : taiχanχa taiχan χa
(7) cuŋ šiχan šurr :: taiši cucuŋ soivisun : taici qai cuŋ cišušiŋ :
(8) `utai žinžuγ sigkenqu : yi taisesin sir ki šä :: yitai šen te cu
(9) selu : yitai cixu lecišin : kusuγ tailig taifopen : taigun
(10) šiŋ ci šitai χai :: taisu suse `ulo pen : yegši taifi šiŋ
(11) cixu : yiu tai cixu kutai ci : taiqai sigši taifo pen ::

このようなウイグル漢字音は『聖妙吉祥眞實名經』だけではなく、元朝時代の佛典には廣く使用されていた。したがってアビダルマ論書に現れる漢語音寫形式も基本的にはウイグル漢字音の體系に随っている。

先ず、『實義疏』中の漢語形式を列擧すれば次のごとくである。

d)

čaγtsï (čaγ tsï) < Chin. 册子 (A4), čïn < Chin. 眞 (A913), čo'aγam (čo a γam) < Chin. 長阿含 (A2237), čung < Chin. 鐘 (B1324, B1324), küün < Chin. 卷 (A3, A4585), lenxua (len xua) < Chin. 蓮華 (A520, A1238, A2813, A3975, A3977), luγ-li-qab-šeg < Chin. 六離合釋 (A4355, A4393), luu < Chin. 龍 (A3336, A3337), pun < Chin. 本 (A3039), sab-a-γam < Chin. 雜-阿-含 (A2252), sïčï (sï čï) < Chin. 四至 (A2563), selu (se lu) < Chin. 靜慮 (A2455, A3825, B2419), ši-i < Chin. 濕衣 (A2806, A2807, A2812), tïngsim (tïng sim) < Chin. 燈心 (B1541), tïtsï (tï tsï) < Chin. 弟子 (A195, A255, A294, A303, A385, A536, A1546, A1558, A1921), tai lig du < 大力奴 (K433), ti < Chin. 地 (A1722), toyïn (to yïn) < Chin. 道人 (A2486, A2501), uu dem < Chin. 无念 (A8), var-čün-še < Chin. 八轉聲 (A4354, A4392), vi (yi?) < Chin. 爲 (A3036), xua < Chin. 花 (A1161, A4405, B1705, B1928)

上掲 d) の多くは既にウイグル語に定着していた術語形式である。しかし、いくつかは『實義疏』の書かれたときに一時的に漢語音を借りた可能性がある。それらは「長阿含」「雜阿含」「六離合釋」「八轉聲」「大力奴」「靜慮」「四至」「濕衣」「燈心」「无念」「地」「爲」「本」である。今、「无念」と「大力奴」の現れる文を掲げてみたい。なお、漢語音として中古漢語音形式を掲げた。

e)

无念本 uu dem atlγ ačari tsopïn-ïn qïldïm (A8) [98]

「我、无念という阿闍梨が tsopïn をなした」

ウイグル文中の漢字列「无念本」とそれに續くウイグル語とは同じ内容である。この漢字列は「(このウイグル) 本を无念が造った」とも「(このウイグル) 本を无念が藏している」とも讀める。前者なら tsopïn は「造本」(M.Chin. dzâu puən) の音寫形式、後者なら「藏本」(M.Chin. dzâŋ puən) の音寫形式といえる。いずれもウイグル漢字音體系に從っており適合する。uu dem atlγ ačari「无念という阿闍梨」は行間で a-simarta atlγ ačari「a-simarta という阿闍梨」と補注されている。a-simarta はサンスク

98 uu dem は'ww tym と綴られているが、初頭の d は文字 t で表記されることがあるので、uu dem と讀んで問題はない。

リットの asmṛta 即ち「无念」を表す。uu dem はウイグル漢字音の「无念」の音と對應する。中古漢語音は<mjuu niem>であるが、ウイグル漢字音では聲母が脱鼻音化する。

f)
先-ki oqïš 大力奴 baxšï-nïng qïlmïš diravi-sïnga yaraši ol （A2542-2543）
「先の讀みは大力奴師のなした實體に相應しい」

この部分は幸いなことに甘肅本と重なり、そこでは漢字は現れない：

öngdünki oqïš tailigdu baxšï-nïng qïlmïš diravi-sïnga yaraši ol （*II*.433-434）

大力奴は tailigdu と音寫されているが、やはりウイグル漢字音の體系に從っている。

『實義疏』には同樣の例がほかにも多數みられる。一方、ストックホルム民族學博物館藏『倶舍論』には次のような文がみられる：

g)
從賃婆種 žimpa qatïrγan uruγ-ïntïn ž-impa qatïrγan tüš törüyür anïn tatïγ-ï ärtingü ačïγ bolur （H35R19-21）
「從賃婆種賃婆果生。其味極苦。」

žimpa は Skt. nimba (-bīja)「苦い果實」を寫したのではない。そのサンスクリット形式を漢字に音寫した「賃婆」(Mi.Chin. ńiẹm-bua) のウイグル漢字音形式と完全に對應している。ウイグル漢字音では初頭の ń (娘母) は脱鼻音化して ž になる。

上で「一時的に借用した形式」と推定した漢語音寫形式をウイグル漢字音と對照させて竝べると次のようになる。

h)

	『實義疏』	ウイグル漢字音[99]
長 <ḍiâng> （澄陽 3）	čo	čo~čoo （p.134）
阿 <â> （影歌 1）	a	a （p.126）
含 <ɦậm> （匣覃 1）	γam	γam （cf. pp.70, 97）
雜 <dzập> （從合）	sab	sab （cf. pp.69, 97）
阿	a	
含	γam	

99 （ ）内の頁表記は庄垣内（2003b）の頁を示す。

六 <liuk> (來屋)	luγ	luγ (p.136)
離 <liĕ> (來支 1)	li	li (p.129)
合 <ĥâp> (匣合)	γab	γab (p.131)
釋 <ɕiɛk> (審昔)	šeg	šeg (p.135)
八 <păt> (黠合)	var	var (p.132)
轉 <ʈiuɛn> (知仙 3)	čün	čun (P.132)
聲 <ɕiɛng> (審清 1)	še	še (p.135)
大 <dâi> (定泰 3)	tai	tai (p.128)
力 <liɐk> (來職)	lig	lig (p.135)
奴 <no> (泥模 1)	du	du (pp.69, 96)
靜 <dziɛng> (從清 2)	se	se (p.135)
慮 <lio> (來魚 3)	lu	lu (p.127)
濕 <ɕiɐp> (審緝)	ši	šib (pp.70, 97)
衣 <ɪəi> (影微 1)	i	i (pp.77-78)
燈 <təng> (端登 1)	tĭng	tĭng (pp.69, 99)
心 <siɐm> (心侵 1)	sim	sim (p.131)
无 <ɱɪu> (微虞 1)	uu	u~uu~wu~wuu~buu (p.127)
念 <niem> (泥添 1)	dem	dem (p.131)
地 <diĕi> (定脂 3)	ti	ti (p.129)
賃 <ńiɐm> (娘侵 3)	žim	žim (pp.70, 97)
婆 <buâ> (竝戈 1)	pa	pa (p.126)
爲 <ĥiuĕ> (云支 1)	vi	vi~wi (p.129)
本 <puən> (幫魂 2)	pĭn ～ pun	pĭn (p.133)

一部をのぞけば韻母も聲母もウイグル漢字音の形式とよく對應している。特にウイグル漢字音に特徴的な宕攝と梗攝に所屬する -ng の缺落がきれいに對應する：「長」「聲」「靜」を參照。また、一つの例外（濕）を含むが、入聲音はよく保持されている：「雜」「合」「八」「六」「釋」を參照。

一方、通常の漢字音としては馴染まない例外的な形式としては、「濕衣」ši-i の「濕」ši

と、「本」の pun があげられる。ši は韻尾の -b を脱落させている[100]。このような入聲音の消失は「中原音韻」の體系すなわち中世漢語音を反映したものである。ウイグル文字資料としては明代に書かれた『高昌館譯語』の體系に準じている：ex.「給」kiəp（中古漢語）→ ki（中原音韻）： ki（高昌館）[101]。一方、「本」の魂韻 -uən は脣音聲母をもつときはウイグル漢字音では -ïn が對應するのに、ここでは -un も立っている。しかし後期ウイグル語文獻には「門」（muən）mun（『Iduq qut 世勳碑 』[102]）のごとく核母音を圓脣母音化させたものもみられる。ちなみに『高昌館譯語』の體系にも從う：ex.「穩」 uən → uən（中原音韻）：un（高昌館）[103]。

聲母においてもウイグル漢字音の特徴がよく現れている。とくに「雜阿含」の「雜」<dzâp>,「靜慮」の「靜」<dzieng> は何れも中古音では從母の dz- をもつ。從母にはウイグル漢字音では s- が立つが、ここでも同じく s- が立っている。また、ウイグル漢字音では中古漢語の幇母 p- は一般に p- が對應するのに、「八」（puat）だけが例外的に v'r（p.132）と綴られる。ここでも「八轉聲」の「八」（puat）は同じように v'r で現れている。

上で述べたようにウイグル文『實義疏』あるいはアビダルマ論書に書かれた漢語音寫形式はウイグル漢字音の體系によく從っている。ところで、漢字音表記はされていないが、次の i) のようにウイグル文中の漢字列の中から漢字音使用の存在を確かめることもできる。

i)
bar ketärmiši bašdaqï 字 užikin. qaltï sözlägüdä 那伽遏主寧 naga-arčune tep munï sözläyür luu titimlig tep qavïrïp ketärip naga üžikin täk sözläsär arčune tep ymä ök bililür luu titimlig ärdüki tep （A3334-3337）
「最初の字を消去したものが有る。謂わく、「那伽遏主寧」（Nāgārjuna）（これを「龍猛」という）と云うところに、「那伽」（nāga）の字を略去してただ「遏主寧」（Arjuna）といっても、「龍猛」であることが了ぜられる、と。」

ウイグル文中の漢語「那伽遏主寧」はサンスクリット Nāgārjuna を反映する漢字音寫である。しかし「那伽遏主寧」は Nāgārjuna を表す漢字表記としては極めて珍しい。この表記に近いものとしては「那伽遏羅樹那」（『大乘百法明門論開宗義決』大正 Vol. 85 p. 1068c *l*.16）や「那伽曷樹那」（『大唐西域求法高僧傳卷下』大正 Vo. 51 p.6 *l*.23）などを擧げることができる。これらと「那伽遏主寧」との最大の違いは、サンスクリ

100 「濕」はウイグル文獻にはもう一箇所、至正 10 年（1351）に書かれた『死者の書』にも ši として現れる： cf. Zieme./ Kara（1978）p.64, *l*.103.
101 Cf. 庄垣内（1987）p.109.
102 Cf. Geng, Sh./J. Hamilton（1981）: L'inscription ouïgoure de la stèle commèmorative des Iduq Qut de Qočo, *Turcica* Tome XIII, p.20, *l*.9.
103 Cf. 庄垣内（1987）p.107.

ットの末尾 -na をこれらが「那」(M.chin. nâ) で表記しているのに對して「寧」(M.Chin. nieŋ) を用いている點である。

「那伽遏主寧」の中古漢語音 (nâ-gıâ-ât-tɕiu-nieŋ) に對應するウイグル漢字音は na/da-ka- ar-ču-ne/de である。「寧」に對應するウイグル漢字音は中古漢語の韻尾 ŋ を缺落させた形式 ne/de である。初頭の「那」(na/da) の聲母とともに「寧」の聲母が鼻子音で發音されたとすれば、ウイグル漢字音列 na-ka-ar-ču-ne は文中の「那伽遏主寧」に後續するウイグル語形式 naga-arčune とよく對應する。naga-arčune はトカラ語經由のサンスクリット反映形式で、漢語におけるサンスクリット反映形式とは特に末尾において大きな違いを示す。ウイグル文中漢字列「那伽遏主寧」は「那伽曷樹那」などをモデルにウイグル僧によって改變された表記と考えられるが、やはりウイグル漢字音に從った漢字表記である[104]。

1.4.3.2.2 サンスクリットからの借用佛教術語

1.4.3.2.2.1 語末形式の特徴

ウイグル文獻中のサンスクリット起源形式は早い時代にはマニ教典のソグド語を仲介して導入され、續いてトカラ語を仲介して大量に導入された。兩經由のものともウイグル語内に定着した。トカラ語經由のサンスクリットは語末形式が大きく 8 つの規則に從う[105]。その中で有生物表示の語がサンスクリットの語末の -a をウイグル語が -e で反映し、無生物表示の -a/-ā をゼロで反映する特徴は際だっている[106]。以下に例示するように『實義疏』中のサンスクリット起源の佛教術語形式も大概はトカラ語經由の特徴を示す。

a) サンスクリット -a におわる有生物扱い語彙

abidarmike < Skt. ābhidhārmika 「阿毘達磨論師」(B692, B1445)
aryadaze < Skt. āryadāsa 「阿利耶駄娑」「聖奴」(A3182, A3188, A3190)
čodake < Skt. codaka 「質問者」(A79, A2596, A2658, A2827, A3559)
darmatirate < Skt. dharma-trāta 「法救」(A2139, A2143, A2831, A2128)
darma-vičaye < Skt. dharma-vijaya 「法勝」(A2829)
dašagirve < Skt. daśa-grīva 「十頭、十首」(A1421)

---

104 なお、「那」と「寧」の聲母がたとえ脱鼻音化形式で發音されたとしても、Uig. naga-arčune の漢字表記にウイグル僧が「那伽遏主寧」を使用することに問題はない。すなわち「那」と「寧」に替わる鼻子音聲母の候補はない。

105 8 つの規則というのは以下のとおりである。(ウイグル語の e 音は前舌高母音で文字 y で表記される)

	Skt.	Uig.	Toch.		Skt.	Uig.	Toch.
R1)	-a	-e	-e/-ä /animate	R5	-u/ū	-u	-u
R2)	-ā	-a/(e)	-ā/a /animate	R6)	-C	-C	-C
R3)	-a/ā	-#	-# /inanimate	R7)	-in	-i	-i/ī
R4)	-i/ī	-i	-i/e	R8)	-jit	-CCi	-ji/cī

Cf. Shōgaito (2003)

106 Cf. 庄垣内 (1978) pp.79-110.

ikavičike < Skt. eka-vīcika 「一間（人）」(B772)
katyanaputre < Skt. kātyāyanī-putra 「迦多衍尼子」(A2016, A2017, A2020)
katyayane < Skt. kātyāyana 「迦多衍那」(A2113)
kulankule < Skt. kulaṃ-kula 「家家人」(B772)
maxa-koštile < Skt. mahākauṣṭhila 「大拘稀羅」(A2118)
maxa-modgalayane < Skt. mahā-maudgalyāyana 「大目乾連」(A2113)
naga-arčune < Skt. nāgārjna 「龍樹」(A3335)
purne < Skt. pūrṇa 「富樓那」(A2116)
šastrakare < Skt. śāstra-kāra 「論書の著者、論主」(A12, A80, A85, A185)
širilate < Skt. śrīlāta 「室利羅多」「勝受」(B1300)
vasištasagotre < Skt. vasiṣṭha-sa-gotra「筏蹉（婆羅門）」(A1679)
vasumitre < Skt. vasumitra 「世友」(A2108, A2115)
vaybašike < Skt. vaibhāṣika 「毘婆沙師」(A339, A2131, A2140, A2148)
vayšašike < Skt. vaiśeṣika「毘世師迦（師）」(A3033)
višake < Skt. viśākha 「毘舍佉」(A3467)
yogačare < Skt. yogācāra 「修行者」(B899, B1380)

Cf.
ačvake < Skt. ājīvika「邪名外道」(H27R28)
apiramane < Skt. apramāṇa 「無量」(H39R18)
kadgi-višanakal-pake < Skt. khaḍga-viṣāṇa-kalpa「麟喩獨覺」(H39R24)
kumaralte < Skt. kumāralāta　kumaralti baxši「具摩囉羅地」(H36V11)

b)　サンスクリット -a/-ā におわる無生物扱い語彙
abidarim < Skt. abhidharma 「阿毘達磨」(A2, A3, A242, A1594, A1598)
abidarmakoš < Skt. abhidharma-kośa 「阿毘達磨倶舍」(A248, A1588, A1925)
abidarmavad < Skt. abhidharma-vāda 「阿毘達磨論」(A2582)
abidarmaxarday < Skt. abhidharmahṛdaya「阿毘曇心（論）」(A2829, A2832)
abipiray ～ abipiraay < Skt. abhiprāya 「意趣、意」(A348, A2171, A2371, SE25)
ančan < Skt. añjana 「眼藥」(B2105)
anityatavarg < Skt. anityatā-varga 「無常品」(A2129, A2139)
anušayakoš < Skt. anuśayakośa 「隨眠倶舍」「隨眠品」(A52, A2826, A2850)
aširay < Skt. āśraya 「所依」(B47)
darmasikandapad ～ darmaskandapad < Skt. dharma-skandha-pāda 「法蘊足（論）」(A2110, A2458)
daša'utar < Skt. daśa-uttara (daśottara)「増十（經）」(A2237)
datukayapad < Skt. dhātukāyapāda-śāstra 「界身足論」(A2114)
datukoš ～ datukooš < Skt. dhātu-kośa 「界倶舍」「界品」(A33, A69)
diravi < Skt. dravya 「實體」(A2542, A2543, B1739, B1742, B1857)
girant < Skt. grantha 「文」(A861, A2853, A3095, A4383, B436, B653, SE16)

ikau'tar < Skt. ekottara 「増一阿含」(A415)
indrayakoš ～ indirayakoš < Skt. indriya-kośa 「根倶舎」(A36, A39)
iyanakoš ～ inyanakoš < Skt. jñāna-kośa 「智倶舎」(A56, A60, A3935)
iyanaparastan ～ inyanaparastan < Skt. jñāna-prasthāna 「發智（論）」(A287, A335, A336, A1573, A1935, A1947)
kakadanta-parikš < Skt. kāka-danta-parīkṣā 「相鴉齒論」(A1968)
karmakoš < Skt. karma-kośa 「業倶舎」「業品」(A44, A48)
kušudira-pitak < Skt. kṣudra-piṭaka 「雜藏」(A2434, A2435, A2437)
lokakoš < Skt. loka-kośa 「世間倶舎」(A40, A43)
loka-utar < Skt. loka-uttara 「出世」(A2971)
loka-yatan < Skt. lokāyatana 「順世外道（論）」(A1966)
mano-matar < Skt. mano-mātra 「意樂論」(A1980)
margapudgalakoš ～ margapudgalakoša < Skt. mārgapudgala-kośa 「賢聖倶舎」「賢聖品」(A53, A1703, A3099, B830)
matark < Skt.mātṛkā 「摩怛理伽」(A2445, A2445, A2449, A2450, A2455)
miširaka-xarday < Skt. miśraka-hṛdaya 「雜心論」(A62)
pirakaranapad < Skt. prakaraṇapāda 「品類足（論）」(A2108, A3988, B964)
pirakaranasikandak < Skt. pra-karaṇa-skandhaka 「雜蘊」(A2138)
pradniyapdipad < Skt. prajaptipāda 「施設足（論）」(A2112)
pratimokš < Skt. prātimokṣa 「別解」「別解脱」(A2269, A2271, A2274)
samapati-koš < Skt. samāpatti-kośa 「定倶舎」「定品」(A61)
samaz < Skt. samāsa 「語釋」「合成語」(A564, A566, A573, A583, A1922)
sanke < Skt. sāṃkhya 「數論（部）」(B1974, B2210)
sanggitapiriyay < Skt. saṃgītiparyāya 「集異門」(A2217, A2256, A2470)
sangitapiryayipad < Skt. saṃgītiparyāyapāda 「集異門足」(A2217, A2458)
sapta-bau < Skt. sapta-bhava 「七有（經）」(A2411)
sarvaastivad < Skt. sarvāsti-vāda 「説一切有」(A2481, A2537, B1412)
vidyanakayapd < Skt. vijñāna-kāya-pāda 「識身足（論）」(A2109)

Cf.
abasvar < Skt. ābhāsvara 「極光淨（天）」(H28V57)
ašub < Skt. aśubha 「不淨」(A1441, H39V62)
lakšanavipak < Skt. lakṣaṇa-vipāka 「妙相業」(H35V60)

以上に掲げたサンスクリット起源の語彙の多くはアビダルマ論書と直接關連した内容をもつ。しかし、これらがトカラ語のアビダルマ論書から直接ウイグル語に導入された證據とはならない。むしろ、經典類を通してトカラ語から導入されていた語彙と

考えるべきであろう[107]。

1.4.3.2.2.2 後期形式の特徴

ウイグル文『實義疏』は後期ウイグル語文獻の時代である元朝期に書かれたと推定できる。そのことはサンスクリット起源語彙にも反映されている。

後期ウイグル語文獻に現れるサンスクリットの特徴は、語末形式とそれ以外の部分との2種類に分類できる。

1) 語末形式以外の特徴

語末形式以外の部分の特徴としては、まず母音の挿入をあげることができる。母音挿入が 75B と甘肅本の『實義疏』に頻繁に現れることは先に述べたが、75A にも例はみられる。ウイグル語は V CV VC CVC VCC CVCC の6種の音節構造をもち、とりわけ初頭の子音結合を好まない言語である[108]。

a)

Skt. brāhmaṇa > Uig. braman (A1679, A2513, A3161, A3164, A3169, A3172, A3172) ～ biraman (A3167)「婆羅門」

Skt. pratyeka-buddha > Uig. pratikabud (A539, A870, A949, A1000, A1018) ～ piratikabud (A747, A799, A855, A958)「獨覺」

Skt. saṃghabhadra > Uig. sanggabadre (A1805, A1987, A1994, A2023, A2200, A2223, A2269, A2275, A2287) ～ sanggabadire (A2740, B36, B208, B664, B726, B833, B1003, B1044, B1107)「衆賢」

一例ではあるが、子音の變化もみられる：

b)

Skt. saptabhava-sūtra > Uig. saptabav-sudur ～ saptabau-sudur「七有經」(A2411)

この b) の v > u への變化も後期佛典の特徴の1つである。

2) サンスクリット本來の語末形式の登場

元朝時代のウイグル語文獻にはトカラ語やソグド語を經由した形式以外のサンスクリットもしばしば現れる。この時代にチベット佛教と接したウイグル僧にはサンスクリットを學ぶものも多かったにちがいない。『實義疏』の翻譯者あるいは書寫人（校

107 ストックホルム民俗學博物館藏『倶舍論』にはトカラ語經由の珍しい形式 šarmiranč が現れる：< Toch.B* ṣarmirāñca. Cf. Toch.B ṣaṃmirāñca 'novice (nun)' Adams (1999) p.648. šarmiranč sanvar-ï = Skt. śrāmaṇerī-saṃvara「勤策女律儀」H30R28, 39, 52 kim öngräki šarmire sanvar-ïnïng adï bolur šarmiranč sanvar-ï tep「令本勤策律儀名勤策女律儀」H30R51.

108 サンスクリット起源語彙への母音挿入はウイグル語からモンゴル語に導入された形式とよく平行する：cf. Shogaito (1991) p.39.

閲者？）も、語彙レベルにおいてはサンスクリットを自由に使えた人物であることが推定できる。たとえば、75A の 8 行目には　无念本 uu dem atlγ ačari tsopïn-ïn qïldïm「我れ、无念という阿闍梨が造本をなした」と書かれ、mn a-simarta atlγ ačari tsopïn-ïn qïldïm「我れ、a-simarta という阿闍梨が造本をなした」と傍注されている。Skt. asmṛta（「无念」）は一般には知られていないサンスクリットの人名である。もしトカラ語を通して定着したのなら asimarte となるはずである。a-simarta はサンスクリットから直接導入された形式と考えられる[109]。『實義疏』中の、他の人名は既に知られていたものであって、すべてトカラ経由の定着形式を呈している。例えば次の c）のように論師名は Skt. -a : Uig. -e の對應パターンに適合している。

c)

darmatirate < Skt. dharma-trāta 「法救」（A2139, A2143, A2831, A2128）
darma-vičaye < Skt. dharma-vijaya 「法勝」（A2829）
katyayane < Skt. kātyāyana 「迦多衍那」（A21）
maxa-modgalayane < Skt. mahā-maudgalyāyana 「大目乾連」（A2113）
naga-arčune < Skt. nāgārjna 「龍樹」（A3335）
sanggabadre < Skt. saṃghabhadra 「衆賢」（A1805, A1987, A1994, A2023）
vasumitre < Skt. vasumitra 「世友」（A2108, A2115）

なお、『實義疏』の著者 sthiramati「安慧」はサンスクリットとして語末に -i をもち、トカラ語を仲介しても形式は變わらないので、語末形式に關してはどの言語を仲介したものか判斷できないが、ästiramati ～ istiramati のように ä- ～ i- を語頭音添加してウイグル語音節構造化した形式を用いているので、やはり、定着形式であったと考えられる。すなわち、ウイグルにおいても「安慧」は一般に知られていた人物であった。

サンスクリットを直接に使用した形式は、次の d）の「十二分教」の名稱を列擧する文脈に現れる。

d)

所謂契經 qaltï suturaa suduruγ 應頌 geyaa t(a)qšutuγ 記別 vyakarana adïra yrlïqamaqïγ 諷誦 gata šlokuγ 自説 itivritaka ävrišig 緣起 udana ävdimäkig 譬喩 avadana yölägürügüg 本事 nidana bašlaγïγ 本生 čataka čatikïγ 希法 adbudadarma mungadinčïγ nomlarïγ 方廣 vaypulya kengürmäkig 論議經等 upadeša yörä sözlämäkig tep ulatï. bu ärür iki ygrmi bölük savta bermiš nomlar.（A2332-2338）

「謂わく、契經（sūtra）、應頌（geya）、記別（vyākaraṇa）、諷頌（gāthā）、本事（itivṛttaka）、自説（udāna）、譬喩（avadāna）、緣起（因緣）（nidāna）、本生（jātaka）、希法（adbhuta-dharma）、

109 a-simarta("-sym'rd') のごとくサンスクリット否定接頭辭の a- をわざわざ分離して表記しているのも書き手がサンスクリットを理解していた證據となる。

方廣（vaipulya）、論議經（upadeśa）をとなど。これは十二分教において與えた法である。」

文中漢語は、正しくは「自説」の位置に「縁起」が、「縁起」の位置に「本事」が、「本事」の位置に「自説」が立たねばならない。下線のものは和譯において括弧にとじたサンスクリットの音寫形式である。これら下線を引いたサンスクリット形式がもしトカラ語を仲介してウイグル語に定着したのであったら、語末の母音はすべて缺落していたであろう。このようなサンスクリット形式を使用したのは、翻譯者が「十二分教」の釋に際して、漢字漢語だけではなく、本來の形式すなわちサンスクリット形式を特に掲げることで、これらの術語の重要性を示そうとしたためと考えたい。また、サンスクリット形式の後ろにはウイグル語譯が併記されているが、suturaa（Skt. sūtra）に對する sudur、gata（Skt. gāthā）に對する šlok（<Skt. śloka）は共にトカラ語を仲介して定着したサンスクリット起源の形式である。サンスクリットに對應する適當なウイグル語としてはこのサンスクリット起源の形式しか無かったのでこれらを使用した。

サンスクリットを直接反映した形式にはさらに次の e）と f）がある。

e)

佛者 buda burxan teptemiši ärsär bar anta iki türlüg yörüglär （A506-507）

「「佛」と云ったのは、そこに二種の義がある」

これは、「佛」を釋の對象とする文脈であるが、サンスクリット buddha の音寫形式 buda にはやはり burxan（<Chin. 佛 + xan）というウイグル語譯が併記されている。

f)

qaltï änätkäkčä 娑薩播 sasirava[110] tep teyür munï sözläyür aqïγlïγ tep sa užiktä sïγar üč türlüg yörüglär ang'ilki sözläyür bar tep 二 sözläyür bir täk tep 三 -ünč sözläyür oxšatï tep （A2901-2905）

「謂わく、インド語では sāsrava という。これを「有漏」と云う。sa-の字に三種の義が當たる。第一には「有る」と云う、第二には「同一」と云う、第三には「類似」と云う。」

「娑薩播」はサンスクリット sāsrava の漢字音寫形式<sâ sât pâ>である。「娑薩播」をウイグル漢字音で讀めば sasarpa となるので、やはり sasirava は Skt. sāsrava を直接に音寫したものといえる。「sa の字に三種の義が當たる」という sa に對して翻譯原典の漢文では「娑」の字が入っていたにちがいない。ウイグルが漢語を音寫しても sa

110 sasirava は s-'-syr'v' (s-a-sirava)と綴られている。

になるが、これも多分サンスクリット形式を寫したのであろう。

『實義疏』中の「サンスクリット本來の形式」とよべるものは以上である。このことから、ウイグル文『實義疏』がサンスクリット原典、あるいはそれを忠實に翻譯したチベット語譯を參照したということはできない。そのことは、『實義疏』自身を呼ぶ名稱の表現からも理解できる。

『實義疏』の書名に關しては先に議論した。その題名をもう一度掲げてみれば次のようである：

g)

阿毗達磨倶舎論實義疏卷第一 abidarmakoš šastr-taqï čïnkertü yörüglärning kengürü ačdačï tiki-sï baštïnqï küün

「阿毗達磨倶舎論實義疏卷第一、阿毘達磨倶舎論にある眞實義の詳解注・初卷」

一方、『實義疏』のチベット語譯にはサンスクリット名 Abhidharmakośabhāṣya-ṭīkā Tattvārthā が掲げられている。おそらくサンスクリット原典にも同じ題名が掲げられていたと推定できる。もしウイグル語譯がこの名稱を知っていたのなら、上掲のような「サンスクリット本來の形式」の使用法から推して、漢譯名とウイグル語譯名の他に、このサンスクリット名も掲げたにちがいない。おそらくウイグル語譯をなした人物は、このサンスクリット名を知らなかったにちがいない。そして『實義疏』の原典やそのチベット語譯を參照することもなかったであろう。ただし、少なくとも佛教術語としてのサンスクリットは、かなり自由に使うことができたものと推定できる。

1.4.4 構文

1.4.4.1 擬漢構文

1.4.4.1.1 語順

漢文から翻譯されたウイグル佛典には『報恩經』(Pelliot Chinois 3509)、『天地八陽神呪經』(Or.8212-104)、『觀音經』のようにウイグル文獻中、最も早い時代に所屬するものがある。これら佛典のウイグル文は漢文構文にさほど影響されることなく、本來のウイグル構文を用いて翻譯している。

a)『觀音經』[111]

taqï ymä kim qayu tiši tïnïγ urï oγul tiläsär quanši im pusarqa
また 若し 女人が 男を 求めるなら 觀世音菩薩を
tapïnu udunu täginip atïn üzüksüz atasar ötrü köngültäki täg körklä
供養して 名を 絶えず 稱ずるなら便わち心にあるごとき 端正な
qutluγ ülüglüg urï oγul kälürür birök qïz tiläsär ymä körklä qïz kälürür
福德の 男が 來る 設し 女を求めるなら 端正な女が 來る

「若有女人設欲求男禮拜供養觀世音菩薩便生福德智慧之男設欲求女便生端正有相之女」

10 世紀末あるいは 11 世紀初頭にウイグル語譯されたと推定できる『大慈恩寺三藏法師傳』は上掲佛典に次ぐ時代の翻譯である。これも b) に示すように本來のウイグル語語順を保っている。

b)『慈恩傳』[112]

täk män kuintso nomluγ nom tiläklig küsüš üzä tïnlγlarqa kingürü
但だ 我れ 玄奘は 法經を 求めることで 群生に 廣く
asïγ tusu qïlγuluq saqïnčïn käli tägindim ärdim
利を 爲すべき 考えで 來るに 至った
「但玄奘來意者爲求大法廣利群生」

ウイグル佛典の中で、前期あるいは中期の佛典とよべる上の a) と b) は、漢文に對してかなり自由なウイグル語譯文を用いている。これらに比べて元朝時代の後期ウイグル語文獻ではもう少し漢文に忠實な譯文が目立ってくる。

111『觀音經』の例文については次の 2 點を參照した。Uigurica II p.15 *ll.*3-6, Ş.Tekin (1960): Kuanşi İm Pusar, Erzurum, p.12 *ll.*73-77.

112『慈恩傳』については次を參照した。A. von Gabain (1935): Die uigurische Übersetzung der Biographie Hüen-tsangs I, Bruchstücke des 5. Kapitels. *SPAW*, p.163 *ll.*203-206.

c)『華嚴經』[113]

birök alqu burxanlarqa tapïnγalï udunγalï küsäsärlär samati dyanqa
若し 一切の 佛を 供養することを 欲するなら 三昧に
kirip riti küükäligig turγurup bir iligin üč ming uluγ ming
入って 神變を 起こして 一手を以って 三千 大千
yirtinčütä tüzü tolu qïlïp tüzü yapa alqu ančulayu kälmišlärkä
界に 遍く なして 普く 諸 如來を
tapïnγalï udunγalï uyurlar
供養すること 能う
「若欲供養一切佛 入於三昧起神變 能一手遍三千 普供一切諸如來」

c) は「八十華嚴經」からのウイグル語譯文である。版本であるので元朝時代に造られたものといってよい。漢文の「三千」に對して「三千大千界」と表現されているところは、翻譯原典に異なりのあったことを示しているが、全體として漢文に忠實に翻譯していることが解る。だが、語順は完全にウイグル語のものを用いている。この譯文のタイプは漢文からの後期ウイグル語翻譯文の典型といえる。

これに對して、同じ後期ウイグル文獻に所屬する『實義疏』のウイグル文は語順までもが忠實に漢文をまねている。

d)『實義疏』

birök vinay-ta inčip munta kengürü yörär üčün pratimokš sudur-nung
若し毘奈耶では 即ち 是れ[1] 廣 釋する 故[3] 戒 經の
若 毘奈耶 即 是 廣 釋 戒 經

tözin ärür tngri burxan yrlïqamïš tep abidarim-ta kengürü
根本を[2] である[5] 佛の 説かれたもの[4] と。 阿毘達磨では[6] 廣
本 故 是 佛 説者 阿毘達磨 廣

yörär sudur-uγ nä üčün säčä sezinür sizlär tngri burxan yrlïqamïš
釋する[8] 契經を[7] 何故 偏に[9] 疑う（汝ら）[11] 佛が 説いたものに
釋 契經 何故 偏 疑 非 佛 所説

ärmäz tep (A2276-2279)
非ず と[10]

上掲 d) において、日本語譯に付した番號に從って讀めば正しい日本語になるし、

113『華嚴經』については次を參照した。耿世民（1986）:「甘肅博物館藏回鶻『八十華嚴』殘經研究（1）」『世界宗教研究』1986年第3期、p.74 *ll.*IIA11-B1. 初頭の birök に對して耿世民（1986）では birtä が書かれているが誤りである。

本來のウイグル語もそれと同じ語順であった。ただ、ウイグル文は漢語と一對一の對應をなしているのではない。ウイグル語として理解できる範圍で語順を漢語のものに合わせているのである。漢語「故」を表す üčün は、動詞に結合させなければ内容の把握が困難となるので常に動詞の後に立つ。「非」を表す ärmäz は常に文末に置かれる。ただふつうは、näng「決して」を漢語「非」の位置に立てて語順をまねる：ex. näng köz biligi yoq oq ärmäz「非無眼識」(B1111)。

e)『實義疏』

qaltï	nomuγ adïrtlamaqta	öngi	odγuraq	yoq	ärür	adïn	alqu	nizvani-larïγ
若し	擇法を	離れて	定んで[1]	無い[3]		餘の	諸	惑を
若	離 ～ 擇法		定	無		餘		能滅 ～

taγardačï	yeg adruq	al altaγ	nizvani-lar	uγurïnda	yertinčü	qalngula-	
能く滅する	勝	方便は[2]	惑に	由って	世間は[4]	漂う[6]	
諸惑	勝	方便	由 ～ 惑		世間	漂	

yur	bolmaqlïγ taluyta	tep	bu tïltaγïn	terlär	tngri burxan	yrlïqamïš		
有	海に[5]	と	此の因で[7]	傳わる[12]	佛は[8]	説かれた[10]		
有	海		因 ～ 此	傳	佛	説		

ol	abidarim-ïγ	tep	論曰	qaltï	nomuγ adïrtlamaqta	adïn öngi	yoq ärür	
	對法を[9]	と[11]	論曰	若し	擇法を	離れては[13]	無い[17]	
	對法		論曰	若	離 ～ 擇法		無	

yeg adruq	al altaγ	taγardačï	alqu	nizvani-larïγ	alqu	nizvani-lar	uyur		
勝	方便は[16]	能く滅する[15]	諸	惑を[14]	諸	惑は[18]	うる[22]		
勝	方便	能滅	諸	惑	諸	惑	能		

kim	yertinčüg	qalangulatγalï tägzindürgäli	sansarlïγ	uluγ	taluyta	tep
	世間を[19]	漂轉させ[21]	生死の	大	海に[20]	と
令	世間	漂轉	生死	大	海	

(A2037-2043)

波線でつないだ漢語に對しては本來のウイグル語語順が使われている。これらは漢語の語順を使用できないか、漢語の語順では返り點のないかぎり、ウイグル語として理解が困難な語句である。nomuγ adïrtlamaqta öngi「擇法を離れて」(離擇法) の -ta öngi「・・よりほか」＝「離れて」(離) はセットとして認識されており、nomuγ adïrtlamaq「擇法」に先行することはできない。bu tïltaγïn「此の因で」(因此) の bu「これ、この」(此) は tïltaγïn「因で」(因) に後續した場合、先行する tïltaγïn ではなく、後ろの語句にかかる可能性が大きいのでやむなく先行させたものである。これと同じ理由

で語順の入れ替わっているのが uyurïnda「由って」(由) である。tarγardačï「滅しうる」(能滅) は2箇所現れるが次のように使われている。

イ adïn alqu nizvani-larïγ tarγardačï yeg adruq al altaγ
餘の 諸 惑を[1] 能く滅す[2] 勝 方便[3]
餘 能滅 ～ 諸惑 勝 方便

ロ yeg adruq al altaγ tarγardačï alqu nizvani-larïγ
勝 方便は[3]能く滅する[2] 諸 惑を[1]
勝 方便 能滅 諸 惑

イの漢文は「能滅」が「諸惑」を挟んで「勝方便」にかかるので、alqu nizvani-larïγ「諸惑」と tarγardačï「能く滅する」(能滅) とが入れ替わったなら、間に alqu nizvani-larïγ があるので tarγardačï が yig adruq al altaγ「勝方便」の修飾語であることが理解し難いものとなる。一方、ロは「勝方便」と「能滅」が直接結合しているので、漢文語順どおりにウイグル語を作ったと考えられる。

上掲例のごとく『實義疏』のウイグル文は漢文語順をまねた、いわゆる擬漢構文で書かれている。ただ、句、文のレベルでこれが保たれているのであって、語のレベルでは必ずしも漢語をまねているとはいえない。たとえば yrlïqamïš「説かれたもの」＝「所説」tarγardačï「滅するもの」＝「能滅」nomuγ adïrtlamaq「法を擇すること」＝「擇法」のごとく各漢字に一對一で對應するウイグル語を與えてはいない。また、ウイグル語本來の性質から單語結合の後部にしか立てない語もある。上に示した「故」「非」「離」「因」「由」以外にも、iyin「隨って」(隨)、tükä-「・・し已わる」(已)、tayaqlïγïn「・・に依る」(依)、qaršï「違う」(違) などがそれにあたる。漢文語順に從うと内容の把握を困難にする場合はウイグル語順を適用する。また、時には説明的なウイグル文も現れる。

f)『實義疏』

munta tïltaγï tüši üzä örtülgülük kösitilgülük bolmaq tep yörüg'ol
ここで、因が 果によって 映 蔽せられること という 義である。
tïltaγï öngdün tüši ken bolur üčün tïltaγï inčgä tüši yoγun üčün
因が 前、 果が 後となる 故。 因は 細、 果は 粗の 故。
munung bar üčün vastu-sï sözlämiš ol vastu-luγ tep at üzä
これには[1] 有る 故[3] 事が[2] 説いた[5] 有事 という 名によって[4]

(A4198-4210)

是因爲果所映蔽義 因果前後故 及細麁性故此有事故 説名有事

「因果・・有事」は漢文の語順どおりにウイグル語譯し難かったものと考えられる。『實義疏』のウイグル文は上掲のごとく語順においては、できるだけ漢文のものに

合わせて作ろうとする努力がみられる。しかし、決して、漢語文法の枠内でウイグル語を作ったのではなく、ウイグル語文法の枠内で漢文に似せた語順を作っているのである。

ところで『實義疏』のこのような構文はアビダルマ論書には共通するものである。以下に若干例を掲げておく。

g)『倶舎論』

qalti　bušï　yma ök　uyur　bulturur　tngri yerintä　tuγmaqlïγ
謂　施　亦　能　感　生～天
tüšüg　yegin tuta　sözlamiš ol　čxšaptïγ
果　就～勝　説　戒
(čxšapt) tutumaq　ymä ök　uyur　bulturγalï　baγtïn öngi
持~戒　亦　能　感　離～繋
üdrülmäklig　tüšüg　yegin tuta　sözlamiš ol　dyanïγ　(H35V36-39)
果　就～勝　説　修

h)『倶舎論』の注釋書

yoluγ öngi ketärip　adïn etiglig nomlarta
除～道　餘　有爲
anta　aqïγlar eyin ükliyür üčün anïn
於彼　漏　隨増　故
sözlämiš ol　atï bolur aqïγlïγ　(U5674 R3-7) [114]
説　名　有漏

i)『入阿毘達磨論』の注釋

töz bälgü[täki　tuγmaq anïng] öngi ketä[r]ip öz tözin tuγurur adïn [säkiz] nomlarïγ
本相中　生　除　～　其　自體　生　餘　八　法
eyinki bälgütäki tuγmaq toquz türl[üg nomlar　ičintä] yindäm tuγurur töz tuγmaqïγ
隨相中　生　於九　法　内　唯　生　本　生
küči küč[s]üz üčü[n] turmaq kävmäk ärtmäk bälgüg　bilmiš kärgäk　ymä [antaγ oq ol]
勢力劣　故　住　異滅相　應～知　亦　爾
(SI Kr.1/24 7-9)

114 これと同じ内容は『實義疏』にも有るが、若干の差異がみられる。
yoluγ öngi ketärip adïn etiglig nomlarta　(A2674)
{除道}　餘　有爲
olarta aqïγlar eyin ükliyür üčün anïn
於彼　漏　隨増　故
sözlämiš ol aqïγlïγ tep at üzä　(A2729-2731)
説　{名有漏}

1.4.4.1.2 定型語法

1.4.4.1.1 に議論したような漢語の語順をまねた擬漢構文は、一方で定型語法を考案し、漢文との對應をより容易なものにしている。

1.4.4.1.2.1 類似する意味をもつ漢字の使い分け

1)「應」と「容」の表現

漢語の「應」と「容」はいずれも「推量や當然」の意味をもち兩語の機能は類似するがウイグル文は決まった語法によって明確に使い分けている。

a)「應」を用いる構文（まさに・・べし）

イ -γu/-mïš kärgäk

alqu köngüllär barča kkirlig bol-γu kärgäk （B159）

「應一切心皆成染汚」

ötrü qodul-γu titil-gü kärgäk ülgüläncsiz sudurlar （A2250）

「便應棄捨無量契經」

ulatï ät'özin büritmäkin bil-miš kärgäk ymä antaγ oq （B2173）

「乃至身觸應知亦爾」

tayan-mïš yölän-mišingizlär kärgäk sudurqa näng kim unïtmatïn ittürmätin （A2363）

「應依杖經勿令忘失」

Cf.

bu nomnung basasïnta bu nom turγu krgäk tep （H25V32-33）

「此法無間此法應生」

ol ödtä ötrü üč türlug sanvarlar barča titil-gü krgäk （H30V15-16）

「爾時則應三律儀皆捨」

čatuškoti tört patak qïl-mïš krgäk （H26R41）

「應作四句」

ロ tägimlig (ol/är-) .... -γalï

bu yörmišingizlär antaγ ärmäz amtï munta tägimlig ol sözlä-gäli （B37）

「此釋不然今且應說」

tägimlig ol turuldur-γalï yavaldur-γalï köngülüg （B10）

「應善調伏心」

amtï munta tägimlig ol sözlä-gäli （B37）

「今且應說」

azuča ymä tägimlig ärti ašnu ödtä tayaqïγ yindäm bir ök ol tep yrlïqa-γalï （A2356）

「或應先時依唯說一」

bilgälär ärsär anta tägimlig ärmäz atqan-γalï yapšïn-γalï （B1400）

「智者於中不應封著」

munung uγurïnta tägimlig ärmäz muntaγ tep yör-gäli （B55）

「由此不應作如是釋」

Cf.

tägimlig ol sözlä-gäli ymä ök bolur muntaγ adïrtlγ otγuraq bolmaqï tep （H26V19-20）

「應言亦有如是決定」

azuqï savlar ärtä tükädi yänä tägimlig ol uqït-γalï （H30R6）

「傍論已了復應辯」

b)「容」を用いる構文（・・すべき、まさに・・べし） uγur-ï yïq-ï....-γuluq

yänä köznüng bolmaz üčün uγur-ï yïq-ï täg-gülük ïraqtaqï atqanγularqa bolmaz uγur-ï yïq-ï munta turup köz ärtip üküš mïng yočan ülgütä täg-gülük ay tängri tilgänlig atqanγuqa (B1563-1564)

「又眼無容至遠境故無容住此眼越多千踰繕那量至月輪境」

Cf.

anta sözlämiš ol beš ažunlarta tuγum ulalur kšanta uγr-ï yïq-ï bolur bol-γuluq beš bölüktäki alqu nizvani-lar tep ažun(uγ) ulatï kirgütäki köngül(üg)（H28R34-36）

「彼說五趣續生心中容有五部一切煩惱趣及入心」

ïnaru yörug tözinčä ärsär bolmazqa(ïn) uγr-ï yïq-ï tur-γuluq bačaq snvarnïng（H33R18-19）

「後理無容起近住律儀」

bu otγuraq baxšïtïn bolur bolmaz uγr-ï yïq-ï käntü özintin tägin-gülük（H33V910）

「此必從師無容自受」

2)「能」と「可」の表現

「能」と「可」はいずれも可能をあらわすが、ウイグル文における區別は明確である。

a)「能」を用いる構文（能く・・する） u- .... -γalï

azuča ymä u-γur üčün körmäkkä tušγar-γalï anïn atamïš ol abidarim tep （A1818）

「或能對觀故稱對法」

u-p alïn altaγïn nomla-γalï čïnkertü tözlüg köni nomuγ （A1310）

「能方便說如理正教」

u-γur üčün eyin qïl-γalï bütürü bilmäkkä kkirikmäkig arïnmaqïγ tïltaγïγ tüšüg （A2245）

「能順遍知雜染清淨因果智故」

u-maz üčün al-γalï yaqïn sïqa atqanγularïγ （B1553）

「以不能取隣逼境故」

angayu tiläp čoγlï yruqlïnïng basutlamaqïn temin ök u-γur ärmäz yarut-γalï （B1532）

「非・・別求光明助方能照」

Cf.

qayu köngül usar bälgürt-γäli yïdlï tatïγlï iki türlüg nomlarïγ（H27V10）

「若心能化香味二法。此能化心」

b) 「可」を用いる構文　　bol-....-γalï

girant üzä učuz bol-ur bil-gäli （B436）

「文易可知」

ol nätägin antaγ bolzun adïrt öngi tïltaγ basutčïlarïγ bol-maz üčün bul-γalï （B162）

「彼云何然差別因緣不可得故」

yügärü körür alqu qongraγu ünining käztä amrïlïp arïtï äšid-gäli bol-mazï （B1662）

「現見一切鈴聲頓息都不可聞」

Cf.

beš yükmäk tegli nomta öngi ol tamuγ arïtï bolmaz üčün bulγalï anïn ažun yindäm ärür örtügsüz yrlïγsïz tep（H28R29-31）

「除五蘊法彼那落迦都不可得。故趣唯是無覆無記」

1.4.4.1.2.2 「令」による使役表現

漢文の使役文はウイグル語の使役の接尾辞をもって表現されるが、「令」が使用された場合は必ずその位置に kim が立つ。kim は本來「誰」を意味する。kim を「令」の位置に立てて、使役接尾辞を伴う動詞と組み合わせて表現する[115]。

küsämiš üčün kim yertinčütäkilärkä bul-dur-γalï nom adïrtlamaqïγ （A2070）

「欲令世間得擇法故」

birlä tuγmïš maxabut-ï kim tuγ-ur-maq üzä yeg adruq ärkligig （B1010）

「俱生大種令起勝根」

alqu nizvani-lar uyur kim yertinčüg qalangula-t-γalï tägzin-dür-gäli sansar-lïγ uluγ taluyta（A2042）

「諸惑能令世間漂轉生死大海」

tayanmïš yölänmišingizlär kärgäk sudur-qa näng kim unïtmatïn it-tür-mätin （A2363）

「應依杖經勿令忘失」

Cf.

umaz tartïp öritip küčlüg qïlïnčïγ kim tuγ-ur-γalï（H29V51-52）

「不能引發強業令生」

bor bägni ičmiš ödtä uyur üčün kim unïtγalï it-tür-gäli qïlγalï tägimlig tägimsiz alqu iš küdük（H33V62-63）

「以飲酒時能令忘失應不應作諸事業故」

ädrämin ki[m anča]qya ödün sär-gür-gülük（SI Kr.1/29 B6）

「令暫時住」

115 kim と使役接尾辞との結合構文を直譯すると「だれかが・・させる」となる。

1.4.4.1.2.3 「雖」と「豈」の表現

「雖」と「豈」はアビダルマ論書には頻出し、明確な定譯をもっている。

1)「雖」を用いる逆態條件の表現　　näčä ....-sar ymä

burxan näčä bu yertinčütä bälgür-särlär ymä tïltayï ägsük ärsär qutqa tägmäzlär （A1273）

「佛雖化世間緣闕不得果」

näčä tur-sar ymä qulγaqta anïlayu oq tägmištäki atqanγu ärmäz （B1692）

「雖在耳中仍非至境」

od at näčä tägšil-sär ymä inčip isig tözläri bir täk bolmïš täg （B1057）

「火名雖改易而煖性同」

Cf.

kenki köngülnüng näčä bolsar ymä atï bolγalï köngül tep inčip bolmaz sözlägäli tüz arasïz basutčï bolur tep （H26R37-39）

「後心雖得名意而不可說等無間緣」

yavïz tarïγlïγta näčä bušï bersär ymä täk tartγu krgäk sävigsiz tüšüg tep （H35R12-13）

「於惡田雖施但應招非愛果」

2)　「豈」を用いる反語構文の表現　　nčük ol ....mu

sän näčük'ol ärmäz mü ärting ärtmiš ödki burxan ödindäki tripitake toyïn tep （A2500）

「汝豈不是過去佛時三藏苾芻」

näčük ol köngültäki nom yïlayu män köngülkä tayanmaz mu （B42）

「豈不心所依假我心」

Cf.

näčuk ol yindäm öz uγušluγïnta oq mu öngdünkisi uyur kenkisingä tüz arasïz basutčï bolγalï tep （H25V1-3）

「豈唯自類前能爲後等無間緣」

näčük ol munï munčulayu arasïz ärtmiš köngülning ymä ök atï bolmaz mu köngül tep （H26R26-27）

「豈不如是無間滅心亦名爲意」

1.4.4.1.2.4 同一漢字の使い分け

一漢字には複數の意味がある。その意味は明確に書き分けられている。たとえば「爲」には動詞「爲す」のほか原因と選擇疑問の機能がある。それらは明確に書き分けられている。

1)「爲す」 bol-

qaltï örtädüktä tuturqan sapïlïγ uluγ yükmäkig kül bol-mïš-taqï-sï ärür （H25R46-48）

「如燒稻稈大聚爲灰」

2)「ため」「・・の故に」　-yalïr üčün

uqït-yalïr üčün ärür partakčan bošγutluγ bošγutsuz orun üzä üč körümlärning adïrïlmïšïn (B875)

「爲顯異生學無學地三見別故」

uqït-yalïr üčün aqïγlïγ nomlarnïng bu alqu körümlärig tuγurdačï bädütdäči orun ärtükin (A4555)

「爲顯有漏是能生長此諸見處故」

uqït-yalïr üčün öz baxšïsïnïng anïng ät'özining yig ayaγuluq ärtüki üzä ärtmišin ašmïšïn alqu tüzünlär quvraγïnda (A78)

「爲顯自師其體尊高超諸聖衆故」

eyin bol-yalïr üčün yertinčütäkilärning köngülingä yïlayusïnča üklitip savïγ sözlämiš ol köznüng atï bolur kördäči biligning atï bolur bildäči tep (B1397)

「爲順世情假興言說眼名能見識名能了」

ažun uqïtyalïr üčün ažunqa tïltaγ bolurïn (H28R47)

「爲顯趣因」

tït-yalïr üčün činkertü barïn (H28V4)

「爲遮實有」

3) 選擇疑問　azu .... mu

azu uqïturnung mxabut-lartïn mu bolmïš ol azu öngitin mü bolmïš ol (H29R18-19)

「爲表大種造。爲有異耶。」

azu bir qïlïnč uγrïnta (täk) taplalur bir tuγum mu azu taplalur üküš tuγum mu 又爲一生yänä azu bir tuγum t{ä}k bir qïlinč üzä mü taplalur azu üküš qïlïnč üzä mü taplalur tep (H34V57-60)

「爲由一業但引一生。爲引多生。又爲一生但一業引。爲多業引」

1.4.4.1.2.5 異なる漢字の同一表現

異なった漢字が同一の意味をもつことがある。その際には同じ表現をする。

「欲」と「將」はともに意志や欲求を表現する場合がある。その場合はいずれもuγra-....-yalï の構文を用いる：

yula uγra-mïš ödtä yarut-yalï burnač böztä ulatïlarïγ (B1532)

「燈欲照瓶衣等時」

amtï uγra-duqta šastr yarat-yalï (A76)

「今欲造論」

mn uγra-dïm kadyot qurtnung yaruqï kün tngrining yaruqïnga basutlayurïnča küčüm yetmišinčä kengürü uqït-yalï abidarmakoš šastr-ïγ (A13)

「我將螢燿助陽光隨力弘宣對法藏」

uγra-sar yör-gäli bu šasdrïγ (A22)

「將釋此論」

Cf.

tüti tilämiš ögrätigning küči uɣrïnta uɣra-mïš ödtä tuɣur-ɣalï münüg qadaɣïɣ（H29R1）
「由熏習力欲起過時」

1.4.4.1.2.6 接續詞の定譯化

定譯構文に重要な役割を果たす接續詞も安定した譯語を持っている。
たとえば「而」「即」「則」「乃」「方」はいずれもよく似た意味をもっている。しかしこれらはかなり正確に譯し分けられる。

「而」	inčip	「乃」	temin
「即」	ol oq	「方」	temin (ök)
「則」	ötrü		

一方、「且」は接續詞機能の場合は munta「ここで」に譯されるが、副詞機能の場合は az「少し」に譯される： azuqï savlar az turzun（A2579）「傍論は且く止めるべし」（傍論且止）[116]

1.4.4.1.3 まとめ

アビダルマ論書の構文はウイグル語として理解可能な範圍で語順を漢文のものに近づけている。また漢文構文に對しても定譯を完成させている。

116 これらの他に漢語の「況」を表現するのに taqï nä ayïtmïš kärgäk が使われている。このウイグル語は直譯すれば「さらに何を云うべき」となるが漢文『倶舍論』の「況」に對應する：taqï nä ayïtmïš krgäk yrlïɣsïz qïnmaq üzä tuɣuruïmïš uqïtur qïlïnčïɣ「況無記思所發表業」（況や、無記の思の發する所の表業をや H32V1-2）。同じ表現は『實義疏』にもみられる：taqï nä ayïtmïš kärgäk partakčan-larnïngïn「況や、凡夫のものをや」（4409）

1.4.5 漢字の訓讀と漢文の訓讀

ウイグル語文獻にウイグル文に混じって現れる漢字が二種の讀み方をもつこと、すなわちひとつは音讀され、もう一つはウイグル語に訓讀されること、さらに、ウイグルが漢文訓讀をもっていた可能性のあることについては、1982 年以來著者によって議論されてきた[117]。

1.4.5.1『實義疏』ウイグル語文中の漢字の讀み方

1.4.5.1.1『實義疏』ウイグル語文中の漢字の訓讀

『實義疏』のウイグル文中に現れる漢字列は、そのほとんどが翻譯原典である漢譯『實義疏』中の語や句、文を抜粋して掲げたもので、直後に同一内容を含むウイグル語譯が續いている。これは翻譯原典の漢文中にウイグル文の位置を指示するために插入されたものである。一方、これらとは別に若干ではあるがウイグル語の語や句をわざわざ漢字に入れ替えた例がみられる。

a)

先-ki oqïš 大力奴 baxšï-nïng qïlmïš diravi-sïnga yarašï ol （A2542-2543）
「先の讀みは大力奴師のなした實體に相應しい」

この部分が甘肅本と重なることは先にも述べた。

öngdünki oqïš tailigdu baxšï-nïng qïlmïš diravi-sïnga yarašï ol （*ll*.433-434）

甘肅本ではロンドン本の「先-ki」には öngdünki が「大力奴」には tailigdu が對應する。「先-ki」の -ki は形容詞接辭であり、「先」は öngdün に對應する。ロンドン本の使用者はこの漢字をウイグル語に訓讀した。ところで著者はこの甘肅本の内容を知るまでは「大力奴」がサンスクリット起源の音寫形式かあるいはウイグル語譯で讀まれたと推定していた。それは次のような文脈を參考にした。

尊者聖奴 ayaγqa tägimlig aryataze baxšï (kikinč berü) sözlär （4109）
「尊者、聖奴師が答えて説く」

ayaγqa tägimlig aryataze baxšï munï sözläyür tüzünlär qulï tep（3182-3183）
「尊者阿梨耶馱娑師、これを聖奴という」。

漢語「聖奴」にはサンスクリット Āryadāsa の音寫形 aryataze あるいはウイグル語 tüzünlär qulï が使用されている。しかし、「大力奴」は甘肅本では漢語の漢字音讀みである tailigdu が對應しているのでやはり音讀された。

---

117 Cf.この議論は以下の著述等で行った：庄垣内（1982）pp.105-119, 庄垣内（2003a）, Shōgaito (2004).

b)

自此前 käntü munta öngdün öritmäz bïšrunmaq yoluγ （B597-598）

「自らこれより前に修道を起こさない」

「自此前」は直後に käntü munta öngdün とウイグル語譯されているので、それに冠された漢字列であり、これを訓讀例とすることはできないが、「自此前」は實は「自-tä 此」と書かれていたものを、傍注をもって訂正した形式である。「自-tä」は käntü-tä 「自らに（～より）」と訓讀されるべきものであったのを、漢字 3 文字に置き換えたのである。もっとも「自此前」は「此れ自り前」と讀むのが正しい。

c)

善法 ädgü nomlar örtügsüz yrlïγsïz birlä yaratïlmïγ bilig bolur 心 uγušï köngül bilig uγušï （B581-582）

「善法、無覆無記と相應した識は意界、意識界となる」

冒頭の「善法」は ädgü nomlar に對應するので、それに冠された漢字列である。「心 uγuš-ï」は「意界」を表す。「心」のウイグル語 köngül は漢語「意」の譯語でもありうる。いずれにしても「心 uγuš-ï」は köngül uγuš-ï と訓まれたにちがいない。

d)

tägimlig ol yarašï 已之 tüdγalï （A3724）

「これによって適切に妨げるべし」

「已之」は正しい漢語ではない。おそらく「以此」「以是」からの類推形であろう。「已之」はウイグル語で munï üzä 「これによって」と訓まれたにちがいない。

上掲 c）の「心」と d）の「已之」が翻譯の原典にあったとは考えられない。これらは書寫段階において插入されたと考えられる。

e)

拔衆生出生死泥者 teptemiši ärsär. qaltï adïnqa asïγ qïlγuluq tïltaγqa tükällig bolmaq ärür （A1502-1503）

「「拔衆生出生死泥者」といったのは、謂わく、利他の因が圓滿となることである」

ウイグル文中の「拔衆生出生死泥者」にはウイグル語譯が省略されている。この漢字列は tartïp tašγarïp tïnlγlarïγ ündürti ärsär sansarlïγ kök titigtin と讀まれたにちがいない。このウイグル語は語や句のレベルを超えている。

『實義疏』のウイグル文にはそう大量の訓讀漢字は現れない。一方大英圖書館藏 Or.8212-108 に收められた『阿毘達磨俱舍論』頌の注釋書斷片やストックホルム民族

學博物館藏の『入阿毘達磨論』の注釋書（1935.52.21）にはこのような文中訓讀漢字が大量に出現する。前者のテキストはわずか 13 行を留める小斷片であるが重要である。e）に掲げたこの轉寫テキストはかつて百濟康義氏によって提出された[118]。

f)

一勝義 ädgü ol 何 ol 答 nirvan ol 最極安穩 qamaγ 苦都寂 inčä qaltï 无病 täg 一 ädgü 故二常故 yeg atanur činkertü töz üzä 有故 yörüg atanur 二者自性 ädgü 慚愧 ol azsïzta ulatï 三 ädgü 根 -lar ol 如良藥 täg bu 五法自體是善 ol 三者相應 ädgü ol 何 ol 答 olarnï birlä 相應心心所法 ol bular 非自性 ädgü ärmäz azsïzta ulatï 慚愧 -ta ulatïlar birlä 相應 -ïntïn ädgü tip atanur 雜良 ot 水 täg 四者等起 ädgü ärsär 色 -li qïlïnč-lï 心 -täki nomlartaqï 四相及得二无心定 ol öz töz üzäki ulatï birlä qatïlmaq üzäki ädgülärtin 等起故 如良藥汁所引生 süt täg 生死貪等三 ayïγ 根 -lar anï birlä 相應心心所法身口二 qïlïnčlar ol 喩 -i arïš ig täg 毒藥 täg aγuluγ ot 水 -tïn 引 süt täg kök qalïγ 非擇滅 ikigülig 義无記 ol 常故勝義 atanur 非道所證故无記 atanur 无記-nïng 相應 -sï 等起 -sï bolmaz

喩 -i（=yöläšürüg-i）のように人稱接辭が付いた漢字もあるのでこれら漢字がウイグル語に讀まれたことは確かである。百濟氏もいくつかの漢字にはウイグル語讀みを試みたが、ここでは全體をウイグル語で讀んでみたい：

ang'ilki yeg yörüglüg ädgü ol qayu ol kikinč berü sözlär nirvan ol qamaγta artuqraq enčgülüg äsängülüg ärip qamaγ ämgäklär arïtï amrïlur ïnča qaltï igsiz täg ang'ilki ädgü üčün ikinti ürlüg üčün yeg atanur činkertü töz üzä bolmaq üčün yörüg atanur ikinti ärsär öz tözlüg ädgü uvut ïyat ol azsïzta ulatï üč ädgü yïltïz-lar ol qaltï ädgü ot täg bu beš nomluγ öz töz ärsär ädgü ol üčünč ärsär birlä qatïlmaq ädgü ol qayu ol kikinč berü sözlär olarnï birlä qatïlmïš köngül köngültäki nom ol bular näng öz tözlüg ädgü ärmäz azsïzta ulatï uvut ïyat-ta ulatïlar birlä birlä qatïlmaq-ïntïn ädgü tep atanur qatïlïšmïš ädgü ot suv täg törtünč ärsär tüz turmaq ädgü ärsär öng-li qïlïnč-lï köngül-täki nomlartaqï tört bälgülär ulatï piraptï iki köngülsüz dyanlar ol öz töz üzäki ulatï birlä qatïlmaq üzäki ädgülärtin tüz turmïš üčün qaltï ädgü ot suvtïn tartïlïp tuγγuluq süt täg sansar azta ulatïlarnïng üč ayïγ yïltïz-lar anï birlä birlä qatïlmaq köngül köngültäki nomlar ät'öztäkili tiltäkilining iki qïlïnčlar ol yöläšürüg-i arïš ig täg aγuluγ ot täg aγuluγ ot suv-tïn tartïlmïš süt täg kök qalïγ bilmätin öčmäk ikigü-lig yörüg yarlïγsïz ol ürlüg üčün yeg yörüglüg atanur yol tanuqla-γuluq ärmäz üčün yarlïγsïz atanur yarlïγsïz-nïng birlä qatïldačï-sï tüz turdačï-sï bolmaz

この漢字交じりのウイグル文はウイグル僧によって上のように讀まれたであろう。何の目的でこのような文章を書いたのかは解らないが、彼らがアビダルマ論書の漢字漢語を容易にウイグル語讀みしたことを示している。なお、アビダルマ論書以外にも

118 百濟（1980a）pp.44-46.

『觀音經に相應しい三篇の Avadāna』（Or.8212-75A）や『菩薩修行道』（Pelliot Ouigour 4521）のウイグル文には類似の漢字列が大量に現れ、その中には文レベルのものも多く含まれる。これらの斷片類は皆、『實義疏』が出土したのと同じ敦煌の洞窟（ペリオ編號 181 あるいは 182 窟）で發見された可能性が大きいものである[119]。

1.4.5.1.2『實義疏』ウイグル語文中漢字の音讀

ところで、『實義疏』における漢字の音讀がどのように行われたかについて考えてみたい。ウイグル語文獻中の漢字列が音讀される場合は、多くの場合に tegmä「すなわち」を置いてそれにウイグル語譯を續ける。『實義疏』にも tegmä は 4 箇所現れる。何れも同じ内容の 2 つの文脈においてである。

a)

八轉聲中 munï yänä *var čun ši* tegmä säkiz türlüg vibakti-larnïng arasïnda bešinč tïn vibakti üzä *luy li yab šig* tegmä altï türlüg adïra qabšuru yörgülük samaz-larnïng arasïnda ärkä tayaqlïγ temištäki nïng samaz üzä yörmiš kärgäk tep. （A4353-4357 cf. A4391-4395）

「これをまた「八轉聲」、すなわち、八種の格の間において第五の從格によって、「六離合釋」、すなわち、六種の分け、合わせて釋すところの語釋（samāsa）の間で、依士釋によって釋さねばならない、と」

漢字「八轉聲中」は翻譯原典の漢文を引いたものである。「八-轉-聲」を *var čun ši* と音寫して、tegmä をつけて säkiz türlüg vibaktï-lar-nïng「八種の格-の」とウイグル語譯している。*luy li yab šig*「六-離-合-釋」も同じく tegmä をつけて、altï türlüg adïra qabšuru yörgülük samaz-larnïng「六種の分け、合わせて釋すべき語釋の」と譯している。さらに、*var čun ši* と *luy li yab šig* には各語の左傍行間に「八 轉 聲」「六 離 合 釋」と小さく漢字が添えられている。これらウイグル文字音寫形式はウイグル漢字音の體系に所屬する。この漢字を添えたのはおそらく書寫人であった。書寫人にとって、漢字音による音讀からこの術語を同定するのは難しかったにちがいない。そこで漢字を添えて明示したものと推定できる。

ところで、「問答」形式のウイグル文に冠された「問」「答」の漢字あるいは「論（曰）」「釋（曰）」がどう讀まれたのかと言う問題はなかなか難しい。先ず、75A におけるこれら漢字の初期の出現に際しては直下にウイグル語譯の書かれているものがある。

b)

論曰 šastra-ta sözläti ärti （A75-76）
釋曰 yörä sözlär （A18-19）
釋曰 yörä sözläp 問 čodake sözlär （A79）
答 kikinč berür （A32）

119 前者に關しては庄垣内（1982 pp.3-92）、後者に關しては庄垣内（2003b pp.311-347）を參照。

これは「論曰」などの讀み方を後續のウイグル語によって指示したものかも知れない。すなわちウイグル語に訓讀された。しかし一方でウイグル文獻には『千字文』のように日本語の文選讀みに似た讀み方も現れる[120]：

c)

yun tïng ču yu bulït sekridi yaγmur yaγdï :
lu ker vi šo salqïm tüšdi qïraγu tongdï
「*yun*（雲）*tïng*（騰）*ču*（致）*yu*（雨）　雲が騰った　（のぼった）。雨が降った。」
「*lu*（露）*ker*（結）*vi*（爲）*šo*（霜）　露が降りた。霜が凍った。」

漢字はまず音讀され續いて訓讀されている。日本語では次のように讀まれた[121]。

雲騰致雨　　（ウントウとくものぼって　チウとあめをいたす）
露結爲霜　　（ロケツとつゆむすんで　ヰサウとしもとなる）

ウイグル語譯『千字文』にはウイグル文字による上のような漢字の音寫のほか漢字そのものが入れられたものもあるので、論曰 šastra-ta sözläti ärti が *lun vur* šastra-ta sözläti ärti と讀まれた可能性もある。もし、「論曰」などがもし文選讀みされていたのなら、直下にウイグル語譯をもつ他の漢字列も、たとえ tegmä が無くとも文選讀みされていた可能性は大きい。

1.4.5.2 漢文との對照を前提として書かれた『實義疏』ウイグル文

1.2.2.1 で敦煌莫高窟北區石窟出土のウイグル文『實義疏』斷片 B52:乙 17 が抜粋文であることを述べた。各抜粋文の初頭には漢字列が冠され漢文翻譯原典中の抜粋箇所を指示した。抜粋文は漢文を對照とすることを前提として作られたのである。漢文を對照するという點においては『實義疏』自體にも同じことが云えるのではなかろうか。

まず『實義疏』のウイグル文中に現れる漢字には明らかに漢文翻譯原典から抜粋したといえる漢字列が散在する。

a）節略漢文『實義疏』と對應する文

balïq tutγu tïltaγïnda basa toor yadïp 此魚曳之不出 bu balïqïγ tartïp ündürmätin ken sanï mïng kišilär birgärü birikip tartïp ündürüp kördilär anïng üküš tälim bašïn körkining oxšatïγïnïng qorqïnčïγïn （A2493-2497）

「困捕魚次。網著此魚。曳之不出。後數千人同共曳出。見其異類多頭形貌可怖。」（大正 Vol.29, p.325c）

120 庄垣内（2003a）pp.28-29.
121 ここでの日本語における『千字文』の讀み方は、小川環樹・木田章義『千字文』（1997 年 岩波文庫 p.28）に從った。

b)『順正理論』からの引用文

birök öng körmäk iš ärür biligning törülügi tesär bu öngüg körmäk iš köztä öngi tuγγu kärgäk 由識長益 bilig uγurïnta üklip ašïlïp birlä tuγmïš maxabut-ï kim tuγurmaq üzä yeg adruq ärkligig uyur körgäli qamaγ önglärig （B1007-1011）

「若見色用是識生法。此見色用離眼應生。由識長益俱生大種。令起勝根。能見衆色。」（大正 Vol.29, p.364b）

ウイグル文中の漢字列は下線部を施したウイグル語あるいは漢文と對應する。これらウイグル文『實義疏』中の漢字語句の選擇に法則性を見いだすことはできない。抜粋漢字列は單純にウイグル文が翻譯原典であった漢文『實義疏』の何處に當たるのかを指示するための插入である。

一方、ウイグル文の内容把握が漢文の對照なしには不可能な場合もある。

c)

具足應言 tükälinčä ärsär tägimlig ärti sözlägäli bilmäkning küčindä bululγuluq bolmïš öčmäk tep amtï qavïrïp ketärip küčindä bululγuluq bolmïš tegüči üč užikin yindäm sözlämiš ol bilip öčmäk tep （A3326-3330）

「具さには、應に「擇の力において得られるところとなった滅」と言うべきであった。今、「力において得られるところとなった」という三文字を略去して、唯「擇滅」といったのである。」

漢文「擇力所得滅」（『俱舍論』大正 Vol.29, p.1c）中の 3 文字「力所得」を略去して「擇滅」となることを述べたものである。užik「文字」がウイグル語の單語を表すことは一般的にはないが、假にここでウイグル語單語を表示しているとすれば、「擇力所得滅」に對應するウイグル語は bilmäkning küčindä bululγuluq bolmïš öčmäk のごとく語數は漢語と一致する。すなわち 5 語からなる。「力所得」に對應する語も küčindä bululγuluq bolmïš のごとく同じ 3 語である。しかしこの 3 語を略去した bilmäkning öčmäk（「知ることの滅すること」）は「擇滅」を表わさない。「擇滅」には bil-ip öčmäk（「知って滅すること」）が定譯として不動である。ウイグル文の内容はやはり漢語との對照を前提に書かれている[122]。

また、ウイグル文中の漢字にも漢文の對照を前提として掲げられたものがある。

122 これに類似の例は A3314-3316 にも現れる：qaltï ud qošuγluγ qanglïγ atamïš täg ud qanglï tip qavïrïp kitärip ikin araqï savïn anïn muntaγ tip sözlämiš ol tip「ちょうど牛の駕する所の車を牛車と名づけたごとし。二つの間にある言を略去して、それでこのようにと説いたのである」（如牛所駕車名曰牛車略去中言故作是説）qavïrïp kitärip ikin araqï savïn「二つの間にある言を略去して」の二つの言とは漢文「牛所駕車」の「所駕」を指す。その結果 ud qanglï「牛車」となることを述べている。

d)

ulatï üčünč padak-nïng bašïndaqï ymä ök tegüči 亦 užik törtünč padak-nïng adaqïndaqï ulatï tegüči 等 užik üzä 貫通上下 sapïp yumdarur üstünkisin altïnqïsïn tep （A4295-4297）

「さらに第三句の最初にある「また」という「亦」の字と、第四句の末にある「など」という「等」の字によって上のもの、下のものを貫通する。」

釋の對象となっている頌は A3879-3881 にウイグル語譯されていて、なるほど第 3 句初頭には ymä ök「また」が、第 4 句末には ulatï「など」が立つが、ここに漢字を入れたのは明らかに漢文の次の 2 字を示そうとしたものである。

又諸有爲法　謂色等五蘊
亦世路言依　有離有事等　（『倶舎論』大正 Vol.29, p.2a）

次の例もこれに類似する。

e)

稱 užikïγ tängläp ymä ter （B1901）

「「稱」の文字を「量って」ともいう。」

これは漢文「如根微量境微亦然。相稱合生鼻等識故。」（『倶舎論』大正 Vol.29, p.12a）の「稱」に語義を與えたものである。

また、文中に漢字こそ入ってはいないが、漢文を想定して議論される場合もある。

f)

tuγa tükätmiš tuγdačï törülüg tep temiši ärsär tïdar ol tuγmadačïsïn tuγa tükätmiš tep temiši ärsär tïdar ol tuγmadačïsïn tuγa tükätmiš tep temiši ärsär qaltï ärtmiš közünür ödki biliglär ärür basaqï tuγmaq tegüči üžik odγuraq ken tuγdačï bilig ärür （B300-304）

「「已生生法」といったのは、不生を妨げる。「已生」といったのは不生を妨げる。「已生」といったのは、謂わく過去。現在世の識なり。次の「生」という文字は定んで當生の識である。」

ウイグル語では「已生」は tuγa tükätmiš、「生法」は tuγdačï törülüg である。「次の「生」という文字は定んで當生の」の「文字」というのは「生法」の「生」のことで、ウイグル語では tuγ-dačï（「生まれる－べき」）に該當する。ウイグル語として解釋するなら「生」には tuγ-dačï を立てたであろう。それを tuγ-maq と不定形で立てているのは漢文の「已生生法」（『倶舎論』大正 Vol.29, p.10a）を想定して、漢字「生」に對應するウイグル語の無標形式を選擇した結果である。

次の例も同じ類に屬する。

g)
有離者 ünüš-lüg teptemiši ärsär ünüš ärsär qaltï ünmäk öngi üdrülmäk ärür 有者 lïγ teptemiši ärsär adïrtlïγ otγuraq tep yörüg'ol （A4126-4128）
「「有離」といったが、「離」はちょうど出離することである。「有」といったのは決定という義である」

これは、『倶舎論』の「或名有離。離謂永離。即是涅槃」（大正 p.2a）の「有離」を對象とした注釋である。「有離」にはウイグル語 ünüš-lüg が立つので、「有」を表す所有表現の接尾辭は、ウイグル語の範圍では -lüg を用いるのが自然であるのに、「有」の釋には lïγ が使用されている。この形式は語釋の表現（有財釋）にも現れるように無標の形式である。ウイグル文中の「有者」は lïγ teptemiši ärsär に對應する。なお、A3930 でも「有爲」etig-lig の「有」の釋に同じように、lïγ が用いられている。

上記のように、『實義疏』には漢文との對照を前提とした内容がしばしばみられる。このことから『實義疏』文中の恣意的な漢字列の散在は、抜粋『實義疏』斷片 B52: 乙 17 がそうしたのと同じく、漢文との對照における對應部分の指標として機能したものと推定できる。

一方、75B は、75A と異なって「釋曰」の下には必ず漢字の語句が掲げられ、その語句のウイグル語譯からウイグル文は始まる。

h)
küsämiš üčün bäkiz bälgülüg bildürgäli yörügin anïn bar qïlmïš ol bu sezikig tep 釋曰決者決斷 yinčürmäk ärsär odγuraqlanmaq üzmäk ärür istämäk ärsär saqïnmaq ülgülämäk tetir atqanγularïγ saqïnïp ülgüläp odγuraqlap üzär üčün adïrtlïγ odγuraq anïn atamïš ol yinčürdäči istädäči tep （B933-938）
「その意味を明白に示すことを欲したので，この疑問をもったと。釋して曰く「決」は「決斷すること」である。「度」は「思量すること」をいう。境を思量して決斷する故，それで「決度」と名付けた。」

「釋曰」に續いて注釋は始まる。本來ならそれに先行して注釋の對象となるウイグル文が存在するはずである。「釋曰」以下の注釋文の内容から判斷して，翻譯原典の漢文は次のようであったと推定できる。

論曰以五識俱生慧不能決度故審慮爲先決度名見釋曰決者決斷・・・・

もし 75B が、75A あるいは北京圖書館藏漢譯『實義疏』第 3 卷と同種の漢譯文を翻譯の原典にしたとするなら、75A で「論曰」から始まる『倶舎論』の引用文は省略されたことになる。釋の部分だけを抜粋し、その冒頭に漢文『實義疏』の漢文の一部を漢字で掲げ、順次連結したものとなる。この形式は、漢字語句を初頭に掲げて抜粋

ウイグル文を後續させるという點において、先の北區石窟出土のウイグル文『實義疏』斷片 B52:乙 17 と基本的に變わらない。75B は釋文の先頭に必ず漢字語句を掲げることから判斷して、やはり漢文『實義疏』との對照を前提として書かれたものと推定できる。

1.4.5.3 漢文訓讀の書き下し文としての『實義疏』ウイグル文

ところで、ウイグル文『實義疏』は先に議論したように何故語順を漢文に擬ねて作らねばならなかったのであろうか。

i)

birök vinay-ta　inčip munta kengürü yörär üčün pratimokš sudurnung
若 毘奈耶　即　是　廣　釋　戒　經
tözin　ärür tngri burxan yrlïqamïš　tep　abidarimta kengürü
本　故　是　佛　説者　阿毘達磨　廣
yörär　suduruγ　nä üčün säčä sezinür sizlär　tngri burxan yrlïqamïš
釋　契經　何故　偏　疑　非　佛　所説
ärmäz tep　(A2276-2279)

ウイグル文は漢文語順に從っているが，決して機械的に漢語化されているのではない。先に述べたようにウイグル語として理解できる範圍の漢語化に止まっている。このテキストのウイグル語は構文レベルを除けば傳統的ウイグル文語の構造を外れるものではない。したがって書き手にとって語順をウイグル語本來のものに作ることは極めて簡單であった。上掲ウイグル文を本來の語順に組替えると次のようになる。

birök vinay-ta　inčip munta pratïmokš sudurnung tözin　kingürü yörär
若し毘奈耶では即ち 是れ　戒　經の　根本を　廣　釋する
üčün tngri burxan yrlïqamïš　ärür　tip　abidarim-ta　suduruγ
故　佛の 説かれたもの　であると。　阿毘達磨では契經を
kengürü yörär　nä üčün säčä tngri burxan　yrlïqamïš　ärmäz tep
廣　釋する。　何故　偏に　佛が　説いたものに 非ずと
sizinür sizlär
疑う（汝ら)。

ウイグル語使用者にとっては當然のことながら、この文の方がはるかに理解しやすいし、ウイグル文への翻譯者にとっても組替え作業は簡單至極であった。どうして不自然な擬漢ウイグル文を作る必要があったのだろうか。

さて、ここで 1.4.3 以來の議論踏まえてウイグル『實義疏』の特徴的な内容について以下にまとめてみた。

1. ウイグル文『實義疏』は漢文を對照として使用することを前提に書かれた。
2. ウイグル文『實義疏』は語、句、文レベルの訓讀された漢字列をもっていた。

3. ウイグル文『實義疏』は擬漢構文を使用した。
4. ウイグル文『實義疏』は定譯構文と定譯佛教術語をもっていた。
5. ウイグル文『實義疏』はウイグル漢字音を使用した。

上掲の 1 ～ 5 の特徴から著者はウイグル僧が漢文『實義疏』を直に譯讀したという以下のような推論を行いたい。

ロンドン本『實義疏』7015 行のウイグル文は漢文『實義疏』を對照として讀むことを前提に翻譯された。翻譯者あるいは書寫人の漢文の音讀はウイグル漢字音によって行われた。だが、ウイグル漢字音には聲調の區別が無く著しくウイグル語音韻化されていたために膨大な數の同音異義語を内包するので、それを通して漢文の内容を理解することはできなかった。一方彼らは漢文『倶舍論』あるいは漢文『實義疏』の漢字を文レベルにおいて訓讀することができた。内容理解を目的とする漢文注釋書の讀みに際して彼らは漢語音を介さずに漢字の表意的性質を利用して直接ウイグル語譯しながら讀んだにちがいない。訓點をもたない彼らは、定譯構文と定譯術語を驅使しながら、擬漢構文を使用することによって一定の速度に保ちながら譯讀できた。もし、この方法を採らなければ漢文のまとまった内容分を區切って先に讀み、續いてその部分をウイグル文に組み立てる必要があり一定の早さでは讀めない。ウイグル語のこのような漢文の讀み方は、日本語の漢文訓讀ほど發達したのもではなかったが、やはり一種の「漢文訓讀」といえるものである。書き遺されたウイグル文『實義疏』は「漢文訓讀」の「書き下し文」に類するものといってよい。

ところで、ウイグル僧は論書や注釋書に關してはこのような「漢文訓讀」を使用したが、經典類に關しては音讀が行われていた。それはウイグル文字表記された漢文『聖妙吉祥眞實名經』などの存在から明らかである[123]。ベルリンに所藏の漢文『雜阿含經』斷片の末尾空白欄にウイグル語でその漢文をウイグル僧が朗讀した旨書かれているが「阿含經」も漢字音で朗讀されていたにちがいない[124]。

上で、ウイグル僧が漢文『實義疏』を直にウイグル語譯しながら訓んだ、と推論した。しかし、そこにはなお不明な點も殘る。ロンドン本『實義疏』の訂正文を書いた人物は漢文『倶舍論』は對照したが、漢文『實義疏』は對照していない。そして『倶舍論』からの引用以外はウイグル文のみから内容を理解しようとし、多くの「誤修正」や「過剩訂正」を産出した。75A の書寫人が何故、漢文『實義疏』を對照しなかったのかは疑問である。また 75B に關しては、大量の誤譯、誤寫が含まれていることから、書寫人が漢文を對照させて書寫したとは考えにくい。明らかに元から有ったウイグル文を單純に書寫した。ただ 75A と同一の構文で書かれ、漢文『實義疏』との對

123　つい最近になってベルリン・ブランデンブルグアカデミー所藏の漢文『聖妙吉祥眞實名經』斷片（Ch1597　verso）がウイグル文と同じく左から右に行を逐っていることが分かった。これは明らかにウイグル僧によって書かれたものであり、ウイグル僧が漢文『聖妙吉祥眞實名經』に馴れ親しんでいた證據と云える。この情報は橘堂晃一氏から入手した。同氏に感謝の意を表したい。また 1.1.6.1 で述べた、ウイグル僧による漢文『倶舍論』への漢字「問」「答」の付加もウイグル僧が漢文に親しんでいた證據となる。

124 Cf. A. von Gabain（1967）: Die Drucke der Turfan-Sammlung, Berlin *SDAW*, p.28. 庄垣内（2003a）.

照を前提として作られていることから考えて、本來は 75A と同様の方法で訓まれたものといえる。「訓讀」に馴れているウイグル僧がなぜ漢文『實義疏』を見ずにウイグル文を訂正したのかは謎である。さらに、ロンドン本 75A と甘肅本とを比べることによって、兩者が同じウイグル文を基にして書き寫されたものであることが先の議論で判明した。ウイグル僧が漢字に馴染み自由に漢文が「訓讀」出來たのなら、何故同一の「漢文書き下し文」を複數の人々が使用せねばならなかったのであろうか？あるいは「漢文訓讀」の手本として使用されたのであろうか？今は判然としない。しかし、ウイグル僧が『實義疏』の別譯も自由に作り得たことは、1.2.2.1 でテキストを掲げた抜粋ウイグル文 B52 乙:17 と、ロンドン本との比較から理解できる。ただし、番號は B52 乙:17 のものに順ずる。

B52 乙:17	ロンドン本
1. bolmaz uɣurï yïq-ï turɣurup	1. bulduqmaz üčün uɣurï yïqï. tuɣurup
2. atɣanɣalï uɣuluq bu kšan-taqï	2. atqanɣalï uɣuluq bu kšantaqï
3. -in	3. köngül-in
4. ulatï munï birlä bu bir kšan-lïɣ adïnlar köngülining	4. ulatï munï birlä bir kšanlïɣ adïnlar köngülining
5. ikägü-nüng birlä ägsük üčün basutčï-larï	5. ikigününg birlä ägsük üčün basutčïsï
6. anïn sözlämiš ol	6. anïn sözlämiš ol
7~8. munta sangabadire baxšï irgü qïnaɣu üčün :: vasubandu baxšï-nïng ägsütmiš-in	7~8. munta sanggabadre baxšï 責論主 irgälir qïnaɣalïr üčün vasubandu baxšïɣ. ägsütmiš
9. nom orunnung ::	9. nom orunnung
10. -lïɣ yörügin	10. bolmaq-lïɣ yörügin
11~12. 疏主 söz-lär munta vasubandu baxšïnïng ymä ök yoq arür ägsütmiš azmïšï :	11~12. ästiramati baxšï sözlär :: munta ymä ök yoq üčün ägsütmäk azutmaqï
13. anïn tägimlig ärmäz üstägälï	13. anïn tägimlig ärmäz üztägäli
14. ymä ök (bu) bütün tükäl	14. ymä bütün

B52 乙:17 は上掲 3, 9 の -in, -lïɣ のような接尾辭まで抜粋しているのでこの抜粋が既に存在したウイグル文から行われた可能性は大きい。しかし、B52 乙:17 のウイグル文が明らかにロンドン本とは異なった翻譯文であることは兩文の違いの大きさから理解できる。

1.4.5.4 まとめ

ウイグル語の「訓讀」には日本語の漢文訓讀のように「訓點」を付した「轉讀法」の開發はなかったので、漢文語順を入れ換えて訓むことはできなかった。ウイグル語文法の範圍で、できるだけ漢文語順に隨って訓もうとしたのはむしろ自然である。實際、この訓み方は、朝鮮語にみられるいわゆる「漢文直讀懸吐」に似ている。もちろ

んウイグル側では、句讀點の位置に語尾を置く「懸吐」の存在は知られていないので、單に漢文をウイグル語で「直讀」したことになる。いずれにしても『實義疏』にみられる「擬漢ウイグル文」は漢文訓讀の「書き下し文」の類といえる。そして、單に『實義疏』だけでなく、ウイグル文アビダルマ論書一般にこの「訓讀」は觀察できるのである。

2.『阿毘達磨俱舍論實義疏』以外のアビダルマ論書

2.1 ウイグル文『入阿毘達磨論』の注釋書斷片[125]

ウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書についてはかつて百濟（1980）においてストックホルム民族學博物館藏の 3 葉（1935-21~23）と羽田家所藏寫眞 4 葉の存在が明らかにされた。同時に前者の中から 6 行が轉寫譯出され、後者から 15 行の轉寫が掲げられた。

ウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書は最近になってロシア科學アカデミー東洋文獻研究所からも 6 斷片が發見された。本章ではこの 6 斷片について考察しテキストを提出したい。

2.1.1『入阿毘達磨論』注釋書の體裁

『入阿毘達磨論』の注釋書にはチベット語譯やトカラ（AB）語譯があるが、サンスクリットや漢語のものは知られていない[126]。ストックホルム所藏品も羽田家所藏寫眞も「問」「答」や「論曰」「解曰」などの漢字が混入されているので、いずれも漢語からの翻譯と推定できる。ここで扱うロシア所藏のウイグル語譯は漢字を一切含まない。しかしウイグル語構文が『實義疏』と同じ擬漢構文を使用しているのでやはり翻譯原典は漢文であったと推定できる。以下に扱う斷片には次の文獻番號が付けられている：

SI Kr.1/24	SI Kr.1/29
SI Kr.1/27	SI Kr.1/30
SI Kr.1/28	SI Kr.1/33

これら 6 斷片は漢文卷子の裏面に書かれたものである。漢文の內容は『大智度論』第 75 卷あるいは『摩訶般若波羅蜜經』第 15 卷の一部に相當する。詳細に檢討すれば兩者のうちの『大智度論』の內容により正確に合致する。これら斷片が連續する 4 斷片と、それらに近接する 2 斷片とからなることは、この漢文の內容から明らかにできる。大正大藏經では第 25 卷（No.1509『大智度論』）587 頁下段の 13 行から 588 頁上段 13 行までに相當する。斷片に書かれた漢文も 1 行 17 文字を有するが、文字の配列は大正大藏經とは異なる。各斷片が如何なる位置にあるかを以下に示してみる。漢字の配列はもちろん斷片のものに從った。

---

125 この節の內容は庄垣內（2004b）を基に書かれた。

126 チベット語譯の注釋書は Sārasamuccaya-nāma-Abhidharmāvatāra-ṭīkā と題される（東北 4096, 影印北京 5598）。トカラ語 A のものは井ノ口泰淳「Abhidharmâvatāra-prakaraṇa と入阿毘達磨論」『西域文化研究』Vol.4,「中央アジア古代語文獻」別冊（1961 pp.340-342）、トカラ語 B のものは百濟康義「トカラ語 B によるアビダルマ論書關係の斷片について－ Abhidharmāvatāra-prakaraṇa 註－」『龍谷大學佛教文化研究所紀要』No.13（1974 pp.21-36）に掲載されている。ここに提出するウイグル語文獻の內容はこれらの注釋書とは一致しない。

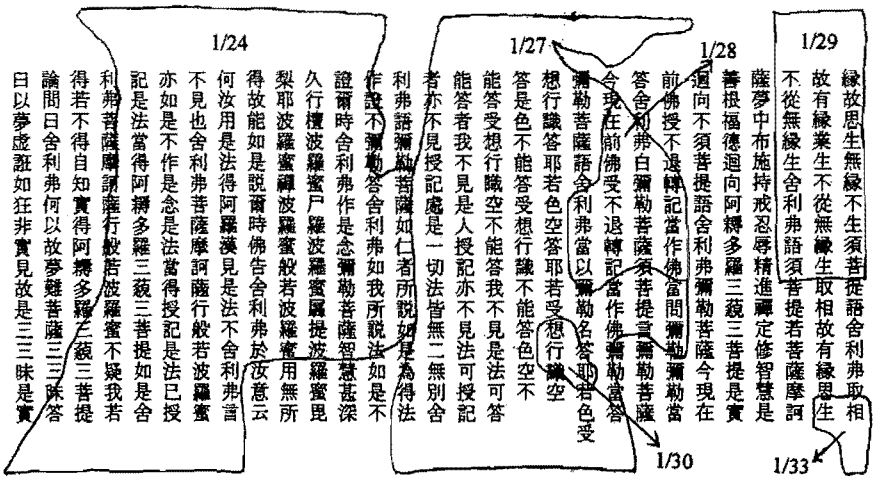


圖 1

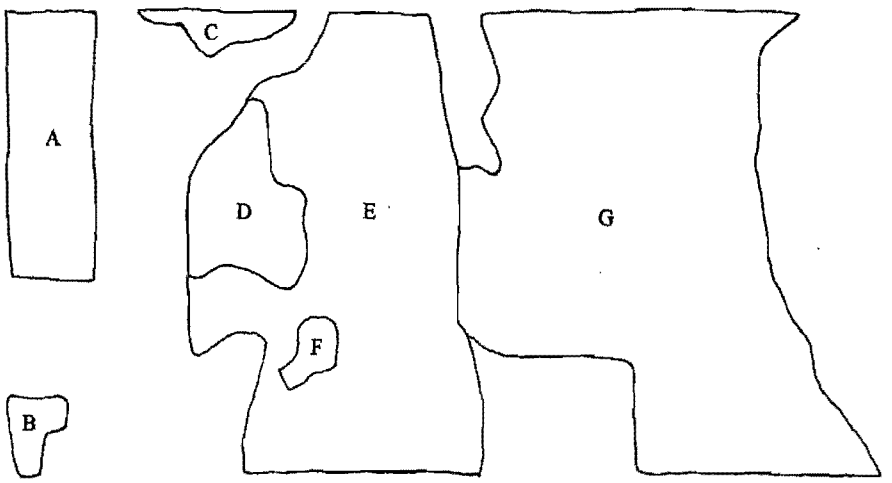


圖 2

圖1を裏返せば圖2のようにウイグル語面が復元できる。ただし圖1のSI Kr.1/27上部の突起はかつて東洋文獻研究所での斷片修復に際して連續するものと見なされた部分である。しかし實際には獨立して近接する小斷片であることがウイグル文の内容から判斷できる。この部分は圖2では分離して掲げ、個別の記號（C）を與えた。

SI Kr.1/24=G	SI Kr.1/29=A
SI Kr.1/27=E（突起部分 C）	SI Kr.1/30=F
SI Kr.1/28=D	SI Kr.1/33=B

2.1.2 『入阿毘達磨論』注釋書の文字轉寫テキスト

圖2で復元したウイグル文の轉寫テキストを掲げたい。文字は『實義疏』と同じ草書體で、語中のa(ä), r, nなどの區別のない多音字性の大きなものである。したがって文字轉寫するのは困難である。ここでは基本的に音素轉寫を掲げる。ただし音素tとdの區別はしない。またこの斷片ではsに文字zを當てる場合がみられるが、そのままzで示した。また、連續する斷片は繋げて轉寫し、斷片記號に行番號を加えて掲げる。

(A1) inčip munta kök qalïq etiglig töz-lüg bolmaq üz-ä bolur : [ ] (B1) anča qy-a ödü[ ]

(A2) särilgüsingä tïltaγ boltačïγ söz-lämiš ol atï bolur turmaq bälgü [ ] (B2) tüš bolup tur

(A3) -mïš tuš-ta munung ikinti kšan-taqï öz uγuš-luγ-ïntïn [ ] (B3) üš tep kšan-ïn

(A4) ülüš-lüg üčün anïn adamïš ol anča ödün tep tu[ ]maq nom[ ] (B4) m-larïγ kim az-qy-a

(A5) öd ülüši üz-ä tartar üčün angayu tüšüg anï üčün adamïš o[ ] (B5) tïltaγ bold [ ]

(A6) qaltï etiglig nom-lar anča-ky-ä ödün särilgütä öngin öngin bar [ ] (B6) y ädrämin ki[ ]

(A7) -qy-a ödün särgürgülük bu angayu tüš-nüng tartïlγu-sïnga ičtin [ ] (B7) etiglig no[ ]

(A8) öngin öngin bar ärür kenki tüz-üg tartdačï ädräm birök yoq ärti ärsär [ ]

(A9) muntaγ oz-uγluq tüš tartdačï ädräm bu nom-nung anča-qy-a särilmä[ ]

(A10)[ ] uγrïnta üčün anïn bolup anča qy-a ödün särilgäli uyu[ ]

(A11)[ ] öd[ ] särgürtäči ikiläyü umaγu krgäk tartγalï [ ]

(C1) öd[ ]

(C2) t'rdw[ ]

(C3) [ ]yk "[ ]

(C4) qurul[ ](ärmä[ ])[ ] (D1) kösünin yänä qaltï 'wy'[ ] (E1) [ ]

(C5) eti[ ] (D2) güsi qurulturdačï kävdäči [ ] (E2) tïltaγ-ïn [ ]
(C6) '[ ] (D3)nčip yänä tartar tep t[ ] (E3)-sär : tartmïš-ïn inčip ta[ ]
(C7) tüpükmäksiz [ ] (D4) birök antaγ oq ol tep (E4) tesär ymä ter kšan-ïn töz [ ]
(C8) myš krgäk angay[ ] (D5) s'r kävmäk bälgü qurulturdačï anï (E5)-ng ädrämin ärtmäk
bälgü [ ]
(C9) ärdürgäli(?) kšan[ ] (D6) qw krgäk munung uγrïnta at[ ] (E6) -n bälgü ärsär qaltï
ädräm[ ]
(C10)köz-ünür öd[ ] (D7) ödkä kigürgü-kä tïltaγ bold[ ] (E7) ärür nom-lar-nïng [ ]
(C11)ter qaltï bar [ ] (D8) ärtmäk bälgü tep közünür öd-tin [ ] (E8) -üšürdäči ärür [ ]
(C12)ärsär nom ärdmägü krgäk[ ] (D9) ymä ter qalïq-ta ulatï-lar-nïng ymä ök [ ] (E9) -γu krgäk ärt[ ]
(C13)l'r-nynk öng[ ](E10) mäk (D10) bälgü uγurïnta qurulur anïng ädräm antaγ yä[ ]
(E10) ikiläyü tw[ ]
(C14)törü antaγ[ ](E11) qy (D11) öčtük-tä tüši ken temin tuγγuluq är (E11)-tmäk bälgü-nüng 'y[ ]ky nom [ ]
(C15)[ ]yrwr ärtmiš[ ] (E12) bu birök (D12) yoq ärti [ ]sär nom ärtmägü krgäk eti(E12)-g-lig nom-qa [ ] üčün ärip ymä ter 'rd[ ]
(C16)[ ]kw[ ](E13) tep tesär : ulatï-lar-nïng y (D13) -oq üčün ärip ymä ter üz (E13)-ä ök ärtgü(?) krgäk munta tört türlüg etiglig
(E14)[ ]čï bälgü-läri ärür : etiglig bäl (D14) -gü-läri ärür ymä ter qayu (E14)-ta bolsar bu tört türlüg etiglig qïltačï bälgü
(E15)[ ]-p kök qalïq-ta ulatï-lar är (D15) -mäz : ulatï-larda ymä t[ ] (E15) munta yumtarï[ ] (F1) t (E15)-ügmiš-in öngtünki tört
(E16)[ ]lgü-lärig girant-taqï täg (D16) učuz uqγalï bolu[ ] (E16) yarlïqamïš ol bar ärür (F2) üč t (E16)-ürlüg-nüng (qïltačï) bälgü-lär [ ]
(E17)[ ]maq-ïn ymä ök bolur bilgäli ärtm (D17)-äk ulatï turm (E17)-aq kävmäkin turmaq- nïng (F3) adïnsïγ (E17) bolmaq-ïn ymä ter bilgä[ ]
(E18)[ ] p'ry(?) [ ]gayu yukdi üz-ä tanuq : qïltï ärti kntü basa angayu-qa(?) [ ] tanuq qï (F4)-lur : ol : nïng (E18) qïltačï bälgü-läri ärür
(E19)etiglig-ning temiš ärsär uqïtγalïr üčün etiglig bolgu-luq nom-ta öngi angayu bir-in (F5) etiglig q (E19)-ïldačï bälgü-nüng anïn
(E20)söz-lämiš ol nïng tegči savïγ yänä uqïtγalïr üčün etiglig qïldačï bälgü-nüng ymä (F6) ök etigl(E20)-ig irdükin qat[ ]

(E21)söz-lämiš etiglig bälgü tegüči savïγ söz-ig sudur-ta söz-läyü tükädip üč bolur tep šas (F7)-tr-ta söz-lä (E21)-sär tört bolur te[ ]

(E22)näčük ol qaršï bolmaz mu qutrulturdačï vaynike-lar-qa irtürgälir üčün ärür eti (F8)-gligig körgit(E22)-dük k't' k'"'"[ ]

(E23)širi karani birlä birlä ärdüki uqulmïšï (täg) bolur-ï ymä ter : nïng birlä ärdükiymä ter yangl (F9)-uq ol (E23) turmaq-lï kävmäkli iki [ ]

(E24)-ni qavšurup söz-lämiš ol bir qïlïp anï üčün otyuraq bar qïltačï bälgü-lär šastr-ta nom töz-ingä tayaq-lïγ-ïn söz

(E25)[ ]ämiš ol : sudur-ta abipiray yolïnga tayaq-lïγ-ïn qavšurup : tïnlγ-lar-nïng tuγurtγalïr üčün irmäkin qorqïnčïn

(E26)turmaq ärür tïnlγ-lar-qa azlanγuluq yapšïnγuluq orun kim irtürgälir titdürgälir üčün kävmäk birlä qavšurup

(E27)[ ]öz-lämiš ol anïn sudur-nung šastr birlä bolmaz qaršï bolmaqlïγ müni qataγï yöläšürüg abipirayïn uqγalï bolur

(E28)[ ]iri karna yöläšürüg ärür turmaq bälgü-kä ärtmäk bälgükä ol oq etiglig bolγuluq etiglig nom töz-lüg ärmäz sez-ik

(E29)ol oq etiglig bolγu-luq etiglig nom töz-lüg (nom) tesär etiglig boluγuluq-nung töz-i etiglig qïldačï bälgü bir(l)ä bir-ikip etiglig qïldačï

(E30)bälgü ymä ök üdlüm ütlüm adïrtsïz bolγu (krgäk) birök antaγ oq ol tesär nom-lar öčgü öd-tä tuγ[ ] krgäk tuγγu ödtä öčgü

(E31)kärgäk az-uča yänä bütün tuγmayu kärgäk birär baxšï-lar söz-lär etiglig qïltačï bälgü qayu ärsär ymä ter etiglig bolγu-luq-ta öngi

(E32)[ ]rmäz tep kikinč bergälir (tutγalïr) üčün olar-nïng savïnga anïn söz-lämiš ol ol oq etiglig bolγu-luq etiglig nom töz-lüg ärmäz tep

(E33)abipiray üz-ä uqïtur etiglig qïldačï bälgü : qayu ärsär ymä ter : nom ärmäz tep olar yänä öz-läyür-lär inčä tep ol oq etiglig

(E34)bolγuluq etiglig bolγuluq etiglig nom töz-lüg tesär munta bolur qayu mün qataγ tep ülüš nom-ta kntü kikinč

(E35)[ ]wz : nom töz-lüg ol tesär etiglig bolγu-luq-nung töz-i : birök siz-lär-ni täg söz-läsär etiglig bolγu-luq qayu

(E36)[ ] etiglig qïldačï bälgü etiglig bolγu-luq nom birlä üdlüm : atïrtsïz ärür tep : qayu ärsär qïltačï qïltačï

(E37)[ ] bolγuluq nom birlä : atïrtsïz bolγu krgäk munta inčip : büdün tuγmayu krgäk büdün tuγmamaqï ärsär

(E38)[ ] tïltaγ-sïz tüš-nüng öz-in ök tuγmïšš-sïz-ïn birök etiglig bolγuluq-ta öngi

(E39)[ ]tačï bälgü(-lär) tep tesär munta yänä ikiläyü bolγu krgäk angayu : qïltačï bälgüsi munï

(E40)[ ](G1) -ning yänä bar (bolmïš ymä ter) üčün (E40) adïn turmaq-ta ulatï etiglig qïldačï bälgü-läri

(E41)[ ](G2) ig bolγuluq nom-nung täg bar ärür tört (E41) türlüg eyinki bälgü-läri

(G3) [ ] tep inčip tüpükmäk-siz ärmäz bu kikinč ärür [ ]

(G4) [ ]üng eyinintä bolur üčün boldačï üčün ymä ter [ ]

(G5)[ ]y bolm[ ] üčün üčüz(?) yörmädi[ ]bälgü-lär öngin[ ]

(G6) bälgüläyür qy[ ] birär-in nom tuγmïš ödtä anïng öz [ ]

(G7) toquz tür[ ]lar birgärü turur öz t[ ]r töz bälgü eyinki bälgü birlä bolur säkiz töz bälgü[ ]

(G8) öngi kitä[ ]ip öz töz-in tuγur-ur adïn [ ] nom-larïγ eyinki bälgü-täki tuγmaq toquz türl[ ]

(G9) yintäm tuγurur töz tuγmaqïγ : küči küč[ ]üz üčü[ ] turmaq kävmäk ärtmäk bälgüg bilmiš krgäk ymä [ ]

(G10)tayanur nom ey(i)nki bärgü-kä tayanur töz bälgü töz bälgü[ ]yaq bolur nom ymä ter :-läringä ymä nom-nung töz bälgü[ ]

(G11)töz bälgü-nüng ey(i)nki bälgü tïltaγ-ïnta bar bolur i[ ]nom-nung täg tayanur(?) : bolur üčün ädrämi anï[ ]

(G12)töz-in nom-lar-nïng küči küčsüz kävig ärur išläšip [ ]nynk küčingä(?) tïltaγ(?) temi [ ]

(G13)[ ]yn [ ] töz-in körü [ ]-syz ärür iši küt[ ] ol tesär tuγurmaq turγurmaq käv[ ]

(G14)-maq-ta ulatï-lar ärsär tuγurγuluq-ta ulatï-lar ärsär ymä ter tüš tartdačï ärdäm ärür : etiglig nom [ ]

(G15)bar ärsär ymä inčip iši küdüki-läri ärmäz tört türlüg etiglig qïltačï bälgü tegli ičtin sïngarqï [ ]

(G16)-in taštïn sïngarqï tïltaγ-nïng küčintä iši bolur üčün büdgäli : toquz türlüg töz bälgü-lär [ ]

(G17)-tinki taštïnqï tïltaγ basutčï-qa tayaq-lïγ-ïn ymä ter tuγuryu-larta ulatï-lar tep temiš ärsär t[ ]

(G18)ädräm(-i) ärür ulatï temiš ärsär : nom-lar-nïng kälmätük ödtä näčä bar ärsär ymä bolmaz tüš tartdačï[ ]

(G19)uγurïnta bululur bu iš küdük a[ ]č[ ]l[ ]u oq tuγmaq ärtmäk üčägü-nüng qaltï anta eyin käz-i[ ]

(G20)tuγurmaq kävmäk artatmaq ärtü[ ]mäk ärür : üčägü qaltï olar eyin käz-igčä kim ol ädrämin tuγurt[ ]

(G21)nom-lar-nïng turmïš [ ]mätük köz[ ]r ödtä töz üz-ä näčä ičtinki : tïltaγ-qa tayaγ-lïγ : ad quvraγ-ï [ ]

(G22)ulatï-lar ärsär qaltï sav-qa tayaγ-lïγ-ïn tuγup bilgä bilig uqγu-ta yörügüg oxšadï-sïnča [ ]

(G23)öz yörügin qaltï bilgä bilig täg yörüg-kä utru ymä ter uqïdtačï-qa ymä ter adï ol: užik t [ ]

(G24)[ ]kšar tep nikznk at-larï ol yörüg-lär-kä tayaγ-lïγ-ïn uqïtmïš ol ad quvraγ-ïnta ulatï-larïγ [ ]

(G25)küdük üz-ä nikznk at üz-ä tayaγ üz-ä tep temiš ülüš nom-ta söz-lämiš ol (-läti ärti) qaltï sav-qa tayaq [ ]

(G26)üz-ä uquldačï savlïγ ünüg söz-lämiš ol bolur sav tep munï munčulayu sav-qa tayaq-lïγ-ïn tuγur[ ]

(G27)t' ulatï-lar anïn söz-lämiš ol tuγup tep : temiš ärsär qaltï bilgä [ ]

(G28)yörügüg oxšadï-sïnča inčip bälgürüp tep : bilgä bilig täg yörüg-kä 'w- bälgürüp ymä ter qaltï bilgä bilig "d[ ]p [ ]

(G29)[ ] uqur üz-ä uqulup bärgürmiš [ ]ulayu ymä [ ] t' ulatï-lar qayu : yörügüg uqïdγu-ta ol oq [ ] üz-ä uqulup : [ ]

(G30)[ ]rüg-kä uqγu ymä ter oxšadï-sïnča inčip bälgürtäči ärür : tayaq(?) temiš ärsär uyur uqïtγalï ö[ ]p : yertinčüdäki

(G31)-kä uqïtmïš-lar ol mundïta ulatï qa-lar kw'k[ ]m[ ] uz-unluγ(?) yörügi tep uqïtmaq ärsär [ ] körgitmäk

(G32)ärür kim adïn-lar-qa uqïtur biltir-ür üčün anïn adamïš ol uyur uqïtγalï öz yörgin tep nik [ ] ad quvraγï

(G33)atï ol ad ptak už-ik inčip munung saqïnč bölük akšar tep nikzng at-larï ol tep saqïnč ärür ad-nïng [ ] töz-in uqït

(G34)-tačï bölük ärür patak-nïng nikznk adï yörügüg uqïdtačï p[ ]k akšar ärür užik-nïng nikznk adï : ad[ ] -qa tayaq bol

(G35)-tačï qaltï köz bilig-intä ulatï-lar köz-tä (ulatï-lar-qa) tayaγ-lïγ-ïn tuγup öng-tä yörügüg (ulatï yörügkä utru) uqγu-ta bälgürüp umïš täg bilgäli

(G36)öz adqanγu-sïn adta ulatï-lar ymä antaγ oq ärür bu yertinčüdäki-lärkä yumγï-qa bilsikmiš bililmiš [ ] ter arduqraq büd

(G37)-miš yöläšürüg üz-ä qatnayu bütürür öngtünki yörügüg köz biligintä ulatï-lar temiš ärsär yöläšürüg ärür ad quvraγ-ïnda

(G38)ulatï-lar-qa köz-tä ulatï-lar-qa tayraγ-lïγ-ïn tuγup temiš ärsär : ad quvraγ-ïnta ulatï-lar-nïng-qa tayaq-lïγ-ïn uqmïšïngä

(G39)öng-tä ulatï yörügüg uqγu-ta bälgürüp temiš ärsär ptak-ta ulatï-lar-nïng uqγuluq yörügüg uqïtγu-ta uqγuluq yörüg-kä ut

(G40)[ ] ymä te[ ] oxšadï-sïnča bälgürmiš-ingä uyur : adqan(γu-sïn) temiš ärsär : ulatï-lar bälgü-tä öz adqanγu-sïn tuγurmaqï täg öz tuyunmaq bilgä

(G41)biligin yöläšürüg ärür ad quvraγ-ïnda ulatï-lar uqïtγalï uγu-ta öz yörüg tuγurmïš-ïnga adïn-lar : birök söz-läsär sav

(G42)uyur uqïtγalï yörügüg tep nä krgäk arqurasïnča adqanmaq čïn kert[ ] tep kikinč bergälir üčün bu sez-ik[ ]

(G43)anta basa ülüš nom-ta söz-lär ol oq savlïγ ün käntü öz-i : yaqïn yaγuq ymä ter uyur ärmäz uqïtγalï oot bolmaqï

(G44)-nïng yörügüg näng oot tep söz-lämiš öd-tä ötrü yarašï aγïz örtämäz [ ] oot

temädäči sav-ta örtädäči köyürdäči tep
(G45)[ ]örüg-kä(?) ödtä(?) ad sav-lïγ(?) uquld[ ]-lar-qa oot bolmaq-lïγ yörügüg sez-[
]ber[ ] antaγ
čïn kertü yörüg-täki [ ] ärsär äsringü yörü[ ]
(G46)[ ] anïng [ ] oot-ta ulatï ad-lar tuγ[ ]
uqulïr
(G47)oot-ta u[ ] ada-lar-nïng yörüg birlä [ ]
(G48)(t)ïtïγ[ ]ïtmaz üčün swkwdy tegmä ün
ürlüg
(G49)ol [ ] bar nom uyur uqïtγalï yörügüg tep : ulatï
(G50)[ ]layu oq savlïγ ün [ ] üčün
(G51)[ ] atqanγu-sïn bilgäli uq[ ]
(G52)[ ] savlïγ ün tïtïγ
(G53)[ ]tep [ ] ünüg söz-lädäči
(G54)[ ]'w söz-lär ün
(G55)[ ]ynt' büdüp
(G56)[ ]z-yn nom
(G57)[ ] adï : pw'
(G58)[ ]atïn

2.1.3 『入阿毘達磨論』注釋書の音素轉寫・翻譯・註

以下には注釋の對象である『入阿毘達磨論』漢譯を『入論』として掲げ、ウイグル文と和譯を併記して注を施した。『入論』からの引用ウイグル文の和譯には下線を引いた。2.1.2 に掲げた轉寫テキストの t と d、s と z はそれぞれ音素轉寫に改める[127]。

1 漢文『入論』：或應虛空等亦有可生義成有爲性是大過失由此故知別有生相（大正 Vol.28, p.987b *ll.*22-23）

(A1) inčip munta kök qalïq etiglig tözlüg bolmaq üzä bolur : [mün qadaγ]
「(A1)而してここで虛空が有爲性もてるものとなることによって（大）過失となる。・・」

2 漢文『入論』：能引別果暫時住因說名住相謂有爲法於暫住時各有勢力能引別果令暫時住此引別果勢力內因說名住相若無住相諸有爲法於暫住時應更不能引於別果由此故知有別住相（大正 Vol.28, p.987b *ll.*23-27）

127 和譯において {} には斷片の缺落部分を、() には譯文の補足部分を入れた。

(B1) ančaqya ödü[n] (A2) särilgüsingä tïltaγ boltačïγ sözlämiš ol atï bolur turmaq bälgü [ ] (B2) tüš bolup tur (A3) -mïš tušta munung ikinti kšan-taqï öz uγušluγïntïn [angayu t] (B3) üš tep kšan-ïn (A4) ülüšlüg üčün anïn atamïš ol anča ödün tep tu[r]maq nom[ ] (B4) [no]mlarïγ kim azqya (A5) öd ülüši üzä tartar üčün angayu tüšüg anï üčün atamïš o[l ančaqya ödün särilgüsingä] (B5) tïltaγ bold[ačï tep :] (A6) qaltï etiglig nomlar ančakyä ödün särilgütä öngin öngin bar [ärür küči] (B6) y ädrämin ki[m anča](A7) -qya ödün särgürgülük bu angayu tüšnüng tartïlγusïnga ičtin [sïngarqï tïltaγïn] (B7) etiglig no[mlar] (A8) öngin öngin bar ärür kenki tüšüg tartdačï ädräm birök yoq ärti ärsär [turmaq bälgü] (A9) muntaγ osuγluq tüš tartdačï ädräm bu nomnung ančaqya särilmä[k] (A10) [ ] uγrïnta üčün anïn bolup ančaqya ödün särilgäli uyu[r] (A11) [ančaqya] öd[ün] särgürtäči ikiläyü umaγu kärgäk tartγalï [angayu tüšüg]

「(法が、別果を引いて) (B1)暫時に住せられることへの因となるものを説いた。名は住相である。・・(B2)果が成じて、住した位においてこれの第二刹那にある自界のものから・・(故、) (B3) {別} 果と (名づけた)。刹那としての部分もてる故、それで暫時と名づけた。住法 (は) 法らを (住せしめ)、(A5)少時の分において別果を引かしむる故、それで {暫時住せられることへの} 因となるものと名づけた。(A6)謂く、有爲法は暫時に住せられることにおいて各々 {勢力が} 有る。・・功能を・・。(A7) 暫時に住せしむるところ。この別の果が引き出されることに對する内 {因を} (説いて住相と名づく。)・・有爲法は・・(A8)各々後の果を引き出す功能が有る。もし {住相が} 無かったなら・・(有爲法には) (A9)この如き果を引き出す功能 (はない。) この法が暫住せられること (への因に) (A10) {由る} 故、それで暫時に住せられることができ、(別果を引くことが) できる。(若し住相が無ければ、諸の有爲法が) (A11) {暫} 時に住するものは更に {別の果を} 引くことはまさにできない。・・」

(B1)行目 anča-qya ({ol「それ」の等格形} - {指小辭}) が漢語の「暫」に對應することは他の文獻でも知られている：näng turγurmaq üzä ančaqya ödlüg ädgü ašayïγ ardatmaqïγ (H33R45)「非起暫時壞善意樂」。(A4)行目の anča も anča-qya と同じ意味で使われるが、「少」と譯した。また、anča-qya-lïγ が「所有」、anča-qya-lïγ-sïz が「無所有」に對應する例もみられる (庄垣内 2003b pp.272-273)。一方 anča anča あるいは ančan ančan は漢語の「漸」に對應する：cf. näčä näčä yogačarelar ančan ančan ögrätinip bilgälig turγurmaqta「如如行者漸習慧生」(第 4 章「語彙」ančan の項)。(A6)行目 säril- は本來「耐える」の意味をもつ。しかし särgür- (「耐えさせる」) を「住する」に使用した例が『實義疏』にみられるので、ここでも「住せられる」と譯した：cf. köz biligining küči üzä särgür-üp tutmaqlïγ yeg adruq iši turγar üčün「眼識力所住持勝用生故」(第 4 章「語彙」särgür-の項)。(B6)行目の冒頭に y ädrämin「・・功能を」とあるが、本來この部分には angayu tüš-in「別果を (引いて)」が立つところである。(A8)行目 tüš-üg と(A9)行目の osuγluq は 2.1.2 に掲げたようにそれぞれ tüz-üg, oz-uγluq と表記されているが、これは單純に表記上の問題であり、z は š と s とに讀まれねばならない。

3 漢文『入論』: 老謂衰損引果功能令其不能重引別果謂有爲法若無異相衰損功能何緣不能引別果已更不重引引而復引應成無窮若爾又應非刹那性由此故知別有異相無常者謂功能損已令現在法入過去因謂有別法名爲滅相令從現在墮過去世此若無者法應不滅或虛空等亦有滅義（大正 Vol. p.987b *l*.27-c *l*.5)

(C1) öd[ ] (C2) t'rdw[(C3)]yk "[ ] (C4) qurul[tur](ärmä[ ])[kučin] (D1) kösünin yänä qaltï 'wy'[ ] (E1) [qaltï] (C5) eti[glig nomta birök yoq ärti ärsär kävmäk bäl](D2) güsi qurulturdačï kävdäči [ädrämin qayu] (E2) tïltaγïn [ ] (C6) '[i](D3) nčip yänä tartar tep t[e] (E3)-sär : tartmïšïn inčip ta[rtar yme ter](C7) tüpükmäksiz [ ] (D4) birök antaγ oq ol tep (E4) tesär ymä ter kšan-ïn töz [ärmä] (C8) -miš kärgäk angay[u tüšüg] (D5) s'r kävmäk bälgü qurulturdačï anï (E5)-ng ädrämin ärtmäk bälgü [ ] (C9) ärtürgäli kšan[in töz] (D6) qw kärgäk munung uγrïnta at[ï] (E6) -n bälgü ärsär qaltï ädräm[ ] (C10) közünür öd[nüng nom ärtmiš] (D7) ödkä kigürgükä tïltaγ bold[ačï] (E7) ärür nomlarnïng [ymä] (C11) ter qaltï bar [ärür angayu nom atamïš ol kim] (D8) ärtmäk bälgü tep közünür ödtin [t] (E8) -üšürdäči ärür [ärtmiš ödkä bu birök yoq ärti] (C12) ärsär nom ärtmägü kärgäk[ ] (D9) ymä ter qalïqta ulatïlarnïng ymä ök [bar bol] (E9) -γu kärgäk ärt[mäkning yörügi] (C13) l'r-nynk öng[in ärt](E10)-mäk (D10) bälgü uγurïnta qurulur anïng ädräm antaγ yä[nä] (E10) ikiläyü tw[ ] (C14) törü antaγ[ ](E11) qy (D11) öčtüktä tüši ken temin tuγγuluq är (E11)-tmäk bälgününg 'y[ ]ky nom [ ] (C15) [ ]yrwr ärtmiš [ ] (E12) bu birök (D12) yoq ärti [är]sär nom ärtmägü kärgäk eti (E12)-glig nomqa [ ] üčün ärip ymä ter 'rd[ ]

「損・・力をまた謂く・・。(C5)謂く、有爲〔法において若し異〕相（に）〔功能を〕衰損することが〔無かったなら、何に〕縁て（別果を引き已り、更に亦重ねて引くこと能はざらん。)(C6)引いたのを而して引くというなら（應に）無窮（を成ずべし。)(D4)若しこのようであると言うなら、（又應に）刹那による性（に）〔非ざる〕べし。(C8)別〔果を〕（・・引くの）なら、異相はそれの功能を損ずるもの、滅相は・・(C9)滅させることが（できる）・・刹那性・・べきである。此に由て、異なる相は、（有りと知る。無常とは、）謂く、功能（損じ已りて）(C10)現在時〔の〕法などが過去時へ導くことへの因となるものである。(C11)謂く、〔別法が〕有る。滅相と〔名づけた。〕現在時より〔過去世に〕墮せしむものである。〔此が若し無かった〕なら(C12)法は滅さざるべし。空等にも亦滅の義が〔有る〕べし。（有爲法）(C13)の各（々は）滅相に由てそれの功能が損ぜられる。そのようにまた更に・・(C14) 法そのように・・滅したときその果が後に方に生ずるところの滅相の・・法・・(C15) 滅した・・此れが若し無かったなら、法は滅さざるべし。有爲法へ・・」

(D2)行目 qurultur-dačï käv-däči を漢文に隨って「衰損すること」と譯した。qurul- kävil-で漢語の「損伏」を表す例がある：kizlälmiš yïγïlmïš qurul-miš kävil-miš üčün anïn atï

bolmïš ol yükmäk tep「隠積損伏故名爲蘊」(第3章 A3885-3887)。(E3)行目 tartmïš-ïn inčip ta[rt-「引いたのを而して引く」は先行する[i]nčip yänä tartar の訂正文とみなせる。訂正文は末尾に ymä ter「・・とも云う」を付加するので簡單に見分けられる。和譯は訂正文を對象とした。以降も斷りのないかぎり訂正文のものを和譯する。(D4)行目 birök antaγ oq ol tep tesär は訂正文。(D5)行目 kävmäk bälgü「弱める相」=「異相」。(E7)行目 nom-larnïng [ ]は(C10)行目の[nom ärtmiš]・・を訂正したもので、nom-larnïng は(D7)末の bold[ačï の主語となる。(D8)行目 ärtmäk bälgü「過ぎる相」=「滅相」。(D9)行目 ymä ter の前に訂正文が存在した。(E12)行目の üčün ärip は訂正文の一部である。

4 漢文『入論』: 此四有爲之有爲相若有此四有爲相者便名有爲非虛空等然世尊說有三有爲之有爲相有爲之起亦可了知盡及住異亦可了知爲所化生厭有爲故如示黒耳與吉祥俱住異二相合說爲一是故定有四有爲相 (大正 p.987c *ll.*5-10)

(C16) [ ]kw[ ](E13) tep tesär : ulatïlarnïng y (D13) -oq üčün ärip ymä ter üz (E13)-ä ök ärtgü(?) kärgäk munta törtt türlüg etiglig (E14) [-ning etiglig qïlta]čï bälgüläri ärür : etiglig bäl (D14) -gülläri ärür ymä ter qayu (E14)-ta bolsar bu törtt türlüg etiglig qïltačï bälgü (E15) [-lär ötrü atï bolur etiglig te]p kök qalïqta ulatïlar är (D15) -mäz : ulatïlarda ymä t[er] (E15) munta yumdarï[p] (F1) t (E15)-ügmišin öngdünki törtt (E16) [türlüg etiglig bä]lgülärig girant-taqï täg (D16) učuz uqγalï bolu[r atï kötrülmiš] (E16) yarlïqamïš ol bar ärür (F2) üč t (E16)-ürlügnüng (qïltačï) bälgülär[i] (E17) [etiglignïng tur]maqïn ymä ök bolur bilgäli ärtm (D17)-äk ulatï turm (E17)-aq kävmäkin turmaqnïng (F3)adïnsïγ (E17) bolmaqïn ymä ter bilgä[li] (E18) [bolur tep :] p'ry(?) [an]gayu yukti üzä tanuq : qïltï ärti käntü basa angayuqa(?) [ ] tanuq qï(F4)-lur : ol : nïng (E18) qïltačï bälgüläri ärür (E19) temiš ärsär uqïtγalïr üčün etiglig bolguluq nomta öngi angayu birin (F5) etiglig q (E19)-ïldačï bälgününg anïn (E20) sözlämiš ol nïng tegči savïγ yänä uqïtγalïr üčün etiglig qïldačï bälgününg ymä (F6) ök etigl (E20)-ig irdükin qat[nayu] (E21) sözlämiš etiglig bälgü tegüči savïγ sözig sudurta sözläyü tükätip üč bolur tep šas (F7)-tr-ta sözlä (E21)-sär törtt bolur te[p] (E22) näčük ol qaršï bolmaz mu qutrulturdačï vaynike-larqa irtürgälir üčün ärür eti (F8)-gligig körgit (E22)-dük k't' k""[ ] (E23) širi karani birlä birlä ärdüki uqulmïšï (täg) bolurï ymä ter : nïng birlä ärdüki ymä ter yangl (F9) -uq ol (E23) turmaqlï kävmäkli iki [bälgü] (E24) -ni qavšurup sözlämiš ol bir qïlïp anï üčün odγuraq bar qïltačï bälgülär šastr-ta nom tözingä tayaqlïγïn söz (E25) [-l]ämiš ol : sudur-ta abipiray yolïnga tayaqlïγïn qavšurup : tïnlγlarnïng tuγurtγalïr üčün irmäkin qorqïnčïn (E26) turmaq ärür tïnlγlarqa azlanγuluq yapšïnγuluq orun kim irtürgälir titdürgälir üčün kävmäk birlä qavšurup (E27) [s]özlämiš ol anïn sudur-nung šastr birlä bolmaz qaršï bolmaqlïγ müni qadayï yöläšürüg abipiray-ïn uqγalï bolur

「・・ここで四種は(E14)有爲{の有爲}相である。若しこの四種有爲相が有るなら(E15){便ち名は有爲となる}。虛空等には非ず。ここで先の(E16)四{種有爲}相を惣結したことで、文にあるごとく容易に了ずることができる。{世尊が}説きたまうた:(F2)三種のものの行相が有る、{有爲の起こる}ことも亦知ることができる。(D17)盡及び

住異を知ることが｛できると。｝・・別の理によって證據となした。自らさらに他への・・證據となすのである。「の行相がある」(E19)と言ったのは所相の法を離れて別の一つとして有爲相のものを顯わそうとした故、(E20)それで 「の」という語を説いた。また有爲相の有爲を厭じたことを顯わすために、(E21)重ねて有爲相という語を説いた。經に三となると説きおえて、論に四となると説けば、(E22)どうして違とならないのか？所化へ有爲を厭わす故である。・・を示した・・(E23)吉祥が黒耳と俱となることが示された如し。住と異と二つの相を(E24)合して一と爲して説いた。それ故定んで（有爲）相は有る。論においては法體に依て説いた。(E25)經においては意趣に依て合し、衆生の厭畏を生ぜしめんが爲の故に、(E26)住は衆生にとって愛著するところの處である（故）、厭捨せしめる爲に異と合して説いた。(E27)それ故、經が論と違となることの過失にならない。喩の意を了ずることができる。」

(E13)~(D13)行目の ulatïlarnïng yoq üčün ärip は先行文の訂正である。(E14)行目の etiglig qïlta]čï bälgüläri ärür は(E14)~(D14)行目の etiglig bälgüläri ärür「有爲相である」に訂正されている。しかし、etiglig qïltačï bälgülär「有爲を行ずるものの相」は『實義疏』にも現れ、やはり「有爲相」を表す：birlä bolmïš nomlar tep temiši ärsär qaltï birlä yaratïlmïš nomlar ulatï tört türlüg etiglig qïldačï bälgülär ärür「俱有法といったのは、謂わく（八十八隨眠に）相應した法及び四有爲相である。」(75B, *ll.*561-563)。(E14)行目の tört türlüg etiglig qïltačï bälgü[lär「四種有爲相」（四有爲相）は生、住、異、滅の四つの相をいう。(E15)行目の qalïq-ta ulatï-lar「虚空等」を(D15)行目で qalïq-ta ulatï-larda「虚空等に」に訂正してある。yumdarï[p] tügmiš-in を『實義疏』に隨って「惣結したことで」と譯した：cf. bu yumdar-ïp tüg-mäk ärür「此惣結也」(第 4 章「語彙」yumdar-の項)。(E16)行目 girant < Skt. grantha「文」。ここでは『入阿毘達磨論』中の文を指す。類似の表現は『實義疏』にもみられる：girant üzä učuz bolur bilgäli「文易可知」(第 4 章「語彙」girant の項)、adïn yörügi girant-taqï täg tetir tep「餘の義は文にあるごとし、という」(75B, *l.*1973)。(F2)行目の üč türlüg-nüng (qïltačï) bälgü-lär[i]「三種のものの行相」というのは本來 üč türlüg etiglig-ning etiglig qïltačï bälgüläri「三種有爲の有爲相」となるところである。(D17)~(E17)行目の turmaq kävmäkin「住の異を」を(E17)~(F3)~(E17)行目の turmaq-nïng adïnsïγ bolmaq-ïn ymä ter「住の異（こと）なることを」に訂正している。ここでは「住」と「異」が合立することを表しているので adïnsïγ bolmaq「異なること」は適當でない。訂正前のウイグル文がむしろ正しい。(E18)行目 yukti < Skt. yukti「理」：cf. yukti-lar agamlar yoq üčün yukti yoq tep temiši ärsär qulγaqta ulatï biliglär birlä adïrtsïz üčün「理教無故言理無者與耳等識無差別故」(第 4 章「語彙」yukti の項)。(F4)~(E18)行目の nïng qïltačï bälgü-läri「・・の行相」というのは(F2)行目からの üč türlüg-nüng (qïltačï) bälgü-lär[i]の-nüng (qïltačï) bälgü-lär[i]を指す。しかし本來は上の注記(F2)行目に掲げた üč türlüg etiglig-ning etiglig qïltačï bälgüläri の -ning etiglig qïltačï bälgüläri あるいはテキスト(E13)行目からの etiglig [-ning etiglig qïlta]čï bälgü-läri ärür に現れるものを指す。(E19)行目 etiglig bolguluq「所相」：cf. 下方(E28)行目の注記。(E20)行目の nïng tegči sav「『の』という語」というのは依士釋 (nïng samaz) を表す：cf. 第 4 章「語彙」nïng の項。 (E20)行目 ir-dükin を「厭じたことを」

と譯した：cf. ir-ip bu aqïγlïγïγ「厭茲有漏」(第 4 章「語彙」ir-の項)。(E22)行目の irtürgälir の ir-tür-は ir-の使役形である。(E22)行目 qaršï (「反對」) を「違」と譯した：cf. tutulmaz üčün qaršï bolur üčün「無攝有違故」(第 4 章「語彙」qaršï の項)。qutrulturdačï vaynike-lar「所化」(導かれる人)。同じものは『實義疏』にもみられる：cf. 第 4 章「語彙」qutrul-の項。vaynike < Skt. vaineyika. (E23)行目の širi karani は「吉祥、黒耳」(Skt. Śrī Kālakarṇī) に對應する。しかし Skt. kāla「黒い」に對應する部分が缺けている。また、「吉祥」と「黒耳」の順序が入れ替わっているが、これは『大毘婆沙論』のものと一致する：「如示室利與黒耳俱」(大正 Vol.27, p.201b *l.*22) [128]。(E23)行目 bolur-ï は先行する ärdüki を訂正している。さらに nïng birlä ärdüki によって karani birlä birlä ärdüki を karani-nïng birlä ärdüki「黒耳の俱であることが」に訂正するが、yangluq ol「誤りである」としてその訂正を取り消している。すなわち、širi karani birlä birlä bolur-ï uqulmïšï täg を正しい文とする。(E24)行目 qïltačï bälgü-lär「行相」の位置には本來 tört türlüg etiglig qïltačï bälgü-lär「四種有爲相」が立つところである。šastr-ta「論において」というのはここでは「『阿毘達磨俱舍論』において」のことである。(E25)行目は『俱舍論』の内容を引用している：「此經説爲有爲之相令諸有情厭畏故」(この經は説きて有爲の相と爲す。諸の有情をして厭畏を生ぜしめんが[爲めの]故なり。大正 Vol.29 p.27a, *ll.*21-22)。abipiray < Skt. abhiprāya. 漢語の「意」や「意趣」に對應する：cf. munda abipiray-ïn sözlälim「此中意説」、 ayaγqa tägimlig darma-diradi baxšïnïng muntaγ osuγluγ abipiray-i yolïn ötrü sävgülük ärmäz「大德如是意趣非即可樂」(第 4 章「語彙」abipiray の項)。(E26)行目冒頭から(E27)行目[s]özlämiš ol までは『俱舍論』からの引用である：「住是有情所愛著處爲令厭捨與異合説」(住は是れ有情の愛著する所の處なり。[之を] 厭捨せしめんが爲に [佛は] 異と合して説く。大正 Vol.29, p.27b, *l.*2)。(E26)行目 irtür- titdür-を「厭捨せしめる」と譯した。『實義疏』には ir- tit-で「厭捨する」の例がある：qurulturdačï örlätdäči ärmäz ymä ök qïlïnč ämgäk üzä ir-gülük tit-gülük ärmäz「損害させるものではない、また業苦における厭捨ではない。」(75B *ll.*4505-4506)。

5 漢文『入論』：非即所相有爲法體若即所相有爲體者如所相體與能相一能相亦應展轉無異若爾諸法滅時應生生時應滅或全不生 (大正 p.987c *ll.*10-13)

(E28) [š]iri karna yöläšürüg ärür turmaq bälgükä ärtmäk bälgükä ol oq etiglig bolγuluq etiglig nom tözlüg ärmäz sezik (E29) ol oq etiglig bolγuluq etiglig nom tözlüg (nom) tesär etiglig boluγuluqnung tözi etiglig qïldačï bälgü bir(l)ä birikip etiglig qïldačï (E30) bälgü ymä ök ütlüm ütlüm adïrtsïz bolγu (kärgäk) birök antaγ oq ol tesär nomlar öčgü ödtä tuγ[γu] kärgäk tuγγu ödtä öčgü (E31) kärgäk azuča yänä bütün tuγmaγu kärgäk birär baxšïlar sözlär etiglig qïltačï bälgü qayu ärsär ymä ter etiglig bolγuluqta öngi (E32) [ä]rmäz tep kikinč bergälir (tutγalïr) üčün olarnïng savïnga anïn sözlämiš ol ol oq etiglig bolγuluq etiglig nom tözlüg

128 「吉祥と黒耳」について「國譯一切經」(論集部二 pp.105-106, note 146) には「幸福の神吉祥天女 (Śrī) は必ず一方に不幸の神黒耳天女 (Kālakarṇī) を伴ふと傳説されて居る。斯の如くに住には必ず異が伴うものなるが故に二相を合して一となせしなり。」のごとく注記されている。

ärmäz tep (E33) abipiray üzä uqïtur etiglig qïldačï bälgü : qayu ärsär ymä ter : nom ärmäz tep olar yänä sözläyürlär inčä tep ol oq etiglig (E34) bolγuluq etiglig bolγuluq etiglig nom tözlüg tesär munta bolur qayu mün qadaγ tep ülüš nomta käntü kikinč (E35) [ber]wz : nom tözlüg ol tesär etiglig bolγuluqnung tözi : birök sizlärni täg sözläsär etiglig bolγuluq qayu (E36) [ ] etiglig qïldačï bälgü etiglig bolγuluq nom birlä ütlüm : adïrtsïz ärür tep : qayu ärsär : qïltačï qïltačï (E37) [etiglig] bolγuluq nom birlä : adïrtsïz bolγu kärgäk munta inčip : bütün tuγmayu kärgäk bütün tuγmamaqï ärsär (E38) [

] tïltaγsïz tüšnüng özin ök tuγmïšsïzïn birök etiglig bolγuluqta öngi (E39) [

etiglig qïl]tačï bälgü(lär) tep tesär munta yänä ikiläyü bolγu kärgäk angayu : qïltačï bälgüsi

「(E28)吉祥と黒耳の喩は住相と滅相に對してである。所相は有爲法の體もてるものに非ず。(E29)所相が有爲法の體もてる法と言えば、所相の體は有爲相と一つになって、(E30)有爲相も亦、展轉として異なること無くなるべし。若しその通りと言うなら、法は滅する時に生ずべし。生ずる時に滅すべし。(E31)或いはまた完全に生ぜざるべし。一師は、有爲相はとにかく、所相より他に非ずと説く。(E32)彼らの言葉に答える故に、それで所相は有爲法の體もてるものに非ずと説いた。(E33)意において有爲相はとにかく、法に非ずと顯わす。彼らはまた次のようにと説く：(E34)所相は有爲法の體もてるものというなら何の過失がある。分法において自ら答え・・(E35)法體もてるものが所相の體なりと言うなら、若し汝らのごとく所相は（とにかく、有爲相より他に非ず）と言うなら、(E36)有爲相は所相の法と展轉として無異であると。若し行ならば、行は・・(E37)（有爲相は）所相の法と無異となるべし。ここで而して完全に生ずべし。完全に生じないものは(E38)・・無因の果の自らを、無生を、若し所相より他に(E39)・・有爲相・・と言うならここで更に別の行相となるべし。」

(E28)行目の ol oq etiglig bolγuluq「そのまさに有爲となるところ」～(E29)行目の etiglig bolγuluq「有爲となるところ」はいずれも「所相」(有爲相を示すはたらき 中村 p.685a)を表す。karna < Skt. karṇa「耳」。ここでは「黒耳」に對應する：cf. 4(E23)行目の注記。本來「吉祥と黒耳」の比喩は「住相と異相」に對するものであるのに、ここでは「住相と滅相」の比喩とされている。sezik「疑い」は漢語「問答」の「問」に相當する（cf. 『實義疏』sezik の項)。この文脈で「問」は不要であるので、sezik を實線で圍み、削除を表明している。本來ならこの位置には birök「若し」が立たねばならない。(E29)行目 etiglig qïldačï bälgü「有爲相」は漢文の「能相」に對應する。(E30)行目 ütlüm ütlüm を「展轉」と譯した：cf. bir uyušluγ öngi uyušluγ köngüllär ütlüm ütlüm bir ikintikä körüšü「同異類心展轉相望」(第 4 章「語彙」ütlüm の項)。(E31)と(E33)行目の qayu ärsär「何なら、とにかく」が etiglig qïltačï bälgü の後に插入されることを ymä ter によって示している。(E31)行目 birär baxšï-lar を「一師」と譯したが直譯すれば「各一師ら」となる。『實義疏』に現れる bar birär baxšï-lar「有一師」（すなわち有餘師）と同義と考えたい：cf. bar birär baxšïlar sözlär taryarduqta alqu aqïγlïγ nomlarïγ yindäm bululur bir bilip öčmäk tep「有一師が説く：一切有漏法を斷ったときに、唯、一擇滅が得られると」(75A p.234 *ll.*3387-3388)。(E34)行目 ülüš nom-ta「分法」は(G25)にも現れるが、「別の觀點」を意味するのか？ etiglig bolγuluq は不要である。

6 漢文『入論』：此四本相是有爲故如所相法有四隨相謂名生生乃至滅滅然非無窮以四本相各相八法隨相唯能各相一故.謂法生時幷其自體九法俱起自體爲一相隨相本相中生除其自體生餘八法隨相中生於九法内唯生本生勢力劣故住異滅相應知亦爾本相依法隨相依隨相法因相故得有作用相因隨相得有作用（大正 p.987c *ll.*13-20）

munï (E40) [üčün munta tört türlüg töz bälgüläri] (G1) -ning yänä bar (bolmïš ymä ter) üčün (E40) adïn turmaqta ulatï etiglig qïldačï bälgüläri (E41) [anïn etigl](G2)ig bolγuluq nomnung täg bar ärür tört (E41) türlüg eyinki bälgüläri (G3) [ ] tep inčip tüpükmäksiz ärmäz bu kikinč ärür [ ] (G4) [bälgün]üng eyinintä bolur üčün boldačï üčün ymä ter [ ] (G5) [ ]y bolm[š] üčün üčüz(?) yörmädi[ ]bälgülär öngin[ ] (G6) bälgüläyür qy[ ] birärin nom tuγmïš ödtä anïng öz [tözin] (G7) toquz tür[lüg nom]lar birgärü turur öz t[özin qïlïp bi]r töz bälgü eyinki bälgü birlä bolur säkiz töz bälgü[täki tuγmaq anïng] (G8) öngi ketä[r]ip öz tözin tuγurur adïn [säkiz] nomlarïγ eyinki bälgütäki tuγmaq toquz türl[üg nomlar ičintä] (G9) yindäm tuγurur töz tuγmaqïγ : küči küč[s]üz üčü[n] turmaq kävmäk ärtmäk bälgüg bilmiš kärgäk ymä [antaγ oq ol tep] (G10) tayanur nom ey(i)nki bärgükä tayanur töz bälgü töz bälgü[kä ta]yaq bolur nom ymä ter : -läringä ymä nomnung töz bälgü[tïltaγïnta anïn bar bolur iši küdüki] (G11) töz bälgününg ey(i)nki bälgü tïltaγïnta bar bolur i[ši küdüki] nomnung täg tayanur(?) : bolur üčün ädrämi anï[n] (G12) tözin nomlarnïng küči küčsüz kävig ärur išläšip [ ]nynk küčingä(?) tïltaG(?) temi[š]

「(E40)これ｛故、ここで四種本相｝にはまた餘の住等の有爲相が有る故、(G2)所相の法のものの如く四種隨相がある。(G3)（謂く、生生乃至滅滅と名づく。）然も無窮に非ず。この答えは・・である。(G4)・・相の隨においてなるもの故、・・(G5)・・故、・・相が各々・・と容易に釋さなかった。(G6)・・顯わす。・・各一を・・。法が生じた時に、それの自體を（併せて）(G7)九種｛法｝が俱起する。自體を一と｛爲して｝、本相と隨相とが八となる。本相｛の中の生は其れの｝(G8)自體を除いて、餘の｛八｝法を生ず。隨相にある生は九種の｛法の内において｝(G9)唯、本生のみを生ず。力が無力の故。住、異、滅相も亦｛爾なりと｝知るべし。(G10)本相に對する依は法である。隨相に對する依は本相である。法は本相｛に因るが故に作用有りうる｝(G11)本相は隨相に因て｛作用｝有り得る。法のもののごとく依る。（？）功能と成る故それで・・(G12)相を・・。法の力が無力空である。用して・・の力に・・と言った。」

(E40)行目の munta tört türlüg の再構には4の(E13)行目 munta tört türlüg etiglig[-ning etiglig qïlta]čï bälgü-läri ärür「此四有爲之有爲相」を參照した。(G2)行目 tört türlüg eyinki bälgü-lär「四種隨相」は『實義疏』にも類似の形式が現れる：eyin yorïdačï tep temiši ärsär munda tutulur tägmäk tägmäki bu tört türlüg etiglig qïldäčï bälgülär ulatï tört eyinki bälgülär mundata ulatïlar ymä ök barča tägmäk eyin yorïyur üčün anïn sözlämiš ol eyin yorïdačïlar tep「隨行といったが、ここでは得の得が攝せられる。この四種有爲相及び四隨相、これらも皆得に隨て行ずる故、それで隨行と説いた。」(75B *ll.*568-572)。(G1)行目括弧内

は bolmïš が bar の後に添加されることを示す。(G4)行目 boldačï üčün は bolur üčün を訂正したものである。(G5)行目 üčüz は učuz「容易に」の誤寫であろう。(G7)行目 eyin-ki bälgü「隨にある相」は「隨相」を意味する：tört eyinki bälgülär「四隨相」(第 4 章「語彙」eyin-ki の項)。(G9)行目 küč-i küč[s]üz「力が無力」は漢文「勢力劣」に對應する。(G10)行目 töz bälgü[-kä ta]yaq bolur nom「本相に對する依は法である」は[ ]tayanur nom を訂正したものである。この部分は漢文の「本相依法」(本相は法に依り) に對應する。この訂正文に隨えば續く ey(i)nki bärgü-kä tayanur töz bälgü も ey(i)nki bärgü-kä tayaq bolur töz bälgü と訂正されねばならない。また-läringä は bälgü-kä を bälgü-läringä に訂正している。訂正文をまとめると以下のようになる：töz bälgü-läringä tayaq bolur nom ey(i)nki bärgü-läringä tayaq bolur töz bälgü töz bälgü-läringä tayaq bolur nom nom-nung töz bälgü[tïltaγ-ïnta anïn bar bolur iš-i küdük-i]. 上揭本文の和譯はこのウイグル文を對象とした。

7 漢文『入論』：作用者何謂生住異滅所生等者所生等者謂引果功能故有爲法體雖恆有而用非常假茲四相内外因力用得成故名身句身文身等者謂依語生如智帶義影像而現能詮自義名名句文即是想章字之異目如眼識等依眼等生帶色等義影像而現能了自境名等亦爾 (大正 p.987c *ll.*20-26)

(G13) [ ]yn [ ] tözin körü [ ]-syz ärür iši küd[üki qayu] ol tesär tuγurmaq turγurmaq käv [mäk artatmaq ärtürmäk tuγurmaqta ulatïlarïγ ärür tuγur] (G14) -maqta ulatïlar ärsär tuγuruluqta ulatïlar ärsär ymä ter tüš tartdačï ärdäm ärür : etiglig nom [töz] (G15) bar ärsär ymä inčip iši küdükiläri ärmäz tört türlüg etiglig qïltačï bälgü tegli ičtin sïngarqï [ičt] (G16) -in taštïn sïngarqï tïltaγnïng küčintä iši bolur üčün bütgäli : tört türlüg töz bälgülär [ič] (G17) -tinki taštïnqï tïltaγ basutčïqa tayaqlïγïn ymä ter tuγuryularta ulatïlar tep temiš ärsär t[tüš tartdačï] (G18) ädräm(i) ärür ulatï temiš ärsär : nomlarnïng kälmätük ödtä näčä bar ärsär ymä bolmaz tüš tartdačï[ädräm] (G19) uγurïnta bululur bu iš küdük a[n]č[u]l[ay]u oq tuγmaq ärtmäk üčägününg qaltï anta eyin käzi[gčä] (G20) tuγurmaq kävmäk artatmaq ärtü[r]mäk ärür : üčägü qaltï olar eyin käzigčä kim ol ädrämin tuγurt[ ] (G21) nomlarnïng turmïš [käl]mätük köz[ünü]r ödtä töz üzä näčä ičtinki : tïltaγqa tayaγlïγ : at quvraγï [padak quvraγï užik quvraγïnta] (G22) ulatïlar ärsär qaltï savqa tayaγlïγïn tuγup bilgä bilig uqγuta yörügüg oxšatïsïnča [inčip bälügürmiš täg uyur uqïtγalï] (G23) öz yörügin qaltï bilgä bilig täg yörügkä utru ymä ter uqïttačïqa ymä ter atï ol : užik t[ep] (G24) [a]kšar tep nikznk atlarï ol yörüglärkä tayaγlïγïn uqïtmïš ol at quvraγïnta ulatïlarïγ [iš] (G25) küdük üzä nikznk at üzä tayaγ üzä tep temiš ülüš nomta sözlämiš ol (-läti ärti) qaltï savqa tayaq [lïγïn tuγur] (G26) üzä uquldačï savlïγ ünüg sözlämiš ol bolur sav tep munï munčulayu savqa tayaqlïγïn tuγur[ur üčün] (G27) t' ulatïlar anïn sözlämiš ol tuγup tep : temiš ärsär qaltï bilgä [bilig uqγuta yörügüg] (G28) yörügüg oxšatïsïnča inčip bälgürüp tep : bilgä bilig täg yörügkä 'w- bälgürüp ymä ter qaltï bilgä bilig "d[ ]p [ ] (G29) [ ] uqur üzä uqulup bärgürmiš [täg anč]ulayu ymä [ ] t' ulatïlar qayu : yörügüg

uqïtyuta ol oq [ ] üzä uqulup : [ ] (G30) [yö]rügkä uqγu ymä ter oxšatïsïnča inčip bälgürtäči ärür : tayaq(?) temiš ärsär uyur uqïtγalï ö[z yörügin te]p : yertinčüdäki (G31) -kä uqïtmïšlar ol mundïta ulatï qalar kw'k[ ]muntaγ osuγluγ yörügi tep uqïtmaq ärsär [ ] körgitmäk (G32) ärür kim adïnlarqa uqïtur biltirür üčün anïn atamïš ol uyur uqïtγalï öz yörgin tep nik[znk atï ärür] at quvrayï (G33) atï ol at padak užik inčip munung saqïnč bölük akšar tep nikzng atlarï ol tep saqïnč ärür atnïng [nikzng atï] tözin uqït (G34) -tačï bölük ärür padak-nïng nikznk atï yörügüg uqïttačï p[ ]k akšar ärür užik-nïng nikznk atï : at[quvrayta ulatïlar] qa tayaq bol (G35) -tačï qaltï köz biligintä ulatïlar köztä (ulatïlarqa) tayaγlïγïn tuγup öngtä yörügüg (ulatï yörügkä utru) uqγuta bälgürüp umïš täg bilgäli (G36) öz atqanγusïn atta ulatïlar ymä antaγ oq ärür bu yertinčüdäkilärkä yumγïqa bilsikmiš bililmiš [ymä] ter artuqraq büt (G37) -miš yöläšürüg üzä qatnayu bütürür öngdünki yörügüg köz biligintä ulatïlar temiš ärsär yöläšürüg ärür at quvrayïnda (G38) ulatïlarqa köztä ulatïlarqa tayraγlïγïn tuγup temiš ärsär : at quvrayïnta ulatïlarnïngqa tayaqlïγïn uqmïšïngä (G39) öngtä ulatï yörügüg uqγuta bälgürüp temiš ärsär padak-ta ulatïlarnïng uqγuluq yörügüg uqïtyuta uqγuluq yörügkä ut (G40) [ru] ymä te[r] oxšatïsïnča bälgürmišingä uyur : atqan(γusïn) temiš ärsär : ulatïlar bälgütä öz atqanγusïn tuγurmaqï täg öz tuγunmaq bilgä (G41) biligin yöläšürüg ärür at quvrayïnda ulatïlar uqïtγalï uγuta öz yörüg tuγurmïšïnga adïnlar : birök sözläsär sav (G42) uyur uqïtγalï yörügüg tep nä kärgäk arqurasïnča atqanmaq čïn kert[ü yörügüg] tep kikinč bergälir üčün bu sezik[kä]

「(G13)・・體を見て・・である、作用は｛何｝かと言うなら、所生等を生じさせること、住させること、異させること、滅させることである。(G14)所生等は、果を引く功能である。有爲の法｛體は｝(恆に)(G15)有りても、而して用は(有るに)非ず。四種有爲相という内にある・・(G16)内外にある因の力において用が成立しうる故。四種本相(と言ったのは)(G17)内外の因縁に依て(用が成ずる故である)。生ずること等と言ったのは、・・。果を引く(G18)功能である等と言ったのは、法が未來時にどれほど有っても、果を引く功能とは成らない。・・(G19)に由てこの作用が得られる。このように生じること、(異すること、)滅することの三つがちょうどそこで順次に・・(G20)生じさせること、異すること、滅盡させることである。三つはちょうどそれらが順次にその功能を生じせしめ・・(G21)法が住した未來・現在時に體によってどれほど内にある因に依ること・・。名身・｛句身・文身｝等は、(G22)謂く、語に依て生じて、智が了ずることにおいて義を影像として而して現れたごとし。(G23)自義を詮することができる。その名は：文と。・・(G24)字という異目なり。義に依て名身などを顯わした。・・(G25)作用による、異名による、依によると言ったのは分法に説いたのであった。謂く、語に依て｛生じる。｝・・・・(G26)によって了ぜられた語音を語となると説いた。これこのごとく(名身、句身、文身)等は、語に依て生じる(故)(G27)それで生じてと説いたと言ったが、ちょうど智慧が了ずることにおいて(G28)義を影像として而して現れてと。謂く、智慧を・・(G29)了ずることによって了ぜられて現れたごとくそのようにまた(名身)等がもし義を了ずることにおいてに、その(了ずること)によって了ぜられて(義を)影像として而して現われるものである。依(?)と言ったことで、自義を詮することができると。(G31)かれらは世間へ詮じた。これ

等・・この如き義と詮することは・・を示すことである。(G32)他らへ顯示せしめる故にそれで、自義を詮することができると名づけた。異目は名身｛である。｝(G33)その名は名、句、文なり。即わち是れの想、章、字という異目なりと。想は名の｛異目｝である。その體を顯わすもの。(G34)章は句の異目である。義を顯わすもの。・・字は文の異目である。名｛身等｝へ依るもの。(G35)ちょうど眼識等が眼等に依て生じ、色等の義を了ずることにおいて現じ、自境を知ることができた如し。(G36)名等も亦、爾なり。この世間のものらへ共に知られ、極成した(G37)喩で重ねて先の義を完成する。眼識等と言ったのは名身等への比喩である。(G38)眼等に依て生じてと言ったのは名身等のものに依て了じたことへ。(G39)色等の義を了ずることで現じと言ったのは、句等の了ずるところの義を了ずることにおいて(G40)影像として現じたことへ。（自）境を（知ることが）できると言ったのは、（　？　）等が、相において自境を生ずることの如く、自ら智慧を覺る(G41)喩である。名身等が自義を詮じうることにおいて生ぜしめたことに對して、餘らが、若し語が(G42)義を詮じうると説くなら、何の必要で眞實｛義｝・・を誤って縁ずるかと。この問いに答える故、」

(G13)行目の iš küdük は「作用」。(G15)行目では「用」に對應している：cf. činkertü yoq ärsär iš-i küdük-i「實無作用」、iš-i küdük-i yaruq yašuq yti sikiz üčün「用明利故」(第4章「語彙」küdük の項)。(G14)行目 tuγurγuluq-ta ulatï-lar ärsär「生じさせるところ等は」(所生等は) は[tuγur]maq-ta ulatï-lar ärsär「生じさせること等は」を訂正した文である。しかし、漢文の内容は誤解されている。(G15)行目の ičtin sïngarqï [　　]「内にある・・」は理解できない。(G17)行目[ič]tinki taštïnqï tïltay basutčï-qa tayaqlïγ-ïn「内外の因縁に依て」は(G16)末の缺落部分のウイグル文を訂正したものと考えられる。同じ(G17)行目の tuγurγu-larta ulatï-lar は(G14)行目の tuγurγuluq-ta ulatï-lar と同じものと考え、「所生等」と譯すべきかもしれない。(G19)行目 eyin käzigčä を「順次に」と譯したが、『實義疏』には「次第」に對應する例がみられる：eyin käzigčä körür tedäči baxšï「次第見師」(第4章「語彙」eyin の項)。また、tuγmaq ärtmäk「生じること、滅すること」の間には kävmäk「異すること」が立つところである。(G21)行目 ad quvraγ-ï「名の集まり」は「名身」(Skt. nāma kāya) を、padak quvraγ-ï「句の集まり」は「句身」(Skt. pada kāya) を、užik quvraγ-ï「文の集まり」は「文身」(Skt. vyañjana kāya) をそれぞれ表す。 padak < Skt. pādaka「句」。užik はふつう「文字」を表すが、この場合と同じく「文」に對應する例もある：yügärü körülür užik-lärining yörüglärining adïrtïnïng barï「現見文義有差別」(第4章「語彙」užik の項)。(G22)行目の bilgä bilig uqγu-ta yörüg-üg oxšatï-sïnča [inčip bälügürmiš täg]を和譯するなら「智が了ずることにおいて義を影像として而して現れたごとし」となる。このウイグル文は(G23)行目の修正文によってまず qaltï bilgä bilig täg yörüg-kä utru uqγu-ta oxšatï-sïnča [inčip bälügürmiš]「ちょうど智のごとく義に對して了ずることにおいて影像として而して現われたごとし」に修正され、次に qaltï bilgä bilig täg yörüg-kä utru uqïttačï-qa oxšatï-sïnča [inčip bälügürmiš täg]「ちょうど智のごとく義に對して了ずるものへの影像として而して現われたごとし」に修正されている。これは漢文の「如智帶義影像而現」(智の義の影像を帶びて現ずるが如し) に對應する。訂正文は理解しにくいので上掲和譯では

訂正前のウイグル文を對象にした。oxšatï はふつう漢文の「類」「同類」「同分」に當たるがここでは「影像」に對應するものと考えられる。(G23)行目から(G24)行目にかけての adï ol : užik t[ep a]kšar tep nikznk at-larï ol に對しては(G33)行目の atï ol at padak užik inčip munung saqïnč bölük akšar tep nikzng at-larï ol「その名は名、句、文なり。即わち是れの想、章、字という異目なり」と同じものが立つべきであろう。(G24)行目 akšar < Skt. akṣara「シラブル」。ここでは「字」に相當する。nikznk at「異名、異目」。この語義に合致する niznk が『實義疏』に 12 回現れる：ex. muntaγ osuγluγta ulatï uyušluγlar ärür aqïγlïγ nomlarnïng yörüg eyinki niznk at-ï「如是等類是有漏法隨別名」(第 4 章「語彙」niznk)。niznk は Sogd. 'ny'znk からの借用語である。ここに現れる nikznk もソグド語に由來すると考えられるが、同じ形式がソグド語に存在したのか、niznk のウイグル内での變化形かは今のところ判斷できない。[a]kšar に先行して「字」「想・章」に相當するウイグル語が書かれていたと考えてよい：cf. (G33)。(G25)行目 (-läti ärti) は -lämiš ol を訂正したものである。(G28)行目 bilgä bilig täg yörüg-kä 'w-bälgürüp の 'w- は oxšatï-sïnča のことで、全體は「智慧のごとく義に對して影像として現れて」を意味する。これは [bilgä bilig uqγu-ta] yörüg-üg oxšatï-sïnča inčip bälgürüp「智慧が了ずることにおいて義を影像として而して現れて」を訂正した文である。しかし、上掲和譯では訂正前のウイグル文を對象にした。：cf. (G22)。(G30)行目 [yö]rüg-kä uqγu は yörüg-üg uqïtγu を訂正した。ただし uqγu は urγu とも讀める。(G31)行目の osuγluγ は oz-uγluγ と綴られている。(G35)行目の (ulatï yörügkä utru) は yörügüg を言い換えたものであるが、和譯文では yörügüg を對象にした。(G36)行目の bilsikmiš は bililmiš に訂正されている。接尾辭 -sik の意味機能の分析は難しい。Erdal (1991) ではこの接尾辭について、"With nearly all instances of *-sXk-* verbs, the subject becomes the victim of some point action (occasionally with respect to some possession of his).… All subject-victims of finite *-sXk-* verbs are living beings; ultimate object which get stolen, taken etc."と述べながら、*bil-sik-* may, however, be a bit untypical in any case : *bil-il-* being in use only for non-human entities, the domain left over for *bilsik-* may possibly be a little wider than for the other *-sXk-* verbs." (Vol.2 p.705) のように bilsik-に用いられた*-sXk-*は他の動詞のものとは少しことなることを述べている。ここで yertinčüdäki-lärkä yumγï-qa bililmiš すなわち「世間のものらへ共に知られ」るのは比喩であって人間ではない。したがって bilsikmiš を bililmiš に訂正したと考えることもできるが、單純に *-sXk-* を使用しなくなった時代あるいは方言と關連した訂正かもしれない。類似の文は『實義疏』にもみられ、そこでは bililmiš が現れている：munda köznüng tözi qaltï öngdün sözläyü tükätmiš täg tetir yertincütäkilärkä yumγï-qa bililmiš ücün körmäk yaruq yašuq öngüg qarangγu tägšütincä ücün iši küdüki yaruq yašuq yti sikiz ücün sözlämiš ol köznüng atï bolur körüm tep「ここで眼の相は前に已に説いた如しという。世間に共に了ぜられた故に、闇と相違の故に、用が明利の故に、眼の名は見となると」(75B *ll.*850-854)。(G39)行目 uqγuluq yörüg-kä ut[ru]「了ずるところの義に對して」は uqγuluq yörügüg「了ずるところの義を」を訂正したものであるが、本文では訂正前のウイグル文を譯した。(G40)行目 adqan(γu-sïn) の前に bilgäli öz が缺落している。(G42)行目 arqurasïnča atqanmaq「横として緣ずること」は「誤って緣ずること」を表す。

8 漢文『入論』：非即語音親能詮義勿説火時便燒於口要依語故火等名生由火等名詮火等義詮者謂能於所顯義生他覺慧非與義合聲有礙故諸記論者所執常聲理不成故不應離此名句文三可執有法能詮於義然四種法似同一相一聲二名三義四智（大正 p.987c *ll.*26-988a3）

(G43) anta basa ülüš nomta sözlär ol oq savlïγ ün käntü özi : yaqïn yaγuq ymä ter uyur ärmäz uqïtγalï oot bolmaqï (G44) -nïng yörügüg näng oot tep sözlämiš ödtä ötrü yarašï ayïz örtämäz [köyürmäz] oot temädäči savta örtädäči köyürdäči tep (G45)[y]örüg-kä(?) ödtä(?) at savlïγ(?)_uquld[ačï]larqa oot bolmaqlïγ yörügüg sez[ik]ber[ ] antaγ čïn kertü yörügtäki [ ] ärsär äsringü yörü[g] (G46)[ ] anïng [ ] ootta ulatï atlar tuγ[mïšïn] uqulïr (G47) ootta u[latï] atalarnïng yörüg birlä [ ] (G48) (t)ïtïγ[t]ïtmaz üčün swkwdy tegmä ün ürlüg (G49) ol [ ] bar nom uyur uqïtγalï yörügüg tep : ulatï (G50) [ančuˌ]layu oq savlïγ ün [ ] üčün (G51) [ ] atqanγusïn bilgäli uq[ ] (G52) [ ] savlïγ ün tïtïγ (G53) [ ]tep [ ] ünüg sözlädäči (G54) [ ]'w sözlär ün (G55) [ ]ynt' bütüp (G56) [ ]z-yn nom (G57) [ ] at-ï : pw' (G58) [ ]atïn

「(G43)そこで復、分法に説く：その語音は親しく火となるものの義を詮じうること非ず。(G44)火と説いた時に便ち口を焼かない。火と言わない語において焼くものと。・・・」

(G43)行目 käntü öz-i「自身」は yaqïn yaγuq「親しく」に訂正されている。yaqïn yaγuq は『實義疏』にも現れ漢語の「親」や「親近」を表す：kertülärning yörügin yangïlturdačïtïn yaqïn yaγuq ünmiš tuγmïš ärmäz üčün「非迷諦理親發起故」、bu tayandačï töz ol tayaqïnga körü odγuraq yaqïn yaγuq「是能依性對彼所依極親近」(第 4 章「語彙」yaγuq の項)。(G44)行目、漢文の便「すなわち」(すぐ、たやすく) に對して ötrü yarašï が當てられている。ötrü は「即ち」を yarašï は「都合よく」を表す。

2.2 『阿毘達磨倶舎論』頌の注釋書斷片[129]

ベルリン・ブランデンブルグ・科學アカデミーには2葉の『阿毘達磨倶舎論』頌の注釋書斷片（文獻番號 U5650, U5674）が保管されている。内容は『倶舎論』界品冒頭の頌を注釋したもので、普光の『阿毘達磨倶舎論記』（『倶舎論記』）の内容に一致する部分がみられる。

2.2.1 『阿毘達磨倶舎論』頌の注釋書斷片の性格

このウイグル文の大きな特徴として、一部にチベット文字が插入されていることである。しかし、これを理由にチベット語を翻譯の原典にしたとはいえない。というのは、ウイグル文中に引用されている『倶舎論』からの2句のウイグル文（cf. 2 *ll.*4-5, 3 *ll.*8-9）は漢文から翻譯されたウイグル文『實義疏』のものとほぼ一致している。また、『八倶舎』を表すサンスクリットの音寫形式も『實義疏』のものと大體同じ形式を使用している（cf. 4）。したがって本注釋書斷片のウイグル文は漢語から翻譯されたといって間違いない。

チベット文字は2種がある。1種は數字で以下のように現れる：

③-ünč「第三」（*l.*18），④-ünč「第四」（*l.*19），⑤-inč「第五」（*l.*19），⑥-ïnč「第六」（*l.*20），⑦-inč「第七」（*l.*20），⑧-inč「第八」（*l.*21），② koošlarïγ「二倶舎を」（*l.*35）

このうち、③-ünč，④-ünč，⑤-inč の存在は Kara/Zieme（1976 p.6）で既に觸れられている[130]。

厄介な文字は以下に T1 T2 として掲げたチベット文字である。この2文字がかたまって現れる 13~21 行目までの文を整理すれば次のごとくである：

T1 : bu aqïγlïg aqïγsïz nomlar ol tegüči karikta nägününg tügün kärgäkligin uqïtur :
T2 : säkiz koošlarnïng tügün kärgäkligin uqïtur :
T1 : säkiz koošlar qayular ol :
T2 : angilki datu kooš : ikinti [ind]irya kooš : ③-ünč l[oka koš :] ④-ünč karma kooš : ⑤-inč anušaya kooš : ⑥-ïnč margapudgali kooš : ⑦-inč inyana kooš : ⑧-inč samapati kooš ärü[r] :
T1 この「有漏無漏法なり」という頌において何の綱要を標するのか？
T2 八倶舎の綱要を標する。
T1 八倶舎とは 何か？
T2 第一は界倶舎、 第二は根倶舎、第三は世倶舎、第四は業倶舎、第五は隨眠倶舎第六は賢聖倶舎、第七は智倶舎。第八は定倶舎である。

---

129 この節は庄垣内（2006）を基に書かれた。

130 Kara/Zieme（1976, p.6）にチベット文字數字の例として③-ünč, ④-ünč, ⑤-inč が掲げられているが、それの現れる文獻として T II S 2B （U5670）とあるのは、T II S 2B （U5650）の誤植と考えられる。また、同書で扱われたタントラテキスト U5646（T II S 1）にもチベット文字數字「1」「2」「32」が現れている。ほかに「4」もみられ、それには「?」（p.72 *l.*25, Tafel XXXVII H *l.*11）が付けられているが、本章で扱うテキストの19行目の「4」（④）と同じ文字の形態を呈している。

T1 と T2 に續く文はお互いに「問答」の關係にあるといってよい。したがってこの2つのチベット文字は交互に現れるはずである。だが以下のテキストにみられるように21行目の T1 の後には、豫想される T2 ではなく T1 が49行目に現れる。しかし詳しくみれば、21行目の問いの内容に對する答えは29行目に kikinč というウイグル語を掲げて始まる。ウイグル語の「問答」は『實義疏』では sezik「問」と kikinč「答」で表現される：munda sezik kikinč qïldačïlar barča ašnu uqudmïšïnga tayanmïš üčün adamïš ol öngdünki padak eyin kikinč tep (B2058-2059)「ここで問答をなすものらは皆先に擧げたものに依ったため「前句に順ずる答え」と名づけた。」。すなわち T2 は kikinč と交換可能である。それなら T1 は當然 sezik とも交換できる。この2つのチベット文字は明らかに「問」と「答」を表している。『實義疏』ではウイグル語に變えてしばしば漢字の「問答」を使用している：問 birök anday ärmäsär sözlägü ärdi bilir tep nädägin uyur bilgäli tep 答 ävrilmäk tägšilmäktä tuyu tükädmiš üčün sodurandiki nikaylïγlarnïngta bar üčün anïn uyur bilgäli tep (B1237-1240)「問、もしそのようでないならば「識」というべきであった。如何にして識ることができるのかと。答、轉回において已に生まれたため、經量部のものにおいて存在する故、それで識ることができると」(B1237-1240)。T1 と T2 の使用はこの漢字と同じ用法といってよい。

ところで、チベット文字と見なした T1 と T2 の文字の判讀は難しい。まず T2 は判讀できない。T1 は co と書かれた可能性が高い。co は字母數詞「125」を表示するが、それでは意味をなさない。これを Skt. codya「強ひらるべき、非議せらるべき、疑はるべき」(荻原 p.480b) の簡略形ととれば「問」に該當するが、これも定かではない。この2文字を如何に讀むかは不明のままに、T1 に「問」を、T2 に「答」を當てて和譯することにしたい。

2.2.2 『阿毘達磨俱舍論』頌の注釋書の文字轉寫テキスト

□はチベット文字を表し、○はチベット數字を表す。

U5650

Recto

1) 1 pwylwk y y'n' 'yky twyrlwk pwlwr : "nk
2) 2 'ylky twykwn k'rk'k lykyn ywmd'rw 'wqydm'q :
3) 3 'ykynty "nk'yw twyz yn twyp yn ywrm'k
4) 4 'rwr : mwnd' y'n' "qyq lyq "qyq syz
5) 5 nwm l'r 'wl tykwcy ttwyrt k'z yk k'ryk
6) 6 'rs'r : "nk'ylky twykwn k'rk'k lyk yn
7) 7 ywmd'rw 'wqydt'cy k'ryk typ "d'nwr :
8) 8 mwnd' p's' qy y'n' ym' "lqw 'ydyklyk
9) 9 nwm l'r 'rs'r tykwcy k'ryk tyn pwrq'n
10) 10 nwm y pwlwr 'yky twyrlwk tykwcy k'ryk
11) 11 q' t'ky k'ryk l'r 'rs'r : p'rc' "nk'yw
12) 12 twyz yn twyp yn ywrm'k lyk k'ryk (typ) "d'nwr :
13) 13 T1 : pw "qyq lyq "qyq syz nwm l'r 'wl

14) 14 tykwcy k'ryk t' n'kw nwnk twykwn k'rk'k lyk
15) 15 yn 'wqydwr : T2 : s'kyz kwws l'r nynk twykwn
16) 16 k'rk'k lykyn 'wqydwr : T1 : s'kyz kwws l'r

Verso

'wyc 'wtwz

17) 1 q'yw l'r 'wl : T2 : "nk'ylky d'tw kwws :
18) 2 'ykynty '[ ]ry ' kwws : ③ wnc l[ ]
19) 3 ④ wnc k'rm ' kwws : ⑤ ync "nws'y ' kwws
20) 4 ⑥ ync m'rk' pwdk'ly kwws : ⑦ ync 'yny'n'
21) 5 kwws : ⑧ ync s'm'p'dy kwws 'rw[ ] : T1 : "nd'q
22) 6 'rs'r pw k'ryk t' s'kyz kwws l'r twyk'l
23) 7 twdwlwr mw : pyrwk twdwls'r sw s'kyz
24) 8 kwws l'rd'qy ywrwk l'r nynk k'rk'k lyk
25) 9 twykwn yn ywmd'ryp 'wqydswn : pyrwk
26) 10 pw k'ryk t' s'kyz kws l'r twyk'l syqm's'r
27) 11 s'kyz kwws l'r t'qy t'rynk ywrwk l'r nynk
28) 12 twykwn k'rk'k lykyn ywmd'rw 'wqydwr tyk'ly
29) 13 n't'k pwlwr : kykync : pw k'ryk t' s'kyz kwws
30) 14 l'r syq'r twdwlwr : n't'k yn twyk'l twdw
31) 15 lwr tys'r : pw pyr k'ryk nynk "qyq lyq
32) 16 "qyq syz nwm l'r 'wl tykwcy pyr p'd'k y

U5674

Recto

33) 1 'wyz ' "qyq lyq "qyq syz [ ] l'ryq
34) 2 ywmd'rw 'wqydm'q yntyn t'tw kwws 'yndyry '
35) 3 kwws ② kwws l'ryq 'wqydwr : ywl wq
36) 4 'wynky kyd'ryp "dyn 'ydyklyk nwm l'r
37) 5 t' "nt' "qyq l'r 'yyyn 'wyklyywr 'wycwn :
38) 6 "nyn swyz l'mys 'wl : "dy pwlwr "qyq
39) 7 lyq tykwcy 'wyc p'd'k y 'wyz ' "nk'yw "qyq
40) 8 lyq nwm l'ryq swyz l'm'k yntyn lwk'kws :
41) 9 k'rm ' kwws : "nws'y ' kwws : pw 'wyc kwws
42) 10 l'ryq 'wqydwr : "qyq syz 'rs'r q'lty
43) 11 ywl kyrtw : 'wl'dy 'wyc twyrlwk 'ydyksyz
44) 12 l'r 'rwr tykwcy pw 'yky p'd'k y 'wyz '
45) 13 'nk'yw "qyq syz nwm l'ryq 'wqydm'q
46) 14 yntyn : m'rk'pwdk'ly kwws : 'yny'n' kwws :
47) 15 s'm'p'dy kwws pw 'wyc kwws l'ryq 'wqydwr :

48) 16 mwn' mwnd'q yn pw pyr k'ryk t' s'kyz kwws

Verso

twyrt 'wtwz

49) 1 l'r twyk'l twdwlwr : T1 "nd'q 'rs'r :
50) 2 "snw c' t'dwkws ny 'yndyry ' kws ny swyz
51) 3 l'p 'wl'dy 'nk kyn s'm'p'dy kwws wq
52) 4 n'kwlwk swyz l'dy : T2 : t'tw kwws t'
53) 5 'yndyry ' kws t' "qyq lyq "qyq syz
54) 6 nwm l'ryq (ywmd'rw) 'wqydwr : kynky "lty kws l'r
55) 7 t' "qyq lyq "qyq syz nwm l'r yq
56) 8 "nk'yw "nk'yw 'wqydwr : ywmd'rw sy
57) 9 mwnd' twyz twyp pwlwr 'wycwn : pw tyl
58) 10 d'q yn "snw swyz l'mys 'rwr
59) 11 ywmd'rw q' t'y'q lyk yn "nk'yw syn
60) 12 ywrk'ly pwlm'q yntyn pw tylt'q yn
61) 13 kyn swyz l'mys 'rwr : T1 : "nt'q 'rs'r
62) 14 'wynkdwnky 'yky kwws l'rd' pyr t'k
63) 15 ywmd'rw syn 'wqydwr 'ryp : n' 'wycwn

2.2.3 『阿毘達磨倶舍論』頌の注釋書の音素轉寫・翻譯・注

文脈に隨ってテキストを 1 ～ 11 に小分割して提出する。

1

1) bölüki yänä iki türlüg bolur : ang 2) ilki tügün kärgäkligin yumdaru uqïtmaq : 3) ikinti angayu tözin tüpin yörmäk 4) ärür :

「(八) 品はまた二種となる。第一は綱要を總じて標すること、第二は別に根本を釋すことである。」

tügün「結び目、結合」＋ kärgäklig「有要」＝「綱要」。このウイグル文と類似の内容は『倶舍論記』や法寶著『阿毘達磨倶舍論疏』にみられる：「何法名爲至説對法耶者此下大文第二明正宗前解正宗雖有三説今依初説就正宗中一明前八品二明後一品就前**八品中一總標章二別解釋**」(『倶舍論記』大正 Vol.41 p.11b *ll.*14-17)、「從此已下。明論正宗就中有二一**總標綱要二別釋**」(『倶舍論疏』大正 Vol.41 p.818a *ll.*24-25)。

上記兩漢文の「2 種の區別」とは『倶舍論』8 品中、「界品」と「根品」とを總論とし、「世間品」から「定品」までの 6 品を別論とすることを意味する。しかし、ウイグル文の「2 種」というのは以下に示すように『倶舍論』本論冒頭の頌の「有漏無漏法」から「別得非擇滅」までの 3 頌とそれ以後の正宗分の頌とを區別することである。

2

munta yänä aqïγlïγ aqïγsïz 5) nomlar ol tegüči tört käzig karik 6) ärsär : angilki tügün kärgäkligin 7) yumdaru uqïttačï karik tep atanur :

「ここでまた「有漏無漏法なり」という四行の頌は第一の綱要を總じて標する頌と名づける。」

karik < Skt. kārikā「活動、苛責、本頌」[131]、ここでは「頌」とした。なお、『實義疏』では『倶舎論』からの引用頌には karik を、それ以外では šlok (< Skt. śloka) を用いている。ここでも karik は『倶舎論』からの引用頌に使われる。

このウイグル文に類似の内容は『倶舎論記』にもみられる：「頌曰至別得非擇滅者此即頌答**此三行頌標前八品名總標綱要分**」(大正 Vol.41 p.11b *ll.*22-24)。漢文中の「此三行頌」というのは『倶舎論』の以下の 3 頌をいう：

有漏無漏法　除道餘有爲
於彼漏隨増　故説名有漏

無漏謂道諦　及三種無爲
謂虚空二滅　此中空無礙

擇滅謂離繫　隨繫事各別
畢竟礙當生　別得非擇滅（大正 Vol.29 p.1b *l.*29-c5）

ウイグル文の tört käzig karik「四行の頌」というのもこの 3 頌にあたるものと考えられる。何故「四行」というのかは不明である。この 3 頌は確かに『倶舎論』の 8 品(「破執我品」を除く)に對して、總じてその綱要を標したものであるから angilki tügün kärgäkligin yumdaru uqïttačï karik 「第一の綱要を總じて標する頌」というのは理解できる。

ところで『實義疏』ではこの 3 頌は以下のように表現されている：

aqïγlïγ aqïγsïz nomlar ol （A2591-2592）	有漏無漏法
yoluγ öngi ketärip adïn etiglig nomlarta （A2674）	除道餘有爲
olarta aqïγlar eyin ükliyür üčün	於彼漏隨增
anïn sözlämiš ol aqïγlïγ tep at üzä （A2729-2731）	故説名有漏
aqïγsïzï ärsär qaltï yol kertü ärür （A2937-2938）	無漏謂道諦
ulatï üč türlüg etigsizlär （A2984）	及三種無爲
kök qalïq iki türlüg öčmäklär （A3038）	謂虚空二滅
munta kök qalïq tïdïγsïz tözlüg ärür （A3100-3101）	此中空無礙

131 荻原 (1986) p.340a.

bilip öčmäk ärsär qaltï bayтïn öngi üdrülmäk ärür	擇滅謂離繫
bay boldačï ädi eyin öngin 々 adïrïlur （A3212-3214）	隨繫事各別
biltämlig tïdmaqtïn ken tuydačï nomlarïy	畢竟礙當生
angayu bululur bilmätin öčmäk （A3596-3597）	別得非擇滅

本文 4~5 行目の「有漏無漏法」を表すウイグル文は『實義疏』のものと全く同一である。

3

8) munta basaqï yänä ymä alqu etiglig 9) nomlar ärsär tegüči kariktïn burxan 10)nomï bolur iki türlüg tegüči karik 11)-qatägi kariklar ärsär : barča angayu 12)tözin tüpin yörmäklig karik (tep) atanur :

「ここで次に「又諸の有爲法は」という頌から「佛法は二種ある」という頌までの頌は皆別に根本を釋することの頌と名づける。」

8)~9)行目の ymä alqu etiglig nomlar ärsär「又諸の有爲法は」という頌は『倶舍論』中の上掲の綱要を標する頌に續く以下の頌である：

又諸有爲法　謂色等五蘊
亦世路言依　有離有事等　（大正 Vol.29, p.2a *l*.8）

この頌は『實義疏』にもみられる：

yänä ymä alqu etiglig nomlar ärsär	又諸有爲法
qaltï öngdä ulatï beš yükmäklär ärür	謂色等五蘊
ymä ök öd yolï sav tayaqï	亦世路言依
ünüšlüg vastuluy tep ulatï （A3879-3881）	有離有事等

『實義疏』の「又諸有爲法」を表す第 1 句ウイグル文はやはり本文 8)~9)行目のものと同一である。また、9)~10)行目の burxan nomï bolur iki türlüg「佛法は二種ある」という頌は先の『倶舍論』8 品の最後「定品」中の最終部分に現れる：

佛正法有二　謂教證爲體
有持説行者　此便住世間　（大正 Vol.29, p.152b *ll*.1-2）

この頌はすでに正宗ではなく、流通分初頭の頌である。『倶舍論記』には次のような記述がある：「第二解云序分同前何法名爲已下至定品名正宗從定品末前來分別以下

總名流通」（大正 Vol.41 p.2a *l*.29-b *l*.3）[132]。この『倶舎論記』中の「何法名爲」は上掲『倶舎論」の「有漏無漏法」に始まる頌の直前（大正 Vol.29 p.1b *l*.27）に、また「前來分別」は「佛正法有二」の直前（大正 Vol.29 p.152a *ll*.27-28）に現れる。

4

13)T1 : bu aqïγlïg aqïγsïz nomlar ol 14)tegüči karik-ta nägününg tügün kärgäklig 15)-in uqïtur : T2 : säkiz kooš-larnïng tügün 16)kärgäkligin uqïtur : T1 : säkiz kooš-lar 01) *üč otuz* 17) qayular ol : T2 : angilki datu kooš : 18) ikinti [ind]irya kooš : ③-ünč l[okakoš :] 19) ④-ünč karma kooš : ⑤-inč anušaya kooš : 20) ⑥-ïnč margapudgale kooš : ⑦-inč inyana 21) kooš : ⑧-inč samapati kooš ärü[r] :[133]

「問：この「有漏無漏法なり」という頌において何の綱要を標するのか？答：八倶舎の綱要を標する。問：八倶舎とは何か？ 答：第一は界倶舎、 第二は根倶舎、第三は世倶舎、第四は業倶舎、第五は隨眠倶舎、第六は賢聖倶舎、第七は智倶舎、第八は定倶舎である。」

八倶舎を表すウイグル語はいずれもサンスクリット起源の形式で掲げられているが、以下に示すように『實義疏』中の形式とほぼ一致する。ただ、Skt. kośa に相當する形式は『實義疏』の koš(~kooš) に對して本文では lokakoš 以外は常に kooš で表現される。

本文	『實義疏』	サンスクリット
datu kooš	datukooš（A29,36）~datukoš（A33,69）	dhātu-kośa
indirya kooš	indirayakoš（A3309）~indrayakoš（A36）	indriya-kośa
lokakoš	lokakoš（A40,43）	loka-kośa
karma kooš	karmakoš（A44,48）	karma-kośa
anušaya kooš	anušayakoš（A52,2826,2850）	anuśaya-kośa
margapudgale kooš	margapudgalakoš（A53,830）	mārgapudgala-kośa
inyana kooš	inyanakoš（A56）~iyanakoš（A56,60）	jñāna-kośa
samapati kooš	samapati koš（A61）	samāpatti-kośa

5

T1 : antaγ 22) ärsär bu karik-ta säkiz kooš-lar tükäl 23) tutulur mu : birök tutulsar šu säkiz 24) kooš-lardaqï yörüglärning kärgäklig 25) tügünin yumdarïp uqïtzun : birök 26)bu karik-ta säkiz koš-lar tükäl sïγmasar 27)säkiz kooš-lartaqï täring yörüglärning 28)tügün kärgäkligin yumdaru uqïtur tegäli 29)nätäg bolur :

132「第二解に曰く、序文は前に同じ、何の法を名付けて[云々]と爲すより已下定品に至を正宗と名付け、定品の末の前來に［種々の法門を］分別せるより以下を總じて流通と名づく」（「國譯一切經」論疏部 Vol.1 p.6）

133 01) *üč otuz*「二十三」は丁數表示。

「問：然らばこの頌に八倶舎は圓滿に保たれているのか？もし保たれているなら八倶舎にある義の要綱を總じて標すべし！もしこの頌に八倶舎が圓滿に入っていないのなら八倶舎にある深い義の綱要を總じて標すということが如何にして可能なのか？」

6

kikinč : bu karik-ta säkiz kooš 30)-lar sïyar tutulur : nätägin tükäl tutu 31)-lur tesär : bu bir karik-nïng aqïγlïγ 32)aqïγsïz nomlar ol tegüči bir padak-ï 33) üzä aqïγlïγ aqïγsïz [nom]larïγ 34) yumdaru uqïtmaqïntïn datu kooš indirya 35) kooš ② kooš-larïγ uqïtur :

「答：この頌に八倶舎は入り保たれる。如何に圓滿に保たれるのかと言えば、この一頌の「有漏無漏法なり」という一句によって有漏無漏法を總じて標することで、界倶舎、根倶舎、（この）二倶舎を標する。」

bu bir karikïnïng 「この一頌の」以下は『倶舎論記』の次の内容に相應する：「初一句總明有漏無漏法標界根二品」（大正 Vol.41 p.11b *ll.*24-25）。

7

yoluγ 36) öngi ketärip adïn etiglig nomlar 37) -ta anta aqïγlar eyin ükliyür üčün : 38) anïn sözlämiš ol : atï bolur aqïγ 39) -lïγ tegüči üč pad(a)k-ï üzä angayu aqïγ 40) -lïγ nomlarïγ sözlämäkintin lokakoš : 41) karma kooš : anušaya kooš : bu üč kooš 42)-larïγ uqïtur :

「「道を除いて餘の有爲法において、そこで漏が隨増する故、それで名は有漏となると説いた」（除道餘有爲　於彼漏隨增　故説名有漏）という三句によって別に有漏法を説くことで、世倶舎、業倶舎、隨眠倶舎、この三倶舎を標する。」

pad(a)ki < Skt. pādaka「句」。　eyin ükli-「隨って増える」＝「隨増」[134]。

üč　pad(a)ki「三句」以下の内容は『倶舎論記』の次の内容に相應する：「次三句別明有漏法標世業隨眠三」（大正 Vol.41 p.11b *ll.*25-26）。

8

aqïγsïz ärsär qaltï 43)yol kertü : ulatï üč türlüg etigsiz 44)-lär ärür tegüči bu iki padak-ï üzä 45)angayu aqïγsïz nomlarïγ uqïtmaq 46)-ïntïn : margapudgale kooš : inyana kooš : 47)samapati kooš bu üč kooš-larïγ uqïtur :

「「無漏は謂く 道諦及び三種無爲である」（無漏謂道諦　及三種無爲）というこの二句によって別に無漏法を標することで、賢聖倶舎、智倶舎、定倶舎、この三倶舎を標する。」

ウイグル文は「無漏謂道諦　及三種無爲」の 2 句をもって賢聖品、智品、定品の 3 品を標することを表しているが、『倶舎論記』では「後兩行頌別明無漏法標賢聖智定

134「次第に増長する、ついて離れない、隨順しつつ（煩惱を）増長せしめる、の意」（中村 p.811a）。

三品」（大正 Vol.41 p.11b *ll*.26-27）のごとく「無漏謂道諦 及三種無爲 謂虚空二滅 此中空無礙 擇滅謂離繫 隨繫事格別 畢竟礙當生 別得非擇滅」の２頌をもって3品を標するとある。

9

48)muna muntaγïn bu bir karik-ta säkiz kooš 02)*tört ötüz* 49) -lar tükäl tutulur : T1 antaγ ärsär : 50) ašnuča datukoš-nï indirya koš-nï söz 51) -läp ulatï ang ken samapati kooš-uγ 52) nägülük sözlädi :[135]

「さて斯くして、この一頌に八倶舎が圓滿に保たれている。問：然らば、先に界倶舎根倶舎を説いてそして最後に定倶舎を如何にして説いたのか？」

10

T2 : datu kooš-ta 53) indirya koš-ta aqïγlïγ aqïγsïz 54) nomlarïγ (yumdaru) uqïtur : kenki altï koš-lar 55) -ta aqïγlïγ aqïγsïz nomlarïγ 56) angayu angayu uqïtur : yumdarusï 57) munta töz tüp bolur üčün : bu tïl 58)-taγïn ašnu sözlämiš ärür 59)yumdaruqa tayaqlïgïn angayusïn 60)yörgäli bolmaqïntïn bu tïltaγïn 61)ken sözlämiš ärür :

「答：界倶舎と根倶舎において有漏無漏法を總じて標する。後にある六倶舎において有漏無漏法を別々に標する。その總がここで根本となる故、これに因て先に説いたのである。總に依て別を釋すことができることから、これに因て後に説いたのである。」

11

T1 : antaγ ärsär 62)öngdünki iki kooślarda bir täk 63)yumdarusïn uqïtur ärip : nä üčün

「問：然らば、以前にある二倶舎において同じく總を標するのであって、何故」

135 02)*tört ötüz*「二十四」は丁數表示。

3．ロンドン本『阿毘達磨倶舎論實義疏』Or.8212-75Aのテキスト

1. 轉寫テキストについて

a. ラテン文字轉寫の方法

本來なら文字轉寫と音素轉寫の兩方を掲げるべきであるが、紙面の都合上文字轉寫は省く。ただ、文字 t と d は音素/tと/d/を表記するのに混用されているので文字轉寫のまま掲げる。テキスト中これらの文字が/tと/dの何れの音素を表しているのかは次章の「語彙リスト」に掲げた見出し語の形式から判斷できる。また、ハイフォンは寫本における綴り字の切れ目を表す。ただし、轉寫テキストの行末に現れるハイフォンは綴り字の切れ目ではない。

b. ウイグル文中の漢字について

ウイグル文中には多數の漢字が插入されている。それらは、できるだけ寫本中の漢字字體に近いものを使用した。それ故、例えば「爲」とともに「為」、「佛」とともに「仏」も現れる。

c. テキスト中に現れる括弧について

( )は行間に傍注として書かれた插入語句を表す。
< >は行間あるいは欄外に書かれた訂正語句や文を表す。
{ }は著者によって補われた缺落形式を表す。

2. 和譯について

a.和譯の方法

ウイグル文は擬漢構文を使用し、翻譯原典である漢文に對して定譯術語と定譯構文をもっていた。ここでは翻譯原典の漢文を想定しながら和譯することに努めた。したがって接續詞や副詞などの表現に現代日本語としては多少ぎこちないところもある。

b. 和譯文中に現れる括弧について

( )は文意を明確にするために著者によって補われた語句を表す。
< >は補足內容を表すウイグル文の和譯に充てた。
{ }はウイグル文の缺落あるいは誤譯を著者によって改められた部分である。

1 1a-1 阿毗達磨倶舎論實義疏巻第一
2 2 abidarim šastr-taqï čïnkertü yörüg-lär-ning kengürü ačdačï tikisï baš
3 3 -tïnqï küün 又 abidarim qïïn-lïγ košavardi šastr-taqï čïnkertü (töz-lüg) yörüg-lär
4 4 -ning kengürü-si bašdïnqï tägz-inč ymä/ter :: 尊者 ayaγ-qa tägimlig 悉
5 5 地羅末提造 äsdiramati baxšï yaradmïš ärür. 唐言安恵 :
6 6 äsdiramati tegüči sav<-ïγ> tavγač-časïnča yörä söz-läsär ornaγ-lïγ bilgä
7 7 biliglig tep yörüg ünär 惣二万八千偈 yumdarsar iki tümän säkiz
8 8 mïng girant-lar ol 无念本 uu tem atlγ ačari tsopïn-ïn qïldïm
9 9 稽首薄伽衆徳山 yinčürü töpün yükünürmn adï ködrülmiš-lik qamaγ
10 10 ädgülüg taγ-qa :: yinčürü töpün yükünürmn nom ärtini-lig uluγ bilgä bilig
11 11 -lig taluy ögüz-kä :: yinčürü töpün yükünürmn bursang quvraγ<-lïγ> alqu
12 12 tüz-ün-lär ïduq-lar quvraγ-ïnga :: šasdirakare vasubantu baxšï-qa ulatï mn
13 13 -ing öz baxšïm guna-mati baxšï-qa ymä :: mn uγradïm kadyot qurt-nung
14 14 yaruq-ï kün tngri-ning yaruq-ïnga basudlayur-ïnča. küč-üm yedmiš-inčä kengürü
15 15 uqïdγalï abidarmakoš šasdr-ïγ :: asïγ-lïγ tusu-luγ qïlγu üčün tïnlγ-lar
16 1b-1 -ïγ 又 asïγ tusu qïlγu üčün tïnlγ-lar-qa ymä/ter nomuγ šaz-inïγ ür keč turγur
17 2 -γu üčün :: küsüš-üm ol čoγluγ yalïn-lïγ ridi-lar-ï üz-ä körüp küyü küzädü tud
18 3 -zun-lar tep 又 körü baq-a küyü küzädü tudzun-lar mini tep ymä/ter :: 釋曰 yör-ä söz

---

1~4 この注釋書の漢語題目「阿毘達磨倶舎論實義疏」に對するウイグル語譯としては巻末無訂正の abidarmakoš šasdr-taqï čïn-kertü yörüg-lär-ning kengürü ačdačï tiki-sï bašdïnqï küün 「阿毘達磨倶舎論にある眞實義の詳解注・初巻」が最適といえる。このことに關しては 1.1.4 の議論を參照されたい。なお、巻頭ページに前接する白紙ページに、又 abidarim qïïn-lïγ qïïn kengürü-si abidarmakoš šasdr-taqï ymä / ter としてウイグル語題目の訂正文が 1 行付加されている。これは「また、阿毘達磨倶舎もてる倶舎の廣説、阿毘達磨倶舎論にある、ともいう」と譯せる。 abidarim šasdr(/šastr/) < Abhidharma-śāstra「阿毘達磨論」= Abhidharmakośabhāsya. tiki < Skt. ṭīkā「注釋」。kengürü ačdačï tiki-sï「廣く開く注」=「詳解注」=「疏」。kengürü「廣く」= Skt. vistara「廣説」。5 äsdiramati (/ästiramati/) < Skt. Sthiramati「安慧」。本テキスト(Or.8212-75A)では「安慧」はすべてこの形式で現れるが、甘肅本および第四巻(Or.8212-75B)では ästiramati とならんで istiramati も現れる。6~7 sav<-ïγ>「言を」は⇒

阿毘達磨倶舎論實義疏卷第一

『阿毘達磨論』（Abhidharma-śāstra）にある眞實義の詳解注、初巻。尊者、悉地羅末提（Sthiramati）師が造ったのである。「Sthiramati」と云う言を漢語として釋し説くなら「安定した智慧」と云う義が發する。總ずるなら、二萬八千偈ある。我れ无念と云う阿闍梨が造本をなした。我れ世尊の衆徳の山へ稽首する。我れ法寶の大智海へ稽首する。我れ僧伽の諸々の聖衆へ稽首する。論主世親（Vasubandhu）師へ、及びわが自師徳慧（Guṇamati）師へも。我れまさに螢蟲の光が、日天の光への助けとなるほどに、わが力の及ぶかぎり、『阿毘達磨倶舎論』（Abhidharma-kośa-śāstra）を弘宣することを欲した。群生に、利益をなすため、法教を久しく住させるために。願わくば、威神で以て見、護持したまえ、と。

訂正形式を採用した。もとは sav-nïng「言の」のように屬格が入っていたが正しくはない。訂正はこれ以外にもあるがここでは採用しなかった。訂正文は以下の如くである：äsdiramati tegüči sav<-ïγ> tavγač-časïnča söz<-läyür 安惠 tep> ornaγ-lïγ bilgä biliglig tep yörüg 「Sthiramati という言を漢語では安慧という。安定した智慧という義なり」。7~8 節略漢文『實義疏』の巻頭表題以下にも「惣二萬八千偈」と書かれている。この漢語に對するウイグル語譯は次のように訂正されている：yumdarsar (munung) iki tümän säkiz mïng girant<-lar-ï> ol「總ずるなら、これには二萬八千偈がある」。 girant < Skt. grantha. uu tem (/uu dem/)は「无念」のウイグル漢字音による音寫といえる：无<M.Chin. ɱu> ·uu (Uig.p.Chin.) 念<M.Chin. niem> dem (Uig.p.Chin.) cf. 庄垣内(2003b) pp. 69-70, 96-100. uu tem atlγ ačari は(mn ::) <a-simarda> atlγ ačari「我 a-simarda という阿闍梨」と訂正されている。a-simarda (/asimarta/) < Skt. a-smṛta「无念」。 tsopïn は漢語からの音借用と見なせるが同定は容易でない。uu tem atlγ ačari tsopïn-ïn qïldïm の直前には「无念本」が冠されている。この漢字列はこのウイグル本を无念が造ったとも无念が藏しているとも讀める。ここでは漢語「造本」(M.Chin. dzâu puən)の音寫形式としておきたいが、「藏本」(M.Chin. dzâng puən)であったかもしれない。9(~18) 「稽首薄伽衆徳山」から tud-zun-lar tep までは節略漢文『實義疏』冒頭の次の頌と對應している：

稽首薄伽衆徳山　稽首達磨大智海
稽首僧伽和合衆　擧斯論主及吾師
我將螢燭助陽光　隨力弘宣對法藏
爲利群生法久住　願以威神見護持(大正 Vol.16, p.325a)

9 「薄伽」=「薄伽梵」(Skt. bhagavat, bhagavān(nom.)). ここでは adï ködrülmiš「世尊」が對應する：cf. anïn adamïš ol adï ködrülmiš-ig bagavan tep「それ故に世尊を薄伽梵と名付けた」(*II*.533-534). 11 bursang quvraγ <-lïγ>は訂正形式を採用した。訂正前は bursang quvraγ <ärtini-lig>「僧伽寶もてるもの」。12 šasdirakare (/ šastirakare/) < Skt. śāstra-kāra「論書の著者、論主」vasubantu < Skt. Vasubandhu「世親」。13 guna-mati
< Skt. guṇa-mati「徳慧」無相唯識派の論師。14 basudlayur-ïnča ← basut「助け」-la(den. verb) -yur (aorist)-ïnča (equative 3. sing.)「助けとなるほどに」。15~16 asïγ-lïγ tusu-luγ qïlγu üčün tïnlγ-lar-ïγ「群生を利もてるものとなす爲」が、又 asïγ tusu qïlγu üčün tïnlγ-lar-qa ymä/ter「群生に利をなす爲」と訂正されている。和譯では訂正文を採用した。abidarmakoš šasdr(/šastr/) < Skt. Abhidharma- kośa-śāstra「阿毘達磨倶舎論」(對法藏論) = Abhidharmakośabhāṣya. 16 šaz-in < Skt. śāsana「教」。17~18 küsüš-üm ol čoγluγ yalïn-lïγ ridi-lar-ï üz-ä körüp küyü közädü tud-zun-lar tep は「又」以下で küsüš-üm ol čoγluγ yalïn-lïγ ridi-lar-ï üz-ä körü baqa küyü közädü tud-zun-lar mini tep「願わくば、威神でもって我を觀見し護持したまえと」と訂正されている。ridï < Skt. ṛddhi「神、神通」。

19 4 -lär kim küčsüz bilgä biliglig-lär-ning . ög-kä bilgä bilig-kä tükäl-ligsiz. köni
20 5 nomuγ kim unïdturmatïn idtürmätin. tuγurdmaγu üčün biligsiz üz-ä yangïlmaq-
lar
21 6 -ïn anï üčün ayaγ-qa tägimlig 主 vasubantu baxšï yaradïp bu košavarti šasdr
22 7 -ïγ. uqïdmïš ärür anda-qï čïnkertü yörüg-lärig 將釋此論 uγrasar
23 8 yörgäli bu šasdr-ïγ. ašnu-ča uqïdmïš kärgäk säkiz kooš-lar-nïng sanpan-ï-nïng
24 9 käz-igin tizig-in tep. 問 bar adïn orun-ta söz-läp ediglig edigsiz tep.
25 10 uqïdmïš-ï körgidmiš-i alqu qamaγ nom-lar-ïγ nä üčün bu šasdr-ta ašnu-ča
26 11 uqïdtï aqïγ-lïγ aqïγsïz tep 答 bu aqïγ-lïγ aqïγsïz nom-lar
27 12 kirlig kkir-siz töz-lüg ärür-lär. küsämiš üčün bildürgäli ol kkir-lig
28 13 kirsiz iki türlüg nom-lar ärür alqu nom-lar-nïng töz-i tep tudulup turur
29 14 üčün yükmäk orun uγuš-ta anïn ašnu-ča uqïdmïš ol tadukooš-uγ tep ::
30 15 問 nä üčün yindäm söz-läp uγuš-lar bölüki tep. söz-lämäti yükmäk
31 2a-1 orun-ta ulatï bölük-lär tep 又 yükmäk orun-ta ulatï-lar bölüki tep ymä/ter
32 2 答 kikinč berür bu bölük-tä kengürü uqïdïp uγuš-lar yörügin adïn ikigü-ni
33 3 andaγ ärmäz üčün. anïn söz-lämiš ol uγuš-lar bölüki tep söz-lämämiš ol
34 4 yükmäk orun-ta ulatï-lar bölüki tep 以染淨法 kkir-lig kkirsiz
35 5 nom-lar iki otuz ärklig-lär-kä tayaq bolmaq üz-ä uyur üčün qïlγalï sansar
36 6 -lï nirvan-lïγ anïn tadukooš-ta basa söz-lämiš ol. ol intrayakošuγ
37 7 bular-ta kirlig-i-ning uγur-ïnda anïn bolur üčün olar-nïng aqïlmaq-ï
38 8 ävrilmäki üč uγuš-lar-ta beš ažun-lar-ta tört tuγum-lar-ta tïnlγ yer
39 9 -tinčü-nüng idiš yerdinčü-tä ulatï-lar-ta anïn intrayakoš-ta basa ken
40 10 söz-lämiš ol. ol lokakoš-uγ. bu üč uγuš-lar beš až-un-lar iki türlüg
41 11 yerdinčü-lär qayu tïldaγ-ïn inčip bolur tep körüp adïrtlap anïng tïldaγ

---

19 kim küčsüz bilgä biliglig-lär-ning . ög-kä bilgä bilig-kä tükäl-ligsiz は kim küčsüz bilgä biliglig-lär <ärsär> ög-kä bilgä bilig-kä tükäl-ligsiz「誰でも無力の智慧もてるものらは念、智が不圓滿である」と訂正されている。20 ここでの kim「だれ」は、使役構文の構成要素として機能する。漢文の「令」にあたる。Cf. 1.4.4.1.2.2. 23 kooš < Skt. kośa「俱舍」。sanpan < Skt. saṃ-panna「成就、成立、具、圓滿」。21 košavarti šasdr(/šastr/) < kośavṛtti-śāstra. vṛtti「(轉がること)、(經典の) 注釋書」(荻原 p.1270)。košavarti šasdr はストックホルム所藏の『俱舍論』中⇒

釋して曰く：皆、無力の智慧もてるものらの念、智は圓滿ではない。正法を忘失させず、無知によって誤りを起こさせないため、それ故、尊者世親師がこの『倶舍論』(Kośavṛtti-śāstra)を造って、そこにある眞實の義を顯わしたのである。まさにこの論を釋そうとするなら、先ず、八倶舍の成立の次第を顯わさねばならない、と。問：餘處には「有爲無爲」と説いて、一切衆法を顯示したものが有る。何故この論では先ず「有漏無漏」を立てたのか？と。答：この有漏無漏法は染と不染の性もてるものである。その染と不染の二種の法が諸法の性であると知らしめることを欲した故。(また)蘊處界に攝せられている故、先ず「界倶舍」(Dhātu-kośa)を立てたのである、と。問：何故唯だ「界品」と説いて、「蘊處等の品」とは説かなかったのか？と。答：この品においては界の義を詳しく顯わし、餘の二つをそのようにしなかつた故、「界品」と説いた。「蘊處等の品」とは説かなかったのである、と。染と不染の法は二十二根への依となることによって生死と涅槃とを能く爲す故に、「界倶舍」の次に「根倶舍」(Indriya-kośa)を説いたのである。これらの内、染に由ってそれらの流轉が、三界、五趣、四生において、(また)有情世間や器世間等において成ずる故、「根倶舍」の後に「世間倶舍」(Loka-kośa)を説いたのである。この三界、五趣、二種世間は何の因でこのように成ずるのか？と。

では『倶舍論』の譯語として登場する：説一切有部 alqu-nï bar tep söz-lädäči sarva'astïvat nikay-taqï 倶舍論 košavarti šastir 第卷三十 otuz-unč tägz-inč (H40R17-20) 「説一切有部倶舍論卷第三十」。ここでも『倶舍論』と和譯しておきたい。24 etiglig etigsiz「爲すこと有る、爲すこと無い」＝「有爲無爲」。26 aqïγlïγ aqïγsïz「流出有り、流出無し」＝「有漏無漏」。27 kirlig kkirsiz「汚れあり、汚れなし」＝「染(汚)不染(汚)」。28 tep と tudulup の間に訂正文として bu kir-lig kir-siz nom-lar 又 munï üz-ä ymä/ter が傍注されている。これによって 27 行目からのウイグル文は küsämiš üčün bildürgäli ol kkir-lig kirsiz iki türlüg nom-lar ärür alqu nom-lar-nïng töz-i tep munï üz-ä kir-lig kir-siz nom-lar tudulup turur üčün yükmäk orun uyuš-ta anïn ašnu-ča uqïdmïš ol tadukooš-uγ tep 「その染、不染の二種法が諸法の性であると知らしめることを欲したため。これによって、染、不染法が蘊處界に攝せられているため、それ故先ず界倶舍を立てた、と」なる。本文では訂正前のウイグル文を採用した。28 munï üz-ä「これによって」は bu「これ」の訂正形式である。29 yükmäk「積むこと」＝「蘊」。 tadukooš(/datukooš/) < Skt. dhātu-kośa「界倶舍」＝「界品」。31 「又」以下は ulatï を複數形の ulatï-lar に訂正したもので、「等」を表現する一般的形式に直されている。32 kikinč berür「答えを與える」は先行の漢字「答」に對應する。この漢字自體が訓讀されたのかあるいは音讀されたのかは難しい問題である：cf. 1.4.5.1.2. adïn ikigü-ni andaγ ärmäz を直譯するなら「餘の二つを、そのようでない」となる。即ち「餘の二つをそのように詳しく顯わさなかった」の意味である。33 anïn 以下は次のように訂正されている：anïn söz<-läp datukoš> uyuš-lar bölüki tep söz-lämämiš ol yükmäk orun-ta ulatï-lar bölüki tep「それで界品と説いて、蘊處等の品とは説かなかった、と」。34 kkirsiz「不染」に對して文中の漢語には「淨」が入っている。36 intrayakoš(/indrayakoš/) < Skt. indriya-kośa「根倶舍」＝「根品」。37 bular-ta「これらの内」の bular「これら」は「染、不染」を指す。38~39 ウイグル文は tïnlγ yer-tinčü-nüng「有情世間の」となっているが、おそらく tïnlγ yer-tinčü-nüng-tä「有情世間(のもの)において」の誤寫であろう。tïnlγ yertinčü「生き物の世界(有情世間)」 idiš yertinčü「器の世界(器世間)」。40 lokakoš < Skt. loka-kośa「世間倶舍」。

42 12 -ï äz-rua tngri išvare tngri-tä ulatï-lar uγur-ïnda ärmäz-in. bilmiš
43 13 üčün qïlïnč uγur-ïnda turmïš-ïn. anïn lokakoš-ta ken söz-lämiš ol.
44 14 ol karmakoš-uγ 業不獨能 qïlïnč yalnguz-ïn ädräm-lig ärmäz ot
45 15 -γuraq basudčï-sïn yevinür qaltï amranmaq-tïn öngi üdrülmiš-lär ärsär
46 2b-1 näčä bar ärsär ymä olar-nïng qïlïnč-lar-ï. yoq-ï-nïng uγur-ïnda
47 2 niz-vanï-lar-ï anïn ikiläyü tuγum täginmäz-lär üčün qïlïnč-ïγ tuγurdačï
48 3 basudčï ärsär qaltï eyin yatdačï-lar ärür tep anïn karmakoš-ta ken
49 4 söz-lämiš ol anušayakoš-uγ 猒茲有漏 irip bu aqïγ-lïγ-ïγ sävip
50 5 baryalï aqïγsïz-qa uγrayu tüz-ün tüš-üg tiläyü niz-vanï taryaryuluq
51 6 tïldaγ-ïγ kärgäk-lädäči-lär-kä kengürü uqïdγalï säkiz yalïndïq yeg üsdünki
52 7 är-än-lär-ning qolulayu yorïγuluq al-ïn aldaγ-ïn anïn ban-a uqïdmïš
53 8 ol margapudgalakoš-uγ. qolulap ol tüz-ün tüš-nüng qayu tïldaγ-ïn inčip
54 9 bululur-ïn odγuraq bilgä bilig-kä tayaq-lïγïn tuγar. bilgä bilig taryarmaq
55 10 uγur-ïnda niz-vanï-lar-ïγ temin ök uyur üčün bulγalï qut-uγ tep anïn basa
56 11 uqïdmïš ol. ol inyanakoš-uγ 又 iyanakoš-uγ ymä/ter qayu barï-ča qamaγ ädgü-lär-i barča
57 12 bilgä bilig tïldaγ-ïnda tuγsar 又 tuγar ymä/ter bilgä bilig qayu-tïn tuγar tep
58 13 tesär dyan-lïγ basudčï tïldaγ-ïnda tuγar. qayu tïldaγ-ïn bolur bilgäli tep
59 14 tesär anïn sudur-ta yarlïqamïš ol 若攝心者 kim-lär köngül-in yïγïnsar-lar.
60 15 uyur-lar bilgäli čïnkertü yörügüg tep. anïn iyanakoš-ta ken söz-lämiš ol.
61 3a-1 ol samapadi-košuγ. inčip vaybaš-šastr-ta näčä söz-läsär ymä säkiz bölük-lär
62 2 -ig yörüg töz-i tüzü yapa bolmatuq ärür. miširaka xarday šastr-ta

---

42 äz-rua (< Sogd. 'zrw') tngri「梵天」。išvare(<Skt. īśvara) tngri「自在天」。44 karmakoš < Skt. karma-kośa 「業倶舍」=「業品」。45 yevin-「補充する、準備する、資糧とする」: cf. yevig「資糧」。48 basudčï「助けるもの」=「緣」、eyin yatdačï「隨って眠るもの」=「隨眠」。49 anušayakoš < Skt. anuśaya-kośa「隨眠倶舍」=「隨眠品」。51 säkiz yalïndïq yeg üsdünki äräṅ-lär「八の愼みのある上々の士夫」=「八賢聖、八輩」(Skt. aṣṭau-pudgalā).52 ban-a「結ばれて」=「續けて」。この單語とその前の anïn との間に anušayakoš-ta ken「隨眠倶舍の後に(續けて)」が傍注されている。qolulayu yorï-「觀察し行ずる」=「觀行」。

それの因が梵天や自在天等に由るものでないことを見分け、業に由って起こることを知った故に、「世間倶舎」の後に「業品」(Karma-kośa) を説いたのである。業は獨りで功能もてるものではない。定んでその縁を資糧とする。謂わく、欲を離れるものらは彼らに業があろうとも煩惱が無いことに由って、それで更なる生を受けない故に、業を生むところのその縁は謂わく隨眠である、と。それで「業倶舎」の後に「隨眠倶舎」(Anuśaya-kośa) を説いたのである。この有漏を厭じて無漏へ行くことを好み、まさに聖果を求めて、煩惱を斷つところの因を要するものらに、八賢聖の觀行するところの方便を詳しく顯わそうと、それで續けて「賢聖倶舎」(Mārgapudgala-kośa) を立てたのである。その聖果が何に因って、而して得られるのかを觀察 (するなら)、定んで (それは) 智に依ることにおいて生まれる。智が煩腦を斷つことに由って、方に福果を得ることができる故に、と。それで次に「智倶舎」(Jñāna-kośa) を立てたのである。所有ゆる徳はすべて慧に因って生ずる。慧は何から生ずるのかと云えば、定の縁因から生ずる。(それを) 何に因って知り得るのかとと云えば、そこで經に「もし心を攝するなら眞實の義を知ることができる」と説かれている。それ故、「智倶舎」の後に「定倶舎」(Samāpatti-kośa) を説いたのである。即ち、『毘婆沙論』において如何に八品を説いても、その理は普遍とはならなかったのである。『雜心論』(Miśraka-hṛdaya-śāstra) 等の文は繁雜、その義は重複している。

---

53 qolulap「觀察して」を「觀察するなら」と和譯した。margapudgalakoš < Skt. mārgapudgala-kośa「賢聖倶舎」=「賢聖品」。54 -kä /qa (dat.) + tayaq「依」-lïγ (possessive) -ïn (instr.)「‥に依って」。55 (gen.) + uγur「理由、場合」-ïnda (3.pers.sing.posses.)「・・に由って」cf. 2039,3094,3602. temin ök は漢語の「方」(方に) に對應する (cf. 1.4.4.1.2.6). 56 inyanakoš < Skt. jñāna-kośa「智倶舎」=「智品」。「又」以下に iyanakoš と訂正されている。なお、60 には iyanakoš と書かれている。qayu barï-ča「所有ゆる」。ふつうは qayu barïnča となる : cf. 1939, 2377, 3179. qayu barïnča の前に訂正文が傍注されている : (munung uyrïnda tüz-ün-lär-ning ïduq-lar-nïng) qayu barï-ča qamaγ ädgü-lär-i「これに由つて聖者のあらゆる徳は」。57 「又」以下の tuγar「生ずる」は tuγsar「生ずるなら」を訂正したものである。和譯は訂正文を採用した。58 basudčï tïlday「縁因」=「因縁」。dyan < Skt. dhyāna「靜慮」。ここでは「定」の意味で用いる。61 samapadi-koš < Skt. samāpatti-kośa「定倶舎」=「定品」。vaybaš-šastr < Skt. vaibhāṣya (~vibhāṣā) -śāstra「毘婆沙論」。62 miširaka < Skt. miśraka「混合した、雜多な」、xarday < Skt. hṛdaya「心」。すなわち miśraka-hṛdaya-śāstra「雜心論」=「雜阿毘曇心論」。 cf.「雜阿毘曇心論」saṃyuktābhidharma- hṛdaya<śāstra>? ahidharmasārapratikirnaka<śāstra>?『法寶義林』別册「大正大藏經總索引」(1978) no.1552. yörüg töz-i「理」(cf. 2071,2075, 75B49, B1051, B1558, B2284),「理實」(cf.149).

63 3 ulatï-lar-nïng užik-lär-i yangšaq yörüg-lär-i qadïn ärür. amdï bu šastr-ta
64 4 arïdï yoq ärür bu mün qadaγ-lar anïn bar šlok-ta söz-lämiš-i 此論无過
65 5 離繁文 bu šastr mün-süz qadaγ-sïz ärür öngi üdrülmäk üz-ä yangšaq
66 6 sav-lar-tïn. sav-ï tuduγ-luγ yörügi üküš tälim ärtüki üz-ä yörüg töz-in yaruq
67 7 yašuq yaltrïdtačï ärür. öz bilgä bilig üz-ä qïlmïš ärür. näng adïn-lar-nïng
68 8 užik-indäki yörügüg urmïš ärmäz 又 užik-lär-in yörüg-lär-in ymä/ter :: qaltï
69 9 süt-tin yuγrut gartaman ünmiš täg tep 分別界品 tadukoš uγuš
70 10 -lar-ïγ bölmäk adïrtlamaq bölük ang'ilki-ning ang'ilki 第一頌 ang'ilki
71 11 šlok söz-lär 又 karik ymä/ter 諸一切種諸冥滅 kim alqu türlüg-lär üz-ä
72 12 alqu bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš qarangγu qararïγ-lïγ-ïn. tardïp tašγarïp
73 13 tïnlγ-lar-ïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök (tidig)-tin. ayayu aγïrlayu yükünüp
74 14 ol andaγ osuγ-luγ čïnkertü töz-lüg baxšï-qa. abidarmakoš šasdir-ïγ
75 15 mn inčip söz-läyin tep 又 mn ken nomlaγu üčün tep ymä/ter 論曰 šasdr-ta
76 3b-1 söz-läti ärti 今欲造論 amdï uγraduq-ta šastr yaradγalï
77 2 uqïdγalïr üčün öz baxšï-sï-nïng. anïng ät'öz-i-ning yeg ayaγu
78 3 -luq ärtüki üz-ä ärtmiš-ïn ašmïš-ïn alqu tüz-ün-lär quvraγ-ïnda tep.
79 4 釋曰 yörä söz-läp 問 čodake söz-lär munda öz baxšï-sïn uqïdmaq-nïng
80 5 bar uγrayu qayu abipiray-ï tep 答 šasdirakare söz-lär birök uqïdmamïš
81 6 ärsär tngri burxan-nïng anïng ät'öz-si-ning yeg ayaγuluq ärtüki üz-ä
82 7 ärtmiš-in ašmïš-ïn adïn tüz-ün-lär-tä nätägin uγay ärti tuγurdup
83 8 tïnlγ-lar-nïng aγïr ayančang köngül-lär-in tngri burxan-ta šastr-ta. bild
84 9 -ürgäli olar-nïng yeg ayaγuluq ärtükin tep 問云何於仏 nädägin
85 10 tngri burxan-ta šastr-ta tuγurur ol aγïr ayančang-ïγ tep. 答 šasdirakare
86 11 söz-lär uγrayu tükäl-lig üčün öz-kä asïγ qïlmaq adïn-qa asïγ qïl
87 12 -maq tegli iki türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-kä. söz-lämäki ärsär iki
88 13 türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-in uqïdγalïr üčün ärür tngri burxan
89 14 -nïng ädgü-lär-i-ning uluγ-ïn. uqïdmaq-ï ärsär tngri burxan-nïng ädgü-lär
90 15 -i-ning uluγ-ïn tuγurdγalïr üčün ärür kerdgünčüg tep 問 basa uqïdmaq

今この論においては全くこの過失が無いのである。それ故、頌に説いたものが有る：この論は繁文を離れることによって無過失である。その言やその所持する義は多大であるので、その理を明白にするものである。自らの智によって爲したのである。決して他のものらの文にある義を置いたのではない。猶、乳から酥の生じたごとし、と。『界を分別する品、第一の一』(分別界品第一)。

第一頌を説く：『だれか一切種による一切所知の法において、冥を滅したものが、衆生を生死の泥から抜いて出したなら、このごとき如理師へ敬禮して、阿毘達磨倶舎論を我れ當に説くべしと。論に曰く。今、論を造ることを欲ったとき、自師の其の體の尊高なることにおいて、諸々の聖衆を超えたことを顯わす故に』(諸一切種諸冥滅抜衆生出生死泥。　敬禮如是如理師　對法藏論我當説。　論曰。今欲造論爲顯自師其體尊高超諸聖衆故) と。

釋して曰く、問者説く：ここで「自師」を立てることにまさに何の意趣が有るのか？と。答、論主説く：もし、佛の體の尊高であることにおいて、他の聖を超えることを顯わさなかったなら、衆生の敬重心を佛と論とに起こさせ、それらの尊高であることを如何に知らしめることができたであろうか？と。問：如何にして佛と論とに敬重を起こすのか？と。答、論主説く：まさに「自利利他」と云う二種の利徳が圓滿の故。二種の利徳を説くのは、佛徳の大なることを顯わすためである。佛徳の大なることを顯わすのは、信を起こさせるためである、と。

63　qadïn ← qat「層」-ïn(instr.)，意味は「重複して」のほか「層」を表す。 užik は普通は「文字」を表すが、ここでは「文」とした：cf. 2229, 2392.「文」は sav や girant, vyančan によっても表される。68　「又」以下の訂正は、užik-indäki yörügüg「文にある義を」を užik-lär-in yörüg-lär-in「文を、義を」に直したものである。69　gartaman < Skt. ghṛta-maṇḍa「溶解せる酥油の浮きかす」= yuγrut「酥」。71~72　šlok(< Skt. śloka)を「又」以下で karik(< Skt. kārikā)に置き換えている。後者はこのテキストでは『倶舎論』本論記載の頌に用いられていると云える。ここでは前者に「頌」後者に「本頌」をあてたい。文中漢文「諸一切種諸冥滅」は、玄奘譯『倶舎論』の第一番目の頌と同じものを掲げている。ウイグル語では「一切所知の法」(alqu bilgülük nom-lar) が加えられている。kim alqu türlüg-lär üz-ä alqu bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš qarangγu qararïγ-lïγ-ïn を直譯すれば「だれか一切種による一切所知の法において冥を滅した」となる。ウイグル文の内容は眞諦譯『阿毘達磨倶舎釋論』の「一切種智滅諸冥」に近いといえる：cf. 大正 Vol.29, p.161c. kim は「だれか」を表すがここでは「諸」に對應している。73　sansar < Skt. saṃsāra「生死」。74　činkertü töz-lüg baxšï「眞實の性もてる師」=「如理師」。75　mn inčip söz-läyin「我れ當に説くべし」を「又」以下では mn ken nomlayu üčün「我れ當に説くため」と改めている。77　uqïdγalïr の-γalïr (/-gälir) は üčün と結合して「目的」「理由」をあらわす。78　ärtmiš は"rtmys と綴られている。79　čodake < Skt. codaka「質問者、弟子」。80　abipiray < Skt. abhiprāya「意、經意、意趣」。šasdirakare (/šastirakare/) < Skt. śāstrakāra「法主、論主」。82　訂正前；tuγurdup <adïn>.

91 4a-1 üz-ä šastr-nïng ädgü-lär-in nädägin šastr-ta tuγurur aγïr ayančang köngül
92 2 -üg tep 答 burxan adï ködrülmiš-ning bar üčün bilgä biliglig taryarmaq
93 3 iki türlüg ädgü-lär-i nädägin teptesär üküš kalp-lar-ta öngi üdrülmiš ärti
94 4 äzüg sav-nïng tïldaγ-ïnda ulatï niz-vanï-lïγ mün qadaγ-lar-tïn 所説
95 5 言者 qayu söz-lämiš sav-lïγ yrlïγ-ïnda kiši-lär barča tuγurur-lar
96 6 kerdgünčüg. nädägin teptesär. ol tngri burxan-nïng sav-ï äzügsüz
97 7 igitsiz adïrtsïz öngi-siz čïnkertü üčün. anïn umïš ärti tardïp
98 8 tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündürgäli sansar-lïγ kök tidig-tin nä ymä
99 9 tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündürmäki ärsär sansar-lïγ kök tid
100 10 -ig-tin tngri burxan nom nomlamïš ödlämiš äriglämiš üčün ärür. uγrayu
101 11 adï ködrülmiš-ning qayu yrlïqamïš sav-lïγ yarlïγ-ï üz-ä yaradmïš
102 12 üčün bu šasdr-ïγ 由此論於 munung uγur-ïnda šastr-ta tuγurur-lar
103 13 aγïr ayančang-ïγ. birök adï ködrülmiš-ning yrlïqamïš-ï čïnkertü
104 14 ärmäz ärip sav-ï-nïng boldï ärsär ägsüki kärgäk-i. qayu yrlïqamïš-ï
105 15 -nïng tïldaγ-ïnda yoq ärti ärsär asïγ-ï tusu-sï. munung uγur-ïnda
106 4b-1 munda tuγurmaγay ärti aγïr ayančang-ïγ. amtï bu šasdr 依附仏語
107 2 yaqïn tayanmaq üz-ä tngri burxan-nïng yrlïγ-ïnga qayu yrlïqamïš öz
108 3 -kä asïγ qïlmaq adïn-qa asïγ qïlmaq-lïγ iš-lär-i tngri burxan-nïng
109 4 yrlïqamïš yörügi birlä täng tüz bir täk ärür. tïldaγ-ïnda ulatï
110 5 -lar ikigü ök birlä bir täk üčün. munda birök söz-lämämiš ärsär aγïr
111 6 ayančang bolmaq-lïγ yörüg-nüng büdmäkin 又 büdügin ymä/ter nädägin bolγay
112 7 ärti bilgäli tngri burxan-nïng yrlïγ-ï-nïng čïnkertü adïrt-sïz ärdük
113 8 -in tep tesär anïn äzüg sav-nïng tïldaγ-ï bolur anda tört tür
114 9 -lüg. azu-ča ymä az tïldaγ-ïnda azu-ča ymä övkä tïldaγ-ïnda
115 10 azu-ča ymä qorqïnč aγïnč tïldaγ-ïnda azu-ča ymä bilmämäk tïl
116 11 -taγ-ïnda nädägin tep tesär tngri burxan tükäl-lig üčün bu bilgä
117 12 biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-kä ödrü umïš ärti ïraq
118 13 öngi üdrülgäli mundaγ osuγ-luγ tört türlüg mün qadaγ-lar-tïn
119 14 tep 問 šasdr-ta aγïr ayančang köngül-üg tuγurmaq-nïng bar qayu asïγ
120 15 -ï tusu-sï tep 答. 若能於論 kim-lär usar šasdr-ta tuγuryalï

問：次に、論の徳を顯わすことによって、如何にして論に敬重心を起こすのか？と。答：佛世尊には智と斷との二種の徳が有る故。如何にしてかと云えば、多劫において虚誑語の因等の煩惱の過失を離れた（ため）である。所説の言教において、人々はすべて信を起こす。如何にしてかと云えば、佛の言は虚僞のない、異なりのない眞實の故に。それで衆生を生死の泥から抜いて出すことができたのである。ともあれ衆生を生死の泥から抜き出すのは、佛が説法し教誡したためである。まさに世尊の説かれた言教によってこの論を造つた故、これに由って（かれらは）論に敬重を起こす。もし世尊の説かれたものが眞實でなく、その言に缺略があったなら、説かれたことに因って利益が無かったなら、それに由ってここでは敬重を起こさなかったであろう。今、この論が佛の言教に依附することによって、所説の自利利他の作用は佛の説かれた義と等しく同一となる。因等が兩者ともに同一の故に。ここで、もし敬重となる義の成ずることを説かなかったなら、如何にして佛の言教が眞實に異なりの無いことを知りえたであろうかと云えば、そこには虚誑語の因が四種ある：或は貪の因において、或は瞋の因において、或は怖畏の因において、或は無知の因において。如何にしてかと云うなら、佛はこの智と斷の二種徳が圓滿の故、そこでこのような四種の過失を遠離することができたのである、と。問：論に敬重心を起こすことに何の利益が有るのか、と。

---

91 ayančang は"y'nčnk と綴られている。102 訂正文：munung uγur-ïnda šastr-ta (köngül-lär-indä) tuγurur- lar aγïr ayančang-ïγ「これに由って論に、(彼らの心からの)敬重を起こす」107 yaqïn tayanmaq「近くに依ること」に對しては、ウイグル文中漢文の「依附」を譯語に與えた。111 動詞不定形に 3 人稱單數對格をつけた büt-mäk-in が名詞語幹＋ 3 人稱單數對格 bütüg-in に訂正されている。ここでは訂正形式を採用した。

121 5a-1 ayïr ayančang köngül-üg ödrü uyur-lar öridgäli tuγuryalï äšidmäk
122 2 -tä ulatï üč türlüg bilgä bilig-lärig. tudtačï söz-lädäči bïšru
123 3 -nu yorïdačï bolur-lar. kim-lär tudtačï söz-lädäčï bïšrunu yorïdačï bolsar-lar
124 4 ödrü uyur(-lar) öz-in ök ärdgäli sansar-tïn kengürü asïγ qïlγalï
125 5 tïnlγ-lar-qa tep 問 birök söz-läsär bu yörügüg öz-in ök tuγz-un
126 6 ayïr ayančang-lïγ bolmaq nä kärgäk ikiläyü ögüp tngri burxan-nïng ädgü
127 7 -lär-i-ning yeg ayaγuluq ärdükin tep 答爲有一類 bar birär
128 8 uγuš-luγ tïnlγ-lar ülgüläp nom-ladačï kiši-ning. ädgü-si-ning ediz
129 9 -in. adï-nïng uluγ-ïn anïng qayu nomlamïš-ïnda ödrü tuγurdačï
130 10 ayïr ayančang kertgünč-üg bu birär uγuš-luγ-lar üčün
131 11 kärgäk angayu ögmäk tngri burxan-nïng ädgü-lär-in yänä bar birär
132 12 uγuš-luγ-lar isdäyü ol yörüg töz-in äšidip tngri burxan-nïng
133 13 üz-äliksiz bilgä biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-in tngri
134 14 burxan-nïng qayu yrlïqamïš-ï-nïng yinčgäläyü bilip äzügin čïn-ïn temin
135 15 ök tuγurdačï ayančang kerdgünč-üg 諸能説人 alqu nomladačï kiši
136 5b-1 -lär sav töz-lüg ärür. isdäyü tükätdüktä bular-nïng sav-ïn bilgäli
137 2 bolur qayu söz-lämiš-i-ning ädgü-sin anï üčün tngri burxan-nïng
138 3 iki türlüg ädgü-lär-indä ulatï qayu yrlïqamïš šasdr-ta tuγur
139 4 -ur-lar adïrtlïγ odγuraq kerdgünč-üg. munï üz-ä anïn kärgäk angayu
140 5 ögmäk tngri burxan-nïng ädgü-lär-in tep munda tngri burxan-ïγ ögmäk
141 6 -ning abipiray-ï üz-ä uqïdγalïr üčün ärür tngri burxan-nïng
142 7 ädgü-lär-i-ning yeg ayaγuluq ärdükin anïn šasdr-ta söz-lämiš
143 8 ol uqïdγalïr üčün öz baxšï-sï-nïng anïng ät'öz-i-ning
144 9 yeg ayaγuluq ärtüki (üz-ä) ärdmiš ašmïš-ïn alqu tüz-ün-lär quvraγ
145 10 -ïnda anïn ašnu-ča ögüp ädgü-lär-in basa temin ayayu ayïr
146 11 -layu yükünmiš-in uqïdur tep 問 nä üčün äsdiramati baxšï
147 12 šasdr-nïng abipiray-ïn-ta taš iki-läyü söz-lädi. tngri burxan
148 13 -ïγ ögmäk ärür ikigü-tä ayïr ayančang köngül-üg tuγurmaq-nïng
149 14 tïldaγ-ï tep 答理實如是 yörüg töz-indäki-čä ärsär čïn
150 15 -kertü andaγ oq ol :: munda uqïdmaq-ï ärsär yeg ayaγuluq

答：もし論に敬重心を起こすことができるなら、則ち聞等の三種の慧（聞慧・思慧・修慧）を生起することができる。（すなわち）攝するもの、説くもの、修行するものが成ずる。もし攝するもの、説くもの、修行するものが成ずるなら、則ち、自ら生死を越えて廣く衆生へ利を爲すことができる、と。問：もしこの義を説くなら、敬重となるものは自ずと生まれるべし。何の必要で、佛の徳の尊高であることを更に讃ずるのか、と。答：一類の衆生有り、能説人の徳の高さと名の大きさを量って、その所説に則ち敬重な信を起こすものである。この一類のものらのために佛の徳を別に讃ずる必要がある。又一類有り、その理を尋ね、佛の無上の智と斷の二種徳を聞き、佛の所説の虚實を伺い知つて、方に敬重な信を起こすものである。諸々の能説人は言の性もてるものである。これらの言を尋ね終えたとき、所説の徳を知り得る。それ故、佛の二種徳及び所説の論において決定して信を起こさせる。これを以てそれ故に別に佛の徳を讃ずる必要がある、と。ここで佛を讃ずることの意趣としては、佛徳の尊高であることを顯わすためである。それ故、論に曰く：「自師の其の體の尊高であることによって、諸々の聖衆を超えることを顯わす故に、先ず徳を讃じて、次に方に敬禮を申す」（爲顯自師其體尊高超諸聖衆故。先讃徳方申敬禮。）と。問：何故、安慧師は論の意趣のほかに、更に佛を讃ずることが兩方に敬重心を起こすことの因であると説いたのか、と。答：理實としては、眞實その通りである。

---

121 ayančang は"y'nčnk と綴られている。124 qïlγalï は qylqly と綴られている。127 ärdükin は"rdwkyn と綴られている。birär「一類づつ」はウイグル文中漢文の「一類」に對應する。129~130 tuγurdačï aγïr ayančang kertgünč-üg bu birär は訂正されている。訂正前：tuγurdačï ayïr ayančang <-ïγ>kertgünč-üg <tuγurdačï>bu birär「敬重を起こすもの、信を起こすもの。この一類」。136 sav töz-lüg「言の性」と譯した。1757 ではウイグル文中漢文に從って「語の體」と譯した。144 轉寫テキストの丸括弧に括った(üz-ä)「によって」は傍注を示す。和譯ではこれを採用した。149 yörüg töz-i に「理實」を與えたが、その譯語はウイグル文中の漢字漢語による。 Cf. yörüg töz-inčä saqïnmïš kärgäk 「如理應思」(B2284)。

151 6a-1 bolmaq-ïn bu oq inčip ärür. tngri burxan-ta šasdr-ta aγïr
152 2 ayančang köngül-üg tuγurmaq-nïng tïldaγ-ï. birök andaγ ärmäsär
153 3 šasdr-nïng bašïnda iš-i nägü ärti uqïdïp tngri burxan-nïng
154 4 yeg ayaγuluq ärdükin. birök yaradmamïš ärsär šasdr-ïγ näčük
155 5 ol bililmäz mü ärti tängri burxan-nïng ädgü-lär-i-ning yeg ayaγu
156 6 -luq ärdüki 餘時讚偈 adïn ödtä ögmiš ärsär tngri
157 7 burxan-ïγ näčük'ol bolmaγay mu ärti. anïn bilmiš kärgäk amtï uγra
158 8 -mïš üčün šasdr yaradγalï anïn ögmiš ärür. tngri burxan-nïng
159 9 ädgü-lär-in birök söz-lämädin ikigü-tä aγïr ayančang bolmaq-lïγ yör
160 10 -ügüg. yindäm ögmiš ärsär tngri burxan-ïγ. yaradmïš šasdr-nïng
161 11 abipiray-ï birlä bolγay ärti qayu alïš-ï beriš-i bu tïldaγ-ïn 又 anïn ymä/ter
162 12 öngdün söz-lägüči sav uz bolur. kim-lär tngri burxan-nïng bilsär-lär
163 13 yeg ayaγuluq ärdükin. ödrü uyur-lar šasdr-ta tuγurγalï aγïr ayančang
164 14 köngül-üg 若見論中 kim-lär körsär-lär šasdr-taqï yörüg töz-i-ning yeg
165 15 adruq-ïn ödrü adïrtlïγ odγuraq bilip tngri burxan-nïng ädgü-lär-i-ning
166 6b-1 yeg ayaγuluq ärdükin uyur-lar tuγurγalï aγïr ayančang-ïγ tep. birök
167 2 mundaγ yörsär tngri burxan-ïγ ulatï šasdr-ïγ ögmäk-ning yörügi birlä
168 3 ödrü birlä yaradïlur. azu-ča ymä šasdr-ta uqïdmaq-ï ärsär yeg
169 4 ayaγuluq tïldaγ-ïγ. yügärü-ki tïldaγ-ïγ tuda söz-lämiš ärür. aγïr
170 5 ayančang bolmaq-ïγ söz-lämämäki ymä nägü ärki tep tesär. qaltï bu aγïr ayan
171 6 -čang köngül ken üdlüm üdlüm tuγar üčün birök kenki tïldaγ-ïγ tuda
172 7 söz-läsär ulatï nirvan bulγïnča'qadägi bärü. ymä ök tägimlig ol tükäl
173 8 söz-lägäli :: angbašlayu uqïdmaq-ï. ärsär yeg ayaγuluq bolmaq-lïγ yügärü-ki
174 9 tïldaγ-ïγ yörüg yïγïnča bilmiš kärgäk. ikigü-tä aγïr ayančang bolmaq
175 10 -ïγ ulatï nirvan-qadägi kenki tïldaγ-ïγ ymä ök söz-läp ärdürü tükätmiš
176 11 bolur 或復論初讚 azu-ča yänä šasdr-nïng bašïnda tngri burxan-ïγ ög
177 12 -mäk-ning anïng tïldaγ-ï ymä nägü ärki teptesär. uγramïš üčün yaradmïš
178 13 šasdr-nïng taγaγalï kedärgäli adartmaq-ïn ädgü-lüg yïldïz-ï yïγïlmaduq
179 14 terilmädük-lär-ning. alqu buyan ädgü qïlïnč-ï azumïš-lar-nïng. qamaγ ayïγ
180 15 qïlïnč-ïγ qïldačï-lar-nïng. qayu bïšrunγu-luq ädgü-lüg iš-indä üküš

ここで尊高を顯わすことは、これ則ち佛と論に敬重心を起こすことの因である。もしそのようでないなら、論の初頭におけるその作用は（一體）何であつたのか？もし、（初頭に）佛の尊高であることを顯わして論を造らなかったなら、佛の徳の尊高であることがどうして了ぜられないのか？餘時において佛を讃ずるなら、どうして叶わないのだろうか？それ故に知らねばならない。今、まさに論を造ろうと欲した故に、佛の徳を讃じたのである。もし兩方に敬重の義を説かずに、唯だ佛のみを讃じるなら、造つた論の意趣は何の受授と倶となるであろうか？それに因て先に説くところの言は勝妙となる。もし佛の尊高であることを知るなら、即ち論に敬重心を起こすことができる。もし論にある理の殊勝を觀ずるなら、即ち決定して佛の徳が　尊高であることを知り、敬重を起こすことができる、と。もしこのように釋すなら、佛及び論を讃ずることの義と即ち相應する。或は、論において尊高の因を立てるのは、現前の因を約して説いたものである。敬重を説かないのは何故かと云うなら、謂わくこの敬重心は後に展轉と生まれるため、もし後の因を約して説くのなら、更に涅槃を得るまでずつと、應に完全に説かねばならない。最初に尊高の現前の因を立てるのは、義を適切に知らねばならない（ためである）。兩方において敬重となることを、及び涅槃までの後の因をも已に説いたのである。或は復た、論の初めに佛を讃ずることのその因は何かと云えば、造った論の障りを除くことを欲したためである。善根が積まれなかったものら、諸々の福徳業が減少したものら、一切惡業をなすものらの障礙は、所修の徳もてる事において多となる、その利益は少となる。

---

161 bu tïltaγ-ïn「それに因て」は anïn「それで」（それ故に）に訂正されている。169 tuda は tut-a「取って」を意味するが、この文獻では漢語の「約」（・・について、・・の立場からみると）にあたる場合が多い。ここでも「約して」と譯した：cf. 或約四无畏 azu-ča ymä tört türlüg qorqïnčsïzlarlïγ tuda söz-lämiš ärür（1537-1538）. 問：見是何義？ 答：約婆沙宗、眼名爲“見”。色是眼境、此見倶故、名爲“有見。約經部宗、眼識名“見”（北京藏漢文『實義疏』第三卷（蘇軍(1995) p.214）、下線は著者による）。170 ayïr ayančang bolmaq(-lïγ tïldaγ)-ïγ söz-lämämäki「敬重(の因)を説かないのは」のように訂正されている。178 adartmaq「障り」は tïdïγ と訂正されているが、意味はほとんど變わらない。

181 7a-1 bolur tïdïγ-ï adasï. az qy-a bolur asïγï tusu-sï 將爲小事
182 2 uγraduq-ta qïlγalï az qy-a išig küdüküg anïlayu oq büdürmäz-lär.
183 3 -lär anudmaz-lar. taqï nä ayïdmïš kärgäk uluγ iš küdük-lär-ig yalanguq-
lï
184 4 tngri-li-täki yeg adruq iš küdük-lär-ig ulatï nirvan-ïγ bulγay mu
185 5 büdürgäli anudγalï 又 tükädgäli ymä/ter bu tïldaγ-ïn šasdirakare vasubandu bax
186 6 -šï bilip tngri burxan-nïng. alqu-nung ädgü-lüg ädräm-lig üz-äliksiz
187 7 buyan-lïγ tarïγ-laγ-ï ärdükin öngi üdrülmiš-in alqu mün qadaγ-lar-tïn
188 8 uγrayu šasdr yaradγalï uγraduq-ta bu tïldaγ-ïn ögä küläyü ädgü-lär-in
189 9 ïnanmaq üz-ä ayïr ayaγ qïlmïš ärür. ögmäki-ning abipiray-ï ymä nägü
190 10 ol tep tesär. ašnu-ča ögüp tngri burxan-nïng ädgü-lär-in. basa temin
191 11 ayayu ayïrlayu yükünmiš-in uqïdur 欲令得殊勝果 küsämiš
192 12 üčün kim bulduryalï yeg adruq tüš-üg. ulatï nirvan-ïγ tudčï üz
193 13 -üksüz bulz-un-lar keng uluγ buyan-ïγ. bu buyan-lar-ïnga tayanmïš üčün
taryar
194 14 -zun-lar kedärzün-lär. alqu adardmaq-lar-ïγ yoqadturzun-lar ol ada tudaγ ::
195 15 yaradmïš šasdr-nïng üz-lünčü-sin bulz-un-lar :: bošyudčï tïdsï-lar äšitdük
196 7b-1 -tä tngri burxan-nïng yeg ayaγuluq ärdükin. tuγurzun-lar süz-ük kerdgünč
197 2 köngül-üg. turγurzun-lar ayïr ayančang köngül-üg. turγurmïš üčün kerdgünč
198 3 köngül-üg. bulz-un-lar yeg adruq buyan-ïγ öridzün-lär turγurzun-lar yeg
199 4 adruq bilgä biligig. turγurmïš üčün yeg adruq bilgä biligig. taryar
200 5 -zun-lar kedärzün-lär alqu adartmaq-lar-ïγ 發聞修思 tuγurzun-lar
201 6 äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq töz-lüg bilgä biligig. tuγurmazun-lar ärinmäk
202 7 ärmägürmäkig kälmädük öd alqïnγïnča-qadägi tutdačï söz-lädäči bïšrunu
203 8 yorïdačï-lar birdämläti üzülmäz-ün käsilmäzün tep :: bu tïldaγ-ïn šasdr
204 9 -nïng bašïnda ögä küläyü ädgü-lär-in ïnanmaq üz-ä ayïr ayaγ qïlmïš
205 10 ärür. azu-ča yänä ičdinki tašdïnqï alqu šasdr yaradtačï-lar-nïng. uqïd
206 11 -mïš yangï kibi ärsär. barča ïnanmaq üz-ä ayïr ayaγ qïlïp töz baxšï
207 12 -lar-ïnga anda-ta ken šasdr yaradur-lar ärti. alqu šasdr-čï-lar-ta qamaγ
208 13 -ta yegi vasubandu baxšï ärti. 善順仏語 uz eyin qïlïp tngri
209 14 burxan-nïng yrlïγ-ïnga yörmiš üčün alqu šasdr-lar-ïγ nom-lar-ïγ. amtï
210 15 ymä ök bu ögrädiginčä 又 yangča ymä/ter yaradmïš šasdr-ï-nïng bašïnda

まさに小事を爲そうとすれど、なお成就しない。更に何の大事を問う必要があろうか？人と天とにある殊勝果及び涅槃を成就し得るであろうか？と。これに因つて論主世親師は、佛が一切の中で徳もてる無上の福田であること、一切の過失を離れたものであることを知り、まさに論を造ることを欲したとき、これに因つてその徳を讃じ歸敬したのである。讃の意趣は何かと云えば：先ず佛の徳を讃じ次に方に敬禮を顯わす。殊勝果及び涅槃を得させることを欲する故に、間斷なく廣大な福を得るべし。この福へ依った故に、すべての障りを除くべし。その災難を拂拭すべし。造つた論の究極を得るべし。學徒らが佛の尊高であることを聞くとき、清淨なる信心を起こすべし。、敬重心を起こすべし。信心を起こした故に、殊勝の福を得るべし。殊勝の福を得た故に、殊勝の智を起こすべし。殊勝の智を起こした故に、一切の障りを除くべし。聞、思、修の本性もてる慧を起こすべし。怠惰を起こさざるべし。未來世が盡きるまで、攝するもの、説くもの、修行するものらは永く破られざるべし、と。これに因つて、論の初めに徳を讃じて歸敬したのである。或は、内なる外なる一切の造論者の立てた軌は、すべて本師へ歸敬し、それから後、論を造るのであつた。諸論師の中で最勝が世親師であった。善く佛の言教に順じ、諸々の論と法とを釋した故に。今またこの習い通りに、造った論の初めに佛へ歸敬したのである、と。

---

183 yalanguq < yalnguq. また uluγ iš küdük-lär-ig「大事を」は uluγ (bädük) iš küdük-lär-ig と訂正されている。意味に變わりはない。184 yeg adruq iš küdük-lär-ig「殊勝事を」は yeg adruq tüš-üg「殊勝果を」(＝「勝果を」)に訂正されている。和譯では訂正形式を採用した。185 「又」以下では büdürgäli anudγalï「成就し(得る)」を tükädgäli「全うし(得る)」に訂正している。189 ïnanmaq üz-ä aγïr ayaγ qï1mïš「信じることによって敬うとと」＝「歸敬」cf. 358. 198 bulz-un-lar yeg adruq buyan-ïγ「殊勝の福を得るべし」の後に bulmïš üčün yeg adruq buyan-ïγ「殊勝の福を得た故に」が傍注で插入されている。和譯ではこの插入句を採用した。206 yang kib は「軌」「圖」の漢語に對應する：yangluqïnča turγurmïš üčün öngisin yang-ïγ kib-ig 「妄起圖故」(圖 1995)、azuča ymä bu ärür üčün šasdrnïng yang-ï kib-i 「或此是論之軌」(軌 3058) . töz baxšï「本師」、ここでは「釋迦牟尼佛」を指す。210 「又」以下は ögrädigінčä「習いどおりに」を yangča「型どおりに」に訂正している。

211 8a-1 ïnanmaq üz-ä ayïr ayaγ qïlmïš ärür tngri burxan-qa tep 問 bar
212 2 qayu tïldaγ basutčï. alqu šasdr yaradtačï baxšï-lar ašnu-ča ayïr
213 3 ayaγ qïlïp töz baxšï-lar-ïnga anda-ta ken. šasdr yaradγuluq tep. 答
214 4 ad-lïγ manggal-lïγ yörüg-lär-kä bolmïš üčün qayu šasdr-nïng baš-ïnda
215 5 bar ärsär atlγ manggal-lïγ sav-lar. bu šasdr ödrü bolur kiši-lär-kä ayaγu
216 6 -luq ayïr-laγuluq taqï nä ayïdmïš kärgäk alqu ad manggal-lar-nïng
217 7 arasïnda tngri burxan bolmïš ärti qamaγ-ta yeg. munung uγur-ïnda
218 8 ögä küläyü tngri burxan-nïng ädgü-lär-in söz-lämiš üčün bolur qamaγ
219 9 -ta yeg ad manggal tep. anïn šasdr-nïng bašïnda ašnu-ča uqïd
220 10 -mïš ärür tngri burxan-ïγ ögmiš-in tep 有餘师説 bar adïn baxšï
221 11 -lar söz-lär. vasubandu-nung ögmäki ärsär tngri burxan-nïng
ädgü-lär-i-ning
222 12 yeg ayaγuluq ärdükin. küsämiš üčün ärür uqïdγalï ičdin sïngar
223 13 köngül-indä bar qïlmïš-ïn süz-ük kerdgünč-üg. ymä ök küsämiš üčün ärür
224 14 kim adïn-lar-nïng tngri burxan-ta tuγurdγalï ayïr ayančang köngül-lär-in
225 15 tep 疏主 äsdiramati baxšï soz-lär. bu yörüg andaγ ärmäz. qayu tïl
226 8b-1 -taγ-ïn teptesär. birök uqïdγalïr üčün ičdin sïngar köngül-indä tuγur
227 2 -mïš-ïn süz-ük kerdgünč köngül-üg tep tesär. yaradmïš šasdr-nïng abipiray-ï
228 3 birlä büdün alïš-sïz beriš-siz bolur 亦欲令他 ymä ök küsämiš
229 4 üčün kim adïn-lar-nïng tuγurd-γalï ayïr ayančang köngül-lär-in tep tesär
230 5 yörügi ymä ök tapladïlmaz. alqu taš azaq nomluγ-ta ulatï-lar näčä äšid
231 6 -sär-lär ymä tngri burxan-ïγ ögmiš-in näčükin inčip tuγuryay-lar kerdgünč
232 7 -üg. iišläšip äšitdüktä täring nomuγ temin ök tuγurur-lar kerdgünmäk
233 8 ayanmaq-ïγ. yaraši saqïnmïš-ïngïz-lar kärgäk tep. yänä adïn baxšï-lar
234 9 söz-läsär siz-lär. birök yaradmïš šasdr-nïng bašïnda ögmämiš ärsär tngri
235 10 burxan-ïγ uγrayu söz-lägülük bolur ärti tegü täg :: vasubandu baxšï käntü öz
236 11 -i yaradmïš ol bu šasdr-ïγ tayanmamïš ol tngri burxan-nïng yrlïγ-ïnga tep
237 12 有此疑生 bar bolmaq üz-ä bu sezik-ning tuγmaqï ödrü söz-lägülük
238 13 bolur ärti vasubandu baxšï adïn niz-vanï-lar-ïγ alqmaduq ärür. qayu söz
239 14 -lämiš nomluγ ödi ärigi yeg adruq bolmaduq ärür tep. ödrü turγuryay-lar
240 15 ärti yeniklämäk učuz-lamaq-ïγ. bu tïldaγ-ïn šasdr-nïng bašïnda ašnu

問：何の因縁があって、造論の諸師は先ず本師へ歸敬し、それから後に論が造られるのか？と。答：吉慶もてる義に對して爲す故に。如何なる論の初頭にも、吉慶もてる言があるなら、その論は即ち人に尊敬されるものとなる。更に何を問う必要があろうか？諸の吉慶の中では佛が最勝であった。これに由り、佛の徳を讃じて最勝の吉慶であると説く故に、論の初頭に先ず佛を讃じたものを立てたのである、と。有餘師が説く：世親師が佛徳の尊高であることを讃ずるのは、内なる心において清淨の信を有することを顯わそうと欲したためである。また餘のものらに、佛に敬重心を起こさせることを欲したためである、と。安慧師が説く：この義はその通りではない。何に因ってかと云えば、もし内なる心において清淨の信心を起こしたのを顯わすためにと云えば、造った論の意趣と全く不授受となる。また餘のものらに敬重心を起こさせることを欲するためにと云えば、その義もまた許されない。諸の外邪法もてるもの等は、如何に佛を讃じたものを聞いても、どうしてこのような信を起こすであろうか？深い法を要して聞くときに方に信仰を起こすのである。汝ら適切に考えねばならない、と。また餘師ら、汝らが「もし造つた論の初頭に佛を讃じなければ、まさに世親師自らがこの論を造り、佛の言教には依らなかったと説くところのものと言うがごとし」と云うなら、この疑の發生を有することを以て、即ち「世親師は餘の煩惱を壞盡せず、その所説の法もてる教誡も殊勝とはならない」と説くところとなるのであった。即ち輕侮を起こしたであろう。これに因って論の初頭に先ず佛の徳を讃じたのである。

---

221 vasubandu-nung「世親の」は vasubandu <baxšï-nïng>「世親師の」に訂正されている。和譯では訂正形式を採用した。232~233 kerdgünmäk ayanmaq は kerdgünč ayanmaq に訂正されている。意味に變わりはない。iišläš-の構成は iiš (~iš)「伴侶」-lä (den.verb) -š (reciprocal) と考えたい。この單語は「要する」を表す：ašnu bolmaq üzä kkiri ken iišläš-miš ärür anïng arïγïn「先有染後要其淨」(2632)、ol iišläš-ip köngülkä tayaqlïγïn uyur üčün yorïγalï adqanγularta「彼要依心能行境故」(B180)、birök bu nomnung tuγmaqï qošuγluγ sanlïγ ärsär ol nom-qa išläš-ip anïng basa-sïnta bu temin bolur tuγγalï「若此法生繫屬彼法要彼無間此乃得生」(H26 R17)。235 söz-lägülük bolur ärti「説くところのものとなった」は söz-lägülük ärti「説くところのものであった」と訂正されている。240 yenik「輕い」-lä (den. verb)「輕んじる」。yeniklä-mäk učuzla-maq「輕侮」。

241 9a-1 -ča ögmiš ärür. tngri burxan-nïng ädgü-lär-in. küsämiš üčün uqïdγalï
242 2 vasubandu baxšï-nïng abidarim šasdr-qa tayaq-lïγ-ïn yörmiš-in. kim
243 3 tngri burxan-nïng yrlïγ-ïn. käntü öz-i yaradmïš ärmäz-in tep. bu ymä ök
244 4 andaγ ärmäz. munda abipiray-ï ärsär ärür aqïγ-sïz bilgä bilig. aqïγ-sïz
245 5 bilgä bilig ärsär ärür tngri burxan yrlïqamïš. kim abidarim-qa tayaq
246 6 -lïγ-ïn inčip yaradmïš üčün bu šasdr-ïγ anïn basa šlok-ta söz-lämiš
247 7 ol 攝彼勝義依彼故 tudulur-lar üčün andaq-ï yeg yörüg
248 8 -lär angar ymä tayaq-lïγ üčün. munï uqïdmïš ol abidarmakoš tep ad
249 9 üz-ä tep :: bu šlok-nung abipirayï yangïnča bäkiz bälgülüg bilgäli
250 10 bolur. vasubandu baxšï-nïng barča tayanmïš-ïn tngri burxan-nïng yrlïγ
251 11 -ïnga käntü öz-i-ning yaradmïš ärmäz-in. nädägin söz-läyür siz-lär ög
252 12 -mäki ärsär tngri burxan-ïγ. uqïdγalïr üčün ärür munï tep. anïn
253 13 bilmiš kärgäk ögä küläyü ädgü-lär-in ïnanmaq üz-ä aγïr ayaγ qïl
254 14 -mïš ärür. töz baxšï-sïnga. yaradmïš šasdr-nïng üz-lünčü-sin bul
255 15 -zun-lar. uγrayu kim bošγudčï tïdsï-lar. öridzün-lär tuγurzun-lar
256 9b-1 yeg adruq bilgä biligig. inčip bulzun-lar ozmaq qudrulmaq-ïγ tep
257 2 問何內造論 qayu tïldaγ-ïn šasdr yaratdï tep 答 iki türlüg
258 3 asïγ-qa bolmïš üčün ärür. qayu ol iki türlüg asïγ-lar teptesär.
259 4 qaltï közünür ödki asïγ. ulatï kälmädük ödki asïγ ärür. qayu
260 5 ol közünür ödki asïγ teptesär. kim-lär usar bilgäli nom-nung öz
261 6 töz-in qamaγ-lïγ töz-in. bolur közünür ödki asïγ. qayu ol kälmäd
262 7 -ük ödki asïγ teptesär :: kim bulsar yalanguq-lï tngri-lig ulatï
263 8 alqu tüz-ün tüšüg. ulatï nirvan-ïγ adï bolur kälmädük ödki
264 9 asïγ tep nädägin bolur bilgäli bu šasdr uγur-ïnda anïn bululur-ïn
265 10 iki türlüg asïγ-lar-nïng teptesär. közünür ödki asïγ ärsär anïng
266 11 töz-i učuz bilgülük ärür. kälmädük ödki asïγ ärsär 己趣生業
267 12 käntü öz-lär-i-ning tuγum-ïnga eltdäči <qïlïnč-ïnga> niz-vanï üklid
268 13 -täči basudčï bolur 又 iš basudčï bolur ymä/ter qayu-ta üklitdäči basudčï bolur
269 14 tep tesär iki öd-lär-tä basudčï bolur. qaltï tuγum qošulmaq ärkänki
270 15 ödtä ulatï tuγum qošulu turur ärkänki ödtä nädägin bolur {bilgäli} nizvanï

世親師が『阿毘達磨論』(Abhidharma-śāstra) に依って佛の教えを釋したことと、彼自身が（それを）造ったものでないこととを顯わそうと欲した故（である）と。これもその通りではない。ここにおけるその意趣は無漏慧である。無漏慧は佛の説かれたものである。『阿毘達磨』に依って而してこの論を造った故にそれで頌に説いたのである：「彼にある勝義が攝せられる故、彼へ依る故、此を阿毘達磨倶舎と云う名によって立てた」(攝彼勝義依彼故　此立對法倶舎名) と。この頌の意趣に順じて、世親師が佛の教えに須く依ったことと彼自身が造ったものでないこととを明らかに了じ得る。如何にして「佛を讃ずることがこれを顯わすためである」と汝らは説くのか？それ故に知らねばならない：「徳を讃じて、本師へ歸敬したのである。造つた論の究極を得るべし。まさに學徒は殊勝の智慧を起こすべし。當に解脱を得るべし」と。問：何の因で論を造ったのか？と。答：二種の利に對して爲すものの故である。何が二種の利かと云えば、謂わく「現在世の利」及び「未來世の利」である。「現在世の利」は何かと云えば、もし法の自相と共相を能く知るなら、「現在世の利」である。「未來世の利」は何かと云えば、もし人と天と及び一切の聖果を、更に涅槃を得るなら、その名は「未來世の利」となる。如何にしてこの論に由つて、二種利の得られることを知り得るのかと云えば、「現在世の利」ならその相は容易に知るところである。「未來世の利」は、自身らの生へ趣くところの、(そして) 業への煩惱が増大するところの緣となる。何において、増大する緣となるのかと云えば、二時において緣となる。謂わく、「結生時」及び「結生して住する時」(である)。

243　burxan-nïng　yrlïγ-ïn は burxan-nïng　yrlïγ-ïnga の誤り。246　šlok は karik に訂正されている：cf. 71 note. 247~249　tudulur-lar から üz-ä tep までは『倶舎論』の「攝彼勝義依彼故　此立對法倶舎名」を引用した部分である。同じ引用は 1929-1930 にも現れるが、ウイグル語譯は字句に至るまで全く同じである。šlok はここでも karik に訂正されている。256　inčip bulzun-lar ozmaq qudrulmaq-ïγ tep「當に解脱を得るべしと」に對しては欄外に追加文が書かれ、次のように修正されている：inčip　bulzun-lar　ozmaq qudrulmaq-ïγ (näng adïn-larïγ ärmäz tep) ::「當に解脱を得るべし、決して餘のものをではないと」。257 文中漢文の「内」は「因」の誤り。すなわち「何因造論」となる。262　yalanguq < yalnguq「人間」。267~268 <qïlïnč-ïnga> niz-vanï üklid-täči basudčï bolur「業への煩惱が増大するところの緣となる」における qïlïnč-ïnga「業へ」は傍注の訂正形式である。訂正前は basudčï-sïnga 「緣へ」となっていた。訂正形式の採用は 266 行目の「已趣生業」を參考にした。「又」以下の訂正部分は basudčï「緣」を iš basudčï「作用、緣」に訂正したものである。269　tuγum　qošulmaq「生が結ばれること」＝「結生」(Skt. pratisaṃdhi). 270　bolur と nizvanï の間に {bilgäli} 「知る」が缺落していると判斷し、補った。

271 10a-1 -lar-nïng qïlïnč-qa basudčï bolur-ïn teptesär. qaltï niz-vanï tar
272 2 -ɣaru tükädmiš-lär-ning näčä bolsar ymä adïn qïlïnč-lar-ï niz-vanï
273 3 -sïz ärdüki üz-ä yänä tuɣum täginmäz-lär. qaltï nomuɣ adïrtlamaq-ta
274 4 öngi niz-vanï-lar-ïɣ. yoq uɣur-ï yïq-ï taryaryuluq. nom adïrtlamaq
275 5 ymä qayu ol teptesär. qaltï aqïɣ-sïz bilgä bilig ärür nädäg
276 6 -in bolur bilgälï bilgä bilig-ning niz-vanï taryardačï-sïn teptesär
277 7 以諸煩惱 alqu niz-vanï-lar biligsiz-tin tuɣar. biligsiz-kä
278 8 yöründäk boldačï ärsär. qaltï yindäm bilgä bilig ök ärür. bilig
279 9 -siz-ig birök taryarsar. qamaɣ niz-vanï-lar alqu uɣurïn
280 10 tarïqur. nädägin bilgäli bolur bilgä bilig-ning inčip yöründäk bol
281 11 -tačï-sïn niz-vanï-lar-qa teptesär. bilgä bilig biligsiz birlä
282 12 töz-lär-i bir ikinti-kä qaršï üčün inčä qaltï yaruq-lï qarangyu
283 13 -lï birgärü bolmamïš-ï täg üčün nom adïrtlamaq birök tuɣsar
284 14 qamaɣ niz-vanï-lar tarïqur. qamaɣ niz-vanï-lar birök tarïqsar qïlïnč
285 15 bolmaq tuɣmaz. qïlïnč birök tuɣmasar. ämgäk-lig tüš-üg tardmaz
286 10b-1 ämgäk-lig tüš-nüng alqïnu tükädmäki ärsär. bu oq inčip ärür
287 2 nirvan tep 問 iyanaparasdan vaybaš-ta ulatï šasdr-lar-taqï šasdr
288 3 yaradyuluq tïldaɣ-ï. barča ymä andaɣ oq ärür. vasubandu baxšï
289 4 -nïng. ikiläyü yoq ärti yangï tïldaɣ-ï. nä kärgäk ärti angayu yara
290 5 -dïp bu šasdr-ïɣ tep 答此等諸論 munda-ta ulatï alqu
291 6 šasdr-lar azu-ča ymä arduqraq keng. arduqraq qavïr-a bolmaq üz-ä.
292 7 užik-lär-i yörüg-lär-i yangšaq qadčïɣ. barča mün-lüg qadaɣ-lïɣ
293 8 ärti. ayaɣ-qa tägimlig vasubandu baxšï sezinmiš üčün kenki
294 9 yavïz ödtäki. kenki bošyudčï tïdsï-lar üküš adqaɣ-lïɣ üküš sïmaq
295 10 -lïɣ bolmaq üz-ä qodïqaryay-lar yangšaq-ïnga keng-ingä qorqyay-lar
296 11 anïng užik-lär-i-ning yörüg-lär-i-ning. kizläg-lig badut-luɣ-ïnga
297 12 engäy-lär bölük-lär-i-ning padak-lar-ï-nïng qadïlïšmïš bulyal-ïšmïš
298 13 -lar-ïnga tep 論主愍斯 vasubandu baxšï erinčkämiš üčün bular-nï
299 14 bu tïldaɣ-ïn ikiläyü yaradmïš ärür bu šasdr-ïɣ. bu šasdr öngi
300 15 üdrülmiš üčün öngdün-ki mundaɣ osuɣ-luɣ mün qadaɣ-lar-tïn tep

如何にして煩惱が業への緣となることを（知り）得るのかと云えば、謂わく煩惱を已に斷ったものらは、どれほど餘の業があれども無煩惱であることによって、復た生を受けない。謂わく擇法よりほかに煩惱を斷つ容きことは無い。擇法は何かと云えば、謂わく無漏慧である。如何にして智慧が煩惱を斷つことを知り得るのかと云えば、諸煩惱は無知から生まれる。無知への對治となるものは、謂わく唯だ智慧のみである。もし無知を斷つなら、衆煩惱は全ての場合に滅する。智慧が即ち煩惱への對治となることを如何にして知り得るのかと云えば、智慧と無知とはその性が互いに違となる故（である）。猶、明と闇とが俱とならなかったごとき故（である）。もし擇法が生ずるなら衆煩惱は滅する。もし衆煩惱が滅するなら業が成ずることは生じない。もし業が生じないなら苦果を引かない。苦果の盡き了わること、これが即ち涅槃である、と。問：『發智』（Jñāna-prasthāna）、『毘婆沙』（Vaibhāṣya）等の論にある造論の因はすべてそのようである。世親師のものに更に新しい因は無いのである。何の必要で別にこの論を造ったのか？と。答：これ等の諸論は或は極めて詳しく、（或は）極めて簡略であることにおいて、その文や義は冗長であり、悉く過失を有していた。尊者世親師は、後の惡時に在る後の學徒が、多くの對象や多くの混亂もてるものとなることで、彼らが、冗長へと低下するであろう、その文や義の中に隱密を有することに畏れるであろう、品や句の混同へ墮ちるであろう、と疑った故に、世親師はこれらを愍れんだ故に、これに因って更にこの論を造ったのである。この論は先にあるこのような過失を離れる故、と。

---

272 adïn qïlïnč-lar-ï「餘の業が」は傍注で qïlmïš qïlïnč-lar-ï「爲した業が」に訂正されている。274 yoq uɣur-ï yïq-ï tarɣaɣuluq 「斷つ容きことは無い」。 uɣur-ï yïq-ï...-ɣuluq (gülük)「・・す容きこと」。これについては 1.4.4.1.2.1 を參照。287 iyanaparasdan (/iyanaparastan/) < Skt. jñāna-prasthāna「發智論」cf. inyanaparastan (1573). 296 kizläklig badut-luɣ「隱密」cf. 1592. 297 padak < Skt. pādaka「句」。300 qadaɣ は qd'q と綴られている。

301 11a-1 問 amdï söz-lädi ärti šasdr yaradayïn tep ol šasdr tegüči sav
302 2 -ta nägü tep yörüg'ol tep 答 ödlätäči äriglädäči üčün bošγudčï
303 3 tïdsï-lar-ïγ anïn adamïš ol šasdr tep. nädägin ödläyür äriglayür tep
304 4 tesär. qaltï kim ornadïp turγurur yalnguq-lï tängri-li-tä ulatï
305 5 buldurur nirvan-ïγ tep 問 nädägin ornadïp turγurur yalnguq-lï tngri-li-tä
306 6 ulatï buldurur nirvan-ïγ tep 答 öčürmäk üz-ä üč yavlaq yol-nïng
307 7 tïldaγ-ïn. ödrü ornadïp turγurur yalnguq-lï tngri-li-tä. taryarmaq
308 8 üz-ä sansar-nïng tïldaγ-ïn ödrü buldurur nirvan-ïγ tep 或復論者
309 9 azu-ča yänä šasdr ärsär udačï ärür kävgäli nizvanï-lar-ïγ tardïp
310 10 umuγ ïnaγ bolγalï üč yavlaq yol-ta nädägin kävär nizvanï-lar-ïγ tep
311 11 tesär. uyur üčün basuruq bolup basïp kim birdämläti turγurmaγalï
312 12 nädägin tartïp umuγ ïnaγ bolur üč yavlaq yol-tïn teptesär. nizvanï
313 13 -lar-ïγ birök öčüräyin teptesär. ödrü körgülük ol tört kerdü-lär
314 14 -ig. birök körsär tört kerdü-lär-ig. üč yavlaq yol-ta bulur bilmädin
315 15 öčmäk-ig. birök bulsar bilmädin öčmäkig. ödrü ozar üč yavlaq
316 11b-1 yol-luγ qorqïnč-tïn. munda iki türlüg yörüg-lär ol ang'ilki niz
317 2 -vanï. ikinti üč yavlaq yol-ta umuγ ïnaγ bolmaq 此二種因 bu iki
318 3 türlüg tïldaγ-lar. tüz-ün yol-tïn bululur. anï üčün bu šasdr säkiz
319 4 tüz-ün yol töz-lüg ärür. säkiz tüz-ün yol ärsär inčip bu šasdr-taqï
320 5 aqïγ-sïz bilgä bilig ärür tep 問 yänä amdï šasdr yaradayïn teptedi
321 6 ärti. amtï yaradayïn tegüči sav-ta nä yörüg'ol tep 答 kim bu tüz-ün
322 7 yol-uγ yeg soγančïγ užik-lär yörüg-lär üz-ä uzanïp kigürgü-tä qud
323 8 -ruldačï vaynike-lïγ tïnlγ-lar-nïng. kim käzig-lär-ingä. bu tüz-ün yol
324 9 uyur ärmäz. yalnguz-ïn <tuγγalï> odγuraq tayanur ol tïldaγ-qa
325 10 tïldaγ ärsär inčip bu šasdr-taqï aqïγsïz bilgä bilig ärür. azu-ča
326 11 yänä yaradayïn teptemiš-i ärsär. küsämiš üčün ärür tüz-ün tüš-üg
327 12 ulatï nirvan-ta ulatï-larïγ < bergäli > tïnlγ-lar-qa anïn adamïš ärür yarad
328 13 -ayïn tep 或六百行頌是論 azu-ča ärsär ymä altï yüz käz-ig
329 14 karik ärür šasdr. amtï uγramïš üčün yörügin yaradγalï anïn adasar
330 15 amtï yaradayïn tep ymä ök bolur. karik ärür ašnu tügmiš. vardi üz-ä
331 16 yörär üčün ol söki karik-ïγ. anïn adasar amtï yaradayïn tep

問：「今、論を造りたい」（今欲造論）と説いたのであった。その「論」と云う言に何と云う義があるのか？と。答：學徒を教誡するもの故に、それで「論」と名づけたのである、と。如何にして教誡するのかと云えば、謂わく人と天とに安住させ、そして涅槃を得させる（のである）、と。問：如何にして人と天とに安住させ、そして涅槃を得させるのか？と。答：三惡趣の因を滅することによって即ち人と天とに安住させる（のである）。生死の因を斷つことによって即ち涅槃を得させる（のである）、と。或は復た「論」は、能く煩惱を弱め、三惡趣から抜いて能く救濟となるものである。如何にして煩惱を弱めるのかと云えば、押さえるものとなって押さえ、永く起こさせないこと能くする故に。如何にして三惡趣から抜いて救濟となるのかと云えば、もし煩惱を滅したいと云えば、即ち四諦を觀ずるべきである。もし四諦を觀ずるなら、三惡趣において非擇滅を得る。もし非擇滅を得るなら即ち三惡趣の恐怖から脱する。ここには二種の義がある。第一は煩惱（を弱めること）、第二は三惡趣において救濟となること。この二種の因は聖道から得られる。それ故にこの論は八聖道の性もてるものである。八聖道は即ちこの論にある無漏慧である、と。問：又「今、論を造りたい」（今欲造論）と云ったのである。「今造りたい」（今欲造）と云う言に何の義があるのか？と。答：この聖道を勝妙の文義によって巧妙になして、所化の衆生のものをその相續へ導くとき、この聖道は獨りで能く生じるのではない。定んでその因に依る。因は即ちこの論にある無漏慧である。或は又「造りたい」（欲造）と云ったのは、聖果及び涅槃などを衆生へ與えることを欲した故である。それで、「造りたい」と名付けたのである。或は六百行なれども本頌は論である。今、まさにその義を造ろうとした故に、「今造りたい」と名づければ、また可である。本頌は以前に結集したものである。注釋においてその元の本頌を釋す故に、「造りたい」と名づけても、また可である。

---

301 amdï söz-lädi ärti šasdr yaradayïn tep「「論を造りたい」と今説いたのであった」は söz-lädi ärti amdï šasdr yaradayïn tep「「今論を造りたい」と説いたのであった」と書かれるべきである: cf. 320, 345. 312 tartïp umuγ ïnaγ bol-「抜いて救濟となる」＝「拔濟」(abhyuddhṛtavant). 316~317 ang'ilki niz-vanï は ang'ilki niz-vanï-lar-ïγ kävgülük「煩惱を弱めること」と書かれるべきである：cf. 309. 323 vaynike < Skt. vaineyika「所化」。324 yalnguz-ïn <tuγγalï>「獨り（能く）生じる」は傍注の訂正を採用したものである。訂正前は yalnguz-ïn < taγaγalï>「獨りで（能く）斷つ」となっていた。327 <bergäli>「與える（ことを）」は傍注の訂正を採用した。訂正前は < bilgäli>「知る（ことを）」。328 ウイグル文中漢文に「或六百行頌是論」と書かれているが、實際に『倶舍論』の本頌は六百ある。330~331 vardi (/varti/) < Skt. vṛtti「疏、注」。tügmiš「結集したもの」＝「結集」（釋尊の教えをまとめ集めること）。「本頌は以前に結集したものである。注釋においてその元の本頌を釋す故に」と述べているが、世親は最初に六百頌を結集し、後に注釋を加えて『倶舍論』を作ったのである。

332 12a-1 ymä ök bolur. körgidü öngräki savïγ inčip amtï söz-läsär bolur
333 2 yaradayïn tep. ad üz-ä. qaltï söz-lämiš täg ärdmiš ödki bodï
334 3 -stv-nïng bïšrunmïš ämgäk-lig yorïq-ta ulatï sav-lar-ïn. azu-ča
335 4 yänä šasdr bolur iki türlüg. ang'ilki iyanaparasdan. ikinti
336 5 košavardi. iyanaparasdan bolur yörgülük. košavardi bolur yördäči nädägin
337 6 bolur bilgäli iyanaparasdan-nïng yörgülük bolup košavardi-nïng yördäči
338 7 bolur-ïn teptesär. šasdr-ta basa šlok-ta söz-lämiš ol 迦濕
339 8 弥羅義理成 kašmir el-lig vaybašike-lïγ baxšï-lar-nïng yörügi
340 9 üz-ä yörüg töz-i uz büdmiš uqulmïš-ta. biz üküš-inčä angar tayaq
341 10 -lïγ-ïn yördümüz bu abidarim-ïγ tep. bu taquγ üz-ä bilmiš kärgäk 又 munï
342 11 üz-ä yinčgäläyü bilmiš kärgäk ymä/ter birök tayansar iyanaparasdan-qa inčip
343 12 amtï söz-lägü ärti. yöräyin iyanaparasdan-ïγ tep. birök tayansar koša
344 13 -vardi-ta inčip amtï söz-lägülük ol yaradayïn košavardi-nï tep. anïn bolur
345 14 barča-nï adasar amtï yaradayïn tep 問 öz baxšï tegüči sav-ta nägü tep
346 15 yörüg'ol tep 答 baxšï bolur üküš tälim. amtï söz-lämäki ärsär öz baxšï
347 16 tep. adïrγalïr üčün ärür adïn baxšï-lar-ïγ. öz baxšï yänä üküš täl
348 17 -im bolur. abipiray üz-ä uqïdur tngri burxan-ïγ 仏即論主之自师
349 12b-1 tngri burxan inčip vasubandu baxšï-nïng öz baxšï-sï ärti. ärür
350 2 umunγuluq ïnanγuluq orun. barïp anïng köni nomluγ ödingä äriginga
351 3 inčip bïšrunu yorïmïš üčün anïn adamïš ol öz baxšï tep 問
352 4 angbašlayu ïnanmaq üz-ä aγïr ayaγ qïlmaq-lïγ šlok-ta ögä külä
353 5 -yü yükünmäk üz-ä üč türlüg ädgü-lär-kä tükäl-lig-in tuda bililü
354 6 tükätdi ärti. yükünmiš-in ögmiš-in öz baxšï-sïnga. yükünmämiš-in
355 7 adïn baxšï-lar-qa. amtï vardiγ yörgü-tä. täk yalïndïq söz-läsär
356 8 baxšï tep bililü tükädür ärti anïng öz baxšï ärdüki. iš-i nägü
357 9 ärti ikiläyü kärgäk-läp qadnayu söz-läp öz baxšï tep 答前
358 10 帰敬頌 öngdünki ïnanmaq üz-ä aγïr ayaγ qïlmaq-lïγ šlok
359 11 -ta yükünmäk ögmäk üz-ä üč türlüg ädgü-lär-kä tükäl-ligin tuda. näčä
360 12 bililü tükädsär ymä tngri burxan-nïng ärtüki. amtï ikiläyü söz-lägülük
361 13 öz baxšï tep ymä ök bar ärür yörügi 又 asïγ-ï ymä/ter nädägin teptesär
362 14 vasubandu baxšï adï ködrülmiš-ning nomïnga tayaq-lïγ-ïn nom-tïn bälgür
363 15 -üp tuγup. tngri burxan-nïng čïnkerdü töz-lüg nom-ïnda yrlïγ eyin
364 16 inčip tuγmïš ärti. adï ködrülmiš bodistv ärkän taryarmïš küsä
365 17 -miš ärti ozγuryalï qudγaryalï alqu tïnlγ-lar-ïγ bodistv

以前の言を示し而して「今造りたい」と云う名稱によって説けば、可である。猶、過去の菩薩の修した苦行などの言を説いたごとし。或は又、論には二種ある。第一は『發智論』、第二は『倶舍論』。『發智論』は釋されるものであり、『倶舍論』は釋すものである。如何にして『發智論』が釋されるものであり、『倶舍論』が釋すものであることを知り得るのかと云えば、論において更に頌に説いたのである：「迦濕彌羅國の毘婆沙師の義による理が勝妙に完成、理解されたとき、我らは多くそれに依って、この阿毘達磨を釋した」と。この適正なるものによって了ぜねばならない。もし『發智論』に依るなら、即ち「今『發智論』を釋したい」と説くべきであった。もし『倶舍論』に依るなら即ち「今『倶舍論』を造りたい」と説くべきである、と。それ故、全てを「今造りたい」と名づければ、可である。問：「自師」（自師）と云う言に何と云う義があるのか？と。答：師は多く居る。今、「自師」と説くのは餘の師を差別するためである。自師もまた多く居る。意趣によって佛を立てる。佛は即ち世親師の自師であった。歸依處である。彼れの正法もてる教誡へ赴いて而して修行した故、それで「自師」と名づけた。問：最初に、歸敬頌で讃禮することによって、三種の徳への圓滿を約して自師へ讃禮し、餘の師へは禮しなかったことで已に了ぜられた。今、注釋するのに、單に「師」と説けば、彼れの自師であることが已に了ぜられるのであつた。更に必ず重ねて「自師」と説く、その作用は何であつたのか、と。答：前に歸敬頌において、讃禮することによつて、三種の徳の圓滿を約して、如何に佛のものであったかが已に了ぜられても、今、更に「自師」と説くべき理は有る。如何にしてかと云えば、世親師は世尊の法に依ることで法から出現し、佛の眞實性もてる法において教えに隨って而して生まれたのである。世尊は、菩薩であったときに斷じ、一切衆生を解脱させることを欲したのである。

339~340「迦濕彌羅國の毘婆沙師の義による理が勝妙に完成、理解されたとき、我らは多くそれに依って、この阿毘達磨を釋した」は以下の漢文に對應する：迦濕彌羅議理成我多依彼釋對法（倶舍論 Vol.29, p.152b）。vaybašike < Skt. vaibhāṣika「毘婆沙師」。kašmir < Skt. kāśmīra「迦濕爾羅」。341 yördümüz bu abidarim-ïγ の bu には削除記號を付けられている。bu taquγ üzä bilmiš kärgäk「この適正によって了ぜねばならない」は「又」以下において munï üzä yinčgäläyü bilmiš kärgäk「これによって察知せねばならない」に置き換えられている。taquγ = taq「適する」-uγ (dev.n.). 350 umunyuluq ïnanyuluq orun「所望所信の處」＝「歸依處」。357 qatnayu = qatna「繰り返す」-yu (converb)＝「重ねて」。360~361「又」以下に訂正があるが、傍注に munung もある。訂正後の文は次のようになる：amtï ikiläyü söz-lägülük öz baxšï tep munung ymä ök bar ärür asïγ-ï「今、更に自師と説くこと、これにはまた利が有る」。365~366 bodistv- lar-nïng yrlïqančučï köngül-i「菩薩の慈悲心は」の後に qut-ï küsüš-i「願」が傍注として插入されている。すなわち「菩薩の慈悲心、願は」となる。

366 13a-1 -lar-nïng yrlïqančučï. köngül-i odγuraq inčip burxan-lar-nïng birlä
367 2 bir täk ärür. köngül-täki yorïq-ï küsüš-i bir täk üčün adamïš ol
368 3 öz baxšï tep yorïq-ï küsüš-i bir täk ärmäsär öz baxšï bolur ärmäz
369 4 又復若但言自 yänä ymä yänä birök täk söz-läp anï öz tep
370 5 söz-lämäsär öz baxšï tep bililmäz ärti öz-nüng qayu öz ärdüki
371 6 azu bu öz ät'öz mü ol. öz köngül mü ol. öz-kä san-lïγ tayar mu ol
372 7 tep. amtï söz-lämäk üz-ä öz baxšï tep. uqïdur adïn yörüg ärmäz-in
373 8 birök täk söz-läp baxšï tep. söz-lämäsär öz tep. bililmäz ärti
374 9 baxšï-nïng qayu baxšï ärdüki. azu bu öz baxšï mu ol. adïn baxšï
375 10 mu ol. taš azaq nomluγ alqu baxšï-lar mu ol. uz uzaγud baxšï-ta
376 11 ulatï-lar mu ol tep. amtï söz-lämäk üz-ä öz baxšï tep. uqïdur
377 12 vasubandu baxšï-nïng. öz baxšï-sï. ol üč türlüg ädgü-lär-kä tükäl-lig
378 13 burxan adï ködrülmiš ärdükin. adïn baxšï ärmäz-in tep ulatï 以此義
379 14 故 bu yörüg üz-ä anïn tägimlig ol kärgäk-läp iki užik-lär-ig bir ikinti
380 15 -kä ilinišdürü tayanïšduru söz-läp uqγu-luq-uγ uqïdγalï. azu-ča
381 16 yänä tngri burxan ärür. alqu tïnlγ-lar-nïng öz baxšï-sï nä üčün
382 13b-1 tep tesär. tngri burxan öngrä tïldaγ-lïγ tüš-tä bïšrunu yorïmïš
383 2 ärkän-ki ödtä qayu bïšurunu yorïmïš küsüš-i keng uluγ yrlïqanču
384 3 -čï köngül-i üz-ä ičgärü täginü tükätmiš ärti. alqu tïnlγ-lar-ïγ
385 4 barča tïdsï qïlγalï. küsämiš üčün kim ornadïp turyuryalï tüz
386 5 -ün yol-ta ulatï qudrulmaq-lïγ tüš-tä bular-nï üčün adï ködrülmiš
387 6 üč maxakalp bïšurunup altï paramid-lar-ta tükäl-lig bolup buyan
388 7 -lï bilgä bilig-li yevig tizig-lär-kä ulatï üzlünčü-tä bulu
389 8 yrlïqamïš üčün üzäliksiz tuymaq-ïγ. anïn bilmiš kärgäk tngri
390 9 burxan ärür alqu tïnlγ-lar-nïng öz baxšï-sï tep 此有二意
391 10 munda bar iki türlüg abipiray-lar. ang'ilki ičgärmiš täginmiš üčün
392 11 alqu tïnlγ-lar-ïγ. ikinti yrlïqančučï köngül üz-ä erinčkämiš üčün
393 12 alqu tïnlγ-lar-ïγ. anïn söz-lämiš ol öz baxšï tep. qaltï bir šlok
394 13 -ta söz-lämiš 世尊 adï ködrülmiš bir tadïγ-lïγ
395 14 uluγ yrlïqančučï köngül-i üz-ä. keng alqïγ kalp-lar-ta bïšrunu
396 15 yorïmaq-ï ärsär. tïnlγ-lar-qa asïγ qïlγu üčün ärti. käntü

菩薩の慈悲心は定んで即ち佛のものと同一である。心にある行願が同じである故に「自師」と名づけた。行願が同一でないなら「自師」となるものではない。又、もしそれを單に「自」と説いて「自師」と説かないなら、「自」が何の自であるのかが了ぜられないのであった。或はこれは自體なのか、自心なのか、自歸依なのか、と。今、「自師」と説くことによって、餘の義ではないことを顯わす。もし單に、「師」と説いて「自」と説かないなら、「師」が何の師であるのか了ぜられないのであつた。或はこれが自師なのか、餘師なのか、外邪法もてる諸々の師なのか、妙術の師等なのか、と。今「自師」と説くことによって、世親師の自師が、その三種徳圓滿の佛世尊であることを、餘師ではないことを顯わす、と等。この義によって、それで必ず二文字を互いに依持させあって説き、應に顯わすべきところを顯わすべし。或は又、佛は一切衆生の自師でもある。何故かと云えば、佛が宿因もてる果において修行していた時に、修行したところのその願は廣大慈悲心によって（一切衆生を）攝受し終えたのである。一切衆生を悉く弟子とし、聖道及び解脱の果に安住させることを欲したため、これらの故に世尊は三大劫を修し、六波羅蜜における福と智との資糧を圓滿にし、更に究極には無上の悟りを得たまうた。（それ）故に佛が一切衆生の自師であると了ぜねばならない。ここには二種の意趣がある。第一は、一切衆生を攝受した故、第二は慈悲心によって一切衆生を哀愍した故。それで「自師」と説いた。謂わく、一頌に説いた：「世尊が一味もてる大慈悲心によって廣劫において修行するのは、衆生へ利をなすためであった。

---

371 öz-kä san-lïγ tayar「自らへ所屬して依る」＝「自歸依」。375 taš azaq nomluγ「外の誤った法もてる」＝「外邪法（外法）もてる」。uz uzaγud「うまく巧みにする」＝「妙術」。uzaγud = uz「巧み」-a (den.v.)-γut (dev.n. cf. bayaγut alpaγït qïzγut). 380 söz-läp の後に bar-ïnča「すべて」が傍注として插入されている。すなわち söz-läp barïnča uqγu-luq-uγ uqïdγalï「説き、（應に）すべて顯わすべきところを顯わす（べし）」となる。382 öngrä tïldaγ-lïγ「以前の因もてる」＝「宿因」。383 ärkän-ki には削除記號が付けられているので、和譯にはこの語の意味を反映させなかった。387 maxakalp < Skt. mahā-kalpa. üč maxa- kalp＝「三大劫」。 paramid (/paramit/) < Skt. pāramitā. altï paramid-lar「六波羅蜜」。388 yevig「準備」、tizig「整備」、yevig tizig「資糧」。391 ičgär-「持ち込む」tägin-「至る」、ičgär- tägin-「攝受」cf. tngri burxan ičgär-miš tägin-miš üčün üč aγïlïq nomuγ 「由佛攝受三藏教故」(2427)。 394 adï ködrülmiš bir tadïγ-lïγ「世尊が一味もてる」は adï ködrülmiš <-ning tegü täg>bir tadïγ-lïγ「世尊のというごとく一味もてる」と訂正されている。bir tadïγ-lïγ「一つの味もてる」＝「一味もてる」（「無差別の」）。395 kalp < Skt. kalpa. alqïγ kalp-lar「廣い劫（廣劫）」。

397 14a-1 öz-lär-ingä umunγuluq tayanγuluq orun-uγ. yerdinčü-täki-lär
398 2 bilmäz-lär. biligsiz-lär bilgä biligig yoqadturmaq üz-ä tägilmiš
399 3 köz-lüg-lär. erinčkägülük tsoyurqaγuluq bolmïš ärür-lär tep :: yalanguz
400 4 vasubandu baxšï-nïng oq öz baxšï-sï ärmäz. ymä ök ärür alqu
401 5 tïnlγ-lar-nïng öz baxšï-sï. ymä ök ärür töz tüp šasdr-nïng
402 6 ulatï bu košavardi šasdr-nïng öz baxšï-sï. 云何論之 nädägin
403 7 vasubandu baxšï-nïng öz baxšï-sï ol teptesär. ol tngri burxan
404 8 eyin kirip nom-qa ol tngri burxan eyin ögrädinmiš üčün nädägin
405 9 alqu tïnlγ-lar-nïng öz baxšï-sï ol teptesär. üküš kalp-lar
406 10 -ta. alqu tïnlγ-lar üčün qadïγlanïp ämgänip tiläyü bolmïš üčün
407 11 tuyunmaq-ïγ. nädägin šasdr-nïng öz baxšï-sï ol teptesär iyana
408 12 -parasdan košavardi-taqï alqu abidarim-lar-taqï yörüg-tä ulatï-lar
409 13 -nï barča-nï tngri burxan yrlïqamïš üčün anïn adï bolmïš ol öz
410 14 baxšï tep 問 anïng ät'öz-i-ning yeg ayaγuluq ärdüki üz-ä
411 15 teptedi ärti munung bar qayu yörügi tep 答 ät'öz-i-ning yeg
412 14b-1 ayaγuluq bolmaq-ï ärsär ärdmäk ašmaq ärür qamaγ tüz-ün-lär-tä
413 2 ymä ök umaq ärür alqu-qa umunγuluq tayanγuluq orun
414 3 bolγalï. nädägin bilgäli bolur ärdmiš-in ašmïš-ïn qamaγ
415 4 tüz-ün-lär-tä teptesär. anïn eka'udar agam-ta söz-lämiš
416 5 ol. alqu tïnlγ-lar-ta adaq-sïz-lar-ta iki adaq-lïγ-lar
417 6 -ta tört adaq-lïγ-lar-ta. üküš adaq-lïγ-lar-ta ančulayu
418 7 kälmiš. anda qamaγ-ta bolmïš ol. yeg adruq tep 是智
419 8 断德 tükäl-lig ärdüki üz-ä bilgä biliglig taryarmaq
420 9 -lïγ ädgü-lär-kä. qamaγ-ta ayaγuluq qamaγ-ta yeg ärür. adïn
421 10 tüz-ün-lär-tä yoq üčün. anïn bu šasdr-nïng bašïnda uqïd
422 11 -maq üz-ä bu iki türlüg ädgü-lär-in. uqïdur ärdmiš-in
423 12 ašmïš-ïn qamaγ tüz-ün-lär-tä nä ymä tardïp tašγar
424 13 -ïp tïnlγ-lar-ïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök tidig-tin
425 14 tep temiš-i ärsär. uqïdur tngri burxan-nïng. alqu
426 15 tïnlγ-lar-qa umunγuluq tayanγuluq orun ärdüki üz-ä

世間のものらは彼ら自身への歸依處を知らない。無知のものらや智慧を無くした盲者らは哀愍すべきものらである」と。(世尊は) 獨り世親師の自師ではなく、一切衆生の自師でもある。また「根本論」及びこの『倶舎論』の自師でもある。如何にして世親師の自師であるのかと云えば、彼は佛に隨つて法に入り、佛に隨つて習った故に。如何にして一切衆生の自師であるのかと云えば、多劫において、一切衆生のために勤苦し、悟りを求め得た故に。如何にして論の自師であるのかと云えば、『發智』や『倶舎』、諸の「阿毘達磨」にある義等のすべてを佛が説かれた故。それで、「自師」と云う名になった、と。問:「その體の尊高であることにおいて」(其體尊高) と云った。これに何の義があるのか?と。答:その體の尊高であることは衆聖を超越するものであり、また能く一切への歸依處となるものでもある。如何にして衆聖を超越したのを知り得るのかと云えば、そこで『増一阿含』に説いたのである:「諸衆生の中で、無足において、二足もてるものにおいて、四足もてるものにおいて、多足もてるものにおいて、如來が全ての中で最も優れている」と。(世尊は) 智と斷の徳が圓滿であることを以て最尊最勝である。餘の聖者らには無い故。それでこの論の初めに二種の徳を立てることで、衆聖を超越したことを顯わす。ところで、「衆生を生死の泥から拔いて出したなら」(拔衆生出生死泥) と云ったのは、佛が、一切衆生への歸依處であること、救濟となることを顯わす、と。

---

406 qadïγlanïp ämgänip「勤めて苦しんで」=「勤苦」。407 iyana-parasdan は初頭('y) の ' の左傍に一點が見られるので niyana-parasdan と讀むべきかもしれない。しかし、他では iyanaparastan か inyanaparastan が現れるので、この左傍の一點は汚れと考える方がよい:cf. 287, 335, 336, 1573, 1935, 1947, 1951, 1959, 2107. 412 qamaγ tüz-ün-lär「衆聖」。この語はほかに 414, 423 にも現れる。一方、78, 144, 146 では tüz- ün-lär quvraγ-ï「聖衆」がこの語に對應する。415~416 eka'udar agam (/eka'utar agam/) < Skt. ekottara āgama「増一阿含」。「増一阿含」からの引用部分は漢文と部分的に對應する:諸有衆生。二足四足衆多足者。有色無色有想無想至尼維先天上。如來於中最尊最上無能及者。(「増一阿含」大正 Vol.2, p.602a)。

427 15a-1 umuγ ïnaγ boldačï<-sïn tep> 或體尊高者何 azu
428 2 -ča ymä ät'öz-i-ning yeg ayaγuluq bolmaq-ï ymä nägü ärki
429 3 teptesär. bilgülük nomluγ adqanγu-lar-ta. tïdïγsïz tuduγ
430 4 -suz bolup alqu tïnlγ-lar-ta bar qïlmaq ärür uluγ yrlïqan
431 5 -čučï köngül-üg. kim alqu türlüg-lär üz-ä alqu bilgülük nom-lar
432 6 -ta tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn teptemiš-i ärsär. bu söz-lägüči
433 7 -tä uqïdγalïr üčün tükäl bilgä biligi-ning tïdïγ-šïz
434 8 tuduγ-suz ärdüki üz-ä yöründäk boldačï-sïn biligsiz-kä
435 9 anïn adamïš ol tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn tep. tardïp
436 10 tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök
437 11 tidig-tin teptemiš-i ärsär. uqïdur tngri burxan-nïng uluγ
438 12 yrlïqančučï köngül-in. bar üčün uluγ yrlïqančučï köngül-i anïn
439 13 umïš ärür tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündürgäli sansar-lïγ
440 14 kök-tin tep. azu-ča ymä yeg ayaγuluq bolmaq-ï ymä
441 15 nägü ärki tep tesär. öz-kä asïγ qïlmaq. adïn-qa asïγ
442 15b-1 qïlmaq-ï ärür. munï üz-ä nädägin uqïdur tüšüg teptesär.
443 2 kim alqu türlüg-lär üz-ä alqu bilgülük nom-lar-ta tarïq
444 3 -mïš qarangγu-luγ-ïn teptemiš-i ärsär. uqïdur öz-kä asïγ
445 4 qïlmaq-lïγ ädgü-sin. tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündür
446 5 -ti ärsär sansar-lïγ kök tidig-tin teptemiš-i ärsär. uqïdur
447 6 adïn-qa asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin tep 論 šasdr-ta söz
448 7 -lädi ärti anïn ašnu-ča ögüp küläp ädgü-lär basa temin
449 8 ayayu ayïrlayu yükünmiš-in uqïdur tep 釋曰 yörä söz-lär
450 9 yükünmäk bolur iki türlüg. ang'ilki täk yükünmäk ängidmäk
451 10 ikinti ögä tükädip ädgü-lär-in ken temin yükünmiš-in ayamïš
452 11 -ïn uqïdmaq ärür amtï šasdirakare vasubandu baxšï ašnu
453 12 -ča ögä tükädip ädgü-lär-in. ken temin ayayu ayïrlayu yükün
454 13 -miš-in uqïdur 德有二種 ädgü-si bolur iki türlüg tïlday
455 14 -lïγ tüš-lüg. tïlday-lïγ-ï ärsär buyan-lï bilgä bilig-li
456 15 iki türlüg yevig tizig-lär ärür. bušï paramid čxšapt

或はまた「體の尊高であること」とは何かと云えば、所知の法もてる境において無障礙であり、一切衆生において大慈悲心を有することである。「だれか一切種による一切所知の法において冥を滅したもの」〈諸一切種諸冥滅〉と云った。この言において一切智が無障礙であることにより、無知への對治となることを顯わす故、それで「冥を滅した」と名づけた。「衆生を生死の泥から抜いて出したなら」と云ったのは、佛の大慈悲心を顯わす。大慈悲心がある故、それで衆生を生死の泥から抜いて出すことができたのである。或はまた「尊高であること」は何かと云えば、自利と利他とである。これによつて如何にして果を顯わすのかと云えば、「だれか一切種による一切所知の法において冥を滅したもの」と云うのが自利の徳を顯わし、「衆生を生死の泥から抜いて出したなら」と云うのが利他の徳を顯わす、と。

論に曰く：**『それで、先ず徳を讃じて次に方に敬禮を申す』**（先讃徳方申敬禮）と。

釋して曰く：「禮」には二種ある。第一は單に禮すること。第二は徳を讃じおえて後に方に敬禮したことを顯わすものである。今、論主世親師は、先ず徳を讃じ終えて後に方に敬禮したことを顯わす。「徳」には二種有る。因もてるものと、果もてるもの。因もてるものは福と智との二種の資糧である。

427　umuγ ïnaγ boldačï<-sïn tep>「救濟となることを」は umuγ ïnaγ boldačï-sï üz-ä「救濟となるものによって」を訂正したものである。ここでは訂正文を採用した。450　ängidmäk は"nkydm'k と綴られている。

457 16a-1 paramid dyan paramid bular üčägü bolur buyan-lïγ yevig tizig. 般
458 2 若波羅 bilgä bilig paramit bolur bilgä biliglig yevig tizig
459 3 särinmäk qadïγlanmaq ikigü yumdaru buyan yumdaru bilgä bilig
460 4 bolur tep. bar adïn baxšï-lar söz-lär. bušï čxšapt särinmäk
461 5 üčägü. ärür buyan-lïγ yevig tizig. dyan bilgä bilig iki paramid
462 6 -lar bolur bilgä bilig-lig yevig tizig. nädägin bilgäli bolur andaγ
463 7 ärdükin teptesär. särinmäk paramit buyan-lar-ta qamaγ-ta uluγ
464 8 ärür. bu tïldaγ-ïn äv-tin ünmiš kiši-lär. särinmäk-ig ustačï
465 9 qïlur-lar. dyan paramid bolur bilgä biliglig yevig tizig teptemiš
466 10 -i ärsär. dyan paramid uyur üčün tardγalï bilgä biligig. qadïγ
467 11 -lanmaq yumdaru ikigü bolur. qoš-a uyur üčün tardγalï bu iki
468 12 türlüg yevig tizig-lär-ig tüš-lüg-i ärsär bu bolur tört türlüg
469 13 qaltï bilgä biliglig ädgü-si-ning büdügi. taryarmaq-lïγ ädgü-si
470 14 -ning büdügi. asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-si-ning büdügi. körkädmäk
471 15 -lig ädgü-si-ning büdügi ärür. anïn vasubandu baxšï. ašnu-ča
472 16b-1 ögä tükädip üsdünki täg tïldaγ-lïγ tüš-lüg ädgü-lär-ig
473 2 basa temin ayayu aγïr-layu yükünmiš-in uqïdmïš ärür. 上来
474 3 所釋 üsdürti bärü yörgüči-ning abipiray-ï bolur üč türlüg
475 4 amtï šasdr yaradγalï uγraduq-ta teptemäk ärsär tuγurmaq turγur
476 5 -maq ärür asïr-a-qï sav-lar-ïγ uqïdγalïr üčün öz baxšï-sï-nïng
477 6 temäk-tä ulatï-lar ärsär. ündürmäk ärür yaradmïš šasdr-nïng
478 7 abipiray-ïn. anïn ašnu-ča ögüp ädgü-lär-ig temäk-tä ulatï
479 8 ärsär. uγrayu uqïdmaq ärür yörgäli uγramïš-ïn. üsdün qavïr
480 9 -a-sïnča yörä tükädmiš boldï üč türlüg abipiray-lar-ïγ amtï
481 10 uγrayu ad-ïnga tayaq-lïγ-ïn uqïdu yörär anïng yörügin tep
482 11 論曰 šasdr-ta söz-lädi ärti kim tegüči sav üz-ä uqïdur
483 12 qaltï burxan adï ködrülmiš-ig tep 釋曰 yörä söz-lär yinčgäläyü
484 13 sïnanu bölsär adïrtlasar. kim tegüči ad ärsär qamaγ-lïγ ad
485 14 ärür. sïnanu alqu yörüg-lär. nädägin bolur bilgäli kim tegüči sav
486 15 üz-ä uqïdur-ïn tngri burxan-ïγ teptesär qaltï yörügin tudmaq

施波羅蜜、戒波羅蜜、定波羅蜜、これら三つは福（徳）の資糧である。慧波羅蜜は智の資糧である。忍と精進の二つは通して福、通して智である。有餘師が説く：施、戒、忍の三つは福の資糧である。定、慧の二波羅蜜は智の資糧である。如何にして、そうであるのを知り得るのかと云えば、忍波羅蜜は福の中で最も大きい。これに因って出家人は忍を目差すものと爲す。定波羅蜜が智の資糧であると云ったのは、定波羅蜜は智慧を引くことができる故。精進は通して二つとなる、この二種の資糧を結んで引くことができる故（と）。果もてるもの、これは四種ある。謂わく、智徳の圓滿、斷徳の圓滿、利徳の圓滿、色身徳の圓滿である。それ故、世親師は先ず上のごとく因もてるものと、果もてるものの徳を讃じ終えて、次に方に敬禮を顯わしたのである。上以來の釋の意趣は三種ある：「今、論を造ることを欲ったとき」（今欲造論）と云うのは、下にある言を生起させるものである。「自師の・・顯わすために」（爲顯自師）と云うこと等は、造った論の意趣を上らせるものである。「故に、先ず徳を讃じて」（故先讃徳）と云うこと等は、まさに釋そうとすることを顯わすものである。上に略して、已に三種の意趣を釋すものとなった。今まさに名に依って、それの義を解釋する、と。

論に曰く：**『だれかと云う言によって、謂わく佛世尊を表す』**（諸言所表謂佛世尊）と。

釋して曰く：分析し類別すれば、「だれか」（諸）と云う名は衆名である。すべての義が伺察されて、「だれか」と云う言によって佛を表すことを如何にして知ることができるのか？と云えば、

---

469 節略漢文『實義疏』には卷頭の歸敬頌につづいて次の七種の「圓滿」が立てられている：智圓滿 斷圓滿 利他圓滿 方便圓滿 應供圓滿 期心圓滿 方便圓滿」（大正 Vol.29, p.325a）。ウイグル文にはこの内容は存在しない。 470 asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-si「利をなすことの徳」＝「利徳」。körkädmäk-lig ädgü-si「美しくなることの徳」＝「色身徳」。472 üsdünki täg tïldaγ-lïγ「上のごとく因もてるもの」は üsdünki täg < bilgä> tïldaγ-lïγ「上のごとく賢い因もてるもの」を訂正したものである。ここでは訂正形式を採用した。474 üsdürti bärü「上以來」はウイグル文中漢文の「上來」に相當する。476~477 asïr-a-qï < asraqï「下にある」。öz baxšï-sï-nïng temäk-tä ulatï-lar「「自師の・・顯わすために」ということ等」というのは、『俱舍論』の「爲顯自師其體尊高超諸聖衆」を示している。478 anïn ašnu-ča ögüp ädgü-lär-ig temäk-tä ulatï「「故に、先ず徳を讃じて」ということ等」とは、『俱舍論』の「故先讃徳方申敬禮」を示している。482 『俱舍論』にある「諸一切種諸冥滅」の「諸」はサンスクリットの yaḥ「だれでも、だれか」に相當する。ウイグル語 kim も同じく「だれか」を意味する。484~485 kim tegüči ad ärsär qamaγ-lïγ ad ärür「「だれか」という名は衆名である」は kim tegüči <sav> ärsär qamaγ-lïγ ad ärür「「だれか」という言は衆名である」に訂正されている。「衆名」は Skt. sarva-nāman「代名詞」にあたる。

487 17a-1 üz-ä adïn tuγurmaq üz-ä. bälgü-sin tudmaq üz-ä
488 2 savïn tudmaq üz-ä. nädägin yörügin tudmaq üz-ä teptesär
489 3 bu šlok-ta tükäl ögmiš ärür. üč türlüg ädgü-lär-ig
490 4 üč türlüg ädgü-lär ärsär. uqïdur bildürür tngri burxan ärdükig
491 5 nädägin adïn tuγurmaq üz-ä teptesär. qaltï uγramïš
492 6 üčün uqïdu yörgäli abidarim-ïγ. anïn munda yükünmiš ärür
493 7 tngri burxan-qa adïn baxšï-qa ärmäz 如何是相 nädägin bälgü-sin
494 8 tudmaq üz-ä teptesär. šasdirakare vasubandu baxšï tngri burxan
495 9 eyin kirmäk üz-ä nom-qa tngri burxan-nïng körkingä bälgü-singä
496 10 oxšašur üčün bu tïldaγ-ïn yükünmiš ärür tngri burxan-qa bir bälgü
497 11 -lüg-kä. yükünmämiš ol adïn baxšï-qa nädägin savïn tudmaq üz-ä
498 12 teptesär. inčip bu šasdr yindäm ärür üčün tngri burxan yrlïqamïš
499 13 anïn amtï yükünmiš ärür tngri burxan-qa yükünmämiš ärür adïn tüz-ün
500 14 -lär-kä bu tört türlüg yörüg-lär üz-ä anïn kim tegüči sav üz-ä
501 15 uqïdur burxan adï ködrülmiš ärdükin 初所言諸 angbašlayu
502 17b-1 söz-lämäk üz-ä kim tep bililmämiš-kä kim tegüči sav üz-ä nägü
503 2 -ni körgidür-i. basa söz-lämäk üz-ä alqu türlüg-lär üz-ä alqu
504 3 bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn tep. ulatï. ödrü
505 4 bililmiš ärür. üč türlüg ädgü-lär-kä tükäl-lig burxan adï ködrül
506 5 -miš ärdüki adïn-nïng ärmäz-i 佛者 buda burxan teptemiši ärsär
507 6 bar anda iki türlüg yörüg-lär ang'ilki tuyunmïš odunmïš tep
508 7 yörüg'ol. ikinti ačïlmïš yarïlmïš tep yörüg'ol. nädägin adï
509 8 bolur tuyunmïš odunmïš tep yörüg'ol teptesär 又 ang'bašlayu tuyun
510 9 -mïš odunmïš tep yörüg'ol tep temiš-i ärsär ymä tegü täg ::
511 10 biligsiz biliglig tünlä-ki tündä niz-vanï-lïγ uu üz-ä süčig
512 11 udïmïš tïnlγ-lar-ta yalanguz tngri burxan oq ašnu-ča odunup. ymä
513 12 ök tuyundurtačï odunturdačï üčün alqu tïnlγ-lar-ïγ. azu yänä
514 13 kkir-lig kirsiz bilmämäk-lig uu udïγ-ïγ birdämläti taryaru
515 14 tükädmiš üčün qaltï kiši uudïn oduntuq-ta adamïš täg
516 15 oduγ kiši tep ančulayu oq ymä biligsiz biliglig uu-sïndïn

謂わく、その義を約すことによって、その名を發することによって、その相を約すことによって、その言を約すことによって（知ることができる）。如何にして「その義を約すことによって」と云うなら、この頌において三種の徳を完全に讃じたのである。三種の徳は佛であることを顯示する。如何にして「その名を發することによって」と云うなら、謂わく、『阿毘達磨』を解釋することを欲した故に、ここでは佛へ禮したのである。餘師へではない。如何にして「その相を約すことによって」と云うなら、論主世親師は、佛に隨って法へ入ることで佛のその形相に類似するため。これに因って佛と一相のものへ禮したのである。餘師へは禮しなかった。如何にして「その言を約すことによって」と云うなら、即ちこの論は唯だ佛のみが説かれたものである故。それで今、佛へ禮したのである。餘の聖者へは禮しなかった。この四種の義によって、そこで、「だれか」と云う言において、佛世尊であつたことを顯わす。初めに「だれか」（諸）と説くことで、「だれか」と云う言によって、何を示しているのかが了ぜられなかったところへ、次に、「一切種による一切所知の法において、冥を滅したもの」（諸一切種諸冥滅）と説くことによって、更に、即ち（「だれか」が）三種徳の圓滿な佛世尊であったことが、餘のものではないことが了ぜられたのである。「佛」と云ったが、そこには二種の義がある。第一は「覺悟した」と云う義である。第二は「開敷した」と云う義である。最初に「覺悟したと云う義である」と云ったのは、無明の深夜に、煩惱もてる眠りに甘く眠った衆生の中で、獨り佛のみが先に覺めて、一切衆生をも悟らせるもの故に。或は染（の無知）と不染の無知もてる睡眠を已に永く斷った故に。猶、人が眠りから覺めたときに「覺人」と名づけるがごとし。

505~506 burxan adï ködrül-miš「佛世尊」は tngri burxan「佛」に訂正されている。506 buda < Skt. buddha「佛」。509~510 「又」から täg までは訂正文である。訂正された文は次のようになる：ang'bašlayu tuyunmïš odunmïš tep yörüg'ol tep temiš-i ärsär「最初に「覺悟したという義である」といったのは」。訂正前の文：nädägin adï bolur tuyunmïš odunmïš tep yörüg'ol teptesär「如何にしてその名は覺悟したという義であるのかというなら」。ここでは訂正文を採用した。511 biligsiz は單獨で「無明」にあてる例もある：qaltï az övkä küvänč qamaγlïγsïz biligsiz sezik birlä tuγmïš bilgä biliglär ärür「謂貪瞋慢不共無明疑俱生慧」B913．また biligsizlig を用いることもある：cf. 560. ここでの biligsiz biliglig は「無明と明」とも譯せるが、文脈からみて「無智の智もてるもの」＝「無明」と考えるべきである。すなわち biligsiz biliglig tünlä-ki tündä「無明の深夜」。515 qaltï kiši uudïn oduntuq-ta「猶、人が眠りから覺めたときに」は qaltï <udïp odunmïš kišig>「猶、目覺めた人を」に訂正されている。516 biliglig biligsiz「無明」：cf. 511.

517 18a-1 odunmïš üčün anïn adamïš ol. burxan tep 開敷義
518 2 者 ačïl<-mïš> yarïl<-mïš> tep yörüg'ol teptemiš-i ärsär. alqu bilgülük
519 3 nomluγ adqanγu-lar-ta tïdïγ-sïz tuduγ-suz bilgä biligi ačïlmïš
520 4 yarïlmïš ärür qaltï lenxu-a čačäk öz-in ök ačïlïp yarïlïp bolmamïš
521 5 -ï täg kiši-lär-tä ačdačï yardačï tngri burxan-nïng ymä andaγ oq
522 6 tükäl bilgä biligi öz-in ök ačïlïp yarïlïp adïn-tïn tuyunmïš
523 7 ärmäz üčün anïn adï bolmïš ol burxan tep. adï ködrülmiš teptemiš
524 8 -i ärsär udmïš yavaldurmïš üčün (tört) türlüg šmnu-lar-ïγ qaltï tngri
525 9 -lig šmnuγ. niz-vanï-lïγ šmnuγ. ölüm-lüg šmnuγ. beš yükmäk-lig
526 10 šmnuγ. azu-ča yänä adï ködrülmiš ärsär. tükäl-lig (üčün ärür ol) altï türlüg
527 11 yörüg-lär-kä anïn bar šlok-ta söz-lämiš-i 自在熾盛与端
528 12 嚴 ärkčä tapča üčün čoγluγ yalïn-lïγ üčün birlä yänä toqïlïγ körklä
529 13 üčün. ad-lïγ küü-lüg üčün admanggal üčün 又 lïγ ymä/ter ulatï yeg ayaγuluq üčün
530 14 munï munčulayu altï türlüg yörüg-lär üz-ä adïrïlmaq-ïndïn. bilmiš kärgäk
531 15 yumdaru adï bolur adï ködrülmiš tep :: bu altï türlüg yörüg-lär. adïn
532 18b-1 orun-ta söz-lämiš täg tedir. burxan adï ködrülmiš-tä öngi käntü adïn
533 2 alqu tüz-ün-lär-tä yoq üčün bu altï türlüg yörüg-lär. anïn adamïš ol
534 3 adï ködrülmiš-ig bagavan tep. 問 nä üčün qadïn söz-lädi burxan adï ködrülmiš
535 4 tep. 答 adï ködrülmiš-ning ädgü-lär-i qadïn ärür. tägimlig ärmäz yalïndïq ad
536 5 üz-ä uqïdγalï burxan tep 师子之義 baxšï-lï tïdsï-lï-nïng yörügi
537 6 üz-ä törü ol qavšurup qadnayu söz-lägülük burxan adï ködrülmiš tep
538 7 bu savïγ čadiškodi. tört padak qïlmïš kärgäk. bar munda burxan bolup adï köd
539 8 -rülmiš bolmadačï. inčip pradikabud-lar ärür. bar munda adï ködrülmiš bolup burxan
540 9 bolmadačï. qaltï bodistv-lar ärür. bar ymä munda adï ködrülmiš bolup burxan ymä
541 10 boldačï. qaltï burxan adï ködrülmiš ärür. bar adï ködrülmiš ymä bolmadïn
542 11 burxan ymä bolmadačï qaltï midik pardakčan-lar alqu taš azaq nomluγ-ta
543 12 ulatï-lar tedir. anï üčün šasdr-ta söz-lämiš ol burxan adï ködrülmiš
544 13 tep. 論 munung umïš üčün tarïqγalï qarangγu-sï anïn adamïš ol tarïq
545 14 -mïš qarangγu-luγ tep. 釋曰 munung umïš üčün tarïqγalï qarangγu
546 15 -sï teptemiš-i ärsär. uγrasar yörgäli bu yörügüg säkiz türlüg vibakdi

このようにまた、無明の眠りから覺めた故に、それで「佛」と名づけた。「開敷したと云う義である」と云ったのは、一切所知法の境において、無障礙の智が開敷したことである。猶、蓮華が自ら開敷し、人（の手）から開敷するものではななかったがごとし。佛のこのような一切智も自ら開敷して、餘から悟ったものではない故、それで、「佛」と云う名になった、と。「世尊」と云ったのは、（それは）四種魔、即ち天魔、煩惱魔、死魔、五蘊魔を降伏させた故、或は世尊は六種の義が圓滿の故である。そこで頌に説いたものが有る：自在の故、熾盛の故、竝びに端嚴の故、名聲の故、吉祥の故、更に尊高の故。このごとく六種の義によって差別されることから、總じて、その名は「世尊」となると知らねばならない。この六種の義は餘處において説いたごとしと云う。佛世尊よりほかに、自他の諸聖者にはこの六種の義は無い故、それで世尊を「薄伽梵」(bhagavān)と名づけた。問：何故、「佛世尊」と重ねて説いたのか？答：世尊の德は重複している。應に單純な名において「佛」と立てるべきではない。「師と弟子との義」における道理である。重ね合わせて「佛世尊」と説くべし、と。この言を四句（catuṣ-koṭika）に作らねばならない：ここに佛となって世尊とならないもの有り、即ち獨覺である。ここに世尊となって佛とならないもの有り、謂わく菩薩である。また、ここに世尊となって佛にもなるもの有り、謂わく佛世尊である。世尊にもならず佛にもならないもの有り、謂わく凡夫ら、諸々の外邪法もてるもの等（である）、と云う。それ故、論に「佛世尊」と説いたのである、と。

論：**『此れは、能く闇を破った故、それで冥を滅したと名づけた』**（此能破闇故稱冥滅）と。

釋：「此れは、能く闇を破った故」と云ったが、この義を釋すことを欲するなら、八種の格の間で、二つの格を以て解釋せねばならない。

---

518 ačïl<-mïš> yarïl<-mïš> tep yörüg'ol「開敷したという義である」は訂正形式である。訂正前は ačïl< maq > yarïl< maq > tep yörüg'ol「開敷することという義である」。ここでは訂正形式を採用した。524 tört türlüg šmnu-lar「四種魔」＝「四魔」。526 tükäl-lig「圓滿の」の後に(üčün ärür ol)「故である」が傍注として插入されている。ここではそれを採用した。527~528 ウイグル文中漢文とウイグル語とは次の對應を示す； ärkčä tapča「自在」 čoγluγ yalïnlïγ「熾盛」 toqïlïγ körklä「端嚴」。529 「又」以下の訂正は admanggal「吉祥」を admanggal-lïγ「吉祥-もてる」に訂正している。admang-gal = at「名聲」-manggal（ < Skt. maṅgala)「吉祥」。530 altï türlüg yörüg-lär「六種の義」とは「六德」のことである。すなわち、薄伽梵に、自在、熾盛、端嚴、名稱、吉祥、尊貴の六種の德があることをいう(中村 p.1458)。536 文中漢文「師子之義」をウイグル文は「師と弟子との義」と表している。「師と弟子」は漢文では一般に「師資」として現れる。ここの「師子」は「獅子」と同義で、佛の偉大さを表現したものと云える。538 čadiškodi(/čatiškoti/) < Skt. catuṣ-koṭi「四句、四義」。čadiškodi に後續する tört padak「四句」は前者のサンスクリットをウイグル語に言い替えたものである。539 pradikabud(/pratikabud/) < Skt. pratyekabuddha「獨覺、緣覺」。542 midik < Sogd. myd'kk. pardakčan (/pardakčan/) < Skt. pṛthagjana. ソグド語もサンスクリットも「凡夫」を意味する。546 vibakdi (/vibakti/) < Skt. vibhakti「名詞の語尾變化、格」。

547 19a-1 -lar-nïng arasïnda iki vibakdi üz-ä uqïdu yörmiš kärgäk qaltï üčünč
548 2 üz-ä vibakdi üz-ä ulatï altïnč nïng vibakdi üz-ä nädägin üčünč vibak
549 3 -tï-qa tayaq-lïγ-ïn yörär teptesär. qaltï bilgä bilig üz-ä taryarmïš
550 4 üčün qarangγu qararïγ-ïγ. nädägin altïnč vibakdi-qa tayaqlïγ-ïn yörär
551 5 teptesär. qarangγu qararïγ-ïγ taryardačï ärsär. yindäm burxan adï
552 6 ködrülmiš-ning ärür tep. 問 nä üčün iki vibakdi üz-ä yördi tep 答
553 7 birök yindäm üčünč vibakdi üz-ä yörmiš ärsär. näčä bililsär ymä
554 8 bilgä bilig üz-ä qarangγuγ taryaryalï umïš-ï. inčip bililmäz
555 9 ärti. munda kim-ning bilgä bilig-i üz-ä taryaryalï umïš-ï. birök
556 10 yindäm altïnč vibakdi-qa tayaq-lïγ-ïn yörmiš ärsär. näčä bililsär
557 11 ymä tngri burxan-nïng qarangγuγ taryaryalï umïš-ï. yänä bililmäz ärti
558 12 tngri burxan-nïng nägü-si üz-ä taryarmiš-ï anï üčün qooš-a išlätmiš
559 13 ärür. iki vibakdi-lar-ïγ. anïn bulduqmaz bu ikigü üz-äki mün qadaγ tep
560 14 問 bu biligsiz-lig qarangγu qayu-qa tayaq-lïγ-ïn inčip turmïš-qa amtï
561 15 kärgäk-läyür taryaryalï tep 答 bu alqu bilgülük nomluγ adqanγu-lar-qa
562 19b-1 tayaq-lïγ-ïn turmïš-qa anïn amtï kärgäk-läyür taryaryalï tep
563 2 bu oq inčip ärür yetinč 所依聲也 ta vibakdi. bu üč vibakdi-lar
564 3 -ïγ barča är-kä tayaq-lïγ temiš-täki nïng samaz üz-ä yörmiš kärgäk. munda
565 4 qarangγuγ taryardačï ärsär. yindäm burxan adï ködrülmiš-ning ärksinmäk
566 5 bilgä biliglig küči ärür tep 問 birök yindäm nïng samaz üz-ä yörsär
567 6 täk uqulup öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-si. öz-nüng qarangγu
568 7 -sïn buzmaq-lïγ yörüg :: bolmaz adïn-qa asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-si adïn
569 8 -nïng qarangγu-sïn buzmaq-lïγ yörüg :: birök lïγ samaz üz-ä yörsär.
570 9 birlä yänä yörmiš bolur öz-kä asïγ qïlmaq adïn-qa asïγ qïlmaq-ïγ
571 10 ikigü-nüng qarangγu-sïn taryarmaq-lïγ yörügüg. nädägin teptesär. tngri burxan
572 11 umïš üčün taryaryalï öz-li adïn-lï-nïng qarangγu-sïn. nä üčün lïγ
573 12 samaz üz-ä yörmädin. yindäm nïng samaz üz-ä yördi tep 答 birök lïγ samaz
574 13 üz-ä yörsär. ymä ök bolur ärti inčip bu yörügdä ämgäksinip yaqïn yaγuq
575 14 išlätmädimiz. birök söz-läsär qarangγuγ taryarmïš tep. inčip qarangγu
576 15 turup tïnlγ-lar-ta taryarmaq san-lïγ bolur ärti tngri burxan-qa näčä

謂わく第三の具格及び第六の屬格を以て（である）。如何にして、第三格に依って釋すのかと云えば、謂わく智慧を以て、闇を破った故。如何にして、第六格に依って釋すのかと云えば、闇を破るものは唯だ佛世尊の（智慧）のみである（故）、と。問：何故二つの格によって釋したのか？と。答：もし唯だ第三格のみによって釋すなら、如何に智慧を以て闇を能く破ったことが了ぜられても、ここで、だれの智慧を以て能く破ったかが了ぜられないのである。もし唯だ第六格のみに依って釋すなら、如何に佛が能く闇を破ったかが了ぜられても、佛の何を以て破つたかが了ぜられないのである。それ故に二つの格を兩方とも用いたのである。それ故、この二つによるものに過失は無い、と。問：この無明の冥は何に依って而して起こったので、今滅する必要があるのか？と。答：これは一切所知法の境に依って起こったので、それで今滅する必要がある、と。これは即ち第七の依格である。この三つの格はすべて依士釋によって釋さねばならない。ここにおいて冥を滅するものは、唯だ佛世尊の自在慧の力のみである、と。問：もし唯だ依士釋のみによって釋せば、單に自利德が自冥を壞する義だけが顯わされて、利他德が他冥を壞する義は成じない。もし有財釋によって釋するなら、自利利他と、兩方のその冥を滅する義とを併せて釋したことになる。如何にしてかと云えば、佛は自と他の冥を滅することができる故。何故、有財釋によって釋さずに、唯だ依士釋のみによって釋したのか？と。答：もし、有財釋によって釋するなら、即ちこの義において困難となるのであった。我らは（それを）親しく用いることはなかった。もし、「冥を滅した」と説けば、即ち冥は衆生に起こり、滅は佛に屬するものとなるのである。

---

548 üz-ä vibakdi「‥による格」＝具格 cf.1033. nïng vibakdi「‥の格」＝屬格 cf. 1942. 551 yindäm burxan adï ködrülmiš-ning ärür「唯、佛世尊の(智慧)のみである」は訂正された文である。訂正前は yindäm < tngri > burxan adï ködrülmiš-ning ärür 「唯、天佛世尊の(智慧)のみである」とある。『實義疏』のウイグル語では「佛」は常に tngri burxan「天佛」と書かれている。ここでは「佛世尊」をあらわすため、tngri「天」を正しく削除している。ただし他の箇所では tngri burxan には常に「佛」の譯語を與えた。559 bulduq-「見つかる」。bulduqmaz は漢語の「無有」あるいは「無」に對應する：bulduqmaz azqya ärsär ymä nom bir basudčïtïn tuγdačï 「無有少法一緣所生」(3888), bultuqmaz tängikmämäklig mün qadaγ 「無非等過」(H25R64). 563 ta vibakdi「・・に格」＝依格(位格)＝所依聲。564 är-kä tayaq-lïγ temiš-täki nïng samaz「士へ依るものといったものにある nïng(‥の)複合」＝依士釋(依主釋)＝格限定複合語。samaz < Skt. samāsa「語釋」「合成語」。567 öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-si「自利德」は訂正されている。訂正前：öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ yörüg ädgü-si. この場合の yörüg「義」は不要である。569 lïγ samaz「・・を有する複合語」＝有財釋。574 ämgaksin-＝ämgäk「苦」-sin(intrans.simulative)「苦しくなる」。 yaqïn yaγuq は一般に漢語の「親近」「親」(親しい)に對應する：bu tayandačï töz ol tayaqïnga körü odγuraq yaqïn yaγuq 「是能依性對彼所依極親近」(B43) kertülärning yörügin yangïlturdačïtïn yaqïn yaγuq ünmiš tuγmïš ärmäz üčün 「非迷諦理親發起故」(B839)。ここでは「直接に」と譯した。

577 20a-1 bolup öz-li adïn-lï-nïng qarangyu-sïn taryarmaq-lïγ yörüg. lïγ
578 2 samaz yörüg büdsär ymä inčip viyakiran yangïnga eyin bolmaz ärti.
579 3 yänä ymä bolur ärti mün qadaγ. öngdün-ki padak-taqï öz-kä asïγ qïl
580 4 -maq-lïγ ädgü-sindä. birlä yänä tudulup adïn-qa asïγ qïlmaq-lïγ ädgü
581 5 -si. kenki padak ödrü iš-siz bolur ärti. 若言 birök söz-läsär
582 6 tarïqmïš qarangyu-luγ tep. taryarmaq yindäm turup tngri burxan-ta
583 7 nïng samaz yörüg büdüp viyakiran yangïnga eyin bolur. inčip öng
584 8 -tünki padak-ta yindäm uqulup öz-kä asïγ qïlmaq-ï. kenki padak
585 9 -ta temin ök uqulur adïn-qa asïγ qïlmaq-ï. inčip bulduqmaz bu
586 10 mün qadaγ. anï üčün tägimlig ärmäz lïγ samaz üz-ä yörgäli tep.
587 11 anïn adamïš ol tartïqmïš qarangyu-luγ teptemiš-i ärsär. qarangyu
588 12 bolur iki türlüg qaltï kkirlig birlä yänä kirsiz iki türlüg bilmämäk
589 13 -lär ärür. munda kkirlig-i ymä qayu ol teptesär. yangïldurur üčün tört
590 14 kerdü-lär-ning yörügin munï üz-ä anïn adï bolmïš ol kkir-lig tep
591 15 除此 munda öngi adïn-lar-nïng barča-nïng adï bolur kirsiz tep.
592 20b-1 qaltï tïdmaq ärür širavak-lar-nïng piradikabud-lar-nïng bilgülük
593 2 adqanγu-lar-ïn. azu-ča ymä bilmämäk bölünüp üč bolur qaltï üč
594 3 uγuš-lar-ïγ tuda azu-ča ymä üč öd-lär-ig tuda bölünüp bolur üč
595 4 azu-ča ymä bölünüp bolur beš. (qaltï) beš bölük-lär-ig tuda azu-ča ymä
596 5 bölünüp iki ygrmi bolur. iki ygrmi orun-lar-qa tayaq-lïγ-ïn tep.
597 6 問 nä üčün bilmämäkig adatï bolur qarangyu tep. qarangyu-nung bil
598 7 -mämäk birlä bar qayu oxšadï-sï tep 答 ol bir ikinti-kä oxšašur
599 8 qaltï yerdinčü-täki qarangyu tïdïp on köz-üg. kim qarardur ärsär öng
600 9 adqanγuγ. bilmämäk-lig qarangyu ymä tïdar bilgä biliglig köz-üg bil
601 10 -gülük nomluγ adqanγu-lar-ta ymä ök yänä ančulayu oq. anï üčün
602 11 qarangyu-nung bilmämäk birlä anïng yörügi oxšašur tep 論 šasdr
603 12 -ta söz-lädi ärti alqu türlüg-lär üz-ä alqu bilgülük nom-lar-ta
604 13 tarïqmïš qarangyu qararïγ-lïγ-ïn tep temiš-i ärsär. qaltï taryarmaq
605 14 ärür alqu adqanγu-lar-taqï. alqu bölük-lär-täki qarangyu qararïγ
606 15 -lar-ïγ tep nädägin teptesär. alqu bilmämäk-lär uyur üčün ördgäli

如何に、自と他の冥を滅する義が成じて、有財釋、義が完成しても、即ち文法の型には隨っていない。又、過失となるのである。前の句にある自利徳において併せて利他徳も攝され、後の句は即ち無用となる。もし、「冥（もてるもの）を滅した」と説くなら、滅は唯だ佛にのみ起こり、依士釋が完成して文法の型に隨うものとなる。即ち、前の句では唯だ自利のみが顯わされ、後の句で方に利他が顯わされる。これに過失は無い。それ故、應に有財釋によって釋すべきではない、と。そこでは「冥（もてるもの）を滅した」と云ったが、「冥」には二種がある。謂わく「染ならびに不染の二種の無知」である。ここで「染」は何かと云えば、四諦の義を誤らせる故に、これによって、「染」と云う名になった、と。これを除いて餘の全ての名は「不染」となる、と。謂わく聲聞や獨覺らの所知の境を妨げることである。或はまた無知は分かれて、三となる。謂わく、三界を約して、或は三世を約して、分かれて三となる。或はさらに分かれて五となる。謂わく、五品を約して。或はまた十二處に依って分かれて十二となる、と。問：何故、無知を「冥」と名づけたのか？と。冥は無知と何の類似があるのか？と。答：それ（ら）は互いに類似している。謂わく、世間の冥が十眼を妨げ、色境を闇にさせるなら、無知もてる冥も慧眼を妨げる。所知法の境においても又その通りである。それ故、冥は無知とその義が類似している、と。

論に曰く：**『一切種による一切所知の法において、冥を滅したものと言ったのは、謂わく、諸々の境にある、一切品にある冥を滅することである、と。**

---

578 viyakiran < Skt. vyākaraṇa「文法、文法的正確さ」.592 širavak < Skt. śrāvaka「聲聞」。599 on köz「十眼」。 Cf. 肉眼、天眼、慧眼、法眼、佛眼、智眼、光明眼、出生死眼、無碍眼、一切智眼（「華嚴經離世間品」） 織田 p.524.

607 21a-1 čïnkertü yörügüg ulatï tïdγalï čïnkertü körümüg. anïn söz-lämiš
608 2 ol bolur qarangγu qararïγ tep. yindäm burxan adï ködrülmiš-lär ök bulu
609 3 yrlïqap birdämlig yöründäk-in. alqu adqanγu-lar-taqï. alqu türlüg
610 4 -lär üz-äki qarangγu qararïγ-lar-nïng tanuqlayu yrlïqamïš üčün
611 5 tuγmaq-sïz törün anïn adamïš ol tarïqmïš tep :: 又 tuγmaq-sïz
612 6 törün tanuqlayu yrlïqamïš üčün ymä ter 此正彼 :: ::
613 7 論 qaltï taryarmaq ärür alqu adqanγu-lar-taqï alqu bölük-lär-täki
614 8 qarangγu qararïγ-lar-ïγ tep 釋曰 alqu adqanγu-lar-taqï teptemiši ärsär
615 9 adqanγu bolur beš türlüg. qaltï öng nom. köngül nom. köngül-täki nom. köngül
616 10 -tä öngi nom. edigsiz nom ärür. bu beš türlüg nomluγ bilgülük adqanγu
617 11 -lar-ïγ. yerdinčü-täki-lär barča bilmäz-lär. yindäm burxan-lar oq yalanguz
618 12 tuyar-lar. birdämläti taryarmïš üčün alqu niz-vanï-lar-ïγ. anïn
619 13 söz-lämiš ol taryarmaq ärür alqu adqanγu-lar-taqï tep. alqu bölük
620 14 -lär-täki qarangγu qararïγ teptemiš-i ärsär. bölük ärsär inčip beš bölük
621 15 -lär ärür. qarangγu ärsär inčip bilmämäk tetir tep. 問 kkir-lig bilmämäk
622 21b-1 šu bolzun yumdaru tört kerdü-lär-tä ulatï bïšrunmaq yol-ta taryaryu
623 2 -luq kirsiz bilmämäk nädägin ymä ök yumdaru beš bölük-lär-tä taryaryuluq
624 3 bolur tep 答不染无知 kkir-siz bilmämäk yumdaru beš bölük-lär-tä
625 4 bolmaz. yindäm vačirapam dyan-ta oq taryaryuluq bolur. nä üčün andaγ
626 5 bolur teptesär. alqu türlüg-üg bildäči bilgä bilig-kä vačirapam dyan
627 6 -nïng ikinti kšan-ïnda tükäl-lig bolur birök bu tuš-ta tarïqmasar
628 7 kirsiz bilmämäk. nädägin bolur adï bolγalï alqu türlüg-üg bildäči bilgä
629 8 bilig tep 問 birök včirapam dyan-ta tarïqsar kirsiz bilmämäk. širavak
630 9 -lar ymä ök bulur-lar (ärip) bu dyan-ïγ nädägin taryarmaz-lar tep. 答 širavak
631 10 -ta ulatï-lar ärdmiš ödki yïd-ï-nïng yuq-ï-nïng küč-in kösün-in
632 11 küčsirädmämiš kävmämiš-kä umaz-lar uzun ödün bïšrunγalï. bilgä bilig
633 12 -lig yevig tizig-ig. tüz-ün yol yügärü bolmaq üz-ä näčä tarïqsar ymä
634 13 niz-vanï-lar yïdï yuq-ï anïlayu oq qalïr üčün anïn vačrapam dyan-ta
635 14 umaz-lar taryaryalï ol kirsiz bilmämäk-ig. 唯仏世尊 yindäm burxan
636 15 adï ködrülmiš-lär ök üč asanke kalp-lar-ta turqaru bïšrunmïš

如何にしてかと云えば、諸々の無知は眞實義を覆うこと、及び眞見を妨げることができる故に冥となると説いたのである。唯だ佛世尊のみ永く對治を得たまうて、一切境にある、一切種によるものにある、冥の不生法を證したまうた故に、それで滅したと稱した』(言一切種諸冥滅者謂滅諸境一切品冥以諸無知能覆實義及障眞見故説爲冥唯佛世尊得永對治於一切境一切種冥證不生法故稱爲滅) と。

論:「諸々の境にある、一切品にある冥を滅することである」(謂滅諸境一切品冥) と。

釋曰:「諸々の境にある」(諸境) と云った。境には五種ある。謂わく、色法、心法、心所法、心不相應法、無爲法である。この五種の法もてる所知の境を世間の者らは皆了さず、唯だ佛のみ獨り悟って永く諸惑を斷った故に、「諸々の境にある・・・滅することである」(滅諸境) と説いた。「一切品にある冥を」(一切品冥) と云った。「品」は即ち五品である。「冥」は即ち無知と云う、と。問:染無知は四諦及び修道を通して所斷となるべし。不染無知は如何にしてまた五品を通して所斷となるのか?と。答:不染無知は五品を通しては (所斷と) ならない。唯だ金剛喩定においてのみ所斷となる。何故そのようになるのかと云えば、一切種を知る智は金剛喩定の第二刹那において圓滿となる。もしこの位において、不染無知を斷たないなら、如何にして「一切種を知る智」と云う名になり得るだろうか、と。問:もし金剛喩定において不染無知を斷つのなら、聲聞らもこの定を得る。如何にして (彼らは) 斷たないのか?と。答:聲聞等は、過去世の習氣の力を減少させなかったので、智の資糧を長時間修することができない。聖道が現れることによって、如何に煩惱を斷っても、その習氣はなお殘る故、それで (かれらは) 金剛喩定において不染無知を斷つことができない。唯だ佛世尊のみ三阿僧祇劫において絶えず智の資糧を修したため、「諸煩惱の王」と云う無明煩惱の力を悉く奪い取る。

---

612 「此正彼」というのはウイグル文 bu köni ol「これが正しい」から作られた擬ウイグル漢文である:cf. 2930, 3952, 本文 1.1.8.1. 615(~618) qaltï öng nom から alqu niz-vanï-lar-ïγ までは節略漢文『實義疏』に對應文が有る:色法・心法・心所有法・不相應法及無爲法。於此五法所知境中。世皆不了。唯佛獨悟。永斷諸惑故。(大正 Vol.29, p.325b)。622 小詞 šu は 3978, 75B1659, D23 に現れ、いずれも動詞命令形と共に立つ。B1659 の例はちょうど『順正理論』の内容に對應している:ün šu bolz-un amrïlmaqï「聲可息」(聲は息むこと可たるべし)。birök tutulsar šu säkiz koošlardaqï yörüglärning kärgäklig tügünin yumdarïp uqïtzun「もし保たれているなら八俱舍にある義の要綱を總じて標すべし!」(D23). Käšyarï (2 p.259) には baryïl šu 'Go!'のごとく動詞命令形の後にこの小詞 šu がみられる。625 vačirapam dyan < Skt. vajra-upama- dhyāna = vajra-upama-samādhi「金剛喩定」。626 alqu türlüg-üg bildäči bilgä bilig「一切種を知る智慧」=「一切種智」。627 ikinti kšan-ïnda tükäl-lig bolur「第二刹那において圓滿となる」は ikinti kšan-ïnda tükäl-lig bolur üčün「第二刹那において圓滿となる故」を訂正した文である。ここでは訂正形式を採用した。629 včirapam = vačirapam. cf. 625. 631 yïd yuq の yïd は「香り、匂い」。yuq は Käšyarï (Part3 p.234) には yūq 'remainder of food (bowl)'. N. Uig.: yuq「付着在器物上的東西」may yuq-i「油垢」『維漢』(p.611)。yïd yuq は漢語の「習氣」「薰習」にあたる。634 vačrapam = vačirapam. cf. 625, 629.

637 22a-1 üčün bilgä bilig-lig yevig tizigig alqu niz-vanï-lar-nïng eligi
638 2 xan-ï tedmiš biligsiz niz-vanï küč-in kösün-in alqu barča qunup alïr
639 3 yindäm anïng adï oq qalïr. bu tïlday-ïn olurup včrasan örgün-tä
640 4 bulup včrapam dyan-ïγ uyur taryaryalï kirsiz bilmämäk-ig birdämläti
641 5 qalïsïz tep bar adïn baxšï-lar söz-läyür-lär. yalnguz včrapam dyan
642 6 üz-ä ök uyur ärmäz taryaryalï kirsiz bilmämäkin. ämgäk-tä nom
643 7 bilgä bilig taplay-tïn. ulatï vačrapam dyan-qadägi ikin ar-a
644 8 qayu öridmiš alqu aqïy-sïz bilgä bilig üz-ä barča uyur taryar
645 9 -yalï ol kirsiz bilmämäkig 何以故 nä üčün teptesär. kirsiz
646 10 bilmämäk ärür. yïd yuq. kim-ning yïd-ï yuq-ï ol teptesär.
647 11 ärür qamay-lïy. birlä yänä qamay-lïy-sïz iki biligsiz-ning yïdï yuq-ï
648 12 bu iki biligsiz ärür. yïd yuq-nung tayaq-ï munung tayaq-ï biligsiz
649 13 körmäk bïšrunmaq yol-lar-ta taryaryuluq bolsar. dayandačï yïd yuq
650 14 nädägin tarïqmaz-un bu tïlday-ïn ämgäk-tä nom bilgä bilig taplay
651 15 -tïn vačrapam dyan-qadägi tuš tuš sayu ikin ar-a biligsiz tarïqu
652 22b-1 tükädmäk üz-ä yïdï yuq-ï ymä eyin ök tarïqur üčün. anïn
653 2 öngdünki baxšï söz-lägüči vačrapam dyan-ta temin ök tarïqur kkir
654 3 -siz bilmämäk tegüči savïy munï saqïnmïš-ïngïz kärgäk tep 問爲復
655 4 世尊 azu yänä adï ködrülmiš-lär yindäm vačrapam dyan-ta taryarmaq
656 5 üz-ä ök mü kirsiz bilmämäk-ig. širavak-lar birlä adïrïlur azu
657 6 yänä taqï ymä bar mu adïn ädgü-lär-i širavak-lar birlä adïrïlyuluq tep
658 7 答 inčip burxan-lar-nïng ät'öz-indäki adïn alqu ädgü-lär-i barča
659 8 širavak-lar-nïng birlä qamay-lïy-sïz ärür. bu tïlday-ïn ken söz-lägüči sav
660 9 uz bolur. bu ken söz-lägüči üz-ä uqïdyalïr üčün qayu yörügüg tep
661 10 tesär. kirlig bilmämäk yumdaru beš bölük-lär-tä taryaryuluq bolsar.
662 11 kirsiz bilmämäk ymä ök yumdaru beš bölük-lär-tä bolur tep 問 kirlig birlä
663 12 yänä kirsiz iki türlüg bilmämäk-lär-ig adï ködrülmiš-lär taryaru tükäd
664 13 -sär-lär ymä nädägin taryarur-lar tep 答 šasdr-ta kändü söz-lämiš ol
665 14 inčä tep. bulu yrlïqap birdämlig yöründäk-in tuymaq-sïz törün
666 15 tanuqlayu yrlïqamïš üčün tep 此說何義 bu sav-ta nägü yörüg

唯だそれの名のみが殘る。これに因って金剛王座に坐り金剛喩定を得て永く無餘に不染無知を斷つことができる、と。有餘師が説く：獨り金剛喩定によってのみ不染無知を斷つことができるのではない。苦法智忍から乃至金剛喩定まで、二つの間に生じたところの一切の無漏慧によって悉く不染無知を斷つことができる。何故かと云えば、不染無知は習氣である。だれの習氣かと云えば、共、竝びに不共の二つの無知の習氣である。この二つの無知は習氣の依である。これの依（である）無知が見・修道において所斷となれば、能依である習氣が如何にして斷たれないものか、（斷たれるであろう）。これに因って、苦法智忍から金剛喩定まで、各位の間で無知が滅し終えることによって、その習氣も隨って滅する故に、先の師の説く「金剛喩定において方に不染無知を斷つ」と云う言、これを汝らは考えねばならない、と。問：或は世尊は唯だ金剛喩定において不染無知を斷つことによってのみ、聲聞らと差別されるのか？或は又、更に聲聞らと差別されるべき餘の德が有るのか？と。答：即ち佛らの身にある餘の一切の德は悉く聲聞らのものと不共である。これに因って、後に説く言は勝妙となる。この後に説くものは、何の義を顯わすためかと云えば、染無知が五品を通して所斷のものとなるなら、不染無知もまた五品を通して（所斷のものと）なる、と。問：染と俱に不染の二種の無知を世尊らが已に斷じたなら、（それは）如何にして斷ずるのか？と。答：論に自ずから次のように説いた：「永く對治を得たまうて、・・・不生法を證したまうた故に」（得永對治・・證不生法故）と。

637~639 alqu niz-vanï-lar-nïng eligi xan-ï tedmiš biligsiz niz-vanï küč-in kösün-in alqu barča qunup alïr yindäm anïng adï oq qalïr「諸煩惱の王という無明煩惱の力を悉く奪い取る。唯、それの名のみが殘る。」は次のように訂正されている： alqu niz-vanï-lar-nïng eligi xan-ï bolmïš biligsiz<-ning> küč-in kösün-in alqu barča qunup <alqïp> yindäm <qodar anï ad tägінčä qïlïp>「諸煩惱の王が成じた無明の力を悉く奪い取って、唯、それを棄てる。名のみとなして」。včrasan（= vačirasan）< Skt. vajra-āsana「金剛座」。642~643 ämgäk-tä nom bilgä bilig taplaγ「苦における法智忍」＝「苦法智忍」： cf. 雖於苦法忍位 nāčä ämgäk-tä nom taplaγtuuš-ïn-ta (B730-731). tapraγ は t'pr"q と綴られている。 645~646 kirsiz bilmämäk ärür yïd yuq「不染無知は習氣である」。この内容に類似する漢文： 此不染無知。即説名習氣（『順正理論』大正 Vol.29, p.502a）。647 qamaγ-lïγ「共通にもてる」＝「共」 qamaγ-lïγ-sïz「共通にもてるものなし」＝「不共」： cf. qaltï köngül köngültäki nomlar bir täk bar qamaγlïγ tïlday tep tuγup 「如心心所同共緣生」(B1680) tärs körüm sezik birlä yaradïlmïš ulatï qamaγlïγsïz biligsiz altïγu「邪見疑相應及不共無明六」(2846)。 657 adïrïlγuluq は "dyry'qwlwq と綴られている。664 šasdr は ssdr と綴られている。

667 23a-1 ol tep tesär bu (näng) öz töz üz-ä tarïqur ärmäz. (näng) öz-in ök inčip
668 2 tarïqur ärmäz. (näng ymä) adïn-tïn qud küsüš bulmaq üz-ä tarïqur ärmäz. bu
669 3 yöründäk uγur-ïnda anïn tarïqur amtï birdämlig teptemiš-i ärsär
670 4 bu iki türlüg bilmämäk-lär-ig birdämläti. taryarmïš üčün. anïn ad
671 5 -amïš ol birdämlig tep. <bulu> yrlïqap yöründäkin teptemiš-i ärsär uqïd
672 6 -ur. bilip öčmäkig bulmïš-ïn. tuγmaq-sïz törün tanuqlayu yrlïqamïš
673 7 üčün teptemiš-i ärsär. uqïdur bilmädin öčmäkig bulmïš-ïn. bu
674 8 iki türlüg sav-lar üz-ä uqïdγalïr üčün ärür qayu yörügüg tep
675 9 tesär :: ang'ilki qarangγuγ taryarmaq-lïγ yörügüg. ikinti taymamaq
676 10 -lïγ yörügüg. qarangγu taryaryalï umaq ärsär. bulmaq ärür bilip
677 11 öčmäk-ning yörügin. taymamaqïγ bulmaq ärsär. bilmädin öčmäk-ning
678 12 yörügi ärür tep :: bar adïn baxšï-lar söz-lär. birdämlig yöründäk-ig
679 13 bulmaq ärsär. tudulu tükädür bilip bilmädin öčmäk-lär munda nädäg
680 14 -in tudulur teptesär. birök bulmasar bilip bilmädin öčmäkig nädägin
681 15 birdämläti tarïqz-un. anïn birdämläti taryarmaq tegüči sav-ta tudulur
682 23b-1 bu iki yörüg-lär. yänä yöründäk ärsär. bu iki bilmämäk-lär-tä ärdmiš öd
683 2 -ki-si ärdä tükätdi yänä ikiläyü turmaz. ikiläyü kärgäk ärmäz taryaryalï.
684 3 alqu kälmädük ödki-si ärsär tuγmaduq üčün ymä ök kärgäk ärmäz taryaryalï.
685 4 bu közünür ödki-si ärsär kšan-ta ärdär kačär tayanmaz taryaryuluq basudčï
686 5 -qa üč öd-lär-tä barča yoq ärip amtï taryarur sayu ädig tep. munda
687 6 sezik bolmïš-qa taryaryalïr üčün bu sezikig anïn šasdr-ta söz-lämiš
688 7 ol. bulu yrlïqap birdämlig yöründäk-in. tuγmaq-sïz törün tanuqlayu
689 8 yrlïqamïš üčün tep. birök turmasar yöründäk-i munung uγur-ï yïq-ï
690 9 bolur ikiläyü turyuluq. bulu tükätdüktä yöründäkin munung bolmaz üčün uγur
691 10 -ï yïq-ï turyuluq anïn bilmiš kärgäk bulmaq üz-ä tuγmaq-sïz törün kim
692 11 kälmädük ödtä birdämläti ikiläyü turmaz üčün anïn söz-lämiš ol
693 12 bulu yrlïqap birdämlig yöründäk-in tep 復餘师云 yänä adïn
694 13 baxšï-lar söz-lär. bu söz-lämiš-ingiz-lär andaγ ärmäz. birdämlig yöründäk ärsär
695 14 bu birdämlig tegüči sav-ta tudulur tngri burxan-nïng ät'öz-indäki aqïγ
696 15 -sïz beš yükmäki nädägin mundaγ bolur tep tesär. tüz-ün yol uyur aqïγ-sïz

この言説に何の義があるのかと云えば（次のごとし）、決して自相によって滅するのではない、決して自ら即ち滅するのではない、決して餘から願を得ることによって滅するのでもない。これは對治に由って、それで滅する（という義である）。今、「永く」（永）と云ったのはこの二種の無知を永く斷った故に、「永く」と名づけたのである。「對治を得たまうて」（得・・對治）と云ったのは擇滅を得たことを顯わす。「不生法を證したまうた故に」（證不生法故）と云ったのは、非擇滅を得たことを顯わす。この二種の言は何の義を顯わすためなのか、と云えば、第一は冥を斷つことの義を、第二は不退の義を（顯す）。冥を能く斷つことは擇滅の義を得ることである。不退を得ることは非擇滅の義である、と。有餘師が説く：永く對治を得るなら、擇、非擇滅がよく攝せられる。ここで如何にして（それらが）攝せられるのか？と云えば、もし擇、非擇滅を得ないなら、如何にして永く滅するべきや。それ故に永斷と云う言においてこの二つの義は攝せられる。また對治なら、この二無知において過去世のものは已に謝滅した。また再び起こらない。更に斷つ必要はない。一切未來世のものは生じない故、斷つ必要もない。この現在世のものは刹那に過ぎ去る。所斷の緣に依らない。三世において全ては無であり、今、色々の物を斷つ、と。ここに疑いが成じたので、その疑いを斷つために、それで論に説いたのである：「永く對治を得たまうて、・・・不生法を證したまうた故に」と。もし對治が起こらなければ、これ（冥）は更に起こる容き機會がある。對治を已に得たとき、これ（冥）は起こる容き機會がない故に、不生法を得ることによって未來世に永く再び起こらない故、それで、「永く對治を得たまうて」と説いたと了ぜねばならない。また、餘師が説く：この、汝ら説いたものはその通りではない。「永く對治（を）」は、この「永く」と云う言において佛の體にある無漏の五蘊が攝せられる。

---

671 <bulu> yrlïqap yöründäkin「對治を得たまうて」は bu yrlïqap yöründäkin「これが對治を説いて」を訂正したもので、ここでは訂正形式を採用した。672~673 bilip öčmäk「知って滅すること」＝「擇滅」。bilmädin öčmäk「知らずに滅すること」＝「非擇滅」。681 birdämläti tarïq-「永く斷つ」＝「永斷」。696 nädägin munday bolur「如何にしてこのようになるのか」は<nädägin bilgäli bolur munday ärdükin>「如何にしてこうであつたことを知りうる」に訂正されている。

697 24a-1 beš yükmäk-kä bolγalï tïlday. aqïγ-lïγ beš yükmäk-ning.
698 2 tägšüdinčä ärür. ämgäk-tä nom bilgä bilig (taplaγ)-tïn vačirapam dyan-qadägi
699 3 ikin araqï qayu turmïš tüz-ün yol uyur öčürüp niz-vanï-lar-nïng
700 4 uruγ-ïn tuγuryalï aqïγsïž beš yükmäkig. bu aqïγsïž beš yükmäk
701 5 yöründäki bolup kirlig (birlä yänä) kirsiz iki türlüg bilmämäk-lär-kä. kim birdämläti
702 6 tuγurmaz. ikiläyü iš-i nägü ol bu bilip bilmädin öčmäkig. öngdün
703 7 söz-läti ärti kim. kälmädük ödki-sin birdämläti ikiläyü turγurmaz
704 8 tep :: bu kirlig kirsiz (bilmämäk-lär)-tä kälmädük ödki-si tuγmasar kälmädük ödtä
705 9 yoq bolu tükädmäk üz-ä nädägin (kim) taryarur. anïn bilmiš kärgäk :: täk öčür
706 10 -mäk üz-ä uruγ-ïn öz-in ök turmaz teptesär. bu söz-lägüči sav uz bolur
707 11 birök anday ärmäsär siz-lär söz-lädingiz-lär kirsiz tep kirsiz qayu ärür
708 12 birök söz-läsär siz-lär (ärür) yïd yuq tep töz-i yänä qayu ärür
709 13 birök söz-läsär siz-lär ärür pirapdi tep. tüz-ün yol-ta alqu niz-vanï-lar-nïng
710 14 pirapdi-sï barča tarïqu alqïnu tükädür ikiläyü bar qayu pirapdi ::
711 15 pirapdi nomïnga tayaq-lïγ-ïn turur. nomsuz turmaz bu ärür qayu-nung
712 24b-1 pirapdi(-sï) birök söz-läsär siz-lär ärür biligsiz-ning tep. nädägin tüz-ün yol
713 2 -ta tarïqmaz. birök tarïqmasar nädägin ikiläyü tuγum täginmäz. birök söz
714 3 -läsär siz-lär ärür yrlïγ-sïz bilgä bilig tep nädägin (munï) söz-läyür siz-lär bilm-ä
715 4 -mäk tep :: bu tïlday-ïn uruγ ärsär bu oq inčip ärür yït yuq. käzigdä
716 5 uruγ-uγ arïdmasar bulmïš ol yït yuq tegüči adïγ. bu oq inčip ärür
717 6 beš yükmäk. ikiläyü yoq angayu töz üz-ä. munung ymä ök adï bolur
718 7 kirsiz bilmämäk tep. munï kim uyur arïdyalï teptesär. yindäm burxan
719 8 adï ködrülmiš-lär ök uyur-lar üčün birdämläti arïdyalï. anïn söz
720 9 -lämiš ol kirlig birlä yänä kirsiz iki türlüg bilmämäk-lär-ning
721 10 yindäm burxan adï ködrülmiš-lär ök bulu yrlïqayur-lar birdämlig yörün
722 11 -täkin tep 此言断者 munda taryarmaq tep temiš-i ärsär. turur qayu
723 12 adqanyu orun-ta tep tesär. anïn šasdr-ta söz-lämiš ol alqu
724 13 adqanyu-lar-taqï tep. qayu bölük-täkig taryarur tepdesär. anïn
725 14 šasdr-ta söz-lämiš ol alqu bölük-lär-täkig tep. alqu bölük-lär
726 15 ärsär azu-ča ymä beš bölük-lär. azu-ča ymä toquz bölük-lär ärür.

如何にしてこのようになるのかと云えば、聖道は能く無漏の五蘊への因となる。有漏の五蘊の翻である。苦法智忍から金剛喩定まで、二つの間にあって、生じたところの聖道は煩惱の種子を滅して、能く無漏の五蘊を起こす。この無漏の五蘊は染竝びに不染の、二種の無知への對治となって永く起こさせない。更にその作用は何か？この擇、非擇滅が未來世にあるものを永く更に生じさせない、と先に説いた。この染、不染の無知における未來世のものが生じないのなら、未來世において已に無となることにおいて、如何にして、だれが斷つのか？。そこで知らねばならない。只だ、その種子を滅することによって、自ずと起こらないと云うのなら、この所説の言は勝妙となる。もしそのようでないのなら、「不染」と汝らは説いた。不染は何であるのか？もし「習氣である」と汝ら説くなら、その性はまた何であるのか？もし「得（prāpti）である」と汝ら説くなら、聖道において一切煩惱の得はことごとく滅盡し終える。更に何の得が有るのか？得はその法に依って起こる。法無くしては起こらない。これは何の得であるのか？もし「無知のもの」と汝ら説くなら、如何にして聖道において滅さないのか？もし滅さないのなら、如何にして更に生を受けないのか？もし汝ら「無記慧である」と説くのなら、如何にしてこれを「無知」と言うのか、と。これに因って、種子はこれ即ち習氣である。相續において種子を清淨しないなら「習氣」と云う名を得るのである。これは即ち五蘊である。更に別の性によるものは無い。これの名もまた「不染無知」となる。これをもし清淨することができると云うなら、唯だ佛世尊のみが永く清淨することができる故、それで、染竝びに不染の二種無知について、「唯だ佛世尊のみが、永くその對治を得たまう」と説いたのである。ここで「滅」と云った。何の緣ずる處において（冥が）起こるのかと云えば、そこで論に「諸々の境にある」（諸境）と説いた。何の品にあるものを滅するのかと云えば、そこで論に「一切品にあるものを」（一切品）と説いた。「一切品」は或は五品、或は九品ある。

---

698 tägšüdinčä は漢語の「違」「相違」「翻」に對應する：munung tägšüdinčä-si ärsär inčip tidip öngi üdrülgülük ayïγ ögli ärür 「違此即捨離」(1293) munung tägšütinčä-si ärür aqïγsïz nom 「與此相違是無漏法」(2865) [ätöz]lär öngi ulatï saqïnčlarï öngi ät'özläri öngi bir täk bir saqïnčlïγ munung tägšütinčä ät'özläri saqïnčlarï bir birlä yänä öngsüz asraqï üčägü ärür 「身異及想異身異同一想翻此身想一并無色下三」(H28 V15). 708 birök söz-läsär siz-lär (ärür) yïd yuq tep「もし「習氣である」と汝ら説くなら」は birök söz-läsär siz-lär yïd yuq ärür tep を訂正した文である。訂正文は漢文語順に從っている。709 pirapdi (/pirapti/) < Skt. prāpti「得、至得」。713 tarïqmasar「滅さないのなら」は<tarγarmasar>に訂正されている。意味に大きな違いはない。714 yrlïγ-sïz「教えの無い」=「無記」 cf. örtügsüz yarlïγsïz 「無覆無記」(4361, B910) qaltï ädgü ayïγ yrlïγsïz köngültä 「謂善不善無記心中」(H25 R55). 722 munda tarγarmaq tep temiš-i ärsär「ここで「滅」といった」このウイグル文に先行する文中漢文では「滅」に對して「斷」が書かれている。723 šasdr は ssdr と綴られている。

727 25a-1 bular-taqïγ azu birdämlig mü taryarur. azu yänä anča-qy-a
728 2 -lïγ mu tarγ(a)rur teptesär. anïn šasdr-ta söz-lämiš ol bulu yrlïq
729 3 -ap birdämlig yöründäkin tep. burxan adï ködrülmiš-lär bulu
730 4 yrlïqamïš üčün taymaq-sïz ädgüg. anïn šasdr-ta söz-lämiš ol
731 5 tuγmaq-sïz törün tanuqlayu yrlïqamïš üčün tep 問 nä üčün
732 6 söz-lädi alqu türlüg-lär üz-ä tep. yänä söz-lädi alqu bilgülük
733 7 nom-lar-ta tarïqmïš qarangγu qararïγ-lïγ-ïn tep 答 bular-ta tud
734 8 -ulur iki türlüg ädgü-lär-i. alqu türlüg-lär üz-ä teptemiši
735 9 ärsär. tudulur ol bilgä bilig-lig ädgü-si. alqu bilgülük nom-lar
736 10 -ta tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn teptemiši ärsär. tudulur ol taryar
737 11 -maq-lïγ ädgü-si 云何一切種言 nädägin alqu türlüg-lär üz-ä
738 12 tegüči sav-ta tudulur ol bilgä biliglig ädgü-si teptesär. bu bilgä
739 13 biligig adartdačï ärsär. qaltï biligsiz ärür. bu biligsiz-ig taryarsar
740 14 ödrü uyur uqulyalï tngri burxan-nïng ät'öz-indäki tïdïγ-sïz tud
741 15 -uγsuz bilgä biligi. ulatï alqu adqanγu-lar-ïγ adqandačï bilgä
742 25b-1 biligi. anïn bilmiš kärgäk alqu türlüg(-lär üz-ä) tegüči sav-ta tudulur ol bilgä
743 2 biliglig ädgü-si tep. nädägin alqu bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš qarang
744 3 -γu-luγ-ïn tegüči sav-ta tudulur ol taryarmaq-lïγ ädgü-si teptesär
745 4 alqu midik pardakčan-ta ulatï-lar umaz-lar taryaryalï kirlig bilm-ä
746 5 -mäkig. birök usar ymä anča-qy-a kävgäli bu odyuraq ikiläyü turur ::
747 6 širavak-lar piradikabud-lar näčä taryarsar-lar ymä kirlig bilmämäkig. adï
748 7 bolmaz taryarmaq-lïγ ädgü-si tep. kirsiz bilmämäkig anïlayu oq taryar
749 8 -maduq üčün yindäm burxan adï ködrülmiš-lär ök alqu adqanγu-lar-taqï
750 9 alqu bölük-lär-täki qarangγu qararïγ-lar-ïγ birdämläti (qalïsïz) taryarïp tuγmaq
751 10 -sïz tüz-ün tanuqlayu yrlïqamïš üčün anïn adï bolmïš ol taryarmaq-lïγ
752 11 ädgü-si tep. anï üčün alqu bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn
753 12 tegüči sav-ta tudulur ol taryarmaq-lïγ ädgü-si tep 問貪等諸惑
754 13 az-ta ulatï alqu niz-vanï-lar-ïγ. burxan-lar barča-nï birdämläti taryarur
755 14 (-lar) ärip. nä üčün vasubandu baxšï. yalnguz söz-lädi biligsiz-ig ök taryarmïš
756 15 -ïn tep 答 birök söz-läsär adïn niz-vanï-lar-ïγ yanduru tardïlyuluq bolur

これらにあるものを、或は永く斷つのか、或は暫く斷つのかと云えば、そこで論に「永く對治を得たまうて」(得永對治)、と説いた。佛世尊は不退轉の徳を得たまうた故に、論に「不生法を證したまうた故に」(證不生法故)、と説いた。問：何故「一切種による」(一切種) と説いたのか？また「一切所知の法において冥を滅した」(諸冥滅) と説いたのか？答：これらにおいては二種の徳が攝せられる。「一切種による」と云ったのは、智徳が攝せられる。「一切所知法において冥を滅した」と云ったのは、斷徳が攝せられる。如何にして「一切種による」と云う言において智徳が攝せられるのかと云えば、この智慧を害するものは、謂わく無知である。この無知を斷つなら即ち佛の體にある無障礙の智、及び一切境を縁ずる智慧が理解され得る。それ故「一切種による」と云う言において智徳が攝せられると知らねばならない。「一切所知の法において冥を滅した」と云う言において、如何にして斷徳が攝せられるのかと云えば：諸々の凡夫等は染無知を斷つことができない。たとえ暫くは弱めることができても、これは定んで更に起こる。聲聞、獨覺らは如何に染無知を斷っても「斷徳」と云う名にならない、不染無知を猶、斷じない故。唯だ佛世尊のみが一切境と一切品とにある冥を永く無餘に斷じて、不生法を證したまうた故に「斷徳」と云う名になったのである。それ故に「一切所知の法において冥を滅した」と云う言においてその斷徳は攝せられる、と。問：貪等の諸煩惱を、佛らは (その) 全てを永く斷つのであって、何故世親師は獨り無知のみ斷じたことを説いたのか？と。答：もし餘の煩惱らを説くなら、かえってその疑いを引くところとなったのである。

---

727 anča-qy-a「暫く」。 cf. birök usar ymä ančaqya kävgäli basyalï (746) näng turyurmaq üzä ančaqya ödlüg ädgü ašayïy ardatmaqïy「非起暫時壞善意樂」(H33 R45) qaltï ayïr yük yüdmišlig ančaqya ängintä ulatïlarïn tägšürmištäki tep ulatï täg「如荷重擔暫易肩等」(H37 R13). 738~739 bu bilgä biligig adartdačï ärsär「この智慧を害するものは」は<tïtdačï ärsär bu bilgä biligig>「この智慧を遮るものは」と訂正されている。語順は訂正文が漢文に近い。741 adqanyu は "dq"nqw と綴られている。746 kävgäli「弱める」は kävgäli basyalï「弱め押さえる」に訂正されている。751 tuymaq-sïz tüz-ün は tuyumaq-sïz törün「不生法」の誤りである：cf. 665, 672, 688. 755 yalnguz は ylnkwz と綴られている。756 birök söz-läsär adïn niz-vanï-lar-ïy yanduru「もし餘の煩惱らを説くなら、かえって」は birök söz<-lämiš ärsär> adïn niz-vanï-lar<-nïng-ïy yänä> yanduru「もし餘の煩惱のものを説いたなら、またかえって」に訂正されている。

757 26a-1 ärti bu sezik. inčip bu yörüg-tä bärk yarp bolγuluq ymä ök bar ärür
758 2 uγur-ï yïq-ï. küsämiš üčün (ärür) uqïdγalï. uluγ baxšï-nïng bilgä biligdä
759 3 ärksinmäk-lig-in. qayu-nung adï bolur ärksinmäk tep tesär. qaltï alqu-ta
760 4 tïdïγ-sïz tuduγ-suz bolmaq ärür. alqu tïnlγ-lar-nïng ärklig-lär-i-ning čarid
761 5 -lar-ï-nïng. sävig-lär-i-ning. taplaγ-lar-ï-nïng. bilip bašdïnqï ordunqï adaq
762 6 -taqï töz uγuš üz-äki adïrt-ïn. barča-qa umïš üčün asïγ tusu
763 7 qïlγalï. anïn adamïš ol alqu türlüg-üg bildäči bilgä bilig-lig tngri
764 8 -lär-ning yalnguq-lar-nïng baxšï-sï tep. qayu tïldaγ-ïn mundaγ bolur teptesär.
765 9 若能无倒 kim-lär usar könisinčä ongaru-sïnča qadïγlanu tavranu asïγ
766 10 tusu qïlγalï tïnlγ-lar-qa yaraši adï bolur baxšï tep. näčä qadïγlanu
767 11 tavranu asïγ tusu qïlsar ymä säkiz türlüg tädrülmäk-lär üz-ä tädrül
768 12 -miš<-lär-ning anïn adï bolmaz baxšï tep>. adï ködrülmiš-lär näčä
taryarsar-lar ymä
769 13 az-ta ulatï niz-vanï-lar-ïγ. birök taryarmamïš ärsär kirlig kirsiz-tä
770 14 (ulatï iki türlüg) bilmämäk-lär-ig bulmaγay ärti tïdïγsïz tuduγ-suz bilgä
771 15 biligig. birök bulmasar tïdïγ-sïz tuduγ-suz bilgä biligig. nädägin bolγay
772 26b-1 ärti üč uγuš-nung uluγ baxšï-sï tep (adaγalï). bu ärksinmäk bilgä
773 2 biligig tïdtačï ärsär. qaltï biligsiz ärür. anïn säčä ögmiš ärür biligsiz
774 3 -ig taryarmïš-ïn. söz-lämämiš ärür. adïn niz-vanï-lar-ïγ. adïn niz-vanï
775 4 -lar munda ämgäk üz-ä yaqïn yaγuq ämgädtäči ärmäz üčün anïn näčä barča
776 5 -nï taryarsar ymä. munda söz-lämämäki ärsär yaqïn yaγuq (tïdtačï) ärmäz üčün
777 6 tïdïγsïz tuduγsuz bilgä biligig tep 或此中 azu-ča ymä munda küsämiš
778 7 üčün ärür uqïdγalï adï ködrülmiš-ning iki türlüg öz-kä asïγ
779 8 qïlmaq-lïγ ädgü-lär-in anïn söz-lämiš < ol > taryarmïš-ïn bu kirlig birlä
780 9 yänä kirsiz iki türlüg bilmämäk-lär-ig. täk umaq-ï üz-ä taryar
781 10 -γalï bu iki türlüg bilmämäk-lär-ig. <inčip> büdün uqulur tngri burxan
782 11 -nïng iki türlüg öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-i. birök söz<-lämiš ärsär>
783 12 taryarmïš-ïn az övkä-tä ulatï-lar niz-vanï-lar-nïng taryarmïš-ïn
784 13 niz-vanï-lar-ïγ. ödrü umaz üčün büdün uqulγalï iki türlüg öz
785 14 -kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-i. anïn yindäm söz-läp taryarmïš-ïn iki
786 15 türlüg bilmämäk-lär-ig söz-lämämiš ol adïn niz-vanï-lar-ïγ :: azu

---

757~758 bu yörüg-tä bärk yarp bolγuluq ymä ök bar ärür uγur-ï yïq-ï「この義においては堅固となる容きところがある」。このウイグル文は bu yörüg-tä bärk yarp bolγuluq ymä ök bar ärür tïldaγ-ï「この義においては堅固となるべき因ある」に訂正されている。760 čarid(/čaritʌ) < Skt. carita「行、修業」。762 töz uγuš「種姓」。「種姓」は uγuš baγ によっても表される(1283, 1284)。763 qïlγalï は qγlqly と綴られている。768 tädrül-miš<-lär-ning anïn adï bolmaz baxšï tep>「顛倒したものらの、その名は「師」とならない」は訂正された文である。訂正⇒

即ちこの義においては堅固となる容きところがある。大なる師の智慧において、その自在力を顕わすことを欲したためである。何が「自在」と云う名になるのかと云えば、謂わく一切において無障礙となることである。一切衆生の根、行、愛、忍の上、中、下にある種姓における差別を知って、全てに利益をなし得た故に、「一切種を知る智慧もてる、天ら、人らの師」と名づけた。何に因って、このようになるのかと云えば、もし正しく精進し能く衆生に利益をなすなら、その名は「師」と云うに相應しい。如何に精進して利益をなしても、八種の顛倒によって顛倒したものらの、その名は「師」とはならない。世尊が如何に貪等の煩惱を斷っても、もし染、不染等の二種無知を斷たなかったなら、無障礙の智を得なかったであろう。もし無障礙の智を得ないなら、どうして「三界の大師」と名づけることができたであろうか。この自在慧を妨げるものは、謂わく無知である。それ故に特に無知を斷ったものを讃じたのである。餘の煩惱を説かなかったのは、餘の煩惱はここで苦において直接に損ずるものではない故。それ故に如何にすべてを斷っても、ここに説かないのは無障礙の智を直接に妨げるものではない故、と。或はここにおいて世尊の二種の自利德を顯わすことを欲した故である。それでこの染竝びに不染の二種の無知を斷ったことを説いたのである。單にこの二種無知を能く斷つことによって、而して佛の二種の自利德が完全に理解される。もし貪、瞋などの煩惱を斷ったことを説いても、即ち二種の自利德は完全には理解され得ないため、それで唯だ二種無知をのみ斷ったことを説き、餘の煩惱を説かなかったのである。

前は：tädrül-miš üčün baxšï adanmaz-lar「顛倒した故に、彼らは「師」とは名付けられない」。 ここでは訂正文を採用した。taryarsar は t'rqrs'r と綴られている。769~770 kirlig kirsiz-tä (ulatï iki türlüg) bilmämäk-lär-ig「染、不染等の 770 二種無知を」は訂正された文である。訂正前は：kirlig kirsiz-tä bilmämäk-tä ulatï-lar-ïγ「染・不染、無知等を」。ここでは訂正文を採用した。774~776 adïn niz-vanï-lar munda ämgäk üz-ä yaqïn yaγuq ämgädtäči ärmäz üčün anïn näčä barča-nï taryarsar ymä「餘の煩惱はここで苦において直接に損ずるものではない故。それ故に如何にすべてを斷っても」は adïn niz-vanï-lar <munday osuγ-luγ> ämgäk üz-ä yaqïn yaγuq <iiš-läšdäči> ärmäz üčün anïn näčä < alqu-nï barča> taryarsar ymä「餘の煩惱らを説かなかったのは、餘の煩惱はこのごとき苦において直接に結びつくものではない故に。それで如何に一切をことごとく斷っても、」に訂正されている。779 söz-lämiš < ol >は söz-lämiš < ärür > を訂正したものである。意味はいずれも「説いたのである」。781 inčip は ödrü を訂正したものである。漢語の接續詞 1「而」2「即」3「則」4「乃」5「方」はかなり正確に 1 inčip, 2 ol oq, 3 ötrü, 4 temin, 5 temin (ök)に譯し分けられる。782 birök söz<-lämiš ärsär>は birök söz <-läsär >を訂正したものである。783~784 az övkä-tä ulatï-lar niz-vanï- lar-nïng taryarmïš-ïn niz-vanï-lar-ïγ「貪、瞋などの煩惱が斷ったことを、煩惱を」は次のように訂正されている：az övkä-tä ulatï niz-vanï-lar <-ïγ > taryarmïš-ïn niz-vanï-lar-ïγ「貪、瞋などの煩惱を斷ったことを、煩惱を」。しかし、訂正文も含めてもとの文は ulatï-lar の-lar から taryarmïš-ïn までが點線で圍まれている。この圍みは、内容が後文と重複するので削除することを意味している。すなわち最終的には az övkä-tä ulatï niz-vanï-lar-ïγ「貪、瞋などの煩惱を」となる。譯文ではこれを採用した。轉寫テキストもそう改めるべきであるが、説明に便利なのでもとの文を殘した。789 uyur の後に üčün「故」が插入されている。

787 27a-1 -ča ymä küsämiš üčün bildürgäli taryarmïš-ïn alqu niz-vanï-lar
788 2 -nïng töz-in tüpin anïn yindäm söz-lämiš ol. biligsiz-ig ök
789 3 taryarmïš-ïn. nädägin teptesär. bu biligsiz uyur. alqu uluy kičig
790 4 niz-vanï-lar birlä uzadï birlä yaradïlïp turyalï (näng bu) biligsiz basud
791 5 -lamaq-ïnča adïn niz-vanï-lar-nïng bolmaz uyur-ï yïqï turyalï uyu
792 6 -luq. biligsiz-tä taš öngi ikiläyü yoq adïn niz-vanï-lar. alqu niz
793 7 vanï-lar birlä uzadï birlä yaradïlïp turdačï. anïn bilmiš kärgäk
794 8 täk taryarduq-ta biligsiz-ig. adïn niz-vanï-lar barča tarïqur. bu
795 9 tïldaγ-ïn vasubandu baxšï yalnguz söz-lämiš ol biligsiz-ig ök
796 10 taryarmïš-ïn yörüg töz-inčä ärsär. čïnkertü ymä ök taryarmïš ärür
797 11 adïn niz-vanï-lar-ïγ. nädägin teptesär. biligsiz ärür üčün
töz-i
798 12 tüpi. anïn bašlaγ qïlïp uqïdmïš ärür :: 或聲聞覺 azu
799 13 -ča ymä širavak-lar piradikabud-lar ymä ök taryarur-lar az-ta ulatï
800 14 niz-vanï-lar-ïγ. birök amdï söz-läsär. adï ködrülmiš-lär-ning ymä
801 15 ök az-ïγ taryarmïš-ïn. alqu širavak-lar birlä bolur qayu adïrtï.
802 27b-1 anï üčün burxan adï ködrülmiš-lär büdün umaq üz-ä taryaryalï
803 2 ol kirlig birlä yänä kirsiz iki türlüg bilmämäk-lär-ig. širavak-lar
804 3 birlä adïrïlur. inčip širavak-lar ymä ök taryarur-lar kirlig bilmämäk
805 4 -ig. kirsiz bilmämäkig bir yindäm taryarmamaq üz-ä burxan-lar birlä
806 5 büdün adïrïlur. anï üčün yindäm ögüp adï ködrülmiš-ning biligsiz
807 6 -ig taryarmaq-lïγ ädgü-sin söz-lämämiš ol. adïn niz-vanï-lar-ïγ taryar
808 7 -mïšïn tep. 問 :: täk söz-lämäk üz-ä taryarmaq-lïγ ädgü-sin. bilgä bilig
809 8 -lig ädgü-si öz-in ök büdz-ün nädägin teptesär. bilmämäkig taryarmaq
810 9 üz-ä. bilgä biliglig ädgü-si öz-in ök uqulmaq-ïndïn. nä kärgäk taryar
811 10 -maq-lïγ ädgü-sindä taš öngi ikiläyü söz-läp bilgä biliglig ädgü-sin
812 11 tep 答 yörüg töz-inčä ärsär čïnkerdü mundaγ ol. munung (ymä ök bar ärür)
uyur-ï birök
813 12 yoq ärsär bilgä biliglig ädgü-si. birök yoq ärsär taryarmaq-lïγ ädgü-si
814 13 ulatï burxan qudïn bulγïnča-qadägi bärü. öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin
815 14 umaz-lar tolu tükäl qïlyalï. näčä täk söz-lämäk üz-ä taryarmaq-lïγ
816 15 ädgü-sin. ymä ök sïγsar ymä bilgä biliglig ädgü-si 又 tudulsar ymä/ter ::

790~791 biligsiz basudlamaqïnča「無知を助けるものとして」は、本來なら biligsiz に與格接尾辭が付いて bubiligsiz-kä basudlamaqïnča となるべきである。adïn「他の」の後に öngi「異なる」が插入されている。794 täk taryarduq-ta biligsiz-ig「單に無知を斷つことにおいて」は täk <taryarmaq üz-ä> biligsiz-ig「單に無知を斷つことによって」に訂正されている。796~798 čïnkertü ymä ök taryarmïš ärür adïn niz-vanï-lar-ïγ. nädägin teptesär「眞實また餘の煩惱をも斷ったのである。如何にしてといえば」は čïnkertü ymä ök <bolmïš ärür>adïn niz-vanï< -lar-ïγ taryarmïš-ï>. nädägin teptesär (ymä).「眞實また餘の煩惱を斷ったものとなったのである。如何にしてといえども」に訂正されている。800~801 amdï söz<-läsär>. adï ködrülmiš-lär-ning ymä ök az-ïγ taryarmïš-ïn. alqu širavak-lar birlä <bolur qayu> adïrtï「今、世尊もまた貪を斷ったことを說くなら、諸々の聲聞らと何の異なりがあるのか？」は amdï söz< -lämiš ärsär > adï ködrülmiš-lär-ning ymä ök az-ïγ taryarmïš-ïn. alqu širavak-lar birlä <bolγay ärdi nägü> adïrtï「今、世尊がまた貪を斷ったことを說いたなら、諸々の聲聞らと何の差別があっただろうか？」に訂正されている。

或は一切の煩惱の根本を斷ったのを示すことを欲した故、それで唯だ無知をのみ斷ったことを説いたのである。如何にしてかと云えば、この無知は常に能く一切の大小の煩惱と相應して起こる。決してこの無知を助けるものとして、他の煩惱の起こり得る容きことはない。無知よりほかに、更に餘の煩惱で、一切の煩惱と常に相應して起こるものは無い。それ故、單に無知を斷つことにおいて餘の煩惱は全て滅する（と）知らねばならない。これに因って世親師は獨り無知をのみ斷つことを説いたのである。理としては眞實にまた餘の煩惱をも斷ったのである。如何にしてかと云えば、無知がその根本である故に、それで代表として顯わしたのである。或は、聲聞ら、獨覺らもまた貪等の煩惱を斷つ。今、世尊もまた貪を斷ったことを説くなら、諸々の聲聞らと何の異なりがあるのか？それ故に佛世尊は染と不染の二種の無知を完全に斷つことができることにおいて聲聞らとは異なっている。即ち聲聞らもまた染無知を斷つ。唯一、不染無知を斷たないことにおいて佛らと全く異なるのである。それ故に唯だ、世尊の無知を斷つ徳のみを讃じて、餘の煩惱を斷ったことは説かなかった、と。問：單に斷徳を説くことによって、智徳も自ずから成ずべし。如何にしてと云えば、無知を斷つことによって智徳は自ずと理解されるのである故。何の必要で斷徳よりほかに、更に智徳を説くのか？と。答：理としては眞實このごとくである。（しかし）これにはまた條件がある。もし智徳がないなら、もし斷徳がないなら、更に佛果を得るまでずっと、（かれらは）自利徳を圓滿にすることができない。

---

802 anï üčün burxan adï ködrülmiš-lär「それ故に佛世尊は」の burxan「佛」には削除記號が付せられている。809~809 bilgä bilig-lig ädgü-si öz-in ök büdz-ün「慧徳は自ら成ずべし」は bilgä bilig-lig ädgü-si öz-in ök <inčip büdmiš bolur ärti 又 büdär yarayur ärti ymä ter.>「慧徳は自ら即ち成ずるのであった。又、成就するのであった、ともいう」（すなわち「慧徳は自ら即ち成就するのであった」）に訂正されている。812~816 birök yoq ärsär bilgä biliglig ädgü-si. birök yoq ärsär tarγarmaq-lïγ ädgü-si ulatï burxan qudïn bulγïnča-qadägi bärü. öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin umaz-lar tolu tükäl qïlγalï näčä täk söz-lämäk üz-ä tarγarmaq-lïγ ädgü-sin. ymä ök sïγsar ymä bilgä biliglig ädgü-si 又 tudulsar ymä/ter.「もし智徳がないなら、もし斷徳がないなら、更に佛果を得るまでずっと、（かれらは）自利徳を圓滿にすることができない。如何にただ斷徳を説くこと以てまた智徳が攝せられても」。 このウイグル文は次のように訂正されている：birök yoq ärsär bilgä biliglig ädgü-si. <kim-lär-ning> yoq（ärti）ärsär tarγarmaq-lïγ ädgü-si ulatï burxan qudïn bulγïnča-qadägi bärü. öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin <umaγay ärti> tolu tükäl qïlγalï näčä täk söz-lämäk üz-ä tarγarmaq-lïγ ädgü-sin. ymä ök ymä bilgä biliglig ädgü-si 又 tudulsar ymä/ter「もし智徳がないなら、だれかに斷徳がなかったなら、更に佛果を得るまでずっと、自利徳を圓滿にすることができないであろう。如何にただ斷徳を説くこと以てまた智徳が攝せられても」。816 の「又・・ymä/ter」は sïγsar ymä「入れども」を tudulsar ymä「取られども」に置き換えたものである。和譯では後者を採用して「攝せられても」と譯した。この邊りのウイグル文は北區石窟本に對應する：1) birök yoq ärsär 2) [tarγarmaq-lïγ ädgü-si] 乃至 ulatï 3) [burxan qudïn] bulγïnča-qadägi bärü. 4) [öz-kä] asïγ qïlmaq-lïγ ädgüsin 5) [umaz-lar t]olu tükäl qïlγalï 又 birök 6) [ ] ärsär tarγarmaq-lïγ ädgüsi 7) [ ]'ty tolu tükäl qïlγalï 8) [ymä/ter . näčä t]äk söz-lämäk üz-ä ta[r] 9) [γarmaq-lïγ äd̲g]ü-sin. ymä ök sïγs[ar ymä]（B157:15-3 背 Mirkamal（2005） p.3）. 北區石窟本は基本的には訂正前のウイグル文に一致する。ただ、814 の ulatï の前に「乃至」を插入し、812 の birök から 815 の qïlγalï までを「又・・（ymä/ter）」でもって訂正している。ただ缺損があるので訂正の内容は不明である。

817 28a-1 inčip küsämiš üčün bäkiz bälgülüg tükäl söz-lägäli iki türlüg
818 2 ädgü-lär-in. kim alqu yerdinčü-täki-lär-kä bildür-gäli üčün tngri burxan
819 3 -nïng tükäl-ligin bilgä biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü
820 4 -lär-kä. bu tïldaγ-ïn söz-lämiš ol ikigü-ni tep 問聲聞緣覺
821 5 širavak-lar piradikabud-lar ymä ök yarašï taryaryu ärip iki türlüg
822 6 bilmämäk-lär-ig. birök yindäm taryarsar bir-in nädägin bolur adaγalï
823 7 bošγud-suz tep 答 yörüg töz-inčä ärsär yarašï andaγ oq ol. birök tar
824 8 -γarmasar iki türlüg bilmämäk-lär-ig adï bolmaz bošγud-suz tep. ol kir
825 9 -lig bilmämäk yangïldurur (üčün) kerdü-lär-ning yörug
826 10 -in angbašlayu kerdü-lär-ig körmiš ödtä ödrü uyur käzdä taryar
827 11 -yalï :: ol kirsiz bilmämäk (ärsär) yangïlur (üčün) adqanγu-luq äd-lär-tä 又 (azïdur) yangïldu
828 12 -rur (üčün) adqanγu äd-lär-ig ymä/ter bïšrunmaq yol-ta uzun ödün bïšrunmaq
829 13 ögrädinmäk üz-ä temin ök uyur-lar taryaryalï alqγalï. alqu

817~820 inčip.....tep までのウイグル文は次のように訂正されている：inčip (uγramïš) küsämiš üčün bäkiz bälgülüg (qïlïp tüzü) tükäl söz<-lämäk üz-ä bu iki> türlüg ädgü-lär-in. kim alqu yerdinčü-täki-lär-kä bildür<-gäli> tngri burxan-nïng. <tüzü tükäl-lig ärtükin> bilgä biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-kä. bu tïldaγ-ïn söz-lämiš ol <iki türlüg ädgü-lär-in> tep「而して、この二種徳を明確にし、完全に説くことによって、一切世間のものらへ、佛が智斷の二種徳において圓滿であったことを教えることを欲し望んだため、これに因って、二種徳を説いたのである、と」。821~823 širavak-lar..... bošγud-suz tep は次のように訂正されている： širavak-lar(-qa) piradikabud-lar (-qa) ymä ök yarašï <ärip taryaryalï>iki türlüg bilmämäk-lär-ig. birök yindäm taryarsar bir<-sin ök> nädägin bolur adaγalï bošγud-suz <tep adaγalï tep>「聲聞、獨覺に相應しく、二種無知を斷とうとして、もし唯、その一つのみを斷つなら、如何にして、無學と名づけることができるか、と」。ただし、訂正前の adaγalï には削除記號が入れられるべきである。824 adï bolmaz bošγud-suz tep「その名は「無學」とはならない」は adï <bolmayu kärgäk> bošγud-suz tep「その名は「無學」となるはずはない」に訂正されている。

如何に只だ斷德を説くこと以てまた智德が攝せられても、この二種德を明確に完全に説くことを欲したために、佛が智斷の二種德に圓滿であることを一切世間のものらへ教えるために、これに因って、二種を説いたのである、と。問：聲聞、獨覺も二種無知を巧く斷つが、もし唯だ一つのみを斷つのなら、如何にして（彼らを）「無學」と名づけることができるのか？と。答：理としては、適っておりその通りである。もし二種の無知を斷たないなら、その名は「無學」とはならない。染無知は諦の義を迷わせるため、最初に諦を觀じたときに、そこで直ちに斷つことができる。不染無知は所緣の事を迷わせるため修道において長時間修習することによってのみ、方に斷盡することができる。

824~826 ol kir-lig bilmämäk yangïldurur (üčün) kerdü-lär-ning yörüg-in「その染無知は諦の義を迷わせるため」は次のように訂正されている：ol kir-lig bilmämäk yangïlur 又 yangïldurur <又 azïdur ymä/ter> ymä tegü täg :: (üčün) kerdü-lär-ning yörüg-in(-tä)「その染無知は諦の義において誤らせるため」。ここでは部分的に訂正部分も採用した。827~828 ol kirsiz bilmämäk (ärsär) yangïlur (üčün) adqanyu-luq äd-lär-tä 又 (azïdur) yangïldu-rur (üčün) adqanyu äd-lär-ig ymä/ter を直譯すれば「その不染無知は所緣の事において誤るため、又、境の事を誤らせるためともいう」。ここでは部分的に訂正を採用し次のようなウイグル文を和譯した：ol kirsiz bilmämäk (ärsär) yangïldu-rur (üčün) adqanyu-luq äd-lär-ig「その不染無知は所緣の事を迷わせるため」。adqanyu は "dq'qw と綴られている。adqanyuluq ädlär「所緣の事」について、3392 では同じ形式が立つが、3258 では äd の位置に vasdu が，2810 では sav が立つ。一方、北區石窟本は 827-837 と對應する部分を有する：1)äd-lär -tä [ ] 2)toquz orun-lar-ta bi[ ] 3)bïšrunmaq-taqï niz- vanï-lar[ ] 4)bilmämäk-ning adqandačï-sïn ymä [ök] 5)eyin edärišdürü taryarur [ ] 6)bu eyin edärišü tarïqsar [ ] 7)-qï niz-vanï-lar-ta qat [ ]8)ögrädig-ning küči [ ] 9)[uyurïn]ta anïn yrlïy-sïz [ ] 10)[ ] ät'öz [ ](B157:15-3 正 Mirkamal(2005) p.4). この北區石窟本のウイグル文は抜粋文である。兩者の對應箇所は以下の通りである：

北區石窟本	ロンドン本	北區石窟本	ロンドン本
1)	827	5)-6)	834
2)	830	7)-8)	835
3)	831	9)-10)	836
4)	833		

830 14 bošγud-suz-ta ulatï-lar üč uγuš-lar-taqï toquz orun-lar
831 15 -taqï. säkiz on bir bïšrunmaq-taqï niz-vanï-lar-ta qamaγ-ta
832 28b-1 angken adaq-taqï-ta adaq-taqï bölüklüg bïšrunmaq-taqï niz-vanï-lar
833 2 -ïγ taryarmïš ödtä 此不染无知 bu kirsiz bilmämäk-tä adqandačï
834 3 -sïn ymä ök 相從 (eyin) edärišdürü taryarur(-lar) näčä edärišdürü taryarsar
835 4 ymä ašnu-qï niz-vanï-lar-ta tüšüd ögrädig qïlmaq-lïγ küči (kösüni) uγur
836 5 -ïnda anïn yrlïγ-sïz (bolmïš ödtä) ät'öz til-tä ulatï-lar(-ï) bu yänä yügärü
837 6 turur. ašnu pardakčan tuš-ta<qï> niz-vanï-lar yügärü yorïmïš
838 7 -qa oxšadï. qaltï beš bilig-lär-tä adqantačï-sïn näčä
839 8 taryarsar ymä adqanγu-luq adqanγu-ta ulatï-lar-ta yanduru
840 9 yänä yügärü yorïmïš täg. < birikmäz alqu > burxan-lar-nïng adqan
841 10 -tačï adqanγuluq niz-vanï-lar-nïng yïd-ïn yuq-ïn birdämläti
842 11 qalïsïz taryarmïš-qa. qaltï kalp bašlaγ-ïndaqï oot turduq-ta
843 12 ördäp alqu yerdinčüg ikiläyü bolmamïš(-ï) täg qalmïš qalïn
844 13 -ču kkül-i kömür-i ymä 故无學等 anïn bošγud-suz-ta ulatï

831 toquz orun-lar-taqï「九地にある」は toquz orun-lar<-ta bolmïš>「九地に成じた」と訂正されている。bïšrunmaq-taqï niz-vanï-lar「修することにある煩惱」=「修惑」。833~835 bu kirsiz bilmämäk-tä adqandačï-sïn ymä ök 相從 (eyin) edärišdürü taryarur(-lar) näčä edärišdürü taryarsar ymä「この不染無知における能縁をまた相從させて斷つ。如何に相從させて斷じても」は次のように訂正されている：bu kirsiz bilmämäk <-nïng> adqandačï-sïn ymä ök 相從 (eyin) edärišdürü taryarur(-lar) näčä <eyin edärišü tarïqsar> ymä「この不染無知の能縁をまた相從させて斷つ。如何に相從し滅しても」。eyin edärišdürü の譯語「相從」はウイグル文中の漢文に從った。tüšüd は BTT XIII (Zieme 1985 p. 239)に tüšüt ögrätig として現れる。Zieme はこれに 'Denken' の譯語を與えている。しかし、75B 2356 には「慣 tüšüd-lüg üčün」のごとく tüšüd-lüg に漢語「慣」が冠されている。835 の tüšüd ögrädig も「慣」あるいは「慣習」として分脈を損なわないので、この意味を採用したい。

一切の無學等は、三界九地にある八十一修惑において、最後の、下の下にある品の修惑を斷ったときに、この不染無知における能縁をまた相從させて斷つ。如何に相從させて斷じても、先の煩惱において慣習となす力に由って、無記となったときに身口等（の業）は、これはまた現に起こる。先の凡夫位にある煩惱が現行したものに類似している。猶、五識において能縁を如何に斷っても、所縁境等において、かえってまた現行したごとし。諸佛が、能縁、所縁の煩惱の習氣を永く無餘に斷ったことと同じではない。猶、劫初の火が起こったときに、ことごとく世界を燒いて、更に殘餘の灰燼も無かったごとし。

836~837 yrlïγ-sïz (bolmïš ödtä) ät'öz til-tä ulatï-lar (-ï) bu yänä yügärü turur「無記となったときに身口等(の業)は、これはまた現に起こる」は訂正された文である。訂正前は：yrlïγ-sïz ät'öz til-tä ulatï-lar ödintä bu yänä yügärü turur「無記の身口等の時に、これはまた現に起こる」。837~838 ašnu pardakčan tuš-ta<qï> niz-vanï-lar yügärü yorïmïš-qa oxšadï「先の凡夫位にある煩惱が現行したものに類似している」は次のように訂正されている：ašnu (-qï) pardakčan tuš-ta< -qï> niz-vanï-lar (-nïng yüüz) yügärü yorï<-maq-ïnga> oxšadï「先の凡夫位にある煩惱の現行に類似している」。ここでは tuš-ta<-qï>「位にある」のみ修正形式を採用した。修正前は tuš-ta ärkän「位にあるとき」と書かれていた。840~842 yügärü yorïmïš täg「現行したごとし」は (yüüz) yügärü yorïmïš (-ï) täg と訂正されている。< birikmäz alqu > burxan-lar-nïng adqan-tačï adqanγuluq niz-vanï-lar-nïng yïd-ïn yuq-ïn birdämläti qalïsïz taryarmïš-qa「諸佛が、能縁、所縁の煩惱の習氣を永く無餘に斷ったことと同じではない」は訂正された文である。ただし、末尾の taryarmïš -qa は實際には taryarmïš <-ïnga>に訂正されている。訂正前の文は：< alqu > burxan-lar-nïng < bir täk ärmäz > adqan-tačï adqanγuluq niz-vanï-lar-nïng yïd-ïn yuq-ïn birdämläti qalïsïz taryarmïš-qa. 兩文の内容に大きな違いはないがここでは訂正文を採用した。kalp bašlaγ「劫の初め」＝「劫初」。「劫火」は本來「劫末」に起こるものである。kalp < Skt. kalpa. 843 yerdinčüg「世界を」は訂正されている。訂正前は yerdinčü-täki.

845 14 -lar. kirsiz bilmämäkig bïšrunmaq yol-luγ tuš-ta adqandačï
846 15 ät'öz-täki til-täki-sin edärišdürü taryarur-lar üčün anïn
847 29a-1 bular bulmïš ol taryarmïš tegüči adïγ :: anïng yïtï yuq-ï adqan
848 2 -γuluq adqanγu bolmaq-lïγ iš-in tuda ken yänä yügärü turur üčün
849 3 anïn bu šasdr-ta söz-lämiš ol. anïlayu oq taryarmaduq üčün tep
850 4 ulatï. ikigü-tä birlä bolmaz mün qadaγ. ol kirsiz bilmämäk-ning töz
851 5 -in yörügin basa ken kengürü yörgäy biz tep. 問 kirsiz bilmämäk<-ning>
852 6 bošγud-suz-lar<-ta> yügärü yorïyur tegüči sav-qa qayu-nï üz-ä
853 7 tanuq qïlur siz-lär tep 答 munï üz-ä sezik ayïdmïš üčün šasdr
854 8 -ta käntü kikinč berü söz-lämiš ol :: šasdr-ta söz-lädi ärti ::
855 9 širavak-lar piradikabud-lar näčä taryarsar-lar ymä alqu qarangγu
856 10 qararïγ-lar-ïγ. kirlig bilmämäkig ök birdämläti taryarur-lar
857 11 üčün. näng alqu türlüg-lär üz-äkig ärmäz. nä üčün teptesär
858 12 burxan nomïndaqï. ärdä ïraq ödtäki orun-taqï ulatï alqu
859 13 yörüg uγuš-ï-nïng učsuz qïdïγ-sïz adïrdïn-taqï kirsiz
860 14 bilmämäkig anïlayu oq taryarmaduq üčün tep üsdürti bärü-ki
861 15 šasdr-taqï girant-ïγ munda basa (qodï) bölä adïrtlayu yörär.
862 29b-1 釋曰 nädägin adadï širavak teptesär. äšidip tört kerdü-lär
863 2 -ning yörügin. ymä ök kim adïn-lar-qa äšidtürüp. yörüg eyin
864 3 bïšrunup ögrädinip ädgü-tä ymä ök kim adïn-lar-qa ögrädip
865 4 ün äšidmäk-tin tuyar üčün <yol-uγ>. anïn adamïš ol širavak
866 5 tep. piradikabud teptemiš-i ärsär. qaltï <öz-in ök tuyunup> adïn(-lar)-tïn
867 6 tuyunmaz üčün azu-ča ymä up käntü öz-i turulγalï yavalγalï
868 7 turuldurmaz yavaldurmaz üčün adïn-lar-ïγ anïn adamïš ol pradikabud
869 8 tep 雖滅諸冥 näčä taryarsar-lar ymä alqu qarangγu qararïγ-lar
870 9 -ïγ. vasubandu baxšï köngül-indä taplamïš üčün širavak-lar pradikabud
871 10 -lar taryaru tükädür-lär kirlig bilmämäkig (ök) tep anïn urmïš ol näčä
872 11 tegüči savïγ tep 問 kirlig bilmämäkig birdämläti taryarur tep
873 12 tedi ärti. nädägin bolur bilgäli širavak-lar-nïng pradikabud-lar-nïng
874 13 kirlig bilmämäkig birdämläti taryarmïš-ïn tep 答 ol širavak
875 14 -ta ulatï-lar. birök taryarmasar bu kirlig bilmämäkig ödrü bolur
876 15 üč türlüg kirikmäk-lär-ning turmaq-ï. qaltï niz-vanï üz-ä

故に、無學等は、不染無知を、修道位において、緣ずる身口を相從させて斷つ故に、これらは「斷った」（斷）と云う名を得たのである。それの習氣が所緣の境となる作用を得て、後にまた現に起こる故に、それでこの論に「猶未だ斷たなかった故」（猶未斷故）と説いたのである。更に兩方において共に過失とはならない。我らは不染無知の性と義を更に後で廣釋するであろう、と。問：不染無知が無學らに現行すると云う事に對して汝らは何を以て證となすのか？と。答：これにおける問いかけのために、論に自らから答えて説いたのである。

論に曰く『聲聞ら、獨覺らは如何に諸々の冥を滅すといえども、染無知をのみ畢竟じて斷ずる故に。決して一切種におけるものを（斷ずるの）ではない。何故と云うなら、佛法にある、極遠の、時にある處にある、及び諸々の義類の無邊の差別にある、不染無知を猶未だ斷たなかった故』（聲聞獨覺雖滅諸冥。以染無知畢竟斷故非一切種。所以者何。由於佛法極遠時處及諸義類無邊差別。不染無知猶未斷故。）と。上の論にある文を次に分別して釋す。

釋曰：如何にして「聲聞」と名づけたのかと云えば、四諦の義を聞き、また餘へ聞かせ、義に隨って修習し、德においてまた餘らへ教え、聲を聞くことで道を覺る故、それで「聲聞」と名づけた。「獨覺」とは謂わく、自ら覺って、餘から覺らない故、或は自身は能く調伏するが、餘らを調伏させない故、それで「獨覺」と名づけた。如何に諸々の冥を滅すれど、聲聞、獨覺は染無知をのみよく斷じると、世親師は意許したため、それで、「雖」と云う言を置いたのである、と。問：「染無知を畢竟じて斷ずる」（以染無知畢竟斷）と云った。如何にして聲聞や、獨覺が染無知を畢竟じて斷ずるのを知り得るのか？と。答：聲聞等がもしこの染無知を斷たないなら、即ち三種の雜染の發生となる。

---

845 kirsiz bilmämäkig bïšrunmaq yol-luγ tuš-ta「不染無知を修道位において」は kirsiz bilmämäk-ning bïšrunmaq yol-luγ tuš-ta「不染無知の修道位において」と訂正されている。851~853 kirsiz から tanuq qïlur siz-lär までの文はもとは次のように書かれていた：kirsiz bilmämäkig bošγud-suz-lar-nïng yügärü yorïyur tegüči sav- qa qayu-nï üz-ä tanuq qïlur siz-lär 「不染無知を、無學らが現行するという事にたいして汝らは何をもって證となすのか」。このウイグル文は次のように訂正された： kirsiz bilmämäk<-ning> bošγud-suz- lar<-ta yüüz> yügärü <yorïmaq-ïnga> qayu-nï üz-ä tanuq qïlur siz-lär「不染無知の、無學らにおけるその現行にたいして汝らは何をもって證となす」。ここでは訂正文の一部を採用してテキストに掲げた。853 šasdr の左傍に漢字「論」が注記されている。854 käntü, kikinč berü, söz-lämiš の左傍にそれぞれ自、答、云が注記されている。861 girant (< Skt. grantha) は 8 では「偈」をあてた。しかし、šasdr-taqï girant と同じウイグル語句が 3095 に現れ、そこでは girant はウイグル文中漢文の「論文」の「文」に對應し、B436 でもウイグル文中漢文の「文」に對應する。したがって、ここの girant にも「文」をあてたい。865 <yol>「道」は訂正形である。訂正前は <qudrulmaq-ïγ>「解脱を」が書かれていた。866~867 qaltï <öz-in ök tuyunup> adïn (-lar)-tïn tuyunmaz üčün「謂わく、自ら覺って、餘から覺らない故」の<öz-in ök tuyunup>「自ら覺って」は訂正形である。訂正前は<kändün tuyup>と書かれていた。意味はほとんど同じである。tuyunmaz üčün「覺らない故」は<tuyunmadïn>「覺らずに」に訂正されているが訂正前の形式を採用した。870 köngül-indä tapla-「心で許す」＝「意許」。875~876 taryarmasar bu kirlig bilmämäkig ödrü bolur üč türlüg kirikmäk-lär-ning turmaq-ï「もしこの染無知を斷たないなら、即ち三種雜染の發生となる」は次のように訂正されている：taryar<-madï ärsär> bu kirlig bilmämäkig <inčip> bolur (ärti) üč türlüg kirikmäk-lär (-i)-ning turmaq-ï「もしこの染無知を斷たなかったなら、而して三種雜染の發生となるのであった」。üč türlüg kirikmäk-lär「三種の汚れ」＝「三(種)雜染」。

877 30a-1 kirikmäk. qïlïnč üz-ä kirikmäk. tuγum (až-un) üz-ä kirikmäk ärür. qayu tïl
878 2 -taγ-ïn andaγ bolur teptesär. kirlig bilmämäk tïldaγ-ïnda turur
879 3 üčün üč türlüg kirikmäk-lär. kirsiz bilmämäk-ig anïlayu oq
880 4 taryarmaz-lar tep 問 šasdr-ta söz<-läsär> kirsiz bilmämäkig
881 5 anïlayu oq taryarmaz-lar tep. nädäg söz-läti širavak-ta ulatï
882 6 -lar taryarur-lar az övkä biligsiz-ig tep 答此約染汚説
883 7 munda kirlig-ig tuda söz-lämiš ol kirsiz-ig tuda ärmäz nädägin
884 8 andaγ bolur tep tesär. kirlig bilmämäk uyur tïdγalï kertü-lär
885 9 -ning yörügin. kirsiz bilmämäk tïdmaz kertü-lär-ning yörügin kkir
886 10 -siz bilmämäk uyur tïdγalï qayu nomuγ teptesär :: qaltï tïdar
887 11 tört türlüg nom-lar-ïγ. olar tördägü ymä qayu ol teptesär ang'il
888 12 -ki burxan nom(-ïn) ikinti ärdä ïraq ödüg 三 ärdä ïraq orun-uγ 四
889 13 ulatï alqu yörüg uyuš-ï-nïng uučsuz qïdïγ-sïz adïrt-ïn ::
890 14 又 burxan nomïn-taqï. ötdäki. orun-taqï. adïrt-ïn-taqï ymä/ter.
891 15 qayu ol burxan nom-ï teptesär qaltï küč qorqïnč-sïz-ta ulatï
892 30b-1 qamaγ-lïγ-sïz ädgü-lär-i ärür. mundaγ osuγ-luγ ädgü-lärig tükäl bilgä bilig
893 2 -kä tükäl-lig < bolmaduq-lar ärsär>. umaz-lar tanuqlaγalï ödgürgäli. yindäm burxan-lar
894 3 oq yalnguz tanuqlayur-lar üčün 故契經説 anïn sudur-ta yrlïqamïš
895 4 ol. tngri burxan ayïtduq-ta šaripudre-y-a sän bilir-mü sän ančulayu käl
896 5 -miš-ning ät'öz-üm-täki čxšapt-lïγ yükmäkimin dyan-lïγ yükmäkimin
897 6 bilgä biliglig yükmäkimin ozmaq qudrulmaq-lïγ yükmäkimin ozmaq
898 7 qudrulmaq-ïγ bilmäk körmäk-lig yükmäkimin tep šripudre söz-läti
899 8 täginmäz tep. munï üz-ä anïn bilmiš kärgäk alqu širavak-ta ulatï
900 9 -lar bilmäz-lär ančulayu kälmiš-lär-ning qamaγ-lïγ-sïz ädgü-lär-in nädägin tep
901 10 tesär. bar üčün kirsiz bilmämäki 極遠時者 ärdä ïraq öd ärsär
902 11 qaltï ärtmiš kälmädük üč asanke kalp-ta taš širavak-lar-nïng pratika
903 12 -bud-lar-nïng bilgä biligi üz-ä bilgäli umaγuluq ärür. qayu tïldaγ-ïn
904 13 bolur bilgäli teptesär. qaltï öngrä bar ärti kiši. šaripudre arxant-nïng
905 14 yaqïn-ïnda tiläti küsädi äv-tin barq-tïn üngäli. šaripudre arxant
906 15 körüp iki asanke kalp<-taqï-sïn> bu kiši-ning bilip yoq-ïn äv-tin barq

謂わく、煩惱による雜染、業による雜染、生による雜染である。何に因ってそのようになるのかと云えば、染無知に因って三種雜染が起こる故。彼らは不染無知を猶未だ斷たない、と。問：論に「不染無知を猶未だ斷たない」（不染無知猶未斷故）と説くのなら、聲聞等は貪、瞋、癡を斷つと、どうして説いたのか？答：ここでは、染を約して説いたのである、不染を約してではない。如何にしてそのようになるのかと云えば、染無知は諦の義を妨げることができる。不染無知は諦の義を妨げない。不染無知は何の法を妨げることができるのかと云えば、謂わく、四種の法を妨げる。それら四つはまた何かと云えば、第一は佛法にあるもの、第二は極遠時にあるもの、第三は極遠處にあるもの、第四はさらに諸々の義類の無邊際の差別にあるもの。何が「佛法」かと云えば、謂わく力無畏等は不共の德である。このごとき德を一切智が圓滿とならなかったものらは證しえない。唯だ佛獨りのみが證する故、それで經に説かれたのである：「舍利子よ！汝は、如來の我が身にある我が戒蘊を、我が定蘊を、我が慧蘊を、我が解脫蘊を、我が解脫智見蘊を了ずるか？」と佛が尋ねられたとき、舍利子は「及ばず」と言った、と。これによって、そこで（次のように）知らねばならない。一切聲聞等は如來の不共の德を了じない。如何にしてかと云えば、不染無知がある故。「極遠時」は、謂わく過去未來三阿僧祇劫より外で、聲聞や獨覺の慧においては知り得ないところである。何に因って、（それを）知り得るのかと云えば、謂わく、昔、（ある）人が居た。舍利子阿羅漢の近くにおいて出家することを求めた。

---

880 söz<-läsär>「説くなら」は訂正形式である。訂正前は：söz <-läti ärti>「説いたのである」。887~889 ang'ilki から adïrt-ïn までは 890 の「又」以下で次のように訂正されている：ang'ilki burxan nomïn-taqï ikinti ärdä ïraq ötdäki 三 ärdä ïraq orun-taqï 四 ulatï alqu yörüg uγuš-ï-nïng uučsuz qïdïγ-sïz adïrt-ïn-taqï. 和譯ではこの訂正文の内容を採用した。891 küč qorqïnč-sïz「力と、恐れのない」＝「力無畏」。893 tükäl-lig < bolmaduq-lar ärsär>「圓滿とならなかったものらは」は訂正されている。訂正前は：tükäl-lig < bolmaγïnča > 「圓滿とならないかぎり」。895 sän は sn と綴られている。šaripudre (/šariputre/) < Skt. šāriputra. 901 (~914) ärdä ïraq から kizlälip turmïš täg tep までは節略漢文『實義疏』の以下の文と對應する：極遠時者。謂過去未來三阿僧祇劫外聲聞獨覺不能知。何以得知。如昔有一人。於舍利子邊求出家。時舍利子觀二阿僧祇劫。此人無出家善根。遂不許。此人詣佛以求出家。世尊觀此。 出僧祇外此人有少善根。遂許出家。説偈言彼人解脫種 我觀極微細 猶如諸礦中 眞金隱茲住（大正 Vol.29, p.325b)。903 bilgäli umaγuluq ärür「知り得ないところである」は(nä ymä) bilgäli umaγuluq ärür「何も知り得ないところ」と訂正されている。905~906 šaripudre arxant körüp iki asanke kalp<-taqï-sïn> bu kiši-ning 「舍利子阿羅漢はかれの二阿僧祇劫にあるものを觀て、此の人には」は šaripudre arxant körüp iki asanke kalp<-taqï-sïn> bu kiši<-tä>に訂正された文の最初の訂正部分<-taqï-sïn>のみを採用したものである。もとの文は：šaripudre arxant körüp iki asanke kalp-ta bu kiši-ning.

907 31a-1 -tïn üngülük ädgü-lüg yïldïz-ï. ärü ärü taplamatï äv-tin barq
908 2 -tïn üngüsin 此人詣仏 bu kiši tägip tngri burxan-qa tilädi äv-tin
909 3 barq-tïn üngäli. adï ködrülmiš körüp üč asanke kalp-ta taš
910 4 ünmiš bu kiši-ning az qy-a ädgülüg yïldïz-ï-nïng bar-ïn ärü ärü tap-
911 5 -lap äv-tin barq-tïn ündürüp. ärü ärü šlok söz-läyü yrlïqadï inčä tep
912 6 彼人解脱種 ol kiši<-tä> qudrulmaq-lïγ uruγ-ï-nïng : män körd
913 7 -üm ärdä yinčgä-sin : inčä qaltï alqu (qamaγ) altun taš <-lar-ï-nïng ar-a-sïn-ta> : čïn altun
914 8 ördülüp kizlälip turmïš täg tep. ulatï bar bolmïš kengürü udpadi
915 9 tïldaγ-ï (qaltï) adïn orun-ta söz-lämiš täg tetir : anïn bilmiš kärgäk ::
916 10 širavak-ta ulatï-lar körsär(-lär) ärdä ïraq ödüg ünmäz üč asanke
917 11 -ta taš 極遠處者 ärdä ïraq orun ärsär. üč mïng-lïγ yerdinčü
918 12 -tä taš širavak-ta ulatï-lar-nïng bilgä biligi üz-ä bilgäli umaγuluq
919 13 ärür. nädägin bolur bilgäli teptesär. ayaγ-qa tägimlig modgalayane arxant
920 14 körüp ol ölmiš anasï-nïng. bilmädin tuγmïš orun-ïn barïp ayït
921 15 -tï adï ködrülmiš-kä. adï ködrülmiš yrlïqadï säning anang tuγup
922 31b-1 turmïš ärür mariči yerdinčü-tä tep. bu mariči yerdinčü turur üč
923 2 mïnglïγ yerdinčü-tä taš kengürü bar bolmïš udpadi tïldaγ-ï. qaltï
924 3 adïn orun-ta söz-lämiš täg tedir. anïn bilmiš kärgäk širavak-ta
925 4 ulatï-lar-nïng bilgä biligi. ünmäz üč mïnglïγ yerdinčü-tä tep
926 5 問五蘊之中 beš yükmäk-lär-ning arasïnda öng yükmäk ärür
927 6 tïdïγ-lïγ tuduγ-luγ bolz-un kim bilmäsär :: tört yükmäk-lär ärür köngül
928 7 köngül-täki nom näng bu tïdïγ-lïγ tuduγ-luγ nom ärmäz ärip. nädägin bilmäz tep ::
929 8 答 öng yükmäk ärür tayanγuluq tört yükmäk-lär ärür tayandačï. tayan
930 9 -γuluq öng yükmäk ïraq bolmïš üčün. tayandačï tört yükmäk ymä ök
931 10 anïng eyin ïraq bolur. širavak-lar bu tïldaγ-ïn bilmäz-lär 及諸義類
932 11 ulatï alqu yörüg uγuš-ï-nïng uučsuz qïdïγ-sïz adïrt-ï ärsär qaltï
933 12 uγuš orun ažun tuγum. töz uγuš-taqï kirlig kirsiz bilmämäk-lär-ig
934 13 taryarmïš taryarmamïš-ta ulatï uučsuz qïdïγ-sïz adïrt-ï ärür. anïn

907 ädgü-lüg yïldïz-ï「善根が」は ädgü-lüg yïldïz-ï<-nïng > を訂正したものである。 912~915 ol kiši<-tä> qudrulmaq-lïγ uruγ-ï-nïng : män kördüm ärdä yinčgä-sin : inčä qaltï alqu (qamaγ) altun taš <-lar-ï-nïng ar-a-sïn-ta> : čïn altun ördülüp kizlälip turmïš täg「我は、彼の人に解脱の種子の極微細を觀た。猶、諸々の礦の中に眞金が隱されていたごとし」は訂正された文である。訂正前は ol kiši-ning qudrulmaq-lïγ uruγ-ï-nïng : män kördüm ärdä yinčgä-sin : inčä qaltï alqu altun taš-ïnda : čïn altun ördülüp kizlälip turmïš täg「我は、彼の人の解脱の種子の極微細を觀た。猶、諸礦に眞金が隱されていたごとし」。 män は mn と綴られている。altun taš「金石」＝「礦」。udpadi (/utpati/) < Skt.utpatti. utpadi tïldaγ-ï は「本緣經」の經名表示に現れる：本緣經 tegmä töz tuγum utpadi tïldaγ-ïn sözlämak「本緣經すなわち本々生じた生起の因緣を說くこと」(cf. 庄垣内(1982) p.11)。

舎利子阿羅漢はかれの二阿僧祇劫にあるものを觀て、此の人には出家すべき善根が無いのを知り遂に出家を許さなかった。此の人は佛へ詣でて出家することを求めた。世尊は、この人に三阿僧祇劫より外に發した少善根の有るのを觀て、遂に許して出家させ、遂に次のように偈を説きたまうた：我は、彼の人に解脱の種子の極微細を觀た。猶、諸々の礦の中に眞金が隠されていたごとし、と。更に、廣く因縁物語は有る。猶、餘處において説いたごとしと云う。そこで（次のように）知らねばならない。聲聞等が「極遠時」を觀るとき、三阿僧祇より外には現れない。「極遠處」は三千世界より外、聲聞等の慧によっては知ることのできないところである。如何にして知り得るのかと云うなら：尊者目連阿羅漢は、彼の死んだ母の生處を觀たが、了ぜず。世尊（のところ）へ往って問うた。世尊は、汝の母は摩利子世界に生起したのである、と告げられた。この摩利子世界は三千世界の外に住す。廣くその因縁物語は有る。猶、餘處において説いたごとしと云う。それ故、聲聞等の慧は三千世界（より外）に出ないと知らねばならない。問：五蘊の中で、色蘊は障礙である。もし（これを）知らなくとも可となるべし。四蘊は心心所法である。決してこれは障礙法でないのに、如何にして知らないのか？と。答：色蘊は所依である。四蘊は能依である。所依の色蘊が遠のいたために、能依の四蘊もそれに隨って遠のく。聲聞らはこの因を知らない。「及び諸々の義類の無邊際の差別」（及諸義類無邊差別）は、謂わく、界、地、趣、生、種姓にある染、不染の無知を斷じた、斷じなかった等の無邊際の差別である。

914~915 の udpadi tïldaγ-ï は「因縁」(nidāna)を表すものと考えた。919(~923)　919 の ayaγ-qa tägimlig modgalayane arxant から 923 の mïnglïγ yerdinčü-tä taš までは節略漢文『實義疏』に對應する：目連觀其母。不知生處。往問佛。佛告。汝母生在摩利支世界三千界外。(大正 Vol.29, p.325b)。919~920　ayaγ-qa tägimlig modgalayane arxant körüp ol ölmiš anasï-nïng. bilmädin tuγmïš orun-ïn「尊者目連阿羅漢は觀たが、彼の死んだ母の生處を了ぜず」は次のように訂正されている：ayaγ-qa tägimlig modgalayanï arxant körüp <käntü öz-i- ning> ölmiš <ana-sïn>. bilmädin tuγmïš orun-ïn　「尊者目連阿羅漢は自身の死んだ母を觀て、その生處を知らず」。modgalayane < Skt. maudgalyāyana 「目連」。922　mariči < Skt. mārīcī 「摩利支」。925　üč mïnglïγ yerdinčü-tä「三千世界において」は üč mïnglïγ yerdinčü-tä taš「三千世界より外」となるべきである。933　この邊りは uγuš「界」、orun「地」、ažun「趣」、tuγum「生」、tõz uγuš「種姓」の差別に關連する内容である：cf. 有差別者。謂諸有情界地趣生種姓男女近事苾芻學無學等各別同分(『倶舎論』巻第五 大正 Vol.29, p.24a)。

935 14 basa šasdr-ta šlok-ta bar söz-lämiš 於一孔雀輪 bir yuy quš
936 15 -nung ay-čuq atlγ tilgän-i-ning : alqu türlüg tïldaγ-lïγ bälgü-si
937 32a-1 又 tïldaγ-tïn bolmïš bälgü-si ymä ter :: näng adïn bilgä bilig-ning
938 2 adqanγu uγuš-ï ärmäz : yindäm tükäl bilgä bilig-kä ök bilgülük ärür
939 3 tep : 如是多種分別 munï munčulayu üküš türlüg adïrïlmïš-ta
940 4 širavak-ta ulatï-lar-nïng bilgä biligi barča-nï bilmäz ödgürmäz.
941 5 qaltï üsdün söz-lägüči tört türlüg bilmägülük tïldaγ-lar-ïγ sudur
942 6 -ta ymä ök yrlïqamïš ol. bular bolur tört türlüg ïraq-lar tep
943 7 bilgä bilig adqanïp yedmäz üčün 又 ergürmäz ymä/ter. anïn adï bolmïš
944 8 ol ïraq tep. qaltï bilgülük üz-ä ïraq. öd üz-ä ïraq.
945 9 orun üz-ä ïraq. yörüg uγuš-ï-nïng adïrt-ï üz-ä ïraq üčün
946 10 anïn šlok-ta bar söz-lämiš 所知及時處 bilgülük üz-ä ulatï öd
947 11 üz-ä orun üz-ä :: yörüg uγuš-ïnda ulatï-lar-nïng adïrt-ï üz-ä :
948 12 munï munčulayu tört türlüg ïraq-lar-ïγ : burxan-lar-ta öngi yoq bil
949 13 -gäli udačï tep :: <bu tïldaγ-ïn> širavak-lar pradikabud-lar bu tört türlüg yörüg

---

935(~938) bir yuy quš から bilgülük ärür までの頌は『倶舎論』の第九品「破執我品」中に同じものを見いだせる：

於一孔雀輪　一切種因相
非餘智境界　唯一切智知（大正 vol.29, p.157c）

『實義疏』は「破執我品」を扱わないので「破執我品」から引用されるのは筋が通らないように思えるが、實はこの頌の内容はモンゴル語譯にも現れている：basa toγus sibaγun-u γaγcakü otuγan-dur : siltaγan-u jüil bükün : qamuγ-i ayiladuγci-aca busu-yin medegdekün büsü : tegün-i medekü anu bükün-i ayiladuγci-yin kücün mön bolai : kemen（18v4-5）「また、孔雀の唯だ一本の尾羽における因に關する事柄すべては、一切智者より他に知られることはない。それを知ることが一切智者の力なのである、と」。モンゴル語譯の「孔雀の唯一本の尾羽」に近い内容は『倶舎釋論』にみられる：

於孔雀一尾　具一切相因
餘人不能知　此智是佛力（大正 vol.29, p.309a）

そこで、更に、論において頌に説いたものがある：一孔雀の月と云う名の輪の一切種の因相は、決して餘智の境界ではない。唯だ一切智のみ（が）知るところである、と。このごとく多種の分別において聲聞等の智は皆を了達しない。謂わく、上に説く所の四種の無知の因を、經にまた、「これらは四種の遠となる」と説かれたのである。智を縁じても至らない故、それで「遠」と云う名になった。謂わく、所知における遠、時における遠、處における遠、義類の差別における遠の故に。それで頌に説いたものがある：所知における、及び時における、處における、義類等の差別における、このような四種の遠を、佛より他に知り得るものは無い、と。

ウイグル語譯のこの頌の内容もモンゴル語譯を考慮するなら、もともと原典にあったものと云える。しかし、ウイグル文中漢文の「於一孔雀輪」から判斷して、やはり漢譯『實義疏』は漢譯『倶舍論』の第九品を參照し引用したものと推定できる。 935~939 bir yuy kuš-nung ay-čuq atlγ tilgän-i-ning : alqu türlüg tïldaγ-lïγ bälgü-si 又 tïldaγ-tïn bolmïš bälgü-si ymä ter :: näng adïn bilgä bilig-ning adqanγu uγuš-ï ärmäz : yin- däm tükäl bilgä bilig-kä ök bilgülük ärür tep「一孔雀の月という名の輪の一切種の因相は、決して餘智の境界ではない。唯、一切智へのみ所知である、と」は次のように傍注として訂正されている： bir (yalng- uz) yuy kuš-nung ay-čuq atlγ tilgän<-indäki> : alqu türlüg tïldaγ-lïγ bälgü-si 又 tïldaγ-tïn bolmïš bälgü-si ymä ter :: näng adïn (öngi) bilgä bilig<-kä> adqanγu uγuš <bolur> ärmäz : yindäm (sarvadyan) tükäl bilgä bilig-kä ök bilgülük ärür tep 「唯一孔雀の月という名の輪にある、一切種の因から成じたその相は決して餘智へ境界となるのではない。唯、一切智へのみ所知である、と」。yuy quš-nung ay-čuq atlγ tilgän-i「孔雀の月という名の輪」=「孔雀輪」(Skt. mayūra-candraka). ay-čuq ← ay「月」 -čuq (diminutive). sarvadyan < Skt. sarva- jñāna「一切智」。939~940 munï munčulayu から bilmäz ödgürmäz までは節略漢文『實義疏』と對應する：如是多種分別中。聲聞等智者皆不了達（大正 Vol.29, p.325b)。munï munčulayu üküš türlüg adïrïlmïš-ta「このごとく多種の分別において」は<munday osuγ-luγ> üküš <tälim uγuš-luγ bölgülük adïrtlaγuluq sav-lar-ta >「このごとく多類の分別すべき言において」に訂正されている。adïrtlaγuluq は"dyrtl'qw'wq と綴られている。943 bilgä bilig adqanïp yedmäz üčün「智を縁じても至らない故」は bilgä bilig(-kä) adqanïp <yedmä- gülük> üčün「智に縁じて至らないものの故に」と訂正されている。「又」以下は yedmäz「至らない」を irgürmäz「至らせない」に訂正したものである。949 <bu tïldaγ-ïn>「これに因って」は訂正である。もとは anïn「それ故」。

950 14 -lärig umamïš üčün bilgäli anïn barča qalïlïγ ärür-lär anï üčün bolmamïš
951 15 ol adï bolγalï alqu türlüg-lär üz-ä alqu bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš
952 32b-1 qarangγu-luγ tep 問 öngdünki tört türlüg ïraq-lar-ta täk
953 2 uqïdmaq üz-ä ol bir-in tüzü tükäl bililür ärti širavak-ta ulatï-lar
954 3 -nïng bilgä biligi-ning burxan-lar-nïng birlä < büdün > adïrïlur-ï
955 4 nägülük ol <išlädip uqïdγusï>. olar tördägü-ni tep 答云如是
956 5 andaγ oq ol inčip ymä ök bar ärür tïldaγ-ï vasubandu baxšï-nïng
957 6 uqïdmaq-ï ärsär bular tördägü-ni. küsämiš üčün ärür uqïdγalï adï
958 7 ködrülmiš-ning ärtmiš-in (ašmïš-ïn) širavak-lar-ta piradikabud-lar-ta azu
959 8 -ča ymä <anda yänä> adruq adruq uγur-ïn bölmäk adïrtlamaq<-ï üz-ä>
960 9 yörügi <inčip> bäkiz bälgülüg uqulur üčün anïn söz-läsär tördägü-ni
961 10 mün qadaγ bolmaz 若闕其頌 birök ägsük (kärgäk boldï) ärsär ol šlok-nung
962 11 abipiray-ï kizläglig qavïr-a bolmaq üz-ä (inčip) sezik turγuryu
963 12 -luq bolur ärti. amtï vardi-ta (tüz-ü) tükäl yörüp <šlok-nung> abipirayïn
964 13 birär birär kengürü yörsär munda nägü sezik bolur tep 問 bu kirlig
965 14 kirsiz iki türlüg bilmämäk-lär-ning. san-ïn qadnayu kengürü yörüp
966 15 näčä söz-läsär ymä bililmädi tep inčip kirsiz qayu ärür yïdyuq
967 33a-1 qayu ärür tep. 答 bu yörüg-tä alqu baxšï-lar-nïng bölmiš ad
968 2 -ïrtlamïš :: ol yörüg-lär-i käntü käntü adïrt öngi ärür. ol bir
969 3 baxšï-nïng abipirayïn söz-lälim. qaltï uzanmaq ädräm sav söz ärd
970 4 -miš kälmädük ödki-tä ulatï nom-lar-nïng uučsuz qïdïγ-sïz adïrt
971 5 -ïn. burxan-lar-nïng käzigindäki qamaγ-lïγ-sïz nom-ta ulatï mundaγ
972 6 osuγ-luγ sav-lar-ïγ. umaz üčün bilgäli ödgürgäli anïn adamïš
973 7 ol kirsiz bilmämäk tep. 此师雖作是說 bu baxšï näčä mundaγ
974 8 tep söz-läsär ymä inčip umamïš ol uqïdγalï kirsiz bilmämäk
975 9 -ning töz-in. yänä bar adïn baxšï söz-lär yrlïγ-sïz bilgä bilig
976 10 ärür kirsiz bilmämäk. bu yrlïγ(-sïz) bilgä bilig-ning küč kösün-i küč
977 11 -süz (yinčgä) üčün bilgülük nomluγ adqanγu-larïγ umamïš üčün uqγalï bil
978 12 -gäli adamïš ol kirsiz bilmämäk tep. bu baxšï-nïng qayu söz-lämiš-i

これに因って、聲聞、獨覺らはこの四種の義を知ることができなかった故、それで皆彼らは有餘である。それ故「一切種による一切所知法において冥を滅した」（一切種諸冥滅）と云う名にはなり得なかった。問：先の四種遠の中で、只だその一つを立てることによって、聲聞等の智が佛らのものと完全に差別されることが了ぜられたのである。如何にして、それら四つを用いて顯すのか？と。答：その通りである、而してまた因が有る。世親師がこれら四つを立てるのは、世尊が聲聞や獨覺より超越したものであるのを顯わすことを欲した故である。或は、そこでまた、色々の場合を分別することによって、その義が即ち明了される故、それで（これら）四つを説けば過失とはならない。若し缺略となれば、その頌の意趣が隱密もてる簡略となることによって、即ち疑いを起こすところととなるのであった。今、注釋において頌の意趣を完全に釋し、一つ一つ廣釋するならそこには何の疑いがあるのか？と。問：この染と不染、二種無知の數を重ねて廣釋して如何に説いても、不染は何である、習氣は何であると、了ぜられなかった、と。答：この義において、諸々の師らが類別したその義は各自別々である。その一人の師の意趣を説きたい：謂わく、功能、言語、過去未來世にあるもの等の法の無邊際の差異を、佛らの相續にある不共法等を、このごとき事柄を了達することができない故に、「不染無知」と名づけた。この師が如何にこのようにと説いても、即ち不染無知の性を顯わすことはできなかった。また、有餘師が説く：無記慧は不染無知である。この無記慧の力は無力で弱いため、所知の法の境を了知できなかった故に「不染無知」と名づけた。

---

954 <büdün>「完全に」は訂正である。もとは bir täk「同じく」。955 nägülük ol <išlädip uqïdyušï>. olar tördägü-ni「如何にして、それら四つを用いて顯すのか？」は訂正された文である。訂正前は：<nägülük ol <kärgäk-läp uqïdïp uqïdyušï>. olar tördägü-ni「如何にして、それら四つを必然的に顯して」。957 uqïdyalï は'wqydqly と綴られている。 958~960 azu-ča ymä <anda yänä> adruq adruq uyur-ïn bölmäk adïrtlamaq<-ï üz- ä> yörügi <inčip> bäkiz bälgülüg uqulur üčün「或は、そこでまた、色々の場合を分別することによって、その義が而して明了される故」は訂正された文である。訂正前は次のようである：azu-ča ymä birök adruq adruq uyur-ïn bölmäk adïrtlamaq ärsär yörügi ödrü bäkiz bälgülüg uqulur üčün 「或は、もし色々の場合を分別することであるなら、その義がすなわち明了される故」。963 <šlok-nung>「頌の」は sezik「疑い」を訂正したものである。 966 näčä söz-läsär ymä bililmädi tep「如何に説いても、・・・了ぜられなかった、と」はもとは näčä söz-läsär ymä bilmämäk tep と書かれていた。そして bilmämäk tep の左傍には漢字「不知然」が添えられ、bilmämäk の右傍には削除記號が添えられている。さらに上部欄外に(又不了 bililmädi ymä ter)と訂正文が書かれている。ここではこの訂正の bililmädi を採用した。yïdyuq = yïd yuq「習氣」 cf. 631. 968~969 ol bir baxšï-nïng abipirayïn söz-lälim「その一人の師の意趣を説きたい」は<olar-ta bir-i>-ning abipirayïn söz-lälim「それらの中で一人の意趣を説きたい」に訂正されている。uzanmaq ädräm に「功能」を與えた。他では漢語の「術」「伎術」に對應する例がみられる： cf. 庄垣内(2003b) p.366. 971~972 munday osuγ-luγ sav-lar-ïγ「このごとき事柄を」は munday osuγ-luγ sav-lar<-ta>「このごとき事柄において」に訂正されている。

979 13 ymä ök yörüg töz-ingä yaraši bolmaz. birök andaγ ärsär nä üčün.
980 14 šasdr-a-side vasubandu baxši söz-lädi bilgä biligig bolur bilmämäk
981 15 tep yänä adïn baxši-lar söz-lär bu yït yoq köngül-tä öngi nom töz
982 33b-1 -lüg ärür. ymä ök ärür kirsiz bilmämäk tep 此师所說 bu baxši-
nïng
983 2 qayu söz-lämiš-i ymä ök yörüg töz-ingä yaraši bolmaz nädägin tep
984 3 tesär. (bu) köngül-tä öngi nom-lar köngül ulati bilgä bilig birlä (örüg) uzadï
985 4 birlä yaradïlmaz üčün birlä yaradïlmayu tükädmiš ärip nädägin bilgä
986 5 bilig-kä tïdïγ qïlz-un alqu baxši-lar-nïng qayu söz-lämiš-i üz-ä
987 6 barča yörüg töz-i tüpükmäz. anïn amti siz-lär-kä (munï) uqïdu yörälim.
988 7 pardakčan tuš-ïnda ärkän ät'öz-in til-in köngül-in uzun ödün tudčï
989 8 (üzüksüz) ür keč (tüš-üdlänmäk) ögrädinmäk üz-ä biligsiz-tä ulati
niz-vanï-lar-ta
990 9 ädgü ät'öz til köngül-nüng küči kösüni alanguγ küčsüz bolur
991 10 näčä taryarsar-lar ymä biligsiz-tä ulati niz-vanï-lar-ïγ 起身口意
992 11 行 turur ät'öz-täki til-täki köngül-täki yorïq-ï 又 qïlïnč-ï ymä/ter öngdünki
993 12 tüšüt ögrädig<-i-ning> küči uγur-ïnda (anïn qaltï) öngrä pardakčan tuš-ïn
994 13 -taqï täg yrlïγ-sïz <bolduq-ta> yanduru <yänä turur>. burxan-lar aqïγ-sïz
bilgä bilig
995 14 üz-ä tardïp yïlayu bilgä biligig uyur büdürü adqanγalï
996 34a-1 alqu adqanγu-larïγ. alqu <bölük-lär-ig> širavak-ta ulati-lar-nïng
997 2 bilgä biligi ödrü mundaγ ärmäz. näčä aqïγ-sïz bilgä bilig üz-ä ymä
998 3 ök tardïp yïlayu bilgä biligig turγursar ymä umaz büdürü
999 4 adqanγalï alqu türlüg-lär-ig alqu bölük-lär-ig. bu tïldaγ-ïn
1000 5 širavak-lar-nïng pradikabud-lar-nïng köngül köngül-täki nom-lar-ïn-ta
1001 6 ägsük üčün alqu türlügüg bildäči bilgä bilig-lär-i bulmïš ol
1002 7 kirsiz bilmämäk(-lig) tegüči adïγ 何名不染 nädägin adantï kirsiz
1003 8 teptesär. niz-vanï-lar-tïn öngi üdrülmiš üčün nädägin adantï
1004 9 bilmämäk teptesär. alqu türlüg-lärig alqu bölük-lärig bilmämiš

この師の所説も理に適っていない。もしそのようなら、何故、論に精通した世親師は、慧を無知であると説いたのか。また餘師が説く：この習氣は心不相應法の性もてるものである。又不染無知でもある、と。この師の所説も理に適っていない。如何にしてかと云えば、この心不相應法は、心及び智慧と常に相應しない故。よく相應しなくて如何にして智慧へ障をなすべきか。諸師の所説においては悉く理が極まらない。それ故に今汝らにこれを解釋したい：凡夫位にあるとき、身、口、意を長時間絶えず久遠に慣習化することを以て、無知等の煩惱において善なる身、口、意の力は弱くなる。如何に無知等の煩惱を斷っても、以前の慣習の力に由って、身にある、口にある、意にある業は起きる。それ故、猶先の凡夫位にあるごとく無記となったときに還ってまた起こる。佛は無漏慧によって世俗智を引き、完全に一切境、一切品を緣ずることができる。聲聞等の智慧は即ちそのようではない。如何に無漏慧によってまた世俗智を引き起こしても、完全に一切種、一切品を緣ずることはできない。これに因って、聲聞ら獨覺らの心心所法においては、一切種を知る智慧が缺けているため、「不染無知」と云う名を得た。如何にして「不染」と名づけられたのかと云えば、煩惱を離れた故。如何にして「無知」と名づけられたのかと云えば、一切種、一切品を知らなかった故。

---

980 šasdr-a-side < Skt. śāstra-siddha "established by the ś" (Monier-Williams (1970) p. 1069). ここでは「論に精通した」と譯した。981~982 bu yït yoq köngül-tä öngi nom töz-lüg ärür. ymä ök ärür kirsiz bilmämäk「この習氣は心不相應法の性もてるものである。又不染無知でもある」は訂正された文である。訂正前は：bu yït yoq köngül-tä öngi nom töz-lüg <üčün>. ymä ök <bu bolur> kirsiz bilmämäk 「この習氣は心不相應法の性をもっているため、又これは不染無知となる」。köngül-tä öngi nom「心より他の法」=「心不相應法」(心不相應行)。990 ädgü ät'öz til köngül-nüng küči kösüni alanguγ küčsüz bolur「善なる身、口、意の力は弱くなる」の次に「又 kävig ymä ter」が本文に插入されている。これは alanguγ を kävig に訂正するよう指示している。いずれも「弱めること」を意味する。更に傍注には次のような訂正がある：ädgü ät'öz til köngül-nüng küči kösüni <又 ät'öz-i-ning tep ymä ter :: küčsirämiš kävilmiš üčün >. < > の中が傍注である。傍注を採用すれば「善なる身、口、意のその力が減少したため」となる。992 turur ät'öz-täki til-täki köngül-täki yorïq-ï 又 qïlïnč-ï ymä/ter. すなわち「又」以下で yorïq-ï「(その)行」が qïlïnč-ï「(その)業」に訂正されている。ここでは訂正形式を採用した： turur ät'öz-täki til-täki köngül-täki qïlïnč-ï「身にある、口にある、意にある業は起きる」。turur はさらに傍注で<turγuluq bolmiš >「起こるところとなった」と訂正されている。993 tüšüt ögrädig<-i-ning> küči uγur-ïnda「慣習の力に由って」は訂正された文である。訂正前は：tüšüt ögrädig qïlmaq-lïγ küči uγur-ïnda「慣習の業もてる力に由って」。994 yrlïγ-sïz <bolduq-ta> yanduru <yänä turur>「無記となったときも、却ってまた起こる」は訂正された文である。訂正前は：yrlïγ-sïz-ï yanduru turur「無記が却って起こる」。996 alqu <bölük-lär-ig>「一切品を」は alqu bölüklüg「一切品もてるもの」を訂正したものである。1004 alqu türlüg-lärig「一切種」は alqu <adqanγu-lar-ïγ>「一切境を」に訂正されている。

1005 10 üčün anïn adamïš ol bilmämäk tep. bu köngül köngül-täki nom-lar-nïng
1006 11 ymä ök adï ol yït yuq tep niz-vanï-ta ür keč tüšüt ögrä
1007 12 -tig qïlmïš üčün. niz-vanï-qa oxšadï turmïš-qa anïn bulmïš ol.
1008 13 yït yuq tegüči adïγ. qaltï ür keč-tin bärü kišän üz-ä kišän
1009 14 <-länmiš>-lär ken bolmïš ötdä <bošulγalï> yorïq-ï mangïγ-ï čigilip boγu
1010 15 -lup anïlayu oq boš taš <adlamamïš>-ï täg munda ymä ančulayu oq
1011 34b-1 niz-vanï qïlïnč-lïγ kišän üz-ä kišänlälmiš-lär. angbašlayu ozduq-ta
1012 2 qudrultuq-ta köngül köngül-täki nom-ta ulatï-lar-ta tüšüt ögrädig
1013 3 qïlmïš üčün ašnu-qï täz-ä yanduru turur 又如香花 yänä qaltï
1014 4 yït-lïγ yïpar-lïγ xu-aγ šïmladuq-ta künčit yaγïnda <xu-a-sïn> näčä
1015 5 kedärü tükädsär ymä yït-ï tan-ï anïlayu oq qalmïš täg. munda ymä
1016 6 ančulayu oq yarlïγ-sïz köngül köngül-täki nom-lar-ta niz-vanï-lar näčä
1017 7 tarïqsar ymä yït-ï yuq-ï anïlayu oq qalïr. širavak-lar-nïng
1018 8 pradikabud-lar-nïng yït yuq-tïn tuγmïš ät'öz-täki til-täki qïlïnč
1019 9 -ta ulatï-lar-ï yörüg töz-indäki-čä ärsär odγuraq uzadï 聞 yïtïyur
1020 10 mundaγ osuγ-luγ-ta ulatï yörüg-lärig ken inčip kengürü söz-lägäy biz tep
1021 11 論曰 ögä tükädmiš boldï adï ködrülmiš-ning öz-kä asïγ qïlmaq
1022 12 -lïγ ädgü-si-ning büdügin tep 釋曰 tükädmiš boldï teptemiš-i ärsär.
1023 13 üsdün(-ki qayu) yörgüči(-lär) üz-ä ögüp adï ködrülmiš-ning iki türlüg öz
1024 14 -kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-in ärdmiš üčün anïn adamïš ol
1025 15 tükädmiš boldï tep 自利者 öz-kä asïγ qïlmaq teptemiš-i
1026 35a-1 ärsär. yangïrtï käntü (öz-i) burxan qudïnga köngül öridip vačira'upam
1027 2 dyan-ïγ bïšrunγïnča. ikin ar-a(-qï) qayu bïšrunmïš tüz-ün yol-nung
1028 3 yumdaru adï bolur öz-kä asïγ qïlmaq tep. ädgü-si-ning büdügi
1029 4 ärsär. qaltï bulmaq ärür üz-äliksiz tuyunmaq-ïγ. tükäl-lig üčün

それで「無知」と名づけた。この心心所法の名は「習氣」である、と。煩惱において久遠に慣習と爲したために、煩惱に類似して起こったものは、そこで「習氣」と云う名を得た。猶、久遠以來、枷によって締められたものが後に自由になり得た時にも、その歩みが緊張して、猶自由に進まなかったごとく、ここでもそのようにかれらは煩惱業の枷によって締めつけられた。初めて解脱したときに、心心所法等において慣習化したために、以前のものが逃げ還って起こる。猶、香花を胡麻油に浸したときに、その花を如何に取り除いても、その香が殘ったごとし。ここでも、そのように無記の心心所法において、煩惱が如何に滅してもその習氣は猶殘る。聲聞ら、獨覺らの習氣から生まれた身、口の業等は、理として定んで常に薫る。このごとき等の義を我れらは後に當に廣説しよう、と。

論曰：**『已に世尊の自利 徳滿を讃じた』**（已讃世尊自利德滿）と。

釋曰：「已に」（已）、と云ったのは上に釋すところのものによって、世尊の二種の自利徳を讃じ竟った故に、「已に」と名づけたのである。「自利」と云った。自身が佛果への心を新しく上らせて金剛喩定を修するまでの二者間にあって修めるところの聖道の、總じてその名が「自利」となる。

1008~1010 kišän üz-ä kišän<-länmiš>-lär ken bolmïš ötdä <bošulγalï> yorïq-ï mangïγ-ï čigilip boγu-lup anïlayu oq boš taš <adlamamïš>-ï tag「枷によって締められたものが後に自由になりえた時にもその歩みが緊張して、猶自由に進まなかったごとく」は訂正文である。訂正前は次のようであった：kišän üz-ä kišän-lig-lär ken bolmïš ötdä ozγalï yorïq-ï mangïγ-ï čigilip boγu-lup anïlayu oq boš taš bolmamïš-ï tag「枷による枷のついたものが、後に自由になりえた時に、その歩みが緊張して、猶、自由にならなかったごとく」。1013~1015 yänä ymä qaltï yït-lïγ yïpar-lïγ xu-aγ šïmladuq-ta künčit yaγïnda <xu-a-sïn> näčä kedärü tükädsär ymä yït-ï tan-ï anïlayu oq qalmïš täg「又猶、香花を胡麻油に浸したときに、その花を如何に取り除いても、その香が殘ったごとし」は次のように訂正されている：yänä (ymä) qaltï yït-lïγ <tan>-lïγ xu-aγ (künčit yaγ-ïnga) šïmladuq-ta <xu-a-sïn> näčä kedärü tükädsär ymä yït-ï tan-ï <taqï> oq qalmïš(-ï) täg 「又猶、香花を胡麻油へ浸したときに、その花を如何に取り除きおえても、その香がさらに殘ったごとし」。ただし、<xu-a-sïn>のみは訂正文を採用した。もとは xu-aγ「花を」となっていた。künčit yaγ-ï 「胡麻油」は漢語「苣勝」にも對應する：qaltï künčit yaγ-ï üz-ä tütitilmiš xu-a täg 「如花熏苣勝」(H35 V27). šïmladuq-ta の語幹 šïmla- は漢語の音寫形式 šïm に la-(den.verb)が結合したものと考えられる。šïm は浸(Mid.Chin. tsiəm)からの音寫の可能性が高い。また、訂正文に現れる tan-lïγ は yït-lïγ と二詞一語を構成する。tan も漢語「檀」(Chin. dân)の音寫形の可能性がある。1019 yïtïyur = yïd「香」-ï(den.verb) -yur(aorist)「薫る」。この單語は文中漢語の「聞」(匂いを嗅ぐ)に對應する。1026 yangïrtï「新しく」は<angbašlayu>「最初に」に訂正されている。1029 qaltï bulmaq ärür üz-äliksiz tuyunmaq-ïγ. tükäl-lig üčün bilgä biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-kä「謂わく、無上の覺を得ることである。智、斷の二種徳が圓滿の故に」は次のように訂正されている： qaltï <bulup> üz-äliksiz tuyunmaq-ïγ. tükäl<-lig bolmïš> üčün bilgä biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-kä「謂わく、無上の覺を得て、智、斷の二種徳が圓滿となった故に」。

1030 5 bilgä biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-kä anïn adamïš
1031 6 ol ädgü-si-ning büdügi tep 讃者 ögmäk ärsär qaltï söz-lämiš
1032 7 üčün adï ködrülmiš-ning säčä yeg adruq ädgü-lär-in ädräm-lär-in
1033 8 anïn adamïš ol ögmäk tep munï üčünč üz-ä vibakdi üz-ä
1034 9 yörä tükädmiš ol nädägin teptesär ät'öz til-tä ulatï-lar üz-ä
1035 10 ögmiš külämiš üčün tngri burxan-ïγ tep. 問 bodistv-lar-nïng
1036 11 yangïrtï käntü (öz-i-ning) tïldaγ-lïγ tuš-tïn ulatï burxan qudïn bulγïnča
1037 12 -qadägi qayu bïšrunmïš yorïq(-ï qudï) küsüš-i näčük'ol adïn-lar-qa
1038 13 asïγ qïlmaq ärmäz mü. qaltï bar šlok-ta söz-lämiš-i ::
1039 14 修福及智所得果 bïšrunmaq üz-ä buyan-ta ulatï bilgä
1040 15 bilig-tä qayu bulmïš tüš-i ärsär : barča adïn-lar-qa asïγ
1041 35b-1 qïlγu üčün ärür näng öz asïγ-ï üčün ärmäz : inčä qaltï ay
1042 2 tngri-ning arïγ yaruq-ï yarudmïš-ï täg on bulung yïngaq-lar-ïγ ančulayu
1043 3 oq ymä adï ködrülmiš-lär-ning yrlïqančučï köngül-i (qudï) küsüš-i ymä andaγ
1044 4 oq ärür tep. 以此故知 munï üz-ä anïn bilmiš kärgäk bodistv
1045 5 -lar-nïng qayu bïšrunmïš qïlïnč-larïγ yörïq-ï üz-ä barča adïn-qa
1046 6 asïγ qïlγu üčün ärip. nä üčün vasbandu baxšï söz-lädi
1047 7 yindäm öz-kä asïγ qïlmaq-ïn oq tep 答云 andaγ oq ol
1048 8 bodistv-lar-nïng bïšrunmïš yorïq-ï bilgä bilig ustačï-lïγ ärür
1049 9 ymä ök bilir käntü öz-i-ning qayu bïšrunmïš yorïq-ï-nïng
1050 10 ken käligmä ödki buyan-ï-nïng tüš-in adïn-lar alγalï umaγu-sïn näčä

1030 biliglig は by'yklyk と綴られている。1033~1034 munï üčünč üz-ä vibakdi üz-ä yörä tükädmiš ol「これを第三の具格によって釋しおえたのである」は次のように訂正されている： munï üčünč <käzigdäki anï üz-ä tegüči> vibakdi üz-ä yörä tükädmiš <ärti>「これを第三轉にある、「それによって」という格(具格)によって釋しおえたのである」。「八轉聲」の第三轉である「具格」を表したものである。このテキストでは具格は常に üz-ä「・・によって」で示される。1039~1040 bïšrunmaq üz-ä buyan-ta ulatï bilgä bilig-tä qayu bulmïš tüš-i ärsär: barča adïn-lar-qa asïγ qïlγu üčün ärür「修による福、及び智において得たところの果は、悉く利他をなすものの故である」は次のように訂正されている： bïšrunmaq üz-ä buyan<-lï> ulatï bilgä bilig<-li nom-lar-ta> qayu bulmïš tüš-i ärsär : (alqu) barča adïn-lar-qa asïγ (tusu) qïlγu üčün ärür「修による福と、及び智との法において得たところの果は、皆悉く利他をなすものの故である」。

「徳滿」は謂わく、無上の覺を得ることである。智、斷の二種の徳が圓滿の故に、「徳滿」と名づけた。「讃」は謂わく世尊の特別殊勝の徳を説いた故、それで「讃」と名づけた。これを第三の具格によって釋し終えたのである。如何にしてかと云えば、身、口等によって、佛を讃じた故、と。問：菩薩らが自らの新しい因位から乃至その佛果を得るまでに修するところのその行願は、どうして他らへ利をなすものではないのか？謂わく、頌に説いたものがある：修による福、及び智において得たところの果は、悉く利他をなすものの故である。決して利己のためではない。猶、月天の清淨な光が十方を照すもののごとし。そのようにまた、世尊らの慈悲心、願もそうである、と。これを以って菩薩所修の業を知らねばならない。その行によって悉く他へ利をなすためであって、何故、世親師は唯だ自利のみを説いたのか？と。答云：その通りである。菩薩の修行は慧を目差すものである。また自身が修した行の未來世の福果は、餘のものが受けることのできないのを知る。

1041~1042 inčä qaltï ay tngri-ning arïγ yaruq-ï yarudmïš-ï täg on bulung yïngaq-lar-ïγ「而して、猶、月天の清淨な光が十方を照すもののごとし」の tngri-ning「月天の」の-ning「・・の」に削除記號を添えて傍注に（又 yaruq-ï-nïng arïγ süzük bolmaq-ï ärsär on bulung yïngaq yerdinčü-lärig yarudγu üčün ärmiš-i täg ymä ter ::）が插入されている。訂正文を整えると inčä qaltï ay tngri yaruq-ï-nïng arïγ süzük bolmaq-ï ärsär on bulung yïngaq yerdinčü-lärig yarudγu üčün ärmiš-i täg「而して、猶、月天の光の清淨となったものが十方世界を照らす故であったごとし」となる。1043 andaγ は<ančulayu>に訂正されている。いずれも「そのように」を意味する。1045~1046 yörïq-ï üz-ä barča adïn-qa asïγ qïlγu üčün ärip「その行によって悉く他へ利をなすためであって」は yörïq-ï barča adïn-qa asïγ qïlγu üčün ärip「その行が悉く他へ利をなすためであって」と訂正されている。1048~1050 bodistv-lar-nïng bïšrunmïš yorïq-ï bilgä bilig ustačï-lïγ ärür ymä ök bilir käntü öz-i-ning qayu bïšrunmïš yorïq-ï-nïng ken käligmä ödki buyan-ï-nïng tüš-in adïn-lar alyalï umaγu-sïn「菩薩の修行は慧を目差すものである。また自身が修した行の未來世の福果は、餘のものが受けることのできないのを知る」は次のように訂正されている：bodistv-lar-nïng bïšrunmïš yorïq-ï bilgä bilig ustačï-lïγ <bolmaq üz-ä> ymä ök bilir(-lär) käntü öz(-lär)-i-ning qayu <bïšrunu yorïmïš> ken käligmä ödki buyan-ï-nïng tüš-in adïn-lar alyalï umaγu-sïn「菩薩の修行は慧を目差すものとなることにおいて、また自身が修行したところの未來世の福果は、餘のものが受けることのできないのを知る」。

1051 11 bilsär-lär ymä mundaγ uzadï qayu bïšrunmïš-ïn buyan ävrip bušï
1052 12 berür-lär tïnlγ-lar-qa näčä ävrip bušï bersär-lär ymä adïn-lar-qa
1053 13 öz ät'öz-lär-i yänä bulur-lar ävrip bušï bermiš-ning buyan-ïn 又
1054 14 將此廻施之福 yänä uduzup bu ävrip bušï bermiš-ning
1055 15 buyan-ïn ulatï öngdünki käntü öz-lär-i-ning qayu bïšrunmïš
1056 36a-1 buyan-ïn yumdaru uduzup ävrip bušï berür-lär tüzü-kä küsämiš
1057 2 üčün asïγ-lïγ mängi-lig qïlγalï nom uγuš-ïndaqï tïnlγ-lar-ïγ
1058 3 munï munčulayu üdlüm üdlüm buyan-lar-ï ikiläyü ükliyür ašïlur
1059 4 näčä. anča anča üklisär ašïlsar ymä bodistv-lar-nïng tanγarïγ-ï
1060 5 küsüš-i ymä ök yalnguz-ïn yevinür ärmäz : bu yrlïqančučï köngül-lüg
1061 6 küsüš-lüg keng uluγ köngül(-i) üz-ä öz tüš-in ašnu-ča tolγu
1062 7 -rur-lar 其本意 tüz-gärsär olar-nïng töz köngül-in köngül-i
1063 8 turur adïn-lar-qa asïγ qïlmaq-ta tïldaγ-lïγ yorïq-ïn tolγur
1064 9 -u tükädmäk üz-ä tüš-i-ning üz-lünčü-sin käntü öz-lär-i
1065 10 tanuqlayur-lar. bu yörüg üz-ä anïn amtï söz-läsär öz-kä
1066 11 asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-si-ning büdügin mün qadaγ bolmaz qaltï bar
1067 12 šloklta söz-lämiš :: 所修福慧施群生 qayu bïšrunmïš
1068 13 buyan-ïn bilgä bilig-in bušï berür-lär tïnlγ-lar-qa : ävrip bušï bermiš
1069 14 -ning buyan-ï üz-ä <yedgürür>-lär öz asïγ-ïn : käntü öz-lär-i-ning bïšrunmïš
1070 15 ävrip bušï bermiš iki türlüg buyan-lar-nïng tüš-in : yänä iš
1071 36b-1 -lädür-lär asïγ-lïγ mängi-lig qïlγalï alqu tïnlγ-lar-ïγ : qaltï
1072 2 üsdünki täg üküš tälim buyan-lï bilgä bilig-li <yükmäk-lär> üz-ä :
1073 3 birdämlig tanuqlamaq-ïγ adïn-lar ärmäz yanduru käntü öz-lär-i (ök) bulur-lar:

1050~1052 näčä bilsär-lär ymä mundaγ uzadï qayu bïšrunmïš-ïn buyan ävrip bušï berür-lär tïnlγ-lar-qa 「如何にこのように知っても、彼らは常に修したところのものを衆生へ廻施する」は次のように訂正されている： näčä bilsär-lär ymä mundaγ uzadï(-qï) qayu bïšrunmïš-ïn <bölüp> ävrip bušï berür-lär tïnlγ-lar-qa「如何にこのような常のものを知っても、修したところのものを衆生へ分けて廻施する」。 ävrip bušï ber- 「廻施する」。類似の術語で「廻向する」は buyan ävirä ber-で表現される： cf. 庄垣内(2003b) p.324 *l*.108. ken käligmä öd「後に來る時」=「未來世」。1054 uduzup は <tudup>と訂正されている。いずれも「將いて」を意味する。

如何にこのように知っても、彼らは常に修したところのものを衆生へ廻施する。如何に他へ廻施しても、自體もまた廻施の福を得る。またこの廻施の福、及び以前に自身が修したところの福を將て、通して導き普く廻施する。法界にいる衆生らを利樂のものとすることを欲した故に。このように展轉としてその福は更に增大する。如何に漸次增大しても、菩薩らの誓願はまた獨りで充たされるのではない。この慈悲心もてる、願もてる、廣大な心において自らの果を先ず滿たす。それらの本意を糺せば、その意は利他において起こる。その因行を滿たし終えることによって、その果の究極を彼ら自身が證す。この義によってそれで今、自利德の圓滿を説けば、過失とはならない。謂わく頌に説いたものがある：所修の福と智を群生へ施す。廻施の福によって利己を及ばせる。自身が修した廻施の二種の福德を、復た諸有情を利樂となすために用いる。猶、上のごとく、多くの福と智とが聚することによって遂に果證を、他らではなくむしろ自らが得る。

1058 munï munčulayu「このように」は<munday qïlmaq üz-ä>「このようになすことによって」に訂正されている。1059 tanγarïγ は t'nqryq と綴られている。1060 küsüš-i ymä ök yalnguz-ïn yevinür ärmäz. bu yrlïqančučï köngül-lüg「また獨りで充たされるのではない。この慈悲心もてる」は次のように訂正されている：küsüš-i ymä ök yalnguz-ïn <yevinmäz :: nädägin tep tesär bu munday> yrlïqančučï köngül-lüg「また獨りでは充たされない。如何にしてというなら、これはこのごとく慈悲心もてる」。1062 tüz-gärsär「糺せば」は<čïn-γarsar 又 tüpgärsär ymä/ter>と訂正されている。すなわち tüz-gärsär は čïn-γarsar「審するなら」か tüpgärsär「究するなら」かに置き換えられている。tüpgärsär は twypk's'r と綴られている。1064~1065 tüš-i-ning üz-lünčü-sin käntü öz-lär-i tanuqlayur-lar「その果の究極を彼ら自身が證する」は tüš<-in> üz-lünčü- <-tä> käntü öz-lär-i (ök) tanuqlayur-lar「その果を究極において彼ら自身が證する」に訂正されている。

1068(~1084) buyan-ïn から käntü öz-i üčün ärmäz までは節略漢文『實義疏』に對應部分が有る：

廻施之福及利己　自修廻施二福德
復因利樂諸有情　如上衆多福智聚
果證非他遂自得　行願福及廻施福
自他俱利不虛捐

如是雖説自利從因及果亦能利他人。

有頌言。

乳母甘膳用資身　爲子獲安非爲己
佛修福智趣菩提　本爲利生非爲自　(大正 Vol. p.325b)

1069 <yedgürür>-lär「及ばせる」は yedär-lär「及ぶ」を訂正したものである。1072 <yükmäk-lär> üz-ä「聚することによって」は quvray üz-ä「聚によって」を訂正したものである。1073 tanuqlamaq-ïγ の前に tüš が立って「果證」を表す。

1074 4 küsüš-tä <yorïmïš> buyan-ï üz-ä ulatï ävrip bušï bermiš buyan-ï üz-ä :
1075 5 öz-li adïn-lï ikigü-kä asïγ tusu qïlmaq(-ï) yooqsuz bdatï bolmaz tep :
1076 6 是以 bu tïldaγ-ïn näčä söz-läsär ymä öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü
1077 7 -sin. tüšüg tanuqlamaq-qa tükäl-lig bolduq-ta yanduru adï bolur
1078 8 adïn-lar-qa asïγ qïlmïš tep. yänä bar šlok-ta söz-lämiš.
1079 9 乳母甘前饍用資身 avïrda ana-lar-nïng süčig tadïγ-lïγ
1080 10 aš-larïγ išlädip ilgündürmäk-lär-i ärsär ät'öz-in oγlï-ïnga buldur
1081 11 -γu üčün 又 oγlan-qy-a-larïnga ymä/ter. bulduryu üčün äriр enčgüg äsän
1082 12 -güg näng käntü öz-i üčün ärmämiš täg ymä/ter. ančulayu oq ymä burxan-lar
1083 13 (-nïng) bïšrunup buyan-lï bilgä bilig-lig barmaq-lar-ï ärsär tuyunmaq-qa töz-i
1084 14 asïγ tusu qïlyu üčün ärür tïnlγ-lar-qa näng käntü öz-i üčün ärmäz
1085 15 tep 是故仏德 anï üčün tngri burxan-nïng ädgü-lär-i öz-li
1086 37a-1 adïn-lï-qa birgärü asïγ-lïγ ärür. bu tïldaγ-ïn vasubandu baxšï
1087 2 söz-läsär öz-kä asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin ymä ök mün qadaγ
1088 3 bolmaz tep. 論問 basa inčip ögär tngri burxan-nïng adïn-qa asïγ
1089 4 qïlmaq-lïγ ädgü-si-ning büdügin tep. 釋曰 basa tep temiš-i
1090 5 ärsär öngdün šlok-ta yörä tükädip tngri burxan-nïng öz-kä
1091 6 asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin. amtï uγrayu uqïdu yörgü-tä tngri
1092 7 burxan-nïng adïn-qa ašïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin öngdün-kisingä
1093 8 ulalduru tardar üčün kenki-sin anïn adamïš ol basa tep
1094 9 adïn-qa asïγ qïlmaq ärsär. qaltï adï ködrülmiš-ning uz-an
1095 10 -maq-lïγ al-ï aldaγ-ï ärür. tavranmaq birlä yaradïlmïš kim
1096 11 alqu tïnlγ-lar-ïγ. ornadïp turγurmïš ärür nirvan-ta qayu ol
1097 12 adïn-qa asïγ qïlmaq-ï tep tesär :: šlok-ta söz-lädi ärti.
1098 13 tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök
1099 14 tidig-tin tep :: adïn-qa asïγ qïlmaq ärsär qaltï adï köd
1100 15 -rülmiš-ning uzanmaq-lïγ al-ï aldaγ-ï ärür tavranmaq birlä
1101 37b-1 yaradïlmïš ädgü-si-ning büdügi ärsär. kim qudruldačï vaynike
1102 2 -lïγ tïnlγ-lar-ïγ tükäl-lig qïlmïš üčün ärür. üz-äliksiz
1103 3 čïnkertü yeg yörüg-kä tep. 論曰由彼 ol sansar ärür

行願福及び廻施福によって、自と他の二つへ利益をなすことが唐捐とはならない、と。これに因って、如何に自利徳を説いても果證が圓滿となることにおいて、むしろその名は「利他をなすもの」となる、と。また、頌に説いたものが有る：乳母が甘い食を用いて身を資するのは、子らへ平安を獲させるためであり、決して自己のためではないように、そのようにまた、佛が福と智とを修し、菩提へ趣くことなら、その根本は衆生へ利益をなすべきためである。決して自身のためではない、と。それ故、佛の徳は自と他とへの兩方の利である。これに因って、世親師が自利徳を説いても過失とはならない、と。

論問：『次に當に佛の、利他徳の圓滿を讃ずる』（次當讃佛利他徳圓）と。

釋曰：「次に」（次）と云った。以前に頌において佛の自利徳を釋し終え、今まさに佛の利他徳を解釋することにおいて、先のものに後のものを續けて引く故に「次に」と名づけた、と。「利他」は、謂わく世尊の巧妙な方便である。精進と相應した一切衆生を涅槃に安住させるものである。「利他」とは何かと云うなら、頌に**「衆生を生死の泥から抜いて出したなら」**（拔衆生出生死泥者）と説いたのである。「利他」は、謂わく世尊の巧妙な方便である。精進と相應した徳の完成が、所化の衆生を無上の眞實勝義に對して圓滿としたためである、と。

1074 küsüš-tä <yorïmïš> buyan-ï「行願福」は küsüš-tä yormaq-lïγ buyan-ï を訂正したものである。1075 yooqsuz bdatï はここでは「唐捐」に當たる。このウイグル語は「徒」にも對應する： yoqsuz bïdatï urmaq üzä keng savïγ 「徒置廣文」(B125). なお yooqsuz bdatï については BTTV (Zieme (1975), p.72 note 38) にも詳しい解説がある。 1077 tüšüg tanuqlamaq-qa「果證へ」は漢文に合わせるなら tüš-kä「果へ」となる。1079 用資身 avïrda は用資身（ymä）avïrda と訂正されている。1080 aš-larïγ「食を」は aš <ičgü-lärig>「飲食を」に訂正されている。1080~1082 oγlï-ïnga buldur-γu üčün 又 oγlan-qy-a-larïnga ymä/ter. bulduryu üčün ärip enčgüg äsän-güg näng käntü öz-i üčün ärmämiš täg ymä/ter. この文の「又」以下は訂正文である。ただし、最初の ymä/ter は點線で圍まれているので削除すべきである。ここではこの訂正文を採用して oγlan- qy-a-larïnga buldur-γu üčün ärip enčgüg äsän-güg näng käntü öz-i üčün ärmämiš täg「子らへ平安を獲させるためであり、決して自己のためではないように」と譯した。1080 行目には傍注として（ärür enčgüg äsängüg näng käntü öz-i üčün ärmäz ärsär）が書かれている。もしこれを採用すれば oγlï-ïnga buldur-γu üčün ärür enč- güg äsängüg näng käntü öz-i üčün ärmäz ärsär「子へ平安を獲させるためである。決して自己のためでないなら」となる。äsängüg の初頭の ä-はいずれも"で綴られている。1083 bïšrunup buyan-lï bilgä bilig-lig「福と智とを修し」は bïšrunup buyan-lï bilgä bilig <-tä>「福と智において修し」に訂正されている。1084 asïγ tusu qïlγu üčün ärür tïnlγ-lar-qa「衆生へ利益をなすべきためである」は（tïnlγ-lar-qa）asïγ tusu qïlγu üčün ärür のごとく語順が訂正されている。1091~1092 amtï uγrayu uqïdu yörgü-tä tngri burxan-nïng adïn-qa ašïγ qïl- maq-lïγ ädgü-sin「今まさに佛の利他徳を解釋することにおいて」は次のように訂正されている：asïγ qïlmaq ol ädgü-sin. amtï <uγramaq üz-ä> uqïdu <yörgäli> tngri burxan-nïng adïn-qa ašïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin「今まさに佛の利他徳を解釋するのを欲することによって」。1093 ulalduru tardar üčün「續けて引く故に」は ulalduru <tardmïš> üčün「續けて引いた故に」に訂正されている。1096 ornadïp turγurmïš「安住させるもの」は ornadïp turγur<-maq>と訂正されている。1103 sansar は sns'r と綴られている。

1104 4 üčün alqu tïnlγ-lar-nïng čomrulγuluq badγuluq orun-ï
1105 5 alp ündürgülük üčün bu tïldaγ-ïn tidig-kä yöläšdürmiš
1106 6 ärür tep. 釋曰 sansar qayu ol tep tesär. qaltï aqïlmaq
1107 7 ävrilmäk ärür. aqïlmaq ävrilmäk ymä qayu ol teptesär.
1108 8 bašlaγ-sïz-tïn bärü(-ki) beš yükmäk-lär-ning kšan kšan sayu ulalmaq
1109 9 -ï ärür. öngdünki yükmäk öčä tükädip kenki yükmäk yänä
1110 10 turγup ikin ar-a üzülmäz üčün anïn söz-lämiš ol aqïl
1111 11 -maq ävrilmäk tep. qayu tïldaγ-ïn sansar-ïγ tidig-kä yöläš
1112 12 -türdi teptesär. oxšašur üčün 此有二義相似 munda
1113 13 bar iki türlüg yörüg-lär oxšašγuluq. ang'ilki čomrulγu
1114 14 -luq badγuluq üčün ikinti alp üngülük üčün <ärür>
1115 15 qaltï tidig täg 水浸於土 suv yalq-a-lïγ ärsär tïnlγ
1116 38a-1 -lar täpip sadγap bu tïldaγ-ïn tidig büdürür(-lär) inčip yänä
1117 2 稀 üküš tälim tïnlγ-lar anda näčä näčä täpräsär. anča anča oq
1118 3 täringädür üčün anïn söz-lämiš ol čomrulγuluq badγuluq tep
1119 4 ol kärik ïraq ärip. yänä bašlaγ-sïz üz-lünčü-süz ärdüki
1120 5 üz-ä 黏 yapïšïp bolmaz üčün üngäli anïn söz-lämiš ol
1121 6 alp üngülük tep. sansar ymä andaγ oq čomrulγuluq bad
1122 7 -γuluq orun üčün alp üngülük üčün ymä ök bolmaq az
1123 8 suv bolup öngi bïšmaq topraq bolup tïldaγ-lï tüš-li
1124 9 bir ikinti-kä qadïlmaq qavïšmaq üz-ä tidig bolup tïnlγ
1125 10 -lar anda ärü ärü čomrulur badar üčün anïn söz-lämiš ol
1126 11 čomrulγuluq badγuluq tep ayïγ körümüg täprädmäkindin täprä

1104 alqu tïnlγ-lar-nïng čomrulγuluq badγuluq orun-ï「諸々の衆生が沈溺する處」は alqu tïnlγ-lar<-qa> čomrulγuluq badγuluq orun「諸々の衆生にとって沈溺する處」に訂正されている。1115~1118 qaltï tidig täg 水浸於土 suv yalq-a-lïγ ärsär tïnlγ-lar täpip sadγap bu tïldaγ-ïn tidig büdürür(-lar) inčip yana 稀 üküš tälim tïnlγ-lar anda näčä näčä täpräsär. anča anča oq täringädür üčün「猶、泥のごとし。水に浸ったものは、衆生が踏みつけ、これに因って泥と成す。即ちまた多くの衆生はそこで如何にもがけども、徐々に沈む故、」。この文は以下のように訂正されている：<又 anïlayu oq :: > tidig<-kä oxšadmïš ärür ymä ter :: > 水浸於土 <(又 suv üz-ä imlälmiš tep ymä ter)> suv (üz-ä) yalq-a-lïγ <topraq-ïγ> tïnlγ-lar <täpmäk qašïmaq üz-ä> bu tïldaγ-ïn tidig <büdmiš 又-kä ymä/ter. > inčip yana 稀 üküš tälim tïnlγ-lar anda näčä näčä <täprämiš-čä>. anča anča oq <badïqur-lar> üčün「猶、泥に似ている。水によって浸された土を衆生が掻き蹴あげることによって、これに因って、泥と成った。即ちまた多くの衆生らはそこで、如何にもがけども、徐々に沈む故、」。1117 初頭の漢字「稀」はがウイグル文にどう關わるのか解らない。

論曰：『彼の生死は諸々の衆生が沈溺する處である故、出難いところ故、これに因って、泥に譬えたのである』（由彼生死是諸衆生沈溺處故難可出故所以譬泥）と。

釋曰：「生死」とは何かと云えば、謂わく、流轉である。流轉はまた何かと云えば、無始以來の五蘊の刹那刹那の連續である。先にある蘊が滅しおえ、後にある蘊がまた生まれ、間が斷たれない故、それで「流轉」と説いた。何に因って「生死」を泥に譬えたのかと云えば、相似する故。ここに二種の義の相似が有る。第一は沈溺することの故、第二は出難いことの故、猶、泥のごとし。水に浸ったもの、（それを）衆生が踏みつけ、これに因って泥と成す。即ちまた多くの衆生はそこで如何にもがけども、徐々に沈む故、それで、「沈溺」と説いた。それは廣遠でありまた無始無限である上に、粘着していて出ること叶わない故に、「出難いもの」（難可出）と説いた。生死もまたそのように沈溺する處の故、出難いものの故、また（その喩えも）可（である）。貪水となり、異熟の土となって、因と果とが互いに混合することによって泥となり、衆生はそこで遂に沈溺する故、それで「沈溺」と説いた、と。

1115 yalq-a-lïγ を「浸ったもの」= ? yalq 'have indigestion'(Kāšγarī 3 p.211) -a(dev.noun). imlälmiš は「浸された」を意味する。im は漢語「淫」（ひたる、ひたす M.Chin. yiɔm）の音寫と推定できる。im-lä(den. verb)-l(passive). 1119~1120 ol kärik ïraq ärip. yänä bašlaγ-sïz üz-lünčü-süz ärdüki üz-ä 黏 yapïšïp bolmaz üčün üngäli「それは廣遠でありまた無始無限である上に、粘着して出ること叶わない故に」は次のように訂正されている：ol kärik ïraq ärip. yänä (tayanγuluq) bašlaγ-sïz üz-lünčü <tüpsüz> ärdüki üz-ä 黏 yapïšïp (mayïšïp) bolmaz üčün üngäli「それは廣遠であって、また依るものは、無始無限であったことにおいて、粘着して出ること叶わない故に」。1121~1125 sansar ymä andaγ oq čomrulγuluq bad-γuluq orun üčün alp üngülük üčün ymä ök bolmaq az suv bolup öngi bïšmaq topraq bolup tïldaγ-lï tüš-li bir ikinti-kä qadïlmaq qavïšmaq üz-ä tidig bolup tïnlγ-lar anda ärü ärü čomrulur badar üčün「生死もまたそのように沈溺する處の故、出難いものの故、また(その喩えも)可(である)。貪水となり、異熟の土となって、因と果とが互いに混合することによって泥となり、衆生はそこで遂に沈溺する故」。この文は次のように訂正されている： sansar ymä andaγ oq čomrulγuluq bad-γuluq orun üčün alp üngülük üčün ymä ök (yraši taplamïš ol) bolmaq az suv bol- up öngi bïšmaq (töz-lüg nom) topraq bolup tïldaγ-lï tüš-li (nom-lï) bir ikinti-kä qadïl(ïš)maq qavïšmaq üz-ä tidig bolup tïnlγ-lar anda <tägzinü tulïnu> čomrulur(-lar) badar(-lar) üčün「生死もまたそのように沈溺する處のため、出難いもののため、また(そのたとえを)許した。貪水となって、異熟性の法土となって、因と果と法とが互いに混合することによって泥となり、衆生はそこで旋環して、沈溺する故」。 ただし、(yraši taplamïš ol)の yraši「適切に」には削除記號が付せられている。tägzin-ü tulïn-u の tulïn-はこの文獻では常に tägzin- と二詞一語を組み「旋環する」を意味する：cf. turup qulγaqnïng tälük ičindä tägzin-ü tulïn-u inčip turur 「耳穴旋環而住」(B1947). tulïn-に類する形式としては N.Uig. に tuluq「轉輪」がみられる：cf. 『維摩』p.495.

1127 12 -mäk uγur-ïnda anïn ärü ärü täringädür üčün anïn söz-lämiš
1128 13 ol alp üngülük tep. 或由身見故 azu-ča ymä bar ät'öz
1129 14 körüm uγur-ïnda anïn čomrulup badïp sansar-ta anïng
1130 15 uγur-ïnda bäk yarp adqanur üčün män mäninglig tep
1131 38b-1 anïn söz-lämiš ol čomrulγuluq badγuluq tep. ol män az-ïγ
1132 2 basa basa (yüüz) yügärü yorïdmaq üz-ä bu az uγur-ïnda anïn tidmäz
1133 3 üčün beš yükmäkig anïn söz-lämiš ol alp üngülük tep ::
1134 4 azu-ča ymä bu beš yükmäk-lär üč türlüg az-qa tayaq-lïγ ärür
1135 5 bu oq inčip ärür sansar čomrulγuluq badγuluq orun 衆生於中
1136 6 tïnlγ-lar anda qorqmadïn aymanmadïn män küvänč-ig küčländürür
1137 7 üklidür bular (ikigü) tïdïγ qïlmaq üz-ä ünmäk öngi üdrülmäk
1138 8 -kä qorqmïš aymanmïš üčün umaz-lar adïn-lar-qa nomlaγalï
1139 9 ünüš-lüg yoluγ. käntü öz-lär-i män küvänč-lig bolmïš üčün
1140 10 umaz-lar adïn-lar-qa asïr-a tüšüp ayïdγalï ödüngäli sansar
1141 11 -tïn üngülük tïldaγ-ïγ. 或即身見 azu-ča ymä ol oq bar
1142 12 ät'öz körüm ärür čomrulγuluq badγuluq orun adqanmaq uγur
1143 13 -ïnda bar ät'öz körüm-üg. qorqmïš üčün üzülgäy öčgäy
1144 14 män tep. sävmäz üčün nirvan-ïγ anïn adamïš ol čomrulγuluq
1145 15 badγuluq tep. čxšapt törü qavramaq üz-ä ulatï sezik
1146 39a-1 üz-ä anïn alp üngülük ärür. (nädägin tep tesär) čxšapt törü qavramaq üz-ä
1147 2 anïn tïdïp köni yol-uγ tayanur-lar ol tärs yol-qa. sezik-lig
1148 3 bolmïš üčün sezinür tüz-ün yol-qa. šasdr-ta basa karik-ta söz
1149 4 -lämiš ol 或不欲發趣 azu-ča ymä küsämäz täpräp baryalï.
1150 5 yangïlur yol-uγ ulatï sezinür yol-ta. uyur üčün tïdγalï
1151 6 qudrulmaq-qa barmaq-ïγ. anïn yindäm söz-lämiš ol üčägü-ni taryarmaq
1152 7 -ïγ tep. bu yörüg üz-ä anïn adï bolmïš ol alp üngülük tep.
1153 8 azu-ča ymä tidig täg yapšïnmïš üčün anïn adamïš ol čomrul
1154 9 -γuluq badγuluq tep. 不能自出 umatïn käntü öz-i üngäli
1155 10 adïn-qa tayaq-lïγ-ïn bolur üčün üngäli anïn adamïš ol alp üngü
1156 11 -lük tep. sansar ymä andaγ oq az qošuγ-nung küči ärür čomrulγu
1157 12 -luq badγuluq orun az birök yügärü yorïsar. adqanγu-luq adqanγu
1158 13 -ta alqu-qa barča az-landurur yapšïndurur. burxan-lar ünmädük-tä
1159 14 yerdinčü-tä yoq üčün uγur-ï yïq-ï üngäli bolγuluq anïn söz-lämiš
1160 15 ol alp üngülük tep. adï ködrülmiš-lär yerdinčü-tä ündüktä
1161 39b-1 qaltï udumbar xu-a täg burxan-lar alp tušušγuluq üčün anïn söz
1162 2 -lämiš ol alp üngülük tep. 或一切煩惱 azu-ča ymä alqu niz-vanï
1163 3 -lar ärür čomrulγuluq badγuluq orun. alqu niz-vanï-lar-ta yindäm
1164 4 bir-in taryarmasar bular ymä ök umaz-lar üngäli öngi üdrülgäli
1165 5 ünmämiš üčün sansar-tïn anïn söz-lämiš ol čomrulγuluq badγu
1166 6 -luq tep. tüz-ün yol alp bulγuluq üčün anïn söz-lämiš ol alp

惡見を搖すり搖することに由って、それで遂に沈む故に、「出難いもの」と説いたのである。或は、有身見に由って、それで生死に沈溺し、それに由って我我所を堅固に縁ずる故に、「沈溺」と説いたのである。その我愛を次々と現行させることにより、この愛に由って、それで五蘊を捨てない故に、「出難いもの」と説いたのである。或は、この五蘊は三種の愛に依るものである。これが則ち、「生死」「沈溺處」である。衆生はそこに恐怖せず、我慢を強大にする。これら二つが、出離へ障をなすことによって恐怖したために、餘らへ出離の道を説くことができない。彼ら自身が我慢もてるものとなったため、餘らへ、下落して、生死から出るべき因を請問することができない。或はまさにその有身見が「沈溺處」である。有身見を縁ずることに由って、我れは斷滅するだろうと恐れた故に、涅槃を好まない故に「沈溺」と名づけたのである。戒禁取及び疑によって、それで「出難いもの」である。如何にしてかと云えば、戒禁取によって、それで正道を妨げて邪道に依る。疑もてるものとなったために聖道へ疑いをなす。論において更に本頌で説いた：或は發趣することを欲しない。道に迷う。更に道において疑う。解脱へ趣くことを能く妨げる故、それで唯だ、三つを斷つことを説いたのである、と。この義によって、それで「出難いもの」と云う名になったのである、と。或は泥のごとく粘着した故に、「沈溺」と名づけた。自身で出ることができず、他に依って出ることができる故、それで「出難いもの」と名づけた。生死もそうである。貪結の力は「沈溺處」である。貪がもし現行すれば、所縁境において一切へ悉く愛執させる。佛らが世間に出現しないときには能く出るべき機會が無い故、それで「出難いもの」と説いたのである。世尊が世間に出現したときは、猶、優曇華のごとし。佛は出會い難いもの故、それで「出難いもの」と説いた。或は、一切の煩惱は「沈溺處」である。一切煩惱において、唯だその一つを斷たないなら、これらはまた出離することができない。生死から出なかった故、それで「沈溺」と説いたのである。聖道は得難いものの故に、「出難いもの」と説いた。

1126~1127 ayïγ körüm-üg täprädmäkindin täprä-mäk uγur-ïnda anïn ärü ärü täringädür üčün「惡見を搖すり搖することに由って、それで遂に沈む故に」は次のように訂正されている：(bu) ayïγ körüm <-lärig täpräd- mäkin täpräd>-mäk <üz-ä> anïn ärü ärü täringädür üčün「この惡見らを搖すり搖することにおいて、それで遂に沈む故に」。1128 bar äṫöz körüm「有り－身－見ること」=「有身見」(Skt. satkāya-dṛṣṭi)。1130 män mäninglig「我れ－我れのもの」=「我我所」(Skt. ātmātmīyatva)。1137 ünmäk öngi üdrülmäk「出ること－離れること」=「出離」(Skt. naiṣkramya)。1140 asïra < asra「下」。1145 čxšapt「戒」(< śikṣāpada)－ törü「掟」－ quvramaq「執ること」=「戒禁取」(śīla-vrata-parāmarśa): cf. nätägin uluγ äzrua adqaγlïγ anïlayu oq turγurur čxšapt törü qavramaq-ïγ「云何縁大梵猶起戒禁取」(H28 V63). 1149(~1152) azu-ča ymä küsämäz täpräp baryalï から üčägü-ni taryarmaq-ïγ tep までは『倶舍論』卷二十一の内容に對應する：或不欲發趣迷道及疑道能障趣解脱故唯説斷三(大正 Vol.29, p.108c)。1164~1165 bular ymä ök umaz-lar üngäli öngi üdrülgäli ünmämiš üčün sansar-tïn「これらはまた出離することができない。生死から出なかった故」は次のように訂正されている： bir-in taryarmasar bular ymä ök umaz-lar üngäli öngi üdrülgäli (sansar-tïn) <ünmäz> üčün sansar-tïn 「これらはまた生死から出離することができない。生死から出ない故」。

1167 7 üngülük tep. tüz-ün yol qayu tïldaγ-ïn alp bulγuluq ol teptesär
1168 8 若不積集 kim-lär yïymasar termäsär. buyan-lïγ bilgä biliglig
1169 9 yevig tizig-lärig bulmaz-lar tüz-ün yol-uγ kim-lär tušmasar burxan-lar-qa
1170 10 ymä ök bulmaz-lar tüz-ün yol-uγ. käntü umaz-lar bilgäli ozmaq qudrulmaq
1171 11 -lïγ yevig tizigig bu tïldaγ-ïn tüz-ün yol alp bulγuluq üčün. anïn
1172 12 söz-lämiš ol čomrulγuluq badγuluq tep. tüz-ün yolta taš öngi
1173 13 yoq üčün uγur-ï yïqï ozγuluq qudrulγuluq anïn söz-lämiš ol
1174 14 alp üngülük tep. munda-ta ulatï yörüg-lär üz-ä anïn šasdr-ta
1175 15 tidig-kä yölädürmiš ärür tep. 論 tïnlγ-lar anda čomrulup.
1176 40a-1 badïp umuγ-suz ïnaγ-sïz bolmïš-qa tep 釋曰 čomrulup badïp tep
1177 2 temiš-i ärsär. täring kirip ol sansar-ta turmïš üčün anïn adamïš
1178 3 ol čomrulup badïp tep. tïnlγ-lar üsdün bavagir-tïn aldïn aviš tamu
1179 4 -qadägi. tägzinü tulïnu až-un-lar-ta tuγum-lar-ta tuγar ölür üčün üküš
1180 5 tälim anïn söz-lämiš ol tïnlγ tep. azu-ča ymä oxšadï on tuš-lar
1181 6 -ta kšan-ta särilmäz üčün anïn adamïš ol tïnlγ tep. umuγ-suz ïnaγ-sïz
1182 7 bolmïš-qa tep temiš-i ärsär yoq üčün tardïp umuγ ïnaγ boldačï
1183 8 qaltï kiši-lär tušup ämgäk-kä öz tuγurup tilädüktä umuγ-uγ
1184 9 yoq üčün kiši-lär-tä umuγ közädči anïn adamïš täg umuγ-suz
1185 10 tep. 論 adï ködrülmiš (amrayu) erinčkäyü yrlïqap tep 釋曰
1186 11 körüp ämgäk üz-ä bärdingülük bolmïš-larïγ ät'öz-i köngül-i tidräp
1187 12 täpräp alqu ärklig-lär-i ongup öngsiräp arduqraq tuγurup
1188 13 sïqïlmaq örlädilmäkig tuγurur üčün uluγ yrlïqančučï
1189 14 köngül-üg anïn adamïš ol amrayu erinčkäyü yrlïqap tep
1190 15 問 nädägin bolur bilgäli adï ködrülmiš-ning amramïš erinčkämiš
1191 40b-1 üčün tardtačï-sïn tïnlγ-lar-ïγ tep 答 amramïš erinčkämiš üčün
1192 2 temin ök uyur-lar adïn-lar-qa asïγ qïlγalï amramaq erinčkämäk
1193 3 -tä taš öngi adïn-lar-qa asïγ qïlur teptesär bu oq inčip ärür öz
1194 4 -kä asïγ qïlmaq-nïng al-ï alday-ï 如世間人 qaltï yerdinčü-täki
1195 5 kiši-lär ilinmiš amramïš täg öz qa qadaš-ta ulatï-lar-ïnga burxan
1196 6 -lar ödrü anday ärmäz bar üčün yrlïqančučï köngül-i üz-ä erinčkämäki
1197 7 uzadï uyur-lar adïn-lar-qa asïγ qïlγalï. üz-äliksiz öz-kä
1198 8 asïγ qïlmaq-qa tükäl-lig bolup ärdürü tükädmäk üz-ä munï üz-ä
1199 9 anïn bilmiš kärgäk adï ködrülmiš-ning bar üčün amramaq erinčkä
1200 10 -mäki tardïp tašγarïp umuγ ïnaγ bolmïš ärti tïnlγ-lar-qa
1201 11 tep 論 eyin yaraγïnča berip köni nom nomlamaq-lïγ ong elig
1202 12 -in tardïp tašγarïp umuγ ïnaγ bolup ündürü yrlïqadï tep
1203 13 釋曰 köni nom ärsär ädgü ärän-lär-ning nom-ï-nïng adï bolur köni
1204 14 nom tep. öggülük külägülük nom-nïng adï bolur köni nom tep.
1205 15 učuz ongay tapïnγuluq udunγuluq nom-nïng adï bolur köni nom tep.

聖道は何に因って得難いものなのかと云えば、もし福智の資糧を積集しない
なら、聖道を得ない。もし佛に會わないなら、また聖道を得ない。自ら解脱の資糧を知ることはできない。これに因って、聖道は得難いもの故、それで、「沈溺」と説いたのである。聖道より外に解脱する容きことは無い故に、「出難いもの」と説いたのである。これ等の義によって、それで論において「泥」に譬えたのである、と。

論：『**衆生はそこに淪沒して、救うもの無くなったので**』（衆生於中淪沒無救）と。

釋曰：「淪沒して」（淪沒）と云ったのは、深く入って生死に住した故、それで「淪沒して」と名づけた。衆生は上なる有頂天から、下なる無間地獄にまで旋環し、生趣において多く生死する故に、それで「衆生」と説いたのである。或は、同類十位において刹那に耐えられない故、それで「衆生」と名づけたのである。「救うもの無くなつたので」（無救）、と云ったのは、拔濟となるもの無い故。猶、人々が苦に遭遇して、自ら救いを起こし求めたときに人々に救護が無い故、それで「無救」と名づけたごとし、と。

論：『**世尊は哀愍したまうて**』（世尊哀愍）と。

釋曰：苦によって損なわれたものらを見て、その身心は振動し、諸根は色あせ、畢竟に苦痛を生じて大悲心を起こす故に、それで「哀愍したまうて」（哀愍）と名づけたのである。問：世尊は哀愍した故に衆生を拔くものであることを如何にして知ることができるのか？と。答：哀愍した故に方に利他をなすことができる。哀愍よりほかに利他をなす、と云えば、これ即ち自利をなすことの方便である。猶、世間の人々が自らの家族等へ愛着したごとし。佛らは即ちそのようではない。慈悲心による哀愍が有る故、無上の自利がよく圓滿となることによって常に利他をなすことができる。これによって、それで世尊には哀愍が有る故「拔き出して衆生への救いとなった」と、知らねばならない。

論：『**その所應に隨い、正法を説く教手を授けて、拔濟となって、出したまうた**』（隨授所應正法教手拔濟令出）と。

釋曰：「正法」とは、善男子の法の名が「正法」となる。讃ぜられる法の名が「正法」となる。

1180 oxšadï on tuš-lar「類似の十の位」＝「同類十位」。本書では tïnlγ を「有情」、tïnlγlar を「衆生」と和譯した。1182 tardïp umuγ ïnaγ boldačï「拔いて救濟となるもの」＝「拔濟」（abhyuddhṛtavant）。1187 öngsirä- = öng「色」-sirä（den.verb privative）「色あせる」。

1206 41a-1 nom ärsär qaltï iki ygrmi bölük sav-ta banmïš nom-lar ärür. nomlamïš
1207 2 üčün (bu) iki ygrmi bölük sav-ta banmïš nom-lar-ïγ anïn adamïš ol.
1208 3 berü yrlïqap köni nom nomlamaq-lïγ ong eligin tep. bu oq inčip
1209 4 uγrayu elig bermäk ärmäz. täk ärür nom nomlamaq. nom nomlamaq-nïng elig
1210 5 bermäk-ning anïng yörügi oxšašur 云何相似 nädägin oxšašur tep
1211 6 tesär. munda qaltï tardïp tašγarïp umuγ ïnaγ bolγu-ta tidig
1212 7 -tä čomrulmïš badmïš tïnlγ-lar-qa. tägimlig ol kärgäkläp. qïïnïp
1213 8 qadïγlanïp elig sunup anda inčip tardïp umuγ ïnaγ bolγalï
1214 9 adï ködrülmiš ymä andaγ oq uzanmaq-lïγ al aldaγ üz-ä
1215 10 tardγu-ta ol sansar-lïγ kök tidig-tä čomrulmïš badmïš tïnlγ
1216 11 -lar-ïγ sunup köni nom nomlamaq-lïγ ong eligin tardïp tašγar
1217 12 -ïp umuγ ïnaγ bolup kim ündürü yrlïqamïš üčün anïn adamïš
1218 13 ol oxšašur tep 隨授所應者 eyin yaraγïnča berip
1219 14 teptemiš-i ärsär qudruldačï vaynike tïnlγ-lar-nïng bar üčün üküš
1220 15 tälim adïrtï. adï ködrülmiš nom nomlamïš ärür olar-nïng ärklig
1221 41b-1 -lär-ingä qačïγ-lar-ïnga yarašï. šastr-ta basa karik-ta söz-lämiš ol
1222 2 或隨蘊等言 azu-ča ymä yükmäk-tä ulatï-lar eyin yrlïqa
1223 3 -miš ol. čïnïnča kerdü-sinčä ärsär čarit-ča oq ärür. yöründäk bol
1224 4 -maq üz-ä tep. 問 biz-ing-tä ulatï ülgülänčsiz tïnlγ-lar anïlayu
1225 5 oq turur ärip sansar-lïγ kök tidig-tä šasdr-ta nädägin söz-läti
1226 6 tardïp tašγarïp umuγ ïnaγ bolup kim ündürü yrlïqadï tep
1227 7 答 qaltï söz-lämiš täg yarïm-ča alqu-nung ymä ök adï bolur alqu tep
1228 8 azu-ča ymä adï ködrülmiš-ning nomlamïš nom-ï-nïng abipiray-ï ärsär
1229 9 küsämiš üčün ärür tüzü asïγ tusu qïlïp tïnlγ-lar-qa sansar-lïγ
1230 10 tidig-täki alqu-nï barča tardïp umuγ ïnaγ bolγalï munda adï ködrül
1231 11 -miš-ning töz köngül-in tuda anïn söz-lämiš ol tardïp tašγarïp umuγ
1232 12 ïnaγ bolup kim ündürü yrlïqadï tep azu-ča yänä adï ködrülmiš-ning
1233 13 bar üčün ol tardγalï umaq-lïγ alqu tïnlγ-lar-ïγ küči kösüni
1234 14 以此義故 bu yörüg üz-ä anïn šasdr-nïng vardi-sïnda söz
1235 15 -lämiš ol eyin yaraγïnča berip tep nä ymä umuγ ïnaγ (bolup) tardγalï

供養に適した法の名が「正法」となる。「法」は謂わく、十二分教に束ねられた法である。この十二分教に束ねられた法を説いた故、それで「正法を説く教手を授けたまうて」（隨授所應正法教手）と名づけた。これは即ち「まさに手を授けること」ではない。單に、「法を説くこと」である。法を説くことと、手を授けることの義は相似している。如何に相似しているのかと云えば、ここで謂わく泥に沈溺した衆生に對して、抜き出して救いとなることにおいて必ずや奮い立って手を延ばし而して應に抜いて救いと爲す。世尊もまたそのように巧妙な方便によって、その生死の泥に沈溺した衆生を抜くことにおいて、正法を説く教手を延ばして抜き出し、救いとなって出したまうた故に、「相似している」と名づけたのである。「その所應に隨い・・授けて」（隨授所應）と云った。所化の衆生には多くの異なりがあるため、彼らの根に相應しい法を世尊は説いたのである。論において更に本頌に説いた：或は蘊等に隨って言われた。如實は行に沿っている、對治となることにおいて、と。問：我らのもの等、（すなわち）無量の衆生は猶生死の泥に住するのであって、論において如何にして「抜濟となって、出したまうた」（抜濟令出）と説いたのか？答：猶、「少分としての一切」のその名も「一切」となると説いたごとし。或は世尊の説かれた法の意趣は、衆生へ普く利益をなし、生死の泥にある一切がことごとく抜濟となることを欲した故である。ここに世尊の本意を約して、それで「抜濟となって、出したまうた」（抜濟令出）と説いたのである。或は世尊には能く一切の衆生を抜く力が有る故である。この義を以って、それで論の注釋において「その所應に隨い・・授けて」（隨授所應）と説いたのである。

1212 kärgäkläp は k'rk'kl"p と綴られている。1221 ärklig-läri qačïγ-lari は二詞一語で「根」を表す。1222 (~1224) azu-ča ymä yükmäk-tä ulatï-lar eyin yrlïqa-mïš ol. čïnïnča kerdü-sinčä ärsär čarit-ča oq ärür. yöründäk bolmaq üz-ä tep「或は蘊等に隨って言われた。如實は行なり、對治となることによって、と」。このウイグル文は『倶舎論』巻一の内容に對應する：或隨蘊等言如實行對治(大正 Vol.29, p.6b)。漢文は「或は蘊等の言に隨うと。如實は、行の對治なり。」と讃める：cf.「國譯大藏經」(論部 Vol.11, p.70)。1225 sansar は sns'r と綴られている。

1236 42a-1 tägimlig ärsär adï ködrülmiš barča-nï tardïp umuγ ïnaγ bol
1237 2 -miš ärür. inčä qaltï kün tngri-ning yaruq-ï yarudup yerdinčüg
1238 3 tüzü umïš-ï täg ačγalï yarγalï. alqu lenxu-a čäčäk-lär-ig
1239 4 näčä yaraši tüzü ačsar ymä ačïlγalï tägimlig-i ärsär inčip
1240 5 ašnu-ča ačar yarar ärsär. ančulayu oq burxan-lïγ kün tngri ymä
1241 6 andaγ oq. näčä tüzü ačdačï yardačï ärsär ymä tïnlγ-lar-nïng
1242 7 köngül-lüg xu-a-lar-ïn. ärklig-lär-i qačïγ-lar-ï (bïšmïš-lar) ärsär. inčip
1243 8 ašnu-ča ozγurur qudγarur. tägimlig ymä qayu ol teptesär.
1244 9 謂解脱分 qaltï qudrulmaq ülüš-lüg ädgülüg yïldïz-ï
1245 10 bïšmïš-lar-ning adï bolur tägimlig tep. tägimlig ärmäz-i ärsär
1246 11 barča ärür. käntü öz-lär-i-ning (ök) müni qadaγ-ï. adï ködrülmiš näčä
1247 12 tükäl-lig ärsär ymä ülgülänčsiz tïnlγ-lar-ïγ tardγalï umaq
1248 13 -lïγ uzanmaq-lïγ al aldaγ-qa umaz tardïp umuγ ïnaγ bolγalï
1249 14 munï munčulayu ärklig-lär-i bïšmaduq-lar-qa qayu tïldaγ-ïn umaz tar-
1250 15 -tïp umuγ ïnaγ bolγalï tep tesär. tardïp umuγ ïnaγ bolγuluq
1251 42b-1 bar iki türlüg tïldaγ-lar. 一者内 ang'ilki ičdin sïngarqï
1252 2 ikinti taš-tïn sïngarqï. ičdin sïngar-qï ärsär. qaltl käntü öz
1253 3 -i köni-sinčä saqïnmaq bögünmäk ärür. tašdïn sïngarqï ärsär köni
1254 4 nomuγ äšidmäk tïnglamaq tedir 世尊能為外緣 adï ködrül
1255 5 -miš usar ymä taš-tïn sïngar tïldaγ bolup nomlaγalï köni nomuγ
1256 6 tïnlγ-lar-nïng käntü ägsük üčün ičdin sïngar-qï köni-sinčä saqïn
1257 7 -maq bögünmäk-lär-i bu tïldaγ-ïn umaz-lar üngäli öngi üdrülgäli sansar
1258 8 -tïn adï ködrülmiš-tä ymä ök yoq mün qadaγ qaltï bar šlok-ta söz-lämiš-i

---

1239~1243 näčä yaraši tüzü ačsar ymä ačïlγalï tägimlig-i ärsär inčip ašnu-ča ačar yarar ärsär. ančulayu oq burxan-lïγ kün tngri ymä andaγ oq. näčä tüzü ačdačï yardačï ärsär ymä tïnlγ-lar-nïng köngül-lüg xu-a-lar-ïn. ärklig-lär-i qačïγ-lar-ï (bïšmïš-lar) ärsär. inčip ašnu-ča ozγurur qudγarur「如何に適切に普く開くとも、應に開かれるべきものが即ち先に開敷するのなら、そのように佛なる日天もその通りである。如何に衆生の心華を普く開敷するものであろうとも、その根が熟したものらは則ち先に(それらを)解脱させる」。この文は以下のように訂正されている：⇒

ともあれ、救濟となって應に拔くべきことについては、世尊が全てを拔いて救濟となったのである。猶、日天の光が世間を照らし、能く一切の蓮華を普く開敷したごとし。如何に適切に普く開くとも、應に開かれるべきものが即ち先に開敷するのなら、そのように佛なる日天もその通りである。如何に衆生の心華を普く開敷するものであろうとも、その根が熟したものらは則ち先に（それらを）解脱させる。「應に」（所應）とは何か、と云えば、謂わく解脱分の善根が熟したことの名が「應に」となる。「不應」なら全て自身らの過失である。世尊が如何に無量の衆生を拔くことのできる巧妙な方便において圓滿であろうとも、このように根が熟さなかったものらへ拔濟となることはできない。何に因って拔濟となることができないのかと云えば、拔濟となるべき二種の緣がある。第一は内、第二は外。「内」は謂わく自身が正しく思惟することである。「外」は正しい法を聽聞することと云う。世尊が外緣をなして正教を能く説いても衆生には内なる正思惟が自ずと缺ける故、これに因って彼らは生死から出離することができない。世尊には過失は無い。

---

näčä yaraši tüzü(-ni) ačsar ymä (qayu) ačïlγalï tägimlig-i ärsär <anï oq> ašnu-ča <ačmïš yarmïš-ï täg>. ančulayu oq burxan-lïγ kün tngri ymä andaγ oq. näčä <usar ymä ačγalï yaryalï> tïnlγ-lar-nïng köngül-lüg xu-a-lar-ïn. ärklig- lär-i qačïγ-lar-ï (bïšmïš-lar) ärsär. inčip ašnu-ča ozγurur qudγarur「如何に適切に全てを開くとしても、應に開かれるべきものは、それを先に、開敷したごとし。そのように佛なる日天も然り。如何に衆生の心華を開敷できても、その根が熟したものらは、則ち先に、(それらを)解脱させる」。 köngül-lüg xu-a-lar-ï「心もてる華」=「心華」。1244 qudrulmaq ülüš「解脱－分配」=「解脱分」=「順解脱分」(Skt. mokṣa-bhāgīya). 1249 ärklig-lär-i「根」は<töz-i yïldïz-ï>「根本」に訂正されている。1250 tardïp umuγ ïnaγ bolγuluq「拔濟となるべき」は tardïp umuγ ïnaγ <boldačï>「拔濟となるものは」に訂正されている。1251 tïldaγ は普通は「因」を表すがここでは「緣」にあたる：cf. 1259. 1254~1257 adï ködrül-miš usar ymä taš-tïn sïngar tïldaγ bolup nomlaγalï köni nomuγ tïnlγ-lar-nïng käntü ägsük üčün ičdin sïngar-qï köni-sinčä saqïn-maq bögünmäk-lär-i 「世尊が外緣をなして正教を能く説いても衆生には内なる正思惟が自ずと缺ける故」。この文は次のように訂正されている：adï ködrül-miš usar ymä taš-tïn sïngar tïldaγ <bolγalï nomlaṃaq üz-ä> köni nomuγ tïnlγ-lar <käntü öz-lär-i> ägsük <bolmaq üz-ä> ičdin sïngar-qï köni-sinčä saqïn-maq bögünmäk<-kä>「世尊は正教を説くことによって、外緣を爲すことができても、衆生自身は内なる正思惟が缺けることによって」。

1259 9 外縁仏力普成就 taš-tïn sïngar tïldaγ tegli burxan
1260 10 -lïγ küč-kä tüzü tükäl yaraši nom nomladačï barča-nïng tüzü tükäl
1261 11 ärsär ymä :: ičdin sïngar tïldaγ tegli käntü öz-lär-i-ning ägsük
1262 12 üčün köni-sinčä saqïnmaq bögünmäk-lär-i :: munï üz-ä tägzinü tul
1263 13 -ïnu täginür-lär qamaγ ämgäk-lär-ig tep :: qayu-nung adï bolur ägsük
1264 14 ičdin sïngar-qï tïldaγ-ï teptesär. qaltï tärs-tä odγuraq quvra
1265 15 -γ ulatï qudrulmaq ülüš-lüg ädgü yïldïz-ïγ tarïmaduq-lar ärür
1266 43a-1 näčä tarïsar ymä qudrulmaq ülüš-lüg ädgüg büdmädük bïšmaduq
1267 2 -lar ulatï önglüg öngsüz uγuš-lar-ta tuγmïš-lar ärür. nädägin
1268 3 teptesär önglüg öngsüz uγuš(-taqï)-lar umaz-lar üčün öridgäli körmäk
1269 4 yol-uγ bular-nïng adï bolur ičdin sïngarqï tïldaγ-ï ägsük tep
1270 5 anï üčün adï ködrülmiš-lär umaz-lar tardïp umuγ ïnaγ bolγalï.
1271 6 yänä bar šlok-ta söz-lämiš. 甘雨雖普降 ösgän yaγmur näčä
1272 7 tüzü-tä yaγsar (qudulsar) ymä. uruγ-suz qolunga (ünmäz) yašarmaz. burxan-lar näčä bu
1273 8 yerdinčü-tä bälgürsär(-lär) ymä. tïldaγ-ï ägsük ärsär qud-qa tägmäz(-lär) tep
1274 9 azu-ča ymä tägimlig teptemiš-i ärsär. tïnlγ-lar-ta qayu yorïq üz-ä
1275 10 qayu küsüš üz-ä qayu nom üz-ä qudrulmaq-ïγ bulγalï tägimlig
1276 11 ärsär adï ködrülmiš olar-nïng sävig-lär-i taplaγ-lar-ï eyin inčip
1277 12 ödlämiš äriglämiš üčün. azu-ča ymä nomlamïš üčün yükmäk orun
1278 13 uγuš tïldaγ-tïn turuγm-a-ta ulatï nom-larïγ anïn söz-lämiš ol tägim

---

1259~1262 taš-tïn sïngar tïldaγ tegli burxan-lïγ küč-kä tüzü tükäl yaraši nom nomladačï barča-nïng tüzü tükäl ärsär ymä :: ičdin sïngar tïldaγ tegli käntü öz-lär-i-ning ägsük üčün köni-sinčä saqïnmaq bögünmäk-lär-i ::「外縁という佛の力を普く成就し所應の法を説くものは皆の中で完全であるけれど、内縁というかれら自身の正思惟が缺けている故」。この文は次のように訂正されている：taš-tïn sïngar tïldaγ tegli burxan-lïγ küč-kä tüzü tükäl(-lig :: eyin) ⇒

謂わく頌に説いたものがある：外縁と云う佛の力を普く成就し所應の法を説くものは皆の中で完全であれど、内縁と云う彼ら自身の正思惟が缺けている故彼らはこれによって旋環し衆苦を受ける、と。何が「内縁が缺ける」と云う名になるのかと云えば、謂わく邪定聚、及び解脱分の善根を植えなかったものらである。如何に解脱分の善を植えても、成熟しなかったものらは、更に色、無色界に生まれたものらである。如何にしてかと云えば、色、無色界にあるものらは、見道を發する（=見道にすすむ）ことができない故。これらの名は「内縁が缺ける」となる。それ故世尊らが拔濟とはなり得ない。また頌に説いたものがある：甘雨が如何に普く降ろうとも、無種子の芽は生えない。佛が如何にこの世間に現れても、縁が缺けているなら、果へは至らない、と。或は「應に」と云ったのは、衆生において、何の行によって、何の願によって、何の法によって、應に解脱を得るべきかについて、世尊が彼らの愛、忍に隨って、教誡した故、或は、蘊、處、界、縁起等の法を説いた故、それで「應に」と説いたのである。

---

yaraši nom nomladači(-sï) barča-nïng tüzü tükäl ärsär ymä :: ičdin sïngar(-qï) tïlday tegli käntü öz-lär-i-ning (ök) ägsük <bolmaq üz-ä> köni-sinčä saqïnmaq bögünmäk-lär-i ::「外縁という、佛の力を、普く成就するもの、隨應の法を説くものは皆の中で完全であるけれど、内縁というかれら自身のその正思惟が、缺けているので」。1263~1264 qayu-nung adï bolur ägsük ičdin sïngar-qï tïlday-ï teptesär「何が「内縁が缺ける」という名になるのかといえば」は qayu-nung adï bolur ičdin sïngar-qï tïlday <-ï ägsük-lär> teptesär に訂正されている。1264 tärs-tä odyuraq quvray「邪において定んだ集まり」=「邪定聚」(Skt. mithyā-niyata). 1271 (~1273) ösgän yaymur から qud-qa tägmäz(-lär) tep までは節略漢文『實義疏』に對應する：時雨雖普降無種芽不生佛雖化世間緣闕不得果(大正 Vol.29, p.325b)。ösgän yaymur「甘雨」。ös- 'to grow' (*EDPT* p.241). N.Uig. ös-「成長、滋長」(『維漢』p.752)。Cf. özkän yymur 'veränderlicher(?) Regen' (Uigurica I, p.26). 1274 tägimlig「應に」(所應)は <yaraši>に訂正されている。1275~1276 qayu küsüš üz-ä qayu nom üz-ä qudrul- maq-ïγ bulγalï tägimlig ärsär「何の願によって、何の法によって、應に解脱を得るべきかについて」は次のように訂正されている：qayu <tïlday> üz-ä qayu nom üz-ä bulγalï tägimlig ärsär (ozmaq qudrulmaq-ïγ)「何の縁によって、何の法によって、應に解脱を得るべきかについて」。1278 tïlday-tïn turuγm-a「縁から起こること」はここでは「縁起」の意味をもつ。

1279 14 -lig tep. 又所應者 yänä tägimlig teptemiš'ärsär. uqïdur
1280 15 tngri burxan-nïng nom nomlap olar-nïng ärklig-lär-ingä qačïγ-lar-ïnga
1281 43b-1 yaraši ozγalï tägimlig ärsär. alqu-nï barča ozγurup qudγar
1282 2 -ïp barča-nï asïγ-lïγ tusu-luγ qïlïp äzüg igit nomlamadačï-sïn
1283 3 azu-ča ymä tïnlγ-lar bolur üč türlüg. qaltï širavak uγuš-luγ
1284 4 baγ-lïγ pradikabud uγuš-luγ baγ-lïγ. ančulayu kälmiš uγuš-luγ baγ
1285 5 -lïγ. tïnlγ-lar-ta qayu kölüngü üz-ä inčip qudrulmaq-ïγ bulγalï tägim
1286 6 -lig ärsär. adï ködrülmiš nomlap ol kölüngü-täki nomuγ. inčip tar
1287 7 -tïp umuγ ïnaγ bolmïš üčün. anïn söz-lämiš ol tägimlig tep
1288 8 munï üz-ä uqïdur qayu yörügüg teptesär. küsämiš üčün ärür uqïd
1289 9 -γalï tngri burxan-nïng alqu tïnlγ-lar-nïng üzäliksiz ädgü ögli
1290 10 biliš bošük ärdükin. anïn bir šlok-ta söz-lämiš 善知識者誰
1291 11 ädgü ögli biliš bošük kim ol teptesär. qaltï kim tuγurup čïnkertü bilgä
1292 12 biligig. öngi üdrültürdäči-lär ärür osal sïmdaγ ayïγ yorïq-tïn
1293 13 munung tägšüdinčä-si ärsär inčip tidip öngi üdrülgülük ol
1294 14 tep. 論 ögä tükädmiš boldï tngri burxan-nïng ädgü-lär-in basa
1295 15 uqïdur ayayu aγïrlayu yükünmiš-in tep. 釋曰 ögüp tngri
1296 44a-1 burxan-nïng ädgü-lär-in teptemiš-i ärsär. munda ögär qayu ädgü-lär-in
1297 2 teptesär. qaltï ögär öz-kä asïγ qïlmaq adïn-qa asïγ qïlmaq
1298 3 -ta ulatï üč türlüg ädgü-lär-in. ögä tükädip bu üč türlüg
1299 4 ädgü-lär-in ärdmiš üčün. anïn basa uqïdur ayayu aγïrlayu yükünmiš-in
1300 5 tep.論 ayayu aγïrlayu yükünüp ol andaγ osuγ-luγ čïnkertü
1301 6 töz-lüg baxšï-qa teptemiš-i ärsär. yinčürü töpün yükünüp adaq
1302 7 -ïn tudmïš üčün 又 qučmïš üčün ymä/ter anïn adamïš ol ayayu aγïr
1303 8 -layu yükünüp tep 諸有具前 (kim) tükäl-lig üčün öngdünki täg

又「應に」と云ったのは、佛が説法して、彼らが應にその根に相應しく脱するとき、一切のものを悉く解脱させ、皆のものを利益を有するものと爲し、虚僞を説かなかったことを顯わす。或は衆生には三種がある。謂わく、聲聞種姓、獨覺種姓、如來種姓のもの（である）。衆生においては何の乘によって應に解脱を得るべきかについて、世尊がその乘にある法を説いて、而して拔濟となった故に、「應に」と説いた。これによって何の義を顯わすのかと云えば、佛が一切衆生の無上の善知識であることを顯わすことを欲した故である。そこで頌に説いた：善知識はだれかと云えば、謂わく、眞實の智を生じさせ、放逸の惡行から離れさせるものらである。此れの違は即ち捨離である、と。

論：**『佛の德を已に讚じた。次に敬禮を申す』**（已讚佛德次申敬禮）と。

釋曰：「佛の德を讚じて」（讚佛德）と云った。ここで何の德を讚ずるのかと云えば、謂わく、自利利他等の三種德を讚ずるのである。この三種德を已に讚じ終えた故に、「次に敬禮を申す」（次申敬禮）と。

論：**『是の如き如理師へ敬禮してと云ったのは、稽首して、接足した故、それで敬禮してと稱したのである。**

1279~1282　又所應者 yänä tägimlig teptemiš'ärsär. uqïdur tngri burxan-nïng nom nomlap olar-nïng ärklig-lär-ingä qačïγ-lar-ïnga yarašï ozγalï tägimlig ärsär. alqu-nï barča ozγurup qudγar-ïp barča-nï asïγ-lïγ tusu-luγ qïlïp äzüg igit nomlamadačï-sïn「又「應に」といったのは、佛が説法して、彼らが應にその根に相應しく脱するとき、一切のものを悉く解脱させ、皆のものを利益有するものと爲し、虚僞を説かなかったことを顯わす」。このウイグル文は次のように訂正されている：又所應者 yänä <ymä yarašï> teptemiš'ärsär. uqïdur tngri burxan-nïng <nomlamïš nom-ï-nïng adïn-lar> -nïng ärklig-lär-ingä qačïγ-lar-ïnga (kiriši) yarašï (bolmaq-ïn) ozγalï tägimlig ärsär. alqu-nï barča ozγurup qudγar-ïp barča-nï asïγ-lïγ tusu-luγ qïlïp <yoqsuz bdatï> nomlama- dačï-sïn「又、「所應」といったのは、佛の説いた法が餘の根に所應のものとなることで應に脱するとき、一切のものを悉く解脱し、皆のものを利益有するものと爲して唐捐には説かなかったことを顯わす」。ウイグル文中漢字の「所應」に關しては訂正文の方が適切といえる：cf.1275 note.　1291 (~1294)　ädgü ögli biliš böšük kim ol から öngi üdrülgülük ol tep までは節略漢文『實義疏』と對應する：善知識者誰謂佛令生智離放逸惡行違此即捨離(大正 Vol.29, p.325b)。1292　öngi üdrültürdäči-lär ärür osal sïmdaγ ayïγ yorïq-tïn öngi「放逸の惡行から離れさせるものらである」は üdrültürdäči<-si> ärür osal sïmdaγ (bolmaq-lïγ) ayïγ yorïq-tïn に訂正されている。1293~1294　munung tägšüdinčä-si ärsär inčip tidip öngi üdrülgülük ol tep「此れの違は即ち捨離である、と」は次のように訂正されている：munung tägšüdinčä-si ärsär inčip tidip öngi üdrülgülük <ayïγ ögli> (ärür) tep「此れの違は即ち捨離すべき邪智である、と」。1302　tudmïš üčün 又 qučmïš üčün ymä/ter は tudmïš「取る」を qučmïš「抱える」に訂正している。いずれにしても adaq「足」と結合して「接足」を表す：cf. 1314.　1303　tükäl-lig の前に(kim)が插入された kim は先行する漢語の「諸有」(あらゆる)に對應する。

1304 9 öz-li adïn-lï-qa asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-kä. anïn söz-lämiš ol.
1305 10 ol andaγ osuγ-luγ tep. čïnkertü tädrü-süz öd ärig berip
1306 11 ödlätäči ärigläddči učün 又 öd qïndačï-lar-ïγ ärigläddči
1307 12 učün ymä/ter 又 öd berip ärigläp qïïndurmïš-qa ymä/ter. adamïš ol
1308 13 čïnkertü töz-lüg baxšï tep. čïnkertü töz-lüg baxšï tegüči
1309 14 sav üz-ä uqïdur. adïn-qa asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-si-ning tolu
1310 15 -sïn tükäl-in up al-ïn aldaγ-ïn nomlaγalï čïnkertü töz-lüg
1311 44b-1 köni nomuγ. sansar-lïγ kök tidig-tin tardïp tašγarïp tïnlγ
1312 2 -larïγ ündürü yrlïqamaq-ï näng čoγ-luγ yalïn-lïγ küči-ning qud
1313 3 küsüš bermäki-ning (ridi bögülänmäk-i-ning) uγur-ïnda ärmäz tep. 釋曰 yinčürü töpün
1314 4 yükünüp adaq-ïn tudmïš 又 qučmïš ymä/ter učün teptemiš-i ärsär.
1315 5 uqïdur ol ät'öz-täki qïlïnč-ïγ anïn adamïš ol ayayu aγïr
1316 6 -layu yükünüp tep temiš-i ärsär. uqïdur ol til-täki köngül-täki
1317 7 iki türlüg qïlïnč-ïγ. anïn amtï šasdr yaradγalï uγraduq-ta
1318 8 ašnu-ča üč türlüg qïlïnč-lar üz-ä tapïnïp udunup čïnkertü
1319 9 köngül-in yükünmäk ögmäk üz-ä uqïdur aγïr ayančang-lïγ bol
1320 10 -maq-ï-nïng üz-lünčü-sin tep. bar adïn baxšï-lar söz-lär 頌云敬
1321 11 礼者言 šlok-ta söz-lämäki ärsär ayayu aγïrlayu yükünüp tegü
1322 12 -či savïγ qaltï täk ärür til-täki qïlïnč amtï vardi-ta söz-lämäki
1323 13 ärsär yinčürü töpün yükünüp adaq-ïn tudmïš üčün tep ärür ol
1324 14 ät'öz-täki til-täki qïlïnč nädägin ol šlok abipiray-ï üz-ä
1325 15 qaršï bolur tep äsdiramati baxšï yörä söz-lär bu ymä ök mün
1326 45a-1 -süz qadaγ-sïz ärür. yükünmäk tegüči sav-ta nägü tep yörüg'ol tep
1327 2 tesär munda ängidmäk töngidmäk tep yörüg'ol. munï üz-ä nägü
1328 3 -ni uqïdur tep tesär. azu-ča ymä ät'öz üz-ä uqïdur-uγ
1329 4 uqïdur. azu-ča ymä til üz-ä uqïdur-uγ uqïdu 口業低
1330 5 屈者輕 til-täki qïlïnč üz-ä ängidmäk töngidmäk yenik ärür.
1331 6 ät'öz-täki qïlïnč üz-ä ängidmäk töngidmäk aγïr tedir. vasubandu
1332 7 baxšï šlok-ta (näng) t(ä)k yindäm sav tängінčä söz-läp inčip tükädmiš

諸有の前にあるもののごとき自他の利徳が具となる故に、是の如き、と説いた。眞實無倒に教授し、誡勗したものに、如理師と名づけた。如理師と云う言によって、利他徳の圓滿を顯す。能く方便をもって、如理の正教を説き、生死の泥より衆生を抜いて出したまうたのは、けっして威力、與願、神通に由るのではない』(敬禮如是如理師者稽首接足故稱敬禮諸有具前自他利徳故云如是如實無倒教授誡勗名如理師如理師言顯利他徳能方便説如理正教從生死泥抜衆生出不由威力與願神通) と。

釋曰:「稽首して接足した故」(稽首接足) と云ったのは、身業を顯わす。「それで敬禮して、と稱した」(故稱敬禮) と云ったのは、口、意二種の業を顯わすのである。それで今まさに論を造ろうとしたとき、先ず三種の業によって供養し、眞實心を以て禮讃することで敬重となることの究極を顯す、と。有餘師が説く:頌に「敬禮」と云う言を説いたのは、謂わく單なる口業である。今、注釋に「稽首して、接足した故」(稽首接足) と説いたのは、身と口の業である。頌の意趣において違となるのは如何にしてか?と。安慧師が釋して曰く:これにもまた過失は無い。「禮」と云う言に何と云う義があるのかと云えば、ここでは「お辭儀」と云う義である。これによって何を顯わすのかと云えば、或は身によって表すことを顯わす。或は口によって表すことを顯わす。口業による低屈は輕である。身業による低屈は重(である) と云う。世親師は頌において決して單一の語として説き、而して濟ませたのではない。

1305~1307 öd ärig berip ödlätäči ärigläďäči üčün 又 öd qïndačï-lar-ïγ ärigläďäči üčün ymä/ter 又 öd berip ärigläp qïïndurmïš-qa ymä/ter.「教授して教化するもの故、又、奮い立つものを教えるもの故ともいう、又、教授して奮い立たせるものへともいう」。「又」で訂正された句と併せた 3 種の句はいずれも漢語の「教授誡勗」(教授し戒め勵ますこと)に對應すべきものであるが、語意からも接辭の與格を取る點からも最後のものが適している:cf. 1371-1372. 1313 küsüš bermäki「願を與えること」=「與願」(Skt. vara-pradāna). 1317 anïn amtï šasdr yaradγalï uγraduq-ta「それで今まさに論を造ろうとしたとき」は anïn amtï (uγraduq-ta) šasdr yaradγalï に訂正されている。1319 ögmäk は'wysym'k あるいは'wykym'k のごとく綴られている。1323 adaq-ïn tudmïš üčün「接足した故」は adaq-ïn <qučmïš> üčün に訂正されている:cf. 1302. 1327~1329 munï üz-ä nägü-ni uqïdur tep tesär. azu-ča ymä ät'öz üz-ä uqïdur-uγ uqïdur. azu-ča ymä til üz-ä uqïdur-uγ uqïdur 「これによって何を顯わすのかといえば、或は身によって表すことを顯わす。或は口によって表すことを顯わす」は次のように訂正されている:munï <nägü üz-ä> uqïdur tep tesär. azu-ča ymä ät'öz<-täki> uqïdur <üz-ä> uqïdur. azu-ča ymä til<-täki> uqïdur <üz-ä> uqïdur 「これを何によって顯わすといえば、或は身を表すことによって顯わす。或は口を表すことによって顯わす」。 1330 1330 と 1331 の ängidmäk は"nkydm'k と綴られている:cf. 450 note. 1332 tängінčä (= täng「等」-inčä (3.sing.equative)) はこの文獻では「・・のごとくして」「・・のごとく」「・・として」の譯語が適合する。

1333 8 ärmäz. ymä ök tükäl üč türlüg qïlïnč-lar üz-ä ayïr ayančang
1334 9 -lïγ-ïn ayayu ayïrlayu yükünmiš üčün anïn amtï varti-ta söz
1335 10 -lämiš ol yinčürü töpün yükünüp tep. ät'öz-täki qïlïnčï üz-ä.
1336 11 ayanmïš-ï-nïng abipiray-ï üz-ä uqïdur ärdürsär ol ayïr-nï
1337 12 ayančang bolmaq-ïn ymä ök mün qadaγ bolmaz 此以第四轉 munï
1338 13 yänä 八轉聲 tegmä säkiz türlüg vibakdi-lar-nïng arasïnda
1339 14 törddünč anga tegüči kä vibakdi üz-ä ögmiš kärgäk. ol andaγ
1340 15 osuγ-luγ činkertü töz-lüg baxšï qayu ol. qayu nom töz-lüg ol
1341 45b-1 teptesär andaγ osuγ-luγ činkertü yörüg töz-indäki-čä inčip
1342 2 nomladačï üčün. anïn adamïš ol činkertü töz-lüg tep 又 činkertü
1343 3 töz-lüg baxšï ärsär qayu nom töz-lüg ol tep tesär mundaγ mundaγ
1344 4 osuγ-luγ činkertü yörüg töz-indäki-čä inčip nomladačï üčün ymä/ter
1345 5 或隨諸衆生 azu-ča ymä alqu tïnlγ-lar-nïng sävmiš-lär-i
1346 6 taplamïš-lar-ï eyin qayu ärsär nomuγ adï ködrülmiš olar-nïng
1347 7 ärklig-lär-ingä qačïγ-lar-ïnga yarašï inčip nomlamïš ol. bar ärsär
1348 8 širavak-lar-nïng nom-ïn sävdači-lär. pradikabud-lar-nïng nom-ï üz-ä
1349 9 ödlämiš ärmäz. bar ärsär pradikabud-lar-nïng nom-ïn sävdači-lär širavak
1350 10 -lar-nïng nom-ï üz-ä ödlämiš ärmäz. ulatï kengürü söz-lämiš kärgäk tep.
1351 11 問 bu činkertü töz-lüg baxšï tegüči sav azu bu iki türlüg (asïγ qïlmaq-lïγ) ädgü-lär
1352 12 -indä mü tudulur. azu iki türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-indä
1353 13 taš angayu mu bar. birök iki türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-indä
1354 14 tudulur teptesär. nä kärgäk angayu uqïdïp ögmäk külämäk-ig
1355 15 birök iki türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-indä taš angayu bar
1356 46a-1 teptesär. bu nädägin bar adï ködrülmiš-ning iki türlüg asïγ qïl
1357 2 -maq-lïγ ädgü-lär-indä taš ikiläyü yoq üčün adïn ädgü-si tep 答

1335~1337 ät'öz-täki qïlïnčï üz-ä. ayan-mïš-ï-nïng abipiray-ï üz-ä uqïdur ärdürsär ol ayïr-nï ayančang bolmaq-ïn ymä ök mün qadaγ bolmaz「身業によって、敬ったことの意趣に、その敬重を顯すことを濟ませても、また過失とはならない」。ただし、ayïr-nï の-nï は不要と考えられる。このウイグル文は次のように訂正されている：ät'öz-täki qïlïnčï üz-ä. ayan<-maq 又 köngül-in ayanmaq üz-ä ymä ter :: >-nïng abipiray-ï üz-ä <uγrayu tüpgärmiš ärür> ol ayïr ayančang(-lïγ) bolmaq-ïn (tesär) ymä ök mün qadaγ bolmaz「身業によって、心から敬うことによって、その意趣において、その敬重となることをまさに探ろうとしたのである、といっても、過失とならない」。

又、完全な三種業による敬重を以て敬禮した故、それで今、注釋において「稽首して」と説いたのである。身業によって、敬ったことの意趣に、その敬重を顯すことを濟ませても、また過失とはならない。これをまた八轉聲中の第四「彼へ」と云う「へ」格（與格（如理師へ））によって讃じねばならない。「是の如き如理師」（如是如理師）は何の法性もてるものかと云えば、斯く斯くのごとき眞實の理に順って而して説く者の故、それで「如理」と名づけた。或は世尊は、諸衆生らの好むものに隨って、ある法を彼らの根に相應わしく、次のように説いたのである。聲聞の法を好むものが有るときには、獨覺の法によっては教化しなかったのである。獨覺の法を慕うものが有るときには、聲聞の法によっては教化しなかったのである。更に廣説すべし、と。問：この「如理師」と云う言は或はこの二種の利德において攝せられるのか？或は二種の利德の外に別（の德）が有るのか？もし二種の利德において攝せられると云うのなら、何の必要で別に讃を説くのか？もし二種の利德の外に別（の德）が有ると云うのなら、それは如何にして有るのか？世尊には二種の利德の外に更に餘の德は無い故、と。

1337~1339 munï yänä 八轉聲 tegmä säkiz türlüg vibakdi-lar-nïng arasïnda törd ünč anga tegüči kä vibakdi üz-ä ögmiš kärgäk.「これをまた八轉聲中の第四「彼へ」という「へ」格(與格(如理師へ)によって讃じねばならない」。このウイグル文は次のように訂正されている：munï yänä <又 törtünč käz-ig-täki anga temiš-täki> törd ünč anga tegüči kä vibakdi üz-ä ögmiš kärgäk.「これをまた第四轉にある「彼へ」といったものにある第四の「彼へ」という「へ」格(與格)によって讃じねばならない」。1339~1344 ol anday osuγ-luγ čïnkertü töz-lüg baxšï qayu ol. qayu nom töz-lüg ol teptesär anday osuγ-luγ čïnkertü yörüg töz-indäki-čä inčip nomladačï üčün. anïn adamïš ol čïnkertü töz-lüg tep 又 čïnkertü töz-lüg baxšï ärsär qayu nom töz-lüg ol tep tesär munday munday osuγ-luγ čïnkertü yörüg töz-indäki-čä inčip nomladačï üčün ymä/ter「「是の如き如理師」は何の法性もてるものかといえば、斯く斯くのごとき眞實の理に順って而して説く者の故、それで「如理」と名づけた」。譯文は「又・・・ymä/ter」で括られた訂正文を採用した。この訂正以外に實際には次のように訂正されている：ol anday osuγ-luγ čïnkertü töz-lüg baxšï qayu ol. <teptesär 云何 nädäg nädäg nom-nung töz-i ärsär anday> anday <oq> čïnkertü yörüg töz-indäki-čä inčip nomla<-mïš> üčün. anïn adamïš ol čïnkertü töz-lüg tep 又 čïnkertü töz-lüg baxšï ärsär qayu nom töz-lüg ol tep tesär munday munday osuγ-luγ čïnkertü yörüg töz-indäki-čä inčip nomladačï üčün ymä/ter「是の如き如理師」は何かというなら、云何云何の法の性は、斯く斯くの眞實の理に順って而して説いた故、それで「如理」と名づけた。・・・」。1345 säv-tapla-「樂しむ」「慕う」：birök tïnlγlarta säv-ä tapla-yu ädgüg tilätačilär ärsär uyurlar bïšrunup ädgü ögli köngüllüg dyanïγ kim tärk tavraq bütürgäli 「若於有情樂求德者能修慈定令速疾成」(H39 R19).「慕う」は 庄垣内(2003b p.362)を參照。1347 inčip nomlamïš ol「次のように説いたのである」は inčip <nom-layur ärti>「次のように説くのであつた」と訂正されている。1349~1350 2箇所の ödlämiš ärmäz「教化したのではない」は ödlä<-mäz ärti>「教化しないのであった」に訂正されている。譯文では「教化しなかったのである」とした。 1350 ulatï kengürü söz-lämiš kärgäk「更に廣説すべし」は漢文の「乃至廣説」に對應する：cf. 2870. 1357 ikiläyü yoq üčün adïn ädgü-si「更に餘の德は無い故」は ikiläyü yoq üčün <qalmïš> ädgü-si「更に餘した德は無い故」と訂正されている。

1358 3 bu ymä ök turmaz iki türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-indä taš
1359 4 sezik ayïtduq-ta qayu tïldaγ-ïn adïrïp uqïtdï tep kikinč
1360 5 bergälir üčün bu sezik-kä vasubandu baxšï basa käntü kikinč berü
1361 6 söz-lämiš ol. čïnkertü töz-lüg baxšï tegüči sav üz-ä uqïdur
1362 7 adïn-qa asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-sin al-ïn aldaγ-ïn nomlatačï-sïn
1363 8 čïnkertü töz-lüg köni nomuγ 世尊大悲 adï ködrülmiš-ning uluγ
1364 9 yrlïqančučï köngül-i üz-ä bar-ïndïn adïn-lar-qa asïγ qïlmaq
1365 10 -lïγ yorïq-ï. umïš ärür alqu-qa kengürü nomlayalï yeg soγančïγ
1366 11 nomuγ. adïn-lar-qa asïγ qïlmaq-lïγ al aldaγ ärsär. bu oq
1367 12 inčip ärür čïnkertü töz-lüg baxšï tep. 問 bu čïnkertü töz
1368 13 -lüg baxšï tegüči sav üz-ä nädägin uqïdur ädgü-lär-in adïn
1369 14 -qa asïγ qïlmaq-lïγ al-ïn aldaγ-ïn tep 通答 kikinč bergäl
1370 15 -ir üčün bu sezik-kä šasdr-ta kändü kikinč berü söz-lämiš ol
1371 46b-1 inčä tep. čïnïnča kerdü-sinčä könisinčä ongaru-sïnča öd ärig
1372 2 berip ödlätäči äriglädäči üčün adamïš ol čïnkertü töz-lüg baxšï
1373 3 tep. 從生死泥 sansar-lïγ kök tidig-tin tardïp tašγarïp
1374 4 tïnlγ-lar-ïγ ündürmäki ärsär. čoγluγ yalïn-lïγ küči-ning qut
1375 5 küsüš bermäki-ning ridi bögülämäki-ning uγur-ïnda ärmäz.
1376 6 tep bu yörüg uγur-ïnda anïn uqïdur čïnkertü töz-lüg
1377 7 baxšï-nïng adïn-lar-qa asïγ qïlmaq-lïγ al aldaγ-ï-nïng bar
1378 8 -ïn tep. 問 nä ymä söz-lämäki ärsär umaq üz-ä al-ïn aldaγ-ïn
1379 9 nomlap čïnkertü töz-lüg köni nomuγ sansar-lïγ kök tidig-tin
1380 10 tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündürü yrlïqamaq-ï čoγluγ
1381 11 yalïn-lïγ küči-ning qud küsüš bermäki-ning ridi bögülämäki
1382 12 -ning uγur-ïnda ärmäz tep iki kölüngü-täki kičig tüz-ün yol
1383 13 -lar 又 iki kičig kölüngü-lüg tüz-ün yol-taqï-lar (ymä) ymä/tigü täg turur :
1384 14 anïlayu oq uyur-lar ridi bögülänmäk üz-ä asïγ tusu qïl

---

1358~1361 iki türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-indä taš sezik ayïtduq-ta qayu tïldaγ-ïn adïrïp uqïtdï tep kikinč bergälir üčün bu sezik-kä vasubandu baxšï basa käntü kikinč berü söz-lämiš ol.「二種利德より外を問うたとき、何に因って差別して顯わしたのかと。この疑問に答えるために、世親師はまた自ら答えて説いたのである」。このウイグル文は次のように訂正されている：iki türlüg asïγ qïlmaq-lïγ ädgü-lär-indä taš sezik <qïldačï-lar ärsär> qayu tïldaγ-ïn adïrïp uqïtdï tep <uduzγalïr> üčün bu sezik<-ig> vasubandu baxšï basa käntü kikinč berü söz-lämiš ol.「二種利德より外に疑いをなすものらは、何に因って差別して顯わしたのかと。この疑問を導くために、世親師はまた自ら答えて説いたのである」。

答：これも起こらない。二種の利徳より外を問うたとき、何に因って差別して顯わしたのかと。この疑問に答えるために、世親師はまた自ら答えて説いたのである：「如理師と云う言によって利他徳を顯わす。方便を以て如理の正教を説くものを（顯わす）」（如理師言顯利他徳能方便説如理正教）。世尊には大慈悲心による利他の行が有るので、一切へ廣く妙法を説くことができたのである。利他の方便は、これ即ち「如理師」である、と。問：この「如理師」と云う言によって、如何にして、徳を他へ利となすことの方便を顯わすのか？と。答：この疑問に答えるために、論に自ら次のように答えて説いた：「如實眞正に教授し、誡勗したもののため、如理師と名づけた」（如實無倒教授誡勗、名如理師）、「生死の泥より衆生を抜いて、出すのは、威力、與願、神通に由るのではない」（從生死泥抜衆生出不由威力與願神通）、と。この義に由って、それで如理師には利他をなす方便の有ることを顯わす、と。問：ともかく「能く方便を以て如理の正教を説き、生死の泥から衆生らを抜いて出したまうことは、威力に、與願に、神通に由るのではない」（能方便説如理正教。・・・）と説くものであれど、（聲門と獨覺との）二つの小乗の聖道にあるものらも、猶、神通によって衆生へ利益をなすことができる。

1364~1366 bar-ïndïn adïn-lar-qa asïγ qïlmaq-lïγ yörïq-ï. umïš ärür alqu-qa kengürü nomlayalï yeg soγančïγ nomuγ.「利他の行が有るので、一切へ廣く妙法を説くことができたのである」。このウイグル文は次のように訂正されている：adïn-lar-qa asïγ qïlmaq-lïγ yörïq-ï. <bar-ïndïn :: uyur ärti> alqu-qa kengürü nomlayalï yeg soγančïγ nomuγ「利他の行が有るので、一切へ廣く妙法を説くことができるのであった」。1369~1370 kikinč bergäl-ir üčün bu sezik-kä「この疑問に答えるために」は<uduzyalïr> üčün bu sezik<-ig>「この疑問を導くために」に訂正されている。1371 činínča kerdü-sinčä könisinčä ongaru-sïnča öd ärig berip ödlätäči ärigläďäči üčün adamïš ol činkertü töz-lüg baxšï tep.「如實眞正に教授し、誡勗したもののため、如理師と名づけた」は同じ内容が 1305~1307 では「眞實無倒に教授し、誡勗したものに、如理師と名づけた」と表されている。漢文「如實無倒教授誡勗、名如理師」には 1305~1307 の表現が正確である：cf. note 1305~1307. 1378 söz-lämäki ärsär「説くものであれど」は söz<-lädi>「説いた」と訂正されている。1379 nomla-p は 1378 の u-maq üzä と結合して「能く説くことによって」と直譯できるが、普通は nomla-p に對して nomla-yalï が立つ。1382~1385 iki kölüngü-täki kičig tüz-ün yol-lar 又 iki kičig kölüngü-lüg tüz-ün yol-taqï-lar (ymä) ymä/tegü täg turur : anïlayu oq uyur-lar ridi bögülänmäk üz-ä asïγ tusu qïl-γalï tïnlγ-lar-qa. ここでは「又」以下を採用し、次のような和譯を與えた：「二小乗の聖道にあるものらも、猶、神通によって衆生へ利益をなすことができる」。ただし kičig kölüngü「小乗」はここでは「劣乗」を意味する。また iki kičig kölüngü-lüg「二小乗」とは「二乗」すなわち「聲聞乗と獨覺乗」のことを指す。さらにこのウイグル文には傍注でも訂正がある：iki kölüngü-täki kičig tüz-ün yol-lar (ymä) 又 iki kičig kölüngü-lüg tüz-ün yol-taqï- lar (ymä) ymä/tegü täg turur : anïlayu oq uyur-lar <又 ridi bögülänmäk üz-ä ödlämäk äriglämäk üz-ä ymä ter::> asïγ tusu qïl-γalï tïnlγ-lar-qa. ( )内は插入、< >内は置き換えである。この訂正に順うと次のような内容になる：「二つの小乗の聖道にあるものらも、猶、神通によって、教授によって、衆生へ利益をなすことができる」。

1385 15 -γalï tïnlγ-lar-qa. ančulayu kälmiš-lär-ning näčük'ol yoq mu (ärti) čoγ-luγ
1386 47a-1 yalïn-lïγ ridi-sï. qaltï ol dyan-ta ulatï ädgü-lär-i ädräm-lär-i ičgär
1387 2 -ip tudup tïnlγ-lar-ïγ kim az-ta ulatï niz-vanï-lar-ïn yügärü turγur-madačï
1388 3 如何空言 nädägin yoq quruγ sav tänginčä yindäm nom nomlamaq üz-ä.
1389 4 ök ödläp ärigläp ozγurur tïnlγ-lar-ïγ. ikiläyü yoq käntü adïn
1390 5 al-ï aldaγ-ï. al-ïn aldaγ-ïn tïdar tudar-sïz-lar adï ködrülmiš-ning
1391 6 adïn yeg adruq ädgü-lär-in ädräm-lär-in tep 答 (tngri) burxan näčä ičgärip
1392 7 tudmaq üz-ä tïnlγ-lar-ïγ kim olar-nïng niz-vanï-lar-ï bolmasar ymä
1393 8 yügärü tuγγalï ymä ök burxan-lar-nïng ičgärip tudmaq-lïγ küči uγur
1394 9 -ïnda usar ymä bilgäli adïn-lar-nïng köngül-in bilsär ymä öngrä ažun
1395 10 -taqï sav-lar-ïγ adï ködrülmiš-lär-ning ät'öz-indäki alp bilgülük
1396 11 sav-lar-ïn burxan-lar ičgärip tudmaq-lïγ küči üz-ä ymä ök usar ymä
1397 12 kim bilgäli munday osuγ-luγ-ta ulatï sav-larïγ 如來加被 ančulayu
1398 13 kälmiš asγarmïš üčün ičgärip tudmaq-lïγ küčin bošumaγïnča tid
1399 14 -mägінčä ikin ar-a alqu-nï barča bolur-lar bilgäli. alqu niz-vanï-ta
1400 15 ulatï-lar-ï ymä ök yügärü turmaz. näčä usar ymä munday qïlγalï
1401 47b-1 üzlünčü-tä tüpükmäz birök ančulayu kälmiš-lär bošusar tidsär bolma
1402 2 -sar ičgärmäk-lig küči munda-ta ulatï alqu sav-larïγ barča umaz-lar bil
1403 3 -gäli. niz-vanï-lar-ï yänä turur ičgärip tudmaq-lïγ küči üz-ä anïn niz-vanï-larïγ
1404 4 birdämläti taryarmaz. nädägin birdämläti taryarur teptesär qaltï nomladuq
1405 5 -ta yeg soγančïγ nomuγ saqïnïp bögünüp bïšrunu yorïmaq üz-ä ödrü uyur
1406 6 birdämläti taryaryalï 如契經說 qaltï sudur-ta yrlïqamïš ol bar iki
1407 7 türlüg tïlday basudčï turγurdačï köni körümüg. iki türlüg tïlday basudčï
1408 8 -lar ärsär ang'ilki adïn-tïn nom ešidmäk 二 ičdin sïngar köni-sinčä saqïn(-maq)
1409 9 bögünmäk ärür. köni körüm uγur-ïnda anïn uyur tuγuryalï adïn tüz-ün yol

如來にどうして威神が無いものか。謂わく、定等の徳は、衆生を加持し貪などの煩惱を現に起こさせないもの（である）。如何にして空言のごとく唯だ法を説くことによってのみ衆生を教授して解脱させるのか？更に自他の方便は無い。汝らは方便をもつて世尊の餘の勝徳を障礙した、と。答：如何に佛が衆生を加持することを以て、彼らの煩惱が現に生じ得なくとも、また、（衆生が、）佛の加持力に由って餘のものらの心を知りえても、前生の事を知っても、世尊の身にある知り難い事を佛の加持力によって、もしこの如き等の事を知り得ても、（それらは）如來が加被した故（であり）、加持力によって（衆生を）放恣しない（のである）。その間に（衆生は）一切を悉く知り得るのである。一切の煩惱等も現に起きない。（しかし）如何にこのように爲し得ても、極まるところはない。もし如來が（衆生を）放恣するなら、（如來に）加持の力が無いなら、（衆生は）これら一切の事を悉くは知り得ない。煩惱は又起こる。加持力を以てして煩惱を永くは斷たない。如何にして永く斷つのかと云えば、謂わく妙法を説くときに、思惟し、修行することによって即ち永く斷つことができる。契經に説かれたのである：「正見を起こす二種の因緣が有る。二種の因緣とは、第一が他から法を聞くこと、第二が、内なる正思惟である」（と）。

1386~1387 ičgärip tudup tïnlγ-lar-ïγ kim az-ta ulatï niz-vanï-lar-ïn yügärü turγur-madačï「衆生を加持し貪などの煩惱を現に起こさせないもの」は ičgärip tudup tïnlγ-lar<-nïng> kim az-ta ulatï niz-vanï-lar-ïn (yänä) yügärü turγur-madačï と訂正されている。1388 yoq quruγ sav tänginčä (qïlïp)「空言のごとくして」と訂正されている。yoq quruγ「空言」はウイグル文中漢文に從った。1390 al-ïn aldaγ-ïn tïdar tudar-sïz-lar「汝らは方便をもつて(世尊の餘の勝徳を)障礙する」は al-ïn aldaγ-ïn tïdar <särgürür-siz-lär 又 tïtdï tutdï ymä ter ::>と訂正されている。ただし särgürür には削除記號が添えられている。本文では tïdar tudar-sïz-lar「(汝らは)障礙する」に對して、訂正文の tïtdï tutdï を採用し、tïtdï tutdï-sïz-lar として「(汝らは)障礙した」を與えた。1398 asγar-はここでは「加被」にあたる。「(出)息」を表すこともある：cf. 庄垣内(1985) p.46. 1401 üzlünčü-tä tüpükmäz「極まることはない」は<arïdï abamulïγ bolmaz>「結局は永久とならない」と訂正されている。全體の文は以下のようになる：näčä usar ymä mundaγ qïlγalï arïdï abamu-luγ bolmaz. 1402 ičgärmäk-lig küči「攝することの力」を「加持の力」と譯した。この語は<asγarmaq-lïγ> küči「加被する力」に訂正されている。1405 saqïnïp bögünüp bïšrunu yorïmaq üz-ä「思惟し修行することによって」は<saqïnmaq yinčür- mäk> bïšrunu yorïmaq üz-ä「思量修行によって」と訂正されている。1406~1409 ウイグル文中「如契經説」の契經に説かれた内容、すなわち「正見を起こす二種の因緣が有る。二種の因緣とは、第一が他から法を聞くこと、第二が、内なる正思惟である」と類似のものが「長阿含經」や「大悲經」に見られる：復有二法二因緣生於正見一者從他聞二者正思惟(「長阿含經」大正 Vol.1 p.50a *ll.*2-3)。有二因緣能生正見一者從他聞法二者内正思惟從他聞者當知從佛所聞内正思惟者亦從佛知(「大悲經」大正 Vol.12 p.970b *ll.*20-22)。

1410 10 -ta ulatï alqu ädgü nom-lar-ïγ munï üz-ä anïn bilmiš kärgäk birdämläti
1411 11 niz-vanï taryaryuluq tïlday ärsär. yindäm ärür köni nom nomlamaq (oq) näng adïn
1412 12 ädgü-lär-i ärmäz. birök taryarmasar niz-vanï-lar-ïγ. yoq uγur-ï yïq-ï
1413 13 üngülük. ol sansar-lïγ kök tidig-tin bu tïlday-ïn bilmiš kärgäk nom
1414 14 -lamaq üz-ä čïnkertü töz-lüg köni nomuγ umïš ärür ozγuryalï tïnlγ
1415 15 -lar-ïγ 非由加持 näng ičgärip tudmaq čoγluγ yalïn-lïγ küč kösün qut
1416 16 küsüš bermäk ridi bögülänmäk-tä ulatï-lar-nïng uγrïnda ärmäz. ridi
1417 48a-1 bögülämäk ymä qayu ol teptesär qaltï kök qalïq-ta ät'öz(-üg) täprädmäk
1418 2 -tä ulatï üčägü ärür 又 qaltï ät'öz täprädmäk ärür kök qalïq-ta ulatï
1419 3 üčägü ymä/ter qut küsüš bermäk ymä qayu ol teptesär. qaltï uluγ äz-rua
1420 4 tngri-ning maxešvare tngri-tä ulatï-lar-nïng qud küsüš bermäki ärür
1421 5 qaltï bermiš täg 十頭 tašagirve (atlγ) rakšaz-qa (qud-uγ) küsüš(-üg) tep ulatï alqu tngri
1422 6 -lär yäk-lär asure-ta ulatï-lar näng umaz-un-lar ämgädgäli mini tedüktä čoγ
1423 7 -luγ yalïn-lïγ küč ymä qayu ol teptesär. qaltï ot-nung ädräm-i ärür tar
1424 8 -γardačï qamaγ ig-lärig tep 問 nädägin bolur bilgäli čoγluγ yalïn-lïγ ridi
1425 9 -nïng qut küsüš-lüg küč-nüng niz-vanï taryaryalï umadačï-sïn tep
1426 10 答自他威神 öz-li adïn-lï-nïng čoγ-luγ yalïn-lïγ ridi qut
1427 11 küsüš-lüg küč niz-vanï-lar birlä bolmaq üz-ä umaz taryaryalï niz
1428 12 -vanï-lar-ïγ temäk taplaγ ärür. bir tayaq-lïγ ärmäz üčün temäk tïl
1429 13 -taγ ärür inčä qaltï öz-li adïn-lï-nïng ät'öz-indäki ig täg temäk yöläšür
1430 14 -üg ärür. qaltï (nädäg) yerdinčü-täki odačï (baxšï)-lar kördüktä qayu ät'öz-tä bar-ïn
1431 15 ig(-ning) turγuluq tïlday(-ï). ödrü ol ät'öz-tä ök bolup ig-ig
1432 48b-1 ämlägülük tïlday adïn ät'öz-tä ärmäz bolmïš täg 於何身中 anču
1433 2 -layu oq ymä qayu ät'öz-tä bar ärsär niz-vanï-lar. ödrü ol ät'öz
1434 3 -tä turγu kärgäk yörüngäk adïn ät'öz-tä ärmäz čoγluγ yalïn-lïγ
1435 4 ridi qut küsüš-tä ulatï-lar adïn-lar-nïng ät'öz-indäki nom üčün anïn
1436 5 umaz taryaryalï öz ät'öz-täki niz-vanï-lar-ïγ. isdäp ol ig-ning
1437 6 tïlday-ïn qayu-tïn inčip turmïš-ïn. ödrü ol tïlday-ta qadïp (qavšurup)
1438 7 yörüngäk boldačï ot-uγ <munï üz-ä kedärmäki ärsär> ol igig ol igig ot ig-ning
1439 8 tïlday-ï birlä uγrayu qaršï üčün čoγ-luγ yalïn-lïγ ridi
1440 9 qut küsüš-tä ulatï-lar niz-vanï-lar-nïng tïlday-ï birlä qaršï ärmäz.
1441 10 inčä qaltï ašub ürlügsüz körüg-tä ulatï-lar niz-vanï-lar
1442 11 -nïng tïlday-ï birlä qaršï bolmïš täg. bu yogačare-ta ulatï-lar
1443 12 -qa nom nomlamaq-ta taš öngi tükäl-lig bolmaq bolmaz bu tïlday-ïn bil
1444 13 -miš kärgäk. čoγluγ yalïn-lïγ ridi qut küsüš-tä ulatï-lar niz

---

1417-1419 qalïq-ta ät'öz(-üg) täprädmäk-tä ulatï üčägü ärür「虚空において身を動かすこと等の三つである」は「又・・ymä/ter」に書かれた qaltï ät'öz täprädmäk ärür kök qalïq-ta ulatï üčägü「謂わく、身を動かすことは虚空等の三つである」に訂正されている。

正見に由って、そこで餘の聖道等の諸善法を起こすことができる。それ故ここで知らねばならない：永く煩惱を斷つところの因は、唯一正教を説くことである。決して餘の徳ではない。もし煩惱を斷たないなら、生死の泥から出る容きことは無い、(と)。これに因って知らねばならない：眞實性の正教を説くことによって、衆生を解脱させ得るのである。決して、加持、威力、與願、神通等に由るのではない、(と)。「神通」はまた何かと云えば、謂わく虚空において身を動かすこと等の三つである。「與願」は何かと云えば、謂わく大梵天、大自在天等の與願が猶、十頭（Daśagrīva）と云う惡魔へ願を與えるがごときである、と。更に一切天、鬼、阿修羅等が決して我れを損ずること能わざるべし、と云うとき、威力はまた何かと云えば、謂わく藥の效能は全ての病を斷つものである、と。問：如何にして威神や願力が煩惱を斷ち得ないものであることを知り得るのか？と。答：自と他の威神や願力が煩惱と俱になることによって煩惱を斷つことはできないと云うのは許されることである。「一所依に非ざる故に」と云う因である。「猶、自と他の身にある病のごとし」と云う比喩である。謂わく、世間の醫者が何れかの身に病の起こるべき因の有るのを觀じたときに、即ちその身に病を治すところの因が有り、他の身に有るのではなきがごとし。このようにまた、ある身に煩惱が有れば、即ちその身において對治を起こさねばならない。餘の身においてではない。威神、願などは餘らの身にある法の故、それ故に自身にある煩惱を斷つことはできない。病の因が何から當に起こったのかを求め、そこでその因において對治となる藥を調合し、これによってその病を除去するのは、藥が病の因とまさに違となる故（である）。威神、願等は煩惱の因と違ではない。猶、不淨・無常觀等が煩惱の因と違となったごとし。この修行等に對して説法よりほかに圓滿となるものはない。これに因って威神、願等が煩惱を斷たないことを知らねばならない。

1421 tašagirve (/dašagirve/) < Skt. daśa-grīva 「十頭、十首」。1428~1429 bir tayaq-lïγ ärmäz üčün temäk tïl-tay ärür「一所依に非ざる故にという因である」は<tayaq-ï birikmäz> üčün temäk tïl-tay ärür 「依が不共の故にというのは因である」に訂正されている。1431~1432 ödrü ol ät'öz-tä ök bolup ig-ig ämlägülük tïldaγ adïn ät'öz-tä ärmäz bolmïš täg「即ちその身に病を治すところの因が有り、他の身に有るのではなきがごとし」。このウイグル文は次のように訂正されている： <inčip> ol (oq) ät'öz-tä <qïlur ärsär> ig<-ingä äm yörüngäk boltačï tïldaγ-ïγ näng adïn-nïng ät'öz-indä ärmäz>「而してその身において、病に治療となるべき因を爲すのであって、決して餘の身においてではない」。1433~1434 qayu ät'öz-tä bar ärsär niz-vanï-lar. ödrü ol ät'öz-tä turγu kärgäk yörüngäk adïn ät'öz-tä ärmäz「ある身に煩惱が有れば、即ちその身において對治を起こさねばならない。餘の身においてではない」。このウイグル文は次のように訂正されている：qayu ät'öz-tä <bolsar> niz-vanï. <inčip tägimlig ol. ol oq ät'öz- tä turγuryalï yörüngäkin> adïn ät'öz-tä ärmäz「ある身に煩惱が成ずれば、而して應にその身において對治を起こすべし、餘の身においてではない」。1438 <munï üz-ä kedärmäki ärsär> ol igig「これによってその病を除去するのは」は kedärmäk üz-ä ol igig「その病を除去することによって」を訂正したものである。1441 inčä qaltï ašub ürlügsüz körüg-tä ulatï-lar「猶、不淨・無常觀等が」は inčä qaltï ašub <anidiyat saqïnč >-ta ulatï- lar に訂正されている。ašub は Skt. aśubhā「不淨」からの借用語で ašub körüg で「不淨觀」を表す。また ürlügsüz körüg は「無常觀」を表す。ここでは「不淨・無常觀」とした。一方訂正は ürlügsüz をそのサンスクリット反映形である anidiyat (/anitiyat/ < Skt. anityatā) に、körüg「觀」を saqïnč「想」に改めている。

1445 14 -vanï taryarmaz tep 問若如是者 birök andaγ ärsär qayu tïl
1446 15 -taγ-ïn söz-lädi. ridi bögülänmäk-tä ulatï üč tilgän-lärig tep
1447 49a-1 答 ridi bögülänmäk-lig köngül aymaq-lïγ iki tilgän-lär täk uyur ič
1448 2 -gärip täginip tïnlγ-lar-ïγ kim turγalï kerdgünč köngül-lärig umaz taryar
1449 3 -γalï alqu niz-vanï-lar-ïn. yindäm ödlämäk äriglämäk üz-äki tilgän ök
1450 4 temin ök uyur taryaryalï niz-vanï-lar-ïγ. niz-vanï ärür sansar-nïng
1451 5 töz-i. birök yindäm ridi bögülänmäk köngül aymaq iki tilgän-lär ök boldï
1452 6 ärsär. yoq quruγ öridip kerdgünč köngül-üg bulmaγay ärti tüz-ün yoluγ.
1453 7 umaγay ärti taryaryalï niz-vanï-lar-ïγ 若不断惑 birök taryarmasar
1454 8 niz-vanï-lar-ïγ arïdï ünmägäy ärti sansar-lïγ kök tidig-tin. anïn
1455 9 čoγluγ yalïn-lïγ ridi qut küsüš-tä ulatï-lar sansar-tïn üngü
1456 10 -lük tïlaγ ärmäz. yindäm ödlämäk üz-äki tilgän ök temin ök
1457 11 uyur taryaryalï niz-vanï-lar-ïγ inčip buldurur ozmaq qudrulmaq
1458 12 -ïγ. bu üč padak šlokda bar üč türlüg adïrtï ang'ilki adï köd
1459 13 -rülmiš-lik uluγ baxšï öngi ärür taš azaq nomluγ-ta ulatï alqu
1460 14 baxšï-lar-ta ikinti adï ködrülmiš-ning nomlamïš nom-ï ymä ök öngi
1461 15 ärür alqu baxšï-lar-nïng nomlamïš nom-ïnda üčünč adï ködrülmiš-ning
1462 49b-1 tïdsï-lar-ï ymä ök öngi ärür. alqu baxšï-lar-nïng tïdsï-lar-ïnda
1463 2 云何尊ㄱ世 nädägin adï ködrülmiš öngi ärür alqu baxšï-lar-ta tep
1464 3 tesär. adï ködrülmiš tükäl-lig ärdüki üz-ä bilgä biliglig taryarm
1465 4 -aq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-kä. alqu baxšï-lar andaγ ärmäz-lär. näčä
1466 5 käntü öz-lär-i söz-lägülük bolsar-lar ymä baxšï tep. umaz-lar tükäl
1467 6 -lig bolγalï bu bilgä biliglig taryarmaq-lïγ iki türlüg ädgü-lär-kä
1468 7 nädägin nomlamïš nomï öngi ärür teptesär. adï ködrülmiš-ning nom
1469 8 -lamïš nom-ï-nïng. bar ärür kim tïnlγ-lar-ïγ sansar-lïγ kök tidig
1470 9 -tin ündürgäli umaq-lïγ al-ï aldaγ-ï. adïn baxšï-lar-nïng andaγ
1471 10 ärmäz. yoq ärür kim tïnlγ-lar-ïγ sansar-lïγ kök tidig-tin ündürgäli
1472 11 umaq-lïγ al-ï aldaγ-ï 云何仏弟子異 nädägin tngri burxan-nïng
1473 12 tïdsï-lar-ï öngi ärür teptesär adï ködrülmiš-ning tïdsï-lar-ï
1474 13 umïš ärür üngäli sansar-lïγ kök tidig-tin adïn baxšï-lar-nïng
1475 14 tïdsï-lar-ï umaduq ärür üngäli sansar-lïγ kök tidig-tin azu-ča

問：若しそうであるなら、何に因って、神通等の三輪を述べたのか？と。答：神通と記心の二輪は單に衆生を攝受して信心を能く起こさせるだけである。一切煩惱を斷つことはできない。唯だ説法輪のみが方に能く煩惱を斷つ。煩惱は生死の性である。もし唯だ、神通、記心の二輪のみが成じたなら、空しく信心を起こしても、聖道を得なかったであろう、煩惱を斷つことができなかったであろう。若し煩惱を斷たないなら、結局、生死の泥からは出なかったであろう。それ故、威神や願等は生死から出るところの因ではない。唯だ説法輪のみが方に、能く煩惱を斷つ。即ち解脱を得させる。この三句の頌には三種の異が有る。第一に、世尊大師は外邪法もてるもの等の諸師とは異なっている。第二に、世尊の説いた法は諸師の説いた法とは異なっている。第三に、世尊の弟子らは諸師の弟子らとは異なっている。如何に世尊が諸師と異なっているのかと云えば、世尊が智と斷との二德に圓滿であることによる。諸師はそうではない。如何に自身らが師と言われるところとなっても、この智斷の二種德は圓滿となり得ない。如何に説いた法が異なっているのかと云えば、世尊の説いた法には衆生を生死の泥から出し得る方便が有る。餘の師のものはそうではない。衆生を生死の泥から出し得る方便は（彼らのものには）無いのである。如何に佛の弟子らが異なっているのかと云えば、世尊の弟子らは生死の泥から出ることができた。餘の師の弟子らは生死の泥から出ることができなかったのである。

1446 söz-lädi「述べた」は<nom>-ladï「説いた」に訂正されている。1447~1448 ridi bögülänmäk-lig köngül aymaq-lïγ iki tilgän-lär täk uyur ič-gärip täginip tïnlγ-lar-ïγ kim turγalï kerdgünč köngül-lärig「神通と記心の二輪は單に衆生を攝受して信心を能く起こさせるだけである」。このウイグル文は次のように訂正されている：ridi bögülänmäk<-li> köngül(-in) aymaq<-lï> (bu) iki (türlüg) tilgän-lär täk uyur ič-gärip täginip tïnlγ-lar- ïγ kim <turγuryalï> kerdgünč köngül<-üg>「神通と記心と、この二種の輪は單に衆生を攝受して信心を能く起こさせるだけである」。 kim を先行させる使役表現「起こさせる」では turγalï より訂正形式の turγuryalï の方が適切である。1449 ödlämäk äriglämäk üz-äki tilgän「教化における輪」=「説法輪」「教誡輪」。1451 boldï は<bolmïš ärti>と訂正されている。1452~1453 yoq quruγ öridip kerdgünč köngül-üg bulmaγay ärti tüz- ün yoluγ. umaγay ärti tarγaryalï niz-vanï-lar-ïγ 「空しく、信心を起こしても、聖道を得なかったであろう、煩惱を斷つことができなかったであろう」。このウイグル文は次のように訂正されている： yoq quruγ <tänginčä tuγurup> kerdgünč köngül-üg <bulmaz> ärti tüz-ün yoluγ. <umaz> ärti tarγaryalï niz-vanï-lar-ïγ 「空のごとく、信心を起こしても、聖道を得ないのであった。煩惱を斷つことはできなかった」。1454 arïdï ünmägäy は arïdï <ünmäz>と訂正されている。1458 bu üč padak šlokda bar üč türlüg adïrtï は bu üč padak šlokda <bar qïlmïš ärür> üč türlüg <adurudmaq-larïγ>「この三句の頌において三種の異を有したのである」と訂正されている。1474 umïš ärür は umïš <ärip>と訂正されている。

1476 15 ymä adï ködrülmiš-ning nomlamïš nom-ï-nïng bar beš türlüg yörüg
1477 50a-1 -lär-i ang'ilki tayanγuluq 二 turγuluq 三 söz-lägülük vasdu 四 qïlγu
1478 2 -luq 五 asïγ qïlγu-luq (ärür). qayu-nung adï bolur tayanγuluq teptesär qaltï
1479 3 adï ködrülmiš-ning tükäl(-lig) bolmaq-ï ärür üzäliksiz taryarmaq-lïγ ädgü-kä
1480 4 所生者 tuγuryuluq ärsär. qaltï bilgülük nomluγ adqanγu-lar-ta tïdïγ
1481 5 -sïz tuduγ-suz bilgä biligi ärür. söz-lägülük vasdu ärsär qaltï čïn
1482 6 -kerdü tädrü-süz yörüglüg ämgäk quruγ män-siz-tä ulatï-lar ärür. qïlγu
1483 7 -luq ärsär qaltï ol sansar-lïγ kök tidig-tä čommïš badmïš tïnlγ
1484 8 -lar ärür. asïγ qïlmaq ärsär. qaltï kim ündürmäk ärür sansar-lïγ kök
1485 9 tidig-tin azu-ča ymä bar tört türlüg yörüg-lär. ang'ilki bilgä
1486 10 biliglig ädgü-si 二 taryarmaq-lïγ ädgü-si 三 čoγluγ yalïn-lïγ ädgü-si
1487 11 四 säčä üč uγuš-nung baxšï-sï bolmaq ärür. ol üč türlüg ädgü
1488 12 -lär-ning yörügi üsdün yör-ä tükädmiš t{ä}g tedir. säčä üč uγuš
1489 13 -nung baxšï-sï bolmaq ärsär čïnïnča kerdüsinčä könisinčä ongarusïnča
1490 14 öd ärig berip ödläntäči äriglädäči üčün. anï üčün säčä
1491 15 adamïš ol üč uγuš-nung baxšï-sï tep 或一切種諸冥滅
1492 50b-1 azu-ča ymä alqu türlüg-lär üz-ä alqu bilgülük nom-lar-ta tarïq
1493 2 -mïš qarangγu-luγ-ïn teptemiš-i ärsär. alqu türlüg-lär üz-ä tegüči
1494 3 sav üz-ä uqïdur tngri burxan-nïng tïdïγ-sïz tuduγsuz bilgä
1495 4 biligin. alqu tïnlγ-lar-ta bu ažun-taqï. adïn ažun-taqï. ulatï
1496 5 nirvan-lïγ ät'öz-lüg-kä tägi. qalïsïz adïn(-lar)-qa asïγ (tusu) qïlmaq <-lïγ>
1497 6 ärksinmäklig (töz-lüg) küči-ning ädräm-i-ning barïn. alqu bilgülük nom-lar-ta
1498 7 tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn teptemiš-i ärsär. munï üz-ä uqïdur adï
1499 8 ködrülmiš-ning kirlig bilmämäkig taryarmïš-ïn. taryarmaq üz-ä
1500 9 kirlig bilmämäkig ödrü yoqadur az övkä yoqadmaq üz-ä
1501 10 az övkä ödrü alqu tïnlγ-lar-ta bulur täng tüz köngül-üg tep
1502 11 拔衆生出生死泥者 teptemiš-i ärsär. qaltï adïn-qa asïγ
1503 12 qïlγuluq tïldaγ-qa tükäl-lig bolmaq ärür :: čïnkertü töz-lüg baxšï
1504 13 teptemiš-i ärsär. qaltï tükäl-lig bolmaq ärür adïn-qa asïγ qïlγu
1505 14 -luq al aldaγ-qa qavïr-a-sïnča söz-läyü tükädip tört türlüg
1506 15 yörüg-lärig ärtdi :: ang'ilki adïn-qa asïγ qïlγalï umaq-lïγ

或はまた世尊の説いた法には五種の義が有る。第一に所依、第二に所生、第三に所説の事、第四に所作爲、第五に利をなすことである。何の名が「所依」なのかと云えば、謂わく、世尊が無上の斷徳に圓滿となることである。「所生」は謂わく、所知法の境における無障礙の智である。「所説の事」は謂わく、如實無倒の義もてる苦、空、無我等である。「所作爲」は謂わく、生死の泥に沈溺した衆生である。「利をなすこと」は謂わく、生死の泥から出させることである。或は四種の義がある。第一に智徳、第二に斷徳、第三に威徳第四に獨り三界の師となることである。その三種の徳の義は已に上で釋したごとしと云う。「獨り三界の師となること」は、如實眞正に教授し教誡したものの故、それで「獨り三界の師」と名づけた。或は、「一切種によって一切所智の法において冥を滅した」（一切種諸冥滅）と云った。「一切種によって」と云う言によって佛の無障礙の智を顯わす。一切衆生において、此生、餘生、及び涅槃身にまで、無餘に利他をなす自在の根もてる力の徳が有ることを顯わす。「一切所智の法において冥を滅した」と云ったのは、これによって世尊が染無知を斷ったことを顯す。染無知を斷つことによって即ち、貪、瞋を無くする。貪、瞋を無くすることによって、即ち一切衆生において平等心を得る、と。「拔衆生出生死泥者」と云ったのは、謂わく、利他の因が圓滿となることである。「如理師」と云ったのは、謂わく、利他の方便が圓滿となることである。

1476~1477　adï ködrülmiš-ning nomlamïš nom-ï-nïng bar beš türlüg yörüg-lär-i ang'ilki tayanγuluq 二 turγuluq「世尊の説いた法には五種の義が有る。第一に所依、第二に所生」。このウイグル文は次のように訂正されている：adï ködrülmiš nomlamïš nom<-ïnda bar qïlmïš ärür> beš türlüg yörüg-lär<-ig> ang'ilki tayanγuluq 二 <turγuruluq>「世尊が説いた法に五種の義を有する。第一に所依、第二に所生」。1482　män は mn と綴られている。1483　čommïš は čwmys と綴られている。1496~1497　qalïsïz adïn(-lar)-qa asïγ (tusu) qïlmaq <-lïγ> ärksinmäklig (töz-lüg) küči-ning ädräm-i-ning barïn「無餘に利他をなす自在の根もてる力の徳が有ることを」。これは訂正された文である。訂正前は：qalïsïz adïn-qa asïγ qïlmaq-ta ärksinmäklig küči-ning ädräm-i -ning barïn「無餘に利他をなすことにおいて自在力の徳が有ることを」。1498~1501　munï üz-ä uqïdur adï ködrülmiš-ning kirlig bilmämäkig taryarmïš-ïn. taryarmaq üz-ä kirlig bilmämäkig ödrü yoqadur az övkä yoqadmaq üz-ä az övkä ödrü alqu tïnlγ-lar-ta bulur täng tüz köngül-üg「これによって世尊が染無知を斷ったことを顯す。染無知を斷つことによって即ち、貪、瞋を無くする。貪、瞋を無くすることによって、即ち一切衆生において平等心を得る」。alqu tïnlγ-lar-ta bulur täng tüz köngül-üg「一切衆生において平等心を得る」は alqu tïnlγ-lar-ta bolur täng tüz köngül-{l}üg とすべきであろうか？ Cf. 1508. またこのウイグル文は次のように訂正されている：munï üz-ä uqïdur adï ködrülmiš-ning kirlig bilmämäkig taryarmïš-ïn. taryarmaq üz-ä kirlig bilmä- mäkig ödrü yoqadur(-ïn) az övkä yoqadmaq üz-ä az övkä ödrü alqu tïnlγ-lar-ta <bulmïš-ïn> täng tüz köngül-üg「これによって世尊が染無知を斷ったことを、染無知を斷つことによって即ち、貪、瞋を無くすことを、貪、瞋を無くすことによって、即ち一切衆生において平等心を得たものを顯わす」。1502　拔衆生出生死泥者 teptemiš-i ärsär における「拔衆生出生死泥者」は直接にウイグル語で「tartïp tašγarïp tïnlγlarïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök titigtin ärsär」と訓讀された。

1507 51a-1 tïdïγ-sïz tuduγ-suz bilgä biligi. 二 alqu tïnlγ-lar-ta täng
1508 2 tüz köngül-lüg bolmaq 三 adïn-qa asïγ (tusu) qïlγuluq tïldaγ-qa
1509 3 tükäl-lig bolmaq 四 adïn-qa asïγ (tusu) qïlγuluq al aldaγ-qa tükäl-lig
1510 4 bolmaq 或智断二德 azu-ča ymä bilgä biliglig taryarmaq-lïγ
1511 5 iki türlüg ädgü-lär-i barča tänglämäk ülgü üz-ä bilgülük ärür. nädägin
1512 6 bilgä biliglig ädgü-si tänglämäk üz-ä bilgülük ol teptesär. šlok
1513 7 -ta söz-läti ärti alqu türlüg-lär üz-ä tep munï üz-ä söz-läyür
1514 8 bilgä biliglig ädgü-sin. nädägin bolur bilgäli tngri burxan-nïng bilgä
1515 9 biliglig ädgü-sin teptesär. basa šlok-ta söz-läti ärti čïnkertü
1516 10 töz-lüg baxšï tep. munung uγur-ïnda tängläp bilmiš kärgäk
1517 11 tngri burxan-nïng bilgä biliglig ädgü-sin 若不具智德
1518 12 birök tükäl-lig ärmädi ärsär bilgä biliglig ädgü-kä nädägin bulγay ärti
1519 13 čïnkertü töz-lüg baxšï tegüči adïγ. alqu bilgülük nom-lar-ta
1520 14 tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn tegüči sav üz-ä munï üz-ä uqïdur
1521 15 taryarmaq-lïγ ädgü-sin nädägin bolur bilgäli tngri burxan-nïng
1522 51b-1 taryarmaq-lïγ ädgü-sin teptesär. basa söz-lädi ärti tardïp tašγar
1523 2 -ïp tïnlγ-lar-ïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök tidig-tin tep
1524 3 munï üz-ä tängläp bilmiš kärgäk tngri burxan-nïng taryarmaq-lïγ ädgü
1525 4 -sin birök käntü öz-i ünmäti ärsär sansar-lïγ kök tidig-tin nädägin
1526 5 uγay ärti tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ ündürgäli sansar-lïγ
1527 6 kök tidig-tin tep 或上三句中 azu-ča ymä üsdünki üč
1528 7 padak-lar-ta sïγar tört türlüg tükäl-lig bolmaq-lar. qaltï. bilgä
1529 8 biligkä-kä tükäl-lig bolmaq taryarmaq-qa tükäl-lig bolmaq : adïn
1530 9 -qa asïγ (tusu) qïlγuluq al aldaγ-qa tükäl-lig bolmaq ärür. alqu tür
1531 10 -lüg-lär üz-ä teptemiš-i ärsär. bilgä biligkä tükäl-lig bolmaq ärür
1532 11 alqu bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn teptemiš-i ärsär
1533 12 taryarmaq-qa tükäl-lig bolmaq ärür tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ
1534 13 ündürti ärsär sansar-lïγ kök tidig-tin teptemiš ärsär adïn-qa
1535 14 asïγ qïlmaq-qa tükäl-lig bolmaq ärür čïnkertü töz-lüg baxšï-qa
1536 15 teptemiš-i ärsär. adïn-qa asïγ qïlγuluq al aldaγ-qa tükäl-lig

已に四種義を略して説き竟えた。第一に、利他を爲し得る無障礙の智。第二に、一切衆生において平等心もてるものとなること。第三に、利他の因が圓滿となること。第四に、利他の方便が圓滿となること。或は、智と斷の二種徳は全て比量による所知である。如何にして智徳が比量による所知なのかと云えば、頌に「一切種によって」と説くのであった。これを以てその智徳を説く。如何にして佛の智徳を知り得るのかと云えば、次に頌に「如理師」と説いたのである。これに由り、比べて佛の智徳を知らねばならない。若し智徳が圓滿でなかったら、如何にして如理師と云う名を得たであろうか、(と)。「一切所智の法において冥を滅した」と云う言によって、これを以て斷徳を顯わす。如何にして佛の斷徳を知り得るのかと云えば、次に「衆生を生死の泥から抜いて出したなら」と説いたのであった。これを以て、比べて佛の斷徳を知らねばならない。もし自身が生死の泥から出なかったなら、如何にして衆生を生死の泥から抜いて出すことができたであろうか。或は、上の三句中には四種が圓滿となるものが入っている：謂わく、智が圓滿となること、斷が圓滿となること、(利他が圓滿となること、方便が圓滿となること）である。「一切種によって」と云ったのは、智が圓滿となることである。「一切所智の法において冥を滅する」と云ったのは、斷が圓滿となることである。「衆生を生死の泥から抜いて出したなら」と云ったのは、利他が圓滿となることである。「如理師へ」と云ったのは、利他の方便が圓滿となることである。

1513~1514 munï üz-ä söz-läyür bilgä biliglig ädgü-sin「これを以てその智徳を説く」は munï üz-ä söz<-lämiš ärür> bilgä biliglig ädgü-sin「これを以てその智徳を説いたのである」と訂正されている。1518~1519 birök tükäl-lig ärmädi ärsär bilgä biliglig ädgü-kä nädägin bolγay ärti čïnkertü töz-lüg baxšï tegüči adïγ「若し智徳が圓滿でなかったら、如何にして如理師という名を得たであろうか、(と)」。このウイグル文は次のように訂正されている：birök tükäl-lig <bolmadï> ärsär bilgä biliglig ädgü-kä nädägin bolγay ärti <adanγalï čïnkertü> töz-lüg baxšï <tep>「若し智徳が圓滿とならなかったなら、如何にして如理師と名づけることができたのであろうかと」。ここでは訂正文からは<tep>「・・と」のみを採用した。1526 tašγarïp は t'sqryp と綴られている。1527~1528 azu-ča ymä üsdünki üč padak-lar-ta sïγar törт türlüg tükäl-lig bolmaq-lar「或は、上の三句中には四種が圓滿となるものが入っている」は次のように訂正されている：azu-ča ymä üsdünki üč padak- lar-ta sïγar (tudulur.) tört<-ägü-kä> tükäl-lig bolmaq-lar「或は、上の三句中には、四つにおいて圓滿となるものが入っている」。1528(~1537) qaltï. bilgä biligkä-kä tükäl-lig から al alday-qa tükäl-lig bolmaq ärür までは節略漢文『實義疏』に對應する：謂智圓滿。斷圓滿。利他圓滿。方便圓滿。・・・・・一切種冥滅。是知圓滿。諸滅是斷圓滿。拔衆生出生死泥者。利他圓滿(敬禮如是者。應供圓滿。)如理師者。方便圓滿。(大正 Vol.29, p.325 *ll*.15-16, *ll*.22-23)。1528~1530 bilgä biligkä-kä tükäl-lig bolmaq taryarmaq-qa tükäl-lig bolmaq「智が圓滿となること、斷が圓滿となること」の後に adïn-qa asïγ (tusu) qïlγuluq al alday-qa tükäl-lig bolmaq「利他の方便が圓滿となること」と書かれているが、これは本來次のように書かれるべきである：adïn-qa asïγ qïlmaq-qa tükäl-lig bolmaq al alday-qa tükäl-lig bolmaq「利他が圓滿となること、方便が圓滿となること」。和譯はこれを使用した。なお、biligkä-kä の-kä は不要である。

1537 52a-1 bolmaq ärür 或約四无畏 azu-ča ymä tört türlüg qorqïnč-sïz-lar
1538 2 -ïγ tuda söz-lämiš ärür. kim alqu türlüg-lär üz-ä temäk ärür köni
1539 3 tuymaq-ta qorqïnčsïz. alqu bilgülük nom-lar-ta tarïqmïš qarangγu-luγ-ïn
1540 4 temäk ärür aqïγ alqmaq-ta qorqïnčsïz. tardïp tašγarïp tïnlγ-lar-ïγ
1541 5 temäk-tä ulatï-lar ärür tïdïγ yol-uγ nomlamaq-ta qorqïnčsïz 又 ymä ärür
1542 6 yol adïrtmaq-ïn-ta qorqïnčsïz ymä/ter. ayayu aγïrlayu yükünüp ol andaγ
1543 7 osuγ-luγ čïnkertü töz-lüg baxšï-qa temäk ärür. ämgäk-tin ündürdäči
1544 8 yol-ta qorqïnčsïz tep 論 yükünüp čïnkertü töz-lüg baxšï-qa tapïng ol
1545 9 nägü qïlγuluq teptesär abidarmakoš šasdr-ïγ mn inčip söz-läyin tep
1546 10 又 mn ken nomlaγu üčün tep ymä/ter. ödlätäči ärigläd äči üčün bošyudčï tïdsï
1547 11 -larïγ anïn adamïš ol šasdr tep 釋曰 yükünüp teptemiš-i ärsär.
1548 12 sezik aydur kiši-lär-ning qïlγuluq iki türlüg iš-lär-i bolsar. bir
1549 13 -in ödrü qïlu tükädmiš ikinti-sin ödrü qïlγalï uγramïš.
1550 14 munda sezinü söz-lämiš täg bir išim ärtä tükätdi anda basa

1537~1538 azu-ča ymä tört türlüg qorqïnč-sïz-lar-ïγ tuda söz-lämiš ärür.「或は、四種無畏を約して説いたのである」。は次のように訂正されている：azu-ča ymä (tudulur) tört türlüg qorqïnč-sïz-lar <又 -lar-ïγ tuda bolmïš ärür ymä ter ::> .「又」以下の再訂正を採るなら azu-ča ymä tört türlüg qorqïnč-sïz-lar-ïγ tuda bolmïš ärür「或は、四種無畏を約すことができたのである」となる。1539~1544 tuymaq-ta, alqmaq-ta, nomlamaq-ta, adïrtmaq-ïn-ta, yol-ta の-ta(位格)はすべて<-taqï>「・・にある」に訂正されている。例えば köni tuymaq-ta qorqïnčsïz「正(等)覺無畏」は köni tuymaq<-taqï> qorqïnčsïz のごときである。1541~1542 ärür tïdïγ yol-uγ nomlamaq-ta qorqïnčsïz「障道を説くことにおける無畏である」は「又」以下で ymä ärür yol adïrtmaq-ïn-ta qorqïnčslz「また道を差別することの無畏である」と訂正されている。ここでは「説障道無所畏」を表している。1546 「又」以下は mn inčip söz-läyin tep「我當に説くべし、と」を mn ken nomlayu üčün tep「我當に説くために、と」に訂正している。1548 kiši-lär-ning qïlγuluq iki türlüg iš-lär-i bolsar「人に、爲すべき二種の作業があるとき」は次のように訂正されている：(qaltï) kiši-lär-ning qïlγuluq (bolmïš) iki türlüg iš-lär-i bolsar「猶、人の所作となった二種のはたらきがあるとき」。1549 bir-in ödrü qïlu tükädmiš ikinti-sin ödrü qïlγalï uγramïš「その一つを即ち爲しおえた。そして二つめを將に爲さんとした」は次のように訂正されている：bir-in qïlu tükäd<-ip> <bir>-sin qïlγalï uγra<-sar>「一つを爲しおえて、一つを爲すことを欲するなら」。

或は、四種の無畏を約して説いたのである：「だれかが一切種によって」（諸一切種）と云うのは、正（等）覺無畏である。「一切所智の法において冥を滅した」（諸冥滅）と云うのは、漏（永）盡無畏である。「衆生を抜いて」（抜衆生）と云うこと等は、障道を説くことにおける無畏（説障道無所畏）である。「是の如き如理師へ敬禮して」（敬禮如是如理師）と云うのは、苦から出させる道における無畏である（説出苦道無所畏）、と。

論：『如理師へ禮して、何の所作を欲するやと云えば、阿毘達磨倶舎論を我れ當に説くべし、と。學徒を教誡するものの故に、それで論と稱した』（禮如理師欲何所作對法藏論我當説者教誡學徒故稱爲論）と。

釋曰：「禮して（何の所作を欲するや）」（禮）と云ったのは、人に、爲すべき二種の仕事があるとき、その一つを即ち爲しおえた。そして二つめを將に爲さんとした。ここにおいて、我れの一つの仕事は濟んだ。

1550~1568　この間に北區石窟本と對應する部分が有る：

söz-]l) lämiš täg bir iš-ing ärdä tükädi 爲 2) azu q[ï]ɣu-luq mu ol. qïlmaɣu-luq mu ol. 3) tep. 今 amtï 作 qïlɣuluq bolmïš iki tür 4)-lüg iš lär-i ärti. 一 ädgü bölüg-lär-kä 5)[tükä]l-lig bolmaq-lïɣ tïldaɣ. 二 alqu ayïɣ 6) [-larïɣ] taryarmaq-lïɣ tïltaɣ. 云 söz-lämiš 7)[-i äd]gü bölüg-lär-kä tükäl-lig bolmaq-lïɣ 8)[ayïɣlarï]ɣ taryarmaq-lïɣ tïldaɣ üčün :: 9)[ ]ɣu-luɣ ol. 問 siz-ig bolmïš 10)[qal]tï abidarma tep tisär. (B157:15-1 正 Mirkamal (2005) p.4)

北區石窟本のウイグル文は抜粋文である。兩者の對應箇所は以下の通りである：

北區石窟本	ロンドン本
1)～4)	1550 ～ 1553
4)～6)	1560 ～ 1561
6)～8)	1563 ～ 1564
9)	1568
10)	1571

北區石窟本 1) の bir iš-ing ärdä tükädi「汝の一つの作業は濟んだ」に對してロンドン本は bir išim ärtä tükätdi「我れの一つの作業は濟んだ」。1) の「爲」はロンドン本には無い。これは抜粋の初頭を示すもので翻譯原典の漢文の初頭の漢字を使用したものである。ロンドン本では tükädi と azu q[ï]ɣu-luq との間には anda basa-qï (bir) išim ärsär が存在する。3) の「今 amtï 作 qïlɣuluq bolmïš」に對してロンドン本では amtï vasubandu baxšï-nïng ymä andaɣ oq qïlɣuluq と書かれている。漢字「今」は amtï のみの抜粋を表す。「今 amtï」から「作」までの間に vasubandu baxšï-nïng ymä andaɣ oq が省略されている。「今」も「作」も抜粋初頭の漢字を插入したものである。6) の「云」も「今」等と同じ働きをする。4) 5) の「一」「二」に對してロンドン本は ang'ilki, ikinti のごとくウイグル語を立てている。

1551 15 -qï (bir) išim ärsär. azu qïlγuluq mu ol. qïlmaγu-luq mu ol tep
1552 52b-1 amtï vasubandu baxšï-nïng ymä andaγ oq qïlγuluq iki türlüg
1553 2 iš-lär-i ärti. ang'ilki qaltï tngri burxan-qa yüküngülük. ikinti qaltï
1554 3 šasdr yaradγuluq. yükünüp tngri burxan-qa ärtä tükätdi :: tapïng
1555 4 ol nägü qïlγuluq temiš-kä. šasdr-ta käntü kikinč berü söz-lämiš ol
1556 5 abidarmakoš šasdr-lïγ mn inčip söz-läyin tep 其論者何
1557 6 ol šasdr qayu ol teptesär. šasdr-ta käntü kikinč berü söz-lämiš ol
1558 7 ötlädäči äriglädäči üčün bošγudčï tïdsï-lar-ïγ. anïn adamïš ol
1559 8 bolur šasdr tep. bu sav-ta sïγar tört türlüg yörüg-lär olar
1560 9 törtdägü ymä qayu ol teptesär. ang'ilki ädgü bölük-lär-kä tükäl-lig
1561 10 bolmaq-lïγ tïldaγ 二 alqu ayïγ-larïγ taryarmaq-lïγ tïldaγ 三 köni
1562 11 -sinčä ödlämäk ärigläınäk-lig tïldaγ 四 tïnlγ-larïγ ämgäk-tin tardmaq
1563 12 -lïγ tïldaγ ärür. anïn bar šlok-ta söz-lämiš(-i) 成善斷惡因
1564 13 ädgü-kä tükäl-lig bolmaq ayïγ-ïγ taryarınaq-lïγ tïldaγ üčün čïnkertü
1565 14 köni-sinčä ödlätäči äriglädäči üčün. umuγ ïnaγ bolup alqu
1566 15 ämgäk-lär-tin tardtačï üčün. anïn munung adï bolur šasdr tep :: ::
1567 53a-1 söz-läyin teptemiš-i ärsär 又 nomlaγu üčün ymä/ter. adruq adruq
1568 2 uγur-ïn bölmäk adïrtlamaq ärür. 問 šasdr bolur üküš tälim
1569 3 tapïng ol söz-lägülük qayu šasdr-ïγ tep. šasdr käntü kikinč berü
1570 4 söz-lämiš ol. abidarmakoš šasdr-ïγ mn inčip söz-läyin tep 何謂
1571 5 對法 qayu ol abidarim abidarim teptesär. adïryalïr üčün ärür alqu
1572 6 šasdrlar-ïγ. koš teptemiš-i. uqïdγalïr üčün ärür bu šasdr-nïng
1573 7 yaqïn tayanmïš-ïn inyanaparasdan šasdr-qa tep. 問 qayu tïldaγ
1574 8 -ïn yaradtï bu šasdr-ïγ tep 答 küsämiš üčün qavïr-a-sïnča
1575 9 tudulturγalï inyanaparasdan-ta ulatï šasdr-lar-nïng keng sačuq yörüg
1576 10 -lär-in tep 問 nä üčün qavïrdï andaq-ï keng yörüg-lärig tep.
1577 11 答如前已說 qaltï öngdün söz-läyü tükädmiš täg ärür
1578 12 kenki yavïz ötdäki-lär üčün. üküš tïldaγ-lïγ üküš sïmaq-lïγ
1579 13 -lar üčün. az-qy-a bilgä biliglig-lär üčün. bu söz-lägüči-tä üč
1580 14 türlüg yörüg-lär ol 又 munda söz-läyür üč türlüg yörüg-lärig ymä/ter
1581 15 qaltï munda ögär kim-ni. munda nägü-si üz-ä ögär. qayu sav üčün.
1582 53b-1 ögär tep. ögär kim-ni teptemiš-i ärsär. qaltï ögär čïnkertü töz
1583 2 -lüg baxšïγ. nägü-si üz-ä ögär teptemiš-i ärsär. qaltï üč türlüg

次の一つの仕事を爲すべきか、爲さざるべきか？と、疑って説いたごとくに、問うのである。今、世親師のまたそのように爲すべき二種の作業とは、第一が謂わく佛へ禮することと、第二が謂わく論を造ることであつた。佛へは已に禮し終えた。「何の所作を欲するや」（欲何所作）と述べたことに對して、論に「『阿毘達磨倶舎論』を我れ當に説くべし」（對法藏論我當説）と自ら答えて説いたのである。その「論」とは何かと云うなら、論に自ら答えて説いた：「學徒を教誡するものの故に、論と爲すと稱した」（教誡學徒故稱爲論）と。この言に四種の義が入る。それら四つは何かと云えば、第一に善品が圓滿となることの因、第二に一切惡を斷つことの因、第三に正しく教誡することの因、第四に衆生を苦から拔くことの因である。そこで頌に説いたものが有る：善が圓滿となること（及び）惡を斷つことの因故に、眞實に正しく教誡するものの故に、救濟となって一切苦から拔くものの故に、これの名は「論」となった、と。「説くべし」（説）と云ったのは、種々の場合を分別することである。多くの論がある、何の論を説くことを欲するのか？と問うたことに對して。論が自ら「『阿毘達磨倶舎論』を我れ當に説くべし」と答えて説いたのである。「阿毘達磨」（對法）とは何かと云えば、一切の論を別けるためである。「倶舎」（藏）と云ったのはこの論が『發智論』へ依附したことを顯わすためである、と。問：何に因ってこの論を造ったのか？と。答：『發智論』等の論にある擴散した義を簡略に攝取させることを欲した故（である）。問：何故、そこにある廣い義を簡略にしたのか？と。猶、以前に已に説いたごとく、後の惡時にあるものらのため、多くの對象もてる、多くの混亂もてるものらのため、智慧の少ないものらのためである。この説くところには三種の義がある：謂わく、ここでだれを讃ずるのか？ここで何によって讃ずるのか？何の事のために讃ずるのか？と。

1552 qïlγuluq「爲すべき」は qïlγuluq (bolmïš)「所作となった」と訂正されている。1564 ädgü-kä tükäl-lig bolmaq ayïγ-ïγ tarγarmaq-lïγ tïldaγ üčün「善が圓滿となること(及び)惡を斷つことの因故に」は次のように訂正されている：ädgü (bölük-lär)-kä tükäl-lig bolmaq(-lïγ) ayïγ (nom-lar)-ïγ tarγarmaq-lïγ tïldaγ üčün「善品が圓滿となること(及び)惡法を斷つことの因故に」。1568~1569 問 šasdr bolur üküš tälim tapïng ol söz-lägülük qayu šasdr-ïγ tep「問：多くの論がある、何の論を説くことを欲するのか？と」は次のように訂正されている：(sezik bolmïš-qa) šasdr bolur üküš tälim tapïng ol söz-lägülük qayu šasdr-ïγ tep「多くの論がある、何の論を説くことを欲するやと、問うたことに對して」と訂正されている。訂正はウイグル文中の漢字「問」を消去して(sezik bolmïš-qa)「問うたことに對して」と訂正している。本文譯文では訂正文の内容を採用した。1570 šasdr は ssdr と綴られている。1571 qayu ol abidarim teptesär「「阿毘達磨」は何かといえば」は <nädägin söz-lädi> abidarim(-a) teptesär「如何にして「阿毘達磨」と説いたのか」と訂正されている。1575 keng sačuq「擴散(した)」は keng <sačγïn bolmïš >「擴散した」に訂正されている。sačγïn「擴散」= sač-「撒く」-γïn (dev. noun). 1578 üküš tïldaγ-lïγ は üküš <adqaγ>-lïγ に訂正されている。いずれも「多緣もてる」と譯せるが前者は「多くの因緣もてる」後者は「多くの所緣もてる」と區分できる。1579~1580 bu söz-lägüči-tä üč türlüg yörüg-lär ol「この説くところには三種の義がある」 は<munda> söz <-läyür> üč türlüg yörüg-lär<-ig>「ここで、三種の義を説く」と訂正されている。ちなみに本文の「又」以下の内容は傍注の訂正と同一である。1581 qaltï munda ögär kïm-ni. munda nägü-si üz-ä ögär. qayu sav üčün. ögär tep「謂わく、ここでだれを讃ずるのか？ここで何によって讃ずるのか？何の事のために讃ずるのか？と」。このウイグル文は次のように訂正されている：qaltï munda ögär kïm-ni. <munï qaltï> nägü-si üz-ä ögär. (azu) qayu <tïldaγ üz-ä>. ögär tep.「謂わく、ここでだれを讃ずるのか？これを、謂わく、何によって讃ずるのか？或は何の因によって讃ずるのか？と」。

1584 3 ädgü-lär-i üz-ä ögär. qayu sav üčün ögär teptemiš-i ärsär. qaltï
1585 4 küsämiš üčün yaratγalï bu abidarmakoš šasdr-ïγ tep. munda yörüp
1586 5 ang'bašlayu-qï šlokuγ ulatï vardiγ ärtdi tep :: ol šasdr qayu
1587 6 ol teptesär qaltï abidarmakoš šasdr ärür tep 釋曰 qaltï šlok
1588 7 -ta söz-lämäki ärsär abidarmakoš tep. munda bar iki türlüg yörüg
1589 8 -lär. ang'ilki abidarim-nïng yörügi ikinti koš-nïng yörügi bolu tükäd
1590 9 -mäk üz-ä iki türlüg yörüg-lär. sav-ïn kärgäk qavšurup yörmäk ol
1591 10 ašnu-ča birär birär yörä tükätdi ärti. basa tägimlig ol qavšur
1592 11 -up yörgäli. 義將穩便 yörügi uγrayu kizläglig badut
1593 12 -luγ üčün anïn šasdr-ta sezik turγurmïš ol 論 qayu ol qaltï
1594 13 abidarim tep šlok-ta käntü kikinč berü söz-lämiš ol 淨慧
1595 14 隨行名對法・・・・・・論曰 bilgä bilig tep temiš-i
1596 15 ärsär qaltï adïrtladačï ärür. arïγ ärsär qaltï aqïγ-sïz tedir tep
1597 54a-1 釋曰 bilgä bilig tep temiši ärsär. yeg adruq tep yörüg'ol
1598 2 munda (näng) yindäm bilgä bilig-ning ök adï bolur ärmäz abidarim tep
1599 3 munï birläki beš yükmäk-ning yumdaru adï bolur abidarim tep
1600 4 故頌言隨行 anïn šlok-ta söz-lämiš ol eyin yorïdačï-lar-ï
1601 5 birlä tep. näng alqu bilgä bilig-lär-ning barča-nïng adï bolur
1602 6 ärmäz üčün yeg adruq tep. anïn munda uqïdu söz-lämiš ol arïγ bilgä
1603 7 bilig tep. adïrtladačï tegüči sav-ta nägü tep yörüg'ol teptesär.
1604 8 angayu 々 bildäči tep yörüg ol nom-nung öz qamaγ-lïγ töz-lär-ig
1605 9 arïγ ärsär qaltï aqïγ-sïz ärür teptemiš-i ärsär. adïrγalïr üčün
1606 10 aqïγ-lïγ-ïn anïn söz-lämiš ol aqïγ-sïz tep. amtï uγramïš
1607 11 üčün yörgäli ol čïnlayu abidarim-ïγ. anïn adïrmïš ol aqïγ-lïγ
1608 12 -ïγ aqïγ-lïγ-ï kirlig aqïγ-sïz-ï arïγ bolur üčün. aqïγ-sïz
1609 13 teptemiš-i ärsär. üklidmäz ašmaz üčün ol <az>-ta ulatï
1610 14 alqu aqïγ-lar-ïγ. anïn adamïš ol aqïγ-sïz tep 論 arïγ
1611 15 bilgä bilig-ning terin-i-ning quvraγ-ï-nïng adï bolur eyin yorïdačï

「だれを讃ずるのか？」と云ったのは、謂わく、如理師を讃ず。「何によって讃ずるのか？」と云ったのは、謂わく、三種の徳によって讃ず。「何の事のために讃ずるのか？」と云ったのは、謂わく、この『阿毘達磨倶舎論』を造ることを欲した故に、と。ここにおいて初頭にある頌及び注釋を釋し竟えた、と。

『その論は何かと云えば、謂わく、阿毘達磨倶舎論である』（其論者何謂對法藏）と。

釋曰：ちょうど頌に「阿毘達磨倶舎」と説く。ここには二種の義が有る：第一は阿毘達磨の義、第二は倶舎の義。二種の義がよく成ずることにより、その言を必ず合わせて釋すことである。先ずは一つ一つ釋し終えたのであった。次には應に合わせて釋すべし。その義は將に隱密故、それで論に疑いが生じたのである。

論：**『何が謂わく、阿毘達磨であると。頌に自ら答えて説いたのである。淨慧隨行名對法・・・論曰。慧は謂わく、（法を）揀擇するものである。淨は謂わく、無漏を云う。』**（何謂對法頌曰淨慧隨行名對法及能得此諸慧論論曰慧謂擇法淨謂無漏）と。

釋曰：「慧」と云ったのは、「殊勝」と云う義である。ここでは決して唯だ「慧」の名のみが「阿毘達磨」となるのではない、と。これと共にある五蘊の總名が「阿毘達磨」である、と。それ故、頌に「隨行とともに」（隨行）と言った。決して一切慧の全ての名が「殊勝」となるのではない故、それで、ここに「淨慧」と立てて説いたのである。「擇」と云う言に何と云う義があるのかと云えば、「別々に法の自共相を知るもの」と云う義がある。「淨は謂わく、無漏である」（淨謂無漏）と云ったのは、有漏を差別する故、それで「無漏」と説いた。今、その勝義の阿毘達磨を釋すことを欲した故、それで有漏を差別した。有漏は染、無漏は淨となるためである。「無漏」と云ったのは、貪等一切の漏を増大しない故、それで「無漏」と名づけた。

1585 munda「ここにおいて」は<munï üz-ä>「これによって」に訂正されている。1589 ang'ilki abidarim-nïng yörügi ikinti koš-nïng yörügi bolu tükäd-mäk üz-ä iki türlüg yörüg-lär. sav-ïn kärgäk qavšurup yörmäk ol「第一は阿毘達磨の義、第二は倶舎の義。二種の義がよく成ずることにより、その言を必ず合わせて釋すことである」。このウイグル文は次のように訂正されている： ang'ilki abidarim-nïng yörügi ikinti koš-nïng yörügi <ärür :: bar qïlu> tükäd-mäk üz-ä (bu) iki türlüg yörüg<-lär-ig>. sav-ïn kärgäk (-inčä) qavšurup yör<-miš> ol「第一は阿毘達磨の義、第二は倶舎の義である。この二種の義を有しおえることによって、その言を必然的に合わせて釋した」。1592 ウイグル文中の漢文「穩便」に kizläglig budat が對應している。kizläglig も budat も「密かに」を意味する。和譯では「隱密」をあてた。1594~1595 ウイグル文中の「淨慧隨行名對法・・・・・・」は『倶舎論』の「淨慧隨行名對法及能得此諸慧論」の後半部を省略したものであるが、この漢文はウイグル語譯されていない。なお、1595 の bilgä bilig tep temiš-i「慧と云ったこと」の tep temiš-i「云ったこと」は點線で圍んである。これは削除を意味している。和譯でもこれを削除した。1609 <az>-ta ulatï「貪等」の訂正前は aqïγ-ta ulatï「漏等」である。

1612 54b-1 -lar tep. munï munčulayu yumdarïp söz-läsär. aqïγ-sïz beš yükmäk-ning
1613 2 adï bolur abidarim tep. 釋曰 terin-i quvraγ-ï ärsär öng-tä
1614 3 ulatï beš yükmäk-lär ärür. ulatï öd <üz-ä> tüš <üz-ä> ädgü-tä ulatï
1615 4 -lar üz-ä. bilgä bilig eyin inčip bir täk ävrilür üčün adï
1616 5 bolmïš ol terin-i quvraγ-ï tep. šlok-ta söz-lämiš ol eyin
1617 6 yorïdačï-lar tep. munda söz-lämiš ol terin quvraγ tep olar
1618 7 -nïng yörügi bir täk ärür. bu (ärsär) tört töz tüp (qïlu) dyan(-lar-qa). tägmäz-känki
1619 8 tayaq dyan(-qa) araqï dyan-qa tayaq-lïγ-ïn turmïš bilgä bilig ärür
1620 9 bu bilgä bilig <birläki> köni sav söz. köni iš küdük. köni öz eldinmäk
1621 10 -tä ulatï(-lar üz-ä bolmïš) uqïdmaz öng-nüng adï bolur öng yükmäk tep. adïn
1622 11 törtdägü eyin yaraγ-ïnča učuz üčün anïn yörmädimiz :: ::
1623 12 論云如是總說 munï munčulayu yumdarïp söz-läsär aqïγ-sïz beš
1624 13 yükmäk-ning adï bolur abidarim tep 問 birök beš yükmäk abidarim bolsar.
1625 14 asïr-a-qï üč öngsüz-lär-kä tayaq-lïγ-ïn turmïš aqïγ-sïz bilgä bilig
1626 15 abidarim ärmäz bolγu kärgäk. ol öngsüz-tä yindäm tört yükmäk
1627 16 bolur üčün tep 答 yörüg töz-indäki-čä ärsär andaγ ärmäz
1628 55a-1 munda täk söz-lämiš ol arïγ bilgä bilig eyin yorïdačï-lar
1629 2 birlä adï bolur abidarim tep söz-lämämiš ol beš yükmäk-in ärür
1630 3 ol abidarim tep. söz-lämämiš ol beš yükmäk tört yükmäk-in. täk
1631 4 arïγ bilgä bilig eyin yorïdačï-lar-ï birlä yumdaru bulmïš ol abi
1632 5 -darim tegüči adïγ tep. 問諸心所法中 alqu köngül-täki nom-lar-ta köngül
1633 6 xan-ï bolur yeg. nädägin teptesär ärür üčün köngül-täki nom-lar-qa tayaq töz
1634 7 munda tägimlig ärti täk söz-lägäli köngül xan-ï(-nïng) ulatï (anïng) terin-i-ning quvraγ-ï
1635 8 -nïng adï bolur abidarim tep. nä üčün uqïtdï. bilgä biligig ulatï

1614 ulatï öd <üz-ä> tüš <üz-ä> ädgü-tä ulatï-lar üz-ä「及び(それは)、時や果や徳等において」は訂正された文である。訂正前は：ulatï öd-i tüš-i ädgü-tä ulatï-lar-ï üz-ä.兩文には同じ和譯を與えることができる。1620~1621 bu bilgä bilig <birläki> köni sav söz. köni iš küdük. köni öz eldinmäk-tä ulatï(-lar üz-ä bolmïš) uqïdmaz öng-nüng adï bolur öng yükmäk tep「この慧とともにある正語、正業、正命等によって成じた無表の色の名が「色蘊」となる」は訂正された文である。訂正前は：bu bilgä bilig-tä köni sav söz. köni iš küdük. köni öz eldinmäk-tä ulatï uqïdmaz öng-nüng adï bolur öng yükmäk tep「この慧において正語、正業、正命等、無表の色の名が「色蘊」となる」。köni sav söz.「正しい語」=「正語」、köni iš küdük「正しい仕事」=「正業」、köni öz eldinmäk「正しく自らを運ぶこと」=「正命」。

論：『淨慧の眷屬の名は隨行となる、と。このごとく、總じて説けば、無漏の五蘊の名は阿毘達磨となる』（淨慧眷屬名曰隨行如是總説無漏五蘊名爲對法）と。

釋曰：「眷屬」は色等の五蘊である。及び（それは）、時や果や德等において、慧に隨って而して同一に轉ずるため、その名が「眷屬」となった。頌には（これを）「隨行」と説いた。ここでは「眷屬」と説いた。それらの義は同一である。これは四根本定、未至定、中間定に依って起こった慧である。この慧とともにある正語、正業、正命等によって成じた無表の色の名が「色蘊」となる。餘の四つは、隨所應として容易な故、それで我らは釋さなかった。論云：「このごとく總じて説けば、無漏の五蘊の名は阿毘達磨となる」（如是總説無漏五蘊名爲對法）と。問：もし「五蘊」が阿毘達磨となるなら、下にある三つの無色に依って起った無漏慧は必然的に阿毘達磨ではなくなる。無色において唯だ四蘊のみとなるためであると。答：理として、その通りではない。ここでは單に「淨慧は隨行とともに、その名は阿毘達磨となる」と説いた。五蘊を阿毘達磨であるとは説かなかった。五蘊や四蘊を説かなかった。單に、淨慧は隨行と通して「阿毘達磨」と云う名を得た、と。問：諸々の心所法の中で、心王は勝である。如何にしてかと云えば、心所法に對して（その）所依の性である故。ここでは、應に、心王及びそれの眷屬の名が「阿毘達磨」となると説くべし。

1622 eyin yaraγ-ïnča「隨所應」（「それぞれ適當に」中村 p.810b）。1625~1626 asïr-a-qï üč öngsüz-lär-kä tayaq-lïγ-ïn turmïš aqïγ-sïz bilgä bilig abi- darim ärmäz bolγu kärgäk「下にある三つの無色に依って起った無漏慧は必然的に阿毘達磨でなくなる」。この文は次のように訂正されている：asïr-a-qï üč（türlüg）öngsüz <dyan-lar-qa> tayaq-lïγ-ïn（qayu）turmïš aqïγ-sïz bilgä bilig abidarim ärmäz bolγu kärgäk.「下にある三種の無色定に依って起ったところの無漏慧は必然的に阿毘達磨でなくなる」。1625~1638 北區石窟本はこの間に對應する内容を持っている：

1）下三 asïraqï üč türlüg öngsüz dyan 2）-lar-qa tayaq-lïγ-ïn. qayu tu[r]mïš 3） aqïγ-sïz bilgä bilig 不説 söz-lämä 4）-miš ol. 此 munda tägimlig ärür täk söz 5）-lägäli 何 nä üčün uqïdtï bilgä bi[ilig] 6）-ig 答 bu umïš üčün tükäl- l[ig] 7） bolγalï. körmäk üz-äki. adqaγ [üz-äki] 8） iš kγütük üz-ä-ki [täng tüz üč] 9） türlüg yügärü uqmaq-l[arqa] 10） öng yä[ ]z sïq[ ]（B157:15-1 背 Mirkamal（2005） pp.4-5）

北區石窟本のウイグル文は抜粋文である。兩者の對應箇所は以下の通りである：

北區石窟本	ロンドン本
1）～ 3）	1625
3）～ 4）	1629
4）～ 5）	1634
5）	1635
6）～ 9）	1636-1638
10）	?

1）「下三」は asïraqï üč türlüg に對應する。ウイグル文中漢字はロンドン本にも現れるところの「答」以外はすべて抜粋の初頭を表示する。6）～ 8）はロンドン本の訂正文とよく一致する。1630 täk は tk と綴られている。

1636 9 anïng terin-i-ning quvrayγ-ï-nïng adï bolur abidarim tep. 答 bu
1637 10 uyur üčün tükäl-lig bolγalï körmäk adqaγ iš küdük-tä ulatï üč
1638 11 türlüg yügärü uqmaq-lar-qa bu tïldaγ-ïn alqu köngül-täki nom-lar-ta bilgä
1639 12 bilig yeg adruq üčün. bilgä bilig eyin yorïdačï-lar-ï birlä adï
1640 13 bolur abidarim tep. näng köngül xanï ärmäz. öng-tä ulatï tuγmaq-ta
1641 14 ulatï köngül-tä öngi nom-lar-nïng-ta bolur iš küdük üz-ä (yügärü) uqmaq-ï
1642 15 köngül xan-ï öngi kedärip bilgä biligig adïn köngül-täki
1643 55b-1 nom-lar säčä bulmïš ol adqaγ iš küdük üz-ä iki (türlüg) yügärü uqmaq-lïγ
1644 2 tegüči adïγ. 慧能具三 bilgä bilig uyur üčün tükäl-lig bol
1645 3 -γalï üčägü-kä. bu yörüg-tä bilgä bilig-ning iš-i säčä yeg adruq
1646 4 üčün. anïn uqïdmamïš ol köngül xan-ïn tep 問 qaltï (bu) bilgä bilig
1647 5 -ning bolmïš täg körmäk-lig iš-i. alqu köngül-täki nom-ta ulatï-lar
1648 6 -nïng öngin 々 bar ärür angayu iš-i nä üčün bilgä bilig-ning säčä
1649 7 tükäl bolup üčägü adïn köngül-täki nom-ta ulatï-lar-nïng yindäm bolup
1650 8 adqaγ iš küdük üz-äki-si bolmaz körmäk üz-äki yügärü uqmaq-ï.
1651 9 öngin 々 angayu iš-lig bolu tükädmäk üz-ä ymä ök bolur üčün
1652 10 adï bolγalï körmäk üz-ä yügärü uqmaq-lïγ tep 答 andaγ
1653 11 ärmäz öngi kedärip bilgä biligig. adïn köngül-täki nom-ta ulatï
1654 12 -lar umaz bölgäli adïrtlaγalï tört türlüg tüz-ün-lär kertü-sin
1655 13 猶如无目 inčä qaltï köz-süz täg iš küdük üz-ä bilgä bilig
1656 14 birlä birikip nädägin bolγay bar bolγalï körmäk üz-äki yügärü
1657 15 uqmaq-ï. tuyup ämgäk-tä ulatï-lar-nïng öz töz-in bölgü
1658 56a-1 -tä adïrtlaγu-ta alqu kertü-lärig bilgä bilig iš küdük üz-ä
1659 2 säčä yeg ärür. bu tïldaγ-ïn säčä bolmaq üz-ä körmäk üz-ä yügärü
1660 3 uqmaq-ï tükäl-lig ärür olar üčägü-kä adïn köngül-täki nom
1661 4 -lar-nïng bolmaz bilgä bilig birlä bir öd-lüg bolmaq-ï tegü/täg ol ::
1662 5 alqu köngül-täki nom-ta ulatï-lar-nïng näčä öngin 々 bolsar ymä
1663 6 iši küdüki barča bilgä bilig eyin ävrilür. anïn yügärü

1636~1638 bu uyur üčün tükäl-lig bolγalï körmäk adqaγ iš küdük-tä ulatï üč türlüg yügärü uqmaq-lar-qa「これは見、縁、事等の三1638種現觀が圓滿となりうる故」。このウイグル文は次のように訂正されている：bu <umïš> üčün tükäl-lig bolγalï körmäk (üz-äki) adqaγ (üz-äki) iš küdük <üz-äki täng tüz> üč türlüg yügärü uqmaq-lar-qa「これは見における、縁における、事における平等の三種の現觀が圓滿となりえた故」。Cf. 諸現觀總有三種謂見緣事有差別故(『倶舍論』卷第二十三、大正 vol.29, p.121c)。yügärü uqmaq「現に理解すること」=「現觀」(Skt. abhisamaya).

何故、慧と及びそれの眷屬との名が「阿毘達磨」となると立てたのか？と。答：これは見、縁、事等の三種の現観が圓滿となり得る故（である）。これに因って、諸々の心所法においては慧が殊勝のため、慧はその隨行（の法）と共に阿毘達磨と云う名になる（のであって、）決して心王ではない。色及び生及び心不相應法においては、事現観や心王が成ずる。慧を除いて餘の心所法は偏に「縁と事、二種の現観」と云う名を得たのである。慧は能く三つへ具となる故、この義において、慧の作用は偏に殊勝の故、それで心王を立てなかった。問：猶、この慧に見の作用が成じたごとく、一切心所法等には別の作用がそれぞれ有る。何故、慧には偏に三つが具わっており、餘の心所法等のものには唯だ縁と事のもののみが成じて、見現觀は成じないのか？已に各々別の作用もてるものとなることによって、また、その名が見現觀となり得る故に、と。答：その通りではない。慧を除いて、餘の心所法等が四種の聖諦を分別することはできない。猶、無目のごとし。（それらが）如何にして作用において慧と結合し見現觀を有することができるであろうか。苦等の自相を覺り一切の諦を分別することにおいては、慧が作用によって偏に勝である。これに因って、偏に見現觀が成ずることを以て、（慧は）それら三つへ具となる。餘の心所法のものが、慧と同時となることはない、と云うがごときである。一切の心所法等のものは、如何に各々その作用が成じても、皆、慧に隨轉する。

1639 bilgä bilig eyin yorïdačï-lar-ï birlä は bilgä bilig (ulatï) eyin yorïdačï-lar-ï birlä のように(ulatï)「及び」が付加されている。1642 öngi kedärip bilgä biligig adïn köngül-täki nom-lar「慧を除いて餘の心所法は」は<bilgä bilig-tä öngi> adïn köngül-täki nom-lar「慧のほかに餘の心所法は」に訂正されている。1648~1650 nä üčün bilgä bilig-ning säčä tükäl bolup üčägü adïn köngül-täki nom-ta ulatï-lar-nïng yindäm bolup adqaγ iš küdük üz-äki-si bolmaz körmäk üz-äki yügärü uqmaq-ï「何故、慧には偏に三つが具わっており、餘の心所法等のものには唯その縁と事のもののみが成じて、見現觀は成じないのか？」。このウイグル文は次のように訂正されている：nä üčün bilgä bilig säčä tükäl(-lig) bolup üčägü(-kä) adïn köngül-täki nom-ta ulatï-lar-nïng yindäm bolup adqaγ (üz-äki-si) iš küdük üz-äki-si bolmaz körmäk üz-äki yügärü uqmaq-ï. 兩文の内容はほとんど變わらない。1648 angayu は'nk'yw と綴られている。1651~1652 ymä ök bolur üčün adï bolγalï körmäk üz-ä yügärü uqmaq-lïγ「また、その名が見現觀となりうる故に」。このウイグル文は次のように訂正されている： ymä ök <yaraší bolγu kärgäk> adï bolγalï körmäk üz-ä yügärü uqmaq-lïγ「また相應しく、その名は見現觀となり得るにちがいない」。1655~1657 inčä qaltï köz-süz täg iš küdük üz-ä bilgä bilig birlä birikip nädägin bolγay bar bolγalï körmäk üz-äki yügärü uqmaq-ï「猶、無目のごとし。(それらが)如何にして作用において慧と結合し見現觀を有することができるであろうか」。このウイグル文は次のように訂正されている：inčä qaltï köz-süz (täglük-lär) täg (qaltï nädägin) iš küdük üz-ä bilgä bilig birlä birikip bolγay körmäk üz<-ä> yügärü uqmaq<-lïγ bolγalï>. 兩文の内容には大きな違いはない。語順と一部の表現に違いがある。「見現觀を有する」は訂正前は bar bol(γalï)...körmäk üz-äki yügärü uqmaq-ï, 訂正後は körmäk üz<-ä> yügärü uqmaq <-lïγ bolγalï>と書かれている。兩文には同じ譯文を與えることができる。また訂正後の「無目」は köz-süz (täglük-lär)のごとく「盲目」を意味する單語が付加されている。1658 adïrtlaγu は"dyrtlqw と綴られている。

1664 7 uqmaq-ta. bolmaz üčün anïng yeg adruq iš-i anïn bu
1665 8 söz-lämiš bolur aqïγ-sïz bilgä bilig ärklig-ning ulatï
1666 9 anïng terin-i-ning quvraγ-ï-nïng adï bolur abidarim tegüči tep
1667 10 論 bu oq inčip ärür čïnlayu abidarim tep 釋曰 čïnlayu tep
1668 11 temiš-i ärsär. uyur üčün nirvan-qa yaqïn tïldaγ bolγalï
1669 12 anïn adamïš ol čïnlayu tep. azu-ča ymä bu aqïγ-sïz bilgä bilig
1670 13 -ning käntü öz-i-ning adï bolur činlayu tep. näng yïlayu uγuš-luγ
1671 14 ox-š-a-dïγ-lïγ ärmäz tep 問 nätägin bolur bilgäli aqïγ-sïz bilgä bilig
1672 15 -ning ulatï eyin yorïdačï-lar-nïng bolur-ïn adï bolγalï abidarim tep
1673 56b-1 答 burxan adï ködrülmiš bošumïš üčün xormuz-ta tngri-tä ulatï
1674 2 -lar-nïng (nä ymä) ödüngü-sin ayïdγu-sïn 如契經言 qaltï sudur-ta
1675 3 yrlïqamïš ol mäning bar ärür (täringdä) täring abidarim-ïm ulatï vinay
1676 4 -ïm. bošuyur (män) säning ödüngüngin ayïdγungïn tep. munda taplap
1677 5 xormuz-ta tngri-ning ödüngüsin ayïdγusïn tüz-ün yol-uγ
1678 6 ulatï tüz-ün yol-nung tüš-in. bošumïš ärür xormuz-ta
1679 7 tngri-ning ödüngüsin ayïdγu-sïn vatsi uγuš-luγ
1680 8 -nung ödüngü-sin ayïdγu-sïn ymä andaγ oq. bu tanuq üz-ä
1681 9 bilmiš kärgäk tüz-ün yol ärsär bu oq inčip ärür aqïγ-sïz
1682 10 bilgä bilig bu aqïγ-sïz bilgä bilig-ning adï bolur abidarim
1683 11 tep. üsdün yörmiš boldï činlayu abidarim-ïγ käntü basa
1684 12 yörär yïlayu abidarim-ïγ. qayu ol yïlayu abidarim teptesär
1685 13 šlok-ta söz-läti ärti 及能得此諸慧論 ::
1686 14 論 birök söz-läsär yïlayu abidarim-ïγ. bu oq inčip
1687 15 munï buldurdačï bu alqu bilgä bilig-lär šasdr-lar ymä tep
1688 57a-1 bilgä bilig ärsär qaltï munï buldurdačï aqïγ-lïγ bïšrun
1689 2 -maq töz-lüg bilgä bilig. saqïnmaq töz-lüg äšidmäk töz-lüg
1690 3 tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig ulatï eyin yorïdačï-lar ärür
1691 4 論 šasdr (teptimiš-i) ärsär qaltï ulap tuγurdačï ärür aqïγ-sïz bilgä
1692 5 bilig töz-lüg nomuγ. bu alqu bilgä bilig-lär šasdr-lar ärür
1693 6 üčün anïng yevigi tizigi ymä ök bulmïš ol abidarim tegüči

それで現観において、それの殊勝な作用は成じない。それ故、この説いたところは、「無漏慧根及びそれの眷屬の名が阿毘達磨となる」と云うことになる。

論：『此れ則ち勝義の阿毘達磨である』（此則勝義阿毘達磨）と。

釋曰：「勝義」と言った。涅槃に親近の因となり得る故、それで「勝義」と名づけた。或は、この無漏慧自身の名が「勝義」となる。決して世俗界の類のものではない、と。問：無漏慧及び隨行者の名が「阿毘達磨」となり得ることを、如何にして知り得るのか？と。答：佛世尊が帝釋天等の請問を許したため（である）。謂わく契經に「我には深甚の阿毘達磨、及び毘奈耶がある。汝の請問を許す」と言われた。ここで帝釋天が、聖道及び聖道の果を請問することを許し、帝釋天の請問を許したのである。筏嗟の類の請問をもまたそのようにした。この證據によって、聖道はこれ則ち無漏慧である。この無漏慧の名が「阿毘達磨」となることを知らねばならない。

上が「勝義の阿毘達磨」を釋すものであった。次に自ら「世俗の阿毘達磨」を釋す。「世俗の阿毘達磨」とは何かと云えば、頌に「及能得此諸慧論」と説いたのである。

論：『若し世俗の阿毘達磨を説くなら、これ即ち、これを得させるべきこの諸々の慧と論であると。慧は謂わく、これを得させる、有漏の修の性もてる慧、思の性もてる、聞の性もてる生得の慧、及び隨行である。論と云ったのは、謂わく、傳えて無漏慧の性もてる教えを生ずるものである。この諸々の慧、論は彼の資糧である故、亦、阿毘達磨と云う名を得た』（若説世俗阿毘達磨即能得此諸慧及論慧謂得此有漏修慧思聞生得慧及隨行論謂傳生無漏慧教此諸慧論是彼資糧故亦得名阿毘達磨）と。

1664~1666 söz-lämiš bolur aqïγ-sïz bilgä bilig ärklig-ning ulatï anïng terin-i-ning quvraγ-ï-nïng adï bolur abidarim tegüči tep「それ故、この説いたところは、「無漏慧根及びそれの眷屬の名が阿毘達磨となる」ということになる」。このウイグル文は次のように訂正されている：anïn bu söz-lämiš<-imiz ök uz bolur> aqïγ- sïz bilgä bilig ärklig-ning ulatï anïng terin-i-nïng quvraγ-ï-nïng adï bolur abidarim <tep tesär>「それ故、この我らの説いたことは妙となる。無漏慧根、及びそれの眷屬の名が阿毘達磨となるというなら」。1673(~ 1680) burxan adï ködrülmiš から ödüngü-sin ayïdγu-sïn ymä andaγ oq までは『順正理論』巻一の内容に對應する：以佛世尊恣天帝等所請問故。如契經言。我有甚深阿毘達磨及毘奈耶。恣汝請問。此以聖道及聖道果。恣天帝釋隨意請問。恣筏蹉類請問亦爾(大正 Vol.29, p.329b)。1676~1680 munda taplap xormuz-ta tngri- ning ödüngüsin ayïdγusïn tüz-ün yol-uγ ulatï tüz-ün yol-nung tüš-in. bošumïš ärür xormuz-ta tngri-ning ödüngüsin ayïdγu-sïn vatsi uγuš-luγ-nung ödüngü-sin ayïdγu-sïn ymä andaγ oq「ここで帝釋天が、聖道及び聖道の果を請問することを許し、帝釋天の請問を許したのである。筏嗟の類の請問をもまたそのようにした」。このウイグル文は次のように訂正された：munda <taplamïš ärür> xormuz-ta tngri-ning ödüngüsin ayïdγusïn tüz-ün yol-uγ ulatï tüz-ün yol-nung tüš-in. bošumïš <täg> xormuz-ta tngri-ning ödüngüsin ayïdγu-sïn <taplamïš ärür :: 又 vasišdasagodre braman-nïng> ödüngü-sin ayïdγu-sïn ymä andaγ oq「ここで帝釋天が、聖道を及び聖道の果を請問することを許したのである。帝釋天の請問を許したごとく、又、筏嗟婆羅門の請問をもまたそのようにした」。vasišdasagodre (/vasištasagotre/) braman < Skt.vasiṣṭha-sa-gotra-brāhmaṇa. vatsi < Skt. Vātsya「筏蹉」(平川(1973) p.320)。 Cf. Skt. vatsa-gotra「筏蹉衢多羅」(赤沼(1967) p.723)。1681 kärgäk は k'rkk と綴られている。1690 tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig「誕生によって得られた智慧」＝「生得慧」。

1694 7 adïγ tep. 釋曰 buldurtačï-sï ymä qayu ol teptesär umaq
1695 8 -ï ärür buldurγalï aqïγ-sïz bilgä biligig. bu alqu teptemiš
1696 9 -i ärsär qaltï ešidmäk saqïnmaq bïšrunmaq töz-lüg aqïγ-lïγ
1697 10 bilgä bilig-lär ärür. aqïγ-lïγ teptemiš-i ärsär adïrur aqïγ
1698 11 -sïz-ïγ. bu äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig-ning.
1699 12 (näng) odγuraq mundaγ (oq) bolur ärmäz öngdün ken bolmaq-lïγ käzigi tiz
1700 13 -igi 但逐要擧之 täk isdäp kärgäk-inčä
1701 14 uqïdmïš ärür. bu üč bilgä bilig-lär uyur üčün buldur
1702 15 -γalï aqïγ-sïz arïγ bilgä biligig. bu üč türlüg bilgä bilig
1703 57b-1 -lär qayu töz-lüg ol tep tesär. ken margapudgalakoš-ta karik-ta
1704 2 söz-läyür äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq üz-ä büdgülük ärip
1705 3 qaltï adïγ ikigü-ni yörügüg adqanγu qïlur tep. ulatï
1706 4 yörügi anda söz-lämiš täg tedir tep. bar adïn baxšï-lar söz
1707 5 -lär agam-tïn tuγmïš-ï-nïng adï bolur äšidmäk töz-lüg bilgä
1708 6 bilig tep. käntü öz yörügüg saqïnmaq-tïn tuγmïš-ï-nïng adï
1709 7 bolur saqïnmaq töz-lüg bilgä bilig tep :: dyan(-tïn) tuγmïš-ï-nïng adï bolur
1710 8 bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig tep 此中因者 munda tïlaγ
1711 9 -ï ärsär. agam tïlaγ-ïnda tuγmïš üčün. anïn adamïš ol äšid
1712 10 -mäk töz-lüg bilgä bilig tep. yörügüg saqïnmaq tïlaγ-ïnda
1713 11 tuγmïš üčün. anïn adamïš ol saqïnmaq töz-lüg bilgä bilig tep
1714 12 <dyan> tïlaγ-ïnda tuγmïš üčün anïn adamïš ol bïšrunmaq töz
1715 13 -lüg bilgä bilig tep :: anïn adamïš ol tïlaγ tep :: tuγum üz-ä
1716 14 bululmïš bilgä bilig teptemiš-i ärsär 生便得故 tuγum
1717 15 yaraγ-ïnča bululmïš üčün anïn adamïš ol tuγum üz-ä bul
1718 58a-1 -ulmïš tep. näng tavranmaq uyur-ïnda ärmäz munda qïnïγ
1719 2 tïlaγ-ïnda kengürü uqïdmïš üčün tuγum üz-ä bululmïš bilgä
1720 3 biligig basa ikiläyü yörmädimiz 何者 qayu ol teptesär qaltï öng
1721 4 -lüg öngsüz uγuš-tïn aldïn tuγup amranmaq uγuš-ta tuγum ul
1722 5 -almïš ödtä ti bolmïš törü-čä tükäl-lig bolmïš täg uluγ kič
1723 6 -ig niz-vanï-lar-qa. munda ymä ök ančulayu oq beš ažun-lar-ta tuγum
1724 7 yaraγ-ïnča bululmïš üčün. qayu tuγmïš ažun-ï eyin. tuγ-a

釋曰：「得させる」（得）とは何かと云えば、無漏慧を能く得させることである。「この諸々の」（諸）、と云ったのは、謂わく、聞、思、修の性もてる有漏慧である。「有漏」と云ったのは無漏と差別する。この聞、思、修の性もてる慧の、前後となるべき次第は定んでこのようになるのではない。只だ求めて必然的に立てたのである。この三慧は能く無漏淨慧を得させる故である。この三種の慧は何の性もてるものなのかと云えば、後に賢聖品において本頌に説く：「聞、思、修における所成であり、謂わく、名、倶、義を境となす」と。及びその義はそこに説いたごとしと云う、と。有餘師が説く：教法から生じたものの名は「聞の性もてる慧」となる。自身が義を思することから生じたものの名は「思の性もてる慧」となる。定から生じたものの名は「修の性もてる慧」となる。ここにおいて因が教法の因において生じた故、それで「聞の性もてる慧」と名づけた。義を思する因において生じた故、それで「思の性もてる慧」と名づけた。定の因において生じた故、それで「修の性もてる慧」と名づけた。それ故「因」と名づけた、と。「生得の慧」（生得慧）と云ったのは、生が適切に得られた故、それで「生得」と名づけた。決して精進に由るものではない。ここでは望みに因って生得の慧を廣く顯わしたため、我れらは更には釋さなかった。何かと云えば、謂わく色・無色界より下に生まれ、欲界に生を相續したとき、地となった法としての大小の煩惱が圓滿となるごとし。

1694~1695 釋曰 buldurtačï-sï ymä qayu ol teptesär umaq-ï ärür buldurγalï aqïγ-sïz bilgä biligig「「得させる」（得）とは何かといえば、無漏慧を能く得させることである」。このウイグル文は以下のようには傍注（< >内）において訂正され、更に欄外（( )内）でそれが再訂正されている： <又 munï buldurtačï tep temiš-i ärsär nägü-ni uyur buldurγalï tep tesär aqïγ-sïz bilgä biligig tep ärür>.（又 bu uyur buldurγalï nägü-ni tesär uyur buldur- γalï aqïγ-sïz bilgä bilig-ig ymä ter ::）. 結局、この訂正された文は次のような内容になる：「又、「これを得させるべき」（得此）、といったのは、「これ」（此）は何を得させうるというなら無漏慧を能く得させる」。1696 ešid-「聞く」は此處と 1408 ではこの形式が立つが、むしろ例外的形式であって 75B も含めて他はすべて äšid-の形式が立つ。1700 täk isdäp kärgäk-inčä「ただ求めて必然的に」は<täk kärgäk-ligin> isdäp「ただその必要性を求めて」と訂正されている。1704 (~1705) äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq üz-ä büdgülük ärip qaltï adïγ ikigü-ni yörügüg adqanγu qïlur tep「聞、思、修における所成であり、謂わく、名、倶、義を境となす」は『倶舍論』巻二十二の内容に對應する：聞思修所成謂名倶義境（大正 Vol.29, p.116c）。1705 ikigü-ni「二つを」。ここでは漢語の「倶」にあたる。1718~1719 munda qïnïγ tïldaγ-ïnda「ここでは望みに因って」は munda (sav) qïnïγ(-ï) tïldaγ-ïnda「ここでは言の望みに因って」と訂正されている。1720 basa ikiläyü yörmädimiz「我らは更には釋さなかった」は basa ikiläyü <yörmäz>「更には釋さない」と訂正されている。1720~1723 qayu ol teptesär qaltï öng-lüg öngsüz uyuš-tïn aldïn tuγup amranmaq uyuš-ta tuγum ul-almïš ödtä ti bolmïš törü-čä tükäl-lig bolmïš täg uluγ kič-ig niz-vanï-lar-qa「何かといえば、謂わく色無色界より下に生まれ、欲界に生を相續したとき、地となった法としての大小煩惱が圓滿となるごとし」。このウイグル文は次のように訂正されている：qayu ol teptesär qaltï öng-lüg öngsüz uyuš-tïn <qodï enip> amranmaq uyuš <-ta tuγmïš-lar> tuγum ul-almïš ödtä ti bolmïš törü-čä tükäl-lig <bolur ärsär> uluγ kič-ig niz-vanï-lar-qa「何かといえば、謂わく色、無色界から降って欲界に生まれたものらが、生を續けたときに、地となった法としての大小の煩惱において圓滿になるのは」。また欄外に「又 tayïp ymä ter」（また降ってともいう）と書かれているのは<qodï enip>を再訂正したものである。やはり欄外の「又 bolmïš täg ymä ter」は<bolur ärsär>の再訂正と考えられる。ti < Chin. 地 (M. Chin. diěi). 「地となった法としての大小煩惱」＝「大小煩惱地法」。1724 tuγmïš ažun「生まれた世界」＝「生趣」。

1725 8 tükädtük-tä inčip bululur qaltï amranmaq uγuš-tïn tuγduq-ta
1726 9 önglüg öngsüz uγuš-taqï säkiz orun-lar-ta qayu tuγmïš
1727 10 orun-ï eyin tuγum yaraγ-ïnča bululmïš üčün. qaltï ašnu-ča
1728 11 önglüg öngsüz uγuš-ta tuγ-a tükädmiš-lär. öngrä bulmïš ärip
1729 12 munï. ken tayïp tuγmïš ärsär aldïn ken yänä yanduru tuγduq-ta
1730 13 ol uγuš-ta. bulur ašnu bulmïš-ïn adï bolmaz yangïrdï bulmïš tep
1731 14 有餘师説 bar adïn baxšï-lar söz-lär köz-tä ulatï beš ärklig-lär
1732 15 <-ning> beš ažun-lar-ta oxšadï-sïn öngin öngin angayu
1733 58b-1 bulmïš täg. munda ymä ök ančulayu oq beš ažun-lar-ta öngin
1734 2 öngin angayu bulur üčün. ulatï eyin yorïdačï-lar-ï birlä tep
1735 3 temiš-i ärsär. qaltï aqïγ-sïz bilgä bilig-ning eyin yorïdačï
1736 4 -lar-ï täg. bu äšidmäk-tä ulatï bilgä bilig-lär-ning ymä ök bar
1737 5 ärür eyin yorïdačï-lar-ï tep 問 aqïγ-sïz bilgä bilig-ning.
1738 6 eyin yorïdačï-lar-ï tükäl-lig ärsär beš yükmäk-lär-kä bu äšidmäk
1739 7 saqïnmaq bïšrunmaq. ulatï tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig
1740 8 -ning eyin yorïdačï-lar-ï ymä ök tükäl-lig ärür mü beš yükmäk

---

1725~1727 qaltï amranmaq uγuš-tïn tuγduq-ta önglüg öngsüz uγuš-taqï säkiz orun-lar-ta qayu tuγmïš orun-ï eyin tuγum yaraγ-ïnca bululmïš üčün「謂わく、欲界から生まれたとき、色無色界にある八處に生まれたところの地に隨って生が適切に得られた故(である)」。このウイグル文は次のように訂正されている：qaltï amranmaq uγuš <-taqï-lar> tuγduq-ta önglüg öngsüz <orun-lar>-taqï säkiz orun-lar-ta qayu tuγmïš orun-ï eyin tuγum yaraγ-ïnca <bulur-lar> üčün「謂わく、欲界にあるものが色無色處にある八處に生まれたとき、生まれたところの地に隨って生を適切に得る故(である)」。ただし、qaltï は alqu「諸」に記號「ト」を付けて訂正された形式であるが。單純な書き違いの訂正と判斷できる。1727~1730 qaltï ašnu-ča önglüg öngsüz uγuš-ta tuγ-a tükädmiš-lär. öngrä bulmïš ärip munï. ken tayïp tuγmïš ärsär aldïn ken yänä yanduru tuγduq-ta ol uγuš-ta. bulur ašnu bulmïš-ïn adï bolmaz yangïrdï bulmïš tep「謂わく、先に已に色無色界に生まれたものらは、以前にこれを得たのであり、後に下降して生まれ、また後に還ってその界に生まれたとき、先に得たところを得る。その名は「新しく得たもの」とはならない」。このウイグル文は次のように訂正されている：qaltï ašnu-ča önglüg öngsüz uγuš(-lar)-ta <tuγmïš-lar öngrä bulu tükädmiš ärip> munï. ken tayïp <tuγšar> aldïn (uγuš) ken yänä yanduru <tuγup> ol uγuš(-lar)-ta. <bulsar> ašnu (-qï qayu) bulmïš-ïn adï bolmaz yangïrdï bulmïš tep「謂わく、先に色無色界らに生まれたものらは、以前に已にこれを得たのであって、後に下の界(へ)降りて生まれるなら、後にまた還ってその界に生まれて、先の得たところを得るなら、その名は「新しく得たもの」とはならない」。

ここでもそのように五趣における生の所應として得られた故に、何らかの生趣に隨って、生まれ終えたとき、即ち得られる。謂わく、欲界から生まれたとき、色・無色界にある八處に生まれたところの地に隨って生が適切に得られた故（である）。謂わく、先に已に色・無色界に生まれたものらは、以前にこれを得たのであり、後に下降して生まれ、また後に還ってその界に生まれたとき、先に得たところを得る。その名は「新しく得たもの」とはならない。有餘師が説く：眼等の五根の五趣におけるその同分を、各々別に得たごとく、ここでこのように五趣において各々別に得るため（である、と）。「及び隨行とともに」（及隨行）と云った。猶、無漏慧の隨行のごとく、この聞等の慧にもまた隨行がある、と。問：無漏慧の隨行が五蘊に對して圓滿であるなら、この聞、思、修、及び生得の慧の隨行もまた五蘊に對して圓滿であるのか？と。

1731~1733 köz-tä ulatï beš ärklig-lär<-ning> beš ažun-lar-ta oxšadï-sïn öngin öngin angayu bulmïš täg「眼等五根の五趣におけるその同分を、各々別に得たごとく」。屬格表示の<-ning>は訂正形式を採用した。もとは對格表示接尾辭-ig が入っていた。このウイグル文の全體は次のように訂正されている：köz-tä ulatï beš ärklig-lär<-ning> beš ažun-lar-ta oxšadï-sïn öngin öngin angayu <bulur ärsär>「眼等五根の五趣におけるその同分を、各々別に得るのは」。1737~1741 aqïγ-sïz bilgä bilig-ning. eyin yorïdačï-lar-ï tükäl-lig ärsär beš yük- mäk-lär-kä bu äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq. ulatï tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig-ning eyin yorïdačï-lar-ï ymä ök tükäl-lig ärür mü beš yükmäk-lär-kä tep「無漏慧の隨行が五蘊に對して圓滿であるなら、この聞、思、修、及び生得の慧の隨行もまた五蘊に對して圓滿であるのか？と」。このウイグル文は次のように訂正されている：aqïγ-sïz bilgä bilig-ning. eyin yorïdačï-lar-<ïn> (yänä tüzü) tükäl <bolsar> beš yükmäk<-lär> bu äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq. ulatï tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig-ning eyin yorïdačï-lar-ï ymä ök (tüzü) tükäl <bolur> mu beš yükmäk-lär<-ig> tep「無漏慧の隨行によってまた、五蘊が完全となるなら、この聞、思、修、及び生得の慧の隨行もまた五蘊を完全とするのか？と」。1741 bulmaz tuγum「不得の生」。「不得」はウイグル文中漢字に從った。

1741 9 -lär-kä tep 答云不得 bulmaz tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig-ning
1742 10 eyin yorïdačï-lar-ï tört yükmäk töz-lüg üčün ärür bulmaz köngül
1743 11 eyin ävrildäči öng äšidmäk saqïnmaq iki bilgä bilig-lär
1744 12 ymä ök ärür tört yükmäk. ymä ök bulmaz köngül eyinki čxšpt
1745 13 töz-lüg öng bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig üč uγuš
1746 14 -lar-ta orun-lar-ta tükäl-lig tükäl-ligsiz bolur. qaltï.
1747 15 tört töz tüp dyan-ta ulatï tördägü-nüng qonšï-sïn
1748 59a-1 -ta araq-ï dyan-ta tükäl-lig bolur beš yükmäk-lärkä nädägin
1749 2 teptesär. bar üčün dyan-a sanvar tört öngsüz-lärdä birlä
1750 3 yänä. tördägü-nüng qonšï-sïnda yindäm tükäl-lig bolur tört
1751 4 yükmäk-lärkä anda bolmaz üčün dyan-a sanvar 諸論者 alqu
1752 5 šasdr-lar ärsär qaltï inyanaparasdan-ta ulatï-lar ärür. bu
1753 6 nägü töz-lüg ol teptesär. ad padak užik köngül-tä öngi nom
1754 7 töz-lüg bolur. azu-ča ymä sav ün töz-lüg ärür bu öng yükmäk
1755 8 -tä tudulur :: bu iki baxšï-lar-ta. bir-i köngül-tä öngi nom töz-lüg
1756 9 ol tepteyür. bir-i öng töz-lüg ol tepteyür. birgärü tardïp basa
1757 10 karik söz-lär :: 彼體語或名 anda sav töz-lügi azu-ča
1758 11 ymä ad töz-lügi ärsär. munda öngli qïlïnč-lï yükmäk-lär-tä
1759 12 tudulur tep :: birök alïp bu iki baxšï-lar-nïng-ïn ündürsär

---

1742 eyin yorïdačï-lar-ï tört yükmäk töz-lüg üčün ärür「隨行は四蘊の性もてる故である」。üčün「故に」には削除記號が付せられている。1744~1746 ymä ök bulmaz köngül eyinki čxšpt töz-lüg öng bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig üč uγuš-lar-ta orun-lar-ta tükäl-lig tükäl-ligsiz bolur「また不得の心に隨う、戒の性もてる色、修の性もてる慧は三界で、處において圓滿、非圓滿となる」。このウイグル文は次のように訂正されている：ymä ök bulmaz köngül <sanvar> töz-lüg öng(-i) bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig(-ning) üč uγuš<-taqï> orun-lar-ta tükäl <bolur ymä> tükäl <bolmaz ymä>「また不得の心、律儀の性もてる色、修の性もてる慧の三界にある處において、完全となる、また完全とはならない」。

答云：不得の生によって得られた慧の隨行は四蘊の性もてるものである。不得の心に隨轉する色、聞思の二慧もまた四蘊である。また不得の心に隨うところの、戒の性もてる色、修の性もてる慧は三界で、處において圓滿、非圓滿となる。謂わく、四根本定において、及び四つのものの近分定において、五蘊が圓滿となる。如何にしてかと云えば、靜慮律儀が有る故。四無色併びに四つのものの近分においては、唯だ四蘊のみが圓滿となる。そこには靜慮律儀が成じないため（である）。「諸論」とは謂わく『發智論』等である。これは何の性もてるものかと云えば、名、句、文は心不相應法の性もてるものとなる。或は、言は聲の性もてるのである。これは色蘊において攝せられる。この二人の師において、その一人は「心不相應法の性もてるもの」と云う。その一人は「色の性もてるもの」と云う。共に引いて、次に本頌を説く：彼（法蘊）において、語の體もてるもの、或は名の體もてるものは、ここで色と行との蘊において攝せられる、と。もしこの二師らのものを受けて、『發智論』等の論の性を出すなら、これは則ち、色と行との二つの蘊において攝せられる。

1747 qonšï「近いもの」=「近分」(Skt. sāmantaka). 1754~1756 azu-ča ymä sav ün töz-lüg ärür bu öng yükmäk-tä tudulur :: bu iki baxšï-lar-ta. bir-i köngül-tä öngi nom töz-lüg ol tepteyür. bir-i öng töz-lüg ol tepteyür「或は、言は聲の性もてるのである。これは色蘊において攝せられる。この二人の師において、その一人は「心不相應法の性もてるもの」という。その一人は「色の性もてるもの」という」。このウイグル文は次のように訂正されている：azu-ča ymä (bu) sav(-lïγ) ün töz-lüg ärür bu öng yükmäk-tä tudulur :: bu (ärsär) iki (öngi) baxšï-lar<-nïng-ï ärür>. bir<-si> köngül-tä öngi nom töz-lüg ol tepteyür. bir<-si> öng töz-lüg ol tepteyür「或は、これは言聲の性もてるものである。これは色蘊において攝せられる。これは二人の別の師らのものである。その一人は「心不相應法の性もてるもの」という。その一人は「色の性もてるもの」という」。 1755 と 1756 の二つの bir-i「その一(人)」 を bir<-si>に訂正している。-i は本來子音末におわる語幹に付く三人稱單數の人稱所有接辭である。それを本來母音に付く接辭に置き換えている。しかし、この文獻では普通に bir-si が現れる：1809, 2542, B328, B760. 一方ヘディンコレクションのウイグル文『俱舍論』では常に bir-i が現れる：H28V47, H34R19, H34V7.

1757~1759 anda sav töz-lügi azu-ča ymä ad töz-lügi ärsär. munda öngli qïlïnč-lï yükmäk-lär-tä tudulur「彼(法蘊)において、語の體もてるもの、或は名の體もてるものは、ここで色と行との蘊において攝せられる」は『俱舍論』卷第一中の本頌「彼體語或名 此色行蘊攝」(大正 Vol.29, p.6b)に對應する。この漢文は「彼れの體は語、或は名なり、此の色と行との蘊に攝す」と和譯できる：cf.「國譯大藏經」論部 Vol.11. p.69. 1759~1760 birök alïp bu iki baxšï-lar-nïng-ïn ündürsär inyanaparasdan-ta ulatï šasdr-lar-nïng töz-in「もしこの二師らのものを受けて、發智論等の論の性を出すなら」。このウイグル文は次のように訂正されている：birök alïp <öngdünki> iki baxšï- lar-nïng-ïn <yörsär> inyanaparasdan-ta ulatï šasdr-lar-nïng töz-in「もし前の二師らのものを受けて、發智論等の論の性を釋すなら」。

1760 13 inyanaparasdan-ta ulatï šasdr-lar-nïng töz-in. bu oq inčip öng
1761 14 -li qïlïnč-lï iki yükmäk-lär-tä tudulur. šasdr ärsär bäkiz bälgülüg
1762 15 uqïdur üčün yörügüg. ymä ök ärür üčün bilgä bilig-ning
1763 59b-1 yevigi tizigi anïn adamïš ol abidarim tep 問 äšidmäk
1764 2 saqïnmaq bïšrunmaq tuγum üz-ä bululmïš-ta ulatï tört
1765 3 bilgä bilig-lär-ning. ulatï eyin yorïdačï tört yükmäk beš
1766 4 yükmäk-tä ulatï-lar-nïng adï bolur abidarim tep 其得相ㇾ四
1767 5 olar-nïng tägmäk-lär-i tört türlüg ediglig qïldačï bälgü-lär-i
1768 6 köngül eyinki öng-tä taš öngi. adïn öng-lär-ning. ulatï
1769 7 tuγmaq-ta ulatï köngül-tä öngi nom-lar-nïng adï bolur mu abi
1770 8 -darim tep. birök söz-läsär adï bolur abidarim tep. munda-ta
1771 9 ulatï-lar umaz uqïdγalï yörüg töz-in. umaz bildürgäli yörüg
1772 10 -üg. bu eyin yorïdačï ärmäz umaz yevig tizig bolγalï bilgä biligkä
1773 11 nädägin adï bolur abidarim tep. 若言不名對法 birök
1774 12 söz-läsär adï bolmaz abidarim tep. bu šasdr-ta inčip bolmaz söz
1775 13 -lägäli alqu barča ärür abidarim tep. nädägin teptesär bu šasdr
1776 14 -ta uqïdmïš ol alqu nom-larïγ. söz-lämämiš ol eyin yorïdačï
1777 15 birlä yänä eyin yorïmadačï tep 答 abidarim tegüči ad
1778 16 (tep adanmaq-ï ärsär näng yalnguz yörügüg bildürmäk üz-ä ymä ter ::)

1762 15 uqïdur üčün yörügüg「義を顯わす故に」は uqïd<-maq üz-ä> yörügüg「義を顯わすことによって」と訂正されている。1766 ulatï-lar-nïng adï bolur abidarim tep「・・等の名は「阿毘達磨」となる」は ulatï-lar-nïng adï <bolsar> abidarim tep「・・等の名が「阿毘達磨」となるなら」に訂正されている。

論は明白に義を顯わす故に、また慧の資糧である故に、「阿毘達磨」と名づけた、と。問：聞、思、修、生得等の四慧、及び隨行の四蘊、五蘊等の名は「阿毘達磨」となる。それらの得、四種有爲行相、心に隨う色を除いた餘の色ら、及び生等の心不相應法の名は「阿毘達磨」となるのか？と。もし、その名が「阿毘達磨」となると説くなら、これ等が理を顯わすことはできない、義を示すことはできない。この隨行が慧への資量となり得ないことはない。如何にしてその名は「阿毘達磨」となるのか？と。もしその名が「阿毘達磨」とはならないと説くなら、この論において則ち一切が皆阿毘達磨であるとは説き得ない。如何にしてかと云うなら、この論では一切の法を顯わた。（しかし）隨行竝びに非隨行を説かなかった、と。答：「阿毘達磨」と云う名が得られたのは單に義を知ることのみによって「阿毘達磨」と云う名になったのではない、と。

1767 tägmäk-lär-i は<prapdi-sï>に訂正されている。いずれも「得」を表す。prapdi (/prapti/) < Skt. prāpti. 1774~1775 bu šasdr-ta inčip bolmaz söz-lägäli alqu barča ärür abidarim tep「この論において則ち一切が皆「阿毘達磨」であるとは説き得ない」は次のように訂正されている：bu šasdr-ta inčip <bolmayay ärti 又 bolmayu ärti ymä ter.> söz-lägäli alqu barča ärür abidarim tep「この論において則ち一切が皆「阿毘達磨」であるとは説くことのできないものであった」と訂正されている。1775~1780 nädägin teptesär bu šasdr-ta uqïdmïš ol alqu nom-larïγ. söz-lämämiš ol eyin yorïdačï birlä yänä eyin yorïmadačï tep 答 abidarim tegüči ad (tep adanmaq-ï ärsär näng yalnguz yörügüg bildürmäk üz-ä ymä ter ::) -nïng bululmaq-ï ylnguz yörügüg. bilmäk üz-ä ök adï bolur ärmäz abidarim tep「如何にしてというなら、この論では一切の法を顯わた。（しかし）隨行竝びに非隨行を説かなかった、と。答：「阿毘達磨」という名が得られたのは單に義を知ることのみによって阿毘達磨という名になるのではない、と」。1778 行目を構成する( )内のウイグル文は實は訂正文の一部であってここでは除外されるべきであり、譯文にも含めなかった。このウイグル文の全體は以下のように訂正されている：nädägin teptesär bu šasdr-ta <uqïdïp> ol alqu nom-larïγ. söz-lämämiš <üčün> eyin yorïdačï(-sïn) birlä yänä eyin yorïmadačï(-sïn) tep 答 <又 bu tägmäk-lär-ning ymä abidarim tep adanmaq-ï ärsär näng yalnguz yörügüg bildürmäk üz-ä ymä ter :: > ök adï bolur ärmäz abi-darim tep「如何にしてというなら、この論ではその一切の法を顯わしたが、隨行を竝びに非隨行を説かなかったため、と。答、この得らのものが、「阿毘達磨」と名づけられるのは、決して單に義を教えることのみによって「阿毘達磨」という名になるのではない、と」。

1779 60a-1 -nïng bululmaq-ï ylnguz yörügüg. bilmäk üz-ä ök adï bolur ärmäz abi
1780 2 -darim tep. bilgä bilig birläki tuγmaq-ta ulatï köngül-tä öngi nom
1781 3 -lar. näčä umasar ymä adqanγalï nomuγ. bilgä bilig birlä birgärü turup
1782 4 bilgä bilig-tä küč bolmaq üz-ä ymä ök bulmïš ol abidarim tegüči
1783 5 adïγ 與慧作所緣緣故 bilgä bilig-kä adqaγ atlγ basudčï
1784 6 bolur üčün bu tuγum üz-ä bululmïš-ta ulatï tört bilgä bilig-lär
1785 7 umaq uz-ä adqanγalï nomuγ. anïn bulur ärmäz abidarim tegüči adïγ
1786 8 nädägin teptesär öngdünki-si uyur üčün tardïp kenki-sin. kenki
1787 9 -singä tïldaγ bolγalï. bulmïš ol abidarim tegüči adïγ. munda qaltï
1788 10 tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig äšidmäk töz-lüg bilgä bilig-kä
1789 11 tïldaγ bolur. äšidmäk töz-lüg bilgä bilig saqïnmaq töz-lüg bilgä
1790 12 biligkä tïldaγ bolur. saqïnmaq töz-lüg bilgä bilig bïšrunmaq töz
1791 13 -lüg bilgä bilig-kä tïldaγ bolur. bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig.
1792 14 aqïγ-sïz bilgä bilgä bilig-kä tïldaγ bolur. aqïγ-sïz bilgä uyur
1793 15 nirvan-qa tïldaγ bolγalï 以此義故 bu yörüg üz-ä anïn bulmïš
1794 60b-1 ol abidarim tegüči adïγ. anï üčün šasdr-ta uqïtdačï nom-nung
1795 2 barča-nïng adï bolur abidarim tep. nädägin teptesär uyur üčün
1796 3 üklitgäli ašγalï äšidmäk töz-lüg bilgä biligig tep. 問 birök
1797 4 andaγ ärsär. tngri burxan yrlïqamïš sudur ulatï vinay barča
1798 5 uqïtdačï ärür. čïnlayu yörügüg uyur nirvan-qa tïldaγ bolγalï
1799 6 yumdaru adï bolup abidarim tep adï bolmaγu kärgäk sudur vinay
1800 7 tep ulatï tep. 答云 andaγ ol täg aqïγ-sïz (arïγ) bilgä bilig-kä
1801 8 basudladačï-sï ärsär barča bulmïš ol abidarim tegüči adïγ. näčä sudur
1802 9 -uγ vaynike tïnlγ-lar-nïng köngül-i eyin vinay-ïγ avant-lïγ-ïn
1803 10 tïldaγ-lïγ(-ïn) yrlïqamïš ärsär ymä abidarim bir yindäm uqïdur

---

1781~1783 näčä umasar ymä adqanγalï nomuγ. bilgä bilig birlä birgärü turup bilgä bilig-tä küč bolmaq üz-ä ymä ök bulmïš ol abidarim tegüči adïγ 「如何に法を緣ずることができなくても、慧と俱に起き、慧において力が成ずるので、また「阿毘達磨」という名を得たのである」。このウイグル文は次のように訂正されている： näčä umasar ymä <tïldaγ töz-lüg nom bolγalï>. bilgä bilig birlä birgärü turup bilgä bilig-tä küč(-i) <bolmïš-qa> ymä ök bulmïš ol abidarim tegüči adïγ 「如何に因性もてる法となることができなくても、慧と俱に起き、慧においてその力が成じたので、また「阿毘達磨」という名を得たのである」。

慧と俱にある生等の心不相應法は、如何に法を緣ずることができなくとも、慧と俱に起き、慧において力が成ずるので、また「阿毘達磨」と云う名を得たのである。慧の所緣緣となる故（である）。この生得等の四慧は法を緣ずることができるので、それで「阿毘達磨」と云う名を得るのではない。如何にしてかと云えば、前のものは後のものを引いて後のものへの因となり得る故に、「阿毘達磨」と云う名を得た。ここにおいて、謂わく、生得の慧は、聞の性もてる慧への因となる。聞の性もてる慧は、思の性もてる慧への因となる。思の性もてる慧は、修の性もてる慧への因となる。修の性もてる慧は、無漏慧への因となる。無漏慧は能く涅槃への因となる。この義を以って、それで「阿毘達磨」と云う名を得た。それ故、論において顯す法の諸々の名は「阿毘達磨」となる。如何にしてかと云えば、聞の性もてる慧を増長することができる故、と。問：もしその通りなら、佛が説かれた經及び律は皆勝義を顯わすものである。涅槃への因となり得る。總じてその名は「阿毘達磨」となり、その名は必然的に經、律などとはならない、と。答云：かくあるごとく、無漏慧への助けとなるものはことごとく「阿毘達磨」と云う名を得たのである。如何に經や、所化の衆生の心に隨う律や、その因緣もてるものを説かれたとしても、阿毘達磨が唯一、法相を顯わす故、それで阿毘達磨の義は多いのである、と。

1786 uyur üčun tardïp kenki-sin「後のものを引いて・・得る故に」は<umaq üz-ä> tardïp kenki-sin「後のものを引いて・・得ることによって」と訂正されている。1787(~1796) bulmïš ol abidarim tegüči adïγ から töz-lüg bilgä biligig tep までは節略漢文『實義疏』に對應する：對法宣如生得惠與聞惠爲因。聞惠與思爲因。思惠與修惠爲因。修惠與漏惠爲因。漏惠與涅槃爲因。以此義故得名對法。以能增長聞等惠故(大正 Vol.29, p.325c *ll*.1-4)。漢文の「修惠與漏惠爲因」の「漏惠」は「無漏惠」の誤り。1789 saqïnmaq は sqγnm'q と綴られている。1792 aqïγ-sïz bilgä bilgä bilig-kä の bilgä は一つ餘分である。1794~1795 anï üčün šasdr-ta uqïtdačï nom-nung barča-nïng adï bolur abidarim tep「それ故、論において顯す法の諸々の名は「阿毘達磨」となる」。このウイグル文は次のように訂正されている：anï üčün šasdr<-taqï uqγuluq nom-lar-nïng> barča- nïng adï bolur abidarim tep「それ故、論にある理解すべき法の諸々の名は「阿毘達磨」となる」。1797~1798 tngri burxan yrlïqamïš sudur ulatï vinay barča uqïtdačï ärür. činlayu yörügüg「佛が説かれた經及び律は皆勝義を顯わすものである」。このウイグル文は次のように訂正されている：tngri burxan yrlïqamïš sudur ulatï vinay (alqu) barča <uqïdïp yerdinčü-lügtä yeg> yörügüg「佛が説かれた經及び律は一切皆世俗のものより勝った義を顯わして」。1803 tïldaγ-lïγ(-ïn) yrlïqamïš ärsär ymä abidarim bir yindäm uqïdur üčün nom-nung töz-in「その因緣もてるものを説かれたとしても、阿毘達磨が唯一、法相を顯わす故」は次のように訂正されている：tïldaγ-lïγ(-ïn) <nomlamïš> ärsär ymä (bu) abidarim(-ta) bir yindäm uqïdur üčün nom-nung töz- in「その因緣もてるものを説いたとしても、この阿毘達磨において、唯一、法相を顯わす故」。

1804 11 üčün nom-nung töz-in anïn abidarim-nïng yörügi üküš ärür tep
1805 12 大衆賢説 ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï söz-lär. munda ašnu
1806 13 -ča kim söz-lägü ärti bïšrunmaq töz-lüg bilgä biligig basa saqïnmaq
1807 14 äšidmäk-tä ulatï-larïγ. (ang) ken söz-lägü ärti tuγum üz-ä bululmïš-ïγ
1808 15 qayu tïldaγ-ïn andaγ ol teptesär. bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig
1809 61a-1 yaqïn birsi ärür. aqïγ-sïz bilgä bilig-kä basa anïlayu oq saqïn
1810 2 -maq äšidmäk ulatï tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig yaqïn-ïn-tïn
1811 3 ïraq-ïnga elädgü üčün tep. 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär munda
1812 4 täk söz-lämiš ol aqïγ-sïz bilgä bilig-kä basutladačï-sïn söz-lämämiš
1813 5 ol yaqïn-ïn ïraq-ïn anïn mün qadaγ bolmaz tep 論 bu adïγ yörgü
1814 6 -čä ärsär uyur üčün tudγalï öz töz-in anïn adï bolur nom tep
1815 7 qayu yeg yörüglüg nom ärsär yindäm ärür nirvan qayu nom bälgülüg
1816 8 nom ärsär yumdaru tört türlüg tüz-ün-lär kertü-si
1817 9 ärür. bu uyur üčün ölänmäk-kä tušγaryalï. azu-ča ymä uyur
1818 10 üčün körmäk-kä tušγaryalï anïn adamïš ol abidarim tep ::
1819 11 釋曰 yörmäk ärsär söz-lägülük tegülük yörügdä uqïdur üčün adïrt
1820 12 -lïγ odγuraq yörügüg anïn adï bolmïš ol yörmäk tep. söz-läyür
1821 13 üčün uqïdγuluq nom tegüči ad-nïng tïldaγ-ïn anïn adï bolmïš
1822 14 ol yörmäk tep. nom teptemiš-i ärsär uyur üčün tudγalï
1823 15 öz töz-in anïn adï bolmïš ol nom tep. bolmaz üčün tägšildür
1824 61b-1 -gäli qïyïlduryalï adamïš ol öz töz-in tudtačï tep 問 ol aqïγ
1825 2 -sïz bilgä bilig ulatï eyin yorïdačï-lar-ïn nädäg adatï tušγardačï
1826 3 tep 答有二義故名對 bar üčün iki türlüg yörüg-lär-i
1827 4 anïn adamïš ol tušγardačï tep. ang'ilki (bu) bilgä bilig uyur üčün
1828 5 tušγaryalï yeg yörüglüg nom-qa yeg yörüglüg nom ärsär yindäm
1829 6 ärür nirvan ikinti (bu) bilgä bilig uyur üčün tušγaryalï nom bälgülüg
1830 7 nom-qa nom bälgülüg nom ärsär. öngi kedärip kök qalïq-ïγ bilmädin
1831 8 öčmäkig adïn alqu nom-lar ärür. qayu-nung adï bolur yeg tep
1832 9 qayu-nung adï bolur yörüg teptesär. yeg teptemiš-i ärsär yeg
1833 10 adruq tep yörüg'ol. yörüg teptemiš-i ärsär uqïdur bilgülük ad
1834 11 -qanγu-larïγ yeg adruq üz-ä uqïdmïš üčün adqanγuγ anïn ada

---

1808~1811 bïšrunmaq töz-lüg bilgä bilig yaqïn birsi ärür. aqïγ-sïz bilgä bilig-kä basa anïlayu oq saqïn-maq äšidmäk ulatï tuγum üz-ä bululmïš bilgä bilig yaqïn-ïn-tïn ïraq-ïnga elädgü üčün「修の性もてる慧は無漏慧に近い一つである。次に猶、思、聞及び生得慧は近から遠へ移るもの故」。「聞慧」「思慧」「修慧」を「三慧」という。このウイグル文の内容に關連する文が『阿毘達磨藏顯宗論』巻一にみられる：此謂前所得無漏慧根諸慧。謂能得世間三慧即是世間殊勝修慧思慧聞慧。及彼隨行依所得近遠説三慧次第。(大正 Vol.29, p.779b *ll.*5-7)。

尊者衆賢が説く：ここにおいては、先に修の性もてる慧を説くものであった。次に思、聞などを、最後に生得を説くものであった。何に因って、そのようであるのかと云えば、修の性もてる慧は無漏慧に近い一つである。さらに猶、思、聞及び生得慧は近から遠へ移るもの故、と。安慧師が云う：ここでは單に無漏慧への助けとなるものを説いたのである。その近や遠を説かなかった。それ故に過失とはならない、と。

論：**『この名を釋すこととしては、能く自相を持する故、それでその名は法となる。もし勝義法なら、唯だ涅槃のみである。もし法相の法なら通して四聖諦である。これは能く對向する故、或は能く對觀する故、それで阿毘達磨と稱した』**（釋此名者能持自相故名爲法若勝義法唯是涅槃若法相法通四聖諦此能對向或能對觀故稱對法）と。

釋曰：「釋」は、所説所言の義において決定の義を顯わす故、それでその名が「釋」となった。所顯の法と云う名の因を説く故に、その名は「釋」となった。「法」と云ったのは、能く自相を持つ故、それでその名が「法」となった、と。變壞することができないため、「自相を持つ」（持自相）と名づけた、と。問：その無漏慧、及び隨行を如何にして「對向」と名付けたのか？と。二種の義が有る故に、それで「對向」と名づけた：第一に、この慧は能く勝義法に對向する故。勝義法は唯だ涅槃のみである。第二に、この慧は能く法相の法に對向する故。法相の法は虚空と非擇滅を除く餘の一切の法である。何の名が「勝」、何の名が「義」となるのかと云えば、「勝」と云ったのは殊勝と云う義である。「義」と云ったのは所知境を顯わす。殊勝によって境を顯した故に、「勝義もてる」（勝義）と名づけた。

1815~1816 nom bälgülüg nom ärsär yumdaru tört türlüg tüz-ün-lär kertü-si ärür「法相の法なら通して四聖諦である」は訂正文を採用した。訂正前は：nom bälgülüg nom ärsär yindäm ärür yumdaru tört türlüg tüz-ün-lär kertü-si ärür. 訂正文は yindäm ärür を正しく削除している。1819~1822 yörmäk ärsär söz- lägülük tegülük yörügdä uqïdur üčün adïrt-lïγ odγuraq yörügüg anïn adï bolmïš ol yörmäk tep. söz-läyür üčün uqïdγuluq nom tegüči ad-nïng tïldaγ-ïn anïn adï bolmïš ol yörmäk tep「「釋」は、所説所言の義において決定の義を顯わす故、それでその名は「釋」となった。所顯の法という名の因を説く故に、それでその名は「釋」となった」。このウイグル文は次のように訂正されている：yörmäk ärsär <tegülük söz-lägülük> yörügdä uqïdur üčün adïrt-lïγ odγuraq yörügüg anïn adï bolmïš ol yörmäk tep. söz<-lägälir> üčün <bu nom tegüči ad-nïng uqïdmïš> tïldaγ-ïn anïn <adamïš> ol yörmäk tep「「釋」は、所言所説の義において決定の義を顯わす故、それでその名は「釋」となった。この法という名の顯わした因を説くために、それで「釋」と名づけた」。1824~1826 ol aqïγ-sïz bilgä bilig ulatï eyin yorïdačï-lar-ïn nädäg adatï tušγardačï tep「その無漏慧、及びその隨行をどうして「對向」と名付けたのか？と」。このウイグル文は次のように訂正されている：ol aqïγ-sïz bilgä bilig(-ning) ulatï eyin yorïdačï-lar<-ï-nïng > nädäg(-in) <adï bolur> tušγardačï tep「その無漏慧のもの及びその隨行のものが、如何にして、その名が「對向」となるのか？と」。1834 yeg adruq üz-ä uqïdmïš üčün adqanγuγ「殊勝によって境を顯した故に」は(säčä) yeg adruq üz-ä <uqulmïš adqanγu üčün>「偏に殊勝によって理解された境の故」と訂正されている。

1835 12 -miš ol yeg yörüglüg tep. inčä qaltï köngül biligi adqanmïš täg
1836 13 alqu nomluγ adqanγu-larïγ. alqu adqanγu-lar-ta nirvan qamaγ
1837 14 -ta yeg üčün anïn adamïš ol yeg yörüglüg tep 問 nädägin
1838 15 nirvan alqu nom-lar-ta bolur yeg tep 答是善是常故
1839 62a-1 ärür üčün ädgü. ärür üčün ürlüg. kök qalïq bilmädin öčmäk
1840 2 ärür ürlüg. ädgü ärmäz. tüz-ün yol-ta ulatï nom-lar ärür ädgü ürlüg
1841 3 ärmäz. nirvan ikigü birlä bolur üčün anïn bolur yeg adruq. azu-ča
1842 4 ymä tidip alqu ediglig nom-larïγ. köngül sävmiš üčün nirvan-ïγ
1843 5 nirvan yeg adruq ärür. azu-ča ymä yeg ärsär aqïγ-sïz bilgä bilig
1844 6 -ning adï bolur yeg tep. bu aqïγ-sïz bilgä biligkä bilgülük nom-nung
1845 7 adï bolur üčün yörüg tep. anïn adamïš ol yeg yörüg tep
1846 8 若如是者 birök andaγ ärsär ämgäk tergin yol üč kertü-lär ärür üčün
1847 9 aqïγ-sïz bilgä bilig-kä bilgülük adqanγu-lar. barča-ning adï bolγu
1848 10 kärgäk yeg yörüglüg tep. nä üčün yindäm söz-lädi nirvan-ïγ bolur
1849 11 yeg yörüglüg tep 答 vasubandu baxšï täk uqïdmïš ol nirvan
1850 12 -ïγ. söz-lämämiš ol adïn kertü-lärig nirvan ärsär bu oq inčip ärür
1851 13 öčmäk kertü. azu-ča ymä yörüg ärsär. asïγ tusu tep
1852 14 yörüg'ol. alqu asïγ-lar-ta yoq üčün ärtdäči nirvan-ta anïn
1853 15 nirvan-ning adï bolur yeg yörüg tep. azu-ča (ymä) tüz-ün yol-nung
1854 62b-1 adï bolur yeg tep. nädägin adï bolur yeg teptesär. ärür üčün ädgü
1855 2 ärür üčün aqïγ-sïz yörüg tegüči sav-ning tïldaγ-ï. munï üz-ä
1856 3 uqïdur üčün tüz-ün yol-uγ ärür nirvan-ning tïldaγ-ï tep
1857 4 anï üčün nirvan-ning adï bolmïš ol yeg yörüglüg tep nägü
1858 5 ol munung tïldaγ-ï teptesär. ol tüz-ün yol üz-ä bululur üčün
1859 6 nirvan. nirvan teptemiš-i ärsär. sansar ärsär qaltï yip täg
1860 7 qïlïnč bolmaq ärsär qaltï toqïdačï täg ärür. üz-mäk üz-ä sansar
1861 8 -lïγ yip-ig ikiläyü yänä toqïmaz üčün anïn adamïš ol nirvan
1862 9 tep. azu-ča ymä umaq üz-ä öčürgäli üč türlüg oot-lar-ïγ
1863 10 adï bolmïš ol nirvan tep. azu-ča ymä bošγud-suz-lar-ning
1864 11 abamu-luγ turγuluq orun-ï üčün adï bolmïš ol nirvan tep

猶、意識が一切の法境を縁じたごとし。一切境において涅槃が最勝の故、それで「勝義もてる」と名づけたのである。問：如何にして涅槃が一切法の中で勝となるのか？と。答：善である故、常である故。虚空、非擇滅は常であるが、善ではない。聖道などの法は善であるが、常ではない。涅槃は二つを倶している故、それで殊勝となる。或は、一切の有爲法を捨てて涅槃を意樂したため、涅槃は殊勝である。或は、勝は、無漏慧の名が「勝」となる。この無漏慧への所知法の名が「義」となる故、それで「勝義」と名づけた。もしそのようなら、苦、集、道の三諦は無漏慧への所知境であるため、全てのものの名が「勝義もてる」とならねばならない。何故、唯だ涅槃のみが「勝義もてる」となると説いたのか？答：世親師は唯だ涅槃のみを立てた。餘の諦を説かなかった。涅槃はこれ則ち滅諦である。或は「義」は、利益と云う義である。一切の利において涅槃を越えるものは無い故、それで、涅槃の名は「勝義」となる。或は聖道の名が「勝」となる。如何にしてその名が「勝」となるのかと云えば、善である故、無漏である故。「義」と云う言の因は、これを以て聖道を涅槃の因であると顯わす故、と。それ故、涅槃の名は「勝義もてる」となった、と。これの因は何かと云えば、その聖道によって涅槃が得られる故（である）。「涅槃」と云った。生死は謂わく繩のごとく、業は謂わく織るもののごとし。生死の繩を切ることによって、更に再び織らない故、それで「涅槃」と名づけた。或は、三種の火を能く滅することによって、その名は「涅槃」となった。

1841(~1843) azu-ča ymä tidip alqu ediglig nom-larïγ. köngül sävmiš üčün nirvan-ïγ nirvan yeg adruq ärü「或は、一切の有爲法を捨てて涅槃を意樂したため、涅槃は殊勝である」。このウイグル文は節略漢文『實義疏』に對應する：或諸有爲悉皆棄捨。唯樂涅槃故名殊勝(大正 Vol.29, p.325c)。1846(~1847) ämgäk tergin yol üč kertü-lär ärür üčün aqïγ-sïz bilgä bilig-kä bilgülük adqanγu-lar「苦、集、道の三諦は無漏慧への所知境であるため」。このウイグル文に類似する内容が節略漢文『實義疏』にも有る：苦集道諦爲涅槃惠(大正 Vol.29, p.325c)。1855 yörüg tegüči sav-nïng tïldaγ-ï. munï üz-ä uqïdur üčün tüz-ün yol-uγ ärür nirvan-nïng tïldaγ-ï tep「「義」という言の因は、これを以て聖道を涅槃の因であると顯わす故、と」。このウイグル文は次のように訂正されている： yörüg <söz-läyür> sav-nïng tïldaγ<-ïn>. munï üz-ä uqïdur üčün tüz-ün yol-uγ ärür nirvan-nïng tïldaγ-ï tep「「義」は言因を説く。これを以て聖道を涅槃の因であると、顯わす故、と」。1859~1862 sansar ärsär qaltï yip täg qïlïnč bolmaq ärsär qaltï toqïdačï täg ärür. üz-mäk üz-ä sansar-lïγ yip-ig ikiläyü yänä toqïmaz üčün anïn adamïš ol nirvan tep. azu-ča ymä umaq üz-ä öčürgäli üč türlüg oot-lar-ïγ adï bolmïš ol nirvan tep「生死は謂わく繩のごとく、業は謂わく織るもののごとし。生死の繩を切ることによって、更に再び織らない故、それで「涅槃」と名づけた。或は、三種の火を能く滅することによってその名は「涅槃」となった」。このウイグル文は次のように訂正されている：(bu) sansar ärsär qaltï yip<-kä oxšadï ärür> qïlïnč bolmaq ärsär qaltï toqïdačï<-qa oxšadï> ärür. üz<-üp bu> sansar-lïγ yip-ig ikiläyü yänä <toqï- maq-sïz qïlmïš> üčün anïn adamïš ol nirvan tep. azu-ča ymä <uyur üčün> öčürgäli üč türlüg oot-lar-ïγ adï bolmïš ol nirvan tep「この生死は謂わく、繩に似ている、業は謂わく、織るものに似ている。生死の繩を切って、更に再び織ること無くした故、それで「涅槃」と名づけた。或は、三種の火を能く滅する故にその名は「涅槃」となった」。

1865 12 azu-ča ymä beš yükmäk-lig ayïr yük-nüng bulmïš üčün birdäm
1866 13 -lig tïnmaq-ïn adï bolmïš ol nirvan tep. 有餘师説 bar adïn
1867 14 baxšï-lar söz-lär nirvan yoq öz töz ök ärür tep tïdγalïr
1868 15 üčün bular-nïng söz-lämiš-in anïn šasdr-ta söz-lämiš ol.
1869 63a-1 yeg yörüglüg tep. nom ärsär qaltï uyur üčün tudγalï öz
1870 2 töz-in adï bolmïš ol nom tep. anïn alqu nom-lar-nïng bar
1871 3 ärür öz töz-i näčükin taqï nirvan yoq öz töz-lüg bolγay.
1872 4 nom bälgülüg teptemiš-i ärsär. qaltï uqïdur alqu nom-lar-nïng
1873 5 bälgü-sin (bu) nom-nung bar üčün uqïdγuluq bälgü-si. anïn ada
1874 6 -mïš ol nom bälgülüg tep. bälgü bolur iki türlüg. ang'ilki aqïγ
1875 7 -lïγ ikinti aqïγ-sïz. aqïγ-lïγ-ï yänä iki türlüg bolur.
1876 8 ang'ilki tüš ikinti tïldaγ. aqïγ-lïγ tüš-nüng bar ärür anïng
1877 9 tört türlüg töz-lär-i. qaltï ürlüg-süz ämgäk quruγ män-siz
1878 10 ärür. olar-ta ürlügsüz-li ämgäk-li (ikigü) bolur öz töz. quruγ-lï män
1879 11 -siz-li ikigü bolur qamaγ-lïγ töz. iki türlüg aqïγ-lïγ tïldaγ-lar
1880 12 -nïng ymä ök bar ärür tört türlüg-i. qaltï tïldaγ tergin tuγur
1881 13 -dačï basudčï ärür. ikinti aqïγ-sïz tüš. aqïγ-sïz tüš ärsär.
1882 14 ymä ök bolur tört türlüg ymä ök öčmiš amïl bašdïn ünüš
1883 15 aqïγ-sïz tïldaγ ärsär ymä ök bolur tört türlüg. qaltï yol
1884 63b-1 törülüg oruq ündürdäči 對者 tušγarmaq ärsär bolur ol iki
1885 2 türlüg. ang'ilki ölänmäk-kä tušγaryalï umaq ikinti körmäk-kä
1886 3 tušγaryalï umaq. ol nirvan-qa körü adï bolur ölänmäk-kä
1887 4 tušγarmaq tep. buldurur üčün nirvan-ïγ. ol alqu nom-lar-qa
1888 5 körü adï bolur körmäk-kä tušγarmaq tep. bildürür üčün tört
1889 6 kertü-tä ulatï alqu nom-lar-nïng bälgü-sin tep 有餘师説
1890 7 bar adïn baxšï-lar söz-läyür-lär. čïnlayu abidarim tušγarur nirvan
1891 8 -qa ölänmäk-kä yïlayu abidarim tušγarur nom bälgüsin körmäk-kä tep
1892 9 踈主 äsdiramati baxšï söz-lär čïnlayu abidarim yïlayu abidarim.
1893 10 ikigü birlä tušγarur nirvan-qa ölänmäk-kä. nädägin teptesär anga
1894 11 yaqïn ïraq bolmaq üz-ä adïrïlmïš üčün čïnlayu-sï ärür yaqïn
1895 12 ölänmäk-kä tušγardačï yïlayu-sï ärür ïraq ölänmäk-kä
1896 13 tušγardačï. bular ikigü birlä ölänmäk-kä tušγarïp ikigü birlä
1897 14 uyur yügärü uqγalï alqu nom-lar-nïng bälgü-sin bilir kirlig kkir
1898 15 -siz adïrtïn čïnlayu-sï-nïng ölänmäk-kä tušγarmaq-ï arïγ

1865~1866 azu-ča ymä beš yükmäk-lig ayïr yük-nüng bulmïš üčün birdäm-lig tïnmaq-ïn adï bolmïš ol nirvan tep「或は、五蘊の重荷が畢竟に安息を得た故、その名は「涅槃」となったのである」。このウイグル文は次のように訂正されている：azu-ča ymä beš yükmäk-lig ayïr yük<-üg bolur> üčün birdäm<-lädi amïrdγuryalï anïn adamïš> ol nirvan tep「或は、五蘊の重荷を畢竟に靜めることができる故、それで「涅槃」と名づけた」。

或は、無學らが永遠に住する地の故、その名は「涅槃」となった。或は、五蘊の重荷が畢竟に安息を得た故、その名は「涅槃」となったのである。有餘師が説く：涅槃は無自性である、と。これらの説いたものを避けるために、それで論に「勝義もてる」と説いたのである。法は謂わく能く自相を攝する故、その名は「法」となった。それ故、一切の法には自相が有る。どうしてまた涅槃が無自性もてるものとなるであろうか。「法相」と云ったのは、謂わく一切法の相を顯わす。この「法」には所顯の相が有る故、それで「法相」と名づけたのである。「相」には二種ある。第一は有漏、第二は無漏。（第一の）有漏にはまた二種ある。第一は果、第二は因。有漏果にはそれの四種の相が有る。謂わく非常、苦、空、非我である。それらの中で非常と苦との二つが自相となる。空と非我との二つは共相となる。二種有漏の因には四種が有る。謂わく、因、集、生、緣である。第二は無漏果。無漏果は、また四種となる。滅、靜、妙、離。無漏因はまた四種となる。謂わく道、如、行、出。「對」は二種となる。第一は能對向。第二は能對觀。それは涅槃に對して、その名が「對向」となる。涅槃を得させる（故に）。一切法に對して、その名は「對觀」となる。四諦など一切法の相を示す故、と。有餘師が説く。勝義の阿毘達磨は涅槃に對向する。世俗の阿毘達磨は法相を對觀する、と。安慧師が説く。勝義の阿毘達磨、世俗の阿毘達磨の兩方がともに涅槃に對向する。如何にしてかと云うなら、それに對して近遠となることによって差別された故。勝義は近くに對向するものである。世俗は遠くに對向するものである。これら兩者はともに對向し、兩者がともに能く一切法の相を現觀する。染、不染の差別を知る。

1870~1871 anïn alqu nom-lar-nïng bar ärür öz töz-i näčükin taqï nirvan yoq öz töz-lüg bolγay「それ故、一切の法には自相が有る。どうしてまた涅槃が無自性もてるものとなるであろうか」。このウイグル文は次のように訂正されている：anïn <alqu-nung barča bolsar> öz töz-i（又 alqu barča bar ärsär öz töz üz-ä ymä ter ::）näčükin taqï nirvan<-nïng> öz töz <bolmayay mu>.「それ故、皆、ことごとく自相において存在するなら、どうしてまた涅槃の自相が成じないものか」。1876~1877 ang'ilki tüš ikinti tïldaγ. aqïγ-lïγ tüš-nüng bar ärür anïng tört türlüg töz-lär-i「第一は果、第二は因。有漏果にはそれの四種の相が有る」。このウイグル文は次のように訂正されている：ang'ilki tüš（töz-lüg）ikinti tïldaγ（töz-lüg ärür）. aqïγ-lïγ tüš-nüng bar ärür <ol> tört türlüg töz-lär-i「第一は果性もてるもの、第二は因性もてるものである。有漏果にはその四種の相が有る」。1882 bašdïn はここでは「妙」（Skt. praṇīta）を意味する。baš「頭」-dïn（ablative）. 1884 oruq = or-「收穫する」-uq（dev. noun）「獲得」「行」（Skt. pratipatti）. 1885~1886 ang'ilki ölänmäk-kä tušγaγalï umaq ikinti körmäk-kä tušγaγalï umaq「第一は能對向。第二は能對觀」。ölänmäk-kä tušγaγalï umaq「向かうことへ能く對すること」＝「能對向」。körmäk-kä tušγaγalï umaq「觀ることへ能く對すること」＝「能對觀」。これらに對して訂正文は次のように書かれている：ang'ilki ölänmäk-kä <tušγardačï> ikinti körmäk-kä <tuš- γardačï ärür>「第一は對向。第二は對觀である」。ölänmäk-kä <tušγardačï>「向かうことへ對すること」＝「對向」、körmäk-kä <tušγardačï ärür>「觀ることへ對すること」＝「對觀」。1887 ol alqu nom-lar-qa「その一切法に」は<adïn> alqu nom-lar-qa「餘の一切の法に」と訂正されている。1889 alqu nom-lar-nïng bälgü-sin「一切法の相を」は alqu nom-lar-nïng <töz-in>「一切法の性を」と訂正されている。1893 ölänmäk は'wlnm'k と綴られている。1896~1898 ikigü birlä uyur yügärü uqγalï alqu nom-lar-nïng bälgü-sin bilir kirlig kkir-siz adïrtïn「兩者がともに能く一切法の相を現觀する。染、不染の差別を知る」。このウイグル文は次のように訂正されている：ikigü birlä uyur yügärü <uqup> alqu nom-lar-nïng <töz-in bilgäli> kirlig kkir-siz adïrtïn「兩者がともに能く一切法の性を現觀し、能く染、不染の差別を知る」。

1899 64a-1 süz-ük adïrtlïγ odγuraq bilgülük ärür. yïlayu-sï-nïng ölänmäk
1900 2 -kä tušγarmaq-ï kirlig adïrtlïγ odγuraq bilgülük ärmäz 對法
1901 3 論者 abidarim šasdr ärsär nom bälgü-sin körmäk-kä tušγarur
1902 4 nom bälgü-si nirvan-qa ölänmäk-kä tušγarur. abidarim tegüči
1903 5 ad (ärsär) san-lïγ ärür čïnlayu-sïnga. san-lïγ ärmäz yïlayu-sïnga yïlayu
1904 6 abidarim täk yevig tizig bolur üčün bulmïš ol abidarim tegüči
1905 7 adïγ. qaltï ig törčigülük tïldaγ-nïng ymä ök adï bolmïš täg
1906 8 ig tep. yörüg töz-indäki-čä ärsär. čïnkertü söz-läsär tïldaγ ig
1907 9 ärmäz. ol ig-kä yevig tizig bolur üčün ymä ök adï bolur ig
1908 10 tep. yïlayu abidarim ymä ök yänä ančulayu oq yevig tizig bolur
1909 11 üčün ol čïnlayu abidarim-qa bulmïš ol abidarim tegüči adïγ
1910 12 世俗對法 yïlayu abidarim umaz yaqïn yaγuq tanuqladγalï
1911 13 nirvan-ïγ nädägin teptesär. umaz üčün arïγ(ïn) süz-ükin 又 alqu
1912 14 uγur-ïn ymä/ter bildürgäli nom bälgü-sin bulmamïš ol čïnlayu abidarim
1913 15 tegüči adïγ azu-ča ymä bu uyur üčün bilgä bilig-kä yevig
1914 64b-1 tizig bolγalï ymä ök adamïš ol abidarim tep. qaltï inyanaparas
1915 2 -tan-ta ulatï-lar bilgä bilig-kä yevig tizig bolmïš täg. bu šasdr
1916 3 ymä andaγ oq ärür tep tegü/täg 論 šasdr-ta söz-läti ärti yör-ä
1917 4 tükädmiš boldï abidarim-ïγ. nä üčün bu šasdr-nïng adï boldï
1918 5 abidarmakoš tep. 又 bu šasdr-ïγ adatï ymä/ter. 釋曰 abidarmakoš
1919 6 tegüči adïγ. altï türlüg adïr-a qabšuru yörgülük samaz-lar
1920 7 -nïng ar-a-sïnda üčünč üküš tavar-lïγ temiš-täki lïγ samaz
1921 8 üz-ä yörmiš kärgäk. küsämiš üčün kim bošγudčï tïdsï-lar-qa

---

1901 abidarim šasdr ärsär nom bälgü-sin körmäk-kä tušγarur「阿毘達磨論は法相を觀ずるものへ對する」は abidarim šasdr ärsär (tušγarur) nom bälgü-sin körmäk-kä と訂正されている。語順が漢文語順に直されている。1903~1905 yïlayu abidarim täk yevig tizig bolur üčün bulmïš ol abidarim tegüči adïγ「世俗阿毘達磨はただ資糧となるために、阿毘達磨という名を得た」。このウイグル文は次のように訂正されている：yïlayu abidarim täk (čïnlayu-sïnga bolur üčün) yevig tizig bulmïš ol abidarim tegüči adïγ「世俗阿毘達磨はただ、勝義への資糧となるために、阿毘達磨という名を得た」。

勝義の對向は淨を決定に知ることである。世俗の對向は染を決定に知ることではない。阿毘達磨論は法相を觀ずるものへ對する。法相は涅槃へ向かうものに對する。「阿毘達磨」と云う名は勝義に屬し、世俗には屬さない。世俗阿毘達磨は只だ資糧となるために「阿毘達磨」と云う名を得た。猶、病が發するところの因の名も「病」（の名）となるごとし、と。理としては、眞實に云えば因は病にあらず。その病に資糧となる故に名も「病」となる。世俗の阿毘達磨もまたそのように勝義の阿毘達磨への資糧となる故に、「阿毘達磨」と云う名を得た。世俗の阿毘達磨は直接に涅槃を證することはできない。如何にしてかと云えば、清淨に法相を示すことができない故、「勝義の阿毘達磨」と云う名を得なかったのである。或は、これは慧への資糧となり得る故に、又「阿毘達磨」と名づけた。猶、『發智論』等が慧への資糧となったごとく、この論も然りと云うごとし。

論に説いた：**『阿毘達磨を已に釋した。何故この論を阿毘達磨倶舎と名づけたのか？』**（已釋對法何故此論名對法藏）と。

釋曰：「阿毘達磨倶舎」と云う名を、六離合釋の間で、第三の有財釋によって釋さねばならない。

1906 tep「・・と」と yörüg töz-indäki-čä ärsär「理としては」の間へ插入文として、次のウイグル文が傍注されている：(意云 qaltï bu aš bu ičgü bu iš küdük bu saqïnč ät-öz-kä ig bolur temäk ol/ymä ::)「意云、謂わく、この食物、この飲物、この作用、この思考が、體に病となる。」これは直前の比喩「猶、病が發するところの因の名も病となるごとし」を解説したものである。1911~1912 arïγ(ïn) süz-ükin「清淨に」は「又」以下で alqu uyur-ïn「諸々の場合に」に訂正されている。1917~1918 nä üčün bu šasdr-nïng adï boldï abidarmakoš tep「何故この論の名が阿毘達磨倶舎となったのか」は「又 bu šasdr-ïγ adatï ymä/ter」によって「何故この論を阿毘達磨倶舎と名づけたのか」と訂正されている。ここでは訂正の内容を採用した。1919~1921 altï türlüg adïr-a qabšuru yörgülük samaz-lar-nïng ar-a-sïnda üčünč üküš tavar-lïγ temiš-täki lïγ samaz üz-ä yörmiš kärgäk「六離合釋の間で、第三の有財釋によって釋さねばならない」。このウイグル文は次のように訂正されている：altï türlüg adïr-a qabšuru yörgülük samaz-lar-nïng ar-a-sïnda(-qï) <ikinti käz-ig-täki ol> üküš tavar-lïγ <tegüči> lïγ samaz üz-ä yörmiš kärgäk「六離合釋の間にある第二轉の有財釋によって釋さねばならない」。 altï türlüg adïr-a qabšuru yörgülük samaz-lar「六種の離れ結んで釋すべき samāsa など」=「六離合釋」(Skt. ṣaṭ-samāsa). üküš tavar-lïγ temiš-täki lïγ samaz「多くの財を有すると云ったものにある「・・を有する」samāsa」= 「有財釋」「多財釋」(Skt. bahuvrīhi).

1922 9 bildürgäli. munda qayu samaz üz-ä yörgäli tägim-lig-in büdürgäli
1923 10 üčün ol yörügüg šasdr-ta käntü sezik turγurup söz-lämiš
1924 11 ol. munung täk adï bolz-un abidarim tep nä üčün yänä adatï
1925 12 abidarmakoš tep. uqïdγalïr üčün bu yörügüg anïn šasdr-ta
1926 13 sezik qïlïp söz-lämiš ol nä üčün bu šasdr-ïγ adatï abidar
1927 14 -makoš tep. kikinč bergälir üčün öngdünki sezik-kä šasdr
1928 15 -ta šlok-ta söz-lämiš ol 攝彼勝義依彼故 tudulur
1929 65a-1 -lar üčün andaqï yeg yörüg-lär angar ymä tayaq-lïγ üčün
1930 2 munï uqïdmïš ol abidarmakoš tep ad üz-ä tep. 論曰 ol abi
1931 3 -darim šasdr-taqï yeg yörüg-lar kirip munda tudulmïš üčün bu bulmïš
1932 4 ol qïïn-ï tegüči adïγ tep 釋曰 munï iki türlüg-in yörär ašnu
1933 5 -ča nïng samaz üz-ä yörär ken lïγ samaz üz-ä yörär. nïng samaz
1934 6 nädäg ol teptesär. tudulur-lar üčün andaqï teptemiš-i inčip ol
1935 7 inyanaparasdan ärür yeg yörüg-lär teptemiš-i ärsär qaltï yeg adruq
1936 8 yeg soγančïγ tep yörüg'ol bir yörüg-tä tudulduryalïr üčün ol
1937 9 üküš tälim yörüg-lärig anïn adamïš ol yeg yörüglüg tep bu šasdr
1938 10 -ta täk tudulur andaq-ï yeg yörüg-lär tudulmaz andaq-ï vyančan
1939 11 -lar. qaltï ol šasdr-taqï qayu barïnča yeg yörüg-lär kirmiš üčün bu
1940 12 šasdr-qa bu bulmïš ol qïïn-ï tegüči adïγ. abidarim-nïng qïïn-ï üčün
1941 13 adamïš ol abidarim tep. büdär nïng samaz. säkiz türlüg vibakdi-lar-ta
1942 14 altïnč nïng vibakdi-ta säčä tudulur tep 論或此依彼 azu-ča ymä

1921~1924 küsämiš üčün kim bošγudčï tïdsï-lar-qa bildürgäli. munda qayu samaz üz-ä yörgäli tägim-lig-in büdürgäli üčün ol yörügüg šasdr-ta käntü sezik turγurup söz-lämiš ol「ここでは學徒らへ何の語釋によって應に釋べきか示すことを欲したために、その義を完成させるために、論において自ら疑いを起こして説いたのである」。このウイグル文は次のように訂正されている：<uγramïš> üčün kim bošγudčï tïdsï-lar-qa bildürgäli. munda qayu samaz üz-ä <yörsär büdgäli tägim-lig-in> ol <yörüg-nüng> šasdr-ta käntü sezik turγurup söz-lämiš ol.「ここでは學徒らへ、何の語釋によって釋するなら、完成するべきか示すことを欲したために、その義を論において自ずから疑いを起こして説いた」。

ここでは學徒らへ何の語釋（samāsa）によって應に釋すべきかを示そうとしたために、その義を完成させるために、論において自ら疑いを起こして説いたのである。これの名は單に「阿毘達磨」となるべし。何故また「阿毘達磨倶舎」と名づけたのか？この義を顯わすために、そこで論に疑問を起こして説いた。「何故この論を阿毘達磨倶舎と名づけたのか？」（何故此論名對法藏）と。先の疑問に答えるために、

論の頌において説いたのである：**『彼にある勝義が攝せられる故、彼に依る故、此を阿毘達磨倶舎と云う名によって立てたのである。論曰、彼の阿毘達磨論中の勝義はここに入って、攝せられた故、これは藏と云う名を得た』**（頌曰　攝彼勝義依彼故　此立對法倶舎名　論曰由彼對法論中勝義入此攝故此得藏名）と。

釋曰：これを二種で以て釋す。先ず、依士釋によって釋す。次に有財釋によって釋す。如何にして依士釋であるのかと云えば：「彼にある・・・攝せられる故」（攝彼）と云った。即ち彼は『發智論』である。「勝義」と云ったのは、謂わく、殊勝、勝妙と云う義である。一義の中にその多くの義を攝せさせるために、それで「勝義もてる」と名づけたのである。この論においては單に、彼（『發智論』）にある勝義が攝せられる。彼（『發智論』）にある文（vyañjana）は攝せられない。謂わく、その論（『發智論』）にある、あらゆる勝義がこの論に入ったため、これは「藏」と云う名を得たのである。阿毘達磨の藏故に「阿毘達磨（倶舎）」と名づけた。（ここに）依士釋が完成する。八種の格において、第六の屬格（nïng 格）において特に攝せられる、と。

1932~1935　munï iki türlüg-in yörär ašnu-ča nïng samaz üz-ä yörär ken lïy samaz üz-ä yörär. nïng samaz nädäg ol teptesär. tudulur-lar üčün andaqï teptemiš-i inčip ol inyanaparasdan ärür「これを二種でもって釋す。先ず、依士釋によって釋す。次に有財釋によって釋す。如何にして依士釋なのかといえば：「彼にある・・・攝せられる故」といった。即ち彼は發智論である」。このウイグル文は次のように訂正されている：munï iki türlüg <samaz-lar üz-ä yörmiš kärgäk> ašnu-ča nïng samaz üz-ä <yörmiš kärgäk> ken lïy samaz üz-ä <yörmiš kärgäk>. nïng samaz nädäg ol teptesär. tudulur-lar üčün andaqï teptemiš-i (ärsär) inčip ol inyanaparasdan (šasdr- taqï temäk) ärür「これを二種の語釋によって釋さねばならなかった。先ず依士釋によって釋すべし。次に有財釋によって釋すべし。如何にして依士釋なのかといえば：「彼にある・・・攝せられる故」といったのは、即ち彼が發智論にあるということである」。1938 vyančan < Skt. vyañjana「現すこと、指示すること」（荻原 p.1287）、「文」（平川(1973), p.343）. 1941~1942 säkiz türlüg vibakdi-lar-ta altïnč nïng vibakdi säčä tudulur tep「八種の格において、第六の屬格(nïng 格)において特に攝せられる、と」。このウイグル文は次のように訂正されている：säkiz türlüg (sav ävriš-i) vibakdi-lar<-nïng arasïndaqï altïnč anïng temiš-täki> nïng vibakdi(-ta) säčä tudulur tep「八轉聲の中にある、第六の「彼の」(a-nïng)といったものにある、屬格(nïng 格)において特に攝せられる、と」。nïng vibakdi (-ta)の-ta は甘肅本(l.1)にもあるので、最初の筆記者の手で加筆された可能性が大きい。säkiz türlüg vibakdi-lar「八種の格」、 säkiz türlüg sav äviš-vibakdi「八種の語の轉回の格」＝「八轉聲」。

1943 15 bu angar tayaq-lïγ-ïn andïr-tïn tardïlïp tuγmïš(-qa ärür) üčün ol qïïn
1944 65b-1 -lïγ anïn ymä ök adamïš ol koš tep. anï üčün bu šasdr-nïng adï
1945 2 bolmïš ol abidarmakoš tep. 或於彼至名對法藏 azu-ča ymä angar
1946 3 tayaq-lïγ{-ïn} temäk-tin abidarim(-akoš) tep ad üz-ä temäk-kä-tägiki-si ärür
1947 4 釋曰 yänä lïγ samaz üz-ä yörsär ol inyanaparasdan šasdr munga tayaq
1948 5 bolmaq üz-ä bu šasdr andïr-tïn aqïlïp ünmiš ärür. nädäg aqïlïp
1949 6 ünär teptesär. ävdip ol šasdr-taqï yeg adruq yeg soγančïγ užik
1950 7 -lärig yörüg-lär-ig. kigürmiš üčün bu šasdr-qa inčä qaltï qïlïč qïïn
1951 8 -lïγ bolmïš täg qïlïč andïr-tïn ünmäk üz-ä tardïp ol inyana

---

1943 tuγmïš(-qa ärür) üčün の加筆部分-qa ärür は甘肅本(*I.2*)にも有る。1945~1946 azu-ča ymä angar ymä tayaq-lïγ temäk-tin abidarim(-akoš) tep ad üz-ä temäk-kä-tägiki-si ärür「「或は、彼に依って」(或・・依彼)というものから、「阿毘達磨倶舎という名によって」(名對法藏)というものまでである」。abidarim(-akoš)「阿毘達磨倶舎」は傍注訂正を採用した。また tep と ad の間には temäk-kä(「と言うことへ」)が書かれており、それに削除記號「ト」が添えられている。これは本文を筆記した者の手で書添えられたものと判斷し、ここでは削除した。さらに、このウイグル文は次のように訂正されている：azu-ča ymä angar ymä tayaq-lïγ (üčün) temäk-tin abidarim(-akoš) tep ad üz-ä temäk-kä-tägiki <-sin> ärür <於 užik yangluq ol 依 užik kärgäk. yänä 從 užik m-a kärgäk bu ägsük turur>「「或は、彼に依るため」(或・・依彼)というものから、「阿毘達磨倶舎という名によって」(名對法藏)というものまでを(釋するの)である。「於」という字は誤りである、「依」という文が必要である。又「從」という字も必要である。これは缺けている」。<於>以下は上部欄外に書かれている。訂正文⇒

論、『或は、此は彼に依って、彼より引生したので、その所藏である故、それで亦、倶舎と名づけた。それ故、この論の名は阿毘達磨倶舎となった』（或此依彼從彼引生是彼所藏故亦名藏是故此論名對法藏）と。「或は、彼に依って」（或・・依彼）と云うものから、「阿毘達磨倶舎と云う名によって」（名對法藏）と云うものまでである。

釋曰：又、有財釋によって釋すなら、その『發智論』がこれ（『倶舎論』）に對する依となることにより、この論（『倶舎論』）はそれ（『發智論』）から流出したものである。如何に流出するのかと云えば、その論（『發智論』）にある殊勝、勝妙の文と義とを抽出して、この論に集めた故（である）。則ち、ちょうど、刀がそれ（鞘）から出ることによって、鞘もてるものとなったごとし。

の内容はウイグル文中の漢字漢文の誤りを訂正したもので、具體的には「或於彼至名對法藏」を「從或依彼至名對法藏」に直している。甘肅本では azu-ča ymä angar tayaq-lïγ-ïn temäk-tin abidarim tep at üz-ä tep temäk-tä abidarim tep ad üz-ä temäk-kätägi-si ärür (*ll*.3-4)「「或は、彼に依って」というものから、「阿毘達磨という名によって」というものにおける「阿毘達磨という名によって」というところまでである」。この甘肅本の abidarim tep at üz-ä tep temäk-tä「「阿毘達磨という名によって」というものにおける」は不要と考えられる。ただ甘肅本の tayaq-lïγ-ïn「依って」は正確であり、本文テキストに採用した。また、本文の azu-ča ymä angar の後に ymä が付加されているがこれは甘肅本に隨って不要と考え、和譯には含めなかった。1947 yänä lïγ samaz üz-ä yörsär「又、有財釋によって釋すなら」は yänä lïγ samaz üz-ä <yörär>「又、有財釋によって釋す」と訂正されている。inyanaparasdan šasdr「發智論」に對して甘肅本では inyanaparastan šastir (*l*.5). 75A では「論」は 4 つの例外を除いてすべて šastr (s'sdr)であるが、甘肅本では 75B と同じく常に šastir である。1950~1951 inčä qaltï qïlïč qïïn-lïγ bolmïš täg qïlïč andïr-tïn ünmäk üz-ä「則ち、ちょうど、刀がそれから(鞘から)出ることによって、鞘もてるものとなったごとし」。この内容は稱友の『阿毘達磨倶舎論明瞭義』に一致する：「阿毘達磨の藏が阿毘達磨倶舎なり、所以は、刀の入る所は刀の藏なればなり」（荻原(1933) p.18)。ウイグル文は次のように訂正されている：inčä qaltï qïlïč<-nïng 又 qïlïč-qa qïïn bolmaq üz-ä ymä ter.qïïn-ï bolmaq üz-ä> qïlïč(-ïγ) andïr-tïn <tardïp ündürmiš täg>「則ち、ちょうど、刀への鞘となることによる。刀をそれから抜き出したごとし」。甘肅本では kigürmiš üčün bu šasdr-qa (*l*.7)「この論に集めた故」は kögürmiš üčün bu šastir-qa「この論にもたらした故」と書かれている。

1952 9 -parasdan šasdr-taqï yörüg-lär-ig sav-lar-ïγ. yaradmïš üčün bu šasdr-ïγ
1953 10 munung uγur-ïnda bu šasdr. san-lïγ üčün ol šasdr-qa ol bulmïš ol
1954 11 qïïn-ï tegüči adïγ ol abidarim qïïn-lïγ üčün anïn adamïš ol
1955 12 abidarmakoš tep. büdär lïγ samaz 上來已釋 üsdürtin bärü yör-ä
1956 13 tükädmiš boldï iki türlüg abidarim-lar-ïγ. qaltï čïnlayu ulatï yïlayu
1957 14 yïlayu-sï yänä iki türlüg bolur. ang'ilki bilgä bilig ikinti
1958 15 šasdr. šasdr yänä iki türlüg bolur ang'ilki tayandačï ikinti tayan
1959 66a-1 -γuluq tayandačï ärür bu šasdr. tayanγuluq ärür inyanaparasdan bu yumdaru
1960 2 iki samaz-lar-qa tayaq-lïγ ärür. ang'ilki nïng samaz ikinti lïγ samaz
1961 3 (ärür) tep 論 qayu tïldaγ-ïn nomladï ol abidarim-ïγ. kim ärti yänä ašnu-ča
1962 4 nomlaγučï ol abidarim(-ïγ) inčip amtï šasdr-a-kare vasubandu baxšï-y-a
1963 5 ayayu aγïr-layu uqïdu yörmiš-ingiz kärgäk tep. 釋曰 qayu tïldaγ
1964 6 -ïn nomlatï bu abidarim-ïγ teptemiš-i ärsär. bu abidarim-ïγ nomlamaq
1965 7 -nïng bar qayu asïγ-ï tusu-sï. azu-ča ymä bar yaradmïš šasdr az
1966 8 -qy-a asïγ-lïγ tusu-luγ 如起世論等 qaltï loka-yadan šasdr
1967 9 -ta ulatï-lar ärür. yänä bar yaradmïš šasdr arïdï asïγ-sïz tusu
1968 10 -suz 如相鵄齒論等 qaltï kakadanta-parikš šasdr-ta ulatï-lar ärür.
1969 11 anïn munda sezik ayïdu söz-lämiš ol bu šasdr-ïγ yaradmaq-nïng
1970 12 bar qayu asïγ-ï tusu-sï tep. kim ärti yänä ašnu nomladačï abi
1971 13 -darim-ïγ teptemiš-i ärsär. nä üčün qïldï bu sezik-ig teptesär

---

1953~1955 bulmïš ol qïïn-ï tegüči adïγ ol abidarim qïïn-lïγ üčün anïn adamïš ol abidarmakoš tep「「藏」という名を得た。その阿毘達磨は藏もてる故、それで「阿毘達磨倶舍」と名づけた」。このウイグル文は次のように訂正されている：bulmïš ol qïïn tegüči adïγ <bar üčün ol> abidarim <šasdr-lïγ qïïn-ï> anïn adamïš ol abidarmakoš tep「「藏」という名を得た。その阿毘達磨論もてる藏が有る故、それで「阿毘達磨倶舍」と名づけた」。甘肅本は bulmïš ol qïïn tegüči adïγ ol abidarim qïïn-lïγ üčün anïn adamïš ol. abidarmakoš tep (*l*.8). 本文との違いは qïïn-ï の-ï (3.sg.poss.) の缺落であるが、甘肅本の形式がむしろ正しい。

その『發智論』にある義と文とを引いて、この論（『倶舎論』）を造った故、これに由ってこの論（『倶舎論』）は、その論（『發智論』）に屬している故、それは「藏」と云う名を得た。その阿毘達磨は藏もてる故、それで「阿毘達磨倶舎」と名づけた。有財釋が完成する。上以來、二種の阿毘達磨を釋し終えることとなった。謂わく、「勝義」及び「世俗」（である）。また世俗には二種有る。第一は慧、第二は論である。また論には二種ある。第一は能依、第二は所依。能依はこの論（『倶舎論』）である。所依は『發智論』である。これは總じて二つの語釋に依っている。第一の依主釋、第二の有財釋である、と。

論：**『何に因ってその阿毘達磨を説いたのか。誰が復た先にその阿毘達磨を説くものか。而して、今、論主世親師よ、あなたは恭敬し、解釋せねばならない（のか）』**（何因説彼阿毘達磨誰復先説阿毘達磨而今造論恭敬解釋）と。

釋：「何に因ってこの阿毘達磨を説いたのか」（何因説彼阿毘達磨）と云った。この阿毘達磨を説くことに何の利益が有るのか？或は、造った論に若干有益なものが有る。謂わく、『順世外道の論』（Lokāyatana-śāstra）等である。又、造った論が全く無益のものも有る。謂わく、『無意味な論』（Kāka-danta-parīkṣā)などである。それ故ここではこの論（『倶舎論』）を造ることに何の利益が有るのかと問うて説いたのである。「誰が復た先に阿毘達磨を説くものであったか？」（誰復先説阿毘達磨）と云った。

1961　初頭の(ärür)は甘肅本には無い。1962　ウイグル文では vasubandu baxšï-y-a「世親師よ！」と呼格で表現されている。ここは主格を用いることもできる。甘肅本も呼格で表されているが少し異なりがある：ayaγ-qa tägimlig šastirakare vasubantu baxšï-y-a (*l.*15)「尊者論主世親師よ」。1964~1965　bu abidarim-ïγ nomlamaq-nïng bar qayu asïγ-ï tusu-sï「この阿毘達磨を説くことに何の利益が有るのか？」。このウイグル文は次のように訂正されている：<kim nomladï bar üčün qayu asïγ-ï tusu-sï temäk ärür> nomlamaq-nïng bar qayu asïγ-ï tusu-sï「だれが説いた、何の利益が有るため、ということである。説くことに何の利益が有るのか？」。1966　loka-yadan (/lokayatan/) <Skt. lokāyatana「世俗(法)」。ここでは「順世外道(の論)」とした。ウイグル文中漢字では「世論」。1968　kakadanta-parikš < Skt. kāka-danta「烏の歯」　parīkṣā「識別、觀察」。　kāka-danta ' crow's tooth'; any thing impossible or not existing, (Monier (1970) p.267). kakadanta-parikš は「無意味な論」を意味するのであろう。1970~1971　kim ärti yänä ašnu nomladačï abidarimïγ teptemiš-i ärsär「誰が復た先に阿毘達磨を説くものであったか？」は甘肅本 (*ll.*20-21) では kim ärti yänä ašnu nomladačï abi-darim-ïγ nomladačï tep temiš-i ärsär と書かれているが、後の nomladačï は不要である。Geng (2002　p.81) はロンドン本に nomladačï の缺落があるとしているが、むしろ甘肅本の誤寫を指摘すべきである。

1972 14 azu-ča ymä bar šasdr yaradïp käntü öz-lär-i söz-lädäči munï yaradmaq
1973 15 -nïng bar uluγ asïγ-ï tusu-sï tep. inčip yaradmïš-ïnda arïdï
1974 66b-1 yoq ärür asïγ-ï tusu-sï. qaltï sanke-lïγ baxšï-lar(-nïng) yaradmïš sanki
1975 2 -ya-sapda-ti-šasdr-ta ulatï-lar ärür. 彼雖説有出離道
1976 3 olar näčä söz-läsär ymä bar ünüš-lüg yol tep ol čïnkertü ymä ök
1977 4 umaz ündürgäli öngi üdrüldürgäli yänä bar šasdr yaradïp söz-lädäči
1978 5 boldurur tuγuryalï tngri yer-indä tep. yörüg töz-indäki-čä ärsär
1979 6 čïnkertü bol'turmaz tuγuryalï tngri yer-indä 如 qaltï braman-lar-nïng
1980 7 yaradmïš 意樂論 mano-madar šasdr ärür. olar söz-läyür-lär taγ
1981 8 agir-ïndïn tüšmäk oot-qa tüšmäk-tä ulatï-larïγ. mundaγ osuγ-luγ-ta
1982 9 ulatï sav-lar. tngri yer-indä tuγurdačï tïldaγ ärmäz üčün anïn munda
1983 10 ašnu-ča sezik ayïdïp yinčürmiš isdämiš ärür. nomladačï kišig
1984 11 若能説人 birök nomladačï kiši tükäl-lig ärsär. tükäl bilgä bilig
1985 12 -kä qayu nomlamïš šasdr-ï-nïng bar üčün uluγ asïγ-ï tusu-sï anïn
1986 13 šasdr-ta sezik turγurmïš ärür kim ärti yänä ašnu-ča nom
1987 14 -ladačï tep. 阿闍梨 ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï.
1988 15 mundaγ tep söz-lär. munda tägimlig ärmäz ayïdγalï abidarim-ïγ

1972~1974 azu-ča ymä bar šasdr yaradïp käntü öz-lär-i söz-lädäči munï yaradmaq-nïng bar uluγ asïγ-ï tusu-sï tep. inčip yaradmïš-ïnda arïdï yoq ärür asïγ-ï tusu-sï「或は論を造って、自身がこれを造ったことに大利益が有ると説いたものが居る。而してその造ったものには結局、利益が無いのである」。このウイグル文は次のように訂正されている：azu-ča ymä bar <yaradmïš šasdr> käntü öz-lär-i söz<-läp> munï <qïlmaq>-nïng bar uluγ asïγ-ï tusu-sï tep. <andaγ ärip qayu qïlmïš>-ïnda arïdï yoq ärür asïγ-ï tusu-sï「或は、造論が有って、自身これをなすことに大利益が有ると説いて、それであって、その爲したところのものには結局、利益が無いのである」。1974 sanke < Skt. sāṃkhya, sankelïγ baxšï「數論師」。 sanki-ya-sapda-ti-šasdr(/sankiya-saptati-šastr/) < Skt. sāṃkhya-saptati-śāstra = sāṃkhya-kārikā「金七十論」。

何故この疑問をなしたのかと云えば、或は論を造って、自身がこれを造ったことに大利益が有ると説いたものが居る。その造ったものには結局、利益が無いのである。謂わく、數論師らの造った『金七十論』(Sāṃkhyasaptati-śāstra) 等である。彼らが如何に「出離の道有り」と説いても、それは實際には出離させることができない。又、論を造って、「天界に生じさせ得る」と説くものが居る。理として實際には天界に生じさせることができない。謂わく、婆羅門らの造った『意樂論』(Manomātra-śāstra) である。彼らは山頂から落下する火へ墮ちること等を説く。このような者の言は天界に生じさせる因ではない故、それ故にここでは先ず問うて、能説人を推度したのである。もし、能説人が一切智において完全なら、所説のその論には大利益が有る故に、論に「誰が復た先に説くものであったのか」と疑問を起こしたのである。

1976~1978 olar näčä söz-läsär ymä bar ünüš-lüg yol tep ol čïnkertü ymä ök umaz ündürgäli öngi üdrüldürgäli yänä bar šasdr yaradïp söz-lädäči boldurur tuγuryalï tngri yer-indä tep「彼らが如何に「有出離道」と説いても、それが眞實には出離させることはできない。又、論を造って、「天界に生じさせ得る」と説くものが居る」。このウイグル文は次のように訂正されている：<anda> näčä söz<-läp> bar ünüš-lüg yol tep ol čïnkertü ymä ök umaz ündürgäli öngi üdrüldürgäli yänä bar <yaradmïš šasdr> söz<-läp> (bar šasdr yaratdačï-lar ymä/ter.) (bu) boldurur tuγuryalï tngri yer-indä tep「そこにおいて如何に「有出離道」と説いても、それは眞實には出離させることができない。又、造論が有って、「これが天界に生じさせ得る」と説くものが居る」。甘肅本はほぼ本文と同じである：olar näčä söz-läsär ymä bar ünüš-lüg yol tep 又 anda ymä/ter ol čïnkertü ymä ök umaz ündürgäli öngi üdrüldürgäli yänä bar šastïr yaradïp söz-lädäči boldurur tuγuryalï tngri yer-indä tep (*ll.*25- 26)、ただ olar「彼ら」に對して anda「そこにおいて」と訂正しているところは訂正文と同じである。1979 čïnkertü bol'turmaz の後に (ärip) が插入されている。1980~1981 olar söz-läyür-lar tay agïr-ïndïn tüšmäk oot-qa tüšmäk-tä ulatï-larïγ「彼らは山頂から落ちる火へ墮ちること等を説く」。このウイグル文は次のように訂正されている：<anda> söz-läyür tay <baš qoγïndïn> tüšmäk oot <yol-ïn barmaq>-ta ulatï-larïγ「そこでは、山頂の溶岩(?)から落ちる火途を行くものらを説く」。qoγ ; N.Uig. čoγ~ qoγ「火炭、火種」『維漢』 pp.380,714. agïr <Skt. agra「頂」 cf. parvatāgra 「山頂」。なお、甘肅本(*l.*28)では agïr-ïndïn に對して agik-ïnta と讀める。1986 yänä ašnu-ča「復た先に」に對して甘肅本(*l.*32)では yänä ašnu. mano-madar šasdr(/mano- matar šastr/) < Skt. mano-mātra-śāstra「意樂論」。1988~1990 munda tägimlig ärmäz から tayanmanglar kiši-kä tep までは『順正理論』卷一の内容と對應する：雖不應問説對法人。佛教依法不依人故。(大正 Vol.29, p.329c)。「佛教依法不依人」は節略漢文『實義疏』(大正 Vol.29, p.325c) とも對應している。

1989 67a-1 nomladačï kišig tngri burxan yrlïqamïš üčün tayanïnglar nom-qa
1990 2 tayanmanglar kiši-kä tep. 意云 azu-ča ymä bar birär uγuš-luγ-lar
1991 3 kiši-sin tuda ülgüläp bilip nomladačï kišig temin ök udačï kerdgün
1992 4 -gäli tägingäli :: anïn qïlmïš ol bu sezik-ig tep 疏主云
1993 5 äsdiramati baxšï söz-lär bu söz-lämiš-ingiz-lär andaγ ärmäz nä üčün
1994 6 teptesär. sanggabadre baxšï uqmadïn sudur(-nung) abipiray-ïn 妄起
1995 7 圖故 yangluq turγurmïš üčün öngi yangγarïq-ïγ. nädägin teptesär
1996 8 tngri burxan yrlïqamïš ol. sudur-ta söz-lämäki ärsär tayanïnglar
1997 9 nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep. tngri burxan-nïng nomlamïš nomïn
1998 10 -ta (inčip) kerdgünüp täginip tuγuruγuluq ol adïrt
1999 11 -lïγ odγuraq uqmaq ongarma'q-ïγ. adïn-nïng nom-ïnda ärmäz.
2000 12 birök adïn kiši-lär-ning nomlamïš yörügi yörügi. tngri burxan-nïng
2001 13 köngül-ingä yaraši ärsär ymä ök tägimlig ol kerdgüngäli tägingäli
2002 14 nägü ol odγuraq turup kiši-sindä kim-lär-ning birök (qayu) söz-lämiš-i
2003 15 tngri burxan-nïng köngül-ingä yaraši ärmäsär birök qayu ärsär kiši
2004 67b-1 nomlaz-un tägimlig ärmäz kerdgüngäli tägingäli. bu oq inčip sudur.

1989~1990 tngri burxan yrlïqamïš üčün tayanïnglar nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep「佛が、汝ら法へ依るべし、人へ依るべきではない、と説かれた故、と」。このウイグル文は次のように訂正されている：tngri burxan <ödlämiš äriglämiš> üčün tayanïnglar nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep「佛が、汝ら法へ依るべし、人へ依るべきではない、と教えたため、と」。1994 sanggabadre baxšï uqmadïn sudur(-nung)の(-nung)は甘肅本(*l*.38)には無い。また、漢字列「妄起圖故」は「妄起異故」(*l*.38)と書かれているが、これは甘肅本の誤寫である。

尊者阿闍梨衆賢師はこのように説く：ここにおいて應に阿毘達磨を説く人を問うべきではない、佛が、汝ら法に依るべし、人に依るべきではない、と説かれた故に、と。意云：或は、一類のものら、（すなわち）人を約して能説人を量り知り、方に能く信受するものが居る。それ故にこの問いをなしたのである、と。安慧師が説く：この汝らの所説はその通りではない。何故かと云えば、衆賢師は、經の意趣を理解せずに、別に企圖を妄起した故に。如何にしてかと云うなら、佛は（次のように）説かれたのである：經に説くのは、「汝ら法に依るべし人に依るべきではない」と。佛の説いた法において當に信受し、決定に了悟を起こすべきである。餘の法においてではない。もし、餘人の説いた義が佛の意に適えば、また應に信受すべし。如何にして定んで人に住するのか？もし誰かの説いたものが佛の意に適わないなら、何であれ、人は應に（それを）信受すべきでない（と）、説くべし。

1995~1999 yangluq turyurmïš üčün öngi yangγarïq-ïγ. nädägin teptesär tngri burxan yrlïqamïš ol. sudur-ta söz-lämäki ärsär tayanïnglar nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep. tngri burxan-nïng nomlamïš nomïn-ta (inčip) kerdgünüp täginip tuγurγuluq ol adïrt-lïγ odγuraq uqmaq ongarma'q-ïγ「別に企圖を妄起した故に。如何にしてというなら、佛は説かれたのである：經に説くのは、汝ら法に依るべし人へ依るべきではない、と。佛の説いた法において當に信受し、決定に了悟を起こすべきである」。täginip の後に adïrtlγ odγuraq が有り、さらにそれを「ト」記號で削除してあるので、削除に従った。上記ウイグル文は次のように訂正されている：yangluq(-ïnca) turyurmïš üčün öngi<-sin yangïγ kibig>. nädägin teptesär tngri burxan <-nïng sudur-ta yrlïqa-maq-ï ärsär inčä tep> tayanïnglar nom-qa tayanmanglar kiši-kä tep. tngri burxan-nïng nomlamïš nomïn-ta (inčip) kerdgünüp täginip tuγurγuluq ol adïrt-lïγ ödγuraq uqmaq ongarma'q-ïγ「別に企圖を妄起した故に。如何にしてというなら、佛が經に説かれたことは、このように、汝ら法に依るべし、人へ依るべきではない、と。佛の説いた法において當に信受して、決定して了悟を起こすべきである」。なお、本文での修正部分(inčip)は甘肅本(*l*.40)にも現れている。2000~2002 birök adïn kiši-lär-ning nomlamïš yörügi yörügi. tngri burxan-nïng köngül-ingä yaraši ärsär ymä ök tägimlig ol kerdgüngäli tägingäli nägü ol odγuraq turup kiši-sindä「もし、餘人の説いた義が佛の意に適えば、また應に信受すべし。如何にして定んで人に住するのか？」。yörügi は yörügi yörügi と書かれているが、一つは不要である。このウイグル文の全體は次のように訂正されている：birök adïn kiši-lär-ning nomlamïš <-ï yörüg töz-indäki-čä ärip yaraši ärsär tngri burxan-nïng taplaγ-ïnga> ymä ök tägimlig ol kerdgüngäli tägingäli nägü(-lük) ol odγuraq<-lanïp turma'q> kiši-sindä「もし、餘人の説いたものが理として、佛の許しへ適うものなら、また應に信受すべし。如何にして、人において決めて居ることか？」。2002 birök (qayu) söz-lämiš-i の(qayu)は甘肅本(*l*.43)には無い。

2005 2 abipiray-ï-nïng adï ol nom-qa tayanïp kiši-kä tayanmamaq tep
2006 3 有經中 bar sudur-ta šaripudre kikinč berü adï ködrülmiš-kä söz
2007 4 -lämiš-i alqu qamaγ nom-lar-nïng tngri burxan bolmïš ol töz-i yïldïz-ï
2008 5 tngri burxan bolmïš ol köz-i qaraq-ï. tngri burxan bolmïš ol kertü
2009 6 -lüg tayaq-ï tep. sudur-ta söz-läyü tükädmäk üz-ä tngri burxan
2010 7 bolur kertü-lüg tayaq-ï tep. anïn tägimlig ol isdägäli tilägäli
2011 8 azu bu tngri burxan yrlïqamïš mu ol. azu tngri burxan yrlïqamïš ärmäz
2012 9 mü (ol) tep. birök isdämäsär tilämäsär alqu küčsüz bilgä biliglig
2013 10 kiši-lär. azu-ča ymä yangluq uqup bilmiš-lär qayu nomlamïš-nïng azu-ča
2014 11 köni-sin köni ärmäz-in munung uγur-ïnda tiläsär nomladačï kišig
2015 12 ymä ök mün qadaγ bolmaz 以先傳聞 ašnu (öngrä) ödüt äšidmäk
2016 13 üz-ä bu abidarim ärür kadyanapudre arxant yaradmïš tep. amtï
2017 14 tägimlig ol isdägäli tilägäli. azu čïnkertü mü bu kadyanapudre
2018 15 arxant yaradmïš ol. azu bu tngri burxan yrlïqamïš mu ol
2019 68a-1 birök ärür ärsär tngri burxan yrlïqamïš ödrü tägimlig ol kerdgüngäli
2020 2 tägingäli ikiläyü (taqï) nägü ol sezingülüki. birök ärür ärsär kadyanapudre arxant
2021 3 yaradmïš azu munï kändü öz-i mü yaradmïš ol. azu munda tngri burxan
2022 4 -nïng yrlïqamïš-ïn mu ulamïš ol tep munday isdäsär tiläsär munda
2023 5 bolur nägü mün qadaγ 又衆賢云 yänä sanggabadre baxšï söz-lär siz
2024 6 又 söz-läsär siz tegü/täg :: azu-ča ymä bar birär uγuš-luγ(-lar) kiši-sin

2005 abipiray-ï-nïng adï ol は abipiray-ï-nïng adï <bolur>と訂正されている。 2011 azu bu tngri burxan「或はこれは佛が」の bu「これ」は甘肅本(*l*.49)には無い。2012 küčsüz bilgä biliglig「無力の慧もてるもの」＝「劣慧の」。mü (ol) tep の(ol)は甘肅本(*l*.49)にも書かれている。

則ちこの經の意趣の名は「法に依り、人に依らないこと」である、と。經中には、舍利子が世尊に答えて説いたものが有る：「一切衆法の中では佛が根本となったのである。佛が眼目となったのである。佛が諦もてる依となったのである」と。經に已に「佛が諦もてる依となる」と説いたことによって、それで、或はこれは佛が説かれたものか？或は佛が説かれたものではないのか？と應に尋求すべし。もし尋求しないなら、一切の劣慧の人々は、所説のものが正か不正かを誤って了知したであろう。これに由って、能説人を求めるなら、また過失とはならない。先に、この阿毘達磨は迦多衍尼子阿羅漢が造ったものであると傳聞することによって、今、應に尋求すべし：或は眞實にこれは迦多衍尼子阿羅漢の造ったものなのか？或はこれは佛の説かれたものなのか？（と）。もし佛の説かれたものであるなら、即ち應に信受すべし。更に問うべきものは何か？もし迦多衍尼子阿羅漢が造ったものであるなら、或はこれを自身が造ったのか？或はここで佛が説かれたものを繼承したものか？と。このように尋求すれば、ここに何の過失があるのか？

2012~2015 birök isdämäsär tilämäsär alqu kučsüz bilgä biliglig kiši-lär. azu-ča ymä yangluq uqup bilmiš-lär qayu nomlamïš-nïng azu-ča köni-sin köni ärmäz-in munung uγur-ïnda tiläsär nomladačï kišig ymä ök mün qadaγ bolmaz「もし尋求しないなら、一切の劣慧の人々は、所説のものが正か不正かを誤って了知したであろう。これに由って、能説人を求めるなら、また過失とはならない」は次のように訂正されている： birök isdämäsär tilämäsär alqu kučsüz bilgä biliglig kiši-lär. azu-ča ymä <tägmäk üz-ä šašuq yangluq uqmaq ongarmaq- qa bilmäz- lär ärti> qayu nomlamïš(-ï)-nïng azu-ča (ymä) köni-sin <ägri-sin> munung uγur-ïnda tiläsär nomla- dačï kišig ymä ök mün qadaγ bolmaz「もし、尋求しないなら、一切の劣慧の人々は、或は、亂れた理解へ至ることによって、所説のものが、或は正か、不正かを知ることはないのであった。これに由って、能説人を求めるなら、また過失とはならない」。訂正文は解かり易い内容に改められている。本文の nomla- mïš-nïng azu-ča は甘肅本では nomlamïš-nïng azu (*l*.51) と書かれている。šašuq yangluq「亂」cf. 庄垣内(1985) p.70. 2015~2016 ašnu (öngrä) ödüt äšidmäk üz-ä bu abidarim ärür kadyanapudre arxant yaradmïš tep「先にこの阿毘達磨は迦多衍尼子阿羅漢が造ったものであると傳聞することによって」は『順正理論』巻一に同じ内容がある：傳聞尊者迦多衍尼子等造故(大正 Vol. 59 p. 329c)。ödüt = öd「時」-üd (Mong. plural). ödüt äšid-で「傳聞」をあらわす：cf. 2106,2180,2183,2532,2534. kadyanapudre(/katyanaputre/) < Skt. kātyāyanī-putra「迦多衍尼子」。甘肅本(*l*.52)には(öngrä)は現れない。また、üz-ä bu abidarim ärür は甘肅本では üz-ä bu abidarim ärsär ärür(*l*.52)のように ärsär によって主語が明示されている。2020 tägingäli ikiläyü (taqï) の(taqï)は甘肅本(*l*.55)には無い。2021~2022 azu munda tngri burxan-nïng yrlïqamïš-ïn mu ulamïš ol「或はここで佛が説かれたものを繼承したものか？」は次のように訂正されている：azu munda tngri burxan-nïng <nomlamïš>-ïn <ulap qïlmïš mu> ol「或はここで佛が説いたものを繼承して作ったのか？」。2023~2024 yänä sanggabadre baxšï söz-lär siz 又 söz-läsär siz tegü/täg「又、衆賢師あなたは・・・・説く」。ウイグル文中の「又」以下を採用するなら「説くなら」となる。söz-lär siz はさらに傍注で söz<-lädingiz>「(あなたは)説いた」と訂正されている。甘肅本(*l*.58)にもこの同じ注釋「又 söz-läsär siz tegü/täg」がみられる。また uγuš-luγ(-lar)の-lar は甘肅本(*l*.59)には書かれている。

2025 7 tuda ülgüläp bilip nomladačï kišig temin ök kerdgündäči tägindäči
2026 8 tep bu ymä ök anday ärmäz nädägin teptesär adï ködrülmiš yrlïqamïš
2027 9 üčün tayanïnglar nom-qa. tayanmanglar kiši-kä tep. anïı bilmiš kärgäk
2028 10 tägimlig ärmäz kiši-sin tuda tänglägäli 今言知能説人 amtï
2029 11 söz-läsär siz bilip nomladačï kišig temin ök tuγurur-lar kerdgün
2030 12 -mäk täginmäk-ig tep. kiši-sin tuda tänglämäk čïnkertü yörüg
2031 13 töz-ingä yaraši bolmaz. anï üčün vasubandu baxšï bar qïl-mïš-qa
2032 14 bu üküš tälim abipiray-ïγ. ašnu-ča sezik turγurup söz-lämiš
2033 15 ol qayu tïldaγ-ïn nomladï ol abidarim-ïγ. kim ärti yänä ašnu
2034 68b-1 nomladačï abidarim-ïγ. inčip amtï ayaγ-qa tägimlig šasdr-a-kare
2035 2 vasubandu baxšï-y-a ayayu ayïrlayu uqïdu yörmiš-ingiz kärgäk tep
2036 3 šlok-ta yumdarïp kikinč berü söz-lämiš ol 論頌曰。若離
2037 4 擇法定无餘 qaltï nomuγ adïrtlamaq-ta öngi odγuraq yoq
2038 5 ärür adïn. alqu niz-vanï-lar-ïγ taryardačï yeg adruq al aldaγ.
2039 6 niz-vanï-lar uγur-ïnda yerdinčü qalngulayur bolmaq-lïγ taluy-ta tep.
2040 7 bu tïldaγ-ïn ter-lär tngri burxan yrlïqamïš ol abidarim-ïγ tep ::
2041 8 論曰 qaltï nomuγ adïrtlamaq-ta adïn öngi yoq ärür yeg adruq al
2042 9 aldaγ. taryardačï alqu niz-vanï-larïγ. alqu niz-vanï-lar uyur kim
2043 10 yerdinčüg qalanguladγalï tägzindürgäli sansar-lïγ uluγ taluy-ta tep
2044 11 釋曰 küsäsär taryaryalï niz-vanï-larïγ. nom adïrtlamaq-ta öngi
2045 12 yoq adïn al aldaγ. nädägin bolur bilgäli nom adïrtlamaq-nïng niz
2046 13 -vanï taryardačï-sïn angayu al aldaγ yoq-ïn teptesär 如經説
2047 14 云 qaltï sudur-ta yrlïqamïš ol inčä tep. kim-lär bir nomuγ ödgür
2048 15 -mäsär bilmäsär män arïdï söz-lämäz män uyur köni-sinčä alqγalï.
2049 69a-1 ämgäkig tep. yerdinčü-täki-lär-ning ymä ök bar söz-lämiš-i vyančan-ta
2050 2 taš öngi umaz uqïdγalï ol sav-lïγ ün-nüng adïrt-ïn tep. anïn
2051 3 bilmiš kärgäk niz-vanï taryardačï ärsär yindäm ärür nom adïrtlamaq munda
2052 4 taš öngi yoq yeg adruq al aldaγ tep. 問 niz-vanï-larïγ taryarmasar
2053 5 yörüg töz-indä bar qayu tïdïγ-ï tep bu yörüg-kä udru šasdr-ta (käntü) kikinč
2054 6 berü söz-lämiš ol alqu niz-vanï-lar uyur kim yerdinčüg qalangulat

又、衆賢師あなたは、或は、一類の人を約して能説人を量知し、方に信受するものが有る、と説く。これもその通りではない。如何にしてかと云うなら、世尊は「法に依るべし、人に依るべからず」と説かれた故に。それ故、應に人を約して比量するべきでない（と）了ぜねばならない。今、能説人を知って、方に信受を起こす、と説くなら、人を約して比量することが眞實の理に適うものとはならない。それ故、世親師はこの多くの意趣を有らしめることに對して、先に疑いを起こして説いたのである：「何の因で阿毘達磨を説いた、だれが復た先に阿毘達磨を説くものであったのか？」（何因説彼阿毘達磨 誰復先説阿毘達磨）（と）。今、尊者論主世親師よ、あなたは恭敬し、解釋せねばならない、と。

頌に通して答えて説いた：**『若し擇法を離れては、定んで、餘の諸煩惱を滅する勝れた方便は無いのである。煩惱に由って世間は有海に漂うと。これに因って、佛が阿毘達磨を説かれたと傳わる。論曰。若し擇法を離れては、勝れた方便にして諸煩惱を滅するものは無いのである。諸煩惱は能く世間を生死の大海に漂轉させる』**（頌曰若離擇法定無餘　能滅諸惑勝方便　由惑世間漂有海　因此傳佛説對法　論曰若離擇法無勝方便能滅諸惑諸惑能令世間漂轉生死大海）と。

釋曰：煩惱を滅することを欲するなら、擇法よりほかに餘の方便は無い。如何にして擇法が煩惱を滅することを、別の方便の無いことを知り得るのかと云えば、謂わく、經に次のように説かれた：「もし(我れが)一法に達しないなら、知らないなら、我れは終に苦を正しく盡くし得るとは説かない」（と）。世間のものらの説いたものが有る：「文を除いて、言聲の差別を顯わすことはできない」と。それ故、煩惱を滅するものは唯だ擇法のみである。これよりほかに勝れた方便は無いと知らねばならない。問：煩惱を斷たないなら、理において何の障礙が有るのか？と。

2030~2032 kiši-sin tuda tänglämäk čïnkertü yörüg töz-ingä yarašï bolmaz. anï üčün vasubandu baxšï bar qïl-mïš-qa bu üküš tälim abipiray-ïγ「人を約して比量することが眞實の理へ適うものとならない。それ故、世親師はこの多くの意趣を有らしめることに對して」。このウイグル文は次のように訂正されている：kiši<-si üz-ä> tänglämäk čïnkertü <yarašï bolmaz yörüg töz-ingä>. anï üčün vasubandu baxšï bar qïl<-maq üz-ä> bu üküš tälim abipiray(-lar)-ïγ. ašnu-ča sezik turγurup söz-lämiš「人によって比量することが眞實、理へ適うものとはならない。それ故、世親師はこの多くの意趣を有らしめることによって」。2043 qalanguladγalï < qalnguladγalï. 2047~2049 qaltï sudur-ta から alqγalï ämgäkig tep までは『順正理論』の内容と對應する：若於一法未達未知。我終不説能正盡苦。(大正 Vol.29 p. 329c)。2048 arïdï söz-lämäz män は arïdï <yrlïqa- maz> män と訂正されている。2049~2050 yerdinčü-täki-lär-ning ymä ök bar söz-lämiš-i vyančan-ta taš öngi umaz uqïdγalï ol sav-lïγ ün-nüng adïrt-ïn tep「世間のものらの説いたものが有る：「文を除いて、言聲の差別を顯わすことはできない」と」。このウイグル文は次のように訂正されている：yerdinčü-täki-lär-ning ymä ök bar söz-lämiš-i vyančan (yangïn)-ta taš öngi <又 yoq ärür ädräm uqïdγuluq ol sav-lïγ ün-nüng adruq-ïn tep ymä ter>「世間のものらの説いたものが有る、文の型を除いて、その言聲の差別を顯わす德はないと」。2053~2054 yörüg töz-indä bar qayu tïdïγ-ï tep bu yörüg-kä udru šasdr-ta (käntü) kikinč berü söz-lämiš ol 「理において何の障礙が有るのか？と。この義に對しては論に自ずから答えて説いた」。このウイグル文は次のように訂正されている：yörüg töz<-ingä> bar <nägü> tïdïγ-ï tep bu yörüg-kä udru šasdr-ta (käntü) kikinč berü söz-lämiš ol 「理へ何の障礙が有るのかと。この義に對して、論に自ずから答えて説いた」。甘肅本(*l*.80)にも käntü は書かれているのでこれは訂正文を採用した。

2055 7 -γalï tägzindürgäli sansar-lïγ uluγ taluy-ta tep 生死有其二
2056 8 義 sansar-nïng bar anda iki türlüg yörüg-lär-i uluγ taluy birlä
2057 9 birikgülük ang'ilki täringi üz-ä alp bolur bulγalï tüpin ikinti
2058 10 kengi üz-ä alp bolur üngäli sansar ymä andaγ oq 求息苦源
2059 11 ämgäk-ning töz-in amïrt{γ}uryalï tilädäči-lär-kä täringi üz-ä
2060 12 bulγalï bolmaγuluq ärür tüz-ün yol-luγ kemi bolmaγïnča yoq üčün
2061 13 uγur-ï yïq-ï ödgürgäli bolγuluq anïn söz-lämiš ol täringi
2062 14 üz-ä alp bolur bulγalï tüpin tep. sansar uzun ïraq ärip tüz
2063 15 -ün yol alp bulγuluq üčün anïn söz-lämiš ol. kengi üz-ä alp
2064 69b-1 üngülük tep 漂轉者 qalangulamaq tägzinmäk ärsär. üč uγuš
2065 2 -lar-ta beš ažun-lar-ta basa basa alïp alqu ažun-larïγ 又
2066 3 tïnlγ-lar alqu ažun-lar-ta ymä/ter. bavagir-tïn aviš tamu-qadägi tuγup
2067 4 aqïγ-lïγ-ta niz-vanï qïlïnč üz-ä qalangulayu yügürü tägzinip tulïnïp
2068 5 aqïlïp ävrilip kim tuγmaq qarïmaq ölmäkig basa basa bir ikinti-kä
2069 6 yïγmaq tušušdurmaq ärür. 論 bu tïldaγ-ïn ter-lär tngri burxan yrlïq

---

2056 iki türlüg yörüg-lär-i は甘肅本(J.81)には iki türlüg yörügi と書かれている。2057~2058 ang'ilki täringi üz-ä alp bolur bulγalï tüpin ikinti kengi üz-ä alp bolur üngäli「第一はその深いことによって底を得ること叶い難い。第二はその廣いことによって出ること叶い難い」。このウイグル文は次のように訂正されている：ang'ilki täringi üz-ä alp <bulγuluq ärür> tüpin ikinti kengi üz-ä alp bolur (üčün) üngäli「第一はその深いことによってその底を得難いことである。第二はその廣いことによって出ること叶い難いため」。

この義に對しては論に自ずから答えて説いた：「諸煩惱は能く世間を生死の大海に漂轉させる」（諸惑能令世間漂轉生死大海）と。生死には、そこに大海と同じくするところの二種の義が有る。第一は（大海は）その深いことによって底を得ること叶い難い。第二は（大海は）その廣いことによって出ること叶い難い。生死もまたその通りである。苦の源を求息するものらにとっては、その深いことによって得ることのできないところである。聖道の舟が無いかぎり、了達す容きことが無い故、それで、「深いことによってその底を得難い」と説いたのである。生死は長遠であり、聖道は得難いものの故に、「その廣いことによって出難いもの」と説いた。「漂轉」とは、三界五趣において、次々と諸の生を得て、有頂天から無間地獄にまで生まれ、有漏において煩惱業によって漂い、旋環し、生、老、死を流轉し、次々と互いに、集會させることである。

2059~2062 ämgäk-ning töz-in amïrt{γ}uryalï tïlädäči-lär-kä täringi üz-ä bulγalï bolmayuluq ärür tüz-ün yol-luγ kemi bolmayïnča yoq üčün uγur-ï yïq-ï ödgürgäli bolγuluq anïn söz-lämiš ol täringi üz-ä alp bolur bulγalï tüpin tep「苦の源を求息するものらにとっては、その深いことによって得ることのできないところである。聖道の舟が無いかぎり、了達す容きことが無い故、それで、「深いことによってその底を得難い」と説いたのである」。このウイグル文は次のように訂正されている：<tïläsär amïrdyuryalï ämgäk-ning. töz-in> täringi üz-ä <bolmaz bulγalï näng> tüz-ün yol-luγ kemi <bolma-sar bolmaz> üčün uγur-ï yïq-ï ödgürgäli bolγuluq anïn söz-lämiš ol täringi üz-ä alp <bulγuluq ärür> tüpin tep「苦の源を求息するなら、その深いことによって、得ることはできない。聖道の舟が無いなら、決して了達す容きことが無い故、それで、「深いことによってその底を得難いものである」と説いたのである」。和譯の「求息する」はウイグル文中の漢語「求息」に從った。本文の amïrt{γ}ur- tïlä-に對して 訂正文では tïlä- amïrdyur-のように漢文語順に一致させている。2063~2064 kengi üz-ä alp üngülük「その廣いことによって出難いもの」は kengi üz-ä alp <üngäli bolγuluq ärür>「その廣いことによって出ること叶い難いもの」に訂正されている。2065 basa basa alïp は basa basa <tudup>に訂正されている。意味に變わりはない。2064~2066 qalangulamaq tägzinmäk ärsär. üč uγuš-lar-ta beš ažun-lar-ta basa basa alïp alqu ažun-larïγ 又 tïnlγ-lar alqu ažun-lar-ta ymä/ter. bavagir-tïn aviš tamu-qadägi tuγup「「漂轉」とは、三界五趣において、次々と諸の生を得て、有頂天から無間地獄にまで生まれ」。「又」以下の訂正文 tïnlγ-lar alqu ažun-lar-ta「衆生は諸生において」は üč uγuš-lar-ta beš ažun-lar-ta「三界五趣において」に對する置き換えを指すものである。同じ注記は甘肅本(*l*.89)にもみられる。2067 aqïγ-lïγ- ta niz-vanï qïlïnč üz-ä qalangulayu yügürü「有漏において煩惱業によって漂い」は<kkir-lig bolmaq>-ta niz-vanï qïlïnč üz-ä <toqïdïlu > yügürü「染となることにおいて、煩惱業によって搖れ」に訂正されている。2069 yïγmaq tušušdurmaq ärür「集會させることである」は yïγmaq <tušγurmaq> ärür に訂正されている。なお、 bu tïldaγ-ïn ter-lär の下線部分には削除記號が付せられ、 munung tïldaγ-ïnda temäk arür と訂正されているが、その訂正も削除されてしいる。

2070 7 -amïš ol abidarim-ïγ küsämiš üčün kim yerdinčü-täki-lär-kä (bulduryalï) nom adïrt
2071 8 -lamaq-ïγ tep ulatï tep 釋曰 bu tïldaγ-ïn teptemiš-i ärsär.
2072 9 qaltï bu (nom) adïrtlamaq tïldaγ-ïnda tep (timäk) ärür. ter-lär tngri burxan
2073 10 yrlïqamïš ol abidarim-ïγ teptemiš-i ärsär. tngri burxan birök
2074 11 yrlïqamamïš ärsär. šaripudre-ta ulatï alqu maxa širavak-lar-nïng
2075 12 ymä ök bolmaγay ärti umaq-ï alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz
2076 13 -inčä saqïnγalï adïrtlaγalï 此擇法者 bu nom adïrtlamaq ärsär
2077 14 ärür üčün burxan-lïγ uluγ baxšï-nïng iš-i küdüki küsämiš üčün amtï
2078 15 yerdinčü-däki-lär-kä bulduryalï nom adïrtlamaq-ïγ bu tïldaγ-ïn
2079 70a-1 adï ködrülmiš yrlïqamïš ol bu abidarim-ïγ tep 問 nädägin bolur bilgäli
2080 2 nom adïrtlamaq-nïng niz-vanï taryardačï al aldaγ ärdükin angayu al aldaγ
2081 3 yoq-ïn tep. 答 nom adïrtlamaq ärür üčün biligsiz-ning yöründäki
2082 4 biligsiz uγur-ïnda anïn turur alqu niz-vanï-lar. birök bulsar nom ad
2083 5 -ïrtlamaq-ïγ niz-vanï-lar tuγmaz üčün anïn bilmiš kärgäk nom adïrtlanmaq
2084 6 -nïng niz-vanï taryardačï al aldaγ ärtükin angayu al aldaγ yoq-ïn tep
2085 7 問 qayu tïldaγ-ïn nomladï ol abidarim-ïγ tep 答為擇簡法
2086 8 bölgälir adïryalïr üčün nomuγ. karik-ta odγuraq yoq adïn temäk

---

2070~2071 küsämiš üčün kim yerdinčü-täki-lär-kä (bulduryalï) nom adïrtlamaq-ïγ tep ulatï tep「世間のものらに擇法を得させることを欲した故と等と」。このウイグル文は次のように訂正されている：küsämiš üčün kim yerdinčü-täki-lär-kä (bulduryalï) nom adïrt-lamaq-ïγ <abidarim-ïγ nomlamaq-ta öngi tïdsï-lar umaz üčün alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz-indäki-čä bölgäli adïrt-layalï inčip adï ködrülmiš orun orun sayu sačuq-luγ-ïn yrlïqamïš ärür abidarim-ïγ tep ::>「世間のものらに擇法を得させることを欲した故。阿毘達磨を説くことを離れて弟子は諸法の相を理のごとく揀擇することができない故。然るに、世尊が處々に阿毘達磨を散説されたのである、と」。この訂正文は漢文とよく對應している。ただし、töz-indäki から 末尾の tep ::までは欄外に書かれている。(bulduryalï)は甘肅本(*I*.93)にも現れる。2072 行間に書かれた插入の(nom)も(temäk)も甘肅本本文(*I*.94)に現れる。

論：『此れに因って傳説する、佛が彼の阿毘達磨を説かれた、世間のものらに擇法を得させることを欲した故と等と。』（因此傳佛説彼對法欲令世間得擇法故）。

釋曰：「此れに因って」（因此）と云ったのは、謂わく「この擇法の因で」と云うことである。「傳説する、佛が彼の阿毘達磨法を説かれた」（傳佛説彼對法）と云った。佛がもし（阿毘達磨法を）説かれかったのなら、舎利子等の諸大聲聞には、亦、諸法の相を理のごとくに能く揀擇することが無かったであろう。この擇法は佛なる大師の作用であるため、今、世間のものらに擇法を得させることを欲したために、これに因って世尊はこの阿毘達磨を説かれたのであると。問：如何にして擇法が煩惱を滅する方便であること、別の方便の無いことを知り得るのか？と。答：擇法は無知への對治である故。無知に由って、諸煩惱は起こる。もし、擇法を得るなら煩惱は起こらない故、それで擇法が煩惱を滅する方便であること、別の方便の無いことを知らねばならない、と。問：何の因で彼の阿毘達磨を説いたのか？と。

2073~2076 tngri burxan birök yrlïqamamïš ärsär. šaripudre-ta ulatï alqu maxa širavak-lar-nïng ymä ök bolmayay ärti umaq-ï alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz-inčä saqïnγalï adïrtlaγalï「佛がもし説かれかったのなら、舎利子等の諸大聲聞には、亦、諸法の相を理のごとくに能く揀擇することは無かったであろう」。このウイグル文は『順正理論』に對應している：佛若不説。舎利子等諸大聲聞。亦無有能於諸法相如理揀擇。（大正 Vol.29, p.329c）。 ウイグル文はさらに次のように訂正されている。：tngri burxan birök <nomlamadï> ärsär. šaripudre-ta ulatï alqu maxa širavak-lar-nïng ymä ök <bolmaz> ärti <ädräm>-i alqu nom-lar-nïng töz-in yörüg töz- inčä saqïn<-γuluq> adïrtla<-γuluq>「佛がもし説かなかったなら、舎利子等の諸大聲聞には、亦、諸法の相を理のごとくに揀擇するべき德は無かった」。訂正前が漢文にはよく對應している。maxa širavak < Skt. mahā-śrāvaka「大聲聞」。2078 yerdinčü-däki-lär-kä「世間のものらへ」に對して甘肅本（*l*.99）ではこのウイグル語にさらに ol「その」が冠されている。2082 biligsiz uγur-ïnda「無知に由って」は biligsiz（yangïl- maq）uγur-ïnda「無知が誤ることに由って」と訂正されている。2085 qayu tïlday-ïn nomladï「何の因で・・・を説いたのか？」は qayu tïlday-ïn <yrlïqadï>「何の因で・・・を説かれたのか？」と訂正されている。2086 bölgälir adïrγalïr「揀擇するため」に對して甘肅本（*l*.105）では bölgälir adïrtlaγalïr と書かれている。甘肅本の形式が一般的といえる。

2087 9 -tä aldïn-qï-sï üz-ä uqïdur nom adïrtlamaq-nïng asïγ-ïn
2088 10 tusu-sïn öngdün sezik ayïdu söz-lädüktä kim ärti yänä ašnu
2089 11 nomladačï abidarim-ïγ tep kikinč berü söz-lämädimü ärti adï ködrül
2090 12 -miš (ašnu-ča) nomlamïš ol tep 此頌之中 bu karikda yumdaru bar beš
2091 13 türlüg abipiray-lar. ang'ilki söz-läyür abidarim-nïng tïldaγ-ïn
2092 14 ikinti uqïdur nom adïrtlamaq-nïng asïγ-ïn üčünč uqïdur niz
2093 15 -vanï taryarmaq-ïγ tördünč uqïdur nomladačï kišig bešinč uqïdur
2094 16 sodurandike ni'kay-lïγ-lar-nïng abipiray-ïn karikda söz-lägüči 若離擇
2095 70b-1 法定无餘 qaltï nom adïrtlamaq-ta öngi odγuraq yoq adïn
2096 2 alqu niz-vanï-larïγ taryardačï yeg adruq al aldaγ tep iki padak
2097 3 -lar büdün ulatï kenki padak-taqï bu tïldaγ-ïn tegüči iki užik-lär
2098 4 üz-ä munï üz-ä uqïdur iki abipiray-larïγ ang'ilki söz-läyür abidarim
2099 5 -nïng tïldaγ-ïn ikinti nom adïrtlamaq-nïng asïγ-ïn niz-vanï-lar uγur
2100 6 -ïnda yerdinčü qalngulayur bolmaq-lïγ taluy-ta tegüči bir padak üz-ä
2101 7 uqïdur üčünč abipiray-ïγ. birök taryarmasar niz-vanï-lar-ïγ inčip
2102 8 qalngulayur bolmaq-lïγ taluy-ta. kenki padak-ta tngri burxan yrlïqamïš ol (abidarim-ïγ)
2103 9 tegüči tört užik-lär üz-ä uqïdur nomladačï kišig ter-lär tegüči bir
2104 10 užik üz-ä yörär 又 ündürür ymä/ter. sudur-andike ni'kay-lïγ-lar-nïng
2105 11 abipirayïn 經部問云 suturandike ni'kay-lïγ-lar sezik ayïdu
2106 12 söz-lär. ödüt äšidilür abidarim ärür san-lïγ kiši nomlamïš
2107 13 qaltï inyanaparasdan šasdr-ïγ ayaγ-qa tägimlig kadyanapudre arxant
2108 14 yaradmïš ärür. prakaranapt šasdr-ïγ ayaγ-qa tägimlig vasumidre
2109 15 baxšï yaradmïš ärür 識身足論 vidyanakayapt šasdr-ïγ
2110 71a-1 devašarme arxant yaradmïš ärür. darmasikandapat šasdr-ïγ
2111 2 ayaγ-qa tägimlig mxamodgalayane arxant yaradmïš ärür 又 užik-in

答：法を揀擇するため（である）。本頌において「定んで餘の・・無い」（定無餘）と云うところより以下のものによって、擇法の利益を顯わす。以前に問うて「だれが復た先に、阿毘達磨を説くものであったのか？」（誰復先説阿毘達磨）と説いたときに、「世尊が先に説いたのである」と（問いに對して）答えて言わなかったか？この本頌には、總じて五種の意趣が有る。第一に、阿毘達磨の因を説く、第二に、擇法の益を顯わす、第三に、煩惱を滅することを顯わす、第四に、能説人を顯わす、第五に、經量部の意趣を本頌に説くものを顯わす。「もし擇法を離れては定んで餘の諸煩惱を滅する勝れた方便は無い」（若離擇法定無餘　能滅諸惑勝方便）と云う二句全て、及び（最）後の句にある「此の因で」（因此）と云う二文字において、これを以て二つの意趣を顯わす。第一に阿毘達磨の因、第二に、擇法の益を説く。「煩惱に由って、世間は有海に漂う」（由惑世間漂有海）と云う一句によって、第三の意を顯わす：もし煩惱を滅さないなら、即ち有海に漂う。（最）後の句における「佛が阿毘達磨を説かれた」（佛説對法）と云う四字によって能説人を顯わす。「傳う」（傳）と云う一字によって、經量部の意趣を釋す。經量部のものらは問うて云う：傳聞するには、阿毘達磨は數々の人が説いたのである。謂わく、『發智論』（Jñānaprasthāna-śāstra）を尊者迦多衍尼子（Kātyāyanī-putra）阿羅漢が造ったのである。『品類足論』（Prakaraṇapāda-śāstra）を尊者世友（Vasumitra）師が造ったのである。『識身足論』（Vijñānakāyapāda-śāstra）を提婆設摩（Devaśarman）阿羅漢が造ったのである。『法蘊足論』（Dharmaskandhapāda-śāstra）を尊者大目乾連（Mahāmaudgalyāyana）阿羅漢が造ったのである。

2090　行間挿入語（ašnu-ča）は甘肅本（*l*.108）では本文に書かれている。2094　sodurandike nik'ay (/soturantike nikay/) < Skt. sautrāntika (sūtrāntika?)-nikāya「經（量）部」。2102　行間挿入語（abidarim-ïγ）は甘肅本（*l*.118）では本文に書かれている。2103~2105　ter-lär tegüči bir užik üz-ä yörär 又 ündürür ymä/ter. sodur-andike ni'kay-lïγ-lar-nïng abipirayïn「「傳う」（傳）という一字によって、經量部の意趣を釋す」。ウイグル文の「 又 ündürür ymä/ter」は直前の yörär 「釋す」を「上らせる」に訂正したものである。同じ訂正文は甘肅本（*l*.119）にもある。2105　「經部問云」は甘肅本（*l*.120）では「經部云問」と書かれている。2108　prakaranapt šasdr < Skt. prakaraṇa-pāda-śāstra「品類足論」。 vasumidre (/vasumitre/) < Skt. vasumitra「世友」。2109　vidyanakayapt šasdr < Skt. vijñāna-kāya-pāda-śāstra「識身足論」。2110　devašarme < Skt. devaśarman「提婆設摩」。 darmasikandapat šasdr < Skt. dharma-skandha-pāda-śāstra「法蘊足論」。2111~2112　又 užik-in-tä yangluq-sïγ turur. šaripudre ärür tep/temiš「又、その文において舍利子なり、といった誤りが起こる」は、先行する mxamodgalayane「大目乾連」を誤って šaripudre「舍利子」(šāriputra) とする文もあることを示している。この注釋文に對して甘肅本では次のように書かれている：又 užik-indä yangluq-sïγ turur. šaripudre arxant yaradmïš ärür tep/temiš（*ll*.125-126）「又、その文において舍利子が造ったのであるといった誤りが起こる」。 mxamodgalayane < Skt. mahāmaudgalyāyana「大目乾連」。mxamodgalayane　arxant に對して甘肅本（*l*.125）では modgalayane が立っている。pradniyapdipat šasdr (/pradniyaptipat šastr/) < Skt. prajñaptipāda-śāstra「施設足論」。 yangluq 「誤り」 -sïγ (den.noun).

2112 3 -tä yangluq-sïγ turur. šaripudre ärür tep/temiš pradniyapdipat šasdr-ïγ
2113 4 ayaγ-qa tägimlig kadyayane arxant ärür 又 užik-indä maxa-modgala
2114 5 -yane arxant yaradmïš ärür ymä/temiš 界身足論 tadu-kayapat
2115 6 šasdr-ïγ ayaγ-qa tägimlig vasumidre baxšï yaradmïš ärür 又 užik
2116 7 -indä <purne> arxant yaradmiš ymä tep/temiš :: 集異門足論
2117 8 sangida-piryayipat šasdr-ïγ ayaγ-qa tägimlig šaripudre arxant
2118 9 yaradmïš ärür 又 užikindä maxa-košdile arxant yaradmïš ärür ymä/temiš
2119 10 nädägin munda söz-läyür siz-lär abidarim ärür tngri burxan yrlïqa
2120 11 -miš tep üsdün sezik ayïdu tükädmäk üz-ä kikinč bergälir
2121 12 üčün bu sezik-kä anïn šasdr-ta söz-lämiš ol inčä tep inčip
2122 13 burxan adï ködrülmiš orun orun sayu sačuq-luγ-ïn yrlïqamïš ärür
2123 14 abidarim-ïγ. bu abidarim ärsär qudruldačï vaynike-lar eyin töz
2124 15 -lär-in adïrmïš üčün. sezik eyin kikinč bermiš ärür.
2125 71b-1 orun üz-ä öd üz-ä quvraγ üz-ä adïrïlmiš üčün. anïn
2126 2 söz-lämiš ol sačuq-luγ-ïn yrlïqamïš tep. 論 ayaγ-qa tägimlig
2127 3 kadyanapudre-ta ulatï alqu maxa širavak-lar sanggit qïlïp
2128 4 ornadïp urdï-lar inčä qaltï ayaγ-qa tägimlig tarmadirate
2129 5 baxšï nä ymä yïγmïš täg anityadavarg-ta ulatï-lar-ïγ udan
2130 6 šlok üz-ä tep 釋曰 alqu maxa širavak-ta ulatï teptemiši ärsär
2131 7 qaltï munda yänä vaybašike-lïγ baxšï-lar ter-lär qaltï munda
2132 8 又 mundaγ ymä/ter. altï türlüg ridi bögülänmäkig buldačï-lar-ïγ tuda
2133 9 küsüš bilir bilgä biliglig-lär ärsär. azu-ča ymä tngri burxan
2134 10 äsän ärkän-ki ötdä azu-ča ymä tngri burxan nirvan bulmïš-ta
2135 11 ken. küsüš bilir bilgä biliglig küč üz-ä qolulap nom ediz-i
2136 12 -ning köngül-in. yänä qolulap nom-nung töz-in činïnča kertü-sinčä
2137 13 qolulayu tükätdüktä sanggit qïlïp ornadïp urdï-lar 雜
2138 14 蘊等 pirakaranasikandak-ta ulatï-larïγ. inčä qaltï ayaγ
2139 15 -qa tägimlig darmatirate baxšï nä ymä yïγmïš täg anidy-a

---

2113~2114 又 užik-indä maxa-modgala-yanï arxant yaradmïš ärür ymä/temiš「又、文においては大目乾連阿羅漢が造ったのであるともいった。」は kadyayanï「迦多衍尼子」に替えて maxa-modgala-yanï「大目乾連」を立てる文の有ることを述べている。kadyayane(/katyayane/) < Skt. kātyāyana「迦多衍那」。ayaγ-qa tägimlig kadyayanï arxant ärür は甘肅本(/.126)では ayaγ-qa tägimlig kadyayane arxant yaradmïš ärür「尊者迦多衍那阿羅漢が造ったのである」と正しく書かれている。

『施設足論』（Prajñaptipāda-śāstra）を尊者迦多衍那（Kātyāyana）阿羅漢（が造った）のである。『界身足論』（Dhātukāyapāda-śāstra）を尊者世友師が造ったのである。『集異門足論』（Saṃgītiparyāyapāda-śāstra）を尊者舎利子阿羅漢が造ったのである。ここで、阿毘達磨は佛が説かれたものであると如何にして汝らは云うのかと、已に上で問うたことにおいて、その疑問へ答えるために、論に次のように説いたのである：「然るに、佛世尊が處々に阿毘達磨を散説されたのである」（然佛世尊處處散説阿毘達磨）、（と）。

この阿毘達磨は所化に隨ってその性を差別した故、疑に隨って答えたのである。處によって、時によって、衆によって差別された故、それで「散説された」と説いたのである。

論：**『大德迦多衍尼子等の諸大聲聞が結集して、安置した。猶、大德法救師が無常品等を鄔拘南頌において集めたところのごとし』**（大德迦多衍尼子等諸大聲聞結集安置猶如大德法救所集無常品等鄔拘南頌）と。

釋曰：「諸大聲聞」等と云った。謂わく、ここでまた毘婆沙師が傳説する：ちょうどここに六種神通を得るものを約して、願智もてるものらは或は佛が健在の時に或は佛が滅度した後に願智力によって法のその崇高の意を觀察しまた法相を觀察し、如實に觀察し終えたとき雜蘊（Prakaraṇa-skandhaka）等を結集安置した。

2114 tadu-kayapat šasdr(/datukayapat šastr/) < Skt. dhātukāyapāda-śāstra「界身足論」。2115~2116 又 užik-indä <purnī> arxant yaradmiš ymä tep/temiš「又、その文において、富樓那阿羅漢が造ったともいった」は vasumidre「世友」に替えて purne「富樓那」(Skt. pūrṇa)を立てる文の有ることを述べている。<purne>は訂正形式で、訂正前は purnase と書かれていた。甘肅本にもこの注釋文はあるが(*l.*128)、purne ではなく purnase が立っている。2117 sangida-piryayipat šasdr(/sangita-piryayipat šastr/) < Skt. saṃgītiparyāyapāda- śāstra「集異門足論」。 Cf. 2217、2251. 2118 又 užikindä maxa-košdile arxant yaradmiš ärür ymä/temiš「又、その文において、大拘稀羅阿羅漢が造ったのである、ともいった」は šaripudre「舎利子」に替えて大拘稀羅阿羅漢を立てる文の有ることを述べている。 maxa-košdile (/maxa-koštile/) < Skt. mahākauṣṭhila「大拘稀羅」。2121 inčä tep inčip の inčip は甘肅本(*l.*133)には無い。 2127 sanggit < Skt. saṃgīti「結集」。2128 tarmadirate (/darmatirate/ < Skt. dharmatrāta「法救」)は甘肅本(*l.*38)では darmatirate と書かれている。2129 anityadavarg(/anityatavarg/) < Skt. anityatā-varga「無常品」。 udan < Skt. udāna「鄔柁南」。2132 又 munday ymä/ter「又「このように」ともいう」は2131行目末の munda「ここで」の訂正である。この訂正文は甘肅本(*l.*140)にも有る。なお、ridi bögülänmäkig「神通を」に對して甘肅本は ridi bögülän-ig(*ll.*140-141)と書かれているが誤寫と考えられる。2133 küšüš bilir bilgä bilig「願いを知る智」=「願智」。2134 äsän は"s'n と綴られている。2135 küsüš bilir bilgä biliglig küč「願智力」に對して甘肅本(*l.*142)では küsüš bilir bilgälig küč と書かれているが誤寫と考えられる。2138 pirakaranasikandak < Skt. prakaraṇa-skandhaka「雜蘊」。2139 qaltï ayayqa tägimlig darmatirate baxšï nä ymä yïymïš täg「猶、大德法救師が・・・集めたところのごとし」の nä は甘肅本(*l.*145)には無い。 nä ymä はふつう「ともあれ」「なにも」「なんであれ」などの意味をもつ。

2140 72a-1 -tavarg-ta ulatï-larïγ udan šlok üz-ä tep. vaybašike-lïγ
2141 2 baxšï-lar ter-lär mundaγ. udan šlok ärsär azu-ča ymä sudur
2142 3 -taqï azu-ča ymä vinay-taqï orun orun sayu sačuq-luγ-ïn
2143 4 yrlïqamïš-ïγ. ayaγ-qa tägimlig darmatirate baxšï yïγïp
2144 5 qïlmïš ol bölük šlok. munda ymä ančulayu oq ayaγ-qa tägim
2145 6 -lig kadyanaputre-ta ulatï-lar alqu sudur-lar-ta vinay-lar-ta
2146 7 ävdip yïγïp alqu abidarim-lar-nïng yörügin ornadïp urdï-lar
2147 8 sanggit qïlïp. bu abidarim ärsär töz-i ärür tngri burxan yrlïqamïš
2148 9 bu oq inčip kašmir el-lig vaybašike-lïγ baxšï-lar-nïng söz
2149 10 -lämiš abipiray-ï munday ärür 故論云 anïn šasdr-ta söz-lämiš
2150 11 ol vaybašike-lïγ baxšï-lar ter-lär mundaγ tep udan teptemiš-i
2151 12 ärsär bar iki türlüg yörüg-lär. ang'ilki ävdimäk yïγmaq tep
2152 13 yörüg'ol. ikinti ögirtdürtäči sävintürdäči tep yörüg'ol ::
2153 14 ävdimäk yïγmaq tep yörüg'ol teptemiš-i ärsär. qaltï tngri
2154 15 burxan sudur-uγ nomlayu tükätdüktä bar ärsär ken käldäči-lär
2155 72b-1 adï ködrülmiš yïγïp alïp öngdünki qayu nomlamïš(-ïn) tügüp
2156 2 šlok (taqšut) qïlïp olar-qa qadnayu nomlamïš üčün adamïš ol ävdimäk
2157 3 yïγmaq tep. yörüg'ol tep. ögirtdürtäči sävindürtäči tep yörüg
2158 4 ol teptemiš-i ärsär. adï ködrülmiš ür ïraq bodistv ärkän
2159 5 -ki ötdä bar qïlïp küsüš-üg küsämiš ärür käntü öz-üm
2160 6 ozup qudrulup ymä ök adïn-larïγ ozγurayïn qudγarayïn
2161 7 tep. küsämiš ärür. käntü öz-üm uqup nomuγ ymä ök kim adïn
2162 8 -lar-qa uqïdayïn tep. 成正覺時 tükäl-lig bolmïš ötdä köni
2163 9 tuymaq-qa käntü öz-i oz-a qudrulu tükädip yänä käntü öz-i uqup
2164 10 nomuγ bir küsüš-i qana tükätdi. ang'bašlayu nomluγ tilgän ävirmiš
2165 11 ötdä kim adïn-lar-qa nomuγ uqïdïp ymä ök kim ozγurup
2166 12 qudγarïp. bu ikinti küsüš-i ymä qandï iki türlüg küsüš-i qana
2167 13 tükätdüktä tuγurmïš üčün uluγ ögrünčüg sävinčig nom nom
2168 14 -lamïš-ta ken tügüp šlok qïlïp uqïdmïš ärür ögirmiš sävinmiš
2169 15 -i-ning abipirayïn 以此二義 bu iki türlüg yörüg-lär üz-ä anïn

---

2140~2156 北區石窟本にはこの間に對應する内容がある：
anidyatavarg]1)-ta ulatï[-larïγ] 2) 或 azu-ča[yäma sudurtaqï azuča] 3) yämä vinay-ta[qï] 4) šlok bölügi[ ] 5) burxan yrl[ïqa ang'ilki ävdimäk yïγ] 6)-maq yörüg ol [ikinti ögirtdürtäči sävintürdäči] 7) tep [yör]üg ol [qayu nomla] 8) -mïš-ïn. tügüp [šlok taqšut qïlïp] 9) olar-qa [qatnayu] 10) öngrä [ ](B157:15-2 背 Mirkamal(2005) p.5)
北區石窟本のウイグル文は抜粋文である。兩者の對應箇所は以下の通りである：

北區石窟本	ロンドン本
1)～3)	2140-2142
5)～7)	2151-2152
7)～9)	2155-2156

猶、大德法救師が無常品等を鄔陀南頌において集めたところのごとし、と。毘婆沙師が傳説する：このように鄔陀南頌は、或は經に或は律において處々に散説されたものを、大德法救師が集めて、品、頌になした。ここでまたこのように大德迦多衍尼子などは、諸々の經や律から阿毘達磨の義を集めて、結集安置した。この阿毘達磨のその根本は佛が説かれたものである。則ち迦濕彌羅國の毘婆沙師の説いた意趣はこの如くである。

それ故、論に『**毘婆沙師がこのごとく傳説する**』（毘婆沙師傳説如此）と云った。

「鄔陀南」と云ったが、（これには）二種の義が有る。第一は收集すると云う義である。第二は歡喜させるものと云う義である。「收集と云う義である」と云った：謂わく、佛が經を説き終えたときに、後來（の者ら）が有るなら（と）、以前に説いたところを集め取り結合して頌になし、世尊が彼らに再び説くものの故に、「收集と云う義である」と稱したのである。「歡喜させるものと云う義である」と云った：世尊が久遠に菩薩であったとき、願を有して自身解脱し、また餘らを解脱させたいと欲した。自身が法を了じ、また餘らにも解らせたいと欲したのである。正覺が完成した時、自身は解脱し終え、又自身が法を了じて一つの願は滿ち終えた。最初に法輪を轉じた時、餘らに法を顯わし解脱させて、この第二の願も滿ちた。二種の願が滿ち終えた時に大歡喜を起こしたため、法を説いた後で結んで頌となし、歡喜したことの意趣を顯わしたのである。

2141 munday udan šlok ärsär は munday (munda) udan šlok ärsär「このように(ここで)鄔陀南頌は」のように訂正されている。2152~2153 ikinti ögirtdürtäči sävintürdäči tep yörüg'ol :: ävdimäk yïymaq tep yörüg'ol teptemiš-i ärsär「第二は歡喜させるものという義である。「收集という義である」といった」は甘肅本では ikinti ögirdtürtäči sävindürtäči tep ävdimäk yïymaq tep yörüg ol tep temiš-i ärsär (*l*.155) と書かれているが ävdimäk yïymaq tep の位置が間違っている。2154 ken käldäči「後に來るもの」＝「後來」（後の世の人）。2155 qayu nomlamïš (-ïn)「説いたところを」の-ïn は甘肅本 (*l*.156) にも書かれている。2156 šlok (taqšut) qïlïp「頌に爲し」の taqšut は甘肅本 (*l*.156) には無い。2159~2161 käntü öz-üm ozup qudrulup ymä ök adïn-larïγ ozyurayïn qudyarayïn tep. küsämiš ärür「自身解脱し、また餘らを解脱させたいと欲した」に對して甘肅本では käntü öz-üm ozup qudrulup ymä ozyurayïn qudyarayïn adïn-larïγ küsämiš ärti (*l*.159) と書かれている。甘肅本の adïn-larïγ küsämiš の間には tep が必要である。2162~2163 tükäl-lig bolmïš ötdä köni tuymaq-qa käntü öz-i oz-a qudrulu tükädip「正覺が完成した時、已に自身は解脱し」は甘肅本では：tükäl-lig bolmïš ötdä köni tüz tuymaq-qa käntü öz-i qudrulu tükädip (*l*.160). köni tuymaq「正覺」に對して köni tüz tuymaq「正等覺」が立っている。2165~2166 kim adïn-lar-qa nomuγ uqïdïp ymä ök kim ozyurup qudyarïp「餘らへ法を顯わし解脱させて」に對して甘肅本 (*l*.162) では kim が缺けている。kim は使役を強調している。2167 uluγ ögrünčüg sävinčig「大歡喜を」に對して甘肅本 (*l*.163) では uluγ ögrünč sävinč-ig.2169 bu iki türlüg yörüg-lär üz-ä「この二種の義を以って」に對して甘肅本 (*l*.164) は bu iki türlüg-lär üz-ä.

2170 73a-1 adamïš ol udan tep. šlok-ta ulatï šasdr-ta ter-lär teptemiš
2171 2 -i ärsär. šlok šasdr iki orun-lar-ta birgärü bar bir abipiray ter
2172 3 (-lär) tegüči sav-ta sïγar ol iki yörüg-lär. ang'ilki uqïdur ärtmiš
2173 4 ödüg ikinti uqïdur taplamamïš tapïrqanmamïš-ïn iki abi
2174 5 -piray-lar-ta. munda almïš kärgäk kenki abipirayïγ munï üz-ä uqïd
2175 6 -γalïr üčün vasubandu baxšï-nïng köngül-indä taplamamïš-ïn
2176 7 tapïrqanmamïš-ïn anïn söz-lämiš ol ter-lär tep. söz-läsär
2177 8 bu abidarim ärsär ärür tngri burxan yarlïqamïš tep. yarašï
2178 9 bolmaz vasubandu baxšï-nïng köngül-ingä qayu tïldaγ-ïn vasubandu
2179 10 baxšï köngül-indä taplamaz tapïrqanmaz teptesär. tört türlüg
2180 11 tïldaγ-lar üz-ä anïn. 一謂因聞 ang'ilki qaltï äšidmäk.
2181 12 tïldaγ-ïnda. 二 yrlïqamamaq üz-ä tayanïnglar tep. 三 taplaγ-lar
2182 13 ni'kay-lar adïrïlmaq üz-ä. 四 qaršï tanuq-luq-ï üz-ä. nädägin
2183 14 äšidmäk tïldaγ-ïnda teptesär. äšidmiš üčün abidarim ärür.
2184 15 kadyanaputre-ta ulatï-lar yaradmïš tep. nädägin yrlïqamamaq
2185 73b-1 üz-ä tayanïnglar teptesär. sudur-ta tngri burxan yrlïqamïš ol
2186 2 siz-lär inčip sudur-luγ ülgü-kä tayaq-lïγ-ïn tuγurunglar
2187 3 kerdgünčüg tep yrlïqamamïš ol abidarim-qa tayanz-un tep
2188 4 nädägin taplaγ-lar ni'kay-lar adïrïlmaq üz-ä teptesär. bu abi
2189 5 -darim-ïγ säkiz ygrmi ni'kay-taqï-lar bir ikinti-kä sïyur-lar
2190 6 tanar-lar. birök bu odγuraq ärür ärsär tngri burxan yrlïqamïš
2191 7 ödrü tägimlig ärti odγuraq kerdgüngäli. nädägin bolur anda
2192 8 munda bir ikinti-kä ärür umaz tegäli 又 tešgäli ymä tegü/täg.
2193 9 如何違證 nädägin qaršï tanuq-luq ärür teptesär bu abi
2194 10 -darim-ta söz-läyür. köngül-tä öngi nom-larïγ ulatï söz-läyür
2195 11 ärtmiš kälmädük ödüg taplayur bolur arxant qudïn-tïn taymaq
2196 12 tep. mundaγ osuγ-luγ-ta ulatï yörüg-lär. barča qaršï tanuq
2197 13 -luq ärür tngri burxan-nïng yrlïqamïš-ï ärsär qaršï-sïz tanuq
2198 14 -luq üčün. bu tört türlüg tïldaγ-larïγ vasubandu baxšï
2199 15 köngül-indä taplamadïn tapïrqanmadïn urmïš ol ter-lär tegüči
2200 74a-1 savïγ tep 大(德)衆賢 ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï söz
2201 2 -lär. abidarim odγuraq ärür tngri burxan yrlïqamïš temäk taplaγ

2171~2172 abipiray ter(-lär)の(-lär) は甘肅本(*L*.106)にも書かれている。2173 tapïrqan- = tap「満足」-ïrqa(den. verb)-n(reflexive). 2180 ang'ilki qaltï äšidmäk「第一は謂わく聞くこと」は ang'ilki qaltï (ödüt) äšidmäk「第一は謂わくしばしば聞くこと」に訂正されている。ödüt「しばしば」の挿入によって「傳聞」を表現しようとしている。2200~2203 北區石窟本にはこの間に對應する内容がある：1)[ikinti]-kä ärür 2)[umaz abïdarï]m-ta söz 3)[qar]šï tanuq-luq 4)[ärür ayaγqa täg]imlig sang'ga 5)[-badrï baxšï sözlär abïda]rïm odγuraq 6)[ärür tngri burxan yrlïqa]mïš tïmäk tap 7)[laγ ärür alqu] nikay-taqï-lar-nïng 8)[ ]öngi 9)[ ]a ök 10)[ ]bolmaz(B157:15-2 正 Mirkamal(2005) p.5)

北區石窟本のウイグル文は抜粋文である。兩者の對應箇所は以下の通りである：

北區石窟本	ロンドン本	北區石窟本	ロンドン本
1)	2192	3)	2196
2)	2194	4)～7)	2200-2203
		7)～8)	2205

この二種の義を以って、それで「鄔拖南」と名づけた。頌及び論に「傳説する」（傳、傳説）と云ったが、頌と論の二處には、同時に一つの意趣が有る。「傳説する」と云う言に二つの義が入る。第一は過去時を顯わし、第二は不滿足を顯わす。二つの意趣の中で、ここでは後の意趣を取らねばならない。これにより世親師の意において不滿足を顯わすために、それで「傳説する」と説いた。この阿毘達磨が佛の説かれたものであると説くなら、世親師の意には適わない。何に因って世親師は意において滿足しないのかと云えば、四種の因によって（である）。そこでその第一は謂わく聞くことの因において、第二は汝ら依るべしと説かれないことによって、第三は宗派部派が別れることによって、第四は違證によって（である）。如何にして「聞くことの因において」（と云うのか）と云えば、阿毘達磨は迦多衍尼子等が造ったものと聞いた故（である）。如何にして「汝ら依るべしと説かれないことによって」（と云うのか）と云えば、經に佛は「汝ら當に經量に依ることで信を起こすべし」と説かれた。「阿毘達磨に依るべし」とは説かれなかった（から）である。如何にして、「宗派部派が別れることによって」（と云うのか）と云えば、この阿毘達磨を十八部のものらは互いに否定しあう。もし、これが定んで、佛の説かれたものであるなら、即ち應に定んで信ずるべきであった。如何にして、あれこれ互いに話し合うことができないままなのか？如何にして「違證である」（と云うのか）と云えば、この阿毘達磨においては心不相應法を説く、更に過去未來世を説く、阿羅漢果からの退轉を許すものである、と。このごとき等の義は全て違證である。佛の説かれたものが無違の證故。この四種因を世親師は意において滿足せず、「傳説す」と云う言を當てたのであると。大徳衆賢師が説く：阿毘達磨は定んで佛が説かれたと云うのは許されるものである。

2181~2182 二 yrlïqamamaq üz-ä tayanïnglar tep. 三 taplaγ-lar ni'kay-lar adïrïlmaq üz-ä. 四 qaršï tanuq-luq-ï üz-ä「第二は汝ら依るべしと説かれないことによって、第三は宗派部派が別れることによって、第四は違證によって」に對して甘肅本では漢数字にウイグル語が入っている：ikinti yrlïqama- maq üz-ä tayanïnglar tep üčünč taplaγlar ni'kay-lar adïrïlmaq üz-ä törtünč qaršï tanuq-luq-ï üz-ä (*ll.*172-173). 2181 taplaγ は「宗」「宗派」を表す。 Cf.庄垣内(1985) p.33. 2182 qaršïl tanuq-luq の譯語は 2193 の文中漢文から「違證」とした。2183 初頭は(ödüt) äšidmäk と訂正されている： cf. 2180 note. 2187 yrlïqa- mamïš ol abidarim-qa tayanz-un tep「阿毘達磨へ依るべしとは説かれなかったのである」に對して甘肅本では：yrlïqamamïš ol abidarim-qa tayaγ-lïγ-ïn tep (*l.*176)「阿毘達磨へ依ってとは説かれなかったのである」。2191 tägimlig ärti odγuraq kerdgüngäli. nädägin「應に定んで信ずるべきであった。如何にして」に對して甘肅本では：tägimlig ärti odγuraq kert-gäli taqï nädägin (*ll.*178-179). kert-gäli は kerdgüngäli の誤寫と考えられる。 taqï nädägin「さらに如何にして」。2192 又 tešgäli ymä tegü/täg は tegäli「話す」が tešgäli「話し合う」に訂正されている。この訂正は甘肅本(*l.*179)にも書かれている。2193 ウイグル文中の「如何違證」は甘肅本(*l.*179)では「如何證」と書かれている。2197 yrlïqamïš の 1 は'で綴られている。2200 ウイグル文中の「大(徳)衆賢」に對して甘肅本(*l.*184)では「大徳衆賢云」と書かれている。2201 abidarim odγuraq ärür tngri burxan yrlïqamïš temäk taplaγ ärür「阿毘達磨は定んで佛が説かれた」は『順正理論』の内容に對應する：阿毘達磨是佛所許(大正 Vol.29, p.329c)。

2202 3 ärür. alqu ni'kay-lar-ta söz-lägüči ärsär barča ärür üčün tngri
2203 4 burxan yrlïqamïš temäk tïlday ärür. qaltï sudur vinay-ta
2204 5 ulatï-lar täg temäk yöläšürüg ärür. nädägin teptesär sudur vinay-ta
2205 6 ulatï-lar barča ärür üčün alqu ni'kay-taqï-lar-nïng ögrädingülük
2206 7 bošγuryuluq nom-ï barča ärür tngri burxan yrlïqamïš. bu abidarim
2207 8 ymä ök ärür üčün alqu ni'kay-taqï-lar-nïng ögrädingülük
2208 9 bošγuryuluq nom-ï ymä ök ärür tngri burxan yrlïqamïš adïn
2209 10 alqu ni'kay-lar-qa ögrädingülük bošγuryuluq nom ärmäsär
2210 11 inčip tngri burxan yrlïqamïš ärmäz. qaltï sanke ni'kay
2211 12 -ta ulatï-lar-nïng-ï alqu ni'kay-taqï-lar-qa barča-qa
2212 13 ögrädingülük bošγuryuluq ärmäz-indin odγuraq burxan nom
2213 14 -ï ärmäz bolmïš täg 所言對法 nä ymä söz-läsär siz
2214 15 abidarim ärür kadyanapudre arxant yaradmïš tngri burxan
2215 74b-1 yrlïqamïš ärmäz tep bu ymä ök ärür tngri burxan yrlïqamïš nädägin
2216 2 teptesär tngri burxan-qa taplaγuluq tapïrqanγuluq bolmïš üčün
2217 3 qaltï sanggidaparyay sudur-ta ulatï-lar täg. bu sudur-uγ šaripudre
2218 4 arxant nomlamaq üz-ä adï ködrülmiš-kä taplaγuluq tapïrqanγuluq
2219 5 bolmaq-ïndïn ymä ök birikür tngri burxan-nïng yrlïγ-ïnga abi
2220 6 -darim näčä ärür ärsär ymä širavak-lar nomlamïš tngri burxan-qa
2221 7 tapladïlmïš tapïrqanïlmïš üčün ymä ök birikür tngri burxan
2222 8 -nïng yrlïγ-ïnga tep. 問 bu abidarim qayu orun-ta tapladï
2223 9 tapïrqandï tep 衆賢答云 sanggabadre baxšï kikinč
2224 10 berü söz-lär. bar sudur-ta yrlïqamïš qayu näčä bar ärsär sanggit
2225 11 qïlmïš yörüg-lär sav-lar vinay-taqï ulatï sudur-taqï ol bolur
2226 12 yeg adruq. tngri burxan-nïng ïduq yrlïγ-ï eyin sanggit qïl
2227 13 -mïš ärür abidarim-ïy :: ärür üčün tngri burxan-qa tapladïl
2228 14 -mïš. bulmïš ol tngri burxan yrlïqamïš ol tegüči adïγ sudur

諸部派に所説のものは全て佛が説かれたものである故と云う因である。「猶、經、律等のごとき」と云う喩えである。如何にしてかと云うなら、經律等は全て諸部派にあるものらの所學の法である故、全て佛の説かれたものである。この阿毘達磨もまた諸部派らの所學の法である故、佛が説かれたものである。諸部派にとって餘の所學の法でないものは、即ち佛が説かれたものではない。猶、數論部等のものは、諸部派のものらにとって全て所學のものではないので、定んで、佛法ではなかったごとし。いくら、阿毘達磨は迦多衍尼子阿羅漢が造ったものである、佛が造ったものではない、と汝ら言っても、これもまた佛の説かれたものである。如何にしてか、と云うなら、佛に許されるところとなった故。猶、『集異門經』等のごとし。この經を舍利子阿羅漢が説くことによって、世尊に許されるところとなることから、また佛の教えに結びつく。阿毘達磨は如何に聲聞らの説いたものであっても、(それは) 佛に許されたものの故に、また佛の教えに結びつくと。問：この阿毘達磨は何處で (佛に) 許されたのか？と。衆賢師が答えて云う：經に説かれたものが有る。(すなわち、)「諸々の結集した義や言が有るときは、律及び經にあるもの、彼れを殊勝と爲す。」(と)。佛の聖教に隨って阿毘達磨を結集したのである。(したがってそれは) 佛に許されたものであるため、「佛が説かれたもの」と云う名を得たのである。

2204 yöläšürüg は yw"swrwk と綴られている：cf. 1429. 2210 sanke-ni'kay < Skt. sāṃkhya-nikāya「數論部」。2211 alqu ni'kay-taqï-lar-qa barča-qa ögrädingülük bošyuryuluq ärmäz-indin「諸部派のものらにとって皆にとって所學のものでないので」に對して甘肅本は alqu ni'kay-taqï-lar-qa barča ögrädingülük bošyuryuluq ärmäz-indin (*ll.*191-192)「諸部派のものらにとって全て所學のものではないので」と書かれている。和譯では甘肅本の内容を採用した。2217 sanggidaparyay は sanggida<piriyay>に訂正されている。Skt. saṃgīti- paryāya「集異門」：cf. 2251. 2224 (~2228) bar sudur-ta yrlïqamïš「經に説かれたものが有る」から yrlïqamïš ol tegüči adïγ「という名を得たのである」までは『阿毘達磨藏顯宗論』卷一の内容とよく對應する：如説諸有結集義言。於律及經彼爲殊勝。隨佛聖教結集對法是佛所許得佛説名。(大正 Vol. 29, p.779c *ll.*6-8)。『阿毘達磨藏顯宗論』は、同じく衆賢によって著された『順正理論』の略論である。しかし以下に掲げる『順正理論』よりもウイグル文とよく對應している：諸部對法義宗異故。此皆不然。諸大聲聞。隨佛聖教而結集故。阿毘達磨是佛所許。亦名佛説。(『順正理論』卷一、大正 Vol. 29, p.329c *ll.*22-24). 2224 bar sudur-ta yrlïqamïš「經に説かれたものが有る」に對して甘肅本は bar sudur-ta yrlïqamïš-ï (*l.*198) と書かれている。後者が適切な表現である。2225~2226 vinay-taqï ulatï sudur-taqï ol bolur yeg adruq「律及び經にあるもの、彼れを殊勝と爲す」は上掲『阿毘達磨藏顯宗論』の「於律及經彼爲殊勝」をウイグル語譯したもので、この漢文は「律及び經にある彼れが殊勝となる」と直譯できる。2228 (~2230) sudur vinay iki aγïlïq-ïγ užiki eyin sanggit qïlmïš ol yindäm abidarim aγïlïq-ïγ yörüg-i eyin sanggit qïlmïš ol「經、律の二藏をその文に隨って結集した。唯、阿毘達磨藏をその義に隨って結集した」。このウイグル文は『阿毘達磨藏顯宗論』卷一の内容と對應する：經律二藏隨文結集。唯對法藏隨義結集。(大正 Vol. 29, p.779c *l.*6)。

2229 15 vinay iki ayïlïq-ïγ užiki eyin sanggit qïlmïš ol. yindäm
2230 75a-1 abidarim ayïlïq-ïγ yörüg-i eyin sanggit qïlmïš ol. birök
2231 2 taplamatïn abidarim ärür tngri burxan<-qa tapladïlmïš> tep söz-läsär
2232 3 yörügi eyin sanggit qïlmïš ärür tep. sanggit qïlur qayu nomuγ
2233 4 tep 疏主云 <äsdiramati> baxšï söz-lär yarašï saqïnmïš-ïngïz
2234 5 kärgäk abidarim bolur anda üküš türlüg. amtï yörüg eyin sanggit
2235 6 qïlmïš ärür tegüči sav. azu yänä bu abidarim mu ärür. azu yänä bu
2236 7 adïn abidarim mu ärür. bar sudur ymä ök yörüg eyin sanggit qïlmïš
2237 8 čo'aγam-taqï daša'udar sudur-ta ulatï-lar ärür. bu sudur-uγ šaripudre
2238 9 arxant ävdip yïγïp adïn sudur-lar-ta üklidip bir-ig üklidip
2239 10 iki-ig ulatï üklidip on-ta ulatï yörüg-lärig inčip sanggit
2240 11 qïlmïš ärür. munung uγur-ïnda saqïnmïš-ïngïz kärgäk yörüg eyin
2241 12 sanggit qïlmïš ärür tegüči sav azu yänä bu sudur mu ol. azu yänä
2242 13 bu šasdr mu ol 所以不應 bu tïldaγ-ïn tägimlig ärmäz bir yindäm
2243 14 adqanïp söz-lägäli yörüg eyin sanggit qïlmïš-ï ärsär odγuraq ärür
2244 15 abidarim tep. birök mundaγ söz-läsär uyur üčün eyin qïlγalï
2245 75b-1 büdürü bilmäk-kä. kkirikmäkig arïnmaq-ïγ tïldaγ-ïγ tüš-üg
2246 2 bildäči bilgä biligig ärür tngri burxan-qa tapladïlmïš tep qaltï
2247 3 öngdün söz-lägüči tngri burxan nomlamïš nom barča qaršï-sïz tanuq
2248 4 -luq üčün yänä söz-läsär siz-lär širavak-lar nomladuq-ta adï

2229~2232 yindäm abidarim ayïlïq-ïγ yörüg eyin sanggit qïlmïš ol. birök taplamatïn abidarim ärür tngri burxan<-qa tapladïlmïš> tep söz-läsär yörüg eyin sanggit qïlmïš ärür tep「唯、阿毘達磨藏を義に隨って結集した。もし、阿毘達磨が佛に許されたものと認めずに、義に隨って結集したのであると説くなら」。これは訂正された文である。訂正前は次のようである：yindäm abidarim ayïlïq-ïγ yörüg-i eyin sanggit qïlmïš ol. birök taplamatïn abidarim ärür tngri burxan yrlïqamïš tep söz-läsär yörügi eyin sanggit qïlmïš ärür tep「唯、阿毘達磨藏をその義に隨って結集した。もし、阿毘達磨は佛が説かれたものであると認めずに、その義に隨って結集したのであると説くなら」。甘肅本(*II*.202-203)は訂正文と同じく birök taplamatïn abidarim ärür tngri burxan-qa tapladïlmïš tep söz-läsär と書かれているので、ここでは訂正文を採用した。

經と律の二藏を文に隨って結集した。唯だ阿毘達磨藏のみを義に隨って結集した。もし、阿毘達磨を、佛に許されたものと認めずに義に隨って結集したのであると説くなら、何の法を結集するのか？と。安慧師が云う：汝ら適切に考えねばならない。そこには多種の阿毘達磨がある。今、「義に隨って結集したのである」と云う言は、或はこの阿毘達磨であるのか？或はまたこれは餘の阿毘達磨であるのか？（と。）經には義に隨って結集したものが有る。（謂わく、）「長阿含」にある『十上經』（Daśa-uttara）等である。この經は、舍利子阿羅漢が收集し、餘の經（から）一つを增やし、二つを增やし、更に十等の義を增やし、而して結集したのである。此れに由って、考えねばならない：「義に隨って結集したのである」と云う言は、或はこれは經なのか？或はこれは論なのか？（と。）これを以って應に、唯だ一つを執って、義に隨って結集したものが定んで阿毘達磨であると説くべきではない、と。もしこのように説くなら、染と淨、因と果とを遍知することに能く隨順する故。慧を知るものは佛に許されたものである、と。

2233 疏主云 <äsdiramati> baxšï は、疏主云 vasbandu baxšï を訂正したものである。「疏主」に「論主」である vasbandu「世親」を當てるのは間違いである。甘肅本は äsdiramati baxšï (*l*.204) と正しく書かれている。ただし甘肅本の「疏主云」は「疏云主」と書かれ、「云」と「主」の間の右傍に入れ替えを示す記號「レ」が施されている。2235~2236 azu yänä bu abidarim mu ärür. azu yänä bu adïn abidarim mu ärür. bar sudur ymä ök yörüg eyin sanggit qïlmïš「或はこの阿毘達磨であるのか？或はまたこれは餘の阿毘達磨であるのか？(と。)義に隨って結集した經有り」に對して甘肅本では azu yänä bu abidarim mu ärür bu adïn abidarim mu ärür bar sudur-ta ymä ök yörüg eyin sanggit qïlmïš「或はこの阿毘達磨であるのか？これは餘の阿毘達磨であるのか？(と。)經には義に隨って結集したもの有り」(*ll*.206-207)。ウイグル語としては後半部分は甘肅本の方が自然である。和譯も甘肅本のものを採用した：cf. Geng (2002) p.80. 2237 čo'aγam- taqï「長阿含にある」の前に甘肅本 (*l*.207) では qaltï「謂わく」が立っている。ロンドン本の脱落と考えられる。 čo'aγam < Chin.長阿含 (M.Chin. d'iâng ˙â fiậm). daša'udar (/daša'utar/) sudur < Skt. daśa-uttara (daśottara)-sūtra「十上經」。2244~2245 uyur üčün eyin qïlγalï büdürü bilmäk-kä. kkirikmäkig arïnmaq-ïγ tïldaγ-ïγ tüš-üg「染と淨、因と果とを遍知することに能く隨順する故」。このウイグル文は『順正理論』卷一の内容に對應する：能順遍知雜染清淨因果智故(大正 Vol. 29, p.329c)。kkirik- = kkir「染」-k (den. verb). なお、kkirikmäkig に對して甘肅本では kirikmäkig (*l*.213). 2247 qaršï は qrsy と綴られている。2248 (~2251) adï ködrülmiš-kä taplaγuluq tapïrqanγuluq bolmïš-ï ärsär adï bolmaz tngri burxan yrlïqamïš tep ödrü qodulγu tidilgü kärgäk ülgülänčsiz sudur-lar「世尊に許されるところとなったのものは、佛が説かれたものとは名づけられないと、汝ら云うなら、便ち、無量の契經が棄捨されねばならない」。このウイグル文は『順正理論』卷一の内容に對應する：若佛所許不名佛說。便應棄捨。無量契經。(大正 Vol. 29, p.329c)。

2249 5 ködrülmiš-kä taplaγuluq tapïrqanγuluq bolmïš-ï ärsär adï
2250 6 bolmaz tngri burxan yrlïqamïš tep ödrü qodulγu tidilgü kärgäk
2251 7 ülgülänčsiz sudur-lar 如集異門經 qaltï sanggida<-pariyay>
2252 8 sudur sabaγam-taqï širavak-lar nomlamïš sudur-ta ulatï-lar ärür.
2253 9 tep. biz ymä ök söz-lämäz biz qodγuluq tidgülük ol sudur-uγ tep
2254 10 ymä ök bolmaz bu mün qadaγ. birök munda širavak-lar nomladuq-ta
2255 11 adïrtlïγ odγuraq adï ködrülmiš-kä taplaγuluq tapïrqanγuluq
2256 12 bolmïlš-ï ärsär. qaltï sanggita<-pariyay> sudur-uγ šaripudre
2257 13 arxant nomladuq-ta üzlünčü-tä adï ködrülmiš ögä tapla
2258 14 -yu söz-lädi ädgü ay 々 々 sän-ing amtï uz umaqïng toyïn
2259 15 -lar quvraγ-ïnga tüz-in baz-ïn sanggit qïlïp ančulayu kälmiš-ning
2260 76a-1 qayu yrlïγ-ïn üklidgäli bir nom qapïγ-ïn tep ulatï kengürü
2261 2 yrlïqamïš ol 既是世尊 munda adï ködrülmiš altun
2262 3 aγïz-ïn ögä taplayu tükätmäk üz-ä ärür tngri burxan-qa tapla
2263 4 -dïlmïš tep. amtï abidarim-ta qayu orun-ta bar vyančan üz-ä
2264 5 adï ködrülmiš altun aγïz-ïn mundaγ ögmiš-i taplamïš-ï.
2265 6 qaltï söz-läsär siz-lär. birök yrlïqamamaq üz-ä tayanïnglar tep
2266 7 tngri burxan yrlïqamïš ärmäz tep. vinay aγïlïq ymä tngri burxan
2267 8 yrlïqamïš ärmäz bolγu kärgäk nirvan bulγasuγ ödtä ödlämämiš
2268 9 üčün tayanïnglar tep yörüg mundaγ ärmäz. tngri burxan ödlämiš
2269 10 üčün tayanïnglar pradimokš-qa tep. 若衆賢云 birök sangga
2270 11 -badre baxšï söz-läsär siz. adï ködrülmïš yindäm uqïdmïš ol
2271 12 tayanïnglar pradimokš-qa tep. yindäm pradimokš-uγ ärür ärip tngri
2272 13 burxan yrlïqamïš. adïn vinay tngri burxan yrlïqamïš ärmäz bolγu kärgäk
2273 14 tep ymä ök bulduqmaz bu mün qadaγ. bu vinay-ta näčük'ol kengürü
2274 15 yörmäz mü pradimokš sudur-nung töz-in. birök pradimokš sudur
2275 76b-1 ärür ärsär tayaq. adïn vinay ymä ök ärür tayaq. yänä sanggabadre
2276 2 baxšï söz-läsär siz. birök vinay-ta inčip munda kengürü yörär
2277 3 üčün pradimokš sudur-nung töz-in ärür tngri burxan yrlïqamïš
2278 4 tep. abidarim-ta kengürü yörär ärip sudur-uγ nä üčün säčä
2279 5 sezinür siz-lär tngri burxan yrlïqamïs ärmäz tep 此説不然

2251 sanggida<-pariyay>は sanggida-piriyay を正しく訂正したものである。甘肅本には sanggida-priyay と書かれている。2252 sabaγam < Chin. 雜阿含(M.Chin. dzập â fiậm)。2256 sanggita<-pariyay> sudur-uγ の訂正前： qaltï sanggita <-piriyay> sudur-uγ. 甘肅本も訂正文と同じく sanggida-pariyay sudur-uγ (*l*.220) と書かれている。2258 ay 々 々 sän-ing amtï「これこれ！汝が今」。漢字「々」は「同じ」を表現するのでここではay ay ay(これ！これ！これ！)と讀まれた。甘肅本には söz-lädi ädgü ay sän amtï (*l*.221) のごとく ay は一度しか書かれていない。

謂わく、先に云う佛の説いた法には全て無違の證が有る故に、（もし）聲聞らが説いたときに、世尊に許されるところとなったのものが「佛が説かれたもの」とは名づけられないと汝らが云うなら、便ち、無量の契經が棄捨されねばならない。謂わく、『集異門經』は「雜阿含」にあり聲聞らの説いた經等である。（だが、）我らはその經を棄捨すべきものとは云わない。またこれが過失とはならない。ここで聲聞らが説いたときに決定に世尊に許されるところとなったもの（について）：謂わく、『集異門經』を舍利子阿羅漢が説いたとき、究極において世尊は讃じ許して「これこれ！汝が今、比丘衆へ、如來の諸々の言教を和やかに結集して一法門を巧みに増やすことができるのは善哉！」と説いた。更に廣説された。「ここで世尊の金の口で讃じよく許すことによって、佛に許されたものである」と。今、阿毘達磨に、文において世尊の金の口でこのように讃じ許したものが何處にあるのか？。謂わく、もし「汝ら依るべし」と説かれないことを以て佛が説かれたものではないと云うのなら、毘奈耶藏もまた必然的に佛が説かれたものではなくなる。（世尊が）涅槃に臨んだときに、「汝ら依るべし」とは勸めなかったからである。義はこのようではない。佛は「別解脱へ汝ら依るべし」と勸めた故に、と。衆賢師、あなたがもし「世尊は唯だ別解脱へ汝ら依るべしと顯わした、唯だ別解脱のみを佛は説かれたのであつて、佛が餘の毘奈耶を説かれたはずはない」と説くのなら、又この過失は無い。この毘奈耶において、どうして『別解脱經』の根本を廣釋しないのか？もし『別解脱經』が依であるなら、餘の毘奈耶も又、依である。また衆賢師、あなたが「毘奈耶においては即ちここで『別解脱經』の根本を廣釋する故に、佛の説かれたものである」と云うなら、阿毘達磨においては契經を廣釋するのであって、何故、偏に「佛の説かれたものではない」と汝ら疑うのか？と。

2260~2261 ulatï kengürü yrlïqamïš ol「さらに廣説された」は漢文の「乃至廣説」を表す： cf. 2870. 2265 (~2268) birök yrlïqamamaq üz-ä から üčün tayanïnglar tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：若不説依非佛語者。毘奈耶藏應非佛説。臨涅槃時不勸依故。(大正 Vol. 29, p.329c)。2267 bulγasuγ = bulγa-「混亂する、動搖する」-suγ(dev. noun 義務、必要)。ここでは漢語「臨」にあてられている。2268 yörüg mundaγ ärmäz「義はこのようではない」に對して甘肅本では yörüg-i mundaγ ärmäz tep (*l.*228)「その義はこのようではないと」と書かれている。甘肅本の方が適切である。2269 pradimokš (/pratimokš/) < Skt. prātimokṣa「別解、別解脱」。2274 pradimokš sudur < Skt. prātimokṣa-sūtra「別解脱經」(戒律に關する根本的規定をいう。戒本に同じ。中村 p.1207)。『順正理論』では「戒經」と表している。pradimokš-sudur の sudur は甘肅本 (*l.*232) には無い。2276 (~2279) birök vinay-ta inčip から yrlïqamïs ärmäz tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：若毘奈耶即是廣釋戒經本故是佛説者。阿毘達磨廣釋契經。何故偏疑非佛所説。(大正 Vol. 29, p.329c-330a)。2278 abidarim-ta kengürü yörär ärip sudur-uγ「阿毘達磨においては契經を廣釋するのであって」は abidarim-ta kengürü <yörär> sudur-uγ「阿毘達磨においては契經を廣釋する」と訂正されている。甘肅本においても「又 yörär ymäter」(*l.*235)のごとく同じ内容の訂正文が書かれている。いずれのウイグル文も内容を損なわない。

2280 6 äsdiramati baxšï söz-lär bu söz-lämiš-ingiz-lär andaγ ärmäz.
2281 7 qaltï vinay-ta kengürü yörär čxšapt-nïng töz-in 一 bir bir.
2282 8 čxšapt eyin söz-lämiš ärür. andaγ atlγ balïq-ta andaγ
2283 9 atlγ orun-ta andaγ atlγ ötdä. andaγ atlγ kiši-kä.
2284 10 andaγ atlγ tïldaγ üz-ä andaγ atlγ vasdu üz-ä upali
2285 11 ayïdtuq-ta adï ködrülmiš nomlamïš ärür. bu abidarim-ta
2286 12 adï ködrülmiš qayu orun-ta mundaγ tep yrlïqadï tep ulatï
2287 13 kengürü yörmiš kärgäk sudur-taqï täg. yänä sanggabadre baxšï
2288 14 söz-läsär siz. nä ymä söz-läsär siz-lär yrlïqamamaq üz-ä
2289 15 tayanïnglar tep anïn abidarim tngri burxan yrlïqamïš ärmäz tep
2290 77a-1 世尊經中 adï ködrülmiš sudur-ta ymä ök yrlïqamïš ol
2291 2 tayanïnglar bilgä bilig-kä tep amtï inčip bilgä bilig yükmäk-ning
2292 3 ulatï eyin yorïdačï-larï birlä. birlä yan-a yeg adruq yevigi-ning
2293 4 tizigi-ning adï bolur abidarim tep. bu abidarim ärsär inčip ärür
2294 5 üčün bilgä bilig ymä ök bolmïš ol tayaq tep. bu söz-lämiš
2295 6 -ingiz-lär andaγ ärmäz. tägimlig ol kärgäk-läp öz qadïγlanmaq-ïn
2296 7 uqïdγalï bu bilgä bilig yükmäk-ning tayaq büdgäli bolur-ïn 與
2297 8 不我今 bizing-täkičä ärsär. amtï ärmäz. qaltï adï ködrülmiš
2298 9 yrlïqamïš ol tayanïnglar bilgä bilig-kä tep tayanïnglar bilgä bilig
2299 10 -kä tegüči sav üz-ä 令 yrlïqamïš ol öz bilgä bilig-kä tayanmaq
2300 11 -ïγ yrlïqamamïš ol tašdïn sïngar-qï bilgä bilig-ig amtï öz
2301 12 bilgä bilig üz-ä körsär. ol uqïdγučï köngül-tä öngi qïlïnč
2302 13 ulatï. arxant-lar-nïng qudïn-tïn taymaq-ta ulatï-lar-ï qaršï
2303 14 tanuq-luq-ï üz-ä anïn tüzü tükäl tayanγuluq ärmäz üčün anïn
2304 15 tayaq büdmäz. tep 衆賢云 sanggabadre baxšï söz-läsär siz
2305 77b-1 qaltï üsdün söz-lämiš täg sudur-luγ ülgü-kä tayaq-lïγ-ïn
2306 2 tuγuryu ärsär kerdgünčüg. näng alqu sudur-lar barča tayaq bolur ärmäz
2307 3 nädägin teptesär ol sudur bolur iki türlüg 一者了義 ang'ilki
2308 4 udušulmïš yörüg-lüg ikinti udušγuluq yörüglüg. adï ködrül
2309 5 -miš yrlïqamïš ärür tayanïnglar udušulmïš yörüglüg-kä tayanmanglar
2310 6 udušγuluq sudur-qa tep. munda yindäm yrlïqayu tükädip sudur
2311 7 -nung odγuraq tayaq ärmäz-in inčip arïdï söz-lämämiš ol
2312 8 abidarim-nïng ulatï vinay-nïng tayaq bolmaq üzäki adïrt-ïn
2313 9 以此義故 bu yörüg üz-ä anïn otγuraq sudur-luγ ülgü-kä tayan
2314 10 -maq-lïγ yörügi ymä ök büdmäz tep. bu yörüngüz-lär ymä ök andaγ
2315 11 ärmäz. adï ködrülmiš näčä yrlïqamasar ymä tayanïnglar udušγuluq
2316 12 yörüglüg sudur-qa tep. tngri burxan ymä ök yrlïqamamïš ol tayan
2317 13 -ïnglar abidarim-qa tep. täk taplamïš ol udušulmïš yörüglüg-i
2318 14 tayaq büdgäli bolmaq üz-ä tüzü tükäl tayaq bolur-ïn. qayu-nï

安慧師が云う：この汝らの説いたものはその通りではない。謂わく、毘奈耶においては戒の根本を廣釋する。一々の戒に隨って説いたのである。某甲の町で、某甲の處で、某甲の時に、某甲の人へ、某甲の因について、某甲の事について優波離が問うたときに、世尊は説いたのである。（一方）この阿毘達磨において世尊は何處でそのように説かれたか？と。更に經にあるごとく廣釋せねばならない。又、衆賢師、あなたが「汝ら依るべしと説かれなかったことによって、それで阿毘達磨は佛の説かれたものではない」といくらと説いても、世尊は經においてまた、「慧に依るべし」と説かれた。今、即ち慧蘊及びその隨行と并びに勝資糧の名が「阿毘達磨」となる。この阿毘達磨は即ち慧であるため、また依となった、と。この汝らの説いたものはその通りではない。自らの精進を要して應にこの慧蘊の依が可く完成することを顯わすべし。我らのものとしては今（ここにおいて）ではない。謂わく、世尊は「汝ら慧に依るべし」と説かれた。「汝ら慧に依るべし」と云う言によって、自慧に依ることを説かれた。外にある慧を説かれなかった。今、自慧によって觀ずるなら、その顯わすところの心不相應行、及び阿羅漢果からの退轉等が、違證によって、それ故完全な所依ではないため、それ故に依は完成しない、と。衆賢師が云う：猶、上で説いたごとく、經量へ依つて信を起こすことは決して諸經が全て依となることではない。如何にしてかと云うなら、その經には二種ある。第一は了義もてるもの、第二は未了義のもの。世尊は「了義もてるものに依るべし、未了義の經に依るべからず」と説かれたのである。ここにおいては唯だ經の定依に非らざるものをのみ説き終えて、而して竟に阿毘達磨及び毘奈耶の依となるものにある異なりを言わなかったのである。この義を以って、それで定んで經量に依る義も完成しない、と。この汝らの義もまたその通りではない。世尊が如何に「未了義の經に汝ら依るべし」と説かれなくとも、佛はまた「阿毘達磨に汝ら依るべし」とも説かれなかった。只だ了義が可く依を完成することによって、完全な依となることを許したのである。

2281 一 bir bir における漢字の「一」は甘肅本(l.237)には無い。2284 vasdu (/vastu/) < Skt. vastu「物、事、事柄、問題」。upali < Skt. upāli「優波離、鳥波離」。2287~2289 yänä sanggabadre baxšï söz-läsär siz. nä ymä söz-läsär siz-lär yrlïqamamaq üz-ä tayanïnglar tep anïn abidarim tngri burxan yrlïqamïš ärmäz tep「又、衆賢師あなたが「汝ら依るべしと説かれなかったことによって、それで阿毘達磨は佛の説かれたものではない」といくらと説いても」。このウイグル文おいて、甘肅本(l.241)では söz-läsär siz. nä ymä söz-läsär siz-lär の前半の söz-läsär siz「あなたが説いても」に削除記號が付されている。ここではこの削除記號に隨って、從屬文の主語である sanggabadre baxšï の述語を nä ymä söz-läsär siz-lär と考えた。ただし、ふつうは siz-lär に對して siz が立つのでなお疑問は殘る。2291 (~2293) inčip bilgä bilig から adï bolur abidarim までは『順正理論』卷一の内容に對應する：又即慧蘊。及與隨行并勝資糧。名爲對法(大正 Vol. 29, p.330a)。2308 udušulmïš yörüg-lüg「理解された義もてる」＝「了義」。udušγuluq yörüg lüg「理解されるべき義もてる」＝「未了義」。2310 (~2312) munda yindäm yrlïqayu から bolmaq üzäki adïrt-ïn までは『順正理論』卷一の内容に對應する：彼唯説經非定依。而竟不言阿毘達磨及毘奈耶依有差別。(大正 Vol. 29, p.330)。2314 yörüngüz-lär は yörügüngüz-lär「汝らの義」の誤り。Cf. 2529, 3382. 2321 (~2324) ymä ök otγuraq tapla-γu から sudur-luγ ülgü-kä までは『順正理論』卷一の内容に對應する：又定應許阿毘達磨是經差別。故成所依。世尊唯勸依經量故。(大正 Vol. 29, p.330a)。

2319 15 tuda sezik qïlur siz-lär 又衆賢云 yänä sanggabadre baxšï
2320 78a-1 söz-läsär siz. qaltï öngdün söz-lämiš täg sudur näčä adïrïl
2321 2 -sar ymä taplamaq üz-ä tayaq bolur tep. ymä ök otγuraq tapla
2322 3 -γu kärgäk. abidarim ärür üčün sudur-nung adruq-ï anïn tayaq
2323 4 büdär tep. birök andaγ ärmäsär adï ködrülmiš yindäm ödlämiš
2324 5 üčün tayanïnglar sudur-luγ ülgü-kä tep. iki ygrmi bölük-lär-tä
2325 6 sudur bir bölük yarašï tayaq büdgäli bolup. qalmïš bir ygrmi
2326 7 bölük-lär tayaq büdmäz tep. bu söz-lämiš-ingiz ymä ök tanuq büdmäz
2327 8 yänä inyanaparasdan-ta ulatï-lar sudur-nung adruq-ï ärmäz nä
2328 9 üčün teptesär. munda-ta ulatï šasdr-larïγ adï ködrülmiš.
2329 10 nirvan bulmïš-ta ken kadyanapudre-ta ulatï širavak-lar yaradmïš
2330 11 ärür. qaltï tngri burxan sudur-ta yrlïqamïš ol. siz-lär toyïn
2331 12 -lar-a nädägin biläyin tesär siz-lär nomuγ. siz-lär-kä tägimlig ol munday
2332 13 bi{l}gäli 所謂契經 qaltï sudur-aa sudur-uγ 應頌 geyaa
2333 14 t(a)qšud-uγ 記別 vyakarana adïr-a yrlïqamaq-ïγ 諷誦 gada
2334 15 šlokuγ 自說 idivridaka ävriš-ig 緣起 udan-a ävdimäk-ig
2335 78b-1 譬喩 avadana yöläšürügüg 本事 nidana bašlaγ-ïγ 本生
2336 2 čadaka čadikïγ 希法 adbuda-darm-a mungadïnčïγ nom-lar-ïγ 方廣
2337 3 vaypuly-a kengürmäkig 論議經等 upadeš-a yörä söz-lämäkig
2338 4 tep ulatï. bu ärür iki ygrmi bölük sav-ta bermiš nom-lar. ärür tngri
2339 5 tngri burxan yrlïqamïš munda isdäsär tiläsär ymä ök körülmäz
2340 6 inyanaparasdan-ta ulatï šasdr-lar-nïng bar-ï tngri burxan
2341 7 äsän ärkän-ki ötdä (yerdinčü-tä) bular bar bolmaduq üčün 又衆賢云
2342 8 yänä sanggabadre baxšï söz-läsär siz näčük'ol öngdün söz-lämäd
2343 9 -imiz mü abidarim-ïγ adï ködrülmiš sudur-ta orun 々 sayu sačuq-luγ
2344 10 -ïn yrlïqamïš-ïγ alqu maxa širavak-lar sanggit qïlïp or
2345 11 -nadïp urdï-lar qaltï udan šlok-ta ulatï-lar täg tep
2346 12 ymä ök öngdünki täg mundaγ söz-lägüči savïγ inčip alqu
2347 13 sodurandike ni'kay-lïγ-lar sïγurmaz-lar bu yörügüg udan šlok
2348 14 -nung alqu sudur-lar-ta vinay-lar-ta ymä ök 嘗 anïlayu
2349 15 oq körülür bar-ï bu abidarim-ta ulatï-lar-nïng alqu
2350 79a-1 sudur-lar-ta vinay-lar-ta körülmäz nomlamïš orun-ï bu tïldaγ
2351 2 -ïn udan birlä birikmäz. sanggabadre baxšï yänä söz-läsär siz.
2352 3 amtï söz-lämäk üz-ä tayanïnglar tep. birök uqïdur ülgü
2353 4 yörügüg tep tesär yörügi odγuraq andaγ ärmäz. 如何世尊

何を約して汝ら疑いとなすのか？又、衆賢師が云う：猶、以前に經が如何に差別（區別）されても許しによって依となると説いたごとく、、また、定んで阿毘達磨も經の差別（變種）である故にそれで依が成ずと許さねばならない。もしそのようでないなら、世尊は唯だ「經量に汝ら依るべし」とのみ勸めた故、十二部において、經一品のみが相應しい依を可く成じ、殘った十一品は依を成じない、と。この汝らの説いたものも證を成じない。又、『發智論』等は經の差別（變種）ではない。何故と云うなら、これ等の論は世尊が涅槃を得た後に迦多衍尼子等の聲聞が造ったのである。謂わく、佛は經に説かれたのである：「汝ら比丘よ、もし、汝らがどうしても法を知りたいと云うなら、汝ら應に次のごときものを知るべし、謂わく、契經（sūtra）、應頌（geya）、記別（vyākaraṇa）、諷頌（gāthā）、本事（itivṛttaka）、自説（udāna）、譬喩（avadāna）、緣起（因緣）（nidāna）、本生（jātaka）、希法（adbhuta-dharma）、方廣（vaipulya）、論議經（upadeśa）」となど。これは十二分教において與えた法である。佛が説かれたものである。尋求しても『發智』等の論の存在は見られない。佛がこの世に健在であった時に、それら（論）は存在しなかった故に。又、衆賢師が云う：以前に我らは、阿毘達磨について、世尊が經において處々に散説されたものを諸大聲聞が結集してちょうど鄔柁南頌等のごとく安置したのである、とは説かなかっただろうか。又、以前のごとくこのように説く言について、而して諸々の經量部の者らはその義を攝取しない。鄔柁南頌のものは諸經や律において、なおその存在が見られる。この阿毘達磨等のものは、諸經や、律において、その説かれた處が見られない。これに因って鄔柁南と同一ではない（と）。衆賢がまた云う：今、「汝ら依るべし」と云うことによって、もし、量の義を顯わすと云うなら、その理は必らずやその通りではない。

2332 bi{l}gäli の {l} は ' のみが書かれている。甘肅本（*l*.272）には正しく bilgäli と綴られている。2332 geyaa < Skt. geya「應頌」。2333 taqšud は tqswd と綴られている。 vyakarana < Skt. vyākaraṇa「記別」、adïra yrlïqamaq が「記別」のウイグル語譯である。 gada (/gata/) < gāthā「諷誦」。2334 idivridaka (/itivritaka/) < Skt. itivṛttaka「本事」、 ävriš「行動、振舞い」は idivridaka の譯語であろう。 udan-a < Skt. udāna「自説」、 ävidimäk「集めること」は udan-a の譯語であろう。ウイグル文中の漢語「自説」は次行の「本事」と、「緣起」は「自説」と、次行の「本事」は「緣起」と、それぞれ入れ替わっている。2335 avadana < Skt. avadāna「譬喩」、 yölāšülüg はそのウイグル語譯。 nidana < Skt. nidāna「因緣」（緣起）、bašlaγ「初め」は nidana のもつ序文的な性格から「初め」とされたのであろう。2336 čadaka (/čataka/) < Skt. jātaka「本生」、čadik (/čatik/) は同じ jātaka を來源とするウイグル語定着形。 adbuda-darm-a (/adbuta-darma/) < Skt. adbhuta-dharma「希法」、mungadïnčïγ nom はその譯語。2337 vaypuly-a < Skt. vaipulya「方廣」、 kengürmäk はその譯語。 upadeša < Skt. upadeśa「論議」、yörä söz-lämäk はその譯語。2338~2339 ärür tngri tngri burxan yrlïqamïš「佛が説かれたもの」における tngri は 1 つ餘分である。甘肅本は 1 つのみが書かれている（*l*.277）。2341 äsän ärkän-ki ötdä (yerdinčü-tä)「世に健在であった時に」の (yerdinčü-tä) は甘肅本（*l*.279）にも書かれている。また甘肅本（*l*.279）では「又衆賢云」は「又賢云」と書かれている。2343 sudur-ta orun々 sayu は甘肅本（*l*.281）では sudur-ta orun orun sayu と漢字の「々」がウイグル語で表されている。2352 (~2360) amtï söz-lämäk üz-ä から sudur-nung adruq-ïnga tep までは『順正理論』卷一の内容に對應する：又今言依。欲顯何義。若顯量義。理未必然。如何世尊先説四量。而今但説經爲量耶。或應先時依唯説一。以法等三經所攝故。或即於彼已遮依人。亦即勸依經之差別。（大正 Vol. 29, p.330a）。

2354 5 nädägin adï ködrülmiš ašnu-ča yrlïqap tört türlüg ülgü
2355 6 -lärig. inčip amtï yrlïqayay sudur-uγ oq bolur ülgü tep
2356 7 azu-ča ymä tägimlig ärti ašnu ötdä tayaq-ïγ yindäm bir
2357 8 ök ol tep yrlïqayalï nädäginteptesär. nom ulatï üčägü sudur
2358 9 -ta tudulmïš üčün azu-ča ymä inčip anda tïda tükädip kiši
2359 10 -kä tayanmaq-ïγ ymä ök inčip ödlämiš ärür. tayanïnglar sudur
2360 11 -nung adruq-ïnga tep. qaltï tngri burxan yrlïqamïš ol anant
2361 12 -qa män amtï äsän ärkän yerdinčü-tä siz-lär manga tayaq-lïγ ärür siz
2362 13 -lär män nirvan bulmïš-ta ken yoq ärür angayu tayaq-ïngïz-lar tayanmïš
2363 14 yölänmiš-ingiz-lär kärgäk sudur-qa näng kim unïdmatïn idtürmätin
2364 15 tep ulatï. 豈以祇令 näčükin yalïndïq yrlïqap sudur-qa
2365 79b-1 tayanmaq-ïγ yölänmäkig. inčip yrlïqamayay adïn vinay šasdr-ta
2366 2 ulatï-lar-qa tayanmaq-ïγ tep. birök munday söz-läsär inčip uyur
2367 3 siz-lär ündürgäli ol sodurandike ni'kay-lïγ-nïng nägü mün-in
2368 4 qaday-ïn qaltï tngri burxan yrlïqamïš ol anant-a siz-lär ašnu
2369 5 -ča kiši-kä tayaq-lïγ ärdingiz-lär. män nirvan bulmïš-ta ken yoq ärür
2370 6 angayu tayaq-ïngïz-lar. yindäm tayanmïš-ïngïz-lar kärgäk sudur-qa näng
2371 7 kim unïdmatïn idtürmätin tep abipiray üz-ä uqïdur anant
2372 8 -nïng täg sudur-qa tayanmïš-ïn adïn-qa tayanmamïš-ïn teptesär
2373 9 munda bolur nägü mün qaday tep. 衆賢復云 sang'gabadre baxšï
2374 10 yänä söz-läsär siz tngri burxan-nïng ödlämäki ärsär anant-a
2375 11 tayanïnglar sudur-luγ ülgü-kä tep uγrayu ödlämiš ärür abi
2376 12 -darim-qa tayanmaq-ïγ abidarim ärür üčün sudur-nung ülgü-si.
2377 13 uyur odγuraq-lap qamay sudur-lar-nïng (qayu barïnča odγuraq) yörügin.
2378 14 bölgäli sudur-nung udušulmïš yörüglüg-in udušyuluq yörüglügin
2379 15 tep. amtï söz-lägüči abidarim ärür ärsär sudur-luγ ülgü sodur
2380 80a-1 -andike ni'kay-lïγ-lar-qa tapladïlmaz nädägin teptesär. käntü öz-lär-ingä
2381 2 tapladïlmïš büdmiš ülgü ärmäz üčün tep. 又衆賢云 yänä sangga
2382 3 -badre baxšï söz<-lär> alqu tngri burxan nom-ï tudulup turur
2383 4 sudur-ta amtï söz-lämäk üz-ä tayanïnglar sudur-qa tep. inčip
2384 5 yumdaru tudulur alqu tngri burxan nom-ï tep 疏主云 äsdiramati
2385 6 baxšï söz-lär. anday ol näčä alqu tngri burxan-nïng nom-ï barča sudur-ta
2386 7 tudulsar ymä söz-läsär tudulur abidarim tep sodurandike ni'kay

如何にして世尊は先に四種の量を説かれて、而して、今、(只だ) 經をのみ量と爲すと説かれるのであろうか？或は應に、先時には依を「唯だ一つである」と説かれるべきであった。如何にと云うなら、法等の三つは經において、攝せられたもの故に。或は即ち、そこにおいて、人に依ることを已に遮り、亦、即ち「經の差別に汝ら依るべし」と勸めた。謂わく、佛は阿難へ告げた「我れは今この世に健在であるので汝ら我に依るものである。我れが滅度した後は汝らに別の所依は無い。應に經に依らねばならない。決して忘失させることなしに」と等。(佛は) どうして、只だ經に依ることだけを説かれて、餘の律、論等に依ることを説かれなかっただろうか、と。もしこのように云うなら、汝らは經量部の何の過失を出すことができるのか？謂わく、佛は説かれた：「阿難よ、汝ら先には人に依るものであった。我れが滅度した後には別の依は無いのである。唯だ經にのみ依るべし。決して忘失させずに。」と。意趣によって阿難のもののごとく、經に依ったことを、餘に依らなかったことを顯わすと云うなら、ここにおいて何の過失となるのか？と。衆賢師が又、説く：佛が「阿難よ、經量に依るべし」と勸めたのは、正しく阿毘達磨に依ることを勸めたのである。阿毘達磨は經の量である故、衆經の所有る定義を決めて、經の了義、未了義を判じることができる、と。今所説の阿毘達磨が經の量であるなら、經量部のものらには許されない。如何にしてかと云うなら、彼ら自身に許された、完成した量ではない故に、と。又、衆賢師は云う：一切の佛法は經において攝せられて住す。今、「經に依るべし」と説くことによって、即ち一切の佛法が通して攝せられると。安慧師が云う：その通りである。

2355 inčip amtï yrlïqaγay sudur-uγ oq bolur ülgü tep「而して、今、(ただ)經をのみ量と爲すと」に對して甘肅本は inčip amtï (täk) yrlïqaγay sudur-uγ oq bolur ülgü tep (*II*.288-289) のように漢文の「但」に對應する täk を插入している。2358~2359 inčip anda tïda tükädip kiši-kä tayanmaq-ïγ「即ちそこにおいて人に依ることを遮り已えて」は inčip anda <tïdïp> kiši-kä tayanmaq-ïγ「即ちそこにおいて人に依ることを遮って」に訂正されている。2360 (~2364) qaltï tngri burxan yrlïqamïš から unïdmatïn idtürmätin tep までは節略漢文『實義疏』に對應している：佛告阿難。我在依於我。我滅度無別所依。應依杖經。勿令忘失 (大正 Vol. 29, p.325c)。Cf.「應唯仗 (伏) 經勿令忘失」(『順正理論』大正 Vol. 29, p.330a). 2360 の adruq-ïnga「差別へ」.に對して甘肅本 (*I*.292) は aduruq-ïnga と書いている。2365 yrlïqamaγay「説かれないだろう」は yrlyq'mq'y と綴られている。この單語に對して甘肅本 (*I*.296) では yrlïqamadï「説かれなかった」が書かれている。2364 行目の näčükin から 2366 行目の tayanmaq-ïγ tep までは反語表現であるので yrlïqamadï の方が適している。和譯はこの過去形を採用した。2374 (~2379) tngri burxan-nïng ödlämäki から udušyuluq yörüglügin tep までは『順正理論』卷一の内容に對應する：又勸阿難依經量者。正爲勸依阿毘達磨。是經之量故名經量。即是衆經所有定義。阿毘達磨能決衆經。判經了義不了義故。(大正 Vol. 29, p.330a)。2377 odγuraq-lap qamaγ sudur-lar-nïng (qayu barïnča odγuraq) yörügin「衆經の所有る定義を決めて」は odγuraq-lap qayu barïnča qamaγ sudur-lar-nïng yörügin「所有る衆經の義を決めて」を訂正したものである。甘肅本 (*I*.304) にも qayu barïnča odγuraq は書かれている。2382 yänä sangga-badrï baxšï söz<-lär>「又、衆賢師は云う」は yänä sangga-badrï baxï söz<-läsär siz>「又、衆賢師が云えば」を訂正したものである。甘肅本 (*I*.308) にも söz-lär と書かれている。2386 söz-läsär tudulur abidarim tep は söz-läsär tudulur abidarim-ta tep「阿毘達磨 (においても) 攝せられると説くなら」の誤寫であろう。

2387 8 -lïγ-lar-qa tapladïlmaz yumγï-qa tapladïlmïš tïldaγ ärmäz-i
2388 9 üz-ä yörügi büdmäz üčün tep. 衆賢又云 sanggabadre baxšï
2389 10 yänä söz-lär. nä ymä söz-läsär siz-lär alqu ni'kay-lar-taqï abi
2390 11 -darim-lar-nïng yörüg-lär-i taplaγ-lar-ï adïrïlmïš üčün tngri burxan yrlïqa
2391 12 -mïš ärmäz tep. sudur ymä andaγ oq bolγu kärgäk 現見文義
2392 13 yügärü körülür užik-lar-i-ning yörüg-lär-i-ning adïrtï-nïng bar-ï sudur
2393 14 adïrïlmaq uγur-ïnda ni'kay-lar yörüg-lär birikmäz taplaγ-lar ni'kay-lar.
2394 15 adïrïlu tükädmäk üz-ä ülgü büdmägü kärgäk tep. 疏主云 äsdiramati
2395 80b-1 baxšï söz-lär alqu ni'kay-lar-ta söz-lägüči alqu abidarim-lar-nïng
2396 2 yörügin bir ikinti-kä sïp tanïp bir ikinti-kä qaršï arq-a bolmïš-qa
2397 3 又 yaršmalašu ymä/ter. bu tïldaγ-ïn ni'kay-lar bölünüp säkiz ygrmi bolmïš ol
2398 4 bular ymä ök užik üz-ä öngi ärmäz uγrayu yörüg üz-ä adïrïlmïš üčün
2399 5 anï üčün sudur birlä birikmäz qayu tïldaγ-ïn teptesär alqu sudur
2400 6 -lar-nïng yörüg töz-i bir ikinti-kä qaršï ärmäz užik üz-ä näčä
2401 7 az qy-a adïrïlsar ymä yörüg üz-ä inčip adïrt-sïz ärür 以不了義
2402 8 nädägin teptesär udušγuluq yörüglügi eyin udu bolmaq üz-ä udušulmïš
2403 9 yörüglügingä bu tïldaγ-ïn tngri burxan yrlïqamïš ol tayanïnglar udušul
2404 10 -mïš yörüglüg sudur-qa tayanmanglar udušγuluq-ïnga tep täk udušγuluq
2405 11 yörüglügi eyin bolmaq üz-ä udušulmïš yörüglügingä inčip udušγuluq
2406 12 yörüglügi ymä ök büdär udušulmïš yörüglüg alqu ni'kay-lar-taqï.
2407 13 qamaγ sudur-lar-nïng yörügi bir ikinti-kä eyin udu ärür bolmaz qaršï
2408 14 -sï arq-a-sï abidarim ödrü andaγ ärmäz üčün anïn uγrayu abid
2409 15 -arim-nïng adïrtï öngi-si sudur-nung adïrtï öngi-si birlä yörüg
2410 81a-1 töz-inčä ärsär büdün adïrïlur tep 又 yänä sanggabadre baxšï söz-lär qaltï
2411 2 bar ärsär alqu ni'kay-lar-ta sözlämš-i 七有經 sapta-bau sudur
2412 3 -uγ anïn abidarim-ïnda uqïdmïš ol antrabav-ïγ. anda birök söz-lämäsär bu
2413 4 sudur-uγ. munda ymä ök uqïdmaz antrabav-ïγ anïn bilmiš kärgäk abidarim.
2414 5 barča eyin udu ärür sudur-qa tep 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär.
2415 6 birök andaγ ärsär abidarim inčip tngri burxan yrlïqamilš ärmäz üčün
2416 7 amtï siz-lär-kä ayïdalïm sudur-uγ šasdr birlä birök taplasar bolur bir tep
2417 8 adï ködrülmiš yrlïqamïš ol sudur bolur anda iki türlüg {tep} ang'ilki udušul
2418 9 -mïš yörüglüg ikinti udušγuluq yörüglüg. amtï tägimlig ol odγuraq söz
2419 10 -lägäli bu abidarim ärsär azu udušulmïš yörüglüg mü ol. azu udušγuluq
2420 11 yörüglüg mü ol. birök söz-läsär udušulmïš yörüglüg ol tep 即諸部
2421 12 異說 inčip alqu ni'kay-lar-ta öngi 々 söz-läyür yörügi birlä yaradïlmaz
2422 13 birök alqu ni'kay-larda söz-läsär bu abidarim-ïγ. öngin 々 bolur udušulmïš
2423 14 yörüglüg tep yörügi ymä ök andaγ ärmäz alqu burxan ančulayu kälmiš-lär
2424 15 adïnsïγ-sïz yrlïγ-lïγ üčün. birök söz-läsär abidarim ärür udušγuluq
2425 81b-1 yörüglüg tep kerdgüngülük bilgülük ol abidarim-nïng odγuraq tayaq
büdmäz

2388 「衆賢又云」に對して甘肅本(*I*.312)は「衆賢云」。2389(~2393) nä ymä söz-läsär siz-lär から ni'kay-lar yörüg-lär birikmäz までは『順正理論』卷一の内容に對應する：所言諸部阿毘達磨義宗異故。非佛說者。經亦應爾。(諸部經中。)現見文義有差別故。由經有別。宗義不同(大正 Vol. 29, p.330a)。

如何に一切の佛法がことごとく經において攝せられていても、阿毘達磨（においても）攝せられると説くなら、經量部のものらには許されない。共通に許される因ではないので、その義が成じない故、と。衆賢師が又云う：ともあれ、諸部にある阿毘達磨の義、宗は異なっているもの故、佛が、説かれたものではないと汝ら云うなら、經も亦應にそのようにならねばならない。文、義に異なりの有ることが現見する。經が別けられることに由って、部、義は同一ではない。宗、部が已に別けられることによって、量は成じないにちがいないと。安慧師が云う：諸部に所説の諸々の阿毘達磨の義を、互いに否定し、互いに矛盾しあって、これに因って部が分かれて十八となったのである。これらも文においては異なっていない。まさに義において別れたため、それ故經と同じではない。何に因ってかと云うなら、諸經の義理は互いに違ではない、文によって如何に少々別れても、義によっては即ち無差別である（ので）。如何にしてかと云うなら、不了義が了義へ随従することを以て。これに因って佛は説かれた「了義の經に依るべし、不了（義）に依るべからず」と。只だ、不了義が了義へ従うことによって、而して不了義もまた了義を成ずる。諸部にある衆經の義は互いに随従である。違とはならない。阿毘達磨は即ちそのようでない故に、まさに阿毘達磨の差別は經の差別とともに、理としては、完全に別れる、と。又、衆賢師が云う：謂わく、諸部において『七有經』を誦したものが有るなら、それで以て阿毘達磨に中有を建立する。そこで、もしこの經を説かないなら、これにも中有を建立しない。それ故、阿毘達磨は皆、經に随従していると知らねばならない、と。安慧師が云う：もしそうなら、阿毘達磨は即ち佛が説かれたものではない故、今、汝らに問いたい、經が論と、もし一つになると許すならば、世尊は「經はそこに二種有る」と説かれたのである。第一は、了義のもの、第二は不了義のもの。今、應に定んでこの阿毘達磨は、或は了義のものか、或は不了義のものか説くべし。もし「了義のものである」と説くなら、即ち諸部において異説する。その義は相應しない。もし諸部においてこの阿毘達磨を「各々了義のものである」と云うなら、その義もまたその通りではない。諸佛、如來は不異の言教もてるため、もし「阿毘達磨は不了義のもの」と説くなら、阿毘達磨の定依が成じないことを信知すべしと。

2396~2397 bir ikinti-kä qaršï arq-a bolmïš-qa「互いに違となるものへ」は「又・・ymä/ter」によって bir ikinti-kä yaršmalašu「互いに競いあって」に訂正されている。この修正文は甘肅本(*l*.319)にも見られる。yarïmalaš-「競」cf.庄垣内(1985) p.90. ni'kay-lar に對して甘肅本は ni'kay (*l*.320). 2400 bir ikinti-kä「互いに」に對して甘肅本では bir ikinti (*l*.322). 2410(~2412) qaltï bar ärsär alqu ni'kay-lar-ta sözlämš-i 七有經 sapta-bau sudur-uy anïn abidarim-ïnda uqïdmïš ol antrabav-ïy は『順正理論』卷一の内容に對應する：謂有諸部。誦七有經。彼對法中建立中有。(大正 Vol. 29, p.330a)。sapta-bau sudur < Skt. sapta-bhava-sūtra「七有經」。antrabav < Skt. antarā-bhava「中有」。甘肅本では antïrabav(*l*.331). 2417 adï ködrülmiš yrlïqamïš ol sudur bolur anda iki türlüg「世尊は「經はそこに二種有る」(と)説かれたのである」に對して甘肅本は atï ködrülmiš yrlïqamïš ol sudur (bolur) anda iki türlüg bolur tep(*ll*.334-335)と書かれている。甘肅本には(bolur)が插入されているので後の bolur は不要。ロンドン本では tep が缺落しているのでテキストに插入した。2421 öngi々 söz-läyür に對して甘肅本は öngi öngi söz-läyür(*l*.339)。2422 の öngi々 も甘肅本では öngi öngi と書かれている(*l*.339)。

2426 2 -in tep. 又 sanggabadre baxšï söz-lär abidarim odγuraq ärür tngri burxan
2427 3 yrlïqamïš. tngri burxan ičgärmiš täginmiš üčün üč aγïlïq nomuγ qaltï
2428 4 adï ködrülmiš yrlïqamïš ol qarï qïlï äv-tin ünmiš-ä tudmaqïng mäning
2429 5 üč aγïlïq nom-umïn ärdingü alp bulγuluq ärür tep anïn bilmiš kärgäk adï
2430 6 ködrülmiš yrlïqamaq üz-ä bar üč aγïlïqlar tep tüzü tükäl bilmiš kärgäk
2431 7 abidarim odγuraq ärür tngri burxan yrlïqamïš tep. tngri burxan birök yrlïq
2432 8 -amamïš ärsär abidarim-ïγ nädägin bolur ärti bar bolγalï üč aγïlïq-lar tep
2433 9 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär adï ködrülmiš-ning söz-lämäki ärsär üč
2434 10 aγïlïq-lar tep. kušudir-a pidakïγ tuda söz-lämiš ol. qaltï ang'ilki sudur 二
2435 11 vinay 三 kušudir-a pidak ärür. ymä ök söz-lämämiš üčün abidarim-ïγ anïn
2436 12 tanuq bolmaz tep. 又衆賢云 yänä sanggabadre baxšï söz-lär. birök söz-läsär
2437 13 siz-lär kušudir-a pidak ärür üčünč tep yörügi ymä ök andaγ ärmäz nädägin
2438 14 teptesär. ol inčip ärür üčün sudur tep 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär
2439 15 bu söz-lämiš-ingiz-lär andaγ ärmäz birök söz-läsär siz-lär kušudir-a pidak
ärür
2440 82a-1 sudur tep tört agam-lar-ta turup qayu orun-ta tudulur. bu ymä ök täk
2441 2 ärür sudur-nung adruq-ï tep. birök söz-läsär siz sudur-nung adruq-ï ärmäz
2442 3 tep inčip iki ygrmi bölük sav-ta bermiš nom-lar-ta tudulmaz birök anda tudul
2443 4 -masar tngri burxan yrlïqamïš ärmäz bolγu kärgäk tep 又衆賢云 yänä sangga
2444 5 -badre baxšï söz-lär qaltï bar sudur-ta yrlïqamïš-ï tudunglar sudur-uγ ulatï
2445 6 vinay-ïγ madarkïγ tep. inčip yoq angayu orun-ta söz-lämiš-i tudunglar
2446 7 kušudir-a pidakïγ tep. äsdiramati baxšï söz-lär birök yoq ärsär orun-ta
2447 8 söz-lämiš-i tudunglar kušudir-a pidakïγ tep anda ymä ök söz-lämämiš ol
2448 9 kim tudunglar abidarim-ïγ tep 衆賢又云 sanggabadre baxšï yänä söz-lär
2449 10 qaltï ol söz-lägüči madark-nïng yörügindä tudulur abidarim 如大迦葉言
2450 11 qaltï mxakašipe arxant söz-lämiš ol. madark tegüči ad üz-ä körgidür qayu-ta

---

2426(~2429) abidarim odγuraq ärü から alp bulγuluq ärür tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：阿毘達磨定是佛説。由佛攝受三藏教故。如世尊説。老耄出家持吾三藏甚爲難得。(大正 vol. 29, p.330b)。ウイグル文の内容の一部(2427~2429)、すなわち上掲漢文の「如世尊説」から「甚爲難得」までは節略漢文『實義疏』とも重なる：佛云。老耄出家持吾三藏。甚爲難得。(大正 vol. 29, 325c)。

又、衆賢師云う：阿毘達磨は定んで佛が説かれたものである。佛は三藏教を攝受した故。謂わく、世尊は「老耄の出家したものよ、吾が三藏教を汝が持することは甚だ得難いのである」と説かれた。それ故に世尊が（このように）説かれたことによって「三藏有り」と知らねばならない。阿毘達磨は定んで佛が説かれたものであると完璧に知るべし。佛がもし阿毘達磨を説かれなかったなら、如何にして三藏を有することができたか？と。安慧師が云う：世尊が「三藏」と云うのは、「雜藏」を約して説いたのである。謂わく、第一に經、第二に律、第三に雜藏である。阿毘達磨を説かれなかった故に、證とはならない、と。又、衆賢師が云う：もし雜藏が第三であると汝ら云うのなら、その義もまたその通りではない。如何にしてかと云うなら、それ（雜藏）は即ち經である故、と。安慧師が云う：この汝らの説くものはその通りではない。もし雜藏が經であると汝ら説くなら「四阿含」において何處に（それが）住して攝せられるのか？これ（雜藏）も只だ經の差別（變種）である、と。もし經の差別ではないと説くなら、即ち十二分教で與えた法には攝せられない。もしそこに攝せられないなら、必然的に佛が説かれたものではなくなる、と。又、衆賢師が云う：謂わく、經に説かれたものが有る「素怛纜、及び毘奈耶、摩怛理伽を汝ら持つべし」と。別の處に、「雜藏を汝ら持つべし」と言うものは無い、と。安慧師が云う：もし、「雜藏を汝ら持つべし」と云うものが無いのなら、そこには又「だれか、汝ら阿毘達磨を持つべし」とも云わなかったのである、と。衆賢師が又云う：謂わく、その所説の摩怛理伽の義において阿毘達磨は攝せられる。

2427 の ičgärmiš は'y'ck'rmys と綴られている。2428 の qīlï は qarï「老人」と二詞一語を構成して「老耄」を表す。2433(~2435) adï ködrülmiš-ning söz-lämäki ärsär üč ayïlïq-lar tep. kušudir-a pidakïγ tuda söz-lämiš ol. qaltï ang'ilki sudur 二 vinay 三 kušudir-a pidak ärür「世尊が「三藏」と云うのは、雜藏を約して説いたのである。謂わく、第一に經、第二に律、第三に雜藏である」。このウイグル文の内容は節略漢文『實義疏』に對應する：三藏一經二律三雜藏(大正 Vol. 29, p.325.c)。kušudir-a pidak (/kušudira pitak/) < Skt. kṣudra-piṭaka「雜藏」。ウイグル文中の漢字「二」と「三」に對して甘肅本(*I*.349)では ikinti と üčünč が書かれている。2444(~2446) qaltï bar sudur-ta yrlïqamïš-ï から kušudir-a pidakïγ tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：唯有處説。持素怛纜及毘奈耶摩怛理伽。而無別處言持雜藏。(大正 Vol. 29, p.330b)。madark(/matark/) < Skt. mātṛkā「摩怛理伽」。2450(~2462) qaltï mxakašipe arxant söz-lämiš ol から uz söz-lämiš bolmaz tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：如大尊者迦葉波言。摩怛理迦。名目何等。謂四念住。廣説乃至八支聖道。四正行四法迹四無礙解。空空無願無願無相無相。諸現觀邊。諸世俗智。雜修靜慮。無靜願智。邊際定智。止觀等法。及集異門法蘊施設。如是等類。一切總謂摩怛理迦。非雜藏中此等諸法具足可得。故説雜藏。即是第三非爲善説。(大正 Vol. 29, p.330b)。2450 mxakašipe < Skt. mahā-kāśyapa「大迦葉波」。

2451 12 ulatï-lar-ïγ teptesär. qaltï tört türlüg ög turuq-lar yänä ulatï säkiz bölük
2452 13 tüz-ün yol-uγ tört türlüg köni ongaru qadïγlanmaq-lar. tört türlüg nomluγ
2453 14 iz uruγ-lar. tört türlüg tïdïγsïz uqmaq-lar. quruγ-ta quruγ. küsüš-süz-tä
2454 15 küsüš-süz. bälgüsüz-tä bälgüsüz dyan-lar. alqu yügärü uqmaq-lar-nïng tüpindäki.
2455 82b-1 alqu yïlayu bilgä bilig-lär qadšuru bïšrun-γuluq dyan-lar. selu dyan-lar tigirtsiz
2456 2 dyan-lar küsüš bilir bilgä bilig uuč qïdïγ dyan 定智止觀 dyan bilgä bilig.
2457 3 dyan bilgä bilig-tä ulatï nom-lar. 又 dyan bilgä biligig tïdmaq qolulamaq-ta ulatï nom
2458 4 -lar ymä/ter. ulatï sanggidapiryayipat darmaskandapat pradniyapdi mundaγ osuγ-luγ-ta
2459 5 ulatï uγuš-luγ-larïγ. alqu-nï yomïtïp söz-lämiš ol madark tep näng
2460 6 kušudir-a pidak-ta munda-ta ulatï alqu nom-lar. tüzü tükäl bolur ärmäz üčün
2461 7 anïn söz-läsär kušudir-a pidak ärsär bu oq inčip ärür üčünč tep näng
2462 8 uz söz-lämiš bolmaz tep 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär. mxakašipe
2463 9 arxant-qa anda täk tägimlig ärti söz-lägäli bu abidarim-ïγ nä kärgäk ärti
2464 10 ikiläyü söz-läp madarkïγ. bu tört türlüg ög turuq-ïnda ulatï-lar.
2465 11 kušudirapidak-ta tüzü tükäl eyin käzigčä yoq ärsär ol abidarim-ta ymä
2466 12 ančulayu oq tüzü tükäl eyin käzigčä ymä ök bululmaγu kärgäk bu tört
2467 13 türlüg ög turuq-lar-ï ulatï pradniyapdi munda-ta ulatï alqu nom
2468 14 -lar-nïng madark-ta täk tudulur olar-nïng užik-lär-i tudulmaz olar-nïng
2469 15 yörüg-lär-i 若言 birök söz-läsär tört türlüg ög turuq-ïnda
2470 16 ulatï-lar-nïng. užikin sudur-ta söz-läyü tükädmiš ärür tep. sanggida
2471 17 -piryay sudur. sudur-ta tudulu tükädmäk üz-ä nä kärgäk ikiläyü

2455 selu < Chin.靜慮(M.Chin. dzieng lio). selu dyan-lar「靜慮定」: 本來「靜慮」は「定」の一種である。ここでは「雜修靜慮」を「雜修定」と「靜慮定」の二つに讀んでいる。「定」に對しては dyan (Skt.dhyana)をあてている。 qadšur- = qat-「混ぜる」-šur(dev.verb). qadšuru bïšrun-γuluq dyan「混ぜて修する定」=「雜修定」。甘肅本(I.366)では qadšurur のごとくアオリスト形式で書かれている。

謂わく、大迦葉波阿羅漢が言った。摩怛理迦と云う名によって何等を目すると云うなら、謂わく、四種念住、また乃至八支聖道、四種正行、四種法迹、四種無礙解、空における空、無願における無願、無相における無相定、諸の現観の邊、諸世俗智、雑修定、靜慮定、無諍定、願智、邊際定、定智を止観すること等の法、及び集異門足、法蘊、施設、この如き等の類、一切を總じて摩怛理迦と説いた。決して雑蔵においてこれ等諸法は具足となるものではない故に、それで「雑蔵はこれ即ち第三である」と説くなら、決して善説とはならない、と。安慧師が大迦葉阿羅漢に云う：そこでは只だ、この阿毘達磨をのみ説くべし。何の必要で摩怛理迦を更に説いたのか？この四種念住等が雑蔵において、完全に隨順として無いのなら、阿毘達磨においてもそのように完全に隨順としてまた、この四種念住乃至施設は必然的に得られない。これ等一切法の摩怛理迦において、唯だそれらの文のみが攝せられる。それらの義は攝せられない。もし「四種念住等の文を經において已に説いたのである」と言うなら、『集異門經』は經において已に攝せられたのに、何の必要で、更に阿毘達磨にこの因を説き起こすのか。

2456 uuč qïdïγ dyan「邊際定」は prandakotik dyan に訂正されている。 prandakotik (/prantakotik/) < Skt. prānta-koṭika「邊際」。甘肅本 (*ll*.367-368) には uč qïdïγ dyan に續いて「又 prandakodik ymä ter」と修正文が挿入されている。 このあたり、ウイグル文と漢文の内容はかなり食い違う。2457 ウイグル文では「定智止觀」は一旦 dyan bilgä bilig dyan bilgä bilig-tä ulatï nom-lar「定智、定智等の法」と書き「又」以下で訂正している。甘肅本では dyan bilgä bilig-tä ulatï nom-lar. 又 dyan bilgä biligig tïdmaq qolulamaq-ta ulatï nom-lar ymä/ter のごとく書かれている。ロンドン本の最初の dyan bilgä bilig は不要である。ここでは修正文に隨って「定智を止觀すること等の法」のように和譯した。2458 sanggidapiryayipat (/sanggita- piryayipat/) < Skt. saṃgītiparyāyapāda「集異門足」、darmaskandapat < Skt. dharmaskandhapāda「法蘊足」、pradniyapdi (/pradniyapti/) < Skt. prajñapti「施説」「執説」。 2459 yumtïp は ywm"yb と綴られている。2460 munda-ta ulatï alqu nom-lar「これ等諸法」に對して甘肅本は munda-ta alqu nom-lar (*ll*.371-372) と書かれているが、これは誤寫である。2461 söz-läsär kušudir-a pidak ärsär bu oq inčip ärür üčünč tep は söz-läsär kušudir-a pidak<-ïγ> bu oq inčip ärür üčünč tep「雑蔵をこれ即ち第三であると説くなら」に訂正されている。甘肅本にも söz-läsär kušudir-a pidak ärsär 又 -ïγ ymä ter (*l*.372) の如く kušudir-a pidak<-ïγ>「雑蔵を」への訂正が書かれている。ウイグル語としては訂正文の方が適切である。2463 söz-lägäli は swz- "k'ly と綴られている。2464 turuq-ïnda ulatï-lar「住等」に對して甘肅本は turuq-ïnda ulatï (*l*.375). 2467 pradniyapdi は Skt. prajñapti「施設」「安立」を起源とするが、甘肅本 (*l*.377) は pradniyapatpati と書かれている。

2472 83a-1 söz-läp turγurup abidarim-ta bu tïldaγ-ïn birök udušup mundaγ osuγ
2473 2 -luγ alqu tanuq-lar alqu tïldaγ-lar üz-ä söz-läsär madark ärür.
2474 3 abidarim tep. barča yörüg töz-ingä yaraši bolmaz 此但説四念住
2475 4 等文 munda täk söz-lämiš ol tört türlüg ög turuq-ïnda ulatï
2476 5 -lar-nïng užikin nä ymä söz-läsär siz sanggitapiriyay ärür abidarim
2477 6 tep ymä ök yörüg töz-ingä yaraši bolmaz. täk munda užik-in adïr
2478 7 -miš ärür. üsdür-ti bärü sïp sačïp qavïrasïnča körgidmiš boldï
2479 8 bulung yïngaq tänginčä taqï ymä bolsar adïn sezik öngdünki yangγar
2480 9 -ïγ yangïnča sïmïš kärgäk tep. :: . :: . :: . :: .
2481 10 有部餘师説 sarva-asdivat ni'kay-lïγ adïn baxšï-lar söz-lär.
2482 11 birök tngri burxan yrlïqamamïš ärsär abidarim-ïγ. yoq ärsär üč aγïlïq
2483 12 -lar nä üčün tngri burxan uqïdu kapile toyïn-ïγ söz-lädi 三蔵 dripi
2484 13 -take-y-a tep. bolu tükädmäk üz-ä üč aγïlïq-lar bäkiz bälgülüg bilmiš
2485 14 kärgäk adï ködrülmiš taplamïš ärür. bar abidarim tep. kapile ärsär öngrä
2486 15 kašip tngri burxan ödintä bar ärti bir toyïn tedik yaruq bilgä biliglig
2487 16 keng bilmäklig tüzü tükäl uqmïš ärti üč aγïlïq-larïγ 常以口業
2488 17 uzadï til-täki qïlïnč üz-ä irär münäyür ärti. alqu kiši-lärig.
2489 18 täglükän. balïq. quš. it. äsringü uγuš-luγ quš käyik tep. ken bu qïlïnč
2490 19 -ïnga tayaq-lïγ-ïn. tuγup taluy ögüz-tä tägindi uluγ balïq ät'öz-in
2491 20 anïng ät'öz-i keng uluγ säkiz ygrmi baš-lïγ. tüzü tükäl tägindi alqu
2492 21 ämgäk-lärig. adï ködrülmiš ündüktä bälgürdüktä yerdinčü-tä anïlayu
2493 83b-1 oq bolmatï ozγalï. ken bar ärti balïq-čï kiši anïng san-ï mïng balïq
2494 2 tudγu tïldaγ-ïnda basa toor yadïp 此魚拽之不出 bu balïq-ïγ tar
2495 3 -tïp ündürmätin ken san-ï mïng kiši-lär birgärü birikip tardïp ün
2496 4 -dürüp kördi-lär anïng üküš tälim bašïn körki-ning oxšadïγ-ï-nïng
2497 5 qorqïnčïγ-ïn adï ködrülmiš qolulap körüp. bilip anïng tüš-i-ning
2498 6 üzülmiš-in ärü ärü uduzup uluγ quvraγ-ïγ. tägip ol taluy-nung
2499 7 qïdïγ-ïnga. orun töldäp oluru tükätdüktä oqïyu ol balïq-ïγ söz
2500 8 -lädi dripidake-y-a sän näčük'ol. ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan.
2501 9 ödindäki dripidake toyïn tep. ol balïq äšidü tükätdüktä köz-indä
2502 10 tolu yaš-ï kölärdi. adï ködrülmiš nomladuq-ta öngräki ažun-taqï
2503 11 tïldaγ-ïn ol balïq köngül-indä tuγurup ökünmäk qïnanmaq-ïγ. ikiläyü
2504 12 ičmädin yemätin munung tïldaγ-ïnda ölüp tuγdï tngri yer-indä
2505 13 彼時聞（法）之衆 ol ödtä nom äšidigmä quvraγ öngin 々 öz kölüngü

もしこのごとき諸證、諸因によって了じて、「摩怛理迦は阿毘達磨である」と説くなら、須く理に適合しない。ここにおいては只だ四念住等の文を説いたのである。集異門は阿毘達磨であると説いても、また理に相應わしくない。只だ、ここでは文を差別したのである。上以來、切り散じ略して示したのである。方隅として、更にまた餘の疑問が成ずるなら、先の規範に從って（それを）破らねばならない、と。有部の餘師が説く：もし佛が阿毘達磨を説かれなかったのなら、三藏が無いのなら、何故佛は劫比羅比丘を立てて、「三藏よ」と云ったのか？已に三藏が成ずることを以て明了せねばならない。世尊は「阿毘達磨は存在する」と認めたのである。劫比羅について（の話）：昔、迦葉佛時に、一苾芻がいた。聰明な智をもち、博學で、三藏を完全に了じた。常に語業を以って、すべての人、鵝鴨、魚、狗、各類の禽獸等を毀つのであった、と。後にこの業に依って、海に生まれ、大魚身を受けた。其の身は甚大、十八頭を有し、衆苦を俱受した。世尊が世に出現したときに、猶、脱し得なかった。後に、漁人が有り、其の數、千。魚を捕るべき因（緣）において、次に網を廣げ、この魚を曳いたが出せなかった。後にその數、千の人々が共同して曳き出し、其の多頭や、形貌の恐怖を見た。世尊が觀見し、その報いの終わりを知り、遂に大衆を將いて彼の海岸へ至った。敷座をなし坐りおえたときに、彼の魚を呼んで云った「三藏よ！汝は過去佛時の三藏苾芻ではなかったのか？」と。彼の魚は、聞き終えたとき、その目には涙が一杯溢れた。世尊が宿因を説いたとき、その魚は心に悔が生じて、更には飲食せず、この因で死に天上に生まれた。その時、法を聞く衆は各々の自乘によって法利を獲た、と。

2473~2474 söz-läsär madark ärür abidarim tep「摩怛理迦は阿毘達磨であると説くなら」に對して甘肅本は söz-läsär madark ärür abidarim ärür abidarim tep (*l*.382) と書かれているが ärür abidarim が一つ餘分である。2479 bulung yïngaq「方隅」（ことわり）。2481 sarva-asdivat (/sarvaastivat/) < Skt. sarvāsti-vāda「説一切有」。2483 kapile < Skt. kapila「劫比羅」。 dripitake (/tripitake/) < Skt. tri-piṭaka「三藏」。2485 (~2506) kapile ärsär öngrä から buldï-lar nomluγ asïγ-ïγ tep までは節略漢文『實義疏』と對應する：昔迦葉佛時有一苾芻。聰明博學俱閑三藏。嘗以語業毀罵出家在家人等。爲鵝鴨魚狗諸禽獸等。命終之後。承此業報。生於海中。受大魚身。其形甚大。有十八頭俱受衆苦。世尊出世猶未得脱。後有漁人。其數一千。困捕魚次。網著此魚。曳之不出。後數千人同共曳出。見其異類多頭形貌可怖。世尊觀見知具報終。遂將大衆至彼海岸敷座。坐已呼彼魚云。三藏。汝豈不是過去佛時三藏苾芻。彼魚聞已涕淚盈目。爾時世尊爲説宿因。其魚生悔更不飲噉。因茲命終生於天上。於彼時中聞法之衆各於自乘獲大法利（大正 Vol. 29, p.325c）。2488 uzadï til-täki qïlïnč üz-ä (*l*.392) と書かれているが誤寫と考えられる。2489 täglükän = täglük「盲目」-kän（動物）＝「みみずく、ふくろう」。甘肅本には täglikän (*l*.393) と書かれている。 また、ken bu qïlïnč-ïnga tayaq-lïγ-ïn の bu「この」は甘肅本 (*l*.394) には無い。2494 ウイグル文中漢字列「此魚拽之不出」に對して甘肅本 (*l*.397) は「此魚曳之不出」。2496~2497 körki-ning oxšadïγ-ï-nïng qorqïnčïγ-ïn「形貌の恐怖を」に對して甘肅本は körki-ning oxšadïγ-ïn-nïng qorqïnčïγ-ïn (*l*.399) としているが、-ïn-nïng は -ï-nïng の誤寫である。2500~2501 dripidake-y-a sän näčük'ol. ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn「三藏よ！汝は過去佛時の三藏苾芻ではなかったのか？」に對して甘肅本は dripidake-y-a sän näčük'ol. ärmäz mü ärding ärtmiš ödki kaškip tngri burxan ödintä-ki dripidake toyïn (*l*.402)「三藏よ！汝は過去時の迦葉佛時の三藏苾芻ではなかったのか？」と書かれている。對應する漢文は「汝豈不是過去佛時三藏苾芻」とあるので本文ウイグル語が適切といえる。2505 「öngin々」に對して甘肅本では öngin öngin (*l*.406)。

2506 14 -lärinčä. buldï-lar nomluγ asïγ-ïγ tep. kengürü-si qaltï uluγ vinay-taqï
2507 15 täg tedir tep 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär. qaltï öngdün
2508 16 söz-läyü tükätdimiz ärti üčünč aγïlïq ärsär (bu oq inčip ärür) kušudir-a pidak
tep
2509 17 nä kärgäk qadnayu tardïp bu yörügüg tanuq qïlïp üč aγïlïq-lar-qa
2510 18 tep. ol baxšï yänä söz-lär :: bar ärti bramïn ayïtdï anant-qa inčä
2511 19 tep burxan nom-ï-nïng anïng ülgü-si nädäg ol tep. anant kikinč
2512 20 berü söz-lädi burxan nom-ïnda bar ol üč aγïlïq-lar tep ::
2513 84a-1 braman yänä ayïtdï bir bir aγïlïq-lar-ta ülgü-si bolur näčä tänglig tep
2514 2 anant kikinč berü söz-lädi ülgüsi bolur lakš tep. kušudir-a pidak
2515 3 -ta yoq bu lakš-nïng ülgüsi nädägin bolur. bolγalï üčünč aγïlïq
2516 4 tep. 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär. anant sudur vinay-ïγ
2517 5 tuda kikinč bermiš ol. munda ymä ök bolmaz mün qadaγ tep 又 yänä
2518 6 adïn baxšï-lar söz-lär. tüz-ün upali ayïtduq-ta tngri burxan
2519 7 -qa kälmädük ötdä bolγay alqu toyïn-lar. az-qy-a öglüg bilgä bilig
2520 8 -lig. unïdγay-lar itdürgäy-lär sudur vinay abidarim-ïγ. olar-ta
2521 9 ulatï-lar nädägin bïšrunu yorïz-un-lar tep. tngri burxan yrlïqadï
2522 10 anga inčä tep. bu sudur vinay abidarim-ïγ tägimlig ol bidigäli
2523 11 kägdä-tä tep. amtï söz-lägüči abidarim tngri burxan yrlïqamïš ärmäsär
2524 12 ol söz-lägüči abidarim-nïng anïng sav-ï qayu ärür tep. ::
2525 13 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär abidarim bolur üküš tälim. ymä
2526 14 ök bolmaz odγuraq söz-lägäli ärür bu abidarim tep ymä ök bir yindäm.
2527 15 söz-lämägäli ärür bu abidarim tep 又 yänä adïn baxšï-lar söz-läsär siz
2528 84b-1 -lär äšidmiš üčün bu abidarim ärür kadyanapudre arxant yaradmïš anïn
2529 2 kerdgünmäz biz tep bu yörügüngüz-lär andaγ ärmäz. qayu tïldaγ-ïn teptesär
2530 3 qaltï nomuγ bilgü tïldaγ-ïnda bir ikinti-kä ulašu söz-lämiš-i tüz
2531 4 -ü tükäl ülgü ärmäz. yerdinčü-täki-lär-ning söz-lämiš sav-ï ymä ök
2532 5 ülgü ärmäz. nä kärgäk bärk yarp adqanïp ödüt äšidmiš sav
2533 6 bolur odγuraq ülgü tep. 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär.
2534 7 vasubandu baxšï säčä ödüt äšidmiš üčün ök taplamamïš ärmäz.
2535 8 ymä ök öngdün söz-lägüči tört türlüg tïldaγ-lar üz-ä anïn
2536 9 taplamaz bu tïldaγ-ïn munda bolmaz mün qadaγ tep 即此 bu oq inčip
2537 10 ärür. öngdünki sarva-asdivat ni'kay-lïγ öngi baxšï-lar-nïng
2538 11 söz-lämiš-i 又 bu oq öngdünki sarva-asdivat ni'kay-lïγ öngi

その廣説は猶、大毘奈耶にあるごとしと云う、と。安慧師が云う：謂わく、以前に已に「第三の藏は、これ即ち雜藏である」と我らは説いた。何の必要で、この義を重ねて引いて、三藏への證となすのか？と。その師はまた云う：（謂わく一）婆羅門が居た。阿難に次のように問うた「佛法のその量は如何か？」と。阿難は答えて云った「佛法には三藏が有る」と。婆羅門はまた問うた「一々の藏にその量はどれほど有るのか？」と。阿難は答えて云った「その量は洛叉となる」と。雜藏にはこの洛叉の量は無い。如何にして第三藏となり得るのか？と。安慧師が云う：阿難は經、律を約して答えた。これにも過失はない、と。又、餘の師は云う：善なる優波離が佛に「未來において、諸比丘は少念の智もてるものと成るであろう。經、律、論を忘失するであろう。彼等は如何に修行すべきか？」と問うたとき、佛は彼に次のようにと説かれた「この經、律、論を應に紙に書くべし」と。今、説くところの阿毘達磨が佛の説かれたものでないのなら、その所言の阿毘達磨の言は何であるのか？と。安慧師が云う：阿毘達磨は多い。また定んでこの阿毘達磨であると説くことはできないし、また唯一この阿毘達磨であると説けなくもない。又、餘の師らが「この阿毘達磨は迦多衍尼子阿羅漢が造ったものである（と）聞いた故、それで我らは信じない」と説くなら、この、汝らの義はその通りではない。何に因ってかと云うなら、謂わく、法を知るべき因において互いに結合して説いたものは完全な量ではない。世間のものの説いた言も量ではない。何の必要で、傳聞した言が定んで量となると固執するのか？と。安慧師が云う：世親師は、偏に傳聞したために滿足しなかったのではない。また先に所説の四種因を以て、それでこの因を許さないのである。ここにおいて過失とはならない、と。これが即ち先の説一切有部の餘師が説いたものである。

2506 kengürü「廣く」を「廣説」と譯した：cf. note 4. 2508 söz-läyü tükätdimiz ärti「我らは説いた」に對して甘肅本(*l*.408)は söz-läyü tükädmiš ärdi「説いた」。一方 (bu oq inčip ärür)「これ即ち・・である」は甘肅本にも書かれている(*l*.408)。2510 ol baxšï yänä söz-lär :: bar ärti bramïn「その師はまた云う：婆羅門が居た」に對して甘肅本は ol baxšï yänä söz-lär qaltï bar ärti bramïn(*l*.410)「その師はまた云う：謂わく婆羅門が居た」。甘肅本の方が適切である。2511 burxan nom-ï-nïng anïng ülgü-si「佛法のその量は」に對して甘肅本では burxan nom-ï-nïng anïng ülgü(*l*.411)。2514 anant < Skt. ānanda「阿難」。 lakš < Skt. lakṣa「洛叉」(數の單位の第六、十の五乘)。2520 itdür- = (y)it「失う」- tür(caus.). sudur vinay abidarim-ïγ「經、律、論を」に對して甘肅本では sudur-uγ vinay abidarim-ïγ(*l*.408)。2524 ol söz-lägüči abidarim-nïng anïng sav-ï qayu ärür に對して甘肅本は ol söz-lägüči abidarim-nïng sav-ï qayu ärür(*l*.419)「その所言の阿毘達磨の言は何であるのか？」と書かれている。内容は甘肅本の方が適切であるので和譯はそれを用いた。2532~ 2533 ödüt äšidmiš sav bolur odyuraq ülgü「傳聞した言が定んで量となる」に對して甘肅本では ödüt äšidmiš sav(-ïγ) bolur odyuraq ülgü(*ll*.425-426)のごとく sav「言」に對格接辭を付加している。この『實義疏』のウイグル文としてはいずれも可能である。

2539 12 baxšï-lar sezik qïlu öngdünki ikinti yrlïqamïš üčün tayanïng
2540 13 -lar tegüči baxšï-qa söz-lär ymä/ter. 又 öngdünki baxšï sezik qïlu ikin
2541 14 -ti söz-lämiš üčün tayanïnglar tegüči baxšï-qa söz-lär ymä/ter. bu kenki
2542 15 oqïš bu diravi-qa birsi ol 先-ki oqïš 大力奴 baxšï-nïng
2543 85a-1 qïlmïš diravi-sïnga yarašï ol körüp uqïdz-un-lar :: ::
2544 2 nä ymä söz-läsär. vinay-ta munda kengürü yörär üčün čxšapt
2545 3 -nïng töz-in bolur tayaq büdgäli tep. tapladïlur andaγ bolz-un
2546 4 adïn vinay-ta kengürü yörmädäči-si ärsär čxšapt-nïng töz-in
2547 5 tayaq büdmägü kärgäk tep. 踈主云 äsdiramati baxšï söz-lär
2548 6 birök bar ärsär vinay-ta yörmädüki čxšapt-nïng
2549 7 töz-in barča ymä ök ol čxšapt-nïng töz-ingä tayaq-lïγ ärür
2550 8 qadnayu arïdγalïr üčün anïng užik-in kengürü yörmäk üz-ä
2551 9 anïng yörügin ymä ök tayaq bolur tep 此师又徵 bu baxšï yänä
2552 10 sezik qïlu üčünč taplaγ-lar ni'kay-lar adïrïlmaq üz-ä tegüči baxšï
2553 11 -qa söz-lär. birök söz-läsär-siz-lär alqu ni'kay-lar-taqï abidarim-lar.
2554 12 bir ikinti-kä qaršï ärür. vinay-taqï alqu ni'kay-lar-ta ymä ök bir
2555 13 ikinti-kä qaršï ärür. qaltï taryarduq-ta bir čxšpt-ïγ bu ni'kay-ta
2556 14 söz-läsär yenik tep ol ni'kay-ta söz-läyür aγïr tep ulatï bu sav
2557 15 üz-ä ol vinay ymä ök tngri burxan yrlïqamïš ärmäz bolγu kärgäk nädägin
2558 85b-1 teptesär. öngdünki-si kenki-si anï-lï munï-lï bir ikinti-kä qaršï üčün
2559 2 tep 踈主云 äsdiramati baxšï söz-lär. alqu vinay adïrtlïγ odγuraq
2560 3 ärür tngri burxan yrlïqamïš nädägineptesär bu ärür alqu burxan-lar-nïng ič
2561 4 aγïlïq-ï. üč ödki alqu burxan-lar-nïng nom-ï bu sanvar čxšapt sim
2562 5 -lïγ üčün 猶如四洲 inčä qaltï tört divip-lar čakiravar taγ

2537~2538 öngi baxšï-lar-nïng söz-lämiš-i 「餘師が説いたもの」は甘肅本では öngi baxšï-lar söz-lämiši (*l*.429).
2541~2542 bu kenki oqïš「この後の讀み」の bu「この」は甘肅本(*l*.432)には無い。このウイグル語に先行する「又・・ymä/ter」に挟まれた2つの訂正文は甘肅本にもある。ところで bu kenki oqïš bu diravi-qa birsi ol「この後の讀みはこの實體に對するその一つである」の「後の讀み」とは 2540~2541 の「又・・ymä/ter」に挟まれた文を指す：öngdünki baxšï sezik qïlu ikin-ti söz-lämiš üčün tayanïnglar tegüči baxšï-qa söz-lär「先の師が、第二番目の「依るべし」と説いたため」という師へ疑いをなして、説く」。また、先-ki oqïš 大力奴 baxšï-nïng qïlmïš ⇒

又、これは先の説一切有部の餘師が、先の第二番目の「依るべしと説かれたため」と云う師へ疑いをなして、説くとも云う。又、先の師が、第二番目の「依るべしと説いたため」と云う師へ疑いをなして、説くとも云う。この後の讀みがこの實體に對するその一つである。先の讀みは大力奴師のなした實體に相應しい。觀て立てるべし。ところで、律において、ここで「戒の根本を廣釋する故に、所依が成じ得る」と説いても許される。斯くあるべし。餘の、律において戒の根本を廣釋しないものは必然的に所依が成じない、と。安慧師が云う：もし律において、戒の根本を釋さなかったものが有れども、全てはまたその戒の根本へ依っている。それの文を重ねて明白にするため、それの義を廣釋することによって、又所依となる、と。この師はまた第三の「宗派、部派が差別されることによる」と云う師を徴問して云う：もし、「諸部にある阿毘達磨は互いに違である。律にある諸部においても互いに違である。謂わく、一つの戒を破ったとき、この部において（それを）輕いといえども、あの部においては重いと云う」と汝らが説くなら、更にこの言によって、その律もまた必然的に佛が説かれたものではなくなる。如何にしてかと云うなら、先のものと後のものとが、あれとこれとが、互いに違であるため、と。安慧師が云う：諸律は決定して、佛の説かれたものである。如何にしてかと云うなら、これは諸佛の内なる寶藏である。三世諸佛の法は、この律儀戒（と云う）境界をもっている故。

---

diravi-sïnga yarašï ol 「先の讀みは大力奴師のなした實體へ相應しい」の「先の讀み」とは 2538~2540 の「又・・ymä/ter」に挟まれた文を指す。すなわち：bu oq öngdünki sarva-asdivat ni'kay-lïγ öngi baxšï-lar sezik qïlu öngdünki ikinti yrlïqamïš üčün tayanïng-lar tegüči baxšï-qa söz-lär「これは先の説一切有部の餘師が、先の第二番目の「依るべしと説かれたため」という師へ疑いをなして、説く」。大力奴（＝聖奴）は漢字でのみ書かれている。先-ki oqïš 大力奴 baxšï-nïng は甘肅本（*l*.433）では öngdünki oqïš tailigdu baxšï-nïng と書かれている。すなわちロンドン本ウイグル文中の「先」は訓讀、「大力奴」は音讀された。tai-lig-du（M.Chin. dâi liạk no）はウイグル漢字音の特徴をよく表している。Cf. 庄垣内（2003b）pp.128,135,55,73. diravi < Skt. dravya「實體」。2543~2544 diravi-sïnga yaraši ol körüp uqïdz-un-lar :: :: nä ymä söz-läsär「實體へ相應しい。觀て立てるべし。ところで・・」に對して甘肅本では diravi-sïnga yaraši ol azu yänä söz-läsär（*ll*.433-434）「實體へ相應しい。或いはまた・・」と書かれている。2547 äsdiramati baxšï söz-lär に對して甘肅本では ästiramadi söz-lär（*l*.437）。2552 sezik qïl-「疑いをなす」「詰る」。ここではウイグル文中漢文の「徴」をもとに「徴問」とした。2554 qaršï は qrsy と綴られている。2557 yarlïqamïš は yrlyqmys と綴られている。2561 sanvar < Skt. saṃvara「律儀」。 sim < Skt. sīmā「境界」。 sanvar に對して甘肅本は sansar（*l*.449）が書かれているが誤寫である。2562 čakiravar < Skt. cakravāḍa「金剛山、鐵圍山」。ウイグル文中の「猶如四洲」は甘肅本（*l*.449）では「猶如四州」と書かれている。

2563 6 sim-lïγ sïčï-lïγ bolmïš täg. burxan nom-ï ymä ök andaγ oq ögrädingülük
2564 7 orun čxšapt sim-lïγ ärür. munda taš öngi kim-ning bolγay bu ädräm-i bu
2565 8 vinay-nïng alqu ni'kay-lar-ta birök bolsar öngdüni keni yenik ayïr bol
2566 9 -maq üz-ä anïn az-ïn az-ïn birikmämäki. näng adï ködrülmiš-ning müni qaday
2567 10 -ï ärmäz. käntü ärür alqu ni'kay-lïγ-lar-nïng yörüg alïš üz-ä käntü 々 adïrïlmïš
2568 11 tep. bu baxšï yänä sezik qïlu törtünč qaršï tanuq-luq ol tegüči baxšï
2569 12 -qa söz-lär. tägmäk-tä ulatï köngül-tä öngi nom-larïγ arxant-lar-nïng qud
2570 13 -ïndïn taymaq-ta ulatï-larïγ. vaybašike-lïγ baxšï-lar yörüg töz-inčä
2571 14 söz-läyü tükädmiš ol alqu barča tanuq büdär tep nädägin munda söz
2572 15 -läyür siz-lär qaršï tanuq-luq ärür tep 疏主云 äsdiramati baxšï
2573 86a-1 söz-lär. munda-ta ulatï alqu yörüg-lärig eyin käzigčä kengürü söz
2574 2 -lämädimiz ken inčip käntü uqγay siz-lär qaršï tanuq-luq-ïn birlä
2575 3 yänä qaršï-sïz tanuq yänä ädgü-ti saqïnmïš-ïngïz-lar kärgäk. 又 tüz-ü
2576 4 tükäl ädgü-ti ymä/tegü täg :: taqï ymä bar adïn baxšï-lar-ta kengürü
2577 5 uqïtdačï sïmaq tanmaq-lïγ yörügüg. yangšaq keng bolγay temiš
2578 6 üčün teptemiš. abidarim ärür tngri burxan (käntü öz-i) yrlïqamïš. abipiray-ï
2579 7 yumdaru öngdün-ki täg tedir. azuqï sav-lar az tur-zun

2563 sïčï(< Chin.四至) 'four boundaries'(*EDPT* p.795). sïčï-lïγ に對して甘肅本では čïzïγ-lïγ (*l*.450)「境界線もって」が書かれている。 ögrädingülük orun čxšapt「學處戒」、「學處」も「戒」も同じ意味 Skt.śikṣā を表す。2567 「käntü 々」(各自)は甘肅本では käntü käntü (*ll*.454-455) と書かれている。

猶、四州が鐵圍山（と云う）境界もって、四至もって成じたごとし。佛法もまたそのように學處戒（と云う）境界をもっている。ここにおいて他のだれのものがその徳となるであろうか？この律の諸部において、もし先と後とが、輕重となることによって、それで、少しずつ不同のものとなっても、決して世尊の過失ではない。自體は、諸部のものらの義の受け方において各自差別されたものである、と。この師はまた第四の「違證である」と云う師へ疑いをなして説く：得等の心不相應法と、阿羅漢果から退轉したものらについて、有部師は「理においてすべて悉く證は完成する」と已に云った。如何にしてここで汝らは（それを）「違證である」と説くのか？と。安慧師が説く：これ等一切の義を我らは順序通りには廣説しなかった。後に而して、違證と併せて無違の證を汝らは自ら了じるであろう。又、汝らは完璧によく考えねばならない。更にまた餘師には「否定もてる義を詳しく辯ずるものは冗長となるであろうと言った故」と述べるものが居る。阿毘達磨は佛自らが説かれたものである。その意趣は總じて前のごとし、と云う。傍論は且く止めるべし。

2573~2575 munda-ta ulatï alqu yörüg-lärig eyin käzigčä kengürü söz-lämädimiz ken inčip käntü uqγay siz-lär qaršï tanuq-luq-ïn birlä yänä qaršï-sïz tanuq「これ等一切の義を我らは順次に廣説しなかった。後に而して、違證と併せて無違の證を汝ら自ら了じるであろう」。このウイグル文において、qaršï-sïz tanuq「無違の證」は qaršï-sïz<-ïn>「無違を」に訂正されている。またこの文に續く yänä ädgü-ti saqïnmïš-ïngïz-lar kärgäk (2575)「又、よく汝ら考えねばならない」の ädgü-ti「よく」は續く訂正文「又・・ymä/tegü täg」で tüz-ü tükäl ädgü-ti「完璧によく」に訂正されている。ここでは訂正文の「完璧によく」を採用した。なお、qaršï-sïz tanuq (2575)に續く yänä ädgü-ti の yänä は本來 y'n'と綴られるところを y 一'のごとく書かれている。ふつうには yänä と讀めるが、yn の誤寫の可能性も大きい。qaršï-sïz tanuq-ïn なら 2574 行目の qaršï tanuq-luq-ïn と平行する。一方甘肅本では以下の通りである：mundata ulatï alqu yörüg-lärig eyin käzigčä kengürü söz-(lädi- miz) ken inčip käntü uqγay siz-lär qaršï tanuq-luq-ïn birlä yänä qaršï-sïz-ïn(*ll*.459-461)「これ等一切の義を我らは順次に廣説した。後に而して、違證と併せて無違を汝ら自ら了じるであろう」。käzigčä kengürü söz-(lädimiz)「順次に廣説した」というのは適切ではない。 qaršï-sïz-ïn「無違を」はロンドン本の訂正文と同じである。さらに「又」以下の訂正文も、「又 tükäl ädgüti tegü täg」(*ll*.461-462)のごとくロンドン本の訂正文に近い。2576 bar adïn baxšï-lar-ta に對して甘肅本は bar (ärdi) adïn baxšï-lar-ta(*l*.462)。ロンドン本の bar adïn baxšï-lar-ta はここでは「有餘師には」ではなく、「餘師には・・が居る」を表す。從って、甘肅本の ärdi の插入は文意を明確にするのに役立っている。甘肅本なら「餘師には・・が居た」となる。2578 (käntü öz-i)「自ら」の括弧内のウイグル語は甘肅本(*l*.463)本文に現れる。2579 azuqï sav-lar az tur-zun「傍論は且く止めるべし」。azuqï sav-lar は「傍論」を意味する：azuqï savlar ärtä tükädi yänä tägimlig ol uqïtγalï öngdünki uqïtur uqïtmaznïng bälgüsin 「傍論已了復應辯前表無表相」(H30R6)。「傍論は且く止めるべし」は北京圖書館藏漢文『實義疏』第三卷(蘇軍(1995) p.212)に同じ漢文が見られる：傍論且止、應辯本論。なお、azuqï に對して甘肅本では"snw-qy(*l*.464)と書かれている。これは ašnuqï「先にある」を意味し、明らかな誤寫である。

2580 8 tägimlig ol uqïdγalï köni sav-ïγ {tep} 又 soq-a šasdr-ïγ ymä/ter.
2581 9 上辯異説竟 üsdürdi bärü öngi söz-lädäči-lärig uqïdïp ärtdi.
2582 10 abidarmavat tükädi 了/也 善哉 莎土
2583 11 印於初卷了了也。第二 bašladï ymu ::
2584 86b-1 論 qayu nom-nung adï bolur olar-qa bilgülük adïrtlaγuluq bol
2585 2 -maq üz-ä bu tïldaγ-ïn ter-lär tepdegülük tngri burxan yrlïqamïš
2586 3 ol abidarim-ïγ tep 釋曰 öngdün söz-lädi ärti nom(-uγ bölmäk) adïrtlamaq
2587 4 -nïng adï bolur nom adïrtlamaq tep. näčä bililsär ymä adïrtlamaq
2588 5 -nïng bilmäk adïrtlamaq tegüči ärdüki bililmäz üčün qayu-nung
2589 6 adï bolur nomuγ bölmäk adïrtlamaq tep. anïn munda sezik turyur
2590 7 -mïš-qa karikda käntü kikinč berü söz-lämiš ol 論頌曰 šasdr
2591 8 -ta karikda söz-lädi ärti 有漏无漏法 aqïγ-lïγ aqïγ-sïz nom
2592 9 -lar ol tep 論曰 nomlamïš-ča alqu nom-lar qavïr-a-sïnča bolur iki tür
2593 10 -lüg. qaltï aqïγ-lïγ aqïγsïz tep. aqïγ-lïγ nom qayu ol teptesär qaltï
2594 11 yol-uγ öngi kedärip adïn ediglig nom-lar ärür. nä üčün teptesär. alqu
2595 12 aqïγ-lar anda täng tüz eyin ükliyür üčün tep 釋曰
2596 13 yör-ä söz-läp 問 čodake söz-lär. täk söz-lädüktä aqïγ
2597 14 -lïγ aqïγ-sïz tep bililü tükädür ärti nom ärdüki ikiläyü nä
2598 15 kärgäk ärti nom ärtüki 又 ikiläyü nä kärgäk ärti söz-läp nom tep ymä/ter
2599 87a-1 答 uqïdγalïr üčün yindäm nom-nung oq bar-ïn män mäninglig
2600 2 -ning yoq-ïn. anïn karikda söz-lämiš ol nom tep. burxan nom
2601 3 -ïnda uqïdγalïr üčün ol män mäninglig-ning yoq-ïn yindäm
2602 4 söz-lämiš ol nom tep. adïrγalïr üčün alqu taš azaq nom
2603 5 -luγ-lar-nïng nom-ïn. anïn karikda söz-lämiš ol {nom} tep. 或犢子
2604 6 部 azu-ča ymä vatsi-pudri ni'kay-lïγ-lar uqïdmïš-lar ol üč

應に適合の論を立てるべし、と。上以來、異説を辯じ竟えた。阿毘達磨論（Abhidharma-vāda）は了った。善哉莎士印於初巻了了也。第二が始まった。（本論第一章界品、第一章諸法の有漏無漏及び有爲無爲分別）

論、『何の法の名が、彼らに揀擇される所と　なることにおいて、これに因って、佛が、阿毘達磨を説いたと傳説すると云うことになるのか？』（何法名爲彼所揀擇因此傳佛説對法耶）と。

釋曰：先に、「法を分別するもののその名が擇法となる」と説いた。如何に擇が「揀擇」と云うものであったことが了ぜられても、何の名が「法を分別するもの」となるか了ぜられない故に、ここで疑いを起こしたことに本頌で自ら答えて説いたのである。

論に、『本頌に曰く、有漏無漏法であると。論曰：一切の法を説くものとして、略して二種ある。謂わく、有漏、無漏と。有漏法は何かと云うなら、謂わく、道を除いて餘の有爲法である。何のためと云うなら、諸漏がそこで等しく隨増する故』（頌曰　有漏無漏法　［於彼漏隨増　故説名有漏　無漏謂道諦　及三種無爲　謂虚空二滅　此中空無礙　擇滅謂離繫　隨繫事各別　畢竟礙當生　別得非擇滅］

論曰説一切法略有二種謂有漏無漏有漏法云何謂除道諦餘有爲法所以者何諸漏於中等隨増故）と。

釋して曰く。問者云う：單に「有漏無漏」と説いたとき、法であることは已に知られるのである。更に、何の必要で「法」と説いたのか？と。答：唯だ法が有ることのみを、我と我所の無いことを顯わす故に、本頌には「法」と説いた。佛法には我と我所の無いことを顯わすために、唯だ「法」とのみ説いた。諸々の外邪法もてるものらの法と差別するために、それで本頌に〔法〕と説いたのである、と。或は犢子部のものらは、三種の法を立てたのである。

2580　köni sav-ïγ「正しい言を」が soq-a šasdr-ïγ「適合の論を」に訂正されている。訂正文を採用した。甘肅本にも同じ訂正文が書かれている。また、甘肅本(*l*.460)には köni sav-ïγ のあとに tep が正しく添加されている。2582　abidarmavat < Skt. abhidharma-vāda, vāda「説、論」。「了/也」については本論注 64 を參照されたい。2583　ymu「也」。2586　nom(-uγ　bölmäk)の括弧内は傍注添加であるが、甘肅本(*l*.467)では本文に書かれている。2588　bililmäz　üčün「了ぜられない故に」に對して甘肅本(*l*.468)では bililmämiš üčün「了ぜられなかった故に」。2590~2591　論頌曰 šasdr-ta karikda söz-lädi ärti「論に、本頌に曰く」は甘肅本(*l*.470)には缺落している。2593　aqïγ-lïγ　nom「有漏法」に對して甘肅本は aqïγ-lïγ nom-lar(*l*.471)。2597~2598　ikiläyü nä kärgäk ärti nom ärtüki「更に、何の必要で「法」であったことなのか」は ikiläyü nä kärgäk ärti söz-läp nom 「更に、何の必要で「法」と説いたのか」に訂正されている。ここでは訂正文を採用した。この訂正文は甘肅本(*l*.473)にも書かれている。2599　män は mn と綴られている。nom-nung oq bar-ïn「法が有ることを」における oq は甘肅本(*l*.474)には無い。2601　uqïdγalïr üčün「顯わすために」に對して甘肅本は uqïdur üčün(*l*.475)。2603　anïn karikda söz-lämiš ol tep「それで本頌に説いたのである、と」は甘肅本では anïn karik-ta söz-lämiš ol nom tep (*l*.476)「それで本頌に法と説いたのである、と」と書かれている。甘肅本が正しいのでそれを採用した。2604　vatsi-pudri ni'kay(/vatsiputri nikay/) < Skt. vātsīputrīya-nikāya「犢子部」。

2605 7 türlüg nom-larïγ. ang'ilki aqïγ-lïγ 二 aqïγ-sïz 三 aqïγ-lïγ
2606 8 aqïγ-sïz ikigü ärür tep. tïdγalïr üčün olar-nïng adqaγ
2607 9 -ïn anïn söz-lämiš ol aqïγ-lïγ aqïγ-sïz nom-lar ol tep
2608 10 uqïdγalïr üčün alqu nom-lar-nïng yindäm iki türlüg ök
2609 11 bolur-ïn tep. 又 yänä 問 qayu tïldaγ-ïn beš yükmäk-lärig tuda
2610 12 söz-lämäti bolur üküš türlüg tep. yindäm aqïγ-lïγ aqïγ-sïz
2611 13 -qa tayaq-lïγ-ïn söz-läti iki türlüg (bolur) tep 答 beš yükmäk
2612 14 -lär-tä umaz tudulγalï alqu nom anï üčün yükmäk-lär-kä tayaq
2613 15 -lïγ-ïn söz-lämämiš ol tep 問 nä üčün orun-larqa uγuš-lar-qa
2614 87b-1 tayaq-lïγ-ïn söz-lämäti tep. 答 näčä orun uγuš-ta ulatï-larda
2615 2 tudulsar-lar ymä alqu nom-lar kkirlig kirsiz ikigü anda qadïlïšmaq
2616 3 bulγašmaq üz-ä alp bolur ärti bölgäli adïrtlaγalï birök munga
2617 4 tayaq-lïγïn söz-läsär sezingülük bolur ärti yangšaq keng bolmïš
2618 5 tep. amtï uγramïš üčün tudulduryalï. qavïraγ yindäm aqïγ
2619 6 -lïγ aqïγ-sïz-qa tayaq-lïγïn kirlig kirsiz üz-ä uzanïp
2620 7 bolmïš ärür yörüg töz-in učuz uqïdγalïr üčün tep 問无漏
2621 8 法勝 aqïγ-sïz nom yeg ärür yörüg töz-inčä ärsär kim ašnu söz-lägü
2622 9 ärti. aqïγ-lïγ nom qodï asïr-a ärür yörüg töz-indäki-čä ärsär
2623 10 kim ken söz-lägü ärti. nä üčün qodï asïr-a-sïn ašnu söz-läp
2624 11 yegin ken söz-läti tep. 答 ašnu ig bolup ken ot bolur. ašnu
2625 12 aγu bolmïš üčün ken arvïš sarvïš ot bolur. birök bolmatï
2626 13 ärsär niz-vanï. bolmatï ärsär aqïγ-lïγ äd 又 yoq ärdi ärsär ymä/ter.
2627 14 ödrü bolmayay ärti alqu burxan-lar-nïng ünüp bälgürüp yerdinčü
2628 15 -tä körgidmäki säkiz tüz-ün köni yol-uγ nomlamaq-ï nirvan-ïγ tanuq
2629 88a-1 -lamaq-ïγ. ymä ök bolmayay ärti alqu aqïγ-sïz nom-lar 以有煩
2630 2 惱 bolmïš üčün niz-vanï-lar aqïγ-lïγ äd-lär. ödrü bolur alqu
2631 3 burxan-lar-nïng ünüp bälgürüp yerdinčü-tä körgidmäki tüz-ün yol-ta
2632 4 ulatï nom-larïγ. ašnu bolmaq üz-ä kkir-i ken iišläšmiš ärür anïng
2633 5 arïγ-ïn. arïdγalïr üčün ol kirig bu tïldaγ-ïn ašnu söz-läp aqïγ
2634 6 -lïγ-ïn ken söz-lämiš ärür aqïγ-sïz-ïn tep. 問 näčük'ol yoq mu bu iki
2635 7 nom-lar-ta adïn udačï qavïr-a-sïnča tudulturγalï alqu nom-larïγ. qaltï
2636 8 ediglig edigsiz. öng öng ärmäz. ünlüg ünlügsüz-tä ulatï.
2637 9 bar üküš türlüg ikirär türlüg-lär. nä üčün yindäm söz-läp
2638 10 aqïγ-lïγ aqïγ-sïz tep. qïldï qavïr-a söz-lämäkig tep 答.
2639 11 abipiray-ï ärsär ymä ök söz-lämämiš ol adïn nom-larïγ 不能略攝
2640 12 umamïš üčün qavïr-a-sïnča tudulturγalï. täk aqïγ-lïγ aqïγ-sïz
2641 13 üz-ä qïlsar anïng yörügi učuz bililür üčün. anïn yindäm söz-lämiš
2642 14 ol bular-nï oq. birök ikiläyü uqïdsar adïn nom-larïγ yanduru.

2605 ang'ilki aqïγ-lïγ 二 aqïγ-sïz 三 aqïγ-lïγ aqïγ-sïz「第一は有漏、(第)二は無漏、(第)三は有漏と無漏」に對して甘肅本では「三」をウイグル語で表現している：ang'ilki aqïγ-lïγ 二 aqïγ-sïz üčünč aqïγ-lïγ aqïγ-sïz (*ll.*477-478)。2610~2611 aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-qa tayaq-lïγ-ïn söz-läti iki türlüg (bolur) tep「有漏無漏へ依ることで二種となると說いたのか？」は訂正された文である。訂正前は：aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-qa tayaq-lïγ-ïn söz-läti bolur iki türlüg tep. すなわち bolur の位置が異なっている。甘肅本(*l.*481)は訂正後のものと一致するので、ここでは訂正文を採用した。

第一は有漏、（第）二は無漏、（第）三は有漏と無漏の二つである、と。それらとの縁を妨げるために、それで「有漏無漏法である」と説いた。一切法が唯だ二種のみとなることを顯わすために、と。又、問う：何に因って、五蘊を約して「多種となる」と説かなかったのか？唯だ有漏無漏のみに依ることで、「二種となる」と説いたのか？と。答：五蘊において一切法を攝することはできない。それ故に蘊に依ることを説かなかったのである、と。問：何故、處や界に依ることを説かなかったのか？と。答：如何に處界等において諸法が攝取されても、染と不染の二つがそこで雜亂するので分別し難かい。もしこれに依って説くなら、冗長となるものと疑われるところであった。今まさに簡略を攝取させることを欲した故に。唯だ有漏無漏のみに依ることで、染と不染において巧便となったのである。理を簡單に顯わす故に、と。問：無漏法は勝である。理としては先に説くべきものであった。有漏法は劣である。理としては後に説くべきものであった。何故、劣を先に説いて勝を後に説いたのか？と。答：先に、病が有って、後に藥が有る。先に毒が有った故、後に呪術や藥が有る。もし、煩惱や有漏事が無かったなら、即ち、諸佛が世間に出現して、八聖道を示すことや、涅槃を證すことを説くことは無かったであろう。また一切の無漏法も無かったであろう。煩惱や有漏事が有ったために、即ち、諸佛が世間に出現して、聖道等の法を示すこととなる。先に染が有ることによって、後に其の淨を要したのである。彼の染を淨めるため、これに因って先に有漏を説き、後で無漏を説いたのである、と。問：どうして、この二法よりほかに一切法を略攝できるものが無いのか？謂わく、有爲無爲、色非色、有聲無聲等、多くの二種からなる對が有る。何故、唯だ「有漏無漏」と説いて、略説をなしたのか？と。答：その意趣は、略攝できなかったために餘の法を説かなかったのである。單に有漏無漏によって爲すなら、その義は容易に了ぜられる故、それで唯だ、これらのみを説いたのである。

2611(~2613) biš yükmäk-lär-tä umaz tudulγalï alqu nom anï üčün yükmäk-lär-kä tayaq-lïγ-ïn söz-lämämiš ol tep「五蘊において一切法を攝することはできない。それ故に蘊へ依ることを説かなかったのである」。このウイグル文は節略漢文『實義疏』に對應している：五蘊不能攝一切法。是故不依五蘊(大正 Vol. 29 p.325c)。2612 alqu nom「一切法」に對して甘肅本は alqu nomlar(*l*.482)。2615 kkirlig「染」に對して甘肅本では kirlig(*l*.484)。2621 töz-inčä ärsär「理としては」は甘肅本では töz-indäki-čä ärsär (*l*.488)と書かれているが、甘肅本のほうが適切である。2625(~2626) birök bolmatï ärsär niz-vanï. bolmatï ärsär aqïγ-lïγ äd「もし煩惱が無かったなら、有漏事が無かったなら」における 2 つの bolmatï ärsär「無かったなら」は yoq ärdi ärsär に訂正されている。内容に違いはない。2632(~2634) ašnu bolmaq üz-ä kkir-i から söz-lämiš ärür aqïγ-sïz-ïn tep までは節略漢文『實義疏』に對應する：先有染後要其淨。淨彼染故以先説漏之法後説無漏。(大正 Vol.29, p.325)。2634 ken söz-lämiš ärür「後で説いたのである」に對して甘肅本では ken söz-lämiš ol(*l*.496)。2637 bar üküš türlüg ikirär türlüg-lär「多種の各二種が有る」に對して甘肅本では bar üküš tälim ikirär türlüg-lär(*ll*.497-498)「多くの各二種が有る」と書かれている。甘肅本の方が適切であるので、ここでは甘肅本に從ったが、「多くの二種からなる對」と和譯した。

2643 15 tardïlγuluq bolur ärti bu sezik. ymä ök bolur ärti kirlig kirsiz
2644 88b-1 nom-lar. qadïlïšmaq bulγašmaq-lïγ mün qadaγ. bular ikigü üz-äki
2645 2 -si yeg üčün adïn qavïr-a nom-lar-ta anïn säčä uqïdmïš ärür tep
2646 3 又問 yänä sezik ayïdu söz-lär qavïr-a söz-lägü ärsär täk yaraši söz
2647 4 -lägü ärti nom tep 已攝諸法 tudulu tükädür ärti alqu nom-lar
2648 5 inčip adï bolur ärti qavïr-a tep. amtï söz-läsär aqïγ-lïγ aqïγ
2649 6 -sïz tep bu oq inčip ärür kengürü söz-lämäk nädägin adï bolur qavïr-a
2650 7 tep. 答 birök yindäm nom-qa körsär. munung adï bolur kengürü tep
2651 8 yükmäk orun uγuš-qa körsär munung adï bolur odγuraq qavïr-a
2652 9 tep. birök yindäm söz-läsär nom tep. näčä tudulsar-lar ymä nom-lar
2653 10 qalïsïz. yoq quruγ söz-lämäk üz-ä nom tep. nädägin tükäl-lig bolγay
2654 11 ärti söz-lämäklig yörügkä öngdün sezik ayïdu söz-lädüktä qayu
2655 12 -nung adï bolur nom tep. kikinč berü söz-läsär bu nom ärür tep nädägin
2656 13 tükäl-lig bolγay ärti kikinč bermäk-lig yörügkä küsämiš üčün uqïd
2657 14 -γalï qayu sezikig. anïn kikinč berü anda söz-lämiš ärür aqïγ
2658 15 -lïγ aqïγ-sïz nom-lar ol tep 又問更有餘略 yänä čodake söz
2659 89a-1 -lär. taqï ymä bar adïn qavïr-a qaltï kirsiz kirlig-tä ulatï
2660 2 munda ymä ök bar kirlig kirsiz qadïlïšmaq tudulur nom-lar ymä ök
2661 3 qalïsïz nädägin söz-lämätin bular-nï yindäm söz-lädi aqïγ-lïγ
2662 4 aqïγ-sïz tep. 答 ymä ök bililsär ymä mundata ulatï qavïr-a
2663 5 nom-lar-nïng bar-ï inčip barča aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-ta öngi ärmäz.
2664 6 täk ärür munung niz-nk adï. inčip tngri burxan-nïng nomlamïš nom
2665 7 -ï üküš-inčä bu kirsiz kirlig-tä ulatï-larïγ tuda ärmäz. birök
2666 8 munï tuda söz-läsär anïng üžik-i äšidtäči-lär-kä eyin bolmamaq
2667 9 üz-ä alp uqγuluq üčün adïn qavïr-a nom-lar. umaz yegäd
2668 10 -gäli bu aqïγ-lïγ aqïγ-sïz-ta 若唯言法 birök yindäm söz
2669 11 -läsär nom tep. bililmäz ärti munung qayu nom ärdüki. birök täk
2670 12 söz-läsär aqïγ-lïγ aqïγ-sïz tep. ymä ök bililmäz ärti munï
2671 13 üz-ä qayu-nï körgidür-i anïn munda sezik ayïdu söz-lädüktä
2672 14 qayu-nung adï bolur aqïγ-lïγ tep. qayu-nung adï bolur aqïγ
2673 15 -sïz tep. anïn karikda kikinč berü söz-lämiš ol 除道餘
2674 89b-1 有法 yol-uγ öngi kedärip adïn ediglig nom-lar-ta tep. qaltï
2675 2 nom birök edigsiz ärsär. odyuraq ärür aqïγ-sïz. käntü bar edig
2676 3 -lig alqu uγur-ïn aqïγ-lïγ ärmäz. munung bar qayu yörügi birök
2677 4 söz-läsär ediglig qayu ärsär aqïγ-lïγ ymä ol oq ol tep
2678 5 inčip tüz-ün yol-ta ulatï-lar munda aqïγ-lïγ bolγu kärgäk 以聖
2679 6 道是為故 nädägin teptesär tüz-ün yol ärür üčün ediglig tïdγalïr
2680 7 üčün bu mün qadaγ-ïγ. anïn söz-lämiš ol yoluγ öngi kedärip adïn
2681 8 ediglig nom-lar-ta tep. qayu-nung adï bolur adïn ediglig nom-lar teptesär.
2682 9 qaltï öng-tä ulatï beš tudyaq yükmäk ärür tep. 問 karikda yindäm

もし更に餘の法を立てれば、却って疑いが引き出されるところとなるのであった。また染、不染法が雑亂するところの過失となるのであった。これら二つによるものは餘の略法より勝っている故、それで特に立てたのである、と。又、問うて云う：略説するのならただ相應しく「法」と説くべきであった。諸法は已に攝せられたのである。即ちその名は「略」となるのであった。今、「有漏無漏」と説くなら、これは則ち廣説である。如何にしてその名が「略」となるのか？と。答：もし唯だ法のみを觀ずるのなら、それの名は「廣」となる。蘊、處、界を觀ずるのなら、それの名は定んで「略」となる。もし唯だ「法」と説くなら、如何に法が無餘に攝せられても、「法」と空しく説くことによって、どうして説の義が圓滿となるであろうか？先に「何の名が法となる」と問うたときに、「この法である」と答えて云うなら、どうして答えの義が圓滿となるであろうか？何らかの疑いを解くことを欲した故に、答えて、そこで「有漏無漏法である」と説いたのである。又、問者は云う：更にまた餘の略が有る。謂わく、不染、染等。ここにも染、不染の雑亂したものが有る。また法なども無餘に攝せられる。如何にしてこれらを説かずに、唯だ「有漏無漏」とのみ説いたのか？と。答：これ等の略法の存在が了ぜられても、即ちすべて有漏無漏と異なってはいない。單にこれの異名である。即ち佛の説いた法の多くは、この不染、染等を取ってはいない。もしこれを取って説くなら、その文は聞くものらに隨順しないので、理解し難いところ（となる）故。餘の略法はこの有漏無漏より能く勝ることはない。もし唯だ「法」とのみ説けば、これが何の法であったのかが了ぜられなかった。もし單に「有漏無漏」と説くなら、これによって、何を示すかが了ぜられなかった。それ故ここで、「何の名が有漏となると、何の名が無漏となる」と問うたときに、本頌に「道を除いて餘の有爲法に」（除道餘有爲）と答えて云った。謂わく、法がもし無爲なら、定んで無漏である。已有の有爲はすべての場合に、有漏（と云うの）ではない。これには何の義が有るのか？もし、有爲が何かであれば、有漏もまたそれであると説くなら、即ち聖道等がここで有漏とならねばならない。如何にしてかと云うなら、聖道は有爲である故。この過失を妨げるために、それで「道を除いて餘の有爲法に」と説いた。何の名が「餘の有爲法」となるのかと云えば、謂わく、色等の五取蘊である、と。

2643　15 tardïlγuluq bolur ärti bu sezik「疑いが引き出されるところとなるのであった」に對して甘肅本では tardïtïlγuluq bolur ärti bu sezik(*l*.501)。ウイグル語としては甘肅本の方が適している。2646　täk は tk と綴られている。2664　niz-nk < Sogd. 'ny'z'nk, 'ny'znk「異なり」、niz-nk adi「異名」「別名」：cf. munday osuγluγta ulatï uyušluγlar ärür aqïγlïγ nomlarnïng yörüg eyinki niznk ad-ï「如是等類是有漏法隨義別名」(4578)　bu ayïγ qïlïnčta ulatï beš türlüg nizank at-lar ärür「此惡行等五種異名」(H32 R48)。2677　ediglig qayu ärsär aqïγ-lïγ ymä ol oq ol「有爲が何かであれば、有漏もまたそれなり」＝「有爲はすなわち有漏なり」。2678~2679　ウイグル語中の漢字列「以聖道是爲故」は甘肅本(*l*.522)には「以聖道是有爲故」と正しく書かれている。2679~2680　tïdγalïr üčün bu mün qadaγ-ïγ「この過失を妨げるために」は甘肅本では tïdγalïr bu mün qadaγ-ïγ(*l*.523)。甘肅本は üčün「ために」が缺落している。

2683 10 söz-lämiš ol. yol tep söz-lämämiš ol kerdü tep. vardi-ta inčip söz
2684 11 -lämiš ol yol kerdü tep. karikda yoq bolu tükädmäk üz-ä nädägin bolur.
2685 12 vardi-ta üsdägäli kerdü tep. 答 karikda basa yänä söz-lädi ärti
2686 13 aqïγ-sïz-ï ärsär (qaltï) yol kerdü ärür tep. yörügin uduzmïš kärgäk munga
2687 14 karik(-nïng) bar üčün bu abipiray-ï anïn šasdr-ta ašnu-ča uqïdmïš ol. söz
2688 15 -lägüči yol tegüči sav üz-ä bilmiš kärgäk öngi kedärmiš-in beš yükmäk
2689 16 -lärig. birlä yänä tägmäk-lärig 意云 bu aqïγ-sïz beš yükmäk ärür.
2690 17 nädägin teptesär. munda-ta ulatï-lar yol kerdü-tä tudulur üčün tep
2691 90a-1 問涅槃 nirvan-nïng baγ-tïn öngi üdrülmäklig pirapdi-sï köngül
2692 2 eyin ävrildäči ärmäz. nädägin tudulup turur tüz-ün yol-ta munda birök
2693 3 tudulmasar ikiläyu yoq adïn orun. inčip qa{l}ïlïγ bolγu
2694 4 kärgäk. nädägin teptesär öngi kedärgülüki ärtmämiš üčün
2695 5 tep. 答 munï munčulayu bu pirapdi tüz-ün yol-ta tudulmaz
2696 6 munda yörügi ärsär tüz-ün yoluγ bulmïš ödtä tïdïlïp
2697 7 aqïγ-lïγ pirapdi bululur aqïγ-sïz pirapdi tüz-ün yol-nung
2698 8 ädräm-i tïldaγ-ïnda bululur baγ-tïn öngi üdrülmäk-lig
2699 9 pirapdi. bu baγ-tïn öngi üdrülmäk-lig pirapdi ärür tüz-ün
2700 10 yol-nüng tüš-i. nädägin teptesär tïldaγ-ïnda tudulur üčün
2701 11 tüš-i. 与聖道除 tüz-ün yol birlä birgärü öngi kedär
2702 12 -miš kärgäk nädägin teptesär. barča ärür üčün ediglig. birök
2703 13 (munda) öngi kedärmäsär. ikiläyü yoq adïn orun ödrü qa{l}ïlïγ bol
2704 14 -maq-lïγ mün qadaγ bolur tep 問 yol kerdüg öngi kedärip.
2705 15 adïn ediglig nom-lar. ymä ök uyur yeviš basud bolγalï.
2706 16 nirvan-qa nädägin barča-nïng adï bolur aqïγ-lïγ tep
2707 17 答 aqïγ-nïng eyin ükligülüki üčün adï bolmïš ol aqïγ-lïγ tep.
2708 90b-1 問此説未為決定 bu söz-lämiš-ingiz adïrtlïγ odγuraq
2709 2 bolmatï. nädägin aqïγ tegli nom-nung adï bolur. aqïγ-lïγ tep
2710 3 birök adqaγ-ïn tuda adamïš ol aqïγ-lïγ teptesär bu yörüg andaγ
2711 4 ärmäz. ymä ök bar niz-vanï. öčmäk-li yol-lï kerdü-lär adqaγ
2712 5 -lïγ. bu öčmäk-li yol-lï kerdü-lär-ning adï bolγu kärgäk aqïγ
2713 6 -lïγ tep. birök tayaq-ïn tuda adamïš ol aqïγ-lïγ teptesär
2714 7 yindäm köz-tä ulatï altï ärklig-lär-ning adï bolup aqïγ-lïγ
2715 8 tep adïn adqanγu bilig-tä ulatï-lar aqïγ-lïγ ärmäz bol
2716 9 -γu kärgäk. tayaq ärmäz üčün 又 (yänä bu) altï ärklig-lär otγuraq aqïγ(-lïγ)
2717 10 -qa tayaq bolur ärmäz. bu ymä ök uyur üčün birlä yänä aqïγ
2718 11 -sïz-qa tayaq bolγalï. birök birlä yaradïlmïš-ïn tuda
2719 12 adamïš ol aqïγ-lïγ tep tesär. yindäm niz-vanï-lar birlä
2720 13 yaradïlmïš köngül köngül-täki nom-lar-nïng oq adï bolγu
2721 14 kärgäk aqïγ-lïγ tep. adïn birlä yaradïlmïš ärmäz nom-lar aqïγ
2722 15 -lïγ ärmäz bolγu kärgäk. birök birlä tuγdačï-sïn tuda adamïš ol

問：本頌には唯だ「道」とのみ説いた、「諦」とは説かなかった。注釋には即ち「道諦」と説いた。本頌には全く無いのに、如何にして、注釋において諦を加えることができるのか？と。答：本頌において次に又説いた「無漏は謂わく道諦である」（無漏謂道諦）と。その義をここへ導かねばならない。本頌にはこの意趣が有る故、それで論において先のように顯わした（のである）。所説の「道」と云う言によって五蘊竝びに得を除いたことを知らねばならない。意云：これは無漏の五蘊である。如何にしてかと云うなら、これ等は道諦において攝せられる故に、と。問：涅槃の離繫得は心に隨轉するものではない。如何にして聖道において攝せられ住するのか？そこでもし攝せられないなら、更に餘の地は無い。即ち有餘とならねばならない。如何にしてかと云えば、除することを竟えなかった故に、と。答：このように、この得は聖道においては攝せられない。ここにおいて、その義は（次のごとし）。聖道を得たときに有漏得が妨げられ、無漏得が得られる。聖道のその徳の因によって、離繫得が得られる。この離繫得は聖道の果である。如何にしてかと云うなら、その因において果が攝せられる故。聖道とともに除かねばならなかった。如何にしてかと云うなら、すべてが有爲である故。もしここで除かないなら、更に餘の地はない。即ち、有餘の過失となる、と。問：道諦を除いて、餘の有爲法はまた涅槃への助けとなり得る。如何にしてすべての名が「有漏」となるのか？と。答：漏が隨増するもののため、名は「有漏」となった、と。問：この汝らの説いたものは、決定とはならなかった。如何にして「漏」と云う法の名が「有漏」となるのか？。もしその所縁を約して「有漏」と名づけたと云うなら、この義はその通りではない。また、滅と道との諦を所縁とする煩惱が有る。この滅と道との諦の名が「有漏」とならねばならない。もしその依を約して「有漏」と名づけたと云うなら、唯だ限等の六根の名のみが「有漏」となり、餘の境、識等は「有漏に非ざるもの」とならねばならない。依ではない故。又、この六根が定んで有漏への依となることはない。これはまた共に、無漏への依となり得る故。もしその相應を約して、「有漏」と名づけたと云うなら、唯だ煩惱と相應した心心所法の名のみが「有漏」とならねばならない。餘の不相應法は「有漏に非ざるもの」とならねばならない。

2685 karikda basa yänä söz-lädi ärti「本頌において次に又説いた」に對して甘肅本は karik-ta söz-lädi ärti (*II*.526-527)「本頌に説いた」。2686~2687 (qalti) yol kerdü ärür tep と karik(-nïng)の括弧内の插入形式は甘肅本(*I*.527)では本文に書かれている。2691 pirapdi(/pirapti/) < Skt. prāpti「得」。 bay-tïn öngi üdrülmäklig pirapdi-sï「繫から離れることの得」＝「離繫得」。2693 qa{l}ïlïγ「有餘」は q"ylyq と綴られている。同じ誤寫が 2073 にも見られるが、これらは文字 l の「ヒゲ」を書き忘れてものと考えたい。甘肅本には正しく l が綴られている。2701 ウイグル文中漢字列「與聖道除」は甘肅本では「與聖道共(?)除」と書かれている(*I*.536)。2703 qa{l}ïlïγ については 2693 を見よ。傍注插入の(munda)は甘肅本では本文(*I*.537)に書かれている。2705 yeviš = *yev-「資する」＋iš (dev.noun)「補充、必需」。2706 nädägin barča-nïng adï bolur aqïγ-lïγ tep「如何にしてすべての名が「有漏」となるのか？」は訂正された文である。訂正前は：nädägin <teptesär> barča-nïng adï bolur aqïγ-lïγ tep「如何にしてといえば、すべての名が「有漏」となる」。2708 söz-lämiš-ingiz に對して甘肅本は söz-lämiš-ingiz-lär(l.540)。2716 又（yänä bu) altï ärklig-lär の插入された（yänä bu)「又、この」は甘肅本(l.545)には無い。2718 birlä yaratïl-「伴って應ずる」＝「相應」。

2723 91a-1 aqïγ-lïγ tep tesär. yindäm kirlig köngül birlä (birlä tuγdačï) beš tudyaq
yükmäk
2724 2 -lär-ning ök adï bolup aqïγ-lïγ tep. adïn (ädgü) yrlïγ-sïz-ta ulatï
2725 3 -lar birlä tuγdačï-sï barča aqïγ-lïγ ärmäz bolγu kärgäk tep 答約
2726 4 此四義 bu tört türlüg yörüg-lärig tuda ymä ök söz-läsär aq
2727 5 -ïγ-lïγ tep barča tüpükmäz üčün. üklidmäk ašmaq-ïn tuda niz-vanï
2728 6 -lar-ïγ söz-lämiš ol aqïγ-lïγ tep ad üz-ä. bu tïldaγ-ïn vasu
2729 7 -bandu baxšï karikda käntü adïrïp söz-lämiš ol. olar-ta aqïγ
2730 8 -lar eyin ükliyür üčün. anïn söz-lämiš ol aqïγ-lïγ tep ad
2731 9 üz-ä tep 或如人与人 azu-ča ymä qaltï kiši kiši birlä
2732 10 köngül sävišmiš ärsär bolmaz ödrü söz-lägäli bu kiši-ning adï
2733 11 bolur ädgü ögli tep. iišläšip asïγ tusu qïlsar käntü öz
2734 12 -ingä. temin ök adamïš ol ädgü ögli tep. munda ymä ök ančulayu
2735 13 oq adqaγ-ïn tuda ödrü adï bolur ärmäz aqïγ-lïγ tep ::
2736 14 (iišläšip) üklitdäči-si ašdačï-sï ärsär niz-vanï-larïγ temin ök adamïš
2737 15 ol aqïγ-lïγ tep. öčmäk-li yol-lï kerdü(-tä ulatï)-lar näčä niz-vanï-lar
2738 91b-1 -qa adqaγ bolsar ymä odγuraq üklidmäz ašmaz üčün alqu niz-vanï
2739 2 -larïγ. anïn öčmäk-li yol-lï-ta ulatï-lar-nïng adï bolur ärmäz
2740 3 aqïγ-lïγ tep. 阿闍利衆賢云 ayaγ-qa tägimlig sangga
2741 4 -badire baxšï söz-lär bar ät'öz körüm-tä ulatï niz-vanï-lar-ïγ
2742 5 adamïš ol aqïγ tep nä üčün andaγ bolur tep tesär kim kkir
2743 6 -lig köngül-tä uzadï aqïlur tardïlur üčün aqïγ birlä. birlä
2744 7 yaradïlïp uladï aqïγ-qa adqanγu uγuš bolup eyin
2745 8 üklidür üčün aqïγ-ïγ adamïš ol aqïγ-nïng
2746 9 eyin ükligülüki tep 此中衆賢意云 munda sanggabadre.
2747 10 baxšï-nïng abipiray-ïn söz-lälim. üklitmäk ašmaq teptemiš-i
2748 11 ärsär ulalmaq-ïn tuda söz-lämiš ol üklitmäk ašmaq tep. öz
2749 12 töz-in tuda ärmäz nädägin öz töz-in tuda ärmäz teptesär. kšan-ïn
2750 13 töz-lüg nomuγ bolmaz bölgäli adïrtlaγalï öd-i odγuraq qïsγ-a
2751 14 üčün tep. sanggabadre baxšï-nïng otγuraq abipiray-ïn söz-lälim.
2752 15 niz-vanï qayu nom birlä yaradïlsar. adqansar qayu-ta ulatï
2753 92a-1 adqanγu-larïγ. ol adqanγu-lar uγur üčün üklitgäli ašγalï niz
2754 2 -vanï-larïγ. kim adaq-taqï-sï tuγurup ordun-qï-sïn. kim ordun
2755 3 -qï-sï tuγurup bašdïnqï-sïn. ol ol nom-lar-ta uγur üčün üklit
2756 4 -gäli ašγalï niz-vanï-larïγ. barča adamïš ol aqïγ-lïγ tep.
2757 5 疏主難 äsdiramati baxšï sezik ayïdu söz-lär. birök andaγ

もしその倶生を約して「有漏」と名づけたと云うなら、唯だ染汚心と倶生する五取蘊の名のみが「有漏」となって、餘の善、無記等と倶生するものはすべて「有漏に非ざるもの」とならねばならない、と。答：この四種の義を約してまた「有漏」と説いても、すべては窮まらない故に、その増長を約して煩惱を「有漏」と云う名によって説いた。これに因って、世親師は本頌において自ら差別して説いたのである：「彼らに於て、漏が隨増する故、それで有漏と云う名において説いた」（於彼漏隨増 故説名有漏）と。或は、謂わく、人が人と心が好みあっても、そこでこの人の名が「善友」となるとは云えない。要ず自身に利益をなすなら、方に「善友」と名づけた。ここにおいても、そのように、所縁を約して、即ちその名が「有漏」となるのではない。要ず煩惱を増大するものなら方に「有漏」と名づけた。滅と道の諦等は如何に煩惱への所縁となっても定んで諸煩惱を増大しない故、それで滅、道等の名が「有漏」となることはない、と。尊者衆賢師が云う：有身見等の煩惱を「漏」と名づけた。何故そのようになるのかと云えば、染汚心において常に漏泄する故。漏と相應し、更に漏への境界となって、漏を隨増する故「漏の隨増」と名づけた、と。ここで衆賢師の意趣を説きたい：「増大」と云ったのはその相續を約して「増大」と説いたのである。その自相を約してではない。如何にして自相を約してではないのかと云えば、刹那において相もてる法を分別することはできない、その時間が定んで短い故に、と。衆賢師の定んだ意趣を説きたい：煩惱が何かの法と相應するなら、何等かの境を縁ずるなら、その境は煩惱を増大し得る故、下にあるものが中にあるものを生み、中にあるものが上にあるものを生み、それぞれが法において能く煩惱を増大する故に、皆「有漏」と名づけた、と。

2723 (birlä tuγdačï)「倶生する」は甘粛本本文(*l*.549)にも現れる。2724 (ädgü)「善」は甘粛本では本文(*l*.550)に現れる。2726~2727 bu tört türlüg yörüg-lärig tuda ymä ök söz-läsär aqïγ-lïγ tep「この四種の義を約してまた「有漏」と説いても」は bu tört türlüg yörüg-lärig tuda <inčip> söz-läsär aqïγ-lïγ tep と訂正されている。すなわち ymä ök「また」が<inčip>「而して」に訂正されている。甘粛本(*l*.551)も ymä ök のままである。2733~2734 iišläšip asïγ tusu qïlsar käntü öz-ingä「要ず自身に利益をなすなら」に対して甘粛本は iiš-läšip kärgäk-läp asïγ tusu qïlsar 於我 käntü öz-ingä(*l*.555)と書かれている。内容は同じである。ロンドン本にない漢字列が甘粛本に現れるのは此處のみである。2736 (iišläšip) üklitdači-si ašdači-sï ärsär niz-vanï- larïγ「要ず煩惱を増大するものなら」の(iišläšip)「要ず」は甘粛本(*l*.557)には書かれていない。無くても内容に不都合は生じない。2737 öčmäk-li yol-lï kerdü(-tä ulatï)-lar「滅と道の諦等は」の(-tä ulatï)「等」は甘粛本では本文(*l*.557)に書かれている。2741(~2746) bar ät'öz körüm-tä ulatï から ükligülüki tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：有身見等諸煩惱中立漏名想。令染汚心常漏泄故。與漏相應。及漏境界。隨増漏故。名漏隨増。(大正 Vol. 28, p.330c)。2744~2745 uladï aqïγ-qa adqanγu uγuš bolup eyin üklidür üčün aqïγ-ïγ「更に漏への境界となって、漏を隨増する故」は訂正されている。訂正前は：uladï aqïγ-qa adqanγu uγuš bolup eyin bolup üklidür üčün aqïγ-ïγ. すなわち、不要である後者の bolup「なって」を削除している。2750 öd-i odyuraq qïsγ-a üčün「その時間が定んで短い故に」は öd-i <arduqraq> qïsγ-a üčün「その時間が極めて短い故に」と訂正されている。甘粛本(*l*.565)には訂正前の語が入っている。2757 sezik ayïd-「問う」。ここではウイグル文中漢文の「難」をもとにして「難問」とした。

2758 6 ärsär öčmäk-li yol-lï adqaγ-lïγ niz-vanï-lar-nïng ymä ök adaq
2759 7 -taqï-sïnda bolur <ordun-qï>-sï ordun-qïsïnda tuγar bašdïnqï-sï.
2760 8 birök mundaγ üklitmäk ašmaq üz-ä adï bolγu ärsär aqïγ-lïγ
2761 9 tep öčmäk-li yol-lï iki kertü-lär-ning adï bolγu kärgäk aqïγ
2762 10 -lïγ tep. 幾許々々 näčä näčä nom-lar adqanγuluq adqanγu bolmaq
2763 11 üz-ä basudlamaq-lïγ törü-si bolsar. anča anča nom-lar-ta adqantačï
2764 12 -sï ükliyür ašïlur. öčmäk-li yol-lï adqaγ-lïγ niz-vanï-lar-nïng ymä
2765 13 ök bolur adaq-taqï ordun-qï bašdïnqï üz-ä üklimäki 又 üklimäk ymä/ter
2766 14 ašïlmaq-ï. öčmäk-li yol-lï (adqaγ-lïγ-ï) ymä adaq-taqï ordun-qï bašdïnqï
(bölüklügi) üz-ä
2767 15 üklitgü ašγu kärgäk ol niz-vanï-larïγ 若滅道二諦 birök öč
2768 92b-1 -mäk-li yol-lï iki kertü-lär-ning bolsar mundaγ üklitmäk ašmaq-ï
2769 2 nädägin adï bolmaz aqïγ-lïγ tep. sanggabadre baxšï yänä söz-lär ::
2770 3 azu-ča ymä üklitmäk ašmaq teptemiš-i ärsär munda ornanïp
2771 4 turmaq tep yörüg'ol. qaltï niz-vanï-lar adqantuq-ta qayu ärsär ad
2772 5 -qanγu-larïγ. qayu-nï birlä yaradïltuq-ta anda ornanïp tursar. munung
2773 6 adqaγ-ï-nïng birlä yaradïlmïš-ï-nïng adï bolur aqïγ-lïγ tep ornanïp
2774 7 turmaq tegüči sav-ta nägü tep yörüg'ol teptesär. qaltï kim niz-vanï-lar
2775 8 öz ät'öz-tä ornanïp turup ulalïp üzülmäz käsilmäz üčün adï
2776 9 bolmïš ol üklimäk ašïlmaq tep. 疏主云 birök mundaγ söz-läsär.
2777 10 öčmäk-li yol-lï iki kertü-lär ymä ök ärür aqïγ-lïγ nä üčün
2778 11 teptesär. öčmäk-li yol-lï adqaγ-lïγ niz-vanï-lar ymä ök uyur üčün
2779 12 ornanïp turup ulalγalï tep 衆賢云 az turz-un ulalmaq-nïng
2780 13 yörügi. ornanïp turmaq tegüči sav-qa munda-ta quruldurmamaq ör
2781 14 -lädmämäk tep yörüg'ol. qaltï köz adqantuq-ta kün tngrig čoγluγ
2782 15 yalïn-ï üklimäk ašïlmaq üz-ä köz saqïmïš üčün uup tuγurγalï
2783 16 qurulturmaq örlätmäkig bolmamïš täg ornanïp turγalï. andaγ yänä
2784 93a-1 ay tngrig adqanmïš ödtä ay tngri süz-ük soγïq üčün
2785 2 tuγurmatïn quruldurmaq örlätmäkig. köz bolmïš täg ornanïp
2786 3 turγalï bu yörüg uγur-ïnda anïn adamïš ol ornanïp turmaq tep
2787 4 滅道二諦 öčmäk-li yol-lï iki kertü-li. ärür üčün niz-vanï-lar-nïng
2788 5 yaγï-sï quruldurtačï örlätdäči bolmaz ornanïp turγalï. adïn nom-lar-ta
2789 6 yoq üčün quruldurtačï örlätdäči anïn bolur ornanïp turγalï bu tïldaγ
2790 7 -ïn bu nom-lar bulmïš ol aqïγ-lïγ tegüči adïγ. öčmäk-li yol-lï andaγ ärmäz
2791 8 üčün anïn aqïγ-lïγ ärmäz tep. 疏主云 isdiramati baxšï söz-lär.
2792 9 birök mundaγ söz-läsär öčmäk-li yol-lï iki kertü-lär ymä ök ärür
2793 10 aqïγ-lïγ. öčmäk-li yol-lï adqaγ-lïγ niz-vanï-lar-nïng bar qayu qurul
2794 11 -turmaq örlätmäki ymä ök qaltï adïn niz-vanï-lar täg tuγup ymä
2795 12 ök uyur munï munčulayu ulalu ornanïp turγalï. bar qayu adïrtï ada
2796 13 -γuluq quruldurtačï örlätdäči tep. munung uγur-ïnda eyin üklimäk

---

2758~2759 adaq-taqï-sïnda bolur <ordun-qï>-sï「下にあるものにおいては、その中のものが成ずる」。この文は訂正されている。訂正前は：adaq-taqï-sïnda bolur öngdünki-si. öngdünki「前にあるもの」は誤寫である。2762 näčä näčä を「幾許々々」と譯したのはウイグル文中漢文による。näčä näčä に對して甘肅本(*I*.571)では2番目の näčä を削除して代わりに tänglig を立てている。näčä tänglig も「幾許」を表しうる。adqanγuluq adqanγu「所緣境」に對して甘肅本(*I*.571)は adqanγuluq adqaγ が立つ。

安慧師が難問する：もしそのようなら、滅と道とを所縁とする煩惱の下にあるものにおいては、その中のものが成ずる、中のものにおいてはその上のものが生まれる。もし、このような増大によって、その名が「有漏」となるものなら、滅と、道との二諦の名は「有漏」とならねばならない。幾許々々の法が所縁境となることによって助けとなる道理が成ずるなら、徐々に法において能縁が増大する。滅と道とを所縁とする煩惱の下にある、中にある、上にあるものによる増大がある。滅と道とを所縁とするものは、下にある中にある上にある品において、必然的に煩惱を増大する。もし、滅と道との二諦のものがこのように増大となるなら、如何にして、その名が「有漏」とならないのか？と。衆賢師がまた云う：或は、「増大」と云ったのは、ここでは「安住」と云う義である。謂わく、煩惱が、何であれ境を縁じて何かと相應したとき、そこに安住するなら、これの所縁のものと、（また）相應したものの名が「有漏」となる。「安住」と云う言に何と云う義があるのかと云えば、謂わく、諸煩惱が自身に安住し相續して破られない故、その名は「増大」となった、と。疏主云：もしこのように説くなら、滅と道の二諦も有漏である。何故かと云えば、滅と道とを所縁とする煩惱も又安住し相續できるため（である）、と。衆賢云：相續の義（については）は且らく止めるべし。「安住」と云う言に、ここでは「損惱させない」と云う義がある。猶、目が日天を縁じたときに、その威光が増大することによって、（日天を）凝視したために能く（目に）損惱を起こし、安住できなかったごとし。そのようにまた月天を縁じたときに、月天は清涼のため、損惱を起こさず、目が安住できたごとし。この義に由って、それで「安住」と名づけた。滅と道との二諦は煩惱の敵であるため、損惱させるものは安住できない。餘の法においては、損惱させるものが無いため、それで安住できる。これに因って、この法などは「有漏」と云う名を得た。滅と道とはそのようでないため、それ故に有漏ではない、と。安慧師が云う：もしこのように説くなら、滅と道との二諦も又有漏である。滅と道とを所縁とする煩惱には何の損惱が有るのか？又、猶、餘の煩惱のごとく生まれ、またこのように相續し、安住し得る。

2763 anča anča 「徐々に」は甘肅本(*I*.572)では2番目の anča を削除して代わりに tänglig を立てている。意味は變わらない。2765~2766 üklimäki 又 üklimäk ymä/ter ašïlmaq-ï に對して甘肅本は訂正文の内容を üklimäk ašïlmaq-ï(*I*.573)のごとく本文に書いている：cf. 2768. また、öčmäk-li yol-li (adqaγ-lïγ-ï)「滅と道とを所縁とするもの」に對して甘肅本は adqanγu-luγ öčmäk-li yol-li(*I*.573)「所縁の滅と道と」と書いている。傍注插入の(bölüklügi)üz-ä に對して甘肅本では bölük üz-ä(*I*.573)と書かれている。2767 ašγu は "s'qw と綴られている。また、üklitgü ašγu kärgäk ol「必然的に増大する」に對して甘肅本では üklidgü kärgäk ol(*II*.573-574)。内容は變わらない。2776 疏主云 birök munday söz-läsär に對して甘肅本では、疏主云 istiramadi baxšï söz-lär. birök munday söz-läsär(*I*.579)。すなわち「疏主云」のウイグル語譯が掲げられている。2779 衆賢云 az turz-un に對して甘肅本では、衆賢云 sanggabadïrï baxšï söz-lär. az turz-un(*I*.581)。すなわち、「衆賢云」のウイグル語譯が掲げられている。2780 munda-ta「ここでは」に對して甘肅本は munda(*I*.582)。甘肅本の方が適切である。2783 andaγ yänä に對して甘肅本は andaγ ymä(*I*.584)。

2797 14 -ning adï bolmaz ornanïp turmïš tep 如何安住 nädägin ornanïp
2798 15 turur teptesär. biz amtï inčip söz-lälim. qaltï män körüm-kä män az-qa
2799 16 adqaγ bolmaq üz-ä adïrtlïγ otγuraq adqanγuluq yapšïnγuluq äd
2800 17 bolup kim adïn niz-vanï-lar tïldaγ-ïnda bolsar turγalï adï bolur or
2801 18 -nanïp turmïš tep öčmäk kerdü yol kertü näng niz-vanï-lar-qa
2802 93b-1 adqanγuluq yapšïnγuluq orun ärmäz. adqanïp iki kertü-lärig niz-vanï
2803 2 -lar bolmaz üčün anda ornanïp turγalï. anïn adï bolmaz üklimiš ašïlmïš
2804 3 tep. öčmäk-li yol-lï kertü-lär-tä taš öngi adqanïp adïn nom-lar
2805 4 -ïγ inčip bolur ükligäli ašïlγalï 猶如濕衣 inčä qaltï öl
2806 5 ši-i ton-ta tooz topraq eyin yapšïnmïš-ï täg. män körüm män az
2807 6 ymä ök yänä ančulayu oq. inčä qaltï öl ši-i ton täg niz-vanï-lar
2808 7 -ta eyin yapšïnγuluq ärür tep :: bar adïn baxšï-lar söz-lär. eyin
2809 8 üklimäk teptemiš-i ärsär. munda yapšïnmaq tep yörüg'ol. alqu niz
2810 9 -vanï-ta ulatï-lar. alqu adqanγu-luq sav-lar-ta adqaγ üz-ä birlä
2811 10 yaradïlmaq üz-ä adï bolur adqanγuluq yapšïnγuluq tep. inčä
2812 11 qaltï öl ši-i ton-ta tooz topraq eyin turmïšï täg öčmäk-li yol
2813 12 -lï adqaγ-lïγ niz-vanï-lar ödrü andaγ ärmäz. inčä qaltï lenxu-a čäčäk
2814 13 suv-ta tuγup suv-qa umamïš täg yapšïnγalï alqu niz-vanï-ta
2815 14 ulatï-lar-ta öčmäk-li yol-lïγ adqanïp turmïš-ï ärsär inčip
2816 15 öčmäk-li yol-lï kertü-lär-tä arïdï eyin üklimäz 隨增者
2817 16 azu-ča ymä eyin üklimäk ärsär. munda eyin udu tep
2818 17 yörüg'ol. qaltï yeel iglig kiši-lär-kä ičürtükdä künčit yaγ-ïn
2819 18 tört mxabud-lar-ï ükligü-singä ašïlγu-sïnga artuqraq eyin
2820 19 udu bolmïš täg tep :: isdiramati baxšï söz-lär :: ::
2821 94a-1 birök alqu baxšï-lar-nïng öngin 々 mundaγ tep söz-lämiš
2822 2 -lär-ingä birär 々 yanγï kikinč bersär sezinmiš üčün yangšaq
2823 3 keng bolγay tep anïn amtï az tetdimiz tep 論 öčmäk-li yol-lï
2824 4 kertü-lärig adqanïp alqu aqïγ-lar näčä tuγsar ymä inčip eyin
2825 5 üklimäz üčün anïn aqïγ-lïγ tedmäz. eyin üklimämäk-ning yörügin
2826 6 anušayakoš-ta käntü ken uqïdu söz-lägäy biz tep 釋曰問 yör-ä
2827 7 söz-läp čodake söz-lär :: vasubandu baxšï qayu tïldaγ-ïn mundaγ tep
2828 8 söz-lädi tep. 答 taryaryalïr üčün adïn mün qadaγ-larïγ. qaltï
2829 9 darm-a-vičay-e-nïng šastir-ï abidarm-a-xarday atlγ šastr-ta
2830 10 söz-lämiš ol birök qayu nom-ta usar turγalï niz-vanï-lar inčip söz-lämiš ol
2831 11 bu nom-nung adï bolur aqïγ-lïγ tep 又 qaltï darmatirade baxšï-nïng yarat
2832 12 -mïš abidarm-a-xarday atlγ šastir-ïnda yör-ä anï söz-lämiš ol

「損惱させるもの」と名づけところと何の差別が有るのか？と。これに由って、隨増の名は「安住」とはならない。如何にして安住なのか？と云えば、我らは今、次のように説きたい：謂わく、我見、我愛への所縁となることによって決定に執着するところの事となり、もし餘の煩惱がその因において生まれ得るなら、その名が「安住したもの」となる。滅諦、道諦は決して煩惱にとって執着すべき處ではない。二諦を縁じても、煩惱はそこで安住できない故、それで、その名は「増大したもの」とはならない。滅と道との諦を外して、餘の法を縁じて而して増大することができるのである。猶、濕衣にほこりが、隨着したもののごとし。我見、我愛が又そのようである。猶、濕衣のごとく煩惱には隨着する所である、と。有餘師が云う：「隨増」と云ったのは、ここでは「着」と云う義である。諸煩惱等は、一切の縁ずるべき事柄における所縁と、相應とによって、その名は「執着」となる。猶、濕衣に埃が隨住したもののごとし。滅と道とを所縁とする煩惱は即ちそのようではない。猶、蓮華が水に生まれて、水に着することのできなかったごとし。諸煩惱等において、滅と道とを縁じて住したものは、即ち滅と道との諦においては全く隨増しない。或は、隨増はここでは「隨順」と云う義である。猶、風病の人に胡麻油を飲ませたとき、畢竟に、四大種がその隨増へ隨順となったごとし、と。安慧師が云う：もし諸師の各々が「斯く斯く」と述べたことへ、一々答えるなら、冗長となるであろうと疑った故に、今我らは少なく説いた、と。

論：『滅と道との諦を縁じて、諸漏が如何に生まれても、而して隨増しない故、それで有漏とはいわない。不隨増の義を隨眠品において自ら後に（我らは）顯説するであろう』（緣滅道諦諸漏雖生而不隨增故非有漏不隨增義隨眠品中自當顯説）と。

釋して曰く、問者が云う：世親師は何に因ってこのように説いたのか？と。答：餘の過失を斷つ故。謂わく、法勝（Dharma-vijaya）の論が『阿毘曇心論』（Abhidharmahṛdaya-śāstra）において説いたのである：「もし何かの法に煩惱が生まれ得るなら、即ちその法の名は有漏となると説いた」と。

2806 ši-i < Chin.濕衣(M.Chin. ɕiɐp ˊ ɪəi)。öl ši-i ton は直譯すれば「濕った濕衣服」となる。ここでは ši-i「濕衣」を衣服の一種のごとく扱っている。甘肅本ではここでも 2807, 2812 でも öl ši ton (*II*.596, 597, 600) と書かれている。ši ton は漢語「濕」とウイグル語「衣」の組み合わせである。2815 adqanïp は "dqan'yp と綴られている。2818 yeel ig「風の病」。 Cf.「如風病者服乾澁藥病者於藥非所隨增」(『倶舍論』卷第十九 p.102c). 2819 artuqraq は'rtwq'r'q と綴られている。 mxabud < Skt. mahā-bhūta「粗大元素、大種」。2821 「öngin 々」（各々）に對して甘肅本では öngin öngin (*I*.605)。2822 「birär 々」（一々）に對して甘肅本では birär birär (*I*.605)。2829 abidarm-a-xarday atlγ šastr「阿毘曇心という論」=「阿毘曇心論」。 abidarm-a- xarday < Skt. abhidharmahṛdaya (-śāstra)「阿毘曇心(論)」。darm-a-vičay-e < Skt. dharma-vijaya「法勝」。šastr は sstr と綴られている。2830 (~2831) birök qayu nom-ta usar turγalï niz-vanï-lar inčip söz-lämiš ol bu nom- nung adï bolur aqïγ-lïγ tep「もし何かの法に煩惱が生まれうるなら、即ちこの法の名は有漏となると説いた」。この文は『阿毘曇心論』卷一の内容に對應する：若生諸煩惱是聖説有漏(大正 Vol. 28, p.809b)。2832 「法救師の造った「阿毘曇心」という論において」とあるが、實際に法救の著わしたのは「雜阿毘曇心論(雜心論)」であって、「阿毘曇心論」ではない：cf. 62.

2833 13 qaltï bolsar qayu nom-nung üklitgäli umaq-ï niz-vanï-larïγ. bu oq nom
2834 14 -nung inčip adï bolur aqïγ-lïγ tep 疏主云 isdiramati baxšï söz-lär ::
2835 15 öngdün ikigü-nüng qayu söz-lämiš-i üz-ä barča yörüg töz-i tüpükmäz
2836 16 birök mundaγ söz-läsär öčmäk-li yol-lï iki kertü-lär barča aqïγ-lïγ
2837 17 bolγu kärgäk nädägin teptesär. öčmäk-li yol-lï kertü-lär adqanγu
2838 18 -luq adqanγu bolmaq üz-ä niz-vanï-lar
2839 94b-1 bolur üčün turγalï yma ök bolur üčün ükligälï tep tïdγalïr üčün
2840 2 bu mün qadaγ-larïγ 論主云 šasdir-ta vasubandu baxšï söz-lämiš ol
2841 3 öčmäk-li yol-lï kertü-lärig adqanïp alqu aqïγ-lar näčä tuγsar ymä
2842 4 inčip eyin üklimäz üčün anïn aqïγ-lïγ tedmäz tep 問 qayu-ta
2843 5 ulatï niz-vanï-lar öčmäk-li yol-lïγ adqanïp turur yänä bolur qač
2844 6 türlüg tep. basa qodï šasdr-ta käntü kikinč berü söz-lämiš ol.
2845 7 見滅道所断 öčmäk-li yol-lïγ körmäk üz-ä taryaryuluq tärs
2846 8 körüm sezik birlä yaradïlmïš ulatï qamaγ-lïγ-sïz biligsiz altïγu
2847 9 uyur adqanγalï aqïγ-sïz-ïγ tep 此无漏縁惑 bu aqïγ-sïz-ïγ ad
2848 10 -qandačï niz-vanï-lar näčä adqansar ymä iki kertü-lärig. inčip bu iki
2849 11 kertü-lär otγuraq bu niz-vanï-lar-qa eyin ükligülük bolmaz eyin
2850 12 üklimämäk-ning yörügin qaltï basa anušayakoš-ta ken kengürü bölgäy
2851 13 adïrtlaγay biz. birök munda uqïdu yörsär sezinmiš üčün anïng
2852 14 sav-ï keng bolmaq üz-ä qadïn yörmäk-lig mün qadaγ bolγay tep
2853 15 körgidip turγurmïš ärür basaqï girant-ta söz-läyü tükädmiš boldï
2854 16 öčmäk-li yol-lï adqaγ-lïγ niz-vanï-lar-nïng eyin üklimämäk-lig
2855 17 yörügin 由此便顯 munung uγur-ïnda ödrü uqulur oxšadï
2856 18 -sïz uγuš-luγ orun-luγ niz-vanï-lar-nïng ymä ök eyin üklimäk
2857 95a-1 -i inčip aqïγ-sïz üz-ä ärmäz-i nädägin teptesär oxšadï-sïz orun-luγ
2858 2 uγuš-luγ üčün anïn eyin üklimäz. näng munda aqïγ-sïz üz-ä
2859 3 eyin üklidäči ärmäz tep 問 näčük'ol sudur-ta mundaγ tep söz
2860 4 -lämädi mü qayu nom usar tuγuryalï niz-vanï-larïγ. inčip söz-lämiš ol
2861 5 bu oq nom-nung adï bolur aqïγ-lïγ tep. qaltï adï ködrülmiš
2862 6 yrlïqamïš ol aqïγ-lïγ nom ärsär. qaltï qayu näčä bar ärsär öng
2863 7 eyin udu alqu tudyaq-qa munda üklitdäči ašdačï tep
2864 8 yörüg'ol alqu bolmaq-qa tudyaq-lanmaq-ïγ tep kengürü yrlïqamïš ol
2865 9 ulatï biligig ymä ančulayu oq. munung tägšüt-inčä-si ärür
2866 10 aqïγ-sïz nom tep yänä mundaγ tep yarlïqamïš ol. qaltï ärtmiš
2867 11 kälmädük közünür ödtä qayu näčä bar ärsär öng tuγurdačï
2868 12 bädütdäči yüüz yügärü azïγ azu-ča ymä övkäg. azu-ča ymä
2869 13 biligsiz-ig. azu-ča ymä qayu ärsär bir bir adïn eyin-ki niz
2870 14 -vanï tegli alqu köngül-täki nom-larïγ tep ulatï kengürü yrlïqamïš ol
2871 15 bilig-tä ulatï-larïγ ymä ančulayu oq 此經意云 bu sudur-nung
2872 16 abipiray-ïn söz-lälim qayu nom usar tuγuryalï niz-vanï-larïγ inčip

又、謂わく法救(Dharmatrāta)師の造った『阿毘曇心論』においてそれを釋して説いた：「若し、ある法が煩惱を増大し得るものであるなら、この法の即ちその名は有漏となる」と。安慧師が云う：先の二つの所説によって、すべての理は窮まらない。もしこのように説くなら、滅と道との二諦はすべて「有漏」とならねばならない。如何にしてか、と云うなら、滅と道との諦が所縁境となることにおいて、煩惱は住し得る故、また増大し得る故に、と。この過失を妨げるため、論において世親師が説いた：「滅と道との諦を縁じて、諸有漏が如何に生じても、而して隨増しない故、それで有漏とは言わない」(緣滅道諦諸漏雖生。而不隨增故非有漏) と。問：何等の煩惱が滅と道とを縁じて住するのか？又、何種となるのか？と。次に下で、論に自ら答えて説いたのである：「滅と道とを見ることによって斷つ所の、邪見、疑、相應及び不共無明の、六つは無漏を緣ずることができる」と。この無漏を緣ずる煩惱が、如何に二諦を縁じても、而してこの二諦は定んでこの煩惱の隨増とはならない。不隨増の義を、更に後に我らは「隨眠品」で廣く（=詳しく）分別しよう。もしここで（更に）解釋すれば、その言が廣くなることで、重複の釋もてる過失となるであろう、と疑った故に。次の（一）文に（それを）示し立てたのである。(すなわち) 滅と道とを緣ずる煩惱の不隨増の義を説き終えることとなった。これに由って、便ち、同類でない界、處の煩惱もその隨増が即ち無漏によって（起こるの）ではないことが、顯わされる。如何にしてかと云うなら、同類でない處と界とをもてる故、それで隨増しない。決してここでは無漏によって隨増するものではないと。問：どうして、經にこのように説かなかったのか？ある法が煩惱を生じ得るなら、即ち、この法の名は有漏となると説いた。ちょうど世尊は有漏法について「謂わく所有の色が、諸の取に隨順して、ここで諸有へ取となることを増大するものと云う義である」と言われたのである。さらに識をもそのように廣説された。これの相違は無漏法である、と。またこのように説かれた：「謂わく過去、未來、現在時に、所有の色は、現の貪、或は瞋、或は癡、或は何であれ、一つ一つ餘の隨煩惱と云う諸の心所法を生長させるもの（である)」と。さらに、識等をもまたそのように廣説された。

2833 (~2834) qaltï bolsar qayu nom-nung üklitgäli umaq-ï niz-vanï-larïγ. bu oq nom-nung inčip adï bolur aqïγ-lïγ tep「若し、ある法が煩惱を増大しうるものであるなら、この法の即ちその名は有漏となる」。この文は『雜阿毘曇心論』巻一の内容に對應する：若增諸煩惱是聖說有漏(大正 Vol. 28, p.871a)。2840 šasdir は ssdyr と綴られている。2845 (~2847) öčmäk-li yol-lïγ から adqanγalï aqïγ-sïz-ïγ tep までは『俱舍論』巻十九の内容と對應する：見滅道所斷邪見疑相應及不共無明六能緣無漏(大正 Vol.29, p.102a)。2853 basaqï girant-ta「次の本文において」というのは『俱舍論』の「不隨增義隨眠品中自當顯說」(大正 Vol. 29, p.1c9- 10) を示す。2861 (~2870) qaltï adï ködrülmiš から ymä ančulayu oq までは『順正理論』巻一の内容と對應する：如世尊言。有漏法者。謂所有色隨順諸取。是能增益諸有取義。廣說乃至。識亦如是。與此相違。是無漏法。・・・・・謂於過去未來現在。諸所有色生長現貪或瞋或癡。或隨一一餘隨煩惱諸心所法。乃至廣說。(大正 Vol. 29, p.331a)。2864 üklitdäči ašdačï tep yörüg'ol alqu bolmaq-qa tudyaq-lanmaq-ïγ tep「諸有へ取となることを増大するものという義である」は漢文では「增益諸有取義」に對應するが、漢文は「諸有の取を增益する義」と讀める。2870 ulatï kengürü yrlïqamïš ol bilig-tä ulatï-larïγ ymä ančulayu oq「さらに、識等をまたそのように廣説された」は漢文の「乃至廣說」にあたる。

2873 17 inčip söz-lämiš ol bu oq nomuγ
2874 95b-1 bolur aqïγ-lïγ tep. nä üčün amtï vasubandu baxšï-nïng qayu söz
2875 2 -lämiš-i qaršï öngi boldï sudur-qa tep 疏主答云 isdiramati
2876 3 baxšï kikinč berü söz-läyür. bu qaršï ärmäz. qaltï sudur-ta adï ködrülmiš
2877 4 täk aqïγlïγ aqïγ-sïz-nïng töz-lär-ïn tuda söz-lämiš ol inčä tep
2878 5 qaltï qayu näčä bar ärsär öng eyin udu alqu tudyaq-qa munda
2879 6 üklitdäči ašdačï tep yörüg'ol alqu bolmaq-qa tudyaqlanmaq-ïγ munung
2880 7 tägšüt-inčä-si ärür aqïγ-sïz nom anïn bilmiš kärgäk täk aqïγ-lïγ aqïγ
2881 8 -sïz-nïng qavïr-a töz-in tuda mundaγ tep yrlïqamïš ol. ang-sïz-lar
2882 9 -nï täk abipiray üz-ä söz-lämiš ärmäz. bu nom usar tuγurγalï niz
2883 10 -vanï-larïγ. inčip söz-lämiš ol bu oq nomuγ bolur aqïγ-lïγ tep
2884 11 ulatï mundaγ osuγ-luγ-nung adï bolur aqïγ-lïγ mundaγ osuγ
2885 12 -luγ-nung adï bolur aqïγ-sïz tep ulatï. birök mundaγ söz-läsär
2886 13 ödrü tägimlig ärti uqïdu söz-lägäli inčä tep bu yörüg üz-ä
2887 14 anïn adï bolur aqïγ-lïγ tep bu yörüg öz üz-ä anïn adï bolur
2888 15 aqïγ-sïz tep 亦无問答 ymä ök yoq üčün sezik kikinč
2889 16 üz-ä bölgülük adïrtlaγuluq orun anïn bilmiš kärgäk adï
2890 17 ködrülmiš-ning qayu yrlïqamïš-ï alqu šasdr-a
2891 96a-1 -kare baxšï-lar-nïng abipiray alïγ-ï birlä bir täk ärmäz amtï.
2892 2 vasubandu baxšï-nïng qayu söz-lämiš-i sudur abipiray-ï birlä
2893 3 odγuraq qaršï ärmäz tep 問 nädägin bolur bilgäli adqanγuluq öčmäk-li
2894 4 yol-lï-nïng adqantačï niz-vanï-lar-qa odγuraq eyin ükligülük bolmaq
2895 5 -ïn tep 答 az turz-un anušayakoš-ta ken kengürü bölgäy adïrtlaγay biz ::
2896 6 qaltï anda karik-ta söz-lämiš ol 非无漏上緣 aqïγ-sïz-ï üsdün
2897 7 uγuš<-nung adqaγ-ï> ärmäz tudulmaz üčün qaršï bolur üčün tep. anda
2898 8 yörgü-tä bu karikïγ kändü uqïdmïš ol anïng yörügin tep. bar adïn baxšï
2899 9 -lar söz-lär aqïγ-lïγ tegüči sav-ta bir tayaq-lïγ tep yörüg'ol. qaltï
2900 10 bu uyur üčün niz-vanï-lar-qa tayaq bolγalï ymä ök uyur üčün adïn aqïγ-lïγ
2901 11 nom-lar-qa tayaq bolγalï anïn adamïš ol aqïγ-lïγ tep qaltï änätkäk-čä
2902 12 娑薩播 s-a-sirava tep teyür munï söz-läyür aqïγ-lïγ tep
2903 13 s-a užik-tä sïγar üč türlüg yörüg-lär ang'ilki söz
2904 14 -läyür bar tep 二 söz-läyür bir täk tep 三 -ünč söz-läyür

この經の意趣を説きたい。「ある法が煩惱を起こすことができるなら、即ち、この法は有漏である」と説いた。何故、今、世親師の所説は、經に對して違となったのか？安慧師が答えて云う：これは違ではない。謂わく、經において世尊は單に有漏、無漏の相を約して次のように説かれた「謂わく、所有の色は、諸の取に隨順して、ここで諸の有へ取となることを増大するものと云う義である」（と）。これの相違は無漏法である。それで單に有漏、無漏の略の性を約して、このように説かれた。無意味のものを、單に意趣によって説いたのではない。この法が能く煩惱を起こすなら、即ちその法を「有漏となる」と説いた。更に「このごときの名は有漏、このごときの名は無漏となる」と。更にもしこのように説くなら、即ち、應に次のようにと顯説すべし：この義によってそれ故その名は「有漏」となる、この義によってそれ故その名は「無漏」となる、と。亦、問答によって分別すべき處が無い故に、世尊の説かれたところは、諸々の造論師の意趣の受け方と同一ではない。今（ここで）、世親師の所説は經の意趣と定んで違ではないと、知らねばならない、と。問：如何にして、所縁の滅と道とが、能縁の煩惱に定んで隨い、（それを）増やすものとなるのを知ることができるのか？と。答：（その議論は）且らく止めるべし。後に「隨眠品」において我らは詳しく分別しよう。謂わく、そこで本頌に説いたのである：「無漏と上界の縁とではない。攝さない故、違となる故」と。そこで、この本頌を釋すことにおいて、自らそれの義を顯わしたのである、と。有餘師が説く：有漏と云う言に「一依もてる」と云う義がある。謂わくこれは煩惱へ依となり得る故に、餘の有漏法へもまた依となり得る故に。それで「有漏」と名づけたのである。謂わく、インド語では sāsrava と云う。これを「有漏」と云う。sa-の字に三種の義が當たる。

2873 inčip は餘分である。2886 ödrü tägimlig ärti uqïdu söz-lägäli inčä tep「即ち、應に次のようにと顯説すべし」に對して甘肅本は ödrü tägimlig ärür uqïdu uqïdu söz-lägäli inčä tep (*l*.641)。甘肅本の ärür が適切である。ただし、甘肅本の uqïdu は一つ餘分である。2887 bu yörüg öz üz-ä「この義自身によって」に對して甘肅本は bu yörüg üz-ä (*l*.642)「この義によって」。甘肅本の方が適切であるので、和譯はそれを採用した。二番目の anïn「それ故」は甘肅本には無い。2891 alïγ「受けること、受け方」= al-「受ける」-ïγ (dev. noun)。他に 3481, 4145 にも同じ形式が現れる。一方同じ内容が ališ によっても表現される：161, 228, 2567, 3234, 4564. 但し 2567 を除けば alïš beriš「授受」として現れる。2895 adïrtlayay は"dyrt"qy と綴られている。2896 (~2897) aqïγ-sïz-ï üsdün uγuš<-nung adqaγ-ï> ärmäz tudulmaz üčün qaršï bolur üčün tep「無漏と上界の縁とではない。攝さない故、違となる故」。この文は『倶舍論』巻十九の内容と對應する：非無漏上縁無攝有違故（大正 Vol. 29, p.102b）。また、このウイグル文は訂正されたものである。訂正前は：aqïγ-sïz-ï üsdün uγuš-uγ adqandačï ärmäz tudulmaz üčün qaršï bolur üčün tep. 甘肅本 (*l*.648) は訂正文と一致する。2902~2903 s-a-sirava < Skt. sāsrava「有漏」= sa + āsrava「流出するもの」。s-a < Skt. sa-「結合、共有、類似、同等」。s-a-sirava の初頭の s は獨立形の文字を用いているが、z と同形である。s を表示する z との同形は時々みられる。たとえば、R. R. Arat, *Eski Türk Şiiri* (1965 Ankara p.110) のウイグル文字順列に組まれた頭韻詩における s の句にも現れる。2904 二 söz-läyür bir täk tep 三 -ünč söz-läyür に對して甘肅本は ikinti söz-läyür bir täk tep üčünč söz-läyür (*l*.653).

2905 15 oxšadï tep. bar ärsär bar üčün ol niz-vanï-lar-nïng adqandačï
2906 16 -sï-nïng adqaγ-ïnda eyin üklimäki. bir täk ärsär niz-vanï-lar
2907 17 adïn aqïγ-lïγ nom-lar birlä bir täk bir tayaq-lïγ bolmaq-ï ärür.
2908 18 oxšadï ärsär adqantačï-sï-nïng adqanγuluq-ï-nïng bir ikinti-kä
2909 96b-1 ükliyü ašïlu oxšašmaq-ï ärür. 前諸师 öngdünki alqu baxšï
2910 2 -lar üküš-inčä bar bolmaq-lïγ yörügüg tudmïš ärür. bu baxšï birikmäk
2911 3 -lig yörügüg tuda yöläšürüg üz-ä söz-lämiš ol qaltï bir töz-lüg
2912 4 uγuš-luγ temiš täg tep 又 yänä adïn baxšï-lar söz-lär aqïγ-lïγ
2913 5 teptemiš-i ärsär. oxšašmaq tep yörüg'ol inčä qaltï aγu-luγ aš
2914 6 aγu birlä oxšašmïš täg tep 疏主云 isdiramati baxšï söz
2915 7 -lär bu öngdün söz-lägüči birgärü eyin ärür yörüg yol-ïnga bu bir
2916 8 karik-ta yumdaru bar tört türlüg yörüg-lär. ang'bašlayu qavïrasïnča
2917 9 söz-läyür alqu nom-lar bolur anda iki türlüg tep. basa kim
2918 10 uqïdur alqu nom-lar-nïng män-siz-in. üčünč adïrïp bölüp
2919 11 adïrtlayur aqïγ-lïγ nom-lar-ïγ. törtünč yörär aqïγ-lïγ-nïng
2920 12 yörügin. ang'bašlayu-qï padak-taqï aqïγ-lïγ aqïγ-sïz tegüči
2921 13 tört užik-lär üz-ä qavïr-a-sïnča söz-läyür alqu nom-lar bolur
2922 14 iki türlüg tep. nom tegüči bir užik ärür ikinti uγur üz-ä
2923 15 uqïdmaq alqu nom-lar-nïng män-siz-in. ikinti padak üz-ä büdün
2924 16 adïrïp uqïdur aqïγ-lïγ nom-larïγ. basa-qï iki padak-lar üz-ä
2925 17 yörär aqïγ-lïγ-nïng yörügin. bu üsdünki-lär üz-ä yörüp ang
2926 97a-1 -bašlayu-qï karikïγ ärtdi :: 論曰 uqïdu tükädmiš boldï aqïγ-lïγ-ïγ
2927 2 aqïγ-sïz-ï qayu ol tep karik söz-lär 无漏謂道諦 aqïγ-sïz
2928 3 ärsär qaltï alqu yol kerdü ulatï üč edigsiz ärür tep
2929 4 又 aqïγ-sïz ärsär qaltï yol tüz-ün-lär kerdü-si ulatï üč
2930 5 edigsiz-lär ärür ymä/ter. bu köni ol. qayu-lar ol üč teptesär kök
2931 6 qalïq iki türlüg öčmäk-lär tedir. iki türlüg öčmäk-lär ymä
2932 7 qayu ol tesär. bilip bilmätin öčmäk-lär ärür. bu kök qalïq-ta
2933 8 ulatï üč türlüg edigsiz-lär-ning ulatï yol tüz-ün-lär kerdü
2934 9 -si-ning adï bolur aqïγ-sïz nom tep 釋曰問 yol kerdüg aqïγ

第一には「有る」と云う、第二には「同一」と云う、第三には「類似」と云う。「有る」とは煩惱の能縁には、その所縁において隨増することが有るためである。「同一」とは煩惱が餘の有漏法と同一の一依をもてることである。「類似」とは能縁、所縁がお互いに、増大し、類似することである。前の諸師はその多くが「有る」の義を取ったのである。この師は「同一にすること」の義を取り、喩えによって説いたのである。猶、一性類と云ったごとし、と。又、餘の師らは云う：「有漏」と云ったのは「類似」と云う義である。則ち、猶、毒もてる食物が毒と類似したごとし、と。安慧師が云う：この、前に説くものは共に理趣に隨っている。この本頌には通して四種の義がある。最初に、一切法はそこで二種となると略説する。次に、一切法の無我を顯わす。第三に、 有漏法を分別する。第四に、有漏の義を釋す。最初の句にある「有漏無漏」と云う四字によって、一切法は二種となると略説する。「法」と云う一字は第二の場合において、一切法の無我を顯わすことである。第二句によって有漏法をすべて差別して顯わす。續く二句によって、有漏の義を釋す。この上のものによって、最初の本頌を釋し終わった。

論曰：**『有漏を已に辯じた。無漏は何か、と。本頌は説く、無漏は謂わく、道聖諦、及び三無爲である、と。何がその三かと云えば、虚空、二種滅と云う。二種滅はまた何かと云えば、擇、非擇滅である。この虚空等の三種無爲及び道聖諦の名が無漏法となる』**（已辯有漏無漏云何謂道聖諦及三無爲何等爲三虚空二滅二滅者何擇非擇滅此虚空等三種無爲及道聖諦名無漏法）と。

2912 tep 又 yänä adïn の「又」は甘肅本(*l*.658)にも有るが yänä は無い。2915 yörüg yol-ï は「理趣」を表す：anïn sizlärning qayu sözlämišingizlärning yoq arduqraq yörüg yol-ï 「故彼所言無深理趣」(B52)。2918~2919 üčünč adïrïp bölüp adïrtlayur aqïγ-lïγ nom-lar-ïγ「第三に、有漏法を分別する」は甘肅本では üčünč adïrïp bölär adïrtlayur aqïγ-lïγ nom-lar-ïγ (*l*.662). いずれも「第三に、有漏法を分別する」を表す。ロンドン本は二詞一語として adïr-ïp böl-üp を、一方甘肅本は böl-är adïrtla-yur を二詞一語としている。このテキストにおける二詞一語としては böl- adïr-は他にも見られるが、adïr- böl-は無い。一方 böl-adïrtla-は普通にみられるので甘肅本の方が適切といえる。2922~2923 nom tegüči bir užik ärür ikinti uyur üz-ä uqïdmaq alqu nom-lar-nïng män-siz-in「「法」という一字は第二の場合において一切法の無我を顯わすことである」は甘肅本には nom tegüči bir užik ärür ikinti uyur üz-ä kim uqïdmaq alqu nom-lar-ning mänsizin (*ll*.664-665)「「法」という一字は第二の場合においてだれか一切法の無我を顯わすことである」。2926 karikïγ ärtdi の後に甘肅本(*l*.666)では tep が立っている。2927~2930 aqïγ-sïz ärsär qaltï alqu yol kerdü ulatï üč edigsiz ärür「無漏は謂わく、諸道諦、及び三無爲である」は續く「又・・ymä/ter」。のなかで aqïγ-sïz ärsär qaltï yol tüz-ün-lär kerdü-si ulatï üč edigsiz-lär ärür「無漏は謂わく、道聖諦、及び三無爲である」と訂正されているが、訂正文が正しいのでそれを採用した。なお、續く bu köni ol「これが正しい」は訂正文の正しいことを主張する書寫人の言である。一方甘肅本には次のごとく書かれている：aqïγ-sïz ärsär qaltï yol kertü ulatï üč türlüg edigsiz-lär ärür tep 論 aqïγsïz-ï ärsär qaltï alqu yol tüz-ün-lär kertü-si uladï üč türlüg edig-siz-lär ärür qayu-lar ol üč tep tesär (*ll*.667-669)「無漏は謂わく道諦、及び三種無爲であると。論、無漏は謂わく諸道聖諦、及び三種無爲である。何がその三かといえば」。甘肅本の「論」の位置にはロンドン本では「又」が入っている。これは甘肅本における「又」の誤寫というよりはむしろ、(俱舍) 論では yol kertü「道諦」に對して alqu yol tüz-ün-lär kertü-si「諸道聖諦」が書かれているということを示している。2932 qayu ol tesär「何かといえば」に對して甘肅本は qayu ol tep tesär (*l*.670)。2933~2934 üč türlüg edigsiz-lär-ning ulatï「三種無爲及び」に對して甘肅本は üč türlüg edigsiz-lär uladï (*l*.671)。また、aqïγ-lïγ-ïγ「有漏を」に對して aqïγ-lïγ.

2935 10 -lïγ-ïγ yörgü-tä karik-ta öngi kedärip ärtürü tükädmäk üz-ä
2936 11 bäkiz bälgülüg bililü tükätdi ärti aqïγ-sïz ärtüki :: amtï aqïγ
2937 12 -sïz-ïγ yörgü-tä nä kärgäk yänä söz-läp aqïγ-sïz-ï ärsär qaltï
2938 13 yol kertü ärür tep 有餘师答 bar adïn baxšï-lar kikinč berü
2939 14 söz-lär sodur-andike ni'kay-lïγ-lar söz-lär öng yumdaru aqïγ-lïγ
2940 15 aqïγ-sïz ärür tep amtï sezinmiš üčün yol kertü yanduru ol
2941 16 öng-kä birikip yumdaru aqïγ-lïγ aqïγ-sïz tegäy tep. kedärgälir
2942 17 üčün bu sezikig. anïn karik-ta söz-lämiš ol aqïγ-sïz-ï ärsär
2943 97b-1 qaltï yol kertü ärür tep näčä ašnu aqïγ-lïγ-ïγ yörgü-tä öngi
2944 2 kedärü tükätsär ymä amtï aqïγ<-sïz->ïγ yörgü-tä tudulturmasar sezin
2945 3 -miš üčün sezingülük bolγay sodurandike ni'kay-lïγ-lar söz-lägüči öng
2946 4 birlä birikip yumdaru aqïγ-lïγ aqïγ-sïz ärmiš tep amtï bildürgälir
2947 5 üčün adïrtlïγ otyuraq aqïγ-sïz ärtükin. anïn munda qadnayu söz
2948 6 -läsär ymä ök mün qadaγ bolmaz tep 疏主云 äsdiramati baxšï
2949 7 söz-lär andaγ ärmäz inčip alqu nom-lar odγuraq bolur iki türlüg
2950 8 qaltï aqïγ-lïγ aqïγ-sïz ikiläyü yoq üčünči nägülük ol ikiläyü
2951 9 sezinü söz-läp sezingülük bolγay yumtaru aqïγ-lïγ aqïγ-sïz ärmiš
2952 10 tep 釋曰有漏中 aqïγ-lïγ-ïγ yörgü-tä öngi kedärü tükädmäk üz-ä
2953 11 bäkiz bälgülüg bililür üčün odγuraq aqïγ-sïz ärtüki. anïn öngdün
2954 12 söz-lägüči-ning yörügi odγuraq a'nday ärmäz tep :: birär baxšï-lar söz
2955 13 -lär birök söz-lämädük nomuγ yörüg üz-ä ülgüläsär. amtï-qï sezik
2956 14 abipiray-ï anïlayu oq taqï tüpükmäz. ikiläyü söz-lägü kärgäk ediglig
2957 15 nom qayu ärsär aqïγ-lïγ nom ymä ol oq ol tep. ediglig munda
2958 16 aqïγ-lïγ bolu tükätsär. bäkiz bälgülüg bilmiš kärgäk edigsiz qayu ärsär
2959 17 aqïγ-sïz ymä ol oq ol tep. nä kärgäk ikiläyü söz-läp üč türlüg
2960 18 edigsiz-lär-ig 若以義何知 birök yörüg üz-ä bolsar bilgäli.
2961 98a-1 yol kerdüg ärür. aqïγ-sïz tep üč edigsiz-tä ulatï-larïγ ymä ök kim
2962 2 yörüg üz-ä bolur bilgäli ärür ol aqïγ-sïz tep nä kärgäk ikiläyü söz
2963 3 -läp munda kim ol kim adïrtlïγ odγuraq söz-lädäči aqïγ-sïz yörüg üz-ä
2964 4 bolur bilgäli aqïγ-lïγ-ïγ. aqïγ-sïz-ïγ yörüg üz-ä bolmaz bilgäli tep
2965 5 sodurandike ni'kay-lïγ-lar söz-lämämiš ärip. munda küčäyü kim söz-lämäk
2966 6 üz-ä munung uγurïndaqï qayu kikinč yörüg yol-ïnga yarašï bolmaz tep
2967 7 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär biz amtï inčip söz-lälim bu yol tegüči
2968 8 sav yumdaru lokik-loka-udar ärür. uqïdγalïr üčün lokik yol-uγ
2969 9 anïn söz-läp aqïγ-sïz-ï ärsär qaltï yol kertü ärür tep üsdämiš
2970 10 ärür yol kertü tegüči užikig 以世間道 nädägin tep tesär lokik
2971 11 yol ärür yol :: kertü ärmäz. loka-udar yol. yol ymä ök kertü ymä ök
2972 12 üčün anïn munda söz-lämiš ol yol kertü tep küsämiš üčün adïrtlïγ
2973 13 odγuraq bildürgäli aqïγ-sïz ärdükin öngdün karikda öngi kedärgüči
2974 14 -tä yindäm söz-läti ärti yol-uγ öngi kedärip tep sezinmiš üčün

---

2944 ymä amtï aqïγ<-sïz->ïγ yörgü-tä「今、無漏を釋すことにおいて」は訂正されている。訂正前は： ymä amtï aqïγ-lïγ-ïγ yörgü-tä「今、有漏を釋すことにおいて」。2945 bolγay は bwlq"y と綴られている。2951 の bolγay も同様に bwlq"y と綴られている。

釋曰、問：有漏を釋すとき、道諦は、本頌において已に（道諦を）除き竟えることを以て、（道諦が）無漏であることが已に明了にされた。今、無漏を釋すことにおいて、何の必要でまた「無漏は謂わく、道諦である」（無漏謂道諦）と云うのか？と。有餘師が答えて云う：經量部のものらは「色は通して有漏無漏である」と説く。今（かれらが）「道諦はむしろその色に結合し、通して有漏無漏（である）」と云うであろうと疑った故に、この疑いを斷つために、それで本頌に「無漏は謂わく、道諦である」と説いたのである。如何に、先に有漏を釋すことにおいて、（道諦を）除き竟えても、今、無漏を釋すことにおいて（それが）攝せられないなら、經量部のものらが説くところの「色と一つになって、通して有漏無漏である」と疑うところとなるであろうと疑ったため、今、決定に（道諦が）無漏であることを知らしめるために、それでここに重ねて説いても過失とはならない、と。安慧師が云う：その通りではない。即ち一切法は定んで二種ある。謂わく、有漏と無漏。更に第三は無い。如何にして、更に疑って、「通して有漏無漏となると疑うところ」となるのであろうか？。釋曰：有漏を釋すときに、已に（道諦を）除いたことによって、定んで（それが）無漏であることが明了となる故、それで先の所説の義は定んでその通りではない、と。各々の師が説く：もし説かなかった法を義によって量るなら、今ある疑問の意趣は猶更に窮まらない。更に、有爲法が何かであれば、有漏法もまたそれ（=有爲法）であると説かねばならない。有爲がここで已に有漏であるのなら、無爲が何かであれば無漏もまたそれ（=無爲）である、と明了しなければならない。何の必要でさらに三種の無爲を説くのか？もし義を以って、道諦が無漏であると知り得るなら、三無爲等も皆義を以ってそれが無漏であると知り得る。何の必要で更にここで、何某か、無漏を決定に説くものが、義を以って有漏を知り得る、義を以って無漏を知りえない、と云うのか？經量部のものらは説かなかったのに、ここで強いて誰かが説くことによって、これに由るどんな答えも理趣に適してはいない、と。安慧師が云う：我れらは今、次のように説きたい。この「道」と云う言は總じて世出世（laukika-loka-uttara）である。世間道を顯わす故に。それで「無漏は謂わく、道諦である」と説いて、「道諦」と云う字を付加したのである。如何にしてかと云うなら、世間道は道である、諦ではない。出世間道は道であり諦でもある故に、それでここに「道諦」と説いたのである。無漏であることを決定に示そうとしために、前に本頌で、除くものにおいては唯だ「道を除いて」とのみ説いたのである。

2952 ウイグル文中漢字列「釋曰有漏中」の「曰」は甘肅本(*I*.682)には無い。また、öngi kedärü tükädmäk üz-ä「已に(道諦を)除いたことによって」に對しては öngi kedärip tükädmäk üz-ä (*II*.682-683). 2956~2957 idiglig nom qayu ärsär aqïγ-lïγ nom ymä ol oq ol「有爲法が何かであれば、有漏法もまたそれなり」＝「有爲法はすなわち有漏法なり」 cf. 2677. 2960 ウイグル文中漢字の「知」に對して甘肅本(*I*.688)は「智」。2963 odγuraq söz-lädäči aqïγ-sïz「無漏を決定に説くものが」に對して甘肅本は odγuraq söz-lädäči aqïγ-sïzïγ (*I*.690)。甘肅本の方が適切な表現である。2968 lokik- loka-udar (/lokik-loka-utar/) < Skt. laukika-loka-uttara「世出世、世間出世間」。

2975 15 lokik yol birlä yamïrašγay tep anïn munda qadnayu söz-lämiš ol yol kertü
2976 16 tep kim adïrtlïγ odγuraq bildürgälir üčün töz-lär-i yamïrašmaq-lïγ mün
2977 17 qadaγ-nïng yoq-ïn <azu-ča> ymä bilü tükätmiš yörügüg kim anï odγuraq-la
2978 18 -γalïr üčün anïn kärgäk qadnayu söz-lämäk 従有為 ediglig-tin
2979 98b-1 adïrmaq üz-ä näčä bililsär ymä yol kertü-nüng anïng aqïγ-sïz ärtüki amtï
2980 2 aqïγ-sïz-ta ornadïp uqïdïp adïn yörügin kim adïrtlïγ odγuraq
2981 3 qïlsar bolur nägü mün qadaγ. munda söz-läsär ediglig qayu ärsär aqïγ-lïγ
2982 4 ymä ol oq ol tep inčip kim ol yangγarïq-ča bilmiš kärgäk edigsiz ärsär
2983 5 odγuraq ärür aqïγ-sïz adïrtlïγ odγuraq bildürgälir üčün yänä söz
2984 6 -lämiš ol ulatï üč türlüg edigsiz-lär tep. qayu ärür adïrtlïγ.
2985 7 odγuraq bilmäk tepdesär 有一师云 bar bir baxšï söz-lär bilü tükädmiš
2986 8 uγuš-uγ adqandačï köngül köngül-täki nom-lar ärür aqïγ-sïz tep. qaltï
2987 9 amranmaq-qa bodulmaq-tïn öngi üdrülmiš-lär ärsär. ken yänä adqansar
2988 10 amranmaq uγuš-uγ bu adqantačï köngül-täki nom-ta ulatï-lar-ï odγuraq
2989 11 ärür aqïγ-sïz tep 復餘师云 yänä adïn baxšï-lar söz-lär ::
2990 12 bošγud-suz-lar-nïng öng yükmäki ulatï tudyaq-sïz öng odγuraq
2991 13 ärür aqïγ-sïz tep 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär. andaγ ärmäz
2992 14 ediglig nom-ta yindäm yol kertü ök ärür aqïγ-sïz. adïn ediglig-lär
2993 15 ärmäz. bu ärür adïrtlïγ odγuraq :: yänä söz-lär üč edigsiz-lär bolur
2994 16 aqïγ-sïz qayu-nung adï bolur adïrtlïγ odγuraq teptesär bar bir
2995 17 baxšï söz-lar yindäm bilip öčmäk ärür edigsiz aqïγ-sïz. kök qalïq
2996 18 ärür (edig-lig) aqïγ-lïγ tep. tanïp yoq teyür bilmätin öčmäkig tep :: yänä
2997 19 adïn baxšï-lar {söz-lär} üč edigsiz-lärig täk yïlayu-sïnča uqïdmïš ol. yoq
2998 20 ol činkertü töz üz-ä tep 疏主云 äsdiramati baxšï söz-lär
2999 99a-1 aqïγ-lïγ nom-tïn adïrmaq üz-ä bilip öčmäk edigsiz-ig bililü
3000 2 tükätdi aqïγ-sïz ärdüki uqïdγalïr bildürgälir üčün (čïn)-kerdü
3001 3 töz-in. anïn söz-lämiš ol ulatï üč türlüg edigsiz-lär ärür ol
3002 4 aqïγ-sïz tep. munung adï bolur adïrtlïγ odγuraq tep 或一切法 azu
3003 5 -ča ymä alqu nom-larïγ qavïr-asïnča söz-läsär bolur iki türlüg
3004 6 qaltï aqïγ-lïγ aqïγ-sïz. aqïγ-lïγ nom yänä bolur iki türlüg
3005 7 ang'ilki töz ikinti bälgü. aqïγ-lïγ töz ärsär yol-uγ öngi kedärip
3006 8 adïn ediglig nom-lar ärür. aqïγ-lïγ bälgü nom ärsär olar-ta aqïγ-lar-nïng
3007 9 eyin üklimäki ärür. 无漏法 aqïγ-sïz nom ymä ök bolur iki türlüg
3008 10 ang'ilki töz ikinti bälgü. aqïγ-sïz töz ärsär qaltï yol kerdü ulatï üč
3009 11 türlüg edig-siz-lär ärür temäk-ning munung adï bolur aqïγ-sïz töz
3010 12 tep :: aqïγ-sïz bälgü ärsär inčip bu söz-lägüči-tä olar-ta aqïγ-lar
3011 13 eyin üklimäz üčün adamïš ol aqïγ-sïz bälgü tep öngdün aqïγ
3012 14 -lïγ-ïγ yörgü-tä adïru tükädmäk üz-ä yol kerdüg näčä yörügin tuda
3013 15 bililsär ymä aqïγ-sïz ärdüki amtï küsämiš üčün yaqïn yaγuq
3014 16 uqïdγalï aqïγ-sïz-nïng töz-in anïn qadnayu söz-lämäk-ning aqïγ

2977 <azu-ča> ymä bilü tükätmiš yörügüg「或は、了じおえた義を」は näčä ymä bilü tükätmiš yörügüg「いかに、了じおえた義を」を訂正したものである。甘肅本(*l*.699)も azu-ča ymä と書かれている。2978 ウイグル文中漢字列「從有爲」に對して甘肅本(*l*.700)では「從有爲簡」と書かれている。「簡」(選びだすこと)は adïrmaq に對應する。adïrmaq はここでは「差別」と譯した。

世間道と混同するであろうと疑った故に、ここに重ねて「道諦」と説いたのである。その性が混同する過失の無いことを決定に示すために、或は了じおえた義、それを定めるために、それ故に重ねて説かねばならない。有爲から差別することによって、如何に道諦の無漏であることが了ぜられても、今、無漏において餘の義を立て顯わして決定とするなら、何の過失となるのか？ここで有爲が何かであれば有漏もまたそれ（＝有爲）であると説く。即ち何某は規範どおりに知らねばならない。無爲は定んで無漏である。決定に教えるために、また「及び三種無爲」（及三種無爲）と説いたのである。何が決定に知ることなのかと云えば、或る師が云う：界を緣ずる心心所法が無漏であると已に知った。若し、欲に染まることから遠離したものが、後に再び欲界を緣ずるとき、この能緣の心所法等は定んで無漏である、と。また、餘師が云う：無學のものらの色蘊、及び無取の色は定んで無漏である、と。安慧師が云う：その通りではない。有爲法においては、唯だ道諦のみが無漏である。餘の有爲（は無漏）ではない。これは決定である、（と）。又、説く：三無爲は無漏となる。何の名が「決定」となるのかと云えば、或る師が云う：唯だ擇滅のみが無爲無漏である。虚空は有爲有漏である、と。非擇滅を否定して「無し」と云う、と。また、餘師が云う：三無爲を單に假立したのである。眞實性においては無である、と。安慧師が云う：擇滅無爲を有漏法から差別することによって、（それが）無漏であることが已に了ぜられた。眞實性を顯示する故に、それで更に「三種無爲は無漏である」と説いたのである。これの名が「決定」となる。或は一切法を略説すれば、二種となる。謂わく、有漏と無漏。有漏法もまた二種となる。第一は性、第二は相。有漏性は「道を除いて餘の有爲法である」（除道餘有爲）。有漏相は「彼において漏の隨增することである」（於彼漏隨增）。無漏法も二種となる。第一は性、第二は相。「無漏性は謂わく、道諦と及び三種の無爲である」（無漏謂道諦　及三種無爲）と云うことの名が「無漏性」となる。無漏相は即ちこの所説において彼らに漏が隨增しない故「無漏相」と名づけた。前に有漏を釋すことにおいて已に道諦を差別したことにより、如何に義を約して（道諦が）無漏であることが了ぜられても、今、無漏の性を親近に顯わすことを欲した故、それで「無漏は謂わく、道諦である」と重ねて説くことは、それ故ここでは過失とならない。

2979　bililsär ymä yol kertü-nüng anïng aqïy-sïz ärtüki「道諦のそれの無漏であることが了ぜられても」に對して甘肅本は bililsär ymä yol kertü-nüng aqïy-sïz ärtüki (*II*.700-701)「道諦の無漏であることが了ぜられても」。甘肅本のウイグル文を和譯文には採用した。2985　文中漢字列の「有一师」とそのウイグル語譯 bar　bir　baxši「有-一-師」をここでは「或る師」と和譯した。2989　ウイグル文中漢字列「復餘师云」の「云」は甘肅本(*I*.707)には無い。また、adïn　baxši-lar「復餘師」は adïn　baxši と書かれている。2994~2995　bar bir baxši「有一師」に對して甘肅本は bar bir baxši-lar(*I*.710)としているが誤寫である。2996~2998　yänä adïn baxši-lar {söz-lär} üč edigsiz-lärig täk yïlayu-sïnča uqïdmïš ol. yoq ol čïnkertü töz üz-ä tep「また、餘師が云う：三無爲を單に假立したのである」。{söz-lär}「云う」は甘肅本(*II*.712)を參照にして插入した。また、2996 の (idig-lig) は甘肅本(*I*.711)では本文中に現れる。

3015 17 -sïz-ï ärsär qaltï yol kerdü ärür tep anïn munda mün qadaγ bolmaz.
3016 18 无為法 edigsiz nom-nïng ymä ök yörügin tuda bililü tükätsär
3017 19 ymä aqïγ-sïz ärdüki. amtï küsämiš üčün kengürü yörgäli anïn
3018 20 kärgäk-läp uqïdmïš körgidmiš ärür. 又 yänä bu üč edigsiz nom
3019 99b-1 -larïγ öngdün uqïdu yörmämiš-kä amtï uγramïš üčün uqïdu söz
3020 2 -lägäli anïn munda uqïdmïš ärür 頌言及者 karikda söz-lämäki
3021 3 ärsär ulatï tep birgärdmäk birikdürmäk tardïp turγurmaq tep
3022 4 yörüg'ol. ang'ilki tardar aqïγ-sïz yörügüg. ikinti tardar čïnkertü
3023 5 töz yörügüg. nädägin aqïγ-sïz yörügüg teptesär. yindäm yol kertü ök
3024 6 aqïγ-sïz ärmäz. birlä yänä üč edigsiz-lär ymä ök ärür üčün aqïγ
3025 7 -sïz. anïn urmïš ol (uladï) tegüči savïγ. nädägin čïnkertü töz yörügüg teptesär
3026 8 qaltï yol kertü bar bolmïš täg ol čïnkertü töz üz-ä. birlä yänä
3027 9 üč edigsiz-lär ymä ök bar üčün čïnkertü töz üz-ä anïn söz-lämiš
3028 10 ol ulatï tep 問 kök qalïq iki türlüg öčmäk-lär tegüči üz-ä
3029 11 又 sav üz-ä ymä tegü/täg bililü tükätdi ärti üč ärdüki nä üčün iki
3030 12 -läyü kärgäk-läp söz-läti (üč) tep 答 adïrtlïγ odγuraq bölgälir adïr
3031 13 -tlaγalïr üčün 有一师云 bar bir baxšï söz-lär iki ygrmi tïldaγ
3032 14 -tïn turuγm-a nom-lar ärür edigsiz tep 又 yänä bir baxšï söz-lär čïn
3033 15 -kertü munda edigsiz ärsär vaybašike-lïγ baxšï-lar söz-lägüči parmanu
3034 100a-1 bolur edigsiz tep. tüdγalïr üčün mundata ulatï-larïγ anïn yindäm
3035 2 söz-lämiš ol üč tep ikiläyü arduq-suz ägsüksüz edigsiz teptemiš-i
3036 3 ärsär. 爲字 edig tegüči užikig ken inčip uqïdu söz-lägäy biz
3037 4 munda sïz teptemiš-i ärsär tïdar ediglig-ning yörügin. ol ediglig-ning

---

3016 nom-nïng に對して甘肅本では nom-nung (*l.*723)。3025 (uladï) は甘肅本では本文に書かれている (*l.*729)。3026~3027 qaltï yol kertü bar bolmïš täg ol čïnkertü töz üz-ä. birlä yänä üč edigsiz-lär ymä ök bar üčün čïnkertü töz üz-ä「猶、道諦が眞實性によって存在したごとく、併せて三無爲もまた眞實性によって存在する故に」の後に甘肅本ではさらに birlä yänä üč edigsiz-lär ymä ök bar üčün čïnkertü töz üz-ä (*ll.*730-731)「併せて三無爲もまた眞實性によって存在する故に」が入っている。内容から判斷してこの文は不要である。

無爲法のまた義を約して、無漏であったことが已に了ぜられても、今廣釋することを欲した故に、必然的に顯示したのである。またこの三無爲法を以前には解釋しなかったので、今顯説することを欲した故に、それでここに顯わしたのである。本頌に「及び」（及）と言うのは「同等」「結合」「引起」と云う義である。第一には無漏義を引く。第二には眞實性の義を引く。如何にして「無漏の義を」と云うなら、唯だ、道諦のみが無漏（と云うの）ではない、併せて三無爲も無漏である故、それで「及び」と云う言を立てた。如何にして「眞實性の義を」と云うなら、猶、道諦が眞實性によって存在したごとく、併せて三無爲もまた眞實性によって存在する故に、それで「及び」と説いた。問：「虚空、二種滅」（虚空二滅）と云う言によって、三つであることは已に了ぜられた。何のために、更に「三」と説く必要があったのか？答：決定に分別するため（である）。或る師が云う：十二支縁起法は無爲である、と。また一人の師が云う：眞實、ここにおいて無爲なら、毘婆沙師が云う極微（paramāṇu）は無爲となる、と。これ等を妨げるために、それで唯だ、「三」と説いた。更に、過不足なく「無爲」と云ったが、「爲」と云う字を我らは後に顯説しよう。ここにおいて「・・・無し」（無）と云ったのは有爲の義を避けている。

3028~3029　「又」以下の文は kök qalïq iki türlüg öčmäk-lär tegüči üz-ä「虚空、二種滅ということによって」を kök qalïq iki türlüg öčmäk-lär tegüči sav üz-ä「虚空、二種滅という言によって」に訂正している。ここでは訂正文を採用した。この訂正文は甘肅本(*I*.732)にもある。3030　(üč)「三」は甘肅本では本文に書かれている(*I*.732)。3032　turuγma = tur「起こる」-u(connected vowel)-γma(dev. noun). 3032~3034　činkertü munda edigsiz ärsär vaybašike-lïγ baxšï-lar söz-lägüči parmanu bolur edigsiz「眞實、ここにおいて無爲なら、毘婆沙師が云う極微は無爲となる」は činkertü munda edigsiz ärsär <vayšašike>-lïγ baxšï-lar söz- lägüči parmanu bolur edigsiz「眞實、ここにおいて無爲なら、勝論師が云う極微は無爲となる」に訂正されている。ここでは訂正前のウイグル文を採用した。Cf.「即ち勝論に於いては、極微(經にてはアヌ aṇu)は、常住(nitya)にして、而も何等他に因を有せざるもの(akāraṇavat)とせらるに、有部宗では極微は、能造の色(四大種)と所造の色(五根五境)の凡てに在りとせられるが、其の何れも色蘊の所攝であり、隨って、有爲法であるから、何等常住不變なる性質を有しない。特に、倶舍論にては、光記による限り、勝論の極微常住説を破しているのである。」(西義雄(1975)『阿毘達磨佛教の研究』國書刊行會 p.456)。vayšašike < Skt. vaiśeṣika「毘世師迦」「勝論」。parmanu < Skt. paramāṇu「極微」。3036　edig　tegüči「爲という」と užikig「字を」との間に vi を挿入するよう訂正されている。 vi は漢字「爲」(M.Chin. finuě, 庄垣内(2003b) p.129)の音寫形式である。それを挿入すると「『爲』という‘爲’の字を」と譯せる。3037　munda sïz teptemiš-i ärsär「ここにおいて「・・・無し」といったのは」の「・・・無し」(無)は缺性接尾辭-sïz を獨立させて用いている。

3038 5 tägšüdinčä-si ärsär bu oq inčip ärür edigsiz kök qalïq iki türlüg öč
3039 6 -mäk-lär teptemiš-i ärsär 准梵本 änätkäk-čä pun-ïndaqï yangča ärsär bu
3040 7 kök qalïq-nïng basa-sïnda bar ol ulatï tegüči užik ilildürmiš
3041 8 tudulturmïš ärür iki türlüg öčmäk-lärig 且一切滅 munda alqu
3042 9 öčmäk-lär yumdaru bolur beš türlüg :: ang'ilki saqïnč-sïz dyan-taqï öč
3043 10 -mäk ikinti öčmäk dyan-taqï öčmäk. üčünč ürlügsüz üz-ä öčmäk
3044 11 törtünč bilip öčmäk. bešinč bilmätin öčmäk ärür amtï söz-lägüči
3045 12 iki türlüg öčmäk-lär ärsär. ol oq bilip bilmätin öčmäk-lär ärür.
3046 13 amtï uqïdmaq üz-ä bular ikigü-ni adïrur adïn öngi öčmäk-lär-tin 問
3047 14 öngdün söz-läti ärti qaltï nomuγ adïrtlamaq-ta öngi yoq yeg
3048 15 adruq al aldaγ taryardačï alqu niz-vanï-larïγ tep 虛空非擇
3049 100b-1 kök qalïq bilmätin öčmäk-ning bar qayu al-ï aldaγ-ï. umaq üz-ä
3050 2 taryaryalï alqu niz-vanï-larïγ inčip munda söz-lägülük tep 疏主答云
3051 3 ästiramati baxšï kikinč berü söz-lär. andaγ ol kök qalïq bilmätin
3052 4 öčmäk-ning yoq niz-vanï taryaryuluq al-ï aldaγ-ï birök üküš-inčä
3053 5 bölsär adïrtlasar arïdï umaz taryaryalï alqu niz-vanï-larïγ qayu tïldaγ
3054 6 -ïn teptesär. tört kertü-lärdä tudulmatuq üčün inčip ymä ök bar üčün
3055 7 tïldaγ-ï tudulturup turyuryuluq aqïγ-sïz nom-ta kärgäk-läp söz-lämiš
3056 8 ärür öčmäk kertüg bular ikigü bir täk ärür üčün aqïγ-sïz edärišdürü
3057 9 söz-lämiš ol 或此是論之軌 azu-ča ymä bu ärür üčün šasdr-nïng
3058 10 yangï kibi ödrü ymä söz-läsär uluγ šastr tep kärgäk-inčä tükäl
3059 11 uqïdyu kärgäk tört türlüg nom-larï-γ. ang'ilki san. ikinti ad
3060 12 üčünč bälgü. törtünč adruq. birök tükäl-lig ärsär bular tört
3061 13 -ägü-kä ödrü adï bolur uluγ šasdr tep. tükäl-lig ärmäsär bular tört
3062 14 -ägü-kä. adï bolmaz uluγ šasdr tep. alqu uluγ šasdr-lar-ta bu šasdr
3063 15 artuqraq uluγ ärür. nädägin alqu nom-larïγ tükäl söz-lämägäy
3064 16 näčä kök qalïq bilmätin öčmäk umasar ymä taryaryalï niz-vanï
3065 17 -larïγ. büdürgälir üčün bu šasdr-taqï yörüg töz-in tüzü yapa kärgäk
3066 101a-1 -läp tükäl söz-läyür üčün anïn söz-läp bular ikigü-ni 論 söz<-lämiš>
3067 2 ol qayu-lar ol üč tep 釋曰无爲義少 edigsiz-lär-ning yörügi
3068 3 az üčün söz-läp yörgülüki ymä ök az ärür. ediglig-ning yörügi üküš
3069 4 üčün bölüp adïrtlap kärgäk-inčä kengürmiš ärür. yänä edigsiz nom-lar
3070 5 -ïγ bolmaz üčün činlayu körgidgäli bu tïldaγ-ïn qavïr-a söz-lämiš ol
3071 6 ediglig nom-larïγ bolur üčün körgidgäli anda-ča ol munda-ča ol temäk
3072 7 -lig adïrt-lar üz-ä anïn kärgäk-inčä kengürü söz-lämiš ärür. edigsiz-lär
3073 8 -ning yörügi az-ï üz-ä qavïr-a-sïnča körgidü inčip tükädür üčün
3074 9 anïn amtï ašnu söz-lämiš ol. ediglig-ning yörügi keng üčün ulatï
3075 10 šasdr-nïng üz-lünčü-singä tägi uqïdu yörüp temin ök ärdär üčün ::
3076 11 anï üčün ken söz-lämiš ol 今將釋彼 amtï uγramïš üčün yör

3039~3040 梵本 = änätkäk-čä pun-ï「梵語の書」。ここでは『倶舎論』原典を指す。pun < Chin. 本(M.Chin. puən)。「本」はウイグル漢字音では一般に pïn(bʷn)の形式を用いる。Cf. 庄垣内(2003b p.133)。bu kök qalïq-nïng basa-sïnda bar ol ulatï tegüči užik「この「虚空」の次に「及び」という字がある」。漢文では「虚空二滅」であり、「及」という字はないが、サンスクリットには「及び」を意味する形態は現れる：Skt. 'ākāśaṃ dvau nirodhau ca' (Ejima(1989), p.4). 表面上は「二滅」(dvau nirodhau)の後に「及び」(ca)が立つが、サンスクリットの構文法としてはこれで「虚空(ākāśaṃ)と二滅と」を表す。

その有爲の相違はこれ即ち無爲である。「虚空、二種滅」と云った。（これを）梵語の書にあるものに准ずるなら、この「虚空」の次に「及び」と云う字がある。（すなわち）「二種の滅」と繋いだのである。ここで、諸滅は通して五種となる。第一は無想定にある滅、第二は滅定にある滅、第三は無常による滅、第四は擇滅、第五は非擇滅である。今説いている二種の滅は、それはまさに擇と非擇との滅である。今これら二つを立てることによって、餘の別の滅から差別する（と）。問：前に、「若し擇法を離れては、勝れた方便にして諸煩惱を滅するもの無し」（若離擇法無勝方便能滅諸惑）と説いた。虚空や非擇滅には、諸煩惱を能く斷つことにおける、ここに説くべき（一體）何の方便が有るのか？と。安慧師が答えて云う：その通りである、虚空や非擇滅には煩惱を斷つべき方便は無い。もし大まかに分別するなら、結局は諸煩惱を斷つことができない。何に因ってかと云えば、四諦において攝せられなかった故に、また無漏法において攝し住させるべき因が有る故に、必然的に滅諦を説いたのである。これら二つは同時に無漏である故、相從させて説いたのである。或は、これは論の軌則である故に。即ちまた「大論」と云うなら、必ずや四種の法を完全に顯わさねばならない。第一に數、第二に名、第三に相、第四に差別。もしこれら四つが圓滿であるなら、即ちその名は「大論」となる。これら四つが圓滿でないなら、その名は「大論」とはならない。諸大論の中で、この論は極めて大きいのである。如何にして、諸法を完全に説かないことがあろうものか？如何に虚空や非擇滅が煩惱を能く斷たなくとも、この論にある理を完成するために、必ず普く完璧に説くために、それでこれら二つを述べて論は「何がその三か」（何等爲三）と説いたのである。釋曰：無爲の義は少ないため、その説き釋すところもまた少ない。有爲の義は多いため、分別して廣げる必要があった。又、無爲法は如實に示すことができないため、これに因って略説したのである。有爲法はあのように、このようにと云う差別によって示すことができる故に、それで廣説する必要があった。無爲の義は少ないので、略して示し、而して濟む故、それで今は先に説いたのである。有爲の義は廣いため、更に論の終端にまで解釋して、方に竟えるため、それ故に後で説いたのである。

3046 adïn öngi öčmäk-lär-tin「餘の別の滅から」の後に甘肅本(*l.*743)では tep「と」が正しく書かれている。3050~3051 疏主答云 ästiramati baxšï kikinč berü söz-lär に對して甘肅本(*l.*745)は、疏主 istiramati 答云。3053 arïdï umaz taryaryalï alqu niz-vanï-larïγ「結局は諸煩惱を斷つことができない」に對して甘肅本(*l.*746)では alqu「諸」が抜けている。3066 söz<-lämiš > ol qayu-lar ol üč tep「「何がその三か」と説いたのである」は söz<-lämämiš> ol qayu-lar ol üč tep「「何がその三か」と説かなかったのである」を訂正したものである。甘肅本(*l.*755)はロンドン本とは反對に söz-lämiš に削除記號をつけて söz<-lämämiš>に訂正している。また漢字「論」は甘肅本では söz-läp と bular の間に付加されている。3067 漢字列「釋曰无爲義少」の「釋曰」は甘肅本(*l.*756)には書かれていない。3070 činlayu は čyl'yw と綴られている。3072 adïrt-lar「差別」は甘肅本では adïrt(*l.*759)。

3077 12 -gäli ol üč türlüg edigsiz-lärig anïn ašnu-ča sezik turγurup
3078 13 問 sezik ayïdu söz-lädüktä kök qalïq iki türlüg öčmäk-lär tep
3079 14 tedi ärti. üč edigsiz-lär-tä nä üčün ašnu-ča söz-läp kök qalïq-ïγ
3080 15 ken söz-läti iki türlüg öčmäk-lär-ig tep 答 kök qalïq-nïng yörügi
3081 16 az üčün. anïn ašnu-ča söz-lämiš ol :: iki türlüg öčmäk-lär-ning yörügi
3082 101b-1 üküš üčün anïn ken söz-lämiš ol. azu-ča ymä kök qalïq idiš täg ärür
3083 2 üčün sïγurdačï anïn ašnu söz-lämiš ol. adïn nom-lar ärür sïγγuluq turur
3084 3 üčün kök qalïq-ta bu tïldaγ-ïn ken söz-lämiš ol 又虛空易知 yänä
3085 4 kök qalïq učuz bilgülük ärür. ičdin sïngar-qï burxan nom-ïndaqï-lar-qa tašdïn
3086 5 sïngar taš azaq nomluγ-lar-qa yumγï-qa bilgülük üčün anïn kärgäk ärmäz
3087 6 sezik ayïdγalï iki türlüg öčmäk-lär alp uqγuluq ärür. yindäm burxan
3088 7 nomïn-ta oq bar ärür. töz-ï bälgü-si alp bilgülük üčün anïn kärgäk yinčgäläyü
3089 8 sezik qïlmaq. söz-lägüči iki türlüg öčmäk-lär ymä qayu ol teptesär bilip
3090 9 bilmätin öčmäk-lär ärür. bu kök qalïq-ta ulatï üč türlüg edigsiz-lär
3091 10 ulatï yol tüz-ün-lär kerdü-si-ning adï bolur aqïγ-sïz nom tep nä üčün
3092 11 teptesär alqu aqïγ-lar anda eyin üklimäz üčün. qavïr-asïnča qayu
3093 12 söz-lägüči üč türlüg edigsiz-lär-tä kök qalïq täk tïdïγ-sïz töz-lüg ärür.
3094 13 tïdïγ-sïz-ï-nïng uγurïnda anda öng anda yorïyur tep 釋曰此上論文 bu
3095 14 üsdünki šasdr-taqï girant-ta yumdaru uqïdmaq üz-ä aqïγ-sïz-nïng adïn
3096 15 körgidmiš ärür aqïγ-sïz-nïng birikmämämäkin ol tört türlüg bolur-ïn ang
3097 16 ilki kök qalïq. ikinti bilip öčmäk. üčünč bilmädin öčmäk. törtünč
3098 17 yol tüz-ün-lär kertü-si ärür. yol kertü-nüng yörügi keng üčün
3099 102a-1 amtï margapudgalakoš-ta ken inčip bölä adïrtlayu tükädgäy biz üč edigsiz-lär
3100 2 -ning yörügin birär baxšï-lar bölä adïrtlayu karikda söz-läti ärti munda kök
3101 3 qalïq tïdïγ-sïz töz-lüg ärür tep 此中者 munda teptemiš-i ärsär bu üč
3102 4 edigsiz-lär-tä adïrïp almïš kärgäk. kök qalïq edigsiz-ig. kök qalïq tep
3103 5 temiš-i ärsär. tïdïγ-sïz tep yörüg'ol. tïdïγ-sïz-nïng bar qayu yörügi
3104 6 teptesär. büdün äd-siz-i üz-ä tïtdačï örtdäči yoq-ïndïn adï
3105 7 bolur ärmäz tïdïγ-sïz tep. ymä ök bolmaz adqanγalï tïdïγ-lïγ-ta taš
3106 8 öngi angayu bar kök qalïq tep 若无障故 birök tïdïγ-sïz üčün
3107 9 adamïš ol kök qalïq teptesär. ödrü kök qalïq töz-süz bolγu kärgäk
3108 10 birök tïdïγ-lïγ tuduγ-luγ-ta taš ärür kök qalïq teptesär. inčip köngül
3109 11 köngül-täki nom-ta ulatï alqu tïdïγ-sïz nom-lar-nïng barča-nïng adï bolγu
3110 12 kärgäk kök qalïq tep. nädägin adatï kök qalïq teptesär. anïn šasdr-ta söz
3111 13 -lämiš ol täk tïdïγ-sïz töz-lüg ärür tep. munda alqu ayaγ-qa tägimlig
3112 14 -lär bölüp qïlmïš ärür iki abipiray 一师云 bir baxšï söz-lär kök qalïq

今まさに三種の無爲を釋すことを欲した故、それで先に、疑いを起こして問うことにおいて「虚空、二種滅」と言ったのであった。三無爲において何故先に虚空を説いて、後で、二種の滅を説いたのか？と。答：虚空の義は少ない故、それで先に説いた。二種滅の義は多い故、それで後で説いた。或は虚空は器のごとく入れるものである故、それで先に説いた。餘の法は虚空に入るところのものであるため、これに因って後で説いたのである。又、虚空は容易に了ぜられるものである。内側の佛法にあるものにとっても、外側の外邪法もてるものにとっても、共に了ぜられるものである故、それで問う必要はない。二種の滅は理解し難いものである。唯だ佛法においてのみ有するのである。その相は知り難いものの故に、精査して、疑いをなさねばならない。

『所説の二種の滅はまた何かと云うなら、擇、非擇滅である。この虚空等の三種無爲、及び道聖諦の名が無漏法となる、と。何のためと云うなら、諸漏はそこで隨増しない故（である）。略して説く所の三種の無爲において、虚空はただ無礙の性もてるものである。無障に由って色はそこに行ずる』（二滅者何擇非擇滅此虚空等三種無爲及道聖諦名無漏法所以者何諸漏於中不隨増故於略所説三無爲中虚空但以無礙爲性由無障故色於中行）と。　釋曰：この上の論にある文で、無漏の名を通して顯わすことによって、無漏が同一でないことと、それが四種となることを示したのである。第一に虚空、第二に擇滅、第三に非擇滅、第四に道聖諦である。「道諦」の義は廣い故、今、賢聖品において後に我らは分別し終えるであろう。「三無爲」の義を各々の師が分別して、本頌に「ここにおいて虚空は無礙の性もてるものである」（此中空無礙）と説いたのであった。「ここにおいて」（此中）、と云ったのは、この三無爲において虚空無爲を差別して取らねばならない（からである）。「虚空」と云ったのは、「無礙」と云う義である。「無礙」には何の義が有るのかと云いえば、完璧な無事によって障覆するものが無いことから、その名が「無礙」となるのではない。（無礙は）また縁ずることもできない。障礙の外に別に虚空は有る、と。もし無障のため、「虚空」と名づけたと云うのなら、即ち虚空は無性とならねばならない。もし障礙の外が虚空であると云うなら、即ち心心所法等、一切無礙法のすべての名が必然的に「虚空」となる、と。如何にして「虚空」と名づけたのか、と云えば、そこで論には「ただ無礙性もてるものである」（但以無礙爲性）と説いた。ここで諸尊は二つの意趣を分け爲したのである。

3096 birikmämämäkin は birikmämäkin「同一でないこと」の誤寫である。3099(~3100) amtï margapudgalakoš-ta ken inčip bölä adïrtlayu tükädgäy biz üč edigsiz-lär-ning yörügin birär baxšï-lar bölä adïrtlayu「今、賢聖品において後に而して我らは分別しおえるであろう。「三無爲」の義を各一師らが分別して」は次のように訂正されている：<anïn> margapudgalakoš-ta ken <kengürü> bölä adïrtlayu tükädgäy biz üč edigsiz-lär-ning yörügin birär <birär> bölä adïrtlayu「それで賢聖品において後に我らは廣分別しおえるであろう。「三無爲」の義を一つずつ分別して」。甘肅本(*ll.*775-776)は訂正前と同じである。3108 tïdïγ-lïγ tuduγ-luγ-ta taš「障礙の外」に對して甘肅本は tïdïγlïγ tuduγluγ-ta taš-ï(*l.*781)と書かれている。

3113 15 bir ärür bolmaz bölgäli adïrtlaγalï tep 有部一师云 sarva-asdivat
3114 16 ni'kay-lïγ bir baxšï söz-lär. kök qalïq uučsuz qïdïγ-sïz ärür bir bir
3115 17 parmaanu-ta angayu bar kök qalïq parmanu uučsuz qïdïγ-sïz üčün anïn
3116 18 kök qalïq ymä ök uučsuz qïdïγ-sïz ärür tep munda-ta ulatï
3117 102b-1 alqu baxšï-lar-nïng söz-lämiš-i mundaγ bälgü-lär üz-ä söz-lär bu kök qalïq-ta
3118 2 alqu nom-lar yaruq yašuq uqulur üčün anïn adamïš ol kök qalïq tep
3119 3 疏主云 ästiramati baxšï söz-lär. birök söz-läsär siz-lär kök qalïq
3120 4 bir ärür bolmaz bölgäli adïrtlaγalï tep. nädägin bolur söz-lägäli alqu
3121 5 nom-lar anda tüzü yapa yaruq yašuq uqulur üčün tep. birök söz-läsär
3122 6 siz-lär bir bir parmanu-ta angayu bar kök qalïq tep. inčip nädägin parmanu
3123 7 ülüš-indäki kök qalïq-ta alqu nom-lar yaruq yašuq uqulur. anïn
3124 8 bu iki baxšï-lar-nïng qayu söz-lämiš abipiray-ï üz-ä adïrtlïγ ot
3125 9 -γuraq bililmäti. bu kök qalïq-nïng töz-lüg töz-süz bolmaq-lïγ yörügi 復
3126 10 當解説 yänä ken uqïdu söz-lälim munda tïdïγ-sïz-ï ymä nägü ol tep
3127 11 tesär. käntü öz-i adïn-ïγ tïdmatïn. adïn-ta käntü öz-i tïdïlmaz üčün
3128 12 anïn adamïš ol tïdïγ-sïz tep 問 birök söz-läsär käntü öz-i adïn-ïγ
3129 13 tïdmatïn adïn-ta käntü öz-i tïdïlmaz üčün adamïš ol kök qalïq tep
3130 14 alqu köngül köngül-täki nom-lar ulatï köngül-tä öngi qïlïnč-ta ulatï alqu
3131 15 tïdïγ-sïz nom-lar barča bulγu kärgäk kök qalïq tegüči adïγ ymä ök
3132 103a-1 anï-lï munï-lï bir ikin-tikä tïdïlïšmaz üčün tep 答 bu köngül köngül-täki
3133 2 nom-ta ulatï nom-lar kök qalïq-ta tudulmaz 何以 qayu tïldaγ-ïn teptesär
3134 3 munda-ta ulatï alqu nom-lar uyur üčün adïn nom-lar üz-ä tïdïlγalï qaltï
3135 4 ridi bögülänmäkig bulmïš-lar ärsär dyan küči üz-ä uyur üčün tïdγalï
3136 5 adïn-lar-nïng ridi bögü-länmäkin barmaq-ïn kälmäk-in ulatï adïn-lar-nïng
3137 6 köngül-tä ulatï-lar-ïn tep 問 bilip bilmätin öčmäk-lärig adïn nom
3138 7 -lar umaz tïdγalï adï bolγu kärgäk kök qalïq tep 答餘法 adïn
3139 8 nom-lar näčä umasar ymä tïdγalï bu iki öčmäk-lärig bular ikigü uyur
3140 9 tïdγalï adïn nom-larïγ bilip öčmäk uyur tïdγalï badačï-nïng
3141 10 pirapdi-sïn bilmätin öčmäk uyur tïdïp kälmätük ödki tuγmadačï
3142 11 nom-larïγ kim birdämläti tuγurmaγalï azu-ča ymä alqu nom-lar-ta täk
3143 12 bolsar tïdïγ-sïz töz-i barča adamïš ol kök qalïq tep ikiläyü yoq ärsär
3144 13 adïn bälgüsi. bilip bilmätin öčmäk-lär-ning näčä bolsar ymä tïdïγ-sïz
3145 14 yörügi ymä ök ikiläyü bar üčün adïn bälgüsi anïn kök qalïq ärmäz tep
3146 15 問定言虚空 odyuraq söz-läsär kök qalïq täk tïdïγ-sïz töz-lüg
3147 16 ärür tep munda bolur. iki türlüg mün qadaγ-lar ang'ilki inčip
3148 17 tüzü alqu-ta bolγu kärgäk ikinti bu ürlüg-süz
3149 103b-1 bolγu kärgäk qayu tïldaγ-ïn teptesär. tam-ta ulatï tïtdačï alqu öng
3150 2 -lär-tä munda bolmaγu kärgäk kök qalïq-nïng töz-i nädägin teptesär tïdïγ

一人の師が云う：虚空は一つである。分別することはできない、と。有部の一人の師が云う：虚空は際限なく無礙である。一々の極微に虚空が別々に有る。極微は際限ない故、それで虚空もまた際限ないのである、と。これ等諸師の説いたものは（また）このような特徴を以て説く：（すなわち）この虚空において、諸法が明了される故それで「虚空」と名づけたのである、と。安慧師が云う：もし「虚空は一つである、分別することができない」と汝ら説くなら、如何にして「諸法がそこで普く明了される故」と説くことができるのか？もし「一々の極微に虚空が別々に有る」と説くなら、而して如何にして極微の區分にある虚空において諸法が明了されるのか？それ故この二師の説くところの意趣においては決定にこの虚空の有性、無性となる義は了ぜられなかった。復た後に我らは（それについて）解説したい。ここで「無礙」とはまた何であるのか？と云うなら、自身が他を妨げず、他からも自身が妨げられない故に、それで「無礙」と名づけたのである、と。問：もし自身が、他を妨げず、他からも自身が妨げられない故に「虚空」と名づけたと説くのなら、一切の心心所法、及び心不相應行など一切の無礙法は、悉く「虚空」と云う名を得ねばならない。それと、これとは互いに妨げあわない故に、と。答：この心心所法等の法は虚空には攝せられない。何に因ってかと云えば、これ等一切法は餘の法によって能く妨げられる故。謂わく神通力を得たものは定の力によって、餘の神通力、往、來、及び餘らの心等を妨げることができる故（である）、と。問：擇、非擇滅を、餘の法などは妨げることができない。（それで）その名は必然的に「虚空」となる、と。答：餘の法がこの二滅を如何に妨げ得なくとも、これら二つは餘の法を妨げ得る。擇滅は繫の得を妨げ得る。非擇滅は未來時の不生法を妨げて、能く永く生じさせない。或は一切法において、單に無礙の性のみが有るなら、更に餘の相が無いなら、悉く「虚空」と名づけたのである。擇、非擇滅に如何に無礙の義があろうとも、また餘の相も有る故、それ故虚空ではない、と。問：虚空は只だ無礙の性もてるものであると定んで言うなら、ここでは二種の過失となる。第一には、即ち、（虚空は）必ずや普く一切において在る。第二には、これは必ずや無常となる。何に因ってかと云えば、壁等の能く障する諸色においては、ここで必然的に虚空の性とはならない。

3113~3116　有部一师云 sarva-asdivat ni'kay-lïy. この部分は甘肅本(*I*.784)には缺落している。uučsuz「際限なく」は甘肅本では常に učsuz と書かれている。また parmaanu-ta も甘肅本(*I*.785)では parmanu-ta と書かれている。ロンドン本の-aa-はサンスクリット paramāṇu の長母音 ā を表そうとした可能性が大きい。なお、bir bir parmaanu-ta から uučsuz qïdïγ-sïz ärür までのウイグル文は甘肅本(*II*.786-787)では誤って重複して書かれている。3126　nägü ol「何か？」に對して甘肅本(*I*.794)は結合形の nägül を立てている。3148　tüzü alqu-ta bolγu kärgäk「必然的に普く一切において在る」は tüzü alqu-ta bolmaγu kärgäk「必然的に普く一切においては存在しない」となるべきか。

3151 3 -lïγ tuduγ-luγ üčün munï üz-ä ödrü kök qalïq tüzü bolmaγu kärgäk
3152 4 qaltï tam-ta ulatï-lar yemrilsär tüššär kök qalïq yänä közünür.
3153 5 inčip munï üz-ä kök qalïq munda ürlügsüz bolγu kärgäk ašnu yoq
3154 6 ärip amtï bolmïš üčün tep 答 bulduqmaz mundaγ osuγ-luγ mün
3155 7 qadaγ qaltï ašnu tam turγurmïš ödtä bar üčün kök qalïq sïγur
3156 8 -dačï tam temin bolur turγalï. birök yoq ärsär kök qalïq tam nädägin
3157 9 bolγay ärti turγalï tïdïγ-lïγ üčün 是以虛空 bu tïldaγ-ïn kök
3158 10 qalïq tüzü alqu orun-lar-ta bolur. tïdγuluq tïtdačï alqu öng
3159 11 -lär yoq-ï-nïng uγrïnda. kök qalïq anïn uyur ärmäz tïdγalï nädägin
3160 12 teptesär anda turmïš öng-lär uyur üčün tïdγalï adïn öng-lär
3161 13 -ig anï üčün kök qalïq ürlügsüz ärmäz 又 yänä qaltï braman ayïtduq
3162 14 -ta adï ködrülmiš-kä inčä tep gavdam-a yer qayu-qa tayaq-lïγ-ïn
3163 15 inčip turur tep adï ködrülmiš kikinč berü söz-lämiš ol ::
3164 16 braman-a yer suv tilgän-ingä tayaq-lïγ-ïn turur tep braman yänä
3165 104a-1 ayïtduq-ta suv tilgän-i qayu-qa tayaq-lïγ-ïn inčip turur tep
3166 2 adï ködrülmiš kikinč berü söz-lämiš ol yeel tilgän-ingä tayaq-lïγ
3167 3 -ïn turur tep. biraman yänä ayïtduq-ta inčä tep yeel tilgän-i qayu-qa
3168 4 tayaq-lïγ-ïn inčip turur tep adï ködrülmiš kikinč berü söz-lämiš
3169 5 ol kök qalïq tilgän-ingä tayaq-lïγ-ïn turur tep braman yänä ayïtduq
3170 6 -ta inčä tep kök qalïq qayu-qa tayaq-lïγ-ïn inčip turur tep adï
3171 7 ködrülmiš kikinč berü söz-lämiš ol 大過婆羅門 ardurtung
3172 8 braman ardurtung braman sän umaγay sän bilgäli qayu aydïγ-ïng-nïng
3173 9 učïn qïdïγ-ïn inčip yaruq yaltrïq bar-ïn-tïn kök qalïq-ïγ bolur bilgäli
3174 10 anïn bilmiš kärgäk čïnkertü bar kök qalïq. kök qalïq öngsüz körgü
3175 11 -lük-süz tïdïγ-sïz ärür inčip qayu-qa tayanz-un tep 又 nägü-kä ymä ter-lär
3176 12 ulatï kengürü yrlïqamïš ol 由此經契 bu sudur-qa tayaq-lïγ-ïn
3177 13 anïn bilmiš kärgäk bar kök qalïq tep vaybašike-lïγ baxšï-lar mundaγ
3178 14 tep söz-lär :: ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï söz-lär tïdïγ-sïz-ï
3179 15 ymä nägü ol teptesär. qayu barïnča maxabud-lar ulatï bolmïš önglüg
3180 16 quvraγ alqu barča umaz üčün tüzü ördgäli tïdγalï. azu-ča ymä
3181 17 tïdγuluq ärmäz ymä ök tïtdačï ärmäz üčün anï üčün söz-lämiš
3182 18 ol inčä tep tïdïγ-sïz töz-lüg tep. ayaγ-qa tägimlig ar-y-a
3183 104b-1 -taz-e baxšï munï söz-läyür tüz-ün-lär qulï tep. bu baxšï kikinč berü
3184 2 sanggabadre baxšï-qa söz-lär. birök mundaγ söz-läsär-siz-lär täginmäk-tä
3185 3 ulatï köngül-täki nom-lar munda kök qalïq bolγu kärgäk qayu tïldaγ-ïn
3186 4 teptesär. mxabud-lar ulatï bolmïš önglüg quvraγ ymä ök umaz üčün

如何にしてかと云えば、障礙もてる故に。これによって即ち虚空は必然的に遍在しないものとなる。若し、壁等が潰れ落ちるなら、虚空はまた現れる。即ち、これによって虚空はここで無常とならねばならない。先には無くて、今有る故に、と。答：このような過失は無い。謂わく、先に壁が生じた時、虚空が有るために挿入する壁が方に住し得る。もし虚空が無ければ、壁は礙あるために、如何にして住し得たであろうか？是れを以って、虚空は普く一切處に在る。所障する、能障する、諸色の無いことに由って、虚空はそれ故（何かを）妨げ得るものではない。如何にしてかと云えば、そこに住した色などは餘の色などを妨げ得る故に。それ故、虚空は無常ではない。又、謂わく、婆羅門が世尊に次のように「喬答摩よ、地は何に依って、而して住するのか？」と問うたときに、世尊は「婆羅門よ、地は水輪に依って住する」と答えて説いた。婆羅門が又「水輪は何に依って、而して住するのか？」と問うたときに、世尊は「風輪に依って住する」と答えて説いた。婆羅門が又次のように「風輪は何に依って而して住するのか？」と問うたとき、世尊は「虚空輪に依って住す」と答えて説いた。婆羅門が又次のように「虚空は何に依って而して住するのか？」と問うたときに、世尊は「婆羅門汝は大過した、婆羅門汝は大過した。汝は汝の質問する所の際限を知りえないのであろう。即ち光明の存在から虚空を知り得る。それ故、眞實に虚空は存在する、虚空は無色無所見無礙である、而して何ものへも依るべし、と知らねばならない」と答えて説いた。さらに「この經に依ることで、それで虚空が有ると知らねばならない」と廣説された。毘婆沙師はこのように説く。尊者衆賢師は「無障はまた何かと云えば、所有の大種、及び所造の色聚が、一切、遍く覆障することができない故、或は所障に非ず。亦、能障に非ず。是の故に、則ち、無障の相もてると説いたのである」と説く。尊者阿梨耶馱娑（Āryadāsa）師、これを聖奴と云う。この師が衆賢師へ答えて「もし汝らこのように説くなら、受等の心所法はここで虚空とならねばならない。

3151 ödrü kök qalïq tüzü bolmayu kärgäk「即ち虚空は必然的に遍在しないものとなる」に對して甘肅本は ötrü kök qalïq tüzü-tä bolmayu kärgäk (*ll*.809-810) と書かれている tüzü bol-も tüzü-tä bol-も「遍在」を表現しうる。3152 qaltï tam-ta ulatï-lar「若し壁等が」に對して甘肅本 (*l*.810) は qaltï alqu tam-ta ulatï-lar「若し一切の壁等が」。3153 yoq は誤って ywz と書かれている。3162 gavdam (/gavtam/) < Skt. gautama「喬答摩」。qayu-qa tayaq-lïγ-ïn「何に依って」に對して甘肅本は qayu-qa tayaqlïγ (*l*.817)．ロンドン本の形式が適切である。3172 sän は sn と綴られている。3175 又 nägü-kä ymä ter-lär は qayu-qa を nägü-kä に訂正したものである。いずれも「何ものへも」を表す。この訂正文は甘肅本 (*l*.826) には無い。3176 ulatï kengürü yrlïqamïš ol「さらに廣説された」＝乃至廣説。Cf. 2870. 3178 (~3182) tïdïγ-sïz-ï から tïdïγ-sïz töz-lüg tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：(是則無障) (以爲其相)。所有大種及造色聚。一切不能遍覆障故。或非所障。亦非能障是故說言無障爲相。(大正 Vol. 29, p.332b)。3179 nägü ol は甘肅本 (*l*.828) には結合形 nägül が書かれている。3180~3182 azu-ča ymä tïdγuluq ärmäz ymä ök tïtdačï ärmäz üčün anï üčün に對して甘肅本は azu-ča ymä tïtγuluq ärmäz ymä ök tïtdačï ärmäz anï üčün「或は所障に非ず。亦、能障に非ず。是の故に」と書かれている。すなわちロンドン本の最初の üčün「故に」は無い。甘肅本が適切であるので、和譯にはそれを採用した。3180 の alqu barča「一切皆」(*l*.829) に對して甘肅本は alqu「一切」。3182~3183 ar-y-a-taz-e (/aryadaze/) < Skt. āryadāsa「阿利耶馱娑」＝「聖奴」「聖使」。tüztinlär qul-ï「聖奴」。

3187 5 tüzü ördgäli bu täginmäk-tä ulatï köngül-täki nom-larïγ tep 疏主
3188 6 先答 ästiramati baxšï ašnu kikinč berü söz-lär ary-a-taz-e baxšï
3189 7 -nïng sanggabadre baxšï-qa kikinč bermiš yörüg-ingä qaltï intrayakoš
3190 8 -ta tört basudčï-lar-taqï täg ästiramati baxšï söz-lär ary-a-taz-e
3191 9 baxšï-nïng qayu söz-lämiš-i andaγ umaz. kök qalïq-nïng bar ärür sïγurmaq
3192 10 ičgärmäk-lig yörügi. adïn-lar-nïng andaγ ärmäz. mxabut-lar-nïng ulatï
3193 11 bolmïš önglüg quvraγ-nïng tüzü-ni ördmäklig tüzü-ni ördmämäklig
3194 12 yörügi kök qalïq-nïng yörügi birlä. birlä yaradïlur. täginmäk-tä ulatï
3195 13 köngül-täki nom-lar-nïng yoq üčün sïγurmaq ičgärmäk-lïγ yörügi. kök
3196 14 qalïq-nïng yörügi birlä. birlä yaradïlmaz. mxabut-lar-nïng ulatï bolmïš
3197 15 önglüg quvraγ-nïng tüzü-ni ördmäk tüzü-ni ördmämäklig yörügi
3198 16 täginmäk-tä ulatï-lar birlä birikmäz 且止斯事 az turz-un bu sav-lar
3199 105a-1 öng anda yorïyur ärip teptemiš-i ärsär iš išlämäklig yörügin tuda
3200 2 uqïdmïš ol kök qalïq-nïng bar-ïn tep. 問 täginmäk-tä ulatï köngül
3201 3 -täki nom-lar öng nom ärmäz ymä ök kök qalïq-ta yorïmaz nä üčün yindäm
3202 4 söz-läti ol öngüg tep 答 öng nom-nung bar ärür ol bulungï yïngaq-ï
3203 5 mundïr-tïn barïr üčün anga söz-lämiš ol yorïdï tep täginmäk-tä ulatï
3204 6 -lar andaγ ärmäz. yoq ärür bulungï yïngaq-ï. yoq ärür olar-nïng odγuraq
3205 7 orun-ï adï bolmaz yorïdï tep bu tïldaγ-ïn anïn yindäm sö[z]-lämiš ol
3206 8 öngüg ök bu oq inčip ärür beš yükmäk-täki öng yükmäk-tä tudulmïš
3207 9 näng iki ygrmi orun-taqï öng orun ärmäz. nädägin teptesär tudulup
3208 10 öng-lär alqïnmaz üčün bu yörgüči kök qalïq-nïng bar anïng iki
3209 11 türlüg yörügi. ang'ilki töz töz-in tuda. ikinti iš išlämäkin tuda
3210 12 tïdïγ-sïz töz-lüg ol teptemiš-i ärsär ärür töz töz-i-ning yörügi
3211 13 tïdïγ-sïz üčün öng anda yorïyur teptemiš-i ärsär. ärür iš išlä
3212 14 -mäk-ning yörügi tep karik söz-lär 擇滅謂離繫 bilip öčmäk
3213 15 ärsär qaltï baγ-tïn öngi üdrülmäk ärür. baγ boldačï äd-i eyin
3214 16 öngin 々 adïrïlur tep 論 bilip öčmäk ärsär inčip baγ-tïn
3215 17 öngi üdrülmäk töz-lüg ärür. alqu aqïγ-lïγ nom-lar-ta ïraq öngi
3216 105b-1 üdrülüp badačï baγ-ïndïn tanuq-lap bulmïš qudrulmaq-nïng adï bolur
3217 2 bilip öčmäk tep 釋曰 bilip öčmäk ärsär inčip baγ-tïn öngi
3218 3 üdrülmäk töz-lüg ärür teptemiš-i ärsär. munung bar iki türlüg
3219 4 yörüg-läri. bilip öčmäk ärsär ärür bälgülägülük yörüglüg. baγ-tïn
3220 5 öngi üdrülmäk ärsär ärür bälgüläđäči yörüg-lüg 或 azu-ča ymä
3221 6 bilip öčmäk ärsär. ärür söz-lägülük yörüglüg. baγ-tïn öngi üd
3222 7 -rülmäk ärsär. ärür söz-lädäči yörüglüg 或 azu-ča ymä bilip öčmäk
3223 8 ärsär ärür adïrtlaγuluq yörüglüg. baγ-tïn öngi üdrülmäk ärsär
3224 9 ärür adïrtlatačï yörüglüg 有 bar adïn baxšï-lar söz-lär. baγ-tïn öngi
3225 10 üdrülmäk teptemiš-i ärsär. munï üz-ä uqïdur qayu yörügüg tep
3226 11 adïrγalïr üčün ärür tört türlüg öčmäk-lär-tin 一者 ang'ilki

何に因って、と云えば、大種、及び所造の色聚もまたこの受等の心所法を遍く覆うことができないため（である）」と云う。安慧師は、先ず阿梨耶馱娑師が衆賢師へ答えた義に對して答えて説く「猶、根品における四縁にあるもののごとし」（と）。安慧師が説く「阿梨耶馱娑師の所説はその通りではない。虚空には入攝の義が有る。餘のものにはそうではない。大種、及び所造の色聚が全てを覆うこと、全てを覆わないことの義は、虚空の義と相應する。受等の心所法には入攝の義が無いため、虚空の義とは相應しない。大種、及び所造の色聚が全てを覆うこと、全てを覆わないことの義は受等と同一ではない。且らく斯の事は止めるべし」（と）。「色はそこに行ずるのであって」（色於中行）と云ったのは、作用の義を約して虚空の存在を顯わしたのである、と。問：受等の心所法は色法ではない。また虚空においも行じない。何故、唯だ色のみを説いたのか？と。答：色法には方向が有る。こちらから、あちらへ行く故に「行じた」（行）と説いたのである。受等はそうではない。方向が無い。それらには定まった地が無い。その名は「行じた」とはならない。これに因って、それで唯だ色のみを説いたのである。これは即ち、五蘊にある色蘊において攝せられたものである。決して十二處にある色處ではない。如何にしてかと云うなら、色は攝せられても盡きないため（である）。この釋すべき虚空、それには二種の義が有る。第一は本性を約して、第二は作用を約して（である）。「無礙の性もてるものである」（以無礙爲性）と云ったのは、本性の義である。「無障の故に色はそこにおいて行ずる」（色於中行）と云ったのは、作用の義である、と。本頌には「擇滅は謂わく、離繫である。繫事に隨って、各々別れる」（擇滅謂離繫　隨繫事各別）と説く。

論『**擇滅は即ち離繫の性もてるものである。諸有漏法において、繫縛を遠離して、證得した解脱の名は擇滅となる**』（擇滅即以離繫爲性諸有漏法遠離繫縛證得解脱名爲擇滅）と。

釋曰：擇滅は即ち離繫の性もてるものである」（擇滅即以離繫爲性）と云ったが、これには二種の義が有る。擇滅は所顯の義もてるものである。離繫は能顯の義もてるものである。或は擇滅は所説の義もてるものである。離繫は能説の義もてるものである。或は、擇滅は所差別の義もてるものである。離繫は能差別の義もてるものである。有餘師が説く：「離繫」と云ったが、これによって何の義を顯わすのか？と。四種の滅から差別するためである。

3189　intrayakoš (/indrayakoš/< Skt.indriya-kośa 「根倶舎」) に對して甘肅本は intirayakoš (*I*.836)。

3227 12 tuγup öčmiš-täki öčmäk-tin qaltï saqïnčsïz tuuš ärür qačan
3228 13 tuγ-a tükätdüktä anda köngül köngül-täki nom-lar öčär. ikinti iki
3229 14 köngül-süz dyan-taqï öčmäk-tin. üčünč ürlügsüz üz-ä öčmäk
3230 15 -tin. törtünč bilmätin öčmäk-tin. munda-ta ulatï-lar näčä barča
3231 16 ärür ärsär ymä öčmäk bayγ-tïn öngi üdrülmäk töz-lüg ärmäz
3232 106a-1 anïn munda <adïrmïš> ol. bu üstünki ärür bir baxšï-nïng abipiray-ï tep
3233 2 疏主云 ästiramati baxšï söz-lär amtï-qï bu bilip öčmäk ol
3234 3 adïn öčmäk-lär birlä bir ikinti-kä alïš-sïz berïš-siz ärür nägül
3235 4 kärgäk-läp adïrmaq-ïγ. öngdün söz-lämäk üz-ä bilip öčmäk
3236 5 ärsär qaltï bayγ-tïn öngi üdrülmäk ärür tep adïrïlu tükät
3237 6 -ti ärti adïn öčmäk-lär-tin. birök yindäm söz-läsär öčmäk tep ödrü
3238 7 sezingülük bolur ärti adïn öčmäk-lär birlä yamïrašγay tep 此言
3239 8 擇滅 munda söz-lämäk üz-ä bilip öčmäk tep. bililü tükätdi
3240 9 ärti adïrmïš-ï öngi adïn öčmäk-lär-tin. nä kärgäk ärti söz-lämäk üz-ä
3241 10 bayγ-tïn öngi üdrülmäk tep. temin ök yangïrtï adïrmaq-ïγ öngi adïn
3242 11 öčmäk-lär-tin. yaraši saqïnmïš-ïngïz-lar kärgäk. (問) varti üz-ä yör-ä
3243 12 ol karikïγ söz-lämiš ärür. alqu aqïγ-lïγ nom-lar-ta ïraq öngi
3244 13 üdrülüp badačï bayγ-ïndïn tep nä üčün munda söz-läti aqïγ-lïγ
3245 14 -ïγ teptesär 答 <uqïdyalïr> üčün ärür aqïγ-sïz-ta öngi-sin qayu
3246 15 tïldayγ-ïn adïrtï aqïγ-sïz-ïγ teptesär aqïγ-sïz taryaryuluq ärmäz
3247 16 üčün. bayγ-tïn öngi üdrülmäk tegüči sav-ta nä yörüg'ol teptesär
3248 17 bayγ ärsär bayγ čuγ tep yörüg'ol. bayγ-tïn bolmïš üčün ozyalï adï bolmïš
3249 18 ol bayγ-tïn öngi üdrlmäk tep. bayγ-tïn öngi üdrülmäk bayγ birlä
3250 106b-1 ärür qaršï yörüglüg tep 問 qayu-nung adï bolur bayγ čuγ teptesär 答 niz
3251 2 -vanï-lar üklimiš ašïlmïš üčün anï üčün adamïš ol bayγ čuγ tep 如
3252 3 對法說云 qaltï abidarim-ta söz-lämiš ol inčä tep. qayu tïnlγ
3253 4 -nïng eyin yatdačï-lar-ï qayu vasdu-ta üklisär ašïlsar. bu tïnlγ-nïng
3254 5 bu eyin yatdačï-lar-ï birlä ol vastu-ta adamïš ol qošulmïš balmïš tep
3255 6 munï üz-ä bilmiš kärgäk qayu niz-vanï-lar üklisär ašïlsar anïng adï
3256 7 bolur qošuγ bayγ tep. üklimäk ašïlmaq tegüči sav-ta ornanïp tur
3257 8 -maq tep yörüg'ol. qaltï öngdün aqïγ-lïγ-ïγ yörgü-tä söz-läyü tükät
3258 9 -ti ärti adqanyuluq vasdu-ta niz-vanï-lar üklisär ašïlsar munung
3259 10 adï bolur qošulmïš balmïš tep. munung tägšüt-inčä-si ärsär adamïš
3260 11 ol qošuγ-tïn bayγ-tïn öngi üdrülmiš tep. 問 tïnlγ töz-i töz-süz
3261 12 tüpsüz ärip 又 ärür ymä/tegü täg :: nädägin ikiläyü bolur balmaq balmamaq tep
3262 13 答於何假名 qayu-ta yïlayu adantačï tïnlγ-nïng tayanyuluq käz
3263 14 -igindä bayγ-nïng bayγ-tïn öngi üdrülmäk-ning pirapdi-sï yügärü yorïsar
3264 15 munda munung käz-igi-ning tayaqïnda. bayγ-nïng. bayγ-tïn öngi üdrülmäk
3265 16 -ning pirapdi-sï adïrïlur tep 或 azu-ča ymä kkir-lig nom-nung pirapdi

第一は生じ滅したものにある滅から。謂わく、無想の位である。何時か生じ終えたときに、そこで心心所法が滅する。第二は無心定にある滅から。第三は無常における滅から。第四は非擇滅から。これ等が如何に悉く滅であっても、離繋の性もてるものではない。それ故、ここでは差別した。この上（記）のものは一人の師の意趣である、と。安慧師が説く：今のこの擇滅は、餘の滅と互いに不授受である。如何にして差別を必要とするのか？前に「擇滅は謂わく、離繋である」（擇滅謂離繋）と説くことによって、已に餘の滅からは差別された。もし、唯だ「滅」とのみ説くなら、即ち餘の滅と混同するであろうと疑う所となるのである。ここで「擇滅」と云うことによって、餘の滅からの差別は已に了ぜられた。「離繋」と説くことによる何の必要があったのか？方に、他の滅から新たに差別することを汝らは適切に考えねばならない（と）。問：注釋によってその本頌を釋し、「諸有漏法において繋縛を遠離して」（諸有漏法遠離繋縛）と説いたのである。何故ここにおいて「有漏」を説いたか？と云えば、答：無漏より他を顯わすためである。何に因って無漏を差別したと云うなら、無漏は所斷でないため（である）。「離繋」と云う言に何の義があるのかと云えば、「繋」は繋縛と云う義である。繋から解くことができたため、その名は「離繋」となったのである。離繋は繋と違の義もてるものである。問：何の名が「繋縛」となるのか？と云うなら、答：煩惱が増大したため、それ故「繋縛」と名づけた。謂わく、阿毘達磨に次のように説いたのである。ある有情の隨眠がある事において増大するなら、この有情はこの隨眠とともに、その事において、「繋縛された」と名づけた。これによって、何かの煩惱が増大するなら、それの名は「繋縛」となると了ぜねばならない。「増大」と云う言には「安住」と云う義がある。謂わく、以前に有漏を釋すことにおいて、所縁の事において煩惱が増大するなら、これの名は「繋縛」となると已に説いた。これの相違のものとして「離繋縛」と名づけた、と。問：有情の性は無根である。如何にして更に繋、不繋となるのか？と。答：何か假名の有情の依るべき相續において、繋、離繋の得が現行するなら、ここで、これの相續に依って、繋、離繋の得は差別される、と。

3232 anïn munda <adïrmïš> ol. bu üstünki ärür bir baxšï-nïng abipiray-ï tep「それ故、ここにおいて差別した。この上のものは一師の意趣である、と」は anïn munda <adamïš> ol. bu üstünki ärür bir baxšï-nïng abipiray-ï tep「それ故ここにおいて、この上のものは一師の意趣である、と名付けた。」を訂正した文である。訂正文を採用した。3245(~3246) <uqïdγalïr> üčün ärür aqïγ-sïz-ta öngi-sin「無漏より他を顯わすためである」は <ona yörgälir> üčün ärür aqïγ-sïz-ta öngi-sin「無漏より他を確かに釋すためである」を訂正したものである。ここでは訂正文を採用した。3252(~3254) qayu tïnlγ-nïng から qošulmïš balmïš tep までは『倶舍論』巻二十の内容に對應する：諸有情類於此事中隨眠隨増名繋此事(大正 Vol. 29, p.104a)。

3266 17 -sïn adamïš ol bay tep. kkir-siz aqïγ-lïγ nom-nung pirapdi-sïn
3267 18 adamïš ol bay tep. bar bir kkir-lig nom qaltï ämgäk-ig körmäk
3268 107a-1 üz-äki-si tarïqu tükätdüktä. tergin-kä erdäči-si tarïqmaduq ärsär
3269 2 bu tergin-kä erdäči niz-vanï-lar-ta qamay-ta yorïdačï-sï adqanur ol
3270 3 ämgäk kertüg bu ämgäk kertü anga adqay bolmïš üčün adamïš ol
3271 4 qošuldačï tep 又如修道 yänä qaltï bïšrunmaq yol-taqï toquz
3272 5 bölük-lär-tä taryarsar öngdünki azu-ča ymä beš altï yeti
3273 6 säkiz bölüklüg niz-vanï-lar-ïγ. adïn tarïqmaduq-ï ärsär anïlayu oq
3274 7 adï bolur badačï tep qaltï anušayakoš-ta <karik>-da söz-lämiš ol ämgäk
3275 8 -ig körmäk üz-äki-si tarïqu tükätdüktä adïn qamay-ta yorïdačï eyin
3276 9 yatdačï-lar ulatï öngdün-ki bölüklüg-i tarïqu tükätdüktä adïn
3277 10 munï adqandačï-sï anïlayu oq badačï bolur. bay-tïn öngi üdrülmäk
3278 11 ymä qayu ol teptesär. öngdün söz-lägüči alqu niz-vanï-lar pirapdi-sï
3279 12 -nïng tägšüt-inčä-si ärür aqïγ-lïγ nom-lar-ta ozmïš qudrulmïš üčün
3280 13 adï bolmïš ol bay-tïn öngi üdrülmäk tep 問 nädägin niz-vanï-lar
3281 14 pirapdi-sï-nïng tägšüt-inčä ärür tep 答 bilip öčmäk-ning tägmäki
3282 15 kkir-lig nom-lar-nïng tägmämäki birlä birgärü bir ödtä turur üčün munï
3283 16 adamïš ol tägšüt-inčä tep 離繫言中 bay-tïn öngi üdrülmäk
3284 17 tegüči sav-ta bar iki türlüg vibakdi-lar qaltï yetinč bešinč bolmïš
3285 107b-1 ötdä bilip öčmäkig adqanyuluq adqanyu-lar-ta öngi üdrülür niz-vanï
3286 2 -lïγ badačï bay-ïndïn adqanyu-sï ärür üčün niz-vanï-lar-nïng tayaq-ï
3287 3 yetinč ta vibakdi üz-ä yörmiš kärgäk. bu niz-vanï-lïγ bolmïš üčün öngi
3288 4 üdrülgäli badačï bay-tïn bu oq inčip ärür bešinč tïn vibakdi üz-ä
3289 5 yörmäk tep 有一师云 bar birär baxšï-lar söz-lär bay-tïn öngi üdrül
3290 6 -mäk tegüči savïγ üčünč vibakdi üz-ä yörmiš kärgäk. qaltï bu bilip
3291 7 öčmäk umaq üz-ä taryaryalï niz-vanï-larïγ. anïn ärür üčünč
3292 8 umaq-ï üz-ä tegüči üz-ä vibakdi tep 疏主云 ästiramati
3293 9 baxšï söz-lär bu söz-lämiš-ingiz-lär anday ärmäz. birök anday
3294 10 ärsär tüz-ün yol ymä ök uyur taryaryalï niz-vanï-lar-ïγ
3295 11 adï bolyu kärgäk bay-tïn öngi üdrülmäk tep. anïn bu söz
3296 12 -lämiš-ingiz-lär yörüg yol-ïnga yaraši bolmaz tep 問 qaltï lokik
3297 13 yol üz-ä taryartuq-ta niz-vanï-larïγ. tanuq-lamïš bilip öčmäk
3298 14 -ning tägmäki bu ärür ärip aqïγ-lïγ. nädägin adï bolur bay-tïn
3299 15 öngi üdrülmäk tep 答 bulduqmaz bu mün qaday. bu bay-tïn
3300 16 öngi üdrülmäk-tä täk tudulur bilip öčmäk anda tudulmaz
3301 17 pirapdi-sï. näčä pirapdi tïlday-ïnda bululsar ymä bilip

或は、染汚法の得を「繋」と名づけた。不染有漏法の得を「繋」と名づけた。一染汚法が有る。若し、見苦におけるものが已に斷たれたときに、集に屬すものが斷たれなかったなら、この集に屬す煩惱において、遍行は苦諦を緣ずる。この苦諦はそれに對する所緣となった故、「繋」と名づけたのである。又若し、修道にある九品において、前のもの或は五、六、七、八品の煩惱を斷ずるとも、餘の斷たれなかったものは猶、その名が「繋」となる。謂わく、隨眠品で本頌に説いたのである：「見苦に於けるものが已に斷たれても、餘の遍行隨眠、及び前の品が已に斷たれても、餘のこれを緣ずるものが、猶、繋となる」（と）。「離繋」とはまた何かと云うなら、以前に説いた諸煩惱の得の相違である。有漏法において解脱したためその名は「離繋」となった、と。問：如何にして煩惱の得の相違であるのか？と。答：擇滅の得は染汚法の不得と同時に起こる故に、これを「相違」と名づけたのである。「離繋」と云う言には、二種の格が有る。謂わく、第七と第五が成じた時に、擇滅を所緣の境において、煩惱の繋縛から離す。その境は煩惱の所依であるため、第七の依格によって釋さねばならない。この煩惱もてるものは繋縛から離れることができたため、これは即ち第五の從格によって釋することである、と。或る師が説く：離繋と云う言を第三格によって釋さねばならない。謂わく、この擇滅は能く煩惱を斷つことによって、それ故に第三の「能くすることによって」（umaq-ï üz-ä）と云う具格（üz-ä 格）である、と。安慧師が説く：この汝らの説いたものはその通りではない。もしそのようであるなら聖道もまた煩惱を斷つことができる。その名は「離繋」とならねばならない。それ故にこの汝らの説いたものは理趣に相應しいものではない、と。問：謂わく、世間道によって煩惱を斷ったときに、證した擇滅の得、これは有漏であって、如何にしてその名が「離繋」となるのか？と。答：これに過失は無い。この離繋においては單に擇滅が攝せられる。そこに得は攝せられない。

3274(~3277) ämgäk-ig körmäk から anïlayu oq badačï bolur までは『倶舍論』巻二十の内容に對應する：於見苦已斷餘遍行隨眠及前品已斷餘緣此猶繋(大正 Vol. 29, p.l 06b)。3284~3286 qaltï yetinč bešinč bolmïš ötdä bilip öčmäkig adqanγuluq adqanγu-lar-ta öngi üdrülür niz-vanï-lïγ badačï bayγ-ïndïn「謂わく、第七と第五が成じた時に、擇滅を所緣の境において、煩惱の繋縛から離す」。このウイグル文における第七格(依格)は adqanγu-lar-ta「境において」に現れ、第五格(從格)は badačï bayγ-ïndïn「繋縛から」に現れている。3288 tïn vibakdi「・・から格」＝從格(奪格)。

3302 108a-1 öčmäk. inčip bu pirapdi bayγ-tïn öngi üdrülmäk ärmäz nädägin
3303 2 teptesär ärür üčün lokik yol üz-ä tarïqmïš niz-vanï pirapdi-sï
3304 3 ärür aqïγ-lïγ tep 問若如是 birök andaγ ärsär. lokik yol
3305 4 üz-ä taryartuq-ta niz-vanï-larïγ bululsar bilip öčmäk. aqïγ-sïz
3306 5 yol üz-ä niz-vanï taryaryalï tavranmaq. inčip iš-siz bolγu kärgäk tep
3307 6 答 andaγ ärmäz. näčä lokik yol üz-ä niz-vanï taryarsar ymä birdämlig
3308 7 bolmaz. aqïγ-sïz yol üz-ä niz-vanï taryarmaq temin ök birdämlig bolur
3309 8 tep. 疏主云 ästiramati baxšï söz-lär az turz-un indirayakoš-ta
3310 9 käntü ken kengürü söz-lägäy biz tep 論 bilmäk ärsär qaltï bilmäk
3311 10 adïrtlamaq ärür. bu oq inčip ärür bilgä bilig-ning adruq-ï öngin
3312 11 öngin angayu bölär adïrtlayur üčün tört türlüg tüz-ün-lär
3313 12 kertü-sin bilmäk-ning küčindä bul(ul)γuluq bolmïš öčmäk-ning adï
3314 13 bolur bilip öčmäk tep. qaltï ud qošuγ-luγ qanglïγ adamïš
3315 14 täg ud qanglï tep qavïrïp kedärip ikin araqï savïn anïn mundaγ
3316 15 tep söz-lämiš ol tep 釋曰 bilmäk ülgülämäk bölmäk bilgä
3317 16 bilig tep bular tördägü barča ärür bilgä bilig-ning niznk adï ::
3318 108b-1 bir täk bir yörüglüg üčün öngin öngin adïrïp böldäči
3319 2 adïrtladačï tört türlüg tüz-ün-lär kertü-sin bu ürlügsüz
3320 3 -tä ulatï 十六行相 altï ygrmi uγur-lar-ta bir bir kertü-kä
3321 4 erdäči öngin öngin öz uγur-lar-ï üz-ä adïrïp bilir üčün
3322 5 bilgä bilig-ning adïrtï ärsär ol oq oqsuz yol-taqï bilgä
3323 6 bilig ärür. näng alqu aqïγ-sïz bilgä bilig ärmäz. nädägin teptesär
3324 7 oqsuz yol taryarduq-ta niz-vanï-lar-nïng pirapdi-sïn temin ök
3325 8 tanuq-layur üčün bilip öčmäkig bu tïldaγ-ïn adï bolmïš ol
3326 9 bilmäk-ning küčindä bul(ul)γuluq bolmïš öčmäk tep 具足應言
3327 10 tükäl-inčä ärsär tägimlig ärti söz-lägäli bilmäk-ning küčindä bulul
3328 11 -γuluq bolmïš öčmäk tep amtï qavïrïp kedärip küčindä bululγul
3329 12 -uq bolmïš tegüči üč užikin yindäm söz-lämiš ol bilip öčmäk
3330 13 tep nädägin teptesär ol bilmäk-ning küčindä bululur üčün bu öč
3331 14 -mäk. qaltï ud qošuγ-luγ qanglïγ adamïš täg ud qanglï tep
3332 15 nädägin teptesär qaltï yerdinčü-däki-lär-kä yumγï-qa bililmiš üčün

如何に得の因において擇滅が得られても、即ちこの得は離繫ではない。如何にしてかと云えば、世間道によって斷たれた煩惱であるため、その得は有漏である、と。問：もしそのようなら、世間道によって煩惱を斷ったときに、擇滅が得られるのなら、無漏道によって煩惱を斷つための精進は即ち無用とならねばならない、と。答：そうではない。如何に世間道によって煩惱を斷っても、「永（斷）」とはならない。無漏道によって煩惱を斷つことが方に「永（斷）」となる、と。安慧師が説く：（この議論を）且く止めるべし、根品において後に我ら自身が廣説しよう、と。

論『擇は謂わく、簡擇である。これは即ち慧の差別である。各々別に四種の聖諦を分別する故（である）。擇の力において得られるところとなった滅の名は擇滅となると。ちょうど牛の駕する所の車を牛車と名づけたごとし。二つの間にある言を略去して、それでこのように説いたのである』（擇謂簡擇即慧差別各別簡擇四聖諦故擇力所得滅名爲擇滅如牛所駕車名曰牛車略去中言故作是説）と。

釋曰：擇、思量、分別、慧と云うこれら四つはすべて慧の異名である。同一義をもっている故。（擇は）各々區別して、四種の聖諦を分別するもの（である）。これは無常等の十六行相において、一々の諦に屬すもの（である）。各々自らの行相において簡擇する故。慧の差別はこれまさに無間道にある慧である。決して一切の無漏慧ではない。如何にしてかと云うなら、無間道は煩惱の得を斷つことにおいて、方に擇滅を證する故（である）。これに因って、名は「擇の力において得られるところとなった滅」（擇力所得滅）となったのである、と。具さには、應に「擇の力において得られるところとなった滅」（擇力所得滅）と言うべきであった。今、「力において得られるところとなった」（力所得）と云う三文字を略去して、唯だ「擇滅」とのみ云ったのである。如何にしてかと云うなら、この滅は、その擇の力において得られるため（である）。「ちょうど牛の駕する所の車を牛車と名づけたごとし」（如牛所駕車名曰牛車）と。

3315 qavïrïp kedärip ikin araqï savïn「二つの間にある言を略去して」の二つの言とは漢文「牛所駕車」の「所駕」を指す。Cf. 本文注 122 を參照。

3333 109a-1 anïn tardmïš ärür bu yoläšürügüg. qavïrïp üžikin kedärmäk-ning
3334 2 abipirayï bolur anda üč türlüg. bar kedärmiš-i bašdaqï 字
3335 3 užik-in. qaltï söz-lägüdä 那伽遏主寧 naga-arčune tep munï
3336 4 söz-läyür luu tidimlig tep qavïrïp kedärip naga üžikin täk söz
3337 5 -läsär arčune tep ymä ök bililür luu tidimlig ärdüki tep ulatï
3338 6 bar kedärmiš-i kenki užik-in qaltï söz-lägüdä 毗摩 bimbasare tep
3339 7 munï söz-läyür qorqïnčïγ urungud tep qavïrïp kedärip sare užik
3340 8 -in täk söz-läsär bimba tep ymä ök bililür qorqïnčïγ urungut
3341 9 ärdüki tep ulatï. bar kedärmiš-i odïraqï užik-in qaltï inčip
3342 10 bu oq öngdünki ud qošuγ-luγ qanglï tegüdä qavïrïp kedärip ärür
3343 11 ikin ar-a-qï qošuγ-luγ tegüči iki uzik-ïγ tep ulatï-lar ärür tep
3344 12 問 qaltï söz-läsär bilmäk-ning küčindä bululγuluq bolmïš öčmäk
3345 13 -ning temin ök adï bolur bilip öčmäk tep. munda bildäči ärsär ärür
3346 14 aqïγ-sïz bilgä bilig. bu aqïγ-sïz bilgä bilig-tä inčip bolur tudulup
3347 15 öčmäk alqïnmamaq-lïγ mün qadaγ. qaltï lokik yol üz-ä taryarduq
3348 109b-1 -ta niz-vanï-larïγ ymä ök bululur bilip öčmäk anda tudulmaz üčün tep
3349 2 答无如是失 bulduqmaz mundaγ osuγ-luγ mün qadaγ. qayu tïldaγ-ïn
3350 3 andaγ bolur teptesär. üč uγuš-taqï aqïγ-lïγ äd-lär bu aqïγ-lïγ
3351 4 äd-lär-täki öčmäk. barča aqïγ-sïz bilgä bilig tïldaγ-ïnda bululur
3352 5 bulduqmaz mundaγ osuγ-luγ öčmäk. lokik yol üz-ä bululup. inčip
3353 6 aqïγ-sïz yol üz-ä bululmaγuluq anïn bilmiš kärgäk aqïγ-sïz yol
3354 7 yeg ärür :: käntü bar aqïγ-sïz bilgä bilig taryardačï alqu niz-vanï
3355 8 -larïγ. tanuq-ladačï alqu bilip öčmäkig. ikiläyü iš-i nägü ol. ol
3356 9 aqïγ-lïγ bilgä biligig tep 問若以世道 birök lokik yol üz-ä
3357 10 bululsar baγ-tïn öngi üdrülmäklig pirapdi. anda ken nädägin
3358 11 adatï lokik yol tep. 答 bu ärür lokik yol. nädägin adï bolur
3359 12 lokik yol teptesär az-nïng ükligülüki ašïlγuluq-ï üčün
3360 13 adï bolmïš ol lokik yol tep qaltï üsdün orun-taqï yol-qa
3361 14 tayaq-lïγ-ïn usar taryaryalï aldïn orun-taqï niz-vanï-larïγ
3362 15 yüüz yügärü ol üsdün orun-taqï az-qa tayaq-lïγ-ïn ükliyür

如何にしてかと云うなら、謂わく、世間のものらに共に了ぜられた故に、それでこの比喩を引いたのである。文字を略して消去することの意、そこには三種がある。最初の字を消去したものが有る。謂わく、「那伽遏主寧」(Nāgārjuna)＜これを「龍猛」と云う＞と云うところに、「那伽」(nāga) の字を略去して只だ「遏主寧」(Arjuna) といっても、「龍猛」であることが了ぜられる、と。更に、後の字を消去したものが有る。謂わく、「毘摩娑羅」(Bimbasāra)＜これを「恐ろしい支配者」と言う＞と云うところに、「娑羅」(sāra) の字を略去して、單に「毘摩」(Bimba) と云っても、「恐ろしい支配者」であることは了ぜられる。更に、中の字を消去したものが有る。即ちこれは以前の「牛の駕する所の車」(牛所駕車) と云うところに二つの間にある「所駕」と云う二字を略去している、と云うもの等である、と。問：「擇の力において得られるところとなつた滅」の方にその名が「擇滅」となると云うなら、ここに擇するものは無漏慧である。この無漏慧において而して滅が攝せられても、無盡の過失となる。謂わく、世間道によって煩惱を斷つときにもまた擇滅が得られる。そこでは攝せられないため（である)、と。答：このごとき過失は無い。何に因つてそのようになるのかと云えば、三界にある有漏事と、この有漏事にある滅とはすべて無漏慧の因において得られる。世間道によって得られて、而して無漏道によって得られないところの、そのような滅は無い。それ故、無漏道は勝である、己有の無漏慧は諸煩惱を斷つもの、諸擇滅を證するもの（である)。更にその作用は何か？それは有漏慧を（證するもの)、と知らねばならない。問：もし世間道によって、離繫得が得られるのなら、そこで後に如何にして「世間道」と名づけたのか？と。答：これは世間道である。如何にしてその名が「世間道」となるのかと云えば、貪が増大することの故に、名は「世間道」となつたのであると。もし、上地にある道に依ることで、下地にある煩惱を斷つことができるなら、現にそれは上地にある貪に依ることで（貪は）増大する。

3335　ウイグル文中の漢語「那伽遏主寧」は Uig. naga-arčune (< Skt. Nāgārjuna) に對應する。これに關しては本文 1.4.3.2.1.-i) を參照されたい。3336　luu titimlig「龍猛」＝「龍樹」。3338~3340　bimbasare < Skt. bimbasāra (~bimbisāra) マガダ國の王の名（頻婆娑羅、頻毘娑羅、影勝、影勝王、勝威 cf. 荻原 p.925)。bimba < Skt. bimba「像」。bimbasare には漢字「毘摩」が先行している。ここでは bimbasare の後半部 sare (< Skt. sāra) を削除して bimba だけでも bimbasare 表すものとして通じるとしている。「毘摩」は bimba に對應するが、bimbasāra にこの漢字をあてた例を他に知らない。3341　odïraqï < ortaqï「中にある」。3352　bululup は bwlwwp と綴られている。3354　käntü bar＝「己有」？ 己有「おのれに屬するものの意か」(中村 p.344)。

3363 110a-1 ašïlur taryarmïš üčün aldïn orun-taqï niz-vanï-larïγ bululur
3364 2 baγ-tïn öngi üdrülmäklig pirapdi. bu pirapdi ärür üčün aqïγ
3365 3 -lïγ birdäm-lig taryarmaq ärmäz. ken birök kirip aqïγ-sïz yol-qa
3366 4 qadnayu taplansar temin ök adamïš ol birdämlig taryarmaq tep. ol
3367 5 birdämlig taryarmaq ärmäz üčün anïn adï bolur ärmäz lokik yol tep
3368 6 論 alqu aqïγ-lïγ nom-lar bir täk bir bilip öčmäk-lig mü ol
3369 7 andaγ ärmäsär nädäg'ol teptesär baγ boldačï äd-i eyin adrïlur
3370 8 qaltï baγ boldačï äd-i-ning ülgü-si eyin baγ-tïn öngi üdrülmäk
3371 9 -lig äd-i ymä ök andaγ oq ärür tep 釋曰 munda sezik
3372 10 abipiray-ïn söz-lälim taryarduq-ta alqu aqïγ-lïγ nom-larïγ
3373 11 bir täk bululurmu bir bilip öčmäk azu käntü käntü adïrt
3374 12 öngi mü ol tep. kikinč abipiray-ïn söz-lälim ol qošdačï vasdu
3375 13 ymä ök ülgü-si eyin bolγuluq. baγ-tïn öngi üdrülmäk-lig
3376 14 vasdu ymä ök bolur andaγ oq tep. 阿闍梨 ayaγ-qa tägimlig
3377 15 gunamati baxšï munï söz-lär ädgülüg ögrünč tep ol taplamamïš
3378 110b-1 üčün vasubandu baxšï-nïng sav-ïn bilip öčmäk čïnkertü töz üz-ä
3379 2 bar tegüči anïn sezik turyurup söz-lämiš ol. bilip öčmäk taqï oq
3380 3 yoq ärip čïnkertü töz üz-ä nädägin bolγay ikiläyü sezingäli bulur
3381 4 -ïn bir-ig bulur-ïn üküš-üg tep 疏主答云 ästiramati baxšï
3382 5 kikinč berü söz-lär bu yörügüngüz-lär andaγ ärmäz. munda kim söz-läti
3383 6 bilip öčmäk-ning čïnkertü töz üz-ä bar-ïn čïnkertü töz üz-ä yoq
3384 7 -ïn. bu täg sarvaasdivat ni'kay-lïγ-lar-nïng taplaγ-ï ärür söz-lämämiš
3385 8 ol bilip öčmäk-ning čïnkertü töz üz-ä bar-ïn yoq-ïn. nädägin tardïp
3386 9 munï sezik qïlu anga sezinür siz-lär bir-in üküš-in biz amtï inčip
3387 10 söz-lälim 有一师說 bar birär baxšï-lar söz-lär taryarduq-ta alqu
3388 11 aqïγ-lïγ nom-larïγ yindäm bululur bir bilip öčmäk tep. tïdγalïr
3389 12 üčün bular-nïng söz-lämiš-in anïn bar qïlmïš ol bu sezikig. anïn
3390 13 šasdr-ta kikinč berü söz-lämiš ol. ol baγ boldačï äd-i-ning üküš-i
3391 14 az-ï eyin bululur andaγ oq bilip öčmäk tep qaltï adï ködrülmiš
3392 15 sudur-ta yrlïqamïš ol inčä tep aqïγ-lïγ adqanγu-luq äd-lär

下地にある煩惱を斷つた故に離繫得が得られる。この得は有漏である故に永斷ではない。後にもし無漏道に入って、(斷が) 重ねて許されるなら、方に「永斷」と名づけるのである。それが永斷ではない故に、名が「世間道」となるのではない、と。

論：『一切の有漏法は同一の擇滅か？そのようでないなら、云何と云うなら、繫となる事に隨つて別れる。謂わく、繫事の量に隨つて離繫の事も亦そのごとくである』(一切有漏法同一擇滅耶不爾云何隨繫事別謂隨繫事量離繫事亦爾) と。

釋曰：ここで問いの意趣を説きたい：一切有漏法を斷つたことにおいて、同じ一つの擇滅が得られるのか？或は各自別々なのか？と。答えの意趣を説きたい：繫事も又その量に隨つて成ずるべきもの (である)。離繫事もまたそのように成ずる、と。尊者 Guṇamati 師、これを「徳喜」と云う。彼は、擇滅は眞實性によって存在すると云う世親師の言を許さなかった故に、疑いを起こして述べたのである：擇滅は更に眞實性によっても無であるのに、如何にしてなお一を取ったり、多を取つたりすることを可く疑うのであろうか？と。安慧師が答えて云う：この汝らの義はその通りではない。ここにだれが擇滅の眞實性による有や、眞實性による無を説いたか？このごとき説一切有部の宗は、擇滅の眞實性による有や無を説かなかったのである。如何にしてこれを引いてそれへ疑いをなし、一や多を疑うのか？我らは今、次のように説きたい。或る師が説く：一切有漏法を斷つたときに、唯だ一つの擇滅のみが得られる、と。これらの説いたものを避けるために、それでこの疑いを有した。それ故論に「その繫事の多少に隨つて、然るべき擇滅が得られる」と答えて説いた。

3376 「尊者」に對してウイグル文中漢文では「阿闍梨」が入っている。3377 gunamati (guṇa-mati) 「徳慧」をここでは ädgülüg ögrünč 「徳喜」とウイグル語で言い換えている。「徳喜」はサンスクリットの guṇānanda (~guṇa-nandi) に對應する。3384 sarvaasdivat ni'kay (/sarvaastivat nikay/) < Skt. sarvāsti-vāda- nikāya「説一切有部」。3387 bar birär baxšï「有り、各一の師」はウイグル文中の漢語に從って「有一師」とした。

3393 111a-1 ärsär qaltï tïrgük täg ärür alqu niz-vanï-ta ulatï-lar ärsär
3394 2 yip täg ärür. beš yükmäk ärsär yïlayu adï bolur tïnlγ tep qošulmaq
3395 3 balmaq ärsär munung adï bolur bay tep. anïn söz-lämiš ol bay boldačï äd
3396 4 -i-ning ülgüsi eyin bululur bilip öčmäk ymä ök anday oq. bay tep
3397 5 temiš-i ärsär qaltï beš tudyaq yükmäk ärür. 此五取蘊 beš tudyaq
3398 6 yükmäk-ning bolsar näčä tänglig äd-i öngi üdrüldüktä badačï munday osuy
3399 7 -luy bay-ïndïn. bululur anday oq bilip öčmäk. küsämiš üčün büdürgäli
3400 8 taryarduq-ta aqïγ-lïγ nomlarïγ angayu bilip öčmäk-ning bululmaq
3401 9 -lïγ yörügin anïn basa šastr-ta söz-lämiš ol 論 birök anday ärmäz tanuq
3402 10 -lamïš ödtä ämgäk-ig körmäk üz-ä taryaryuluq niz-vanï-lar-nïng öč
3403 1 1 -mäkin tanuqlayu kärgäk alqu taryaryuluq alqu niz-vanï-lar-nïng öčmäkin
3404 12 birök anday ärsär bïšrunmaq adïn yörüngäkin ödrü iš-siz bolur tep 釋曰
3405 13 munda vasubandu baxšï-nïng abipiray-ïn söz-lälim. birök anča tänglig bay
3406 14 boldačï äd-i-ning ülgüsi eyin bululmasar anča tänglig bilip öčmäk
3407 15 ulatï söz-läsär taryarduq-ta alqu nizvanï-larïγ bululur bir bilip öčmäk
3408 16 tep. inčip tanuq-lamïš ödtä ol ämgäk körmäk üz-ä taryaryuluq niz-vanï
3409 17 -lar-nïng bilip öčmäkin ymä ök tanuq-lap bulγu kärgäk. tergin öčmäk
3410 18 yol-uy körmäk ulatï bïšrunmaq yol-ta taryaryuluq niz-vanï-lar-nïng
3411 111b-1 bilip öčmäkin. nädägin teptesär taryarduq-ta alqu niz-vanï-larïγ bululur bir
3412 2 bilip öčmäk temiš üčün birök anday ärsär ämgäk-tä nom taplay ödin
3413 3 -tä taryarur niz-vanï-lar-ïy. ämgäk-tä nom bilgä bilig ödintä tanuq-layur
3414 4 öčmäkin bu iki kšan-lar-ta ödrü tanuq-lap bulγu kärgäk üč uyuš-taqï
3415 5 beš bölük-täki alqu bilip öčmäkig tanuq-lap bulu tükätsär alqu
3416 6 bilip öčmäkig 即従苦忍 inčip ämgäk-tä nom taplay-tïn ulatï
3417 7 včra'upam kšan-qadägi. alqu adïn taryaryuluq-ča niz-vanï-lar-nïng
3418 8 yörüngäki barča iš-siz bolγu kärgäk. yänä birök söz-läsär siz-lär bilip
3419 9 öčmäk ärür bir bölüklüg ančan ančan tanuq-layur teptesär siz-lär yörügi ymä
3420 10 ök anday ärmäz. bilip öčmäk bir bolu tükätmäk üz-ä bir ödtä
3421 11 käz-tä tanuq-layu kärgäk. birök söz-läsär siz-lär iišläšip körtükdä
3422 12 ol tergin öčmäk yol kertüg ulatï bïšrunmaq yol-uy munda-ta ulatï
3423 13 tuš-lar-ta näčä yoq ärsär ymä niz-vanï taryaryuluq. yoq ärsär ymä
3424 14 öčmäk tanuq-layuluq 然要歷位 inčip išläšip käz-tükdä tuš-ïn
3425 15 barča-nï büdürü bilgü üčün. bïšrunur alqu yörüngäkig bu alqu yörüngäk
3426 16 iš-siz ärmäz tep yörügi ymä anday ärmäz. qayu tïlday-ïn anday
3427 17 ärmäz tep tesär. nä ymä turyurup yörüngäkin körmäki ärsär alqu

謂わく、世尊は經に次のように説かれたのである：「有漏の所縁の事は猶、橛のごとくである。一切煩惱等は繩のごとくである。五蘊はその假名が有情となる」（と）。繫縛されること、これの名は「繫」となる。それ故に繫事の量に隨つて擇滅もまたそのように得られる。「繫」と言ったのは謂わく五取蘊である。五取蘊に幾許かの事があるなら、繫するべきこのような繫を離れるときに、然るべき擇滅が得られる。有漏法を斷つときに、別の擇滅が得られることの義を完成させるのを欲した故に、それ故に次に論に説いたのである。

論：『もしそのようでない（なら）、見苦所斷の煩惱の滅を證したときに、一切の所斷の諸煩惱の滅を證さねばならない。もしそのようなら、餘の對治を修することは即ち無用となる』（若不爾者於證見苦所斷煩惱滅時應證一切所斷諸煩惱滅若如是者修餘對治則爲無用）と。

釋曰：ここで我らは世親師の意趣を説きたい。もし、斯く斯くの程度の繫事の量に隨って、然々の程度の擇滅が得られないなら、そして諸煩惱を斷じたときに一つの擇滅が得られると説くなら、即ち、見苦所斷の煩惱の擇滅を證したときに、また集、滅、道を觀ることも、さらに修道において斷たれるべき煩惱の擇滅をも證得せねばならない。如何にしてかと云うなら、諸煩惱を斷じたときに、一つの擇滅が得られると云つた故。もしそのようなら、苦法忍の時に煩惱を斷ずる。苦法智の時に滅を證する。この二刹那において、即ち、三界にある五部にある一切の擇滅を證得せねばならない。一切の擇滅を證得し終えるなら、即ち苦法忍からさらに金剛喩定の刹那にまでの、諸餘の所斷としての煩惱の對治はすべて無用とならねばならない。又、もし、擇滅は一品もてるものであると汝らが説くなら、（あるいは）漸次に證するものと汝らが云うなら、その義もまたその通りではない。擇滅が已に一つとなることによって、一時に直ちに證さねばならない。もしその集、滅、道の諦を要して觀ることにおいて、及び修道において、これ等の位において如何に所斷の煩惱が無くとも、所證の滅が無くとも、然して要して位を遍歷したとき、全てを遍知するものの故に、一切の對治を修する。この一切の對治は無用ではないと汝ら説くなら、その義もその通りではない。

3405(~3406) birök anča tänglig bayγ boldačï äd-i-ning ülgüsi eyin「もし、斯く斯くの程度の繫事の量に隨って」は birök anča tänglig bayγ boldačï äd-i-ning <tarïqmïš-ï> eyin「もし、斯く斯くの程度の繫事が滅したことに隨って」に訂正されている。3412 ämgäk-tä taplayγ「苦における法忍」＝「苦法忍」。3413 ämgäk-tä nom bilgä bilig「苦における法智」＝「苦法智」。

3428 112a-1 kertü-lär-ning yörüg töz-in niz-vanï-larïγ taryarïp anïng öčmäkin tanuq
3429 2 -layu üčün ärür :: söz-läyü tükätsär niz-vanï-sïz bolur taryarmaq
3430 3 öčmäksiz bolur tanuq-lamaq tep. ikiläyü iš-i nägül turγurup adïn
3431 4 yöründäk-ig körgäli alqu kertü-lär-ning yörüg-in
3432 5 yoq üčün taryarmaq tanuq-lamaq-lïγ iš küdük. birök
3433 6 siz-lär-ning sav-ïngïz-lar-qa tayaq-lïγ-ïn iišläšip bilgü üčün
3434 7 ol bilmädüküg turγurur adïn yöründäkig teptesär siz-lär. adïn
3435 8 üč kertü-lär-tä küsämiš üčün büdürü bilgäli 起任對治
3436 9 turγurz-un yïγïnča yaraγ-ïnča yöründäkin. bïšrunmaq yol-ta niz-vanï
3437 10 -sïz bolsar taryarmaq. ikiläyü bar qayu tïldaγ-ï kärgäk-läp ör
3438 11 -idgülük yöründäkin. birök söz-läsär siz-lär bïšrunmaq yol-ta
3439 12 ikiläyü turγurmaq-ï ärsär yöründäkin kim tarïqu tükätmiš niz
3440 13 -vanï-lar-nïng pirapdi-sïn ikiläyü taš ïradγu üčün tep öd
3441 14 -čä qudrulmïš-lar ärsär tümgä ärklig-lig üčün sezinmiš üčün
3442 15 niz-vanï-lar-ïm yänä turγay tep. yïγïnča yaraγ-ïnča bïšrunmaq
3443 16 yol-ta ikiläyü öridzün yöründäkin. ödsüz qudrulmïš-lar-nïng
3444 112b-1 niz-vanï-lar-ï ikiläyü turmaz yänä iš-i nägül ikiläyü bïšrunup yörün
3445 2 -däkin. 又 yänä taqï ymä bolur adïn mün qadaγ 謂五部煩惱
3446 3 qaltï beš bölük-täki niz-vanï-lar-nïng töz-i bir bolγu kärgäk nädägin
3447 4 teptesär. körmiš ödtä ämgäk-ig birgärü tarïqur alqïnur
3448 5 üčün. alqu tüz-ün-lär-ning ymä ök bolmaγu kärgäk adïrtï. birök
3449 6 niz-vanï-lar-nïng tarïqmaq-ï bolsar ol üküš az tüz-ün är-än-lär-ning
3450 7 ödrü bolur 階降 yegi qodïqï-sï niz-vanï-lar-nïng tarïqmaq-ï
3451 8 täng tüz bolu tüküdmäk üz-ä ödrü tüz-ün tuuš-taqï-lar-nïng
3452 9 bolmaγu kärgäk adïrtï. tört qud-lar-nïng ödrü büdär qadïlïš
3453 10 -maq bulγalïšmaq-ï iki kšan-lar-ta alqu niz-vanï-lar bir ödtä
3454 11 tarïqsar alqïnsar ödrü birgärü bošγud-suz bolγu kärgäk
3455 12 nädägin bolur öngdünki üč qud-lar. bu üč qud-lar-ïγ iki kšan
3456 13 -lar-ta qayu ödtä uqïtdï munï üz-ä anïn bilmiš kärgäk siz-lär
3457 14 söz-lämiš yörügüngüz-lär-ning bolur üküš tälim mün-i qadaγ-ï tep
3458 15 論依何義説 qayu yörüg-kä tayaq-lïγ-ïn söz-läti öčmäkig.
3459 113a-1 oxšadïsïz teptesär. öčmäk-ig käntü öz-i oxšadï tïldaγ-sïz
3460 2 bolmaq-lïγ yörüg-ingä ymä ök adïn-qa ymä bermämäk-ingä 又 bolmamaq
3461 3 -ïnga ymä/ter. tayaq-lïγïn anïn mundaγ tep söz-lämiš ol. näng oxšadï-sïz
3462 4 ärmäz tep. 釋曰 öngdün söz-lägüči bir bilip öčmäk bululur tegüči
3463 5 baxšï ol vasubandu baxšï-qa ikiläyü sezik qïlu anïng yörügi
3464 6 büdmäz üčün anïn tardïp sudur-uγ osuγsayu söz-lär. birök baγ bol
3465 7 -dačï äd-i-ning adrïlmïš-ï eyin. bolsar üküš tälim bilip öčmäk
3466 8 nä üčün sudur-ta söz-lädi öčmäkig oxšadï-sïz tep. qaltï sudur
3467 9 -ta 毗舍佉長者 višake bayaγut ayïtdï darmadine šmnanč-qa inčä

3430~3431 nägül turγurup adïn yöründäk-ig「如何にして餘の對治を起こすのか？」は訂正された文である。訂正前は：nägül turγurup adïn yöründäkin yöründäk-ig. すなわち訂正文は yöründäkin を削除している。3432 yoq üčün taryarmaq tanuq-lamaq-lïγ iš küdük「斷、證の作用が無いために」は訂正されている。訂正前は： yoq üčün taryarmaq tanuq-lamaq-lïγ yörüg iš küdük「斷、證の義作用が無いために」。3441 öd-čä qudrulmïš「時につれて解脱したもの」＝「時解脱」。3450 yeg qodïqï「優劣」、ここではウイグル文中漢文の「階降」を使った。

何に因ってその通りでないのかと云うなら、ともあれ、對治を起こして、諸諦の理を觀ずるのは、煩惱を斷じてそれの滅を證することの故である。煩惱無く斷となる、滅無く證となると説き終えるなら、更にその作用が、如何にして餘の對治を起こすのか？諸諦の義を觀じても、斷、證の作用が無いために。もし、汝らの言に依って、その知らなかったところを知る故に要らず餘の對治を起こすと汝ら云うなら、餘の三諦において完知することを欲した故に適切に對治を起こすべし。修道において煩惱無く斷となるなら、更に對治を必然的に起こすところの何の因が有るのか？もし、修道において、更に對治を起こすのは、已に滅した煩惱の得を更に遠離することの故（である）と汝ら説くなら、時解脱のものらは鈍根もてる故に、我が煩惱はまた起こるであろうと疑ったため、適切に修道において更に對治を起こすべし。不時解脱の煩惱は更には起こらない。またその作用が如何にして對治を更に修するのか？又更に餘の過失となる。謂わく、五部にある煩惱の性は一つにならねばならない。如何にしてかと云えば、苦を觀じたときに、俱に滅盡する故に。諸聖のその差別も無くならねばならない。もし、煩惱の滅が多少となるなら、聖人には即ち階降が成ずる。煩惱の滅が已に平等となることによって、即ち聖位のものらにその差別は無くならねばならない。四果の即ち亂れが成ずる。二刹那において、諸煩惱が一時に滅盡するなら、即ち俱に無學とならねばならない。如何にして前の三果が成ずるのか？この三果を二刹那において、何時に顯わしたのか？これによって、それで汝らは汝らの説いた義に多くの過失があると知らねばならない。

論：『何の義に依って滅には同類無しと説いたと云えば、滅それ自身が同類因をもたない義へ、また、他のためへも（同類因と）ならないことに依ることで、それでこのように説いた。決して同類無きに非ずと』（依何義説滅無同類依滅自無同類因義亦不與他故作是説非無同類）と。

釋曰：以前に所説の「一つの擇滅が得られる」と云う師、彼は世親師に更に疑いをなして、彼れの義が成じない故にそれで經を引き則って説く：もし繫事のその差別されたものに隨つて、多くの擇滅が有るのなら、何故經に「滅には同類無し」と説いたのか？

3459~3461 öčmäk-ig käntü öz-i oxšadï tïldaγ-sïz bolmaq-lïγ yörüg-ingä ymä ök adïn-qa ymä bermämäk-ingä tayaq-lïγïn「滅それ自身が同類因をもたない義へ、また、他へも與えることへ、依ることで」が「又・・ymä/ter」によって、öčmäk-ig käntü öz-i oxšadï tïldaγ-sïz bolmaq-lïγ yörüg-ingä ymä ök adïn-qa ymä bolmamaq-ïnga tayaq-lïγïn「滅それ自身が同類因をもたない義へ、また、他へも（同類因と）ならないことへ、依ることで」に訂正されている。これは漢文の「依滅自無同類因義亦不與他」を譯したものである。漢文の「與」を「與える」と讀んだのを直している。ここの「與」は「・・のために」「・・に對して」の意味をもつので訂正は正しい。oxšadï はもともと oxšadï-sïz と書かれ、-sïz が削除された形式である。3464 osuγsayu の語構成は osuγ「仕方、一致」-sa(den.verb)-yu(converb)と考えて「則って」の譯語を與えた。ただし 3521 では osuγ- sayu と綴られているので osuγ+ sayu「すべて」～「いろいろ」とすべきかもしれない。3467 višake < Skt. viśākha「毘舍怯」。 darmadine < Skt. dharma-dinnā「法授(尼)」。

3468 10 tep öčmäk oxšadï-lïγ mu. oxšadï-sïz mu ol tep. darmatine
3469 11 šmnanč söz-lädi. öčmäk oxšadï-sïz ol andaγ ymä bir ärmäz. bolur
3470 12 üküš türlüg tep. nädägin ol šmnanč kikinč berü ol bayaγut-qa söz
3471 13 -lädi. öčmäk-ig oxšadï-sïz tep. ol baxšï sudur abipiray-ïn-ta qïlmïš
3472 14 ol mundaγ uqmaq-ïγ. oxšadï teptemiš-i ärsär munda oxšašmaq tep
3473 15 yörüg'ol. oxšadï-sïz teptemiš-i ärsär. oxšašmamaq tep yörüg'ol.
3474 1 13b-1 oxšašmayu tükätmiš üčün. anïn bilmiš kärgäk öčmäk yindäm ärür
3475 2 bir tep. munung uγrïnda sudur-ta söz-lämiš ol öčmäkig oxšadï
3476 3 -sïz tep. 踈主云 ästiramati baxšï söz-lär. bu baxšï ödgürmätin
3477 4 sudur abipiray-ïn yangluq qïlmïš ol öngi söz-lämäkig. munda oxšadï
3478 5 teptemiš-i ärsär. munda oxšadï tïldaγ tep yörüg'ol näng munda oxšaš
3479 6 -maq oxšašmamaq tep yörüg ärmäz. nädägin teptesär ol sudur-ta söz
3480 7 -lämäki ärsär. öčmäkig oxšadï-sïz tep. ägsük ärür anda tïldaγ
3481 8 tegüči užik. bu tïldaγ-ïn bu baxšï-nïng abipiray alïγ-ï yangluq
3482 9 ärür. alqu sudur-lar-ta ymä ök bar bu yangγarïq qaltï söz<-lägüdä>
3483 10 devatade tep. bar andaγ orun-ta yindäm söz-lämiš-i 達多 tade tep
3484 11 inčip bililür devatate ärtüki tep ulatï. amtï bu sudur-ta
3485 12 söz-lämäki ärsär öčmäkig oxšadï-sïz tep. yörüg üz-ä bilmiš
3486 13 kärgäk ärür oxšadï tïldaγ-nïng yörügi tep. 是故論云 anï üčün
3487 14 šasdr-ta söz-lämiš ol. qayu yörügkä tayaq-lïγïn söz-läti öčmäk
3488 15 -ig oxšadï-sïz teptesär. öčmäkig käntü öz-i oxšadï tïldaγ-sïz
3489 114a-1 bolmaq-lïγ yörüg-ingä ymä ök adïn-qa ymä bermämäk(-lig yörüg)-ingä tayaq-lïγ
3490 2 -ïn anïn mundaγ tep söz-lämiš ol. näng oxšadï-sïz ärmäz tep
3491 3 ulatï munda šasdr-nïng abipiray-ï ärsär. ang'bašlayu-qï iki padak
3492 4 -lar üz-ä sezik qïlur odγuraq ol baxšï-qa. basaqï üč padak
3493 5 -lar üz-ä uqïdur ol köni yörügüg. basaqï bir padak üz-ä
3494 6 tügär öngdünki-sin. kenki padak üz-ä ündürür oxšadï bolmaq
3495 7 oxšašmaq-lïγ yörügüg. ang'bašlayu iki padak-lar üz-ä sezik qïlu
3496 8 ol baxšï-qa söz-lär. 汝依何義 siz-lär qayu (abipiray-lïγ) yörüg-kä tayaq
3497 9 -lïγ-ïn uqïdu bu sudur-nung abipiray-ïn söz-läyür siz-lär. öčmäkig
3498 10 oxšadï-sïz tep. basaqï üč padak-lar üz-ä uqïdur köni
3499 11 yörügüg tegüči-tä bar anda iki abipiray-lar. ang-bašlayu-qï iki
3500 12 padak-lar-ta söz-lämäki ärsär. öčmäkig käntü öz-i oxšadï tïldaγ
3501 13 -sïz bolmaq-lïγ yörüg-ingä tayaq-lïγïn tep. ang-bašlayu-qï tayaq
3502 14 tegüči užik-ning abipiray-ïn söz-lälim. ol darmatine šmnanč
3503 15 bu iki abipiray-qa tayaq-lïγïn. kikinč bermiš ol öčmäk-ning
3504 1 14b-1 yoq oxšadï tïldaγ-ï tep. adïn yeti užik-lär üz-ä söz-läyür
3505 2 bu bilip öčmäk-ning oxšadï tïldaγ-tïn tuγmaz-ïn 次一句云 basa
3506 3 -qï bir padak üz-ä söz-läyür ymä ök adïn-qa bermätäči-sin. inčip

---

3482~3483 qaltï söz<-lägüdä> devatade tep「謂わく、「提婆達多」と説くところに」は qaltï söz-ladüktä devatade tep「謂わく、「提婆達多」と説いたところに」を訂正した文である。devatade(/devadate/) < Skt. devadatta「提婆達多」。3488~2490 öčmäkig käntü öz-i oxšadï tïldaγ-sïz bolmaq-lïγ yörüg-ingä ymä ök adïn-qa ymä bermämäk(-lig yörüg)-ingä tayaq-lïγ-ïn anïn mundaγ tep söz-lämiš ol näng oxšadï-sïz ärmäz tep. ここでは bermämäk-ingä「與えることへ」が bermämäk(-lig yörüg)-ingä「與えることの義へ」に修正されている。しかし、このウイグル文の全體は 3459-3462 に現れ、そこでは bermämäk-ingä は bolmamaq-ïnga に修正されている。上の 3459-3461 で議論したようにこの修正は間違っていない。従って、ここの和譯では上で提出した内容を採用した。

謂わく、経において毘舎佉長者が法授尼へ次のように問うた「滅には同類が有るのか、同類が無いのか」と。法授尼は云った「滅には同類無し、そのようにまた一つではない、多種有る」と。如何にして、その尼は長者へ「滅には同類無し」と答えて云つたのか？その師は經の意趣においてこのような理解をなしたのである。(すなわち)「同類」と云うのは、ここでは「類似し合うこと」と云う義である。「同類無し」と云ったのは「類似し合わない」と云う義である。類似し合わなかった故に、滅は唯だ一つであると知らねばならない、と。これに由つて、經には「滅には同類無し」と説いたのである、と。安慧師が説く：この師は經の意趣を了達せずに、誤つて別の説明を爲した。「同類」と云ったが、ここでは「同類因」と云う義である。決して「類似し合うこと、類似し合わないこと」と云う義ではない。如何にしてかと云うなら、その經には「滅には同類無し」と説くが、そこには「因」と云う字が缺けている。これに因つて、この師の意趣の受け方は誤つている。諸經にもこの規範は有る。謂わく、「提婆達多」と説くところに、その位置に、唯だ「達多」とのみ説いたものが有る。而して「提婆達多」であることは了ぜられる、となど。今、この經に「滅には同類無し」と説いたが、義においては同類因の義と知らねばならない。それ故論に説いた：「何の義に依つて滅には同類無しと説いたかと云えば、滅それ自身が同類因をもたない義へ、また、他のためへも｛(同類因と)ならないことへ｝、依ることで、それでこのように説いたのである。決して同類無きに非ず」(依何義説滅無同類　依滅自無同類因義　亦不與他　故作是説　非無同類)と。更にここで論の意趣は、最初にある二句によって、定んでその師へ疑いをなす。次の三句によって、その正理を顯わす。次の一句によって前のものを結ぶ。後の句によって同類となる類似し合うものの義を出す。最初の二句によってその師へ疑いをなして説く。汝らは何の意趣もてる義に依って、この經の意趣を顯わして、滅には同類無しと説くのか？と。「次の三句において、正理を顯わす」と云うことには、二つの意趣が有る。最初の二句において「滅自身が同類因をもたない義へ依つて」(依滅自無同類因義)と説く。最初にある「依」と云う字の意趣を我らは説きたいのである。法授尼はこの二つの意趣へ依って、滅には同類因が無いと答えたのである。餘の七字(= 滅自無同類因義)によってこの擇滅が同類因から生まれないことを説く。

3491~3494　ang'bašlayu-qï iki padak-lar「最初の二句」＝「依何義説滅無同類」。basaqï üč padak-lar「次の三句」＝「依滅自無同類因義亦不與他」。basaqï bir padak「次の一句」＝「故説是説」。kenki padak「後の句」＝「非無同類」。3504　adïn　yeti　užik-lär「餘の七字」とは「依滅自無同類因義」から「依」を除いた殘りの七字「滅自無同類因義」を指す。3506　ymä　ök　adïn-qa　bermätäči-sin は漢文「亦不與他」を譯したもので、これは 3459~3461 で議論したように ymä ök adïn-qa ymä bolmamaq- ïnga「他のためへも(同類因と)ならないことへ」となるべき文である。ここでは後者の和譯文を採用した。

3507 4 ikinti abipiray-ïn söz-lälim bu bilip öčmäk ymä ök adïn nom
3508 5 -qa oxšadï tïlday bolmaz. basaqï bir padak-ta anïn munday tep söz
3509 6 -lämiš ol teptemiš-i ärsär. tügär öngdünki-sin. kenki bir padak-ta
3510 7 söz-lämäki ärsär. näng oxšadï-sïz ärmäz tep. ündürür oxšadï
3511 8 -lïγ bolmaq üz-ä oxšašmaq-lïγ yörügüg. söz-lägüči bu bilip öč
3512 9 -mäk-ning öngdünki kenki tanuq-lamïš-ï-nïng uγuš-ï oxšadïγ-ï
3513 10 oxšašur 又 aqïlmaq-lïγ uγuš-ï oxšašur ymä/ter. näng oxšadï-sïz
3514 11 ärmäz. öčmäkig käntü öz-i oxšadï tïlday-sïz bolmaq-lïγ yörüg
3515 12 -ingä tayaq-lïγïn teptemiš-i ärsär. bu savïγ lïγ samaz üz-ä yörmiš
3516 13 kärgäk. nädägin teptesär bu bilip öčmäk-ning bar ärür ol oxšadï
3517 14 tïlday-tïn tuγmamaq-lïγ yörügi 亦不与他 ymä ök adïn-qa bir
3518 15 -mämäk-ingä teptemiš-i ärsär. ärür nïng samaz üz-ä yörmäk bu bilip
3519 115a-1 öčmäk-ning bolmaz adïn nom-lar-qa oxšadï tïlday bolmaq-ï tep. yänä
3520 2 bar bir baxšï basudlayu söz-läp bir bilip öčmäk ol tegüči baxšï
3521 3 -qa osuγ-sayu ol yörügüg söz-lär. niz-vanï-lar-ïγ angayu 々 uγur
3522 4 üz-ä taryaru tükätdüktä näčä bilip öčmäk ärür ärsär ymä bir tanuq
3523 5 -lamaq-ï inčip käntü 々 adïrt öngi ärür. 如一有漏 qaltï bir
3524 6 aqïγ-lïγ äd-ig ämgäk-li tergin-li iki kertü-lär-kä erdäči uγur
3525 7 üz-ä angayu 々 bildüktä. näčä angayu 々 bilsär ymä inčip äd-i
3526 8 -ning töz-i bir bolmïš täg. bu öčmäk ymä ök anday oq. näčä bilip
3527 9 öčmäk ärür ärsär ymä bir. ymä ök angayu 々 uγur üz-ä tanuq-layur
3528 10 bu yörüg uγrïnda anïn sudur-ta söz-lämiš ol inčä tep öčmäkig
3529 11 oxšadï-sïz tep. oxšadï-sïz tep temiš-i ärsär. munda yoq iki
3530 12 öčmäk bolmaq-lïγ yörüg. ikiläyü iš-i nägül tïdïp ol oxšadï
3531 13 tïlday-ïγ. oxšadï tïlday ärsär bir yindäm ediglig ärür. bilip
3532 14 öčmäk yindäm ärür edigsiz. inčip bililü tükädür ärti oxšadï
3533 15 tïlday-sïz ärtüki. munï üz-ä anïn bilmiš kärgäk öčmäk yoq iki
3534 16 türlüg oxšašmamaq-lïγ yörüg(-i) bolur yeg tep
3535 115b-1 疏主云 ästiramati baxšï söz-lär nädägin ïya taya ödtä
3536 2 arïdï saqïnmatïn bögünmätin munday tep söz-läyür siz-lär qaltï
3537 3 ol bir bilip öčmäk ol tep söz-lägüči baxšï-nïng-taqï-ča
3538 4 ärsär tanuq-layu tükätüktä ämgäk körmäk üz-ä taryaryuluq
3539 5 öčmäkig ikiläyü bolmayu kärgäk tergin öčmäk yol-ta ulatï-lar-nïng
3540 6 öčmäki tanuq-layuluq. birök söz-läsär siz-lär.ikiläyü bar adïn
3541 7 tanuq-lamaduq-ï tep. ödrü iki bolγu kärgäk nädägin adatï bir öč
3542 8 -mäk bolur tep. tanuq-layu tükädmiš-i-ning tanuq-lamaduq-ï-nïng töz
3543 9 -lär-i käntü 々 adïrïlmïš üčün qayu tardmïš yangγarïq-ïngïz-lar-nïng
3544 10 yörügi ymä ök büdmäz aqïγ-lïγ äd-ig bilgä bilig üz-ä tanuq-laduq

---

3511(~3513) söz-lägüči bu bilip öč-mäk-ning öngdünki kenki tanuq-lamïš-ï-nïng uγuš-ï oxšadïγ-ï oxšašur 「所説のこの擇滅の前後にある證じたものの類同分は類似しあう」は söz-lägüči bu bilip öč-mäk-ning öngdünki kenki tanuq-lamïš-ï-nïng aqïlmaq-lïγ uγuš-ï oxšašur.「所説のこの擇滅の前後にある證じたものの流類は類似しあう」に訂正されている。訂正文を採用した。aqïlmaq-lïγ uγuš-ï「流れをもった類」＝「流類」(仲間、類)。

次の一句によって、「亦、他のためへも（同類因と）ならないことへ」（亦不與他）を説く。次に第二の意趣を我らは説きたい。（すなわち）この擇滅も餘の法に對して同類因とはならない。次の一句に「それ故このように説いた」（故作是説）と云ったのは、前のものを結ぶ。後の一句に「決して同類無きに非ず」（非無同類）と説いたのは、同類有りとなることによって、類似し合うことの有る義を上らせる。所説のこの擇滅の前後にあって證じたものの流類は類似し合う。決して同類無きに非ず。「滅自身が同類因をもたない義へ依って」（依滅自無同類因義）と云ったが、この言を有財釋によって釋さねばならない。如何にしてかと云うなら、この擇滅には同類因から生まれないものもてる義が有る（からで）ある。「亦、他のためへも（同類因と）ならないことへ」（亦不與他）といつたのは、依士釋によって釋すことである。この擇滅が餘の法に對する同類因となることにはならない、と。又、或る師は「一つの擇滅である」と云う師を助けて説き、則つてその義を説く。煩惱を別々の機會に滅し終えたときに、如何に擇滅が一つであろうとも、その證は即ち各自別々である。猶、一有漏事を、苦と集との二諦へ入る機會において別々に擇したとき、如何に別々に擇しても即ちその事相は一つとなったごとく、この滅もまたその通りである。如何に擇滅が一つであろうとも、また別々の機會にこの義に由つて證する。それ故、經にこのように「滅には同類無し」と説いたのである。「同類無し」と云ったが、ここには二滅となるものもてる義は無い。更にその作用が如何にしてその同類因を避けるのか？同類因は唯一、有爲である。擇滅は唯だ無爲のみである。即ち、同類の因の無いことが已に了ぜられたのであつた。これによって、それで滅、無の二種が類似し合わないものの義は勝となる、と知らねばならない。安慧師が説く：汝らは如何にして、忽忙の時には全く思惟せず、このように云うのか？。謂わく「それは一つの擇滅である」と説く師のものとしては、見苦所斷の滅を證し終えたとき、更に集、滅、道等の滅が證されることとなるはずがない。もし、「更に餘の證されないものが有る」と汝ら説くなら、即ち二つとならねばならない。如何にして「一滅となる」と名づけたのか？已に證したものと、未だ證していないものの性は、各自差別される故。引いた汝らの規範の義もまた完成しない。

3517 ymä ök adïn-qa ber-mämäk-ingä の譯文は 3459~3461 の注に從って「亦、他のためへも（同類因と）ならないことへ」とした。3521 osuγ-sayu. see 3464. 3535 ïya taya に關しては庄垣内他（1998）p. 53, note 3 で議論された。このウイグル語單語の現れるテキストで漢文との對譯をもつものは Uigurica II (p.29 *l.*18) と *Suv.*(p.637 *ll.*22) がみられる。前者は次の文脈で現れる： anta ötrü ol tngri urïsï ol ünüg äšidip qorqup ürküp balïnglap tüülläri yoqaru turup ïya taya tavranu qayutïn sïngar tngrilär eligi xormuzta tngri ärsär antïn sïngar yaqïn barïp. このウイグル文に對應する漢文：「爾時善住天子聞此聲已即大驚怖身毛皆豎愁憂不樂即速疾往詣天帝釋所」（『佛頂尊陀羅尼經』）。Müller は ïya taya tavranu に對して"zitternd und bebend"の譯語を與えた。これは漢文の「愁憂不樂」と對應させたものと推定できる。BTTIX (Tekin,Ş.(1980): *Maitrisimit nom bitig Die uigurishce Übersetzung eines Werkes der buddhistischen Vaibhāṣka-Schule*, Vol.1, p.47 note 117 v3-4)もこれを踏襲し'yy' t'y' (*ll.*3-4) に "voller Angst und *Furcht" をあてている。一方 *Suv.*では庄垣内他（1998）に述べたように ïya taya は漢文の「忽忙」に對應する。したがって Uigurica II の ïya taya tavranu は上掲漢文の「愁憂不樂」ではなく「速疾」に對應していると考えるべきである。この 3535 或いは後に 4178 に現れる ïya taya には「忽忙」の譯語を與えたい。

3545 11 -ta. näčä ašnu öngi uγur üz-ä bilsär ymä ken yänä angayu uγur
3546 12 üz-ä bilir teptesär yörügin barča bolur bulγalï. 以慧別故 nädägin
3547 13 teptesär bilgä bilig adrïlmïš üčün bilip öčmäkig bulu tanuq-layu
3548 14 tükädür :: bululu tükädmiš ärsär tägimlig ärmäz ikiläyü bulγalï birök
3549 15 bulu tükädmiš-in yänä bulur teptesär. munï munčulayu üdlüm 々
3550 16 bolur tüpükmäksiz bolmaq-lïγ mün qadaγ. munï munčulayu tanuq-lamaq
3551 116a-1 -ï käntü käntü adïrïlu tükädmäk üz-ä bilip öčmäk ymä ök andaγ
3552 2 oq bolur üčün. anïn šasdr-ta karikda söz-lämiš ol 隨繫
3553 3 事各別 baγ boldačï äd-i eyin öngin 々 adïrïlur tep. yänä
3554 4 bir baxšï söz-lär. sudur-ta yrlïqamaq-ï ärsär öčmäkig oxšadï
3555 5 tïldaγ-sïz tep. alqu bilip öčmäk-lärig tuda söz-lämiš ol
3556 6 ikiläyü yoq adïn öčmäk ulatï adïn nom-ta ulatï-lar munda ädgü
3557 7 boldačï munda ürlüg boldačï anïn bilmiš kärgäk. öčmäkig oxšadï-sïz
3558 8 tep. oxšašmaq-lïγ yörüg ol yörüg arduqraq büdär tep. 問論
3559 9 主云 čodake sezik ayïdu vasubandu baxšï-qa söz-lär. öčmäk-ning
3560 10 yoq teptesär iki türlüg oxšadï tïldaγ-ï adïn tïldaγ-lar ymä
3561 11 ök bolmaz nä üčün säčä tïdar siz-lar. oxšadï-sïn tep. 答 sezinmiš
3562 12 üčün tüz-ün yol birlä yamïrašγay tep. nädägin tep tesär tüz-ün
3563 13 yol ärür ädgü ärür aqïγ-sïz bar ärür oxšadï tïldaγ-ï tep
3564 14 sezinmiš üčün sezingülük bolγay öčmäk ymä ök ärür ädgü ärür aqïγ
3565 15 -sïz. bolγu kärgäk oxšadï tïldaγ-ï tep. bu tïldaγ-ïn yindäm tïdmïš
3566 16 ärür. yoq oxšadï tïldaγ-ï tep. 雖二義 näčä iki türlüg
3567 116b-1 yörüg-lär üz-ä tüz-ün yol birlä biriksär ymä inčip bu bilip öčmäk
3568 2 -ning yoq ärür oxšadï tïldaγ-ï. nädägin teptesär ärür üčün edig
3569 3 -siz üč öd-lär-tä tudulmatuq tep. 問 birök andaγ ärsär.
3570 4 munda ymä ök 合 yarašï tïdγu kärgäk öngi bïšmaq tïldaγ-ïγ.
3571 5 nädägin teptesär. öngi bïšmaq tïldaγ-nïng ymä ök bar üčün.
3572 6 ädgü-si. bilip öčmäk ärür ädgü yarašï bolγu kärgäk bu tïldaγ-ï 答
3573 7 tardïlmaz bu mün qadaγ nädägin teptesär. öngi bïšmaq tïldaγ ärür
3574 8 aqïγ-lïγ ädgü. bilip öčmäk näčä ädgü ärsär ymä. inčip ärür aqïγ
3575 9 -sïz. bilmiš kärgäk yoq öngi bïšmaq-ï nägül yänä sezingülüki tep
3576 10 問 birök andaγ ärsär ymä ök tägimlig ärmäz tïdγalï oxšadï tïldaγ
3577 11 -ïγ 此同類因 bu oxšadï tïldaγ ärsär öz bölük-täki öz orun
3578 12 -taqï öngdün tuγmïš ediglig nom-lar oxšadï tïldaγ bolur. bilip
3579 13 öčmäk ädgü aqïγ-sïz ärür näčä tüz-ün yol birlä oxšasar ymä inčip
3580 14 töz-i ärür edigsiz tudulmaz sanmaz orun-lar-ta ymä ök öz bölük
3581 15 -täki öngdün tuγmïš-ï yarašï bolur ärmäz oxšadï tïldaγ bolγalï
3582 16 munï nädägin kärgäk-läp tïdar siz-lär tep 答 näčä bililsär ymä

有漏事を智慧によって證するとき、如何に先に他の機會において知っても、後にまた別の機會においても知ると云えば、その義を悉く得ることができる。如何にしてかと云えば、慧が差別された故に擇滅を得て證し終える。已に得られたのなら、更に得るべきではない。もし已に得たものを又得ると云うなら、このように展轉として窮まるところのない過失となる。このように證が各自差別され終えることによって、擇滅もまたそのようになる故、それで論の本頌に「繫事に隨つて各々に別けられる」（隨繫事各別）と説いた。又一人の師が説く：經に「滅には同類因無し」と説かれたのは、一切の擇滅を約して説いたのである。更に餘の滅及び餘の法等は、ここに善となるもの、ここに常となるものは無い。それ故、滅には同類無しと知らねばならない。類似し合う義、その義は畢竟に成立する、と。問：質問者が世親師へ問うて云う：「滅に二種の同類因は無い」と云うなら、餘の因もまた成じない。何故特に同類を妨げるのか？と。答：聖道と混同するだろうと疑ったため（である）。如何にしてかと云えば、聖道は善であり、無漏であり、同類因を有するのである、と。滅もまた善であり、無漏である。同類因が成じなければならないと疑うところとなるであろう、と疑つたため、これに因つて、唯だ「同類因無し」と、妨げたのである。如何に二種の義において聖道と同じであつても、この擇滅に同類因は無いのである。如何にしてかと云えば、無爲は三世において攝せられないものである故に、と。問：もしそのようなら、ここでは異熟因をも適合に妨げねばならない。如何にしてかと云えば、異熟因も善を有する故。擇滅は善である。この因が適合とならねばならない。答：この過失は引生しない。如何にしてかと云うなら、異熟因は有漏善である。擇滅は如何に善であろうとも、而して無漏である。異熟は如何にしても疑うところ無しと知らねばならない。問：たとえそのようであろうとも、應に同類因を妨げるべきではない。この同類因（と言うの）は、自分にある自地にある先に生じた有爲法が同類因となる。擇滅は善無漏である。如何に聖道と類似していようとも即ちその性は無爲であり、地に攝せられないし、屬しもしない。また自分にある先に生じたものが、適合に同類因となり得るものでもない。

3544 aqïγ-lïγ äd「有漏事」は「有漏事(の滅)」を意味するのか？ 3546 bulγalï は bwl'q'-ly と綴られている。3563 tüz-ün yol ärür ädgü ärür aqïγ-sïz「聖道は善である、無漏である」は訂正されている。訂正前は：tüz-ün yol ärür ädgü ädgü ärür ürlüg aqïγ-sïz「聖道は善である、常の無漏である」。3577 öz böldük「自ら分けること」＝「自分」。

3583 117a-1 andaγ ärtüki munda tïdmaq-ï ärsär oxšadï tïldaγ-ïγ abipiray üz-ä
3584 2 ymä ök birlä yänä tïdmïš ärür adïn tïldaγ-ïγ nädägin teptesär ox
3585 3 -šadï tïldaγ-nïng iš-i küdüki üküš üčün anïn munï uqïdmïš
3586 4 ol. käntü adïn alqu tïldaγ-larïγ tïdmaq kedärmäk-lig yangγarïq-ï
3587 5 andaγ oq ärür. 能作因雖 ärksinm-ä tïldaγ näčä alqu nom-lar-ta
3588 6 u bolmaq üz-ä alqu-ta tïdïlmasar ymä inčip bu bilip öčmäk bu tïl
3589 7 -taγ-tïn <tuγmaz> bilip öčmäk näčä adïn nom-lar-qa ärksinm-ä tïldaγ
3590 8 bolsar ymä. ymä ök tüš tardmaz. anïn ymä ök tïdmïš ärür tep 論 söz
3591 9 -läyü tükätmiš boldï bilip öčmäkig tep 釋曰問 qaltï öngdün söz
3592 10 -läp ärdürü tükädmäk üz-ä yörüg üz-ä bililü tükätdi ärti nä
3593 11 kärgäk ikiläyü söz-läp söz-läyü tükätmiš boldï bilip öčmäkig tep
3594 12 答 bu söz-lägüči-tä munda bar <anda> iki abipiray-lar öngdün söz-lämiš-ig
3595 13 munda tügüp büdürür 將 ken söz-lägäli uγramïš-ï ärsär. bu savïγ
3596 14 tuγurur turγurur tep karik söz-lär. 畢竟礙當生 birdäm-lig
3597 15 tïdmaq-tïn ken tuγdačï nom-larïγ angayu bululur bilmätin öčmäk tep
3598 16 論 birdämläti tïdmaq-tïn ken tuγdačï nom-larïγ bululur bilmätin öčmäk
3599 117b-1 teptemiš-i ärsär. qaltï umaq ärür birdämläti tïdγalï kälmädük ödki
3600 2 nom-nung tuγmaq-ïn öčmäk-ning bululmaq-ï öngdünki-sindä öngi üčün
3601 3 adamïš ol bilmätin öčmäk tep. bululmaq-ï (bilmäk) tïldaγ-ïnda <ärmäz> täk basudčï
3602 4 -sï ägsük bolmaq uγur-ïnda ärür tep. 釋曰 ärtmiš közünür ödki nom
3603 5 -larïγ bu oq inčip tïdmaz yindäm tïdïp kälmädük ödkig kim birdämläti
3604 6 turγurmaz üčün adamïš ol bilmätin öčmäk tep. munï üz-ä adïrur
3605 7 beš türlüg öčmäk-lär-tä adïn tördägü-tin. karik-ta söz-lämäk üz-ä
3606 8 ken tuγdačï tep. adïrur ürlügsüz öčmäk-tin. bu ürlügsüz üz-ä
3607 9 öčmäk 於四相中 tört türlüg bälgü-lär-tä tägšürür-lär ol tuγmaq bälgüg
3608 10 tïdar ärmäz ken tuγdačïγ. birdämläti teptemiš-i ärsär adïrur iki dyan
3609 11 -lar-taqï öčmäkig ulatï tuγup öčmiš-täki öčmäkig bu iki dyan
3610 12 -lar-taqï öčmäk-tä ulatï-lar näčä tïdsar (ymä) ken tuγdačï köngül köngül-täki
3611 13 nom-larïγ inčip ülgülüg tänglig ärür. näng bu birdämlig ärmäz. angayu
3612 14 bululur teptemiš-i ärsär. adïrur öngdün söz-lägüči bilip öčmäkig
3613 15 bilmätin öčmäk munda öngi üčün. anïn amtï adïrmïš ärür bilmäk
3614 16 tegüči sav-ta nä yörüg'ol teptesär. qaltï köni qadïγlanmaq tïldaγ-ïnda
3615 17 tükäl-lig bolmïš bilgä bilig ärür. 此滅不因恵得 bu öčmäk
3616 118a-1 bilgä bilig tïldaγ-ïnda bululmaz. täk basudčï-sï ägsük bolmaq uγrïnda
3617 2 bululur üčün anïn söz-lämiš ol angayu bululur tep. basudčï-sï ägsük
3618 3 bolmaq-ï ymä nädäg ol teptesär. qaltï birök qayu nom tört basudčï
3619 4 -lar-ta azu-ča ymä tägimlig ärsär tört üč iki basudčï-lar-qa tuγ
3620 5 -γalï täk ägsük bolmaq üz-ä bu basudčï-sï birdämläti tïdïlur üčün
3621 6 tuγmaq-ï adamïš ol bilmätin öčmäk bululmïš tep. karik-ta yörgüči

---

3589 bu tïl-taγ-tïn <tuγmaz> 「この因からは生じない」は訂正されている。訂正前は：bu tïl-taγ-taγ-tïn <turuγ-ma> . 3594 bu söz-lägüči-tä munda bar <anda> iki abipiray-lar「この所説には、ここに、それからの二つの意趣が有る」は訂正されている。訂正前： bu söz-lägüči-tä munda bar ol iki abipiray-lar「この所説には、ここに、その二つの意趣が有る」。ここでは訂正文を採用したが和譯では「それから」は省略した。

これを如何にして汝ら必然的に妨げるのか？と。答：如何に、そのようであつたものが了ぜられても、ここで同類因を妨げたのは、意趣によって餘の因をも併せて妨げたのである。如何にしてかと云うなら、同類因のその作用は多い故、それでこれを顯わしたのである。自他一切の因を妨げて除くことの規範はこの通りである。能作因が諸法に成ずることによって、一切において、如何に妨げられなくとも、而してこの擇滅はこの因からは生じない。擇滅が如何に餘の法への能作因となれども、又、果を引かない。それ故に妨げたのである、と。

論：**『擇滅を已に説くものとなった』**（已説擇滅）と。

釋：謂わく、先に説き終えることによる義で以て已に了ぜられている。何の必要で更に「擇滅を已に説くものとなった」と説かねばならないのか？答：この所説には、ここに、二つの意趣が有る。先に説いたものをここで結んで完成する。後に將に説こうとすることが、この言を生起させるのである、と。本頌に説く「畢竟じて當生の法を、妨げることから、別に非擇滅が得られる」（畢竟礙當生別得非擇滅）と。　論：**『永く當生の法を妨げることから、非擇滅が得られる、と云ったのは、謂わく、永く未來時の法の生ずることを妨げ得ることである。滅の得られることは、先のものとは異なつているために非擇滅と名づけた。得られることは擇の因においてではない。ただ、緣が缺けることに由ってである』**（永礙當生得非擇滅謂能永礙未來法生得滅異前名非擇滅得不因擇但由闕緣）と。

釋曰：過去、現在時の法をこれは即ち妨げない。唯だ未來時のみを妨げて、永く起こさせない故に「非擇滅」と名づけたのである。これによって、五種滅における餘の四つから差別する。本頌に「當生」と説くことによって、無常の滅と差別する。この無常による滅は四種の相において、その生相を轉ずる。（それは）當生を妨げるものではない。「永く」と云ったのは、二定にある滅と、更に生じて滅したものにある滅とを差別する。この二定にある滅等が如何に當生の心心所法を妨げても、即ち有量である。決してこれは永くはない。（頌に）「別に得られる」（別得）と云ったのは、先に説く擇滅を差別するのである。非擇滅はこれとは異なる故、それで今、差別したのである。「擇」と云う言に何の義があるのか？と云えば、謂わく、正しい精進の因において圓滿となつた慧である。この滅は慧に因っては得られない。單にその緣が缺けていることに由つて得られる故、それで「別に得られる」と説いたのである。「その緣が缺けること」（緣缺）とはまた如何にか？と云えば、若し何らかの法が四緣において、或は、應に、四、三、二緣において生ずるべきところが、ただ缺けることによってその緣は永く妨げられるため、その生を「非擇滅が得られた」（得非擇滅）と名づけたのである。

3601 bululmaq-ï (bilmäk) tïldaγ-ïnda <ärmäz>「得られることは擇の因においてではない」は訂正されている。訂正前： bululmaq-ï tïldaγ-ïnda <ärsär> . 3607 tuγmaq bälgü「生相」は turmaq bälgü「住相」の誤りか？ 3618~3619 tört basudčï-lar-ta「四緣において」は tört basudčï-lar<-qa>「四緣に對して」に訂正されているが訂正前のウイグル文を採用した。なお、tört üč iki basudčï-lar-qa を tört üč iki basudčï-lar-<ta>「四、三、二緣において」と訂正するのが適當であろう。

3622 7 vardi uzun üčün anïn munda söz-lämädimz adïn vardi-ta
3623 8 ulatï-larïγ munda basa yörgäy biz tep. 論 qaltï köz-li köngül-li
3624 9 bir učluγ-ïn bir öng-tä bolmïš ödtä adïn öng ün yïd
3625 10 tadïγ-ta ulatï-lar ärdär. ol adqanγu uγuš-uγ adqandačï
3626 11 beš bilig quvraγ-ï turup kälmädük ödtä birdämläti tuγ
3627 12 -maz. ol umamaq-ï-nïng uγrïnda adqanγalï ärdmiš ödki
3628 13 adqanγu-larïγ basudčï-sï ägsük üčün bululur bilmätin öčmäk
3629 14 tep. 釋曰 bu bilmätin öčmäk-ning yörügi bolur üküš yol
3630 15 -luγ. anda yänä uqïdmaq üz-ä ol bir-in učuz bolur bilgäli
3631 16 körgidgäli anïng bälgü-sin oxšadïγ-ïn. qaltï köz-li köngül-li
3632 118b-1 bir učluγ-ïn bir öngdä bolmïš ödtä teptemiš-i ärsär bir kšan
3633 2 -taqï köz ärklig ulatï birlä yänä köz biligi bir učluγ-ïn ad
3634 3 -qansar bir kök öngüg. nädägin adatï bir učluγ-ïn teptesär
3635 4 qaltï köz ärklig öng adqanγu-ta tïdïlsar yapšïnsar.
3636 5 köz biligi adqaγ-ïnda adqansar yapšïnsar adï bolur bir uč
3637 6 -luγ-ïn tep. adïn öng ün yïd tadïγ büridig-tä ulatï
3638 7 -lar ärdär teptemiš-i ärsär 所緣之外 adqaγ-ïnda taš alqu
3639 8 öng ün yïd tadïγ büridmäk-tä ulatï-lar-nïng adï bolur
3640 9 adïn tep. ärdär teptemiš-i ärsär barmaq tep yörüg'ol alqïnmaq
3641 10 tep yörüg'ol öčmäk tepyörüg'ol qayu kšan-ta köz ärklig ulatï
3642 11 bilig tursar bir adqanγu-ta. ol oq kšan-ta adïn beš ad
3643 12 -qanγu-larïγ. köz ärklig bilig birlä adqanu örgürmätin quruγ
3644 13 -ïn tüšürülür üčün ärtmiš öd-kä adï bolur ärdmäk tep
3645 14 nädägin adatï adqanu örgürmätin teptesär. qaltï ol nom-lar
3646 15 közünür ödtä turmïš ödtä tört basudčï-lar-ta. näčä bolsar
3647 16 ymä tïlday atlïγ basudčï adqaγ atlγ basudčï. ärksinm-ä atlγ
3648 119a-1 basudčï ägsük bolmaq üz-ä ol tüz arasïz basudčï anïn söz-lämiš
3649 2 ol adqanu irgürmätin tep 緣彼境界 ol adqanγu uγuš-uγ
3650 3 adqantačï beš bilig quvraγ-ïnda ulatï-lar turup kälmädük ödtä
3651 4 birdämläti tuγmaz teptemiš-i usar ol kšan-ta ol adqanγuγ adqanγalï
3652 5 tägimlig beš bilig-lär-tä tuγmadačï-sï ärsär birdämläti ikiläyü tuγmaz üčün
3653 6 adamïš ol birdämläti tuγmaz tep. nädägin bilgäli bolur ikiläyü tuγmada
3654 7 -čïsïn teptesär. kikinč bergälir üčün bu sav-qa. anïn basa šasdr-ta söz-lämiš
3655 8 ol. ol umamaq-ï-nïng uγur-ïnda adqanγalï ärtmiš ödki adqanγu-larïγ
3656 9 tep. munda bar qayu yörüg teptesär. köz-tä ulatï beš bilig-lär bir yindäm
3657 10 adqanïp közünür ödüg ävrilür. ärtmiš ödki öng-tä ulatï adqanγu
3658 11 -larïγ bolmaz adqanmaq-lïγ iš-i küdüki. nädägin teptesär basudčï-sï ägsük
3659 12 üčün. anïn birdämläti tuγmaz basudčï-sï tükäl ärmäz üčün 又 basudčï-sï
3660 13 ägsük üčün ymä/ter. bululur bilmätin öčmäk teptemiš-i ärsär. 心心所法
3661 14 köngül köngül-täki nom-lar odγuraq tört basudčï-lïγ-ïn tuγar. basudčï-sï

本頌について釋す注釋は長い故、それで我らはここでは説かなかった。我らは餘の注釋等をここで更に釋そう、と。

論：『謂わく、眼と意とが專ら一色にあるときに、餘の色、聲、香、味等は謝する。彼の境界を緣ずるべき五識身は未來世に住し、畢竟じて生じない。彼は過去世の境を緣ずることができないことに由って。緣が缺ける故、非擇滅が得られる』（如眼與意專一色時餘色聲香味觸等謝緣彼境界五識身等住未來世畢竟不生由彼不能緣過去境緣不具故得非擇滅）と。

釋曰：この非擇滅の義は多趣もつものとなる。そこでまた、その一つを立てることによって、容易にそれの相と同類とを知り示すことができる。「謂わく、眼と意とが專ら一色にあるとき」（如眼與意專一色時）と云った。一刹那にある眼根と併せて眼識とが專ら一青色を緣ずるなら、如何にして「專ら」と名づけたのか？と云えば、若し、眼根が色境において妨げられ執するなら、眼識が所緣において執着するなら、その名は「專ら」となる。「餘の色、聲、香、味、觸等は謝する」（餘色聲香味觸等謝）と言ったのは、所緣の外の諸々の色、聲、香、味、觸等の名が「餘」となる（ことである）。「謝する」と言ったのは、「行く」と云う義である、「盡きる」と云う義である、「滅ずる」と云う義である。ある刹那において眼根及び識が一境において起こるなら、その刹那においては餘の五境を、眼根と識とが共に緣じても、生起せず、（餘の五境は）空しく過去へ落とされるため、その名は「謝する」となる。如何にして「緣じても生起せず」と名づけたのか？と云えば、謂わく、その法が現在時に起きた時に四緣において如何に因緣、所緣緣、增上緣が成じても、等無間緣が缺けることによって、それで「緣じても生起せず」と説いた。「彼の境界を緣ずるべき五識身等は未來世に住し、畢竟じて生じない」（緣彼境界五識身等住未來世畢竟不生）、と云った。その刹那にその境を緣ずることができるなら、應に五識において生じないものなら、畢竟じて更に生じないため「畢竟じて生じない」（畢竟不生）と名づけたのである。如何にして更に生じないものを知り得るのか？と云えば、この言へ答えるため、それで次に論に説いたのである：「過去世の境を緣ずることができないことに由って」（由彼不能緣過去境）、と。ここには何の義が有るのか？と云うなら、眼等の五識は唯一現在世を緣じて轉ずる。過去世の色等の境を緣ずるその作用はない。如何にしてかと云うなら、緣が缺ける故に。それで畢竟じて生じない。「緣が具なわっていない故、非擇滅が得られる」（緣不具故得非擇滅）、と云った。

3622 anïn munda söz-lämädimz「それで我らはここでは説かなかった」は訂正されている。訂正前： anïn munda <yöräyü> söz-lämädimz「それで我らはここでは釋して説かなかった」。3625 tadïγ-ta ulatï-lar「味等」は tadïγ büridig-tä ulatï-lar「味觸等」となるべきところ。Cf. 3637. 3649 irgürmätin は örgürmätin「生起せず」の誤り。Cf. 3643, 3645. 3659~3660 basudčï-sï tükäl ärmäz üčün「緣が具なわっていない故」は「又」以下で basudčï-sï ägsük üčün「緣が缺ける故」に訂正されている。

3662 15 ägsük ärsär turγmaz adqanγu-sï birök közünür ödtä bolsar ägsük bolur
3663 119b-1 tüz arasïz basudčï-sï. adqanγu-sï birök ärtmiš ödtä bolsar ägsük bolur
3664 2 adqaγ atlγ basudčï-sï. ägsük bolmaq üz-ä bu tüz arasïz basudčï anïn
3665 3 bululur bilmätin öčmäk tep. 阿闍梨 ayaγ-qa tägimlig sanggabadre
3666 4 baxšï söz-lär. vasubandu baxšï bu bilmätin öčmäk-ning yörügindä bar qïlmïš
3667 5 ärür ägsüdmäk azudmaq-ïγ. tägimlig ol yarašï üsdägäli. qayu söz-lägüči
3668 6 beš adqanγu-larïγ. ärtükdä barduq-ta. anga körü yarïm-ča köngül orun nom
3669 7 orun ärtükdä öčdüktä bululur bilmätin öčmäk tep. 此中意云
3670 8 <munda> abipiray-ïn söz-lälim. qaltï bir kšan-ta köz ärklig bilig bir učluγ
3671 9 -ïn adqanmïš ödtä bir kök öngüg. <bu> kšan-taqï köngül
3672 10 bilig-indä turγurup adïn-lar köngül-in bildäči bilgä biligig yarašï
3673 11 adqanγalï tägimlig-i ärsär bu kšan-taqï adïn-lar-nïng köngül-in. ol
3674 12 köngül biligi köz birlä az-lanmïš (adqanmïš) üčün ol kök öngüg bulduqmaz üčün
3675 13 uγur-ï yïq-ï. tuγurup adïn-lar köngül-in bildäči bilgä biligig adqan
3676 14 -γalï uγuluq bu kšan-taqï adïn-lar-nïng köngül-in 此念他心智 bu
3677 15 kšan-taqï adïn-lar köngül-in bildäči bilgä bilig-ning ulatï munï birlä
3678 120a-1 bir kšan-lïγ adïn-lar köngül-i-ning ikigü-nüng birlä ägsük üčün basudčï
3679 2 -sï tüšürülüp kämišilip ärtmiš öd-kä. bululur üčün bilmätin öč
3680 3 -mäk. anïn söz-lämiš ol yarïm-ča köngül orun nom orun ärttükdä öč
3681 4 -tükdä bululur bilmätin öčmäk tep. munda sanggabadre baxšï 責論
3682 5 主. irgälir qïnaγalïr üčün vasubandu baxšïγ. ägsüdmiš üčün
3683 6 bu yarïm-ča köngül orun-nung nom orun-nung basudčï-sï ägsük bolmaq-lïγ
3684 7 yörügin. anïn bar qïlmïš ol bu savïγ tep ästiramati baxšï söz-lär ::
3685 8 munda ymä ök yoq üčün ägsüdmäk azudmaq-ï. anïn tägimlig ärmäz üz
3686 9 -tägäli. köz-tä ulatï beš <bilig>-lär. täk ärür anga yöläšürüg ymä büdün
3687 10 bilmätin öčmäk-ning yörügi ärmäz üčün. anïn ymä ök mün qadaγ bolmaz.
3688 11 若約一切法上 birök alqu nom-taqï bilmätin öčmäkig tuda söz
3689 12 -läsär. ödrü söz-lägü ärti ägsüdmiš azudmïš ärür tep. munda täk yarïm
3690 13 -ča köz biligin tuda yöläšürüg qïlmïš ärür nädägin söz-läyür siz ägsüd
3691 14 -miš azudmïš ärür tep. bar bir baxšï sezik turγurup ayïdu söz-lär.
3692 15 köz ärklig köz bilig-i bir adqanγu-ta ävrildükdä ikiläyu nädägin
3693 120b-1 bolur adïn bilig-lär tuγmamaq üz-ä bilmätin öčmäk bolγuluq nädägin
3694 2 teptesär. bar bir käzig-tä yindäm bolup bir bilig bu kšan-taqï
3695 3 köz bilig birlä uγrayu adqanu tükädmäk üz-ä öngüg 更有何
3696 4 餘識 ikiläyü bar qayu adïn bilig ärtdüktä barduq-ta bolγuluq
3697 5 bilmätin öčmäk birök 當 ken turdačï bilig ol teptesär. käntü bar
3698 6 angayu adqanγu-luq adqanγu-sï ärür üčün angayu kšan-lïγ tep 答
3699 7 bu sezikingiz-lär andaγ ärmäz. taplap söz-läsär. birök bir käzig-tä yindäm
3700 8 bolur bir bilig tep. taplamasar basudčï-sï ägsük bolmaq-lïγ yörügüg bu

心心所法は定んで四縁によって生ずる。縁が缺けるなら生じない。境がもし現在世にあるなら、等無間縁が缺ける。境がもし過去世にあるなら、所縁縁が缺ける。この等無間縁が缺けることによって、それで非擇滅が得られる、と。尊者衆賢師が説く：世親師はこの非擇滅の義において、缺略を有したのである。所説の五境を應に適切に加えるべし。謝往において、それに對して少分の意處、法處が謝滅した時に、非擇滅が得られる、と。ここで我らはその意趣を説きたい。若し、一刹那に眼根と識とが專ら一青色を縁じた時にこの刹那にある意識において他のものらの意を起こして慧を知るものがこの刹那にある他のものらの意を應に適切に縁ずるべきであるなら、その意識は眼とともにその青色を愛著するため、他のものらの意を起こして慧を知るものはこの刹那にある他のものらの意を能く縁ずるところの機會が無いため、この刹那にある他のものらの意を知る慧及びこれと同一刹那に屬する他のものらの意の、二つのものが共にその縁を缺くために、過去世へ落ちて非擇滅が得られる故に、それで「少分の意處、法處が謝滅した時に、非擇滅が得られる」と説いたのである。ここで衆賢師は世親師を責めるために、この少分の意處と法處の縁が缺となる義を以て（世親師が）缺略した故に、それでこの言を有したのである、と。安慧師が説く：ここにおいても、その缺略は無い。それ故に應に付加すべきでない。眼等の五識は單にそれに對する比喩である。又、完全な非擇滅の義ではない故、それでまた、過失とはならない。もし諸法にある非擇滅を約して説くのなら、即ち「缺略したものである」と説くべきであった。ここでは只だ少分の眼識を約して比喩を爲したのである。如何にして汝らは「缺略したものである」と説くのか？或る師が疑いを起こして問う：眼根と眼識が一境において轉ずるとき、更に餘の識は如何にして、不生において非擇滅となるのか？如何にしてかと云えば、一相續において唯だ一識のみとなり、この刹那にある眼識と共にまさに色を縁じ終えることにより、更に何の餘識が謝往において、非擇滅となることが有るのか？もし「後に起きるものが識である」と云うなら、已有の別の所縁境は別の刹那に屬する故に、と。

3667 azudmaq = azu-「減少する」-t (caus.) -maq. 3668(~3669) ärtükdä barduq-ta から bilmätin öčmäk tep までは『阿毘達磨藏顯宗論』巻一の内容に對應する：(念念)謝往對彼少分。意處法處得非擇滅。(大正 Vol. 29, p.780b)。Cf. 念念滅中對彼少分。意處法處得非擇滅。(『順正理論』巻一 p.332b)。3668 ärtükdä = ärttükdä. 3670 <munda> abipiray-ïn söz-lälim「ここで我らはその意趣を説きたい」の訂正前：munung abipiray-īn söz-lälim.「我らはこれの意趣を説きたい」。3671 <bu> kšan-taqï köngül bilig-indä「この刹那にある意識において」の訂正前：bir kšan-taqï köngül bilig-indä「一刹那にある意識において」。3686 köz-tä ulatï beš <bilig>-lär「眼等の五識は」の訂正前： köz-tä ulati beš <ärklig>-lär「眼等の五根は」。3694 yindäm bolup bir bilig「唯一識のみとなつて」の訂正前： yindäm bolup bir bilip öčmäk「唯一擇滅のみとなつて」。ただし、bilip の-p を表す文字 p はインクを加えて文字 k に作り替えて bilig と訂正している。

3701 9 bir kšan-taqï köz biligi-ning. köz ärklig-kä körü bolur tïldaγ atlγ basud
3702 10 -čï. öng adqanγu-qa körü bolur. adqaγ atlγ basudčï. adïn nom-lar
3703 11 -qa körü bolur. ärksinm-ä atlγ basudčï. bu kšan-taqï köz biligindä tap
3704 12 -lasar bolur bu üč basudčï-lar tep. qulγaq-nïng-ta ulatï adïn bilig
3705 13 -lär-tä nädägin taplamaz siz-lär tükäl bolur bu üč basudčï-lar tep
3706 14 又未来 yänä kälmädük ödki altï bilig-lär ymä ök bolur sansïz
3707 15 saqïš-sïz qayu tïldaγ-ïn tükäl bolmamaq üz-ä üč basudčï-lar tüšürülüp
3708 121a-1 kämišilip turmaz yänä amtï siz-lär-kä ayïdur biz. nädägin bir
3709 2 kšan-ta yindäm bolur bir bilig. azu yänä yumdaru mu bolur bir
3710 3 bilig. azu yänä nädäg ol. birök yumdaru bolur bir bilig tep
3711 4 tesär kšan-ïk ärmäz bolγu kärgäk ulatï tayanγuluq ärklig-i adïrïlmaq
3712 5 üz-ä teptesär inčip ürlüg bolγu kärgäk. birök söz-läsär siz-lär käl
3713 6 -mädük ödki alqu bilig-lär-ning bolur üčün anïng tägzinü ulalu
3714 7 eyin käzigčä inčip tuγmaq-ï. söz-läyür biz ärür bir tep. ödrü
3715 8 qïïnmaq qadïγlanmaq tavranmaq iš-siz bolγu kärgäk. nädägin teptesär.
3716 9 alqu nom-lar-nïng öz-in ök bolur üčün tägzinmäk ulalmaq-ï 従設
3717 10 勧勞 yoqsuz bdatï bolur qïlmïš-ïngïz-lar qadïγlanmaq ämgänmäkig nädägin
3718 11 teptesär. kälmädük ödki alqu bilig-lär eyin käzigčä turup alqïnduq
3719 12 -ta tüz-ün yol öz-in ök turup öz-in ök tanuq-layur nirvan-ïγ
3720 13 birök söz-läsär alqu bilig-lär eyin käzigčä učsuz qïdïγ-sïz bolur tep
3721 14 bolmaγu kärgäk ünmäk öngi üdrülmäk. bolmaγu kärgäk ozmaq
3722 15 qudrulmaq. nädägin teptesär alqu bilig-lär eyin käzigčä ulalïp
3723 121b-1 tüpükmäz alqïnmaz üčün. anïn bu söz-lämiš-ingiz-lär yörüg yol-ïnga
3724 2 yaraši bolmaz. tägimlig ol yaraši 已之 tïdγalï 問豈不相應之法
3725 3 näčük'ol köngül-tä öngi nom-lar barča basudčïγ tuda tuγup basudčï-sïz tuγ
3726 4 -maz ärmäz mü. basudčï birök tükäl ärmäsär öz-in ök tuγmaz. ikiläyü
3727 5 iš-i nägül bilmätin öčmäkig tep. bir baxši kikinč berü bu sezik-kä
3728 6 söz-lär. qayu nom-nung basudčï-sï ägsük bolmaq üz-ä tuγmasar bululur
3729 7 bir angayu nom tïdïp bu basudčï-sï ägsük nomuγ. kim tuγurur üčün käl
3730 8 -mädük ödtä tuγmadačï nom-ta adamïš ol bilmätin öčmäk tep. ::
3731 9 ästiramati baxšï söz-lär. bu kikinč-ingiz-lär andaγ ärmäz. ol sezik
3732 10 abipiray-ï birlä yörügi birlä yaradïlmaz üčün. basudčï-sï ägsük nom
3733 11 -nung töz-i čïnsïz töz-lüg ärür. ymä ök yoq ärür iš-i küdüki nädägin
3734 12 munung tïldaγ-ïnda bolγay adïn nom-nung bululmaq-ï 又言 yänä söz
3735 13 -läti ärti basudčï-sï ägsük tep. nädägin adï bolur basudčï-sï ägsük
3736 14 teptesär. <bulduqmaz> mundaγ osuγ-luγ ediglig nom basudčï-sïz boldačï
3737 15 birök söz-läsär basudčï-sï bar tep. iš-i küdüki yoq üčün atamïš
3738 122a-1 ol basudčï-sï ägsük tep. alqu kälmädük ödki nom-lar-nïng. näčä
3739 2 barča-nïng basudčï-sï bar ärsär ymä. alqu uγur-ïn yoq ärür iš-i
3740 3 küdüki. barča bululγu kärgäk bilmätin öčmäk. nädägin yarïm-ïnda

---

3711 kšan-ik < Skt. kṣaṇika「瞬時の」「刹那」。3717 qatïγlanmaq ämgänmäk 「勤苦」はウイグル文中漢文に従って「勧勞」と譯した。3724 tägimlig ol yaraši 已之 tïdγalï. 「已之」は正しい漢語ではない。おそらく「以此」「以是」からの類推形であろう。「已之」はここでは次のようにウイグル語に訓讀されていたと考えられる：tägimlig ol yaraši munï üz-ä tïdγalï「これを以て適切に妨ぐべし」。

答：この汝らの疑いはその通りではない。もし一相續に唯だ一識のみとなると許し説くなら、（そして）縁が缺ける義を許さないなら、この同一刹那にある眼識のものは、眼根に對して因縁となり、色境に對して所縁縁となり、餘の法に對して増上縁となる。この刹那にある眼識において許されるなら、この三つの縁となる、と。耳のもの等、餘の識において、如何にして汝らはこの三縁が俱となると容認しないのか？又未來世にある六識もまた無數となる。何に因って、俱とならないことを以て三縁は落とされて、起こらないのか？また今、我らは汝らに問う：如何にして一刹那に唯だ一識のみとなるのか？或は、通して一識となるのか？或は、如何にか？もし「通して一識となる」と云えば、刹那に非らざるものとならねばならない。更に「所依の根が差別されることによって」と云えば、即ち常とならねばならない。もし「未來世にある諸識のものはそれが轉續し順次このように生まれるものとなる故に一つであると我らは説く」と汝らが云うなら、即ち精進は必然的に無用となる。如何にしてかと云うなら、一切法のものは自ら轉續となるため（である）。汝らが劬勞を設けたことは唐捐となる。如何にしてかと云うなら、未來世の諸識が順次に起こり、盡きたときに、聖道が自ずと起こり、自ずと涅槃を證する。もし「諸識は順次に（起こり）無邊際となる」と説くなら、必然的に出離は成じない、解脱も成じない。如何にしてかと云うなら、諸識は順次に相續して盡きない故。それ故この、汝らの説いたものは理趣にとって適切ではない。これを以て適切に妨ぐべし。問：どうして心不相應法はすべて縁を得て生じ、縁無く生じるものではないのか？縁がもし完全でないなら自ずと生じない。更にその作用は如何にして、非擇滅なのか？と。一人の師がこの疑問に答えて説く：ある法の縁が缺けることによって（その法が）生じないときは、一つの別の法が得られる。この縁缺の法を妨げて、未來世における不生法において生じさせる故に、「非擇滅」と名づけたのである。安慧師が説く：この汝らの答えはその通りではない。その疑問の意趣と、その義とは相應しないため（である）。縁缺の法の性は無實性である。その作用も無いのである。如何にしてこれの因において餘の法の得られることがあろうか？又「縁が缺けた」と言った。如何にしてその名が「縁が缺ける」となるのかと云えば、このような有爲法が無縁となることは無い。もし縁が有ると説けば、その作用が無いために「縁が缺ける」と名づけた。一切の未來世の法には、如何に全ての縁が有れども、全ての場合にその作用は無いのである。

3725 (~3726) näčük'ol köngül-tä öngi nom-lar barča basudčïγ tuda tuγup basudčï-sïz tuγ-maz ärmäz mü において tuγ-maz「生じない」は tuγ-maq「生じるもの」の誤寫と考えられる。和譯には tuγ-maq を採用した。3729 basudčï-sï ägsük nom「縁が缺ける法」=「縁缺(不生)の法」。3736 <bulduqmaz> munday osuγ-luγ ediglig nom basudčï-sïz boldačï「このような有爲法が無縁となるものは無い」の訂正前：bulmaduq munday osuγ-luγ munday osuγ-luγ ediglig nom basudčï-sïz boldačï. bulmaduq「得なかった」。3737 birök söz-läsär basudčï-sï bar tep「もし縁が有ると説くなら」は birök söz-läsär basudčï<-sïz> bar tep「もし無縁が有ると説くなら」に訂正されている。

3741 4 bululup yarïm-ïnda bululmaz. anïn bu söz-lämiš-ingiz-lär yörüg yol-ïnga
3742 5 yarašï bolmaz. 此前問意 bu öngdünki sezik abipiray-ïn biz
3743 6 amtï söz-lälim. basudčï-nïng qayu ärür-in. bu basudčï-nïng iš
3744 7 išlämäk-lig yörügin. qayu tuuš-ta basudčï-nïng bolsar anïng
3745 8 iš-i küdüki adï bolur basudčï-sï tükäl tep. qayu tuuš-ta iš
3746 9 -i küdüki bolmasar munï adamïš ol basudčï-sï ägsük tep. munung
3747 10 qayu tuuš-ta bolur iš-i küdüki teptesär. qaltï tüš bermäk-lig
3748 11 tuuš ärür. tuuš ärsär ärür ärtmiš közünür ödlüg. bu tuš-ta
3749 12 bolmaz nom-qa eyinki basudčï. bolur üčün qaršï basudčï anïn ad
3750 13 -amïš ol basudčï-sï ägsük tep. 或復有 azu-ča yänä bar ärsär
3751 14 quruldurdačï örlätdäči basudčï ymä ök adamïš ol basudčï-sï
3752 15 ägsük tep. qaltï köz ärklig bilig bir učluγ-ïn bir öngdä bolmïš
3753 122b-1 ödtä öngi kedärip köz-üg adïn bilig-tä tayaq-ïn adqaγ-ïn tuda
3754 2 turmïš-ï ärsär. tïldaγ atlγ basudčï. adqaγ atlγ basudčï. ärksinm-ä
3755 3 atlγ basudčï uγrayu tüš berü turur ödtä ägsük bolmaq üz-ä.
3756 4 ol tüz arasïz basudčï alqu bilig-lär turmaz üčün adï bolmïš
3757 5 ol qurulmïš <örlädmiš> tep 以此等无間緣 nädägin teptesär.
3758 6 bu tüz arasïz basudčï eyin qïlγalï uγu-ta alqu bilig-lärig. yaqïn
3759 7 yaγuq bar üčün iš-i küdüki. alqu basudčï-lar idlinür ärtär közün
3760 8 -ür ödlüg tuš-ta. bilig bolmaz tuγγalï. kim birdämläti turmadačï
3761 9 -sï ärsär. ödrü adamïš ol bilmätin öčmäk bululmïš tep. anïn
3762 10 tägimlig ärmäz söz-lägäli basudčï-sï tükäl ärmäz üčün nom öz-in
3763 11 ök tuγmaz tep. birök basudčï-sï ägsük üčün bu nom tuγmasar.
3764 12 ken basudčï-sï tušmïš ödtä nom yänä turγu kärgäk. bu tïldaγ-ïn
3765 13 bilmiš kärgäk. kim birdämläti turmadačï-sï ärsär. yindäm bilmätin
3766 14 öčmäk ärür tep. vaybašike-lïγ baxšï-lar mundaγ tep söz-lär 論曰
3767 15 nom-ta bululγuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi tört padak qïlmïš
3768 16 kärgäk. azu ymä alqu nom-lar-ta yindäm bululur bilip öčmäk ol qayu
3769 123a-1 ol teptesär qaltï alqu aqïγ-sïz ärtmiš közünür ödki tuγdačï
3770 2 törü-lüg nom-lar ärür tep ulatï 釋曰 qavïr-a-sïnča söz-läsär alqu
3771 3 aqïγ-lïγ nom-lar tägšüdinčä-si-ning adï bolur bilip öčmäk tep
3772 4 alqu ediglig nom-lar-nïng tuγmaq-ï-nïng tägšüdinčä-sin adamïš ol
3773 5 bilmätin öčmäk tep. nom-ta bululγuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi
3774 6 tört padak qïlmïš kärgäk teptemiš-i ärsär. munda bir sezik-ning
3775 7 kikinč-i bolur tört qadïn 問者 sezik ärsär qayu nom-ta bululsar
3776 8 bilip öčmäk. ol oq nom-ta ymä ök bululur mu bilmätin öčmäk
3777 9 tep temäk ärür bir yindäm kikinč bergülük ärmäz üčün. anïn büdär
3778 10 tört padak-lar. nä üčün bir yindäm kikinč bergülük ärmäz teptesär
3779 11 bu bilip öčmäk yindäm aqïγ-lïγ nom-larïγ tuda bululur. bilmätin
3780 12 öčmäk ediglig tuγmadačï nom-larïγ tuda bululur. bu tïldaγ-ïn kikinč

悉く非擇滅が得られねばならない。如何にして少分において得られ、少分において得られないのか？それ故、この汝らの説いたものは理趣において適切ではない。この、前にある疑問の意趣を今我らは説きたい：（すなわち）縁の何であるかを、（そして）この縁の役割の義を。ある位において縁にそれの作用が有るなら、その名は「縁の圓滿」となる。ある位においてその作用がないなら、これを「縁が缺ける」と名づけたのである。これには何の位においてその作用が有るのかと云えば、謂わく、與果の位においてである。位は過去現在世のものである。この位において隨法の縁とはならない。違縁となる故、それで「縁が缺ける」と名づけたのである。或はまた損惱させる縁が有るなら、また「縁が缺ける」と名づけたのである。謂わく、眼根と識が專ら一色にあるとき、眼を除いて、餘の識において依と所縁を約して起きたものは、因縁、所縁縁、増上縁がまさに果を與えて起こるときに等無間縁が缺けることによって諸識が起こらない故に、その名が「損惱」となつたのである。如何にしてかと云うなら、この等無間縁は能く諸識を從えることにおいて、親しくその作用が有るため（である）。諸縁は現在世の位において消去する。識は生じ得ない。畢竟に生まれないものは即ち「非擇滅が得られたもの」と名づけた。それ故、「その縁が完全でないために法は自ずと生まれない」と應に説かざるべし。もし縁が缺ける故にこの法が生まれないのなら、後に縁と出會つたときに法はまた必然的に起こる。これに因って、畢竟に起こらないものは、唯だ非擇滅のみであると知らねばならない。毘婆沙師はこのように説く。

論曰：『**法において得られるところとなつた滅を四句に作らねばならない。或は諸法において唯だ擇滅のみが得られる。それは何かと云えば、謂わく、諸々の（有）漏の過去、現在にある、可生法の法であると、等**』（於法得滅應作四句或於諸法唯得擇滅謂諸有漏過現生法）。

釋曰：略説するなら、一切有漏法のその相違の名が「擇滅」となる。一切有爲法のその生の相違を「非擇滅」と名づけた。「法において得られるところとなつた滅を四句に作らねばならない」（於法得滅應作四句）と云ったが、ここでは、一つの疑問の答えが四層となる。疑問は、ある法において擇滅が得られるならその法においてまた非擇滅も得られるのか？と云うものである。唯だ一つのみの答えを與えるものではない故、それで四句が成ずる。何故、唯だ一つのみの答えを與えるものではないのかと云うなら、この擇滅は唯だ有漏法のみを約して得られる。

3753 adqaγ は "dqq と綴られている。3757 qurulmïš <örlädmiš>の訂正前： ol qurulmïš <ardamïš>．いずれも「損惱」「損壞」などの意味をもつが、このテキストでは訂正形式の使用が多い。3768 この邊りは『倶舍論』からの引用文である。同じ内容が 3781 以降にも現れるが、そこでは azu「或は」は azu-ča．また ol qayu ol「それは何か」は現れない。3769 aqïγ-sïz「無漏」は aqïγ-lïγ「有漏」の誤りである。和譯では「有漏」とした。

3781 13 -i bular-nïng adïrt öngi ärür. bir täk ärmäz. 或於諸法 azu
3782 14 -ča ymä alqu nom-lar-ta yindäm bululur bilip öčmäk. qaltï alqu
3783 15 aqïγ-lïγ ärtmiš közünür ödki tuγdačï törü-lüg nom-lar ärür.
3784 16 teptemiš-i ärsär munda bululmaz bilmätin öčmäk. bu tuγmadačï
3785 17 törü-lüg nom-larïγ tuda bululur üčün bu ärtmiš közünür öd
3786 123b-1 -ki tuγdačï törülüg nom-lar ärür tuγ-a tükädmiš nom. kälmädük ödki
3787 2 nom-lar ken tuγar üčün. anïn bululmaz bilmätin öčmäk. aqïγ-lïγ
3788 3 teptemiš-i ärsär. adïrγalïr üčün ärür aqïγ-sïz-ïγ. aqïγ-sïz nom
3789 4 -ta bululmaz bilip öčmäk. aqïγ-sïz nom-lar mün-süz qadaγ-sïz ärür.
3790 5 taryaryalï tägimlig ärmäz üčün. bu aqïγ-lïγ nom bölünüp bolur
3791 6 iki türlüg. qaltï kkir-lig kirsiz 復有二種 yänä bolur
3792 7 iki türlüg. öz käzigindäki. adïn-lar-nïng käzigindäki. öz käzig
3793 8 -täki ärtmiš kälmädük ödki kirlig nom-lar-nïng. bilgä bilig üz-ä
3794 9 taryarmïš üčün anïng közünür ödki pirapdi-sïn. tanuq-layur
3795 10 bilip öčmäkig. adïn-lar-nïng käzigindäki kirlig ulatï öz-li
3796 11 adïn-lï-nïng käzigindäki kirlig ulatï öz-li adïn-lï-nïng käzig
3797 12 -indäki kirsiz bular üčägü-tä yumdaru üč ödki adqantačï niz
3798 13 -vanï-lar-nïng pirapdi-sïn taryarmïš üčün. bululur ol bilip öčmäk
3799 14 azu-ča ymä öz käzigindäki ärtmiš kälmädük ödki kirlig nom-lar
3800 15 -nïng. taryarmïš üčün anïng közünür ödki pirapdi-sïn bululur
3801 16 bilip öčmäk. azu-ča ymä taryaryalï bolduq-ta bu közünür
3802 17 ödki pirapdi-nïng pirapdi-sïn ymä ök bululur bilip öčmäk
3803 124a-1 munï üz-ä anïn söz-lämiš ol öz käzigdäki üč ödki nom-lar-nïng
3804 2 pirapdi-sïn taryarduq-ta bululur ol bilip öčmäk tep. 如何
3805 3 斷世得 nädägin taryarur üč ödki tägmäkig teptesär. baγ-tïn
3806 4 öngi üdrülgäli bolmaq-ïγ adamïš ol bilip öčmäk tep baγ ärsär
3807 5 qaltï alqu qošuγ-lar ulatï terin-ning quvraγ-nïng pirapdi-sï
3808 6 ärür. munung pirapdi-sï tägmäk tägmäkindin bolur. bu tägmäk tägmäki ymä
3809 7 ök ärür alqu qošuγ-lar-nïng terin-i quvraγ-ï taryarduq-ta niz-vanï
3810 8 -lar-nïng pirapdi-sïn ärtmiš kälmädük ödki-sindin bululur bilip
3811 9 öčmäk. taryarduq-ta ol tägmäk tägmäkin bululur közünür ödki
3812 10 bilip öčmäk. bu üsdünki-lär ärür bašdïnqï padak 或諸法
3813 11 azu-ča ymä alqu nom-lar-ta yindäm bululur bilmätin öčmäk. qaltï
3814 12 tuγmadačï törü-lüg aqïγ-sïz ediglig nom-lar ärür. teptemiš-i
3815 13 ärsär. munda bululmaz bilip öčmäk nädägin teptesär ärür üčün
3816 14 aqïγ-sïz basudčï-sï ägsük üčün bululur bilmätin öčmäk.
3817 15 tuγmadačï törülüg tegüči sav üz-ä tïdγalïr üčün ärür ärtmiš
3818 16 közünür ödkig. ulatï ken tuγdačï nom-larïγ. aqïγ-sïz tep
3819 17 temiš-i ärsär. tïdγalïr üčün ärür aqïγ-lïγ-ïγ. ediglig teptemiš
3820 124b-1 -i ärsär. tïdγalïr üčün ärür <aqïγ-lïγ-ïγ> ediglig teptemiš-i ärsär tïdar

非擇滅は有爲不生法を約して得られる。これに因りその答えは、（すなわち）これらの異なりであり、同一ではない（ことである）。「或は諸法において唯だ擇滅のみが得られる。謂わく有漏の過去、現在にある、可生法である」（或於諸法唯得擇滅謂諸有漏過現生法）と云った。ここでは非擇滅は得られない。これは不生法を約して得られるため（である）。この過去、現在世にある可生法は已に生まれた法である。未來世にある法は後に生まれる故に非擇滅は得られない。「有漏」と云ったのは、無漏を差別するためである。無漏法において擇滅は得られない。無漏法は無過失である。應に斷ずべからざる故に。この有漏法は二種に分けられる。謂わく、染と不染（である）。また二種となる。（すなわち）自らの相續にあるものと他らの相續にあるもの（とである）。自らの相續にある過去未來世の染汚法の中で、慧によってそれの現在世の得を斷じたために、擇滅を證する。他らの相續にある染、及び自と他との相續にある染、及び自と他との相續にある不染、これら三つにおいては通して三世にある能縁の煩惱の得を斷じたために擇滅が得られる。或は、自らの相續にある過去未來世の染汚法の中で、それの現在世にある得を斷じたために、擇滅が得られる。或は、この現在時にある得の得を斷ずることができたときにも、擇滅が得られる。これ以て、それで「自らの相續にある三世法の得を斷じたときに、擇滅が得られる」と説いたのである。如何にして三世にある得を斷じるのか？と云えば、繫より離れ得ることを「擇滅」と名づけた。繫は謂わく、諸結及び眷屬の得である。これの得は得得からなる。この得得もまた諸結の眷屬である。煩惱の得を斷ずることにおいて、過去、未來世から、擇滅が得られる。得得を斷じることにおいて、現在世の擇滅が得られる。この上のものらが最初の句である。

『或は、諸法において唯だ非擇滅のみが得られる。謂わく、不生法もてる無漏の有爲である』（或於諸法唯非擇滅謂不生法無漏有爲）と云った。

ここにおいては擇滅は得られない。如何にしてかと云うなら、無漏であるために、縁が缺けるために、非擇滅が得られる。「不生法もてる」と云う言によって、（ここでは）過去現在世にあるものを、及び當生の法を妨げるためである。「無漏」と云ったのは、有漏を妨げるためである。

3783. tuγdačï törü「生まれるべき法」＝「(可)生法」。「(可)生法」は元もと未來に所屬するが、何故かウイグル文は現在と過去のものとして扱っている：cf. 3785-3787. また、此處と 3786,3858 では tuγdačï törü-lüg nom-lar と書かれている。これは直譯すると「(可)生法の法」となるが、漢文では「生法」が對應している。ここでは「可生法」と和譯した。3812 bu üsdünki-lär ärür bašdïnqï padak「この上のものらが最初の句である」というのは、ここでは四句のうちの第一句の説明を終えたことを表す。3819~3820 ediglig teptemiš ärsär. tïdγalïr üčün ärür <aqïγ-lïγ-ïγ>「「有爲」といったのは有漏を妨げるためである。」は ediglig teptemiš ärsär. tïdγalïr üčün ärür edigsiz-ig「「有爲」といったのは無爲を妨げるためである」を訂正した文である。いずれにしてもここでは不要な文である。

3821 2 ol edigsiz-ig. tuγmadačï törü-lüg aqïγ-sïz ediglig teptemiš
3822 3 -i ärsär. kerdgünč eyin yorïdačï är-än-lär-ning tüz-ün yol-ï yügärü
3823 4 yorïduq-ta nom eyin yorïdačï-lar-nïng tüz-ün yol-ïnda bululur
3824 5 bilmätin öčmäk. kerdgünč eyin. yorïdačï-lar-nïng tüz-ün yol-ï altï
3825 6 orun-lar-ta bululur. qaltï tört töz tüp selu dyan tägmäz-känki
3826 7 tayaq dyan araqï dyan ärür. 若一地聖道現前 birök bir
3827 8 orun-ta tüz-ün yol yüüz yügärü bolsar. adïn beš orun-lar-ta
3828 9 bululur bilmätin öčmäk. munda yänä bu orun-taqï ämgäk-tä
3829 10 nom taplaγ-nïng tört uγur-ïnda qayu ärsär bir uγur-ï yüüz
3830 11 yügärü bolsar. ad'ïn üč uγur-larïnda bululur bilmätin öčmäk.
3831 12 ančulayu oq ämgäk-tä nom bilgä bilig ulatï yol-ta basaqï bilgä
3832 13 biligig bu yangča bolur bilgäli. ančulayu oq adïn yol-lar-nïng adïn
3833 14 nom-ta ulatï-lar-ta qïlγuluq törü-si ymä andaγ oq. bu üz
3834 15 -dünki-lär ärür ikinti padak 或於諸法 azu-ča ymä alqu
3835 16 nom-lar-ta birgärü bululur iki türlüg öčmäk-lär qaltï ol
3836 125a-1 tuγmadačï törü-lüg alqu aqïγ-lïγ nom-lar ärür teptemiš-i ärsär
3837 2 munda ärür üčün aqïγ-lïγ bululur ol bilip öčmäk ärür üčün
3838 3 tuγmadačï törü-lüg bululur bilmätin öčmäk. näčä bu nom-ta bir
3839 4 -gärü bululsar ymä iki öčmäk-lär. bir yindäm bir ödtä ärmäz
3840 5 azu-ča ymä ašnu bululup bilip öčmäk. ken bululur bilmätin
3841 6 öčmäk. azu-ča ymä ašnu bululup bilmätin öčmäk ken bululur
3842 7 bilip öčmäk. azu-ča ymä inčip birgärü bululur. ašnu bulu
3843 8 -lup bilip öčmäk. ken bululmaq-ï ärsär bilmätin öčmäk. qaltï
3844 9 arxant-lar-nïng köz ärklig-i biligi bir učluγ-ïn bir öngdä
3845 10 bolmïš ödtä adïn adqanγu-larïγ adqandačï biligdä bululur bilmä
3846 11 -tin öčmäk. bilip öčmäk ašnu bululu tükädmiš üčün. ašnu
3847 12 bululup bilmätin öčmäk. ken bululmaq-ï ärsär bilip öčmäk.
3848 13 如得忍者 qaltï taplaγ-ïγ bulmïš-lar. ayïγ ažun-ta bulur-lar
3849 14 bilmätin öčmäkig ken amranmaq-qa bodulmaq-tïn öngi üdrüldük
3850 15 -tä bulur-lar <ol bilip> öčmäkig. birgärü iki öčmäk-lär-ning bululmaq-ï
3851 125b-1 ärsär. qaltï körüm-kä tägmiš-lär öridip bulduq-ta bašdïnqï
3852 2 -ta bašdïnqï bölüklüg niz-vanï-lar-nïng yöründäkin. kälmädük ödki bašdïn
3853 3 -qï-ta bašdïnqï niz-vanï-lar-ta birgärü bululur iki öčmäk-lär. niz-vanï
3854 4 -larïγ taryarmïš üčün bululur ol bilip öčmäk. yiti ärklig-lig
3855 5 ärtüki üz-ä niz-vanï-larïγ birdämläti turγurmaz üčün bululur bil
3856 6 -mätin öčmäk. bu üsdünki-lär ärür üčünč padak 或於諸法
3857 7 azu-ča ymä alqu nom-lar-ta bululmaz iki öčmäk-lär. qaltï alqu
3858 8 aqïγ-sïz ärtmiš közünür ödkï tuγdačï törü-lüg nom-lar ärür
3859 9 teptemiš-i ärsär. ärür üčün aqïγ-sïz bululmaz bilip öčmäk. ärür
3860 10 üčün ärtmiš közünür ödki tuγdačï törü-lüg bululmaz bilmätin

「有爲」と云ったのは有漏を妨げるためである。「有爲」と云ったのは無爲を妨げる。「不生法もてる無漏の有爲」（不生法無漏有爲）と云った。隨信行者の聖道が現行したとき、隨法行者の聖道において非擇滅が得られる。隨信行者の聖道は六地において得られる。謂わく、四根本靜慮定、未至定、中間定である。もし一地において聖道が現前となるなら、餘の五地において非擇滅が得られる。ここでまた、この地にある苦法忍の四行相において、何であれ、一行相が現前となるなら、餘の三行相において非擇滅が得られる。このように苦法智、及び道類智をこのようにして知ることができる。そのように餘の道の、餘の法等における、所作法もまた然り。この上のものらは第二句である。

『或は、諸法において俱に二種の滅が得られる。謂わく、彼の不生法もてる諸の有漏法である』（或於諸法俱得二滅謂彼不生諸有漏法）と云った。

ここでは有漏であるために擇滅が得られる。不生法もてるものであるために非擇滅が得られる。如何にこの法において俱に二滅が得られても、唯一、一時においてではない。或は、先に擇滅が得られ、後で非擇滅が得られる。或は、先に非擇滅が得られ、後で擇滅が得られる。或は共に得られる。先に擇滅が得られ、後で非擇滅が得られるのは、謂わく、阿羅漢の眼根と識とが專ら一色にあるときに、餘の境などを緣ずる識において非擇滅が得られる。擇滅が先に已に得られたため（である）。先に非擇滅が得られて、後で擇滅が得られるのは謂わく、忍を得たものが惡趣において非擇滅を得る。後に欲に染まることから離れたときに擇滅を得る。共に二滅が得られるのは謂わく、見至らが上上品の煩惱の對治を起こして得たときに、未來時の上上の煩惱において共に二滅が得られる。煩惱を斷じたために、擇滅が得られるのである。利根もてるものであることによって、煩惱を永く起こさないために、非擇滅が得られる。この上のものが第三句である。

『或は、諸法において二滅が得られない。謂わく、諸々の無漏の過去、現在世にある、可生法もてる法である』（或於諸法不得二滅謂諸無漏過現生法）と云った。

無漏であるため擇滅は得られない。

3822 kerdgünč eyin yorïdačï är-än-lär「信に隨って行く士」＝「隨信行者」。3831 yol-ta basaqï bilgä bilig「道において次にある智」＝「道類智」。3833 anday は'nd'q と綴られている。 üstünki は üz-tünki と綴られているが、ここでsは zと發音されたのか。 Cf. üztün, Hamilton,J., *Manuscrits ouïgours du IX-X siècle de Touen-houang*, Tome II .p.224. 3850 bulur-lar <ol bilip> öčmäkig「擇滅を得る」の訂正前：bulur-lar <bilmätin> öčmäkig.「非擇滅を得る」。3854 yiti (< yitig) は yty と綴られている。 yiti ärklig「利根」。3865 üsdünki iki karik-ta「(この) 上の兩頌には」の「兩頌」とは『俱舍論』の「無漏謂道諦 及三種無爲」のことであろう。

3861 11 öčmäk. bu törtünč padak ärür tep 論 munï munčulayu söz-läyü
3862 12 tükädmiš boldï üč türlüg edigsiz-lärig tep. 釋曰 söz-läyü tükä
3863 13 -tmiš boldï tegüči sav-ta bar anda iki yörüg-lär. ang'bašlayu bilip
3864 14 öčmäkig yörmäk ken yörüp bilmätin öčmäkig ärtürmäk 此上兩
3865 15 頌 üsdünki iki karik-ta qavïr-a-sïnča bar tört abipiray-lar
3866 126a-1 ang'bašlayu yörär aqïγ-sïz nom-lar-nïng käzigin tizigin. basa yörär
3867 2 üč edigsiz-lär-ning öz töz-in. andaqï sav bölülüp üč bolur
3868 3 yumdarsar bolur tört abipiray-lar :: šasdr-ta öngdün söz-läti
3869 4 ärti. yol-uγ öngi kedärip adïn ediglig nom-lar-nïng munung
3870 5 adï bolur aqïγ-lïγ tep. qayu bolur ediglig tep 釋曰 qaltï
3871 6 bar bilmädük-lär aqïγ-lïγ nom qayu ärür tep. anïn sezik
3872 7 turγurup ayïtduq-ta. qaltï kikinč berü anga söz-lädi ärti ärür
3873 8 ediglig nom tep. olar yänä bilmämiš-kä ediglig nom qayu ärür
3874 9 tep. anïn yänä sezik turγurmïš ärür amtï kikinč
3875 10 bergälir üčün anga birlä yänä. ymä ök tudulduryalïr üčün
3876 11 ol öngdünki yol kerdüg. öngi kedärip ediglig nom-larïγ
3877 12 ulatï adïn alqu aqïγ-lïγ aqïγ-sïz alqu ediglig nom-lar-ta
3878 13 ulatï-larïγ anïn karikda kikinč berü söz-lämiš ol 又諸有
3879 14 為法 yänä ymä alqu ediglig nom-lar ärsär qaltï öngdä
3880 15 ulatï beš yükmäk-lär ärür. ymä ök öd yol-ï sav tayaq
3881 126b-1 -ï ünüš-lüg vasdu-luγ tep ulatï tep 論曰 öngdä ulatï
3882 2 beš yükmäk-lär ärsär. qaltï ang'bašlayu öng yükmäk. ulatï bilig
3883 3 yükmäk ärür. munï munčulayu beš türlüg nom-lar-ta tükäl tudulur
3884 4 ediglig nom-ta ulatï-lar tep 釋曰 yükmäk teptemiš-i ärsär ::
3885 5 qarïmaq iglämäk ölmäk-tä ulatï ada tuda-lïγ adruq-lar üz-ä kizläl
3886 6 -miš yïγïlmïš qurulmïš kävilmiš üčün anïn adï bolmïš ol yükmäk
3887 7 tep 言色等五蘊 öngdä ulatï beš yükmäk-lär teptemiš-i ärsär
3888 8 qamaγ basudčï-lar yïγïlïp terilip yumïdmaq-ïndïn bolmïš üčün bulduq
3889 9 -maz az-qy-a ärsär ymä nom bir basudčï-tïn tuγdačï ärür üčün ol uγuš-luγ
3890 10 kälmädük ödki-singä tïdïγ yoq süt täg odung täg tep 問 täk söz-lädüktä
3891 11 öngdä ulatï-lar tep munda bililü tükätdi ärti beš yükmäk ärtüki
3892 12 ikiläyü nägü ärür iišläšip söz-läp öngdä ulatï beš yükmäk-lär tep
3893 13 答 čxšapt-ta ulatï beš yükmäk-lär. ymä ök bolur beš türlüg. sezinmiš
3894 14 üčün munï birlä yamïrašγay tep. anïn söz-lämiš ol öngdä ulatï
3895 15 beš yükmäk-lär tep. 疏主云不然 ästiramati baxšï söz-lär ::
3896 127a-1 andaγ ärmäz. söz-lädükdä öngdä ulatï tep. bililü tükädür ärti
3897 2 ol čxšapt-ta ulatï yükmäk-ning ärmäz-i. nä kärgäk ärti yänä söz-läp
3898 3 beš yükmäk tegüči savïγ tep. 答 yörüg töz-indäki-čä ärsär yarašï
3899 4 andaγ oq ärür ymä tegü/täg :: 問應如是 kikinč mundaγ ärür ::
3900 5 bar sudur-ta yrlïqamïš-ï čxšapt dyan bilgä bilig üč yükmäk-lärig.

3876 öngdünki yol kerdüg. öngi kedärip ediglig nom-larïγ「以前の、道諦を除いて有爲法」とは、「除道餘有爲」のこと。3885(~3887) qarïmaq iglämäk から yükmäk tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：老病死等災横差別隱積損伏。故名爲蘊。(大正 Vol.29, p.332b)。3890 täk は tk と綴られている。3893 čxšapt-ta ulatï beš yükmäk-lär「戒等の五蘊」については3902~3904にその内容が述べられている：yänä bar sudur-ta yrlïqamïš-ï čxšapt dyan bilgä bilig ozmaq qudrulmaq. ozmaq qudrulmaq-ïγ bilmäk körmäk-tä ulatï beš yükmäk-lärig「また經には戒、定、慧、解脱、解脱智見等の五蘊を説かれたものも有る」。

過去現在世にある生法もてるものであるため、非擇滅は得られない。これが第四句である、と。

論：『このごとく已に三種の無爲を説いた』（如是已説三種無爲）と。　釋曰：「已に説いた」（已説）と云う言において、そこに二義が有る。（すなわち）初めに擇滅を釋すこと。後に非擇滅を釋し竟わらすこと。この上の兩頌には、略して四意趣が有る。（すなわち）最初に無漏法の次第を釋す。次に三無爲の自相を釋す。そこ（＝ 三無爲）にある言は分かれて、三となる。總ずるなら四つの意趣となる。

論に（曰く）：『前には道を除いて餘の有爲法の、これの名は有漏となると説いた。何が有爲となるのか？』（前説除道餘有爲法是名有漏何謂有爲）と。

釋曰：謂わく、有漏法が何であるか知らなかったものらが居る。それ故、疑いを起こして問うたとき、謂わくそれに對して有爲法であると答えて説いた。彼らはまた有爲法が何であるのか知らなかった（ために）、それ故また疑いを起こしたのである。今、それへ答えるために、竝びに以前の、道諦を除いて有爲法及び餘の一切の有漏無漏の諸有爲法等を攝せさせるために、それで本頌に答えて説いたのである。

『又諸有爲法は謂わく、色等の五蘊である。亦、世路、言依、有離、有事と等、と。論（じて）曰（く）、色等の五蘊は謂わく、初めの色蘊、乃至識蘊である。このごとき五種法において、具さに、有爲法等が攝せられる』（頌曰　又諸有爲法　謂色等五蘊　亦世路言依　有離有事等　論曰色等五蘊謂初色蘊乃至識蘊如是五法具攝有爲）と。

釋曰：「蘊」と云うのは、老、病、死等の災横の差別において隱積され損伏された故に、その名が「蘊」となつた。「色等の五蘊」（色等五蘊）と云った。

『衆緣が聚集し、共同して作した故、法は少なれども、一緣から生まれるものは無い。その類である故、未來世への妨げは無し、乳のごとく、薪のごとし』（衆緣聚集共所作故無有少法一緣所生是彼類故未來無妨如乳如薪）と。

問：「色等」と説いたときに、ここに「五蘊」であることが已に了ぜられた。更に、如何にして「色等の五蘊」と要して説くのか？と。答：戒等の五蘊もまた五種となる。これと混同するであろうと疑った故、それで「色等の五蘊」と説いたのである。安慧師が説く：その通りではない。「色等」と説くときに、已に戒等の蘊のものでないことは了ぜられる。何の必要でまた「五蘊」と云う言を説くのか？と。答：理としては、相應しい。答えはこのようである。（すなわち）經に戒、定、慧の三蘊を説かれたものがある。

3898~3899　yörüg töz-indäki-čä ärsär yaraši「理としては、相應しい」は yörüg töz-indäki-čä ärsär anday oq ärür「理としては、然り」に訂正されている。また、kikinč munday ärür「答えはこのようである」の前に sezik「問う」が書かれていたのを正しく削除している。sezik は先行漢字列「問應如是」の「問」に對應する。この「問」も實際には不要である。

3901 6 amtï adïrγalïr üčün munï. anïn söz-lämiš ol beš yükmäk-lär tep.
3902 7 yänä bar sudur-ta yrlïqamïš-ï čxšapt dyan bilgä bilig ozmaq qud
3903 8 -rulmaq. ozmaq qudrulmaq-ïγ bilmäk körmäk-tä ulaï beš yükmäk
3904 9 -lärig amtï yänä adïrγalïr üčün bular-nï urmïš ol öngdä ulatï
3905 10 tegüči savïγ tep 問 yänä täk söz-läsär öngdä ulatï beš tep
3906 11 ödrü bolur ärti nä kärgäk söz-läp yükmäk tegüči savïγ tep 答 munda
3907 12 yükmäk teptemiš-i ärsär. adïrγalïr üčün ärür öngdä ulatï
3908 13 beš adqanγu-larïγ 有爲者 ediglig teptemiš-i ärsär. nä üčün
3909 14 basa šasdr-ta söz-läti qamaγ basudčï-lar yïγïlïp terilip yumïdmaq
3910 15 -tïn bolmïš üčün. anïn adamïš ol ediglig tep. nädägin yïγïlur
3911 127b-1 terilür teptesär. qaltï bir ikinti-kä eyin udu tuγurur üčün iš
3912 2 -ig küdüküg. öngdünki padak üz-ä körgidür ediglig-ning töz-in. ken
3913 3 -ki padak üz-ä yörär ediglig-ning yörügin. azu-ča ymä qamaγ basudčï
3914 4 -lar yïγïlmaq terilmäk ärsär. munï munčulayu alqu basudčï-lar näčä
3915 5 inčip käntü käntü adïrïlsar ymä. azu-ča öd üz-ä öngi. orun
3916 6 üz-ä öngi ärsär ymä. bir ikinti-kä eyin udu. bir täk iš-lig
3917 7 küdüklüg üčün. adï bolmïš ol yïγïlmïš terilmiš tep. qaltï ärtmiš
3918 8 ödki köngül uγušï kälmädük ödki nom adqanγu tuγurur közünür
3919 9 ödki biligig 過去意 ärtmiš ödki köngül tüz arasïz basudčï
3920 10 bolup kälmädük ödki nom adqanγu-luγ adqanγu atlγ basudčï bolup
3921 11 yumïdmaq-ïndïn tuγar. közünür ödki bilig näčä üč öd-lär üz-ä
3922 12 adrïlsar ymä. iš-i küdüki birgärü bir täk ärür. yumïdmaq-ïndïn
3923 13 bolmïš üčün teptemiš-i ärsär. adqanγuγ adqanmaq-lïγ iš-i
3924 14 küdüki bir täk bir ödtä bolur üčün. qaltï köz ärklig ad
3925 15 -qanγu bilig-ning iši küdüki odγuraq bir ödtä bolur 問又但
3926 128a-1 言爲 yänä täk söz-läsär edig tep bililür ärti. bu qïlïlmïš
3927 2 tegüči sav-ta ediglig tep yörüg ärtüki. nädägin teptesär edigsiz-lär
3928 3 -ning yoq üčün iš-i küdüki. iš-i nägül söz-läp ediglig tep. 答
3929 4 uqïdγalïr üčün munung adqaγ-ï-nïng üküš tälim bolur-ïn anïn
3930 5 urmïš ol lïγ tegüči savïγ. munung uγrïnda šasdr-ta söz-lämiš ol
3931 6 bulduqmaz az qy-a ärsär ymä nom bir basudčï-tïn tuγdačï. anïn bu sav
3932 7 -qa tayaq-lïγ-ïn uqïdmïš ol. ol lïγ tegüči užikïγ anïn qaltï indraya
3933 8 -koš-ta karikda söz-lämiš täg 心心有四 köngül köngül-täki nom-lar tört
3934 9 basudčï-lar uγrïnda. iki dyan-lar täk üčägü-nüng uγrïnda. adïn-lar-ï
3935 10 iki basudčï uγrïnda tuγar. išvare-tïn ärmäz käzig tizig-tä ulatï
3936 11 -lar-tïn tuγar üčün tep. 論 bu ediglig nom-lar-nïng ymä ök adï ol öd
3937 12 yol-ï tep 釋曰問 ärtmiš közünür ödki-si-ning bululu tükädmäk
3938 13 üz-ä iš-i küdüki adï bolz-un ediglig tep. kälmädük ödki-si-ning
3939 14 bolmaduq ärip iš-i küdüki nädägin adatï ediglig tep. kikinč bergäli
3940 15 üčün bu sezik-kä. anïn šasdr-ta söz-lämiš ol. ärür üčün ol uγuš

今これを差別するために、それで「五蘊」と説いたのである。また經には戒、定、慧、解脱、解脱智見等の五蘊を説かれたものも有る。今またこれらを差別するために「色等」と云う言を置いたのである。問：また單に「色等の五」（色等五）と説くだけで、即ち可となる。何の必要で「蘊」と云う言を説くのか？と。答：ここで「蘊」と云ったのは、色等の五境を差別するためである。「有爲」と云ったのは、何故か？また論に説いた：「衆縁は聚集し、共同して作した故」（衆縁聚集共所作故）（と）。それ故に「有爲」と名づけたのである。如何にして「聚集」かと云うなら、謂わく、互いに隨順して作用を起こす故。前の句によって有爲の性を示す、後の句によって有爲の義を釋す。或は「衆縁が聚集すること」は、このように一切の縁が如何に即ち、各自差別されても、或は時によって異なっていても、地において異なっていても、互いに隨順し、單一の作用もてるため、その名が「聚集」となったのである。謂わく、過去世にある意界と、未來世にある法境とは現在世の識を起こす。過去世の意が等無間縁となり、未來世の法境が所縁縁となって、共同することから、現在世の識が生まれる。如何に三世によって差別されても、その作用は共に一つである。「共同して作した故」（共所作故）と云ったのは、境を縁ずるその作用が同一時において成ずる故（である）。謂わく、眼根を縁ずるべき識の作用は定んで一時に成ずる。問：又、只だ「爲」と言えば、この、「爲された」と云う言において「有爲」と云う義であることが了ぜられるのである。如何にしてかと云うなら、無爲にはその作用が無い故。その作用は如何にして「有爲」と言うのか？答：これの對象が多く有ることを顯わす故に、「有」と云う言を置いたのである。これに由って、論に説いたのである：「法は少なれども、一縁から生まれるものは無い」（無有少法一縁所生）（と）。それ故、この言に依って、その「有」と云う字を立てたのである。それで猶、根品において本頌に説いたごとし：「心心所法は四縁に由って、二定はただ三つに由って、餘のものは二縁に由って生まれる。自在天からではない。次第等から生まれる故」と。

論：『**この有爲法の、亦、その名は世路である**』（此有爲法亦名世路）と。

釋曰：已に過去、現在世のその作用が得られたことによって、その名は「有爲」となるべし、と。未來世にはその作用がなかったのに、如何にして「有爲」と名づけたのか？この疑問に答えるために、それで論に説いたのである：

3929~3930 anïn urmïš ol lïγ tegüči savïγ「それで「有」という言を置いたのである」。「有」は接尾辭-lïγ（・・もてる）によって表わされている。ここでは「有爲」 edig-lig の「有」が-lig で表されることによる。 cf.4128. 3933(~3936) köngül köngül-täki nom-lar から tuγar üčün tep までは『倶舍論』巻七の内容に對應する：心心所由四二定但由三餘由二縁生非天次等故(大正 Vol.29, p.37c)。3935 išvare < Skt. Iśvara「自在天」。

3941 128b-1 -luγ kälmädük ödki-singä tïdïγ yoq süd täg odung täg. saγ-a tükäd
3942 2 miš-i-ning saγmaduq-ï-nïng barča-nïng adï bolmïš täg süd tep köy-ä
3943 3 tükädmiš-i-ning köymädük-ning yumdaru adï bolmïš täg odung tep ärür
3944 4 üčün ol uγuš-luγ 有爲亦尓 ediglig nom-lar-nïng ymä andaγ oq
3945 5 tuγ-a tükädmiš-i-ning tuγmaduq-ï-nïng barča-nïng adï bolur ediglig tep.
3946 6 ärür üčün ol uγuš-luγ. ol uγuš-luγ teptemiš-i ärsär. qaltï edig
3947 7 -lig nom-lar-nïng tuγmaq-ta ulatï bälgü-lär-i. kim öngi ärür edigsiz-ning
3948 8 bälgü-sindä ol ämgäk ürlügsüz bälgü ärür anïng uγuš-ï tep. 論此
3949 9 bu ediglig nom-lar-nïng ymä ök adï ol öd yol-ï tep. öngrä yorïmïš amtï
3950 10 yorïp turur ken yorïdačï töz-lüg azu-ča ymä ürlügsüz-nüng singirgü
3951 11 -lük ašaγuluq-ï üčün tep. 又 azu-ča ymä bolur üčün ürlügsüz-kä singirgü
3952 12 -lük ašaγuluq tep ymä/ter bu oqïš 正/ol (釋曰問) adï ködrülmiš yol ol
sudur-lar-ta yrlïq
3953 13 -amïš ol ediglig edigsiz nom-larïγ munda öngi ikiläyü yoq angayu nom
3954 14 tep. bu öd-tä ulatï nom-lar azu bu ediglig mü ol. azu bu
3955 15 edigsiz mü ol tep kikinč bergälir üčün bu sezik-kä anïn
3956 129a-1 šasdr-ta karikda söz-lämiš ol 亦世路言 ymä ök öd yol-ï
3957 2 sav tayaq-ï ünüš-lüg vasdu-luγ tep ulatï tep. bular barča edig
3958 3 -lig nom-lar-nïng niz-nk adï ärür. sudur-ta yrlïqamaq-ï ärsär munda
3959 4 -ta ulatï ediglig nom-lar-nïng niz-nk adïn. kim tïnlγ-larïγ azïdturmaγalïr
3960 5 yangïldurmaγalïr üčün ärür. 言世者 öd teptemiš-i ärsär bar iki
3961 6 türlüg yörüg-lär. ang'ilki yorïγuluq tep yörüg'ol. ikinti singirgülük
3962 7 ašaγuluq tep yörüg'ol. qayu ol ediglig nom-lar-nïng yorïγuluq yörügi tep
3963 8 tesär. anïn šasdr-ta söz-lämiš ol ymä ök (adï ol) öd yol-ï tep. öngrä
3964 9 yorïmïš amtï yorïyu turur ken yorïdačï töz-lüg üčün. munung adï bolur
3965 10 ediglig nom-lar-nïng yörïγuluq yörügi tep. qayu ol ediglig nom-lar-nïng
3966 11 singirgülük ašaγuluq yörügi teptesär. anïn šasdr-ta söz-lämiš ol azu
3967 12 -ča ymä bolur üčün ürlügsüz-kä singirgülük ašaγuluq tep. bu oq inčip
3968 13 ärür ediglig nom-lar-nïng singirgülük ašaγuluq yörügi tep. 此二何義
3969 14 bular ikigü-nüng nägül yörügi teptesär. azu-ča ymä bar taš azaq nomluγ-lar
3970 15 adqanur-lar öd ürlüg ärür tep. amtï söz-lämäki ärsär bu yörügüg tïdγalïr
3971 129b-1 üčün ärür olar-nïng adqaγ-ïn. beš yükmäk-tä taš öngi yoq angayu öd tep.
3972 2 問 bu ediglig nom-lar kälmädük ödtin aqïlïp kirdüktä közünür öd-kä bolur
üčün
3973 3 tägšilmäk qïyïlmaq-ï. adï bolz-un singirgülük ašaγuluq tep. ärtmiš ödki
3974 4 öčä tükädmiš-i-ning. kälmädük ödki tuγmaduq-ï-nïng nädägin adï bolur
3975 5 singirgülük ašaγuluq tep. 答 ärür üčün ol uγuš-luγ. inčä qaltï lenxu-a
3976 6 čačäk-ning ačïlu tükädmiš-i-ning. ačïlmaduq-ï-nïng barča-nïng adï bolmïš täg
3977 7 üčün lenxu-a čačäk tep. anïn mün qadaγ bolmaz tep. 問 üsdünki yorïγuluq
3978 8 yörüg üz-ä yörsär öd yol-ïn. bu yörüg tängikmäz yorïyu turur-ïn šu bulz

「その類のものである故、未來世への妨げは無い、乳のごとく、薪のごとし」（是彼類故未來無妨如乳如薪）（と）。已に搾ったもの、未だ搾らないもの、全ての名が「乳」となったごとし。已に燃えたもの、未だ燃えていないもの、通してその名は「薪」となつたごとし。その類のものである故に。有爲のものも亦然り。已に生まれたもの、未だ生まれていないもの、全ての名が「有爲」となる。その類のものである故に。「その類のもの」（彼類）と云った。謂わく、有爲法の生等の相は、無爲の相とは異なっている。その苦や無常相がそれの類である、と。

論：『この有爲法の、亦、その名は世路であると。已行、正行、當行の性もてる（故に）、或は、無常に呑食されると所となる故に』（此有爲法亦名世路已行正行當行性故或爲無常所呑食故）と。

釋曰：世尊道はその經において有爲、無爲の法を「これより他に、更に別の法は無い」と説かれたのである。この世等の法は、或はこれは有爲なのか？或はこれは無爲なのか？と。この疑問へ答えるために、それで論において本頌に説いたのである：「亦、世路、言依、有離、有事と等」（亦世路言依　有離有事等）、と。これら全ては有爲法の異名である。經に、これ等有爲法の異名を説かれたのは、衆生を誤らせないためである。「世」と云ったが、二種の義が有る。第一は「行」と云う義である。第二は「呑食される所」と云う義である。有爲法の行の義は何であるのか？と云えば、そこで論に「亦、その名は世路である」（亦名世路）と説いたのである。已行、正行、當行の性もてる故に、これの名は「有爲法の行の義」となる。有爲法の「呑食される所」（所呑食）の義は何であるのか？と云えば、そこで論に「或は、無常に呑食される所となる故」（或爲無常所呑食故）、と説いた。これが即ち「有爲法の呑食される所」の義である、と。これら二つの義は如何なるものか？と云うなら、或は、外邪法もてるもの有り。（彼らは）世は常であると計する。今この義を説くのは、彼らの計度を妨げるためである。五蘊より他に別の世は無い、と。問：この有爲法が未來から現在へ流入するときに變壞するものとなる故、その名は「呑食される所」となるべし、と。過去世の已に滅したものや、未來世の未だ生まれないものの名が如何にして「呑食されるところ」となるのか？と。答：その類に屬する故。ちょうど、蓮の華の已に開いたもの、未だ開かないもの、全ての名が「蓮華」となったごとき故。それで過失とはならない、と。問：上の所行の義によって世路を釋すなら、この義は齊わない。（この場合は）正行を得るべし。

3948 ウイグル文中漢字列の「論此」は訂正されている：訂正前；釋曰問論此。3950(~3952) azu-ča ymä ürlügsüz-nüng singirgü-lük ašayuluq-ï üčün「或は、無常が呑食する所のもの故に」は「又・・ymä/ter」によって、azu-ča ymä bolur üčün ürlügsüz-kä singirgü-lük ašayuluq tep「或は、無常に呑食されると所となる故に」に訂正されている。ここでは訂正文を採用した。なお、bu oqiš 正 ol「この讀み方は正しい」は、文中の訂正文に對して、その訂正が正しいことを述べたものである。實際には bu oqïš köni ol と讀まれたにちがいない：cf.2930. 3952 adï ködrülmiš yol =「世尊道」（道は「言う」の意。「世尊が言われたところの」の意。中村 p.819）。3978 šu については、622 注を參照。

3979 9 -un yorïγuluq yörüg üz-ä yörsär yol tep. öngrä yorïmïš-ïn kenkisin nädägin
3980 10 yorïγuluq yörüg üz-ä yördi yol tep. 答 bu ymä ök münsüz qadaγ-sïz ärür
3981 11 qaltï söz-lämiš täg andaγ-ta ulatï-lar bu yol-tïn tägä tükätdi-lär ol ol
3982 12 balïq-qa uluš-qa tep. 又言 yänä söz-läsär amtï bu yol-qa tayaq-lïγ-ïn
3983 13 bolur täggäli andaγ suzaq-qa. andaγ orun-qa tep. bu näčük'ol bolmaz mu öngrä
3984 14 yorïmïš ken yorïγuluq-nung yörügi tep. 論 azu-ča ymä adï ol sav
3985 15 tayaq-ï tep. sav ärsär qaltï söz-lägülük sav ärür. munung tayaq-ï ärsär
3986 130a-1 bu oq inčip ärür ad birlä yörüglüg. munï munčulayu sav tayaq-ïnda tükäl
3987 2 tudulur alqu ediglig alqu nom-lar. birök andaγ ärmäsär qaršï bolγu
3988 3 kärgäk pirakaranapat šasdr-ta söz-lägüči-kä. anda söz-lämiš ol sav tayaq-ïnda
3989 4 säkiz ygrmi uγuš-lar tudulur tep. 釋曰 sav ärsär iki vibakdi üz-ä yör
3990 5 -miš kärgäk. šasdr-ta söz-lämäki üz-ä sav ärsär qaltï söz-lägülük sav ärür
3991 6 tep. bu oq inčip ärür ang'ilki ol tegüči vibakdi 以彼語言 anï üz-ä
3992 7 söz-läyür sav. bu oq inčip ärür üčünč üz-ä (tegüči) vibakdi. sav ärsär ün birlä
3993 8 birgärü uquldačï ärür. uγrayu bolur uqï(t)dačï ad bu sav-nïng tayaq-ï ärsär
3994 9 qaltï ad üčün. anïn šasdr-ta käntü söz-lämiš ol. munung tayaq-ï ärsär
3995 10 qaltï ad ärür birlä yörüglüg tep. tayaq ärsär munda adqanγu tep yörüg'ol.
3996 11 ymä (ök) munda tayanγuluq tep. yörüg'ol adqanγu ärsär ad ärür söz-lägülük sav
3997 12 üz-ä uqγuluq-nung adqanγu-sï. tayaq ärsär ad-nïng bilgä bilig-kä tayaq
3998 13 bolmaq-ï ärür. sav ad-qa tayaq-lïγ(-ïn) ävrilmäk tïldaγ-ïnda. bu bolur adqanγu
3999 14 bolmaq-lïγ yörüg tep. 問所説言依 qayu söz-lägüči sav tayaq-ï
4000 15 yindäm bolur iki nom-lar. ang'ilki ün ikinti ad ärür ad-ta nädägin
4001 130b-1 uyur tudulγalï alqu ediglig nom-lar tep kikinč bergälir üčün bu sezik
4002 2 -kä anïn šasdr-ta söz-lämiš ol. munï munčulayu sav tayaq-ïnda tükäl tudu
4003 3 -lur alqu ediglig nom-lar tep. 又問 nädägin bolur bilgäli munï munčulayu
4004 4 sav tayaq-ïnda ad yörüg birlä. birlä bolur-ïn tep. 答 bolur bir
4005 5 ikinti-kä tudulušmaq-ï qaltï šasdr-taqï užik-lär vyančan-lar
4006 6 yörüg-kä tayaq bolmaq üz-ä. yumdaru adï bolmïš täg šasdr tep ::
4007 7 ančulayu oq ymä ad birlä yörüglüg bolmaq üz-ä yumdaru adamïš ol
4008 8 sav tayaqï tep. 問何以得知 qayu tïldaγ-ïn bilgäli bolur yörüg
4009 9 birlä-ki ad-nïng sav tayaq-ï bolup. yörügsüz ad-nïng sav tayaq
4010 10 -ï bolmaz-ïn tep. kikinč bergälir üčün bu yörüg-kä. anïn vasubandu
4011 11 baxšï söz-lämiš ol. birök andaγ ärmäsär qaršï bolγu kärgäk
4012 12 pirakaranapat šasdr-ta söz-lägüči-kä. anda söz-lämiš ol sav
4013 13 tayaq-ïnda säkiz ygrmi uγuš-lar tudulur tep. birök anda yindäm
4014 14 ad (oq) bolup. ad birlä bolmaz yörüg teptesär. ödrü ün-li nom-lï
4015 15 iki uγuš-lar oq tudulup. säkiz ygrmi uγuš-lar tüzü tudulmaγu

所行の義によって「道」と釋すなら、已行や當行を所行の義によって如何にして「道」と釋したのか？と。答：これもまた過失は無い。猶、某等が、この道からあの町や國へ已に至ったのであると説くがごとし、と。又、今この道に依つて、某村や某地へ至ることができると言うのなら、これはどうして已行や當行の義とはならないのか？と。

論：『或はその名は言依であると。言は謂わく、語るところの言（語言）である。これの所依はこれ即ち、名と俱に義もてるものである。このごとく、言依において、一切有爲の諸法が具に攝せられる。もし爾ずんば、品類足論において説く所に違とならねばならない。そこで、言依において十八界が攝せられると説いたのである』（或名言依言謂語言此所依者即名俱義如是言依具攝一切有爲諸法若不爾者應違品類足論所説彼説言依十八界攝）と。

釋曰：「言」は二つの格によって釋さねばならない。論に、「言は謂わく、語るところの言である」（言謂語言）と説くことによって、これ即ち第一の主格である。「それで以って、言が語る」。これ即ち第三の具格である。言は聲と俱に理解されるものである。まさに「能顯の名」となる。この「言の依」（言依）はちょうど名の故に、論に自ら説いたのである：「これの所依は即ち、名と俱に義もてるものである」（此所依者即名俱義）と。「依」はここでは「境」と云う義なのである。またここでは「依る所」と云う義なのである。境は、名が語るところの言によって理解するところの境である。「依」とは、名が慧への依となることである。言が名に依って轉ずることに因って、これが境となることの義となる、と。問：所説の「言依」は唯だ二法のみとなる。第一は聲、第二は名である。名において如何にして一切有爲法が能く攝せられるのか？と。この疑問に答えるために、それで論に「このごとく、言依において一切有爲法が具に攝せられる」（如是言依具攝一切有爲諸法）と説いたのである。又問：如何にして、このように言依において、名が義と俱になることを能く知るのか？と。答：互いに攝せられ合うことになる。猶、論にある文が義への依となることによって、通してその名が「論」となったごとし、と。そのように名と俱に義もてるものとなることによって、通して「言依」と名づけたのである。問：何に因って、義を俱した名の言依が有って、無義の名の言依が無いことを能く知るのか？と。この義へ答えるために、それで世親師は説いたのである：「もし爾ずんば、品類足論において説く所に違とならねばならない。そこで、言依において十八界が攝せられると説いたのである」（若不爾者應違品類足論所説彼説言依十八界攝）と。もしそこに唯だ名のみがあつて、名が義と俱とならないと云うなら、即ち、聲と法との二界のみが攝せられて、必然的に十八界が遍く攝せられないこととなる。

3991　ol tegüči vibakdi「それ(は)という格」＝主格。

4016 131a-1 kärgäk. bu ad birlä yörüglüg bolmaq üz-ä bu ediglig-ning yörügindä
4017 2 tüzü säkiz ygrmi uγuš-lar bolur üčün. anïn söz-lämiš ol munï
4018 3 munčulayu sav tayaq-ïnda tükäl tudulur alqu ediglig alqu nom-lar tep
4019 4 有餘师説 bar adïn baxšï-lar söz-lär sav tayaq-ïn. sav ärsär
4020 5 yänä sav söz ärür. inčip bu sav-ta bolur ün. bolur ad bu ad-lï
4021 6 ün-li ikigü-nüng yumdaru adï bolur sav tep. tayaq ärsär edig
4022 7 -lig-ning yörügi ärür. birök mundaγ yörsär qaršï bolmaz pirakaranapat
4023 8 šasdr-ta söz-lägüči-kä. ikiläyü tägimlig ärmäz söz-lägäli ad-nïng yörüg
4024 9 birlä. birlä bolur-ïn. birlä bolmaz-ïn tep. 疏主云 ästiramati baxšï
4025 10 söz-lär. sodurandike ni'kay-lïγ alqu baxšï-lar söz-lär. ad ärsär
4026 11 uyur adïrγalï ün-üg bu ad bolur sav. tayaq ärsär qaltï bu ün
4027 12 ärür. ad üz-ä uqγuluq-nung yörügi 又 tayaq ärsär qaltï bu ün
4028 13 -li ad-lï-nïng yörügüg uqïdmïš-taqï-sï ärür ymä/ter. bu ad bolur tayaq
4029 14 birök mundaγ yörsär ödrü qaršï bolmaz pirakaranapat šasdr-ta söz
4030 15 -lägüči-kä. ymä ök tägimlig ärmäz söz-lägüči ad-nïng yörüg birlä. birlä
4031 131b-1 bolur-ïn. birlä bolmaz-ïn tep. 問若名与義 birök ad yörüg
4032 2 birlä bolmaq üz-ä sav tayaq-ï bolur teptesär. edigsiz-lär-ning ymä
4033 3 ök bolur adï yörügi nädägin adï bolmaz sav tayaq-ï tep 答 sudur
4034 4 -ta yindäm yrlïqamïš ol üč öd-lär-tä tüšdäči-si ärsär sav
4035 5 tayaq-ï bolur tep. yänä bu sudur-ta yrlïqamïš ol inčä tep.
4036 6 toyïn-lar-a sav tayaq-ï bolur üč. tört-süz beš-siz. kim bolγay
4037 7 bilgä-lär-tä körmiš yörüg tïldaγ-ïnda. söz-läyü turur-uγ ken söz
4038 8 -lägülüküg söz-lädäči. äšidmäk (bilmäk) tuymaq-ta ulatï-lar ymä
4039 9 andaγ oq. söz-läyü turur-uγ ken söz-lägülüküg söz-lädäči 何者各
4040 10 三 qayu-nung adï bolur üč teptesär. qaltï ärtmiš ödki sav
4041 11 tayaq-ï kälmädük ödki sav tayaq-ï. közünür ödki sav tayaq-ï tep.
4042 12 anïn bilmiš kärgäk sudur-ta yindäm yrlïqamïš ol ediglig nom-lar ärür
4043 13 sav tayaq-ï tep. yrlïqamamïš ol edigsiz-lär-ning sav tayaq-ï bolur
4044 14 -ïn tep. 問 näčük'ol edigsiz-lär-ning ymä ök bolmaz mu sav üz-ä
4045 15 söz-lälmäki sav-qa tayaq-lïγ-ïn uqulmaq-lïγ yörügi 何故經
4046 132a-1 中 nä üčün sudur-ta yrlïqamadï ol yörügüg bolur sav tayaq-ï tep
4047 2 ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï kikinč berü bu sezik-kä söz-lär ::
4048 3 ol yörüg-nüng ad birlä bolmaz üčün birlä bolmaq-lïγ yörügi. qaltï
4049 4 söz-lägüči sav tayaq-ï ärsär. ad ärür birlä yörüglüg. birök yörüg
4050 5 -üg ad birlä bolsar birlä bolur tep söz-lägäli. uqïdmïš ol bolur
4051 6 sav tayaq-ï tep. adï ödrü ötdä tüšdäči ärip. yörügi ödrü
4052 7 öd-tin öngi üdrülmiš ärür. nädägin teptesär edigsiz yörügüg
4053 8 ediglig ad birlä bolmaz birlä bolur tep söz-lägäli. bolmaz üčün
4054 9 birlä bolmaq-lïγ yörügi uqïdmamïš ol sav tayaq-ï bolur tep ödtä
4055 10 tüšmiš-i-ning öd-tin öngi üdrülmiš-i-ning bolmaz üčün birlä

この名と倶に義をもつものとなることによって、この有爲の義において遍く十八界となる故、それでこのように、「言依において一切有爲の諸法が具に攝せられる」と説いたのである。有餘師が言依を説く：「言」は又、言語である。即ちこの言において聲が成じ、名が成ずる。この名と聲との二つを總じた名が「言」となる。「依」は有爲の義である。もしこのように釋すなら、『品類足論』において説くものに違とはならない。名が義と倶となることや、倶とならないことを更に説くべからず、と。安慧師が説く：經量部の諸師は「名は能く聲を差別する。この名が「言」となる。「依」は謂わく、この聲が名によって理解されるところの義である。この名が「依」となる」（と）説く。もしこのように釋すなら、即ち『品類足論』において説くものに違とはならない。又、名が義と倶となることや、倶とならないことを應に説くべきではない、と。問：もし名が、義に倶となることによって「言依」となる、と云うなら、無爲にも名や義がある。如何にしてその名は「言依」とならないのか？と。答：經には唯だ「三世に墮するものは言依となる」とのみ説かれた。またこの經には次のようにも説かれた：「比丘らよ、言依は三となる。四無し、五無し。賢者らにおいて觀じた義の因によって、正に説いているものと、後に説く所のものとを、説くものとなるであろう。聞くこと、知ること、覺ること等もまた然り。正に説いているものと、後に説く所のものとを説くものである。何の名が三となるのか？と云えば、謂わく、過去の言依、未來の言依、現在の言依」と。それ故、經においては唯だ「有爲法は言依である」とのみ説かれたと、知らねばならない。無爲の言依が有ることを説かれなかったのである、と。問：無爲が言において言われること、言に依って了ぜられることの義は如何にして成じないのか？經には「義が言依となる」と何故説かれなかったのか？と。尊者衆賢師がこの疑問に答えて説く：彼の義には名と倶となる理がない故に。謂わく、所説の言依は名と倶となる義もてる。もし義を名と倶となると説き得るなら、言依と爲すと立てた。その名は即ち墮世であり、その義は即ち離世である。如何にしてかと云うなら、無爲の義を有爲の名と倶となるとは説き得ない。倶となるべき義がないため、言依となるとは立てなかった。

4026~4028 tayaq ärsär qaltï bu ün ärür ad üz-ä uqyuluq-nung yörügi「「依」は謂わく、この聲が名によって理解されるところの義である」は tayaq ärsär qaltï bu ün-li ad-lï-nïng yörügüg uqïdmïš-taqï-sï ärür「「依」は謂わく、この聲と名との義を理解したところにあるものである」に訂正されている。4036 sav tayaq-ï bolur üč. tört-süz beš-siz「言依は三となる。四無し、五無し」は『順正理論』巻一の内容に對應する：言依有三無四無五（大正 Vol. 29, p.332c）。4038 äšidmäk (bilmäk) tuymaq-ta ulatï-lar ymä anday oq「聞くこと、知ること、覺ること等もまた然り」の訂正前：äšidmäk tuymaq <bilmäk>-tä ulatï-lar ymä anday oq「聞くこと、覺ること、知ること等もまた然り」。4040~4041 qayu-nung adï bolur üč teptesär. qaltï ärtmiš ödki sav tayaq-ï kälmädük ödki sav tayaq-ï. közünür ödki sav tayaq-ï tep「何の名が三となるのか？といえば、謂わく、過去の言依、未來の言依、現在の言依、と」。この内容は『阿毘達磨集異門足論』巻第三の内容と對應する：三言依者。謂過去言依未來言依現在言依。（大正 Vol.26, p.378c）。4048 (~4056) ol yörüg-nüng ad birlä bolmaz から bolmaq-lïy yörügi tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：彼義與名無俱理故。如説言依。謂名俱義。若義與名可俱説者。立爲言依。以無爲義與有爲名不可俱説。無俱義故不立言依。墮世離世無俱理故。（大正 Vol.29, p.332c）。

4056 11 bolmaq-lïγ yörügi tep. 疏主云 ästiramati baxšï söz-lär. birök
4057 12 ad yörüg birlä bolmaq üz-ä temin ök bolsar uqïdγalï sav tayaq-ï
4058 13 bolur tep. bu ediglig-ning adï yörügi ymä ök birlä bolmaz nädägin
4059 14 tepdesär. ediglig nom-lar üč öd-lär-tä aqïlur ävrilür 或名在現
4060 15 在 azu-ča ymä adï tursar közünür ödtä yörügi turur ärtmiš
4061 132b-1 kälmädük ödtä azu-ča ymä adï tursar ärtmiš kälmädük ödtä
4062 2 yörügi turur közünür ödtä nädägin teptesär ad-lï yörüg-li
4063 3 birgärü bolmaz üčün. ymä ök adï bolmaγu kärgäk sav tayaq-ï tep
4064 4 munï üz-ä anïn bilmiš kärgäk. ad yörüg birlä bolmïš üčün ada
4065 5 -mïš ol sav tayaq-ï tesär anïng yörügi andaγ ärmäz tep. bar
4066 6 adïn baxšï-lar söz-lär. birök bu orun-ta üč bölük-lärig bolsar
4067 7 bulγalï uqïdmïš ol sav tayaq-ï bolur tep. 三分者何 üč
4068 8 bölük-lär qayu ol teptesär. qaltï ad yörüg sav ärür. edigsiz
4069 9 yindäm yörüg ök üčün anïn sav tayaq-ï ärmäz tep. ästiramati
4070 10 baxšï söz-lär. bu söz-lämiš-ingiz-lär mün-lüg qadaγ-lïγ ärür. öng
4071 11 -tünki täg bular üčägü birök birlä bolmaq üz-ä bolsar uqïdγalï.
4072 12 sav tayaq-ï bolur tep. ediglig-tä bular üčägü ymä ök birgärü bolmaz
4073 13 ymä ök uqïdmaγu kärgäk sav tayaq-ï bolur tep. 此亦不言
4074 14 munda ymä ök söz-lämämiš ol qayu tïldaγ-ïn üč türlüg yörüg-lär
4075 15 tükäl bolmïš üčün uqïdïp sav tayaq-ï bolur tep. bir-i iki-si
4076 133a-1 tükäl bolmamaq tïldaγ-ïnda anïn munda uqïdmatï sav tayaq-ï bolur tep
4077 2 anïn bu söz-lämiš-ingiz-lär-ning yörügi ymä ök büdmäz tep. ayaγ
4078 3 -qa tägimlig sanggabadre baxšï (tardïp sudur-uγ) söz-lär sav tayaq-ï bolur üč tört-süz
4079 4 beš-siz. tört-süz teptemiš-i ärsär. öngdünki üčägü-tä taš tïdγalïr üčün ärür
4080 5 taš azaq nomluγ-lar-nïng öd mänggü ol tegüči adqaγ-ïn. beš-siz teptemiš-i
4081 6 ärsär birlä yänä tïdar edigsiz-lärig tep. 疏主云 ästiramati baxšï söz
4082 7 -lär. birök edigsiz-lär čïnkertü bar ärip. söz-läsär čïnkertü adï ködrülmiš
4083 8 tïdmïš ol tep. ol yörüg tapladïlur andaγ bolz-un. birök edigsiz-lär čïn
4084 9 -kertü yoq ärip. amtï söz-läsär adï ködrülmiš tïdmïš ol tep. munï
4085 10 čïnγaru saqïnmïš-ïngïz-lar kärgäk tep. bar adïn baxšï-lar söz-lär. ol edig
4086 11 -lig-lärig tuda uqïdmïš körgidmiš ol edigsiz-ig. ükmäk öčmäki-ning
4087 12 adï bolur öčmäk tep. öčmäk sav tayaq-ï ärmäz. sav tayaqï ärür ük
4088 13 -mäk. tïdïp ol tuγdačï nom-larïγ birdämläti tuγurmamaq-nïng adï bolur
4089 14 öčmäk tep ol tuγdačï nom-lar ärür sav tayaq-ï. öčmäk sav tayaq-ï
4090 15 ärmäz. tïdïγ-sïz tuduγ-suz töz-lügi bolur kök qalïq. tïdïγ-sïz ärsär
4091 16 tïdïlmaz öng-lär-tä. öng ärür. (sav tayaq-ï. kök qalïq) sav tayaq-ï ärmäz 所是无為言
4092 133b-1 munda edigsiz tegüči savïγ barča ediglig-ning uγur-ïn tuda söz-lämiš ol.
4093 2 bu tïldaγ-ïn ediglig yindäm ärür sav tayaq-ï. edigsiz-lär ärmäz tep

墮世と離世のものは俱となる理とはならないため（である）、と。安慧師が説く：もし名が義と俱となることによって、方に言依となると立て得るなら、この有爲の名は義とも俱とならない。如何にしてか、と云えば、有爲法は三世において流轉する。或はその名が現在世に住するなら、その義は過去未來世に住する。或はその名が過去未來世に住するなら、その義は現在世に住する。如何にしてかと云えば、名と義とは共には成じないために。その名も必然的に言依とはならない、と。これによってそこで「名が義と俱となったため、言依と名づけたと云えば、それの義はその通りでない」と知らねばならない。有餘師が説く：もしこの處において三分を得ることができたなら、言依となると立てたのである。三分とは何か？と云うなら、謂わく、名、義、語である。無爲は唯だ義のみの故に、言依ではない、と。安慧師が説く：この汝らの説いたものは過失である。先のもののごとく、これら三つがもし俱となることによって、言依となると立て得るなら、有爲においては、これら三つは俱とならない。また言依となると立てるべきではない、と。ここで亦何に因って、「三種の義が具となったために言依となると立てて、その一つ、二つが具わらないことに因って、それでここには言依となると立てなかった」と説かなかったのか？。それ故に、この汝らの説いたものの義もまた完成しない、と。尊者衆賢師は經を引いて説く：「言依は三となる。四無し、五無し」。「四無し」と云ったのは、先の三つより他の、外邪法もてるものらの「世は永遠である」と云う計度を妨げるためである。「五無し」と云ったのは、併せて無爲を妨げる（ため）、と。安慧師が説く：もし「無爲は眞實に有であり、如實に世尊が妨げた」と説くなら、その義は許される。そうあるべし。もし今「無爲は眞實に無であり、世尊が妨げた」と説くなら、これを汝ら審慮せねばならない、と。有餘師が説く：その有爲を約して、無爲を顯示した。「蘊の滅」の名は「滅」となる。滅は言依ではない。言依は蘊である。その生法を妨げて畢竟不生の名が「滅」となる、と。その生法が言依である。滅は言依ではない。無障礙の性もてるものは虛空である。無障は色において妨げられない。色は言依である。虛空は言依ではない。ここでは「無爲」と云う言を、全て有爲の場合を約して、説いたのである。これに因って唯だ有爲のみが言依であり、無爲（は言依）ではない、と。

4065(~4069) bar adïn baxšï-lar söz-lär から anïn sav tayaq-ï ärmäz tep までは『順正理論』卷一の内容に對應する：復有釋言。若於是處三分可得。立爲言依。謂依義語。無爲唯義。故非言依。(大正 Vol.29, p.332b)。4078(~4079) sav tayaq-ï bolur üč tört-süz beš-siz「言依は三となる。四無し、五無し」。この内容は『順正理論』卷一の内容に對應する：言依有三。無四無五。(大正 Vol.29, p.332c)。4086(~4087) ükmäk öčmäki-ning adï bolur öčmäk tep. öčmäk sav tayaq-ï ärmäz. sav tayaqï ärür ük-mäk「「蘊の滅」の名は「滅」となる。滅は言依ではない。言依は蘊である」。このウイグル文は『順正理論』卷一の内容に對應する：蘊滅名滅。滅非言依。言依是蘊。(大正 Vol.29, p.332c)。4086 ükmäk < yükmäk「蘊」。

4094 3 又 yänä adïn baxšï-lar söz-lär. ediglig bolur iki türlüg. ang'ilki öngrä
4095 4 käzmiš. ikinti öngrä käzmädük. öngrä käzmiš sav-larïγ. käntü kör
4096 5 -miš äšidmiš-ingä tayaq-lïγïn usar bölä adïrtlayu söz-lägäli munung
4097 6 adï bolur sav tayaq-ï tep. öngrä käzmädük-i ärsär. ymä ök uγrayu
4098 7 öngrä käzmiš-in munda yangγarmaq oxšadmaq üz-ä inčip söz-läsär
4099 8 ymä ök adï bolur sav tayaq-ï tep. 如頗胝迦 qaltï siparir u
4100 9 -maq üz-ä körgidgäli qamaγ körk-lärig. birök bar ärsär adïn äd
4101 10 yanduru udačï körgitgäli körk-lärig. inčip söz-lämiš täg bu äd
4102 11 süz-ük ödvi-lig ol qaltï siparir täg tep. edigsiz-lär-ning bolmaz
4103 12 öngrä käzmiš sav-lar-ï. ymä ök bolmaz yangγarmaq oxšadmaq üz-ä
4104 13 inčip söz-lägäli anïn sav tayaq-ï ärmäz. bu edigsiz-ig adqantačï
4105 14 bilgä bilig. bu yörüg tïldaγ-ïnda anïn bulmïš ol bälgü-süz tegüči
4106 15 adïγ. nädägin teptesär yoq üčün körgitgülük bälgü-si tep 問 birök
4107 134a-1 andaγ ärsär qayu söz-lägüči edigsiz ödrü iš-siz bolγu kärgäk.
4108 2 sav tayaq-ï ärmäz-i üz-ä yoq üčün uqïtγuluq körgitgülük bälgü-si tep
4109 3 尊者聖奴 ayaγ-qa tägimlig ary-a-taz-e baxšï (kikinč berü) söz-lär. bu edigsiz
4110 4 -lär iš-siz ärmäz. munda adïrγalï umaq edigligig. bu oq inčip ärür edigsiz
4111 5 -lär-ning iš-i küdüki tep :: ästiramati baxšï söz-lär. birök andaγ ärsär
4112 6 edigligig ymä ök bolur mundaγ söz-lägäli. uyur üčün adïrγalï edigsiz-ig
4113 7 tep. anïn ediglig ymä ök sav tayaq-ï ärmäz bolγu kärgäk. munï saqïnmïš
4114 8 -ïngïz-lar kärgäk. birök munda qayu nomuγ bolsar sav söz üz-ä söz-lägäli. bu
4115 9 nom nädägin sav tayaq-ï ärmäz. munung uγrïnda sodurandike ni'kay-lïγ
-lar-nïng
4116 10 qayu söz-lämiš-i uz bolur. olar söz-läyür edigsiz-lär täk bar ärür ol ad
4117 11 üz-ä arïdï yoq ärür čïnkertü töz-i qaltï pudgale täg üčün anïn bilmiš
4118 12 kärgäk munï üz-ä sav tayaq-ï ärmäz tep. 問若如是者 birök andaγ
4119 13 ärsär. ärtmiš kälmädük ödki-si ymä ök sav tayaq-ï ärmäz bolγu kärgäk.
nädägin
4120 14 teptesär sodurandike ni'kay-lïγ-lar-nïng taplaγ-ïndaqï-ča ärsär. ärtmiš käl
4121 15 -mädük öd-lär čïnkertü bar ärmäz üčün tep. 答 bulduqmaz bu mün qadaγ yer
4122 134b-1 -tinčülüg nom-ta öngrä bolmïš-ïn kenki-sin barča-nï bolur üčün söz-lägäli
sav
4123 2 tayaq-ï bolur tep. bar bir baxšï söz-lär edigsiz-lär ärür tayaq. sav ärmäz
4124 3 anïn sav tayaq-ï ärmäz tep. 論 azu-ča ymä adï ol ünüš-lüg tep.
4125 4 ünüš ärsär qaltï birdämläti öngi üdrülmäk ärür. bu oq inčip ärür.
4126 5 nirvan. alqu ediglig nom-lar-nïng bar üčün ol ünüš-i tep. 釋曰有離
4127 6 者 ünüš-lüg teptemiš-i ärsär. ünüš ärsär qaltï ünmäk öngi üdrülmäk
4128 7 ärür 有者 lïγ teptemiš-i ärsär. adïrtlïγ otγuraq tep. yörüg'ol munung yum
4129 8 -daru adï bolur adïrtlïγ otγuraq ünmäk öngi üdrülmäk tep. bu oq inčip

また餘師が説く：有爲には二種ある。第一は以前に經驗したもの。第二は以前に經驗しなかったもの。以前に經驗した事を、自ら見聞したことに依って、能く分別して説くなら、これの名は「言依」となる、と。以前に經驗しなかったものも、まさに、以前に經驗したことを、ここで類推することによって即ち説くなら、その名も「言依」となる、と。頗胝迦が能くすべての形を示すことにおいて、もし、餘の物でむしろ能く形を示すものが有るなら、即ちこの物は清徹である。猶、頗胝迦のごとし、と。無爲のものは以前に經驗した事とはならない。又類推によって説くこともできない。それ故に言依ではない。この無爲を縁ずる慧は、その義に因って、そこで「無相」と云う名を得たのである。如何にしてかと云えば、示すべき相が無い故、と。問：もしそのようであるなら、所説の無爲は即ち無用とならねばならない。言依でないことによって、顯示すべき相が無い故、と。尊者、聖奴師が答えて説く：この無爲は無用ではない。ここで能く有爲を差別すること、これは即ち無爲の作用である、と。安慧師が説く：もしその通りなら、有爲をもこのように説き得る。能く無爲を差別する故、と。それ故、有爲もまた必然的に言依ではなくなる。汝らこれを考えねばならなかった。もしここにおいて、ある法を言語によって説き得るなら、この法は如何にして言依でないのか？これに由って、經量部のものらの所説は勝妙となる。彼らは「無爲はただ名において存在している。結局、眞實性は無いのである。ちょうど補特伽羅（pudgala）のごとき故。それでこれによって言依ではないと知らねばならない」と説く。問：もしその通りであるなら、過去未來世もまた言依となるはずはない。如何にしてかと云えば、經量部らの宗にあるものとしては、過去未來世は眞實の有ではない故に、と。答：これに過失は無い。世間の法においては、先にあったもの、後のもの、その全てが言依となると説き得る故、と。或る師が説く：無爲は依であり、言ではない。それ故に言依ではない、と。

論：**『或はその名は有離である、と。離は謂わく、永く離れることである。これ即ち涅槃である。一切有爲法にはその離が有る故』**（或名有離離謂永離即是涅槃一切有爲有彼離故）と。

釋曰：「有離」と云ったのは、離がちょうど出離することである。「有」（有）と云ったのは「決定」と云う義である。これの通しての名は「決定の出離」となる、と。

4098 munda yangyarmaq oxšadmaq üz-ä「ここで類推することによって」は<munï> yangyarmaq oxšadmaq üz-ä「これを類推することによって」に訂正されている。4099 siparir < Skt. sphaṭika「玉、水晶、頗胝迦」。4102 ödvi =「徹」: cf. süzük ödvi-lig ördüklüg ördülmiš「清徹膜覆」(B1933)。4117 pudgale < Skt. pudgala「個體、個人、輪廻の主體、補特伽羅」。4124 ünüš-lüg「出離もてる」=「有離」。4128 ウイグル文中漢字列「有者」の「有」には「所有、所屬」表現の接尾辭 lïγ が獨立して立てられている。具體的にここでは ünüš-lüg「有離」の-lüg を指す。Cf. 4124 注。

4130 9 ärür qalïsïz nirvan-lïγ uγuš. sansar-ta tägzindäči tulïndačï-lar-nïng. bolmaz adïrt
4131 10 -lïγ odγuraq ünmiš öngi üdrülmiš bolmaq-lïγ yörügi. nirvan adïrtlïγ
4132 11 otγuraq ünüš ärür. tägzinmäz qadnamaz üčün. bu tïldaγ-ïn šasdr-ta söz
4133 12 -lämiš ol. alqu ediglig alqu nom-lar-nïng bar üčün ol ünüš-i tep. 問
4134 13 若一切有為 birök alqu ediglig nom-lar-nïng bar ärsär ol ünüš-i
4135 14 tüz-ün yol ymä ök ärür ediglig. nädägin bolur öngi üdrülgäli andaγ ymä
4136 15 tüz-ün yol-ta öngi nädägin uyur tanuq-laγalï nirvan-ïγ tep. 答 tüz-ün
4137 16 yol ärsär inčä qaltï tar kemi täg. ymä ök tidip öngi üdrülgäli
4138 135a-1 tägimlig ärür. inčip qalïlïγ nirvan ärmäz. bu ärür qalïsïz nirvan. bu qalï
4139 2 -sïz nirvan ärsär inčip umaq ärür birdämläti öngi. üdrülgäli alqu
4140 3 ediglig nom-lar-tïn tep. 問 birök (alqu) ediglig nom-lar-nïng bar ärsär ol ünüš
4141 4 -i. nädägin öngdün söz-läti tört padak-lar-ta. bar nom yindäm bululup
4142 5 bilmätin öčmäk bululmaz bilip öčmäk tep. 答 ymä qaršï bolmaz tört
4143 6 padak-lar-qa. ol tört padak-lar-ta tägmäkin tuda söz-lämiš ol. munï qalïsïz
4144 7 nirvan-lïγ uγuš-uγ tuda söz-lämiš ol. qalïsïz nirvan-nïng yoq üčün
4145 8 tägmäki. tört padak-lar-taqï yörüg alïγ-ï birlä bir täk ärmäz ymä ök
4146 9 mün qadaγ bolmaz. nirvan ünüš töz-lüg ärür. ediglig nom-lar-nïng barča
4147 10 -nïng bar üčün söz-lämiš ol. alqu ediglig nom-lar-nïng bar üčün ol
4148 11 ünüš-i tep. qaltï tavar-ï bar ärsär <adï> bolmïš täg tavar-lïγ
4149 12 tep. inčip munda ediglig nom-lar-nïng ünüš-i bar tep yörüg'ol tep.
4150 13 有餘师説 bar adïn baxšï-lar söz-lär. näčä tüz-ün yol ünüš nom
4151 14 ärmäsär ymä ärür üčün ediglig ymä ök bar ärür ol ünüš-i. qayu
4152 15 ol ünüš-i teptesär. yindäm ediglig nom-lar-nïng oq bolur ünüš-i
4153 135b-1 söz-lägülük ärmäz adïn nom-larïγ. näčä alqu ediglig nom-lar-nïng barča-nïng
4154 2 bar ärmäsär ymä ol ünüš-i. inčip üzlünčü-si ärür ediglig-ning ün
4155 3 -üš-i tep. 疏主云 ästiramati baxšï söz-lär. bu söz-lämiš-ingiz-lär
4156 4 andaγ ärmäz. birök andaγ ärsär ymä ök bolγu kärgäk. tudyaq yükmäk tigirt
4157 5 -lig ämgäk tergin yerdinčü körüm orun-ï üč bolmaq-ta ulatï-lar üz-ä
4158 6 yörgäli bu ediglig nom-larïγ. munda-ta ulatï-lar ymä ök yindäm ediglig
4159 7 -tä bolur. edigsiz-tä ärmäz. nädägin teptesär munda-ta ulatï(-lar) ärür aqïγ-lïγ
4160 8 -nïng adasï tudasï. 若將此釋 birök uγrayu bu aqïγ-lïγ
4161 9 yörüg üz-ä yörsär bu edigligig ol oq ediglig aqïγ-lïγ bolγu kärgäk.
4162 10 nädägin bolur bölgäli adïrtlaγalï anïn bu söz-lägüčig (činkertü) tägimlig ol (tidgäli) qodγalï
4163 11 tep. ayaγ-qa tägimlig ary-a-taze baxšï söz-lär. öngdün šasdr-ta
4164 12 yörgü-tä ünüš-lügüg. söz-läti ärti. ünüš ärsär qaltï birdämläti
4165 13 öngi üdrülmäk ärür. bu oq inčip ärür nirvan alqu ediglig nom-lar
4166 14 -nïng bar üčün ol ünüš-i tep. munda nirvan yindäm biiip öcmäk

これは即ち無餘の涅槃界である。生死において旋環するものらには、「決定の出離」となる義は成じない。涅槃は決定の離である。輪轉しない故。これに因って論に説いたのである「一切有爲の諸法にはその離が有る故」（一切有爲有彼離故）、と。問：もし「一切有爲法」にその離が有るなら、聖道もまた有爲である。如何にして出離し得るのか？そのようにまた、聖道を離れて、如何にして涅槃を證することができるのか？と。答：聖道は猶、筏のごとし。また應に捨離すべきものである。而して有餘涅槃ではない。これは無餘涅槃である。この無餘涅槃は、即ち、一切有爲法から永く離することができるものである、と。問：もし一切有爲法にその離が有るなら、如何にして先に、四句において「法有り、唯だ非擇滅が得られて、擇滅は得られない」と説いたのか？答：また（それは）四句への違とはならない。その四句においては得を約して説いた。これは、無餘の涅槃界を約して説いたのである。無餘涅槃には得が無いため、四句にある義の受け方と同一ではない。過失とはならない。涅槃は離の性もてるものである。有爲法の全てのものに有る故に「一切の有爲法にはその離が有る故」（一切有爲有彼離故）と説いた。猶、財が有るなら、その名は「財もてるもの」（「有財」）となったごとし。即ち、ここでは「有爲法に離が有る」と云う義である、と。有餘師が説く：如何に聖道は離法でなくとも、有爲である故にまた離が有るのである。その離は何か？と云うなら、唯だ有爲法のもののみが離となる。餘の法を説くものではない。如何に一切有爲法の全てにその離が有れども、而してその究極は有爲の離である、と。安慧師が説く：この汝らの説いたものはその通りではない。もしそのようなら、取蘊、有諍、苦集世間、見處、三有等によって、必然的にこの有爲法を釋し得る。これ等も唯だ有爲においてのみ成ずる。無爲においてではない。如何にしてかと云えば、これ等は有漏の災横である。もしまさにこの有漏の義によって、この有爲を釋すなら、その有爲は有漏とならねばならない。如何にして分別し得るのか？それ故、この所説を眞實に、應に捨てるべし、と。尊者聖奴師が説く：先に、論において離を釋すのに「離は謂わく、永く離れることである。これ即ち涅槃である。一切有爲法にはその離が有る故」と説いた。

4134 birök alqu ediglig nom-lar-nïng「もし一切有爲法に」の訂正前： birök alqu ediglig alqu nom-lar-nïng. 後ろの alqu は不要。4137~4138 tüz-ün yol ärsär inčä qaltï tar kemi täg. ymä ök tidip öngi üdrülgäli tägimlig ärür「聖道は猶、筏のごとし。また應に捨離すべきものである」。このウイグル文の内容は『順正理論』巻一の内容に類似する：一切有爲皆同船筏。是故聖道亦應捨離。（大正 Vol.29, p.333a）。4142 bululmaz bilip öčmäk「擇滅は得られない」は<bulduqmaz> bilip öčmäk「擇滅は無い」に訂正されている。4147 最初の üčün のあとに付加された單語が消されているが、ここには ünüš-i が入るべきか。ünüš-i が入ると「有爲法のすべてのものに、出離が有るため」となる。4148~4149 qaltï tavar-ï bar ärsär <adï> bolmïš täg tavar-lïγ tep「猶、財が有るなら、その名は「財もてるもの」となったごとし」の訂正前は：qaltï tavar-ï bar ärsär adamïš bolmïš täg tavar-lïγ tep「猶、財が有るなら、「財もてるもの」と名付けたものとなったごとし」。訂正は正しい。このウイグル文の内容は『順正理論』巻一の内容に對應する：如有財者名爲有財。（大正 Vol.29, p.333a）。4161 aqïγ-lïγ「有漏」の-lïγ に削除記號が付けられて、aqïγ「漏」に訂正されている。

4167 15 ök ärmäz. ymä tudulur bilmätin öčmäk. ulatï ürlügsüz öčmäk
4168 136a-1 bu yörüg nädäg ol teptesär. inčä qaltï yula yalïn-ï täg öčmäk-ning
4169 2 inčip adï bolur <nirvan> tep. ymä ök kim beš yükmäk-lig käzig
4170 3 aqïlmaq ävrilmäk-ning öčmäki ymä :: bilmätin öčmäk tïdïp
4171 4 ken tuγdačï yükmäkig kim birdämläti tuγurmamaq üz-ä ymä
4172 5 ök adamïš ol nirvan tep. 无常滅 ürlügsüz üz-ä öčmäk kim
4173 6 tuγ-a tükätmiš nom-larïγ. tägšildürüp kigürmäk üz-ä ärtmiš öd-kä
4174 7 ymä ök adamïš ol nirvan tep. tüz-ün yol näčä bilip öčmäk nirvan
4175 8 ärmäsär ymä. inčip bolur bilmätin öčmäk. ürlügsüz üz-ä öčmäk
4176 9 nirvan. munï üz-ä anïn söz-läsär ol alqu ediglig nom-lar-nïng bar
4177 10 üčün ol ünüš-i tep 深為契當 arduqraq bolur yaraš ï tws
4178 11 -ly tep. 疏主云 ästiramati baxšï söz-lär. ïya taya abipiray
4179 12 üz-ä inčip söz-lägüči-ni arduqraq tägimlig ol yaraš ï qodγalï
4180 13 alqu ediglig nom-lar turqaru ürlügsüz-indin. kšan kšan sayu tägšil
4181 14 -ür sïqïlur. birök munï üz-ä nirvan bolur teptesär inčip tüz-ün yol
4182 15 -ta taš öngi adïn alqu ediglig nom-lar barča munda nirvan bolγu kärgäk
4183 16 bu bilmätin öčmäkig birök bu bilip öčmäk üz-ä ärür nirvan teptesär
4184 136b-1 bu bilmätin öčmäk öčmiš nom-ta. ken kirtükdä tüz-ün yol-qa. yänä
4185 2 bululur nirvan. qačan bululu tükätdüktä nirvan. ikiläyü nä kärgäk
4186 3 qadnayu bulmaq nirvan-ïγ. 前既已離 öngdün öngi üdrü
4187 4 -lü tükätmiš ärip. yänä nä kärgäk öngi üdrülmäkig. anïn öngdün
4188 5 söz-lägüči tüz-ün yol-uγ tar kemi täg tägimlig ol tidgäli
4189 6 munda qalïsïz nirvan-ïγ tudsar. ulatï yörüg uz bolur tep
4190 7 論 azu-ča ymä adï ol vasdu-luγ tep nädägin teptesär tïldaγ
4191 8 -lïγ üčün. vasdu tegüči sav-ta munda tïldaγ tep yörüg'ol tep
4192 9 vaybašike-lïγ baxšï-lar ter-lär mundaγ tep. 釋曰 vasdu teptem
4193 10 -iš-i ärsär anïng bar iki türlüg yörüg-lär-i. ang'ilki qaltï
4194 11 tayanγuluq. ikinti qaltï turγuluq. bu oq inčip ärür tïldaγ
4195 12 -nïng yörügi. 所依者 tayanγuluq ärsär tüš tayanïp tïldaγ-qa
4196 13 tïldaγ-tïn tuγar üčün qaltï oγul ana-qa tayanmïš täg. turγuluq
4197 14 ärsär tüš turup tïldaγ-ta uyur üčün ördgäli tïldaγ-ïγ.
4198 15 qaltï kiši orun-ta turmïš täg. munda tïldaγ-ï tüš-i üz-ä
4199 137a-1 ördülgülük kösidilgülük bolmaq tep yörüg'ol. tïldaγ-ï öngdün tüš
4200 2 -i ken bolur üčün. tïldaγ-ï inčgä tüš-i yoγun üčün. munung bar
4201 3 üčün vasdu-sï söz-lämiš ol. vasdu-luγ tep ad üz-ä qaltï
4202 4 tavar-ï bar ärsär adamïš täg tavar-lïγ tep. burxan nom-ïnda vasdu
4203 5 -nung bar üküš tälim yörügi. mundaqï vasdu tegüči sav-ta nägü tep
4204 6 yörüg'ol teptesär. 毗婆沙师 vaybašike-lïγ baxšï-lar ter-lär.
4205 7 tegüči sav üz-ä. söz-lämiš ol vasdu tegüči sav-ta munda tïldaγ tep
4206 8 yörüg'ol tep. ter-lär tegüči sav-ta munda bar nä yörüg teptesär. sodur

ここで涅槃は唯だ擇滅のみではない。また非擇滅、更に無常の滅も攝せられる。この義は如何にしてかと云えば、猶、松明のごとし。滅のその名は「涅槃」となる。また五蘊の相續や流轉の滅も（同様である）。非擇滅は後生の蘊を遮り、永く起こさせないことを以て、また「涅槃」と名づけた。無常による滅は、已に生じた法を過去世へ轉入させることを以て、また「涅槃」と名づけた。聖道が如何に擇滅涅槃でなくとも、而して非擇滅、無常による滅涅槃となる。これによって、それで「一切有爲法にはその離が有る故」と説くなら、深く契當となる、と。安慧師が説く：忽忙の意趣によって而して説くところのもとを、畢竟には應に適切に捨てるべし。一切有爲法は絶えずその無常から刹那刹那に轉じ、逼られる。もしこれを以て涅槃となると云うなら、即ち聖道より他の、餘の一切の有爲法が全てここで涅槃とならねばならない。この非擇滅を、もしこの擇滅によって、涅槃であると云うなら、この非擇滅が滅した法において、後に聖道へ入ったとき、又涅槃が得られる。何時か已に涅槃が得られたとき、更に何の必要で、涅槃を得ることを重ねるのか？前に已に離れたのであって、また何の必要で、離を（得ることを重ねるのか？）。それ故、先に所説の聖道を筏のごとく應に捨てるべし。ここで無餘の涅槃を取るなら、更に義は勝妙となる、と。

論：**『或はその名は有事である、と。如何にしてかと云うなら、有因の故。事と云う言にはここで因と云う義がある、と。毘婆沙師はこのように傳説する』**（或名有事以有因故事是因義毘婆沙師傳説如此）と。

釋曰：「事」と云ったが、それには二種の義が有る。第一は謂わく所依、第二は謂わく所住。これは即ち因の義である。所依は、果が因に依って、因から生まれる故に。猶、子が母に依ったごとし。所住は、果が因に住して、因を覆うことができる故に。猶、人が床に住したごとし。ここでは、「その因が果によって、映蔽せられるところとなる」と云う義である。因が前、果が後に成ずる故。因が細、果が粗の故。これには事が有る故、「有事」と云う名によって説いた。猶、財が有るのを有財と名づけたごとし。佛法においては、事に多くの義が有る。ここにある「事」（vastu）と云う言には何と云う義があるのか、と云えば、「毘婆沙師が傳説する」（毘婆沙師傳説）と云う言において、「事と云う言に、ここで因と云う義がある」（事是因義）と説いた。

4169 öčmäk-ning inčip adï bolur <nirvan> tep「滅の即ちその名は涅槃となる」の訂正前： öčmäk-ning inčip adï bolur <öčmäk> tep「滅の即ちその名は滅となる」。4171 bilmätin öčmäk tïdïp ken tuγdačï yükmäkig「非擇滅は後生の蘊を遮り」の訂正前： bilmätin öčmäk tïdïp ken tuγdačï <nom-larïγ> yükmäkig「非擇滅は後生の法と蘊を遮り」。4177 tws-ly は不明語である： cf. tws-ly (B1631) twsly (B2150). ここではウイグル文中漢文に従って yaraši tws-ly に對して「契當」を入れておく。4192(~4201) vasdu teptim-iš-i ärsär から öz- lämiš ol. vasdu-luγ tep ad üz-ä までの内容は『順正理論』巻一の内容と對應している：事謂所依。或是所住。即是因義。果依於因。從因生故。如子依母。或果住因。能覆因故。如人住床。是因爲果所映蔽義。因果前後故。及細麁性故此有事故。説名有事。(大正 Vol.29, p.333a)。

4207 9 -andike ni'kay-lïγ-lar abipiray üz-ä söz-lär. vasdu tegüči sav-ta
4208 10 töz töz tep yörüg'ol. söz-lägülük ärmäz tïlday tep yörüg'ol tep.
4209 11 anïn vaybašike-lïγ baxšï-lar-nïng söz-lämiš-indä urmïš ol ter-lär
4210 12 tegüči savïγ. abipiray üz-ä taplamamïš üčün. sodurandike ni'kay
4211 13 -lïγ-lar söz-lär töz töz tep yörüg'ol tep. ediglig nom-lar-nïng bar
4212 14 ärür töz töz-i. edigsiz nom-lar-nïng yoq üčün töz töz-i 此言
4213 15 有事者 munda vasdu-luγ teptemiš-i ärsär. yarašï ediglig nom-lar
4214 16 -nïng töz töz-in tuda söz-lämiš ol. vaybašike-lïγ alqu baxšï-lar
4215 137b-1 sezik ayïdur burxan nom-ïnda vasdu-nung bar beš türlüg yörüg-lär-i
4216 2 ang'ilki öz töz-lüg tep yörüg'ol. 二 adqaγ-lïγ tep yörüg'ol.
4217 3 三 qošulγuluq balγuluq tep. yörüg'ol. 四 tïldaγ-lïγ tep yörüg'ol.
4218 4 五 ičgärgülük tep yörüg'ol :: öz töz-lüg tep yörüg'ol teptemiš
4219 5 -i ärsär. qaltï sudur-ta ayaγ-qa tägimlig anant ödünti adï
4220 6 ködrülmiš-kä inčä tep. munda-ta ulatï yangï bošγut-luγ toyïn
4221 7 -larïγ 如何教 nädägin ödläyin nädägin körgidäyin. nädägin nom
4222 8 nomlayïn tep. adï ködrülmiš yrlïqamïš ol inčä tep. sän anant-a
4223 9 bu yangï bošγut-luγ toyïn-larïγ. 令依事持 kim öz töz-kä
4224 10 tayaq-lïγ-ïn tudγïl. öz töz-kä tayaq-lïγ-ïn oqïγïl söz-lägil
4225 11 tep. bu sudur-nung abipiray-ï üz-ä anïn bilmiš kärgäk. vasdu tegüči
4226 12 sav-ta öz töz-lüg tep yörüg'ol tep. yänä abidarim šasdr-ta söz
4227 13 -lämiš ol inčä tep. 如得何事 qaltï bulsar qayu öz töz-üg ol
4228 14 öz töz-kä ymä ök tükäl-lig bolur mu tep. munda vasdu tegüči sav
4229 15 -ta inčip öz töz tep yörüg'ol tep. 所緣義者 adqaγ-lïγ
4230 138a-1 tep yörüg'ol teptemiš-i ärsär. qaltï pirakaranapat šasdr-ta söz-lämiš
4231 2 ol. bilgülük nom ymä qayu ol teptesär. kikinč berü söz-lämiš ol. qaltï
4232 3 alqu nom-lar ärür bilgä bilig üz-ä bilgülük 又 bolur bilgä bilig üz-ä
4233 4 bilgäli ymä/ter 隨其事 ol adqaγ-ï eyin tep. munda vasdu tegüči sav-ta
4234 5 munda adqaγ-lïγ tep yörüg'ol tep. qošulγuluq balγuluq tep yörüg'ol
4235 6 (tep) temiš-i ärsär abidarim šasdr-ta söz-lämiš ol. qayu vasdu-ta az qošuγ-qa
4236 7 qošulγuluq bolsar. ymä ök övkä qošuγ-qa qosulγuluq bolur mu tep
4237 8 munda vasdu tegüči sav-ta munda qošulγuluq balγuluq tep yörüg'ol tep 所
4238 9 因義者 tïldaγ tep yörüg'ol teptemiš-i ärsär. qaltï pirakaranapat
4239 10 šasdr-ta söz-lämiš ol. tïldaγ-lïγ basudčï-lïγ nom-lar ymä qayu ol teptesär
4240 11 kikinč berü söz-lämiš ol. qaltï ediglig nom-lar ärür. munda tïldaγ-sïz
4241 12 basudčï-sïz nom(-lar) qayu ol teptesär. qaltï edigsiz nom-lar ärür tep. munda

---

4210 abipiray üz-ä taplamamïš üčün「意趣において認めなかった故」の訂正前： abipiray üz-ä taplamamïš <ol> üčün. 4215~4218 vasdu-nung bar beš türlüg yörüg-lär-i ang'ilki öz töz-lüg tep yörüg'ol. 二 adqaγ-lïγ tep yörüg'ol. 三 qošulγuluq balγuluq tep. yörüg'ol. 四 tïldaγ-lïγ tep yörüg'ol. 五 ičgärgülük tep yörüg'ol「事には五種の義が有る。第一は自性もてるという義である。第二は所緣もてるという義である。第三は所繫縛という義である。第四は因もてるという義である。第五は所攝という義である」。このウイグル文の内容に類似するものとして次のものがある：.「事有五種。一自體事。二所緣事。三繫事。四因事。五攝受事。(『阿毘達磨大毘婆舍論』巻第五十六、大正 Vol.27, p.288a)。「事者略有五種。一自性事。・・・二所緣事。・・・三繫事。・・・四所因事。・・・五所攝事。・・・」(『倶舍論』巻第六、大正 Vol.29, p.35a)。

「傳説する」(kila)と云う言に、ここでは何の義が有るのか、と云えば、經量部のものらは意趣において、「事」と云う言は「實體」と云う義であり、所説は「因ではない」と云う義である、と説く。それ故、毘婆沙師の説いたものに「傳説する」と云う言を置いたのである。意趣において認めなかった故。經量部のものらは「實體と云う義である」と説く。有爲法には實體が有り、無爲法には實體が無い故。ここにおいて「有事」と云ったのは、適切に有爲法の實體を約して説いたのである。毘婆沙の諸師は佛法において問う：事には五種の義が有る。第一は「自性もてる」と云う義である。第二は「所縁もてる」と云う義である。第三は「所繫縛」と云う義である。第四は「因もてる」と云う義である。第五は「所攝」と云う義である。「自性もてると云う義である」と云ったのは、謂わく、經において尊者阿難が世尊に次のように申し上げた：「これ等新學の比丘らを如何にして教えようか？如何にして導こうか？如何にして説法しようか？」と。世尊は次のようにと説かれた：「汝、阿難よ、この新學の比丘らを、自性に依って持すべし、自性に依って誦すべし、説くべし」と。この經の意趣によって、それで「事」と云う言には、「自性もてる」と云う義があると知らねばならない。また阿毘達磨には次のようにと説いた：「若し、何かの自性を得るなら、またその自性が圓滿となるのか？」と。ここで、「事」と云う言には即ち「自性」と云う義がある、と。「所縁もてると云う義である」と云った。謂わく、『品類足論』に説いた：所知法はまた何か？と云えば、謂わく、一切法はその所縁に隨って、慧によって知られる所であると答えて説いた。ここで「事」と云う言には、「所縁もてる」と云う義がある、と。「所繫縛と云う義である」と云った。阿毘達磨論に説いた：何かの事において愛結への繫となるなら、また、恚結への繫となるのか？と。ここで「事」と云う言には、「所繫縛」と云う義がある、と。「因と云う義である」と云った。謂わく、『品類足論』に説いた：緣起法はまた何かと云えば、答えて説いた、謂わく有爲法である（と）。ここにおいて非緣起法は何かと云えば、謂わく無爲法である、と。

4231(~4233) qaltï alqu nom-lar ärür bilgä bilig üz-ä bilgülük ol adqaγ-ï eyin tep「謂わく、一切法はその所縁に隨って、慧によって知られる所である、と」は qaltï alqu nom-lar bolur bilgä bilig üz-ä bilgäli ol adqaγ-ï eyin tep「謂わく、一切法はその所縁に隨って、慧によって知られうる、と」に訂正されている。「その所縁に隨って」はウイグル文中漢文では「隨其事」が對應する。4235(~4236) qayu vasdu-ta から qosulγuluq bolur mu tep までは『倶舍論』巻六の内容に對應する：若於此事愛結所繫。彼於此事恚結繫耶。(大正 Vol. 29, p.35a)。4239(~4241) tïlday-lïγ basudčï-lïγ nom-lar から qaltï edigsiz nom-lar ärür tep までは『阿毘達磨品類足論』巻第六の内容に對應する：緣起法云何。謂有爲法。非緣起法云何。謂無爲法。(大正 Vol.29, p.715c)。

4242 13 vasdu tegüči sav-ta munda tïlday tep yörüg'ol. sudur-ta šlok-ta yrlïqa
4243 14 -mïš ol toyïn-lar köngül-in öčürüp amïrtyurup. 於事得永斷 tïl
4244 15 -tay-ïy bolur birdämläti taryaryalï. uyur-lar alqïp sansar-nïng uč
4245 138b-1 -ïn qïdïy-ïn ikiläyü täginmägäli kenki bolmaq-ïy tep. munda vasdu tegüči
sav-ta
4246 2 ymä ök munda tïlday tep yörüg'ol tep. 惑業是因 niz-vanï qïlïnč ärür
4247 3 tïlday munï umïš üčün taryaryalï kedärgäli anïn munda tïlday tep yörüg'ol
4248 4 tep. yänä abidarim-ta söz-lämiš ol. qaltï qayu tïlday-ïy ödgürsär topul
4249 5 -sar. ymä ök ol tïlday-ïy büdürü bilir mü tep. munda vasdu tegüči sav
4250 6 -ta ymä ök munda tïlday tep yörüg'ol tep. ičgärgülük tep yörüg'ol tep
4251 7 temiš-i ärsär. qaltï sudur-ta yrlïqamïš ol. tarïy-lay-lïy vasdu äv
4252 8 -lig barq-lïy vasdu kedin käbit-lig vasdu 又 kisi oyul-ta ulatï vasdu
4253 9 -lar-ta tudulur tep. munï munčulayu üküš tälim yörüg-lär-tä barča söz-lämiš ol
4254 10 vasdu tegüči savïy. nädägin bolur bilgäli munda öz töz tep yörüg ärtük
4255 11 -in tep 疏主答云 ästiramati baxšï kikinč berü söz-lär. kenki sezikig
4256 12 tuda bolur bilgäli. kenki sezik ärsär qaltï pirakaranapat šasdr-ta söz
4257 13 -lämiš ol. vasdu-suz nom ymä qayu ol teptesär. qaltï edigsiz nom-lar
4258 14 ärür tep. edigsiz nom-lar vasdu-suz bolu tükädmäk üz-ä bäkiz bälgülüg
4259 15 bilmiš kärgäk ymä ök öz töz-süz ärür tep. ediglig nom-lar ärür vasdu
4260 16 -luy nom. bar üčün anïng öz töz-i. anïn bilmiš kärgäk vasdu tegüči sav
4261 139a-1 -ta munda öz töz tep yörüg'ol tep. qaltï öngdün söz-lägüči vasdu-nung
4262 2 bar bolmïš täg beš türlüg yörüg-lär-i ärsär barča ärür öz töz-nüng
4263 3 yörügi. ikiläyü yoq adïn yörüg tep. 論 munday osuy-luy-ta ulatï
4264 4 uyuš-luy-lar ärür. ediglig nom-lar-nïng adïrt öngi qamay-lïy adï
4265 5 tep. 釋曰 bu öngdünki bir karikda bar anda beš türlüg abipiray-lar.
4266 6 ang'bašlayu qavïr-asïnča čïnlayu körgidür ediglig nom-larïy. adïn tört
4267 7 abipiray-lar üz-ä tïdar sïyur taš azaq nomluy-lar-nïng adqay-ïn
4268 8 初兩句 angbašlayu-qï iki padak-lar üz-ä qavïr-a-sïnča körgidür
4269 9 ediglig nom-larïy. öd yol-ï tegüči iki užik-lär üz-ä sïyur öd
4270 10 mänggü ol tep adqandačï taš azaq nomluy-larïy. beš yükmäk-tä taš
4271 11 öngi yoq üčün angayu öd sav tayaq-ï tegüči iki üžik-lär
4272 12 üz-ä tïdar išvarey adqantačï taš azaq nomluy-larïy. olar söz
4273 13 -läyür-lär. alqu užik-lärig yörüg-lärig nomladačï ymä tïngladačï
4274 14 äšidtäči-lär-ning öz küči üz-ä uqmaq tïlday-ïnda ärmäz. barča
4275 15 išvare tngri-ning anga bilgä bilig bermäki tïlday-ïnda temin ök
4276 139b-1 uyur-lar tuyuryalï uqmaq-ïy tep. 論主云 vasubandu baxšï
4277 2 söz-lär ediglig nom-lar ärür. sav tayaq-ï. sav tïlday-ïnda tuyar uqmaq
4278 3 näng išvare tngri-ning bilgä bilig bermäki tïlday-ïnda ärmäz. ünüš
4279 4 -lüg tegüči iki užik-lär üz-ä tïdar tärs körüm-lüg taš azaq nom
4280 5 -luy-larïy. olar tanïp yoq teyür-lär nirvan-lïy ünüš-lügüg 以生死

ここで「事」と云う言には、「因」と云う義がある。經において頌に説かれた：「苾芻は意を寂靜にして、{事} を永く斷ち得る。生死の際を盡して更に能く後有を受けない」と。ここで「事」と云う言にも「因」と云う義がある、と。煩惱業は因である。能くこれを斷ち除いた故に、ここには「因」と云う義がある、と。また阿毘達磨に説いた：何の因を説明すれば、また因を完全に了ずるのか？と。ここでも「事」と云う言にまた「因」と云う義がある、と。「所攝と云う義である」と云った。謂わく、經に「田事、宅事、店事、又、妻子等の事において攝せられる」と説かれた。このような多くの義において皆「事」と云う言を説いた。如何にしてここで「自性」と云う義であることを知り得るのか？と。安慧師が答えて説く：後の疑問を約して知り得る。後の疑問（すなわち）、若し『品類足論』において、無事の法はまた何か？と云えば、謂わく無爲法である、と説いた。無爲法が已に無事となることによって、また無自性であると明了せねばならない。有爲法は有事法である。それには自性がある故、それで「事」と云う言にはここで「自性」と云う義があると知らねばならない。猶、先に説く「事」に五種が有ったごとし。その義はすべて自性の義である。更に餘の義は無い、と。

論：**『このごとき等の類は有爲法の差別ある衆の名である』**（如是等類是有爲法差別衆名）と。

釋曰：この、前にある一本頌、そこには五種の意趣が有る。最初に略して有爲法を如實に示す。餘の四意趣によって、外邪法の計度を破る。最初の二句によって略して有爲法を示す。「世路」と云う二文字において、「世は永遠である」と計ずる外邪法もてるものらを破る。五蘊より他に別の世は無い故。「言依」と云う二文字によって、自在を計する外邪法もてるものらを妨げる。

4243 (~4245) toyïn-lar köngül-in から kenki bolmaq-ïγ tep までは節略漢文『實義疏』の内容に對應する：苾芻意寂靜於事得永斷能盡生死際更不受後有（大正 Vol.29, pp.325-326)。4244 ウイグル文は漢文の「事」に對して tïltaγ「因」が入っているが äd (「事」) の誤寫であろう。4251 (~4252) tarïγ-laγ-lïγ vasdu äv-lig barq-lïγ vasdu kedin käbit-lig vasdu 又 kisi oγul-ta ulatï vasdu-lar-ta tudulur「田事、宅事、店事、又、妻子等の事において攝せられる」。このウイグル文の内容は『俱舍論』卷六の内容に對應する：田事宅事妻子等事。(大正 Vol, p.35a)。4265 bu öngdünki bir karikda「この、前にある一本頌」とは『俱舍論』の「又諸有爲法　謂色等五蘊　亦世路言依　有離有事等」を指す。

4281 6 輪 nädägin teptesär sansar-lïγ tilgän učsuz qïdïγ-sïz üčün. munda
4282 7 söz-lämäk üz-ä ediglig nom-larïγ. ünüš-lüg ärür tep. sïyur
4283 8 olar-nïng tärs adqaγ-ïn. vasdu-luγ tegüči iki užik üz-ä tïdar
4284 9 tïldaγ-sïz ol tep adqantačï tärs azaq nomluγ-larïγ olar ad
4285 10 -qanur-lar. tïnlγ-lar-nïng kirikmäki arïnmaq-ï alqu barča tïldaγ-sïz ärür
4286 11 öz-in ök kirikür öz-in ök arïnur üčün. amtï söz-lämäk üz-ä
4287 12 vasdu-luγ tïldaγ-lïγ tep. sïyur olar-nïng yangluq adqaγ-ïn
4288 13 alqu kirikmäk arïnmaq-lar-nïng munda tïldaγ-sïz ärmäz. 若自性 andaγ
4289 14 ymä öz töz-in tuda söz-lämäki ärsär vasdu-luγ tep. tïdγalïr
4290 15 üčün ärür yoq bu až-un. ken až-un tep adqantačï tärs azaq
4291 16 nomluγ-larïγ. olar adqanur-lar. tïnlγ-lar-nïng barča yer suv oot
4292 140a-1 yeel kök qalïq tïldaγ-ïnda büdär ät'öz-lär-i bu beš uγuš-lar
4293 2 yïγïlduq-ta ödrü büdär ät'öz-lär-i. sačïlduq-ta ödrü käntü 々
4294 3 barïr töz uγuš-larïnga. ikiläyü yoq bu až-un adïn až-un tep
4295 4 ulatï üčünč padak-nïng bašïndaqï ymä ök tegüči 亦 užik
4296 5 törtünč padak-nïng adaq-ïndaqï ulatï tegüči 等 užik üz-ä
4297 6 貫通上下 sapïp yumdarur üsdünki-sin aldïnqï-sïn tep.
4298 7 論 <bu qayu> söz-lägüči ediglig nom-lar-ta tep. 釋曰 ediglig bolur iki
4299 8 türlüg. qaltï aqïγ-lïγ aqïγ-sïz. aqïγ-sïz ediglig ärsär bu
4300 9 oq inčip ärür yol kertü. öngdün yörüp ärtürü tükädmiš ol
4301 10 aqïγ-lïγ ediglig ärsär munda basa uγramïš üčün yörgäli.
4302 11 anïn amtï uqïdmïš körgidmiš ärür. ediglig nom-lar üsdün aldïn
4303 12 anda aqïγ-lïγ ärsär. bu oq inčip ärür. beš tudyaq yükmäk tep
4304 13 karik söz-lär. 有漏名取蘊 aqïγ-lïγ nom-lar tudyaq yükmäk
4305 14 tep adanur-lar. ymä ök telür-lär tigirt-lig ulatï ämgäk tergin yer
4306 15 -tinčü körüm orunï üč bolmaq tep ulatï tep. 論曰 munï üz-ä
4307 140b-1 nägü-ni uqïdur tep tesär. uqïdur tudyaq yükmäk-ning ymä ök
4308 2 adï bolur-ïn yükmäk tep. azu ymä bar yindäm yükmäk bolup
4309 3 inčip tudyaq yükmäk bolmadačï. qaltï aqïγ-sïz tavranmaq-lar
4310 4 ärür tep. 釋曰問 näčük'ol öngdün söz-lägüči ediglig nom-ta
4311 5 uqïdu körgidü tükädip aqïγ-lïγ-ïγ söz-lämädi mü ärti. yol
4312 6 -uγ öngi kedärip. adïn ediglig nom-lar-ta. olar-ta aqïγ-lar eyin
4313 7 ükliyür üčün. anïn söz-lämiš ol aqïγ-lïγ tep ad üz-ä tep
4314 8 ulatï amtï nä kärgäk qadnayu söz-läp tep 答云 andaγ oq ol
4315 9 näčä öngdün söz-läyü tükätsär ymä amtï uγrayu küsämiš üčün
4316 10 uqïdγalï anïng niz-nk adï-nïng adïrt öngi yörügin. anïn
4317 11 kärgäk qadnayu söz-lämäk tep. 問 alqu ediglig nom-larïγ öngdün
4318 12 yükmäk-tä yörmäk üz-ä. alqu aqïγ-lïγ-nïng ymä ök tudyaq yük
4319 13 -mäk adanur-ïn. yörüg üz-ä bolur ärti bilgäli aqïγ-sïz-nïng täk
4320 14 adï bolur-ïn yükmäk tep. aqïγ-lïγ-ta üsdämiš üčün ol tud

---

4295~4296 ulatï üčünč padak-nïng bašïndaqï ymä ök tegüči 亦 užik törtünč padak-nïng adaq-ïndaqï ulatï tegüči 等 užik üz-ä「更に第三句の最初にある「また」という「亦」の字と、第四句の末にある「など」という「等」の字によって」。このウイグル文の「第三句第四句」というのは漢文の「亦世路言依　有離有事等」を表す。對應するウイグル文は：ymä ök öd yol-ï sav tayaq-ï ünüš-lüg vasdu-luγ tep ulatï (3880-3881)。下線を引いた部分が上掲ウイグル文中の「亦」と「等」に對應する。4298 <bu qayu> söz-lägüči ediglig nom-lar-ta「この所説の有爲法において」の訂正前： munda söz-lägüči ediglig nom-lar-ta「ここで所説の有爲法において」。4308 yindäm yükmäk bolup「唯、蘊となって」の訂正前：yindäm tudyaq yükmäk bolup「唯、取蘊となって」。

彼らは、諸々の文、義を説くもの、また聽聞するものらの自力による理解に因ってではなく、すべて自在天がそれへ慧を與えることに因って、方に能く理解を生じさせる、と説くのである。世親師が説く：有爲法は言依である。言の因において、理解が生まれる。決して自在天が慧を與えることに因るのではない。「有離」と云う二字によって、邪見の外邪法もてるものらを妨げる。彼らは涅槃もてる有離を否定して、無と云う。如何にしてかと云うなら、生死の輪は無邊際の故。ここで「有爲法を有離である」と説くことによって、彼らの邪計を破る。「有事」と云う二字によって、無因であると計する邪惡の法もてるものらを妨げる。彼らは計する：衆生の染淨は皆悉く無因である。自ずと染じ、自ずと淨める故、（と）。今、「有事、有因」と説くことによって、彼らの妄計を破る。一切の染淨のものはここで無因ではない。そのようにまた自相を約して、「有事」と説くのは、此生、後生は無いと計する邪惡の法もてるものらを妨げるためである。彼らは計する：衆生の全ては、地、水、火、風、虚空の因においてその身が成ずる。この五類が集まったときに、即ち身が成ずる。散じたときに即ち各自、種姓へ往く。更に此生、他生は無い、と。更に第三句の最初にある「また」と云う「亦」の字と、第四句の末にある「など」と云う「等」の字によって上のもの、下のものを貫通する、と。

論：**『この所説の有爲法において』**（於此所説有爲法中）と。

釋曰：「有爲」には二種が有る。謂わく有漏と無漏。無漏有爲はこれは即ち道諦である。（これは）以前に已に釋したのである。有漏有爲をここで更に釋すことを欲した故、それで今、顯示したのである。有爲法が上下においてそこで有漏であるなら、これは即ち五取蘊である、と。

『本頌が曰く：有漏法は取蘊と名づける。亦、有諍、及び苦集世間、見處、三有と等ともいわれる。論曰：これによって、何を立てると云うなら、取蘊の亦、その名が蘊となることを立てる。或は、唯だ蘊となって、而して取蘊とならないもの有り、謂わく、無漏行である』（頌曰有漏名取蘊亦説爲有諍及苦集世間見處三有等論曰此何所立謂立取蘊亦名爲蘊或有唯蘊而非取蘊。謂無漏行）と。

釋曰問：以前に所説の有爲法において、已に有漏を顯示して説かなかったであろうか？道を除いた餘の有爲法においては、それらに漏が隨増する故に「有漏」と云う名を以て説いたのである。更に今、何の必要で重ねて説くのか？と。答：その通りである。如何に、前に説き終えても、今まさにそれの異名の差別の義を顯すことを欲した故に、それで重ねて説かねばならない、と。問：以前に、一切有爲法を蘊において釋すことを以て、一切有漏がまた「取蘊」と名づけられること、義によって無漏の名が單に「蘊」となることを知り得た。

4310(~4320) näčük'ol öngdün söz-lägüči から bolur-ïn yükmäk tep までの内容は『順正理論』巻一の内容と大筋で對應する：豈不前説。除道聖諦。餘有爲法。名爲有漏。何故此中復重説耶。雖前已説。而欲顯彼差別名想。或爲顯彼名想定義。故復重説。前説一切有爲名蘊。今説有漏名爲取蘊。義准無漏但名爲蘊。(大正 Vol.29, p.333a)。

4321 15 -yaq tegüči užik-ïγ. anïn šasdr-ta söz-lämiš ol 此何所立
4322 16 munï üz-ä nägü-ni uqïdur tep tesär. qaltï uqïdur tudyaq yükmäk
4323 141a-1 -ning ymä ök adï bolur-ïn yükmäk tep. nädägin adantï yükmäk tep ymä
4324 2 ök adatï tudyaq yükmäk tep tesär. 答 qaltï öngdä ulatï
4325 3 ad-lar-ï adïrt-sïz üčün. azu-ča ymä yïγïlmïš terilmiš yörüg
4326 4 üz-ä bir täk üčün. adamïš ol yükmäk tep ymä ök adamïš ol tud
4327 5 -yaq yükmäk tep. 或有唯蘊 azu-ča ymä bar yindäm yükmäk bolup.
4328 6 inčip tudyaq yükmäk bolmadačï qaltï aqïγ-sïz tavranmaq-lar ärür tep
4329 7 temiš-i ärsär 問 bu aqïγ-sïz tavranmaq-lar-nïng qayu tïldaγ-ïn adï
4330 8 bolmaz tudyaq yükmäk tep. 答 ken söz-lägüči üč türlüg yörüg-lär yoq
4331 9 üčün. qaltï yükmäk tudyaq-tïn tuγmaz ymä ök tudyaq-qa san
4332 10 -lïγ ärmäz. ymä ök tuγurmaz tudyaq-ïγ. bu tïldaγ-ïn yindäm yükmäk bol
4333 11 -up tudyaq yükmäk tep adanmaz tep. 論 niz-vanï-nïng adï bolur
4334 12 tudyaq yükmäk tep. tudyaq-tïn tuγar üčün adamïš ol tudyaq
4335 13 yükmäk tep. qaltï ot qavïq oot-ï temiš täg. azu-ča ymä yükmäk
4336 14 san-lïγ üčün tudyaq-qa anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep. qaltï
4337 15 xan buyruq-ï temiš täg. azu-ča ymä yükmäk tuγurur üčün tudyaq-ïγ
4338 141b-1 anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep. qaltï xu-a-lïγ čačäk-lig tüš
4339 2 -lüg yemiš-lig sögüd temiš täg tep. 釋曰問 niz-vanï-lar-nïng
4340 3 adï bolur tudyaq tepdeti ärti. az-ta ulatï niz-vanï-lar-nïng
4341 4 nädägin adï bolur tudyaq tep. 答云 tudyaq tegüči sav-ta adqanmaq
4342 5 tudyaq-lanmaq tep yörüg'ol. bu az-ta ulatï niz-vanï-lar uyur üčün
4343 6 adqanγalï tudyaq-lanγalï üč bolmaq-lïγ tuγum-uγ anïn
4344 7 adï bolmïš ol tudyaq tep. azu-ča ymä uyur üčün adqanγalï
4345 8 tudγalï kenki bolmaq-ïγ tardtačï qïlïnč-ïγ anïn adï bolmïš
4346 9 ol tudyaq yükmäk tep. 何故名取 nä üčün adatï tudyaq tep
4347 10 tesär. tudyaq-tïn tuγar üčün. tudyaq-tïn tuγmïš yükmäk.
4348 11 üčün. anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep. qavïrïp kedärip
4349 12 tïn tuγmïš tegüči iki užikïγ. täk söz-lämiš ol tudyaq yükmäk
4350 13 tep. qaltï ot-tïn tuγmïš-ï täg oot üčün. adap ot oot
4351 14 -ï tep. qavïq-tïn tuγmïš oot-uγ adamïš täg qavïq oot-ï
4352 15 tep. bu yörüg ymä ök andaγ oq ärür. tudyaq-tïn tuγmïš yükmäk
4353 142a-1 üčün anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep. 八轉聲中
4354 2 munï yänä var čün še tegmä säkiz türlüg vibakdi-lar-nïng
4355 3 arasïnda bešinč tïn vibakdi üz-ä luγ li qab šeg tegmä altï
4356 4 türlüg adïr-a qabšuru yörgülük samaz-lar-nïng arasïnda är-kä tayaq
4357 5 -lïγ temiš-täki nïng samaz üz-ä yörmiš kärgäk tep. 問 kirlig
4358 6 nom-lar. ördüglüg öngi bïšmaq töz-lüg nom-lar-ïγ tudyaq-tïn
4359 7 tuγar tep tesär tapladïlur andaγ bolz-un nädägin teptesär ärür
4360 8 üčün niz-vanï-nïng sysdw öngi bïšmaq tüš-i aqïγ-lïγ ädgü

4333~4334 ウイグル文 niz-vanï-nïng adï bolur tudyaq yükmäk tep. tudyaq-tïn tuγar üčün「煩惱の名は取蘊となる。取から生じる故に」というのは、漢語「煩惱名取。蘊從取生故名取蘊。」を「煩惱名取蘊。從取生故名取蘊。」のごとく誤って分節した結果とも考えられるが 4339-4340 の釋文では正しく niz-vanï-nïng adï bolur tudyaq「煩惱の名は取となる」と書かれているので、ここでは單なる誤寫と考え、本文和譯では yükmäk「蘊」を削除した。

有漏において、その「取」と云う字を付加した故に、論に説いたのである：「これによって、何を立てるのかと云えば、謂わく、取蘊の亦その名が蘊となることを立てる」（此何所立。謂立取蘊亦名爲蘊）と。如何にして「蘊」と名づけられたのか？また「取蘊」と名づけたのか？と云うなら、答：謂わく、色等の名が差別無い故に、或は又聚集した義において同一の故に、「蘊」と名づけ、また「取蘊」と名づけた。「或は、唯だ蘊となつて、而して取蘊とならないもの有り、謂わく、無漏行である」（或有唯蘊而非取蘊。謂無漏行。）と云った。問：この無漏行は、何に因って、その名が「取蘊」とならないのか？と。答：後に説く三種の義が無い故。謂わく、蘊は取から生まれないし、取へ屬することもないし、また取を生まない。これに因って唯だ「蘊」となり、「取蘊」とは名づけられない、と。

論：**『煩惱の名は｛取となる。蘊は｝取から生じる故に取蘊と名づけた。猶、草糠火と云ったごとし。或は蘊は取へ屬する故、それで取蘊と名づけた。猶、帝王の臣と云ったごとし。或は蘊は取を生む故にそれで取蘊と名づけた。ちょうど花や果もてる樹と云ったごとし』**（煩惱名取蘊從取生故名取蘊如草糠火或蘊屬取故名取蘊如帝王臣或蘊生取故名取蘊如花果樹）と。

釋曰：「煩惱の名は取となる」（煩惱名取）と云ったのであつた。貪等の煩惱の名が如何にして「取」となるのか？と。答云：「取」と云う言には、「執取」と云う義がある。この貪等の煩惱は能く三有生を執取する故、それでその名は「取」となった。或は能く後有を引く業を執持する故、それでその名は「取蘊」となったのである、と。何故、「取」と名づけたのかと云えば、取より生まれる故、取より生まれた蘊の故、それで「取蘊」と名づけた。「・・より生まれた」（・從・生）と云う二字を略去して、ただ、「取蘊」と説いたのである。猶、草から生じた如き火の故に「草火」と名づけ、糠から生じた火を「糠火」と名づけたごとし。この義もまたその通りである。取より生じた蘊の故、それで「取蘊」と名づけたのである。これをまた「八轉聲」、すなわち、八種の格の間において第五の從格によって、「六離合釋」、すなわち、六種の分け、合わせて釋すところの語釋（samāsa）の間で、依士釋によって釋さねばならない、と。問：染汚法、有覆の異熟性の法を、取から生ずる、と云えば許される。かくあるべし。

4335 qavïq「糠」はその發展形式と考えられる<qovuq>に訂正されている： cf. 4351. 4342(~4348) bu az-ta ulatï niz-vanï-lar から tudyaq yükmäk tep までの内容は『順正理論』巻一の内容と大筋で對應している：以能執取三有生故。或能執持引後有業。故名爲取。蘊從取生。或能生取。故名取蘊。(大正 Vol.29, p.333a)。4345 tudγalï は twd'q'ly と綴られている。4349 tïn tuγmïš「・・より生まれた」は漢文の「從生」を表現している。tïn は奪格(從格)接尾辭である。4354 var čün še < Chin. 八轉聲 (M.Chin. păt t'iuen cieng)。 ウイグル語 säkiz türlüg sav äviš-vibakdi. Cf. 1941 note. 4355 luγ li qab šeg < Chin. 六離合釋(M.Chin. liuk lič fiâp ciek)。ウイグル語 altï türlüg adïr-a qabšuru yörgülük samaz-lar. Cf.1919 note. 4357 är-kä tayaq-lïγ temiš-täki nïng samaz「依士釋」 cf.564. 4358 örtüg-lüg「覆もてる」＝「有覆」。4360 sysdw 不明語である。「等流」を表すのか？

4361 9 ördügsüz yrlïγ-sïz nom-lar nädägin tudyaq-tïn tuγar tep 答 munda
4362 10 -ta ulatï-lar biligsiz-tin tuγar üčün munda bar üč türlüg qïlïnč
4363 11 -lar. qaltï buyan-lïγ buyan-sïz täpränčsiz ärür. buyan-lïγ qïlïnč ärür.
4364 12 biligsiz-ning öngi bïšmaq tüš-i buyan-sïz qïlïnč ärür
4365 13 biligsiz-ning är iš-i tüš-i täpränčsiz qïlïnč ärür biligsiz
4366 14 -ning ärksinm-ä tüš-i kirsiz aqïγ-lïγ nom-nung adï bolur
4367 15 buyan-lïγ qïlïnč tep. qaltï küsädači-lär ärsär bïšrunγalï
4368 142b-1 buyan-ïγ küsämiš tilämiš üčün tuγγalï tngri yer-indä. edip yaradïp
4369 2 äd tavar-ïγ anï išlädip bušï berür-lär. čxšapt tudar-lar bïšrunur
4370 3 -lar dyan-ïγ. ulatï munda küsämäk bulγalï tngri yer-indä tuγmaq-ïγ.
4371 4 ulatï tilämäk äd tavar-ta ulatï-larïγ. barča az birlä. birlä yarad
4372 5 -ïlur. näčä inčip ärür ärsär ymä ädgü biligsiz birlä. birlä bolmïš üčün
4373 6 barča adamïš ol tudyaq-tïn tuγmïš tep. 非福行 buyan-sïz qïlïnč
4374 7 niz-vanï-tïn tuγar üčün. anïn söz-lämiš ol täpränčsiz qïlïnč tep
4375 8 bu barča önglüg öngsüz uγuš-taqï dyan töz-lüg buyan-tïn tuγar ..
4376 9 qaltï bar ärsär tuγurup qudrulmaq yol tegüči saqïnčïγ. inčip bïšrun
4377 10 -dačï-lar ol dyan-ïγ. bu saqïnč-lar-ï biligsiz birlä. birlä bolur nädägin
4378 11 teptesär. barča ärür üčün aqïγ-lïγ anïn adamïš ol tudyaq-tïn
4379 12 tuγar tep. 問 tïnlγ-lar-nïng yükmäk-tä ulatï-lar-ï niz-vanï qïlïnč
4380 13 qadïlmaq qavïšmaq-ïndïn inčip tuγmaq üz-ä adï bolz-un tudyaq
4381 14 yükmäk tep. tašdïn sïngarqï tïnsïz-ta ulatï-lar-nïng nädägin adï
4382 15 bolur tudyaq yükmäk teptesär. 答此亦從惑業生 bu ymä ök
4383 143a-1 niz-vanï qïlïnč-tïn tuγar. qaltï basa girant-ta söz-lämiš ol yerdinčü
4384 2 adïrtï qïlïnč uγrïnda tuγar tep. ulatï sudur-ta ymä mundaγ yrlïqa
4385 3 -mïš ol. qïlïnč niz-vanï-tïn tuγar üčün. munung uγrïnda tašdïn
4386 4 sïngarqï tïnsïz-ta ulatï-lar bulmïš ol tudyaq yükmäk tegüči adïγ tep
4387 5 azu ymä yükmäk san-lïγ üčün tudyaq-qa anïn adamïš ol tudyaq yükmäk
4388 6 tep. qaltï xan buyruq-ï tep temiš-i ärsär. qaltï buyruq san-lïγ üčün
4389 7 xan-qa adamïš täg xan buyruq-ï tep. yükmäk san-lïγ üčün tudyaq
4390 8 -qa (anïn) adamïš ol tudyaq yükmäk tep nädägin teptesär yükmäk san-lïγ
4391 9 ärtüki üz-ä tudyaq-qa tudyaq eyin aqïlur ävrilür. 八轉聲中
4392 10 munï yänä var čün še tegmä säkiz türlüg vibakdi-lar-nïng arasïnda
4393 11 altïnč nïng vibakdi üz-ä luγ li qab šeg tegmä altï türlüg adır
4394 12 -a qabšuru yörgülük samaz-lar-nïng arasïnda är-kä tayaq-lïγ temiš
4395 13 -täki nïng samaz üz-ä yörmiš kärgäk. ulatï bošγut-suz-lar-nïng yükmäki
4396 14 barča san-lïγ ärür. tudyaq-qa näčükin taqï ayïtmïš kärgäk adïn kiši-lär
4397 15 -ig qayu tïlday-ïn teptesär. qaltï pardakčan tuš-ïnda ärkän niz-vanï-lar
4398 143b-1 basa basa turup quruldurur örlädür öng yükmäkig ken qut-uγ tanuq
4399 2 -layu tükätdüktä bu ašnu-qï qurulmïš örlädilmiš 藴猶在 yükmäk
4400 3 -lär-i anïlayu oq qalïr. ol qurulmïš yükmäki eyin qayu tuγmïš köngül 々

如何にしてかと云うなら、煩惱の等流（？）異熟果は、有漏善、無覆無記法である故。如何にして取から生ずるのか？と。答：これ等は、無知から生ずる故。ここには三種の業が有る。謂わく、福、非福、不動である。福業は無知の異熟果である。非福業は無知の士用果である。不動業は無知の増上果である。不染有漏法の名は「福業」となる。謂わく、福を修することを欲するものは、天界に生まれることを求める故、彼らは財を造り、それを用いて布施し、持戒し、修定する。更にここで、天界において生を得ることを欲すること、及び財等を求めることは、すべて貪と相應する。如何にこのように善であれども、無知と俱となるために、すべて「取から生じたもの」と名づけた。非福業が煩惱から生ずる故、それで「不動業」と説いたのである。これはすべて、有色と無色界にある定の性もてる福から生ずる。若し、「解脱道」と云う想を起こし、而してその定を修するものが有るなら、この想は無知と俱となる。如何にしてかと云えば、すべてが有漏である故。それで「取から生まれる」と名づけたのである。問：衆生の蘊等は、煩惱業が和合することから而して生ずることによって、その名は「取蘊」となるべし、と。外の非情等の名は、如何にして「取蘊」となるのか？と云えば、答：これも亦、煩惱業より生まれる。謂わく、更に本文において「世の別は業に由つて生ずる」と説いたのである。なお、經においても、このように説かれている：「業は煩惱より生ずる故、これに由って外の非情等は取蘊と云う名を得たのである」と。或は蘊は取に屬する故、それで「取蘊」と名づけたのである。謂わく、「帝王臣」と云ったのは、猶、臣が帝王に屬する故に帝王臣と名づけたごとし。蘊は取に屬する故、それで「取蘊」と名づけたのである。如何にしてかと云うなら、蘊は取に屬することによって、取に隨って流轉する。これをまた「八轉聲」即ち八種の格の間で、第六の屬格によって、「六離合釋」即ち六種の分け合わせて釋すところの語釋の間で、依士釋によって釋さねばならない。なお、無學らの蘊はすべて取に屬している。如何にして更に餘の人々を問う必要があるのか？何に因ってと云うなら、謂わく、凡夫位にあるとき、煩惱は無間に住して色蘊を損惱させる。後に福を證し終えたときにも、先のこの損惱した蘊などは、猶、殘る。

4365 ār iš-i tüš-i「士の仕事の果」＝「士用果」。4383(~4384) yerdinčü adïrtï qïlïnč uγrïnda tuγar「世の別は業に由つて生ずる」は『倶舍論』巻十三の内容に對應する：世別由業生(大正 Vol.29, p.67b)。

4401 4 -täki nom-lar quruldurur örlädür üčün ymä andaγ oq. ymä ök bulmïš
4402 5 ol tudyaq-qa san-lïγ tegüči adïγ. azu-ča ymä yükmäk tuγurur üčün
4403 6 tudyaq-ïγ. anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep. qaltï xu-a-lïγ čäčäk
4404 7 -lig tüš-lüg yemiš-lig sögüd teptemiš-i ärsär. qaltï törüdmäk
4405 8 üz-ä xu-a čäčäk tüš yemiš-ig. sögüd bulmïš täg xu-a-lïγ čäčäk
4406 9 -lig tüš-lüg yemiš-lig sögüd tegüči adïγ. ančulayu oq ymä yük
4407 10 -mäk umaq üz-ä tuγuryalï tudyaq-lïγ. adï bolur tudyaq yükmäk tep
4408 11 ulatï bošγut-suz yükmäk tuγurur adïn-lar-nïng käzigindäki tudyaq
4409 12 lïγ. taqï nä ayïtmïš kärgäk pardakčan-lar-nïng-ïn tep. 有餘师説
4410 13 bar adïn baxšï-lar söz-lär. bu yükmäk-ning öz töz-i ärür üčün tud
4411 14 -yaq. ymä ök ärür üčün ol yükmäk anïn adamïš ol tudyaq yükmäk
4412 15 tep. yükmäk qayu ärsär tudyaq ymä ol oq ol tegüči savïγ iš-in
4413 144a-1 küdükin tuda oq samaz üz-ä yörmiš kärgäk. qaltï sudur-ta yrlïqa
4414 2 -mïš ol anant-a tudyaq tudyaq-lanur mäning-ligig. näng tudyaq-lan
4415 3 -maz ärmäz tep ulatï kengürü yrlïqamïš ol inčä tep. bilig tudyaq
4416 4 -lanur öngüg. tudyaq-lanur bolur mäning-lig tep ulatï. bu
4417 5 sudur-nung abipiray-ïn söz-lälim yükmäk barča ärür tudyaq
4418 6 munï üz-ä bilmiš kärgäk. bu ärür iš-in küdükin tuda oq samaz üz-ä
4419 7 yörmäk tep. aqïγ-sïz tavranmaq-ta yoq üčün mäning-lig. anïn
4420 8 adï bolmaz tudyaq tep. 論 bu aqïγ-lïγ nom-lar-nïng ymä ök
4421 9 adï bolur tigirt-lig niz-vanï-lar-nïng adï ol tigirt tep tigir
4422 10 -ädür täprädür üčün ädgü bölük-lärig. quruldurur ämgädür üčün
4423 11 öz-li adïn-lïγ. tigirt-ning eyin ükligülüki üčün adï bol
4424 12 -mïš ol tigirt-lig tep inčä qaltï aqïγ-lïγ temiš täg tep
4425 13 釋曰 niz-vanï-nïng adï ol tigirt teptemiš-i ärsär. niz-vanï
4426 14 tigirt-kä oxšayur nädägin teptesär. šasdr-ta käntü yör-ä söz
4427 15 -lämiš ol. quruldurur ämgädür üčün öz-li adïn-lïγ tep ::
4428 144b-1 如世間 qaltï yerdinčü-täki tüdüš toqïš anï munï-ča quruldur
4429 2 -maq ämgädmäk üz-ä munung adï bolmïš täg. tigirt tep niz-vanï
4430 3 birök tursar quruldurur ämgädür öz-li adïn-lïγ. qaltï sudur
4431 4 -ta yrlïqamïš ol. tuγsar ol amranmaq az. käntü öz-üg quruldur
4432 5 (-maq) ämgädmäk-tä ävirür. adïn-larïγ quruldurmaq ämgädmäk-tä ävirür.
4433 6 ikigü-ni quruldurmaq ämgädmäk-tä ävirür. munï üz-ä anïn bilmiš
4434 7 kärgäk. niz-vanï tigirt täg ärür tep. 有餘师説 bar adïn baxšï
4435 8 söz-lär. tigirädür täprädür üčün ädgü bölük-lärig. anïn adï bolmïš
4436 9 ol tigirt tep. qaltï tašdïn sïngarqï tüdüš toqïš ät'öz-üg
4437 10 enčländürmämiš-i täg. ančulayu oq ymä ičdin sïngar köngül-tä niz
4438 11 -vanï-lar. tigirädip täprädip ädgü bölük-lär. enčländürmäz üčün anïn
4439 12 bulmïš ol tigirt tegüči adïγ. 有者 lïγ teptemiš-i
4440 13 ärsär. tigirt turur üčün yükmäk-tä anïn adamïš ol tigirt

その損惱した蘊に隨って生まれたところの心心所法もそのように損惱するために、亦、「取に屬する」と云う名を得たのである。或は又、蘊が取を起こす故、それで「取蘊」と名づけた。謂わく、「花と果もてる樹」と云ったのは、猶、花と果實を造ることを以て、樹が「花と果もてる樹」と云う名を得たごとし。このようにまた、蘊が取を生じさせ得ることを以て名は「取蘊」となる、と。なお、無學の蘊は他の次第にある取を生じさせる。況や、凡夫のものをや、と。有餘師が説く：この蘊の自性は取である故、またその蘊でもある故、それで「取蘊」と名づけた。蘊が何かであれば、取もまたそれ（= 蘊）である、と云う言を、その作用を約して、持業釋によって釋さねばならない。謂わく、經に「阿難よ！取は我所を執する。決して執さないものではない」と説かれた。更に次のように廣説された：「識は色を執する。我所を執するのである」と等。我らはこの經の意趣を説きたい：蘊はすべて取である。これによって、これがその作用を約して、持業釋を以て釋すものと知らねばならない。無漏行においては、我所が無い故、それで名は「取」とならない。論：**『この有漏法の亦、その名は有諍となる。煩惱の名は諍である、と。善品を觸動する故に、自他を損害する故に、諍が隨增するところの故に、その名は有諍となった。猶、有漏と言ったごとし』**（此有漏法亦名有諍煩惱名諍觸動善品故損害自他故諍隨增故名爲有諍猶如有漏）と。

釋曰：「煩惱の名は諍である」（煩惱名諍）と云ったが、煩惱は諍に似ている。如何にしてかと云うなら、論に自ら釋し説いた：「自他を損害する故に」（損害自他故）と。猶、世間の爭いがあれやこれや損害することによって、それの名が「諍」となったごとし、と。もし煩惱が住するなら、自他を損害する。ちょうど、經において説かれた：「欲貪が生ずるなら、自身を損害することにおいて轉ずる。他を損害することにおいて轉ずる。兩方を損害することにおいて轉ずる」（と）。これによって、それで煩惱は諍のごとくであると知らねばならない、と。有餘師が説く：善品を觸動する故、それでその名は「諍」となった、と。謂わく、外の爭いが身を安んじなかったごとく、そのようにまた、内の心においても、煩惱が善品を觸動し、安んじない故、それで「諍」と云う名を得たのである。「有」と云ったのは、諍が蘊に住する故。それで「有諍」と名づけた。

4409 taqï nä ayïtmïš kärgäk pardakčan-lar-nïng-ïn「況や、凡夫のものをや」。 taqï nä ayïtmïš kärgäk は直譯すれば「さらに何を云うべき」となるが漢文『俱舍論』では「況」に對應している：taqï nä ayïtmïš krgäk yrlïγ-sïz qïnmaq üz-ä tuγuruïmïš uqïtur qïlïnčïγ「況無記思所發表業」（況や、無記の思の發する所の表業をや（H32V1-2））。4412 yükmäk qayu ärsär tudyaq ymä ol oq ol「蘊が何かであれば、取もまた、それ即ちそれ」＝「蘊が何かであれば、取もまたそれなり」＝「蘊はすなわち取なり」 cf. 2677, 2957. ol oq ol「それ即ちそれ」の oq「即ち」のごとき用法をもって oq samaz「持業釋」（同格限定複合語）とした。4439 「有」をあらわす接尾辭 lïγ はここでは「有諍」すなわち tigirt-lig の lig に該當する。

4441 14 -lig tep. tigirt turur üčün yükmäk-tä teptemiš-i ärsär 論自
4442 15 釋云 šasdr-ta käntü yör-ä söz-lämiš ol tigirt-ning eyin
4443 145a-1 ükligülüki üčün. adqaγ üz-ä birlä yaradïlmaq üz-ä ikigü üz-ä
4444 2 eyin ükliyür üčün anïn adamïš ol tigirt-lig tep. inčä qaltï
4445 3 aqïγ-lïγ temiš täg teptemiš-i ärsär. qaltï öngdün eyin üklimäk
4446 4 üz-ä yörmiš täg. aqïγ-ïγ bu tigirt ymä andaγ oq üčün. anïn
4447 5 söz-lämiš ol. inčä qaltï aqïγ-lïγ temiš täg tep. 阿闍梨
4448 6 衆賢云 ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï söz-lär. yükmäk tigirt
4449 7 birlä. birlä bolup azu tigirt yükmäk birlä bolur üčün anïn adï bol
4450 8 -mïš ol tigirt-lig tep. ästiramati baxšï söz-lär. birök mundaγ
4451 9 tep söz-läsär yindäm kirlig yükmäk ök tigirt-lig bolγu kärgäk
4452 10 ädgü yrlïγsïz ärmäz. qayu tildaγ-ïn teptesär. birök yükmäk tigirt
4453 11 birlä. birlä bolur teptesär. inčip adqaγ üz-ä birlä yaradïlmaq
4454 12 üz-ä tudulur alqu aqïγ-lïγ ädgü kirlig yrlïγsïz-ta ulatï-lar
4455 13 ol yörüg tapladïlur andaγ bolz-un. birök tigirt yükmäk birlä. birlä
4456 14 bolur teptesär. kirlig yükmäk ödrü andaγ bolz-un. ädgü yrlïγsïz
4457 15 -ta ulatï-lar yörügi birlä yaradïlmaz. yindäm tigirt-ning eyin
4458 145b-1 ükligülüki ärmäz. inčä qaltï aqïγ-lïγ temiš täg. ymä ök taqï
4459 2 ymä bar niz-nk ad-lar-ï. ymä ök adï ol tigirt-lig tep. ymä ök
4460 3 adï ol bodulmaq-lïγ tep. ymä ök adï ol kirlig tep. ymä ök
4461 4 adï ol tapčalïγ tep. ymä ök adï ol ooqluγ tep ymä ök
4462 5 adï ol quruldurmaq-lïγ tep. 如是仏法 munï munčulayu burxan
4463 6 nom-ïnda söz-lägüči alqu niz-nk ad-lar. barča bir täk. bir yörüg
4464 7 -lüg ärür. barča uyur eyin ükligäli 隨擧何者 qayu-sïn.
4465 8 ärsär tudsar yörüg yïγïnča bolur bilgäli tep 論 ymä ök

4448(~4450) yükmäk tigirt birlä から ol tigirt-lig tep までは『順正理論』巻一の内容に對應する：蘊與諍俱。或諍蘊俱而得生起。故名有諍(大正 vol.29, p.333a)。4454 kirlig yrlïγsïz「染汚無記」は örtüg-lüg yrlïγsïz「有覆無記」のことか？ 4460 bodulmaq-lïγ「染めることもてる」＝「有染」。

「諍が蘊に住する故」と云ったが、(それを) 論に自ら釋して説いた：「諍が隨増するところの故に」(諍隨増故) (と)。所縁によって、相應によって、その兩方によって、隨増する故、それで「有諍」と名づけた。「猶、有漏と云ったごとし」(猶如有漏)、と云ったのは、猶、以前に、隨増することを以て漏を釋したごとし。この諍もその通りの故に、「猶、有漏と言ったごとし」と説いたのである。尊者衆賢師が説く：蘊は諍と俱となり、或は諍が蘊と俱となる故、それでその名は「有諍」となった、と。安慧師が説く：もしこのように説くなら、唯だ染汚蘊のみが有諍とならねばならない。善、無記 (は有諍) ではない。何に因ってかと云うなら、もし蘊が諍と俱となると云うなら、即ち所縁によって、相應によって、一切有漏善、染汚無記等が攝せられる。その義は許される。その通りであるべし。もし諍が蘊と俱となると云うなら、染汚蘊は即ちその通りであるべし。善、無記等の義は相應しない。唯だ諍のみが隨増するところのものではない。猶、「有漏」と云うがごとし。更に異名が有る。その名は「有諍」である、と。またその名は「有染」である、と。またその名は「染」である、と。またその名は「有垢」である、と。またその名は「有間」である、と。またその名は「有惱」である、と。このごとく佛法において説くところの一切異名は皆同じく一義もてるものである。皆能く隨増する。その何れかを取りあげるなら、義を適切に知り得る、と。

4461 tapčalïγ は *Suv.* (p.135-13) には kkir-lig tapča-lïγ として現れる。UiguricaII (p.37-61) では kkir-siz tapča-sïz が漢語「明淨」にあたる。ここでは tapčalïγ を「有垢」としておきたい。 ooq (~oq) は ooq-suz として頻出し漢語の「無間」にあたる：qaltï yruq yula alqu ïraqtaqï yaqïntaqï yarudγuluq ädlärkä oqsuz tüzü yarudmïšï täg 「如明燈於諸遠近所照之物無間遍照」(B1544)。したがって、 ooq-luγ は「有間」を表すといえるが「まじりのあること」を意味するのか。 Cf. 中村 p.82. 4465 (~4469) ymä ök adï <bolur> ämgäk tep. tüz-ün-lär köngül-ingä qaršï üčün ymä ök adï <ol> tergin tep. uyur üčün tardγalï ämgäk-ig ymä ök adï. yerdinčü tep. buzul<γu-luq> arda<γu-luq> üčün yöründäk-lig üčün. ymä ök adï <ol> körüm orun-ï tep「亦、その名は苦となると。聖人の心へ違の故に。亦その名は集となると。苦を能く招く故。亦その名は世間なりと。毀壞すべき故有對治の故。亦その名は見處なりと」。このウイグル文は訂正されている。訂正前は：ymä ök adï ol ämgäk tep. tüz-ün-lär köngül-ingä qaršï üčün ymä ök adï bolur tergin tep. uyur üčün tardγalï ämgäk-ig ymä ök adï bolur yerdinčü tep. buzulmaq-lïγ ardamaq-lïγ üčün ymä ök adï bolur yöründäk-lig üčün. ymä ök adï bolur körüm orun-ï tep「亦、その名は苦なりと。聖人の心へ違の故に。亦その名は集となると。、苦を能く招く故。亦その名は世間となると。毀壞もてる故に。またその名が有對治の故に (と) なる。亦その名は見處となると」。訂正された文の方がより適切である。ただ、adï bolur と adï ol との入れ替えには大きな意味はない。

4466 9 adï <bolur> ämgäk tep. tüz-ün-lär köngül-ingä qaršï üčün ymä ök adï
4467 10 <ol> tergin tep. uyur üčün tardγalï ämgäk-ig ymä ök adï.
4468 11 <ol> yerdinčü tep. buzul<γu-luq> arda<γu-luq> üčün
4469 12 yörüngäk-lig üčün. ymä ök adï <ol> körüm orun-ï tep
4470 13 körüm turup anda eyin üklip yadur üčün. ymä ök adï
4471 14 <ol> üč bolmaq tep. bolmaq-nïng tïldaγ-ï bolmaq-nïng tayaq
4472 15 -ï üč bolmaq-lar-ta tudulmïš üčün tep 釋曰 yänä sudur-ta
4473 146a-1 yänä bar öngi ad üz-ä yörmiš-i bu aqïγ-lïγ-ïγ. qaltï ämgäk tergin
4474 2 yerdinčü körüm orun-ï üč bolmaq tep ulatï 問 tüz-ün-lär-ning köngül
4475 3 -ingä qaršï üčün teptemiš. ärsär bu ämgäk qamaγ-qa bir täk ärür. nä
4476 4 üčün munda yindäm söz-lädi tüz-ün-lärig ök tep. 答 midik pardakčan
4477 5 -lar-nïng mängi-li tang-lï iki täginmäk-lär-i qaršï ärmäz yükmäk-ingä.
4478 6 ämgäk täginmäk 及 yetdüktä ät'öz-lär-in. temin ök bilir ämgäk ärtükin.
4479 7 tüz-ün-lär qïlïnč ämgäk-tä ulatï alqu aqïγ-lïγ äd-lär-tä arduqraq tuγu
4480 8 -rur-lar üčün irip öngi üdrülmäkig. anïn söz-lämiš ol qaršï tep
4481 9 ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï. söz-lär. ärür üčün alqu sïqïš.
4482 10 tangïš-lar-nïng tayanγuluq orun-ï anïn adï bolmïš ol ämgäk tep 疏主云
4483 11 ästiramati baxšï söz-lär. bu sïqïš tangïš-lar-nïng tayaq orun-ï ärür
4484 12 ol ämgäk-ning tïldaγ-ï. ärür üčün ol ämgäk-ning tïldaγ-ï. adï bol
4485 13 -miš ol tayaq orun tep. uyur üčün sïqγalï tangγalï anïn adï bolmïš
4486 14 ol tïldaγ tep. birök mundaγ tep yörsär ödrü ämgäk-li tergin-li iki
4487 15 kertü-lär-ning uγur-ï ödrü qadïlïšmïš bulγalïšmïš bolur. munï.
4488 146b-1 saqïnmïš-ïngïz kärgäk. birök söz-läsär ärür üčün sïqïš-nïng tangïš
4489 2 -nïng tayaq orun-ï anïn qaršï ärür tüz-ün-lär-ning köngül-ingä. qaršï
4490 3 üčün ärür ämgäk tep. bu ymä ök andaγ ärmäz bu ärür bildürdäči
4491 4 tergin-ning yörügin. näng bildürtäči ärmäz ämgäk-ning yörügin
4492 5 ämgäk-ig bildürdäči ärsär yindäm ärür qïlïnč ämgäk. qarïšdačï
4493 6 tüz-ün-lär-ning köngül-ingä. näng bu sïqïš tangïš-nïng tayaq orun-ï
4494 7 ärmäz. qïlïnč ämgäk üz-ä ämgäk üčün 世尊経中 adï ködrülmiš-ning
4495 8 (sudur-ta) qavïr-a-sïnča yrlïqamaq-ï ärsär. beš tudyaq yükmäkig bolur ämgäk tep
4496 9 munda yörüngäk qïlγu üčün ärür az amranmaq-qa tep. 問 birök
4497 10 qïlïnč ämgäk üz-ä yükmäk ämgäk bolur teptesär. yol kertü ymä ök
4498 11 munda ämgäk bolγu kärgäk. nädägin teptesär ärür üčün ediglig. munda
4499 12 söz-läsär aqïγ-lïγ yükmäk ärür ämgäk tep tudulup ämgäk alqïn
4500 13 -maz. nädägin teptesär alqu ediglig nom-lar barča ärür üčün ämgäk tep
4501 14 答 yol kertü näčä qïlïnč ämgäk üz-ä ämgäk ärsär ymä. bu oq inčip
4502 15 qaršï ärmäz tüz-ün-lär-ning köngül-ingä. qayu tïldaγ-ïn teptesär 先於
4503 16 凡位 ašnu pardakčan tuš-ta ärkän. qayu nom-ta balsar yapšïnsar. qayu nom usar

論：『亦その名は苦となると。聖人の心に對して違の故に。亦その名は集となると。苦を能く招く故。亦その名は世間であると。毀壞すべき故有對治の故。亦その名は見處であると、見はそこに住して、隨増し眠る故。亦、その名は三有であると、有の因、有の依は三有において攝せられた故に』（亦名爲苦違聖心故亦名爲集能招苦故亦名世間可毀壞故有對治故亦名見處見住其中隨增眠故亦名三有有因有依三有攝故。）と。

釋曰：經にまた、他の名を以てこの有漏を釋したものが有る。謂わく、苦、集、世間、見處、三有と等。問：「聖人の心に對して違となる故に」（違聖心故）と云ったが、この「苦」は衆（人）にも同一である。何故、ここでは唯だ聖人をのみ説いたのか？答：凡夫らの喜と憂との二つの受は蘊に對して違ではない。苦受が身に及んだとき、方に苦であることを知る。聖人は業苦等の一切の有漏事において、畢竟に厭離を起こす故、それで「違」と説いたのである。尊者衆賢師が説く：諸々の逼迫が依るべき處である故、それでその名は「苦」となつた、と。世親師が説く：この逼迫の依處は苦の因である。苦の因であるために、その名は「依處」となった。能く逼迫する故、それでその名は「因」となった、と。もしこのように釋すなら、そこで苦と、集との二諦の場合が即ち雜亂したものとなる。これを考えねばならない。もし、逼迫の依處である故、それで聖人の心に對して違である、違である故に苦であると説くなら、これもまたその通りではない。これは集の義を示すものである。決して苦の義を示すものではない。苦を示すものは唯だ業苦のみである。聖人の心に對して違とするものは、決してこの逼迫の依處ではない、（それは）業苦による苦である故に。世尊が經において「五取蘊が苦となる」と略説されたのは、ここでは貪欲へ對治をなすことのためである、と。問：もし業苦によって蘊が苦となると云うなら、道諦もまたここで苦とならねばならない。如何にしてかと云うなら、有爲である故。ここで有漏の蘊が苦であると説くなら、苦は攝せられても盡きない。如何にしてかと云うなら、一切有爲法は皆苦である故、と。答：道諦は、如何に業苦による苦であろうとも、これは則ち聖人の心に對して違ではない。

4466~4469 adï <bolur> ämgäk tep. tüz-ün-lär köngül-ingä qaršï üčün ymä ök adï <ol> tergin tep. uyur üčün tardγalï ämgäk-ig ymä ök adï. yerdinčü tep. buzul<γu-luq> arda<γu-luq> üčün yöründäk-lig üčün. ymä ök adï <ol> körüm orun-ï tep. このウイグル文は訂正されている。訂正前は：adï ol ämgäk tep. tüz-ün-lär köngül- ingä qaršï üčün ymä ök adï bolur tergin tep. uyur üčün tardγalï ämgäk-ig ymä ök adï. bolur yerdinčü tep. buzul-
maq-lïγ ardamaq-lïγ üčün ymä ök adï bolur yöründäk-lig üčün. ymä ök adï bolur körüm orun-ï tep. 下線部分が訂正箇所である。adï bolur と adï ol との違いは「名は・・と爲す」と「名は・・也」に對應する。4470~4471 eyin üklip yadur üčün「隨増し眠る故」は漢文「隨增眠故」に對應する。漢文は「眠を隨增する故」と讀める。4545 のウイグル文も同じ表現である。adï <ol> üč bolmaq tep の訂正前は：<bolur> üč bolmaq tep. 4477 tang は普通は「おどろき、非常に」を表す。ここでは mängi「喜び」とともに「喜憂の受」を表すものと考えたい。4481(~4482) ärür üčün alqu sïqïš tangïš-lar-nïng tayanγuluq orun-ï anïn adï bolmïš ol ämgäk tep「諸々の逼迫が依るべき處である故、それでその名は苦となつた」。このウイグル文の内容はは『順正理論』巻一のものと對應する：謂或名苦。(即五取蘊。)是諸逼迫所依處故。(大正 Vol.29, p.333a)。4503 usar「できるなら」が 2 つあるが 1 つは餘分である。

4504 147a-1 usar quruldurγalï örlädgäli inčip irmiš üčün ol nom bolur
4505 2 ämgäk tep. bu yol kertü-tä bolmaz balmaq yapšïnmaq quruldurtačï
4506 3 örlätdäči ärmäz. ymä ök qïlïnč ämgäk üz-ä irgülük tidgülük ärmäz
4507 4 anï üčün yol kertü ämgäk ärmäz. bu tïldaγ-ïn aqïγ-lïγ ärür ämgäk. alqu
4508 5 ediglig nom-lar ärmäz. ymä adï bolur tergin tep. uyur üčün tardγalï
4509 6 ämgäk-ig teptemiš-i ärsär. tergin ärsär terip büdürtäči ärür niz-vanï
4510 7 qïlïnč yïγïlmaq terilmäkin-tin büdär ämgäk-lig tüš tep 有餘师說
4511 8 bar adïn baxšï-lar söz-lär oxšadï nom-qa tïldaγ bolur üčün. anïn adï
4512 9 bolmïš ol tergin tep 問 birök andaγ ärsär yol munda tergin bolγu kärgäk
4513 10 ymä ök oxšadï nom-lar-qa tïldaγ bolur üčün tep. 答 bulduqmaz munda
4514 11 mün qadaγ. irip ämgäk-lig tüš-üg. ärü ärü isdäyü anïng tïldaγ-ïn
4515 12 bilip bu ämgäk-ning tïldaγ-ï ärsär qaltï tergin ärür tep. ärü ärü
4516 13 tuγurur irip öngi üdrülmäkig. tergin bolur ämgäk-kä tïldaγ. näng
4517 14 yol kertü ärmäz. bolmaz irip yol kertüg ikiläyü isdägäli anïng tïldaγ
4518 15 -ïn 若尋道論之因 birök isdäsär yol kertü-nüng tïldaγ-ïn
4519 16 bu inčip ärür nirvan-ïγ bulmaq-nïng tïldaγ-ï. näng bu ämgäk-ning tïldaγ
4520 147b-1 -ï ärmäz anïn yol tergin ärmäz. näng yol kertü alqu oxšadï nom-lar-qa
4521 2 tïldaγ bolur ärmäz üčün. anïn tergin-li yol-lï-nïng bolmaz bir ikinti
4522 3 -kä tudulušmaq-lïγ mün-i qadaγ-ï tep. ymä ök adï ol yerdinčü
4523 4 tep buzulγuluq ardaγuluq üčün yöründäk-lig üčün tep
4524 5 temiš-i ärsär. munung bar üčün buzulmaq ardamaq-lïγ töz-i. anïn
4525 6 adï bolmïš ol yerdinčü tep. munda bar iki türlüg buzulmaq ardamaq
4526 7 -lar. ang'ilki yöründäk üz-ä ikinti ürlügsüz üz-ä yol kertü yöründäk
4527 8 üz-ä öčmäz üčün. anïn yerdinčü ärmäz. yerdinčü ymä buzuldačï arda
4528 9 -tačï ymä boldačïγ 應作四句 čadiškodi tört padak qïlmïš kärgäk
4529 10 bar munda yerdinčü bolur buzuldačï ardatačï ärmäz qaltï ärtmiš kälmädük
4530 11 ödki aqïγ-lïγ äd-lär ärür. aqïγ-lïγ äd üčün anïn ärür yerdinčü
4531 12 ärtmiš ödki-si öč-ä tükätmiš. kälmädük ödki-si tuγmaduq üčün
4532 13 anïn buzuldačï ardatačï ärmäz. bar buzuldačï ardatačï bolur yerdinčü
4533 14 ärmäz. qaltï yol kertü ärür. ärür üčün ediglig bolur ürlügsüz
4534 15 üz-ä buzulmaq ardamaq-ï. aqïγ-lïγ ärmäz üčün anïn yerdinčü ärmäz.
4535 148a-1 bar ymä ök yerdinčü bolup. ymä ök buzuldačï ardatačï ymä boldačï
4536 2 inčip bu söz-lägüči yügärü-ki aqïγ-lïγ äd-lär ärür. bar yerdinčü ymä
4537 3 ärmäz buzuldačï artadačï ymä ärmäz. qaltï ärtmiš ödki yol kertü
4538 4 ulatï edigsiz-lär ärür tep. 有一师云 bar bir baxšï söz-lär ürlüg
4539 5 üz-ä <ardamïš> öčmiš üčün anïn adamïš ol yerdinčü tep. birök
4540 6 andaγ ärsär yol kertü ymä ök andaγ oq bolγu kärgäk tep. 答.
4541 7 andaγ ärmäz. bu yerdinčü-nüng adï yörügi bir yindäm aqïγ-lïγ ärür ürlüg
4542 8 -süz-i üz-ä öčmiš ardamïš-ï-nïng adï san-lïγ ärür. yerdinčü-kä yol
4543 9 kertü-nüng näčä bolsar ymä ürlügsüz üz-ä öčmäk ardamaq-ï ürlüg

何に因ってかと云えば、先に凡夫位にあるとき、何らかの法において縛著されるなら、何らかの法が損惱させ得るなら、而して厭じたため、その法は苦となる、と。これは道諦において縛著とならない。損惱させるものではない。また業苦を以て厭捨するところのものではない。それ故、道諦は苦ではない。これに因って有漏は苦である。一切有爲法は（そう）ではない。「亦その名は集となる、と。苦を能く招く故」（亦名爲集能招苦故）と云った。「集」は集まって成ずるものである。煩惱業が聚集することから苦果が成ずる、と。有餘師が説く：同類の法への因となる故、それでその名は「集」となったのである、と。問：もしそのようなら、道はここで集とならねばならない。また同類の法への因となる故に、と。答：ここに過失は無い。苦果を厭じ、徐々にそれの因を求め、この苦の因がちょうど集であると知って、徐々に厭離を起こす。集は苦への因となる。決して道諦ではない。道諦を厭じて、更にそれの因を尋ね得ない。もし道諦の因を尋ねるなら、これは即ち涅槃を得ることの因である。決してこの苦の因ではない。それ故に道は集ではない。決して道諦は一切の同類法への因となるのではない故、それで集と道とが、互いに攝せられ合うことの過失とはならない。「亦その名は世間である、と。毀壞すべき故、有對治の故」（亦名世間。可毀壞故。）、と云った。これには「毀壞」の性が有る故、それでその名は「世間」となったのである、と。ここには二種の「毀壞」が有る。第一は對治による、第二は無常による。道諦は對治によって滅さない故、それで世間ではない。世間もまた毀壞するものとなることについて、四句に作らねばならない。ここに「世間が毀壞するものとなるのではない」（と云うのが）有る。謂わく、過去、未來時の有漏の事である。有漏の事故に、世間である。過去時は已に滅した、未來時は不生故、それで毀壞するものではない。「毀壞するものが世間となるのではない」（と云うのが）有る。謂わく、道諦である。有爲であるために無常による毀壞となる。有漏でない故、それで世間ではない。また「世間となって、毀壞するものとなるもの」も有る。即ち、この所説の現前にある有漏の事である。「世間でもなく、毀壞するものでもない」（と云うのが）有る。謂わく、過去時の道諦及び無爲である、と。或る師が云う：常によって毀滅した故、それで「世間」と名づけたのである。もしその通りなら、道諦もまた必然的にその通りになる、と。答：その通りではない。この世間の名、義は唯一有漏である。無常によって滅毀したものの名は「世間へ屬すもの」である。

4518 ウイグル文中の漢文「若尋道論之因」の「論」は「諦」の誤り。4548(~4560) näčük'ol aqïγ-lïγ からol orun bolur tepまでは『順正理論』卷一の内容に對應する：豈不有漏一切煩惱皆隨增耶。豈不諸見漏取諍攝前已説耶。 雖有此理。而彼諸見。於有漏法一切種時相無差別。堅執無動隨增眠故。體用增盛。爲顯有漏是能生長。此諸見處。故應重説。貪等癡疑則不如是。以彼貪等有一切種無一切時。癡一切時非無差別。疑無差別而不堅執。是故有漏不説彼處。(大正 Vol.29, p. 333b)。

4544 10 -süz-i-ning adï yörügi san-lïγ ärmäz yol kertü-kä. ymä ök adï ol körüm
4545 11 orun-ï tep. körüm turup anda eyin üklip yadur üčün teptemiš-i
4546 12 ärsär. 見者五見 körüm ärsär beš körüm-lär ärür. aqïγ-lïγ yükmäk
4547 13 -tä. <körüp> yadïp eyin ükliyür üčün. anïn adamïš ol körüm
4548 14 orun-ï tep. 問 näčük'ol aqïγ-lïγ alqu niz-vanï-lar barča eyin
4549 15 üklimäz mü. näčük'ol alqu körüm-lär-kä aqïγ-lïγ-ta tudyaq tigirt
4550 16 tudulmaq-ïn ymä öngdün söz-läyü tükät-mäti mü tep ::
4551 148b-1 näčä bar ärsär ymä bu yörüg inčip ol alqu körüm-lär aqïγ-lïγ nom-lar
4552 2 -ta alqu türlüg-lär üz-ä öd üz-ä adïrt-sïz bärk yarp adqanïp
4553 3 täprämätin eyin üklip yadur üčün. töz-i iš-i üklimiš ašïlmïš
4554 4 ärür. uqïdγalïr üčün aqïγ-lïγ nom-lar-nïng. bu alqu körüm-lärig
4555 5 tuγurdačï bädütdäči orun ärtükin. anïn tägimlig ol qadnayu söz
4556 6 -lägäli. az-ta ulatï(-larïγ) biligsiz sezik ödrü andaγ ärmäz. ol az-ta
4557 7 ulatï-lar alqu türlüg bolur. ymä alqu ödtä bolmaz. biligsiz
4558 8 alqu (ödtä) bolsar ymä adïrt-sïz ärmäz. sezik adïrt-sïz ärsär ymä inčip
4559 9 bärk yarp adqantačï ärmäz. anï üčün aqïγ-lïγ nom-larïγ söz-läm-ä
4560 10 -miš ol orun bolur tep. 論 ymä ök adï ol üč bolmaq tep
4561 11 bolmaq-nïng tïldaγ-ï bolmaq-nïng tayaq-ï üč bolmaq-lar-ta tudulmïš
4562 12 üčün tep. 釋曰 bolmaq ärsär tergin-tin tuγmïš bolmaq ärür. inčip
4563 13 munda tudulur. birök mundaγ yörsär ödrü yol kertü birlä. bir ikin
4564 14 -ti-kä alïš-sïz beriš-siz bolur qayu tïldaγ-ïn teptesär yol kertü
4565 15 tergin kertü-tin tuγmaz üčün tep 或此有名五 azu-ča ymä bu bol
4566 16 -maq-nïng adï turur beš tudyaq yükmäk-tä. yindäm bolur söz-läp
4567 17 turγuralï munda. adïn orun-ta ärmäz qaltï sudur-ta yrlïqamïš ol
4568 149a-1 bolmaq ymä qayu ol teptesär qaltï beš tudyaq yükmäk ärür tep.
4569 2 azu-ča ymä aqïγ-lïγ äd-lär kšan kšan sayu aqïlu ävrilü basa basa
4570 3 (tuγar) turur üčün anïn adï bolmïš ol bolmaq tep. bar adïn baxšï-lar
4571 4 söz-lär. mundïr-tïn tuγar üčün ämgäk. anïn adï bolmïš ol bolmaq
4572 5 tep. munï yänä bešinč sav ävriš-i tïn vibakdi üz-ä yörmiš kärgäk
4573 6 或有有故 azu-ča ymä bolmaq bolmïš üčün inčip bolur ämgäk-ning
4574 7 tuγmaq-ï. birök bolmasar ol bolmaq inčip bolmaz ämgäk bu oq inčip
4575 8 ärür yetinč ta vibakdi üz-ä yörmäk tep. ulatï tep temiš-i ärsär.
4576 9 ulatï tegüči sav-ta almïš kärgäk adïn niz-nk ad-larïγ bodulmaq-lïγ-ta
4577 10 ulatï tep. 論 mundaγ osuγ-luγ-ta ulatï uγuš-luγ-lar ärür aqïγ
4578 11 -lïγ nom-lar-nïng yörüg eyinki niz-nk adï tep 釋曰 käntü beš tudyaq
4579 12 yükmäk-tin üč bolmaq-qadägi ulatï mundaγ osuγ-luγ-ta ulatï niz
4580 13 -nk ad-lar. öngdün yörgüči aqïγ-lïγ-nïng yörügi birlä bir täk üčün
4581 14 söz-lämiš ol yörüg eyinki niz-nk adï tep. bu bir karikda yumdaru abi
4582 15 -piray üz-ä irdürgälir alalantduryalïr üčün sansar-ïγ yörüp aqïγ
4583 16 -lïγ-nïng niz-nk adïn ärtdi. 阿毗達磨俱舍論實義疏卷
4584 17 第一 abidarmakoš šasdr-taqï čïn-kertü yörüg-lär-ning kengürü ačdačï tiki
4585 18 -sï bašdïnqï küün 又 abidarim qïïn-lïγ košavardi šasdr-taqï čïn-kertü
yörüg-lär-ning kengürü-si ymä/ter

4575 ulatï tep temiš-i ärsär ulatï tegüči sav-ta almïš kärgäk adïn niz-nk ad-larïγ 「「等」といったのは、「等」という言において餘の異名を得なければならない」。ここでの「等」は「見處三有等」(『俱舍論』 p.2a)の「等」を指す。4581 bu bir karik「この一本頌」というのは次の頌を指す： aqïγ-lïγ nom-lar tudyaq yükmäk tep adanur-lar. ymä ök telür-lär tigirt-lig ulatï ämgäk tergin yer-tinčü körüm orunï üč bolmaq tep ulatï (4304-4306)「有漏名取蘊 亦説爲有諍 及苦集世間 見處三有等」。4582 sansar は sns'r と綴られている。irdürgälir alalantduryalïr (?) は二詞一語である。從って alalantdur-の意味は irdür-「厭わせる」と類似しているにちがいないが、不明である。⇒

道諦が、如何に無常による滅毀となつても、無常の名、義は道諦へ屬するものではない。「亦その名は見處である、と。見がそこに住して隨増し眠る故」（亦名見處見住其中隨増眠故）、と云った。「見」は五見である。有漏の蘊において、見て眠り隨増する故、それで「見處」と名づけたのである、と。問：如何にして有漏の一切煩惱は皆な隨増しないであろうか、（否、するであろう）。如何にして諸見によって、有漏における取と諍が攝せられることをまた以前已に説かなかっただろうか、（否、説いたであろう）、と。如何にこの理が有れども、而して彼の諸見は、有漏法において一切種と時による差別が無く、堅執して動かず、隨増して眠る故に、體と用とが増大したのである。有漏法が、この諸見を生長させる處であることを顯すため、それで應に貪等を重ねて説くべし。癡と疑は則わちその通りではない。その貪等は一切種となる。一切時には成じない。癡は一切時に成じても、無差別ではない。疑は無差別であれども、而して堅執ではない。それ故、有漏法を「彼の處となる」とは説かなかった、と。論：「亦、その名は三有であると、有の因、有の依は三有において攝せられた故に」（亦名三有。有因有依三有攝故。）、と。釋曰：「有」は集から生じた有である。而して、ここで攝せられる。もしこのように釋すなら、即ち道諦と互いに不授受となる。何に因ってかと云えば、道諦は集諦からは生じない故、と。或は、この「有」の名は五取蘊において起こる。唯だ此處においてのみ可く説き起こす。餘處においてではない。ちょうど、經に説かれたのである：「有はまた何かと云うなら、謂わく、五取蘊である」と。或はまた、有漏の事は刹那刹那に流轉して、無間に生起する故、それでその名は「有」となった、と。有餘師が説く：これから苦が生まれる故、それでその名は「有」となったのである、と。これをまた第五轉聲の從格によって釋さねばならない。或はまた「有」が有る故に、即ち苦の生が有る。もし「有」が無ければ、即ち苦は無い。これは即ち、第七の依格によって釋すことである、と。「等」と云ったのが、「等」と云う言において餘の異名を得なければならない。（たとえば）「有染」等と。

論：**『この如き等の類は有漏法の義に隨う別名である』**（如是等類是有漏法隨義別名。）と。

釋曰：自ら、五取蘊から三有にまで（を）、更にこのごとき等の異名は以前に釋すところの有漏の義と同一の故に、「義に隨う異名」と説いたのである。この一本頌おいては、總ずる意趣を以て生死を厭わせるため（である）。有漏の異名を釋し竟つた。

阿毘達磨倶舍論實義疏卷第一。

ここでは二詞一語として「厭わせる」と和譯した。Cf. ala bol- "rebel", kiši alāsi "a man's secret thoughts" Kāšyarī 3 p.7. alalandtur- < ala-lan-tur- ? 4584~4585 abidarmakoš šasdr-taqï čïn-kertü yörüg-lär-ning kengürü ačdačï tiki-sï bašdïnqï küün 又 abidarim qïïn-lïγ košavardi šasdr-taqï čïn-kertü yörüg-lär- ning kengürü-si ymä/ter. これはこの注釋書の題目を表現している。これに關しては 1~4 注と本論 1.1.4 を參照。

4. 語彙リスト

ウイグル文アビダルマ論書の語彙リストは本書に掲げたテキストの語彙を中心に作成した。テキストは提出しなかったが、ストックホルム民族學博物館藏『阿毘達磨倶舍論』は漢文と對照できる重要な文獻であるので、そこからも多くの語彙を採用した。また、『阿毘達磨倶舍論實義疏』第 4 卷に相當する大英圖書館所藏の Or.8212-75B のテキストは本書には掲げなかったが、ここでは全ての語彙を採用した。Or.8212-75B のテキストは庄垣内(1993a)を參照されたい。漢文と對照できる文例はウイグル文に漢文を竝記した。前章 3 でテキストを掲げた『阿毘達磨倶舍論實義疏』(第 1 卷 Or.8212-75A)に現れる語彙の見出し語および文例は、本文の他に注記に掲げた本文の訂正文をも含んでいる。本文のものと注記のものとの區別は特に示さなかったので注意されたい。なお、見出し語は音素轉寫形式で掲げたが、文例ではもとの表記の在り方を示したいために、/d/と/t/の區別はせず、また母音の省略も埋めることなしに、文字轉寫のままにした。

略號

無印 = 大英圖書館藏『阿毘達磨倶舍論實義疏』第 1 卷 Or.8212-75A

B = 大英圖書館藏『阿毘達磨倶舍論實義疏』第 4 卷 Or.8212-75B

H = ストックホルム民族學博物館藏『阿毘達磨倶舍論』1935-25 ～ 40(Hedin Collection)

S(SA ～ SG) = ロシア科學アカデミー東洋文獻研究所藏『入阿毘達磨論』の注釋書(SI Kr. 1/24, 27, 28, 29, 30, 33)

D = ベルリン・ブランデンブルグ・科學アカデミー藏『阿毘達磨倶舍論』頌の注釋書(U5650, U5674)

A

abamu

「永久」 näčä usar ymä mundaγ qïlγalï arïdï abamu-luγ bolmaz 1401, bošγudsuzlarnïng abamu-luγ turγuluq orun-ï üčün 1864, turγurmaq uγrïnta abamu-luγ ädgü ašayïγ artatmaqïγ bululur asanvar 「由起畢竟壞善意樂得不律儀」 H33R43

abasvar

< Skt. ābhāsvara-「極光淨(天)」 bar adïn baxšïlar sözlär abasvar-ta turduqta 「有餘師言住極光淨」 H28V57

abidarim

< Skt. abhidharma 「阿毘達磨」「對法」 2, 3, 242, 1594, 1598, 1599, 1613, 1624, 1624, 1626, 1629, 1630, 1631, 1635, 1636, 1640, 1666, 1667, 1672, 1682, 1684, 1693, 1763, 1766, 1769, 1770, 1773, 1774, 1775, 1777, 1779,1782, 1785, 1787, 1794, 1795, 1799, 1801, 1818, 1890, 1891, 1892, 1901, 1902, 1904, 1904, 1908, 1909, 1910, 1912, 1914, 1924, 1930, 1941, 1954, 2016, 2106, 2119, 2123, 2147, 2177, 2183, 2201, 2206, 2214, 2219, 2222, 2230, 2231, 2234, 2235, 2236, 2244, 2289, 2293, 2293, 2322, 2376, 2379, 2386, 2408, 2413, 2415, 2419, 2424, 2426, 2431, 2449, 2474, 2476, 2485, 2523, 2525, 2526, 2527, 2528, 2578, 4226, 4235, 4585, qayu ol qaltï abidarim tep 「何謂對法」 1594, azuča ymä uyur üčün körmäkkä tušγaryalï anïn adamïš ol abidarim tep 「或能對觀故稱對法」 1818, aqïγsïz beš yükmäkning adï bolur abidarim tep 「無漏五蘊名爲對法」 1613, bu oq inčip ärür činlayu abidarim 「此則勝義阿毘達磨」 1667, birök sözläsär yïlayu abidarim-ïγ bu oq inčip munï buldurdačï 「若說世俗阿毘達磨即得此」 1686, mäning bar ärür täringdä täring abidarim-ïm ulatï vinay-ïm 「我有甚深阿毘達磨及毘奈耶」 1675; abidarim šastr (Skt. abhidharma-śāstra)「阿毘達磨論」 2

a.-ïγ 341, 492, 1607, 1683, 1684, 1686, 1917, 1961, 1962, 1964, 1970, 1988, 2033, 2034, 2040, 2070, 2071, 2071, 2073, 2079, 2085, 2089, 2102, 2123, 2188, 2227, 2343, 2422, 2432, 2435, 2448, 2463, 2482, 2520, 2522, 2586

a.-lar 2553

a.-larïγ 1956

a.-larnïng 2146, 2389, 2395

a.-lartaqï 408

a.-lïγ B1450

a.-ïm 1675

a.-ïnda 2412

a.-nïng 1589, 1804, 1940, 2091, 2098, 2312, 2408, 2425, 2524

a.-qa 245, 1909, 2187, 2317, 2375

a.-ta 1803, 2193, 2263, 2278, 2285, 2349, 2465, 2472, 3252, 4248, B1410

abidarima

1571, see abidarim

abidarimakoš

1946, see abidarmakoš

abidarmakoš

< Skt. abhidharma-kośa 「阿毘達磨俱舍」「對法俱舍」「對法藏」 248, 1588, 1918, 1925, 1926, 1930, 1945, 1955, munï uqïdmïš ol abidarmakoš tep adüzä 「此立對法俱舍名」 248, nä üčün bu šasdrnïng adï boldï abidarmakoš tep 「何故此論名對法藏」 1918; abidarmakoš šasdr (Skt. abhidharma-kośa-śāstra)「阿毘達磨俱舍論」「對法藏論」 15, 74, 1545, 1556, 1570, 1585, 1587, 4584, tapïng ol nägü qïlγuluq teptesär abidarmakoš šasdr-ïγ mn inčip sözläyin tep 「欲何所作對法藏論我當說者」 1545

abidarmavad

< Skt. abhidharma-vāda 「阿毘達磨論」 2582

abidarmaxarday

< Skt. abhidharmahṛdaya abidarm-a-xarday atlγ šastr = Skt. abhidharmahṛdaya-śāstra 「阿毘曇心論」 2829, 2832

abidarmike

< Skt. ābhidhārmika 「阿毘達磨論師」; abidarmike-lïγ alqu uluγ šastirakare baxšïlar 「阿毘達磨諸大論師」 B692, B1445, abidarmake-lïγ alqu baxšï-lar「對法諸師」 H37R14; abidarmake-lïγ H36V50, H37R15

abipiray ～ abipiraay

< Skt. abhiprāya 「意趣、意」 348, 2171, 2371, 2882, 2891, 3112, 3481, 3583, 4178, 4207, 4210, 4581, H35R41, H37V5, H38R39, munda abipiray-ïn sözlälim「此中意説」 B476, bu sezik abipiraay-ïn sözlälim「此間意云」 B1755, sanggabadre baxšï uqmadïn sudurnung abipiray-ïn 1994, angbašlayuqï tayaq tegüči užikning abipiray-ïn sözlälim 3502, qayu kiz-läglig abipiray-qa tayaq-lïγ-ïn yrlïqatïngïz bar üč türlüg täginmäk-lärï tep 「依何密意説有三受」 H37R67; abipiray yol 「意趣」 SE25, ayaγqa tägimlig darma-dirade baxšïnïng munday osuγluγ abipiray-ï yol-ïn ödrü sävgülük ärmäz 「大德如是意趣非即可樂」 B1842, yörügi uqulmaduq üčün abipiray-ï yol-ïn alp bolur bilgäli 「理未顯故意趣難知」 B1845

a.-ï 80, 141, 161, 189, 227, 244, 249, 474, 962, 1228, 1324, 1336, 2149, 2578, 2639, 2687, 2892, 2956, 3124, 3232, 3491, 3334, 3732, 4225, B13, B758, B1252, B1413, B1427, B1797, B1798, B1842, B1845, B1885, B1986, H37V13; a.-ï yol-ïn B1854; abipiraay-ï B1831; abipiraay-ï B1480

a.-ïγ 2101, 2174

a.-ïn 478, 963, 969, 1994, 2094, 2105, 2169, 2747, 2751, 2872, 3372, 3374, 3405, 3477, 3497, 3502, 3507, 3670, 3742, 4417, B209, B221, B248, B476, B726, B952, B953, B958, B975, B1176, B1180, B1187, B1275, B1370, B1451, B1611, B1619, B1729, B1765, B1770, B1813, B1850; abipiraay-ïn B1196, B1209, B1215, B1281, B1467, B1711, B1755, B1835, B2090

a.-ïnïng 2005, B1893

a.-ïnta 147, 3471

a.-lar 391, 2091, 3499, 3594, 3865, 3868, 4265, 4267

a.-larïγ 480, 2032, 2098

a.-larta 2173

a.-lïγ 3496

a.-qa 3503, H37R64, H37R67, H37R70, H37V9

ač-

「開く」 yänä bir közüg ač-ïp bir közüg büridmiš ödtä 「又開一眼觸一眼時」 B1455; kengürü ač- 「廣開する」; ač- yar- 「開敷する」

a.-ar a.-r yar-ar 1240

a.-dačï kengürü a.-dačï 2, 4584, a.-dačï yar-dačï 521, 1241

a.-duqta B1418, B1452

a.-γalï a.-γalï yar-γalï 1238, 1241

a.-ïp B1451, B1455, B1459, B1912

a.-maq B1424,

a.-mïš B1417; a.-mïš yar-mïšï 1240

a.-sar 1239, B1439

ač-

「飢える」 qltï birök tušmaz ärkän-ki ödtä ač-maq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüš-tä ulatï ämgäk-lär üz-ä sïqïlmaq tangïlmaqta 「謂若未遭飢渴寒熱疲欲等苦所逼迫時」 H37R5

ačari

< Skt. ācārya 「阿闍梨」 a-simarda atlγ ačari 8

ačïγ

「苦い」 anïng tatïγï ärtingü ačïγ bolur 「其味極苦」 H35R21

ačïl-

「開かれる」「廓げる」 kün tngrining yadïlmïš

isig čoγï üzä bulït boγanaq arïγlayu tegü täg ačïl-duqïnta「烈日舒光霧霧廓清」 B895; ačïl- yarïl- ～ ačïl- yadïl-「開敷する」 näčä ačïl-sar yadïl-sar ymä köz-lärï umaz-lar körgali「雖開殊眼不能睹」 H40R11

a.-duqïnta B895

a.-γalï 1239

a.-ïp a.-ïp yarïl-ïp 520, 522

a.-maduqïnïng 3976

a.-mïš a.-mïš yarïl-mïš 508, 518, 519

a.-u 3976

ačvake

< Skt. Ājīvika「邪名外道」 tärs öz eltinmaklig ačvake tirti「邪名外道」 H27R28, cf. tirti

ada

ada tuda「災い」「災横」 191, 3885, qarïmaq iglämäk ölmäktä ulatï ada tuda-lïγ adruqlar üzä「老病死等災横差別」 3885, öngi üdrülmäk üz-ä säkiz türlüg ada tuda-larta köngülüg amïrtγurdačï süztäči üčün「離八災患心澄淨故」 H39V11; učrum ada-lïγ「險阻」 inčip käzä yoṙduqta učrum ada-lïγ-ta körgülük önglär körklär yarïmča yaruq arïγ bolmïš täg「而遊險阻所見色像少分明淨」 B886; tïdïγ ada「障礙」

a.-lïγ-qa učrum a.-lïγ-qa B881

a.-lïγ-ta učrum a.-lïγ-ta B886

a.-sï a.-sï tuda-sï 4164; tïdïγ-ï a.-sï 181

adaq

「足」「下」「末」 iki adaq-lïγlarta tört adaq-lïγlarta üküš adaq-lïγlarta「二足四足衆多足者」 416, yinčürü töpün yükünüp adaq-ïn tudmïš üčün「稽首接足故」 1323, angkin adaq-taqïta adaq-taqï bölüklüg bïšrunmaqtaqï nizvanïlarïγ 832, adaq-daqï ortunqï baštïnqï ayïγ öglisintä ymä ök「下中上怨亦」 H39R7

a.-ïn 1314, 1301, 1323

a.-ïndaqï 4296

a.-lïγlarta 416, 417

a.-sïzlarta 416

a.-taqï 761, 832, 2765, 2766, H39R3, H39R7

a.-taqïsï 2754

a.-taqïsïnda 2758

a.-taqïta 832

adart-

「害する」「障る」 bu bilgä biligig adart-dačï ärsär 739

adartmaq

「障り」 taγarzunlar kedärzünlär alqu adartmaq-larïγ 200, munung uγrïnta ozar qutrulur dyan adartmaq-ïntïn tep「由此解脫定障」 H39V36

a.-larïγ 194, 200

adbuta-darma

< Skt. adbhuta-dharma「希法」 adbuda-darm-a mungadïnčïγ nomlarïγ 2336

adïn

「餘」「他」 24, 32, 82, 156, 220, 233, 238, 347, 355, 372, 374, 378, 420, 460, 493, 497, 499, 531, 532, 641, 657, 658, 678, 693, 756, 774, 774, 786, 791, 792, 794, 797, 807, 915, 924, 937, 975, 981, 1320, 1389, 1391, 1409, 1411, 1434, 1470, 1474, 1495, 1621, 1642, 1649, 1653, 1660, 1706, 1731, 1768, 1831, 1850, 1866, 1887, etc. B6, B82, B224, B252, B254, B272, B329, B346, B351, B352, B355, B358, B361, B443, B452, B575, B576, B577, etc., H25R22, H26R13, H26R16, H26V39, H27V33, adïn alqu aqïγlïγlarqa nomlar barča bïšrunmaqta taγarγuluq ärür「諸餘有漏皆修所斷」 B576, birök andaγ ärsär bïšrunmaq adïn yörüngäkin ödrü išsiz bolur「若如是者修餘對治則爲無用」 3404, öz-li adïn-lï ikigükä asïγ tusu qïlmaqï yooqsuz bdatï bolmaz「自他俱利不唐捐」 1075; adïn baxšï「餘師」 233, etc.; bar adïn baxšï「有餘師」 460, H28V9,

etc. bar adïn baxšï-lar sözlär köngül bilig birlä yaradïlmïš ädgü aqïγlïγ bilgä bilig ymä ök körüm ärmäz bolur 「有餘師説意識相應善有漏慧亦有非見」 B921; adïn-qa asïγ qïlmaq 「利他」 585, etc. basa inčip ögär tngri burxanning adïn-qa asïγ qïlmaq-lïγ ädgüsining büdügin 「次當讃佛利他德圓」 1088; adïn öngi 「餘」「他」「離れて」937, etc. qaltï nomuγ adïrtlamaqta adïn öngi yoq ärür yeg adruq al alday taryardačï alqu nizvanïlarïγ 「若離擇法無勝方便能滅諸惑」 2041

a.-ï B1060, B1663, H32V27

a.-ïγ 3127, 3128

a.-ïnïng B1663

a.-ïnga B95

a.-lar 1050, 1073, 3672, 3675, 3677, 3678, B456, B583

a.-larï 3934, B356, B360, B361, B849, B920, B1917, B1943, B1968, B2044, H28V17, H29V54

a.-larïγ 256, 868, 2160, 4432, B2025

a.-larïn B235, B653, B1743, B1750, B1951

a.-larnïng 67, 224, 229, 591, 1394, 1435, 3136, 3136, 3192, 3673, 3676, 3792, 3795, 4408, B425, B1311, B1314

a.-larqa 863, 864, 1037, 1040, 1052, 1063, 1078, 1138, 1140, 1192, 1193, 1197, 1280, 1364, 1366, 1377, 1496, 2161, 2165, H35R24

a.-lartïn 866

a.-lï 1075, B2296, B2298, B2299, B2301, B2309, B2313, B2319, B2322, B2325, B2354, B2392, B2393, B2394

a.-lïγ 4423, 4427, 4430, B2323

a.-lïnïng 572, 577, 1426, 1429, 3796, 3796, B2167, B2171, B2172

a.-lïqa 1086, 1304

a.-nïng 506, 568, 1432, 1999, B154

a.-qa 86, 108, 441, 447, 568, 570, 580, 585, 1045, 1088, 1092, 1094, 1097, 1099, 1155, 1297, 1309, 1362, 1368, 1502, 1504, 1506, 1508, 1509, 1529, 1534, 1536, 2372, 3460, 3489, 3506, 3517, H27V43

a.-ta 3127, 3129, B2233, H29V58

a.-tïn 522, 668, 1408, H27V7

adïnsïγ

「異なった」 alqu burxan ančulayu kälmišlär adïnsïγ-sïz yrlïγlïγ üčün 2424

adïr-

「差別する」「別ける」 angayu adïr-ïp üč qïlmaqï ärsär uqïdyalïr üčün ärür 「別開三者」 B874, vasubandu baxšï karikda käntü adïr-ïp sözlämiš ol 2729; altï türlüg adïr-a qabšuru yörgülük samaz 「六離合釋」 1919, 4356, 4393, ažun uqïtyalïr üčün ažunqa tiltaγ bolurïn anï üčün adïr-ïp söz-lämiš ol tep 「是故別説」 H28R48, sudurta ymä ök adïr-mïš ärür antrabav-ïγ až-un öngi 「契經亦簡中有異趣」 H28R11; adïr-a yrlïqamaq 「記別」 2333; adïr-bil- 「簡擇する」; bölüp adïr- 「分別する」

a.-a 1919, 4356, 4393

a.-γalï 4026, 4110, 4112, B1077, H35R43

a.-γalïr 347, 1571, 1605, 2086, 2602, 3226, 3788, 3901, 3904, 3907, B533, B537, B864

a.-ïp 1359, 2729, 2918, 2924, 3102, 3318, B568, B874, B2333, B2411, B2413, H28R41; a.-ïp bil-ir 3321; bölüp a.-ïp B428

a.-maq 2979, 2999

a.-maqï B2041, B2065, B2352, H28R41

a.-maqïγ 3235, 3241

a.-mïš 1607, 2124, 2477, 3232, 3613, H28R11, H29V61

a.-mïšï 3240

a.-mïšïn B539

a.-sar B311, B312, H30R25

a.-u 3012

a.-ur 1697, 3046, 3604, 3606, 3608, 3612, B578, B579, B865, B866, B869, B870, B872, B872, B2037, B2037, B2042, B2042

adïrïl-～ adrïl-

「差別される」「異なる」「別れる」 alqu ni'kaylartaqï abidarimlarnïng yörüglärï taplaylarï

adïrïl-mïš üčün 「諸部阿毘達磨義宗異故」 2390, bay boldačï ädi eyin öngin 々 adïrïl-ur「隨繫事各別」 3214, bilig tayaq uyurïnta adïrïl-mïš üčün 「識由所依有差別故」 B1052, nädäg'ol teptesär bay boldačï ädi eyin adrïl-ur 「云何隨繫事別」 3369, uqïdyalïr üčün ärür pardakčan bošyutluy bošyutsuz orun üzä üč körümlärning adïrïl-mïšïn 「爲顯異生學無學地三見別故」 B875, munï munčulayu üküš türlüg adïrïl-mïšta「如是多種分別中」 939, töz körktin adïrïl-mïšï üdlüm üdlüm ulalu 「離質展轉相續」(離) B1672, tuymadačï törülügi adïrïl-ïp bolur iki 「不生法復開爲二」(開) B386

a.-γu B1084

a.-γuluq 657

a.-ïp B386; a.-up H29V8

a.-maq 2182, 2188, 2393, 2552, 3711, H30V5

a.-maqï B1093

a.-maqïndïn 530

a.-maz B1091, B1089

a.-mazï B758

a.-mïš 1894, 2125, 2390, 2398, 2567, 3543, B1050, B1052, B1054, B1668, H28V27, H28V31; adrïl-mïš 3547

a.-mïšï B1660, B1672; adrïl-mïšï 3465

a.-mïšïn B875

a.-mïšta 939

a.-sar 2320, 2401, 3915; adrïl-sar 3922

a.-u 2394, 3236, 3551, B1037, B1925

a.-ur 656, 804, 806, 2410, 3214, 3265, 3553, B573, B782, B1089, B1090, B1100, B1277; adrïl-ur 3369, B1078

a.-urï 954

adïrïlïš-

adïrïlïš(-maq) tïdïlïš(-maq) 「間隔」 B96, B99; anïn köngülüg köngülkä körü tayaq töz bolduqta bolmaz üčün bir ikindikä adïrïlïš(-maq) tïdïlïš(-maq)-ï 「故心望心爲所依性無相間隔」 B96

adïrt

「差別」「不同」「異」「別」 inčip arïdï sözlämämiš ol abidarimnïng ulatï vinayntïng tayaq bolmaq üzäki adïrt-ïn 「而竟不言阿毘達磨及毘奈耶依有差別」 2312, inčip bolmaz bildäčining bilmäklig išining adïrt-ï 「然無了者了用不同」 B1308, sezik adïrt-sïz ärsär inčip bärk yarp adqantačï ärmäz 「疑無差別而不堅執」 4558, uqïtu tükätmiš boltï qïlïnčï uyrïnïng iki üč beš öngi adïrt-ïn 「已辯業門二三五別」 H29V39; adïrt öngi 「差別、異なり」 968, 3373, 3523, 3781, 4264, 4316, B162, B755, B863, B902, B1019, B1035, B1067, B1073, B1303, B1402, B1575, H28V27, H31R9, munday osuyluyta ulatï uyušluylar ärür ediglig nomlarnïng adïrt öngi qamayïγ adï 「如是等類是有爲法差別衆名」 4264, ol nädägn antay bolzun adïrt öngi tïlday basudčï-lar(ïγ) bolmaz üčün bulyalï 「彼云何然差別因緣不可得故」 B162, ančan ančan ükliyü arïγ yaruq bolmaq üzä adïrt öngi bolur 「漸增明淨有異」 B902; adïrt-lïγ odyuraq 「決定」「必定」 öngi uyušluyï köngülkä körü adïrt-lïγ odyuraq öngi üdrülür üčün tayandačï tözin 「異類望心必定捨離能依性故」 B90, qaltï atqayïnta orunï ädi kšanï üčägüsi barča adïrt-lïγ odyuraq bolmïš täg 「如於所緣處事刹那三皆決定」 H26V17

a.-ï 801, 932, 934, 945, 947, 1220, 2409, 2409, 2795, 3246, 3322, 3448, 3452, 4384, B36, B49, B342, B426, B412, B433, B718, B726, B790, B793, B1047, B1066, B1071, B1095, B1103, B1279, B1308, B1453, B1590, B1601, B1824, B2095, H29R28

a.-ïγ H26V18

a.-ïn 762, 889, 970, 1898, 2312, B424, B1560, B1562, B1580, B1582, B1917, H29V40

a.-ïntaqï 859, 890

a.-lar 3072

a.-lïγ a.-lïγ odyuraq 138, 165, 1819, 1899, 1900, 1998, 2255, 2559, 2708, 2799, 2947, 2963, 2972, 2976, 2980, 2983, 2984, 2993, 2994, 3002, 3030, 3124, 4128, 4129, 4130, 4131, B90, B305, B449, B637, B812, B937, B1701, B2211, B2213, B2222, H26V19,

H39V49

a.-lïγï H31V47

a.-nïng 2392, B1101

a.-sïz 112, 2401, 4325, 4552, 4558, 4558, B1046, B1059, B1102, B1285, B1391, B1591, B1682, B1689, B2402, H26V15, H29V16; a.-sïz öngi-siz 97

adïrt-

「差別する」

a.-maqïn-taqï 1542

adïrtla-

「差別する」; böl- adïrtla- 「分別する」 tadukoš uγušlarïγ böl-mäk adïrtla-maq bölük 「分別界品」 70; nom(-uγ) adïrtla-maq 「擇法」 qaltï nomuγ adïrtla-maq-ta öngi odγuraq yoq ärür adïn alqu nizvanïlarïγ taryardačï yeg adruq al aldaγ 「若離擇法定無餘能滅諸惑勝方便」 2037, küsämiš üčün kim yerdinčütäkilärkä bulduryalï nom adïrtla-maqïγ 「欲令世間得擇法故」 2070; bil-adïrtla-「簡擇する」「了別する」 qayu nomnung adï bolur olarqa bil-gülük adïrtla-γuluq bolmaq üzä 「何法名爲彼所簡擇」 2584, kim bar ärsär avant tïldaγ tuγuryalï udačï bil-mäk adïrtla-maqïγ 「諸有因緣能生了別」 B1013; saqïn- adïrtla- 「思擇する」 amtï saqïn-mïš adïrtla-mïš krgäk 「今應思擇」 H31V19; kör- adïrtla-「觀察する」 adïn uγur üz-ä kör-üp adïrtla-p mängi täginmäkig 「以餘行相觀察樂受」 H37R48

a.-dačï 1596, 1603; böl-däči a.-dačï 3319, B1293; bil-däči a.-dačï B1154, B1278, B1361; a.-tačï 3224, a.-γalï böl-gäli a.-γalï 1654, 2071, 2616, 2750, 3113, 3120, 4162, B1294, B2330, B2332; bil-gäli a.-γalï B1276, B1296, B1297, B1307, B1347, B1350, B1363, B1694

a.-γalïr böl-gälir a.-γalïr 3030

a.-γay böl-gäy a.-γay 2851, 2895

a.-γučï böl-güči a.-γučï H31R42

a.-γuluq 2076, 3223; böl-gülük a.-γuluq 939, 2889; bil-gülük a.-γuluq 2584

a.-γuta böl-gütä a.-γuta 1658

a.-maq nom a.-maq 274, 283, 2051, 2072, 2076, 2081, 2587; bil-mäk a.-maq 2588, 3311, B1014, B1159, B1276, B1281, B1284; böl-mäk a.-maq 70, 1568, 2589, H25R4, H30R4

a.-maqï böl-mäk a.-maqï 959

a.-maqïγ nom a.-maq-ïγ 2070, 2078, 2082; bil-mäk a.-maqïγ B1013, B1278

a.-maqnïng 2587; nom a.-maqnïng 2045, 2080, 2087, 2092, 2099; böl-mäk a.-maqnïng 2586

a.-maqta nomuγ a.-maqta 273, 2037, 2041, 3047; nom a.-maqta 2044, 2095

a.-mïš böl-miš a.-mïš 967, B2402

a.-mïšïngïzlar B1096; saqïn-mïš a.-mïšïngïzlar H38R14

a.-p 41; böl-üp a.-p 3069

a.-sar böl-sär q.-sar 484, 3053

a.-yu böl-ä a.-yu 861, 3099, 3100, 4096, H37V70

a.-yur böl-üp a.-yur 2919; böl-är a.-yur 3312, B2328

adïrtlan-

「差別する」 cf. adïrtla-

a.-maqnïng 2083

adrïl-

see adïrïl-

adruq

「差別」 184, 192, 198, 198, 199, 199, 239, 256, 418, 959, 959, 1032, 1391, 1567, 1567, 1597, 1602, 1639, 1645, 1664, 1833, 1834, 1841, 1843, 1935, 1949, 2038, 2041, 2052, 2096, 2226, 2292, 3048, 3060, B185, B1005, B1010, B1018, B1272, B2100, B2124, B2360, ymä ök otyuraq taplayu kärgäk abidarim ärür üčün sudurnung adruq-ï anïn tayaq büdär tep 「又定應許阿毘達磨是經差別故成所依」 2322, bilmäk ärsär qaltï bilmäk adïrtlamaq ärür bu oq inčip ärür bilgä biligning adruq-ï 「擇謂簡擇即慧差別」 3311; yeg adruq 「殊勝」 「勝」 184, 192, 198, 199, B185, B860, H32R8,

H35R62, etc. vinaytaqï ulatï sudurtaqï ol bolur yeg adruq 「於律及經彼爲殊勝」 2226, qaltï nomuγ adïrtlamaqta öngi odγuraq yoq ärür adïn alqu nizvanïlarïγ taryardačï yeg adruq al alday 「若離擇法定無餘能滅諸惑勝方便」 2038, köz biligining küči üzä särgürüp tudmaqlïγ yeg adruq iši tuγar üčün 「眼識力所住持勝用生故」 B1005, birlä turγmïš maxabutï kim tuγurmaq üzä yeg adruq ärkligig 「俱生大種令起勝根」 B1010; adruq adruq öng türlüg 「種種」 H31R13, H33V66, qaltï olarnïng önglüg ät'özläri adruq adruq öng türlüg bod sïn tözlüg öng körk oxšatγ üz-ä adïrïlmïš üčün ärür 「謂彼色身種種顯形狀貌異故」 H28V25

a.-ï 2322, 2327, 2441, 2441, 3311, H25V60

a.-ïn 165, 2050

a.-ïnga 2360

a.-lar 3885

aduruq

B1006, see adruq

aγïlïq

「藏」 2266, 2427, 2429, 2482, 2508, 2515, sudur vinay iki aγïlïq-ïγ užiki eyin sanggit qïlmïš ol 「經律二藏隨文結集」 2229, abidarim aγïlïq-ïγ yörüg eyin sanggit qïlmïš ol 「對法藏隨義結集」 2230, tngri burxan ičgärmiš tägïnmiš üčün üč aγïlïq nomuγ 「由佛攝受三藏教故」 2427, yaruq bilgä biliglig keng bilmäklig tüzü tükäl uqmïš ärti üč aγïlïq-larïγ 「聰明博學俱閑三藏」 2487

a.-ï 2561

a.-ïγ 2229, 2230

a.-lar 2430, 2432, 2434, 2484, 2512

a.-larïγ 2487

a.-larqa 2509

a.-larta 2513

aγïr

「重い」 1331, 1865, 2556, 2565, H37R8, H37R12; aγïr ayančang 「敬重」 83, 85, 91, 103, 106, 110, 119, 121, 126, 130, 148, 151, 159, 163, 166, 169, 170, 174, 197, 224, 229, 1319, 1333, 1336; aγïr ayaγ 「恭敬」 qaltï azlanïp qayu näčä yeg adruq orun-qa üküš ädkä tavarqa aγïr-qa ayaγ-qa atqa küükä täginmiš tutmïš arïγ čxšapt ärür 「謂貪諸有勝位多財恭敬稱譽受持淨戒」 H35V10; ïnanmaq üzä aγïr ayaγ qïl-「歸敬する」 189, 204, 206, 211, 253, 352, 358 ~ aγïr ayaγ qïl- 212

aγïrla-

aya- aγïrla- 「尊敬する」「恭敬する」 aya-yu aγïrla-yu uqïdu yörmišingiz kärgäk 「恭敬解釋」 1963; aya-yu aγïrla-yu yükün- 「敬禮する」 aya-yu aγïrla-yu yükün-üp ol andaγ osuγluγ činkertü tözlüg baxšïqa 「敬禮如是如理師」 73, temin aya-yu aγïrla-yu yükün-mišin uqïdur 「方申敬禮」 449

a.-γuluq aya-γuluq a.-γuluq 216

a.-masar aya-masar a.-masar H33V9

a.-yu aya-yu a.-yu 1963, 2035; aya-yu aγïrla-yu yükün- 73, 145, 191, 449, 453, 473, 1295, 1299, 1300, 1302, 1315, 1321, 1334, 1542

aγïz

「口」 adï ködrülmiš altun aγïz-ïn mundaγ ögmiši taplamïšï 2264

a.-ïn 2262, 2264, B1956

aγtïn-

「昇る」 inčä qaltï kündüz ülüšintä bulïd tuman yoqaru aγdïn-ïp 「譬如晝分雲翳上昇」 B889

aγu

「毒」 2625, aγu-luγ aš aγu birlä oxšašmïš 2914

a.-luγ 2913, H40R14

agam

< Skt. āgama 「教」「教法」「阿含」 1711, B2074, H36V51, agam-tïn tuγmïšïnïng adï äšidmäk tözlüg bilgä bilig 1707; tört agam-lar 「四阿含」 2440,

eka'udar agam < Skt. ekottara āgama 「増一阿含」 415; yukti agam「理教」H33R23 ～ agam yukti 「教理」 yukdi-lar agam-lar yoq üčün 「理教無故」 B1045 agam-lï yukti-lï uγurïnda anïn 「由教理故」 H36V51

a.-lar B1045, B2072

a.-larta 2440

a.-lï B1412

a.-ta 415

a.-tïn 1707

agir

< Skt. agra「頂」 taγ agir-ïndïn tüšmäk oot-qa tüšmäk-tä ulatï-larïγ 1981

akaništa

< Skt. akaniṣṭha「色究竟」 akaništa-ta üstün yänä bar amranmaq uγuš 「色究竟上復有欲界」 H27V34

akšar

< Skt. akṣara「音節」「字」 SG24

al

al altaγ 「方便」 1214, 1248, 1366, 1377, 1505, 1509, 1530, 1536, 2038, 2041, 2045, 2046, 2052, 2080, 2080, 2084, 2084, 2096, 3048, H30R61, up al-ïn aldaγ-ïn nomlayalï činkertü tözlüg köni nomuγ 「能方便説如理正教」 1310, odγuraq yoq ärür adïn nizvanïlarïγ taryardačï yeg adruq al aldaγ 「定無餘能滅諸惑勝方便」 2038

a.-ï a.-ï altaγ-ï 1095, 1100, 1194, 1390, 1470, 1472, 3049, 3052

a.-ïn a.-ïn altaγ-ïn 52, 1310, 1362, 1369, 1378, 1390

al-

「取る」「受ける」「得る」 alqu ärkliglär yintäm al-ïr üčün tägmištäki adqanγuγ「一切根唯取至境」 B1503, anï üčün köz ärklig al-ïr tägmäzkänki adqanγuγ 「是故眼根取非至境」 B1519, tanuq ärür köznüng yintäm al-ïrïnga tägmištäki ärmäz adqanγularïγ 「證眼唯取非至境」 B1550, umaz üčün al-γalï yaqïn sïqa adqanγularïγ 「以不能取隣逼境故」 B1553, yänä ïraq yaqïn ünüg al-duqta bolur üčün odγuraq bilmäk ikirčgülämäk üzäki adïrtï 「又近遠聲取有決了猶豫別故」 B1589

a.-dačïsïn B1507, B1509, B1639, B1709

a.-duqta B1586, B1589

a.-γalï 1050, B374, B979, B984, B1553, B1553, B1554, B1570, B1597, B1600, B1612, B1613, B1615, B1624, B1651, B1697, B1706, B2338

a.-γuluq B133, B441, B1964, H26R34, H39R24

a.-γuluqï B443

a.-ïp 1759, 2155, B234, B299, B454, B1572, B1581, B1713, B1890, B1907, B1911

a.-ïr B1479, B1483, B1490, B1503, B1505, B1514, B1519, B1549, B1603, B1604, B1609, B1616, B1624, B1649, B1699, B1703, B1707, B1716, B1737, B1767, B1887, B1895, B1904, B1904, B1905, B2408

a.-ïrïnga B1550

a.-maq B376

a.-maqï B1585

a.-maqïn B1641

a.-maz B1219, B1219, B2335, B2337, B2340, B2341

a.-mïš 2174, 3102, 4576, B1189, H32V21

a.-sar B388, B451, B1510, B1516, B1557, B1607, B1908, B1909

a.-u B442

alanguγ

「弱めること」 ädgü ät'öz til köngülnüng küči kösüni alanguγ küčsüz bolur 990

alïγ

「受け方」 tört padaklartaqï yörüg alïγ-ï birlä bir täk ärmäz 4145

a.-ï 2891, 3481, 4145

alïn-

「得られる」 äzügin igidin yadmaqïγ basudčï

alïn-ïp B763

a.-dačï B1099

a.-ïp B763

ališ

「受けること」 2567; ališ beriš 「受授」「受與」 yaradmïš šasdrnïng abipirayï birlä bolγay ärti qayu ališ-ï biliš-i 161, yaradmïš šasdrnïng abipirayï birlä büdün ališ-sïz beriš-siz bolur 228

a.-ï H36V33, a.-ï beriš-i 161

a.-sïz a.-sïz beriš-siz 228, 3234, 4564

alp

「・・し難い」 1105, 1114, 1121, 1122, 1128, 1133, 1146, 1152, 1155, 1160, 1161, 1162, 1166, 1166, 1167, 1171, 1174, 1395, 2057, 2058, 2062, 2063, 2063, 2429, 2616, 2667, 3087, 3088, B1694, B1845, B1854, H33R22; ol sansar ärür üčün alqu tïnlγlarqa čomrulγuluq badγuluq orun alp ündürgülük üčün 「由彼生死是諸衆生沈溺處故難可出故」 1105, tudmaqïng mäning üč aγïlïq nomumïn ärdingü alp bulγuluq ärür 「持吾三藏甚爲難得」 2429, yörügi uqulmaduq üčün abipirayï yolïn alp bolur bilgäli 「理未顯故意趣難知」 B1845

alq-

「盡きる」 män adïdï yrlïqamaz män uyur könisinčä alq-γalï ämgäkig tep 「我終不說能正盡苦」 2048, mn alq-a tükädtim tamuγ 「我已盡那落迦」 B607; aqïγ alq-maqtaqï qorqïnčsïz 「漏盡無畏」 1540; taryar- alq- 「斷盡する」 anï adqanγučï nizvanïlarïγ taryar-maduq alq-maduq üčün 「緣彼煩惱未斷盡故」 B722

a.-a B607, B612

a.-γalï 2048; taryar-γalï a.-γalï 829

a.-ïp 4244

a.-maduq 238; taryar-maduq a.-maduq B722, B769

a.-maq B608, B609, B613

a.-maqtaqï 1540

alqïγ

「廣い」 alqïγ kalp 「廣劫」 395, bolur üčün bu basutčïnïng tözi keng alqïγ üčün adamïš ol ärksinmä basutčï tep 「此緣體廣名增上緣」 H26V28

alqïn-

「盡きる」 kälmädük öd alqïn-γïnčaqadägi tutdačï sözlädäči bïšrunu yorïdačïlar 202, munung uyrïnta uyur üčün tartγalï qamaγ ämgäklarning alqïn-maqïn 「由此能引衆苦盡故」 H36R68; tarïq- alqïn- 「滅盡する」 körmiš ödtä ämgäkig birgärü tarïq-ur alqïn-ur 3447

a.-duqta 3718

a.-γïnča-qatägi 202

a.-mamaqlïγ 3347

a.-maq 3640

a.-maqïn H36R68

a.-maz 3208, 3723, 4499, H27V20

a.-sar tarïq-sar a.-sar 3454

a.-u 286; tarïq-u a.-u 710

a.-ur tarïq-ur a.-ur 3447

alqïnču

「盡」 öngi kedärip alqïnču yanala tuγmaqsïz bilgä biliglärig adïn bošγudsuz bilgä biliglär alqu barča ärür körüm B917, yindäm tuγar alqïnču bilgä bilig tuγmaz adïn nomlar 「唯生盡智不生餘法」 H26R15

alqu

「すべて」「一切」「諸」 11, 25, 28, 71, 72, 78, 135, 144, 179, 187, 194, 200, 205, 207, 209, 212, 216, 230, 263, 277, 279, 290, 365, 375, 381, 384, 390, 392, 393, 400, 405, 406, 408, 416, 425, 430, 431, 431, 443, 443, 485, 503, 503, 513, 518, 533, 542, 561, 603, 603, 605, 605, 606, 609, 609, 613, 613, 614, 618, 619, 619, 626, 628, 637, 638, 644, 658, 684, 709, 723, 725, 725, 732, 732, 734, 735, 737, 741, 742, 743, 745, 749, 750, etc., B54, B60, B72, B73, B77, B83, B84, B89, B100, B142, B145, B148, B158, B160, B167, B176, B177, B181, B201, B208, B209, B220, B269, B276, B277,

B318, B330, B343, B385, B395, B566, B576, etc., H25R10, H25R22, H25R34, etc. alqu köngül 「一切心」 B142, B176, alqu törlug 「一切種」 4552, 4557, alqu öd 「一切時」 4558, alqu etiglig nomlar 「一切有爲」 4134, 4147, alqu nizvanïlar 「諸惑」 2038, 2042, alqu nomlar 「諸法、一切法」 2071, 2075, B716, 2592, 2612, B318; alqu barča 「悉く皆」 638, 1797, B912, B920, cf. barča; alqu qamaγ 「一切衆」 B627, B1614, cf. qamaγ

a.-larta H27R56

a.-nï 775, 1230, 1281, 1399, 2459, B1637, H38V6

a.-nung 186, 1227, 1871

a.-qa 413, 1158, 1365

a.-ta 759, 3148, 3588, B277, H31V59

a.-tïn B2368, B2406

altaγ

al altaγ 「方便」 1214, 1366, 2038, 2042, 2045, 2046, 2052, 2080, 2080, 2084, 2084, 2096, 3048, H30R61, see al

a.-ï al a.-ï 1095, 1100, 1194, 1390, 1470, 1472, 3049, 3052

a.-ïn al a.-ïn 52, 1310, 1362, 1369, 1378, 1390

a.-ïnïng al a.-ïnïng 1377

a.-qa al a.-qa 1248, 1505, 1509, 1530, 1536

altï

「六」 526, 530, 531, 533, 2132, 3272, 3824, altï tültaγ 「六因」 H25R18; altï dyan orunlar 「六靜慮地」 H32V22; altï ygrmi kšan-lar 「十六心」 H38R41; altï yüz käzig 「六百行」 328; altï ärkliglär 「六根」 2714, 2716; altï biliglär 「六識」 3706, B239, B242, B244, B249, B250, B253, B258, B281, B458; altï paramitlar 「六波羅蜜」 387; altï türlüg adïra qabšuru yörgülük samazlar 「六離合釋」 1919, 4355, 4393; altï ygrmi uγurlar 「十六行相」 3320, H38V28

altïyu

「六」(集合) 2846 öngtä ulatï altïyu-nung adï bolur (taštïn) sïngarqï tep B2841

altïn

「下の」 1178, 1721, 1729, 3361, 3363, 4302, B1880, B1940, B2235, B2237, B2249, B2283, B2311, B2315, B2324, B2333, B2334, B2336, B2337, B2341, B2355, B2356, B2358, B2361, B2362, B2369, B2376, B2384, B2388, B2404, B2415, H27V33, H27V35, H39R48, sapïp yumdarur üsdün-kisin aldïn-qïsïn 「貫通上下」 4297, öng biligkä körü yumdaru täng bolur üsdün bolur aldïn bolur 「色望於識通等上下」 B2376; altïn orun 「下地」 3366, B2235, B2237, etc. üsdün oruntaqï bilig tayanmaz aldïn oruntaqï közkä 「上識不依下地眼故」 B2358

a.-qï B2340, B2352, B2364

a.-qïsï 2087, H27V31

a.-qïsïn 4297, H39V23

altïnč

「第六」 548, 1942, 4393, H30R29, H30V41, H32V45; altïnč ärmäztin tuγmïš 「非六生」 B652, B666, 669, altïnč ärsär qaltï köngül orun ärür munda öngi inčip tuγmïšqa adamïš ol altïnč ärmäztin tuγmïš tep 「六謂意處異此而生名非六生」 B667, B668; altïnč vibakti 「第六格」 550, 556

altun

「金」 913, 2261, 2264, H30R62, yänä üstäsär täginmäk yïγmaqïγ altun kümüš ulatï ärdinilärig onunčluγï ärür 「復加受畜金銀等寶以爲第十」 H30V51; altun taš 「礦」 inčä qaltï alqu qamaγ altun taš-larïnïng arasïnta čïn altun ördülüp kizlälip turmïš täg 「猶如諸礦中眞金隱茲住」 913

amïl

「靜」 aqïγlïz tüš ärsär ymä ök bolur tört türlüg ymä ök öčmiš amïl bašdïn ünüš 1882; öčmiš amïl 「寂靜」 ymä ök ašnuča körüp ol nomuγ ärür ämgäk tep ken körmiš üčün ärür anïng öčmäkin bolur öčmiš amïl tep 「亦由先見彼法是苦後觀彼滅以爲寂

靜故」 H36R72

amïrtyur-

「靜める」; amïrt- süz- 「澄淨にする」 öngi üdrülmäk üzä säkiz türlüg ada tudalarta köngülüg amïrtyur-dačï süz-täči üčün「離八災患心澄淨故」 H39V12; öčür- amïrtyur-「寂靜にする」 toyïnlar köngülin öčür-üp amïrtyur-up「苾芻意寂靜」 4243

a.-dačï H39V12

a.-yalï 1866, 2059

a.-up 4243

amra-

「愛する」「哀する」 birägününg atqanyusï amra-yuluq ärür「一境可愛」 H39V50; ilin- amra-「愛着する」 qaltï yerdinčütäki kišilär ilin-miš amra-mïš täg öz qa qadašta ulatïlarïnga 1195; amra-erinčkä- 「哀愍する」

a.-yuluq B587, H39V50

a.-maq a.-maq erinčkä-mäk 1192, 1199

a.-mïš 1195; a.-mïš erinčkä-miš 1190, 1191

a.-yu a.-yu erinčkä-yü 1185, 1189

amranmaq

「欲」 1721, 1725, 2988, 4431, B630, B633, H27R20, H27R33, amranmaq-tïn öngi üdrülü tükädmišlär「已離欲者」 B633; amranmaq uyuš「欲界」 1721, 1725, 2988, B2232, B2238, B2240, B2243, B2251, B2257, B2260, B2261, B2262, B2264, B2267, B2270, B2274, B2276, B2286, B2288, B2318, B2347, B2363, B2363, B2367, B2372, B2379, B2385, B2387, B2391, B2410, B2419, B2424, B2426, B2428, H25R29, H25R30, H25R33, qaltï amranmaq uyuš-ta tuymïšlar kirsär bašdïnqï dyanqa「若生欲界從初靜慮」 B2424; amranmaq az 「欲貪」 4431, B630, B691, H27R58, H27R63, kimlär usar köztä taryaryalï amranmaq az-ïγ munï üzä ödrü adï bolur közüg birdämläti taryaryalï umïš tep「若能於眼斷欲貪者是則名爲眼得永斷」 B691; az amranmaq 「貪欲」 4496

a.-ïγ H27R18, H27R28

a.-lï H29V44

a.-lïγ H37V46

a.-qa 2987, 3849, B2254, H27R4; az a.-qa 4496

a.-ta H30V34

a.-tïn 45, B633, B733

amrïl-

「息む」 tïldayï tägmiš ödtä qurulmaqqa anïlï munïlï bir amrïl-mïš täg ün ödrü anday ärmäz 「緣被損時彼此俱息聲息聲即不爾」 B1682; öč- ämrïl-「寂靜となる」 antay yänä kördäčilär ärsär alqu etiglig nomlarnïng nirvanïn öč-miš amrïl-mïš ärür「若觀諸有爲涅槃寂靜者」 H36R70

a.-ïp B1662

a.-madïn B1660

a.-maqï B1659, B1663

a.-mïš B1656, B1663, B1682

a.-u B1664

amtï

「今」「正に」 63, 76, 106, 157, 209, 301, 320, 321, 329, 330, 331, 332, 343, 344, 345, 346, 355, 360, 372, 376, 452, 475, 480, 499, 560, 562, 669, 686, 800, 963, 987, 1065, 1091, 1317, 1322, 1334, 1552, 1606, 1962, 2016, 2028, 2034, 2077, 2234, 2258, etc., B112, B37, B152, B238, B313, B314, B315, B383, B401, B412, B446, B464, B650, B741, etc., H26R55, H26R57, H28V59, inčip amtï yrlïqayay suduruγ oq bolur ülgü tep 「而今但說經爲量耶」 2355, bu yörmišingizlär anday ärmäz amtï munda tägimlig ol sözlägäli 「此釋不然今且應說」 B37, qaltï öng körmädin öngrä amtï ken öčdäčisi 「謂不見色已正當滅」 B401, öngrä yorïmïš amtï yorïp turur ken yorïdačï tözlüg 「已行正行當行性」 3949

a.-qa B1166

a.-qï 2955, 3233, H27R49, H27R55

ana

「母」 tüš tayanïp tïldayqa tïldaytïn tuyar üčün qaltï

oγul ana-qà tayanmïš täg 「果依於因從因生故如子依母」 4196; avïrta ana 「乳母」 avïrda ana-larnïng sücig tadïγlïγ aš ičgülärig išlädip ilgündürmäklärı ärsär ät'özin 「乳母甘饍用資身」 1079

a.-larnïng 1079

a.-ng 921

a.-qa 4196

a.-sïn 920

anand

< Skt. ānanda 「阿難」「慶喜」 2511, 2514, 2516, 4219, tngri burxannïng ödlämäki ärsär anant-a tayanïnglar sudurluγ ülgükä tep 「勸阿難依經量者」 2374, tngri burxan yrlïqamïš ol anant-qa 「佛告阿難」 2360

a.-a 2368, 2374, 4222, 4414, H37R53 「慶喜」

a.-nïng 2371

a.-qa 2510, 2360

ananda

< Skt. ānanda 「慶喜」 H37R61, H37R66, ananta-qa täk tägimlig ärti muntaγ tep ayïtγalï 「慶喜但應作如是問」 H37R66, see anand

anasiravasanvar

< Skt. anāsrava-saṃvara 「無漏律儀」 H31V45, H32V17, ančulayu oq azuča yma bar anasiravasanvar bolup praxansanvar bolmadačï 「如是或有無漏律儀非斷律儀」 H31R65

anča

「そのような」「このような」 munung ödi otγuraq anča oq ärür 「此時定爾」 H32V63, birök anča tänglig baγ boldačï ädining tarïqmïšï eyin 3405; anča anča 「漸次」「徐々に」 1059, 1117, 2763, 3405, B901, H30V8, H33V34, näčä näčä täprämiščä anča anča oq badïqurlar üčün 1117

ančan

ančan ančan 「漸く」 3419, B891, B899, B902, B1694, H38R23, H38R28, H39R8, näčä näčä yogačarelar ančan ančan ögrädinip bilgä biligig tuγurmaqta 「如如行者漸習慧生」 B899; ančan ančan käzigčä ～ ančan ančan eyin käzigčä 「漸次」 B708, H39R4, H25R51, ymä ök ančan ančan käzigčä bïšrunurlar muntaγ osuγluγ taplaγïγ 「亦漸次修如是勝解」 H39R8, ančan ančan eyin käzigčä yänä uqïdyalïr üčün ančan ančan käzigčä bïšrunmaq ögrädinmäkning tuγmïšïn 「又顯漸次修習生故」 B876,

ančan

< Skt. añjana 「眼藥」 köz ärkliglär birök bolsar ančan (üzä) uuz oq B2105

ančaqya

「暫く」「ある程度」「若干」 746, B1714, B1912, H33R45, H33R51, H37R13, H39V62, SB1, birök usar ymä ančaqya kävgäli basγalï 746, näng turγurmaq üzä ančaqya ödlüg ädgü ašayïγ ardatmaqïγ 「非起暫時壞善意樂」 H33R45, qaltï aγïr yük yüdmišlig ančaqya ängintä ulatïlarïn tägšürmištäki tep ulatï täg 「如荷重擔暫易肩等」 H37R13

a.-lïγ 727

ančulayu

ančulayu oq 「そのような」「そのように」（如是） 516, 601, 1010, 1016, 1042, 1043, 1082, 1240, 1432, 1723, 1733, 1908, 2144, 2466, 2734, 2807, 2865, 2871, 3831, 3832, 4007, 4406, 4437, B115, B369, B395, B1189, B1294, B2166, B2170, B2281, B2297, B2332, H26R14, H26V3, H27V26, H28R46, H31R64, kengürü yrlïqamïš ol ulatï biligig ymä ančulayu oq 「廣說乃至識亦如是」 2865, ančulayu oq ikinti üčünč törtünč dyantaqï özli adïnlï orunlartaqï köz üzä 「如是生二三四靜慮以自他地眼」 B2297; ančulayu ymä 「そのような」「そのように」 H27R54, H35R6, H35R22,

ančulayu ymä iki kikinčlär üz-ä barčanï kim uqïtmïšïngïzlar tep「如是二答皆不令解」H27R54; ančulayu kälmiš「如來」417, 895, 900, 1284, 1385, 1397, 1401, 2259, 2423, H35V42

anï

「それを」369, 1239, 2832, 2977, 4369, 4428, B74, B299, B674, B701, B722, B728, B769, B773, B784, B1930, H26R36, H31V45, H32R43, H35V62, anï adqanyučï nizvanïlarïγ taryarmaduq alqmaduq üčün ikiläyü yoq adï bolmaz tarïqmïš tep「緣彼煩惱未斷盡故猶未名斷」(彼) B722; anï-lï munï-lï「あれとこれと」tïldayï tägmiš ödtä qurulmaq anï-lï munï-lï bir amrïlmïš「緣被損時彼此俱息」(彼) B1681; anï üčün「それ故」21, 137, 318, 543, 558, 586, 601, 752, 802, 806, 950, 1085, 1270, 1490, 1794, 1857, 1944, 2031, 2399, 2612, 3076, 3161, 3181, 3251, 3486, 3991, 4507, 4559, B66, B196, B309, B359, B446, B665, B1128, B1149, B1325, B1335, B1354, B1460, B1519, B1686, B2223, H32R34, H33R28, H33V37, H35V28, anï üčün bu šasdrnïng adï bolmïš ol abidarmakoš tep「是故此論名對法藏」(是故) 1944, anï üčün aqïγlïγ nomlarïγ sözlämämiš ol orun bolur tep「是故有漏不說彼處」4559; anï üzä「それによって」3991, anï üzä tegüči vibakdi 1033

a.-lï a.-lï munï-lï 2558, 3132, B1681

anïlayu

「猶」「乃」「仍」B254; anïlayu oq 182, 634, 748, 849, 860, 879, 881, 1010, 1017, 1115, 1224, 1384, 1809, 2348, 2492, 2956, 3273, 3277, 4400, B25, B602, B616, B644, B735, B798, B802, B1071, B1587, B1591, B1677, B1685, B1692, B1844, H28V62, H32V1, H35R3; kirsiz bilmämäkig anïlayu oq taryarmaduq üčün「不染無知猶未斷故」860, birök tägtükdä anïlayu oq äšidsär tägmäk「若至乃聞至」B1591, näčä tursar ymä qulγaqta anïlayu oq tägmištäki adqanyu ärmäz「雖在耳中仍非至境」B1692

anïn

「それで」「故に」29, 33, 36, 37, 39, 43, 47, 48, 52, 55, 59, 60, 64, 97, 113, 139, 142, 145, 157, 158, 161, 219, 246, 252, 264, 303, 327, 329, 331, 344, 351, 379, 389, 393, 409, 415, 421, 435, 438, 448, 471, 478, 492, 499, 500, 517, 523, 527, 533, 544, 559, 562, 587, 590, 607, 611, 618, 634, 652, 669, 670, 681, 687, 691, 692, 705, 719, 723, 724, 728, 730, 742, 751, 763, 768, 773, 775, 779, 785, 788, 793, 798, 836, 844, 846, 849, 865, 868, 871, 894, 899, 915, 924, 925, 934, 937, 943, 946, 950, 960, 972, 987, 1005, 1007, 1024, 1030, 1033, 1044, 1065, 1093, 1110, 1118, 1120, 1125, 1127, 1127, 1129, 1131, 1132, 1133, 1144, 1146, etc. B117, B28, B35, B47, B51, B72, B83, B95, B140, B154, B176, B191, B216, B230, B238, B247, B255, B276, B285, B360, B363, B378, B391, B399, B456, B460, B465, B473, etc., H25R36, H25V26, H26R2, etc. anïn šlokta sözlämiš ol eyin yorïdačïlarï birlä tep「故頌言隨行」1600, bu yörüg üzä anïn bulmïš ol abidarim tegüči adïγ「以此義故得名對法」1793, qavïrïp kedärip ikin araqï savïn anïn munday tep sözlämiš ol「略去中言故作是說」3315, köngülnüng arïdï bulduqmaz ödi yorïmayuluq öz adqanyusïnta anïn alqu köngülnüng barčanïng atï bolur män tep「心曾無有時不行自境故一切心皆名爲我」B72; üčün .. anïn「故に(それで)」munung umïš üčün tarïqγalï qarangγusï anïn adamïš ol tarïqmïš qarangγuluγ tep「此能破闇故稱冥滅」544, uyur üčün tïdγalï qudrulmaqqa barmaqïγ anïn yindäm sözlämiš ol üčägüni taryarmaqïγ「能障趣解脫故唯說斷三」1151, ödlätäči äriglädäči üčün bošyudčï tïdsïlarïγ anïn adamïš ol šasdr tep「教誡學徒故稱爲論」1547, bilig ärür üčün körümnüng tïldayï anïn körüm tözlüg ärmäz「識是見因故非見體」B1015

anïng

「それの」41, 77, 81, 129, 143, 177, 265, 296, 350, 356, 410, 481, 602, 847, 931, 1129, 1210, 1634,

1636, 1664, 1666, 1693, 1942, 2491, 2493, 2496, 2497, 2511, 2524, 2550, 2551, 2632, 2641, 2666, 2851, 2898, 2979, 3208, 3255, 3428, 3463, 3631, 3713, 3744, 3794, 3800, 3948, 4065, 4193, 4260, 4316, 4514, 4517, B81, B273, B317, B351, B396, B398, B449, B481, B697, B855, B1406, B1460, B1501, B1838, B1850, B1887, B1916, B1942, B1964, B2147, H26V13, H27R12, H28V44, etc. öz baxšïsïnïng anïng ät'özining yeg ayayuluγ ärtüki 「自師其體尊高」（其） 77, anïng ät'özi keng uluγ 「其形甚大」 2491, ärkliglärning adqanγularnïng bir ikintikä tägmäkning anïng yörügi odγuraqsïz ärür 「根境相至其義不定」 B1501, bu alqu bilgä biliglär šasdrlar ärür üčün anïng yevigi tizigi 「此諸慧論是彼資糧故」（彼） 1693, yöründäki tuγmïš ödtä anïng pirapdisïn taryarsar 「對治生時於彼得斷」 B697

anitiyat

< Skt. anityatā 「無常」 ašub anidiyat saqïnčta ulatïlar 1441

anityatavarg

< Skt. anityatā-varga 「無常品」

a.-ta 2129, 2139

anta

（ol の位格形）「そこに」「その中に」 "nd' 113, 418, 507, 959, 1117, 1125, 1136, 1175, 1213, 1550, 1706, 1751, 1757, 1978, 1980, 2056, 2191, 2234, 2358, 2412, 2417, 2442, 2447, 2463, 2595, 2615, 2657, 2772, 2803, 2896, 2897, 2917, 3092, 3094, 3094, 3121, 3160, 3199, 3211, 3228, 3300, 3334, 3348, 3357, 3480, 3499, 3594, 3630, 3863, 3988, 4012, 4013, 4265, 4303, 4470, 4545, B193, B251, B307, B322, B567, B568, B838, B1068, B1115, B1182, B1400, B1403, B1408, B1408, B1560, B1984, B2095, B2147, H27R28, H27R45, H28R13, etc. yänä anda nädägin uyur turγalï köngültäki nomta ulatïlarnïng mn adqaγqa tayaq töz bolurïn 「又彼何能遮心所等我執依性」（彼） B193, azuča ymä inčip anda tïdïp kišikä tayanmaqïγ 「或即於彼已者遮依人」（於彼） 2358, anda köz biligin yüüz yügärü qïlmaduq ödtä 「於彼眼識不現前時」 B1115, körüm turup anda eyin üklip yadar üčün 「見住其中隨增眠故」（其中） 4470, tïnlylar anda čomrulup badïp umuysuz ïnaysïz bolmïšqa 「衆生於中淪沒無救」（於中） 1175, bilgä-lär anta taryarü tükatürlär amranmaq-ïγ「智者於中已除欲」（於中） H27R28, alqu aqïγlar anda täng tüz eyin ükliyür üčün 「諸漏於中等隨增故」 2595, bilgälär ärsär anda tögimlig ärmäz adqanγalï yapšïnγalï 「智者於中不應封著」 B1400

antača

andača mundača 「あのように、このように」 3071

antaγ

「そのとおり」（然）「そのよう」 33, 74, 150, 152, 225, 244, 288, 462, 521, 625, 694, 707, 823, 878, 884, 956, 979, 1047, 1121, 1156, 1196, 1214, 1241, 1300, 1305, 1339, 1341, 1445, 1465, 1470, 1542, 1552, 1627, 1652, 1680, 1797, 1800, 1808, 1846, 1916, 1993, 2026, 2058, 2280, 2282, 2282, 2283, 2283, 2284, 2284, 2295, 2314, 2323, 2353, 2385, 2391, 2408, 2415, 2423, 2437, 2439, 2529, 2545, 2563, 2710, 2742, 2757, 2783, 2790, 2813, 2949, 2954, 2991, 3051, 3191, 3192, 3204, 3293, 3293, 3304, 3307, 3350, etc., B26, B37, B61, B62, B67, B67, B79, B93, B95, B102, B104, B105, B107, B121, B138, B161, B162, B171, B172, B184, B189, B196, B204, B205, B206, B212, B215, B217, B219, B232, B237, B248, etc., H25R64, H37R32, etc. yörügi oduγuraq andaγ ärmäz 「理未必然」（然） 2353, ol nädägin antaγ bolzun 「彼云何然」 B62, sudur ymä andaγ oq bolγu kärgäk 「經亦應爾」（爾） 2391, birök andaγ ärsär qayu tïldaγïn sözläti köngül bolur män tep 「若爾何緣說心爲我」 B67, beš türlüg kkirlig körümlär üzä nomuγ körmäk ymä andaγ

oq ärür 「五染汚見觀法亦爾」 B883, birök anday ärsär bïšrunmaq adïn yörüngäkin ödrü išsiz bolur「若如是者修餘對治則爲無用」(如是) 3404, biligsiz sezik ödrü anday ärmäz 「癡疑則不如是」 4556, kkirlig yrlïysïz köngül ymä anday oq ärür 「染汚無記心亦如是」 B93; ol antay osuyluy 「如是」 1300, 1339, ayayu ayïrlayu yükünüp ol anday osuyluy čïnkertü tözlüg baxšïqa 「敬禮如是如理師」 74, anïn sözlämiš ol ol anday osuyluy tep 「故云如是」 1305; antay-ta ulatïlar 「某等」 3981

a.-ta 3981

antaqï

「そこにある」 22, 247, 1576, 1929, 1934, 1938, 1938, 3867, B702, tudulurlar üčün andaqï yeg yörüglär angar ymä tayaqlïy üčün 「攝彼勝義依彼故」(彼) 247, odyuraq andaqï pirapdiqa tükällig bolmaqïntïn adamïš ärmäz adqayïn tarγarmïš tep 「不必於中得不成就名所緣斷」(於中) B702

antata

「それから」 barča ïnanmaq üzä ayïr ayay qïlïp töz baxšïlarïnga andata ken šasdr yaradurlar ärti 207; antata ken 「その後」 207, 213, H28V12

antïrtïn

「それより」 1943, 1948, 1951, B1659, B2160; bu angar tayaqlïyïn andïrtïn tardïlïp tuymïšqa 「此依彼從彼引生」(從彼) 1943

antrabav

< Skt. antarā-bhava 「中有」 2413, H27V49, H27V59, H28R1, H28R5, H28R10, etc. anïn abidarimïnda uqmïš ol antrabavïy 「彼對法中建立中有」 2412, munï üzä ötrü tägimlig ärmäz sözlägäli antrabav tep 「是則不應說名中有」 H28R60

a.-ïy 2412, 2413

anušayakoš ～ anušaya-kooš

< Skt. anuśayakośa 「隨眠俱舍」「隨眠品」

anušaya-kooš D19, eyin üklimärnäkning yörügin anušayakoš-ta käntü ken uqïdu sözlägäy 「不隨增義隨眠品中自當顯說」 2826

a.-ta 52, 2826, 2850, 2895, 3274, B794, B803, B854

a.-uy 49

anut-

bütür- anut-「完結する」「成就する」 uyraduqta qïlγalï az-qya išig küdüküg anïlayu oq büdürmäzlär anudmazlar 183

a.-γalï 185

a.-mazlar 183

ang

「最も」 ang ken 「最後」 1807, B555, B1674, B2014; ang kenki 「最後にある」 ol alqu nomlar yintärn ol oruntaqï qamaγta ang kenki oqsuz yol eyin tarïqur üčün 「由彼諸法唯隨彼地最後無間道所斷故」 B716

anga

「それへ、彼へ」 1338, 1339, 1893, 2522, 3203, 3270, 3386, 3668, 3686, 3875, 4275, B22, B170, B513, B2091, B2171, tördünč anga tegüči kä vibakdi üzä ögmiš kärgäk 1339, ärtükdä barduqta anga körü yarïmča köngül orun nom orun ärtükdä öčdükdä bululur bilmätin öčmäk 「謝往對彼少分意處法處得非擇滅」 3668

angar

「それへ、彼へ」 248, 340, 1929, 1943, 1945; tudulurlar üčün andaqï yeg yörüglär angar ymä tayaqlïy üčün 「攝彼勝義依彼故」 248, biz üküšinčä angar tayaqlïyïn yördümüz abidarimïy 「我多依彼釋對法」 340; angar oxšatï 「彼同分」 B338, B339, B362, B363, B381, B407, B409, B411, B418, B422, B423, B427, B429, B435, B459, B462, B465, B488, B489, B496, B500, B500, B507, B508,

B511, B512, B512, B516, B516, B517, B518, B1028, B1030, B1034, B1070, B1076, B1079, B1080, B1365, B1367, B1898, B1900, B1975, B1978, B1980, angar oxšadï köz täk bolur tört türlüg 「彼同分眼但有四種」 B381, kördäčikä bolur oxšadï körmädäčikä bolur angar oxšadï 「於見者是同分於不見者是彼同分」 B435; angar bilikmäk 「彼同」 B467

angayu

「別の、別に」 131, 139, 289, 717, 1353, 1354, 1355, 1604, 1648, 1651, 1732, 1734, 2046, 2080, 2084, 2362, 2370, 2445, 3106, 3115, 3122, 3312, 3400, 3521, 3525, 3525, 3527, 3545, 3597, 3611, 3617, 3698, 3698, 3729, 3953, 3971, 4271, B251, B275, B358, B444, B529, B529, B709, B873, B1532, B1861, B1920, B1924, H29V4, H29V7, H29V29, H30R36, H30R38, H30R40, etc. män nirvan bolmïšta ken yok ärür angayu tayaqïngïzlar 「我滅度無別所依」 2362, inčip yoq angayu orunta sözlämiši tudunglar kušudira pidakïγ 「而無別處言持雜藏」 2445, angayu tiläp čoγlï yruqlïnïng basutlamaqïn temin ök uyur ärmäz yarudγalï 「別求光明助方能照」 B1532, angayu angayu qodturtačï titdürtäči üčün adruq adruq ayïγlarïγ 「別別棄捨種種惡故」 H31R12

angbašlayu

see ang'bašlayu

ang'bašlayu

「最初」「初」 509, 2164, 2916, 3495, 3863, 3866, 3882, 4266, angbašlayu 173, 352, 501, 826, 1011, 1026, H31V56, H32R5, ang-bašlayu B1676, H39R33, ang'bašlayu yörär aqïγsïz nomlarnïng käzigin tizigin 3866, ang-bašlayu-qï tayaq tegüči užikning abipirayïn sözlälim 3501, angbašlayu sözlämäk üzä 「初所言諸」 501, angbašlayu-qï iki padaklar üzä 「初兩句」 4268, ang-bašlayu turmïš ünüg äšidilmiš tuštaqïsï anïlayu oq turmaq üzä 「初所起聲聞位猶存」 B1676, ang-bašlayu-qï ikägüni 「初之二種」 B2112

a.-qï 1586, 2920, 3491; angbašlayu-qï 4268, H25V21, H29R72, H30R21; ang-bašlayu-qï 2925, 3499, 3501, B2112, H26R44, H26R47, H30V57

ang'ilki

「第一」 70, 70, 316, 335, 391, 450, 507, 675, 887, 1113, 1251, 1408, 1458, 1477, 1485, 1506, 1553, 1560, 1589, 1827, 1874, 1876, 1885, 1957, 1958, 1960, 2057, 2091, 2098, 2151, 2172, 2180, 2307, 2417, 2434, 2605, 2903, 3005, 3008, 3022, 3042, 3059, 3147, 3209, 3226, 3961, 3991, 4000, 4094, 4193, 4216, 4526, B372, B387, B677, B695, B873, B1153, B1330, B1739, H28V21, H30R10, etc. ang-ilki 3096, ang'ilki šlok 「第一頌」 70, uqïdmïš ol iki türlüg taryarmaqlïγ ang'ilki öz tözin taryarmaq ikinti adqaγïn taryarmaq 「立二種斷一自性斷二所緣斷」 B695, ang'ilki köni körüm tegüči savta tükäl tudulur üčägü 「一正見言具攝三種」 B873

a.-ning 70

angken

「最後」 832, see ang

a.-ki H25R21, H26R22, H26R31

angsïz

「無意味」 angsïz-larnï täk abipiray üzä sözlämiš ärmäz 2881

ap

ap ymä .. ap ymä .. 「若・・若・・」 munda alqu ap ymä aqïγlïγ önglärtä ap ymä kirsiz aqïγlïγ öngsüztä ulatï ol alqu tägmäk tuγmaqta ulatï nomlar bar körmäktä taryaryuluq ulatï bïšrunmaqta taryaryuluq alqu qošuγ üzä qošulγuluq bolmaqï 「此中一切若有漏色若不染汚有漏無色及彼諸得生等法上有見所斷及修所斷諸結所繫」 B704

apiramane

< Skt. apramāṇa 「無量」 bu tetir bïšrunup

ögrädinip ädgü ögli köngüllüg apiramane-ïγ bütürmäk 「是爲修習慈無量成」 H39R18, bu tört türlüg apiramane-lar yaŋguqlarta öritgülük ärür adïn-ta ärmäz 「此四無量人起非餘」 H39R36

a.-larïγ H39R41

aq-

「流れる」 miyi suvï aq-mïš ödtä B1964

aqïγ

「漏」 1540, 2709, 2742, 2743, 4161, nä üčün teptesär alqu aqïγlar anda täng tüz eyin ükliyür üčün 「所以者何諸漏於中等隨增故」 2595, aqïγ birlä birlä yaradïlïp uladï aqïγqa adqanγu uγuš bolup eyin üklidür üčün aqïγïγ adamïš ol aqïγ-nïŋg eyin ükligülüki tep 「與漏相應及漏境界隨增漏故名漏隨增」 2743, 2744, 2745; aqïγ alqmaqtaqï qorqïnčsïz 「漏盡無畏」 1540

a.-ïγ 2745, 4446

a.-lar 2595, 2729, 2824, 2841, 3010, 3092, 4312

a.-larï H28R24

a.-larïγ 1610

a.-larnïŋg 3006

a.-nïŋg 2707, 2745

a.-qa 2744

aqïγlïγ

「有漏」 26, 26, 697, 1688, 1696, 1697, 1874, 1876, 1879, 2591, 2593, 2593, 2596, 2605, 2605, 2607, 2610, 2618, 2622, 2626, 2630, 2638, 2640, 2648, 2657, 2661, 2663, 2668, 2670, 2672, 2676, 2677, 2678, 2697, 2706, 2707, 2709, 2710, 2712, 2713, 2714, 2715, 2719, 2721, 2723, 2724, 2725, 2726, 2728, 2730, 2735, 2737, 2740, 2756, 2760, 2761, 2769, 2773, 2777, 2790, 2791, 2793, 2825, 2831, 2834, 2836, 2842, 2861, 2862, 2874, 2877, 2880, 2883, 2884, 2887, 2899, 2900, 2901, 2902, 2907, 2912, 2919, 2920, 2924, 2939, 2941, 2946, 2950, 2951, 2957, 2958, 2981, 2996, 2999, 3004, 3004, 3005, 3006, 3215, 3243, 3266, 3279, 3298, 3304, 3350, 3350, 3356, 3364, 3368, 3372, 3388, 3392, 3400, 3524, 3544, 3574, 3771, 3779, 3783, 3787, 3790, 3836, 3837, 3870, 3871, 3877, 4160, 4299, 4301, 4303, 4304, 4313, 4360, 4366, 4378, 4420, 4424, 4445, 4447, 4454, 4458, 4479, 4499, 4507, 4530, 4530, 4534, 4536, 4541, 4546, 4548, 4551, 4554, 4559, 4569, 4577, B550, B578, B581, B704, B705, B712, B713, B860, B865, B907, B918, B922, B925, B929, B930, B2140, B2185, B2185, B2193, H36R3, H36R6, etc. olarta aqïγlar eyin ükliyür üčün anïn sözlämiš ol aqïγlïγ tep 「於彼漏隨增故說名有漏」 2730, azuča ymä alqu nomlarta birgärü bululur iki türlüg öčmäklär qaltï ol tuγmadačï törülüg alqu aqïγlïγ nomlar ärür 「或於諸法俱得二滅謂彼不生諸有漏法」 3836, aqïγlïγ nomlar tudyaq yükmäk tep adanurlar 「有漏名取蘊」 4304, ol aqïγlïγ önglärtä ulatï kirsiz aqïγlïγ öngsüztä 「彼有漏色及不染汚有漏無色」 B712, B713, köngül bilig birlä yaradïlmïš ädgü aqïγlïγ bilgä bilig ymä ök körüm ärmäz bolur 「意識相應善有漏慧亦有非見」 B922

a.-ï 1608, 1875, H29R45, H34R38

a.-ïγ 49, 1607, 2926, 2934, 2943, 2952, 2964, 3011, 3244, 3257, 3819, 3820, 4311, 4473, B870, B872, H36R73

a.-ïn 1606, 2633

a.-larqa B576

a.-nïŋg 2919, 2925, 4318, 4159, 4580, 4582

a.-qa 2716

a.-ta 4320, 4549

aqïγsïz

「無漏」 26, 244, 275, 320, 325, 644, 695, 696, 700, 994, 997, 1596, 1605, 1606, 1608, 1610, 1612, 1623, 1625, 1665, 1669, 1671, 1681, 1682, 1691, 1695, 1695, 1702, 1735, 1737, 1792, 1792, 1800, 1809, 1812, 1824, 1843, 1844, 1847, 1855, 1875, 1881, 1881, 1883, 2591, 2593, 2597, 2605, 2606, 2607, 2621, 2629, 2638, 2640, 2648, 2658, 2662, 2670, 2672, 2675, 2689, 2697, 2857, 2858, 2866, 2880,

2885, 2888, 2920, 2927, 2929, 2934, 2936, 2940, 2941, 2946, 2947, 2950, 2951, 2953, 2959, 2961, 2962, 2963, 2973, 2979, 2983, 2986, 2989, 2991, 2992, 2994, 2995, 3000, 3002, 3004, 3007, 3008, 3009, 3010, 3011, 3013, 3017, 3022, 3023, 3024, 3055, 3056, 3091, 3246, 3305, 3308, 3323, 3346, 3346, 3351, 3353, 3353, 3354, 3365, 3563, 3579, 3769, 3788, 3789, 3814, 3816, 3818, 3821, 3858, 3859, 3866, 3877, 3564, 3574, 4299, 4309, 4328, 4329, 4419, B585, B826, B868, B869, B871, B2140, B2184, B2186, B2193, H29V69, H29V70, H30R20, H31R57, etc. arïγ ärsär qaltï aqïγsïz tedir 「淨謂無漏」 1596, munï munčulayu yumdarïp sözläsär aqïγsïz beš yükmäkning adï bolur abidarim tep 「如是總說無漏五蘊名爲對法」 1612, šasdr teptemiši ärsär qaltï ulap tuγurdačï ärür aqïγsïz bilgä bilig tözlüg nomuγ 「論謂傳生無漏慧教」 1691, aqïγsïzï ärsär qaltï yol kerdü ärür 「無漏謂道諦」 2686, azu ymä bar yindäm yükmäk bolup inčip tudyaq yükmäk bolmadačï qaltï aqïγsïz tavranmaqlar ärür 「或有唯蘊而非取蘊謂無漏行」 4309, alqu aqïγsïz nomlar bolur taryarmayu oq 「一切無漏皆非所斷」 B585

a.-ï 1608, 2686, 2896, 2927, 2937, 2942, 2969, 3014, H29R45, H29R57, H29R72, H34R40

a.-ïγ 1697, 2847, 2847, 2936, 2944, 2964, 3246, 3788

a.-ïn 2634, B866

a.-lï H31R47, H31R52

a.-nïng 2877, 2880, 3014, 3095, 3096, 4319

a.-qa 50, 2610, 2619, 2717

a.-ta 2663, 2668, 2980, 3245

aqïl-

「流れる」; aqïl- ävril-「流轉する」 aqïl-maq ävril-mäk ymä qayu ol teptesär bašlaysïztïn bärüki beš yükmäklärning kšan kšan sayu ulalmaqï ärür 1107, aqïl-ïp ävril-ip kim tuγmaq qarïmaq ölmäkig basa basa bir ikintikä yïγmaq tušγurmaq ärür 2068; aqïl- tartïl-「漏泄する」 kim kkirlig köngültä uzadï aqïlur üčün 「令染汚心常漏泄故」 2743; aqïl-ïp ün-「流出する」; aqïl-ïp kir-「流入する」; aqïl-qudul- 「澍ぐ」 kök qalïγtïn aqïl-u qudul-u 「從空下澍」 H27V26; aqïl-maqlïγ uyušï 「流類」

a.-ïp B397, a.-ïp ün-miš 1948, a.-ïp ün-är 1948, a.-ïp ävril-ip 2068, a.-ïp kir-düktä 3972

a.-maq a.-maq ävril-mäk 1106, 1107, 1110, 4170

a.-maqï a.-maqï ävril-mäki 37

a.-maqlïγ a.-maqlïγ uyušï 3513

a.-u a.-u ävril-ü 4569, a.-u q.-u H27V26

a.-ur a.-ur tartïl-ur 2743, a.-ur ävril-ür 4059, 4391

aqlayuluq

「可憎」 adïrtlïγ ärsär ikigününg atqanγusï aqlayuluq ärip birägününg atqanγusï amrayuluq ärür 「有差別者二境可憎一境可愛」 H39V50

armaq

「疲れ」 qaltï birök tušmaz ärkänki ödtä ačmaq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüštä ulatï ämgäklär üzä sïqïlmaq tangïlmaqta 「謂若未遭飢渴寒熱疲欲等苦所逼迫時」 H37R6

ara

「間」「中」 B1807, B1826, B1829, B1830, inčä qaltï alqu qamaγ altun tašlarïnïng ara-sïnta čïn altun ördülüp kizlälip turmïš täg 「猶如諸礦中眞金隱茲住」 913; ikin ara 「二つの間に」「中間に」 643, 651, 1110, 1399, B1731, B1771, H28R59, H38V39, ikin ara ärmäz üčün 「非中間故」 H28R59; ara bolmaq「中有」 H28R28

a.-sï ikin a.-sï H26R60

a.-sïnda 217, 547, 913, 926, 4355, 4356, 4392, 4394, B1825, B1851, ikin a.-sïnda B1720, B1723, B1836, B1891, H28R57, H31V63, H38V12

a.-sïndaqï 1920, 1942

arayu

< Skt. rāhu 「羅睺」 birök kim ay tängritä uladïlar arayu-ta ulatïlar üzä tïdïlsar B2119

araqï

「間にある」ikin a. 699, 1027, 3315, 3343, B1545, H27R15, H27R15, qavïrïp kedärip ikin ara-qï savïn anïn munday tep sözlämiš ol 「略去中言故作是說」 3315, azuča ymä ärdip ikin ara-qï sögüd arïγta ulatï önglärtä körür üčün tayta ulatïlarïγ 「或越中間樹林等色見山等故」 B1545, qavïrïp ketärmiš üčün ikin araqï savïn yöläšürgäy öngdün sözlämiš täg tetir「略去中言喩如前說」 H27R15; ara-qï dyan 「中間定」 1619, H32V24; a. dyan 1619, 3826

a.-sïnga H31V56, H31V65, ikin a.-sïnga H32R6, H32R20

arasïz

「無間」 H25R24, H25R25, H25R27; tüz arasïz basudčï 「等無間緣」 3648, 3663, 3664, 3756, 3758, 3919, B254, B2030, B2031, B2033, B2034, B2036, B2040, B2047, B2061, B2062, H25R9, H25R15, H25R23, H25R35, H25R37, H25V2, H26R21, köz biligingä tüz arasïz basudčï 「眼識等無間緣」 B2030, bu köngül biligingä tüz arasïz basudčï näng köngül biligingä tayaq töz bolur ärmäz 「有是意識等無間緣非與意識爲所依性」 B2062; arasïz ärtmiš 「無間滅」 B2021, B2037, B2061, B2064, B2426, H26R26, qaltï arasïz ärdmiš köngüldäki nom uyušï 「謂無間滅心所法界」 B2064

arčune

< Skt. arjuna (← nāga-arjuna) qavïrïp kedärip naga üžikin täk sözläsär arčune tep ymä äk bililür luu tidimlig ärdüki 3337, cf. naga-arčune

arïγ

「淨」 1596, 1602, 1605, 1608, 1610, 1628, 1631, 1702, 1800, B903, H32R51, H33V37, H35R35, arïγ ärsär qaltï aqïγsïz ärür 「淨謂無漏」 1605, arïγ bilgä biligning terininig quvrayïnïng adï bolur eyin yorïdačïlar 「淨慧眷屬名曰隨行」 1610, anïn qaltï adqayïnïng bolur arïγï kkirligi 「故謂所緣有淨不淨」 B905; arïγ süzük「清淨」 1042, 1898, H35R51, H35V14, birök tükällig ärsär tört türlüg ädgülärkä bulur arïγ süzük tegüči adïγ 「若具四德得清淨名」 H35R51; yaruq arïγ「明淨」 B887, B897, B902, B2121, B2122, körgülük önglär körklär yarïmča yaruq arïγ bolmïš täg 「所見色像少分明淨」 B887

a.-ï B905

a.-ïn 2633, H39R57, H39V60, a.-ïn süzük-in 1911

a.-sïzta B526

arïγ

「林」 sögüt arïγ 「樹林」 azuča ymä ärdip ikin araqï sögüd arïγ-ta ulatï önglärtä körür üčün tayta ulatïlarïγ 「或越中間樹林等色見山等故」 B1545

arïγla-

「清まる」 kün tngrining yadïlmïš isig čoγï üzä bulït boγanaq arïγla-yu tegü täg ačïlduqïnta 「烈日舒光霧霧廓清」 B894

arïn-

「淨まる」

a.-ur 4286

arïnmaq

「淨」 uyur üčün eyin qïlγalï büdürü bilmäkkä kkirikmäkig arïn-maqïγ tïldaγïγ tüšüg 「能順遍知雜染清淨因果智故」 2245, čxšaptnïng a. beš türlüg tïltaγlar uyrïnta bolur「戒淨由五種因」 H35R64

a.-ï 4285

a.-ïγ 2245

a.-larnïng 4288

a.-nïng H40R3

arït-

「清める」「明白にする」 arïd-γalïr üčün ol kirig bu tïldaγïn ašnu sözläp aqïγlïγïn ken sözlämiš ärür

aqïγsïzïn 「淨彼染故以先説漏之法後説無漏」 2633, ang'ilki tözin tüpin arït-maq 二 ikinti terin quvrayïn arït-maq 「一根本淨二眷屬淨」 H35V1,2

a.-γalï 718, 719

a.-γalïr 2550, 2633

a.-maq H35V1

a.-masar 716

arïtï

「結局」「終わりに」「竟りに」「全く」「都て」「曾て」 64, 1401, 1454, 1967, 1973, 2048, 2311, 2816, 3053, 3536, 4117, B46, B71, B175, B1071, B1662, H26V32, H28R30, H33R26, H37R36, män arïdï yrlïqamaz män uyur könisinčä alqγalï ämgäkig tep 「我終不説能正盡苦」 2048, inčip arïdï sözlämämiš ol abidarimnïng ulatï vinayning tayaq bolmaq üzäki adïrtïn 「而竟不言阿毘達磨及毘奈耶依有差別」 2311, yügärü körür alqu qongrayu ünining käztä amrïlïp arïdï äšidgäli bolmazï 「現見一切鈴聲頓息都不可聞」 B1662, köngülnüng arïdï bulduqmaz üčün ödi öz adqanγusïnta yorïmaγuluq 「心曾無有時不行自境」 B175

arqa

qaršï arqa 「相違」 2396, B471, H25R41, alqu ni'kaylartaqï qamaγ sudurlarnïng yörügi bir ikintikä eyin udu ärür bolmaz qaršï-sï arqa-sï 2408; arqa uγuš 「朋類」 andaγ ärmäz köngüldäki nomlarnïng arqa uγušï ardaγuluq bolur üčün 「不爾心所朋類壞故」 B106; iki arqa bol-「破る」 üčünč burxan tïtsïlarï iki arqa bol-u tükädüktä usar tüz baz qïlγalï 「三佛弟子破已能和」 H35V46; arqa ber-「背く」 H39V24, H39V31, H39V33, ol iišläšip arqa ber-mäk üzä altïn orunqa temin ök adï bolur üčün qutrulmaq 「彼要背下地方名解脱故」 H39V24

a.-sï qaršï-sï a.-sï 2408

arqïš

arqïš ïdmaq 「遣使」 yetinč arqïš ïdmaq uyrïnta qaltï drmadine šmnančnïng ärür 「七由遣使謂法授尼」 H32V46

arqura

「横」「傍」 ärkliglärning parmanusï arqura-sïnča qïlïlmïš kärgäklig tiziglig ärür B1953, inčip sözlägülük ol arqura-sïnča turur 「當言傍住」 H27V23

a.-sïnča SG42

arta-

「壞す」 köngüldäki nomlarnïng arqa uγušï arda-γuluq bolur üčün 「心所朋類壞故」 B106; buzul- arta- 「毀壞する」「破壞する」 ymä ök adï ol yerdinčü tep buzul-γuluq arda-γuluq üčün yöründäklig üčün 「亦名世間可毀壞故有對治故」 4468 birök buzul-sar arta-sar öngi bïšmaq tözlüg öng üzültüktä taplayu krgäk ikiläyü ulalur 「若破壞者異熟色斷應可更續」 H29V22; qurultur- arta- 「損壞する」 adïnlarï ärmäz bar üčün qurultur-dačïsï arta-dačïsï 「餘非有損壞」 H28V18; tägšil- arta- 「變壞する」

a.-γu B1932

a.-γuluq B106; buzul-γuluq a.-γuluq 4468, 4523, H35R34

a.-maduq B1196, B2084

a.-maq H36R45

a.-maqï buzul-maq a.-maqï 4534, 4543

a.-maqïγ H33R44

a.-maq-lïγ buzul-maq a.-maqlïγ 4524

a.-maq-lar buzul-maq a.-maqlar 4525

a.-maqsïz H36R9

a.-masar B1439, buzul-masar a.-masar H29V26

a.-maz B1990

a.-mïš 4539, H36R29

a.-mïšïnïng 4542

a.-mïšlarnïng B1922

a.-r B443

a.-sar B1437, B1437, buzul-sar a.-sar H29V22

a.-tačï buzul-dačï a.-tačï 4527, 4529, 4532, 4535; buzul-dačï a.-dačï 4537; qurultur-dačï-sï a.-dačï-sï

H28V18; tägšil-däči a.-dačï-sïn H37V33, H37R42
a.-yu H27V28
a.-yur B207, B221, B225; buzul-ur a.-yur H29V20

artat-「壞す」「害する」
näng turγurmaq üzä ančaqya ödlüg ädgü ašayïγ artat-maqïγ 「非起暫時壞善意樂」 H33R45, üčünč yoγun saqïnč-qa artat-γuluq bolmamaq 「三非尋害」 H35V2; qurultur-dačï artat-dačï「損害」
birök sözläsär sizlär qurultur-dačï artat-dačïsï ärür tep bar bolu tükätmäk üzä üklitdäči ašdačïsï mängining barï bütägü kärgäk 「若謂損害既有饒益有樂應成」 H37R23; sač- artat-「散壞する」 yoγun parmanuluγ quvrayta sač-dačï ardat-dačï yeel ürüp B1803
a.-dačï sač-dačï a.-dačï B1803, B1808
a.-dačïsï quruldur-dačïsï a.-dačïsï H37R23
a.-γučïsï H34V35, H34V40
a.-γuluq H35V2
a.-maqï H33R48
a.-maqïγ H33R44, H33R45
a.-mïšï sačmïšï a.-mïšï B1761

artuq
「大いに」「倍」「過」 B2152, B2157, H32R42, H33R24, H33R27, H36V64 anïng küči artuq küčsüz ärür 「其力倍劣」 H32R42, küntä tüntä artuq bolur angayu täginmäktin bululmïš bačaq sanvar 「過晝夜有別受得近住律儀」 H33R27, öng näčä küčsiräsär qïyïlsar ymä ärkliglär tšk arduq küdinsär B2157

artuqraq
「極めて」「畢竟の、畢竟に」「深く、深い」「大いに、大いなる」 291, 291, 1187, 2750, 2819, 3063, 3558, 4177, 4179, 4479, B52, B128, B139, B278, B285, B297, B405, B651, B760, B1017, B1029, B1036, B1529, B1412, B1541, B1568, B1629, B1855, B1894, B2216, H35V18, H35V26, H35V30, H36R58, H36R60, H37R48, H38V35, H39R33; arduqraq yaqïn yaγuq üčün ärü ärü adï bolγu kärgäk ičdin sïngarqï tep 「極親近故轉應名內」 B128, köznüng yruq tözlügi bolmaq arduqraq büdmiš ärmäz üčün 「眼火明性非極成故」 B1529, anïn sizlärning qayu sözlämišingizlärning yoq arduqraq yörüg yolï ä 故彼所言無深理趣」 B52, bu sezikingiz antaγ ärmäz artuqraq münlüg qadaγlïγ üčün 「此難不然太過失故」 H38V35

artuqsuz
arduqsuz ägsüksüz 「過不足なく」 3035

artur-
(ärtür- ?)「大過する」 ardur-tung braman 「大過婆羅門」 3171, 3172

arvïš
arvïš sarvïš 「呪術」 2625

arxant
< Skt. arhant 「阿羅漢」 905, 919, 2016, 2018, 2020, 2107, 2110, 2111, 2113, 2114, 2116, 2117, 2118, 2214, 2218, 2238, 2257, 2450, 2528, H25R20, H26R21, H28R61, šaripudre arxant 「舍利子阿羅漢」 904, H27R36, H28R22, ayaγqa tägimlig modgalayane arxant 「尊者目連阿羅漢」 919; arxant qut-ï 「阿羅漢果」 2195, 2302, 2569, taplayur bolur arxant qudïntïn taymaq 2195
a.-lar B611
a.-larqa H33V29
a.-larnïng 3844; a.-larnïng qut-ïntïn 2302, 2569
a.-nïng 904
a.-qa 2463

aryadaze
< Skt. āryadāsa 「阿利耶馱娑」「聖奴」 3182, 3188, 3190, 4109, 4163; ayaγqa tägimlig ar-y-a-taz-e bsxšï munï sözläyür tüzünlär qulï tep 3182

asanke

< Skt. asaṃkheya 「阿僧祇」 asanke kalp 「阿僧祇劫」 636, 902, 906, 909, qaltï ärtmiš kälmädük üč asanke kalp-ta taš 「謂過去未來三阿僧祇劫外」 902, šaripudre arxant körüp iki asanke kalptaqïsïn 「舍利子觀二阿僧祇劫」 906

a.-ta 916

asanvar

< Skt. asaṃvara 「不律儀」 H30R11, H31R21,24, uqïtmaz öng üč bolur sanvar asanvar iki ärmäz ärür 「無表三律儀 不律儀非二」 H30R8

a.-ïγ H33R36, 37

a.-nïng H32R45

a.-qa H33R59

a.-ta H31V25, H32R1,10

asγar-

「加被する」「加威する」 ančulayu kälmiš asγarmïš üčün ičgärip tudmaqlïγ küčin bošumaγïnča tidmägінčä 1398

a.-maqlïγ 1402

a.-mïš 1398

asïγ

「利」 259, 260, 261, 262, 264, 265, 266; asïγ qïl-「利をなす」 86, 86, 87, 88, 108, 108, 124, 396, 441, 441, 444, 447, 470, 567, 568, 570, 570, 579, 580, 584, 585, 778, 782, 785, 814, 1021, 1024, 1025, 1028, 1038, 1046, 1047, 1063, 1066, 1076, 1078, 1084, 1087, 1088, 1091, 1092, 1094, 1097, 1099, 1192, 1193, 1194, 1197, 1198, 1297, 1297, 1304, 1309, 1351, 1352, 1353, 1355, 1356, 1358, 1362, 1364, 1366, 1369, 1377, 1478, 1484, 1496, 1502, 1504, 1506, 1508, 1509, 1530, 1535, 1536, 1851, B81, H35R24, özkä asïγ qïlmaq 「自利」 1025, 1028, 1047, etc. adïn(lar)qa asïγ qïlmaq 「利他」 1094, 1097, 1099, 1364, etc. yeg adruq asïγ 「勝利」 H37V54, özkä asïγ qïlmaq adïnqa asïγ qïlmaq 「自利利他」 86, 108, 441, etc. asïγ qïlmaqlïγ ädgü「利德」 87, 88, 447, etc. özkä asïγ qïlmaqlïγ ädgüsi「自利德」 567, 778, 782, etc. ögä tükädmiš boldï adï ködrülmišning özkä asïγ qïlmaqlïγ ädgüsining büdügin「已讚世尊自利德滿」 1021, adïnqa asïγ qïlmaqlïγ ädgüsi「利他德」 568, 580; asïγ tusu 「利益」「利」 16, 762, 765, 767, 1040, 1075, 1084, 1229, 1384, 1851, 2733, barmaqlarï ärsär tuyunmaqqa tözi tïnlγlarqa asïγ tusu qïlγu üčün ärür näng käntü özi üčün ärmäz 「趣菩提本爲利生非爲自」 1084; öz asïγ-ï 「利己」 ävrip bušï bermišning buyanï üzä yedgürürlär öz asïγïn 「迴施之福及利己」 1069; asïγ-lïγ mängi-lig 「利樂」

a.-ï 361, öz a.-ï 1041; a.-ï tusu-sï 105, 119, 181, 1964, 1965, 1970, 1973, 1974, 1985; yeg adruq a.-ï H37V54

a.-ïγ 2506

a.-ïn 2092, 2099; a.-ïn tusu-sïn 2087; öz a.-ïn 1069

a.-lar 258

a.-larnïng 265

a.-larta 1852

a.-lïγ 1086; a.-lïγ tusu-luγ 15, 1282, 1966; a.-lïγ mängi-lig 1057, 1071

a.-qa 258

a.-sïz a.-sïz tusu-suz 1967

asïra

「下」 asïra tüš- 「下落する」 1140; qodï asra 「劣」「卑劣」「下劣」 2622, B1272, B2361, H32R61, H32R66, H33V6, tükällig bolurlar uqïdurqa uqïtmazqa ärmäz otra turdačïlar qodï asïra qïnmaq üzä qïlsarlar「成表非無表 住中劣思作」 H32R61

qodï orunta tep temiši ärsär qaltï baxšïsï üzäkintä qodï asïra orunta turmaq ärür 「言下座者謂在師前居卑劣座」 H33V6, köznüng iši küdüki qodï asïra üčün biligning yeg adruq üčün B1272

a.-qï 476, 1625

a.-sïn qodï a.-sïn 2623

asimarta

< Skt. a-smṛta 「无念」（人名） a-simarda atlïγ

ačari tsopïnï qïldïm 8

asraqï ～ asïraqï

「下にある」 birlä yänä öngsüz asraqï üčägü ärür 「并無色下三」 H28V16, 476 (asïraqï)

asure

< Skt. asura「阿修羅」 alqu tngrilär yäklär asure-ta ulatïlar 1422

aš

「食物」 1906, 2913, B1960, B1962, B1962, H27R22; aš ičgü 「飲食物」 avïrda analarnïng süčig tadïγlïγ aš ičgü-lärig išlädip ilgündürmäkläri ärsär ät'özin 「乳母甘饍用資身」(饍) 1080, qaltï alqu qayu barïnča ton kädïm aš ičgü soγïq isigtä ulatï savlarïγ 「謂諸所有衣服飲食冷煖等事」 H36V61; ödsüz aš 「非時食」 H30V44, H33V51, H35R39, säkizinč ödsüz aš yemäk ärür 「八食非時食」 H30V44

a.-ïγ B1960, B1965

aš-

aš- üklit- 「增大させる」「増長させる」 uyur üčün üklit-gäli aš-yalï äšidmäk tözlüg bilgä biligig 「以能增長聞等惠故」 1796; ärt- aš- 「超える」 anïng ät'özining yeg ayaγuluγ ärtüki üzä ärt-mišin aš-mïšïn alqu tüzünlär quvraγïnda 「其體尊高超諸聖衆」 78; üklit- aš- 「增多」「饒益」 kim olarnïng ädgu yïltïzïn anča anča üklit-ür aš-ar üčün 「令其善根漸增多故」 H33V35, birök sözläsär sizlär quruldurtačï artatdačïsï ärür tep bar bolu tükätmäk üzä üklit-däči aš-dačïsï mängining barï bütägü kärgäk 「若謂損害既有饒益有樂應成」 H37R24, ; aš- üstä- 「增足」 bu üč sanvarlarïγ azu aš-maq üstä-mäk uγrïnta mu ïraq öngi ütrülgülük al altaγïγ uqïtdï angayu angayu at üz-ä 「此三律儀爲由增足遠離方便立別別名」 H30R60

a.-ar uklit-ür a.-ar H33V35

a.-dačï üklit-däči a.-dačï 2863, 2879, B2342

a.-dačïsï üklit-däčisi a.-dačïsï 2736, üklit-däči a.-dačïsï H37R24, H37R24

a.-γalï üklit-gäli a.-γalï 1796, 2753, 2756, B135, B1027, B2342

a.-γu üklit-gü a.-γu 2767

a.-maq ärt-mäk a.-maq 412; üklit-mäk a.-maq 2747, 2748, 2760, 2770; a.-maq üstä-mäk H30R60

a.-maqï üklät-mäk a.-maqï 2768

a.-maqïn üklät-mäk a.-maqïn 2727

a.-maz üklit-mäz a.-maz 1609, 2738

a.-mïšïn ärt-mišin a.-mïšïn 78, 82, 144, 414, 423, 958

a.-sar üklit-sär a.-sar B132, H28R25

aša-

「食べる」; singir- aša- 「呑食する」 azuča ymä bolur üčün ürlügsüzkä singir-gülük aša-yuluq 「或爲無常所呑食故」 3952; tägin- aša- 「受用」 munï birök ödsüz ülgusintä artuq tägin-sär aša-sarlar ötrü umaq üzä tuγuryalï ämgäkig 「此若非時過量受用便能生苦」 H36V64

a.-duqta B1960

a.-γuluq singir-gülük a.-γuluq 3952, 3962, 3966, 3967, 3968, 3973, 3975; tägin-gülük a.-γuluq H36V65

a.-γuluqï singir-gülük a.-γuluqï 3951

a.-maqtïn H33V52

a.-mïš B1965

a.-sar tägin-sär a.-sar H36V64

ašay

< Skt. āśaya「意樂」 turγurmaq uγrïnta abamuluγ ädgü ašay-ïγ artatmaqïγ bululur asanvar 「由起畢竟壞善意樂得不律儀」 H33R44

a.-ïn H33R60

ašïl-

ükli- ašïl- 「增える」「增盛する」「長益する」「長養する」「增益する」 bärk yarp adqanïp täprämätin eyin üklip yadur üčün tözi iši ükli-miš ašïl-mïš ärür 「堅執無動隨增眠故體用增盛」

4553, bilig uyurïnta ükli-p ašïl-ïp birlä tuγmïš maxabutï 「由識長益俱生大種」 B1009, bular ikägü birlä dyan üzä ükli-miš ašïl-mïš tutyaqsïz 「此二俱依定所長養無受」 H29V10, birök tüzütä ükli-mäsär ašïl-masar nätägin tüz-ütä tuγurur uqïturuγ 「若不遍增益如何遍生表」 H29V35, ämgäk ükli-miš ašïl-mïš ödtä anïng tözi temin ök uqulur 「苦增盛時其相方顯」 H36V72

a.-γalï ükli-gäli a.-γalï 2805

a.-γuluq-ï ükli-gülüki a.-γuluqï 3359

a.-γusïnga ükli-güsingä a.-γusïnga 2819

a.-ïp ükli-p a.-ïp B1009

a.-maq ükli-mäk a.-maq 2776, 3256, 2782

a.-maqï ükli-mäki a.-maqï 2766

a.-masar ükli-mäsär a.-masar H29V35

a.-mïš ükli-miš a.-mïš 2803, 3251, 4553, H29V10, H36V68, H36V72

a.-sar ükli-sär a.-sar 1059, 3253, 3255, 3258, B2117

a.-u ükli-yü a.-u 2909

a.-ur ükli-yür a.-ur 1058, 2764, 3363

aširay

< Skt. āśraya 「所依」 aširay tayaq tözlüg 「所依性」 B47

ašnu

「先の、先に、前に」 330, 1970, 2015, 2033, 2088, 2356, 2621, 2623, 2624, 2624, 2632, 2633, 2943, 3074, 3083, 3153, 3155, 3188, 3545, 3840, 3841, 3842, 3846, 3846, 4503, B289, B1409, B2058, H25V17, H30R56, H31V49, H33V2, H38R18, azuča ymä tägimlig ärti ašnu ötdä tayaqïγ yindäm bir ök ol tep yrïïqaγalï 「或應先時依唯説一」 2356, ašnu bolmaq üzä kkiri ken iišläšmiš ärür anïng arïγïn 「先有染後要其淨」 2632

ašnuča

「先ず、先に」 23, 25, 29, 145, 190, 212, 219, 240, 448, 452, 471, 478, 512, 1061, 1240, 1243, 1318, 1591, 1727, 1805, 1932, 1961, 1983, 1986, 2032, 2090, 2354, 2368, 2687, 3077, 3079, 3081, B1143, H29R5, H36R70, H39R1, ašnuča ögüp küläp ädgülär basa temin ayayu aγïrlayu yükünmišin uqïdur 「先讚德方申敬禮」 448, kim ärti yänä ašnuča nomlatï ol abidarimïγ 「誰復先説阿毘達磨」 1961

ašnuqï

「先にある」 835, 837, 1013, 1730, 4399, B2053, ašnuqï-sïnta uqïdmïšïn tuda 「約先所擧」 B2053

ašub

< Skt. aśubha 「不淨」 ašub anïdïyat saqïnčta ulatïlar 1441; ašub dyan 「不淨觀」 H39V62

at

「名」 248, 333, 484, 535, 639, 1753, 1758, 1903, 1930, 1946, 2450, 2728, 2730, 3059, 3986, 3993, 3994, 3995, 3996, 4000, 4004, 4007, 4014, 4014, 4016, 4020, 4025, 4026, 4027, 4028, 4031, 4048, 4049, 4050, 4053, 4057, 4064, 4068, 4116, 4201, 4313, 4473, B103, B151, B204, B1282, H25R26, H27V3, H28R60, H30R42, od at näčä tägšilsär ymä inčip isig tözlärï bir täk bolmïš täg 「火名雖改易而煖性同」 B1057, arïγ bilgä biligning terinining quvraγïnïng ad-ï bolur eyin yorïdačïlar tep 「淨慧眷屬名曰隨行」 1611, ymä ök bulmïš ol abidarim tegüči ad-ïγ 「亦得名阿毘達磨」 1694, bu yörüg üzä anïn bulmïš ol abidarim tegüči ad-ïγ 「以此義故得名對法」 1794, olarta aqïγlar eyin ükliyür üčün anïn sözlämiš ol aqïγlïγ tep ad üzä 「於彼漏隨增故説名有漏」 2730, kizlälmiš yïγïlmïš qurulmïš kävilmiš üčün ad-ï bolmïš ol yümäk tep 「隱積損伏故名爲藴」 3886, anïn yintäm köngültäki nomnung at-ï bolur ičtin sïngarqï tep 「故唯心所應名爲內」 B48, qaltï sözlägüči sav tayaqï ärsär ad ärür birlä yörüglüg 「如説言依謂名俱義」 4049, alqu köngüllüg tayaqlarnïng barčalarnïng ad-ï bolur ičtin sïngarqï tep 「一切心依皆名爲內」 B54, köznüng ad-ï bolur kördäči biligning ad-ï bolur bildäči

「眼名能見識名能了」 B1399; niznk at 「異名」 2664, 3317, etc.; at manggal 「吉慶」「吉祥」 216, 219; at-lïγ küü-lüg「名聲ある」; at-ï kötrülmiš 「世尊」 see kötrülmiš

a.-ï 9, 92, 101, 103, 263, 362, 364, 378, 386, 394, 409, 483, 501, 508, 523, 523, 526, 531, 531, 532, 534, 534, 535, 537, 538, 539, 540, 541, 541, 543, 551, 565, 590, 591, 608, 628, 636, 655, 663, 717, 719, 721, 729, 747, 749, 751, 759, 768, 778, 800, 802, 806, 824, 909, 921, 921, 943, 951, 957, 1006, 1021, 1023, 1028, 1032, 1043, 1077, 1094, 1099, 1152, 1160, 1185, 1190, 1199, 1203, 1204, 1205, 1214, 1220, 1227, 1228, 1230, 1232, 1236, 1245, 1246, 1254, 1258, 1263, 1269, 1270, 1276, 1286, 1346, 1356, 1363, 1390, etc., H26R37, H27R2, H27R62, etc.

a.-ïγ 716, 847, 1002, 1008, 1632, 1644, 1694, 1705, 1783, 1785, 1787, 1794, 1801, 1813, 1905, 1909, 1913, 1919, 1932, 1940, 1954, 2228, 2790, 3131, 4106, 4386, 4402, 4406, 4439, B74, B100, B105, B178, B206, B218, B256, B729, B738, B770, B780, B781, B1044, B1054, B2096, B2101, B2101, B2102, B2176, H31R4, H31R11, H31R19, H31R37, H35R51

a.-ïn 487, 491, 3095, 3959, 4583, B464, B2147, B2150

a.-ïnïng 129, 4316

a.-ïnga 481

a.-lar 4463, 4580, B1284, H32R48, H32R57

a.-larï 4325, 4459

a.-larïγ 4576, H36R24

a.-larïnča H27V47, H27V51

a.-lï 4020, 4062, B1407

a.-lïγ a.-lïγ manggal-lïγ 214, 215; a.-lïγ küü-lüg 529

a.-lïnïng 4028

a.-nïng 1821, 3997, 4009, 4009, 4023, 4030

a.-qa 3998, B2145, H35V7

a.-ta 4000, H35V23

ata-

「名づける」「稱する」 munung umïš üčün tarïqγalï qarangγusï anïn ada-mïš ol tarïqmïš qarangγuluγ tep「此能破闇故稱冥滅」 544, azuča ymä uyur üčün körmäkkä tušγaryalï anïn ada-mïš ol abidarim tep 「或能對觀故稱對法」 1818, nä üčün bu šasdrïγ ada-tï abidarmakoš tep 「何故此論名對法藏」 1926, qaltï ud qošuyluγ qanglïγ ada-mïš täg ud qanglï tep 「如牛所駕車名曰牛車」 3314, munda öngi inčip tuγmïšqa ada-mïš ol altïnč ärmäztin tuγmïš tep 「異此而生名非六生」 B668, odγuraq andaqï pïrapdïqa tükällig bolmaqïntïn ada-mïš ärmäz adqaγïn taryarmïš tep「不必於中得不成就名所緣斷」 B703, köz bolup bilig yoq bolmaq üzä bolur ärmäz täglük ada-γalï「非・・有眼無識可名盲者」 B1116

a.-γalï 772, 822, 823, B1116, B1119, B1129, B1225, B1408, B1642

a.-γuluq 2795

a.-mïš 303, 327, 351, 367, 435, 515, 517, 533, 544, 587, 611, 670, 763, 865, 868, 972, 978, 1005, 1024, 1030, 1033, 1093, 1144, 1153, 1155, 1177, 1181, 1184, 1189, 1207, 1217, 1302, 1307, 1315, 1342, 1372, 1491, 1547, 1558, 1610, 1669, 1711, 1713, 1714, 1715, 1717, 1763, 1818, 1821, 1824, 1827, 1834, 1837, 1845, 1861, 1866, 1873, 1914, 1937, 1941, 1944, 1954, 2156, 2170, 2710, 2713, 2719, 2722, 2734, 2736, 2742, 2745, 2756, 2786, 2901, 3011, 3107, 3118, 3128, 3129, 3143, 3251, 3254, 3259, 3266, 3267, 3270, 3283, 3314, 3331, 3366, 3601, 3604, 3621, 3653, 3730, 3737, 3746, 3749, 3751, 3761, 3772, 3806, 3910, 4007, 4064, 4172, 4174, 4202, 4326, 4326, 4334, 4336, 4338, 4348, 4351, 4353, 4373, 4378, 4387, 4389, 4390, 4403, 4411, 4440, 4444, 4539, 4547, B367, B368, B391, B392, B392, B475, B485, B518, B522, B523, B524, B525, B528, B530, B531, B553, B668, B684, B697, B703, B780, B845, B937, B961, B963, B1347, B1350, B1364, B1371, B1599, B1724, B1772, B1806, B2054, B2056, B2059, B2138, B2178, B2381

a.-p 4350

a.-sar 329, 331, 345

a.-tï 597, 862, 1918, 1924, 1926, 3110, 3358, 3541,

3634, 3645, 3939, 4324, 4346, B28, B124, B558, B1767, B2317; a.-dï B955, B1360, H27R47

atan-

「名づけられる」 aqïγlïγ nomlar tudyaq yükmäk tep adan-urlar 「有漏名取蘊」 4305

a.-γalï 1519

a.-maqï 1778

a.-maqnïng B149

a.-maz 4333

a.-mïš H26V14, H26V50, H27V4, H28R39, H28V43, etc.

a.-sar H31R6

a.-tačï 3262; a.-dačï B956

a.-tï 1002, 1003, 4323

a.-urïn 4319

a.-urlar 4305

atïš-

atïš- saplan- 「射合う」 yersigsizig ayïdmaqlïγ ooqlarïn adïš-u saplan-ïp B764

atïz

「畦」 qaltï urup atïz-daqï twtwr sarïγ yintäm qalsar bir eyin bolmamïš täg atanγalï bu atïz-ïγ urulmaduq 「如刈畦稻唯餘一科不可名爲此畦未刈」 H38V24,25

atla-

「進む」 anïlayu oq boš taš adla-mamïšï täg 1010

atlγ ～ atlïγ

「・・という」 8, 936, 2829, 2832, atlïγ 3647, abidarmaxarday atlγ šasdrta 2829; adqaγ atlγ basudčï 「所縁縁」 1783, 3647, 3664, 3702, 3920, H25R10; tïldaγ atlγ basudčï 「因縁」 3647, 3701, 3754, H25R8, H25R15; ärksinmä atlγ basudčï 「増上縁」 3647, 3703, 3754, H25R16; andaγ atlγ 「某甲」 2282, 2283, 2284

atmanggal

「吉祥」 cf. at. adlïγ küülüg üčün admanggal üčün 529

atqaγ

「縁」「所縁」「對象」「計」「計度」 1637, 1643, 1650, 1783, 2738, 2799, 2810, 3270, 3647, 3664, 3702, 3754, 4443, 4453, B20, B117, B153, B198, B199, B200, B310, B330, B332, B333, B340, B341, B345, B394, B431, B807, B1068, B1993, B1999, B2171, B2172, B2352, H26V10, aqïγsïzï üsdün uγušnung adqaγ-ï ärmäz 「非無漏上縁」 2897, adqaγ bolmaq üzä taš ïraq üčün anïn adï bolmïš ol taštïn sïngarqï tep 「爲此所縁疎遠故説名外」 B117, anïn qaltï adqaγ-ïnïng bolur arïγï kkirligi 「故謂所縁有淨不淨」 B905, odγuraq andaqï pirapdiqa tükällig bolmaqïntïn adamïš ärmäz adqaγ-ïn taryarmïš tep 「不必於中得不成就名所縁斷」 B703, män atqaγ 「我執」 yänä köngül yarïmča ärür mn adqaγ-nïng tayaq-ïnïng 「又心少分是我執依」 B142; taš azaq nomluγlarnïng atqaγ-ï 「外執」 H40R7; atqaγ atlγ basutčï 「所縁縁」 1783, 3647, 3664, 3702, 3920, H25R10, H26V9, tïldaγ atlγ basudčï adqaγ atlγ basudčï ärksinmä atlγ basudčï 「因縁、所縁縁、増上縁」 3754; tärs atqaγ 「邪計」 4283

a.-ï 2897, B786, 4233, B1072, B2009

a.-ïn 2606, 2710, 2735, 3753, 3971, 4080, 4267, 4283, 4287, B197, B695, B703, B783, B786, B788, B798, H39R13

a.-ïnïng 2773, 3929, B905

a.-ïnta 2906, 3636, 3638, B901, H26V16

a.-lïγ 294, 1578, 2711, 2758, 2764, 2778, 2793, 2813, 2854, 4216, 4229, 4234, B323, B327, H28V62, H36V35

a.-lïγï 2766

a.-nïng B142, B144, B1996

a.-qa B56, B146, B153, B164, B168, B194, B197, B198, B199, B200, H26V12

a.-sïz B413

a.-ta H26V11

atqan-

「縁ずる」「執する」「計する」 öčmäkli yollï kertülärig adqan-ïp alqu aqïylar näčä tuγsar ymä 「縁滅道諦諸漏雖生」 2824, yarp adqan-ïp täprämätin eyin üklip yadur üčün 「堅執無動隨增眠故」 4552, tärs körüm sezik birlä yaradïlmïš ulatï qamaγlïγsïz biligsiz altïγu uyur adqan-γalï aqïγsïzïγ 「邪見疑相應及不共無明六能縁無漏」 2847, azuča ymä uyur üčün adqan-γalï tudγalï kenki bolmaqïγ tardtačï qïlïnčïγ 「或能執持引後有業故」 4345, adqan-ïp öng adqaγuγ tašγaru uγurïn ävrilür üčün 「縁色等境外門轉故」 B671, adïn munï adqan-dačïsï anïlayu oq badačï bolur 「餘縁此猶繫」 3277, birök munda öngüg adqan-mïš üčün anïn körüm bolur tep 「若此縁色故成見」 B1062, adqan-tačï qartïγ bolur mängi 「計癰爲樂」 H36V11; atqan- yapšïn-「封著」「執着」 3636, bilgälär ärsär anda tägimlig ärmäz adqan-γalï yapšïn-γalï 「智者於中不應封著」 B1400; atqandačï 「能縁」 atqanγuluq 「所縁」 oxšadï ärsär adqantačï-sïnïng adqanγuluq-ïnïng bir ikintikä ükliyü ašïlu oxšašmaqï ärür 2909, adqanγuluq adqanγusï arïγ kkirlig bolur ärmäz 「非所縁境有淨不淨」 B903; atqanγu uγuš「境界」 H26R7 a.-dačï 741, 845, 2847, 2986, 3625, 3845, 4270, B665, B674, B767, B769, B728, B773, B784, B1063; a.-tačï 840, 2894, 2988, 3650, 3797, 4104, 4272, 4284, 4290, 4559, H25V10

a.-dačïsï 3277, B797, B802; a.-tačïsï 2763

a.-dačïsïn 833, B2353; a.-tačïsïn 838

a.-dačïsïnïng 2905; a.-tačïsïnïng 2908

a.-γalï 995, 999, 1785, 2847, 3105, 3627, 3651, 3655, 3673, 3675, 4343, 4344, B328, B688, B1349, B1400, B1737

a.-γučï B153, B722

a.-γuluq 827, 839, 841, 847, 1157, 2762, 2799, 2802, 2810, 2811, 2837, 2893, 3258, 3285, 3392, 3698, B116, B149, B309, B701, B903, B2370

a.-γuluqïnïng 2908

a.-γuluqta B470

a.-ïp 943, 2243, 2532, 2802, 2804, 2815, 2824, 2841, 2843, 3657, 4552, B65, B195, B346, B451, B671, B1223, B1227, B2003, B2005

a.-maduq H26V11

a.-maq 1142, 4341, B2008

a.-maqï B326, B2386

a.-maqlïγ 3658, 3923

a.-mïš 1835, 2784, 3671, 3674, B1062, B1320

a.-sar 2752, 2848, 2987, 3633, 3636, B323, B343, B1634

a.-tuqta 2771, 2781

a.-u 3643, 3645, 3649, 3695

a.-ur 1130, 3269, B334, B389, B800, B1998, B2004, B2380, H36V48, H39V23

a.-urlar 3970, 4284, 4291, B1, B149

atqanγu

「境」 615, 723, 828, 850, 938, 1705, 1834, 2715, 2744, 2762, 2838, 3625, 3649, 3918, 3920, 3924, 3995, 3996, 3998, B66, B115, B116, B133, B136, B137, B195, B293, B293, B299, B415, B346, B348, B433, B435, B439, B442, B442, B444, B450, B469, B470, B472, B477, B483, B848, B977, B1197, B1585, B1642, B1693, B1718, B1732, B2078, B2079, B2085, B2117, B2164, B2168, B2370, qaltï taγarmaq ärür alqu adqanγu-lartaqï alqu bölüklärtäki qarangγu qararïγlarïγ 「謂滅諸境一切品冥」 605, ol umamaqïnïng uγrïnda adqanγalï ärdmiš ödki adqanγu-larïγ 「由彼不能縁過去境」 3628, ol iišläšip köngülkä tayaqlïγïn uyur üčün yorïγalï adqanγu-larta 「彼要依心能行境故」 B180; atqanγu uγuš 「境界」 938, 2744, 3652, 3649, B116, H26R7, etc. näng adïn öngi bilgä biligkä adqanγu uγuš bolur ärmäz 「非餘智境界」 938, bar ät'öz körüm adqanïp beš tudyaq yükmäkig adqanγu uγuš qïlur üčün 「以有身見縁五取蘊爲境界故」 B66; nom atqanγu「法境」3918, 3920; atqanγuluq atqanγu 「所縁境」 839, 1157, 2762,

2838, 3285, 3698, B149, B309, H39V55, etc. adqanγuluq adqanγu-sï arïγ kkirlig bolur ärmäz 「非所縁境有淨不淨」 B903; öng atqanγu 「色境」 3635, B671, B977, B2078, etc.; öz atqanγu 「自境」 B70, B71, B173, B174, B176, etc. turqaru öz adqanγu-sïnta ärkčä tapča yorïγur 「恆於自境自在行故」 B69; tägmištäki atqanγu 「至境」 B1490, B1494, B1510, etc. alqu ärkliglär yindäm alïr üčün tägmištäki adqanγu-γ 「一切根唯取至境」 B1503; tägmäzkänki atqanγu 「非至境」 B1501, B1507, etc. anï üčün köz ärklig alïr tägmäzkänki adqanγu-γ 「是故眼根取非至境」 B1519

a.-γ 600, 3651, 3923, B477, B671, B1349, B1483, B1487, B1494, B1503, B1505, B1507, B1509, B1510, B1514, B1516, B1519, B1557, B1570, B1600, B1604, B1604, B1607, B1610, B1612, B1617, B1624, B1639, B1651, B1697, B1699, B1707, B1716, B1737, B1767, B2003, B2006, B2207, B2408

a.-lar 1847, 2753, B135, B1730, B1895, B1898, B1899, B1910, B2045, B2099, B2162, B2176, H37V46

a.-larïγ 616, 741, 977, 996, 1004, 1833, 1836, 2753, 2771, 3628, 3642, 3655, 3657, 3668, 3845, 3908, B388, B454, B936, B1346, B1481, B1490, B1525, B1551, B1554, B1572, B1599, B1650, B1895, B1907

a.-larïn 593, B1268

a.-larïnta B370

a.-larnïng B1500, B1897, B1901, B1992, B2398

a.-larqa 561, B374, B376, B1502, B1542, B1549, B1563, B1908, B2097

a.-larta 429, 519, 601, 1480, 1836, 3285, B76, B180, B186, B347, B379, B967, B1513, B1520, B1887, H38R68

a.-lartaqï 605, 609, 613, 614, 619, 724, 749

a.-luγ 3920

a.-nï B1781

a.-nung B298, B350, B980, B1720, B1723

a.-qï H39R49

a.-qa 3702, B1552, B1566, B2067, B2149

a.-sï 3286, 3662, 3663, 3698, 3997, B309, B344, B352, B903, B1188, B2122, B2124, H39R50

a.-sïn B149, B979, B984

a.-sïnïng B340

a.-sïnta B69, B70, B71, B176, B296; a.-sïnda B173, B174, B188, B190

a.-ta 839, 1157, 3635, 3642, 3692, B292, B1183, B2149

a.-tïn B677, B689

avadana

< Skt. avadāna avadana yölägürüg 「譬喩」 2335

avant

< Sogd. 'nβ'nt avant tïlaγ 「因緣」 B1013, B1014; kim bar ärsär avant tïlaγ tuγuryalï udačï bilmäk adïrtlamaqïγ 「「諸有因緣能生了別」 B1013

a.-lïγïn a.-lïγïn tïlaγ-lïγïn 1802

avïrta

avïrta ana 「乳母」 avïrda ana-larnïng süčig tadïγlïγ aš ičgülärig išlädip ilgündürmäkläri ärsär ät'özin 「乳母甘饍用資身」 1079

aviš

< Skt. avīci 「無間」 aviš tamu 「無間地獄」 「無間獄」 2066, tïnlylar üsdün bavagirtïn aldïn aviš tamu-qadägi 1178, alqu biligsiz äränlärning aviš tamu-taqï artuqraq ämgäk täginü turur yükmäkintä tuγurmïš ämgäklig qorqïnčlïγ ayïnč köngülläri 「以諸愚夫於無間獄受劇苦蘊生苦怖心」 H36R59

ay

(感嘆の小詞) üzlünčütä adï ködrülmiš ögä taplayu sözlädi ädgü ay 々 々 säning amtï uz umaqïng 2258, ötrü artuqraq ögirgülük sävingülük činkertü mängi ay 「便深欣慰 實爲樂哉」 H39R33(欄外)

ay

「月」 inčä qaltï tün ülüšintä ay-ta ulatïlarnïng yaruq yoqïnta「譬如夜分無月等明」 B879; ay tängri「月（天）」 1041, 2784, 2784, B1456, B1459, B1565, B2119, B2122, ödrü yüüz yügärü közünür iki ay tängri-tä ulatïlar「便於現前見二月等」 B1456

a.-ta B879

a.-nïng H33V3

ay-

「述べる、表示する」 köngül aymaq「記心」 1451 ～ köngülin aymaq

a.-maqlï köngülin a.-maqlï 1447

aya

「掌」 aya qabšur-「合掌」 azuča ymä čökitip ägilip aya qabšur-up「或跪曲躬合掌」 H33V8

aya-

「尊ぶ」「敬う」 qamaγta aya-γuluq qamaγta yeg「最尊最勝」 420, altïnč aya-yu täginmäk uγrïnta säkiz türlüg gaurvadaram nomlarïγ「六由敬受八尊重法」 H32V45; yeg aya-γuluq「尊高」 anïng ät'özining yeg aya-γuluq ärdüki üzä「其體尊高」 410; aya- aγïrla-「恭敬する」 aya-yu aγïrla-yu uqïdu yörmišingiz kärgäk「恭敬解釋」 1693; aya-yu aγïrla-yu yükün-「敬禮する」 aya-yu aγïrla-yu yükünüp ol anday osuγluγ činkertü tözlüg baxšïqa abidarmakoš šasdïrïγ mn inčip sözläyin「敬禮如是如理師對法藏論我當說」 73, ögä tükädmiš boldï tngri burxanïng ädgülärin basa uqïdur aya-yu aγïrla-yu yükünmišin「已讚佛德次申敬禮」 1295

a.-γuluq 215, 420; yeg a.-γuluq 77, 81, 84, 127, 142, 144, 150, 154, 155, 163, 166, 169, 173, 196, 222, 410, 412, 428, 440, 529

a.-masar a.-masar aγïrla-masar H33V9

a.-mïšïn 451

a.-sar H35R7

a.-yu a.-yu aγïrla-yu 1693, 2035; a.-yu aγïrlayu yükün- 73, 145, 191, 449, 453, 473, 1295, 1299, 1300, 1302, 1315, 1321, 1334, 1542

ayaγ

aγïr ayaγ「恭敬」 qaltï azlanïp qayu näčä yeg adruq orunqa üküš ädkä tavarqa aγïr-qa ayaγ-qa atqa küükä täginmiš tutmïš arïγ čxšapt ärür「謂貪諸有勝位多財恭敬稱譽受持淨戒」 H35V10; ïnanmaq üzä aγïr ayaγ qïl-「歸敬する」 189, 204, 206, 211, 253, 352, 358 ～ aγïr ayaγ qïl- 213, ïnanmaq üzä aγïr ayaγ qïl-maqlïγ šlok「歸敬頌」 358, bu tïldayïn ögä küläyü ädgülärin ïnanmaq üzä aγïr ayaγ qïl-mïš ärür 189; ayaγ-qa tägimlig「尊」「尊者」 ayaγ-qa tägimlig vasubandu bxšï 293, ayaγ-qa tägimlig sanggabadre baxšï ayaγ-qa tägimlig vasumidre 2108, ayaγ-qa tägimlig šaripudre arxant 2117, ayaγ-qa tägimlig anant 4219

a.-qa tägimlig 4, 21, 293, 919, 1805, 1987, 2034, 2107, 2108, 2111, 2113, 2115, 2117, 2126, 2128, 2138, 2143, 2144, 2200, 2740, 3111, 3178, 3182, 3376, 3665, 4047, 4077, 4109, 4163, 4219, 4448, 4481, B36, B663, B833, B1003, B1107, B1162, B1316, B1835, B1839, B1841, B1854, B1875, H25R42, H27R30, etc.

ayan-

「敬う」 köngülin ayan-maq üzä 1336; kertgün-mäk ayan-maqïγ ～ kertgünč ayan-maqïγ「信仰（を）」 233

ayančang

aγïr ayančang「敬重」 111, 130, 135, 159, 170, 174, nädägin tngri burxanta šastrta tuγurur ol aγïr ayančang-ïγ 85; aγïr ayančang köngül「敬重心」 83, 91, 119, 121, 148, 152, 163, 197, 224, 229, šasdrta aγïr ayančang köngül-üg tuγurmaqnïng bar qayu asïγï tususï 119, aγïr-nï ayančang bolmaq-ïn 1337

a.-ïγ aγïr a.-ïγ 85, 103, 106, 166

a.-lïγ aγïr a.-lïγ 126, 1319, 1337

a.-lïγïn aγïr a.-lïγïn 1333

ayčuq

「月」(-čuq は指小表現) yuy kušnung ayčuq atlγ tilgän-i 「孔雀輪」 bir yalnguz yuy kušnung ayčuq atlγ tilgän-indäki alqu türlüg tïldaγlïγ bälgüsi 「於一孔雀輪一切種因相」 936

ayïγ

「惡」「不善」 B212, B590, B606, B629, B861, B865, B2187, B2187, B2193, B2197, H27R35, H29V56, H31R54, etc. qaltï ädgü ayïγ yarlïγsïz köngültä yoγun saqïnčlïγ yinčgä saqïnčlïγ dyanta ulatïlarta 「謂善不善無記心中。有尋有伺三摩地等」 H25R55; ayïγ qïlïnč 「惡業」 179; ayïγ körüm 「惡見」 1126, H40R7; ayïγ yorïq 「惡行」 1292; ayïγ ögli 「邪智」 1293; ayïγ nom 「惡法」「不善法」 1564, B627, B633; ayïγ yol 「惡趣」 3848 ～ ayïγ ažun B590, B606, B640, B720, B727, B734, B744, bu pardakčan tözi ulatï ayïγ ažun-uγ tardtačï ät'öztäki tiltäki qïlïnčta ulatïlar 「異生性及招惡趣身語業等」 B590

a.-ï H29V42

a.-ïγ H29R6, H32R66

a.-larïγ 1561, H31R13

a.-lartïn H31R31

ayïnč

qorqïnč ayïnč 「怖畏」 115, ang'ilki qorqïnč ayïnč üzäki čxšapt 「一怖畏戒」 H35V6

ayït-

「問う」 ayaγqa tägimlig modgalayane arxant körüp käntü özining ölmiš anasïn bilmädin tuγmïš orunïn barïp ayït-tï adï ködrülmiškä 「目連觀其母不知生處往問佛」 920; sezik ayït- 「問う」「詰問する」 uqïtmaq tïltayïnta alqu qïlïnčlarïγ tägimlig ol yänä sezik ayït-u sözlägäli 「因辯諸業應復問言」 H34V28; sezik turγurup ayït-「疑いを起こして問う」「起問する」; ötün- ayït- 「請問する」 bošuyur män säning ödün-güngin ayïd-γungïn 「恣汝請問」 1676, burxan adï ködrülmiš bošumïš üčün xormuzta tngritä ulatïlarnïng nä ymä ödün-güsin ayïd-γusïn 「以佛世尊恣天帝等所請問故」 1674; taqï nä ayïtmïš kärgäk 「況(いわんや)」 4409, taqï nä ayïtmïš krgäk yrlïγsïz qïnmaq üzä tuγurulmïš uqïtur qïlïnčïγ 「況無記思所發表業」 H32V1

a.-alïm 2416

a.-dačï H27R50

a.-dï 2510, 2513, 3467, H37R61; a.-tï 920

a.-γalï 1140, 1988, H37R67; sezik a.-γalï 3087

a.-γungïn ötün-güngin a.-γungïn 1676

a.-γusïn ötün-güsin a.-γusïn 1674, 1677, 1679, 1680

a.-ïp sezik a.-ïp 1983

a.-maqlïγ B763

a.-mïš 183, 216, 4396, 4409, H32V1; sezik a.-mïš 853

a.-tuqta 2285; a.-duqta 895, 2518, 3161, 3165, 3167, 3169; sezik a.-tuqta 1359; sezik turγurup a.-duqta 3872

a.-u sezik a.-u 1969, 2088, 2105, 2120, 2646, 2654, 2671, 2757, 3078, B1175, B1358, B1497, B1708, B2057, H34V28; sezik turγurup a.-u 3559, 3691

a.-ur 3708, sezik a.-ur 4215, 1548

ayman-

qorq- ayman- 「恐怖する」 bular ikigü tïdïγ qïlmaq üzä ünmäk öngi üdrülmäkkä qorq-mïš ayman-mïš üčün 1338

a.-madïn qorq-madïn a.-madïn 1136

a.-mïš qorq-mïš a.-mïš 1138

aytïγ

「質問」 bešinč uzanïp yaraši kikinč bermäk uγrïnta qayu aytïγ-qa qaltï sodayi šarmirenïng ärür 「五由善巧酬答所問。謂蘇陀夷」 H32V44, braman sön umaγay sän bilgäli qayu aydïγ-ïngnïng učïn qïdïγïn 3172

az

「貪」「愛」 114, 783, 882, 1122, 1132, 1157, 1500, 1501, 4371, B913, H27R45, H27R58, etc. anïn tägimlig ol qadnayu sözlägäli az-ta ulatïlarïγ biligsiz sezik ödrü andaγ ärmäz ol az-ta ulatïlar alqu türlüg bolur 「故應重說貪等癡疑則不如是以彼貪等有一切種」 4556, qaltï az övkä küvänč qamaγlïγsïz biligsiz sezik birlä tuγmïš bilgä biliglär ärür 「謂貪瞋慢不共無明疑俱生慧」 B913; män az 「我愛」 2806; az qošuγ 「貪結」「愛結」 1156, 4235, qayu vasduta az qošuγ-qa qošulγuluq bolsar「若於此事愛結所繫」 4235; amranmaq az 「欲貪」 4431, kimlär usar köztä taγaγalï amranmaq az-ïγ「若能於眼斷欲貪者」 B691; az amranmaq 「貪欲」 4496

a.-ïγ 2868, 801; amranmaq a.-ïγ B691; män a.-γ 1131

a.-lïγlar H37V20

a.-nïng 3359, H27R58, H27R62

a.-qa 1134, 3362, H39R63; män a.-qa 2798

a.-ta 754, 769, 799, 1609, 1387, 4340, 4342, 4556, 4556, B58, B165, H35R57

a.-tïn H27V37; amranmaq a.-tïn B630

a.-sïz H39R43, H39R62

az

「少ない」 2823, 3068, 3081, B101, B203, B214, B238, B843, H25R45, H25R54, tayandačï töz bolmaqï azu ymä üküš azu ymä az bolur 「爲能依性或多或少」 B101; 「且く」 2579, 2779, 2895, 3198, 3309, H29R13, az turzun bu savlar 「且止斯事」 3198; üküš az 「多少」 3449, B210, adïn sanïnïng üküš-i az-ï anïng eyin yaraγïnča bolur 「餘數多少隨其所應」 H30V3; az ülüš-i「少分」 az ülüš-i ymä qayu ol 「少分者何」 H29R32

a.-ï 3073, 3391, H25R46; üküš-i a.-ï H30V3, H36V5

a.-ïn 2566, 2566, H25R48

a.-nïng H25R63

a.-tïn H25V7

azaq

taš azaq nomluγ「外邪法（もてるもの）」 230, 375, 542, 1459, 2602, 3086, 3969, 4080, 4267, 4270, 4272, 4279, B1886, azu bu öz baxšï mu adïn baxšï mu ol taš azaq nomluγ alqu baxšïlar mu ol uz uzaγud baxšïta ulatïlar mu ol tep 375; tärs azaq nomluγ「邪惡法（もてるもの）」「外道」 4284, 4290, B1906, B2066; alqu tärs azaq nomluγ-lar 「諸外道」 B148; taš azaq nomluγ「外執」 H40R6

azït-

「誤る」

a.-ur 825, 827

azïttur-

azïttur- yangïldur- 「誤らせる」 kim tïnlγlarïγ azïdtur-maγalïr yangïldur-maγalïr üčün 3959

azlan-

azlan- atqan-「愛著する」 köngül biligi köz birlä azlan-mïš adqan-mïš üčün 3674; azlan- yapšïn- 「愛著する」 turmaq ärür tïnlγ-lar-qa azlanγuluq yapšïnγuluq orun SE26

azlantur-

azlantur- yapšïntur- 「愛執する」 adqanγuluq adqanγuta alquqa barča azlandur-ur yapšïndur-ur 1158

az-qya

「少々」「少ない」 181, 1579, 1965, 910, 2401, 2519, 3889, 3931, B1809, H25R61, H33V33, H36V10, bulduqmaz az-qya ärsär ymä nom bir basudčïtïn tuγdačï 「無有少法一緣所生」 3889; az-qya iš 「小事」 182

azu

「或は」「爲」 371, 374, 513, 655, 656, 727, 727, 1351, 1352, 1551, 1581, 2011, 2011, 2017, 2018, 2021, 2021, 2235, 2235, 2241, 2241, 2419, 2419, 3373, 3709, 3710, 3768, 3954, 3954, 4308, 4387,

4449, B49, B101, B1089, B1089, B1201, B1421, B1422, B1429, B1429, B1430, B1442, B1479, B1479, B1498, B1727, B1727, B1876, B1877, B2228, H27R20, H27V55, H29R18, H29R19, H30R60, H30R64, H34V57, etc.; yükmäk tigirt birlä birlä bolup azu tigirt yükmäk birlä bolur üčün anïn adï bolmïš ol tigirtlig tep 蘊與諍俱或諍蘊俱而得生起故名有諍」 4450, azu ymä iki köz birgärü bilmiš ödtä körür üčün önglärig bäkiz bälgülüg 「或二眼俱時見色分明故」 B1442, munta amranmaq tegüči sav üzä azu sözläyür-sizlär qayu nomuγ 「此中欲言爲説何法」 H27R20, tözlüg tep azu uqïtunung maxabutlartïn mu bolmïš ol azu öngitin mü bolmïš ol 「爲表大種造爲有異耶」 H29R18,19

azu-

「減少する」「小さくなる」 birök sözläsärsizlär köztä yruq yašuq azu-mïš üčün tiläp uluγ yruq yaldïrïqnïng basutlamaqïn temin ök körür tep 「若謂眼中火明小故求大光明助方見者」 B1535

a.-mïš B1465, B1535

a.-mïšlarnïng 179

azuča

「或は」 114, 114, 115, 115, 168, 176, 205, 291, 309, 325, 328, 334, 380, 427, 440, 526, 593, 594, 595, 595, 726, 726, 777, 786, 798, 867, 958, 1128, 1134, 1141, 1149, 1153, 1162, 1180, 1222, 1228, 1232, 1274, 1277, 1283, 1328, 1329, 1345, 1475, 1485, 1492, 1510, 1527, 1537, 1669, 1754, 1757, 1817, 1841, 1843, 1851, 1853, 1862, 1863, 1865, 1913, 1942, 1945, 1965, 1972, 1990, 2013, 2013, 2024, 2133, 2134, 2141, 2142, 2356, 2358, 2604, 2731, 2770, 2817, 2868, 2868, 2869, 3002, 3057, 3082, 3142, 3180, 3220, 3222, 3265, 3272, 3619, 3750, 3799, 3801, 3813, 3834, 3840, 3841, 3842, 3857, 3913, 3915, 3950, 3951, 3969, 3781, 3966, 3984, 4060, 4061, 4124, 4190, 4325, 4327, 4335, 4337, 4344, 4402, 4565, 4569, 4573, B59, B159, B203, B203, B213, B214, B297, B306, B307, B324, B452, B486, B494, B498, B503, B510, B511, B526, B724, B790, B904, B1234, B1436, B1437, B1460, B1480, B1493, B1493, B1497, B1545, B1903, B1905, B1978, B1996, B1997, B2016, B2016, B2022, B2023, B2229, B2230, B2230, B2235, B2238, B2242, B2242, B2249, B2279, B2280, B2283, B2414, B2415, B2421, H25R29, H25R31, H25R45, etc. anda sav tözlügi azuča ymä ad tözlügi ärsär munda öngli qïlïnčlï yükmäklärtä udulur 「彼體語或名此色行蘊攝」 1757, azuča ymä alqu nomlarta yindäm bululur bilmätin öčmäk 「或於諸法唯非擇滅」 3813, qayu nom tarïqmadïn bulu tükädsär tuγmaqsïzïγ azuča ymä tükällig bolmasar 「若法未斷已得不生或不成就」 B724, qayu näčä bar ärsär öng tuγurdačï bädütdäči yüüz yügärü azïγ azuča ymä övkäg azuča ymä biligsizig 「諸所有色生長現貪或瞋或癡」 2868, 2869, kengürü yrlïqamïš ol uladï azuča ymä ïraq(-taqïγ) azuča ymä yaqïntaqïγ 「廣説乃至或遠或近」 B1493, azuča ymä iši kütüki keng üčün atamïš ol ärksinmä basutčï tep 「或所作廣名增上緣」 H26V34

azuqï

azuqï sav「傍論」 azuqï sav-lar ärtä tukädi yänä tägimlig ol uqïtγalï öngdünki uqïtur uqïtmaznïng bälgüsin 「傍論已了復應辯前表無表相」 H30R6, azuqï sav-lar az turzun 2579

azut-

ägsüt- azut-「缺略させる」 vasubandu baxšï bu bilmätin öčmäkning yörügindä bar qïlmïš ärür ägsüd-mäk azud-maqïγ 3667

a.-maq-ï ägaüt-mäk a.-maqï 3685

a.-maq-ïγ ägsüt-mäk a.-maqïn 3667

a.-mïš ägsüt-miš a.-mïš 3689, 3691

ažun

「趣」「生」 877, 933, 4290, 4294, 4290, 4294, H27V62; beš ažun 「五趣」 38, H28R1; tngri až-un 「天趣」; ayïγ ažun 「惡趣」 pardakčan

tözi ulatï ayïγ ažun-uγ tardtačï ät'öztäki tiltäki qïlïnčta ulatïlar 「異生性及招惡趣身語業等」 B590, kertüsin körmišlär ärṣär ayïγ ažun-taqï nomlarnïng qamaγ basudčïsï ägsük üčün 「見聖諦者諸惡趣法衆緣闕故」 B720; bu ažun ken ažun 「此生後生」 4290, öngrä ažun 「前生」 1394; öngräki ažun-taqï tïltaγ 「宿因」 adï ködrülmiš nomladuqta öngräki ažun-taqï tïldaγ-ïn 「世尊爲說宿因」 2502

a.-ï 1724

a.-lar 40, H27V45, H27V47, H27V50, H27V53

a.-larïγ 2065

a.-larnïng H27V61

a.-larta 38, 1179, 1723, 1732, 1733, 2065, 2066

a.-ta 3848, H27V56

a.-taqï 1394, 1495, 2502, B720, H39R26

a.-taqïlarnïng H27V64

a.-uγ B590, B606, B640, B727, B734, B744

Ä

äd

「物」「事」「體」 2626, 2799, 4100, 4101, 4369, 4371, 4530, B622, B1087; tägmädük äd-lig körkdäš-i 「不至物像」 B1628, baγ boldačï äd-i eyin öngin 々 adïrïlur 「隨繫事各別」 3553, köngül köngültäki nomlarnïng qaltï atqaγïnta orunï äd-i kšanï üčägüsi barča adïrtlïγ odγuraq bolmïš täg 「心心所法如於所緣處事剎那三皆決定」 H26V16, kirsiz äd 「不染事」 B622, diravi äd 「實體」 「實物」 B1739, B1742; äd tavar 「財」 4369, 4371

äd.-i 3213, 3369, 3371, 3398, 3553, H26V16

äd.-ig 686, 3524, 3544

äd.-ining 3370, 3390, 3395, 3406, 3465, 3525

äd.-lär 827, 2630, 3350, 3392, 4530, 4536, 4569

äd.-lärig 828, B1632, B1760

äd.-lärkä 4479, B1544

äd.-lärtäki 3351

äd.-lig B1628, B1739, B1742, B1772, B1857, B1862, B1864, B1871, B2155

äd.-siz 「無事」 äd.-siz-i 3104

ädgü

「德」「善」「善哉」 179, 990, 1203, 1265, 1289, 1291, 1410, 1560, 1564, 1839, 840, 1854, 2258, 2724, 2733, 2734, 3556, 3563, 3564, 3572, 3574, 3579, 4360, 4372, 4422, 4435, 4438, 4452, 4454, 4456, B91, B94, B211, B212, B581, B631, B635, B636, B860, B865, B907, B918, B919, B922, B925, B929, B930, B2186, B2188, B2193, B2197, H25R55, H27V58, H28R40, H29V49, etc.; birök tükällig ärsär tört türlüg ädgü-lärkä bulur arïγ süzük tegüči adïγ 「若具四德得清淨名」 H35R51, ät'öz üzä yïγïnmaq ädgü ärür ädgü ärür til üzä yïγïnmaq köngül üzä yïγïnmaq ädgü ärür ädgü ärür tolptïn yïγïnmaq 「身律儀善哉 善哉語律儀 意律儀善哉 善哉遍律儀」 H31V3,4; bilgä biliglig ädgü-si 「智德」 469, taryarmaqlïγ ädgü-si 「斷德」 737, körkädmäklig ädgü-si 「色身德」 471, čoγluγ yalïnlïγ ädgü 「威德」 1486 ～ čoγ yalïn ädgü ädräm H28V46, asïγ qïlmaqlïγ ädgü-si 「利德」 87, 88, 447, etc. qamaγ ädgü-lüg taγ 「衆德山」 10, buyan ädgü qïlïnčï 「福德業」 179, ädgü-lüg ögrünč 「德喜」（人名） 3377, ädgü-lüg yïldïz-ï 「善根」 178, ädgü äränlär 「善男子」 1203, ädgü ögli 「善友」 2733, ädgü bilgä bilig 「善慧」 B919, ädgü aqïγsïz 「善無漏」 3579, ädgü aqïγlïγ 「善有漏」 B907

ä.-g 730, 1266

ä.-kä 1479, 1518

ä.-lär 448, 490

ä.-lärі 56, 93, 535, 657, 658, 734, 782, 785, 892, 1085, 1386, 1412, 1511, 1584, B635

ä.-lärig 472, 478, 489, 892

ä.-lärin 88, 91, 131, 133, 140, 145, 159, 188, 190, 204, 218, 241, 253, 422, 451, 453, 779, 818, 820, 900, 1024, 1032, 1294, 1296, 1296, 1298, 1299, 1368, 1391

ä.-lärindä 138, 1351, 1352, 1353, 1355, 1357, 1358

ä.-lärining 89, 126, 142, 155, 165, 221

ä.-lärkä 87, 117, 353, 359, 377, 420, 505, 819, 1030, 1304, 1465, 1467

ä.-lärning 1487

ä.-li B91

ä.-lüg 10, 178, 180, 186, 907, 910, 1244, 3377, B631

ä.-si 454, 567, 568, 580, 735, 737, 738, 743, 744, 748, 752, 753, 809, 810, 813, 816, 1357, 1486, 1486, 1486, 1512, 3572, H26R8, H28V46, H33R31

ä.-sin 137, 445, 447, 807, 808, 811, 814, 816, 1076, 1087, 1091, 1092, 1362, 1514, 1515, 1517, 1521, 1522, 1524, H26R6

ä.-sindä 580, 811

ä.-sining 128, 469, 470, 471, 1022, 1028, 1031, 1066, 1089, 1101, 1309

ä.-tä 864, 1614, B2144

ädgü-ti

「良く」 2575, 2576

ädräm

「徳」「功能」 2050, birök ädräm tuda 「若就功能」 B1501, olarnïng qayu täginmišining uyurïnda bolmaz üčün ädräm birtämläti ozyuryuluq alqu ayïylartïn bolmaqta tayanmaq yapsïnmaqtïn 「由彼所受無有功能永脱諸惡依著有故」 H31R31; körmäklig ädräm-i 「見功能」 B1182; uzanmaq ädräm 「技能」 969

ä.-i 1423, 2075, 2564, 2698, B277, B413, B940, B995, B1182, B1988, H28V46

ä.-in H26R7

ä.-ining 1497

ä.-lärï 1386

ä.-lärin 1032, 1391

ä.-lig 44, 186

ägri

「不正な」 olar ät'özin tilin köngülin ägri kkir čöp qïlïnčlarïy qïlmïš üčün tamuta täginürlär beš yükmäklig öngi bïšmaqïy 「彼身語意曲穢濁故於奈落迦中受五蘊異熟」(曲) H28R26

ä.-sin 2014

ägsük

「缺」「闕」 961, 1001, 1256, 1261, 1269, 1273, 1946, 3480, 3602, 3616, 3617, 3620, 3628, 3648, 3658, 3660, 3662, 3662, 3663, 3664, 3678, 3683, 3700, 3728, 3729, 3732, 3735, 3735, 3738, 3746, 3750, 3752, 3755, 3763, 3816, B721, B1117, B1130, B1134, B1203, B1464, B2223, H25V21, H33V17, adïn basutčïsï ägsük üčün kenki bilig tuymaz 「餘縁闕故後識不生」 H26R32, tïldayï ägsük ärsär qudqa tägmäzlär 「縁闕不得果」 1273, nomlarnïng qamay basudčïsï ägsük üčün 「法衆縁闕故」 B721; ägsük kärgäk 「闕」「缺略」 961

ä.-i 104

ä.-lär 1264

ä.-süz 3035

ägsüt-

「缺ける」 cf. azut-

ä.-mäk 3667, 3685

ä.-miš 3682, 3689, 3690

äm

äm yöründäk 「治療」 1432

ämgäk

「苦」 775, 1186, 1482, 1846, 1877, 3270, 3270, 3408, 3538, 3948, 4157, 4305, 4466, 4473, 4475, 4478, 4478, 4482, 4492, 4490, 4494, 4494, 4495, 4497, 4497, 4498, 4499, 4499, 4500, 4501, 4501, 4505, 4506, 4507, 4571, 4574, B602, B2109, B2136, H28V31, H36R2, etc. ämgäk-lig tüš 「苦果」 285, ämgäk-lig yorïq 「苦行」 334, ämgäk-tä nom bilgä bilig taplay 「苦法智忍」 650, H26R13, ämgäk-tä nom taplay 「苦法忍」 B776, ämgäk kertü 「苦諦」 3270, H36R4, ämgäk tergin yertinčü 「苦集世間」 4157, qïlïnč ämgäk 「業苦」 4492, ämgäk täginmäk 「苦受」 B2136, H36R30, ämgäk körmäk üzä taryaryuluq 「見苦所斷」 3408

ä.-i B30

ä.-ig 2049, 3267, 3274, 3402, 3447, 4467, 4492, 4509, H38R15
ä.-ili B795
ä.-kä 1183, 4516
ä.-lär B1988, H36R5
ä.-lärig 1263, 2492
ä.-lärtin 1566
ä.-li 1878, 3524, 4486
ä.-lig 285, 286, 334, 4510, 4514, H39R29
ä.-ning 2059, 4484, 4484, 4491, 4515, 4519, 4573
ä.-tä 642, 650, 698, 1657, 3412, 3413, 3416, 3828, 3831, 4479, B32, B644, B649, B730, B776, B815, B817, B827, H36R16
ä.-tin 1543, 1562, H39R32

ämgäksin-
「困難になる」
ä.-ip 574

ämgän-
「苦しむ」 birök tapï bolsar čïnγaru tïnglayuluq tägimlig ärmäz ämgän-gäli sïqïlγalï 「欲審聽者遮其苦逼」 B1696
ä.-gäli B1696
ä.-ip qadïγlan-ïp ä.-ip 「勤苦して」 406
ä.-mäkig qadïγlan-maq ä.-mäkig 「劬勞を」 3717

ämgät-
「損ずる」; qurultur- ämgät- 「損害する」 quruldur-ur ämgäd-ür üčün özli adïnlïγ 「損害自他故」 4422
ä.-gäli 1422
ä.-mäk qurultur-maq ä.-mäk 4429
ä.-mäktä qurultur-maq ä.-mäktä 4432, 4433
ä.-täči 775; örlädtäči ä.-täči 「損惱」 B2132
ä.-ür qurultur-ur ä.-ür 4422, 4427, 4430

ämitmäk
「傾」 yörügining bolmaz ämidmäk-i täpinmäk-i 「理無傾動」 B1551

ämlä-
「治す」 ödrü ol ät'öz-tä ök bolup igig ämlä-gülük tïldaγ 1432

änätkäkčä
「インド語」 2901, änätkäk-čä punïndaqï yangča ärsär 「准梵本」(梵) 3039

ängin
「肩」 qaltï aγïr yük yüdmišlig ančaqya ängin-tä ulatïlarïn tägšürmiš täg 「如荷重擔暫易肩等」 H37R13

ängit-
「曲げる」 čökit-ip ängit-ip 「跪曲」 H33V8; ängitmäk 「禮」 450; ängit-mäk töngit-mäk 「お辭儀、低屈」 1327, 1330, 1331, tiltäki qïlïnč üzä ängid-mäk töngid-mäk yenik ärür 「口業低屈者輕」 1330

är
「男、士」 är iš-i 「士用」 H34R6,27, H34R39, är iš-i tüš-i 「士用果」 4365; är-kä tayaqlïγ temištäki nïng samaz 「依士釋」 564, 4356, 4394

är-
「・・である」
ä.-di 801, 2626, B631, B636, B798, B1053, B1237, B1476, B1744, B2003, B2115
ä.-ding 2500
ä.-dingizlär 2369
ä.-düki 156, 273, 356, 370, 374, 410, 419, 426, 434, 506, 1119, 1464, 2588, 2597, 2669, 3000, 3013, 3017, 3029, 3337, 3341, B767, B810, B1118, B1965, B2360; ärtüki 66, 78, 81, 144, 360, 2598, 2936, 2953, 2979, 3484, 3533, 3583, 3855, 3891, 3927, 4391
ä.-dükig 490
ä.-dükin 127, 142, 154, 163, 166, 187, 196, 222, 378,

463, 501, 696, 1290, 2080, 2973, B288, B356, B614, B627, B627; ärtükin 84, 112, 819, 2084, 2947, 4254, 4478, 4555; ärdük-in B837, B2018, B2020

ä.-ip 104, 630, 686, 755, 928, 985, 1046, 1081, 1119, 1225, 1704, 1728, 1973, 1979, 2000, 2062, 2271, 2965, 3154, 3199, 3261, 3298, 3380, 3939, 4051, 4082, 4084, 4187, B21, B21, B756, B770, B955, B1071, B1081, B1102, B1426, B1821, B1844, B1846, B1922, B2091, B2123, B2124

ä.-mämiš 1082

ä.-mäsär 152, 368, 707, 2003, 2209, 2323, 2523, 3061, 3369, 3726, 3987, 4011, 4151, 4154, 4175, B146, B525, B604, B1020, B1145, B1676, B2142

ä.-mäz 33, 44, 68, 104, 256, 368, 493, 523, 535, 586, 642, 683, 684, 775, 776, 883, 928, 938, 1038, 1041, 1073, 1081, 1084, 1196, 1313, 1382, 1434, 1598, 1602, 1626, 1627, 1653, 1671, 1699, 1718, 1772, 1779, 1785, 1900, 1903, 1982, 1988, 1993, 2004, 2011, 2026, 2028, 2213, 2215, 2242, 2266, 2267, 2272, 2279, 2289, 2303, 2306, 2327, 2381, 2391, 2398, 2400, 2408, 2415, 2423, 2437, 2439, 2441, 2443, 2460, 2500, 2557, 2715, 2716, 2721, 2722, 2725, 2735, 2739, 2749, 2749, 2790, 2791, 2859, 2891, 2893, 2897, etc., B37, B46, B55, B67, B80, B87, B103, B105, B107, B122, B130, B135, B138, B144, B146, B165, B184, B187, B196, B199, B200, B204, B205, B207, B215, B219, B252, B319, B337, B352, B353, B425, B427, B455, B458, B535, B536, B541, B549, B551, B553, B566, B567, etc.

ä.-mäzi 506, 1245, 2387, 2857, 3897, 4108, B515, B942

ä.-mäzig B2004, B2008

ä.-mäzin 42, 243, 251, 372, 378, 2311, B154, B813

ä.-mäzindin 2212

ä.-mäzlär 1465

ä.-mäzli B1668

ä.-mäztä B2010

ä.-mäztin B652, B666, B669

ä.-miš 2946, 2951, B359

ä.-miši 1042

ä.-sär 45, 46, 48, 73, 81, 87, 89, 99, 104, 105, 110, 149, 150, 154, 156, 160, 168, 173, 215, 221, 234, 244, 245, 252, 265, 266, 309, 319, 325, 328, 346, 412, 424, 436, 446, 455, 468, 475, 506, 510, 524, 599, 614, 620, 621, 669, 671, 684, 685, 694, 715, 726, 769, 776, 812, 813, 813, 823, 827, 901, 932, 957, 961, 979, 1019, 1031, 1040, 1042, 1080, 1083, 1090, 1098, 1099, 1182, 1203, 1206, 1219, 1223, 1228, 1236, 1239, 1245, 1247, 1253, 1261, 1273, 1276, 1293, 1321, 1323, 1341, 1343, 1346, 1347, 1349, 1408, 1445, 1481, 1483, 1489, 1518, 1523, 1525, 1532, 1534, 1534, 1567, 1588, 1596, 1596, 1605, 1613, 1618, etc., B5, B24, B50, B53, B67, B70, B85, B104, B172, B174, B205, B211, B217, B223, B249, B258, B261, B267, B268, B268, B300, B301, B302, B311, B321, B340, B361, B382, B386, B388, B401, B402, B403, B405, B407, B410, B413, B416, B431, B447, B468, B472, B481, B482, B483, B488, B496, B516, B516, B522, B533, B534, B537, B542, B552, B560, B562, B564, B577, etc.

ä.-tükdä 3668, 3669

ä.-ür 22, 28, 48, 64, 65, 88, 90, 141, 148, 211, 220, 222, 223, 239, 244, 245, 252, 275, 286, 299, 309, 320, 326, 327, 329, 330, 347, 349, 361, 390, 400, 401, 412, 413, 430, 439, 452, 461, 476, 477, 479, 492, 496, 498, 499, 499, 520, 526, 552, 563, 566, 592, 605, 613, 619, 647, 674, 676, 678, 707, 708, 709, 711, 712, 714, 715, 716, 757, 773, 778, 797, 798, 922, 926, 927, 929, 929, 938, 956, 957, 967, 968, 976, 1041, 1044, 1084, 1096, 1100, 1103, 1106, 1115, 1134, 1135, 1142, 1156, 1163, 1175, 1193, 1209, 1220, 1229, 1265, 1288, 1292, 1322, 1323, 1367, 1411, 1414, 1418, 1418, 1420, 1423, 1429, 1450, 1461, 1463, etc., B13, B19, B32, B33, B53, B71, B93, B137, B141, B147, B151, B152, B185, B229, B232, B236, B273, B295, B303, B304, B305, B309, B323, B328, B333, B343, B357, B364, B374, B396, B402, B412, B421, B435, B441, B444, B446, B465, B481, B492, B497, B501, B516, B517, etc.

ä.-ürin 3743

ä.-ürlär 27, 399, 950

ärän

「男、人」 52, 3449; tüzün ärän-lär 「聖人」 3449, B769, B773; ädgü ärän-lär 「善男子」 1203; biligsiz ärän「愚夫」 H36R55, 59, biligsiz ärän-lär yangluqïnča atqanurlar bu uyur tuyuryalï mängig 「愚夫妄計此能生樂」 H37R9

ä.-lär B770, biligsiz ä.-lär H37R12

ä.-lärning 1203

ärdini

「寶」 yinčürü töpün yükünürmn nom ärtini-lig uluγ bilgä bilig-lig taluy ögüz-kä 10

ärig

öt ärig 「教授、教化」 1305, 1371, 1490, činkertü tädrüsüz öd ärig berip 「如實無倒教授」 1305

ä.-i öt-i ärig-i 239

ä.-ingä öt-ingä ärig-ingä 350

äriglä-

「教える」 ötlä- äriglä-「教える、教化する、教授する、教誡する」 ötlä-däči äriglä-däči üčün bošγudčï tïdsïlarïγ anïn adamïš ol bolur šasdr tep「教誡學徒故稱爲論」 1558, tngri burxan ödlä-miš äriglä-miš üčün tayanïnglar nomqa tayanmanglar kiškä tep 「佛教依法不依人故」 1989; yindäm ödlä-mäk äriglä-mäk üzäki tilgän 「教誡輪、說法輪」; ötlä- äriglä- ozyur- qutyar- 「化度」 ülgüläncsiz učsuz qïdïγsïz burxanlar ünüp bälgürüp yertinčütä biri biri ötlä-p äriglä-p ozyur-up qutyar-ïp sansïz saqïssïz tïnlγlarïγ 「無量無邊佛出於世一一化度無數有情」 H27V18

ä.-däči ötlä-däči ä.-däči 302, 1306, 1306, 1372, 1490, 1546, 1558, 1565; ä.-mäk ötlä-mäk ä.-mäk 1384, 1449

ä.-mäklig ötlä-mäk ä.-mäklig 1562

ä.-miš ötlä-miš ä.-miš 100, 1277, 1989

ä.-p 1307, ötlä-p ä.-p 1389

ä.-yür ötlä-yür ä.-yür 303

ärinmäk

ärinmäk ärmägürmäk 「怠惰」 201

ärkän

「・・であるとき、・・であるので」 364, 988, 2361, 4397, 4503, män amtï äsän ärkän yerdinčütä sizlär manga tayaqlïγ ärür sizlär 「我在依於我」 2361; turur ärkän「このかた（來）」 ulatï qïlu turur ärkän alqu uqïtur qïlïnčlarïγ bärü turqaru tükällig bolur-lar közünür ödki uqïtur qïlïnč-qa 「乃至正作諸表業來恆成現表」 H32R26

ärkänki

「・・である、・・であった」 äsän ärkänki ötdä 「健在であった時に」 269, 270, 2134, 2158, 2341, qaltï birök tušmaz ärkänki ödtä ačmaq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüštä ulatï ämgäklär üzä sïqïlmaq tangïlmaqta 「謂若未遭飢渴寒熱疲欲等苦所逼迫時」 H37R5

ärkčä

ärkčä tapča 「自在」 528, B69, B70, B173, B175, B189; uzadï ärkčä tapča yorïyur 「常自在行」 B175

ärkı

（疑問の強調） ymä nägü ärki tep tesär 170, 177, 428, 441

ärklig

「根」 3633, 3635, 3641, 3643, 3670, 3692, 3752, 3924, B468, B472, B483, B909, B954, B957, B960, B976, B977, B980, B1177, B1188, B1196, B1229, B1449, B1514, B1519, B1525, B1570, B1571, B1603, B1623, B1642, B1705, B1718, B1720, B1723, B1913, B1924, B1924, B1925, B1960, B1963, B1970, B1971, B1978, B1980, B1981, B2030, B2032, B2042, B2049, B2049, B2050, B2050, B2052, B2062, B2084, B2105,

B2123, B2124, B2130, B2140, B2152, B2154, B2159, B2163, B2165, B2166, B2167, B2169, B2170, köz ärklig 「眼根」 3633, H28R8, ät'öz ärklig 「身根」 B1188, köngül ärklig 「意根」 B1229, qulγaq ärklig 「耳根」 B1571, burun ärklig 「鼻根」 B1578, til ärklig 「舌根」 B1959, mängi ärklig 「樂根」 H37V62, ögrünč ärklig 「喜根」 H37V62, ärklig-lär tägšilmiši eyin biliglär öngi bolur üčün 「隨根變識異」 B27; arklig qačïγ 「根」 ärklig-läri qačïγ-larï bïšmïšlar ärsär ašnuča ozγurur qudγarur 1242

ä.-i 3711, 3844, B1117, B1134, B1485

ä.-ig B408, B1010, B1576, B1981

ä.-ingä B2171

ä.-kä 3701, B2027, B2148, B2184, B2185, B2186, B2187, B2196

ä.-lär 2716, B27, B29, B33, B119, B365, B427, B910, B978, B1050, B1503, B1607, B1609, B1703, B1729, B1886, B1888, B1889, B1896, B1900, B1907, B1907, B1909, B1910, B2046, B2069, B2098, B2102, B2102, B2105, B2135, B2139, B2157, B2162, B2164, B2168, B2176, B2200

ä.-läri 1187, B1922, ä.-läri qčïγ-larï 1242

ä.-lärig B414, B1969, B1972, B2127

ä.-läringä ä.-läringä qčïγ-larïnga 1220, 1280, 1347

ä.-lärining 760

ä.-lärkä 35, B115, B373, B391, B441, B982, B983, B1691, B1975, B2026, B2361

ä.-lärning 1731, 2714, B23, B30, B372, B390, B419, B1500, B1640, B1901, B1920, B1953, B1992, B2019, B2096, B2100, B2194

ä.-lärtä B656, B834, B1638, B2149

ä.-lärtin B669

ä.-li B1974

ä.-lig 3441, 3854

ä.-ning 1665, B986, B1018, B1578, B1584, B1647, B1945, B1948, B1950, B1959, B1966, B1971, B2109

ä.-tä B976, B1602, B2127

ä.-tin B1513, B2143

ärksinmä

「能作」「增上」 ärksinmä tïlday 「能作因」 3587, 3589, H25R12, H26V26, ärksinmä atlγ basudčï 「增上緣」 3647, 3703, 3754, H25R11,16 ～ ärksinmä basutčï H26V27,29,31, ärksinmä tüš 「增上果」 4366

ärksinmäk

「自在」 565, 759, 772, ärksinmä bilgä biliglig küči 565

ä.-lig 1497

ä.-ligin 759

ärmägürmäk

ärinmäk ärmägürmäk-ig 「怠惰-」 202

ärt-

「過ぎる」「越える」「おわる」「謝する」「滅する」「經る」 azuča ymä ärd-ip ikin araqï sögüd arïγta ulatï önglärtä 「或越中間樹林等色」 B1545, üsdürdi bärü öngi sözlädačilärig uqïdïp ärt-di 「上辯異說竟」（竟） 2581, adïn öng ün yïd tadïγta ulatïlar ärd-är 「餘色聲香味觸等謝」 3625, bir ärt-mäklig ulatï bir tüšlügtä ulatï köngül köngültäki nomlarta 「一滅及一果等心心所」 B39, azuqï savlar ärt-ä tükädi 「傍論已了」（了） H30R6, čxšaptïγ išläšmiš üčün bir kün tün ärtginčä 「此戒要經一晝夜故」 H33V2; ärt- aš- 「超える、超越する」; ärt-miš (öd) 「過去（世、時）」; ärt- käč- 「過ぎ去る」; qarïš- ärt- 「違越」; ärt- bar- 「謝往」「過去」 ančulayu ymä uluγ baxšïnïng ärt-ä bar-u tükätmiš ärsär ymä 「如是大師雖已過去」 H35R7; ärt-mäk bälgü 「滅相」 SD8; arasïz ärt-miš 「無間滅」; tuγmaq turmaq kävmäk ärt-mäk 「生住異滅」

ä.-ä 1550, 1554, B463, B1232, B1675, H35R29

ä.-är 3075, 3625, 3638, 3640, 3759; ä.-är käč-är 685

ä.-däči 1852

ä.-di 1506, 1586, 2581, 2926, 4583

ä.-düktä 3696

ä.-gäli 124
ä.-ginčä H32R3, H33V26
ä.-ip B1545, B1564
ä.-mäk 3644; ä.-mäk aš-maq 412
ä.-mäk-i tuγmaq turmaq kävmäk ä.-i H26R52
ä.-mäklig B39, B109
ä.-miš 1024, 1299, H25V33; ä.-miš (öd) 333, 631, 682, 969, 3627, H25V33,46; arasïz ä.-miš 2038, 2062, 2064, 2426, B248, B260, B268, B272, B277, B302, B366, B1136, B1144, B1231, B1231, B1233, B1268, B2012, B2014, B2015, B2017, B2020, B2023, B2024, H26R26; ä.-miš aš-mïš 144; qarïš-mïš ä.-miš H29V24
ä.-mišin ä.-mišin aš-mïšïn 414, 422

ärtä
「極めて」「久しく」 ä.-ä ïraq 「極遠」 858, 888, 901, 916, 917, ä.-ä yinčgä 「極微細」 913, ün ärdä ök ärdä öčä tükädmiš bolur 「聲久已謝滅」 B1675

ärtingü
「甚だ」「極めて」 tudmaqïng mäning üč ayïlïq nomumïn ärdingü alp bulγuluq ärür 「持吾三藏甚爲難得」2429, anïng tatïγï ärtingü ädgü bolur「其味極美」 H35R19, anïng tatïγï ärtingü ačïγ bolur「其味極苦」 H35R21

ärtür-
「おえる」 ä.-ü tükät-「已に・・しおえる」 175, 1198, 2935, 3592, 4300
ä.-gäli SC9
ä.-mäk 3864

ärü
ärü ärü 「遂に」「轉じて」 907, 910, 911, 1127, 2498, 4514, 4515, B43, B44, B129, B1055, B1793, ärü ärü taplap ävtin barqtïn ündürüp 「遂許出家」 910, ärü ärü adï bolyu kärgäk ičdin sïngarqï 「轉應名內」 B129

äsän
「健在」 2134, 2341, 2361, män amtï äsän yertinčütä sizlär manga tayaqlïγ ärür sizlär 「我在依於我」 2361

äsängü
inčgü-g äsängü-g 「平安を」 1681

äsringü
「樣々の」 äsringü uγušluγ quš käyik 2489

ästiramati ～ istiramati
< Skt. sthiramati 「安慧」「悉地羅末提」（人名） äsdiramati 5, 6, 146, 225, 1325, 1811, 1892, 1993, 2233, 2280, 2233, 2384, 2394, 2414, 2433, 2438, 2446, 2462, 2507, 2516, 2525, 2533, 2547, 2559, 2572, 2757, 2948, 2967, 2991, 2998, ästiramati 3051, 3119, 3188, 3190, 3233, 3292, 3309, 3381, 3476, 3535, 3684, 3731, 3895, 4024, 4056, 4069, 4081, 4111, 4155, 4178, 4255, 4450, 4483, isdiramati 2791, 2820, 2834, 2875, 2914, B835, B1016, B1064, B1653

ästup
< Skt. stūpa 「窣堵波」 ang'ilki tapïnγu udunγu üčün ančulayu kälmišlarning sanvarïnga turγursar ästup öngrä turγurmaduq orunta 「一爲供養如來馱都建窣堵波於未曾處」 H35V42

äšid-～ ešid-
「聞く」 birök tägtükdä anïlayu oq äšid-sär tägmäk 「若至乃聞至」 B1590, inčip käntü özi umaqï üzä äšid-gäli qulγaqtaqï ünüg 「然自能聞耳中聲者」 B1690
ä.-gäli B1596, B1577, B1652, B1657, B1662, B1690
ä.-igmä 2505
ä.-ip 132, 862
ä.-mäktä 121, 1736, 1807, B994
ä.-mäsär B1664

ä.-miš 2183, 2528, 2532, 2534, B1647, B1674, B1686
ä.-mišingä 4096
ä.-sär B1588, B1591
ä.-särlär 230
ä.-täčilärkä 2666
ä.-täčilärning 4274
ä.-tüktä 195, 232, B1582
ä.-ü 2501
ä.-ür B1648

äšidil-
「聞かれる」 bu äšidil-gü kärgäk 「此聲應可聞」 B1660
ä.-mämiš B1665
ä.-miš B1676
ä.-ür 2106

äšidmäk
「聞」 201, 1689, 1698, 1704, 1707, 1711, 1738, 1743, 1763, 1788, 1789, 1810, 1976, 2015, 2180, 4038, B985, B1688, H27V6, ešid-mäk 1408, 1696, äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq üzä büdgülük ärip 「聞思修所成」 1704; äšidmäk tïnglamaq 「聽聞」 1254
ä.-mäktin 865

äšidtür-
「聞かせる」
ä.-üp 863

ät-
「爲す」 äd-mäk čïnkertü ärür ün näng bu čung ärmäz B1323
ä.-däči B1323, B1325
ä.-gü B1324
ä.-mäk B1323

ät'öz
「體」「身」 371, 836, 990,1034, 1128, 1142, 1143, 1418, 2741, B65, B194, B592, B1188, B1290, B1603, B1698, B1895, B1971, B1971, B1984, B1990, B1993, B2050, B2132, B2133, B2134, B2136, B2136, B2137, B2227, B2253, B2257, B2260, B2263, B2267, B2270, B2273, B2276, B2290, B2294, B2335, B2344, B2414, B2420, B2430, H31V3, H32R52, anïng ät'öz-ining yeg ayaγuluγ ärtüki üzä 「其體尊高」 77, ät'äz-täki til-täki qïlïnč 「身語業」 B591, H29R43; bar ät'öz körüm 「有身見」 2741, H34R3; ät'öz ärklig 「身根」 B1188
ä.-i 1186, 2491, B2395, H29V30
ä.-in 988, 1080, 2490, B2173, H28R26
ä.-indä 1432, H25V58
ä.-indäki 658, 695, 740, 1395, 1429, 1435, B870; ä.-intäki B867
ä.-ining 77, 143, 410, 411, 428, 990, H28V44
ä.-kä B2333, B2372, B2374, B2386, B2388, B2390, B2391, B2394, B2398, B2404, B2406, B2414; ät-öz-kä 1906
ä.-lärі 1053, 4292, 4293, H28V14
ä.-lärin 4478
ä.-li B2287, B2292
ä.-lüg H29V27
ä.-lügkä 1496
ä.-nüng H29V20
ä.-tä 1430, 1431, 1433, 1434, 1434, 2775, B2131, H25R39
ä.-täki 846, 992, 1018, 1315, 1324, 1328, 1331, 1335, 1436, B591, B606, B640, B727, B744, H29R43
ä.-üg 1417, 4436
ä.-ümtäki 896

äv
「家」 äv-tin (barq-tïn) ün-「出家する」 šaripudre arxantnïng yaqïnïnda tiläti küsädi äv-tin barq-tïn üngäli 「於舍利子邊求出家」 905; sarvaγ äv-lig 「宮殿」 B2118; äv-lig barq-lïγ vasdu 「宅事」 4252
ä.-ig B1760
ä.-lig 4251
ä.-liglärkä B2118

ä.-tin 464, 905, 906, 907, 908, 911, 2428

ävdi-
「集める」 ävdi- yïy- 「收集する」; udana ävdimäk 「自説」(Skt. udāna) 2334
ä.-mäk ä.-mäk yïγ-maq 2151, 2153, 2156
ä.-mäkig 2334
ä.-p 1949; ä.-p yïγ-ïp 2146, 2238

ävir-
「回す」「轉ずる」 bolur ävir-däči eyin ävir-däči tïltaγ 「爲轉隨轉因」 H29R40; ävr-ip bušï ber- 「廻施する」 1051, 1052, 1053, 1054, 1056, 1070, 1074, ävr-ip bušï ber-miš iki türlüg buyanlarnïng tüšin 「廻施二福德」 1070
ä.-miš 2164
ä.-ür 4432, 4433

ävril-
「轉ずる」 tašγaru uγurïn ävril-ür üčün 「外門轉故」 B671, ün ulalu ävril-ip kälip kirür üčün qulγaqqa 「聲相續轉來入耳故」 B1651, üčägütä angbašlayuqï ikigü aqïγsïz uγur üzä ävril-ür 「三中初二不淨相轉」 H39V2; ävril-mäk tägzin-mäk 「廻轉」 tayanmadïn ävril-mäk tägzin-mäk-kä 「不假廻轉」 B1583; ävril-mäk tägšil-mäk 「轉回」 B1238; aqïl- ävril- 「流轉する」
ä.-däči 1743, 2692, H31R25; ä.-täči B837
ä.-dükdä 3692
ä.-gülük B2105, B2116
ä.-ip B1651; aqïl-ïp ä.-p 2968
ä.-mäk 1107, 1107, 1111, 3998, B968, B1238, B1583, B1668, B2130, H30R41
ä.-mäki 38, H29V65
ä.-mäkig H39V5
ä.-mäklig B2135
ä.-mäkning aqïl-maq ä.-mäkning 4170
ä.-miši B0670
ä.-sär B2140
ä.-ü aqïl-u ä.-ü 4569
ä.-ür 1615, 1663, 3657, B31, B549, B671, B834, B849, B1183, B1890, B1911, B2098, B2102, B2130, B2139, B2162, B2184, B2190, B2191, H30V20, H39V2; aqïl-ur ä.-ür 4059, 4391

ävriš
「轉變」 sav ävriš-i 「轉聲」(vibhakti) säkiz türlüg sav ävriš-i vibaktilar 「八轉聲」 1941; itivridaka ävriš 「本事」(itivṛttaka) 2334
ä.-i 1941, 4572
ä.-ig 2334

äymänč
「恥」 uvut äymänč 「慚恥」 uvut-luγ äymänč-lig ärsar uqïtmazïγ täginmäkning küčintä qïlmazlar qamaγ ayïγlarïγ anïn atï bolmïš ol qïlmamaq tep 「有慚恥者受無表力不造衆惡故名不作」 H31R1

äzrua
< Sogd. 'zrw' (Skt. brahma) äzrua tngri 「梵天」 42, 1419, B2362; äzrua yertinčü-si 「梵世」 H27V42; äzrua quvraγ-ï 「梵衆」 H28V38, 55; uluγ äzrua 「大梵」 H28V40; äzrua-lar elig-i 「梵王」 H28V56; äzrua buyan-ï 「梵福」 H35V41

äzüg
「僞り」 äzüg sav 94, 113 ～ äzüg ärmäk sav 「虛誑語」 H33V58; äzüg čïn 「虛實」 äzüg igid 「虛僞」 1282
ä.-in B762, ä.-in čïn-ïn 134
ä.-süz 96

B

ba-
「縛る」「繋ぐ」 adïn munï adqandačïsï anïlayu oq ba-dačï bolur 「餘緣此猶繋」 3277; ba-dačï bay 「繋縛」 3216, 3244, 3286, 3288, alqu aqïγlïγ nomlarta ïraq öngi üdrülüp ba-dačï bay-ïndïn 「諸有漏法遠離繋縛」 3244; ölür-mäk ba-maq 「殺

縛」 birök sanvarta turmïšlar yeg adruq nizvanïlarnïng uyrïnta qïlsar ölür-mäk ba-maqta ulatï alqu ayïy qïlïnčlarïy 「若住律儀由勝煩惱作殺縛等諸不善業」 H32R9

b.-dačï 3274, 3277, 3398, B798, B802, H27R54

b.-dačïnïng 3140

b.-yalï H37V20

b.-maq H32R9

bačaq

bačaq 「近住」「齋」 H30V26, H33V17, upasï bačaq-ï šarmire toyïnnïngïnda ulatï tört türlüg sanvarlarïy nätäg ornatïp uqïtdï 「近事近住勤策芯芻四種律儀云何安立」 H30V23, birök tangda ertä tïdïy tïltay bolsar bačaq ärttüktä ymä ök bolur tägingäli 「若旦有礙緣齋竟亦得受」 H33V5; bačaq sanvar 「近住律儀」 H30R34, H30V37, H33R14, säkizinč bačaq sanvar ärür 「八近住律儀」 H30R30; bačaq čxšapt 「近住戒」 H33R6, inčip bačaq čxšapt-ïy yügärü baxšï utrusïnta iišläšip taryarïp täginmäkning küči uyrïnta 「然近住戒由現對師要期受力」 H33R47

b.-qa H31R28

badiravarga

< Skt. bhadra-varga 「賢部」

b.-ïy H32V52

badutluy

kizläglig badutluy 「隱密」 1592

b.-ïnga kizläglig b.-ïnga 296

bay

「繫」「縛」 3248, 3249, 3266, 3267, 3395, 3396, 3806; bay-tïn öngi üdrül- 「離繫」「離縛」 bilip öčmäk ärsär qaltï bay-tïn öngi üdrül-mäk ärür 「擇滅謂離繫」 3213, adqanyuluq vastuta ödrü bolur bay-tïn öngi üdrül-gäli 「於所緣事便得離繫」 B701, qavïrasïnča bolur iki türlüg ang'ilki bay-tïn öngi üdrül-mäk üzä taryarmaq 「略有二種一離縛斷」 B677; bay boldačï ädi 「繫事」 3213, 3369, 3370, 3390, 3395, 3405, 3464, 3553, nädäg'ol teptesär bay boldačï äd-i eyin adrïlur 「云何隨繫事別」 3369; badačï bay 「繫縛」 ～ bay čuy 3248, 3250, 3251, ïraq öngi üdrülüp badačï bay-ïndïn tanuqlap bulmïš qudrulmaqnïng adï bolur bilip öčmäk tep 「遠離繫縛證得解脫名爲擇滅」 3216; qošuy bay 「繫縛」「結縛」 3256

b.-ïndïn 3399; badačï b.-ïndïn 3216, 3244, 3286

b.-nïng 3263, 3264, B791

b.-tïn 3248; b.-tïn öngi üdrül- 2691, 2698, 2699, 3213, 3214, 3217, 3219, 3221, 3223, 3224, 3231, 3236, 3241, 3247, 3249, 3249, 3263, 3264, 3277, 3280, 3283, 3288, 3289, 3295, 3298, 3299, 3302, 3357, 3364, 3370, 3375, 3805, B677, B678, B701, B709, B731, B737, B740, B779, B792, H34R7,10,24, H34V11, H38R59; qošuy-tïn b.-tïn 3260

bayïïy

uyušluy bayïïy 「種姓の」 azuča ymä tïnlylar bolur üč türlüg qaltï širavak uyušluy bayïïy pradikabud uyušluy bayïïy ančulayu kälmiš uyušluy bayïïy 1284

bagavan

< Skt. bhagavan 「薄伽梵」 anïn adamïš ol adï ködrülmišig bagavan tep 534

bal-

「縛られる」 qošul- bal- 「繫縛される」 ol vastuta adamïš ol qošul-mïš bal-mïš tep 「名繫此事」 3254; bal- yapšïn- 「縛著される」 qayu nomta bal-sar yapšïn-sar 4503

b.-yuluq qošul-yuluq b.-yuluq 「所繫縛」 4217, 4234, 4237

b.-mamaq 3261

b.-maq 3261; qošul-maq b.-maq 3395; b.-maq yapšïn-maq 4505

b.-mïš qošul-mïš b.-mïš 3254, 3259

b.-sar b.-sar yapšïn-sar 4503

balïq

「町」「邑」 anday atlγ blïq-ta anday atlγ orunta 2282, bir balïq bir eltä bir bulung yïngaq alqu yertinčü-tä 「一邑一國一方一切世界」 H39R15

b.-qa 3982

b.-ta 2282

balïq

「魚」 2489, 2490, 2493, 2501, 2503, tuγup taluy ögüztä tägindi uluγ balïq ät'özin 「生於海中受大魚身」 2490

b.-čï 2493

b.-ïγ 2494, 2499

ban-

「束ねられる」「結ばれる」 nom ärsär qaltï iki ygrmi bölük savta ban-mïš nomlar ärür 1206

b.-a 「續けて」 52

b.-mïš 1206, 1207

baq-

kör- baq- 「觀見する」 kör-ü baq-a küyü küzädü tudzunlar mini 18

bar

「有る」 24, 46, 64, 80, 92, 119, 127, 131, 211, 215, 223, 237, 361, 391, 411, 430, 438, 507, 527, 538, 539, 540, 541, 598, 657, 710, 757, 812, 901, 904, 914, 923, 935, 946, 956, 1038, 1066, 1078, 1113, 1128, 1141, 1143, 1196, 1199, 1219, 1233, 1251, 1258, 1271, 1347, 1349, 1353, 1355, 1356, 1406, 1469, 1476, 1485, 1563, 1588, 1589, 1648, 1675, 1736, 1749, 1826, 1871, 1873, 1876, 1880, 1964, 1965, 1965, 1967, 1970, 1972, 1973, 1977, 1978, 1985, 1990, 2006, 2024, 2031, 2049, 2053, 2056, 2090, 2151, 2154, 2159, 2171, 2224, 2224, 2236, 2263, 2341, 2411, 2430, 2432, 2444, 2485, 2486, 2493, 2510, 2512, etc., B49, B65, B194, B217, B239, B247, B271, B438, B447, B472, B479, B534, B589, B592, B706, B725, B759, B783, B787, B904, B921, B927, B934, B948, B952, B993, B1013, B1047, B1096, B1107, B1137, B1152, B1161, B1162, B1239, B1279, B1283, B1284, B1290, B1299, B1381, etc., H25V58, H26V38, H27R9, etc. qaltï öngrä bar ärti kiši 「如昔有一人」 904, bar šlokta sözlämiš 「有頌言」 1078, mäning bar ärür täringdä täring abidarimïm ulatï vinayïm 「我有甚深阿毘達磨及毘奈耶」 1675, yügärü körülür užiklärining yörüglärining adïrtïnïng bar-ï 「現見文義有差別」 2392, qašïp tngri burxan ödintä bar ärti bir toyïn 「迦葉佛時有一苾芻」 2486, azu yänä munda yänä bar qayu adïrtï 「或復此中有何殊」 B49, tuyunmaq bilgä biligning kkiri tüdïγï bar yoq bolmïš täg üčün 「由自覺慧垢障有無故」 B904, ol uγušta öng bar ärmäz üčün atï bolmïš ol öngsüz tep 「於彼界中色非有故名爲無色」 H27R9; bar ät'öz körüm 「有身見」 B65, B194, H34R3,7 bar ät'öz körüm-tä ulatï nizvanïlarïγ 「有身見等諸煩惱」 2741; bar adïn 「有餘」 B1625, B1718, H31R4, bar adïn sezinü sözlädačilär 「有餘難言」 B1299; bar adïn baxšïlar 「有餘師」 220, 460, 678, 975, 1320, 1706, 1731, 1866, 1890, 2576, 2808, 2898, 2938, 3224, 4019, 4085, 4150, 4410, 4434, 4511, 4570, B1315, B1512, B2200, H28V10,63, H34V52, H36R39, bar adïn baxšïlar sözlär 「有餘師說」 B921

b.-ï 2340, 2349, 2392, 2663, B1101, B1568, H37R22, 25,27

b.-ïn 910, 1377, 1430, 1497, 2599, 3200, 3383, 3385, B1921, H28V4

b.-ïnta B884

b.-ïntïn 1364, 3173

bar-

「行く」「往く」「趣く」「謝する」 bar-ïp ayïttï adï ködrülmiškä 「往問佛」 920, uyur üčün tüdyalï qudrulmaqqa bar-maqïγ 「能障趣解脫故」 1151, burxanïng bïšrunup buyanlï bilgä biligtä bar-maqlarï ärsär tuyunmaqqa 「佛修福智趣菩提」 1083, qayu öritmiš ridi bögülänmäk üzä täk uyur bar-ïp

täggäli öz tuγγuluq uγušï ärzua yertinčüsingä adïnqa ärmäz 「所發神通但能往至自所生界梵世非餘」 H27V42; täpräp bar- 「發趣する」 azuča ymä küsämäz täpräp bar-γalï 「或不欲發趣」 1149; ärt- bar- 「謝往」「過去」 see ärt-

b.-dačï H28V5

b.-duqta ärt-ükdä b.-duqta 3668, 3696

b.-γalï 50, B1414; täpräp b.-γalï 1149

b.-γuluq H28R51,52

b.-ïp 350, 920, H27V42

b.-ïr 3203, 4294

b.-maq 3640

b.-maqïγ 1151

b.-maqïn 3136

b.-maqlarï 1083

b.-maqta 1981

b.-u ärt-ä bar-u H35R7

barča

「すべて」「皆」「一切」 56, 95, 206, 250, 288, 292, 385, 564, 617, 644, 658, 686, 710, 775, 794, 950, 987, 1045, 1158, 1230, 1246, 1281, 1399, 1402, 1511, 1663, 1801, 1871, 1974, 2196, 2202, 2205, 2206, 2247, 2306, 2385, 2414, 2474, 2549, 2663, 2702, 2725, 2727, 2756, 2835, 2836, 3131, 3143, 3180, 3230, 3317, 3351, 3418, 3546, 3725, 3740, etc., B168, B223, B277, B280, B309, B330, B335, B336, B362, B365, B426, B432, B457, B567, B571, B576, B743, B911, B915, B989, B1222, B1286, B1407, B1420, B1439, B1577, B1639, B1640, etc., H25R27, H26V17,26, H27V37, H28V39, etc. yerdinčütäkilär barča bilmäzlär 「世皆不了」 617, širavakta ulatïlarnïng bilgä biligi barča-nï bilmäz ögürmäz 「聲聞等智皆不了達」 940, anïn alqu köngülnüng barča-nïng atï bolur män tep 「故一切心皆名爲我」 B72, alqu köngüllär barča kkirlig bolγu kärgäk 「應一切心皆成染汚」 B159; alqu barča 「一切」「諸」「悉く」 638, 1040, 1775, 1797, 1871, 2571, B160, B912, B918, B920, B2035, B2363, alqu barča umaz üčün tüzü ördgäli tïdγalï 「一切不能遍覆障故」 3180, alqu barča yoγun saqïnčlïγ yinčgä saqïnčlïγ bolγu kärgäk 「一切應成有尋有伺」 B60, alqu barča-tïn öngi üdrülmäklig pirapdïγ ol ödtä turγurmïšqa 「諸離繫得爾時未起」 B714, alqu ördügsüz yrlïγsïz bilgä biligtä ulatïlar alqu barča körüm ärmäz 「一切無覆無記慧等悉皆非見」 B911

b.-larnïng B54

b.-nï 345, 409, 754, 940, 1236, 1282, 3425, 4122, B1588, H34V25

b.-nïng 591, 1260, 1601, 1795, 1847, 2706, 3109, 3739, 3942, 3945, 3976, 4146, 4153, B72, B142, B177, B711, B862

b.-qa 762, 2211

b.-ta B1201, B1204, B1439

b.-tïn B714

barïmlïγ

see bay

barïnča

「あるほどに」「すべて」 380; qayu barïnča 「所有ゆる」 1939, 2377, 3179, B1165, B2117, H36V61 ～ qayu barïča 56, qayu barïnča maxabudlar ulatï bolmïš önglüg quvraγ 「所有大種及造色聚」 3179, qaltï alqu qayu barïnča ton kädim aš ičgü soγïq isigtä ulatï savlarïγ 「謂諸所有衣服飲食冷煖等事」 H36V61

barq

äv barq 「家」 šaripudre arxantnïng yaqïnïnda tiläti küsädi äv-tin barq-tïn üngäli 「於舍利子邊求出家」 905, ärü ärü taplap äv-tin barq-tïn 「遂許出家」 911; äv-lig barq-lïγ vastu 「宅事」

b.-lïγ äv-lig b.-lïγ vastu 4252

b.-tïn äv-tin b.-tïn 905, 906, 907, 909, 911

bas-

「押さえる」 käv- bas- 「伏斷する」

b.-γalï käv-gäli b.-γalï 746

b.-ïp 311

basa

「次に」「更に」「無間に」(basa-sïnda) 36, 39, 55, 90, 145, 190, 246, 338, 448, 473, 503, 851, 861, 935, 1088, 1089, 1093, 1132, 1132, 1148, 1221, 1294, 1299, 1360, 1515, 1522, 1591, 1683, 1720, 1756, 1806, 1809, 2065, 2065, 2068, 2068, 2494, 2685, 2844, 2850, 2917, 3401, 3623, 3654, 3866, 3909, 4301, 4383, 4398, 4398, 4569, 4569, B27, B414, B422, B1002, B1170, B1175, B1833, H25V15, H33V45, H35R29, H39R6, H39R13,41, basa inčip ögär tngri burxanïng adïnqa asïγ qïlmaqlïγ ädgüsining büdügin「次當讚佛利他德圓」 1088, ögä tügädmiš boldï tngri burxanïng ädgülärin basa uqïdur ayayu ayïrlayu yükünmiš-n 「已讚佛德次申敬禮」 1294, azuča ymä basa-sïnda tuγar amranmaq uγuštaqï aqïγsïz iki uqïtmaz önglär 「或無間生欲界無漏二無表色」 H25R32, nätägin atï kötrülmišlär bilir kälmädük ödtä bu nomnung basa-sïnda bu nom turγu krgäk tep 「如何世尊知未來世此法無間此法應生」 H25V32; basa basa ögrätinmäkning küči「數習力」 basa basa ögrätinmäkning küči uγrïnta uyurlar baštïnqï ayïγ öglisintä turγuryalï mängi bermäklig küsüšüg baštïnqï ädgü öglisi birlä täng 「由數習力能於上怨起與樂願與上親等」 H39R9

b.-sïnda 3040, H25R32,61, H25V32,37, H26R12,15,18, H39R47

basaqï

「次にある」「次の」「類の」 1550, 2853, 2924, 3492, 3493, 3498, 3505, 3508, 3831, B303, H33V60, H38V11,14,18, H39R50, H39V15,51; basaqï bir padak üzä sözläyür 「次一句云」 3505, basaqï bor bägni ičmäktin öngi üdrülmäk uyur tityalï ög ittürmäkig 「次離飲酒能防失念」 H33V60, tördägününg atqanγusï basaqï bilgä bilig bölüklüg yol-lar 「四境類品道」 H39R50; yolta basaqï bilgä bilig 「道類智」 3831, H38V11,13,26,31

basïtïl-

「伏せられる」 körülür üčün kičig yruqnung uluγï üzä basïdïl-γuluq bolmïšï 「現見小明大所伏故」 B1538

basuruq

「押さえるもの」 uyur üčün basuruq bolup basïp kim birdämläti turγurmayalï 311

basut

yeviš basut 「助け」 adïn ediglig nomlar ymä ök uyur yeviš basud bolγalï 2705

basutčï

「緣」 48, 268, 268, 268, 269, 271, 1881, 3726, 3749, 3751, 3935, B763, B2116, H25R6,7,8,9, H25V26, etc. täk basudčï-sï ägsük bolmaq uγurïnda ärür 「但由閡緣」 3601, qamaγ basudčï-lar yïγïlïp terilip yumïdmaqïndïn bolmïš üčün bulduqmaz azqya ärsär ymä nom bir basudčï-tïn tuγdačï 「衆緣聚集共所作故無有少法一緣所生」 3888 ～ 3889; basutčï tïltaγ 「緣因」 58; tïltaγ basutčï 「因緣」 212, 1407, B281, H30R57 ～ tïltaγ atlïγ basutčï 3647, 3701, 3754, H25R8, adïrt öngi tïldaγ basudčï-larqa bolmaz üčün bulγalï 「差別因緣不可得故」 B162; atqaγ atlγ basutčï 「所緣緣」 1783, 3647, 3664, 3702, 3754, 3920, H25R10; ärksinmä atlγ basutčï 「增上緣」 3648, 3703, 3755, H25R11; tüz arasïz basutčï 「等無間緣」 3648, 3663, 3664, 3756, 3758, 3919, B2030, B2031, B2033, B2034, B2036, B2040, B2047, B2061, B2062

b.-γ 3725, H26R63

b.-lar 1407, 3704, 3705, 3707, 3759, 3888, 3909, 3913, 3914, 3934, B2094, B2104, B2132, B2206, B2213

b.-larï B2222

b.-larïγ B62, B2113, B2224, B2226

b.-larnïng H26V41, 61, tïltaγ b.-larnïng H30R57

b.-larqa 685, 3618, 3619; tïltaγ b.-larqa B162,

B2071, B2075, B2081, B2083
b.-larta 3646
b.-lartaqï 3190
b.-lartïn B1385, B2209
b.-lïγ 4239
b.-lïγïn 3661, B2087
b.-nïng 3743, 3743, 3744, H25R17, H26V28, tüz arasïz b.-nïng B254
b.-sï 3601, 3616, 3617, 3620, 3628, 3658, 3659, 3659, 3661, 3678, 3683, 3700, 3728, 3729, 3732, 3735, 3735, 3738, 3739, 3745, 3746, 3750, 3751, 3762, 3763, 3764, 3816, B721, H25V22, H26R32; tüz arasïz b.-sï 3663, 3664
b.-sïn 45
b.-sïz 3725, 3736, 3737, 4241
b.-tïn 3889, 3931, H25R23,35

basutla-
「助ける」 mn uγradïm kadyot qurtnung yaruqï kün tngrining yaruqïnga basudla-yurïnča 「我將螢燿助陽光」 14, tiläp uluγ yruq yaldïrïqnïng basutla-maqïn temin ök körür 「求大光明助方見」 B1535
b.-dačïsï 1801
b.-dačïsïn 1812
b.-maqïn B1533, B1535
b.-maqïnča 790
b.-maqlïγ 2763, B139
b.-yu 3520
b.-yurïnča 14

baš
「頭」「初め」 1981, anïng ät'özi keng uluγ säkiz ygrmi baš-lïγ 「其形甚大有十八頭」 2491, azuča yänä šasdrnïng baš-ïnda tngri burxanïγ ögmäkning 「或復論初讚（佛）」 176; baš bašlaγ 「上首」 B74, B178, B186, köngülüg baš bašlaγ qïlmaqï üzä 「意爲上首故」 B74
b.-da H40R14
b.-daqï 3334
b.-ïn 2496
b.-ïnda 153, 176, 204, 210, 214, 219, 234, 240, 421
b.-ïndaqï 4295
b.-lïγ 2491

bašla-
「始まる」
b.-dï 2583

bašlaγ
「初め」「始め」 798; baš bašlaγ 「上首」 B74, B178, B186; nidana bašlaγ 「緣起」（Skt. nidāna）; kalp bašlaγ-ï 「劫初」; bašlaγ-sïz 「無始」
b.-ïγ nidana b.-ïγ 2335
b.-ïnda kalp b.-ïnda H28V24,36,38
b.-ïndaqï kalp b.-ïndaqï 842
b.-lïγ H38V11
b.-sïz 1119
b.-sïztïn 1108

bašlayu
「初めて」 B1674; ang bašlayu 「最初に」 birök andaγ ärmäsär ang bašlayu turmïš ünüg äšidilmiš tuštaqïsï anïlayu oq turmaq üzä 「若不爾者初所起聲聞位猶存」 B1676

baštïn
「妙」 aqïγsïz tüš ärsär ymä ök bolur tört türlüg ymä ök öčmiš amïl bašdïn ünüš 1882

baštïnqï
「初めの」「最初の」「上の」 2, 4, 761, 2765, 2766, 3812, 3852, 3853, 4585, B595, B599, B1430, B1816, B2232, B2238, B2244, B2245, B2252, B2253, B2257, B2259, B2263, B2265, B2266, B2270, B2273, B2275, B2277, B2284, B2287, B2289, B2290, B2293, B2294, B2295, B2318, B2348, B2359, B2371, B2378, B2385, B2387, B2392, B2395, B2407, B2425, H26R55,56, H27V40, H28V23, H29R36, etc. andaγ yänä bašdïnqï dyanta turmïš 「若生初定」 B2277, bašdïnqï küün 「初卷」 4585, baštïnqï kšanta ken

ymä ök tükällig bolur ärtmiš ödkisingä 「初刹那後亦成過去」 H31V32, basa ortunqï bölüklügintä adaqdaqï ortunqï baštïnqï ayïγ öglisintä ymä ök ančan ančan käzigčä bïšrunurlar muntaγ osuγluγ taplaγïγ 「次於中品下中上怨亦漸次修如是勝解」 H39R7; baštïnqï-ta baštïnqï 「上々」 bašdïnqï-ta bašdïnqï bölüklüg nizvanïlarnïng yöründäkin 3852

b.-sï 2759

b.-sïn 2755

b.-ta b-ta b. 3851, 3852

bat-

「沈む」「沒する」 qltï körüp tïnlγlarnïng bat-mïšïn qamaγ ämgäklig taluγta 「謂觀有情沒衆苦海」 H39R29; čomrul- bat- 「沈溺する」 「淪沒」 ～ čom- bat- ol sansar ärür üčün alqu tïnlγlarqa čomrul-γuluq bad-γuluq orun 「由彼生死是諸衆生沈溺處」 1104, tïnlγlar anda čomrul-up bad-ïp umuγsuz ïnaγsïz bolmïšqa 「衆生於中淪沒無救」 1176

b.-arlar čomrul-urlar b.-arlar 1125

b.-γuluq čomrul-γuluq b.-γuluq 1104, 1114, 1118, 1121, 1126, 1131, 1135, 1142, 1145, 1154, 1157, 1163, 1165, 1172

b.-ïp čomrul-up b.-ïp 1129, 1176, 1176, 1178

b.-mïš čomrul-mïš b.-mïš 1212, 1215; čom-mïš b.-mïš 1483

b.-mïšïn H39R29

batïq-

「沈む」 anča anča oq badïq-urlar üčün 1118

bavagir ～ bavagar

< Skt. bhavāgra 「有頂」 üsdün bavagir-tïn aldïn aviš tamuqadägi 1178, yetmäz qamaγ tüzünlärning bavagar-taqï yükmäktäkisintä 「不如衆聖於有頂蘊」 H36R62

b.-taqï H36R62

b.-tïn 1178, 2066

baxšï

「師」 5, 21, 146, 185, 208, 225, 235, 238, 293, 298, 345, 346, 346, 347, 351, 356, 356, 357, 361, 362, 368, 368, 370, 372, 373, 374, 374, 374, 376, 378, 393, 410, 452, 494, 653, 766, 768, 795, 870, 973, 975, 980, 1046, 1086, 1308, 1308, 1325, 1332, 1340, 1343, 1351, 1360, 1361, 1367, 1368, 1372, 1459, 1466, 1503, 1516, 1519, 1805, 1811, 1849, 1892, 1993, 1994, 2023, 2031, 2109, 2115, 2129, 2139, 2143, 2179, 2198, 2200, 2223, 2233, 2270, 2276, 2280, 2287, 2304, 2319, 2342, 2351, 2373, 2382, 2385, 2388, 2395, 2410, 2414, 2426, 2433, 2436, 2438, 2444, 2446, 2448, 2462, 2507, 2510, 2516, 2525, 2533, 2534, 2540, 2547, 2551, 2559, 2568, 2572, 2729, 2741, 2757, 2769, 2791, 2820, 2827, 2834, 2840, 2876, 2910, 2914, 2948, 2967, 2985, 2991, 2995, 2998, 3031, 3032, 3051, 3112, 3114, 3119, 3178, 3183, 3183, 3188, 3190, 3233, 3293, 3309, 3377, 3381, 3463, 3471, 3476, 3476, 3520, 3535, 3554, 3666, 3666, 3681, 3684, 3691, 3727, 3731, 3895, 4011, 4024, 4047, 4056, 4070, 4078, 4081, 4109, 4111, 4123, 4155, 4163, 4178, 4255, 4276, 4434, 4448, 4450, 4483, 4538, B37, B590, B664, B749, B817, B833, B835, B1003, B1016, B1044, B1064, B1108, B1152, B1156, B1300, B1302, B1305, B1434, B1448, B1462, B1610, B1618, B1625, B1653, B1834, B1840, B1986, B2205, H25R38, H25R43, H25V10, etc. abidarmikelïγ alqu uluγ šastirakare baxšïlar 「阿毘達磨諸大論師」 B693, baxšï-lï tïdsï-lïnïng yörügi 「師子之義」 536; čïnkertü tözlüg baxšï 「如理師」 74, 1301, 1308, etc. čïnkertü tözlüg baxšï tegüči sav üzä uqïdur adïnqa asïγ qïlmaqlïγ ädgüsining tolusïn tükälin 「如理師言顯利他德（圓滿）」 1308; töz baxšï 「本師」 206, 213; bar adïn baxšï-lar 「有餘師」 220, 460, 678, etc.; otačï baxšï 「醫師」 1430; sankilïγ baxšï 「數論師」 1974; vaybašikelïγ baxšï 「毘婆沙師」 2131, 2148, 2570, 3177, H32V34, etc. vaybašikelïγ baxšï-lar terlär munday tep 「毘婆沙師傳說如此」 2150; sodurandikelïγ baxšï 「經

部師」 B974, B1171 ～ sodurandike nikaylïγ baxšï B1216, B1280, B1287, etc.; yogačarilïγ baxšï 「瑜伽師」 B1380
b.-γ 1583, 3682
b.-lar 212, 220, 233, 375, 460, 471, 641, 678, 694, 755, 981, 1320, 1430, 1465, 1706, 1731, 1867, 1890, 1987, 2131, 2141, 2150, 2481, 2518, 2527, 2539, 2570, 2808, 2898, 2909, 2912, 2938, 2954, 2989, 2997, 3033, 3177, 3224, 3289, 3387, 3766, 4019, 4025, 4066, 4085, 4094, 4150, 4192, 4204, 4214, 4410, 4481, 4511, 4570, B380, B385, B693, B921, B950, B971, B972, B974, B999, B1175, B1205, B1208, B1214, B1287, B1256, B1315, B1317, B1326, B1343, B1358, B1378, B1380, B1446, B1448, B1512, B1650, B1718, B1720, B1722, B1725, B1733, B1758, B1824, B1873, B1982, B2200, H26V23, H28R20
b.-larïγ 347
b.-larïnga 206, 213
b.-larnïng 339, 967, 986, 1461, 1462, 1470, 1474, 1974, 2148, 2537, 2821, 2891, 3117, 3124, 4209, B617, B952, B987, B992, B996, B1171, B1216, B1274, B1280, B1310, B1331, B1352, B1357, B1377, B1410, B1415, B1450, B1748, B1833, B1856, B1991
b.-larnïngï 1755
b.-larnïngïn 1759
b.-larqa 355, B1300, B1447
b.-larta 1460, 1463, 2576
b.-lï 536
b.-m 13
b.-nïng 221, 242, 250, 288, 349, 374, 377, 400, 403, 758, 956, 978, 982, 1377, 1552, 2077, 2175, 2178, 2542, 2747, 2751, 2831, 2874, 2892, 3188, 3191, 3232, 3378, 3405, 3481, B209, B726, B754, B829, B841, B1162, B1362, B1728, B1823, B1827, B1831, B1832, B1841
b.-nïngtaqïča 3537
b.-ngïzlarnïng H27R40
b.-qa 12, 13, 74, 493, 497, 1301, 1535, 1543, 1544, 2540, 2541, 2552, 2568, 3184, 3189, 3463, 3492, 3496, 3520, 3559, H33V13
b.-sï 349, 377, 381, 390, 400, 401, 402, 403, 405, 407, 764, 772, 1487, 1489, 1491
b.-sïn 79
b.-sïnïng 77, 143, 476
b.-sïnga 254, 354
b.-sïzïn H33R45
b.-ta 375
b.-tïn H33R63
b.-ya 1962, 2035

bay
bay barïmlïγ 「富」 öngdün uqïtdï ärti bušï tözlüg buyan uyur tartγalï artuqraq bay barïmlïγ bolmaqïγ 「前辯施福能招大富」 H35V30

bayaγut
「長者」 višake bayaγut 「毘舍佉長者」 3467, qaltï sudurta yarlïqamïš ol tngri burxan yarlïqadï bayaγut 「如契經說佛告長者」 H38R26
b.-qa 3470

baz
tüz baz 「和やか」 üčünč burxan tïtsïlarï iki arqa bolu tükädüktä usar tüz baz qïlγalï 「三佛弟子破已能和」 H35V46
b.-ïn tüz-in b.-ïn 2259

bädük
uluγ bädük 「大きい」 uluγ bädük iš küdük 「大事」 183

bädüt-
tuγur- bädüt- 「生長する」 qayu näčä bar ärsär öng tuγur-dačï bädüt-däči yüüz yügärü azïγ azuča ymä övkäg 「諸所有色生長現貪或讀」 2868
b.-däči 2868, 4555

bägni
「ビール」 bor bägni 「酒」 H30V2, H33V61,62, bešinč ičmäk ärur alqu bor-uγ bägni-g 「五飲諸

酒」 H30V35; qaltïnčïnïg üdrülmäk ärür alqu bor bägni ičmäk-tin 「謂能亡善国家」 H33V47

b.-g bor-uγ bägni-g H30V41, H33V48

bäk

bäk yarp 「堅固に」 qaning uγurïnda bäk yarp adqanur üčün män mänïnglig 130

bäkiz

bäkiz bälgülüg 「明らかに」「分明に」 249, 817, 960, 1761, 2484, 2936, 2953, 2958, 4258, B933, B951, B1100, B1443, B1452, B1453, B1470, B1470, B1581, B1584, B1586, B1586, B1588, B2120, B2122, B2154, B2156, B2416, H36V73; azu ymä iki köz birgärü bilmiš ödtä körür üčün önglärig bäkiz bälgülüg 「或二眼俱時見色分明故」 B1443, birök tägdüktä anïlayu oq äšidsär barčanï bäkiz bälgülüg bilgü kärgäk 「若至乃聞竝應明了」 B1588

bäklä-

「閉める」 qaltï yertinčütäki oγrï-ïγ qovdačï qapïγ bäklä-däčilär täg 「猶如世間驅賊閉戸」 H38R63

bälgü

「相」 1874, 3005, 3008, 3060, B1219, quruγta quruγ küsüšsüztä küsüšsüz bälgü-süztä bälgü-süz dyanlar 「空空無願無願無相」 2454, čïnγaru bilip tägšilip turur bälgü-sin čïnγarmaγuluq adïrtïn 「審知堅相不審差別」 B1561; aqïγlïγ bälgü 「有漏相」 3006; aqïγsïz bälgü 「無漏相」 3010, 3011; ürlügsüz bälgü 「無常相」 3948; tört türlüg ediglig qïldačï bälgüläri 「四種有爲行相」 1767; körk bälgü 「形相」; nom bälgü 「法相」 qayu nom bälgü-lüg nom ärsär daru tört türlüg tüzünlär kertüsi ärür 「若法相法通四聖諦」 1815; turmaq bälgü 「住相」 ančaqya ödü[n] särilgüsingä tïltaγ boltačïγ sözlämiš ol atï bolur turmaq bälgü [tep] 「暫時住因説名住相」 SA2; ärtmäk bälgü 「滅相」 SE28; töz bälgü 「相」; bäkiz bälgü-lüg 「明白に」「分明に」 see bäkiz

b.-g 3607

b.-lär 3117; ediglig qïldačï b.-lär B563, B570

b.-läri 3947; ediglig qïldačï b.-läri 1767

b.-lärtä 3607

b.-lüg bäkiz b.-lüg 249, 817, 960, 1761, 2484, 2936, 2953, 2958, 4258, B933, B951, B1100, B1444, B1452, B1453, B1470, B1581, B1584, B1586, B1587, B1588, B2120, B2123, B2154, B2156, B2416, H36V73; nom b.-lüg 1815, 1829, 1830, 1872, 1874, 1891

b.-lügkä 496

b.-si 936, 937, 1873, 3144, 3145, 4106, 4108; nom b.-si 1902; töz-i b.-si 3088

b.-sin 487, 493, 1873, 1897, 3631, B1220, B1561; nom b.-sin 1891, 1901, 1912

b.-sindä 3948

b.-singä körk-ingä b.-singä 495

b.-sining B1219, B1504

b.-süz 2454, 4105

b.-süztä 2454

bälgülä-

「顯わす」「占う」 atï kötrülmišlär nä köngül bolu birlä bütürü bilir-lär alqu nom-larïγ tängläp ärmäz bälgülä-p ärmäz 「世尊舉意遍知諸法非比非占」 H26R5; bälgülä-däči 「能顯」 3220, bälgülä-gülük 「所顯」 3219, bilip öčmäk ärsär ärür bälgülä-gülük yörüglüg baγtïn öngi üdrülmäk ärsär ärür bälgülä-däči yörüglüg 3219-3220

b.-miš H26R1

b.-yür SG6

bälgür-

「現れる」「化現する」 burxan näčä bu yerdinčütä bälgür-särlär ymä tüdaγï ägsük ärsär qudqa tägmäzlär 「佛雖化世間緣闕不得果」(化) 1273; ün- bälgür- 「出現する」 adï ködrülmiš ün-düktä bälgür-düktä yerdinčütä anïlayu oq bolmatï ozγalï 「世尊出世猶未得脱」(出) 2492

b.-düktä ün-düktä b.-düktä 2492

b.-särlär 1273

b.-üp 362; ün-üp b.-üp 2627, 2631

bälgürt-

「現す」 munda körgülüki ärsär ärür ol tngrilär quvrayïnïng bälgürd-üp qïlmïš amranmaq uyušta tudurmïš yoγun öng B2366

bärk

bärk yarp 「堅固に」「堅く」 757, 2532, 4552, 4559, B1408, B1642, bärk yarp adqanïp täprämätin eyin äklip yadur üčün tözi iši üklimiš ašïlmïš ärür 「堅執無動隨增眠故體用增盛」 4552

bärtin-

「損なわれる」「害される」 körüp ämgäk üzä bärdin-gülük bolmïšlarïγ ät'özi köngüli tidräp 1186

bärü

「以來」「來のかた」 qaltï ür kеč-tin bärü 1008, ulatï qïlu turur ärkän alqu uqïtur qïlïnčlarïγ bärü turqaru tükällig bolurlar közünür ödki uqïtur qïlïnčqa 「乃至正作諸表業來恆成現表」 H32R26; üstürti bärü 「上以來」 474, 1955, 2478, 2581, B1811, üsdürti bärü yörä tükädmiš boldï 「上來已釋」 1955, üsdürdi bärü öngi sözlädačilärig uqïdïp ärtdi 「上辯異説竟」 2581; -γïnča-qa-tägi bärü 「・・するまでずっと」「未だ・・ざる來のかたに至るまで」 172, 814, H31V38, ulatï burxan qudïn bul-γïnča-qadägi bärü 814, pratimokšta turmïš tünlylar titmä-ginčä-kä-tägi bärü turqaru tükällig bolurlar közünür ödkisingä 「住別解脱補特伽羅未捨以來恆成現世」 H31V30, ulatï bu iki köngüllär tarïqma-γïnča-qa-tägi bärü qayu tuymïš uqïtmaz turqaru ödün ulalur 「乃至此二心未斷來所發無表恆時相續」 H32R14

bärüki

「以來の」 860, 1108, bašlaysïz-tïn bärüki beš yükmäklärning kšan kšan sayu ulalmaqï 1108

bäzäk

「飾り」 yïd yïpar türtünmäk bäzäk üzä etinmäk 「塗飾香鬘」 H30V42,49, qaltï öngi üdrülmäk ärür yïd yïpar türtünmäk bäzäk üzä etinmäktin ulatï ödsiz aš ašamaqtïn 「謂離塗飾香鬘乃至食非時食」 H33V51

bdatï ～ bïdatï

yooqsuz bdatï 1075 ～ yoqsuz bdatï 1282, 3717 ～ yoqsuz bïdatï B125, 「唐捐」「徒に」; özli adïnlï ikigükä asïγ tusu qïlmaqï yooqsuz bdatï bolmaz 「自他俱利不唐捐」 1075, yoqsuz bïdatï urmaq üzä keng savïγ 「徒置廣文」 B125

ber-

「與える」「授ける」 eyin yarayïnča ber-ip köni nom nomlamaq ong eligin 「隨授所應正法教手」 1201; kikinč ber-「答える」 sanggabadire baxšï kikinč ber-ü sözlär 「衆賢答云」 B1044, bar adïn baxšïlar kikinč berü sözlär 「有餘師答」 2938, sanggabadre baxšï kikinč berü bu sezikkä sözlär 4047; bušï ber-「施す」「布施する」; ävrip bušï ber-「廻施する」 ävrip bušï ber-mišning buyanï üzä yedgürürlär öz asïγïn 「廻施之福及利己」 1068; qut küsüš ber-mäk「與願」 näng čoγluγ yalïnlïγ küčining qud küsüš ber-mäk-ining ridi bögülänmäkining uyurïnda ärmäz 「不由威力與願神通」 1313; ber- tägin-「授受」; mängi ber-「與樂」 ašnuča baštïnqï ädgü öglisintä öritürlär turγururlar čïn kertü mängi ber-mäklig taplaγïγ 「先於上親發起眞誠與樂勝解」 H39R2

b.-gäli 327, 2332; kikinč b.-gäli H37R70

b.-gälir kikinč b.-gälir 1369, 1927, 2120, 3654, 3875, 3939, 3955, 4001, 4010, B1361, B1433, B1466, B1498, B1617, B1875

b.-gülük kikinč b.-gülük 3777, 3778

b.-ip 1201, 1218, 1235, 1305, 1307, 1372, 1490; kikinč b.-ip B1422

b.-mäk 1209; qut küsüš b.-mäk 1416, 1419; kikinč

b.-mäk B2054, B2056; b.-mäk tägin-mak H33V16
b.-mäki 4275, 4278; qut küsüš b.-mäki 1420
b.-mäkining qut küsüš b.-mäkining 1313, 1375, 1381
b.-mäklig 3747, H39R2; kikinč b.-mäklig 2656; bušï b.-mäklig H35R9
b.-mäkning 1210
b.-mämäkingä 3460, 3517
b.-mämäklig 3489
b.-mätačisin 3506
b.-miš 1421, 2338, 2442; ävrip bušï b-miš 1070, 1074; kikinč b.-miš 2124, 2517, 3189, 3503, B1783
b.-mišning ävrip bušï b.-mišning 1068, 1053, 1054
b.-sär kikinč b.-sär 2822; bušï b.-sär H35R12
b.-särlär ävrip bušï b.-särlär 1052
b.-ü 1208, 3755; kikinč b.-ü 854, 1360, 1370, 1555, 1557, 1569, 1594, 2006, 2036, 2054, 2089, 2224, 2512, 2514, 2590, 2655, 2657, 2673, 2844, 2876, 2938, 3051, 3163, 3166, 3168, 3171, 3183, 3188, 3382, 3390, 3470, 3727, 3872, 3878, 4047, 4231, 4240, 4255, B219, B619, B838, B1044, B1142, B1434, B1751, B1758; kikinč b.-ü H27R52,53
b.-ür kikinč b.-ür 32, B1208, B1240
b.-ürlär ävrip bušï b.-ürlär 1052, 1056; bušï b.-ürlär 1068, 4369

beriš
alïš beriš 「受授」 abipirayï birlä bolγay ärti qayu alïš-ï beriš-i 161
b.-i alïš-ï b.-i 161
b.-siz alïš-sïz b.-siz 228, 3234, 4564

beš
「五」 38, 40, 525, 595, 615, 616, 620, 623, 624, 661, 662, 696, 697, 697, 700, 700, 717, 726, 838, 926, 1108, 1133, 1134, 1476, 1599, 1612, 1614, 1623, 1624, 1629, 1630, 1723, 1731, 1732, 1733, 1738, 1740, 1748, 1765, 1865, 2065, 2090, 2609, 2611, 2682, 2688, 2689, 2723, 3042, 3206, 3272, 3394, 3397, 3397, 3415, 3446, 3605, 3626, 3642, 3650, 3652, 3656, 3668, 3686, 3827, 3880, 3882, 3883, 3887, 3891, 3892, 3893, 3893, 3895, 3898, 3901, 3903, 3905, 3908, 3971, 4169, 4215, 4262, 4265, 4270, 4292, 4303, 4495, 4546, 4566, 4568, 4578, B65, B195, B385, B408, B411, B537, B542, B547, B669, B670, B687, B768, B808, B833, B854, B860, B864, B882, B906, B911, B923, B926, B929, B932, B939, B941, B2003, B2005, B2006, B2015, B2022, B2026, B2052, B2197, B2345, B2346, B2412, B2420, H25R8,19, sav tayaqï bolur üč tört-süz beš-siz 「言依有三無四無五」 4036; beš ažunlar 「五趣」 38, 40, 1723, 1732, H27V45,47, etc.; beš tutyaq yükmäk 「五取蘊」 2682, 2723, 3397, B65, etc.; beš yükmäk 「五蘊」 525, 696, 697, 700, H28R29, etc.; beš bilig 「五識」 B670, B860, etc.; beš ärklig(lär) 「五根」 B833, H37V66; beš bölüklär 「五品」 595, 620, 623, 624, etc.; beš tïltaylar 「五因」 H25R19, H25V46; beš ygrmi 「十五」 B542, B808
b.-siz 4036, 4079, 4080

bešägü
「五」(集合) B114, B1290, qaltï öngtä ulatï bešägü köztä uladï ärkliglärkä biligtä ulatïlarqa adqanγu bolmïš täg B114

bešinč
「第五」 2093, 3044, 3284, 3288, 4355, 4572, B908, törtünč bilip öčmäk bešinč bilmätin öčmäk ärür 3044, H25R5, H30R28, H30V35

bïš-
「熟す」 qaltï qudrulmaq ülüšlüg ädgülüg yïldïzï bïš-mïšlarnïng adï bolur tägimlig tep 1245; büt- bïš- 「成熟する」; öngi bïšmaq 「異熟」 öngi ketärmiš kärgäk öngi bïšmaq ulatï baγtïn öngi üdrülmäkig 「除異熟及離繫」 H34V11, altïn oruntaqï öngi bïšmaq tïlday umaz üčün alγalï üsdün oruntaqï tüšüg öngi bïšmaq tüš yintäm bir orunta bolur üčün B2338, B2339
b.-larnïng 1245

b.-maduqlar büt-mädük b.-maduqlar 1266
b.-maduqlarqa 1249
b.-maq öngi b.-maq tözlüg 1123, 3570, 3571, 3573, 4358, 4360, 4364, B2336, B2338, B2339, H26V58, H34R41
b.-maqï öngi b.-maqï 3575, H28R63
b.-maqïγ öngi b.-maqïγ H34V24
b.-mïšlar 1242

bïšrun-
「修する」 burxanlarnïng bïšrun-up buyanlï bilgä biligtä barmaqlarï ärsär tuyunmaqqa 「佛修福智趣菩提」 1083, qayu bïšrun-mïš buyanïn bilgä biligin bušï berürlär tïnlγlarqa 「所修福慧施群生」 1067, äšidmäk saqïnmaq bïšrun-maq üzä büdgülük ärip qaltï adïγ ikigüni yörügüg adqanγu qïlur 「聞思修所成謂名俱義境」 1704; bïšrun-maq yol 「修道」; bïšrun-maqtaqï nizvanï 「修惑」; bïšrun-maqta taryaryuluq 「修所斷」 bu beš ygrmi uγušlar odγuraq bïšrun-maqta taryaryuluq 「此十五界（唯）修所斷」 B543, bïšrun-maqta taryaryuluq nomlar bolur tört tüš 「以修所斷法爲四果」 H34V17; bïšrun- ögrätin- 「修習する」 yänä uqïdγalïr üčün ärür ančan ančan käzigčä bïšrun-maq ögrädin-mäkning tuγmïšïn 「又顯漸次修習生故」 B877; qatšuru bïšrun-γuluq dyan 「雜修定」; bïšrun- yorï- 「修行する」
b.-dačï b.-dačï ögrätin-däčilärkä B554
b.-γalï 632, 4367, H38R17
b.-γïnča 1027
b.-γuluq 180; qatšuru b.-γuluq dyan 2455
b.-lar 4376
b.-maq 201, 1039, 1688, 1696, 1698, 1704, 1710, 1714, 1739, 1745, 1764, 1790, 1791, 1806, 1808, 3404, H28R10, H35V18, H35V23, H38V41; b.-maq yol 622, 649, 828, 845, 3271, 3410, 3422, 3436, 3438, 3442, B523, B530, B639, B778, B789, B799, H38V17; b.-maq ögrätin-mäk 828, B877, B2013
b.-maqta b.-maqta taryaryuluq B520, B523, B524, B536, B543, B544, B546, B550, B558, B577, B706, B766, B809, B810, H34V6
b.-maqtaqï b.-maqtaqï nizvanï 831, 832, H38V49,71
b.-maqtïn B1606, B1608, B2396
b.-maz B598
b.-mïš 334, 636, 1027, 1037, 1045, 1055, 1067, 1069, H38V30
b.-mïšïn 1051
b.-sar H35V47, H35V57
b.-u 122; b.-u yorï-dačï 123, 202, b.-u yorï-mïš 351, 382, 1049, bïšurun-u yorï-mïš 383, b.-u yorï-maq 395, 1405, b.-u yorïzunlar 2521
b.-up 1083, 3444, B2397, H39R11,20; b.-up ögrätin-ip 864, 1083; bïšurun-up 387
b.-ur 3425, H38R7
b.-urlar 4369, H39R4, H39V60

bïšur-
qayïntur- bïšur- 「煮る」 tïnlγlarïγ birök piradapan tamuta qayïndur-mïš bïšur-mïš ödtä B1983

bičäk
「刀刃」 bičäk kändü özin yonmamïš täg B319

bil-
「知る」「擇する」「了ずる」「識る」 širavaklarnïng pratikabudlarnïng bilgä biligi üzä nä ymä bil-gäli umaγuluq ärür 「聲聞獨覺不能知」 903, abipirayï yolïn alp bolur bil-gäli 「意趣難知」 B1845; bil-ip öčmäk 「擇滅」 bil-ip öčmäk ärsär inčip baytïn öngi üdrülmäk tözlüg ärür 「擇滅即以離繫爲性」 3218, alqu aqïγlïγ nomlar bir täk bir bil-ip öčmäk-lig mü 「一切有漏法同一擇滅耶」 3368; bil-mädin öčmäk 「非擇滅」 birdämläti tïdmaqtïn ken tuγdačï nomlarïγ bululur bil-mätin öčmäk 「永礙當生得非擇滅」 3598; bil-adïrtla- 「簡擇する」「了別する」～ adïrïp bil-kim bar ärsär avant tïlday tuγuryalï udačï bil-mäk adïrtla-maqïγ 「諸有因緣能生了別」 B1013; ozmaq qutrulmaqïγ bilmäk körmäk 「解脫智見」; bil-däči 「能識」「能了」「了者」 köznüng adï

bolur kördäči biligning adï bolur bil-däči tep 「眼名能見識名能了」 B1399, inčıp bolmaz bil-däči-ning bilmäklig išining adïrtï 「然無了者了用不同」 B1308; bil-gülük 「所知」「所識」 bu beš türlüg nomluγ bil-gülük adqnγularïγ 「於此五法所知境中」 616; čïnγaru bil- 「審知する」; küsüš bilir bilgä bilig「願智」; qutrulmaqïγ bilmäk körmäk 「解脱智見」 3903; tängläp bil-「比知する」; bil-mäk 「擇」; bil-mämäk 「無知」 alqu bil-mämäk-lär uyur üčün ördgäli čïnkertü yörügüg ulatï tïdγalï čïnkertü körümüg 「以諸無知能覆實義及障眞見」 606; bil- uq-「了知する」; odγuraq bil- 「決了」; bil- ötgür-「了達する」

b.-äyin 2331

b.-däči 626, 628, 763, 1001, 1604, 2246, 3345, 3672, 3675, 3677, B1154, B1225, B1268, B1278, B1329, B1330, B1338, B1356, B1361, B1364, B1399, H38R69

b.-däči-ning B1308

b.-dim B1342

b.-düktä 3525

b.-gäli 58, 60, 112, 136, 249, 260, 264, 276, 280, 337, 414, 462, 485, 696, 873, 903, 904, 918, 919, 948, 950, 972, 977, 1170, 1190, 1394, 1397, 1399, 1402, 1424, 1514, 1521, 1671, 1897, 2045, 2079, 2893, 2960, 2962, 2964, 2964, 3172, 3173, 3435, 3630, 3653, 3832, 4003, 4008, 4233, 4254, 4256, 4319, 4465, B2, B288, B289, B436, B539, B541, B609, B626, B654, B1030, B1042, B1084, B1166, B1215, B1219, B1221, B1228, B1229, B1231, B1237, B1238, B1240, B1267, B1275, B1339, B1416, B1426, B1440, B1444, B1475, B1579, B1584, B1694, B1708, B1743, B1750, B1845, B1854, B1951, B2026, B2070, B2154, B2417;

b.-gäli adïrtla-γalï B1296, B1297, B1307, B1347, B1350, B1363, H25V56; b.-gäli ötgür-gali H25V43,49, b.-gülük 72, 266, 429, 431, 443, 504, 518, 561, 592, 600, 603, 616, 732, 735, 743, 752, 938, 944, 946, 951, 977, 1395, 1480, 1492, 1497, 1511, 1512, 1519, 1532, 1539, 1833, 1844, 1847, 1899, 1900, 2425, 2584, 3085, 3086, 3088, 4231, 4232, B555, B1247, B1247, B1248, B1249, B1425, H37V28

b.-gü 2530, 3425, 3433, B1588, H40R16

b.-gükä B1266

b.-inglär B1218

b.-ip 134, 165, 186, 761, 906, 1991, 2025, 2029, 2497, 4515; b.-ip öčmäk 672, 676, 679, 680, 702, 2932, 2995, 2999, 3044, 3045, 3089, 3097, 3137, 3140, 3144, 3212, 3214, 3217, 3217, 3219, 3221, 3222, 3233, 3235, 3239, 3281, 3285, 3290, 3297, 3300, 3301, 3305, 3314, 3325, 3329, 3345, 3348, 3355, 3368, 3373, 3378, 3379, 3383, 3385, 3388, 3391, 3396, 3399, 3400, 3406, 3407, 3409, 3411, 3412, 3415, 3416, 3418, 3420, 3462, 3465, 3505, 3507, 3511, 3516, 3518, 3520, 3522, 3526, 3531, 3537, 3547, 3551, 3555, 3567, 3572, 3574, 3578, 3588, 3589, 3591, 3593, 3612, 3768, 3771, 3776, 3779, 3782, 3789, 3795, 3798, 3801, 3802, 3804, 3806, 3810, 3812, 3815, 3837, 3840, 3842, 3843, 3846, 3847, 3850, 3854, 3859, 3863, 4142, 4166, 4174, 4183, 4515, H26R1; čïnγaru b.-ip B1561

b.-ir 895, 1897, 3546, 4249, 4478, B1190, B1237, B1307, B1478, H25V32; küsüš b.-ir bilgä bilig 2133, 2135, 2456, H25V52; adïrïp b.-ir 3321; tängläp b.-ir B1582

b.-irlär 1049, H26R4

b.-mädin H39R52,54

b.-mädüklär 3871

b.-mädüküg 3434

b.-mägülük 941

b.-mäk 2985, 3310, 3316, 3601, 3613, 4038, B1581, B1590, B1689; b.-mäk adïrtla-maq 2588, 3310, B1013, B1014, B1159, B1276, B1278, B1281, B1284; ozmaq qutrulmaqïγ bilmäk körmäk 898, 3903;

b.-mäk uq-maq B1573, B1573; odγuraq b.-mäk B1595

b.-mäki B1586

b.-mäkkä 2245

b.-mäklig 2487, B1308

b.-mäkning 3313, 3326, 3327, 3330, 3344

b.-mämäk 115, 593, 597, 602, 621, 621, 623, 624,

628, 629, 646, 654, 661, 662, 714, 718, 825, 827, 878, 884, 885, 886, 973, 976, 978, 980, 982, 1004, 1005, B557
b.-mämäki 901, B1587
b.-mämäkig 597, 635, 640, 645, 656, 745, 747, 748, 804, 805, 809, 856, 860, 871, 872, 874, 875, 879, 880, 1499, 1500
b.-mämäkin 642
b.-mämäklär 588, 606
b.-mämäklärig 663, 670, 770, 780, 781, 786, 803, 822, 824, 933
b.-mämäklärkä 701
b.-mämäklärning 720, 965
b.-mämäklärtä 682, 704
b.-mämäklig 514, 600, 1002
b.-mämäkning 833, 845, 850, 851, 974
b.-mämiš 1004
b.-mämiškä 3873
b.-mäsär 927, 2048
b.-mätin b.-mätin öčmäk 2932, 2996, 3044, 3045, 3049, 3051, 3064, 3090, 3137, 3141, 3144, 3230, 3597, 3598, 3601, 3604, 3613, 3621, 3628, 3629, 3660, 3665, 3666, 3669, 3679, 3681, 3687, 3688, 3693, 3697, 3727, 3730, 3740, 3761, 3765, 3773, 3776, 3779, 3784, 3787, 3813, 3816, 3824, 3828, 3830, 3838, 3840, 3841, 3843, 3845, 3847, 3849, 3855, 3860, 3864, 4142, 4167, 4170, 4175, 4183, 4184; b.-mädin 920; b.-mädin öčmäk 314, 315, 673, 677, 679, 680, 702, 1830, 1839, 3097
b.-mäz 928, B1172, B2156; b.-mäz ötgür-mäz 940
b.-mäzlär 398, 617, 900, 931, 2013
b.-miš 42, 157, 174, 253, 341, 342, 389, 530, 691, 705, 742, 793, 899, 915, 924, 1044, 1199, 1410, 1413, 1443, 1516, 1524, 1681, 2027, 2051, 2083, 2413, 2429, 2430, 2484, 2688, 2880, 2889, 2958, 2982, 3174, 3177, 3255, 3353, 3456, 3474, 3485, 3533, 3557, 3575, 3765, 4042, 4064, 4117, 4225, 4259, 4260, 4418, 4433, B11, B25, B32, B283, B334, B369, B409, B613, B614, B752, B827, B945, B981, B994, B998, B1024, B1032, B1041, B1106, B1220, B1251, B1260, B1269, B1419, B1443, B1454, B1458, B1570, B1616, B1649, B1715, B1923, B2075, B2077, B2081, B2100, B2131, B2161, B2173, B2404, B2417, H27R19; odyuraq b.-miš B637, B1592; b.-miš uq-mïš B1029
b.-mišin B1029
b.-sär 1394, 3525, 3545, H25V44
b.-särlär 162, 1051
b.-ü 2977, 2985
b.-ür B680, H37R35

bilgä
「賢者」「智者」「賢い」 turulmaq yavalmaq uyurïnta mäning bilgä-lär bolurlar tuγγalï tängri yerindä 「由善調伏我智者得生天」 B8, kim bolγay bilgä-lärtä inčip qïldačï bu savïγ 「誰有智者當作是言」 B1012, ärür üčün alqu bilgä-lärkä aqlayuluq irgülük 「是諸智者所訶厭故」 H32R49, bu ärür üčün bilgä kišilärkä irgülüq aqlayuluq qïlïnč 「此是智人所訶厭業故」 H33R37; bilgä bilig 「智慧」「慧」「智」 6, 10, 19, 19, 54, 54, 57, 67, 92, 116, 122, 133, 199, 199, 201, 244, 245, 256, 275, 276, 278, 280, 281, 320, 325, 388, 398, 419, 433, 455, 458, 458, 459, 461, 462, 465, 466, 469, 519, 522, 549, 554, 555, 566, 600, 626, 628, 632, 637, 643, 644, 650, 698, 714, 735, 738, 739, 741, 741, 742, 758, 763, 770, 771, 772, 777, 808, 810, 811, 813, 816, 819, 892, 897, 903, 918, 925, 937, 938, 940, 943, 954, 975, 976, 980, 984, 985, 994, 995, 997, 997, 998, 1001, 1030, 1068, 1039, 1048, 1072, 1083, 1168, 1291, 1464, 1467, 1481, 1485, 1494, 1507, 1510, 1512, 1514, 1514, 1517, 1518, 1528, 1531, 1579, 1595, 1597, 1598, 1601, 1602, 1611, 1615, 1619, 1620, 1625, 1628, 1631, 1635, 1638, 1639, 1644, 1645, 1646, 1648, 1653, 1655, 1658, 1661, 1663, 1665, 1669, 1671, 1682, 1682, 1687, 1688, 1689, 1690, 1691, 1692, 1695, 1695, 1697, 1698, 1701, 1702, 1702, 1707, 1709, 1710, 1712, 1713, 1715, 1716, 1719, 1735, 1736, 1737, 1739, 1741, 1743, 1745, 1762, 1765, 1772, 1780, 1781, 1782, 1783,

1784, 1788, 1788, 1789, 1789, 1790, 1791, 1791, 1792, 1792, 1792, 1800, 1806, 1808, 1809, 1810, 1812, 1825, 1827, 1829, 1843, 1844, 1847, 1913, 1915, 1957, 1976, 1984, 2012, 2133, 2135, 2246, 2291, 2291, 2294, 2296, 2298, 2298, 2299, 2300, 2455, 2456, 2456, 2457, 2457, 2486, 2519, 3311, 3316, 3317, 3322, 3322, 3323, 3346, 3346, 3351, 3354, 3356, 3413, 3544, 3547, 3615, 3616, 3672, 3675, 3677, 3793, 3831, 3831, 3900, 3902, 3997, 4105, 4232, 4232, 4275, 4278, B818, B849, B860, B861, B868, B899, B903, B910, B912, B914, B916, B917, B918, B919, B922, B923, B924, B924, B926, B928, B929, B931, B932, B940, B942, B944, B946, B962, B965, B966, B969, B1155, B1156, B1157, B1212, B1288, B1294, B2001, B2383, B2384, H25V45,52,53,62, H26R13, etc. bu oq inčip munï buldurdačï bu alqu bilgä bilig-lär šasdrlar ymä 「即得此諸慧及論」 1687, širavakta ulatïlarnïng bilgä bilig-i barčanï bilmäz ödgürmäz 「聲聞等智皆不了達」 940, ičgärü uyurïn ävrilür üčün bilgä bilig ärür ol körüm 「内門轉慧是見」 B849, adïn kkirlig bilgä bilig-lär alqu barča körüm ärmäz 「餘染汚慧悉皆非見」 B912; aqïγsïz bilgä bilig「無漏慧」 275, 320, 644, 1671, B868; aqïγlïγ bilgä bilig 「有漏慧」 3356; arïγ bilgä bilig 「淨慧」 1602, 1628, 1631; tükäl bilgä bilig 「一切智」 433, 522, 938; bilgä biliglig köz 「慧眼」 600; yrlïγsïz bilgä bilig 「無記慧」 714, 975; bululmïš bilgä bilig 「生得慧」 1690, 1716, 1719; yïlayu bilgä bilig 「世俗智」 995, 998, 2455; bilgä biliglig yükmäk 「慧蘊」 897, 2291; küsüš bilir bilgä biliglig 「願智」 2133, 2456; dyan bilgä bilig「定智」 2456; ämgäktä nom bilgä bilig「苦法智」 3413, 3831; tuyunmaq bilgä bilig「覺慧」 B903; ädgü bilgä bilig 「善慧」 B919

b.-lär B8, B1400, B1408, H27R28, H36R57

b.-lärkä H40R13

b.-lärtä 4037, B1012, H36V9

bilig

「識」 54, 57, 57, 67, 244, 245, 275, 278, 281, 320, 325, 458, 459, 461, 549, 554, 629, 643, 644, 650, 698, 714, 975, 984, 994, 997, 1048, 1595, 1597, 1603, 1615, 1619, 1620, 1625, 1628, 1631, 1639, 1639, 1644, 1648, 1655, 1658, 1661, 1663, 1665, 1682, 1688, 1689, 1690, 1692, 1708, 1709, 1710, 1712, 1713, 1715, 1716, 1780, 1781, 1788, 1789, 1790, 1791, 1808, 1810, 1827, 1829, 1957, 2291, 2294, 2296, 2301, 2456, 3317, 3323, 3323, 3351, 3354, 3364, 3413, 3544, 3547, 3615, 3616, 3626, 3642, 3643, 3650, 3670, 3694, 3695, 3696, 3697, 3700, 3709, 3710, 3752, 3760, 3793, 3831, 3882, 3900, 3902, 3921, 4105, 4232, 4232, 4275, 4278, 4415, B23, B24, B29, B239, B242, B244, B276, B295, B296, B299, B304, B323, B349, B387, B387, B387, B389, B390, B391, B391, B392, B393, B393, B394, B397, B400, B400, B413, B451, B452, B469, B472, B483, B537, B538, B574, B574, B582, B582, B623, B818, B849, B859, B860, B860, B861, B864, B916, B919, B919, B921, B922, B923, B924, B925, B926, B928, B928, B929, B931, B931, B932, B941, B942, B949, B951, B962, B966, B982, B990, B993, B994, B996, B996, B998, B1009, B1011, B1015, B1017, B1020, B1023, B1026, B1026, B1032, B1033, B1042, B1049, B1052, B1054, B1060, B1063, B1065, B1089, B1090, B1106, B1116, B1120, B1128, B1131, B1152, B1155, B1174, B1177, B1183, B1185, B1185, B1204, B1206, B1209, B1213, B1213, B1253, B1273, B1275, B1277, B1288, B1346, B1349, B1358, B1360, B1366, B1374, B1375, B1380, B1429, B1430, B1431, B1432, B1464, B1467, B1474, B1475, B1975, B2013, B2026, B2027, B2032, B2080, B2081, B2083, B2094, B2111, B2112, B2116, B2124, B2125, B2134, B2153, B2156, B2158, B2160, B2176, B2183, B2189, B2190, B2203, B2223, B2235, B2256, B2259, B2263, B2270, B2273, B2275, B2290, B2294, B2350, B2358, B2380, B2412, B2414, B2414, B2420, H26R28,32, H28V12, etc. ärkliglär tägšilmiši eyin bilig-lär öngi bolur üčün anïn köztä ulatïlar tayaq adatï 「隨根變識異故眼等名

依」 B28, bilig uγurïnta üklip ašïlïp 「由識長益」 B1009; köz bilig-i 「眼識」 3633, 3690, 3692, 3695, 3701, B45, B1004, etc. köz bilig-i ärür kördäči 「眼識是見」 B1108; qulγaq bilig-i 「耳識」 B1687, B2049; burun bilig-i 「鼻識」 B2049; til bilig-i 「舌識」 B2050; ät'öz bilig-i 「身識」 B1984, B2137, tuγar ämgäk täginmäk birlä yaradïlmïš ät'öz bilig-i 「發生苦受相應身識」 B2137; köngül bilig(-i) 「意識」 1835, 3674, B120, B136, etc. yintäm köngül bilig birlä yaradïlmïš ädgü bilgä bilig ärür körüm 「唯意識相應善慧是見」 B919; beš bilig-lär 「五識」 838, 3652, 3656, 3686, B670, B2006, etc.; altï bilig-lär 「六識」 3706, B249, B250, etc.; bilig quvraγ-ï 「識身」 B623; beš bilig quvraγ(-ï) 「五識身」 3626, 3650 ～ beš bilig-lär quvraγ-ï B923, beš bilig quvraγ-ï turup kälmädük ödtä birdämläti tuγmaz 「五識身等住未來世畢竟不生」 3626; köngül bilig uγuš-ï 「意識界」 B259; bilig sanïšïγlïγ 「有識屬」 B387; bilig sanïšïγsïz 「無識屬」 B387; bilgä bilig 「智慧」「智」 see bilgä

b.-i 519, 522, 555, 741, 742, 903, 918, 925, 940, 997, 1507, 1481, 1835, 3633, 3636, 3674, 3692, 3844, B342, B343, B346, B347, B863, B1108, B1023, B1111, B1118, B1123, B1137, B1201, B1296, B1337, B1353, B1363, B1385, B1984, B1994, B2004, B2007, B2031, B2050, B2068, B2073, B2074, B2078, B2086, B2132, B2137, B2137, B2138, B2144, B2209, B2211, B2347, B2359, B2426, B2428

b.-ig 199, 199, 201, 256, 398, 466, 739, 771, 771, 773, 777, 980, 995, 998, 1292, 1635, 1653, 1695, 1702, 1720, 1806, 1976, 2246, 2300, 2457, 2865, 3356, 3672, 3675, 3832, 3919, B276, B341, B455, B575, B583, B899, B969, B983, B1126, B1209, B1469, B2194, B1989, B2000, B2088, B2091, B2234, B2368, B2369, B2371, B2372, B2381, B2381, B2383, B2384

b.-in 1068, 1495, 3690, B308, B315, B1115, B1687, B1994, B2042, B2049, B2049, B2050, B2050, B2109, B2141, B2205

b.-indä 3703

b.-ingä B120, B136, B295, B348, B352, B1113, B1135, B1149, B1211, B1350, B1999, B2030, B2034, B2036, B2034, B2040, B2040, B2047, B2048, B2060, B2062, B2063, B2137, B2172, B2427; köz b.-ingä H26V2; qulγaq b.-ingä H26V3; burun b.-ingä H26V5; til b.-ingä H26V6; ät'öz b.-ingä H26V7; köngül b.-ingä H26V8

b.-ining 433, 954, 3701, B309, B1004, B1046, B2009, B2024, B2052, B2029, B2133

b.-inli B1182

b.-intä B45, B2185, B2186, B2187, B2188; b.-indä 3672

b.-kä 19, 54, 626, 892, 937, 938, 943, 986, 1529, 1772, 1783, 1788, 1790, 1791, 1792, 1800, 1809, 1812, 1844, 1847, 1913, 1915, 1984, 2291, 2298, 2299, 3997, B119, B255, B292, B294, B340, B1025, B1139, B1248, B1327, B1348, B1463, B2163, B2167, B2376, B2377, B2386, B2405

b.-lär 1687, 1692, 1697, 1701, 1702, 1743, 1784, 2455, 3656, 3693, 3706, 3718, 3720, 3722, 3756, B28, B249, B250, B253, B258, B281, B303, B427, B868, B912, B914, B918, B923, B926, B929, B932, B939, B1046, B1047, B1294, B1297, B2003, B2005, B2102, B2103, B2104, B2130, B2162, B2198, B2201, B2410

b.-läri 1001

b.-lärig 122, 3758, B917, B944, B2067, B2069, B2164

b.-lärkä B2165, B2168, B2169

b.-lärning 1601, 1736, 1765, 3713, B459, B946, B965, B1058, B2006, B2019, B2022, B2070, B2075, B2098

b.-lärtä 838, 3652, 3704, B2197, B2220

b.-li 388, 455, 1040, 1072, B1974, B2266, B2287, B2293, B2351, B2405

b.-lig 7, 10, 92, 117, 133, 419, 458, 462, 465, 469, 511, 516, 566, 600, 632, 637, 738, 743, 808, 810, 811, 813, 816, 819, 897, 1030, 1168, 1464, 1467, 1486, 1510, 1512, 1514, 1515, 1517, 1518, 2012, 2135, 2486, 2519, B2002

b.-liglär 19, 1579, 2133
b.-lining B2373
b.-ning 276, 280, 976, 1598, 1611, 1645, 1646, 1669, 1671, 1682, 1698, 1735, 1737, 1739, 1741, 1745, 1762, 1825, 1843, 3311, 3317, 3322, 3677, 3925, B34, B904, B940, B985, B995, B1000, B1007, B1043, B1068, B1072, B1156, B1157, B1272, B1295, B1318, B1329, B1399, B1683, B1996, B2016, B2024, B2146, B2192, B2221, B2228, B2385, B2386, B2388, B2390
b.-tä 1083, 1642, 1782, 2457, 2715, 2871, 3346, 3753, B115, B350, B352, B670, B910, B1051, B2221;
b.-dä 758, 3845

biligsiz
「無知」「癡」「無明」「愚」 20, 281, 511, 516, 648, 648, 651, 739, 773, 789, 790, 797, 2082, 2846, 4372, 4377, 4556, 4557, B913, H36R55, H37R9,12, qaltï az övkä küvänč qamaγlïγsïz biligsiz sezik birlä tuγmïš bilgä biliglär ärür 「謂貪瞋慢不共無明疑俱生慧」 B913, tärs körüm sezik birlä yaradïlmïš ulatï qamaγlïγsïz biligsiz altïγu uyur adqanγalï aqïγsïzïγ 「邪見疑相應及不共無明六能縁無漏」 2846, biligsiz sezik ödrü anday ärmäz 「癡疑則不如是」 4556; biligsiz-lig qarangγu「愚闇」「闇盲」 taryarmišča öz köngültäki biligsiz-lig qarangγu 「除自心中愚闇」 B900, tägimlig ol titip biligsiz-lig qaranγu üzä tägilmiš alqu taš azaq nomluγlar-nïng atqaγïn 「應捨闇盲諸外執」 H40R5
b.-ig 278, 739, 755, 773, 788, 794, 795, 806, 882, 2869
b.-kä 277, 434
b.-lär 398
b.-lig 560, B900
b.-ning 638, 647, 712, 2081, 4364, 4365
b.-tä 792, 989, 991
b.-tin 277, 4362, H33V59

bilil-
「知られる」「了ぜられる」 bilil-ü tükädür ärti anïng öz baxšï ärdüki 356, yertinčütäkilärkä yumγïqa bilil-miš üčün 「世間共了」 B851
b.-mämiškä 502
b.-mäti 3125, B1086; b.-mädi 966
b.-mäz 155, 370, 373, 554, 557, 2588, 2669, 2670
b.-miš 505, 3332, B851
b.-miškä B1925
b.-sär 553, 556, 2587, 2662, 2979, 3013, 3582
b.-ü 353, 356, 360, 2597, 2936, 2999, 3016, 3029, 3239, 3532, 3592, 3891, 3896, B355, B809
b.-ür 953, 2641, 2953, 3337, 3340, 3484, 3926, B1101, H36V46, H37R32

biliš
ädgü ögli biliš bošük 「善知識」 1290, 1291, ädgü ögli biliš bošük kim ol teptesär qaltï kim tuγurup činkertü bilgä biligig 「善知識者誰謂佛令生智」 1291

bilsik-
「了ぜられる」 bu yertinčüdäkilärkä yumγï-qa bilsik-miš bilil-miš SG36

biltür-
「示す」「教える」 ämgäkig bildür-däči ärsär yindäm ärür qïlïnč ämgäk 4492; uqït- biltür- 「顯示する」
b.-däči 4490, 4492; b.-täči 4491
b.-gäli 27, 83, 787, 818, 1771, 1912, 1922, 2973, B933, B1919
b.-gälir 2946, 2976, 2983, B152, B812; uqït-γalïr b.-gälir 3000
b.-mäk 1778
b.-ür 1888; uqït-ur b.-ür 490

bimba
< Skt. bimba 3340, see bimbasare

bimbasare

< Skt. bimbasāra（～ bimbisāra）「影勝、影勝王、勝威」（王名） 3338

bir

「一」「同じ」 109, 110, 282, 367, 367, 368, 379, 393, 394, 496, 598, 641, 805, 831, 935, 1124, 1290, 1550, 1615, 1618, 1661, 1803, 1936, 2047, 2068, 2100, 2103, 2164, 2171, 2189, 2192, 2242, 2260, 2281, 2325, 2325, 2356, 2396, 2396, 2400, 2407, 2416, 2486, 2513, 2513, 2526, 2530, 2554, 2554, 2555, 2558, 2869, 2869, 2891, 2899, 2904, 2906, 2907, 2907, 2908, 2911, 2915, 2922, 2985, 2994, 3031, 3032, 3056, 3112, 3113, 3114, 3114, 3114, 3120, 3122, 3122, 3132, 3232, 3234, 3267, 3282, 3318, 3318, 3320, 3320, 3368, 3368, 3373, 3373, 3388, 3407, 3411, 3419, 3420, 3420, 3446, 3453, 3462, 3469, 3475, etc., B13, B14, B31, B34, B38, B38, B39, B39, B85, B87, B88, B96, B98, B108, B108, B109, B109, B131, B134, B139, B202, B210, B211, B260, B273, B311, B323, B323, B324, B324, B325, B327, B327, B327, B344, B349, B383, B389, B390, B442, B451, B469, B470, B472, B473, B474, B478, B479, B482, B482, B485, B486, B492, B493, B493, B493, B493, B494, B498, B501, B502, etc. kimlär bir nomuγ ödgürmäsär bilmäsär 「若於一法未達未知」 2047, kašip tngri burxan ödintä bar ärti bir toyïn 「迦葉佛時有一苾芻」 2486, bir orunluγ nomlar bolur tört tüš 「同地有四果」 H34R34; bir yintäm 「唯」「唯一」 805, 1803, 2242, B1192, B1698, B1894, B2201, H28V9, etc.; bar bir baxšï 「有一師」 2985, 3031, 3289, 3389, etc. bar bir baxšï sözlär 「有一師云」 4538; bir täk 「同一」「同じく」 109, 110, 367, 368, 1615, 1618, 2891, 2904, B13, B325, etc. inčip isig tözlärï bir täk bolmïšï täg 「而媛性同」 B1058, bir täk saqïnmïš üčün bir tïltayïγ anïn adamïš ol saqïnč-larï bir tep 「同想一因故名想一」 H28V42, bir-i bir-i barča äzrua quvrayïnïng birlä bir täk ärmäz üčün anïn adamïš ol äťöz-lärï öngi tep 「一一皆與梵衆不同故名身異」 H28V48; bir täk bir 「同一の」「同じ」 2907, 3368, 3942, B323, B324, B327, H28V15, H29V13, etc. alqu aqïγlïγ nomlar bir täk bir öčmäklig mü 「一切有漏法同一擇滅耶」 3368; bir öd「同時」 1661; bir uγušluγ「同類」 B87, B202, B210, B211, H30V4, bir uγušluγ köngülkä körü 「望同類心」 B202

b.-i 4075, B1071, B1072, B1146, B1419, B1419, B2223, H28V47, H34R19, H34V7

b.-in 953, 1164, 1548, 3386, 3630, B1451, B1456, B1459, B1459, H35R63, H39R38

b.-indä H30V17

b.-ining 969, B273, H34V2

b.-ig 2238, 3381, B1451, B1998

b.-li B1669

b.-si 1755, 1756, 1809, 2542, B328, B760

b.-sin 822, 1549, B1423; b.-isin B1423

birär

「一つずつ」「各一」 127, 130, 131, 964, 964, 1591, 1591, 1990, 2024, 2822, 2954, 3100, 3289, 3387, B237, B237, B963, B1164, B1164, B1430, B1448, B1650, B1722, B1993, B1998, B2051, B2051, B2421, H25R46, ašnuča birär birär yörä tükätdi ärti 1591, ärkliglärning adqanγularnïng öngin öngin birär parmanusï tayaq adqaγ bolup 「根境各一極微爲所依緣」 B1993; bar birär baxšïlar 「有一師」 3289, 3387, H34V34,37,49

b.-tä B1073, B1073

birgärtmäk

「同等」 karikda sözlämäki ärsär ulatï tep birgärdmäk birikdürmäk tardïp turγurmaq tep 3021

birgärü

「共に」「俱に」「同じく」 283, 1086, 1756, 1781, 2171, 2495, 2701, 2915, 3282, 3447, 3454, 3835, 3838, 3842, 3850, 3853, 3922, 3993, 4063, 4072, B222, B314, B384, B485, B623, B645, B687, B688, B978, B981, B0670, B1040, B1077, B1429,

B1438, B1441, B1443, B1445, B1452, B1454, B1458, B1461, B1463, B1481, B1519, B1521, B1524, B1526, B1667, B1668, B1796, B1797, B2019, B2031, B2071, B2228, B2230, B2233, B2243, B2246, B2280, B2349, B2420, H25V27, H30V56, H32V52, ken sanï mïng kišilär birgärü birikip tardïp ündürüp 「後數千人同共曳出」 2495, azuča ymä alqu nomlarta birgärü bululur iki türlüg öčmäklär 「或於諸法俱得二滅」 3835, inčä qaltï yula yaruqï ïraq yaqïn iki bulung yïngaqlarqa birgärü tägip 「譬如明燈遠近二方俱至」 B1524

birik-

「同じくする」 sudur adïrïlmaq uyurïnda ni'kaylar yörüglär birik-mäz 「由經有別宗義不同」 2393, anïn ün yula yaruqï birlä birik-mäz 「故聲與彼燈明不同」 B1678

b.-gülük 2057

b.-ip 1656, 2495, 2941, 2946, SE29

b.-mäk B467, B467, B471, B474, B474

b.-mäklig 2910

b.-mämäki 2566

b.-mäz 840, 1428, 2351, 2393, 2399, 3198, B1413, B1472, B1540, B1547, B1678, H27R56

b.-sär 3567

b.-ür 2219, 2221, H27R50

biriktürmäk

「結合」 3021, cf. birgärtmäk

birkyä

（bir「一」の指小表現）bultuqmaz birkyä ymä kertününg yörügi körmädük ärip ämtï körgülük 「無一諦理未見今見」 H38V15

birlä

「・・と」「・・と俱に」 109, 110, 161, 167, 168, 228, 281, 366, 528, 570, 580, 588, 598, 602, 647, 656, 657, 659, 662, 720, 779, 790, 790, 793, 793, 801, 803, 804, 805, 850, 954, 984, 985, 985, 1095, 1100, 1427, 1439, 1440, 1442, 1601, 1629, 1631, 1639, 1656, 1661, 1734, 1749, 1777, 1781, 1841, 1893, 1896, 1896, 2056, 2292, 2351, 2399, 2409, 2416, 2421, 2574, 2689, 2701, 2717, 2718, 2719, 2721, 2722, 2723, 2725, 2731, etc., B30, B31, B33, B85, B131, B147, B321, B321, B331, B390, B517, B561, B562, B565, B574, B580, B580, B582, B623, B623, B656, B699, B699, B699, B713, B725, B755, B758, B803, B859, B861, B863, B864, B913, B919, B921, B924, B926, B928, B929, B931, B990, B0670, B1009, etc., H26R4, H26V22, etc. qulγaqta ulatï biliglär birlä adïrtsïz üčün 「與耳等識無差別故」（與）B1046, uqïtmazï uqïturï birlä öngi mxabutlartïn tuγar 「無表與表異大種生」（與） H29R22, ol yörügnüng ad birlä bolmaz üčün birlä bolmaqlïγ yörügi 「彼義與名無俱理故」（與、俱） 4048, bular ikägü birlä dyan üzä üklimiš ašïlmïš tutyaqsïz öngisiz maxabut 「此二俱依定所長養無受」 H29V9; birlä yaratïl- 「相應する」 168, 790, 793, 985, 2421, B30, B574, H26V2,45, etc. tärs körüm sezik birlä yaradïl-miš ulatï qamaγlïγsïz biligsiz altïγu 「邪見疑相應及不共無明六」 2846, yintäm köngül bilig birlä yaradïl-mïš ädgü bilgä bilig 「唯意識相應善慧」 B919; birlä yänä 「竝びに」「併せて」 528, 570, 580, 588, 647, B131, B147, H28R16, H28V16, etc. ulatï eyin yorïdačïlarï birlä birlä yänä yeg adruq yevigining tizigining adï bolur abidarïm tep 「及與隨行并勝資糧名爲對法」 2292; birlä tuγ- 「俱生する」 2722, 2723, 2725, B926, B1009, bilig uyurïnta üklip ašïlïp birlä tuγ-mïš maxabutï 「由識長益俱生大種」 B1009; birlä bolmaq 「俱有」 H26V51; birlä bolmïš nom 「俱有法」 B561, B565, B580

birläki

「俱にある」「并する」 1599, 1620, 1780, 4009, B566, H31R58, H31R62, munï birläki beš yükmäkning yumdaru adï bolur abidarïm tep; beš biliglär birläki bilgä bilig 「五識俱慧」 B932, B940, B942, ikinti padakï ärsär tägmäzkänki tayaq

dyanqa tayaqlïγ toquz ooqsuz yollar birläki aqïγsïz sanvar-lar ärür「第二句者依未至定九無間道無漏律儀」 H31R60, üčägününg birläki basutčïsï ärsär barča beš yükmäk tözlüg ärür「三并助伴皆五蘊性」 H39V5

birök

「若し」「設し」 80, 103, 110, 125, 152, 154, 159, 166, 171, 226, 234, 279, 283, 284, 285, 313, 314, 315, 342, 343, 369, 373, 553, 555, 566, 569, 573, 575, 581, 627, 629, 680, 689, 707, 708, 709, 712, 713, 713, 746, 756, 769, 771, 782, 800, 812, 822, 823, 875, 961, 979, 1157, 1353, 1355, 1401, 1412, 1445, 1451, 1453, 1518, 1525, 1624, 1686, 1759, 1770, 1773, 1846, 1976, 1984, 2000, 2002, 2003, 2012, 2019, 2020, 2073, 2082, 2101, 2190, 2230, 2244, 2254, 2265, 2269, 2274, 2276, 2323, 2352, 2366, 2412, 2415, 2416, 2420, 2422, 2424, 2431, 2436, 2439, 2441, 2442, 2446, 2469, 2472, 2482, 2548, 2553, etc., B91, B103, B172, B205, B217, B224, B241, B257, B258, B267, B292, B296, B312, B335, B346, B396, B426, B452, B506, B508, B529, B598, B603, B629, B631, B636, B646, B650, B660, B749, B766, B794, B815, B836, B840, B842, B953, B975, B976, B996, B1007, B1019, B1033, B1039, B1049, B1062, B1076, B1078, B1080, B1082, B1085, B1087, B1087, B1090, B1091, etc., H25V15,53,63, etc. birök sözläsär yïlayu abidarimïγ bu oq inčip munï buldurdačï bu alqu bilgä biliglär šasdrlar ymä「若說世俗阿毘達磨即得此諸慧及論」 1686, birök anday ärsär bïšrunmaq adïn yörüngäkin ödrü išsiz bolur「若如是者修餘對治則爲無用」 3404, birök tözining bälgüsining uyušïn tudsar adï bolur tägmäk tep「若就體相無間名至」 B1503, birök bolsar tükällig bolmaqï azuča näčä tänglig öd ärtginčä bolur「設有成就爲經幾時」 H32R2; kimlär birök「誰」「諸」 kimlär birök tükällig bolurlar qayu sanvarlarta tep「誰成就何律儀」H31R22, kimlär birök bolsar dyan sanvarïγ「諸有獲得靜慮律儀」 H31V41, kimlär birök ornanïp tursarlar sanvarta asanvarta ulatï otra turdačï-ta「諸有安住律不律儀及住中者」 H32R24

birtämläti

「永く」「畢竟に」「究竟に」 203, 311, 514, 618, 640, 670, 681, 681, 692, 701, 703, 719, 750, 841, 856, 872, 874, 1404, 1404, 1406, 1410, 3142, 3598, 3599, 3603, 3608, 3620, 3626, 3651, 3652, 3653, 3659, 3760, 3765, 3855, 4088, 4125, 4139, 4164, 4171, 4244, B597, B674, B692, B745, H31R53, H35V15, H37V67; birdäm-lädi 754, 1865; munï üzä ödrü adï bolur közüg birdämläti taryaryalï umïš tep「是則名爲眼得永斷」 B692, birdämläti taryarmïš üčün alqu nizvanïlarïγ「永斷諸惑故」 618, kirlig bilmämäkig ök birdämläti taryarurlar「以染無知畢竟斷」 856, anï adqandačï nizvanïlar(ïγ) birdämläti taryarmïš ödtä「緣彼煩惱究竟斷時」 B674

birtämlig

「永く」「畢竟に」「究竟に」 609, 665, 669, 671, 678, 688, 693, 694, 695, 721, 727, 729, 1073, 3307, 3308, 3365, 3596, 3611, B665, B1538, yindäm burxan adï ködrülmišlär ök bulu yrlïqap birdämlig yörüngäkin「唯佛世尊得永對治」 609; köz birdämlig umayu kärgäk öng körgäli「眼應畢竟不能見色」 B1538, anï adqandačï nizvanïlar(ïγ) birdämlig (tarïqmïš) ödtä「緣彼煩惱究竟斷時」 B665; birtämlig taryarmaq「永斷」 3336, 3367

biti-

「書く」 bu sudur vinay abidarimïγ tägimlig ol bidi-gäli kägdätä 2522

biz

「我ら」 340, 2253, 2798, 3386, H28V39,50, biz üküšinčä angar tayaqlïγïn yördümüz abidarimïγ「我多依彼釋對法」 340; -biz（人稱語尾） 851, 1020, 2253, 2529, 2826, 2851, 2895, 2967, 3036, 3099, 3310, 3623, 3708, 3714, 3742, B855, B1002,

B1180, biz barča ärür-biz uluγ äzruatïn tuγmïš 「我等皆是大梵所生」 H28V39

bizing
「我らの」「我らのもの」 B1180, H29R16, bizing taplayïmïzta B1180, bizing-täkičä ärsär amtï ärmäz 「不我今」 2297, anï üčün bizing taplanmazta tapladïlmaz bu yörüg 「是故我宗不許斯義」 H33R29
b.-tä 1224
b.-täkičä 2297

bod
bod sïn 「形」 B1917, B1929, H28V26, köngülnüng yoq üčün bod-ï sïn-ï töz körki 「意无形質」 B1916, uqïtur qïlïnč tuγmïš ödtä azu iišläšip buzulur artayur mu töz ät'öznüng bod sïn ülgüsi 「表業生時爲要破壞本身形量」 H29V20
b.-ï b.-ï sïn B1916
b.-ïnïng b.-nïng sïn-ïnïng B1914

bodistv
< Skt. bodhisattva 「菩薩」 364, 2158
b.-lar 540
b.-larnïng 365, 1035, 1044, 1048, 1059
b.-nïng 333

bodul-
「染まる」「分別する」 ken amranmaqqa bodul-maqtïn öngi üdrüldüktä 3849, inčip alqu tüzünlär bodul-maqtïn öngi üdrülgü ödtä 「然諸聖者於離染時」 H37R37, turyurmïš üčün ayïγ bodul-maqlïγ yoγun saqïnčïγ 「起惡分別尋思故」 H27R35; saqïnč bodul- 「分別する」 H27R39, činkertü amranmaq ärsär qaltï kišilärning saqïnč bodul-maqqï ärür 「眞欲謂人分別貪」 H27R26
b.-maqtïn 2987, 3849, H37R34, H37R46

bodulmaqlïγ
「有染」 4460
b.-ta 4576

boγanaq
bulït boγanaq「雲霧」「雰霧」 bulïd boγanaq bük bolup qararmïšïnta 「雲霧晦冥」 B880, kün tngrining yadïlmïš isig čoγï üzä bulït boγanaq arïγlayu tegü täg ačïlduqïnta「烈日舒光雰霧廓清」 B894

boγay
「下」 näčä inčip tayaqï ediz boγay bolmaq üzä tängikmäsär B1952
b.-sïz B1954

boγul-
čigil- boγul- 「緊張する」 yoïqï mangïγï čigil-ip boγul-up anïlayu oq boš taš adlamamïšï täg 1009

boγuz
「喉」 aš üzäsintä aš birlä yörgälip boγuz-qa enär B1962

bol-
「・・と爲る」「・・が成ずる」 aqïγsïz beš yükmäkning adï bol-ur abidarim tep 「無漏五蘊名爲對法」 1613, vinaytaqï ulatï sudurtaqï ol bol-ur yeg adruq 「於律及經彼爲殊勝」 2225, köztä ulatï ärkliglär biligkä tayaq bol-maq üzä yaqïn üčün 「眼等爲此所依親近故」 B119, köngüllär barča kkirlig bol-γu kärgäk 「應一切心皆成染汚」 B59, öngüg adqandačï köngül bilig ymä ök körüm bol-γu kärgäk 「緣色意識亦應成見」 B1064, anïn alqu köngüldäki nomlarnïng bol-maz ičdin sïngarqï bolmaqlïγ müni qadayï 「故諸心所無成內失」 B84; 「有る」「在る」 nomlamïšča alqu nomlar qavïrasïnča bol-ur iki türlüg 「說一切法略有二種」 2592, angar oxšadï köz täk bol-ur tört türlüg 「彼同分眼但有四種」 B381, kim bol-γay bilgälärtä inčip qïldačï bu savïγ 「誰有智者當作是言」 B1012, ärdmiš ödtä bol-γu kärgäk 「應在

過去世」 B260, bol-maz üčün birlä bolmaqlïγ yörügi「無倶義故」(無) 4053; bol-maqlïγ taluy「有海」 nizvanïlar uyurïnda yerdinčü qalngulayur bol-maqlïγ taluy-ta 2039; kenki bol-maq「後有」 uyurlar alqïp sansarnïng učïn qïdïγïn ikiläyü täginmägäli kenki bol-maqïγ「能盡生死際更不受後有」 4245; üč bol-maq「三有」 ymä ök telürlär tigirtlig ulatï ämgäk tergin yertinčü körüm orunï üč bol-maq tep「亦説爲有諍及苦集世間見處三有等」 4306; alqu bolmaq「諸有」 üklitdäči ašdačï tep yörüg'ol alqu bolmaq-qa tudyaq-lanmaq-ïγ「增益諸有取義」 2864; 「可となる」 ïraq yaqïn bulung yïngaq tayaq bol-ur üčün bilmäk uqmaqï「方維遠近可了知故」 B1573, qongrayuqa tayaqlïγïn ün šu bol-zun amrïlmaqï「依鈴聲可息」 B1659; -γalï/-gäli bol-(可能) 58, 137, 157, 462, 822, 873, 919, 1190, 1399, B134, B288, B311, H25R27,41, etc. atïrd öngi tïlday basudčïlarïγ bol-maz üčün bul-γalï「差別因緣不可得故」(不可) B63, köz bolup bilig yoq bolmaq üzä bol-ur ärmäz täglük ada-γalï「非・・有眼無識可名盲者」(可) B1116, qayu tïldaγïn bol-ur bil-gäli「何以得知」(得) 904, bir ikindikä adïrïlïšmaz tïdïlïšmazï bol-mïš ol adï bol-γalï ičdin sïngarqï tep「無相間隔得名爲内」 B97; -mïš/-miš bol-dï (過去の確定) 480, 1021, 1294, 1683, 1917, 1956, 2853, 2926, 3591, B304, B414, etc. üsdün qavïrasïnča yörä tükäd-miš bol-dï üč türlüg abipiraylarïγ 480

b.-dačï 278, 541, 1182, 1250, 1438, 3213, 3369, 3370, 3390, 3395, 3406, 3553, 3464, 3557, 3557, 3736, 4535, B153, B545, B2016, B2018; b.-tačï 1432

b.-dačïsïn 427, 434, B17

b.-dačïγ 4528

b.-dï 104, 480, 961, 1021, 1022, 1025, 1294, 1683, 1917, 1917, 1956, 2478, 2853, 2875, 2926, 3591, 3593, 3862, 3863, B304, B414, B630, B815

b.-duqta 994, 1077, 3801, B96, B1365

b.-γalï 310, 414, 628, 697, 951, 1213, 1230, 1248, 1250, 1255, 1270, 1467, 1637, 1644, 1652, 1657, 1668, 1672, 1772, 1781, 1787, 1793, 1798, 1914, 2432, 2515, 2705, 2718, 2900, 2901, 3581, B23, B29, B97, B130, B136, B137, B197, B198, B200, B200, B202, B241, B259, B332, B498, B687, B1039, B1052, B1056, B1211, B1398, B1473, B1530, B1687, B1753, B1957, B1979, B2000, B2033, B2036, B2089, B2131, B2159, B2161, B2172, B2173, B2370

b.-γalïr B1397

b.-γay 111, 161, 184, 771, 801, 1518, 1656, 2519, 2564, 2577, 2653, 2656, 2823, 2852, 2945, 2951, 3157, 3380, 3564, 3734, 4036, B238, B843, B1012, B1262, B1569, B1578

b.-γïnča'qatägi 172

b.-γu 1626, 1651, 1847, 2267, 2272, 2391, 2443, 2557, 2678, 2693, 2712, 2715, 2720, 2722, 2725, 2760, 2761, 2837, 3107, 3109, 3138, 3148, 3149, 3153, 3185, 3295, 3306, 3418, 3446, 3454, 3541, 3565, 3572, 3711, 3712, 3715, 3987, 4011, 4107, 4113, 4119, 4156, 4161, 4182, 4451, 4498, 4514, 4540, B44, B59, B61, B129, B159, B161, B171, B218, B260, B270, B271, B325, B337, B630, B632, B634, B646, B774, B816, B822, B977, B1025, B1064, B1091, B1092, B1124, B1155, B1329, B1516, B1689, B1847, B1872, B2091, B2198, B2212, B2222

b.-γuluq 757, 1159, 2061, 2064, 3375, 3693, 3696, B450, B981

b.-γusïnga B1160, B1310

b.-γuta 1211

b.-madačï 539, 540, 542, 4309, 4328, B47

b.-madï 1518; bolmatï 2493, 2625, 2626, 2709

b.-madïn 541, B19, B732

b.-maduq 239, 2341, 3939, B1121; b.-matuq 62

b.-maduqlar 893

b.-maγay 157, 1774, 1871, 2627, 2629

b.-maγu 824, 1774, 1799, 3150, 3151, 3448, 3452, 3539, 3721, 3721, 4063, B245, B1079, B1118, B1135, B1578, B1593, B1594, B1608

b.-mamaq 2666, 3707, 4076, B731, B1112, B1114

b.-mamaqïn B147, B341

b.-mamaqïnga 3460

b.-mamïš 950, 2783, B2033

b.-mamïšï 283, 520, 843

b.-maq 35, 126, 237, 285, 291, 295, 317, 633, 760, 962, 1048, 1122, 1223, 1256, 1262, 1427, 1443, 1487, 1489, 1503, 1504, 1508, 1509, 1510, 1529, 1529, 1530, 1531, 1533, 1535, 1537, 1659, 1860, 1894, 1948, 1950, 1951, 2312, 2318, etc., B117, B119, B130, B138, B373, B472, B479, B698, B902, B1023, B1024, B1066, B1070, B1112, B1113, etc.; üč b.-maq 4306, 4471

b.-maqï 412, 428, 440, 1042, 1479, 1661, 2907, 3519, 3618, 3998, B101, B102, B121, B186, B203, B210, B214, B310, B407, B409, B459, B460, B496, B707, B882, B1460, B1894, B1894, B2193, B2236, B2373, B2387, B2388, B2390, B2406

b.-maqïγ 174, 1281, 3806; kenki b.-maqïγ 4245, 4345

b.-maqïn 151, 1337, 2894, B147, B415, B1270, B1366

b.-maqïnïng 1319, B411, B2175

b.-maqïntïn B433, B703; b.-maqïndïn 2219

b.-maqlar 1528

b.-maqlarta üč b.-maqlarta 4472, 4561

b.-maqlïγ 111, 159, 170, 173, 850, 1292, 1561, 1564, 1699, 2703, 2910, 3125, 3460, 3489, 3501, 3514, 3530, 3550, 3683, 3700, 3999, 4048, 4054, 4056, 4131, B84, B88, B276, B363, B420, B462, B478, B946, B1001, B1082, B1161, B1169, B1193, B1250, B1268, B1874, B2143; üč b-maqlïγ 4343; b.-lïγ taluy 2039, 2100, 2102

b.-maqnïng 4471, 4471, 4561, 4561, 4565

b.-maqqa 2864, 2879

b.-maqqatägi 4579

b.-maqta 2067, 4157

b.-masar 1392, 1401, 2062, 3746, 4574, B168, B259, B725, B734, B994, B1066, B1121, B1126, B2153

b.-mayu B61, B161, B662, B1230, B1836, B1838, B2198

b.-maz 568, 578, 625, 690, 748, 768, 791, 850, 961, 979, 983, 1066, 1075, 1088, 1120, 1337, 1401, 1443, 1650, 1661, 1664, 1730, 1746, 1751, 1774, 1813, 1823, 2015, 2031, 2060, 2075, 2178, 2250, 2254, 2407, 2436, 2462, 2474, 2477, 2517, 2526, 2536, 2732, 2750, 2769, 2788, 2797, 2803, 2803, 2849, 2948, 2964, 2966, 3015, 3062, etc., B35, B46, B63, B83, B96, B163, B192, B214, B222, B223, B225, B233, B242, B245, B273, B310, B311, B318, B324, B326, B326, B332, B333, B337, B337, B340, B348, B375, B411, B428, B448, B466, B471, B490, B547, B636, B715, B723, B735, B777, B803, B807, etc.

b.-mazï B1662

b.-mazïn 4010, 4024, 4031

b.-mazlar B597

b.-mïš 214, 217, 258, 399, 406, 409, 418, 523, 590, 638, 751, 813, 914, 923, 930, 937, 943, 992, 1009, 1029, 1139, 1148, 1152, 1200, 1236, 1287, 1442, 1538, 1575, 1616, 1621, 1647, 1722, 1820, 1823, 1857, 1863, 1864, 1870, 1905, 1915, 1945, 2007, 2008, 2008, 2162, 2213, 2216, 2294, 2397, 2563, 2617, 2620, 2625, 2630, 2707, etc., B19, B56, B97, B115, B118, B120, B121, B164, B166, B215, B242, B243, B271, B295, B321, B321, B331, B394, B474, B487, B496, B497, B555, B561, B565, B580, B580, B683, B685, B686, B688, etc.

b.-mïšï 2249, 2256, B293, B897, B1058, B1538, B1538

b.-mïšïn 1501, 4122

b.-mïšlarïγ 1186

b.-mïšqa 687, 1176, 1182, 1568, 1782, 2396, B1738, B2093

b.-mïšta 2134, 2329, 2362, 2369

b.-sar 272, 649, 1433, 1651, 1662, 1738, 1766, 1871, 2479, 2484, 2565, 2684, 2738, 2763, 2768, 2800, 2833, 2960, 3143, 3144, 3398, 3437, 3449, 3465, 3590, 3646, 3662, 3663, 3744, 3827, 3830, 4050, 4057, 4066, 4071, 4114, 4236, 4543, 4558, B50, B92, B98, B347, B350, B404, B500, B522, B527, B530, B696, B741, B768, B1902, B1097, B1200, B1282, B1328, B1657, B1696, B1721, B1826, B1836, B2060, B2094, B2105, B2107, B2121, B2131, B2223

b.-sarlar 123, 1466

b.-tačïsïn 280

b.-u 705, 1651, 2484, 2684, 2958, 3420, 3451, 4258, B394, B431, B639, B643, B1309, B1334

b.-up 311, 337, 387, 430, 538, 539, 540, 577, 701, 1123, 1123, 1124, 1198, 1202, 1217, 1226, 1232, 1235, 1565, 1649, 1649, 1799, 1325, 2624, 2714, 2724, 2744, 2800, 3694, 3920, 3920, 4009, 4014, 4308, 4327, 4332, 4449, 4535, B22, B30, B34, B128, B134, B156, B190, B224, B349, B353, B469, B473, B474, B484, B546, B699, B731, B880, B932, B957, B1018, B1079, B1115, B1199, B1203, B1254, B1254, B1368, B1889, B1977, B1979, B1993, B2082, B2142

b.-ur 37, 41, 58, 113, 137, 176, 181, 181, 215, 218, 228, 238, 261, 263, 264, 268, 268, 268, 276, 280, 312, 332, 335, 336, 336, 337, 344, 346, 368, 414, 450, 454, 457, 458, 460, 462, 462, 465, 468, 474, 485, 509, 531, 570, 574, 576, 579, 581, etc., B1, B2, B2, B4, B14, B16, B17, B18, B20, B24, B28, B36, B40, B41, B46, B48, B50, B54, B57, B58, B60, B68, B72, B81, B82, B86, B95, B98, B101, B106, B110, B117, B123, B124, B130, B132, B137, B140, B143, B145, B155, B156, B157, B158, B160, B165, B166, B169, B173, B177, B191, B199, B200, B201, B203, B228, B230, B243, B249, B250, B252, B255, B261, B261, B262, B264, B265, B270, B274, B277, B280, B281, B282, B282, B283, B285, B287, B288, B289, B291, B298, B312, B313, B314, B330, B333, B338, B342, B351, B353, B357, B360, B361, etc., H25R5, etc.

b.-urï B2189

b.-urïn 271, 338, 1672, 2296, 2318, 2609, 3096, 3929, 4004, 4024, 4031, 4043, 4308, 4320, 4323, B65, B194, B290

b.-urïnga B1074

b.-urlar 123, 1399, B8

b.-zun 622, 927, 1924, 2545, 3938, 3973, 4083, 4359, 4380, 4455, 4456, B62, B162, B1098, B1230, B1659, B1863

boltur-

「なす」 munung boltur-tačï mxabtar-ï öngi ärür uqïtur-nung tayaqïnta「此能造大種異於表所依」（能造） H29R20; igid-däči boltur-dačï 「長養」 muntaγ osuγluγ sanvarnïng azuča ymä atï ol igid-däči boltur-dačï tep 「如是律儀或名長養」 H33V33; -γalï/-gäli boltur- 「得させる」（可能） boldur-ur tuγur-γalï tngri yerindä 1978

b.-maz 1979

b.-ur 1978

boluš-

「なりあう」 yintäm nom nom birlä bir ikintikä tïldaγ tüš boluš-ur 1392; boluš-maqlïγ uγuš「朋類」 köngültäki nomlarnïng boluš-maqlïγ uγuš-ï ardayur üčün「心所朋類壞故」 B207

b.-maqï B501, B502

b.-maqlïγ b.-maqlïγ uγuš B207, B220, B226

b.-maz B1527

b.-ur B1392

boš

「自由」 anïlayu oq boš taš adlamamïšï täg 1010

bošyur-

「教える」 bačaq sanvarïγ tangda erdä qodï orunta baxšïtïn tägingülük ol bošγur-dačï eyin sözläp tükäl bölükin etig yaratïγïγ öngi ketärip kün tün üz-ä「近住於晨旦下座從師受隨教說具支離嚴飾晝夜」 H33R63; ögrätin- bošγur-「學ぶ」 ymä ök ärür üčün alqu ni'kaytaqïlarnïng ögrädin-gülük bošγur-γuluq nomï ymä ök ärür tngri burxan yrlïqamïš 2208; bošγur- tägin-「教授」 muntaγïn temin bütär baxšïtïn bošγur-maq tägin-mäk「如是方成從師教受」 H33V15

b.-dačï H33R63

b.-γuluq ögrätin-gülük b.-γuluq 2206, 2208, 2209, 2212

bošyut

「學」 uqïtu tükätmiš bolur alqu orunlartaqïsïn ken uqïtur bošyut-larta ulatïlarnïngïn 「已辯諸地當辯學等」 H34R44

bošyutčï

bošyutčï tïtsï 「學徒」 195, 255, 294, 302, 1546, 1558, 1921, ödlätäči ärigladači üčün bošyudčï tïdsï-larïγ 「教誡學徒故」 1546

bošyutluγ

「有學」「學」 B856, B866, B868, B875, B892, B907, B915, B1291, H34R45,47,49, bošyutluγ köni körüm üzä nomuγ körmäk ymä andaγ oq ärür 「有學正見觀法亦爾」 B892, bu yänä bolur iki türlüg qaltï bošyutluγ bošyutsuz tep 「此復二謂學無學」 H31R41 ; yangï bošyutluγ 「新學」 4224, 4220, 4223

b.-da H34R64

b.-larnïng B867

b.-uγ B872

bošyutsuz

「無學」 823, 824, 3454, 4408, B831, B856, B871, B875, B897, B908, B916, B917, B1291, H34R45,49, bošyudsuz köngül tuγmïš ödtä uγrayu tïdïγïntïn qudrulur 「無學心生時正從障解脫」 B831, bošyudsuz köni körüm üzä nomuγ körmäk ymä andaγ oq ärür 「無學正見觀法亦爾」 B897

b.-larnïng 1863, 2990, 4395, B870

b.-larta 852

b.-ta 830, 844

b.-uγ B869

bošu-

「許す」「恣にする」「自由にする」 bošu-yur män säning ödüngüngin ayïdyungïn 「汝恣請問」 1676, burxan adï ködrülmiš bošu-mïš üčün xormuzta tngritä ulatïlarnïng nä ymä ödüngüsin ayïdyusïn 「以佛世尊恣天帝等所請問故」 1673

b.-mayïnča 1398

b.-mïš 1673, 1678

b.-sar 1401

b.-yur 1676

bošul-

「自由になる」 kišäi üzä kišänlänmišlär ken bolmïš ötdä bošul-yalï 1009

bödi-

「舞う」 altïnč yïd yïpar türtünmäk bäzäk üzä etinmäk bödi-mäk ïrlamaq körmäk tïnglamaq 「六塗飾香鬘舞歌觀聽」 H30V42

b.-mäk H30V49, H33V68

bögülämäk

ridi bögülämäk 「神通」 1417, čoγluγ yalïnlïγ küčining qut küsüš bermäkining ridi bögülämäk-ining uγurïnda ärmäz 「不由威力與願神通」 1375

b.-ining ridi b.-ining 1375, 1381

bögülänmäk

ridi bögülänmäk 「神通」 1384, 1451, H27V41, näng čoγluγ yalïnlïγ küčining qud küsüš bermäkining ridi bögülänmäk-ining uγurïnda ärmäz 「不由威力與願神通」 1313; bögülänmäk bilgä bilig 「通慧」 H27V43, näng yügärü dyanta bögülänmäk bilgä bilig-tä käzä yorïmaqïγ iišläšip ärmäz 「非要現遊靜慮通慧」 H25V62

b.-ig ridi b.-ig 2132, 3135

b.-in ridi b.-in 3136

b.-ining ridi b.-ining 1313

b.-li ridi b.-li 1447

b.-tä ridi b.-tä 1416, 1446

bögün-

saqïn- bögün- 「思惟する」; könisinčä saqïn-maq bögün-mäk 「正思惟」 tünlylar käntü özläri ägsük bolmaq üzä ičdin sïngarqï könisinčä saqïn-maq bögün-mäk-kä 1257, öčmäk uyur üzä saqïn-urlar

bögün-ürlär öčmäkkä 「以滅行相 思惟於滅」 H38R3
b.-gäli saqïn-yalï b.-gäli H26R8
b.-mäk könisinčä saqïn-maq b.-mäk 1253, 1409
b.-mätin saqïn-matïn b.-mätin 3536
b.-mäkkä könisinčä saqïn-maq b.-mäkkä 1257
b.-mäkläri könisinčä saqïn-maq b.-mäkläri 1262
b.-ürlär saqïn-urlar b.-ürlär H38R2

böl-
「分ける」「判断する」 böl-gäli sudurnung udušulmïš yörüglügin udušyuluq yörüglügin 「判經了義不了義」（判） 2378； böl- adïrtla- 「分別する」「簡擇する」 ～ böl- adïr- munday osuyluy üküš tälim uyušluy böl-gülük adïrtla-yuluq savlarta 「如是多種分別中」 939, öngin öngin angayu böl-är adïrtla-yur üčün tört türlüg tüzünlär kertüsin 「各別簡擇四聖諦故」 3312
b.-ä b.-ä adïrtla-yu 861, 3099, 3100, 4096
b.-är b.-är adïrtla-yur 3312, B2328
b.-däči 3318, B1292
b.-gäli 2378； b.-gäli adïrtla-yalï 1654, 2071, 2616, 2750, 3113, 3120, 4162, B1294, B2330, B2332
b.-gälir b.-gälir adïr-yalïr 2086； b.-gälir adïrtla-yalïr 3030
b.-gäy b.-gäy adïrtla-yay 2850, 2895
b.-güči b.-güči adïrtla-yučï H31R42, H35V61
b.-gülük b.-gülük adïrtla-yuluq 939, 2889
b.-gütä b.-gütä adïrtla-yuta 1657
b.-mäk b.-mäk adïrtla-maq 70, 959, 1568, 2586, 2589, 3316, H25R4
b.-miš b.-miš adïrtla-mïš 967, B2401
b.-sär b.-sär adïrtla-sar 484, 3053
b.-üp 1051, 2918, 3112, B1889, B1911, H37V69；
b.-üp adïrtla-p 3069； b.-üp adïr-ïp B428

bölük
「品」「部」「分」「支」 70, 620, 1206, 1207, 2144, 2325, 2338, 2442, 2451, B527, B529, H25R4,55, H30R4, etc. qaltï taryarmaq ärür alqu adqanyulartaqï alqu bölük-lärtäki qaranyu qararïylarïy 「謂滅諸境一切品冥」 605, uyušlar bölük-i 「界品」 33, tigirädür täprädür üčün ädgü bölük-lärig quruldurur üčün özli adïnlïy 「觸動善品故損害自他故」 4422, toquz bölük nizvanïlar 「九品煩惱」 B527, birök bu orunta üč bölük-lärig bolsar bulyalï uqïdmïš ol sav tayaqï bolur tep 「若於是處三分可得」 4066, qaltï tört türlüg ög turuqlar yänä ulatï säkiz bölük tüzün yoluy 「謂四念住廣說乃至八支聖道」 2451, anta sözlämiš ol beš ažunlarta tuyum ulalur kšanta uyrï yïqï bolur bolyuluq beš bölük-täki alqu nizvanïlar tep ažunuy ulatï kirgütäki köngülüg 「彼說五趣續生心中容有五部一切煩惱趣及入心」 H28R35
b.-däki B801； bölük-täki 3415, 3446, 3577, 3580, B709, B800
b.-i 30, 31, 33, 34, H33V40
b.-in H33R64
b.-ingä H35V12
b.-lär 31, 620, 725, 726, 2326, 4068, 4438
b.-läri H29V13
b.-lärig 61, 595, 996, 999, 1004, 4066, 4422, 4435, H33V17
b.-lärining 297
b.-lärkä 1560, 1564
b.-lärtä 623, 624, 661, 662, 2324, 3272
b.-lärtäki 605, 613, 750, 916
b.-lärtäkig 725
b.-lüg 832, 3273, 3419, 3852, B806, H25V4
b.-lügi 2766, 3276, B797
b.-tä 32, B527
b.-täki H28R35
b.-täkig 724

bölül-
「分けられる」 andaqï sav bölül-üp bolur üč 3867； bölül- sačïl- 「分散」
b.-mäk B35
b.-mäz b.-mäz sačïl-maz B1934
b.-üp 3867

bölün-

「分かれる」 bu tïldayïn ni'kaylar bölün-üp säkiz ygrmi bolmïš ol 2397

b.-üp 593, 594, 595, 596, 2397, 3790, B408

bösük

ädgü ögli biliš bösük 「善知識」 1290, 1291, ädgü ögli biliš bösük kim ol 「善知識者誰」 1291

böz

「衣」 yula uγramïš ödtä yarudγalï burnač böz-tä ulatïlarïγ 「燈欲照瓶衣等時」 B1532

braman ～ biraman ～ bramin

< Skt. brāhmaṇa 「婆羅門」 braman 1679, 2513, 3161, 3164, 3169, 3172, 3172; biraman 3167; bramin 2510

b.-a 3164

b.-larnïng 1979

braxmapuroxit

< Skt. brahma-purohita 「梵輔」

braxmapuroxit-taqïtngri-lär 「梵輔天」 H35V55

bu

「これ」「この」 21, 23, 25, 26, 32, 40, 49, 63, 64, 65, 102, 106, 116, 125, 130, 151, 161, 170, 185, 188, 193, 203, 210, 215, 225, 236, 237, 240, 243, 246, 249, 264, 286, 290, 299, 299, 299, 317, 318, 319, 321, 323, 325, 341, 371, 374, 379, 402, 421, 422, 432, 464, 467, 468, 489, 496, 498, 500, 531, 533, 538, 546, 559, 560, 561, 563, 563, 574, 585, 616, 627, 630, 639, 648, 650, 659, 660, 666, 667, 668, 670, 673, 682, 682, 685, 687, 694, 695, 700, 702, 704, 706, 711, 715, 715, 716, 739, 746, 757, 757, 772, 779, 781, 789, 794, 817, 820, 833, 836, 849, 875, 906, 908, 910, 922, 928, 931, 949, 964, 967, 973, 976, 978, 981, 982, 999, 1005, 1054, 1060, 1065, 1076, 1086, 1105, 1116, 1132, 1134, 1135, 1152, 1171, 1193, 1208, 1234, 1257, 1272, 1298, 1325, 1351, 1351, 1356, 1358, 1360, 1366, 1367, 1370, 1376, 1413, 1442, 1443, 1458, 1467, 1495, 1559, 1572, 1574, 1585, 1618, 1620, 1636, 1638, 1645, etc., B3, B5, B6, B7, B33, B36, B37, B42, B61, B80, B138, B151, B151, B161, B191, B213, B213, B222, B239, B240, B247, B250, B253, B275, B281, B290, B293, B294, B296, B298, B330, B332, B345, B389, B420, B438, B442, B446, B447, B451, B456, B458, B481, B516, B524, B531, B539, B542, B564, B569, B572, B586, B589, B590, B599, B603, B618, B621, B624, etc., H25V16, 22, 32, etc. bu uyur üčün ölänmäkkä tušγarγalï azuča ymä uyur üčün körmäkkä tušγarγalï 「此能對向或能對觀」(此) 1817, bu yörüg üzä anïn bulmïš ol abidarim tegüči adïγ 「以此義故得名對法」 1793, bu ediglig nomlarnïng ymä ök adï ol öd yolï 「此有爲法亦名世路」 3949, bu yörmišingizlär andaγ ärmäz 「此釋不然」 B37; birök bu orunta üč bölüklärig bolsar bulγalï 「若於是處三分可得」(是) 4066, bu qayu sudur ol 「是何契經」 H28R12; bu oq inčip ärür 「即是」「此即」 anïn sözläsär kušudira pidakïγ bu oq inčip ärür üčünč tep 「故說雜藏即是第三」 2461, bu oq inčip ärür nirvan 「即是涅槃」 4125, qayu ürlügsüz ärsär bu oq inčip ärür ämgäk 「若非常即是苦」 H36R37, qayu uqïtmïš buyannïng ölgüsi ärsär bu oq inčip anï birlä bir täk ärür 「所辯福量此即同彼」 H35V62

buda

< Skt. buddha 「佛」 buda burxan 506

buγday

buγday qolunga-sï 「麥芽」 B2178, B2182, qaltï adamïš täg kübrüg üni uladï buγday qolunga-sï tep 「如名鼓聲及麥芽等」 B2178

bul-

「得る」「獲る」 mäning üč aγïlïq nomumïn ärdingü alq bul-yuluq ärür 「吾三藏甚爲難得」 2429, ymä ök bul-mïš ol abidarim tegüči adïγ 「亦

得名阿毘達磨」 1693, alqu köngültäki nomlar ymä ök bul-mamïš ol män tegüči adïγ 「非諸心所亦得我名」 B73, bul-u tükädür tuγmaqsïzïn 「已得不生」 B721, bul-dïlar nomluγ asïγïγ 「獲大法利」 2505; tanuqlap bul- 「證得する」 alqu aqïγlïγ nomlarta ïraq öngi üdrülüp badačï bayïndïn tanuqlap bul-mïš qudrulmaqnïng adï bolur bilip öčmäk tep 「諸有漏法遠離繫縛證得解脱名爲擇滅」 3216

b.-dačï B231

b.-dačïlarïγ 2132

b.-dïlar 2506

b.-duqta 3851

b.-γalï 55, 1275, 1285, 2060, 3546, 3548, 4067, 4370, B63, B163, B311, H28R30, H28V4

b.-γïnčaqa-tägi 814, 1036

b.-γu 3131, 3409, 3414

b.-γuluq 1166, 1167, 1171, 2057, 2062, 2063, 2429, B1345, B1347, H32V35

b.-madačïsïn B1043

b.-maduq H26V59

b.-mayay 770, 1452

b.-mamaq B649

b.-mamïš 1912, B73, B99, B178

b.-maq 668, 676, 677, 679, 691, 4186, H32V15

b.-maqnïng 4519

b.-masar 680, 771

b.-maz 1452, 1741, 1742, 1744, 3658, B770

b.-mazlar 1169, 1170

b.-mïš 198, 716, 847, 1001, 1007, 1040, 1631, 1643, 1693, 1730, 1782, 1787, 1793, 1801, 1904, 1909, 1931, 1940, 1953, 2228, 2696, 2790, 3216, 4105, 4386, 4401, 4405, 4439, B255, B729, B738, B771, B1054, B2095, B2397, H30V56, H31R24

b.-mïšï B2176, H31R37

b.-mïšïn 672, 673, 1730

b.-mïšlar 3135, 3848

b.-sar 262, 315, 1730, 2082, 4227, H31R34

b.-u 388, 608, 665, 671, 688, 690, 693, 721, 728, 729, 1728, 3415, 3547, 3549, B721, B724, H28V61; tanuqlap b.-u 3415

b.-up 640, 1029, B453

b.-ur 270, 314, 1733, 1734, 1785, 3549, B645, B780, B2101, H29V26, H32V12

b.-urïn 3380, 3381

b.-urlar 630, 1053, 1073, 1727, 3848, 3850

b.-zun 3978

b.-zunlar 193, 195, 198, 254, 256

bular

「これら」 457, 847, 942, 957, 1137, 1164, 1896, 2341, 2398, 2644, 3046, 3056, 3060, 3061, 3066, 3139, 3317, 3797, 3957, 3969, 4071, 4072, B224, B486, B857, B1291, B2027, B2211, B2224, B2229, B2232, B2239, B2246, B2254, B2258, B2264, B2268, B2271, B2274, B2279, B2288, B2291, B2293, B2374, H29V9, bular üčägü bolur buyanlïγ yevig tizig 457, bular-nïng adï bolur ičdin sïngarqï tïldayï ägsük tep 1269, inčip bular körsär ikinti dyantaqï öngüg 「即此見二定（色）」 B2254, qaltï öngdün sözlägüči tamu yïlqï pret ulatï yalnguq tngri bular-nïng adï bolur beš azunlar tep 「謂前所説地獄傍生鬼及人天是名五趣」 H27V52

b.-nï 298, 386, 2642, 2661, 3904

b.-nïng 136, 1269, 1868, 3389, 3781, B1892

b.-qa H38R47

b.-ta 37, 733

b.-taqïγ 727

bulduqmaz

「無い」「有ること無い」 559, 585, 2273, 3154, 3299, 3349, 3352, 3674, 3736, 3888, 3931, 4121, 4142, 4513, B71, B175, B306, B455, B544, B775, B805, B814, B991, B1147, B1156, B1160, B1334, B1566, B2024, B2116, H38V15, köztä bar üčün yruq bulduqmaz bu mün qadaγ 「眼有明故無斯過」 B1566, bulduqmaz azqya ärsär ymä nom bir basudčïtïn tuγdačï 「無有少法一緣所生」（無有） 3888, köngülnüng arïdï bulduqmaz ödi yorïmayuluq öz adqanγusïnta 「心曾無有時不行

自境」 B71, bultuqmaz tängikmämäklig mün qadaγ「無非等過」 H25R64

bulγalïš-

qadïlïš- bulγalïš-「混同する」 ödrü ämgäkli terginli iki kertülämïng uγurï ödrü qadïlïš-mïš bulγalïš-mïš bolur 4487

b.-maqï qadïlïš-maq b.-maqï 3453

b.-mïš qadïlïš-mïš b.-mïš 4487

b.-mïšlarïnga qadïlïš-mïš b.-mïšlarïnga 297

bulγasuγ

「臨」 nirvan bulγasuγ ödtä ödlämämiš üčün tayanïnglar tep 「臨涅槃時不勸依故」 2267, ketärip arxantlarnïng nirvan bulγasuγ ödtäki qamaγta angkenki köngül köngültäki nomlarïn alqu adïn tuγa tükätmiš köngül köngültäki nomlar 「除阿羅漢臨涅槃時最後心心所法諸餘已生心心所法」 H25R20

bulγaš-

qatïlïš- bulγaš- ～ qatïl- bulγaš-「雜亂となる」「混同する」 ymä bolur ärti kirlig kirsiz nomlar qadïlïš-maq bulγaš-maqlïγ mün qadaγ 2644, alqu öng nomlar qadïlïš-u bulγaš-u yüz yügärü bolur tüz arasïz basutčïtïn tuγmïšï qadïl-maqsïz bulγaš-maqsïz üčün「以諸色法雜亂現前等無間緣生無雜亂」 H25R34, ötrü kälmädük ödki alqu qadïlïš-u bulγaš-u turur nomlarïγ 「便於未來諸亂住法」 H25V41

b.-maq qadïlïš-maq b.-maq 2616

b.-maqlïγ qadïlïš-maq b.-maqlïγ 2644

b.-u qadïlïš-u b.-u H25V25,30

bulït

「雲」 kündüz ülüšintä bulïd tuman yoqaru aγdïnïp 「晝分雲翳上昇」 B889; bulït boγanaq 「雲霧」「雰霧」 B879, B894

bultur-

「得させる」「獲させる」「感じる」（果報を得ること） oγlanqyalarïnga buldur-γu üčün ärip enčgüg äsängüg 「爲子獲安」 1081, munï buldur-dačï bu alqu bilgä biliglär šasdrlar ymä 「得此諸慧及論」 1687, küsämiš üčün kim yerdinčütäkilärkä buldur-γalï nom adïrtlamaqïγ 「欲令世間得擇法故」 2070, 「戒感生天」 čxšapt bultur-ur tängrintä tuγmaqïn dyan bultur-ur ozmaq qutrulmaq-ïn「戒感生天修感解脫」 H35V34-35

b.-dačï 1687, 1688, 1694

b.-γalï 192, 1694, 1695, 1695, 1701, 2070, 2078, H35V38

b.-γu 1080, 1081

b.-up H35V52

b.-ur 305, 306, 308, 1457, 1887

bulul-

「得られる」 basudčïsï ägsük üčün bulul-ur bilmätin öčmäk 「緣不具故得非擇滅」 3628, nomta bulul-γuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi tört padak qïlmïš kärgäk 「於法得滅應作四句」 3767, azuča ymä alqu nomlarta bulul-maz iki öčmäklär 「或於諸法不得二滅」 3857; tuγum üzä bulul-mïš 「生得」 1690, 1716, 1717, 1719, 1807, etc. tuγum üzä bulul-mïš bilgä bilig äšidmäk tözlüg bilgä biligkä tïldaγ bolur 「生得慧與聞慧爲因」 1788, tägšilmäk tušta bolur ärmäz ṭitilip ašnu bulul-mïšï bulul-maqï ašnu bulul-maduq sanvar bulγuluq tïltaγ basutčïlarnïng 「非轉根位有捨先得得先未得律儀因緣」 H3R56-57

b.-γu 3740

b.-γučï H32V53

b.-γuluq 3313, 3326, 3327, 3328, 3344, 3767, 3773

b.-maγu 2466, H33R41

b.-maγuluq 3353

b.-maqï 1779, 3600, 3601, 3734, 3843, 3847, 3850, H30R42

b.-maqlïγ 3400

b.-masar 3406

b.-maz 3616, 3741, 3784, 3787, 3789, 3815, 3857, 3859, 3860, 4142
b.-mïš 1690, 1716, 1717, 1719, 1724, 1739, 1741, 1788, 1810, 3621, 3761, H32V29
b.-mïšïγ 1807, H32V33
b.-mïšta 1764, 1784
b.-sar 3301, 3305, 3357, 3775, 3839
b.-u 3548, 3846, 3937, 4185, B650
b.-up 3352, 3741, 3840, 3841, 3842, 3847, 4141
b.-ur 318, 1725, 1858, 2697, 2698, 3330, 3348, 3351, 3363, 3373, 3388, 3391, 3396, 3399, 3407, 3411, 3462, 3597, 3598, 3612, 3617, 3617, 3628, 3660, 3665, 3669, 3679, 3681, 3728, 3768, 3776, 3779, 3780, 3782, 3785, 3798, 3800, 3802, 3804, 3810, 3811, 3813, 3816, 3823, 3825, 3828, 3830, 3835, 3837, 3838, 3840, 3841, 3842, 3845, 3853, 3854, 3855, 4185, H32V13,14
b.-urïn 54, 264

bulung
「方」 bulung yïngaq 「方」「方角」「方隅」「方維」 2479, B1164, B1401, B1403, B1518, B1524, B1572, B1575, B1579, B1580, B1583, H27V27, 29, 30, H39R15, ïraq yaqïn iki bulung yïngaq-larta bir ödtä 「遠近二方一時」 B1518, näčükin bolγay burun ärkligning ymä ök körmädin umaγay bilgäli ïraq yaqïn bulung yïngaq-taqï yïtnïng adïrdïn 「豈不鼻根亦見能了方維遠近香差別耶」 B1579; on bulung yïngaq yertinčülär 「十方世界」 1042, munta bulung yïngaq täginčä qavïrasïnča sözläyü tükätmiš 「於此方隅已略説」 H40R12; bulung yïngaq ülüš 「方分」 B1740, B1741, B1775, B1876, B1877, B1878, B1882, diravi ädlig parmanunung bolmaz bulung yïngaq ülüš-i 1740
b.-ï b.-ï yïngaq-ï 3202, 3204, B21, B25, B1468, B1472
b.-luγ b.-luγ yïngaq-lïγ B1644, B1645

burčaq
「豆」 qaltï urtuγda yašïl burčaq-ïγ qara burčaq-lïγ yükmäktä azï üzä üküšintä atamïš täg qara burčaq-lïγ yükmäk tep 「如置緑豆烏豆聚中以少従多名烏豆聚」 H36V6-8

burnač
「瓶」 yula uγramïš ödtä yarudγalï burnač böztä ulatïlarïγ 「燈欲照瓶衣等時」 B1532

bursang
「僧伽」 ikinti tapïnγu udunγu üčün törttin yïngaqtïnqï bursang-larqa qïlïp sangram bušï bersär yemišlik arïγ tört türlüg tapïγïn tapïnsar udunsar 「二爲供養四方僧伽造寺施園四事供給」 H35V44; bursang quvraγ 「僧伽」 yinčürü töpün yükünürmn bursang quvraγ-lïγ alqu tüzünlär ïduqlar quvrayïnga 「稽首僧伽和合衆」 11, onunč üč qata sözlämäk uyrïnta ïnanurmn burxan nom bursang quvraγ-qa tep 「十由三説歸佛法僧」 H32V51

burun
「鼻」「初」 B1578, B1602, B1603, B1605, B1608, B1698, B1705, B1715, B1895, B1950, B1981, B2049, B2049, H26V4, nädägin bolur bilgäli burun-nung yintäm aldačïsïn tägmištäki yïdïγ 「如何知鼻唯取至香」 B1708, näčükin bolγay burun ärklig-ning ymä ök körmädin umaγay bilgäli ïraq yaqïn bulung yïngaqtaqï yïtnïng adïrdïn 「豈不鼻根亦見能了方維遠近香差別耶」 B1578, qaltï ikinti kün tangda kün burn-ï tuγa turur ödkädäki 「謂至明旦日初出時」 H33V24
b.-ï (burnï) H33V24
b.-nung B1708, B1712
b.-ta B453, B1691, B1766, B2127

burxan
「佛」 92, 100, 116, 217, 245, 349, 378, 381, 382, 390, 403, 404, 409, 483, 490, 494, 498, 501, 505, 506, 512, 517, 523, 532, 534, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 551, 565, 571, 608, 635, 718, 721, 729, 749, 814, 858, 888, 890, 891, 895, 1026, 1036, 1391, 1673,

1797, 1989, 2007, 2008, 2008, 2009, 2011, 2011, 2018, 2019, 2040, 2069, 2072, 2073, 2102, 2119, 2122, 2133, 2134, 2147, 2154, 2177, 2185, 2190, 2201, 2203, 2206, 2208, 2210, 2212, 2214, 2215, 2228, 2247, 2250, 2266, 2266, 2268, 2272, 2272, 2277, 2279, 2289, 2316, 2330, 2339, 2340, 2360, 2368, 2382, 2384, 2390, 2403, 2415, 2423, 2426, 2427, 2431, 2431, 2443, 2482, 2483, 2486, 2500, 2511, 2512, 2521, 2523, 2557, 2560, 2563, 2578, 2585, 2600, 3085, 3087, 4202, 4215, 4462, B152, B2068, burxan-lar näčä bu yerdinčütä bälgürsärlär ymä「佛雖化世間」 1272, sän näčük'ol ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn tep「汝豈不是過去佛時三藏苾芻」 2500; tngri burxan「(天)佛」 81, 83, 85, 88, 89, 96, 100, 107, 108, 112, 116, 126, 131, 132, 137, 140, 141, etc. bu tïldaγïn terlär tngri burxan yrlïqamïš ol abidarimïγ「因此傳佛說對法」 2040, kašip tngri burxan ödintä bar ärti bir toyïn「迦葉佛時有一苾芻」 2486; burxan adï ködrülmiš「佛世尊」 92, 378, 483, 501, 532, 534, 537, 541, 543, 551, etc. kim tegüči sav üzä uqïdur qaltï burxan adï ködrülmiši-g「諸言所表謂佛世尊」 483; buda burxan「佛」 506; burxan nom-ï「佛法」 858, 888, 890, B152, B2068, etc. burxan nom-ïndaqï ärdä ïraq ödtäki oruntaqï ulatï alqu yörüg uγušïnïng učsuz qïdïγsïz adïrdïntaqï「由於佛法極遠時處及諸義類無邊差別」858; burxan qut-ï「佛果」 1026, 1036

b.-ïγ 140, 147, 157, 160, 167, 176, 220, 231, 235, 252, 348, 486, 1035, H32V42

b.-lar 617, 754, 805, 893, 994, 1082, 1158, 1161, 1195, 1272, 1396, H25V45,60,64

b.-larnïng 366, 658, 840, 954, 971, 1393, 2560, 2561, 2627, 2631, H26R6,7

b.-larqa 1169

b.-larta 948

b.-lïγ 1240, 1259, 2077

b.-nïng 81, 88, 89, 96, 107, 108, 112, 126, 131, 132, 134, 137, 140, 141, 153, 155, 158, 162, 165, 186, 190, 196, 209, 218, 221, 236, 241, 243, 250, 360, 363, 425, 437, 495, 521, 557, 558, 695, 740, 781, 818, 1085, 1088, 1090, 1092, 1280, 1289, 1294, 1296, 1472, 1494, 1514, 1517, 1521, 1524, 1996, 1997, 2001, 2003, 2021, 2197, 2219, 2221, 2226, 2374, 2385, 2664

b.-qa 211, 493, 496, 499, 576, 908, 1553, 1554, 2216, 2220, 2227, 2231, 2246, 2262, 2518, H32R11

b.-ta 83, 85, 151, 224, 582

bušï

「布施」「施」 460, H35R28, H35V29,36, tavar bušï-γ sözläyu tükätmiš boltï 「財施已說」 H35V64; bušï ber-「布施する」 4369, H35R12, H35V44, birök ädgü tarïγlïγta tiksär bušï ber-mäklig qïlïnčlïγ uruγluγ yaraši tartar säviglig tüšüg 「若於善田殖施業種可招愛果」 H35R10; ävrip bušï ber-「廻施する」 1051, 1052, 1053, 1054, 1056, 1068, 1070, 1074, 4369, käntü özlärining bïšrunmïš ävrip bušï ber-miš iki türlüg buyanlarnïng tüšin 「自修廻施二福德」 1070; bušï paramit 「施波羅蜜」 456; bušï idisi 「施主」 ančulayu ymä bušï idisi upasi näčä yavïz tarïγlayta ärsär ymä inčip adïnlarqa asïγ qïlγu köngülin tiksär alqu bušïlïγ uruγuγ「如是施主雖於惡田而益他心殖諸施種」 H35R23

buyan

「福」 H35R28,30, küsüštä yorïmïš buyan-ï üzä ulatï ävrip bušï bermiš buyan-ï üzä özli adïnlï ikigükä asïγ tusu qïlmaqï yooqsuz bdatï bolmaz 「行願福及廻施福自他俱利不唐捐」 1074, qaltï üsdünki täg üküš tälim buyan-lï bilgä bilig-li yükmäklär üzä「如上衆多福智聚」 1072; buyan-lïγ qïlïnč「福業」; buyan-sïz qïlïnč「非福業」「非福」 tuγmïšï täg üküš tälim buyan-sïz qïlïnč-lar täk köngül turγurmaq üzä ök ärmäz 「生多非福非但起心」 H35K5; buyan ädgü qïlïnč-ï「福德業」179, 459; buyan-lïγ tarïγlaγ-ï「福田」; äzrua buyan-ï「梵福」 H35V48,51, sudurta yarlïqamïš ol tört türlüg kišilär uyur tuγuryalï äzrua buyanïn 「經說四人能

生梵福」 H35V41
b.-ï 1069, 1074, 1074
b.-ïγ 193, 198, 4368, H32V3
b.-ïn 1068, 1053, 1055, 1056, H35R61
b.-ïnïng 1050
b.-lar H35R9
b.-larï 1058
b.-larïnïng H39R26
b.-larïnga 193
b.-larnïng 1070
b.-larta 463
b.-lï 387, 455, 1072, 1039, 1083
b.-lïγ 457, 461, 1168, 4363; b.-lïγ qïlïnč 4363, 4367; b.-lïγ tarïγlaγ-ï 187
b.-nïng H35V53,62
b.-sïz 4363, b.-sïz qïlïnč 4364, 4373
b.-tïn 4375

buyruq
「臣」 4388; xan buyruq-ï「帝王臣」 qaltï xan buyruq-ï temiš täg 「如帝王臣」 4337
b.-ï xan b.-ï 4337, 4388, 4389

buz
「氷」 B1787, B1789

buz-
「壊する」 öznüng qarangγusïn buz-maq-lïγ yörüg 568, 569

buzul-
buzul- arta-「毀壊する」「破壊する」 ymä ök adï ol yerdinčü tep buzul-γuluq arda-γuluq üčün 「亦名世間可毀壊故」 4468, uqïtur qïlïnč tuγmïš ödtä azu iišläšip buzul-ur arta-γur mu töz ät'öznüng bod sïn ülgüsi 「表業生時爲要破壊本身形量」 H29V20
b.-dačï b.-dačï arta-tačï 4527, 4529, 4532, 4532, 4535, 4537
b.-γuluq b.-γuluq arta-γuluq 4468, 4523
b.-maq b.-maq arta-maq 4524, 4525, 4534
b.-masar b.-masar arta-masar H29V26
b.-sar b.-sar arta-sar H29V22

bük
「稠密した」「深くなる」B880; bük üzä qarar-「晦冥となる」 inčä qaltï tün ülüšintä (ayta) ulatïlarnïng yaruqï barïnta öngi kedärip alqu bük üzä qararmaqïγ inčip käzä yorïduqta učrum adalïγta 「譬如夜分有月等明除諸晦冥而遊險阻」 B885

bürit-
「觸れる」 yänä bir közüg ačïp bir közüg bürid-miš ödtä 「又開一眼觸一眼時」 B1455, birin yumup bürid-tüktä bu savlar ödrü bolmaz 「閉一觸一此事則無」 B1457
b.-mädük B1664
b.-miš B1455, B1459
b.-sär B1874
b.-tüktä B1457, B1656

büritig
「觸」 adïn öng ün yïd tadïγ büridig-tä ulatïlar 3637
cf. bürtüg

büritil-
「觸れられる」 inčip ol tidig kärpič tözi ärür büridil-miš yïγïlmïš B1792

büritmäk
「觸」 B440, B467, B482, B1781, B2412, B2414, öng ün yïd tadïγ büridmäk-tä ulatïlarnïng adï 3639, uladï ät'özin büridmäk-in bilmiš kärgäk ymä andaγ oq 「乃至身觸應知亦爾」 B2173
b.-ig B485, B1784
b.-in B2173
b.-kä B487, B1664
b.-li B2414
b.-ning B416, B484
b.-tä 3639, B985

bürtüg
「觸」 ät'öz biligingä birlä yaratïlmïš nomlarqa alqu bürtüg 「身識相應以一切觸」 H26V7
cf. büritig

bürütülüš-
「相觸される」
b.-miš B1794

bürütüš-
「相觸する」 ～ büritüš-～ büritiš- nädägin ooqsuz ärip anïlayu oq bir ikintikä bürüdüš-mäz 「如何無間仍不相觸」 B1844, yoγun parmanuluγ quvraγta ičgärip tudtačï yeel tuγmaqïnïng adï bolur bürüdüš-ürintin bürüdüš-mäzi tuγmïš tep B1801 ～ B1802
b.-däči B1867
b.-gäli B1819
b.-gü B1818
b.-mäk B1769, B1770, B1780
b.-mäsär B1746, B1756, B1869
b.-mäz B1743, B1748, B1766, B1799, B1807, B1822, B1844, B1929
b.-mäzi B1786, B1788, B1802, B1881
b.-mäzintin B1804
b.-mišintin B1806,
b.-ür B1778, B1780, B1796, B1798, B1800, B1815, B1821, B1857, B1859, B1867, B1868, B1881, B1883; büridüš-ür B1745, B1776; büridiš-ür B1735
b.-üri B1790, B1804, B1809, B1810, B1811
b.-ürintin B1801
b.-ürtin B1809

büt-
「成ずる」「完成する」 bir ikintikä tägmäzkä tïdïlmaq tudulmaqlïγ yörüg büd-är ärmäz 「非不相至拘礙義成」 B1487, äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq üzä büd-gülük ärip 「聞思修所成」 1704, tïldaγïngïzlar büd-mäz 「此因不成」 B1528, köztä oot yruqïnïng barï arduqraq büd-miš üčün köznüng tözi oot ärmäz 「眼亦火明非極成故眼性非火」 B1568; büt- biš- 「成熟する」; büt-mämäklig mün qataγ 「無窮過」 B1146
b.-ä B403, H39R3
b.-är 809, 1941, 1955, 2323, 2406, 2571, 3452, 3558, 3777, 4292, 4293, 4510, B262, B285, B757, B765, B825, B1312, B1412, B1487, B1779, B1786, B1789, B1793, B1874, B2028, B2052, H28R18, H32R44, H33V15, H36R26
b.-gäli 1922, 2296, 2318, 2325, 2545
b.-gü B1153, B1178, B1735, H37R22,25
b.-gülük 1704, H37R41
b.-mädük b.-mädük bïš-maduqlar 1266
b.-mägü 2394, 2547
b.-mäki B283, H29V28
b.-mäkin 111
b.-mämäklig B1146
b.-mäz 2304, 2314, 2326, 2326, 2388, 3464, 3544, 4077, B1017, B1306, B1314, B1522, B1528, B2145, H33V26
b.-mäzin 2425
b.-miš 340, 809, 1116, 2381, B758, B1529, B1568
b.-mišlär H28R10
b.-sär 578
b.-üp 583
b.-zün 809

bütüg
「圓滿」「滿」「完成」 ögä tükädmiš boldï adï ködrülmišning özkä asïγ qïlmaqlïγ ädgüsining büdüg-in 「已讚世尊自利德滿」 1022
b.-i 469, 470, 471, 1028, 1031, 1101
b.-in 111, 1022, 1066, 1089

bütün
「完全に」「完全な」「全く」 228, 781, 784, 802, 806, 954, 2097, 2410, 2923, 3104, 3686, B774, B1031, B1846, H26V38, H35R28; birök sözläsär alqu parmanularnïng büdün yoq ärip ooqï yïqï inčip

bir ikintikä qadïlïšmaz tep 「若説諸微全無間隙然不相雑」 B1846

bütür-
「完成する」「成就する」「遍く」 yïyïnyaqlïγ oruntaqï ädgü köngüllüg käzigig artuqraq uyur üčün tütätip kim bütür-gäli ädgü töz-lüg 「以定地善於心相續極能熏習令成德類」 H35V27, büdür-gälir üčün bu šasdrtaqï yörüg tözin 3065, tardïp ol nikaytaqï girantïγ qadïnayu büdür-ür öngdünki yörügüg B1344, atï kötrülmišlär nä köngül bolu birlä bütür-ü bilirlär alqu nomlarïγ tängläp ärmäz bälgüläp ärmäz 「世尊學意遍知諸法非比非占」 H26R4
b.-gäli 185, 3399, B315, B1192, H35V27, H37V51
b.-gälir 3065, B256
b.-mäzlär 182
b.-täči 4509, B1763
b.-üp B1143, B1179, H39R58
b.-ür 3595, B7, B1344, B1597

bütürü
「完全に」「遍く」 995, 998, 2245, 3425, 3435, 4249, B1369, uyur üčün eyin qïlγalï büdürü bilmäkkä kkirikmäkig arïnmaqïγ tïldayïγ tüšüg 「能順遍知雜染清淨因果智故」 2245

Č

čaytsï
< Chin. 册子 4

čakiravar
< Skt. čakravāḍa 「鐵圍山」 čakiravar tay 2562

čarit
< Skt. carita 「行」
č.-ča 1223
č.-larïnïng 760

čataka
< Skt. jātaka 2336, see čatik

čatik
< Skt. jātaka 「本生」 čadaka čadik-ïγ 「本生」 2336

čatiškoti ～ čatuškoti
< Skt. catuš-koṭi 「四句」 538, 3767, 3773, 4528, H26R54, H31R56,65, H32R59, čatuškoti B2051; nomta bululγuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi tört padak qïlmïš kärgäk 「於法得滅應作四句」 3767, čatuškoti tört padak qïlmïš krgäk 「應作四句」 H26R41

čaxšapt
「戒」 H30R19, qltï aqïγsïz čaxšapt ärür 「謂無漏戒」 H30R20
č.-ï H30R18
cf. čxšapt

čačäk
「花、華」 520, 2813, 3977, 4405 qaltï xua-lïγ čačäk-lig tüšlüg yemišlig sögüd temiš täg 「如花果樹」 4338; lenxua čačäk 「蓮華」 520, etc.
č.-ig 1238
č.-lig 4403, 4405, 4338
č.-ning 3976

čïn
< Chin. 眞 čïn altun 「眞金」 913; čïn kertü 「眞實」「如實」「實」「誠」 H25R58, H27R25,31, H30R23, čïn-ïnča kertü-sinčä bilür uqar mn yoqadturdum ičtin sïngarqï köz qošuyuγ tep 「如實了知我無內眼結」 B680, munung öngi uyušluγïnta čïn kertü bolur azï üküši 「此於異類實有少多」 H25R58, yörüg tözinčä ärsär čïn kertü tägimlig ol söz-lägäli 「理實應言」 H36V16, sudurata körülür čïn kertü sav üzä sözlämišining barï ančan ančan yügärü uqmaq bolur 「於契經中見有

誠文説漸現観」 H38R22, ašnuča baštïnqï ädgü öglisintä öritürlär turγururlar čïn kertü mängi bermäklig taplaγïγ 「先於上親發起眞誠與樂勝解」 H39R2; čïn-ïnča yarlïqamïš 「至言」 qaltï burxanlarnïng čïn-ïnča yarlïqamïš čïnkertü nom tözi üzä tägimlig ol titip biligsizlig qaranγu üzä tägilmiš alqu taš azaq nomluγlarnïng atqaγïn ayïγ körümlüglärning qayu qïlmïšïn tilägäli bilgä biliglig közüg 「謂佛至言眞法性應捨闇盲諸外執惡見所爲求慧眼」 H40R4

č.-ïn 134, B1406

č.-ïnča 1223, 1371, 1489, 2136, B680, H40R4

č.-sïz 「無實」 3733, B1235

čïnγar-

「審する」 čïnγar-mayuluq adïrtïn 「不審差別」 B1561

č.-mayuluq B1561

č.-sar 1062

čïnγaru

「審して」 4085, B1559, B1561, B1696 birök tapï bolsar čïnγaru tïnglayuluq 「欲審聽者」 B1696, čïnγaru bilip tägšilip turur bälgüsin 「審知堅相」 B1561; čïnγaru saqïn- 「審慮」 B938

č.-sïnča B938, B942, B962, B1095

čïnkertü

「眞實」「眞」「實」「如」「如實」 cf. čïn 2, 3, 22, 60, 74, 97, 103, 112, 363, 607, 607, 796, 812, 1103, 1291, 1300, 1305, 1308, 1308, 1310, 1318, 1340, 1341, 1342, 1342, 1344, 1351, 1361, 1363, 1367, 1367, 1372, 1376, 1379, 1414, 1503, 1515, 1519, 1535, 1543, 1544, 1564, 1582, 1906, 1978, 1979, 2017, 2030, 2998, 3022, 3025, 3026, 3027, 3174, 3378, 3380, 3383, 3383, 3385, 4082, 4082, 4117, 4121, 4162; čin-kertü 149, 1481, 3000, 3032, 4083, 4584, 4585, B230, B447, B1106, B1236, B1248, B1318, B1323, B1387, B1393, B1394

čïnkertü yörügüg ulatï tïdyalï čïnkertü körümüg 「實義及障眞見」 607, čïnkertü tädrüsüz 「如實無倒」 1305, čïn-kertü yoq ärsär iši küdüki 「實無作用」 B1387, čïnkertü tözlüg baxšï 「如理師」 74, etc.

čïnlayu

「勝」「勝義」「如實に」「眞實に」「實」 1607, 1667, 1667, 1669, 1670, 1683, 1798, 1890, 1892, 1909, 1912, 1956, 3070, 4266, B1393, B2117

čïnlayu yörüg üzä körsär 「勝義觀之」 B1319, bu oq inčip ärür čïnlayu abidarim tep 「此則勝義阿毘達磨」 1667, bu asanvar ymä ök čïnlayu armäz bolγu krgäk 「此不律儀亦應非實」 H33R55

č.-sï 1894

č.-sïnïng 1898

č.-sïnga 1903, 1904

čïqïra-

「叫ぶ」 č.-dï B1244, B1245

č.-maq B1242

čigil-

「締められる」

č.-ip 1009

čo'aγam

< Chin. 長阿含 č.-taqï 2237

čodake

< Skt. codaka 「質問者」 79, 2596, 2658, 2827, 3559; yänä čodake sözlär taqï ymä bar adïn qavïra 「又問更有餘略」 2658

čoγ

「光」 kün tngrining yadïlmïš isig čoγ-ï üzä 「烈日舒光」 B894; čoγ yaruq 「光明」 B1200, angayu tiläp čoγ-lï yruq-lï-nïng basutlamaqïn 「別求光明助」 B1532; čoγ yalïn 「威」 öngi qïrtïšï čoγ-ï yalïn-ï ädgüsi ädrämi savï sözi yaruqï yaltrïqï ton didimtä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣

冠等事」 H28V45 cf. čoγluγ

č.-lï č.-lï yaruq-lï B1200, B1532

čoγluγ

「威」 2781, čoγluγ yalïnlïγ「威」 17, 1312, 1374, 1380, 1385, 1415, 1422, 1424, 1426, 1434, 1439, 1444, 1455, 1486,「熾盛」528 čoγluγ yalïnlïγ ridi「威神」17, čoγluγ yalïnlïγ küči「威力」1312, čoγluγ yalïnlïγ ädgüsi「威德」1486

čom-

「沈む」 čom-mïš bat-mïš「沈溺した」 1483

čomrul-

「沈められる」 čomrul- bat-「沈溺する」 ol sansar ärür üčün alqu tïnlγlarqa čomrul-γuluq bad-γuluq orun「由彼生死是諸衆生沈溺處故」 1104

č.-γuluq č.-γuluq bat-γuluq 1104, 1113, 1118, 1121, 1126, 1131, 1135, 1142, 1144, 1153, 1156, 1163, 1165, 1172

č.-mïš č.-mïš bat-mïš 1212, 1215

č.-up č.-up bat-ïp 1129, 1175, 1176, 1178

č.-urlar č.-urlar bat-arlar 1125

čokit-

「跪く」 azuča ymä čökit-ip ägilip aya qabšurup「或跪曲躬合掌」 H33V8

čöp

「濁」 olar ät'özin tilin köngülin ägri kkir čöp qïlïnčlarïγ qïlmïš üčün tamuta täginürlär beš yükmäklig öngi bïšmaqïγ「彼身語意曲穢濁故於奈落迦中受五蘊異熟」 H28R27

čöpdik

「濁」 qaltï beš čöpdik-lärtä nizvanïγ körüm birlä adïrïp sözlämiš täg čöpdik bolur tep「如五濁中煩惱與見別說爲濁」 H28R43-44

ču-

ba- ču-「緊縛する」 ba-γalï ču-γalï H37V20

čuγ

bay čuγ「繫縛」 3248, 3250 inčip mängi ol tep körmiš ödtä uyur bolγalï bay čuγ「然觀樂時能爲繫縛」 H37V20

čuγ

< Chin. 軸 qaltï tngritin yaγmur yaγmïš täg tamïzïm qaltï qanglïnïng čuγ-ïnča「譬如天雨滴如車軸」 H27V25

čung

< Chin. 鐘 B1324, B1324; čung qongrayu「鈴」 B1654

č.-nung B1325

č.-ta B1323

čün

< Chin. 轉 var čün še「八轉聲」 4354, 4392

čxšapt

< Skt. śikṣā-pada「戒」「尸羅」 456, 460, 1145, 1146, 1744, 2282, 2561, 2564, 3900, 3902, 4369, H28C63, H29R12, H29R11, H30V56 tüzdäči üčün adalïγ qïlïnčlarïγ anïn bolmïš čxšapt tep「能平險業故名尸羅」 H30V59, säkiztä öngdünki törtägü ärür čxšapt bölüki「八中前四是尸羅支」 H33V43, čxšapt paramit「戒波羅蜜」 456, čxšapt-lïγ yükmäki「戒蘊」 896; čxšapt törü quvramaq「戒禁取」 1145 nätägin uluγ äzrua adqaγlïγ anïlayu oq turγurur čxšapt törü qavramaq-ïγ「云何緣大梵猶起戒禁取」 H28V63

č.-ïγ 2555, H29R9, H31R29

č.-ïn H31R54

č.-lar H32V34

č.-lïγ 896

č.-nïng 2281, 2544, 2546, 2548, 2549, H29R3, H30R12, H31R8

č.-qa H33V34

č.-ta 3893, 3897

cf. čaxšapt

D

darmadine

< Skt. dharmadinnā darmadine šmnanč 「法授尼」（人名） 3467, 3468, 3502 višake bayayut ayïtdï darmadine šmnanč-qa inčä tep 3467, yetinč arqïš ïtmaq uyrïnta qaltï drmadine šmnanč-nïng ärür 「七由遣使謂法授尼」 H32V47

darmasikandapad ～ darmaskandapad

< Skt. dharma-skandha-pāda(-śāstra) 「法蘊足（論）」 ulatï sanggidapiryayipat darmaskandapat pradniyapdi mundaγ osuγluγta ulatï uγušluγlarïγ 「及集異門法蘊施設如是等類」 2458; darmasikandapat šasdr 「法蘊足論」 2110, darmasikantapat šastir-ta ymä ök muntaγ tep sözlamiš ol 「法蘊足論亦作是言」 H28R5

darma-tirate ～ darmatirate

< Skt. dharma-trāta 「法救」; ayaγqa tägimlig darma-dirade baxšïnïng mundaγ osuγluγ abipirayï yolïn 「大德如是意趣」 B1841; darmatirate baxšï 2139, 2143, 2831, 2128(t'rm'dyr'ty)

darma-vičaye

< Skt. dharma-vijaya 「法勝」（人名）; darma-vičaye-nïng šastir-ï 2829

dašagirve

(t's'kyrvy) < Skt. daśa-grīva 「十頭、十首」 tašagirve atlγ rakšaz-qa 1421

daša'utar

< Skt. daśa-uttara (daśottara) daša'utar sudur 「增十（經）」「十上（經）」; čo'agamtaqï daśa'udar sudur-ta ulatïlar ärür 2237

date

< Skt. datta deva-datta 「提婆達多」の -datta を表す： 3483(t'dy)

datukayapad

datukayapad šastr < Skt. dhātukāyapāda-śāstra 「界身足論」 2114(t'dw-k'y'p't)

datukoš ～ datukooš

< Skt. dhātu-kośa 「界倶舎」「界品」 datukoš 33, 69 (t'dwkwš), datukooš D17(d'twkwws)

d.-nï (t'dwkws ny) D50

d.-ta (t'dkwwš-t') 36

d.-uγ (t'dkwwš-wq) 29

devadat

< Skt. devadatta 「提婆達多」「天授」（人名）

devatad-ta ulatïlarnïng bolur ärmäz yorïmaq täprämäklig törüsi 「非天授等有行動法」 B1517

d.-ï (dyv't'dy) 3483, (dyv't'ty) 3484

d.-qa (dyv't'd-q') B1304

d.-ta (dyv't'd-t') B1517

devašarme

< Skt. devaśarman 「提婆設摩」（人名）

devašarme arxant 2110

didim

< Sogd. δyδm 「冠」 öngi qïrtïšï čoγï yalïnï ädgüsi ädrämi savï sözi yaruqï yaltrïqï ton didim-tä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V47

diravi

< Skt. dravya 「實體」 diravi äd 「實體」「實物」 B1739, B1742, B1857, B1862, B1864, B1871, diravi äd-lig parmanunung bolmaz bulung yïngaq ülüši B1739

d.-qa 2542

d.-sïnga 2543

divip
< Skt. dvīpa 「洲」 inčä qaltï tört divip-lar 「猶如四洲」 2562
d.-lar 2562
d.-larta B1371, H33R3

dyan
< Skt. dhyāna 「定」「靜慮」「等至」「等引」「三摩地」「修」 457, 461, 465, 466, 641, 1714, 2456, 2456, 2457, 2457, 3135, 3825, 3826, 3826, 3900, 3902, 4375, B2234, B2244, B2246, B2248, B2282, B2287, B2360, B2385 dyan-tïn turmïš uqïtmaz adïrïlup bolur iki 「定生無表差別有二」 H29V7, ikinti dyan-ta yoqaru kuγmïšlarnïng anda köz biligin yüüz yügärü qïlmaduq ödtä 「生第二靜慮以上於彼眼識不現前時」 B114, dyan-ta käzä yorïmïš ödtä tep timiši ärsär 「言遊等至時者」 B2423, dyan-ta ädgüsining adï bolur bïšrunmaq tep artuqraq uyur üčün tütätgäli köngülüg 「等引善名修極能熏心故」 H35V18, yoγun saqïnčlïγ yinčgä saqïnčlïγ dyan-ta ulatïlarta 「有尋有伺三摩地等」 H25R57, čxšapt dyan iki uγušluγlar üzä bolγuluqï qayu ol 「戒修二類所感云何」 H35V31; dyan paramit 「定波羅蜜」 457, 465, 466; vačirapam dyan- 「金剛喩定」 625, 626, 629, 634, 640, 641, 643, 651, etc.; dyan-lïγ yükmäk 「定蘊」 896; tägmäzgänki tayaq dyan 「未至(定)」 1619, 3826, H31R51; araqï dyan- 「中間定」 1619, 3826; öngsüz dyan-「無色定」 1625; tört töz tüp dyan- 「四根本定」 1747; tört töz tüp selu dyan- 「四根本靜慮定」 3825; qonšïsïnta araqï dyan-「近分定」 1748; bälgüsüz dyan 「無相定」 2454; qatšuru bïšrunγuluq dyan 「雜修定」 2455; tigirtsiz dyan 「無諍定」 2456; prantakotïk dyan 「邊際定」 2456; saqïnčsïz dyan 「無想定」 3042; öčmäk dyan 「滅定」 3043; köngülsüz dyan 「無心定」 3229; dyan orun 「靜慮地」 H32V18
d.-ïγ 630, 640, 1027, 4370, 4377
d.-ïn B2321
d.-lar 2454, 2455, 2456, 3934, B2419
d.-larqa 1618, 1625
d.-lartaqï 3608, 3609
d.-lïγ 58, 896
d.-nïng 626
d.-qa 1619, B2253, B2253, B2256, B2256, B2257, B2259, B2259, B2263, B2263, B2266, B2267, B2269, B2269, B2270, B2272, B2273, B2275, B2276, B2287, B2290, B2292, B2292, B2293, B2295, B2425
d.-qa-tägi 643, 651, 698
d.-ta 625, 629, 634, 653, 655, 1386, 1747, 1748, B1114, B2232, B2277, B2285, B2295, B2302, B2304, B2306, B2309, B2312, B2314, B2317, B2324, B2326, B2348, B2349, B2382, B2383, B2387, B2389, B2392, B2395, B2423
d.-taqï 3042, 3043, 3229, B2238, B2241, B2241, B2252, B2255, B2258, B2261, B2265, B2268, B2274, B2278, B2279, B2285, B2289, B2291, B2294, B2295, B2298, B2302, B2303, B2304, B2305, B2310, B2314, B2318, B2321, B2323, B2359, B2371, B2378, B2396;
d.-daqï B2425
d.-taqïlar B2237
d.-tïn 1709, B2425, B2426, B2427

dyana-sanvar ～ dyansanvar
< Skt. dhyāna-saṃvara 「靜慮律儀」 1749, 1751, munung uγrïnta azuča ymä bar dyansanvar bolup prxanasanvar bolmadačï 「由此或有靜慮律儀非斷律儀」 H31R56
d.-ïγ H31V26
d.-lar H31R59

E

edäriš-
eyin edäriš-ü 「相從する」 834, cf. edärišdür-

edärištür-

(eyin) edärištür- 「相従させる」 eyin edärišdür-ü taryarurlar 834

e.-ü 846, 3056; eyin e.-ü 834

ediz

「高」「崇高」 B1952; täng tüz ediz-siz boyay-sïz B1954, qolulap nom ediz-ining köngülin 2135

e.-in 128

e.-ining 2135

e.-siz B1954

eka'utar

eka'utar agam < Skt. ekottara āgama 「増一阿含」 415('yk"wd'r)

ekavičike

< Skt. eka-vīcika 「一間（人）」 B772

el

「國」 kašmir el-lig vaybašikelïγ baxšïlar 「迦濕彌羅國毘婆沙師」 339, 2148, B380

e.-lig H28R20

e.-täki B1401, H32V48,50

elät-

「移る」 yaqïnïntïn ïraqïnga eläd-gü üčün 1811

elig

「手」 1209, 1209, 1213, B1655, B1658, B2179, H29R42, elig üzä tudmïš ödtä qongraγuγ qongraγuqa tayaqlïγïn 「手執鈴時依鈴」 B1658, eyin yaraγïnča berip köni nom nomlamaqlïγ ong elig-in 「隨授所應正法教手」 1201

e.-in 1201, 1208, 1216

e.-tä B1785, B2182

elig

「王」 alqu nizvanïlarnïng elig-i 637, uluγ äzrualar elig-ining ät'özining anïng ülgüsi etiz keng 「大梵王身其量高廣」 H28V44

e.-in H28V56

elt-

「趣く」「運ぶ」 käntü özlärining tuγumïnga elt-däči qïlïnčïnga nizvanï 267, qaltï ančan ančan elt-ip saqïnčlarïn 「謂漸運想」 H39R14

eltin-

「運ぶ」 köni öz eltin-mäk 「正命」 köni sav söz köni iš küdük köni öz ildin-mäk-tä 「正語正業正命」 1620; tärs öz eltin-mäklig ačvaki 「邪命外道」 H27R29

en-

「降りる」「堕ちる」 önglüg öngsüz uγuštïn qodï en-ip amranmaq uγušta tuγmïšlar 1721; buyanïn nirvanqa en-mäk 「迴向寂」 H35V4

e.-är B1963

e.-gäylär 297

e.-ip 1721

enčgü

enčgü äsängü 「平安」

e.-g e.-g äsängü-g 1081

enčläntür-

「安んじる」 tigirädip täprädip ädgü bölüklär enčländür-mäz üčün 4438

e.-mämiš B2136

e.-mämiši 4437

e.-mäz 4438

er-

「至る」「屬する」 terginkä er-däčisi tarïqmaduq ärsär 3268

e.-däči 3269, 3321, 3524, B561

e.-däčisi 3268

ergür-
「至らせる」 bilgä biligkä adqanïp ergür-mäz üčün 943

erinčkä-
「愍れむ」 vasubandu baxšï erinčkä-miš üčün bularnï 「論主愍斯」 298; erinčkä- tsoyurqa- 「哀愍する」; amra- erinčkä- 「哀愍する」 adï ködrülmiš amra-yu erinčkä-yü yrlïqap 「世尊哀愍」 1185
e.-gülük e.-gülük tsoyurqa-yuluq 399
e.-mäki 1196; amra-maq e.-mäki 1199
e.-mäktä amra-maq e.-mäktä 1192
e.-miš 298, 392; amra-mïš e.-miš 1190, 1191
e.-yü amra-yu e.-yü 1185, 1189

erkäk
「男」 erkäk tiši iki ärkliglär-ig 「男女二根」 B1969

ertä
tang-ta ertä 「晨旦」「旦」 H33R62, H33V24, bačaq sanvarïγ tang-ta ertä tägingülük ol 「近住律儀於晨旦受」 H33R65, birök tang-da ertä tïtïγ tïltaγ bolsar bačaq ärdtüktä ymä ök bolur tägingäli 「若旦有礙緣齋竟亦得受」 H33V4

ešid-
1408, 1696, see äšid-

et-
et- yarat- 「造る」 ed-ip yarad-ïp äd tavarïγ anï išlädip bušï berürlär 4368

etig
「爲すこと」 3926 edig tegüči užik-ig 「爲字」 3036

etiglig
('ydyklyk 'ydyk-lyk) 「有爲」 24, 1767, 1842, 2594, 2636, 2674, 2675, 2677, 2679, 2681, 2681, 2702, 2705, 2956, 2957, 2981, 2992, 2996, 3006, 3071, 3531, 3578, 3736, 3772, 3780, 3814, 3819, 3820, 3821, 3869, 3870, 3873, 3873, 3876, 3877, 3879, 3884, 3908, 3910, 3927, 3928, 3936, 3938, 3939, 3944, 3945, 3946, 3949, 3953, 3954, 3957, 3959, 3962, 3965, 3965, 3968, 3972, 3987, 4001, 4003, 4018, 4042, 4053, 4059, 4093, 4094, 4113, 4126, 4133, 4134, 4135, 4140, 4140, 4146, 4147, 4149, 4151, 4152, 4153, 4158, 4161, 4165, 4176, 4180, 4182, 4211, 4213, 4240, 4259, 4264, 4266, 4269, 4277, 4282, 4298, 4298, 4299, 4301, 4302, 4310, 4312, 4317, 4498, 4500, 4508, 4533, B407, B443, B563, B570, B1396, B1813, H26V36, H26V40 yoluγ öngi kedärip adïn ediglig nomlarnïng munung adï bolur aqïγlïγ tep 「除道餘有爲法是名有漏」 3869, bu ediglig nomlarnïng ymä ök adï ol öd yolï tep 「此有爲法名亦世路」 3936, edigliz yörügüg ediglig ad birlä bolmaz birlä bolur tep sözlägäli 「以無爲義與有爲名不可俱說」 4053; tört türlüg ediglig qïldačï bälgülär 「四種有爲行相」(四有爲相) B563, B570
e.-ig 4110, 4112, 4161
e.-lär 2992
e.-lärig 4085
e.-ning 3037, 3037, 3068, 3074, 3912, 3913, 4016, 4021, 4058, 4092, 4154
e.-tä 4072, 4158
e.-tin 2978

etigsiz
('ydyksyz 'ydyk-syz) 「無爲」 24, 616, 2636, 2675, 2928, 2958, 2982, 2995, 3016, 3018, 3032, 3033, 3034, 3035, 3038, 3069, 3532, 3568, 3580, 3953, 3955, 4052, 4068, 4092, 4107, 4212, 4241, 4257, 4258, H26V40 bu kök qalïqta ulatï üč türlüg edigsiz-lärning 「此虛空等三種無爲」 2933, edigsiz yindäm yörüg ök üčün anïn sav tayaqï ärmäz 「無爲唯義故非言依」 4068, tïldaysïz basudčïsïz nomlar qayu ol teptesär qaltï edigsiz nomlar ärür 「非

緣起法云何謂無爲法」 4241

e.-ig 2999, 3102, 3821, 4086, 4104, 4112

e.-lär 2930, 2984, 2993, 3001, 3009, 3024, 3027, 3090, 4082, 4083, 4093, 4109, 4116, 4123, 4538, B2046

e.-lärig 2960, 2997, 3077, 3862, 4081

e.-lärning 2933, 3067, 3072, 3099, 3867, 3927, 4032, 4043, 4044, 4102, 4110

e.-lärtä 3079, 3093, 3102

e.-ning 3947

e.-tä 2961, 4159, B586

etil-

「成ずる」 azuča ymä artayu turur azuča ymä etil-ü turur 「或壞或成」 H27V28; ükli- etil-「增榮」 yïltïzï ulunï butïqï yapïrγaqï ančan ančan eyin käzigčä ükli-yü etil-ü 「根莖枝葉漸次增榮」 H25R51

eyin

「隨う」「順ずる」 48, 208, 363, 404, 404, 495, 578, 583, 652, 834, 863, 931, 1201, 1218, 1222, 1235, 1260, 1276, 1346, 1600, 1611, 1615, 1616, 1622, 1628, 1631, 1639, 1663, 1672, 1690, 1724, 1727, 1734, 1735, 1737, 1738, 1740, 1742, 1743, 1765, 1772, 1776, 1777, 1802, 1825, 2123, 2124, 2226, 2229, 2230, 2232, 2234, 2236, 2240, 2243, 2244, 2282, 2292, 2402, 2405, 2407, 2414, 2465, 2466, 2573, 2595, 2666, 2692, 2707, 2730, 2744, 2746, 2796, 2806, 2808, 2808, 2812, 2816, 2817, 2817, 2819, 2824, 2825, 2842, 2849, 2849, 2854, 2856, 2858, 2859, 2863, 2878, 2894, 2906, 2915, 3007, 3011, 3092, 3213, 3253, 3254, 3275, 3369, 3370, 3375, 3391, 3396, 3406, 3465, 3553, 3714, 3718, 3720, 3722, 3758, 3822, 3823, 3824, 3911, 3916, 4233, 4312, 4391, 4400, 4423, 4442, 4444, 4445, 4457, 4464, 4470, 4545, 4547, 4548, 4553, B24, B25, B27, B156, B293, B470, B473, B479, B559, B564, B568, B571, B572, B573, B579, B580, B615, B662, B717, B718, B761, B796, B983, B1061, B1336, B1397, B1449, B1461, B1468, B1473, B1474, B1580, B1641, B1663, B2055, B2056, B2059, B2069, B2095, B2098, B2099, B2102, B2103, B2105, B2116, B2129, B2130, B2133, B2134, B2135, B2138, B2140, B2162, B2162, B2176, B2183, B2190, B2190, B2204, B2204, B2228, B2327, B2407 abidarim aγïlïqïγ yörüg eyin sanggit qïlmïš ol「對法藏隨義結集」 2230, munï köngül eyin sözlämiš ol 「此說隨情」 B1061, uz eyin qïlïp tngri burxannïng yrlïγïnga 「善順佛語」 208, täk bulung yïngaq eyin (ävrilip) tägzinip 「但由順方迴轉」 B1580; eyin yatdačï「隨眠」 48, B559, B573, B579, B580, etc.; eyin yorïdačï 「隨行」 1600, 1611, 1690, 1734, 1735, B568, B572, etc. aγïγ bilgä biligning terinining quvraγïnïng adï bolur eyin yorïdačï-lar 「淨慧眷屬名曰隨行」 1644; eyin ävril- 「隨轉する」 1743, 2692, B2140, B2162, etc.; eyin udu「隨從して」「隨順して」 2402, 2407, 2411, 2817, 2863, 2878, B470, B473, B479, etc. qaltï qayu näčä bar ärsär öng eyin udu alqu tudyaqqa 「謂所有色隨順諸取」 2863; eyin käzigčä 「順次に」「次第に」 2465, 2466, 2573, 3714, 3718, B1449, B1461, etc. eyin käzigčä körür tedači baxšï 「次第見師」 B1461, yïltïzï ulunï butïqï yapïrγaqï ančan ančan eyin käzigčä ükliγü etilü 「根莖枝葉漸次增榮」 H25R51; eyin ükli-「隨增する」 2595, 2707, 2730, 2746, 2796, H27R45, etc., alqu aqïγlar anda täng tüz eyin ükli-yür üčün 「諸漏於中等隨增故」 2595, munta eyin ükli-gülükining atï bolur amranmaq uyušta tutulmïš tep 「此所隨增名欲界繫」 H27R58; eyin yapšïn- 「隨着する」 2806, 2808; kertgünč eyin yorïdačï (ärän) 「隨信行者」 3822, 3824; nom eyin yorïdačï 「隨法行者」 3823; eyin yorïdačïlar tägmäkläri 「隨行得」 B564

eyin-ki

「隨っている」 1768, 3749, 4578, 4581, B2029, aqïγlïγ nomlarnïng yörüg eyinki niznk adï 「有漏法隨義別名」 4578; eyinki nizvanï 「隨煩惱」 2869; tört eyinki bälgülär 「四隨相」 B570 ～

tört türlüg eyinki bälgülär SG2

G

gada
< Skt. gāthā 「諷誦」 2333

gartaman
< Skt. ghṛta-maṇḍa yuγrut gartaman 「酥」 süttin yuγrut gartaman ünmiš täg 69

gaurvadaram
< Skt. gaurava-dharmaḥ gaurvadaram nom 「尊重法」 H32V45

gavtam
< Skt. gautama 「喬答摩」 gavdam-a yer qayuqa tayaqlïγïn inčip turur tep 3162

geyaa
< Skt. geya 「應頌」 geyaa taqšut 2332

girant
< Skt. grantha 「文」 B436, B653, B1951, B2416
adïn yörügi girant-taqï täg tedir B1973, girant üzä učuz bolur bilgäli 「文易可知」 B436
g.-ïγ 861, B1344
g.-ïntaqï B1968
g.-larï 8 「偈」
g.-ta 2853, 3095, 4383
g.-taqï B1918, B1944, B1973, SE16

gunamati
< Skt. guṇa-mati 「德慧」（人名） 13, 3377

Ï

ïd-
「遣る」 arqïš ïd-maq 「遣使」 H32V47

ïdtur-
「遣らせる」 unïdtur-matïn ïdtur-matïn 「忘却させずに」 20

ïduq
「聖」 tngri burxanïng ïduq yrlïγ-ï eyin 「隨佛聖教」 2226; tüzün-lär ïduq-lar 「聖者」 56
ï.-lar 12
ï.-lar-nïng 56

ïyač
「木」 ot ïyač-qa ud mayaqïnga qïγqa tayaqlïγ od at 「名依草木牛糞糠火」 B1056
ï.-ïγ B1759
ï.-qa B1056

ïnaγ
umuγ ïnaγ 「救濟」「濟」「救」 310, 312, 317, 427, 1182, 1200, 1202, 1211, 1213, 1217, 1226, 1230, 1232, 1235, 1236, 1248, 1250, 1250, 1270, 1287, 1565 tardïp tašyarïp umuγ ïnaγ bolup ündürü yrlïqadï 「拔濟令出」 1202, tïnlγlar anda čomrulup badïp umuγ-suz ïnaγ-sïz bolmïšqa 「衆生於中淪沒無救」 1176
ï.-sïz 1176, 1181

ïnan-
「信じる」「歸する」 onunč üč qata sözlämäk uγrïnta ïnan-urmn burxan nom bursang quvraγqa 「十由三說歸佛法僧」 H32V51; umun-γuluq ïnan-γuluq orun 「歸依處」 350; ïnan-maq üzä ayïr ayaγ qïlmïš 「歸敬する」 189, 204, 206, 211, 253, 352, 358,

ïnarü
「以後」「後」 H33R18, käntü muntata ïnarü yumdaru tükällig bolurlar ärtmiš közünür ödkisingä 「自茲以後通成過現」 H32R16, bir kün-tä tün-tä ïnaru azuča ymä beš azuča ymä on kün tüntä ulatïlarta täginsär barča čxšaptïγ 「一晝夜後或五

戒十晝夜等中受近住戒」 H33R9

ïraq

「遠い」 930, 931, 944, 944, 945, 1119, 1894, 1895, 2062, B1493, B1506, B1511, B1518, B1520, B1523, B1525, B1572, B1574, B1579, B1583, B1585, B1589 köz uyur körgäli ïraq orun-taqï alqu önglärig 「眼能見遠處諸色」 B1506; ärtä ïraq 「極遠」 858, 888, 901, 916, 917, H26R60, artuqraq ïraq 「極遠」 B1629; ür ïraq 「久遠」 2158; ïraq öngi üdrül- 「遠離」 117, 3215, 3243, H30V12, 28 bu üč sanvarlarïγ azu ašmaq üstämäk uγrïnta mu ïraq öngi üdrül-gülük al altayïγ uqïtdï angayu angayu ad üzä 「此三律儀爲由增足遠離方便立別別名」 H30R61; taš ïraq 「疎遠」 B117, B137

ï.-ïn 1813

ï.-ïnga 1811

ï.-ïntaqï B1667

ï.-lar 942

ï.-larïγ 948

ï.-larta 952

ï.-ta B1593

ï.-taqï B1543, B1548, B1563, B1592, B1598, B1603, B1613, B1615, B1629, B1689

ï.-tïn B1647, B1706

ïrat-

「離す」 taš ïrat-γu 「遠離する」 3440

ïrlamaq

「歌」 H33V68, bötimäk ïrlamaq körmäk tïnglamaq 「舞歌觀聽」 H30V42,50

ïya taya

「忽忙」 3535 ästiramati baxšï sözlär ïya taya abipiray üzä inčip sözlägüčini arduqraq tägimlig ol yarašï qodγalï 4178

ïyat

uvut ïyat 「慚愧」 ken basa basa öp ödikläp uvut ïyat-ïγ yüüz yügärü qïlur 「後數憶念慚愧現前」 H29R7, taγaru tükädmiš üčün ayïγ yïltïzïγ uvut-suz ïyat-sïzïγ 「已斷不善根無慚無愧故」 H29V59

I

ič

「内」「中」 B224 ün ulalu kälip kirdüktä qulγaq ič-ingä 「聲相續來入耳中」 B1657; ič-tin sïngarqï 「内（側）」 B18, B40, B48, B51, B55, B84, B86, H29V2, etc. köngülnüng adï bolur ič-tin sïngarqï tep 「心名内」 B40, munung uγurïnta ič-din sïngarqï tegüči ad turur köngültä nomta ärmäz tep 「由此内名在心非所」 B102, činïnča kertüsinčä bilür uqar mn yoqadturdum ič-tin sïngarqï köz qošuγuγ tep 「如實了知我無内眼結」 B681; ič aγïlïq 「内寶藏」 2560,

i.-indä B1947

i.-ingä B1657

i.-tin B40, B44, B48, B51, B54, B81, B82, B99, B120, B204, B206, B216, B218, B222, B223, B225, B244, B245, B246, B281, B284, B679, B681, B681, B684; i.-din 222, 226, 1251, 1252, 1256, 1261, 1264, 1269, 1408, 3085, 4437, B18, B35, B84, B86, B97, B102, B104, B110, B122, B123, B129, B131, B132, B140, B143, B156, B191, B214, B233, B2201, B2202

ič-

「飲む」 ikiläyü ič-mädin yemätin munung tïldaγïnda ölüp tuγdï tngri yerindä 「更不飲噉因茲命終生於天上」 2504, qaltï murč ič-gü vzir üzük te[yür] täg 「如胡椒飲如金剛環」 H27R8, näčä täginsär ymä cxšaptïγ birök ič-sär alqu boruγ bägnig ötrü köngül osal sïmtaγ bolup 「雖受尸羅若飲諸酒則心放逸」 H33V48

i.-mäktin H30V2

ičdinki

「内にある」 yänä ičdinki tašdïnqï alqu šasdr

yaradtačïlarnïng 205

ičgär-

「攝する」 ičgär- tägin- 「攝受する」 tngri burxan ičgär-miš tägin-miš üčün üč ayïlïq nomuγ 「由佛攝受三藏教故」 2427; ičgär- tut- 「攝持する」「加持する」 ičgär-ip tud-tačï yeel öčmädin B1808; ičgär-ip tutmaqlïγ küč 「加持力」 1393, 1396, 1398, 1403; sïγur- ičgär- 「入攝する」

i.-gülük 4218, 4250, H35V3

i.-ip i.-ip tut- 1386, 1391, 1393, 1396, 1398, 1403, 1415, B1801, B1803, B1806, B1808; i.-p tägin- 1447; sïγur-up i.-ip B2207

i.-mäklig sïγur-maq i.-mäklig 3192, 3195

i.-miš i.-miš tägin-miš 391, 2427

i.-ü i.-ü tägin-ü 384

ičgärü

「內側」「內」 ičgärü uγur-ïn ävrilür üčün bilgä bilig ärür 「內門轉慧是見」 B849

ičgü

「飲物」 1906; aš ičgü 「飲食物」 B1960, süčig tadïγlïγ aš ičgü-lärig išlädip 「甘饍用」(饍) 1080, qaltï alqu qayu barïnča ton kädim aš ičgü soγïq isigtä ulatï savlarïγ 「謂諸所有衣服飲食冷煖等事」 H36V61

ičür-

「飲ませる」 yeel iglig kišilärkä ičür-tükdä küncit yaγïn 2818

idiš

「器」 3082; idiš yertinčü 「器世間」 39, H27V58

idi (ytyz-y)

「主」 kikinč berü sözläsär at idi-sining tep inčip anga oq yänä ayïdtuqta at idi-si kim ol 「答言馬主即彼復問馬主是誰」 H27R52,53, ančulayu ymä bušï idi-si upasï näčä yavïz tarïγlayta ärsär ymä inčip adïnlarqa asïγ qïlγu köngülin tiksär alqu bušïlïγ uruγuγ 「如是施主雖於惡田而益他心殖諸施種」 H35R23

ig

「病」 1429, 1905, 1906, 1906, 1906, 1907, 2624 ašnu ig bolup ken ot bolur 2624, yeel ig-lig kišilärkä ičürtükdä küncit yaγïn 2818, yintäm öngi ketärip ig-ligig 「唯除有病」 H33V9

i.-ig 1431, 1438

i.-ingä 1431

i.-kä 1907

i.-lärig 1424

i.-lig 2818

i.-ning 1431, 1436, 1438

i.-tä B2131

igid

äzüg igid 「虛僞」 1282, H30V40 ol tngri burxannïng savï äzüg-süz igit-siz adïrtsïz öngisiz 97, äzüg-in igid-in yadmaqïγ 「虛張」 B762, törtünč äzüg igid sözlämäk 「四虛誑語」 H30V35

igid-

igid- boltur- 「長養する」 muntaγ osuγluγ sanvarnïng azuča ymä atï ol igid-däči boltur-dačï tep 「如是律儀或名長養」 H33V33; öz igid- 「活きる」 qaltï qorqmïš üčün öz igid-mämäkkä ayïγ atqa qïïnqa qïzγutqa ayïγ ažuntaqï qorqïnčqa täginmiš küzädmiš čxšapt ärür 「謂怖不活惡名治罰惡趣畏故受護尸羅」 H35V7

i.-gäli i.-gäli boltur-yalï H33V36

iglä-

「病む」 qarïmaq iglä-mäk ölmäktä ulatï ada tudalïγ adruqlar üzä 「老病死等災橫差別」 3885

ikägü

see ikigü

iki

「二」 7, 28, 35, 40, 87, 87, 93, 117, 133, 138, 257, 258, 265, 269, 316, 317, 335, 379, 391, 416, 422, 450, 454, 456, 461, 467, 507, 547, 552, 559, 588, 588, 596, 596, 647, 648, 663, 670, 674, 682, 682, 701, 720, 734, 770, 778, 780, 781, 782, 784, 785, 803, 817, 819, 820, 824, 906, 965, 1023, 1030, 1407, 1070, 1113, 1206, 1207, 1251, 1317, 1351, 1352, 1353, 1355, 1356, 1358, 1382, 1383, 1406, 1447, 1451, 1465, 1467, 1511, 1548, 1552, 1588, 1590, 1643, 1743, 1755, 1759, 1761, 1826, 1874, 1875, 1879, 1884, 1932, 1956, 1957, 1958, 1960, 2056, 2096, 2097, 2098, 2151, 2166, 2169, 2171, 2172, 2173, 2229, 2307, 2324, 2338, 2417, 2442, 2592, 2608, 2611, 2634, 2761, 2768, 2777, 2787, 2792, 2802, 2836, 2848, 2848, 2917, 2922, 2924, 2931, 2931, 2949, 3003, 3004, 3007, 3028, 3031, 3038, 3041, 3045, 3078, 3080, 3081, 3087, 3089, 3112, 3124, 3139, 3147, 3207, 3208, 3218, 3228, 3284, 3343, 3414, 3453, 3455, 3491, 3495, 3499, 3499, 3503, 3524, 3529, 3533, 3541, 3560, 3566, 3594, 3608, 3609, 3619, 3791, 3792, 3835, 3839, 3850, 3853, 3857, 3863, 3865, 3934, 3935, 3960, 3989, 4000, 4015, 4094, 4193, 4268, 4269, 4271, 4279, 4283, 4298, 4349, 4477, 4486, 4525, B283, B322, B334, B335, B372, B386, B386, B524, B531, B539, B676, B694, B745, B846, B930, B952, B1153, B1161, B1277, B1282, B1284, B1285, B1329, B1422, B1428, B1439, B1441, B1442, B1445, B1449, B1449, B1452, B1454, B1456, B1458, B1460, B1460, B1463, B1518, B1524, B1525, B1549, B1703, B1739, B1825, B1835, B1850, B1969, B2001, B2026, B2071, B2075, B2081, B2087, B2094, B2121, B2221, B2410, B2412, H25R33 körüp iki asanke kalptaqïsïn 「觀二阿僧祇劫」 906, nomlamïšča alqu nomlar qavïrasïnča bolur iki türlüg 「説一切法略有二種」 2592, azuča ymä alqu nomlarta bululmaz iki öčmäklär 「或於諸法不得二滅」 3857, azu ymä iki köz birgärü bilmiš ödtä 「或二眼俱時」 B1442; iki ygrmi 「十二」 596, B283, iki otuz 「二十二」 35, iki tümän säkiz mïng 「二萬八千」 7

i.-ig 2239

i.-si 4075

ikigü ～ ikägü

「二」(集合)、「兩方」「俱」 110, 459, 467, 559, 1137, 1841, 1878, 1879, 1893, 1896, 1896, 2606, 2615, 2644, 3056, 3139, 4443, B1730, B2211, H30V17, ikägü B1495, B1496, B2043, B2374, H29V9, ikägü-nüng ät'özkä bolmaqï ymä andaγ oq ärür 「二於身亦然」 B2372, özli adïnlï ikigü-kä asïγ tusu qïlmaqï yooqsuz bdatï bolmaz 「自他俱利唐捐」 1075; ikägü birlä ärmäz padak 「俱非句」 B2043

i.-kä 1075

i.-ni 32, 1705, 3046, 3066, 4433, B2224; ikägü-ni B2113, B2114

i.-nüng 571, 2835, 3678, 3969, 4021; ikägü-nüng B2236, B2236, B2372, B2374, B2406

i.-tä 148, 159, 174, 850, H29V45; ikägü-tä B1737, B2027

ikiläyü

「更に」「猶」 47, 126, 147, 289, 299, 357, 360, 683, 683, 690, 692, 702, 703, 710, 713, 717, 746, 792, 811, 843, 1058, 1357, 1389, 1720, 1861, 2020, 2464, 2471, 2503, 2597, 2598, 2642, 2693, 2703, 2950, 2950, 2956, 2959, 2962, 3029, 3035, 3143, 3145, 3261, 3355, 3380, 3430, 3437, 3439, 3440, 3443, 3444, 3444, 3463, 3530, 3539, 3548, 3556, 3593, 3652, 3653, 3692, 3696, 3726, 3892, 3953, 4023, 4185, 4245, 4263, 4294, 4517, B338, B356, B428, B469, B478, B604, B723, B841, B842, B858, B1420, B1431, B1462, B1853, B1861, B2402, H29V23 ol balïq köngülindä tuγurup ökünmäk qïnanmaqïγ ikiläyü ičmädin yemätin 「其魚生悔更不飲噉」 2503, uyurlar alqïp sansarnïng učïn qïdïγïn ikiläyü täginmägäli kenki bolmaqïγ 「能盡生死際更不受後有」 4245, ärklig adqanγu bilig üčägü ikiläyü bir ikintikä qadïnïp bolup 「根境識三更相交涉」

B469, ikiläyü yoq adï bolmaz tarïqmïš「猶未名斷」 B723

ikin

ikin ara「二つの間」「中」 643, 651, 699, 1027, 1110, 1399, 3315, 3343, B1545, B1720, B1723, B1731, B1771, B1836, B1891 see ara

ikinti

「第二」 317, 335, 392, 451, 508, 627, 675, 888, 1114, 1252, 1460, 1553, 1589, 1829, 1875, 1876, 1881, 1885, 1920, 1957, 1958, 1960, 2057, 2092, 2099, 2152, 2166, 2173, 2308, 2418, 2539, 2540, 2922, 2923, 3005, 3008, 3022, 3043, 3059, 3097, 3148, 3209, 3228, 3507, 3834, 3961, 4000, 4095, 4194, 4526, B333, B373, B387, B677, B695, B906, B1114, B1153, B1330, B1431, B1740, B1814, B1816, B1817, B2233, B2237, B2241, B2244, B2245, B2255, B2256, B2268, B2269, B2278, B2279, B2291, B2292, B2298, B2302, B2302, B2309, B2310, B2317, B2349, B2382, B2383, B2389, B2396, H25R4 ikinti kšan「第二念」 B333, ikinti dyan「第二靜慮」 B2241, B2244, etc., ang'ilki bilig sanïšïγlïγ ikinti bilig sanïšïγsïz「一有識屬二無識屬」 B387; bir ikinti-kä「相互に」 bir uyušluγ öngi uyušluγ köngüllär üdlüm üdlüm bir ikindi-kä körüšü「同異類心展轉相望」(相) B88, anïlayu oq bir ikinti-kä bürüdüšmäz「仍不相觸」 B1844, bir ikinti-kä tardïlur tardïnlašur üčün「互相引故」 B503

i.-kä bir i.-kü 282, 379, 598, 1124, 2068, 2189, 2192, 2396, 2396, 2400, 2407, 2530, 2554, 2555, 2558, 2908, 3132, 3234, 3911, 3916, 4005, 4521, 4562, B131, B99, B134, B139, B328, B349, B469, B470, B473, B474, B478, B494, B499, B501, B502, B503, B514, B1902, B1058, B1392, B1418, B1424, B1486, B1500, B1735, B1745, B1748, B1749, B1750, B1752, B1756, B1757, B1766, B1769, B1770, B1776, B1778, B1780, B1815, B1817, B1819, B1821, B1822, B1844, B1847, B1859, B1867, B1868, B1869, B1883, B1929, B1943, B1956, B2027, B2194; ikindi-kä bir ikindi-kä B88, B96, B761, B1742, B1744, B1746, B1754, B1857

ikintiš

bir ikintiš-kä「相互に」 B344, B1730 ärkliglär parmanusï adqanγular parmanusï ikigü bir ikindiš-kä yaqïn sïqïlïšu B1730

ikirär

「二つずつ」 2637, B355, B356, B360, B361, H35R33,47 adïnlarï ikirär türlüg bolur「餘二者」 B361

ikirčgülä-～ ikirčgülän-

「猶豫」 qaltï ïraqta ikirčgülä-miš täg alqu yaqïntaqï üntä bolmaγu kärgäk odyuraq bilmäk「如遠猶豫於諸近聲應無決了」 B1594, yänä körgülüktä bolur üčün ikirčgülän-mäk「又於所見有猶豫故」 B1556

i.-mäk B1558, B1590; ikirčgülän-mäk B1556, B1593

i.-miš B1594

ikirčgülän-ür B1557

ikšürü

qat qat ikšürü「重累して」 qurdik täg qat qat ikšürü inčip turur「重累如丸而住」 B1939

ilgüntür-

「資する」 sücig tadïγlïγ aš ičgülärig išlädip ilgündür-mäklärі ärsär ät'özin「甘饍用資身」 1080

ililtür-

ililtür- tutultur-「つなぐ」 ilildür-miš tudultur-mïš ärür iki türlüg öčmäklärig 3040

ilin-

ilin- amra-「愛着する」 qaltï yerdinčütäki kišilär ilin-miš amra-mïš täg 1195

iliništür-

iliništür- tayanïštur-「依持させあう」iki užiklärig bir ikintikä ilinišdür-ü tayanïšdur-u sözläp 380

ilki

ang ilki 3097, see ang'ilki

imläl-

「浸される」 suv üzä imläl-miš topraqïγ 「水浸於土」 1115

inčä

「このように」B1218; inčä qaltï ..täg 「猶・・の如し」「譬ば・・の如し」 282, 913, 1041, 1237, 1429, 1441, 1655, 1835, 1950, 1959, 2128, 2138, 2562, 2807, 2811, 2813, 2913, 3975, 4137, 4168, 4424, 4444, 4447, 4458, B878, B883, B888, B893, B1523, B2079, H27V20,24 inčä qaltï aqïγlïγ timiš täg「猶如有漏」 4424, inčä qaltï alqu qamaγ altun tašlarïnïng arasïnta čïn altun ördülüp kizlälip turmïš täg「猶如諸礦中眞金隱茲住」 913, inčä qaltï yula yaruqï ïraq yaqïn iki bulung yïngaqlarqa birgärü tägüp inčip yarudmïš täg 「譬如明燈遠近二方俱至而照」 B1523; inčä tep 「次のようにと」 665, 911, 1371, 1996, 2047, 2121, 2510, 2522, 2877, 2886, 3162, 3167, 3170, 3182, 3252, 3392, 3467, 3528, 4035, 4220, 4222, 4227, 4415, B650, B1022, B1482, B1865, B1886, B2364 ärü ärü šlok sözläyü yrlïqadï inčä tep 「說偈言」 911, qaltï abidarimta sözlämiš ol inčä tep 「對法說云」 3252

inčgä

「細」 tïldaγï inčgä tüši yoγun üčün munung bar üčün vasdusï 「及細麁性故此有事故」 4200, bir qatïlmïš qavïšmïštïn bolur inčgä yoγun tüš tep tesär yörüg tözingä yaraš bolmaz üčün 「從一和合有細麤果不應理故」 H29R24, cf. yinčgä

inčip

「而して」「而かも」「即ち」「則ち」「當に」「然るに」 41, 53, 61, 75, 151, 231, 246, 256, 280, 286, 319, 325, 332, 342, 344, 349, 351, 364, 366, 498, 539, 554, 560, 563, 574, 575, 578, 583, 585, 620, 621, 658, 667, 715, 716, 757, 804, 817, 956, 966, 974, 1020, 1088, 1116, 1135, 1193, 1208, 1213, 1242, 1276, 1285, 1286, 1293, 1332, 1341, 1344, 1347, 1367, 1437, 1457, 1545, 1556, 1570, 1615, 1667, 1681, 1686, 1725, 1760, 1774, 1850, 1934, 1962, 1998, 2004, 2034, 2071, 2101, 2121, 2148, 2186, 2210, 2239, 2276, etc., B11, B22, B25, B31, B33, B35, B78, B86, B147, B152, B165, B182, B187, B251, B252, B252, B279, B291, B293, B294, B298, B299, B314, B342, B389, B448, B481, B516, B528, B530, B557, B566, B583, B619, B620, B668, B699, B731, B746, B761, B783, B785, B789, B804, etc.

mn inčip sözläyin 「我當說」 75, basa inčip ögär tngri burxanïng adïnqa asïγ qïlmaqlïγ ädgüsining büdügin 「次當讚佛利他德圓」 1088, munung tägšüdinčäsi ärsär inčip tidip öngi üdrülgülük 「違此即捨離」 1293, bu oq inčip ärür tïldaγnïng yörügi 「即是因義」 4194, bu oq inčip ärür čïnlayu abidarim 「此則勝義阿毘達磨」 1667, inčip amtï yrlïqaγay suduruγ oq bolur ülgü tep 「而今但說經爲量耶」 2355, munda öngi inčip tuγmïšqa adamïš ol altïnč ärmäztin tuγmïš tep 「異此而生名非六生」 B668, inčip öz uγušluγïnta bolmaz tängikmämäklig yörügi 「然自類中無非等義」 H25R58; inčip ... mu/mü 「豈」 inčip ol köngültäki nomlar ulalïp tuγmïš ödtä ymä ök bolmaz mu az üküš bölük uγuš üzä tängikmämäki 「豈不心所無間生時亦有少多品類非等」 H25R53

indrayakoš ～ indirayakoš ～ indirya-kooš < Skt. indriya-kośa 「根倶舍」「根品」 H25R4('yntr'y'kws), D34('yndyry-'kws)

i.-ta 3932('yndr'y'kws-t'), 39, 3189('yntr'y'kws-t'), 3309('yndyr'y'kws-t')

i.-uγ 36('yntr'y'kwswq)

inyanakoš

see iyanakoš

inyanaparastan

see iyanaparastan

ir-

「毀つ」「責める」; ir- münä- 「毀罵する」 uzadï tiltäki qïlïnč üzä ir-är münä-yür ärti 「嘗以語業毀罵」 2488; ir- qïna- 「責める」

i.-är 2488

i.-gälir i.-gälir qïna-yalïr 3682

ir-

「厭ずる」 ir-ip bu aqïγlïγïγ 「厭茲有漏」 49; ir-ip öngi üdrülmäk 「厭離」 uyur üčün eyin udu qïlγalï ir-ip öngi üdrülmäk-lig köngül-kä 「以能隨順厭離心故」 H33V53; aqla- ir- ～ ir- aqla-「訶厭」「厭患」 ärür üčün alqu bilgälärkä aqla-γuluq ir-gülük 「是諸智者所訶厭故」 H32R49, adïn uyur üzä ir-ärlär aqla-yurlar bu täginmäkig 「以餘行相厭患此受」 H37R38

i.-dukin SE20

i.-gülük 4506; i.-gülük aqla-γuluq H33R38

i.-ip 49, 4514, 4517; i.-p öngi üdrülmäk 4480, 4516

i.-mäk i.-mäk alqa-maqïγ H37R48

i.-mäkig H36R58

i.-miš 4504

irtür-

「厭わす」 vaynikelarqa irtür-gälir üčün ärür 「爲所化生厭」 SE22; irtür- tittür- 「厭捨せしめる」 kim irtür-gälir titdür-gälir üčün kävmäk birlä qavšurup [s]özlämiš ol SE26

iryapat

< Skt. īryāpatha tsi iryapat 「威儀」 tsi iryapat-ïγ tägšürdüktä kedärtüktä yörügi ymä antaγ oq bolγu kärgäk 「威儀易脱理亦應然」 H37R1

isig

「煖かい」「烈しい」 od at näčä tägšilsär ymä inčip isig tözläri bir täk bolmïš täg 「名雖改易而煖性同」 B1057, kün tngrining isig čoγï üzä 「烈日舒光」 B894; isig öz 「命」 H35R2, birök antaγ ärsär ymä ök bolmaz ülägü uryalï baxšï utrusïnta mn ulatï isig öz-üm üzülgінčä odyuraq täginürmn ayïγ čxšaptïγ 「若爾亦無有立限對師我乃至命終定受惡戒」 H33R40

isil-

「減る」 tayaqï eyin üklimäklig isil-mäklig bolur ärmäz B1468; isil- qora- 「減少する」

i.-gü i.-gü qora-γu B1464

i.-mäklig B1468, B1473, B1474

i.-ür B1465

istä-

「求める」「尋ねる」「追う」 birök isdä-sär yol kertü-nüng tïldaγ-ïn 「若尋道論之因」 4518, anï üčün bolmaz umaq tätrü istä-yü tükällig bolγalï 「是故無能逆追成者」 H32R34; istä- tilä- 「尋求する」「追伸する」 ančulayu ymä uluγ baxšïnïng ärtä baru tükätmiš ärsär ymä istä-yü tilä-yü ayasar tapïnsar turyursar ät'öztäki tiltäki qïlïnčïγ 「如是大師雖已過去追伸敬養起身語業」 H35R7; yinčür- istä- 「推度する」「決度する」「披閲」 uγurï yaruq yašuq sikiz adqanγu uγušuγ yinčür-däči isdä-täči 「行相明利推度境界」 B848, olar ašnu ödtä käntü özläri yinčür-mäk istä-mäk uyrïnta sudurta ulatï nomlarïγ 「彼於先時由自披閲契經等法」 H38V69; istä- tüpgär- 「尋究する」 täk tägimlig ärmäz ol isdä-gäli tüpgär-gäli 「但應尋究」 B1843

i.-gäli 4517; i.-gäli tilä-gäli 2010, 2017; yinčür-gäli i.-gäli B943; i.-gäli tüpgär-gäli B1843

i.-mäk B935

i.-mäki yinčür-mäk i.-mäki B957, B958

i.-mäsär i.-mäsär tilä-mäsär 2012

i.-miš yinčür-miš i.-miš 1983

i.-p 1436, 1700
i.-sär 4518; i.-sär tilä-sär 2022, 2339
i.-täči yinčür-däči i.-täči B848, B953, B955, B959, B962; yinčür-däči i.-däči B938
i.-yü 132, 136, 4514; i.-yü tüpgär.-ü B1849
i.-yür yinčür-ür i.-yür B939

istiramati
see ästiramati

iš
「用」「作用」 268, B825, B1007, B1008, B1302 bu öngüg körmäk iš köztä öngi tuγγu kąrgäk 「此見色用離眼應生」 B1008, kimning ärür körmäklig iš 「誰是見用」 B1302, tözi iš-i üklimiš ašïlmïš ärür 「體用增盛」 4553; iš küdük 「事」「作用」 183, 1637, 1643, 1650, 1655, 1658, 1906, 3432, B1007, B1008, B1088, B1093, B1095, B1332, B1389, B1391 iš-i küdük-i yaruq yašuq yti sikiz üčün 「用明利故」 B852, čïnkertü yoq ärsär iš-i küdük-i 「實無作用」 B1387; köni iš küdük 「正業」 1620; öz iš 「自業」「自用」 öngin öngin öz adqanγularïnta tägimlig ol sözlägäli öz iš-lärin 「各於自境應說自用」 B371; iš küdük üzä yügärü uqmaq-ï 「事現觀」 1641; iš išlämäk 「作用」「役割」 3199, 3209, 3211, 3743, B767; är iš-i 「士用」 H34R7,27,62; är iš-i tüš-i 「士用果」 4365
i.-i 153, 356, 702, 1645, 1647, 1648, 1664, 3355, 3430, 3444, 3530, 3727, 3928, 4365, 4553, B403, B404, B477, B1005, B1100, B1438, B1848, B1853, B2147; i.-i küdük-i 1663, 2077, 3585, 3658, 3733, 3737, 3739, 3745, 3747, 3759, 3922, 3923, 3925, 3928, 3938, 3939, 4111, B25, B318, B351, B372, B390, B478, B479, B852, B1088, B1104, B1232, B1271, B1387, B1394, B2100, B2148; är i.-i tüš-i 4365
i.-ig 182, B700, B1303, B1940; i.-ig küdük-üg 3911
i.-im 1550, 1551
i.-in 848, B420; i.-in küdük-in 4412, 4418, B187, B375, B376, B378, B1246, H26R7; öz i.-in B480
i.-indä 180
i.-ingä i.-ingä küdük-ingä B23
i.-ining B1018, B1308; i.-ining küdük-ining B341, B2097
i.-lär B1277
i.-lärі 108, 1548, 1553
i.-lärin öz i.-lärin B371, B379
i.-lärning B1279
i.-lig 1651, 3916, B1006; i.-lig küdük-lüg H26V60
i.-ligi H33V28
i.-siz 581, 3306, 3404, 3418, 3426, 3715, 4107, 4110, B269

išlä-
「作用する」; iš išlä-mäk 「作用」「役割」
see iš
i.-mäk B480
i.-mäkin 3209
i.-mäklig 3199, 3744
i.-mäkning 3211
i.-p B767

iišläliš- (eešläliš- ?)
「要する」 iišläliš-miš tägmiš tušta toquzunč qudrulmaq yolqa 「要至第九（解脫道）」 B736

iišläš-～ išläš- (eešläš-～ ešläš- ?)
「要する」「要ず」 ikiläyü nägü ärür iišläš-ip sözläp öngdä ulatï beš yükmäklär 3892, ašnu bolmaq üzä kkiri ken iišläš-miš ärür anïng arïγïn 「先有染後要其淨」 2632, ol iišläš-ip köngülkä tayaqlïγïn uyur üčün yorïγalï adqanγularta 「彼要依心能行境故」 B180, birök bu nomnung tuγmaqï qošuγluγ sanlïγ ärsär ol nomqa išläš-ip anïng basasïnta bu temin bolur tuγγalï 「若此法生繫屬彼法要彼無間此乃得生」 H26R17; iišläš- tanqar- 「要期する」 yintäm bir kün tün üzä iišläš-ip tanqar-ïp inčip tägingülük ol 「唯一晝夜要期而受」 H32V62
i.-däči 775
i.-gäli i.-gäli tanqar H33R42

i.-ip 232, 2733, 2736, 3421, 3433, 3892, B75, B180, H25V64, H26R19; išläš-ip 3424
i.-mäk i.-mäk tanqar-maq H33R32
i.-miš 2632

išlät-
「作用させる」「用いる」 sücig tadïγlïγ aš ičgülärig išläd-ip ilgündürmäkläri ärsär ät'özin 「甘饍用資身」 1080
i.-ip 955, 1080, 4369
i.-mädimiz 575
i.-miš 558
i.-ürlär 1070
i.-sär H33V66

išvare
< Skt. īśvara 「自在」「自在天」 adïnlarï iki basudčï uyrïnda tuyar išvare-tïn ärmäz 「餘由二緣生非天」 3935; išvare tngri 「自在天」 42, 4275, 4278
i.-γ 4272
i.-tïn 3935

it
「狗」 täglükän balïq quš it äsringü uyušluγ quš käyik 「鵄鵂魚狗諸禽獸」 2489

itivritaka
< Skt. itivṛttaka 「本事」 idivridaka ävriš 2334

itlin-
itlin- ärt- 「消去する」 alqu basudčïlar idlin-ür ärt-är közünür ödlüg tušta 3759

ittür-
unït- ittür-「忘失させる」～ unïttur- ittür-, näng kim unïd-matïn idtür-mätin 「勿令忘失」 2363, 2371, kim unït-γalï ittür-gäli qïlγalï tägimlig tägimsiz alqu iš kütüglärig 「令忘失應不應作諸事業故」 H33V63, köni nomuγ kim unïdtur-matïn idtür-mätin 20; ög ittür- 「失念」 bolmaγu kärgäk ög ittür-mäk üzä inčip čxšapt sïtačïlar 「應無失念而破戒者」 H29R12, basaqï bor bägni ičmäktin öngi üdrülmäk uyur tïdγalï ög ittür-mäkig 「次離飲酒能防失念」 H33V61; tayturmaq ittürmäk 「退失」 H27V7
i.-mätin unït-matïn i.-mätin 2371
i.-miš H31V44
i.-gäylär unït-γaylar i.-gäylär 2520

iyanakoš ～ inyanakoš ～ inyana-kooš
< Skt. jñāna-kośa 「智倶舍」「智品」 D20 (inyana-kooš)
i.-ta 60
i.-uγ 56; inyanakoš-uγ 56

iyanaparastan ～ inyanaparastan
('yy'n'p'r'sd'n ～ 'yny'n'p'r'sd'n ～ 'yny'n'p'r'st'n) < Skt. jñāna-prasthāna 「發智（論）」 287, 335, 336; inyanaparastan 1573, 1935, 1947, 1951, 1959, 2107
i.-ïγ 343
i.-nïng 337
i.-qa 342
i.-ta 1914, 1575, 1752, 1760, 2327, 2340

iyišläš-
i.-ip B359, see iišläš-

iz
iz uruγ 「迹」 tört türlüg nomluγ iz uruγ-lar 「四法迹」 2453

K

kadgi-višanakal-pake
< Skt. khaḍga-viṣāṇa-kalpa kadgi-višanakal-pake pratikabud 「麟喩獨覺」 H39R24

kadyot
< Skt. kha-dyota 「螢」 mn uγradïm kadyot

qurt-nung yaruqï kün tngrining yaruqïnga basudlayurïnča 「我將螢燿助陽光」 13

kakadanta-parikš
< Skt. kāka-danta-parīkṣā kakadanta-parikš šasdr 「相鴉齒論」 1968

kalp
< Skt. kalpa 「劫」; kalp bašlaγ-ï 「劫初」 842; üküš kalp-lar 「多劫」 93, 405; keng alqïγ kalp-lar 「廣劫」 395; asanke kalp-lar 「阿僧祇劫」 636, 906, 9091, šaripudre arxant körüp iki asanke kalp-taqïsïn 「舍利子觀二阿僧祇劫」 906
k.-larta 93, 395, 405, 636
k.-ta 902, 909
k.-taqïsïn 906

kapile
< Skt. kapila 「迦毘梨」「劫比羅」 2485; kapile toyïn 2483

karik
< Skt. kārikā 「本頌」「頌」 71, 329, 330, 1757, 2927, 3212, 3596, 4304, H27V46, D5 karik sözlär aqïγlïγ nomlar tudyaq yükmäk tep adanurlar 「頌曰有漏名取蘊」 4304, munda yörär karik-daqï 「此解頌中」 B652, munï bu karik-ig sözlämäk üzä ašnuča uqïtur uqïtmazning tutyaqsïz ärtükin 「今此頌中先辯無表是無執受」 H29R68
k.-da H29V61
k.-daqï B652
k.-ïγ 331, 2898, 2926, 3243, B804 ～ k.-g H29R68
k.-ning 2687
k.-ta 246, 1148, 1221, 1703, 2086, 2896, 2916, 2935, 2942, 3605, 3621, 3865, B27, B540, B480, B794, B808, B830, B1442, B1499; k.-da 2090, 2094, 2590, 2591, 2600, 2603, 2673, 2682, 2684, 2685, 2729, 2973, 3020, 3100, 3274, 3552, 3878, 3933, 3956, 4265, 4581

karmakoš ～ karma-kooš
< Skt. karma-kośa 「業俱舍」「業品」 karmakoš H30R4, karma-kooš D19 anïn lokakošta ken sözlämiš ol karmakoš-uγ 44
k.-ta 48
k.-uγ 44

karna
< Skt. karṇa 「耳」 SE28

kašip
< Skt. kāśyapa 「迦葉佛」 kašip tngri burxan 2486

kašmir
< Skt. kāśmīra 「迦濕彌羅」 339, 2148, B380, H28R20 kašmir illig vaybašikelïγ baxšïlarnïng yörügi 「迦濕彌羅義理」 339

katyanaputre
(k'dy'n'pwdry ～ k'dy'n'pwtry) < Skt. kātyāyanī-putra 「迦多衍尼子」 2016, 2017, 2020, 2107, 2214, 2528 ayaγqa tägimlig kadyanapudre-ta ulatï alqu maxa širavaklar sanggit qïlïp ornadïp urdïlar 「大德迦多衍尼子等諸大聲聞結集安置」 2127
k.-ta 2127, 2145, 2184, 2329

katyayane
< Skt. kātyāyana 「迦多衍那」 ayaγqa tägimlig kadyayane arxant ärür 2113

kä
(與格表示接尾辭) kä vibakti 「與格」 törtünč käzigtäki anga timištäki tördünč anga tegüči kä vibakdi üzä ögmiš kärgäk 1339

käbit
kedin käbit 「店」 kedin käbit-lig vasdu 「店事」 4252

käč-
ärt- käč- 「過ぎ去る」 bu közünür ödkisi ärsär

kšanta ärd-är käč-är 685

kädim

ton kädim 「衣服」 qaltï alqu qayu barïnča ton kädim aš ičgü soγïq isigtä ulatï savlarïγ 「謂諸所有衣服飲食冷煖等事」 H36V61

kägdä

「紙」 tägimlig ol bidigäli kägdä-tä 2523

käk

ööč käk 「怨み」 isig özi näčä üzülsär ymä anïlayu oq öritip ööč käk saqïnčïγ öritsär turγursar adruq adruq ayïγ ät'öztäki tiltäki qïlïnčïγ 「彼命雖終猶懷怨想發起種種惡身語業」 H35R3

käl-

「來る」 ün ulalu ävrilip käl-ip kirür üčün qulγaqqa 「聲相續轉來入耳故」 B1651; käl-mädük öd 「未來世」 = ken käl-igmä öd ol adqanyu uyušuy adqandačï beš bilig quvrayï turup käl-mädük öd-tä birdämläti tuγmaz 「緣彼境界五識身等住未來世畢竟不生」 3626; ančulayu käl-miš 「如來」 ang'ilki tapïnγu udunγu üčün ančulayu kälmiš-lär-ning sanvarïnga turγursar ästup öngrä turγurmaduq orunta 「一爲供養如來馱都建窣堵波於未曾處」 H35V42; ken käl-däči 「後來」

k.-däčilär ken käl-däčilär 2154

k.-igmä ken k.-igmä öd 1050

k.-ip B1651, B1657, B1672

k.-mädük k.-mädük öd 202, 259, 261, 263, 266, 684, 692, 703, 704, 902, 970, 2195, 2519, 2867, 3599, 3603, 3626, 3650, 3706, 3712, 3718, 3729, 3738, 3786, 3793, 3799, 3810, 3852, 3890, 3918, 3920, 3938, 3941, 3972, 3974, 4041, 4061, 4061, 4119, 4120, 4529, 4531, B258, B267, B270, B272, B368, B505, B1136, B1144, B1235, B2015, B2025, B2038, H25V28,29,32; k.-mätük öd 3141

k.-mäkin 3136

k.-miš ančulayu k.-miš 418, 1284, 1398

k.-mišlär ančulayu k.-mišlär 1401, 2423

k.-mišlärning ančulayu k.-mišlärning 900, 1385

k.-mišning ančulayu k.-mišning 895, 2259

kämišil-

tüšürül- kämišil- 「落とされる」 üč basudčïlar tüšürül-üp kämišil-ip turmaz 3708

k.-ip tüšürül-üp k.-ip 3679, 3708

känt

suzaq känt 「村落」「村邑」 H28R39, qaltï suzaq-ïγ känt-ig ulatï suzaq-nïng känt-ning tägräsisin yumtaru adamïš täg suzaq känt tep 「譬如村落及村落邊總名村落」 H28R38, qaltï suzaq-nïng känt-ning yaqïnï bulmïšï täg suzaq känt teguči adïγ 「如近村邑得村邑名故」 H31R36

k.-ning suzaq-nïng k.-ning H31R36

k.-tä suzaq-ta k.-tä H31R38

käntü

「自ら」 käntü 235, 243, 251, 267, 396, 532, 854, 867, 920, 968, 968, 1026, 1036, 1049, 1055, 1064, 1069, 1073, 1081, 1082, 1084, 1139, 1154, 1170, 1246, 1252, 1256, 1261, 1360, 1389, 1466, 1525, 1555, 1557, 1569, 1594, 1670, 1683, 1708, 1923, 1972, 2053, 2159, 2161, 2163, 2163, 2380, 2567, 2567, 2574, 2578, 2590, 2675, 2729, 2733, 2826, 2844, 3127, 3127, 3128, 3129, 3310, 3354, 3373, 3373, 3459, 3488, 3500, 3514, 3523, 3543, 3551, 3551, 3586, 3697, 3915, 3915, 3994, 4095, 4293, 4426, 4431, 4442, 4578, B15, B329, B611, B618, B1035, B1035, B1067, B1067, B1072, B1072, B1303, B1303, B1312, B1402, B1402, B1690, B1783; kändü 664, 1370, 2021, 2898, B266, B316, B319, B320, B597, B1313, B1652, B1870, B2403

anušayakošta käntü ken uqïdu sözlägäy biz 「隨眠品中自當顯說」 2826; käntü öz-i 「自ら」「自己」 235, 243, 251, 267, 396, B319, B320, B329, H37R52, etc. käntü öz-i üčün ärmäz 「非爲自」 1084, arxantlar käntü öz-lärin viyakirt qïlu sözlämišlär

「阿羅漢自記別言」 B611

käräklä-

「必ず」

k.-p B767, cf. kärgäklä-

kärgäk

「必要」「必要である」 131, 139, 1946, 2978, 3088, 3240, 4185, 4187, 4317, B2080; -γu/-gü kärgäk ～-mïš/-miš kärgäk 「(應に)・・せねばならない」「(應に)・・すべし」「必要がある」 23, 157, 174, 183, 216, 233, 253, 341, 342, 389, 530, 538, 547, 564, 654, 683, 684, 691, 705, 742, 793, 899, 915, 924, 1044, 1199, 1339, 1350, 1410, 1413, 1444, 1516, 1524, 1626, 1681, 1799, 1848, 1921, 1963, 2027, 2035, 2051, 2083, 2174, 2234, 2240, 2250, 2267, 2272, 2287, 2363, 2370, 2391, 2394, 2413, 2429, 2430, 2443, 2466, 2480, 2485, 2547, 2557, 2598, 2678, 2686, 2688, 2702, 2712, 2721, 2725, 2761, 2767, 2837, 2880, 2889, 2956, 2958, 2982, 3059, 3086, 3107, 3110, 3131, 3138, 3148, 3149, 3150, 3151, 3153, 3174, 3177, 3185, 3255, 3295, 3306, 3353, 3403, 3414, 3446, 3448, 3452, 3454, 3456, 3474, 3486, 3533, 3539, 3541, 3565, 3570, 3572, 3575, 3711, 3721, 3721, 3740, 3774, 3988, 4011, 4042, 4063, 4073, 4085, 4118, 4182, 4259, 4260, 4357, 4396, 4409, 4451, 4514, 4528, 4540, 4572, 4576, B12, B32, B44, B61, B129, B129, B159, B161, B171, B191, B206, B218, B245, B260, B270, B271, B283, B325, B334, B338, B370, B430, B437, B445, B457, B461, B613, B614, B631, B632, B634, B637, B638, B646, B646, B742, B752, B774, B816, B822, B827, B977, B979, B982, B994, B997, B998, B1008, B1024, B1025, B1028, B1030, B1032, B1040, B1041, B1064, B1080, B1084, B1091, B1092, B1096, B1106, B1124, B1135, B1153, B1155, B1178, B1220, B1229, B1251, B1260, B1267, B1269, B1329, B1419, B1454, B1464, B1510, B1511, B1516, B1539, B1558, B1570, B1578, B1589, B1593, B1595, B1608, B1613, B1649, B1660, B1689, B1715, B1735, B1816, B1818, B1847, B1872, B1923, B1932, B1965, B1981, B2044, B2075, B2077, B2081, B2091, B2100, B2128, B2143, B2147, B2161, B2173, B2198, B2212, B2222, B2284, B2300, B2404, B2407, B2417, H37R2, etc. ～-γalï kärgäk 683, 3086, ödrü qodul-γu tidil-gü kärgäk ülgülänčsiz sudurlar 「便應棄捨無量契經」(應) 2250, ärü ärü adï bol-γu kärgäk ičdin sïngarqï tep 「轉應名內」 129, nomta bululγuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi tört padak qïl-mïš kärgäk 「於法得滅應作四句」 3774, yörüg tözinčä saqïn-mïš kärgäk 「如理應思」 B2284; nä kärgäk ..-p 「何の必要で・・する」 126, 289, 810, 1354, 2463, 2471, 2509, 2532, 2598, 2937, 2959, 2962, 3593, 3897, 3905, 4314, B356, B841, nä kärgäk angayu uqïd-ïp ögmäk külämäkig 1354, ikiläyü nä kärgäk ärti sözlä-p nom tep 2598; ägsük kärgäk 「缺減」「缺略」 961

k.-i ägsük-i k.-i 104

k.-lig B235

k.-ligin 1700

kärgäkinčä

「必然的に」 1590, 3058, 3069, 3072 savïn kärgäkinčä qavšurup yörmiš ol 1590

kärgäklä-

「要する」 tägimlig ol kärgäklä-p öz qadïγlanmaqïn uqïdγalï bu bilgä bilig yükmäkning tayaq büdgäli bolurïn 2296; -γalï kärgäklä- 「・・する必要がある」 anïn amtï kärgäklä-yür taγar-γalï 562; kärgäklä-p 「必ず」「必然的に」 amtï küsämiš üčün kengürü yörgäli anïn kärgäklä-p uqïdmïš körgidmiš ärür 3018

k.-däčilärkä 51

k.-p 357, 379, 1212, 2295, 3018, 3030, 3055, 3065, 3235, 3437, 3582

k.-yür -γalï k.-yür 561, 562

kärik

「廣い」 kärik ïraq 「廣遠」 1119

kärmäk
köngül kärmäk 「作意」(Skt. manasikāra) B1198, B2086, B2087, B2207, B2220 köngül kärmäk (tegli) köngüldäki nom ärür tayandačï tözlüg B2087, törüsüz köngül kärmäk-tin tuymïš üčün 「以從非理作意所生」 H34V39, aqïysïz köngül kärmäk birlä yaratïlmïš nom adïrtlamaqïy 「無漏作意相應擇法」 H38R4
k.-tin köngül k.-tin H34V51
k.-tä köngül k.-tä B2225

kärpič
titig kärpič 「泥土」 B1791, B1792, B1807 qaltï tidig kärpič üzä 「如以泥土」 B1791

käsil-
üzül- käsil- 「破られる」 bïšrunu yordačïlar birdämläti üzül-mäzün käsil-mäzün 203
k.-mäz üzül-mäz k.-mäz 2775
k.-mäzün üzül-mäzün k.-mäzün 203

käv-
「弱める」 nädägin käv-är nizvanïlarïγ 310; käv-bas- 「伏斷する」; küčsirät- käv- 「減少させる」; qurultur- käv-「衰損する」 [qaltï] eti[glig nom-ta birök yoq ärti ärsär kävmäk bäl]gü-si qurultur-dačï käv-dači [ädrämin] 「謂有爲法若無異相衰損功能」 SC5
k.-är 310
k.-gäli 309, k.-gäli bas-γalï 746
k.-mämiškä küčsirät-mämiš k.-mämiškä 632

kävmäk
「異相」「異」 H26R52, ulatï köngüllüg tuštaqï alqu köngül köngültäki nomlarnïng tuymaq turmaq kävmäk ärtmäki ärür 「及有心位諸心心所生住異滅」 H26R46; kävmäk bälgü 「異相」 SD5
k.-in SE17

kävig
「空(から)」 nom-larnïng küč-i küčsüz kävig ärur SG12

kävil-
küčsirä- kävil- 「減少する」「衰損する」 küči kösüni küčsirä-miš kävil-miš üčün 990; qurul- kävil- 「損伏される」「衰損する」 kizlälmiš yïγïlmïš qurul-mïš kävil-miš üčün 「隱積損伏故」 3886

käyik
quš käyik 「禽獸」 2489
k.-lär quš k.-lär B2215

käyiklä-
「獵する」 tukäl tïdïlïp ölürmäk käyiklä-mäk tuzaqlamaq oγrïlamaqtïn tïnlylar 「具制屠獵姦盜有情」 H33V27

käz-
「遍歷する」「經驗する」 inčip išläšip käz-tükdä tušïn 「然要歷位」(歷) 3424; käz-ä yorï-「遊ぶ」 inčip käz-ä yorï-duqta učrum adalïγqa 「而遊險阻」 B880, näng yügärü dyanta bögülänmäk bilgä biligtä käz-ä yorï-maqïy iišläšip ärmäz 「非要現遊靜慮通慧」 H25V63
k.-ä k.-ä yorï- B880, B885, B890, B895, B2423
k.-gäli B1406
k.-mädük 4095
k.-mädüki 4097
k.-miš 4095, 4103
k.-mišin 4098
k.-tükdä 3424

käzdä (käztä ?)
「直ちに」「頓に」 826, 3421, B1656, B1662, B1913, H30R67, H38R10,27,34 yügärü körür alqu qongraγu ünining käztä amrïlïp arïdï äšidgäli bolmazï 「現見一切鈴聲頓息都不可聞」 B1662, azu tözläri öngin öngin angayu ärip tükäl käz-tä mü tuγar

「爲體各別具足頓生」 H30R65

käzig

「相續」「次第」「次」 328, 4169; qaltï öz käzig-indäki 「謂自相續中」 B682 anïn adïra qavšursar tegüči sav üzä uqïtur käzig-i täg ärmäzin 「故離合言顯勿如次」 H31V18; käzig tizig 「次第」 3935, B693, H26R11 ol käzig tizig-kä tayaqlïγïn uqïdmïš ol iki türlüg taryarmaqlïγ 「依彼次第立二種斷」 B693, burxanlar oxšatmaq yangyarmaq uyrïnta ärtmiš közünür ödki tïltaylï tüšlining käzig-in tizig-in 「由佛比類過去現在因果次第」 H25V47

k.-dä 715

k.-i 1699; k.-i tizig-i B2013

k.-ig B312

k.-in 24, 3866, B425, B433

k.-indä 3262

k.-indäki 971, 3792, 3792, 3795, 3796, 3799, 4408, B682

k.-ining 3264

k.-läringä 323

k.-tä 3694, 3699, B311, B426

k.-täki 1338, 1920, 3792; k.-däki 1033, 3803

käzigčä

eyin käzigčä 「次第に」「順次」 2465, 2466, 2573, 3714, 3718, 3720, 3722, B718, B1449, B1461, H28V11 näng alqu körmäk yol üzä uyur ärmäz (orun) adïrtï eyin eyin käzigčä kirtin öngi üdürülgäli 「非諸見道能隨地別次第離染」 B718; ančan ančan käzigčä 「漸次」 B708, B876, munï munčulayu alqu qošuylar(ïγ) ančan ančan käzigčä taryarmïš ödtä 「如是諸結漸次斷時」 B708, yïltïzï ulunï butïqï yapïrγaqï ančan ančan eyin käzigčä ükliyü etilü 「根莖枝葉漸次增榮」 H25R50

keč

ür keč 「久しく」「久遠に」 16, 989, 1006, H28V51 asïγ tusu qïlγu üčün tïnlylarqa nomuγ šazinïγ ür keč turγuryu üčün「爲利群生法久住」16 k.-tin 1008

ked-

tägimlig ärip munï munčulayu ket-gäli tonanγalï 「應如是著衣」 H34V45

kedin

「後ろ」「西」 yertinčütä-kilär sözlämiš ol öngdünki uqušluγ čïqïradï kedin-ki orunluq čïqïradï tep B1244; kedin yïngaq 「西方」 bu öngdün yïngaq mu ol kedin yïngaq mu ol bu kündün yïngaq mu ol bu tayïn yïngaq mu ol B1879, kündin kedin taydïn bulung yïngaqtaqïsï ymä ök yänä ančulayu oq ärür 「南西北方亦復如是」 H27V29

k.-ki B1244

kedin

kedin käbit「店」kedin käbit-lig vastu「店事」4252

kemi

「舟」 tüzün yolluγ kemi bolmasar 2060; tar kemi 「筏」 4137, 4188

ken

「後に」「當に」 39, 43, 48, 52, 60, 75, 171, 207, 213, 451, 453, 659, 660, 850, 851, 1009, 1020, 1050, 1546, 1699, 1703, 1729, 1729, 1807, 1933, 2135, 2154, 2168, 2329, 2362, 2369, 2489, 2493, 2495, 2574, 2623, 2624, 2624, 2625, 2632, 2634, 2826, 2850, 2895, 2987, 3036, 3076, 3080, 3082, 3084, 3099, 3126, 3310, 3357, 3365, 3545, 3595, 3597, 3598, 3606, 3608, 3610, 3697, 3764, 3787, 3818, 3840, 3841, 3843, 3847, 3849, 3864, 3950, 3964, 3984, 4037, 4039, 4171, 4184, 4200, 4290, 4330, 4398, B289, B297, B303, B313, B315, B373, B374, B384, B401, B405, B405, B406, B412, B553, B555, B733, B781, B854, B1002, B1170, B2014, B2425

ken bar ärti balïqčï kiši 「後有漁人」 2493, ašnu bolmaq üzä kkiri ken iišläšmiš ärür anïng arïγïn 「先

有染後要其淨」 2632, birök kälmädük ödkig bolmasar odyuraq öngdün ken bolmaqlïγ käzig tizig üzä ornatïp uqïtyalï 「若於未來無定前後次第安立」 H26R10, anušayakošta käntü ken uqïdu sözlägäy biz 「隨眠品中自當顯說」 2826; ken käligmä öd 「未來」 1050; ken käldäči 「後來」 2154; ken tuγdačï 「當生」 3597, 3598, 3606, 3608, 3610, 3818, B303, B373, B374, B405 birdämläti tïdmaqtïn ken tuγdačï nomlarïγ bululur bilmätin öčmäk 「永斷當生得非擇滅」 3598; ken yorïdačï 「當行」 3950, 3964, öngrä yorïmïš amtï yorïyu turur ken yorïdačï tözlüg 「已行正行當行性」 3964

k.-i 2565

k.-siz H25V31

kenki

「後にある」「後のもの」 171, 175, 293, 294, 581, 584, B14, 1109, 1578, 2097, 2102, 2174, 2541, 3338, 3494, 3509, 3512, 3912, 4245, 4255, 4256, 4345, B334, B540, B551, B552, B554, B555, B556, B567, B716, B800, B806, B1685, B2056, B2113, H25V5 kenki üčägü uγušlar yumdaru üčär bolur 「後三界通三」 B540; kenki bolmaq 「後有」 4245, 4345, azuča ymä uyur adqanγalï tudγalï kenki bolmaq-ïγ tardtačï qïlïnčïγ 「或能執持引後有業」 4345

k.-si 2558, B2012, H25R9

k.-sin 1093, 1786, 3979, 4122

k.-sining B2011

k.-singä 1786, H25V2

k.-sintä B2055

keng

「廣い」「詳しい」 291, 1575, 1576, 2487, 2852, 3074, 3098, B1894, H26V28,31; keng uluγ「廣大」「甚大」 193, 383, 1061, 2491, anïng ät'özi keng uluγ säkiz ygrmi bašlïγ 「其形甚大有十八頭」 2491; keng alqïγ kalplar 「廣劫」 395; keng bilmäklig「博學」 2487; yangšaq keng「冗長」 295, 2577, 2617, 2823, B237, B843, B1165; keng sav 「廣文」「廣事」 B125, B764

k.-i 2058, 2063

k.-ingä 295

kengür-

「廣げる」 bölüp adïrtlap kärgäkinčä kengür-miš ärür 3069; vaypuliya kengür-mäk 「方廣」(Skt. vaipulya) 2337

kengürü

「廣く」「弘く」「廣說」 2, 14, 32, 51, 124, 851, 914, 923, 964, 965, 1020, 1350, 1365, 1719, 2260, 2273, 2276, 2278, 2281, 2287, 2544, 2546, 2550, 2573, 2576, 2649, 2650, 2850, 2864, 2870, 2895, 3017, 3072, 3099, 3176, 3310, 4415, 4584, B369, B430, B505, B1162, B1220, B1411, B1492, B2403, H25R5, H25V14, kengürü sözlämiš kärgäk ulatï köngül uyušïn ymä andaγ oq 「廣說乃至意界亦爾」 B430, küčüm yedmišinčä kengürü uqïd-γalï abidarmakoš šasdrïγ 「隨力弘宣對法藏」 14, eyin yaraγïnča kengürü-sin köznüng täg yörmiš kärgäk 「隨其所應廣如眼釋」 B2407; kengürü yör-「廣釋する」 851, 964, 965, 2276, 2278, 2281, etc. abidarimta kengürü yör-är suduruγ 「阿毘達磨廣釋契經」 2278;

k-si 4, 2506, 4585, B2280

k-sin B2407

kertgün-

「信じる」 ödrü tägimlig ärti odyuraq kerdgün-gäli 2191; kertgün- tägin-「信受する」 amtï sözläsär siz bilip nomladačï kišig temin ök tuγururlar kerdgün-mäk tägin-mäkig tep 2029, törtünč kertgün-mäk tägin-mäk uγrïnta tngri burxanïγ uluγ baxšï ol 「四由信受佛爲大師」 H32V42; kertgün- ayan-「信仰」 233

k.-däči k.-däči tägin-däči 2025

k.-gäli 2191; k.-gäli tägin-gäli 1991, 2001, 2004, 2019

k.-gülük 2425

k.-mäk k.-mäk tägin-mäk 2029
k.-mäz 2529
k.-üp H38V66, k.-üp tägin-ip 1998

kertgünč
「信」 tuyuryu ärsär näng alqu sudurlar barča tayaq bolur ärmäz 2306; kertgünčü köngül「信心」 196, 197, 227, 1448, 1452, tuyurzunlar süzük kirdgünč köngül-üg 196, yintăm süzük kertgünč köngül uyrïnta「由淳淨信」 H32R11; kertgünč ayanmaq「信仰」 232; kertgünč eyin yorïdačï「隨信行」 H38V55,58,61 kertgünč eyin yorïdačï äränlär「隨信行者」 3822, 3824
k.-lüg H35V57
k.-üg 90, 96, 130, 135, 139, 223, 231, 2306

kertü
「諦」 kertü 1851, 2801, 2938, 2940, 2943, 2969, 2970, 2971, 2971, 2972, 2975, 2992, 3023, 3026, 3270, 4300, 4497, 4501, 4507, 4517, 4520, 4526, 4533, 4537, 4540, 4563, 4564; kerdü 2683, 2684, 2685, 2686, 2801, 2928, 3008, 3015 tüzünlär kertü-sin körmišlär ärsär alqu ayïγ ažuntaqï nomlarnïng qamaγ basudčïsï ägsük üčün「見聖諦者諸惡趣法衆縁闕故」 B720; čïn-ïnča kertü-sinčä「如實に」 1223, 1371, 1489, 2136 čïn-ïnča kerdü-sinčä ärsär čaritča oq ärür yörüngdäk bolmaq üzä「如實行對治」 1223; öčmäk kertü「滅諦」 1851, 2801, 3056; yol kertü「道諦」 2684, 2686, 2690, 2704, 2801, B586, etc. aqïγsïzï ärsär qaltï yol kerdü ärür「無漏謂道諦」 2686; tergin kertü「集諦」 4565; čïn kertü see čïn
k.-g 2704, 2934, 2961, 3012, 3056, 3270, 3422, 3876, 4517
k.-kä 3320, 4544
k.-lär 1846, 2711, 2777, 2792, 2836, 2837, 2849
k.-lärig 313, 314, 826, 1658, 1850, 2802, 2824, 2841, 2848, B548, B641
k.-lärkä 3524, B560
k.-lärning 590, 825, 862, 884, 885, 2712, 2761, 2768, 3428, 3431, 4487, B754, B838
k.-lärtä 622, 2804, 2816, 3054, 3435
k.-li 2787
k.-lüg 2008, 2010
k.-nüng 2979, 3098, 4518, 4543
k.-si 1816, 2929, 3098, B586
k.-sin 1654, 3313, 3319, B720, B1406
k.-sinčä 1223, 1371, 1489, 2136, B680
k.-sining 2933, 3091, B659
k.-süz B1235
k.-tä 1889, 2690, 2737, 4505
k.-tin 4565

ketär-
「除く」「除斷」; taryar- ketär- 178, 194, 200, 4247, B743 körümtä ulatï adïn nizvanïlarïγ körmäk yolta barča uyur taryar-γalï kedär-gäli B743; öngi ketär- 「除く」 1653, 1830, 2594, 2674, 2680, 2688, 2694, 2701, B317, B320, B331, B575, B583, B885, B916, B2234, H25R18, 20, H26V36, etc. yoluγ öngi kedär-ip adïn ediglig nomlarnïng munung adï bolur aqïγlïγ tep「除道餘有爲法是名有漏」 3869, öngi kedär-ip alqu bük üzä qararmaqïγ inčip käzä yorïduqta učrum adalïγta「除諸晦冥而遊險阻」 B885; qavïr- ketär-「略去する」 3315, 3328, 3336, 3339, 3342, 4348, H27R15 qavïr-ïp kedär-ip ikin araqï savïn anïn mundaγ tep sözlämiš ol「略去中言故作是說」 3315; sï- ketär-「破斥する」 B1165
k.-gäli 178, 4247, B743
k.-gälir 2941
k.-güči B331
k.-güčitä 2973
k.-gülüki 2694
k.-ip 1653, 1830, 2594, 2674, 2680, 2704, 2935, 2974, 3005, 3315, 3328, 3336, 3339, 3342, 3753, 3869, 3876, 4312, 4348, B575, B583, B885, B916, B2234, B2321, B2333
k.-mäki 1438
k.-mäkin B1165

k.-mäklig 3586
k.-mäkning 3333
k.-mäsär 2703
k.-miš 2701
k.-miši 3334, 3338, 3341
k.-mišin 2688
k.-ü 1015, 2944, 2952
k.-ür B317, B320
k.-zünlär 194, 200

kib
yang kib 「圖」「軌」 yangluqïnča turyurmïš üčün öngisin yang-ïγ kib-ig 「妄起圖故」（圖） 1995, azuča ymä bu ärür üčün šasdrnïng yang-ï kib-i 「或此是論之軌」（軌） 3058
k.-i 206, 3058
k.-ig 1995

kičig
「小」 789, 1382, 1722, B1537, B1899 körülür üčün kičig yruqnung uluγï üzä yavalγuluq bolmïšï 「現見小明大所伏故」 B1537; kičig kölüngülüg tüzün yol 「小乘」（劣乘） 1383
k.-i B1902, B1887
k.-ig B1904

kičig-kyä
「小さな」 B453

kigür-
「導く」「收める」 kigür-gütä qudruldačï vaynikelïγ tïnlγlarnïng kim käzigläringä 322, šasdrtaqï yeg adruq yeg soγančïγ užiklärig yörüglärig kigür-miš üčün 1950; tägšildürüp kigürmäk 「轉入させる」 4173
k.-gükä SD7

kikinč
「答え」 32, 854, 1360, 1370, 1555, 1557, 1569, 1594, 1927, 2006, 2036, 2053, 2089, 2120, 2124, 2223, 2511, 2514, 2517, 2590, 2655, 2656, 2657, 2673, 2822, 2844, 2876, 2888, 2938, 2966, 3051, 3163, 3166, 3168, 3171, 3183, 3188, 3189, 3374, 3382, 3390, 3470, 3503, 3654, 3727, 3777, 3778, 3872, 3874, 3878, 3899, 3939, 3955, 4001, 4010, 4047, 4109, 4231, 4240, 4255, B219, B332, B618, B838, B958, B1044, B1142, B1208, B1240, B1356, B1361, B1422, B1433, B1434, B1465, B1498, B1617, B1711, B1729, B1751, B1758, B1783, B1874, B1893, B1985, B1994, B2054, B2055, B2056, B2056, B2058, B2058, B2059 kikinč abipilayïn sözlälim 「答之意云」 B958, bu sodurandike nikaylïγlarnïng kikinč-i ärür 「此經部師答也」 B1217, ančulayu ymä iki kikinč-lär üzä barčanï kim uqïtmïšïngïzlar 「如是二答皆不令解」 H27R54; kikinč ber-「答える」 32, 854, 1360, 1370, 1555, 1557, 1569, 1594, 1927, B219, B619, B838, B1044, B1142, H27R52, etc. ästiramati baxšï kikinč ber-ü sözlär 「疏主答云」 4255, sanggabadire baxšï kikinč berü sözlär 「衆賢答云」 B1044; sezik kikinč 「問答」 2888, B2058
k.-i 3775, 3780, B987, B996, B1172, B1187, B1195, B1217, B1280, B1331, B1362, B1729, B1748
k.-ingä H27R50
k.-ingizlär 3731

kim
「誰」「誰か」 19, 20, 71, 192, 224, 229, 242, 245, 255, 262, 304, 311, 321, 323, 385, 431, 443, 482, 484, 485, 500, 502, 502, 599, 691, 701, 703, 705, 718, 818, 863, 864, 927, 1095, 1101, 1217, 1226, 1232, 1291, 1291, 1303, 1387, 1392, 1397, 1448, 1469, 1471, 1484, 1538, 1806, 1921, 1961, 1964, 1970, 1986, 2033, 2042, 2054, 2068, 2070, 2088, 2161, 2165, 2165, 2363, 2371, 2448, 2621, 2623, 2742, 2754, 2754, 2774, 2800, 2917, 2961, 2963, 2963, 2965, 2976, 2977, 2980, 2982, 3142, 3382, 3439, 3603, 3729, 3760, 3765, 3947, 3959, 4036, 4169, 4171, 4172, 4223, B191, B270, B428, B505, B507, B832, B1010, B1012, B1013, B1099, B1277, B1385, B1386, B1605, B1760, B1762, B1784, B1786, B1837, B1852,

B1852, B1919, B1934, B2094, B2117, B2119 kim ärti yänä ašnuča nomlatï abidarimïγ 「誰復先説阿毘達磨」 1961, kim bolγay bilgälärtä inčip qïldačï bu savïγ「誰有智者當作是言」 B1012; kim-lär (birök) -sar/-sär「若し・・なら」「諸」 59, 120, 123, 162, 164, 260, 262, 718, 765, B690 kim-lär bir nomuγ ödgürmä-sär bilmä-sär 「若於一法未達未知」 2047, sizlär toyïnlara kim-lär u-sar köztä taryaryalï amranmaq azïγ 「汝等苾芻若能於眼斷欲貪者」 B690, kim-lär täginip öngi üdrülmiš är-sär säkiz türlüg ïraq öngi üdrülgäli tägimlig 「若受離八所應遠離」 H30V35, kim-lär birök yügärü tur-sarlar selu dyanta ol yolta 「若有現住靜慮彼道」 H31V50, kim-lär birök bol-sar dyan sanvarïγ 「諸有獲得靜慮律儀」 H31V41; kim + (動詞使役形)「・・させる」(令) 20, 192, 224, 229, 304, 311, B505, B507, H26R36 alqu nizvanïlar uyur kim yerdinčüg qalanguladγalï tägzindürgäli sansarlïγ uluγ taluyta 「諸惑能令世間漂轉生死大海」 2042, bilig uyurïnta üklip ašïlïp birlä tuγmïš maxabutï kim tuγurmaq üzä yeg adruq ärkligig 「由識長益俱生大種令起勝根」 B1010, bu iki tïltaγlarnïng kim birlä tuγmïš tüšinta bolur üčün iši küdüki「由此二因令俱生果有作用故」H26V53; kim bar ärsär 「諸有」 kim bar ärsär avant tïldaγ tuγuryalï udačï bilmäk adïrtlamaqïγ 「諸有因緣能生了別」 B1013

k.-i B1405, B1405

k.-lär 59, 120, 123, 162, 164, 260, 765, 1168, 1169, 2047, B690, B1482, B1497, B1523

k.-lärning 813, 2002

k.-ni 1581, 1582

k.-ning 555, 646, 2564, B1302, H27R51

kir ～ kkir

「染」 arïdγalïr üčün ol kir-ig bu tïldaγïn ašnu sözläp aqïγlïγïn 「淨彼染故以先説漏」 2633, ašnu bolmaq üzä kkir-i ken iišläšmiš ärür anïng arïγïn 「先有染後要其淨」 2632

k.-ig 2633

k.-tin B718

kkir-i 2632, B904

kir-

「入る」 yeg yörüglär kir-ip munda tudulmïš üčün 「勝義入此攝故」 1931, üdlüm üdlüm ulalu kälip kir-ür üčün qulγaq(-qa)「展轉相續來入耳故」 B1672

k.-düktä 3972, B1657, B1837; k.-tükdä 4184

k.-gükä B1260

k.-gütäki H25V19

k.-ip 404, 1177, 1931, 3365

k.-mäk 495

k.-miš 1939

k.-sär B2425

k.-ür B1651, B1672

kirgür-

「入れさせる」 kök qalïγta kim ol tïdïp kim öng-üg kirgür-mädäči B1852

kirik-

「染ずる」「汚れる」 özin ök kirik-ür özin ök arïnur üčün 4286

k.-gülük B2108

k.-ür 4286

kirikmäk ～ kkirikmäk

「雜染」 877 kirlig bilmämäk tïldaγïnda turur üčün üč türlüg kirikmäk-lär 879, uyur üčün eyin qïlγalï büdürü bilmäkkä kkirikmäk-ig arïnmaqïγ tïldaγïγ tüšüg 「能順遍知雜染清淨因果智故」 2245

k.-i 4285

k.-lär 879

k.-lärining 876

kiriš

kiriš yaraš 「所應」 tngri burxannïng nomlamïš nomïnïng adïnlarnïng ärkligläringä qačïγlarïnga kiriš-i yaraš-ï bolmaqïn 1281

kirlig ～ kkirlig

「染」「染汚」「不淨」 27, 28, 661, 662, 701, 704, 720, 745, 747, 769, 779, 803, 804, 824, 856, 871, 872, 874, 875, 878, 884, 933, 964, 1499, 1500, 1608, 1897, 1900, 2619, 2643, 2660, 2723, 3793, 3795, 3796, 3799, 4357, 4451, 4454, 4456, 4460, B166, B622, B624, B672, B854; kkir-lig 27, 34, 514, 588, 590, 621, 2067, 2615, 2742, 3265, 3267, 3282, 3791, B59, B93, B94, B94, B159, B804, B806, B882, B903, B906, B911, B912, B914, B944, B946 köngüllär barča kkirlig bolγu kärgäk「應一切心皆成染汚」 B59, adïn kkirlig bilgä biliglär alqu barča körüm ärmäz「餘染汚慧悉皆非見」B912, adqanγuluq adqanγusï arïγ kkirlig bolur ärmäz「非所縁境有淨不淨」 B903; kirlig bilmämäk 「染無知」621, 661, 745, 747, 804, 856, 871, etc. kirlig bilmämäkig ök birdämläti taγarurlar üčün 「以染無知畢竟斷故」856; kirlig köngül「染汚心」2723, 2742 kim kkirlig köngül-tä uzadï aqïlur tardïlur üčün 「令染汚心常漏泄故」 2742; kirlig nom「染汚法」 3265, 3267, 3282, 3793, 3799, 4357 adïn kkirlig nomlar ymä ök barča körüm ärmäz 「餘染汚法亦皆非見」 B914; kirlig yükmäk「染汚藴」 4451, 4456

k.-ig 883

k.-ining 37

k.-tä 2659, 2665

kkirlig-i 589, B905

kkirlig-li B91

kirpik

「睫毛」 qltï bir eyin kirpik-ig urduqta ayata kišilär tuymadïn 「如以一睫毛置掌人不覺」 H36R54

k.-ig H36R57

kirsiz ～ kkirsiz

「不染」「不染汚」 28, 28, 514, 588, 591, 623, 628, 629, 635, 640, 642, 645, 645, 656, 662, 663, 701, 704, 707, 707, 718, 720, 748, 780, 803, 805, 827, 833, 845, 850, 851, 859, 879, 880, 885, 901, 933, 965, 966, 973, 974, 976, 978, 982, 1002, 1002, 2615, 2619, 2643, 2659, 2660, 2665, 3791, 3797, 4366, B622, B624, B625, B627, B629, B638, B638, B664, B672, B673, B704, B713; kkir-siz 27, 34, 624, 653, 885, 1897、3266, B622, B805, B807, B944, B946 ap ymä kirsiz aqïγlïγ öngsüz tä 「若不染汚有漏無色」 B704; kirsiz bilmämäk 「不染無知」 514, 623, 624, 628, 629, 635, etc. kirsiz bilmämäkig anïlayu oq taγarmaduq üčün 「不染無知猶未斷故」 859; kirsiz aqïγlïγ nom 「不染有漏法」 3266, 4366; kirsiz äd 「不染事」 B622; kirsiz nom 「不染法」 B624, B625, B664, B673, etc. yänä kirsiz nom odγuraq körmäktä taγarγuluq ärmäz 「又不染法定非見斷」 B664

k.-ig 883

k.-ning H32R7

k.-tä 769

kisi

「妻」 kisi oγul 「妻子」 4252

kišän

「枷」 1008, 1011 nizvanï qïlïnčlïγ kišän üzä kišänlälmišlär 1011

k.-lig 1008

kišänläl-

「(枷で) 締める」

k.-mišlär 1011, cf. kišän, kišänlän-

kišänlän-

「(枷で) 締める」 qaltï ür kečtin bärü kišän üzä kišänlän-mišlär ken 1008, cf. kišänläl-

kiši

「人」 516, 904, 908, 1984, 2003, 2106, 2493, 2731, 2731, 4198, B442, B451, B452, B599, B603, B1241, B1254, B1255, H27R35 bu kiši tägip tngri burxanqa tïlädi ävtin barqtïn üngäli 「此人詣佛以求出家」

908, ken bar ärti balïqčï kiši anïng sanï mïng 「後有漁人其數一千」 2493, činγaru bolmaz üčün kiši-ning toqmaq sögüdnüng adïrtïn 「不審知人杌異故」 B1559; nomladačï kiši 「能説人」 128, 135, 1983, 1984, 1989, 1991, etc. amtï sözläsär siz bilip nomladačï kiši-g 「今言知能説人」 2029; oduγ kiši 「覺人」 516

k.-g 515, 1983, 1989, 1991, 2014, 2025, 2029, 2093, 2103

k.-kä 1990, 1997, 2005, 2027, 2283, 2358, 2369, B443

k.-lär 95, 135, 464, 1183, 1195, 2013, 2495, B1148

k.-lärig 2488, 4396

k.-lärkä 215, 2818

k.-lärning 1548, 2000, B635, H27R26,33

k.-lärtä 521, 1184

k.-ning 128, 910, 2732, B228, B456, B1242, B1559, B1922

k.-si 2030

k.-sin 1991, 2024, 2028

k.-sindä 2002

k.-tä 906, 912

kizläglig

「密」 962, H37R70, H37V5 qayu kizläglig abipirayqa tayaqlïγïn bu sudurta yänä yarlïqadïngïz alqu qayu barïnča täginmäklärtä yoq ämgäk ärmäz boltačï 「依何密意此經復言諸所有受無非是苦」 H37R64; kizläglig badutluγ 「隱密」 296, 1592 qorqγaylar anïng užiklärining yörüglärining kizläglig badutluγ-ïnga 296

k.-in H37R56, H37V58

kizläl-

örtül- kizläl- 「隱される」 inčä qaltï alqu qamaγ altun tašlarïnïng arasïnta čïn altun ördül-üp kizläl-ip turmïš 「猶如諸礦中眞金隱茲住」 914; kizläl-yïγïl- 「隱積される」 qarïmaq iglämäk ölmäktä ulatï ada tudalïγ adruqlar üzä kizläl-miš yïγïl-mïš qurulmïš kävilmiš üčün 「老病死等災横差別隱積損伏故」 3885

koš ～ kooš

< Skt. kośa 「俱舍」「藏」 1572, 1944, D18, 19, 20, 21 ärür üčün ol qïïnlïγ anïn ymä ök adamïš ol koš tep 「是彼所藏故亦名藏」 1944

k.-nïng 1589

kooš-lar D29

kooš-larnïng 23

kooš-lartaqï D27

košavarti

< Skt. kośavṛtti 「俱舍論」 336; košavarti šastr < Skt. kośavṛtti-śāstra 「俱舍論」 3, 21, 402, 4585, H40R19 vasubantu baxšï yaradïp bu košavarti šasdr-ïγ 21, iyanaparasdan bolur yörgülük košavardi bolur yördäči 336, alqu-nï bar tep sözlädäči sarva'astivat nikaytaqï 俱舍論 košavarti šastir 第卷三十 ötuzunč tägzinč 「説一切有部俱舍論卷第三十」 H40R19

k.-nï 344

k.-nïng 337

k.-ta 343

k.-taqï 408

kök

kök öng 「青色」 3634, 3671, 3674; kök qalïq 「虚空」 1417, 1418, 1830, 1839, 2930, 2932, 2995, 3028, 3038, 3040, 3049, 3051, 3064, 3078, 3079, 3080, 3082, 3084, 3085, 3090, 3093, 3097, 3100, 3102, 3102, 3106, 3107, 3107, 3108, 3110, 3110, 3112, 3114, 3115, 3116, 3117, 3118, 3119, 3122, 3123, 3125, 3129, 3131, 3133, 3138, 3143, 3145, 3146, 3150, 3151, 3152, 3153, 3155, 3156, 3157, 3159, 3161, 3169, 3170, 3173, 3174, 3174, 3177, 3185, 3191, 3194, 3195, 3200, 3201, 3208, 4090, 4091, 4292, B1383, B1721, B1827, B1830, B1836, B1836, B1851, B1852, B1852, B2206, B2216 kök qalïq täk tïdïγsïz tözlüg ärür 「虚空但以無礙爲性」 3093, qayular ol üč teptesär kök qalïq iki türlüg

öčmäklär tedir 「何等爲三虚空二滅」 2930; sansarlïγ kök titig 「生死泥」 73, 98, 99, 424, 436, 446, 1098, 1215, 1225, 1311, 1373, 1379, 1413, 1454, 1469, 1471, 1474, 1475, 1483, 1484, 1523, 1525, 1527, 1534 tardïp tašγarïp tïnlγlarïγ ündürti ärsär sansarlïγ kök tidig-tin 「拔衆生出生死泥」 73

kökär-
「青くなる」; kökär-mäk tatar-maq 「青瘀」 qïlur üčün kökär-mäk tatar-maqta ulatï alqu uγurlarïγ 「作青瘀等諸行相故」 H39V3

kölär-
「溢れる」 ol balïq äšidü tükätdüktä közindä tolu yašï kölär-di 「彼魚聞已涕淚溢目」 2502

köligä
「陰」 köligä-täki qamïš özäni täg ärür B1946

kölit-
ört- kölit- 「掩蔽する」 bulïd tuman yoqaru aγdïnïp örd-miš kölid-mišintä kün tngri tilgänin 「雲翳上昇掩蔽日輪」 B890

kölüngü
「乘」 1285 ol ödtä nom äšidigmä quvraγ öngin々 öz kölüngü-lärinčä buldïlar nomluγ asïγïγ 「於彼時中聞法之衆各於自乘獲大法利」 2505; iki kölüngü 「二乘」; kičig kölüngü 「小乘」
k.-lärinčä 2505
k.-lüg kičig k.-lüg 1383
k.-täki 1286; iki k.-täki 1382

kömür
「炭」 bolmamïšï täg qalmïš qalïnču kkül-i kömür-i ymä 844

köni
「正しい」 19, 350, 1407, 1147, 1201, 1203, 1203, 1204, 1205, 1208, 1216, 1253, 1255, 1311, 1363, 1379, 1409, 1411, 1414, 1538, 1620, 1620, 1620, 2162, 2452, 2580, 2628, 2930, 3493, 3498, 3614, B856, B856, B857, B859, B867, B873, B887, B892, B897, B901, B1061, B1259, B1290, B1291, B1291, män arïdï yrlïqamaz män uyur köni-sinčä alqγalï ämgäkig tep 「我終不説能正盡苦」 2048; köni nom 「正法」「正教」 19, 350, 1201, 1203, 1204, 1205, 1208, 1255, 1311, 1363, 1379, etc. eyin yaraγïnča berip köni nom nomlamaqlïγ ong eligin 「隨授所應正法教手」 1201; köni yol 「正道」 1147; säkiz tüzün köni yol 「八聖道」 2628; köni körüm 「正見」 1407, B856, B857, B859, B867, B873, etc. yertinčülüg köni körüm üzä nomuγ körmäk ymä andaγ oq ärür 「世間正見觀法亦爾」 B887; köni sav söz 「正語」 1620; köni iš küdük 「正業」 1620; köni öz eltinmäk 「正命」 1620; köni tuymaq 「正覺」 2162; tört türlüg köni ongaru qatïγlanmaqlar 「四種正行」 2452; köni yörüg 「正理」 3493, B1061, B1259
k.-sin 2014
k.-sinčä 765, 1253, 1256, 1262, 1371, 1408, 1489, 1561, 1565, 2048, H25V43

köngül
「心」「意」「情」 171, 371, 392, 615, 927, 984, 1000, 1005, 1012, 1016, 1026, 1451, 1632, 1634, 1640, 1642, 1646, 1742, 1744, 1768, 1835, 1842, 2691, 2720, 2723, 2732, 2986, 3108, 3130, 3132, 3228, 3610, 3661, 3668, 3671, 3674, 3680, 3683, 3918, 3919, 3933, 4400, B5, B39, B46, B53, B57, B59, B68, B79, B85, B91, B93, B109, B120, B127, B136, B141, B145, B148, B152, B156, B160, B165, B168, B178, B188, B215, B223, B232, B241, B245, B250, B252, B255, B259, B259, B295, B308, B309, B315, B323, B323, B342, B343, B346, B347, B348, B352, B369, B410, B430, B432, B461, B538, B538, B574, B574, B582, B668, B826, B831, B859, B863, B919, B921, B928, B931, B1061, B1063, B1198, B1219, B1221, B1225, B1228, B1229, B1230, B1235,

B1265, B1268, B1416, B1428, B1478, B1505, B1644, B1679, B1994, B1995, B1996, B2004, B2007, B2008, B2013, B2023, B2027, B2027, B2032, B2037, B2041, B2042, B2060, B2060, B2062, B2062, B2063, B2074, B2074, B2086, B2087, B2132, B2133, B2137, B2138, B2140, B2140, B2166, B2172, B2184, B2185, B2185, B2186, B2186, B2187, B2187, B2188, B2207, B2220, B2225, B2420, B2421, B2422, B2426, B2427, B2427, B2428, B2429 tüzünlär köngül-ingä qaršï üčün ymä ök adï (bolur) tergin tep 「違聖心故亦名爲集」 4466, tägimlig ol turulduryalï yavalduryalï köngül-üg 「應善調伏心」 B10, qayu tïldayïn sözläti köngül bolur män tep 「何緣說心爲我」 B68, qaltï közli köngl-li bir učluyïn bir öngtä bolmïš ödtä 「如眼與意專一色時」 3623, köngül-üg baš bašlay qïlmaqï üzä 「意爲上首故」 B74, munï köngül eyin sözlämiš ol 「此說隨情」 B1061; ayïr ayančang köngül 「敬重心」 83, 91, 121, 148, 152, 197, etc.; kertgünč köngül 「信心」 227, 1448, 1452; yarlïqančučï köngül 「慈悲心」 366, 384, 392, 395, 431, 438, etc.; köngül nom 「心法」 615, B232; köngül-täki nom 「心所（有）法」 615, 928, 1632, 1633, 1638, 1647, 1649, B41, B42, B46, B48, H25R53, etc. azuča ymä qayu ärsär bir bir adïn eyinki nizvanï tegli alqu köngül-täki nom-larïy 「或一一餘隨煩惱諸心所法」 2870; köngül köngül-täki nom 「心心所法」 1000, 1005, 1012, 1016, 2720, 2986, B39, H25R9, 21, 22, etc.; köngül-tä öngi nom 「心不相應法」 615, 981, 984, 1641, 1753, 1755, B2037, B2062, etc.; köngül-ta öngi qïlïnč 「不相應行」 köngül-tä öngi qïlïnč yükmäkning adruqï 「是不相應行蘊差別」 H25V59; köngül-süz dyan 「無心定」 3229; köngül xan-ï 「心王」 1632, 1634, 1640, 1642, 1646, B1428; köngül-lüg xua 「心華」 1242; köngül aymaq 「記心」 1451; yrlïysïz köngül 「無記心」 B93, B94, B212; oxšatï köngül 「同類心」 B100, B202, ; täng tüz köngül 「平等心」 1501, 1508; töz köngül 「本意」 1062, 1231; köngül bilig(-i) 「意識」 1835, 3671, 3674, B308, B309, B315, B342, etc.; köngül orun 「意處」 3668, 3683, B668; köngül uyuš-ï 「意界」 3918, B241, B250, B252, B255, etc.; köngül ärklig 「意根」 B1229, B2027, B2140, B2166, B2184, etc.; köngül kärmäk 「作意」 B1198, B2086, B2087, B2207, B2220, B2225

k.-däki B64, B80, B83, B84, B89, B98, B105, B110, B116, B127, B2032, B2036, B2042, B2046, B2064, B2088

k.-däkisi B322

k.-i 366, 384, 395, 438, 1043, 1061, 1062, 1186, 1196, 1364, 1802

k.-in 59, 438, 988, 1062, 1231, 1319, 1336, 1394, 1447, 2136, 3672, 3673, 3675, 3676, 3677, 4243

k.-indä 223, 226, 870, 2175, 2179, 2199, 2503

k.-ingä 2003, 2178, 4466, 4474, 4489, 4493, 4502, B1398

k.-ining 3678

k.-kä B17, B42, B50, B75, B80, B86, B90, B92, B94, B95, B98, B100, B116, B180, B202, B210, B212, B212, B213, B240, B243, B332, B2021

k.-lär B58, B88, B146, B159, B167, B336

k.-lärin 83, 224, 229

k.-lärindä 102

k.-lärning B176

k.-li 3623, 3631

k.-lüg 1060, 1242, 1508, B1, B54, B79, B1266

k.-nüng 990, B14, B20, B40, B71, B72, B86, B101, B110, B120, B123, B142, B175, B185, B188, B203, B331, B409, B413, B1915, B2015

k.-nüngin B2417

k.-süz 3229

k.-tä 615, 981, 984, 1641, 1753, 1755, 1769, 1780, 2194, 2301, 2569, 2743, 3130, 3137, 3725, 4437, B103, B153, B158, B165, B205, B322, B327, B575, B584, B2037

k.-täki 367, 615, 928, 992, 1000, 1005, 1012, 1016, 1316, 1632, 1633, 1638, 1642, 1647, 1649, 1653, 1660, 1662, 2720, 2870, 2986, 2988, 3109, 3130, 3132, 3185, 3187, 3195, 3200, 3228, 3610, 3661, 3933, B39, B41, B42, B46, B48, B73, B77, B87, B94,

B100, B111, B122, B123, B177, B181, B187, B189, B193, B199, B201, B207, B209, B211, B213, B220, B221, B225, B322, B325, B325, B486, B575, B584, B900, B1680, B2035
k.-üg 91, 119, 121, 148, 152, 164, 197, 197, 198, 227, 431, 1189, 1448, 1452, 1501, B2, B4, B10, B57, B74, B95, B166, B173, B183, B184

kör-
「見る」「観る」 yintäm közkä tayaqlïγ bilig kör-ür adïnï ärmäz 「唯依眼識見非餘」 B1060, köz uyur kör-gäli ïraq oruntaqï alqu önglärig 「眼能見遠處諸色」 B1506, beš türlüg kkirlig körümlär üzä nomuγ kör-mäk ymä andaγ oq ärür 「五染汚見觀法亦爾」 B883; -qa/-kä körü 「・・に對して」「・・に望んで」1886, B43, B90, B,92, B94, B95, etc. bu tayandačï töz ol tayaq-ïnga körü odγuraq yaqïn yaγuq 「是能依性對彼所依極親近」 B43, anïn köngülüg köngül-kä körü tayaq töz bolduqta 「故心望心爲所依性」 B95; qolula- kör- 「觀見する」 2497; yügärü kör- 「現見する」 B1661; kör-däči 「見者」 B434,「能見」B1032, B1042, B1150, B1152, B1153, B1169, etc. anï üčün täk sözlämiš ol köznüng adï bolur kör-däči tep 「是故但說眼名能見」B1355; körgülük「所見」 B881, B886, B891, B896, etc. yänä kör-gülüktä bolur üčün ikirčgülänmäk 「又於所見有猶豫故」 B1556; kör-mäk 「見」 ämgäkig kör-mäk 「見苦」 3267, 3275, 3402, 3408, 3538, ämgäkig kör-mäk üzäkisi tarïqu tükädüktä 「於見苦已斷」 3275; körmäk yol 「見道」 1268, B521, B598, B743, etc.; kör-mäk üzä<ki> yügärü uqmaq 「見現觀」 1650, 1652, 1656, 1659; kör-mäkkä tušγar- 「對觀」 1818, 1885, 1888 azuča ymä uyur üčün kör-mäkkä tušγar-γalï anïn adamïš ol abidarim tep 「或能對觀故稱對法」 1818; kör-mäktä taryaryuluq 「見所斷」 B519, B522, B528, B545, B547, H34R65, H34V1,6, etc. yänä kirsiz nom odγuraq kör-mäktä taryaryuluq ärmäz 「又不染法定非見斷」 B664
k.-däči B977, B1001, B1032, B1042, B1092, B1108, B1120, B1125, B1150, B1152, B1153, B1169, B1213, B1224, B1250, B1292, B1328, B1330, B1338, B1340, B1355, B1359, B1367, B1399; k.-täči B1295
k.-däčikä B434
k.-däčisi B1386
k.-däčisin B368, B1441
k.-dilär 2496
k.-düktä 1430, B1582, B1888, B1977, B1978; kör-tükdä 3421
k.-düm 912, B1342
k.-gäli 3431, B329, B456, B961, B971, B990, B991, B993, B998, B1010, B1021, B1028, B1029, B1031, B1032, B1041, B1072, B1106, B1127, B1128, B1132, B1132, B1168, B1172, B1181, B1202, B1205, B1207, B1211, B1213, B1222, B1227, B1234, B1253, B1273, B1273, B1275, B1298, B1301, B1318, B1319, B1368, B1376, B1415, B1418, B1419, B1420, B1440, B1506, B1509, B1510, B1511, B1539, B1542, B1936, B1957, B2217, B2217, B2220, B2320, B2322, B2327, B2355, B2357, B2364
k.-gli B2207
k.-gü B997
k.-gükä B1197, B1252, B1261, B1269, B1320, B1358
k.-gülük 313, B886, B2398
k.-gülükčä B881, B891, B896
k.-gülüki B1386, B2118, B2366
k.-gülüksüz 3174
k.-gülüktä B1556
k.-mädäči B1074
k.-mädäčikä B435
k.-mädin B383, B401, B1579
k.-mäk 649, 1268, 1637, 1650, 1652, 1656, 1659, 2845, 3267, 3275, 3402, 3408, 3410, 3538, B521, B528, B595, B598, B717, B729, B743, B747, B752, B785, B795, B851, B883, B888, B892, B898, B984, B1007, B1008, B1086, B1086, B1087, B1159, B1276, B1278, B1281, B1283, B1425
k.-mäki 3427, B1075, B1075, B1451, B2325
k.-mäkig B969, B2248, B2283, B2297, B2299
k.-mäkining B2394

k.-mäkkä 1818, 1885, 1888, 1891, 1901
k.-mäklig 898, 1647, B1182, B1302, B1438, B1940
k.-mäksiz B1119
k.-mäktä 3903, B519, B522, B528, B545, B547, B548, B557, B561, B578, B591, B595, B601, B603, B615, B620, B621, B625, B642, B643, B657, B663, B664, B667, B671, B673, B706, B748, B751, B811, B813, B815, B835, B837, B2357
k.-mämäk B1425
k.-mäz B994, B1021, B1081, B1173, B1175, B1181, B1191, B1923
k.-miš 826, 3447, 4037, 4095, B973, B1429
k.-mišin B1030
k.-mišlär B720
k.-sär 314, 2301, 2650, 2651, B973, B996, B1206, B1210, B1393, B1580, B2237, B2245, B2252, B2255, B2265, B2268, B2271, B2274, B2278, B2289, B2291, B2293
k.-säri B2285
k.-särlär 164, 916
k.-ü 18, 1886, 1888, 3668, 3701, 3702, 3703, B43, B90, B92, B94, B95, B95, B98, B100, B202, B210, B212, B212, B213, B366, B367, B2097, B2375, B2376, B2414
k.-üp 17, 41, 906, 909, 920, 1186, 2497, 2543, B1071, B1073, B1346
k.-ür B949, B950, B998, B1000, B1012, B1060, B1076, B1185, B1214, B1226, B1277, B1380, B1380, B1421, B1422, B1443, B1445, B1450, B1452, B1454, B1458, B1461, B1461, B1478, B1492, B1536, B1546, B1661, B1891, B1913, B2120, B2215, B2241, B2319, B2323, B2363, B2367, B2374

körgit-

「示す」「目する」 qaltï körgid-mäk kändü özin körgid-täči ärmäz B319, madark tegüči ad üzä körgid-ür qayuta ulatïlarïγ「摩怛理迦名目何等」 2450; uqït- körgit-「顯示する」「示現する」 öng tep temiši ärsär munung tägšiltäči tïdïldačï tep yörüg ol azuča ymä uqït-γuluq körgit-gülük ol tep yörüg ol 「所言色者是變礙義或示現義」 H27R11
k.-äyin 4221
k.-gäli 3070, 3071, 3631, 4100, 4101
k.-gülük 4106, uqït-γuluq k.-gülük 4108
k.-ip 2853, B1163
k.-mäk B319
k.-mäki 2628, 2631
k.-miš 2478, 3096, uqït-mïš k.-miš 3018, 4086, 4302
k.-miši 25
k.-täči B319
k.-ü 332, 3073, uqït-u k.-ü 4311
k.-ür 2450, 3912, 4266, 4268
k.-üri 503, 2671

körk

「形」「像」 inčip käzä yorïduqta učrum adalïγqa körgülükčä önglärning körk-lärning bolmaz ärsär tädrü ärmäz bolmaqï「而遊險阻所見色像無非顛倒」 B881; töz körk「質」 töz körk-tin adïrïlmïšï üdlüm üdlüm ulalu kälip kirür「離質展轉相續來入」 B1672; körk oxšatïγ「形貌」 H28V26 kördilär anïng üküš tälim bašïn körk-ining oxšadïγ-ïnïng qorqïnčïγïn「見其異類多頭形貌可怖」 2496
k.-i töz k.-i B1916
k.-in töz k.-in B1915
k.-ingä 495
k.-ining 2496
k.-kä töz k.-kä B1674, B1686
k.-lär B886, B896
k.-lärig 4100, 4101
k.-lärning B881
k.-tin töz k.-tin B1659, B1672

körkäd-

körkäd-mäklig「色身」 körkäd-mäklig ädgüsining büdügi ärür「色身圓德」 470

körkdäš

「像」 yänä qaltï közüngütä ulatïlar tuyurmïš täg üčün körkdäš-ig 「又如鏡等生於像故」 B1627
k.-ig B1627, B1629, B1632

körklä

toqïlïγ körklä 「端嚴」 528; etiglig körklä 「嚴麗」 yetinč yatmaq olurmaq etïz keng etiglig körklä orunluqlarta orun-larta 「七眠坐高廣嚴麗床座」 H30V43

körši

tušlï körši 「對面」 B1631

körük

「見」 B1321, cf. körüm

körül-

「見られる」 yaqïn sïqa odγuraq yarudmïšï körül-mäz üčün 「隣逼無間照不見故」 B1540; yügärü körül- 「現見される」 qaltï yulalï yruqïnlï yügärü körül-ür birgärü ävrilmiši 「謂燈與明現見俱轉」 B1669, yügärü körül-ü turur tarïγlaγta uruγ tüšining tätrü bolmamïšï 「現見田中種果無倒」 H35R16
k.-mädük H33R52
k.-mäz 2339, 2350, B1540, B1671
k.-ü yügärü k.-ü B1646
k.-ür 2349, B1537; yügärü k.-ü 2392, B1669, B1759, B2189

körüm

「見」 1129, 1142, 1409, 2806, 2846, 4157, 4306, 4469, 4470, 4474, 4544, 4545, 4546, 4547, B65, B195, B492, B659, B845, B847, B849, B854, B856, B856, B857, B859, B862, B867, B873, B887, B892, B897, B901, B911, B912, B912, B915, B916, B918, B920, B922, B927, B931, B932, B939, B941, B943, B946, B954, B955, B956, B960, B961, B963, B966, B969, B970, B975, B988, B1016, B1043, B1048, B1049, B1055, B1062, B1064, B1069, B1084, B1085, B1157, B1257, B1261, B1265, B1271, B1291, B1291, B1291, B1301, B1351, B1354, H28R45 önglüg nomlarta yintäm köznüng ärür körüm 「有色法中唯眼是見」 B847, kkirlig uγuštaqï beš körüm-lär ärür körüm 「染汚類中五見是見」 B911; bar ät'öz körüm 「有身見」 1129, 1142, 1143, 2741, B65, B195 bar ät'öz körüm adqanïp beš tudyaq yükmäkig adqanγu uγuš qïlur üčün 「以有身見緣五取蘊爲境界故」 B65; köni körüm 「正見」 1407, 1409, B856, B857, B859, etc.; män körüm 「我見」 2798, 2806; tärs körüm 「邪見」 2846, 4279; körüm-kä tägmiš 「見至」 3851; körüm orun-ï 「見處」 4157, 4306, 4469, 4474, 4544 ymä ök adï ol körüm orun-ï tep körüm turup anda eyin üklip yadur üčün 「亦名見處見住其中隨增眠故」 4469; tutmaq körüm 「執見」 B593, H34R3
k.-i B1083
k.-kä 2798, 3851
k.-lär 4546, 4551, B593, B871, B883, B911, B1289
k.-lärig 1126, 4554, B905, B854
k.-lärkä 4549
k.-lärning B875
k.-lüg 4279
k.-nüng B846, B1015
k.-tä 2741, B742, B1290
k.-üg 607, 1407, 1143

körüš-

「相い望む」 bir uγušluγ öngi uγušluγ köngüllär üdlüm üdlüm bir ikindikä körüš-ü 「同異類心展轉相望」 B88, antaγ bolu tükätmäk üzä bir ikintikä körüš-ü bir uγušluγïnïng nägül adïrtï 「既爾相望同類何別」 H30V4
k.-ü B88, B1059

kösün

küč kösün 「力」「勢い」 1415 ymä ašnuqï nizvanïlarta tüšüd ögrädig qïlmaqlïγ küč-i kösün-i uγurïnda 835, sanvarta asanvarta turmïšlar turγursarlar

kkirlig kkirsiz uqïtmazïγ angbašlayu tükällig bolurlar ikin araqïsïnga ken ikigükä kkirlig kirsizning küč-i kösün-i üzülgінčäkädäki 「住律不律儀起染淨無表初成中後二至染淨勢終」 H32R7
k.-i küč-i k.-i 835, 990, 1233; küč k.-i 976
k.-in küč-in k.-in 631, 638

kösit-
örtmäk kösitmäk 「薩映」 H25R52

kösitil-
örtül- kösitil- 「映蔽される」 munda tïldaγï tüši üzä ördül-gülük kösïdil-gülük bolmaq tep yörüg'ol 「是因爲果所映蔽義」 4199
k.-gülük örtül-gülük k.-gülük 4199
k.-miš örtül-miš k.-miš B1935

kötrülmiš
atï kötrülmiš 「世尊」「婆伽（梵）」 364, 378, 386, 394, 501, 523, 526, 531, 534, 537, 538, 539, 540, 541, 541, 543, 909, 921, 1185, 1214, 1220, 1236, 1246, 1254, 1276, 1286, 1346, 1463, 1464, 1476, 1673, 2026, 2071, 2079, 2089, 2122, 2155, 2158, 2257, 2261, 2264, 2270, 2285, 2286, 2290, 2297, 2308, 2315, 2323, 2328, 2343, 2354, 2417, 2428, 2430, 2485, 2492, 2497, 2502, 2861, 2876, 3163, 3166, 3168, 3171, 3391, 3952, 4082, 4084, 4222, B1022, B1401, B1483, B1491, B2208, B2223, H25V31, etc.
ögä tükädmiš boldï adï ködrülmiš-ning özkä asïγ qïlmaqlïγ ädgüsining büdügin 「已讚世尊自利德滿」 1021, adï ködrülmiš ündüktä bälgürdüktä yerdinčütä anïlayu oq bolmatï ozγalï 「世尊出世猶未得脫」 2492, kim tegüči sav üzä uqïdur qaltï burxan adï ködrülmiš-ig 「諸言所表謂佛世尊」 483, yinčürü töpün yükünürmn adï ködrülmiš-lik qamaγ ädgülüg taγqa 「稽首薄伽衆德山」 9
k.-ig atï k.-ig 483, 534
k.-kä atï k.-kä 921, 2006, 2218, 2249, 2255, 3162, 4220
k.-lär atï k.-lär 608, 636, 655, 663, 719, 721, 729, 749, 768, 802, 1160, 1270
k.-lärning atï k.-lärning 800, 1043, 1395
k.-lik atï k.-lik 9, 1458
k.-ning atï k.-ning 92, 101, 103, 362, 535, 552, 565, 778, 806, 958, 1021, 1023, 1032, 1094, 1099, 1190, 1199, 1228, 1230, 1232, 1356, 1363, 1390, 1460, 1461, 1468, 1473, 1479, 1499, 2433, 2566, 2890, 4494
k.-tä atï k.-tä 532, 1258

köy-
「燃える」 köy-ä tükädmišining köy-mädükning yumdaru adï bolmïš täg odung tep 3942, 3943

köyür-
「燒く」 anta basa ülüš nomta sözlär ol oq savlïγ ün käntü özi yaqïn yaγuq ymä ter uyur ärmäz uqïtγalï oot bolmaqïnïng yörügüg näng oot tep sözlämiš ödtä ötrü yaraš ayïz örtä-mäz [köyür-mäz] oot temädäči savta örtä-däči köyür-däči tep 「・・非即語音親能詮義勿説火時便燒於口・・」 SG43,44

köz
「眼」「目」 2781, 2782, 2785, 3633, 3633, 3635, 3636, 3641, 3643, 3670, 3674, 3690, 3692, 3692, 3695, 3701, 3701, 3703, 3752, 3844, 3924, B45, B295, B366, B367, B368, B381, B388, B431, B455, B496, B497, B680, B681, B682, B683, B683, B685, B686, B687, B909, B909, B950, B950, B954, B957, B960, B971, B976, B976, B977, B982, B989, B990, B993, B1004, B1018, B1020, B1023, B1024, B1025, B1028, B1030, B1033, B1042, B1046, B1054, B1067, B1076, B1077, B1080, B1081, B1084, B1089, B1108, B1109, B1111, B1113, B1115, B1115, B1117, B1118, B1125, B1134, B1135, B1137, B1139, B1149, B1149, B1177, B1177, B1180, B1181, B1189, B1190, B1196, B1201, B1206, B1210, B1211, B1214, B1222, B1224, B1226, B1252, B1271, B1273, B1275, B1296, B1301, B1301, B1319, B1320, B1320, B1327, B1337, B1346, B1348, B1350, B1353, B1363, B1366, B1367, B1380,

B1384, B1385, B1415, B1421, B1422, B1428, B1437, B1437, B1437, B1443, B1445, B1449, B1454, B1458, B1460, B1463, B1464, B1478, B1485, B1492, B1505, B1506, B1508, B1511, B1512, B1514, B1519, B1525, B1538, B1539, B1544, B1547, B1564, B1570, B1582, B1599, B1601, B1612, B1616, B1623, B1890, B1977, B1977, B1978, B1978, B1979, B1981, B1999, B2029, B2030, B2031, B2032, B2034, B2034, B2035, B2040, B2040, B2047, B2048, B2052, B2052, B2073, B2073, B2077, B2078, B2079, B2084, B2086, B2105, B2107, B2109, B2109, B2119, B2123, B2124, B2127, B2143, B2144, B2152, B2154, B2165, B2167, B2169, B2170, B2171, B2205, B2209, B2210, B2211, B2217, B2219, B2221, B2228, B2241, B2245, B2248, B2251, B2252, B2255, B2258, B2261, B2262, B2264, B2265, B2268, B2271, B2275, B2278, B2282, B2285, B2286, B2289, B2291, B2296, B2299, B2301, B2319, B2321, B2323, B2325, B2325, B2327, B2333, B2344, B2347, B2350, B2355, B2356, B2359, B2364, B2393, B2397, B2400, B2402, B2404 ol balïq ašidü tükätdüktä köz-indä tolu yašï kölärdi 「彼魚聞已涕淚溢目」 2501, alqu köz-lüglärning biligi tuymaduq tušta ymä ök adï bolγu kärgäk täglük tep 「諸有目者識不起位應亦名盲」 B1123, iši küdüki yaruq yašuq yti sikiz üčün sözlämiš ol köz-nüng adï bolur körüm tep 「用明利故說眼名見」 B853; tägilmiš köz-lüglär 「盲者」 399; bilgä biliglig köz 「慧眼」 600; köz qaraq 「眼目」 2008; köz ärklig 「眼根」 3633, 3635, 3641, 3643, B909, B954, etc.; köz bilig(-i) 「眼識」 3633, 3636, 3690, 3692, 3695, B45, B1004, B1023, etc. köz bilig-i ärür kördäči 「眼識是見」 B1108; oxšatï köz 「同分眼」 B366, B367, B368, B381, B496, etc.; köz qošuγ 「眼結」 B681, B682, B683, B686 bilür uqar mn yoqadturdum ičtin sïngarqï köz qošuγ-uγ tep 「了知我無內眼結」 B681; tängridäm köz 「天眼」 B1492, B2397 tängridäm köz üzä körür alqu tïnlγlarïγ 「以天眼諸有情」 B1492; köz ot 「眼藥」 B1508, B1511, cf. ančan

k.-i 2008, B456, B2307, B2307, B2319

k.-in B1246, B1247, B1249, B1345, B1347

k.-indä 2501

k.-kä B1026, B1034, B1043, B1060, B1112, B1212, B1529, B1552, B2351, B2352, B2359, B2397

k.-lär B1903

k.-lärig B2001

k.-li 3623, 3631, B1406, B1607

k.-lüg B1253

k.-lüglär 399

k.-lüglärning B1123

k.-nüng B407, B445, B449, B458, B477, B847, B850, B853, B1029, B1070, B1075, B1083, B1087, B1103, B1150, B1211, B1250, B1271, B1318, B1328, B1355, B1359, B1399, B1438, B1507, B1528, B1550, B1562, B1568, B1623, B2302, B2303, B2305, B2305, B2331, B2407

k.-süz 1655

k.-süznüng B1150

k.-tä 1731, 2714, 3656, 3686, B22, B26, B28, B45, B115, B118, B135, B138, B283, B656, B669, B683, B684, B691, B833, B844, B1008, B1091, B1093, B1430, B1431, B1489, B1534, B1566, B1567, B1633, B1699, B1911, B2096, B2121

k.-täki B328

k.-üg 599, 600, 3753, B424, B692, B988, B1027, B1084, B1270, B1417, B1417, B1436, B1439, B1452, B1455, B1455, B1913, B1976, B2002, B2092, B2336, B2340

közägü

「火掻き」 qaltï közägü učïntaqï tilgän täg B1890

közün-

「現れる」 qaltï tamta ulatïlar yemrilsär tüssär kök qalïq yänä közün-ür 3152; közün-ür öd 「現在(世)」 qaltï ärtmiš kälmädük közün-ür öd-tä 「謂於過去未來現在」 2867, qaltï alqu aqïγsïz ärtmiš közün-ür öd-ki tuγdačï törülüg nomlar ärür 「謂諸無漏過現生法」(現) 3858

k.-miši B892

k.-ür 3152, B982, B1456, B1459; k.-ür öd 259, 260, 261, 265, 685, 2867, 3602, 3646, 3657, 3662, 3748, 3759, 3769, 3783, 3785, 3794, 3800, 3801, 3811, 3818, 3858, 3860, 3918, 3921, 3937, 3972, 4041, 4060, 4062, B240, B244, B248, B258, B267, B272, B302, B367, B505, B506, B508, B1137, B2003, B2006, B2007, B2015, B2019, B2023, B2038, H25V34

közüngü

「鏡」 yänä qaltï közüngü-tä ulatïlar tuγurmïš täg üčün körkdäšig 「又如鏡等生於像故」 B1626 k.-tä B1626, B1627

kšan

< Skt. kṣaṇa 「刹那」「念」 1108, 1108, 4180, 4180, 4569, 4569, B311, B599, B1396, B1396 azu bašdïnqï kšan-ta bir köztä turup bilig ikinti kšan-ta ikiläyü bir köztä yänä mü turur bilig 1430, 1431, amranmaq uγuštaqï kenki kšan-taqï uqïtmaz öng ärtmiš ödki maxabutlarqa tayaqlïγïn tuγar 「欲後念無表依過大種生」 H29R33; altï ygrmi kšan「十六心」(=八忍・八智) altï ygrmi kšan-larta taplaγ ärür ooqsuz yol 「十六心中忍是無間道」 H38R54

k.-ï H26V16

k.-ïnta B596, H31V60; k.-ïnda 627

k.-lar B334, H26R43,48

k.-larnïng H26R45,50

k.-larta 3414, 3453, 3455

k.-lïγ 3678, 3698, B335

k.-qa 2749, B1816

k.-qa-tägi 3417

k.-ta 685, 1181, 3641, 3642, 3651, 3670, 3709, B333, B333, B451, B1395, B1430, B1431, B1440, B1444, B1449, B1814, B1816, B1818, H28R35

k.-taqï 3632, 3671, 3673, 3676, 3677, 3694, 3701, 3703, B389, B1820

k.-taqïsï B1817

k.-tïn H31R19

kšanik

< Skt. kṣaṇika 「瞬時の」 3711, B1677 ang bašlayu turmïš ünüg äšidilmiš tuštaqïsï anïlayu oq turmaq üzä yidlinür kšanik tözi 「初所起聲聞位猶存失刹那性」 B1677

kulankule

< Skt. kulaṃ-kula 「家家人」 B772

kumaralte

< Skt. kumāralāta kumaralte baxšï「クマーラータ師」(具摩囉羅地) H36V11,39

kušudira

kušudira pitak < Skt. kṣudra-piṭaka 「雑藏」 2434, 2435, 2437, 2439, 2446, 2447, 2460, 2461, 2508, 2514 inčip yoq angayu orunta sözlämiši tudunglar kušudira pidak-ïγ tep 「而無別處言持雜藏」 2446, anïn sözläsär kušudira pidak-ïγ bu oq inčip ärür üčünč tep 「故說雜藏即是第三」 2461

kušudirapitak

k.-ta 2465, see kušudira

küü

at küü 「稱譽」 qayu näčä yeg adruq orunqa üküš ädkä tavarqa ayïrqa ayaγqa at-qa küü-kä täginmiš tutmïš arïγ čxšapt ärür 「謂貪諸有勝位多財恭敬稱譽受持淨戒」 H35V11

kübrüg

B2178, see küvrüg

küč

「力」 891, 976, 1415, 1423, 1427, 2135 bilmäkning küč-indä bululγuluq bolmïš öčmäkning adï bolur bilip öčmäk tep 「擇力所得滅名爲擇滅」 3313, odungnung küč-ingä tayaqlïγïn yeg aduruq išlig oot tuγmïšï täg 「如依薪力勝用火生」 B1005;

küč-süz「劣」 yarlïγsïz uqïtür qïlïnč küč-süz köngültin tuyar「無記表業從劣心起」H32R42; küč kösün「力」631, 638, 835, 976, 990, 1233, etc. cf. kösün; küč qorqïnčsïz「力無畏」891; čoγluγ yalïnlïγ küč「威力」1312, 1374, 1381, 1415, 1423 čoγluγ yalïnlïγ küč-ining qud küsüš bermäkining ridi bögülänmäkining uγurïnda ärmäz「不由威力與願神通」1312; ičgärip tutmaqlïγ küč「加持力」1393, 1396, 1398, 1403; küsüšlüg küč「願力」1425, 1427; basutlamaqlïγ küč「助力」B139
k.-i 566, 835, 990, 993, 1156, 1233, 1393, 1396, 1402, 1403, 3135, 1782, 4274, B139, B1004, H27R18
k.-in 631, 638, 1398
k.-indä 3313, 3326, 3327, 3328, 3330, 3344, B254, B1989
k.-ining 1312, 1374, 1381, 1497
k.-ingä B1005
k.-kä 1260
k.-nüng 1425
k.-süz 19, 976, 2012, B2160
k.-üm 14

küčäyü
「強いて」 munda küčäyü kim sözlämäk üzä 2965

küčlä-
küčlä- ükli-「増強する」 köz ärkligning parmanusï öz tözi küčlä-miš ükli-miš ärsär B2110
k.-miš B2110
k.-sär B2159

küčläntür-
küčläntür- üklit-「増強させる」 män küvänčig küčländür-ür üklid-ür 1136

küčsirä-
「減少する」 ärklig birök küčsirä-miš ärsär B2123; küčsirä- kävil-「減少する」; küčsirä- qïγïl-「減退する」
k.-miš B2123; k.-miš kävil-miš 990
k.-sär k.-sär qïγïl-sar B2157

küčsirät-
küčsirät- käv-「減少させる」 ärdmiš ödki yïdïnïng yuqïnïng küčin kösünin küčsiräd-mämiš käv-mämiškä 632

küd-
säril- küd-「耐久する」 ödrü ünär umaz säril-ip küd-üp täggäli ikinti kšanta B1814

küdin-
k.-sär B2157, see küdün-

küdük
iš küdük「用」「作用」 1620, 1637, 1641, 1643, 1650, 1655, 1658, 1906, 3432, B1088, B1332, B1389, B1391, H26R33 iš-i küdük-i yaruq yašuq yti sikiz üčün「用明利故」, B852, čïnkertü yoq ärsär iš-i küdük-i「實無作用」 B1387
k.-i iš-i k.-i 1663, 2077, 3585, 3658, 3733, 3737, 3740, 3745, 3746, 3747, 3759, 3922, 3924, 3925, 3928, 3938, 3939, 4111, B25, B319, B351, B372, B390, B478, B479, B852, B1088, B1104, B1232, B1272, B1388, B1394, B2100, B2147, B2148
k.-in iš-in k.-in 4413, 4418, B187, B375, B376, B378, B1246, H26R7
k.-ining iš-ining k.-ining B341, B2097
k.-ingä iš-ingä k.-ingä B24
k.-lärig iš k.-lärig 183
k.-lüg iš-lig k.-lüg 3917
k.-nüng iš k.-nüng B1093, B1095
k.-üg iš-ig k.-üg 182, 3912

küdün-～ küdin-
「養生される」 B2152, B2157 birök köz ärklig arduq küdün-sär B2152

kül ～ kkül
「灰」 kkül kömür「灰燼」 qaltï örtädüktä

tuturqan sapïlïγ uluγ yükmäkig kül bolmïštaqïsï ärür 「如燒稻稈大聚爲灰」 H25R47
k.-i k.-i kömür-i 844

külä-
ög- külä- 「讀ずる」 cf. ög-
k.-gülük ög-gülük k.-gülük 1204, H30V63, H30V63
k.-mäkig ög-mäk k.-mäkig 1354
k.-miš ög-miš k.-miš 1035
k.-p ög-üp k.-p 448
k.-yü ög-ä k.-yü 188, 204, 218, 253, 352

küülüg
atlïγ küülüg 「名聲」 529

kümüš
「銀」 yänä üstäsär täginmäk yïγmaqïγ altun kümüš ulatï ärdinilärig onunčluγï ärür 「復加受畜金銀等寶以爲第十」 H30V51

küün
< Chin.卷 baštïnqï küün 「初卷」 3, 4585

kün
「日」「晝」 H33R4 qaltï tägingülük bu čxšaptïγ iišläšip kün tuγa turur ödtä「謂受此戒要日出時」 H33R66, yintäm bir kün tün üzä iišläšip tanqarïp inčip täginguluk ol「唯一晝夜要期而受」H32V62, qaltï ikinti kün tangda kün burnï tuγa turur ödkädäki「謂至明旦日初出時」 H33V24; kün tngri「日（天）」「陽」 14, 1237, 1240, 2781, B894, B1370, B1372, B1373 mn uγradïm kadyot qurtnung yaruqï kün tngri-ning yaruqïnga basudlayurïnča「我將螢燿助陽光」14; kün tngri tilgän-i「日輪」 ördmiš kölidmišintä kün tngri tilgän-in「蔽日輪」 B890
k.-üg H32V65
k.-tä H33R9

künčit
künčit yaγ 「胡麻油」「巨（苣）勝」（Skt. tila 「ごま」） 1014, 2818, qaltï yeel iglig kišilärkä ičürtükdä känčit yaγ-ïn 2818, qaltï künčit yaγ-ï üz-ä tütitilmiš xu-a täg 「如花熏巨勝」 H35V27

kündin ～ kündün
「南」 B1574, B1879, H27V29 bu küntin-ki taγtïnqï ol tep ulatï 「此南北等」 B1574

künlük
「晝」 H33R15,19 pratimokš asanvar ölü ölginčälig ärür azuča künlük tünlük ymä 「別解脫律儀盡壽或晝夜」 H32V58

küntüz
B1371, B1374; küntüz ülüš-i「晝分」 B889, B893 inčä qaltï kündüz ülüš-intä bulïd tuman yoqaru aγdïnïp 「譬如晝分雲翳上昇」 B889

kürägürmäk
kürägürmäk tušïqmaq 「憍逸」 H30V9,21,56
kenki üčägütin öngi üdrülmäk uyur tïdγalï kürägürmäk tušïqmaq-ïγ 「後離三種能防憍逸」 H33V64

küsä-
「・・を欲する」（-γalï/-gäli küsä-） azuča ymä küsä-mäz täpräp bar-γalï 「或不欲發趣」 1149, küsä-miš üčün kim yerdinčütäkilärkä buldur-γalï nom adïrtlamaqïγ 「欲令世間得擇法故」 2070; tilä-küsä- 「・・を求める」 šaripudre arxantnïng yaqïnïnda tilä-ti küsä-di ävtin barqtïn ün-gäli 「於舍利子邊求出家」 905
k.-dačilär 4367
k.-di 905
k.-mäk 4370
k.-mäz 1149
k.-miš 27, 191, 222, 223, 228, 241, 326, 364, 385, 758, 777, 787, 817, 957, 1056, 1229, 1288, 1574, 1585, 2070, 2077, 2159, 2161, 2656, 2972, 3013, 3017, 3399, 3435, 4315, 4368, B314, B362, B933, B951, B1192, B1413, B1919, H33R61

k.-sär 2044, B1530, B2258, B2262

küsänčig

soγančïγ küsänčig「妙欲」 alqu yertinčütäkilär alqu mängi täginmäklär yeg soγančïγ küsänčig-lärning alqu bolmaqlarnïng bir ülüščä mängisintä bir yintäm atqanmïš üčün mängi ol tep anïn bütär tätrülmäk「以諸世間於諸樂受妙欲諸有一分樂中一向計樂故成顛倒」 H37V39

küsüš

「願」「欲」 1313 quruγta quruγ küsüš-süztä küsüš-süz bälgüsüztä bälgüsüz dyanlar「空空無願無願無相」 2453, 2454, qaltï birök tušmaz ärkänki ödtä ačmaq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüš-tä ulatï ämgäklär üzä sïqïlmaq tangïlmaqta「謂若未遭飢渇寒熱疲欲等苦所逼迫時」 H37R6; qut küsüš「願」668, H28V51; qut küsüš bermäk「與願」 1313, 1375, 1381, 1416, 1419, 1420 näng čoγluγ yalïnlïγ küčining qud küsüš bermäk-ining ridi bögülänmäk-ning uγurïnda ärmäz「不由威力與願神通」 1313; qut küsüš-lüg küč「願力」; yorïq küsüš「行願」; tanqarïγ küsüš「誓願」; küsüš bilir bilgä bilig「願智」 2133, 2135, 2456 bu ärür küsüš bilir bilgä bilig-tä tutulmïš anïn näng tänglämäk bilgä bilig ärmäz「是願智攝故非比智」 H25V52; küsüš yorïmïš buyan「行願福」 1074
k.-i 383, 2164, 2166, 2166; qut-ï k.-i 366, 1037, 1043; yorïq-ï k.-i 367, 368,; tanqarïγ-ï k.-i 1060
k.-lüg 1061, qut k.-lüg küč 1425, 1427
k.-nüng B1110
k.-süz 2454
k.-süztä 2453
k.-tä 1074, qut k.-ta 1435, 1440, 1444, 1455
k.-üg 1421, 2159, B975
k.-üm 17

küvänč

「慢」 B1, B913 qaltï az övkä küvänč qamaγlïγsïz biligsiz sezik birlä tuγmïš bilgä biliglär ärür「謂貪瞋慢不共無明疑俱生慧」 B913; män küvänč「我慢」
k.-ig män k.-ig 1136
k.-lig män k.-lig 1139

küvrüg ～ kübrüg

「鼓」 B2179, B2180, B2181 ol ün yalnguz küvrüg uγurïnta tuγar ärmäz B2179

küy-

küy- küzäd-「護る」 17, 18, küsüšüm ol čoγluγ yalïnlïγ ridi üzä körüp küy-ü küzäd-ü tudzunlar「願以威神見護持」 17

küyür-

「燒く」 H26V14, see küyürül-

küyürül-

「燒かれる」 qaltï otungta ulatïnïng küyürül-mädük ödtäkisi ymä ök küyür-gülük atamïš täg「譬如薪等於不燒時亦名所燒」 H26V14

küzäd-

「護る」 näčä töz üzäki yazuq ärmäsär ymä inčip tngri burxan küzäd-gü üčün nomuγ「雖非性罪而佛爲護法」 H35R40; küzäd- tut-「護持する」
küsüšüm ol čoγluγ yalïnlïγ ridilarï üzä körüp küyü küzäd-ü tud-zunlar「願以威神見護持」 17
k.-ü k.-ü tut-zunlar 17, 18

küzädin-

küzädin- saqla-「守護する」 tägimlig ol uz küzädin-gäli saqla-γalï tägmlig ol uz ornanïp turγalï köz ärkligin yïγïnmaqta「應善守護應善安住眼根律儀」 H31V6

küzädči

umuγ küzädči「救護」 1184

L

lakš

< Skt. lakṣa 「洛叉」 2514, H39R55 kušudira pidakta yoq bu lakš-nïng ülgüsi nädägin bolur bolγalï üčünč aγïlïq 2515

lakšanavipak

< Skt. lakṣaṇa-vipāka「妙相業」 ol oq bölgüči adïrtlaγučï yeg soγančïγ lakšanavipak qïlïnčta qayu uqïtmïš buyannïng ölgüsi ärsär bu oq inčip anï birlä bir täk ärür 「即於分別妙相業中所辯福量此即同彼」 H35V60

lïγ

（所有・所屬表現接尾辭） 529,「有」 3930, 3932, 4128, 4439 lïγ teptemiši ärsär tigirt turur üčün yükmäktä anïn adamïš ol tigirt-lig 4439; lïγ samaz 「有財釋」 569, 572, 573, 577, 586, 1920, 1933, 1947, 1955, 1960, 3515, anï üčün tägimlig ärmäz lïγ samaz üzä yörgäli 586, altï türlüg qabšuru yörgülük samazlarnïng arasïndaqï ikinti käzigtäki ol üküš tavarlïγ tegüči lïγ samaz üzä yörmiš kärgäk 1920

lenxu-a

< Chin. 蓮華 520, 1238, 2813, 3975, 3977 qaltï lenxu-a čäčäk özin ök ačïlïp yarïlïp bolmamïšï täg kišilärtä ačdačï yardačï 520; lenxu-a-lïγ yol 「蓮華道」 B169

li

< Chin. 離 luγ li qab šeg 「六離合釋」 4355, 4393

lokakoš

< Skt. loka-kośa 「世間俱舍」 D40

l.-ta 43

l.-uγ 40

loka-utar

< Skt. loka-uttara 「出世」 loka-utar yol 「出世間道」 2971 (lwk'-'wd'r)

loka-yatan

loka-yatan šastr < Skt. lokāyatana-śāstra 「順世外道論」「起世論」 1966 (lwk'-y'd'n)

lokik

< Skt. lokika 「世、世間」 lokik yol 「世間道」 2968, 2970, 2975, 3296, 3303, 3304, 3307, 3347, 3352, 3356, 3358, 3358, 3359, 3360, 3367 aznïng ükligülüki ašïlγuluqï üčün adï bolmïš ol lokik yol tep 3360

lokik-loka-utar

< Skt. lokika-loka-uttara 「世出世」 2968 (lwkyk-lwk'-'wd'r)

luγ

< Chin. 六 luγ li qab šeg 「六離合釋」 4355, 4393

luu

< Chin. 龍 luu tidimlig 「龍猛」 3336, 3337

M

ma

「・・も」（小詞） yänä 從 užik ma kärgäk 1946

mano-matar

mano-matar šastr < Skt. mano-mātra-śāstra 「意樂論」 1980 (m'nw-m'd'r)

manga

「われへ」（män の與格形） män amtï äsän ärkän yerdinčütä sizlär manga tayaqlïγ ärür sizlär 「我在依於我」 2361

manggal

at manggal 「吉慶」 219, alqu ad manggal-larnïng arasïnda tngri burxan bolmïš ärti qamaγta yeg 216,

cf. at

m.-larnïng at m.-larnïng 216

m.-lïγ at-lïγ m.-lïγ 214, 215

mangïγ

yorïq mangïγ「歩み」 bolmïš ötdä bošulγalï yorïq-ï mangïγ-ï čigilip boγulup 1009

margapudgalakoš ～ margapudgalakoša ～ margapudgale-kooš

< Skt. mārgapudgala-kośa「賢聖倶舎」「賢聖品」 margapudgale-kooš D20

m.-ta 1703, 3099; margapudgalakoša-ta B830

m.-uγ 53

martavik

< Skt. mṛdvīkā(-bīja)「末度迦(種)」(葡萄の種) martavik yörüg üzüm uruγïntïn martavik yörüg üzüm tüš törüyür「從末度迦種末度迦果生」H35R18

mariči

< Skt. mārīcī「摩利支」 922, 922, säning anang tuγup turmïš ärür mariči yerdinčütä「汝母生在摩利子世界」 922

martavik

< Skt. mṛdvīkā「末度迦」(葡萄) martavik yürük üzüm uruγïntïn martavik yürük üzüm tüš törüyür「從末度迦種末度迦果生」H35R18

matark

< Skt. mātṛkā「摩怛理伽」(m'd'rk) 2450, 2459, 2473, tudunglar suduruγ ulatï vinayïγ madark-ïγ「持素怛纜及毘奈耶摩怛理伽」 2455

m.-ïγ 2445, 2464

m.-nïng 2449

m.-ta 2468

maxa

< Skt. mahā「大」 maxa širavak < Skt. mahā-śrāvaka「大聲聞」 2074, 2127, 2130, 2344, cf. širavak

maxabut

< Skt. mahā-bhūta「大種」 qayu barïnča maxabud-lar ulatï bolmïš önglüg quvraγ「所有大種及造色聚」 3179

m.-ï B1009

m.-lar 3186 (mx'bwd)

m.-larï 2819 (mx'bwt)

m.-larnïng 3192, 3196

m.-larqa H29R34 (mx'bwt)

m.-lartïn H28R7 (mx'bwt)

maxakalp

< Skt. mahā-kalpa üč maxakalp「三大劫」 387

maxakašipe

(mx'k'šypy) < Skt. mahā-kāśyapa「大迦葉」 2450, 2462, H32V42, cf. kašip

maxa-koštile

< Skt. mahākauṣṭhila「大拘稀羅」 2118 (m'k'-kwsdyly)

maxamodgalayane

< Skt. mahā-maudgalyāyana「大目乾連」 2111, 2113, cf. modgalayane

maxapračapatgavtami

< Skt. mahāprajāpati-gautami(or gautama) maxapračapadgavtami šmnanč「大生主」 H32V46

maxasanggike

< Skt. mahāsaṃghika「大衆部」 mxasanggi(ke) nikay-lïγ baxšïlar sözlär H27V32

maxešvare

< Skt. maheśvara「大自在天」 1420

mayaq

mayaq 「糞」 qaltï ot ŕγačqa ud mayaq-ïnga qïγ-qa tayaqlïγ od at näčä tägšilsär ymä 「如依草木牛糞糠火名雖改易」 B1056

mayïš-

yapïš- mayïš- 「粘着する」 yapïš-ïp mayïš-ïp bolmaz üčün üngäli 1120

män

(m'n ～ mn) 「われ」 8, 13, 75, 912, 1546, 1556, 1570, 1676, 2048, 2361, 2362, 2369, B607, B612, B681 mn uγradïm kadyot qurtnung yaruqï kün tngrining yaruqïnga basudlayurïnča 「我將螢燿助陽光」 13, mn inčip sözläyin 「我當說」 75, män kördüm ärdä yinčgäsin 「我觀極微細」 912, män nirvan bolmïšta ken yoq ärür angayu tayaqïngïzlar 「我滅度無別所依」 2362, mn alqa tükädtim tamuγ 「我已盡那落迦」 B607, qorqmïš üčün üzülgäy öčgäy män 1144; 「我」 (ātman) B1, B2, B3, B4, B5, B8, B13, B16, B57, B68, B69, B72, B73, B79, B127, B155, B145, B153, B155, B156, B165, B169, B173, B174, B177, B178, B183, B190 yïlayusïnča sözlämiš ol köngül ök bolur mn tep 「假說心爲我」 B145; män-siz 「無我」 「非我」 1482, 1877, 1878, 2918, 2923; yïlayu män köngül 「假我心」 B42, B50 näčük ol köngültäki nom yïlayu män köngül-kä tayanmaz mu 「豈不心所依假我心」 B42; män mäninglig 「我我所」 1130, 2599, 2601; män atqaγ 「我執」 B56, B142, B144, B146, B153, B164, B168; män atqaγqa tayaq 「我執所依」 B194, B197, B199, B200; män atqaγqa atqaγ 「我執所緣」 B198; män az 「我愛」 1131, 2798, 2806; män küvänč 「我慢」 1136, 1139; män körüm 「我見」 2798, 2806

m.-kä B127, B155

m.-ning B13, B153

m.-siz 1877

m.-sizin 2918, 2923

m.-sizli 1878

m.-siztä 1482

mäning

「われの」 (män の屬格形) 1675, 2428, B4, B8, H28V53, mning öz baxšïm 「吾師」 12, mäning bar ärür täringdä täring abidarimïm ulatï vinayïm 「我有甚深阿毘達磨及毘奈耶」 1675

mäninglig

「我所」 (ātmīya) 1130, 4416, 4419, aqïγsïz tavranmaqta yoq üčün mäninglig 4419,

m.-ig 4414

m.-ning 2599, 2601

mänggü

「永遠」 4080, 4270, taš azaq nomluγlarnïng öd mänggü ol 4080

mängi

「喜び」 「樂」 B2107, H28V31, H35V53, ämgäki mängi-si birlä yaradïlmïš täginmäk birlä B31; asïγ-lïγ mängi-lig 「利樂」 1057, yänä išlädürlär asïγ-lïγ mängi-lig qïlγalï alqu tïnlγlarïγ 「復因利樂諸有情」 1071

m.-g B11, B12, H36V22

m.-li 4477

m.-lig 1057, 1071, H37V14

m.-n H35V59

m.-ning H36V10

m.-si B30, H36V5

m.-sintä H37V40

mïng

「千」 8, 2493, 2495, B1565, H40R9, yumdarsar munung iki tümän säkiz mïng girantlarï ol 「惣二萬八千偈」 8, ken sanï mïng kišilär birgärü birikip tardïp ündürüp 「後數千人同共曳出」 2495; üč mïng-lïγ yertinčü 「三千世界」 917, 923, 925

midik

< Sogd. myδ'kk midik pardakčan 「凡夫」 542, 745, 4476

mini

「われを」（män の對格形） 18, 1422 alqu tngrilär yäklär asureta ulatïlar näng umazunlar ämgädgäli mini 1422

mintirtin

「われから」 bu alqu äzrua quvrayï brča mintirtin tuγyuqlar ol 「是諸梵衆皆我所生」 H28V42

miširaka

miširaka xarday šastr

< Skt. miśraka-hṛdaya-śāstra 「雜心論」 62

miyi

「腦」; miyi suv-ï 「腦水」（＝「腦垢」） B1961, B1964, B1967 ašïγ singirgäli uγramïš ödtä tüpütin bir tamïzïm miyi suv-ï tüšüp B1961

modgalayane

< Skt. maudgalyāyana 「目連」 919

mu ～ mü

（疑問・反語表示の小詞） mu 157, 184, 371, 374, 375, 375, 376, 657, B42, 1353, 1385, 1551, 1551, 1740, 1769, 1871, 2011, 2018, 2022, 2235, 2236, 2241, 2242, 2634, 3468, 3468, 3709, 3776, 3983, 4044, 4228, 4236, B612, B1089, B1089, B1190, B1431, B1727, B1876, B1877, B1878, B1879, B1879, B1879, B1880, B1880, B2083; mü 155, 371, 371, 656, 1038, 1352, 2012, 2017, 2021, 2274, 2343, 2419, 2420, 2500, 2860, 3368, 3374, 3726, 3954, 3955, 4249, 4311, 4549, 4550, B1191, B1421, B1422, B1429, B1430, B1476, B1477, B1479, B1479, B1498, B1498, B2007, B2010, H25R54, qayu vasduta az qošuγqa qošulγuluq bolsar ymä ök övkä qošuγqa qošulγuluq bolur mu 「若於此事愛結所繫彼於此事悉結繫耶」（耶） 4236, alqu aqïγ nomlar bir täk bir bilip öčmäklig mü ol 「一切有漏法同一擇滅耶」 3368, näčük ol köngültäki nom yïlayu män köngülkä tayanmaz mu 「豈不心所依假我心」 B42, dripidake-ya sän näčük'ol ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn 「三藏汝豈不是過去佛時三藏苾芻」 2500

munčulayu

munï munčulayu 「このように」 530, 948, 1249, 1612, 1623, 2695, 2795, 3549, 3550, 3861, 3883, 3914, 3986, 4002, 4003, 4018, 4253, 4462, B657, B707, B1990, B2345, H25V41 munï munčulayu sav tayaqïnda tükäl tudulur alqu ediglig alqu nomlar 「如是言依具攝一切有爲諸法」（如是） 3986, munï munčulayu alqu qošuγlarqa ančan ančan käzigčä taryarmïš ödtä 「如是諸結漸次斷時」 B707

munï

「これを」（bu の對格形） 248, 252, 654, 714, 718, 987, 1033, 1327, 1337, 1581, 1599, 1687, 1688, 1694, 1729, 1855, 1930, 1932, 1972, 2021, 2666, 2902, 3183, 3277, 3282, 3335, 3339, 3377, 3386, 3582, 3585, 3677, 3746, 3861, 3894, 3901, 4084, 4098, 4113, 4143, 4247, 4354, 4392, 4487, 4572, B256, B323, B451, B638, B691, B797, B802, B905, B1039, B1061, B1958, H25V61 munï uqïdmïš ol abidarmakoš tep ad üzä 「此立對法俱舍名」（此） 1930, adïn munï adqandačïsï anïlayu oq badačï bolur 「餘緣此猶繫」 3277, munï köngül eyin sözlämiš ol 「此說隨情」 B1061; munï üzä 「これによって」 28, 139, 341, 442, 590, 853, 899, 1044, 1198, 1262, 1288, 1410, 1438, 1498, 1513, 1520, 1524, 1585, 1855, 2098, 2174, 2670, 3151, 3153, 3225, 3255, 3456, 3533, 3604, 3803, 4064, 4118, 4176, 4181, 4306, 4322, 4418, 4433, B15, B16, B269, B290, B691, B1122, B1260, B1328, B1454, B1735, B1736, B1752, B1923 munï üzä nägüni uqïdur tep tesär uqïdur tudyaq yükmäkning ymä ök adï bolurïn yükmäk tep 「此何所立謂立取蘊亦

名爲蘊」 4306, munï üzä ödrü adï bolur közüg birdämläti taryaryalï umïš tep 「是則名爲眼得永斷」（是） B691, munï üzä ödrü yertinčütäki alqu közlüglärning biligi tuymaduq tušta ymä ök adï bolyu kärgäk täglük tep 「是則世間諸有目者識不起位應亦名盲」 B1122; munï munčulayu 「このように」 530, 948, 1249, 1612, 1623, 2695, 2795, 3549, 3550, 3861, 3883, 3914, 3986, 4002, 4003, 4018, 4253, 4462, B657, B707, B1990, B2345, cf. munčulayu

m.-ča 4428

m.-lï 2558, 3132, B1681

munta

「ここで」「ここに」「この中に」（bu の位格形） mwnd' 79, 106, 110, 140, 150, 244, 316, 391, 492, 538, 539, 540, 555, 564, 589, 591, 679, 686, 722, 776, 777, 861, 883, 964, 1010, 1015, 1112, 1211, 1230, 1296, 1327, 1550, 1579, 1580, 1581, 1588, 1598, 1602, 1617, 1628, 1634, 1676, 1710, 1718, 1723, 1733, 1758, 1787, 1805, 1811, 1922, 1931, 1969, 1982, 1988, 2021, 2022, 2051, 2119, 2131, 2131, 2141, 2144, 2174, 2192, 2141, 2254, 2261, 2276, 2310, 2339, 2373, 2413, 2475, 2477, 2517, 2536, 2544, 2564, 2571, 2589, 2660, 2671, 2678, 2692, 2696, 2703, 2734, 2746, 2770, 2809, 2817, 2851, 2858, 2863, 2878, 2947, 2957, 2963, 2965, 2972, 2975, 2981, 3015, 3020, 3033, 3037, 3041, 3050, etc., B37, B49, B122, B127, B196, B201, B208, B221, B248, B257, B270, B279, B286, B288, B304, B317, B329, B339, B402, B422, B446, B468, B476, B482, B488, B488, B496, B535, B541, B546, B552, B569, B597, B608, B610, B613, B652, B668, B696, B704, B781, B829, B836, B850, B858, B967, B975, B987, B1002, B1062, B1172, B1175, B1176, B1178, B1188, B1195, B1207, etc., H25R17, etc.; mwnt' B315, B626 ol abidarim šasdrtaqï yeg yörüglär kirip munda tudulmïš üčün 「由彼對法論中勝義入此攝故」（彼） 1931, munda tïldayï tüši üzä ördülgülük köšidilgülük bolmaq tep yörüg'ol 「是因爲果所映蔽義」（是） 4198, azu yänä munda yänä bar qayu adïrtï 「或復此中有何殊」（此中） B49, munda köznüng tözi qaltï öngdün sözläyü tükädmiš täg 「此中眼相如前已說」 B850; 「且く」 amtï munda tägimlig ol sözlägäli 「今且應說」 B37; munta öngi 「これを除いて」「このほか」「これと異なって」 591, 3613, 3953, B257, B668, B1293, B1688, munda öngi adïn bilgä biliglär 「除此餘慧」（除此） B1293, birök munda öngi ol tep tesär 「若異此者」（異此） B1688

muntača

「このように」 andača mundača ol temäklig adïrtlar üzä 3071

muntay

「このように」「このような」 mwnd'q 167, 696, 764, 812, 973, 997, 1051, 1058, 1060, 1343, 1343, 1400, 1699, 1988, 2022, 2132, 2141, 2149, 2150, 2244, 2264, 2268, 2286, 2331, 2346, 2366, 2472, 2760, 2768, 2776, 2792, 2821, 2827, 2836, 2859, 2866, 2881, 2884, 2884, 2885, 3117, 3154, 3177, 3184, 3315, 3461, 3472, 3490, 3508, 3536, 3736, 3766, 3899, 4022, 4029, 4112, 4192, 4263, 4384, 4450, 4486, 4563, B55, B144, B154, B392, B440, B592, B646, B669, B817, B841, B1069, B1125, B1192, B1212, B1217, B1223, B1267, B1287, B1317, B1352, B1381, B1392, B1491, B1727, B1864, B1886, B2195, B2199, B2205, B2328, B2328, B2330, H25R38, vaybašikelïγ baxšïlar terlär munday tep 「毘婆沙師傳說如此」（如此） 2150, anïn munday tep sözlämiš ol 「故作是說」（是） 3315, munung uyurïnta tägimlig ärmäz munday tep 「由此不應作如是」（如是） B55, munday köztä ulatï beš ärkliglärtin tuymïš tep yörüg ol 「是從眼等五根生義」 B669; muntay osuγluγ 「この如く」 118, 300, 775, 892, 939, 971, 1020, 1397, 1981, 2196, 2458, 2472, 2884, 3154, 3349, 3352, 3398, 3736, 4263, 4577, 4579, B216, B234, B306, B775, B940,

B1014, B1142, B1334, B1427, B1484, B1841, B2209, cf. osuγluγ

muntaqï

「ここにある」「この中の」 4203, B184, mundaqï tardγučï 「此中所引」（此中） B184

muntata

「ここで」 2780; muntata ulatï「これ等」 290, 1174, 1402, 1770, 2328, 2460, 2467, 2573, 2662, 2690, 3034, 3116, 3134, 3230, 3422, 3958, 4158, 4159, 4220, 4361, B571, B593, B617, B620, B662, B750, B772, B1432, B1595, B1724, B2047, H26R40, näng kušudira pidakta mundata ulatï alqu nomlar tüzü tükäl bolur ärmäz üčün 「非雜藏中此等諸法具足可得」（此等） 2406, mundata ulatï tanuqlar uγurïnta tägmäzkänki uyur äšidgäli 「由此等證不至能聞」 B1595

muntïrtïn

「これから」「こちらから」 3203, 4571, B2086, B2153, B2156, B2158 mundïrtïn tuγmïš bilig ödrü bäkiz bälgülüg bilmäz B2156, yoq üčün adïn köngültä ulatïlar muntïrdïn ulalïp turdačï「無餘心等續此起故」 H26R25

munung

「これの」（bu の屬格形） 7, 361, 411, 544, 545, 648, 690, 717, 812, 1293, 1566, 1858, 1924, 2504, 2650, 2651, 2664, 2669, 2676, 2772, 2865, 2879, 2966, 3002, 3009, 3218, 3258, 3259, 3264, 3395, 3734, 3746, 3808, 3869, 3929, 3964, 3985, 3994, 4096, 4128, 4200, 4429, 4524, B31, B55, B82, B156, B157, B288, B725, B1351, B1562, B1769, B1799, B1891, B2017, B2089, B2145, B2429, H25R26, munung tägšütinčä adïn nomlarnïng atï bolur taštïn sïngarqï tep「與此相違餘法名外」 B82, munung umïš üčün tarïqγalï qarangγusï anïn adamïš ol tarïqmïš qarangγuluγ tep 「此能破闇故稱冥滅」（此） 544, munung tïldayïnda ölüp tuγdï tngri yerindä 「因茲命終生於天上」（茲） 2504, munung bar üčün vasdusï 「此有事故」 4200, munung bar qayu tïldayï 「此有何因」 B1562; munung uγurïnda 「これに由って」 56, 102, 105, 217, 689, 1516, 1953, 2014, 2240, 2796, 2855, 3475, 3930, 4115, 4385, B31, B55, B102, B143, B204, B333, B828, B981, B1106, B1457, B1546, B1569, B1604, B2080, B2099, B2161, B2192, B2199 munung uγurïnta tägimlig ärmäz munday tep yörgäli 「由此不應作如是釋」（由此） B55, munung uγurïnta yula yöläšürügüngüzlär köz birlä bilikmäz 「由茲燈喻與眼不同」（由茲） B1546

munga

「これへ」（bu の與格形） 1947, 2616, 2686, B19, B325, B731, B1097, yörügin uduzmïš kärgäk munga 2686

mungadïnčïγ

mungadïnčïγ nom 「希法」 adbuda-darma mungadïnčïγ nom-larïγ 2336 cf. adbuta-darma

murč

「胡椒」 qltï murč ičgü vzir üzük te[yür] täg 「如胡椒飲如金剛環」 H27R8

mün

mün qaday 「過失」 64, 94, 118, 187, 300, 559, 579, 586, 850, 961, 1066, 1087, 1258, 1337, 1813, 2015, 2023, 2254, 2273, 2373, 2517, 2536, 2644, 2680, 2704, 2828, 2840, 2852, 2948, 2976, 2981, 3015, 3147, 3154, 3299, 3347, 3349, 3445, 3550, 3573, 3687, 3977, 4121, 4146, 4514, B157, B201, B261, B262, B270, B775, B806, B814, B830, B992, B1069, B1082, B1146, B1148, B1311, B1566, B1635, B1635, B1636, B1736, B1751, B1776, B1874, B1884, B2143, H25R64 bu šastr mün-süz qadaγ-sïz ärür öngi üdrülmäk üzä yangšaq savlartïn 「此論无過離繁文」（過） 65, köztä bar üčün yruq bulduqmaz bu mün qaday tesär yörügi ymä ök anday ärmäz 「眼

有明故無斯過者理亦不然」 B1566, bulduqmaz mundaγ osuγluγ mün qadaγ 「无如是失」（失） 3349, anïn alqu köngüldäki nomlarnïng bolmaz ičdin sïngarqï bolmaqlïγ mün-i qadaγ-ï 「故諸心所無成内失」 B84; bütmämäklig mün qadaγ 「無窮過」 B1146

m.-üg m.-üg qadaγ-ïγ H29R2

m.-i m.-i qadaγ-ï 1246, 2566, 3457, 4522, B84, B1156, B1161, B1269, B1312, B1314, H35R26

m.-in m.-in qadaγ-ïn 2367, B1193

m.-lüg m.-lüg qadaγ-lïγ 292, 4070, B1496, H38V35

m.-süz m.-süz qadaγ-sïz 65, 1325, 3789, 3980, B587, B1286, H38R11

m.-üngüzlär m.-üngüzlär qadaγ-ïngïzlar B1313

münä-

ir- münä-「毀罵する」 uzadï tiltäki qïlïnč üzä ir-är münä-yür ärti 「嘗以語業毀罵」 2488

münäšmäk

「咎」 münäšmäk-ingizlär inčip uqulu tükädür 「咎當已立」 B761

mxabut

see maxabut

mxamodgalayane

see maxamodgalyane

N

naga

< Skt. nāga 「龍」 3336

naga-arčune

< Skt. nāgārjuna 「龍樹」（人名） 3335

nä

「何」 25, 30, 98, 126, 146, 183, 216, 289, 321, 381, 423, 534, 552, 572, 597, 625, 645, 731, 755, 810, 857, 903, 979, 1046, 1235, 1354, 1378, 1576, 1635, 1648, 1674, 1848, 1917, 1924, 1926, 1971, 1993, 2129, 2139, 2213, 2278, 2288, 2327, 2389, 2463, 2471, 2476, 2483, 2509, 2532, 2544, 2594, 2597, 2598, 2613, 2623, 2637, 2742, 2777, 2874, 2937, 2959, 2962, 3029, 3079, 3091, 3201, 3240, 3244, 3247, 3427, 3466, 3561, 3592, 3614, 3778, 3897, 3906, 3908, 4046, 4185, 4187, 4206, 4314, 4346, 4409, 4475, B108, B126, B157, B356, B658, B770, B794, B802, B810, B841, B931, B988, B1020, B1130, B1206, B1458, B1483, B1491, B1655, B1685, B1734, B1746, B1869, B1992, B2066, B2068, B2086, B2091, B2115, B2189; nä üčün 「なぜ」 25, 30, 146, 381, 534, 572, 597, 625, 645, 731, 755, 857, 979, 1046, 1576, 1635, 1648, 1848, B658, B770, B794, B802, H26R11, etc. nä üčün bu šasdmïng adï boldï abidarmakoš tep 「何故此論名對法藏」 1917, nä üčün säčä sezinür sizlär tngri burxan yrlïqamïš ärmäz tep 「何故僞疑非佛所說」 2278, nä üčün adatï tudyaq tep 「何故名取」 4346; nä üčün tep tesär 「所以者何」 857, 2594, 3091, B658, nä üčün teptesär alqu aqïylar anda täng tüz eyin ükliyür üčün 「所以者何諸漏於中等隨增故」 2594; nä ymä 「ともあれ」「なにも」「さて」「ところで」 98, 423, 903, 1235, 1378, 1674, B108, B126, B157, B988, etc. qaltï öngdün nä ymä sözlädi ärdi asanvarta turmïšlar 「如前所說住不律儀」 H32R44

näčä

「いかに（・・しても）」 46, 61, 230, 272, 359, 553, 556, 576, 633, 747, 766, 768, 775, 815, 834, 838, 855, 869, 871, 966, 973, 991, 997, 1014, 1016, 1050, 1052, 1059, 1076, 1117, 1117, 1239, 1241, 1246, 1266, 1271, 1272, 1391, 1400, 1465, 1662, 1781, 1801, 1978, 2220, 2224, 2315, 2320, 2385, 2400, 2513, 2587, 2614, 2652, 2737, 2762, 2762, 2824, 2841, 2848, 2862, 2867, 2878, 2943, 2979, 3012, 3064, 3139, 3144, 3230, 3301, 3307, 3398, 3423, 3522, 3525, 3526, 3545, 3566, 3574, 3579, 3582, 3587, 3589, 3610, 3646, 3738, 3838, 3914, 3921,

4150, 4153, 4174, 4315, 4372, 4501, 4543, 4551, B24, B33, B77, B85, B133, B145, B163, B167, B181, B222, B342, B347, B398, B447, B534, B556, B565, B619, B730, B783, B786, B898, B898, B1057, B1065, B1117, B1121, B1134, B1209, B1282, B1388, B1390, B1410, B1580, B1620, B1623, B1628, B1685, B1692, B1952, B2077, B2078, B2094, B2147, B2157, B2159, B2225, H25V44 širavaklar piradïkabudlar näčä taryarsarlar ymä alqu qarangyu qararïγlarïγ kirlig bilmämäkig ök birdämläti taryarurlar 「聲聞獨覺雖滅諸冥以染無知畢竟斷」（雖） 855, näčä bar ärsär ymä bu yörüg inčip ol alqu körümlär aqïγlïγ nomlarta alqu türlüglär üzä öd üzä adïrtsïz 「雖有此理而彼諸見於有漏法一切種時相無差別」 4551, öngdünki (ün) näčä öč(sär) ymä kenki ün anïlayu oq tursar 「前聲雖滅後聲猶起」 1685; qayu näčä bar ärsär 「諸々の」「所有の」 2224, 2862, 2867, 2878, H34V43, qayu näčä bar ärsär öng turyurdačï bädütdäči yüüz yügärü azïγ azuča ymä övkäg azuča ymä biligsizig 「諸所有色生長現貪或瞋或癡」 2867; näčä tänglig 「どれほど」 2513, 3398; näčä näčä 「幾許々々」 2762 ～ 「如如」 näčä näčä yogačarilar ančan ančan ögrädinip 「如如行者漸習」 B898

näčük

näčük ol ... mu/mü 「どうして・・か」 154, B42, B1189, B2082, H25V1, H26R26 ～ näčük'ol ... mu/mü 157, 1037, 1385, 2273, 2342, 2500, 2634, 2859, 3725, 3983, 4044, 4310, 4548, .4549 sän näčük'ol ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn 「汝豈不是過去佛時三藏苾芻」（豈） 2500, näčük'ol aqïγ alqu nizvanïlar barča eyin üklimäz mü 「豈不有漏一切煩惱皆隨增耶」（豈・・耶） 4548, näčük ol köngültäki nom yïlayu män köngülkä tayanmaz mu 「豈不心所依假我心」 B42

näčükin

näčükin (... -γay/-gäy)「どうして・・・であろうか」 231, 1871, 2364, 4396, B1569, B1578, B1984 näčükin bol-γay burun ärkligning ymä ök körmädin uma-γay bilgäli ïraq yaqïn bulung yïngaqtaqï yïtnïng adïrdïn 「豈不鼻根亦見能了方維遠近香差別耶」（豈・・耶） B1578

nägü

「何」 153, 189, 302, 345, 356, 666, 702, 801, 964, 1326, 1327, 1545, 1555, 1603, 1753, 1857, 2020, 2023, 2053, 2367, 2373, 2774, 2981, 3126, 3179, 3355, 3892, 4203, B122, B157, B169, B201, B261, B829, B1069, B1159, B1309, B1420, B1636, B1751, B1848, B1853, H29V21 tapïng ol nägü qïlγuluq tep tesär abidarmakoš šasdrïγ mn inčip sözläyin 「欲何所作對法藏論我當說者」 1545, munï üzä nägü-ni uqïdur tep tesär uqïdur tudyaq yükmäkning ymä ök adï bolurïn yükmäk 「此何所立謂立取蘊亦名爲蘊」 4307, munda bolur nägü mün qadaγ 「斯有何失」 B1636; nägü ärki 「何か」 170, 177, 428, 441; nägü ol ... -p 「如何にして・・するのか」 munda nägü ol sezinü sözlä-p B122

n.-kä 3175

n.-ni 502, 1694, 1695, 4307, 4322

n.-nüng D14

n.-si 558, 1581, 1583

nägül

「如何に」 3575, 3727, 3969 nägül ... -p ～ nägül ... -u/ü 「如何にして・・するのか」 3234, 3430, 3444, 3530, 3928, B1073 yänä iši nägül ikiläyü bïšrun-up yörüdäkin 3444, antaγ bol-u tükädmäk üzä bir ikintikä körüšü bir uyušluyïnïng nägül adïrtï 「既爾相望同類何別」 H30V5; cf. nägü ol

nägülük

nägülük ol「如何にして・・か」955, 2002, 2950

näng

「決して（・・でない）」 67, 256, 667, 668,

790, 857, 928, 937, 1041, 1081, 1082, 1084, 1312, 1332, 1411, 1415, 1422, 1432, 1598, 1601, 1640, 1670, 1718, 1778, 2060, 2306, 2363, 2370, 2459, 2461, 2566, 2801, 2858, 3207, 3323, 3461, 3478, 3490, 3510, 3513, 3611, 4278, 4414, 4491, 4493, 4516, 4519, 4520, B73, B122, B135, B177, B250, B426, B658, B717, B747, B959, B989, B1111, B1243, B1247, B1271, B1324, B1531, B1645, B1690, B1781, B2030, B2034, B2063, B2099, B2163, B2168, B2372, H25V62 näng käntü özi üčün ärmäz 「非爲自」 1084, näng oxšadïsïz ärmäz 「非無同類」 3490, näng alqu köngültäki nomlar ymä ök bulmamïš ol män tegüči adïy 「非諸心所亦得我名」 B73, näng köz biligi yoq oq ärmäz 「非無眼識」 B1111, näng čoγluγ yalïnlïγ küčining qud küsüš bermäkining uyurïnda ärmäz 「不由威力與願神通」 1312, näng kim unïdmatïn idtürmätin 「勿令忘失」 2363

nätäg

「どうして」「いかに」 881, 1340, 1340, 1430, 1948, B1727, B1926, 1966; nätäg ol ... (tep / tep tesär) 1934, 2511, 3618, 3710, 4168 ～ nätäg'ol ... (teptesär) 3369 「いかにか」 nätäg ol tep 「云何」 H25V3, H27R45, nädäg'ol teptesär bay boldačï ädi eyin adrïlur 「云何隨繫事別」(云何) 3369; nätäg ... ärsär 「・・の如く」 B407, B415, B1980, B2399 nädäg sözlädimiz ärsär öng uyušuγ 「如說色界」 B415, nädäg ärsär köz qulyaq ymä anday oq ärür 「如眼耳亦然」 B2399

nätägin

「いかにして」「どうして」 84, 91, 93, 96, B1, 111, 116, 251, 264, 270, 275, 280, 303, 305, 310, 312, 336, 361, 402, 404, 407, 414, 442, 462, 485, 488, 491, 493, 497, 508, 548, 550, 571, 606, 623, 628, 630, 650, 664, 679, 680, 705, 712, 713, 714, 737, 743, 771, 789, 797, 809, 822, 862, 873, 883, 900, 919, 928, 983, 985, 1002, 1003, 1034, 1060, 1190, 1210, 1225, 1267, 1324, 1356, 1368, 1388, 1404, 1424, 1463, 1468, 1472, 1511, 1514, 1518, 1521, 1525, 1633, 1655, 1748, 1773, 1775, 1786, 1795, 1825, 1837, 1854, 1893, 1911, 1995, 2026, 2045, 2079, 2119, 2182, 2184, 2188, 2191, 2193, 2204, 2215, 2307, 2331, etc., B21, B62, B63, B65, B127, B148, B162, B193, B194, B263, B274, B299, B304, B308, B332, B338, B338, B348, B429, B434, B444, B444, B489, B492, B533, B535, B554, B557, B558, B558, B573, B606, B610, B628, B647, B719, B745, B782, B822, B955, B971, B980, B1038, B1041, B1102, B1105, B1132, B1133, B1157, B1172, B1214, B1230, B1231, B1236, B1238, B1243, etc., H25R34, etc. nädägin tngri burxanïng tïdsïlarï öngi ärür 「云何佛弟子異」(云何) 1472, nädägin uzun taryaryalï ol öngtä (ulatï) nomlarïγ 「云何能斷彼色等法」 B719, ol nädägin antay bolzun 「彼云何然」 B62, nädägin adï ködrülmiš ašnuča yrlïqap tört türlüg ülgülärig inčip amtï yrlïqayay suduruγ oq bolur ülgü tep 「如何世尊先說四量而今但說經爲量耶」(如何・・耶) 2354, nädägin ooqsuz ärip anïlayu oq bir ikintikä bürüdüšmäz 「如何無間仍不相觸」(如何) B1843

nätägintiptisär

= nätägin tep tesär 2357, 2380, 2560, cf. nätägin

nïng

(屬格表示接尾辭) anïn sözlämiš ol nïng tegči sav-ïγ SE20; nïng vibakti 「屬格」 548, 1942, 4393, altïnč anïng temištäki nïng vibakdi-ta säčä tudulur 1942; nïng samaz 「依士釋」 564, 56, 6573, 583, 1933, 1933, 1941, 1960, 3518, 4357, 4395, ärkä tayaqlïγ temištäki nïng samaz 564, qabšuru yörgülük samazlarnïng arasïnda ärkä tayaqlïγ temištäki nïng samaz üzä yörmiš kärgäk 4395

nidana

< Skt. nidāna 「緣起、因緣」 2335

ni'kay ～ nikay

< Skt. nikāya 「部」 nä ymä sözläsär sizlär alqu

ni'kay-lartaqï abidarimlarnïng yörüglări taplaγlarï adïrïlmïš üčün 「所言諸部阿毘達磨義宗異故」 2389; säkiz ygrmi ni'kay 「十八部」 2189; sanke ni'kay 「數論部」 2210; sarva'astivat nikay 「說一切有部」 H40R18

n.-lar 2182, 2188, 2393, 2397, 2552

n.-larqa 2209

n.-larta 2202, 2395, 2411, 2421, 2554, 2565; n.-larda 2422; nikay-larta B1376

n.-lartaqï 2389, 2406, 2553

n.-ta 2210, 2555, 2556

n.-taqïlar 2189

n.-taqïlarnïng 2205, 2207

n.-taqïlarqa 2211

nikay-larnïng B1412

nikay-taqï B1344

ni'kaylïγ

「部に屬する（もの）」 cf. ni'kay

2481, 2537, 2538, 3114, 4025, B1982, nikay-lïγ B971, B992, B1171, B1208, B1216, B1258, B1280, B1287, B1317, B1331, B1343, B1377, B1378, B1448, B1718; soturandïkï ni'kaylïγ「經量部（に屬するもの）」 2094, 2104, 2105, 2347, 2367, 2380, B949, B971, B992, B1137, H26R2, etc.; sarva-astivat ni'kaylïγ 「切一切有部（に屬するもの）」 2481, 2537, 2538, 3114, 3384, B1140, B1171, B1179, etc.; vatsi-putre ni'kaylïγ 「犢子部（に屬するもの）」 2604; vibačivadi nikay-lïγ bsaxšï「分別說部の師」 H25V56; maxasanggike nikay-lïγ baxšï-lar 「大衆部の師」H27V32

n.-lar 2105, 2347, 2604, 2939, 2945, 2965, 4207, 4210, B949; nikaylïγ-lar B1179, B1411

n.-larqa 2380, 2386; nikaylïγ-larqa B1137, B1142

n.-larta B1448; nikaylïγ-la-ta B1447

n.-lïγlarnïng 2094, 2104, 2567, 3384, 4115, 4120; nikaylïγ-larnïng B1140, B1141, B1184, B1187, B1195, B1379

n.-nïng 2367

nikaylïγ-larnïngta B1239

nikaylïγ-larnïngtaqïča B1234

nirvan

< Skt. nirvāṇa 「涅槃」「滅度」 172, 287, 1815, 1829, 1836, 1838, 1841, 1843, 1849, 1850, 1859, 1861, 1863, 1864, 1866, 1867, 1887, 2134, 2267, 2329, 2362, 2369, 4126, 4131, 4138, 4139, 4146, 4165, 4166, 4169, 4172, 4174, 4174, 4176, 4181, 4182, 4183, 4185, 4185, 4186, H25R20 aqïγsïz bilgä uyur nirvan-qa tïldaγ bolγalï 「（無）漏慧與涅槃爲因」 1793, qayu yeg yörüglüg nom ärsär yindäm ärür nirvan 「若勝義法唯是涅槃」 1815, män nirvan bolmïšta ken yoq ärür angayu tayaqïngïzlar 「我滅度無別所依」 2362

n.-ïγ 184, 192, 263, 305, 306, 308, 1144, 1842, 1848, 1911, 2628, 3719, 4136, 4189, 4519

n.-lïγ 36, 1496, 4130, 4144, 4280, H27V19

n.-nïng 1853, 1856, 1857, 1871, 2691, 4144

n.-qa 1668, 1793, 1798, 1886, 1890, 1893, 1902, 2706

n.-qatägi 175

n.-ta 327, 1096, 1852

niyagrod

< Skt. nyagrodha 「諾瞿陀樹」 qaltï yinčgäkyä uruγūn türüp niyagrot sögüt 「如細種生諾瞿陀樹」 H25R50

niznk ～ nizank

< Sogd. 'ny'z'nk, 'ny'znk 「異なり」 niznk at 「異名」「別名」 2664, 3317, 3958, 3959, 4316, 4459, 4463, 4576, 4578, 4579, 4581, 4583 ～ nikznk at SG24,25,33,34 amtï uγrayu küsämiš üčün uqïdγalï anïng niznk ad-ïnïng adïrt öngi yörügin 「而欲顯彼差別名想」 4316, mundaγ osuγluyta ulatï uyušluylar ärür aqïγlïγ nomlarnïng yörüg eyinki niznk ad-ï 「如是等類是有漏法隨義別名」 4578, bu ayïγ qïlïnčta ulatï beš türlüg nizank at-lar ärür 「此惡行等五種異名」 H32R48

nizvanï

< Sgd. nyzβ'ny(y)「煩惱」「惑」 50, 267, 271, 276, 316, 876, 1011, 1411, 1425, 1433, 1444, 1450, 2045, 2051, 2067, 2080, 2084, 2092, 2626, 2711, 2752, 2869, 3052, 3303, 3306, 3307, 3308, 3423, 4246, 4379, 4383, 4425, 4429, 4434, 4509, B777, B824, B825, H25V15 birdämläti taryarmïš üčün alqu nizvanï-larïγ 「永斷諸惑故」 618, nizvanï-lar uγurïnda yerdinčü qalngulayur bolmaqlïγ taluyta 「由惑世間漂有海」 2039, nizvanï-larnïng adï bolur tudyaq tep 「煩惱名取」 4339, näčük'ol aqïγlïγ alqu nizvanï-lar barča eyin üklimäz mü 「豈不有漏一切煩惱皆隨增耶」 4548, anï adqanγučï nizvanï-larïγ taryarmaduq alqmaduq üčün ikilägü yoq adï bolmaz tarïqmïš tep 「緣彼煩惱未斷盡故猶未名斷」 B722; nizvanï-lïγ šmnu「煩惱魔」525; bïšrunmaqtaqï nizvanïlar 「修惑」 831, 832

n.-γ H28R43

n.-lar 277, 279, 284, 284, 309, 310, 312, 634, 774, 790, 792, 792, 794, 1016, 1162, 1427, 2039, 2042, 2054, 2082, 2083, 2099, 2630, 2719, 2753, 2771, 2774, 2778, 2794, 2800, 2802, 2813, 2830, 2838, 2843, 2848, 2882, 2906, 3250, 3255, 3258, 3278, 3280, 3407, 3453, 4342, 4397, 4437, 4548, B527, B561, B645, B661, B661, B665, B784, B788, B799, B800, H28R35

n.-larï 47, 1392, 1403, 3444

n.-larïγ 55, 238, 274, 618, 754, 769, 774, 783, 784, 786, 797, 800, 807, 832, 991, 1403, 1412, 1436, 1450, 1453, 1454, 1457, 2038, 2042, 2044, 2052, 2096, 2101, 2727, 2736, 2738, 2741, 2756, 2767, 2833, 2860, 2872, 3048, 3050, 3053, 3064, 3273, 3291, 3294, 3297, 3348, 3354, 3361, 3363, 3411, 3413, 3428, 3521, 3853, 3855, B722, B728, B743, B767, B769, B773

n.-larïm 3442

n.-larïn 1387, 1449

n.-larnïng 270, 637, 699, 709, 787, 791, 837, 841, 1440, 1441, 2758, 2764, 2787, 2793, 2854, 2856, 2905, 3286, 3324, 3402, 3403, 3408, 3410, 3417, 3439, 3446, 3449, 3450, 3797, 3809, 3852, 4339, 4340, 4421, B644, B786, B786, H32R8

n.-larnïngïγ 756

n.-larqa 281, 1723, 2737, 2801, 2849, 2894, 2900, B674

n.-larta 831, 835, 989, 1163, 2807, 3269, 3853

n.-lartïn 1003, B747, B752

n.-lïγ 94, 511, 525, 3285, 3287

n.-nïng 4333, 4360, 4425

n.-qa 1007

n.-sï H27V64

n.-sïz 272, 3429, 3436

n.-ta 1006, 1399, 2809, 2814, 3393, H28R45

n.-tïn 4374, 4385

nom

「法」「教」「達磨」 10, 100, 274, 283, 616, 642, 650, 698, 928, 928, 981, 1057, 1201, 1203, 1204, 1204, 1205, 1206, 1208, 1209, 1209, 1216, 1220, 1260, 1275, 1343, 1388, 1408, 1411, 1435, 1443, 1753, 1755, 1781, 1814, 1815, 1815, 1816, 1821, 1822, 1823, 1828, 1829, 1830, 1830, 1869, 1870, 1872, 1874, 1891, 1901, 1902, 1912, 2044, 2045, 2051, 2070, 2072, 2076, 2078, 2080, 2081, 2082, 2083, 2087, 2092, 2095, 2099, 2135, 2167, 2209, 2247, 2260, 2357, 2505, 2587, 2593, 2597, 2598, 2598, 2600, 2602, 2612, 2621, 2622, 2647, 2652, 2653, 2655, 2655, 2669, 2669, 2675, 2752, 2860, 2862, 2866, 2872, 2880, 2882, 2922, 2934, 2957, 2957, 3004, 3006, 3007, 3091, 3201, 3267, 3412, 3413, 3416, 3618, 3668, 3680, 3683, 3729, 3736, 3762, 3763, 3764, 3790, 3823, 3829, 3831, 3871, 3873, 3873, 3889, 3918, 3920, 3931, 3953, 4115, 4141, 4150, 4221, 4231, 4257, 4503, 4504, B41, B42, B80, B98, B116, B122, B199, B212, B213, B232, B252, B287, B289, B295, B305, B306, B308, B309, B325, B343, B345, B353, B354, B357, B396, B398, B443, B521, B533, B534, B535, B566, B576, B583, B601, B602, B625, B644, B649, B650, B664, B695, B723, B730, B776, B806, B816, B818, B827, B837,

B844, B1055, B1097, B1248, B1391, B1391, B1467, B1644, B1645, B1820, B2035, B2036, B2064, B2068, B2074, B2088, B2420 bu adïγ yörgüčä ärsär uyur üčün tudγalï öz tözin anïn adï bolur nom tep 「釋此名者能持自相故名爲法」 1814, nädägin uzun taryaryalï ol öngtä (ulatï) nomlarïγ 「云何能斷彼色等法」 B719; aqïγlïγ nom 「有漏法」 2593, 2862; aqïysïz nom 「無漏法」 2621,2866, B585; taš azaq nom 「外邪法」 230, 375, 545, 1459, 2602, B1886; nom ärdini 「法寶」 10; nom šazin 「法教」 16; nom(-uγ) adïrtlamaq 「擇法」 273, 274, 283, 2037, 2041, 2044, 2045, 2051, 2070, 2072, 2076, 2080, etc.; köni nom 「正法」「正教」 350, 1201, 1203, 1205, 1208, 1216, 1255, 1311, 1363, 1379, 1411, 1414; üč aγïlïq nom 「三藏教」 2427, 2429; öng nom 「色法」 616, B672; köngül nom 「心法」 615, B232; köngültäki nom 「心所(有)法」 615, 928, 1632, 1633, 1638, 1647, 1649, 1653, 1660, B41, B42, B46, B48, B64, B77, B83, B84, etc.; köngül köngültäki nom 「心心所法」 1000, 1005, 1012, 1016, B40; köngültä öngi nom 「心不相應法」 616, 981, 984, 1641, 1769, 1780, 2194, B327; etigsiz nom 「無爲法」 616, 3016; etiglig nom 「有爲法」 1842, 2594; ämgäktä nom taplaγ 「苦法忍」 3416, B602; ämgäktä nom bilgä bilig 「苦法智」 3413; burxan nom-ï 「佛法」 858, 888, 891, 2212, 2382, 2384, B152; qamaγlïγsïz nom 「不共法」 971; nom uγuš-ï 「法界」 1057, B287, B289, B306; nom orun 「法處」 3680, 3683; nom töz 「法性」 1345, B1055; nom bälgü(-si) 「法相」 1815, 1829, 1872, 1874, 1891, 1901, 1902, 1912; yeg soγančïγ nom 「妙法」 1366, 1405; yeg yörüglüg nom 「勝義法」 1828; nom-luγ asïγ 「法利」 2506; tuγmadačï nom 「不生法」 3730, 3780; tuγdačï nom 「生法」 4089; tuγdačï törülüg nom 「可生法」 3783, 3786; nom eyin yorïdačï 「隨法行者」 3823; ünüš nom 「離法」 4150; kkirlig nom 「染污法」 3265, 3267, 3282; kirsiz nom 「不染法」 B625; örtügsüz yrlïysïz nom 「無覆無記法」 4361; uluγ orunluγ nom 「大地法」 B104, B206; birlä bolmïš nom 「俱有法」 B321, B331, B565, B580; tüzün yol nom 「聖道法」 B649; tüzün nom 「聖法」 B650; bilgülük nom 「所知法」 504, 561, 601, 752, B1248

n.-ï 891, 1348, 1350, 1460, 1468, 2206, 2208, 2212, 2382, 2384, 2385, 2561, 2563, 2664

n.-ïn 888, 1348, 1349, 2603

n.-ïndaqïlarqa 3085

n.-ïnga 362, 711

n.-ïnïng 1203, 1228, 1280, 1469, 2511

n.-ïnta 1000, 1997, 3088, B152, B2068; nom-ïnda 363, 1461, 1999, 2512, 2600, 4202, 4215, 4463;

n.-ïnda 1476

n.-ïntaqï 890; n.-ïndaqï 858

n.-lar 26, 28, 28, 35, 984, 1206, 1643, 1831, 1780, 1840, 2338, 2457, 2460, 2591, 2592, 2594, 2607, 2615, 2629, 2644, 2647, 2652, 2658, 2660, 2667, 2681, 2705, 2721, 2762, 2790, 2907, 2917, 2921, 2949, 2986, 3006, 3032, 3083, 3118, 3121, 3123, 3130, 3131, 3133, 3134, 3134, 3137, 3139, 3185, 3201, 3228, 3368, 3578, 3645, 3661, 3725, 3770, 3771, 3783, 3786, 3787, 3789, 3814, 3836, 3858, 3879, 3933, 3954, 3972, 3987, 4000, 4001, 4003, 4018, 4042, 4059, 4089, 4180, 4182, 4232, 4239, 4240, 4241, 4257, 4258, 4259, 4277, 4302, 4304, 4358, 4361, 4401, 4500, 4508, B73, B84, B87, B94, B104, B127, B177, B189, B206, B218, B222, B272, B321, B327, B330, B331, B406, B562, B562, B576, B576, B580, B581, B584, B585, B587, B621, B624, B633, B672, B673, B673, B706, B716, B846, B914, B1396, B1680, B1813, B2046, B2141

n.-larïγ 25, 209, 887, 1207, 1278, 1410, 1564, 1776, 1842, 2194, 2336, 2569, 2605, 2632, 2635, 2639, 2642, 2804, 2870, 2919, 2924, 3003, 3018, 3059, 3063, 3069, 3071, 3140, 3142, 3187, 3372, 3388, 3400, 3597, 3598, 3611, 3602, 3779, 3780, 3785, 3818, 3876, 3953, 4088, 4153, 4158, 4173, 4266, 4269, 4282, 4317, 4358, 4559, B77, B321, B343, B412, B719, B804, B945, B1999, B2037, B2429

n.-larnïng 28, 970, 1005, 1660, 1769, 1794, 1872, 1889, 1897, 2007, 2071, 2075, 2467, 2608, 2663, 2720, 2918, 2923, 3109, 3195, 3282, 3716, 3738, 3772, 3793, 3799, 3803, 3866, 3869, 3936, 3944, 3947, 3949, 3958, 3959, 3962, 3965, 3965, 3968, 4126, 4133, 4134, 4140, 4146, 4147, 4149, 4152, 4153, 4165, 4176, 4211, 4212, 4213, 4264, 4420, 4554, 4578, B82, B83, B100, B105, B187, B201, B207, B209, B226, B271, B318, B395, B404, B564, B620, B627, B721, B1232, B1754
n.-larnïngta 1641
n.-larqa 1633, 1887, 2901, 3519, 3589, 3702, 4513, 4520, B80, B181, B656
n.-larta 72, 431, 443, 504, 603, 733, 735, 743, 752, 951, 1016, 1040, 1492, 1497, 1519, 1532, 1539, 1632, 1638, 1838, 2442, 2635, 2645, 2674, 2681, 2755, 2763, 2788, 3142, 3215, 3243, 3279, 3587, 3768, 3782, 3813, 3835, 3857, 3877, 3883, 4298, 4321, 4551, B110, B220, B40, B89, B486, B575, B714, B845, B847, B847, B855, B857, B956
n.-lartïn 4140
n.-lï 1123, 4014
n.-luγ 239, 350, 375, 429, 519, 561, 601, 616, 977, 1480, 1836, 2164, 2452, 2506
n.-luγlar 3969, B148, B1886, B2066
n.-luγlarïγ 4270, 4272, 4279, 4284, 4291
n.-luγlarnïng 2602, 4080, 4267, B1906
n.-luγlarqa 3086
n.-luγta 230, 542, 1459
n.-nïng 1204, 1205, 3016
n.-nung 260, 1340, 1604, 1804, 1844, 1873, 2136, 2584, 2599, 2709, 2831, 2833, 2861, 3202, 3265, 3266, 3600, 3728, 3732, 3734, 4366, B48, B1152, B1161, B1386
n.-qa 404, 495, 1828, 1830, 1989, 1997, 2005, 2027, 2650, 3507, 3749, 4511, B46
n.-suz 711
n.-ta 971, 1012, 1647, 1649, 1653, 1662, 2830, 2988, 2992, 3055, 3109, 3133, 3556, 3730, 3767, 3773, 3775, 3776, 3788, 3833, 3838, 3884, 4122, 4184, 4310, 4503, B64, B103, B193, B205, B393, B565, B584, B2032
n.-taqï 3688
n.-tïn 362, 2999
n.-uγ 16, 20, 232, 273, 886, 1254, 1255, 1286, 1311, 1346, 1363, 1366, 1405, 1414, 1692, 1785, 2037, 2041, 2047, 2086, 2161, 2164, 2165, 2232, 2331, 2427, 2530, 2586, 2589, 2750, 2873, 2883, 2955, 3047, 3729, 4114, B111, B124, B184, B325, B335, B336, B649, B657, B883, B888, B892, B898, B1105, B1219, B1228, B1229, B1230, B1266, B2042
n.-umïn 2429

nomla-
「説く」 abidarmakoš šasdïrïγ mn inčip sözlä-yin 「對法藏論我當説」 75, qayu tïldayïn nomla-dï ol abidarimïγ 「何因説彼阿毘達磨」 1961, nomla-mïšča alqu nomlar qavïrasïnča bolur iki türlüg 「説一切法略有二種」 2592; nomladačï kiši 「能説人」 128, 135, 1983, 1984, 1991, 2014, etc.
n.-dačï 128, 135, 1344, 1970, 1983, 1984, 1986, 1989, 1991, 2014, 2025, 2029, 2034, 2089, 2093, 2103, 4273
n.-dačïsï 1260
n.-dï 1446, 1961, 1964, 2033; n.-tï 1962, 1964
n.-duqta 1404, 2248, 2254, 2257, 2502
n.-γalï 1138, 1310, 1365
n.-γu 75, 1546, 1567
n.-madačïsïn 1282
n.-maq 1209, 1255, 1388, 1411, 1413, 2218
n.-maqï 2628
n.-maqlïγ 1201, 1208, 1216
n.-maqnïng 1209, 1964
n.-maqta 1443, 2071
n.-maqtaqï 1541
n.-mïš 100, 1206, 1220, 1228, 1277, 1280, 1342, 1460, 1461, 1468, 1476, 1803, 1985, 1997, 2090, 2106, 2156, 2220, 2247, 2252, 2285, 2350, 2664
n.-mïšča 2592
n.-mïšï 2000

n.-mïšïn 2022, 2155

n.-mïšïnda 129; n.-mïšta 2167

n.-mïšïnïng 2013

n.-p 1286, 1379

n.-tačïsïn 1362

n.-yïn 4222

n.-yu 2154

n.-yur 1347

n.-zun 2004

O

odyuraq

「定んで」「必ず」 44, 54, 139, 165, 324, 366, 746, 1019, 1264, 1699, 1820, 1899, 1900, 1999, 2037, 2086, 2095, 2190, 2191, 2201, 2212, 2243, 2255, 2311, 2313, 2321, 2353, 2377, 2418, 2425, 2426, 2431, 2526, 2533, 2559, 2651, 2675, 2708, 2716, 2738, 2751, 2849, 2893, 2894, 2947, 2949, 2953, 2954, 2963, 2973, 2976, 2980, 2983, 2983, 2985, 2988, 2990, 2993, 2994, 3002, 3030, 3146, 3204, 3492, 3661, 3925, 4131, B13, B14, B21, B24, B67, B90, B196, B215, B219, B222, B303, B306, B327, B333, B340, B344, B350, B405, B406, B413, B449, B542, B543, B594, B600, B613, B621, B625, B637, B657, B664, B702, B811, B812, B937, B1074, B1191, B1224, B1435, B1540, B1590, B1592, B1595, B1673, B1701, B1773, B1819, B1991, B2088, B2198, B2212, B2213, B2222, H31V45, H32R29 qaltï nomuγ adïrtlamaqta öngi odyuraq yoq ärür adïn alqu nizvanïlarïγ taryardačï yeg adruq al alday 「若離擇法定無餘能滅諸惑勝方便」 2037, öng odyuraq körmäktä taryaryuluq ärmäz 「色定非見斷」 B811, amtï bašdïnqï kšanta odyuraq yanturu bulmïš üčün anï 「今初刹那必還得彼故」 H31V45, birök uqïdur ülgü yörügüg tep tesär yörügi odyuraq anday ärmäz 「若顯量義理未必然」 2353, odyuraq andaqï pirapdiqa tükällig bolmaqïntïn adamïš ärmäz adqayïn taryarmïš tep 「不必於中得不成就名所緣斷」 B702; adïrtlïγ odyuraq 「決定に」 139, 165, 1820, 1899, 1900, 1999, 2255, 2559, 2708, 2799, 3124, 4128, 4129, 4132, B637, B812, B913, etc. see adïrt; tärstä odyuraq quvrayγ 「邪定聚」 1264; odyuraq yörüg 「定義」 2377; odyuraq tayaq 「定依」 2311, 2425 munda yindäm yrlïqayu tükädip sudurmung odyuraq tayaq ärmäzin 「彼唯說經非定依」 2311; odyuraq bil-「決了する」 B1590, B1592, B1595 qaltï yaqïnta odyuraq bil-miš täg 「如近決了」 B1592

odyuraqla-

「定める」「決める」 azuča ymä bilü tükätmiš yörügüg kim anï odyuraqla-yalïr üčün 2977; odyuraqla-p üz- 「決斷する」

o.-yalïr 2977

o.-p 2377, o.-p üz- B937

odyuraqlan-

「決める」; odyuraqlan- üz- 「決斷する」 yinčürmäk ärsär odyuraqlan-maq üz-mäk ärür 「決者決斷」 B935

o.-ïp 2002

o.-maq o.-maq üz-mäk B935

odyuraqsïz

「不定」「無定」 B210, B214, B1192, B1435, B1501, B1762, B1903, B2210, B2231, B2417, ärkliglärning adqanyularnïng bir ikintikä tägmäkning anïng yörügi odyuraqsïz ärür 「根境相至其義不定」 B1501

oduγ

oduγ kiši 「覺人」 516

odun-

「覺める」 udïmïš tïnlylarta yalanguz tngri burxan oq ašnuča odun-up 512; tuyun- odun-「悟る」 ang'bašlayu tuyun-mïš odun-mïš tep yörüg'ol tep timiši ärsär 510

o.-mïš 515, 517; tuyun-mïš o.-mïš 507, 509, 510

o.-up 512

oduntur-
tuyuntur- oduntur- 「悟らせる」 tuyundur-tačï oduntur-dačï üčün alqu tïnlylarïγ 513

oylan-qya
「子」 oylan-qya-larïnga bulduryu üčün ärip enčgüg äsängüg 「爲子獲安」 1081

oyul
「子」 qaltï oyul anaqa tayanmïš täg 「如子依母」 4196
o.-ta 4252
oylï-ïnga 1080

ol
「彼」「其れ」「・・である」（繫辭） 8, 17, 27, 29, 33, 36, 40, 44, 49, 53, 53, 56, 59, 61, 74, 85, 96, 132, 143, 150, 155, 172, 190, 194, 236, 236, 247, 248, 258, 260, 261, 275, 301, 303, 313, 316, 324, 331, 338, 344, 351, 367, 371, 376, 377, 379, 393, 403, 403, 404, 405, 407, 409, 435, 497, 523, 533, 537, 543, 544, 587, 589, 590, 598, 608, 611, 619, 635, 645, 646, 664, 667, 671, 692, 702, 716, 720, 723, 725, 728, 730, 735, 736, 738, 742, 744, 751, 753, 763, 786, 795, 803, 820, 824, 827, 847, 850, 854, 865, 868, 871, 874, 883, 887, 891, 912, 944, 951, 953, 955, 956, 961, 968, 973, 974, 978, 1001, 1005, 1006, 1024, 1031, etc., B1, B3, B4, B5, B10, B15, B16, B22, B26, B32, B38, B42, B43, B57, B61, B66, B73, B75, B75, B79, B97, B99, B107, B116, B118, B121, B122, B128, B145, B155, B155, B162, B164, B169, B178, B180, B182, B183, B196, B197, B215, B219, B229, B232, B235, B244, B247, B255, B257, B257, B266, B286, B289, B291, B294, B298, B300, B301, B308, B316, B327, B333, B342, B351, B359, B367, B368, B369, B371, B374, B378, B379, B391, B392, B392, B399, B418, B433, B445, B454, B455, B460, B468, B472, B473, B474, B475, B482, B483, B485, etc. ol nädägin antaγ bolzun 「彼云何然」 B61, ol iišläšip köngülkä tayaqlïγïn uyur üčün yorïγalï adqanyularta 「彼要依心能行境故」 B75, ärür üčün ol qïïnlïγ anïn ymä ök adamïš ol koš tep 「是彼所藏故亦名藏」 1943, qayu tïldaγïn nomladï ol abidarimïγ 「何因說彼阿毘達磨」 1961, ol iišläšip tarïqmaqnïng yörügi ymä qayu ol tep tesär qavïrasïnča bolur iki türlüg 「斷義云何略有二種」 B676, munda ymä ök yintäm täk yörüg ol 「此亦唯義」 B286; -miš/-miš ol 「・・した（のである）」 29, 33, 36, 40, 43, 49, 56, 59, 80, 236, 248, 303, 338, 351, 367, 393, 409, 418, 435, B1, B3, B5, B15, B16, B17, B19, B27, B73, B79, B97, B99, B116, etc. munung umïš üčün tarïqγalï qarangγusï anïn ada-mïš ol tarïqmïš qarangγuluγ 「此能破闇故稱冥滅」 544, anïn yindäm sözlä-miš ol üčägüni taryarmaqïγ 「故唯說斷三」 1151, bol-mïš ol adï bolγalï ičdin sïngarqï tep 「得名爲內」 B97, sözlämiš ol köznüng adï bolur körüm tep 「說眼名見」 B853; tägimlig ol see tägimlig; näčük ol see näčük; nägü ol see nägü; nägülük ol see nägülük

olar
「彼ら」 887, 955, 1559, 1660, 3873, 4116, 4272, 4280, 4284, 4291, B152, B1491, qayu nomnung adï bolur olar-qa bilgülük adïrtlayuluq bolmaq üzä 「何法名爲彼所簡擇」 2584, olar-ta aqïylar eyin ükliyür üčün anïn sözlämiš ol aqïylïγ tep 「於彼漏隨增故說名有漏」 2729, olar tängridäm köz üzä körür alqu tïnlylarïγ 「彼以天眼諸有情」 1491
o.-nï B1912
o.-nïng 37, 46, 84, 1062, 1220, 1276, 1346, 1392, 1617, 1767, 2468, 2468, 2606, 3204, 3971, 4283, 4287, B263
o.-qa 2156, 2584
o.-ta 968, 1878, 2520, 2729, 3006, 3010, 4312

olur-
「坐る」 orun töldäp olur-u tükätdüktä 「敷座坐已」 2499

o.-maq H30V43

o.-u 2499

o.-up 639

on

「十」 831, B579, säkız on säkiz eyin yattačïlar 「八十八隨眠」 B559, B573, B615; on köz 「十眼」 599; on bulung yïngaq yertinčülär 「十方世界」 1042; oxšadï on tušlar 「同類十位」 1180; on önglüg uyušlar 「十色界」 B532

o.-ta 2239

onayu

「十」(集合) B222, birök uqïdsar bular onayu ič sïngarqï bolup adïn üküš ülüšlügi ičtin sïngarqï bolmaz B224

onunč

「第十」 H32V49, yänä üstäsär täginmäk yïymaqïy altun kümüš ulatï ärdinilärig onunč-luyï ärür 「復加受畜金銀等寶以爲第十」 H30V52

ong

「右」「正しい」 ong elig 「教手」 1201, 1208, 1216, eyin yarayïnča berip köni nom nomlamaqlïy ong elig-in tardïp umuy ïnay bolup ündürü yrlïqadï 「隨授所應正法教手拔濟令出」 1201

ong-

ong- öngsirä- 「色あせる」 alqu ärkliglări ongup öngsirăp 1187

ongarmaq

uqmaq ongarmaq 「了悟」「理解」

o.-ïy uq-maq o.-ïy 1999

o.-qa uq-maq o.-qa 2013

ongaru

köni ongaru 「正」「眞正」「無倒」 2452, tört türlüg köni ongaru qadïylanmaqlar 「四正行」 2452, činïnča kerdüsinčä köni-sinčä ongaru-sïnča ödärig berip ödlätači ärigläđači üčün adamïš ol činkertü tözlüg baxšï tep 「如實無倒教授誡勗名如理師」 1371

o.-sïnča 765, 1371, 1489

ongay

učuz ongay 「容易な」 1205

op-

「呑む」 alïp yïdïn op-duqta B1713

oq

(強調の小詞 cf. ök) 150, 151, 182, 286, 288, 400, 512, 516, 521, 563, 601, 617, 625, 634, 715, 716, 748, 823, 849, 860, 879, 881, 894, 956, 1010, 1010, 1015, 1016, 1017, 1043, 1044, 1047, 1047, 1082, 1115, 1117, 1121, 1135, 1141, 1156, 1193, 1208, 1214, 1223, 1225, 1239, 1240, 1241, 1341, 1366, 1384, 1433, 1434, 1552, 1667, 1680, 1681, 1686, 1723, 1733, 1760, 1809, 1850, 1908, 1916, 2004, 2058, 2144, 2148, 2349, 2355, 2391, 2461, 2466, 2493, 2508, 2536, 2538, 2563, 2599, 2642, 2649, 2677, 2720, 2735, etc., B5, B26, B79, B93, B95, B98, B115, B121, B151, B171, B184, B189, B212, B232, B244, B253, B273, B369, B370, B395, B409, B421, B431, B432, B481, B501, B509, B516, B579, B585, B585, B594, B602, B616, B644, B655, B670, B686, B735, B798, B802, B846, B883, B888, B893, etc. köngüldäki nom oq köngülkä körü tayandačï töz bolsar 「心所望心爲能依性」 B98, munday osuyluy bilmäk atïrdlamaq ärsär ol oq avant tïlday ärür 「如是了別即彼因」 B1014, yindäm burxanlar oq yalanguz tuyarlar 「唯佛獨悟」 617; anday oq 「そのとおり」 150, 288, 521, 823, 956, 1047, 1214, 1552, 1680, B79, B93, B95, B121, B171, B184, H27R19, etc. sudur ymä anday oq bolyu kärgäk 「經亦應爾」(爾) 2391, kkirlig yrlïysïz köngül ymä anday oq ärür 「染汚無記心亦如是」(如是) B93; bu oq inčip 「これすなわち」 151, 286,

563, 715, 716, 1135, 1193, 1208, 1667, B5, B481, etc. bu oq inčip ärür čïnlayu abidarim 「此則勝義阿毘達磨」(此則) 1667; anïlayu oq 「猶」「乃ち」 182, 634, 748, 860, 879, 881, 1010, 1017, B602, B616, B644, B735, etc. kirsiz bilmämäkig anïlayu oq taryarmaduq üčün 「不染無知猶未斷故」 860, anïlayu oq bir ikintikä bürüdüšmäz 「仍不相觸」 1844, birök tägtükdä anïlayu oq äšidsär 「若至乃聞至」 B1591; ančulayu oq 「このように」 516, 601, 1016, 1082, 1240, 1723, 1733, B115, B369, B395, kengürü yrlïqamïš ol ulatï biligig ymä ančulayu oq 「廣說乃至識亦如是」(如是) 2865; ol oq 「即ち」 ol oq öngdünki baštïnqï ikinti padak-larïγ amtï üčünč törtünč padak qïlmïš krgäk 「即前第一第二句爲今第三第四句」 H26R56

oq

oq samaz 「持業釋」 4413, 4418

ooq 「矢」

o.-larïn B764, cf. atïš-

ooq

ooq yïq 「間隙」 alqu parmanularnïng büdün yoq ärip ooq-ï yïq-ï 「諸微全無間隙」 B1846

oqï-

「誦す」「呼ぶ」 oqï-yu ol balïqïγ sözlädi 「呼彼魚云」 2499

o.-γïl 4224

o.-yu 2499

oqïš

「讀み」 2542, 2542, 3952, bu kenki oqïš bu diraviqa birisi ol 2542

ooqluγ

「有間」 4461

oqsuz ～ ooqsuz

「無間」 B1544, B1643, B1731, B1766, B1768, B1771, B1772, B1827, B1831 ～ B1824, B1843, H25R53, H31R52,58,60, H38R53, qaltï yruq yula alqu ïraqtaqï yaqïntaqï yarudγuluq ädlärkä oqsuz tüzü yarudmïšï täg 「如明燈於諸遠近所照之物無間遍照」 B1544, nädägin ooqsuz ärip anïlayu oq bir ikintikä bürüdüšmäz 「如何無間仍不相觸」 B1843, ančulayu oq ymä öngtün bulung yïnγaqtïn ooqsüz üzüksüz ülgülänčsiz yertïnčülär ol azuča ymä ardayu turur azuča ymä etilü turur 「如是東方無間無斷無量世界或壞或成」 H27V27; oqsuz yol 「無間道」 3322, 3324, B716, B733, ol alqu nomlar yintäm ol oruntaqï qamaγta ang kenki oqsuz yol eyin tarïqur üčün 「由彼諸法唯隨彼地最後無間道所斷故」 B716

oqsuz 3322, 3324, B1643, B1731, B1768, B1771, B1827, B1831

ordu

「宮」 bu nirvan-lïγ ordu-qa yalnguz eltdäči keng yol-uγ 「此涅槃宮一廣道」 H40R8

ornaγlïγ

「安定した」 ornaγlïγ bilgä biliglig 6

orman-

orman-ïp tur- 「安住する」 nädägin orman-ïp tur-ur 「如何安住」 2797, quruldurtačï örlätdäči bolmaz orman-ïp tur-γalï 2788, tägimlig ol uz küzädingäli saqlaγalï tägmlig ol uz orman-ïp tur-γalï köz ärkligin yïγïnmaqta 「應善守護應善安住眼根律儀」 H31V6; oman-u yatïl- 「安布される」

o.-ïp o.-ïp tur- 2770, 2772, 2773, 2775, 2779, 2780, 2783, 2785, 2786, 2788, 2789, 2795, 2797, 2797, 2800, 2803, 3256, H27V22, H31V37,54

o.-u o.-u yatïl- B1926, B1949

ornat-

「置く」 ornat-ïp turγur- 「安住させる」 304,

305, 307, 385, 1096, ödrü ornad-ïp turyur-ur yalnguqlï tngrilitä 307; ornat-ïp ur- 「安置する」 2128, 2137, 2146, 2344, 2980, alqu maxa širavaklar sanggit qïlïp ornad-ïp ur-dïlar 「諸大聲聞結集安置」 2128; ornat-ïp uqït- 「安立する」 H26R11, H30V30,37 upasï bačaqï šarmari (toyïnnïngïnda ulatï) tört türlüg sanvarlarïγ nätäg ornat-ïp uqït-dï 「近事近住勤策苾芻四種律儀云何安立」 H30V24

o.-ïp 2980

ortun

「中」 qltï ortun eltäkining ärür 「謂於中國」 H32V50

ortunqï

「中にある」 761, 2765, 2766, H39R6 kim adaqtaqïsï tuγurup ordunqï-sïn 2754, ortunqï adaqdaqï ädgü öglisintä ymä ančan ančan käzigčä bïšrunurlar muntaγ osuγluγ taplaγïγ 「於中下親亦漸次修如是勝解」 H39R3; ortunqï bölüklügi 「中品」 H39R7

o.-sï 2754, 2759

o.-sïn 2754

o.-sïnda 2759

orun

「處」「地」「座」「床」 29, 350, 413, 426, 917, 933, 945, 947, 1104, 1122, 1135, 1142, 1157, 1163, 1277, 2071, 2071, 2122, 2122, 2125, 2142, 2142, 2343, 2499, 2564, 2614, 2651, 2693, 2703, 2802, 2889, 3207, 3668, 3669, 3680, 3680, 3915, 4485, 4555, 4560, B493, B668, B788, B875, B1035, B1970, B1971, B2249, B2360, B2360, B2397, B2397, H25R13 körüp käntü özining ölmiš anasïn bilmädin tuγmïš orun-ïn 「觀其母不知生處」 920, ol sansar ärür üčün alqu tïnlγlarqa čomrulγuluq badγuluq orun 「由彼生死是諸衆生沈溺處」 1104, köz uyur körgäli ïraq oruntaqï alqu önglärig 「謂眼能見遠處諸色」 B1506, orun töldäp oluru tükätdüktä 「敷座坐已」 2499, qaltï kiši orun-ta turmïš täg 「如人住床」 4198, pardakčan bošγutluγ bošγutsuz orun üzä üč körümlärning adïrïlmïšïn 「異生學無學地三見別故」 B875, aldïn orun-taqï köz umaz körgäli üz-dünki öngüg 「下眼不能見上色故」 B2355; iki ygrmi orunlar 「十二處」 596 ; umunγuluq ïnanγuluq orun 「歸依處」 350, 397, 413, 426; köngül orun 「意處」 3668, 3680, B668; nom orun 「法處」 3669, 3680; körüm orun(-ï) 「見處」 4157, 4306, 4469, 4474; tayaq orun(-ï) 「依處」 4482, 4483, 4485, 4489, 4493; uluγ orun-luγ nom 「大 (地) 法」 B104, B205, B217, birök anday ärsär uluγ orun-luγ nom-lar tägingü kärgäk 「若爾大法應受內」 B104; dyan orun 「靜慮地」 B2244, B2246, B2248, B2278, etc.

o.-ï 1727, 1864, 2350, 3205, 4157, 4306, 4469, 4474, 4482, 4483, 4489, 4493, 4545, 4548, B21, B32, B858, H26V16

o.-ïn 920

o.-ïnga H29V32

o.-lar B2345

o.-larï B2228

o.-larqa 596, 2613

o.-larta 830, 1726, 1746, 2171, 3158, 3580, 3825, 3827, B739, B739, B1371, B2334, B2346, B2412, B2420, H29V60

o.-lartaqï 1726, B773, B2296, B2298, B2299, B2301, B2309, B2311, B2313, B2319, B2326, B2354, B2393

o.-luγ 2856, 2857, B104, B205, B217, B2377, B2381, B2382, B2383, B2384, B2387, B2388, B2390, B2392, B2394, B2399

o.-nung 3683, 3683

o.-qa 3983, B2235, B2236, B2237

o.-ta 24, 31, 31, 34, 532, 723, 915, 924, 2222, 2263, 2283, 2286, 2440, 2445, 2446, 3483, 3827, 4066, 4198, 4567, B604, B891, B896, B976, B993, B1199, B1203, B1285, B1319, B1558, B1705, B2146, B2201, B2225, B2232, B2234, B2239, B2339, B2343, B2409, B2411, B2415, B2415, B2418, B2420, B2421, B2422, H28R52

o.-taqï 858, 890, 3207, 3360, 3361, 3362, 3363, 3577, 3828, B716, B1506, B1511, B2244, B2245, B2246, B2248, B2278, B2282, B2282, B2283, B2307, B2307, B2316, B2319, B2320, B2324, B2325, B2326, B2327, B2335, B2336, B2337, B2338, B2341, B2355, B2356, B2357, B2358, B2358, B2361, B2365, B2369, B2379, B2380, B2380, B2393, H27R62
o.-taqïγ B2322
o.-taqïsïnïng B2315
o.-uγ 397, 888, B2334, B2353, H30V8

orunluq
「座」 B1242, B1245, orunluq ärür tayanγuluq B1242
o.-nung B1243

oruq
「獲得」（Skt. prati-patti）「行」 qaltï yol törülüg oruq ündürdäči 1884

osal
osal sïmtaγ 「放逸」 H33V47,49 qaltï kim tuγurup čïnkertü bilgä biligig öngi üdrültürdäčisi ärür osal sïmdaγ bolmaqlïγ ayïγ yorïqtïn 「謂佛令生智離放逸惡行」 1292, qltï körürlär üčün bu täginmäk ärsär ärür osal sïmtaγ-lamïng orunï 「謂觀此受是放逸處」 H37R40

osuγluγ
「・・のごとく」 B1382; muntaγ osuγluγ 「このような」 118, 300, 775, 892, 939, 972, 1344, 2472, 3154, 3349, 3352, 3398, 3736, B216, B306, B775, B940, B1014, B1142, B1334, B1427, B1484, B1841, H25V36 mundaγ osuγluγ üküš tälim uγušluγ bölgülük adïrtlaγuluq savlarta 「如是多種分別中」（如是）939, mundaγ osuγluγ-ta ulatï uγušluγlar ärür aqïγlïγ nomlamïng yörüg eyinki niznk adï 「如是等類是有漏法隨義別名」 4557, mundaγ osuγluγ bilmäk atïrdlamaq ärsär ol oq avant tïldaγ ärür 「如是了別即彼因緣」 B1014; antaγ osuγluγ 「そのような」 74, 1300, 1305, 1340, 1543, ayayu ayïrlayu ol andaγ osuγluγ činkertü tözlüg baxšïqa 「敬禮如是如理師」 74
o.-nung muntaγ o.-nung 2884, 2884
o.-ta muntaγ o.-ta 1020, 1397, 1981, 2196, 2458, 4263, 4577, 4579, B234, B2209

osuγsayu
「則って」 3464, 3521

ot ～ oot
「火」 842, 1981, 4291, 4350, B1006, B1567, B1568, B1569, SG44, ot B1057, B1526, B1530 qaltï ot qovuq oot-ï timiš täg 「如草穢火」 4335, köztä oot yruqïnïng barï arduqraq büdmiš ärmäz üčün 「眼有火明非極成故」 B1567
o.-ï 4335, 4350, 4351
o.-larïγ 1862
o.-ta B1541
o.-uγ 4351
ot-nung B1528

ot
「草」「藥」 1438, 2624, 2625, 4335, 4350 ot quvuq ootï 「草穢火」 4335, qaltï ot-tïn tuγmïšï täg oot üčün adap ot ootï tep 4350, köz od-uγ umaz üčün körgäli 「眼中藥不能觀」 B1508, ašnu ig bolup ken ot bolur 2624; ot ïyač 「草木」 qaltï ot ïyač-qa ud mayaqïnga 「助依草木牛糞」 B1056
o.-nung 1423,
o.-ta B1511
o.-tïn 4350
o.-uγ 1438, B329, B1508

otačï
「醫師」 qaltï nädäg yerdinčütäki odačï baxšïlar kördüktä qayu ät'öztä barïn igning turγuluq tïldaγï 1430

otïraqï ～ otraqï
「中の」 bar kedärmiši odïraqï užikin 3341,

otraqï-sïnïng iki tört üč tüši 「中二四三果」 H34V3

otra

「中」 turyuryalï täng tüz köngülüg otra turdačïsï birlä täng 「起平等心與處中等」 H39R36, otra turdačïsï nätäg 「住中云何」 H31V54

otung

「薪」 3890, 3941, 3943 kälmädük ödkisingä tïdïγ yoq süt täg odung täg 「未來無妨如乳如薪」 3890, odung-nung küčingä tayaqlïγ yeg aduruq išlig oot tuγmïšï täg 「如依薪力勝用火生」 B1005, qltï otung-ta ulatïnïng küyürülmädük ödtäkisi ymä ök küyürgülük adamïš täg 「譬如薪等於不燒時亦名所燒」 H26V13

o.-nung B1005

otuz

iki otuz 「二十二」 35

oxša-

「似る」 angar oxšadïsï oxša-yur üčün oxšadïsïnga anïn sözlämiš ol oxšadï tep B489

o.-sar 3579

o.-yur 4426, B489, B2142, H27R50

oxšaš-

「類似する」「相似する」 munda bar iki türlüg yörüglär oxšaš-yuluq 「此有二義相似」 1113, nädägin oxšaš-ur 「云何相似」 1210

o.-yuluq 1113

o.-mamaq 3473, 3479

o.-maq 2913, 3472, 3478

o.-maqï 2909

o.-maqlïγ 3495, 3511, 3534, 3558

o.-mayu 3474

o.-maz B491, B494, B495

o.-mïš 2914

o.-ur 496, 598, 602, 1112, 1210, 1210, 1218, 3513, 3513, B515, B990, B1930

oxšat-

「似せる」; yangγar-maq oxšat-maq 「類推」 4098 bolmaz yangγar-maq oxšad-maq üzä inčip sözlägäli 4103; oxsat-maq yangγar-maq 「比類」 burxanlar oxšat-maq yangγar-maq uγrïnta ärtmiš közünür ödki tïltaγlï tüšlining käzigin tizigin 「由佛比類過去現在因果次第」 H25V46

o.-mïš 1115

oxšatï

「類似した」「類」「同類」「同分」「相似」「影像」 'wqs'dy 838, 1007, 1180, 1859, 1860, 2905, 2908, 3459, 3472, 3477, 3478, 3486, 3488, 3494, 3500, 3504, 3505, 3508, 3514, 3516, 3519, 3530, 3531, 3532, 3554, 3560, 3563, 3565, 3566, 3568, 3576, 3577, 3578, 3581, 3583, 3584, 4511, 4513, 4520, B100, B287, B290, B291, B298, B305, B339, B339, B339, B347, B354, B362, B365, B367, B373, B375, B381, B407, B409, B411, B420, B427, B429, B434, B434, B435, B459, B462, B466, B475, B485, B487, B488, B488, B490, B490, B495, B496, B497, B497, B499, B504, B513, B515, B516, B517, B518, B1027, B1028, B1029, B1030, B1034, B1070, B1076, B1366, B1367, B1585, B1898, B1900, B1903, B1950, B1975, B1976, B1977, B1978, B1979, B1980, 'wqs'ty B80, B287, B288, B337, B346, B348, B351, B353, B358, B359, B362, B363, B363, B366, B368, B376, B377, B377, B426, B428, B459, B462, B465, B780, B1034, H26V57, qayu yörügkä tayaqlïγïn sözläti öčmäkig oxšadï-sïz tep 「依何義說滅無同類」 3459, yänä alqu köngültäki nomlarnïng oxšadï köngülkä körü 「又諸心所望同類心」 B100, anïn qulγaq ärkligning adqanγu almaqï oxšadï ärmäz 「故與（耳）根取境非類」 B1585, qaltï yintärn nom uγušï oxšatï bolur 「謂一法界是同分」 B287, kördäčikä bolur oxšadï 「於見者是同分」 B434, qaltï bilgä bilig täg yörügkä utru uqïttačïqa oxšatï-sïnča [inčip bälügürmiš täg] 「如智帶義影

像而現」 SG22; angar oxšatï「彼同分」 B339, B362, B363, B381, B407, B409, B411, etc. angar oxšadï köz täk bolur tört türlüg「彼同分眼但有四種」 B381, biz ötrü tuγdumuz anïng oxšatï-sïnta tep äz-rua quvraγ-ï qayu「我等便生彼同分内」 H28V55; adïn orunta ymä bar oxšatï qutrulmaq inčip uqïtmamïš ol「餘地亦有相似解脱而不建立」 H39V13

o.-γ B1077

o.-lïγ 3468, 3510

o.-nïng B289, B304, B422, B422, B423, B423, B1069

o.-sï 598, B489, B500, B506, B508, B510, B512, B516, B517, B517; 'wqs'ty-sy B417, B418

o.-sïn 1732, 3561, B507, B509, B510, B511, B512, B513, B1080

o.-sïnïng B1078, B1079

o.-sïnga B490, B500, B500

o.-sïz 2855, 2857, 3459, 3461, 3466, 3468, 3469, 3471, 3473, 3475, 3480, 3485, 3488, 3490, 3498, 3510, 3513, 3529, 3529, 3557, B765

o.-ta B464

oxšatïγ

「形貌」「類」「同分」 kördilär anïng üküš tälim bašïn körkining oxšadïγ-ïnïng qorqïnčïγïn「見其異類多頭形貌可怖」 2496, bu bir tuγum tegüči sav üzä uqïtur bir oxšatïγ-ïγ bolmaq üzä oxšatïγ-ïγ temin sözlämiš ol tuγmïš tep ad üz-ä「此一生言顯一同分。以得同分方説名生」 H34V65; uγuš oxšatïγ「類」「部」「種類」 B491, B517 angar oxšadï-sï birlä uγuš oxšadïγ ülüš üzä bir üčün adamïš ol angar oxšadï tep B517, munta töz ärsär ärür basutčïnïng uγuš-ï oxšatïγ-ï「此中性者是緣種類」 H25R17 cf. ülüš

o.-ï B1929, uγuš -ï o.-ï 3512

o.-ïn 3631

o.-ïnïng 2496

o.-lïγ uγuš-luγ o.-lïγ 1671

o.-lïγta B1036

oz-

「脱する」 adï ködrülmiš ündüktä bälgürdüktä yerdinčütä anïlayu oq bolmatï ozγalï「世尊出世猶未得脱」 2493; oz- qutrul-「解脱する」 käntü umazlar bilgäli oz-maq qudrul-maqlïγ yevig tizigig 1170, qltï tilämiš üčün oz-maq qutrul-maqïγ ulatï köni körümtä ulatïlarïγ täginmiš tutmïš arïγ čxšapt ärür「謂爲求解脱及正見等受持淨戒」 H35V12

o.-a o.-a qutrul-u 2163

o.-ar 315

o.-duq-ta o.-duqta qutrul-tuqta 1011

o.-γalï 1281, 2493, 3248; o.-γalï qutrul-γalï B827, H37V21

o.-γuluq o.-γuluq qutrul-γuluq 1173

o.-maq o.-maq qutrul-maq 256, 897, 897, 1170, 1276, 1457, 3721, 3902, 3903, H39R30,55

o.-mïš o.-mïš qutrul-mïš 3279

o.-up o.-up qutrul-up 2160

ozγur-

「解脱させる」 ödläp ärigläp ozγur-ur tïnlγlarïγ 1389, olarnïng qayu täginmišining uγurïnda bolmaz üčün ädräm birdämlädi ozγur-γuluq alqu ayïγlartïn bolmaqta tayanmaq yapšïnmaqtïn「由彼所受無有功能永脱諸惡依著有故」 H31R31; ozγur-qutγar-「解脱させる」 küsämiš ärti ozγur-γalï qudγar-γalï alqu tïnlγlarïγ 365; ödläp ärigläp ozγur-qutγar-「化度させる」 biri biri ödläp ärigläp ozγur-up qutγar-ïp sansïz saqïšsïz tïnlγlarïγ「——化度無數有情」 H27V18

o.-ayïn o.-ayïn qutγar-ayïn 2160

o.-γalï 1414; o.-γalï qutγar-γalï 365

o.-up o.-up qutγar-ïp 1281, 2165

o.-ur 1389; o.-ur qutγar-ur 1243

Ö

ö-

「念ずる」 ötiklä- ö-～ ö- ödiklä-「憶念する」

angayu tayaq ät'öztä bolmaz üčün tavranmaqï bolmaz üčün ötiklämäk ö-mäki「別依身中無加行故無憶念故」H33R9 ken basa basa ö-p ötiklä-p uvut ïyatïγ yüüz yügärü qïlur「後數憶念慚愧現前」H29R7

öč-

「滅する」 öng körmädin öngrä amtï ken öč-dačisi「不見色已正當滅」B401, tuγmaduquγ öč-ä tükädmišig ymä ök umamïš täg tuγuryalï「未起已滅亦不能生」B1632; ärt- öč-「謝滅」 ün ärd-ä öč-ä tükädmiš bolur「聲久已謝滅」B1675; öč-ä turur ödki「正滅時」H26V48,50; öč- amrïl-「寂靜する」 öč-miš amïl「寂靜」 antaγ yänä kördačilär ärsär alqu etiglig nomlarnïng nirvanïn öč-miš amrïl-mïš ärür tep ymä ök ašnuča körüp ol nomuγ ärür ämgäk tep ken körmiš üčün ärür anïng öčmäkin bolur öč-miš amïl「若觀諸有爲涅槃寂靜者亦由先見彼法是苦後觀彼滅以爲寂靜故」H36R69 ～ 72; tuγdačï öčdäči törü「生滅法」H36V42

ö.-ä 1109, 3974, 4531, B251, B384, B402, B820, B832, B1630, B1632, B1670, H26V43; ärd-ä öč-ä 1675

ö.-är 3228, B1685

ö.-ärin B405

ö.-däči B405

ö.-däčisi B401

ö.-düktä ärt(-t)ükdä ö.-düktä 3669, 3680

ö.-gäy 1143

ö.-mädin B1808

ö.-mäz 4527

ö.-miš 1882, 4184, 4539, 4542, B383, B1666, B1667, H25V17,18, H29V53

ö.-mištäki 3227, 3609

öčmäk

「滅」 1839, 1851, 2801, 2995, 2999, 3042, 3043, 3043, 3044, 3056, 3064, 3097, 3140, 3141, 3212, 3214, 3217, 3217, 3219, 3221, 3222, 3231, 3233, 3235, 3237, 3239, 3291, 3300, 3302, 3305, 3314, 3326, 3328, 3329, 3330, 3345, 3347, 3348, 3351, 3352, 3373, 3378, 3379, 3388, 3391, 3396, 3399, 3406, 3407, 3409, 3412, 3419, 3420, 3422, 3424, 3462, 3465, 3468, 3469, 3474, 3507, 3520, 3522, 3526, 3527, 3530, 3532, 3533, 3537, 3539, 3541, 3551, 3556, 3564, 3572, 3574, 3579, 3588, 3589, 3597, 3598, 3601, 3604, 3607, 3613, 3615, 3621, 3628, 3641, 3660, 3665, 3669, 3679, 3681, 3693, 3697, 3730, 3740, 3761, 3766, 3768, 3771, 3773, 3776, 3779, 3780, 3782, 3784, 3782, 3784, 3789, 3798, 3801, 3802, 3804, 3806, 3811, 3812, 3813, 3815, 3816, 3824, 3828, 3830, 3837, 3838, 3840, 3841, 3843, 3846, 3847, 3854, 3856, 3859, 3861, 4087, 4087, 4089, 4089, 4142, 4142, 4166, 4167, 4170, 4172, 4174, 4175, 4183, 4184, 4543, B402, B402, H35R35,60 ämgäkig körmäk üzä taryaryuluq nizvanïlarnïng öčmäkin 「見苦所斷煩惱滅」 3402; bilip öčmäk 「擇滅」 672, etc. bilmädin öčmäk 「非擇滅」 315, H39R52, etc. bilmäkning küčindä bululyuluq bolmïš öčmäkning adï bolur bilip öčmäk tep 「擇力所得滅名爲擇滅」 3313, birdämlätï tïdmaqtïn ken tuγdačï nomlarïγ bululur bilmätin öčmäk 「永礙當生得非擇滅」 3598; öčmäk kertü「滅諦」 1851, H39V52; öčmäk uγur「滅行相」 H38R2; öčmäk dyan 「滅盡定」 H39V29

ö.-i 3540, 4170

ö.-ig 315, 315, 672, 673, 680, 702, 1831, 2996, 3285, 3325, 3355, 3415, 3416, 3458, 3459, 3466, 3471, 3475, 3480, 3485, 3487, 3488, 3497, 3500, 3514, 3528, 3539, 3547, 3554, 3557, 3591, 3593, 3609, 3609, 3612, 3688, 3727, 3767, 3773, 3795, 3849, 3850, 3864, 3864, 4183, H38R16

ö.-in 3402, 3403, 3409, 3411, 3414, 3428

ö.-ining 4086

ö.-kä H38R3

ö.-lär 679, 2931, 2931, 2932, 3028, 3038, 3042, 3045, 3045, 3078, 3087, 3089, 3090, 3234, 3238, 3835, 3839, 3853, 3857

ö.-lärig 3041, 3080, 3137, 3139, 3555
ö.-lärning 3081, 3144, 3850
ö.-lärtä 3605
ö.-lärtin 3046, 3226, 3237, 3240, 3242
ö.-li 2711, 2712, 2737, 2739, 2758, 2761, 2764, 2766, 2767, 2777, 2778, 2787, 2790, 2792, 2793, 2804, 2812, 2815, 2816, 2823, 2836, 2837, 2841, 2843, 2845, 2854, 2893
ö.-lig 3368, B1395
ö.-ning 677, 677, 3049, 3052, 3281, 3297, 3313, 3344, 3383, 3385, 3400, 3503, 3505, 3511, 3516, 3519, 3559, 3567, 3600, 3629, 3666, 3687, 4168, B403
ö.-tä 3610
ö.-tin 3227, 3229, 3230, 3606
ö.-siz 3430

öčür-
「滅する」 alqu amranmaq uyuštaqï aztïn barča bolurlar öčür-üp öngi üdrülgäli 「諸欲界貪皆得滅離」 H27V38; täginmäkig saqïnčïy öčür-mäklig dyan 「滅受想定」 H39R60
ö.-äyin 313
ö.-däči H30R12
ö.-gäli 1862
ö.-mäk 306, 705
ö.mäklig H39R46
ö.-üp 699, toyïnlar köngülin öčür-üp amïrtyur-up 「苾芻意寂靜」 4243

öd
「時」「世」 202, 901, 944, 946, 1614, 2125, 3880, 3915, 3936, 3949, 3956, 3960, 3963, 3970, 3971, 3978, 4080, 4269, 4269, 4271, 4552, B275, B275, B1136, B1235, B2004, B2008, B2010 bir učluyïn bir öngtä bolmïš öd-tä 「專一色時」 3624, kašip tngri burxan öd-intä bar ärti bir toyïn 「迦葉佛時有一苾芻」 2486, qltï azuča ymä birär öd-tä üküšintin törüyür azï 「謂或有時從多生少」 H25R46, köngülnüng arïdï bulduqmaz öd-i yorïmayuluq öz adqanyusïnta 「心曾無有時不行自境」 B71; kälmädük äd 「未來世」 202, H25V28, etc. közünür öd 「現在世」 259, H25V34, etc. ärtmiš öd 「過去世」 333, H25V36, etc. üč öd-lär 「三世」 594, etc.; öd yol-ï 「世路」 3956, etc.; öd-tin öngi üdrülmiš 「離世」 4052, etc.; öd-tä tüšmiš 「墮世」 4055; öd-süz qudrulmïš 「不時解脫」 3443; öd ülüš 「時分」 uqïtur ulatï uqïtmazta kimlär tükällig bolurlar qayusïnga qayu öd ülüši tägінčä 「表及無表誰成就何齊何時分」 H31V20
ö.-čä 3440
ö.-däkilär 1578
ö.-i 2750, B71, B176, H26V10
ö.-indäki 2501
ö.-intä 2486, 3412, 3413, B1784
ö.-kä 3644, 3679, 3972, 4173, B397, B508, B2017, B2020, B2025
ö.-kädäki H33V24
ö.-ki 259, 259, 260, 261, 262, 263, 265, 266, 333, 631, 1050, 2500, 2561, 3141, 3599, 3602, 3627, 3655, 3657, 3706, 3713, 3718, 3738, 3769, 3783, 3785, 3786, 3793, 3794, 3797, 3799, 3800, 3802, 3803, 3805, 3811, 3852, 3858, 3860, 3918, 3918, 3919, 3919, 3920, 3921, 3973, 3974, 4040, 4041, 4041, 4530, 4537, B258, B302, B366, B367, B368, B924, B1137, B1232, B1268, B2021, B2003, B2006
ö.-kig 3603, 3818, B2024
ö.-kisi 682, 684, 685, 704, 4119, 4531, 4531, B267, B267, B268
ö.-kisin 703
ö.-kisindin 3810
ö.-kisining 3937, 3938, B272
ö.-kisingä 3890, 3941
ö.-kitä 970
ö.-lär 3921, 4121
ö.-lärig 594, B2004, B2008, B2039
ö.-lärtä 269, 686, 3569, 4034, 4059, B264, B265, B274, B277, B280, B307, B2009
ö.-lüg 1661, 3748, 3760, B253, B278, B1231, B1233, B2007, B2012, B2015, H33R45
ö.-süz 3443, H30V44

ö.-tä 'wydt' 156, 270, 270, 383, 692, 704, 826, 833, 836, 1722, 2267, 2505, 2696, 2784, 2867, 3155, 3282, 3402, 3408, 3420, 3447, 3453, 3456, 3535, 3624, 3626, 3632, 3646, 3646, 3650, 3662, 3663, 3671, 3730, 3753, 3755, 3764, 3839, 3845, 3924, 3925, 4054, 4060, 4061, 4061, 4062, 4557, 4558, B307, B1153, B1464, B1521, B1674, B1961, B1998; 'wyd-t' B34, 3954, B240, B240, B241, B242, B245, B249, B251, B260, B270, B506, B509, B661, B665, B674, B697, B708, B710, B715, B739, B818, B824, B825, B826, B831, B979, B983, B1092, B1094, B1115, B1144, B1339, B1341, B1349, B1417, B1429, B1441, B1443, B1455, B1459, B1460, B1463, B1518, B1531, B154, B1647, B1648, B1658, B1661, B1665, B1666, B1668, B1681, B1710, B1757, B1904, B1964, B1984, B1998, B2014, B2019, B2023, B2023, B2421, B2424, B2428; 'wytd' 1009, 2134, 2159, 2162, 2165, 2283, 2341, 2356, 2519, 3285, 4051

ö.-täki 294, 858, B925, H25R20; ö.-däki 890

ö.-täkisi H26V14

ö.-tin 3972, 4052, 4055, B505

ö.-üg 888, 916, 2173, 2195, 3657, B2038

ödün

「時間（に）」 uzun ödün 632, 828, 988, qayu tuγmïš uqïtmaz turqaru ödün ulalur「所發無表恆時相續」 H32R14; bir kalp ödün「一劫」H35V52

ödüt

「しばしば」 B1956; ödüt äšid-/äšidil- 「傳聞する」 2015, 2106, 2532, 2534

ödvi

「徹」 süzük ödvi-lig 「清徹」 4102, B1933, B1937, B1942, süzük ödvi-lig ördüklüg ördülmiš「清徹膜覆」 B1933

ög

「念」 bolmayu krgäk ög itdürmäk üzä inčip čxšapt sïtačïlar「應無失念而破戒者」 H29R12; türlüg ög turuq 「念住」 2451, 2464, 2467, 2469, 2475 qltï tayanmaq ärür ög turuq-ïnta ulatïlarqa 「謂依念住等」 H35R58

ö.-kä 19, H35V3

ö.-lüg 2519

ög-

「讃ずる」 basa inčip ög-är tngri burxanïng adïnqa asïγ qïlmaqlïγ ädgüsining büdügin 「次當讃佛利他德圓」 1088, ögä tükädmiš boldï tngri burxanïng ädgülärin 「已讃佛德」 1294, anïn ašnuča ög-üp ädgülärig 「故先讃德」 478; ög-külä-「稱揚する」 bilgälärkä ög-gülük külä-gülük üčün anïn adï bolmïš ol ädgu qïlïnč tep 「智者稱揚故名妙行」 H30V63

ö.-ä 188, 204, 218, 253, 352, 451, 453, 472, 1021, 1294, 1298, 2257, 2262

ö.-är 1088, 1296, 1297, 1581, 1582, 1583, 1584

ö.-gülük ö.-gülük külä-gülük 1204

ö.-mäk 131, 140, 148, 359, 1031, 1033, 1354

ö.-mäki 221, 251

ö.-mäkining 189

ö.-mäkning 140, 167, 176

ö.-mämiš 234

ö.-miš 156, 158, 160, 241, 489, 773, 1035, 1339

ö.-miši 2264

ö.-mišin 220, 231, 354

ö.-üp 126, 145, 190, 448, 478, 806, 1023, 1295

ögir-

ögir-miš sävin-miš 「歡喜した」 2168

ö.-ür H39R32

ögirttür-

ögirttür-täči sävintür-täči 「歡喜させるもの」 2152, 2157 küsämiš üčün kim köngüllärin ančaqya ögirtdür-gäli sävintür-gäli 「爲欲令心暫欣悅故」 H39V62

ögli

ädgü ögli「善友」「上親」 2733, 2734; ödgü ögli biliš bösük 「善知識」 1289, 1291 ašnuča baštïnqï ädgü ögli-sintä öritürlär turγururlar čïn kertü mängi bermäklig taplayïγ「先於上親發起眞誠與樂勝解」 H39R1; ayïγ ögli「邪習」1293; ögli ötiglä-「憶念する」 inčip uyur ögli ötiglä-gäli ol oruntaqï öngrä ažun taqï turmïš savlarïγ 「而能憶念彼地宿住事耶」 H28V60; ädgü ögli köngüllüg dyan「慈」 törtünč tïnlγlarta tüzütä bïšrunsar ädgü ögli köngüllüg dyan-ïγ tep ulatï 「四於有情普修慈等」 H35V47

ögrät-

「教える」

ö.-ip 864

ögrätig

「習い」 tüšüt ögrätig 「慣習」「串習」 835, 1006, 1012 azuča ymä tüšüt ögrädig qïlmaq uγrïnta bu kertgünč eyin yorïmaqta bütär üčün anïng tözi anïn atmïš ol kertgünč eyin yorïtačï tep 「或由串習此隨信行以成其性故名隨信行者」 H38V63; tüti tilämiš ögrätig「薰習」 tüdi tilämiš ögrädig-ning küči uγrïnta uγramïš ödtä tuγuryalï münüg qadaγïγ ödiglätüktä ötrü tüülur üčün 「由薰習力欲起過時憶便止故」 H29R1

ö.-inčä 210

ö.-ining tüšüt ö.-ining 993

ögrätin-

「習う」「學ぶ」 näčä näčä yogačarelar ančan ančan ögrädin-ip「如如行者漸習」 B899 näčä näčä tïläsär täginsär üküš türlüg ögrätin-gülük orunuγ「如如求受多種學處」 H30V8; ögrätin- bošγur-「學ぶ」; bïšrun- ögrätin- 「修習する」 yänä uqïdyalïr üčün ančan ančan käzigčä bïšrun-maq ögrädin-mäkning tuγmïšïn「又顯漸次修習生故」 B877; tüšütlän-ögrätin- 「慣習化する」; könisinčä öglänmäk 「正念」 könisinčä bilinmäk könisinčä öglänmäk-ig qavšursar atï bolur köngül ärkligig yïγïnmaq tep「正知正念合名意根律儀」 H31V10

ö.-däčilärkä bïšrun-dačï ö.-däčilärkä B554

ö.-gülük 2563; ö.-gülük bošγur-γuluq 2205, 2207, 2209, 2212, 2563

ö.-ip B899; bïšrun-up ö.-ip 864, H39R16

ö.-mäk bïšrun-maq ö.-mäk 829; tüšüdlän-mäk ö.-mäk 989

ö.-mäklig bïšrun-maq ö.-mäklig B2013

ö.-mäkning bïšrun-maq ö.-mäkning B877

ö.-miš 404, H33V30

ö.-ür H38V16

ögrünč

「喜」 yrlïqančučï ögrünčü köngülüg bïšrunmaqlïγ törüg bu yangča bilmiš krgäk 「修悲喜法准此應知」 H39R27; ädgülüg ögrünč 「德喜」(人名) 3377, cf. 3377 note; ögrünč ärklig 「喜根」 H37V61

ö.-üg uluγ ö.-üg sävinč-ig 「大歡喜を」 2167

ögüz

taluy ögüz 「海」 tuγup taluy ögüz-tä tägindi uluγ balïq ät'öz-in 「生於海中受大魚身」 2490

ö.-kä 11

ö.-tä 2490

ök

(強調の小詞 cf. oq) 55, 110, 124, 125, 135, 172, 175, 210, 223, 228, 230, 232, 243, 278, 330, 332, 361, 400, 401, 413, 513, 520, 522, 574, 585, 601, 608, 623, 630, 636, 642, 652, 653, 656, 662, 667, 684, 706, 717, 719, 721, 749, 755, 757, 788, 795, 796, 799, 801, 804, 809, 810, 812, 816, 821, 822, 829, 834, 856, 863, 864, 866, 930, 938, 942, 956, 979, 982, 983, 998, 1006, 1049, 1060, 1087, 1122, 1164, 1170, 1192, 1227, 1258, 1325, 1333, 1337, 1358, 1389, 1393, 1396, 1400, 1449, 1450, 1451, 1456, 1456, 1460, 1462, 1598, 1651, 1665, 1693, 1723, 1733, 1736,

1740, 1744, 1744, 1762, 1779, 1782, 1867, 1880, 1882, 1882, 1883, 1905, 1907, 1908, 1914, 1944, 1978, 1991, 2001, 2015, 2025, 2026, 2029, 2049, etc., B4, B73, B77, B78, B79, B116, B132, B134, B136, B145, B156, B178, B181, B188, B190, B198, B223, B230, B250, B268, B268, B286, B312, B325, B326, B328, B389, B396, B399, B406, B417, B440, B453, B459, B460, B513, B534, B536, B565, B571, B637, B642, B646, B666, B667, B673, B675, B738, B768, B780, B857, B914, B922, B927, B930, B961, B964, B965, B977, B979, B0670, B1028, B1063, B1080, B1091, B1119, B1123, B1124, B1128, B1136, B1147, B1154, B1155, B1160, B1189, B1191, B1219, B1235, B1249, B1283, B1283, B1284, etc. yintäm ... ök 「唯」 H27V14 yindäm sarvadyan tükäl bilgä biligkä ök bilgülük ärür 「唯一切智知」 938; ymä ök 「亦」 175, H25R54, H26R27, etc. anïn ymä ök adamïš ol koš tep 「故亦名藏」 1944, tuγmaduquγ öčä tükädmišig ymä ök umamïš täg tuγuryalï 「未起已滅亦不能生」 B1633; temin ök 「方に」 55, H26V52, etc. temin ök adï bolur üčün tayanmïš tep 「方名斷故」 B666, nom tuγa turur tušta iši kütüki temin ök ükliyür 「於法生位作用方興」 H26V59

ökünmäk

ökünmäk qïnanmaq 「悔い」 ol balïq köngülindä tuγurup ökünmäk qïnanmaq-ïγ 「其魚生悔」 2503

öl

「濕った」 öl ši-i ton 「濕衣」 2805, 2807, 2812

öl-

「死ぬ」「命終わる」 qarïmaq iglämäk öl-mäktä ulatï ada tudalïγ adruqlar üzä 「老病死等災横差別」 3885, munung tïldaγïnda öl-üp tuγdï tngri yerindä 「因茲命終生於天上」 2504, öl-mištä ken näčä bolsar ymä iišläšmäk tanqarmaqï inčip umaz tuγuryalï pratimokš čxšapt 「於命終後雖有要期而不能生別解脫戒」 H33R6; ölü ölgінčä(lig) 「盡壽」 H32V60, H33R5, H33R32 pratimokšasanvar ölü ölgінčälig ärür azuča künlük tünlük ymä tep 「別解脫律儀盡壽或晝夜」 H32V58

ö.-mäkig 2068

ö.-mäktä 3885

ö.-miš 920, B924, H28R54

ö.-üp 2504

ö.-ür 1179

ölänmäk

ölänmäk-kä tušγar- 「對向する」 1817, 1885, 1886, 1891, 1893, 1895, 1896, 1898, 1899, 1902 bu uyur üčün ölänmäk-kä tušγar-γalï azuča ymä uyur üčün körmäkkä tušγaryalï 「此能對向或能對觀」 1817

ölgäysük

「命終」 B925 qaltï ölgäysük-däki köngül ärür 「如命終心」 H39V19

ölüg

「死」 ölüg kiši 「死者」 B1922

ölümlüg

ölümlüg šmnu 「死魔」 525

ölür-

「殺す」「屠する」「命終わらせる」 birök sanvarta turmïšlar yeg adruq nizvanïlarnïng uyrïnta qïlsar ölür-mäk bamaqta ulatï alqu ayïγ qïlïnčlarïγ 「若住律儀由勝煩惱作殺縛等諸不善業」 H32R9, tukäl tïtïlïp ölür-mäk käyiklämäk tuza qlamaq oγrïlamaqtïn tïnlγlar 「具制屠獵姦盜有情」 H33V27; ölüt ölür-mäk 「殺生」 H30V39; özlüg ölür-mäk 「殺生」 qaltï özlüg ölür-mäk-tin öngi üdrulmäk ulatï äzüg amraq savtïn öngi üdrülmäk ärür 「謂離殺生至虛誑語」 H33V43

ö.-gäli H35R2

ölüt

「殺」 H30V33,39 üč tört ygrminč sanvarlarta tükäl bolur üč ölüt-tin öngi üdrülmäk 「三律儀中具三離殺」 H30V1

ö.-tä H30V11, H33V60

ö.-tin H33V58

öng

「色」 599, 615, 926, 929, 930, 1621, 1743, 1754, 1756, 2636, 2636, 2862, 2867, 2878, 2939, 2945, 2990, 2990, 3094, 3199, 3201, 3202, 3206, 3207, 3211, 3624, 3635, 3637, 3639, 3702, 3882, 4091, 4398, B26, B294, B383, B401, B416, B417, B439, B456, B534, B535, B623, B641, B653, B656, B671, B672, B811, B977, B991, B1007, B1022, B1023, B1028, B1040, B1065, B1068, B1127, B1197, B1202, B1205, B1247, B1247, B1418, B1419, B1420, B1428, B1467, B1471, B1488, B1539, B1644, B1645, B1684, B1685, B1837, B1866, B1923, B1977, B2032, B2068, B2073, B2078, B2079, B2085, B2090, B2116, B2117, B2157, B2159, B2164, B2166, B2168, B2170, B2202, B2204, B2211, B2215, B2228, B2256, B2258, B2263, B2269, B2272, B2287, B2290, B2292, B2309, B2313, B2316, B2344, B2345, B2352, B2367, B2368, B2369, B2376, B2378, B2381, B2382, B2383, B2384, B2392, B2395, B2399, B2404 öng körmädin ängrä amtï ken öčdäčisi 「不見色已正當滅」 B401, öng odyuraq körmäktä taryaryuluq ärmäz 「色定非見斷」 B811; öng atqanyu 「色境」 599, etc.; öng nom 「色法」 615, H25R34, etc.; öng yükmäk 「色蘊」 926, etc.; öng uyuš 「色界」 416, etc.～ öng-lüg uyuš H25R30; öng-süz uyuš 「無色界」 1267, etc.; öng-lüg nom 「有色法」 846, etc.; öng-süz nom 「無色法」 847, etc.

ö.-i 1745, B2216

ö.-in B383

ö.-kä 2941

ö.-lär 3158, 3160, 3208, B886, B891, B896, B2218, B2311, B2379, B2379, B2382, B2384, H25R33

ö.-läri B1485

ö.-lärig 3160, B961, B972, B973, B997, B999, B1011, B1168, B1173, B1181, B1191, B1443, B1506, B1512, B1555, B1614, B1615, B2219, B2246, B2282, B2283, B2296, B2299, B2365

ö.-lärning 1768, B812, B881

ö.-lärtä 3149, 4091, B704, B712, B1174, B1177, B1546

ö.-lüg 1267, 1268, 1720, 1728, 3179, 3186, 3193, 3197, 4375, B532, B846, B857

ö.-li 1758, 1760, B735, B2253, B2266, B2351, B2373

ö.-nüng 1621, B33, B437, B444, B457, B477, B810, B1472, B2310, B2314, H25R29

ö.-süz 1267, 1268, 1625, 1721, 1726, 1728, 3174, 4375, B847, B855, B2346

ö.-süzlärdä 1749

ö.-süztä 1626, B705, B713

ö-tä 1613, 1640, 1768, 2682, 3624, 3657, B22, B115, B133, B284, B684, B719, B1385, B2045, B2097, B2241; öngdä 3632, 3752, 3844, 3879, 3881, 3887, 3891, 3892, 3894, 3896, 3904, 3905, 3907, 4324, H25R26

ö.-üg 3202, 3206, 3634, 3671, 3674, 3695, 4416, B365, B852, B977, B1008, B1062, B1063, B1092, B1207, B1213, B1222, B1226, B1227, B1340, B1342, B1364, B1852, B1936, B1940, B2092, B2238, B2249, B2252, B2255, B2258, B2262, B2265, B2268, B2271, B2274, B2279, B2286, B2289, B2291, B2294, B2320, B2326, B2327, B2354, B2355, B2356, B2357, B2380, B2385, B2394, H25R36

öngdün

「前」「先」「東」 162, 702, 1090, 1577, 1699, 2088, 2247, 2320, 2342, 2507, 2535, 2586, 2654, 2835, 2915, 2953, 2973, 3011, 3019, 3047, 3235, 3257, 3278, 3462, 3578, 3581, 3591, 3594, 3612, 3868, 4141, 4163, 4186, 4187, 4199, 4261, 4300, 4310, 4315, 4317, 4445, 4550, 4580, B31, B108, B113, B242, B246, B354, B357, B419, B463, B598, B781, B798, B803, B814, B850, B1221, B1289, B1375, B1380, B1733, B1744, B1862, B1873, B1878,

B1906, B2002, B2115, B2126, B2401, B2425 näčä öngdün sözläyü tükätsär ymä 「雖前已説」 4315, munda köznüng tözi qaltï öngdün sözläyü tükädmiš täg 「此中眼相如前已説」 B850, nätäg ärsär öngdün bulung yïngaqtaqïsï küntin ketin taytïn bulung yïngaqtaqïsï ymä ök yänä ančulayu oq ärür 「南西北方亦復如是」 H27V29; öngdün ušaqčï 「先兆」 tïnlylarnïng ät'özintä bar kälmädük ödki tüšnüng tïltaylïγ öngdün ušaqčï-sï ärür 「有情身内有未來世果因先兆」 H25V59

ö.-i 2565

ö.-süz H25V30

öngdünki

「前にある（もの）」「先にある（もの）」 300, 358, 579, 583, 653, 952, 992, 1055, 1109, 1303, 1759, 1927, 2155, 2346, 2479, 2537, 2538, 2539, 2540, 2579, 2909, 3272, 3276, 3342, 3455, 3512, 3742, 3876, 3912, 4070, 4079, 4265, B7, B13, B235, B236, B330, B334, B567, B654, B796, B800, B947, B991, B1179, B1244, B1344, B1356, B1548, B1597, B1684, B1856, B1884, B1893, B2028, B2041, B2038, B2044, B2052, B2055, B2059, B2065, B2251, B2264, B2297 ulatï öngdünki bölüklügi tarïqu tükätdüktä 「及前品已斷」 3276, öngdünki uqïdyučï tïldayïngïzlar 「前所立因」 B1548

ö.-kisingä 1092

ö.-si 1786, 2558, H25V2

ö.-sin 3494, 3509

ö.-sindä 3600

öngi

「異」 45, 65, 93, 118, 187, 274, 299, 532, 591, 616, 792, 811, 948, 968, 981, 984, 1003, 1123, 1137, 1164, 1172, 1193, 1257, 1292, 1293, 1443, 1459, 1460, 1462, 1463, 1468, 1473, 1641, 1642, 1653, 1753, 1755, 1768, 1769, 1780, 1830, 1977, 2037, 2041, 2044, 2050, 2052, 2071, 2095, 2194, 2301, 2398, 2421, 2537, 2538, 2564, 2569, 2581, 2594, 2663, 2674, 2680, 2688, 2691, 2694, 2698, 2699, 2701, 2703, 2704, 2804, 2875, 2935, 2943, 2952, 2973, 2974, 2987, 3005, 3046, 3047, 3106, 3130, 3213, 3215, 3215, 3217, 3220, 3221, 3223, 3224, 3231, 3236, 3240, 3241, 3241, 3243, 3247, 3249, 3249, 3260, 3263, 3264, 3277, 3280, 3283, 3285, 3287, 3289, 3295, 3299, 3300, 3302, 3357, 3364, 3370, 3374, 3375, 3398, 3477, 3523, 3545, 3570, 3571, 3573, 3575, 3600, 3613, 3721, 3725, 3753, 3781, 3806, 3849, 3869, 3876, 3915, 3916, 3947, 3953, 3971, 4052, 4055, 4125, 4127, 4129, 4131, 4135, 4136, 4137, 4139, 4165, 4182, 4186, 4187, 4264, 4271, 4312, 4316, 4358, 4360, 4364, 4473, 4480, 4516, B28, B62, B87, B89, B90, B92, B162, B257, B267, B268, B268, B317, B320, B322, B327, B331, B575, B576, B583, B584, B630, B634, B668, B677, B678, B678, B689, B702, B710, B714, B718, B733, B737, B740, B756, B779, B792, B732, B863, B885, B902, B916, B976, B1008, B1019, B1035, B1051, B1067, B1073, B1091, B1293, B1303, B1372, B1401, B1401, B1402, B1411, B1447, B1470, B1575, B1679, B1688, B1699, B1705, B1725, B1786, B1861, B1863, B1866, B1920, B1946, B2037, B2043, B2229, B2234, B2239, B2242, B2280, B2321, B2336, B2337, B2339

öngi üdrültür-「離す」「除く」 45, H27V38, etc. öngi üdrültür-däčisi ärür osal sïmdaγ bolmaqlïγ ayïγ yoriqtïn 「離放逸惡效行」 1292; bayγ-tïn öngi üdrül-mäk 「離繫」 3213; titip öngi üdrül-「捨離する」 B92, etc. odyuraq tidip öngi üdrül-ür üčün tayandačï tözin 「必定捨離能依性故」 B90; öngi ketär-「除く」 1830, etc. yoluγ öngi kedär-ip adïn ediglig nomlar ärür 「除道諦餘有爲法」 2594

altï tïltaγlarta öngi ketär-ip ärksinmä tïltaγïγ 「於六因内除能作因」 H25R18; -ta/-tä öngi 「・・よりほか、異なって、離れて」 274, etc. öčmäkning bululmaqï öngdünkisindä öngi üčün 「得滅異前」 3600, qaltï nomuγ adïrtlamaq-ta öngi 「若離擇法」 2037; -ta/-tä taš öngi 「・・よりほか」 792, etc. köngül-tä öngi nom 「心不相應法」 616, etc.; adïrt öngi 「差別」 2409, etc. atïrd öngi tïldaγ basudčïlarïγ bolmaz üčün bulyalï 「差別因緣不可

得故」B62; öngi bïšmaq「異熟 3575, H28V8, etc.; öngi uγušluγ「異類」87, H25R57, etc.
ö.-si 2409, 2409, B2246
ö.-sin 1995, 3245, B153, B392, B531
ö.-siz 97
ö.-tä B1705, B2214

öngin
öngin öngin「各々」「各」 1732, 1733, 3311, 3318, 3321, 3553, B275, B348, B370, B378, B709, B963, B1037, B1429, B1679, B1993, B2239, H26V36 ～ öngin 々 1648, 1651, 1662, 2422, 2505, 2821, 3214, 3553 ärkliglärning adqanγularnïng öngin öngin birär parmanusï tayaq adqaγ bolup 「根境各一極微爲所依緣」 B1993, baγ boldačï ädi eyin öngin 々 adïrïlur 「隨繫事各別」 3553

öngrä
「以前」「昔」「已」「本」「曾」 382, 904, 993, 1394, 1728, 2015, 2485, 3949, 3963, 3979, 3983, 4094, 4095, 4095, 4097, 4098, 4103, 4122, B297, B313, B315, B401, B412 öng körmädin öngrä amtï ken öčdačisi 「不見色已正當滅」 B401, qaltï öngrä bar ärti kiši 「如昔有一人」 904, qaltï kišilärning saqïnč bodulmaqqï ärür yeg soγančïγ višaylar öngrä-ki täg ök turur ärip yertinčütä 「眞欲謂人分別貪妙境如本住世間」 H27R27, äzrua quvrayï qayu orunta öngrä körti äzrualar eligin 「梵衆何處曾見梵王」 H28V56; öngrä ažuntaqï 「前生」 1394; öngrä tïlday 「宿因」 382 ～ öngrä-ki ažuntaqï tïlday 2502; öngrä yorïmïš 「已行」 3949
ö.-ki 332, 2502

öngsirä-
ong- öngsirä- 「色あせる」 alqu ärkligläri ongup öngsiräp 1187

örgün
「王座」 včrasan örgün-tä 「金剛王座に」 639

örgür-
「生起する」
ö.-mätin 3643, 3645

örit-
「起こす」「上らせる」「發する」 qayu örit-miš ridi bögülänmäk üzä täk uyur barïp täggäli öz tuγγuluq uγušï äzrua yertinčüsingä adïnqa ärmäz 「所發神通但能往至自所生界梵世非餘」 H27V41
ö.-gäli 121, 1268, H29R54
ö.-gülük 3437
ö.-ip 1026, 3851, H29V52
ö.-mäz B598
ö.-miš 644
ö.-tüktä B737, B740, B779, B792
ö.-zün 3443
ö.-zünlär 198, 255

örlät-
qurultur- örlät- 「損惱させる」「惱亂させる」; örlät- ämgät- 「損害する」
ö.-gäli qurultur-γalï ö.-gäli 4504
ö.-mäki qurultur-maq ö.-mäki 2794
ö.-mäkig qurultur-maq ö.-mäkig 2783, 2785
ö.-mämäk qurultur-mamaq ö.-mämäk 2780
ö.-miš qurultur-mïš ö.-miš 3757
ö.-täči ö.-täči ämgät-täči B2132; qurultur-tačï ö.-däči 2788, 2789, 2796, 3751, 4506, B2153, B2155
ö.-ür qurultur-ur ö.-ür 4398, 4401

örlätil-
sïqïl- örlätil- 「苦しむ」; qurul- örlätil- 「惱亂する」; täprätil- sačïl- örlätil- 「動亂する」 öz oruntaqï yeg soγančïγ mängi üzä täprätil-gülük sačïl-γuluq örlätil-gülük bolmïš üčün 「自地妙樂所動亂故」 H39V59
ö.-mäkig sïqïl-maq ö.-mäkig 1188
ö.-miš qurul-mïš ö.-mš 4399
ö.-ür qurul-ur ö.-ür B2134

ört-

「覆う」「掩う」 alqu barča umaz üčün tüzü örd-gäli tïdyalï 「一切不能遍覆障故」 3180, örd-miš kölidmišintä kün tngri tilgänin「掩蔽日輪」 B889

ö.-däči 3104

ö.-gäli 606, 3180, 3187, 4197

ö.-mäk 3197, H25R52

ö.-mäklig 3193

ö.-mämäklig 3193, 3197

ö.-miš B889

örtä-

「燒く」 qaltï örtä-düktä tuturqan sapïlïγ uluγ yükmäkig kül bolmïštaqïsï ärür 「如燒稻稈大聚爲灰」 H25R47

ö.-p 843

örtüg

「覆い」「膜」 süzük ödvilig ärdüg-lüg ördülmiš 「清徹膜覆」 B1933, alqu ördüg-süz yrlïγsïz bilgä biligtä ulatïlar alqu körüm ärmäz 「一切無覆無記慧等悉皆非見」 B911, örtüg-lüg ulatï örtüg-süz-nüng yintäm tükällig bolur közünür ödkisinčä「有覆及無覆唯成就現在」 H32R21,22

ö.-lüg 「有覆」 4358, B1933, H29V46

ö.-süz 「無覆」 4361, B581, B624, B629, B638, B910, H27V48,61

örtül-

「覆われる」 süzük ödvilig ördüglüg ördül-miš 「清徹膜覆」 B1933; örtül- köšitil-「映蔽される」 munda tïldayï tüši üzä ördül-gülük köšidil-gülük bolmaq tep yörüg'ol「是因爲果所映蔽義」 4199; örtül- kizläl-「隱される」 inčä qaltï alqu qamaγ altun tašlarïnïng arasïnta čïn altun ördül-üp kizläl-ip turmïš「猶如諸礦中眞金隱茲住」 914

ö.-gülük ö.-gülük köšitil-gülük 4199

ö.-miš B1933; ö.-miš köšitil-miš B1935

ö.-üp ö.-üp kizläl-ip 914

örüg

örüg uzatï 「常に」 984

ösgän

ösgän yaγmur 「甘雨」 1271

öt

「教え」 1306, 1307; öt ärig 「教化」; öt ärig ber- 「教授する」 1305, 1371, 1490

ö.-i ö.-i ärig-i 「教化」 239

ö.-ingä ö.-ingä ärig-ingä 350

ötgür-

「了達する」「達する」 kimlär bir nomuγ ödgür-mäsär bil-mäsär 「若於一法未達未知」 2047; bil- ötgür-「了達する」 širavakta ulatïlarnïng bilgä biligi barčanï bil-mäz ödgür-mäz 「聲聞等智皆不了達」 940, H25V43; tanuqla-ötgür-「證明する」; ötgür- topul-「説明する」

ö.-gäli 2061; tanuqla-yalï ö.-gäli 893; bil-gäli ö.-gäli 972

ö.-mäsär 2047

ö.-mätin 3476

ö.-mäz bil-mäz ö.-mäz 940

ö.-sär ö.-sär topul-sar 4248

ötiglä-

「憶う」 tüti tilämiš ögrätigning küči uγrïnta uγramïš ödtä tuγuryalï münüg qadaγïγ ötiglä-tüktä ötrü tïtïlur üčün 「由熏習力欲起過時憶便止故」 H29R3; ötiglä-mäk ö-mäk 「憶念」 angayu tayaq ät'öztä bolmaz üčün tavranmaqï bolmaz üčün ötiglä-mäk ö-mäki 「別依身中無加行故無憶念故」 H33R9

ö.-p H29R6

ötlä-

「教える」「勸める」 bululur adïn ötlä-tačining

ulatï uyrïnta 「得由他教等」 H32V14; ötlä-äriglä- 「教える」「教化する」「教誡する」
ödlä-täči äriglä-däči üčün bošyudčï tïdsïlarïγ 「教誡學徒故」 1546 tngri burxan ödlä-miš äriglä-miš üčün tayanïnglar nomqa tayanmanglar kišikä tep 「佛教依法不依人故」 1989; ötlä-p äriglä-p ozyur- qutyar- 「化度」 H27V18; ödl-ämäk üzäki tilgän 「説法輪」 1456
ö.-mäk 1456; ö.-mäk äriglä-mäk 1384, 1449, 1562
ö.-mäki 2374
ö.-mämiš 1349, 2267
ö.-mäz 1349, 1350
ö.-miš 2268, 2323, 2359, 2375; ö.-miš äriglä-miš 100, 1277, 1989
ö.-p ö.-p äriglä-p 1389
ö.-täči ö.-täči äriglä-däči 302, 1306, 1372, 1546, 1565; ö.-däči äriglä-däči 1558
ö.-yin 4221
ö.-yür ö.-yür äriglä-yür 303

ötlän-
ö.-täči 1490, see ötlä-

ötrü
「則ち」「即ち」「便ち」 ödrü 117, 121, 124, 129, 163, 165, 168, 215, 237, 239, 307, 308, 313, 315, 504, 581, 740, 784, 826, 997, 1196, 1405, 1437, 1500, 1501, 2019, 2191, 2250, 2408, 2627, 2630, 2703, 2732, 2735, 2813, 2855, 2886, 3058, 3061, 3107, 3151, 3237, 3404, 3414, 3450, 3451, 3452, 3454, 3541, 3689, 3714, 3761, 3906, 4014, 4029, 4051, 4051, 4107, 4293, 4293, 4456, 4486, 4487, 4556, 4563, B26, B102, B204, B215, B225, B229, B249, B259, B269, B273, B311, B323, B336, B397, B443, B455, B464, B599, B603, B647, B691, B701, B818, B820, B824, B866, B0670, B1902, B1035, B1040, B1078, B1081, B1090, B1104, B1122, B1143, B1145, B1209, B1227, B1229, B1267, B1277, B1328, B1339, B1366, B1367, B1395, B1456, B1457, B1474, B1476, B1483, B1502, B1505, B1510, B1544, B1600, B1644, B1671, B1682, B1687, B1714, B1735, B1736, B1741, B1752, B1799, B1814, B1815, B1818, B1819, B1842, B1859, B1862, B1868, B1921, B1931, B1965, B2106, B2106, B2111, B2112, B2138, B2142, B2147, B2150, B2154, B2156, B2166, B2170, B2184, B2196, B2202, B2223, B2233, ötrü B16, B1267, B1612, H25V41 bïšrunmaq adïn yörüngäkin ödrü išsiz bolur 「修餘對治則爲無用」 3404, bu savlar ödrü bolmaz 「此事則無」 B1457, ödrü yüüz yügärü közünür iki ay tängritä ulatïlar 「便於現前見二月等」 B1456, ün ödrü anday ärmäz 「聲即不爾」 B1682

ötün-
「申し上げる」 ayït- ötün-～ ötün- ayït- 「請問する」 bošuyur män säning ödün-güngin ayïd-γungïn 「恣汝請問」 1676
ö.-gäli ayït-γalï ö.-gäli 1140
ö.-güngin ö.-güngin ayït-γungïn 1676
ö.-güsin ö.-güsin ayït-γusïn 1674, 1677, 1679, 1680
ö.-ti 4219

övkä
「瞋」「恚」 114, 882, 1500, 1501, 4236, B913, H33V58 qaltï az övkä küvänč qamaγlïγsïz bilïgsiz sezik birlä tuγmïš bilgä biliglär ärür 「謂貪瞋慢不共無明疑俱生慧」 B913, ymä ök övkä qošulγuluq bolur mu 「恚結繫耶」 4236
ö.-g 2868
ö.-tä 783

öz
「自ら」 13, 67, 77, 79, 143, 260, 345, 346, 347, 349, 351, 354, 356, 357, 361, 368, 368, 369, 370, 370, 371, 371, 372, 373, 374, 376, 377, 381, 390, 393, 400, 401, 402, 403, 405, 407, 409, 476, 667, 1041, 1053, 1061, 1069, 1183, 1195, 1436, 1604, 1620, 1657, 1708, 1814, 1823, 1824, 1867, 1869, 1871, 1871, 1871, 1878, 2295, 2299, 2300, 2505, 2748, 2749, 2775, 2887, 3321, 3577, 3577, 3580, 3792, 3792, 3799, 3803, 3867, 4216, 4218, 4223, 4224, 4226,

4227, 4228, 4229, 4254, 4259, 4260, 4261, 4262, 4274, 4289, 4410, B68, B70, B71, B173, B174, B176, B188, B190, B262, B263, B279, B296, B317, B318, B326, B326, B331, B340, B344, B350, B350, B370, B371, B378, B379, B426, B450, B479, B682, B695, B697, B780, B846, B900, B979, B984, B1059, B1081, B1140, B1306, B1306, B1309, B1352, B1648, B1655, B2110, B2111, B2114, B2204, B2236, B2244, B2245, B2248, B2282, B2303, B2305, B2307, B2310, B2315, B2319, B2325, B2326, B2331, B2334, B2343, B2369, B2377, B2379, B2380, B2380, B2381, B2387, B2393, B2409, B2411, B2415, H25R59 arxantlar käntü öz-lärin viyakirt qïlu sözlämišlär 「阿羅漢自記別言」 B611, köngülnüng arïdï buluduqmaz ödi yorïmayuluq öz adqanyusïnta 「心曾無有時不行自境」 B71; öz baxšï 「自師」 13, etc.; öz taplay 「自宗」 B262, etc.; öz atqanyu 「自境」 B70, etc.; öz orun 「自地」 B2236, etc.; öz-kä asïy qïlmaq 「自利」 86, etc.; käntü öz 「自身、自己」 235, etc.; öz bölük 「自分」 3577, etc.; öz töz 「自相」 260, etc.～「自體」 4216, H25V6, etc.～「自性」 B695, etc.; öz uyuš 「自類」 H25V11; tärs öz eltinmäklig ačvaki tirti 「邪命外道」 H27R29; isig öz 「命」 isig öz-üm üzülginčä odyuraq täginürmn ayïy čxšaptïy 「命終定受惡戒」 H33R40; öz yaš(-ï) 「壽命」 ang'ilki öz yaš-ï učï qïtïyï 「一壽命邊際」 H32V65, biz öngrä körtümüz muntay osuyluy tïnlylarnïng uzun öz-lüg-in yaš-lïy-ïn ür kеč turmïšïn 「我等曾見如是有情長壽久住」 H28V51; öz-lüglär 「具壽」 öz-lüglär-ä kimlärning tamuluy qïltačï alqu aqïylarï yüüz yügärü bolmïš üčün 「具壽。若有地獄諸漏現前故・・」 H28R23; öz-in 「自然に」 ang'ilki öz-in ök uyrïnta qaltï burxanlarnïng pratikabutlarnïng ärür 「一由自然。謂佛獨覺。」 H32V37; öz-lüg ölür- 「殺生する」 see ölür-; öz igidmäk 「不活」 see igid-

ö.-i 235, 243, 867, 1026, 1081, 1082, 1084, 1154, 1252, 1525, 2021, 2163, 2163, 2578, 3127, 3127, 3128, 3129, 3459, 3488, 3500, 3514, B329, B1652, B1690

ö.-in 124, 125, 520, 522, 667, 706, 809, 810, 886, 3716, 3719, 3719, 3726, 3762, 4286, 4286, B319, B320

ö.-ingä 2733

ö.-ining 251, 920, 1036, 1670

ö.-kä 86, 107, 371, 441, 444, 567, 570, 579, 584, 778, 782, 784, 814, 1021, 1023, 1025, 1028, 1047, 1065, 1076, 1087, 1090, 1193, 1197, 1297, B1099

ö.-lär B424

ö.-lärі 1064, 1073, 1139, 1256, 1466, 1972

ö.-lärin B611

ö.-läringä 397, 2380

ö.-lärining 267, 1049, 1055, 1069, 1246, 1261

ö.-li 572, 577, 1075, 1085, 1304, 1426, 1429, 3795, 3796, 4423, 4427, 4430, B2167, B2171, B2172, B2296, B2298, B2299, B2301, B2308, B2312, B2319, B2322, B2323, B2325, B2334, B2334, B2354, B2392, B2393, B2394

ö.-nüng 370, 567

ö.-üg 4431

ö.-üm 2159, 2161

ö.-üngüzlärning B1312, B1313

özän

「芯」 qamïš özän-i 「蘆の芯」 B1946

P

padak

< Skt. pādaka 「句」 538, 581, 1458, 1753, 2100, 2923, 3493, 3494, 3506, 3767, 3774, 3812, 3834, 3856, 3861, 3912, 3913, 4528, B2028, B2043, B2051, B2055, B2056, B2059, H26R44,57 ikigükä birlä tükällig ärmäz padak-larïy eyin yarayïnča inčip bilmiš krgäk 「俱成非句如應當知」 H32V8, basaqï bir padak üzä tügär öngdünkisin kenki padak üzä ündürür oxšadï bolmaq oxšašmaqlïy yörügüg 3493, 3494; tört padak 「四句」 538, 3767, 3774, 3778, 4141, 4143, 4145, B2028, B2051, H26R41, H31R56,

etc. nomta bululγuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi tört padak qïlmïš kärgäk 「於法得滅應作四句」 3767; ikägü birlä ärmäz padak 「俱非句」 2043
p.-lar 2096, 2924, 3491, 3492, 3495, 3498, 3778, 4268, B2028, B2053
p.-larïnïng 297
p.-larqa 4143
p.-larta 1528, 3500, 4141, 4143, B1693, B2044
p.-lartaqï 4145
p.-nïng 4295, 4296
p.-ta 584, 2102, 3508, 3509
p.-taqï 579, 2097, 2920

pančadeš
「西方」 (< Skt. paścā-deśa ?) pančadeš-lïγ alqu baxšïlar sözlär beš türlüg bolur tep 「西方諸師說有五種」 B384 cf. Skt. pāścātya

paramit
< Skt. pāramitā 「波羅蜜」; altï paramit-lar 「六波羅蜜」 387; buši paramit 「施波羅蜜」 456; čxšapt paramit 「戒波羅蜜」 457; dyan paramit 「定波羅蜜」 457, 465, 466; bilgä bilig paramit 「慧波羅蜜」 458; särinmäk paramit 「忍波羅蜜」 463
p.-lar 461
p.-larta 387

parmanu
< Skt. paramāṇu 「極微」「微」 3033, 3115, 3122, B1739, B1748, B1756, B1765, B1772, B1773, B1794, B1795, B1822, B1826, B1858, B1862, B1864, B2000, B1513, (p'rm"nw) birök sözläsär alqu parmanu-larnïng büdün yoq ärip ooqï yïqï inčip bir ikintikä qadïlïšmaz tep 「若說諸微全無間隙然不相雜」 B1846, yänä parmanu-ta öngi yoq qadïlmïš qavïšmïš öng 「又離極微無和合色」 B1866, nä üčün ärkliglärning adqanγularnïng öngin öngin birär parmanu-sï tayaq adqaγ bolup tuγurmaz ät'öz biligin 「以無根境各一極微爲所依緣能發身識」 B1993; yeg yarmïštaqï parmanu 「隙塵」 B1805
p.-γ B1742, B1744, B1774, B1777, B1857, B1870
p.-lar B1867
p.-larnïng B1825, B1835, B1846, B1851
p.-larta B1861
p.-luγ B1798, B1799, B1800, B1802
p.-luγï B1797
p.-nung B1739, B1740, B1788, B1829, B1871, B1876, B1878, B1882
p.-sï B1729, B1730, B1896, B1897, B1898, B1900, B1945, B1948, B1950, B1953, B1959, B1967, B1993, B2110
p.-sïnïng B1888, B1889, B1896, B1899, B1907, B1909, B1910
p.-sïnga B1616
p.-ta 3115, 3122, B1805, B1863, B1866

parmanu-qya
「極微」 ikin ara sïγmïšï bir parmanu-qya tïdïγ qïldačï B1731

partakčan
< Skt. pṛthagjana 「凡夫」「異生」 837, 988, 993, 4397, 4503, B590, B596, B600, B602, B624, B630, B632, B634, B643, B646, B648, B651, B655, B727, B738, B744, B766, B770, B774, B780, B785, B789, B805, B815, B816, B819, B822, B828, B874 qaltï pardakčan-larta tüšmädäči törü-lügi täg 「如異生中不墮法者」 B106, bu pardakčan töz-i ulatï ayïγ ažunuγ tardtačï ät'öztäki tiltäki qïlïnčta ulatïlar 「異生性及招惡趣身語業等」 B590; midik partakčan 「凡夫」 542, 745, 4476
p.-lar 542
p.-larnïng 4476
p.-larnïngïn 4409
p.-larta B106, B208, B227, B230
p.-ta 745

pïn
< Chin. 本 see pun

pirakaranapad ～ prakaranapd ～ parakarnapd
pirakaranapad šastr < Skt. prakaraṇapādaśāstra 「品類足論」 3988, 4012, 4022, 4029, 4230, 4238, 4256, B964, prakaranapt šastr 2108, birök anday ärmäsär qaršï bolyu kärgäk pirakaranapat šasdr-ta sözlägüčikä 「若不爾者應違品類足論所說」 3988, parakarnapd šastir-ïy inčip nätäg uduzyuluq ol 「品類足論當云何通」 H28R31

pirakaranasikandak
< Skt. prakaraṇaskandhaka 「雜蘊」
p.-ta 2138

pirapti ～ prapti
< Skt. prāpti 「得」「至得」 709, 710, 711, 2695, 2697, 2697, 2699, 3301, 3302, 3357, 3364, 3364, B710, H38R58,59,67 pirapdi nomïnga tayaqlïyïn turur nomsuz turmaz 711, yöründäki tuymïš ödtä anïng pirapdi-sïn taryarsar adamïš ol öz tözin taryarmïš tep 「對治生時於彼得斷名自性斷」 B697, nizvanïlarnïng prapti-sïn taryaryïnča yoq üčün tïdtačï tutdačïsï bolmamaqïn tuta anïn bilgä bilig ärür qutrulmaq yol üzä 「約斷惑得無能隔礙故智是解脫道」 H38R55
p.-y B715, B732, B738, B741, B779, B793
p.-nïng 3802
p.-qa B702
p.-sï 710, 712, 2691, 3263, 3265, 3301, 3303, 3807, 3808, B645; prapdi-sï 1767
p.-sïn 3141, 3265, 3266, 3324, 3440, 3794, 3798, 3800, 3802, 3804, 3810, B644, B697, B791
p.-sïnga B596, B776
p.-sïnïng 3278, 3281

piratapan
< Skt. pratāpana 「大熱」 piradapan tamu 「熱地獄」 B1983

piratikabud ～ pratikabud
< Skt. pratyeka-buddha 「獨覺」 866, 868, 1284, H32V38 širavaklar piradikabud-lar näčä taryarsarlar ymä alqu qarangyu qararïylarïy 「聲聞獨覺雖滅諸冥」 855, širavaklarnïng pratikabud-larnïng bilgä biligi üzä nä ymä bilgäli umayuluq ärür 「聲聞獨覺不能知」 902, kadgi višanakalpaki pratikabud-larnïng bolur müni qadayï alyuluq 「麟喻獨覺有失可取」 H39R25
cf. kadgi-višanakal-pake
p.-lar 747, 799, 855; pradikabud-lar 539, 870, 949
p.-larnïng 592; pradikabud-larnïng 873, 902, 1000, 1018, 1348, 1349
p.-larqa 821
p.-larta 958

pitak
< Skt. piṭaka 「藏」; kušudira pitak 「雜藏」 2435, 2437, 2439, 2508, cf. kušudira
p.-ïy kušdïra p.-ïy 2434, 2446, 2447, 2461
p.-ta kušdïra p.-ta 2460, 2514

prantakotik
< Skt. prānta-koṭika 「邊際」 prandakotik dyan 「邊際定」 2456

pratimokš
< Skt. prātimokṣa 「別解」「別解脫」 H30R15, H31V22 yintäm ang bašlayuqï kšantaqï uqïtur ulatï uqïtmaz bulmïš ol pradimokš ulatï qïlïnč yolï tegüči adïy 「唯初剎那表及無表得別解脫及業道名」 H31R10; pratimokš sudur 「別解脫經」 2274, 2274, 2277; pratimokš čxšapt H31R29
p.-qa 2269, 2271
p.-ta H31V30
p.-uy 2271

pratimokša (see pratimokš)
H30V57, H31R18,20 angbašlayu angayu titdürmäklig yörügkä tayaqlïyïn uqïtmïš ol pradimokša tep ad üzä 「依初別捨義立別解脫名」 H31R15; pratimokša sanvar 「別解脫律儀」 (< Skt.

prātimokṣa-saṃvara) H30R17,26,31, H31R27
yintäm bu tört türlüg pratimokša sanvar-lar barča čïn kertü töz üzä bar tözläri 「唯此四種別解律儀皆有體實」 H30R35; pradimokša čxšapt 「別解脱戒」(prātimokṣa-saṃvara) H33R7 pradimokša čxšapt-nïng yumtaru angbašlayuqï kenki tuštaqïsïnïng yoq adïrt öngi atï 「別解脱戒通初後位無差別名」 H31R8
p. čxšapt-ïn H32V61
p. sanvar-ïγ H32V55
p. sanvar-nïng H30V54
p. sanvar-ta H31V37

pratniyapti
< Skt. prajñapti 「施説」「執説」 2458, 2467

pratniyaptipad
pratniyapdipad šastir < Skt. prajñaptipāda śāstra 「施設足論」 2112 pratniyaptipad šastir-ta muntaγ tep sözlämiš ol 「施設足論作如是説」 H28R2

praxansanvar
< Skt. prahāṇa-saṃvara 「斷律儀」「斷」 H31R48,55 ančulayu oq azuča ymä bar anasiravasanvar bolup praxansanvar bolmadačï 「如是或有無漏律儀非斷律儀」 H31R65, tägi tägmäz tayaq dyantaqï toquz oqsuz yol birlä birlä tuγdačï ikigününg adï bolur prxanasanvar tep 「未至九無間俱生二名斷」 H31R51

pret
< Skt. preta 「鬼」 H28R9,14 qaltï öngdün sözlägüči tamu yïlqï pret ulatï yalnguq tngri bularnïng adï bolur beš ažunlar tep 「謂前所説地獄傍生鬼及人天是名五趣」 H27V52

pudgale
< Skt. pudgala 「個人」「補特伽羅」 4117, tïdyalïr üčün čïnkertü barïn alqu ažunlarqa bardačï pudgale-nïng anïn muntaγ tep sözlämiš ol 「爲遮實有能往諸趣補特伽羅故作是説」 H28V5

pun
< Chin.本 änätkäkčä pun-ïndaqï yangča ärsär 「准梵本」 3039

purne
< Skt. pūrṇa 「富樓那」 purne arxant 「富樓那阿羅漢」 2116

Q

qa
qa qadaš 「家族」 yerdinčütäki kišilär ilinmiš amranmïš täg öz qa qadaš-ta ulatïlarïnga 1195

qab
< Chin. 合 luγ li qab šeg 「六離合釋」 4355, 4393

qabšur-
「結合する」 altï türlüg adïra qabšur-u yörgülük samazlar 「六離合釋」 1919, 4356, 4394; aya qabšur- 「合掌する」 H33V8

qač
「いくら」 yänä bolur qač türlüg 2843

qačan
「いつか」 3227, 4185, B820, H39R12, qačan bululu tükätdüktä nirvan 4185, munï munčulayu sanvar adrïlïp bolur qač 「如是律儀差別有幾」 H30R14

qačïγ
ärklig qačïγ 「根」 ärklig-läri qačïγ-larï bïšmïšlar ärsär ašnuča ozyurur qudyarur 1242
q.-larï ärklig-läri q.-larï 1242
q.-larïnga ärklig-läringä q.-larïnga 1221, 1280, 1347

qadaγ

mün qadaγ「過失」 559, 579, 586, 850, 961, 1066, 1087, 1258, 1337, 1813, 2015, 2023, 2254, 2273, 2373, 2517, 2536, 2644, 2704, 2852, 2948, 2981, 3015, 3155, 3299, 3347, 3349, 3445, 3550, 3573, 3687, 3977, 4121, 4146, 4514, B157, B201, B261, B262, B270, B775, B806, B814, B830, B992, B1069, B1082, B1146, B1148, B1312, B1567, B1635, B1637, B1736, B1751, B1776, B1874, B1884, B2143, H25R64, see mün

q.-ï mün-i q.-ï 1246, 2566, 3457, 4522, B84, B1156, B1161, B1269, B1313, B1314

q.-ïγ mün q.-ïγ 2680

q.-ïn mün-in q.-ïn 2368, B1193

q.-ïngïzlar mün q.-ïngïzlar B1635; mün-üngüzlär q.-ïngïzlar B1314

q.-lar mün q.-lar 64, 3147

q.-larïγ mün q.-larïγ 2828, 2840

q.-lartïn mün q.-lartïn 94, 118, 187, 300

q.-lïγ mün-lüg q.-lïγ 292, 4070, B1496

q.-nïng mün q.-nïng 2977

q.-sïz mün-süz q.-sïz 65, 1326, 3789, 3980, B587, B1286

qadaš

qa qadaš 「家族」 qaltï yerdinčütäki kišilär ilinmiš amranmïš täg öz qa qadaš-ta ulatïlarïnga 1195

qadïrγan

žimpa qadïrγan 「賃婆」(木名) žimpa qadïrγan uruγïntïn žimpa qadïrγan tüš törüyür 「從賃婆種賃婆果生」 H35R20

qal-

「残る」 xuasïn näčä kedärü tükädsär ymä yïtï tanï taqï oq qalmïšï täg 1015; qal-mïš qalïnču 843, B636, see qalïnču

q.-γu B646

q.-ïr 634, 1017, 4400, B602

q.-mïš 1357, 2325, B1437, B1438

q.-mïšï 1015

q.-sar H38V24

q.-u B645

qalangulat-

qalangulat- tägzintür- 「漂轉させる」 alqu nïzvanïlar uyur kim yerdinčüg qalangulad-γalï tägzindür-gäli sansarlïγ uluγ taluyta 「諸惑能令世間漂轉生死大海」 B2043

q.-γalï 2043, 2054

qalïlïγ

「有餘」 950; qalïlïγ nirvan「有餘涅槃」 4138

qalïnču

qalmïš qalïnču「残り」「残餘」 843, B636, üzülüp ädgülärï bolmaz qalmïš qalïnču-sï B636

qalïq

kök qalïq 「虚空」 1839, 2931, 2995, 3028, 3038, 3049, 3051, 3064, 3078, 3082, 3085, 3093, 3097, 3101, 3102, 3102, 3106, 3107, 3107, 3108, 3110, 3110, 3112, 3114, 3115, 3116, 3118, 3119, 3122, 3129, 3131, 3138, 3143, 3145, 3146, 3151, 3152, 3153, 3155, 3156, 3158, 3159, 3161, 3169, 3170, 3174, 3177, 3185, 4090, 4091, 4292, B1721, B1827, B1836, B1851, B2206, B2216, H27V14

q.-ïγ kök q.-ïγ 1830, 3079, 3173

q.-nïng kök q.-nïng 3040, 3080, 3125, 3150, 3191, 3194, 3196, 3200, 3208, B1830

q.-qa kök q.-qa B1383

q.-ta kök q.-ta 1417, 1418, 2932, 3084, 3090, 3117, 3123, 3133, 3201, B1836, B1852

qalïsïz

「無餘」 641, 750, 842, 1496, 2653, 2661 uyur taryaryalï kirsiz bilmämäkig birdämläti qalïsïz 641; qalïsïz nirvan 「無餘涅槃」 4130, 4138, 4143, 4144, 4189, H27V19

qalngula-～ qalangula-

「漂う」 nizvanïlar uγurïnda yerdinčü qalngula-yur bolmaqlïγ taluyta 「由惑世間漂有海」 2039; qalangula- tägzin- 「漂轉する」; qalangula-yügür- 「漂う」

q.-maq tägzin-mäk 2064

q.-yu yügür-ü 2067

q.-yur 2039, 2100, 2102

qaltï

「謂わく」「(猶)・・の如し」(q. ... (täg))「若し」(q. ... (-sar/-sär)) q'lty 45, 48, 68, 170, 259, 269, 271, 273, 275, 278, 282, 304, 333, 393, 469, 483, 486, 491, 515, 520, 524, 540, 541, 542, 547, 549, 588, 592, 593, 599, 604, 613, 615, 739, 759, 773, 838, 842, 866, 876, 886, 891, 902, 904, 913, 923, 932, 941, 944, 969, 993, 1008, 1013, 1029, 1031, 1038, 1041, 1066, 1071, 1094, 1099, 1106, 1161, 1183, 1194, 1206, 1211, 1227, 1237, 1244, 1252, 1258, 1264, 1283, 1291, 1297, 1322, 1386, 1404, 1406, 1417, 1418, 1419, 1421, 1423, 1429, 1430, 1441, 1478, 1480, 1481, 1483, 1484, 1502, 1504, 1528, 1553, 1553, 1577, 1581, 1582, 1583, 1584, 1587, 1587, 1593, 1596, 1596, 1605, 1646, 1655, 1674, 1688, 1691, 1696, 1705, 1720, 1727, 1735, 1752, 1764, 1787, 1835, 1859, 1860, 1869, 1872, 1877, 1880, 1883, 1905, 1906, 1914, 1935, 1939, 1950, 1956, 1966, 1968, 1974, 1979, 2037, 2041, 2047, etc., B27, B70, B76, B91, B106, B107, B111, B113, B115, B118, B151, B169, B174, B181, B211, B227, B228, B242, B287, B292, B294, B296, B302, B319, B322, B328, B337, B361, B365, B373, B388, B393, B400, B419, B438, B450, B476, B491, B496, B505, B526, B528, B562, B583, B592, B607, B622, B649, B668, B673, B679, B682, B686, B687, B690, B699, B771, B785, B789, B819, B830, B850, B859, B867, B878, B884, B888, B893, B904, B913, B922, B947, etc., q'ldy B427, B499, B1905, B1921, B1942, B1976, H27R48 kim tegüči sav üzä uqïdur qaltï burxan adï ködrülmišig 「諸言所表謂佛世尊」 483, sav ärsär qaltï sözlägülük sav ärür 「言謂語言」 3990, ünüš ärsär qaltï birdämläti öngi üdrülmäk ärür 「離謂永離」 4125, qaltï yintäm nom uγušï oxšatï bolur 「謂一法界是同分」 B287, qaltï alqu qamaγ altun tašlarïnïng arasïnta čïn altun ördülüp kizlälip turmïš täg 「猶如諸礦中眞金隱茲住」 913, qaltï tavarï bar ärsär adï bolmïš täg tavarlïγ tep 「如有財者名爲有財」 4148, qaltï oγul anaqa tayanmïš täg 「如子依母」 4196, qaltï pardakčanlarta tüšmädači törülügi täg 「如異生中不墮法者」 B106, qaltï bolsar qayu nomnung üklitgäli umaqï nizvanïlarïγ 「若增諸煩惱」 2833, qaltï nomuγ adïrtlamaqta öngi odγuraq yoq ärür adïn alqu nizvanïlarïγ taryardačï yeg adruq al aldaγ「若離擇法定無餘能滅諸惑勝方便」2037

qamaγ

「衆」「すべての」「遍く」 9, 25, 56, 179, 279, 284, 284, 412, 414, 423, 1263, 913, 1424, 2007, 2377, 2407, 3888, 3909, 3913, 4100, B627, B721, B821, B1011, B1614, B1988, H31R2, H34R1, H36R35 yinčürü töpün yükünürmn adï ködrülmišlig qamaγ ädgülüg taγqa 「稽首薄伽衆德山」 9, qamaγ basudčïlar yïγïlïp terilip yumïdmaqïndïn bolmïš üčün 「衆緣聚集共所作故」 3888, uyur körgäli qamaγ önglärig 「能見衆色」 B1011, adïn qamaγ-ta yorïdačï eyin yatdačïlar ulatï öngdünki bölüklügi tarïqu tükätdüktä 「餘遍行隨眠及前品已斷」 3275, oxšadï qamaγ-ta yorïtačï öngi bïšmaq üčägü-nüng 「同類遍行異熟三種」 H26V57; qamaγ-ta 「最も」 H25R20, H26R36 yintäm ol oruntaqï qamaγ-ta ang kenki oqsuz yol eyin tarïqur üčün 「唯隨彼地最後無間道所斷故」 B716, qamaγ-ta yeg 「最勝」 207, 217, 218, 420; alqu qamaγ 「すべての」 25, 913

q.-qa 4475

q.-ta 207, 217, 218, 418, 420, 420, 463, 831, 1836, 3269, 3275, B278, B555, B716, B796, B896, B2014

qamaγlïγ

「共」「衆」 261, 484, 647, 1604, 1879, 4264, B435,

B439, B450, B477, B483, B1680 qaltï köngül köngültäki nomlar bir täk bar qamaγlïγ tïlday tep tuγup 「如心心所同共緣生」 B1680, munday osuγluγta ulatï uγušluγlar ärür ediglig nomlarnïng adïrt öngi qamaγlïγ adï 「如是等類是有爲法差別衆名」 4264; qamaγlïγ töz 「共相」 261, 1879

qamaγlïγsïz
「不共」 647, 659, 892, 900, 971, 2846, B81, B135, B138, B429, B442, B449, B913, B1126, B1130, B1149, B1683, B2165, B2169, B2175, B2181 tärs körüm sezik birlä yaradïlmïš ulatï qamaγlïγsïz biligsiz altïγu 「邪見疑相應及不共無明六」 2846, qamaγlïγsïz-ï-nïng uγrïnta üčün ärür yörüg tözinčä ärsär čïn kertü alqu barča qïlïnč ämgäk üz-ä 「由不共故理實一切行苦故苦」 H36R46

qamïš
「蘆」 öngi ymä ök köligätäki qamïš özäni täg ärür B1946

qan
「王」 qaltï qan-nïng teriningä quvrayïnga qïlγuluq išig küdüküg adamïš täg qan iši tep 「如王眷屬所作事業名王所作」 H38V3, köngül qan-ï ärür bir 「心王是一」 B1428

qan-
「満ちる」 yänä käntü özi uqup nomuγ bir küsüši qan-a tükätdi 2164
q.-a 2164, 2166
q.-dï 2166

qanglï
「車」 3315, 3331, 3342, H27V25 qaltï ud qošuγluγ qanglï-γ adamïš täg ud qanglï tep 「如牛所駕車名曰牛車」 3314, 3315
q.-γ 3314, 3331

qap-
「吸いとる」 sorïnčan taš näčä usar ymä qap-γalï tägmäzkänki tämürüg 「如何磁石吸不至鐵」 B1620
q.-γalï B1620, B1621, B1622

qapïγ
「門」 B1253, B1254, B1255, B1257, B1260, B1262, B1263, B1264, B1266, B1266, B1270 qaltï yertinčütäki oγrï-ïγ qovdačï qapïγ bäklädačilär täg「猶如世間驅賊閉戸」 H38R63; közlüg qapïγ 「眼門」 1253; yertinčülüg qapïγ 「世間門」 1254; nom qapïγ 「法門」 2260
q.-ïn 2260

qaqïlïš-
「打ち合う」 nä üčün bir ikindikä qaqïlïš-maqïntïn inčip temin ün tuγar B1746
q.-maqïntïn B1746, B1749

qara
qara burčaq 「烏豆」 qaltï urtuqda yašïl burčaqïγ qara burčaq-lïγ yükmäktä azï üzä üküšintä atamïš täg qara burčaq-lïγ yükmäk tep 「如置綠豆烏豆聚中以少從多名烏豆聚」 H36V6,8

qaramtï
「闇い」「闇黒」「昧鈍」 B2112, B2123, B2160; yaruq qaramtï 「明昧」 munung uγurïnta ünmiš tuγmïš biligning bolur ol yruq qaramdï bolmaqï B2193; qaramtï tümgä 「昧鈍」 bu qïnamaqïngïzlar uqïturï qaramtï tümgä üčün 「表昧鈍故」 H32R40

qarangγu
「闇」「冥」 72, 550, 551, 560, 575, 587, 597, 599, 600, 604, 605, 608, 610, 614, 620, 621, 676, 733, 750, 855, 869, B820, B821, B852, B2103, H33R3 munung umïš üčün tarïqγalï qarangγu-sï anïn adamïš ol tarïqmïš qarangγu-luγ tep 「此能破闇故稱冥

滅」 544, 545; qarangyu qararïγ「冥」「闇」 72, 550, 551, 604, 605, 608, 610, 616, 620, 733, 869, qaltï taryarmaq ärür alqu adqanγulartaqï alqu bölüklärtäki qarangyu qararïγlarïγ「謂滅諸境一切品冥」 605; yaruq qarangyu「明昧」 ärkliglär üklimiši qurulmïšï eyin biliglär yruq qarangyu bolur üčün「隨根增損（識）明昧故」 B2103; biligsizlig qarangyu「愚闇」「闇盲」 H40R6, bilgä biligig tuγurmaqta taryarmïšča öz köngültäki biligsizlig qarangyu-nung adïrtïn「慧生除自心中愚闇差別」 B900

q.-γ 554, 557, 565, 575, 675

q.-lï 282

q.-luγ 545, 582, 587, 952

q.-luγïn 432, 435, 444, 504, 736, 743, 752, 1493, 1498, 1520, 1532, 1539

q.-nung 597, 602, B900

q.-sï 544, 545

q.-sïn 567, 569, 571, 572, 577

q.-ta B1530

qaraq

「眼睛」 H36R57 qltï bir eyin kirpikig urduqta ayata kišilär tuymadïn antaγ yänä urduqta qaraq-ta qïlmïšï täg quruldurmaqïγ enčlänmämäk täg「如以一睫毛置掌人不覺若置眼睛上爲損及不安」 H36R54; köz qaraq「眼目」 tngri burxan bolmïš ol köz-i qaraq-ï 2008

qarar-

「暗くなる」; bük üzä qarar-「晦冥する」 öngi kedärip alqu bük üzä qarar-maqïγ inčip käzä yorïduqta učrum adalïγta「除諸晦冥而遊險阻」 B885

q.-γuluq B2108

q.-maqïγ B885

q.-mïšïnta B880

qararïγ

qarangyu qararïγ「冥」「闇」 608, 620, cf. qarangyu q.-ïγ qarangyu q.-ïγ 550, 551

q.-larïγ qarangyu q.larïγ 614, 605, 750, 856, 869

q.-larnïng qarangyu q.-larnïng 610

q.-lïγïn qarangyu q.-lïγïn 72, 604, 733

qarart-

「暗くする」 qaltï yerdinčütäki qarangyu tïdïp on közüg kim qarard-ur ärsär öng adqanγuγ 599

qarï

qarï qïlï「老耄」 2428

qarïmaq

「病」 2068, 3885 qarïmaq iglämäk ölmäktä ulatï ada tudalïγ adruqlar üzä「老病死等災横差別」 3885

qariš-

「違する」 qariš-dačï tüzünlärning köngülingä 4492; qariš- ärt-「違越する」 munï üzä ötrü qariš-mïš ärt-miš bolur vaybaš šastirtaqï taplaγtïn「是則違越毘婆沙宗」 H29V24

qarïštur-

「混ぜ合わせる」 bir ikintikä qarïšdur-mïš ödtä nädägin sačïlmaz B1757

qaršï

「違」「相違」 282, 1325, 1439, 1440, 1442, 2182, 2193, 2196, 2302, 2396, 2400, 2554, 2555, 2558, 2568, 2572, 2574, 2875, 2876, 2893, 2897, 3250, 3749, 3987, 4011, 4022, 4029, 4142, 4466, 4475, 4477, 4480, 4489, 4489, 4502, B247, B262, B471, B647, B651, B964, B1037, B1082, B1109, B1147, B1306, B1395, B1527, H28R37, H29V24, H30V19, H36R65, H36V44, SE22 tudulmaz üčün qaršï bolur üčün「無攝有違故」 2897, ymä ök adï bolur ämgäk tep tüzünlär köngülingä qaršï üčün「亦名爲苦違聖心故」 4466, birök sözläsär siz köz biligi ärür kördäči köz ärmäz tep yertinčükä qaršï bolur「說

眼識是見非眼世間相違」 B1109; köngülingä qarši「違聖心」; qalšï arqa「相違」 see arqa
q.-sï 2407
q.-sïz 2197, 2247
q.-sïzïn 2575

qart
「癈」 kim bolγay bilgälärtä yïlïγ suvuγ qudduqta qart-qa bolmaq üzä azqya mängining tuγmaqï atqantačï qart-ïγ bolur mängi「誰有智者瀝水澆癈有少樂生計癈爲樂」 H36V10,11

qašï-
täp- qašï-「掻き蹴上げる」 1116

qat
「層」 türgäklämiš tooz qad-ï täg ärür B1945, onunč üč qat sözlämäk uγrïnta ïnanurmn burxan nom bursang quvrayqa「十由三説歸佛法僧」 H32V50; qat qat「重ねて」 B1938, B1938, cf. ikšürü

qat-
qat- qavšur-「混ぜ合わせる」 qad-ïp qavšur-up yöründäk boldačï otuγ 1437

qatčïγ
yangšaq qatčïγ「冗長」 užiklärï yörüglärï yangšaq qadïγ 292

qatïγlan-
「勝進する」「精進する」 五 türlüg äränlär ärsär qaltï sordapan qudïnga qadïγlan-dačï B771, beškädäki baštïnqï qutqa qatïγlan-dačï bolur「至五向初果」 H38V50; qatïγlan- tavran-「精進する」 765, 766, B269 kimlär usar könisinčä ongarusïnča qadïγlan-u tavran-u asïγ tusu qïlyalï 765; qatïγlan- ämgän-「勤苦する」「劬勞する」 406, 3717; qïïn- qatïγlan「奮い立つ」「努力する」 1213, 3715; tört türlüg köni ongaru qatïγlan-maqlar「四種正行」 2452
q.-dačï B771, B772
q.-ïp 406, 1213
q.-maq 459, 466, 3715, 3717, B269
q.-maqïn 2295
q.-maqlar 2452
q.-u 765, 766

qatïl-
qatïl- qavïš-「混合する」「和合する」 H29R23 yänä parmanuta öngi yoq qadïl-mïš qavïš-mïš öng「又離極微無和合色」B1866; qatïl- bulγaš-「雜亂する」 alqu öng nomlar qatïlïš-u bulγaš-u yüz yügärü bolur tüz arasïz basutčïtïn tuγmïšï qatïl-maqsïz bulγaš-maqsïz üčün「以諸色法雜亂現前等無間緣生無雜亂」 H25R34; qatïl-maq tïltaγ「相應」 birlä bolmaq birlä qatïl-maq tïltaγ-lar-nïng nom öčä turur tušta temin ök ükliyür iši küdüki「俱有相應於法滅位方興作用」 H26V50
q.-ïp q.-ïp qavïš-ïp B1199, B1773, B1867
q.-maq q.-maq qavïš-maq 1124, 4380, B474, B1718
q.-mïš q.-mïš qavïš-mïš B1866, B1974
q.-u q.-u qavïš-u B427

qatïlïš-
「混ざる」「雜じる」 birök sözläsär ... inčip bir ikintikä qadïlïš-maz tep ülüšlüg bolγu kärgäk「若説・・・然不相雜應成有分」 B1847, birök munta öngi ol tep tesär ažun bir ikintikä qatïlïš-γu krgäk「若異此者趣應相雜」 H27V63; qatïlïš- bulγalïš-～ qatïlïš- bulγaš-「混同する」「亂れる」「雜亂する」 297, 2615, 2644, 4487, 3452, H25R34, H25V30 näčä orun uγušta ulatïlarda tudulsarlar ymä alqu nomlar kkirlig kirsiz ikigü anda qadïlïš-maq bulγaš-maq üzä 2615, qatïlïš-u bulγaš-u yüz yügärü bolur üčün anïn tüz arasïz basutčï bolur ärmäz「雜亂現前故非等無間緣」 H25V25
qatïlïš- qavïš-「混合する」 1124
q.-maq 1124, 2615, 2644, 2660, 3452
q.-maz B1847

q.-miš 297, 4487

qatïn
「重複して」「層」 63, 534, 535, 2852, 3775, B813, B2053 nä üčün qadïn sözlädi burxan adï ködrülmiš tep 535, yumdaru büdär beš qadïn tört padaklar B2053

qatïn-
「交渉する」 ärklig adqanγu bilig üčägü ikiläyü bir ikintikä qadïn-ïp 「根境識三更相交渉」 B469

qatna-
tägzin qatna-「輪轉する」 tägzin-mäz qadna-maz üčün 4132

qatnayu ～ qatïnayu
「重ねて」 357, 537, 965, 2156, 2509, 2550, 2947, 2975, 2978, 3014, 3366, 4186, 4314, 4317, 4555, qatïnayu B256, B1344, B1597, H31V66, anïn kärgäk qadnayu sözlämäk 「故復重説」 4317, anïn tägimlig ol qadnayu sözlägäli azta ulatïlarïγ 「故應重説貪等」 4555

qatšur-
qadšur-u bïšrunγuluq dyan 「雜修定」 2455

qavï-
「合する」 q.-mïšta B1189

qavïq
「穢」 4335, qavïq-tïn tuγmïš ootuγ adamïš täg qavïq oot-ï tep 4351

qavïr-
「略す」 birök antaγ ärsär atï kötrülmiš yrlïqamïš ol qavïr-a čxšaptïγ 「若爾世尊所説略戒」 H31V2; qavïr- ketär- 「略去する」 H27R6 qavïr-ïp kedär-ip ikin araqï savïn 「略去中言」 3315, qavïr-ïp ketär-miš üčün ikin araqï savïn yölägürgäy öngdün sözlämiš täg tetir 「略去中言喩如前説」 H27R15

q.-dï 1576
q.-ïp 3333; q.-ïp ketär-ip 3315, 3328, 3336, 3339, 3342, 4348

qavïra
「簡略」 291, 962, 2638, 2645, 2646, 2648, 2649, 2651, 2659, 2662, 2667, 2881, 3070, B1894, B1894, B1991 mundata ulatï alqu šasdrlar azuča ymä arduqraq keng arduqraq qavïra bolmaq üzä 291, qïldï qavïra sözlämäkig 2638, qavïra-nïng törüsi yarayï antaγ oq ärür 「略法應爾」 H34V27
q.-γ 2618

qavïrasïnča
「略して」 479, 1505, 1574, 2478, 2592, 2635, 2640, 2916, 2921, 3003, 3073, 3092, 3770, 3865, 4266, 4268, 4495, B676, B1163, B1972, H27R21 nomlamïšča alqu nomlar qavïrasïnča bolur iki türlüg 「説一切法略有二種」 2592, qavïrasïnča qayu sözlägüči üč türlüg edigsizlärtä 「於略所説三無爲中」 3092, munung uqïtmaz öng qavïrasïnča sözläsär bolur üč 「此中無表略説有三」 H30R10

qavïš-
「合する」 ät'öz ärklig adqanγusï qavïš-maqïntïn 「身根境合」 B1188, alqu aqïγlïγ tavranmaqlar eyin yarayïnča bu üč türlüg ämgäk tözlär birlä qavïš-miš üčün 「諸有漏行如其所應與此三種苦性合故」 H36R11; qatïl- qavïš-「和合する」 「交渉する」 ～ qatïlïš- qavïš-
q.-ïp qatïl-ïp q.-ïp B1199, B1773; qatïl-ïp qavš-ïp B1867
q.-maq qatïlïš-maq q.-maq 1124
q.-maqïntïn B1188; qatïl-maq q.-maqïntïn 4380, B475
q.-maqnïng qatïl-maq q.-maqnïng B1719
q.-miš B990; qatïl-miš q.-miš B1866, B1974
q.-u qatïl-u q.-u B427

qavramaq

čxšapt törü qavramaq 「戒禁取」 1145, 1146

nätägin uluγ äzrua adqaγlïγ anïlayu oq turγurur čxšapt törü qavramaq-ïγ 「云何緣大梵猶起戒禁取」 H28V63

qavšur-

「合する」 qavšur-up qatnayu sözlägülük burxan atï ködrülmiš tep 537, könisinčä bilinmäk könisinčä öglänmäkig qavšur-sar atï bolur köngül ärkligig yïγïnmaq tep「正知正念合名意根律儀」H31V11

q.-γučï H31V16

q.-sar H31V15

q.-up 537, 1590, 1591

qayïntur-

qayïntur- bïšur- 「煮る」 tïnlγlarïγ birök piradapan tamuta qayïndur-mïš bïšur-mïš ödtä B1983

qayu

「何」41, 53, 56, 58, 80, 95, 101, 104, 107, 119, 129, 134, 137, 138, 161, 180, 212, 214, 225, 238, 257, 258, 259, 261, 275, 370, 374, 383, 411, 589, 598, 644, 660, 674, 699, 707, 708, 710, 722, 724, 764, 877, 886, 887, 891, 903, 967, 966, 978, 983, 986, 1023, 1027, 1037, 1040, 1045, 1049, 1051, 1055, 1067, 1096, 1106, 1107, 1111, 1167, 1243, 1249, 1274, 1275, 1275, 1285, 1288, 1296, 1340, 1343, 1346, 1359, 1417, 1419, 1423, 1430, 1433, 1445, 1557, 1560, 1569, 1573, 1581, 1584, 1586, 1593, 1684, 1703, 1720, 1724, 1726, 1730, 1808, 1815, 1815, 1922, 1939, 1961, 1963, 1964, 1965, 1970, 1973, 1985, 2003, 2013, 2033, 2085, 2155, 2178, 2222, 2224, 2232, 2260, 2263, 2286, 2399, 2440, 2524, 2529, etc., B38, B49, B52, B68, B80, B108, B124, B151, B167, B172, B228, B238, B265, B287, B292, B317, B320, B323, B437, B461, B490, B521, B522, B539, B546, B589, B592, B604, B609, B614, B626, B632, B648, B676, B695, B723, B725, B726, B757, B817, B834, B927, B948, B955, B982, B1031, B1042, B1047, B1086, B1146, B1165, B1186, B1224, B1225, B1257, B1263, etc., H25R6,13, H25V28, etc. ol šasdr qayu ol「其論者何」1586, madark tegüči ad üzä körgidür qayu-ta ulatïlarïγ「摩怛理迦名目何等」2450, qayu tïldayïn sözläti köngül bolur män tep「何緣說心爲我」B68, munung tarïqu tükädmäk birlä bar qayu adïrtï「此與已斷有何差別」B725, aqïγsïzï qayu ol「無漏云何」2927, tarïqmaqnïng yörügi ymä qayu ol tep tesär qavïrasïnča bolur iki türlüg「斷義云何略有二種」B676; qayu...-sar/-sär「若し・・なら」1815, 2830, 2833, B80, B695, B723, B1345, H26R53, H27R43, etc. qayu yeg yörüglüg nom ärsär yïndäm ärür nirvan「若勝義法唯是涅槃」1815, qayu nom tarïqmadïn bulu tükäd-sär tuγmaqsïzïγ「若法未斷已得不生」B723; qayu...-mïš/-miš「・・した所の」95, 107, 129, 134, H27V41, H31R30, etc. bu qayu sözlägüči ediglig nomlarta「於此所說有爲法中」4298, anïn sizlärning qayu sözlämišingizlärning yoq arduqraq yörüg yolï「故彼所言無深理趣」B52, anï üčün töz körkkä tayaqlïγïn qayu turmïš ün yangqu ödrü uyur「是故依質所發音聲即能」B1686; qayu näčä bar ärsär ～ qayu barïnča ～ qayu bolmïš「所有る」2224, 2862, 2867, H29R35, etc. qayu näčä bar ärsär öng eyin udu alqu tudyaqqa「謂所有色隨順諸取」2862, qayu barïnča maxabudlar「所有大種」3179, bu kkirlig köngültä qayu bolmïš nizvanïlarqa ašnu öčmiš nizvanïlar bolur tüz arasïz basutči「此染心中所有煩惱用先滅煩惱爲等無間緣」H25V16

q.-lar 2930, 3067

q.-nï 852, 2318, 2671, 2772

q.-nung 711, 759, 1263, 1478, 1831, 1832, 2588, 2654, 2672, 2672, 2681, 2994, 3250, 4040, B18, B291, B465, B466, B519, B519, B520, B1085, B1726, B2300, B2308

q.-qa 560, 3162, 3165, 3167, 3170, 3175, B1360

q.-sïn 4464

q.-ta 268, 2450, 2752, 2842, 3262, B1097

q.-tïn 57, 1437

qayvïlan-

「對する」 amtï tinglägäli qayvïlan-yuluqnï 「今聽所對」 B112, ol tayaqïn qayvïlan-maz 「不・・對彼所依」 B128

q.-yuluqï B130

q.-yuluqnï B112

q.-maz B128

qïdïγ

「岸」 tägip ol taluynung qïdïγ-ïnga orun töldäp 「至彼海岸敷座」 2499; uč qïdïγ 「際」「邊」「邊際」 uyurlar alqïp sansarnïng uč-ïn qïdïγ-ïn ikiläyü täginmägäli kenki bolmaq-ïγ 「能盡生死際更不受後有」 4245, qaltï uč qïdïγ eltäkilärning ärür 「謂於邊國」 H32V48, čxšapt ödining uč-ï qïdïγ-ï täg bolur iki türlüg 「戒時邊際但有二種」 H32V64

q.-ïn uč-ïn q.-ïn 3173, 4245

q.-ïnga 2499

q.-qa uč-qa q.-qa H33R29

qïdïγsïz

učsïz qïdïγsïz 「無邊際」 859, 889, 932, 934, 970, 3115, 3116, 3720, 4281, B308, B310, B312, B313, B314, B315 ulatï alqu yörüg uγušïnïng učsuz qïdïγsïz adïrdïntaqï kirsiz bilmämäkig 「及諸義類無邊差別不染無知」 859, üč uγušlar učsuz qïtïγsïz ärürlär qaltï kök qalïqnïng ülgüsï täg 「三界無邊如虛空量」 H27V15

qïγ

「糠」 qaltï ot ïγačqa ud mayaqïnga qïγ-qa tayaqlïγ od at näčä tägšilsär ymä 「如依草木牛糞糠火名雖改易」 B1056

qïl-

「・・する」「爲す」「作る」「造る」 bar ät'öz körüm adqanïp beš tudyaq yükmäkig adqanγu uγuš qïl-ur üčün 「有身見緣五取蘊爲境界故」 B66, asïγ tusu qïl-γu üčün tïnlγlarqa 「爲利群生」 16, tägimlig ärmäz sezik qïlγalï 「不應爲難」 B1634, köngülüg baš bašlaγ qïl-maqï üzä 「意爲上首故」 B74, nomta bululγuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi tört padak qïl-mïš kärgäk 「於法得滅應作四句」 3767, kim bolγay bilgälärtä inčip qïl-dačï bu savïγ 「誰有智者當作是言」 B1012, qaltï kälmädük ödtä mundaγ osuγluγ tïnlγlar qïl-sar muntaγ osuγluγ qïlïnčïγ tartar muntaγ osuγluγ tüšüg 「謂未來世如是有情造如是業招如是果」 H25V50; qïl-yuluq 「所作（爲）」 1477, 1482, 1545, 1548, 1552, etc. tapïng ol nägü qïl-yuluq 「欲何所作」 1545; sanggit qïl- 「結集する」 2127, 2137, 2147, 2259, 2344, etc. ayaγqa tägimlig kadyanapudreta ulatï alqu maxa širavaklar sanggit qïl-ïp 「大德迦多衍尼子等諸大聲聞結集」 2127; qïl- yarat- 「造作する」 kimlärning tamuluγ qïltačï alqu aqïγlarï yüüz yügärü bolmïš üčün anïn qïl-ïp yarat-ïp üklitsär ašsar tamuta tägingükä eyin yaraš ï qïlïnčïγ 「若有地獄諸漏現前故造作增長順地獄受業」 H28R25; aγïr ayaγ qïl-maqlïγ šlok 「歸敬頌」 352, 358; özkä asïγ qïl-maq 「自利」 441, 570, etc.; adïnqa asïγ qïl-maq 「利他」 441, 447, etc.; tört türlüg ediglig qïl-dačï bälgülär 「四種有爲行相」 B563, B570; bar qïl- 「有する」 qayu tïldayïn bar qïl-ïp bu sezikig turγurdï 「何以有此問起」 B948

q.-dačï 1767, B563, B570, B1012, B1332, B1372, B1374, B1388, B1390, B1395, B1721, B1724, B1732, B1772, B1826, H29V29

q.-dačïγ B1302

q.-dačïlar 1359, B2058

q.-dačïlarnïng 180

q.-dï 1971, 2638, B1717, B1928

q.-dïm 8

q.-γalï 35, 124, 182, 385, 763, 766, 815, 1057, 1071, 1192, 1197, 1384, 1400, 1506, 1549, 2244, 3758, B112, B429, B449, B458, B1000, B1098, B1634, B2200, H27V13

q.-γu 15, 16, 396, 1041, 1046, 1084, 4496

q.-γuluq 1477, 1478, 1482, 1503, 1504, 1508, 1509, 1530, 1536, 1545, 1548, 1551, 1552, 1555, 3833,

B448, B1097, B1302, B1332
q.-ïp 206, 208, 213, 639, 798, 817, 1229, 1282, 1388, 1926, 2127, 2137, 2147, 2156, 2159, 2168, 2259, 2344, 2509, B6, B217, B227, B239, B438, B589, B836, B928, B948, B1194, B1462, B1602, B1626, B1702, B1725, B2177
q.-madïn B2208
q.-maduq B1115
q.-mayuluq 1551
q.-maq H30V66
q.-maq 86, 108, 430, 441, 570, 1025, 1028, 1038, 1058, 1094, 1099, 1137, 1297, 1484, 1972, 2031, 3089, B759
q.-maqï 442, 584, 585, 1075, B74, 1097, B874, B2051, B2051
q.-maqïy 570
q.-maqïn 1047, B1829, B1830
q.-maqlïy 87, 88, 108, 352, 358, 445, 447, 470, 567, 568, 579, 580, 779, 782, 785, 814, 835, 1021, 1024, 1066, 1076, 1087, 1089, 1091, 1092, 1304, 1309, 1351, 1352, 1353, 1355, 1356, 1358, 1362, 1364, 1366, 1369, 1377, 1496
q.-maqnïng 1194
q.-maqqa 1198, 1535
q.-maqta 1063, 1297
q.-maz B1470, H29R6
q.-mïš 67, 189, 204, 211, 253, 272, 538, 1007, 1013, 1078, 1102, 1458, 1476, 1861, 1992, 2022, 2144, 2225, 2226, 2229, 2230, 2232, 2235, 2236, 2240, 2241, 2543, 3112, 3389, 3471, 3477, 3666, 3684, 3690, 3767, 3774, 4528, B178, B179, B247, B934, B952, B1162, B1738, B1892, B1926, B1930, B2010, B2028, B2150, B2151, B2367, H26R41
q.-mïšï 2243
q.-mïšïn 223, B1433
q.-mïšïnda 1973
q.-mïšïngïzlar 3717
q.-mïšqa 2031
q.-sar 767, 2641, 2733, 2981, B81, B157, B347, B842, B1411
q.-u 1549, 1589, 1618, 2539, 2540, 2552, 2568, 3386, 3463, 3495, B611, B741, B746, B1300, B1479, B1618
q.-ur 853, 1193, 1431, 1705, 2232, 2319, 3492, B66, B195, B299, B1327, B1470, H29R8
q.-urlar 465, B700
q.-zun 986

qïlï
qarï qïlï 「老耄」　qarï qïlï ävtin ünmiš 「老耄出家」 2428

qïlïč
「刀」 inčä qaltï qïlïč qïïn-lïγ bolïš täg 1950
q.-ïγ 1951
q.-nïng 1950
q.-qa 1950

qïlïl-
「・・される」「所作」「所造」 arqurasïnča qïlïl-mïš (käzig)-lig tiziglig ärür B1953, nätägin amtï sözlädi qïlïl-mïš öz tözlüg tep 「如何今説所作自體」 H31R1, ät'öz üzä til üzä qïlïl-mïš üčün anïn adï bolmïš ol qïlïnč tep「身語所造故名爲業」H32R52
q.-mïš 3926, B1953, H31R4

qïlïnč
「業」「行」 43, 44, 284, 285, 877, 1322, 1324, 1330, 1331, 1860, 2067, 2301, 2488, 4246, 4363, 4364, 4365, 4367, 4373, 4374, 4379, 4384, 4385, 4479, 4492, 4494, 4497, 4501, 4506, 4510, H25V24,60 azuča ymä uyur üčün adqanγalï tudγalï kenki bolmaqïγ tardtačï qïlïnč-ïγ 「或能執持引後有業故」 4345, ančulayu oq ymä qïlïnč bolmaq näčä ymä ök ärür ärsär ymä ažun 「如是業有雖亦是趣」 H28R46, munda öngli qïlïnč-lï yükmäklärtä tudulur 「此色行蘊攝」 1758; buyan ädgü qïlïnč-ï 「福德業」 179; buyanlïγ qïlïnč 「福業」 4363; täprängsiz qïlïnč 「不動業」 4365; nizvanï qïlïnč 「煩惱業」 2067, 4246, 4379;

qïlïnč ämgäk 「業苦」 4479, 4492, 4494, 4497;
tiltäki qïlïnč 「口業」「語業」 1018, 1322, 1330, 2488 uzadï tildäki qïlïnč üzä irär münäyür ärti alqu kišilärig 「嘗以語業毀罵出家人等」 2488;
ät'öztäki qïlïnč 「身業」 1315, 1331, 1335, B606;
köngültä öngi qïlïnč 「心不相應行」 2301, 3130
q.-ï 179, 992, 1335
q.-ïγ 47, 180, 1315, 1317, 4345
q.-ïnga 267, 2489
q.-lar 1318, 1333, 4362, B745
q.-larï 46, 272
q.-larïγ 1045
q.-lï 1758, 1761
q.-lïγ 1011
q.-lïqa B735
q.-nïng B1987, B1988
q.-qa 271
q.-ta 1018, 3130, B591, B606, B640, B728
q.-tïn 4383, H25V36

qïlun-
「(おのずと)・・する」 yerär yïrdar osuγluγ qïlun-ur sizlär kök qalïqqa B1382

qïïn
「鞘」「藏」「俱舍」 1950, 1954, inčä qaltï qïlïč-qa qïïn bolmaq üzä 1950 ol abidarim šasdrtaqï yeg yörüglär kirip munda tudulmïš üčün bu bulmïš ol qïïn-ï tegüči adïγ 「由彼對法論中勝義入此攝故此得藏名」 1932, azuča ymä bu angar tayaqlïγïn andïrtïn tardïlïp tuγmïšqa ärür üčün ol qïïn-lïγ anïn ymä ök adamïš ol koš tep 「或此依彼從彼引生是彼所藏故亦名藏」 1943; qïïn qïzγut 「治罰」 qaltï qorqmïš üčün öz igitmämäkkä ayïγ atqa qïïn-qa qïzγut-qa ayïγ ažuntaqï qorqïnčqa täginmiš küzätmiš čxšapt ärür 「謂怖不活惡名治罰惡趣畏故受護尸羅」 H35V7
q.-ï 1932, 1940, 1940, 1951, 1954
q.-lïγ 3, 1943, 1950, 4585

qïïn-～ qïn-
「思う」 H32R62, H32V2 qodï asïra qïn-maq üzä ädgü qïlsar ayïγïγ qïlsar yintäm tuγar uqïdur qïlïnč anïlayu oq bolmaz uqïtmaz 「以微劣思造善造惡唯發表業尚無無表」 H32R66; qïïn- qatïγlan- 「奮い立つ」「努力する」 tägimlig ol kärgäkläp qïïn-ïp qadïγlan-ïp elig sunup anda inčip tardïp umuγ ïnaγ bolγalï 1212
q.-ïp q.-ïp qatïγlan-ïp 1212
q.-maq q.-maq qatïγlan-maq 3715
qïn-dačïlarïγ 1306

qïna-
「責める」 bu qïna-maqïngïzlar törüsüz ärür 「此責非理」 H32R40; ir- qïna- 「責める」 ir-gälir qïna-γalïr üčün vasubandu baxšïγ 3682

qïnanmaq
ökünmäk qïnanmaq 「悔い」 ol balïq köngülindä tuγurup ökünmäk qïnanmaq-ïγ 「其魚生悔」 2503

qïnïγ
sav qïnïγ-ï 「言」 1718

qïïntur-
äriglä- qïïntur- 「誠勗する」 öd berip äriglä-p qïïndur-mïšqa adamïš ol činkertü tözlüg baxšï tep 「教授誠勗名如理師」 1307

qïr-
「粉碎する」 qoγ qïr-mïš ärür B1795

qïrtïš
öng qïltïš 「容貌」 öng-i qïrtïš-ï čoγï yalïnï ädgüsi ädrämi savï sözi yruqï yaltrïqï ton didimtä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V45

qïsγa
「短い」 ödi arduqraq qïsγa üčün 2750

qïyïl-

küčsirä- qïyïl-「減退する」; tägšil- qïlyïl-「轉變する」「變壞する」

q.-maqï tägšil-mäk q.-maqï 3973

q.-sar küčsirä-sär q.-sar B2157

qïyïltur-

tägšiltür- qïyïltur-「轉變させる」「變壞させる」

q.-γalï tägšiltür-gäli q.-γalï 1824

qod-

「捨てる」 inčip sözlägüčini arduqraq tägimlig ol yaraši qod-γalï 4179; tit- qod-「捨てる」～ qod- tit- q.-γalï 4179; tit-gäli q.-γalï 4162

q.-γuluq q.-γuluq tit-gülük 2253

qodï

「下」 sanvarïγ tangda erdä qodï orunta baxšïïn tägingülük「近住於晨旦下座從師受」 H33R63; qodï asïra「下劣」「劣」2622, 2623, B1272, B2361, H33V7 aqïγlïγ nom qodï asïra ärür 2622, tükällig bolurlar uqïdurqa uqïtmazqa ärmäz otra turdačïlar qodï asïra qïnmaq üzä qïlsarlar titmišlär uqïduruγ turγurmaduq tüzünlär tükällig bolurlar uqïtmazqa uqïturqa ärmäz「成表非無表住中劣思作捨未生表聖成無表非表」H32R61; qodï en-「降りる」1721; basa qodï「次に（下で）」 861, 2844, basa qodï šasdrta käntü kikinč berü sözlämiš ol 2844

qodïqar-

「低下する」qodïqar-γaylar yangšaqïnga kengingä 295

qodïqï

yeg qodïqï 「階降（優劣）」 B2192, tüzün äränlärning ödrü bolur yeg-i qodïqï-sï 3450

q.-sï yeg-i q.-sï 3450, B2098

qodtur-

qodtur- tittür-「棄捨させる」 angayu angayu qodtur-tačï tittür-täči üčün adruq adruq ayïγlarïγ 「時初表無表。別別棄捨種種惡故」 H31R13

qodul-

qodul- titil-「捨てられる」 ödrü qodul-γu tidil-gü kärgäk ülgülänčsiz sudurlar「便應棄捨無量契經」 2250

qoγ

「塵」 B1795; qoγ parmanu 「微塵」 B1794

qoγ

「火炭」「溶岩」 cf. 1981, note

q.-ïndïn 1981

qola-

isil- qola-「缺落する」 bir köz ägsük bolmïš ödtä bilig isil-gü qora-γu kärgäk B1464

qolula-

「觀察する」 yänä qolula-p nomnung tözin činïnča kertüsinčä qolula-γu tükätdüktä 2136, 2137; qolula-kör-「觀見する」 2497, H37V65 bu yintäm tözünlärkä qolula-γalï kör-gäli uγuluq ärür「此唯聖者所能觀見」H36R49; qolula-γu yorï-「觀行する」 52; tïd-maq qolula-maq「止觀」 2457

q.-maqta 2457

q.-p 53, 2135, 2136, 2497

q.-γu 52, 2137

qolunga

「芽」 1272, H26R18 uruγsuz qolunga ünmäz yašarmaz 「無種芽不生」 1272; buγday qolunga-sï 「麥芽」 B2178, B2182

qonšï

「近分」「邊」 qaltï tört töz tüp dyanta ulatï tördägününg qonši-sïnta 1747, dyan sanvar bulmaq uγrïnta aqïγlïγ töz tüp qonšï dyan oruntaqï köngülüg 「靜慮律儀由得有漏根本近分靜慮地心」

H32V15 alqu selu dyannïng qonšï-sïnïng ymä ök atï bolur selu dyan tep「諸靜慮邊亦名靜慮」H31R35
q.-sï H32V24
q.-sïnta 1747; q.-sïnda 1750

qongrayu
「鈴」 B1662 ilig üzä tudmïš ödtä qongrayu-γ qongrayu-qa tayaqlïγïn「手執鈴時依鈴」 B1658; čung qongrayu「鈴」 B1654
q.-γ B1656, B1658, B1661
q.-qa B1658
q.-ta B1654

qongrat-
「鳴らす」 qaltï čung qongrayuta ulatïlarïγ qongrad-maqïntïn B1655

qorq-
「恐れる」 qorq-mïš üčün yangšaq keng bolγay tep B842; qorq- ayman-「恐怖する」 1138, 1136
q.-γaylar 295
q.-madïn 1136
q.-mïš 1138, 1143, B842, B1164, B1934
q.-mïšqa B358

qorqïnč
「恐怖」; qorqïnč ayïnč「怖畏」 115 ang'ilki qorqïnč ayïnč üzäki čxšapt qltï qorqmïš üčün「一怖畏戒」 H35V6; irmäk qorqïnč「厭怖」 bilgälar ärsar qaraqtaqï täg adyaqïnta artuqraq tuγururlar irmäk-ig qorqïnč-ïγ「智者如眼睛緣極生厭怖」 H36R58
q.-tïn 316

qorqïnčïγ
「恐怖」「可怖」 3339, 3340, körkining oxšadïγïnïng qorqïnčïγ-ïn「形貌可怖」 2497
q.-ïn 2497
q.-qa H35V8

qorqïnčsïz
「無畏」 1537, 1542, azuča ymä tudulur törtürlüg qorqïnčsïz-lar「或約四無畏」 1537; küč qorqïnčsïz「力無畏」891; köni tuymaqtaqï qorqïnčsïz「正(等)覺無畏」1539; aqïγ alqmaqtaqï qorqïnčsïz「漏盡無畏」1540; tïdïγ yoluγ nomlamaqtaqï qorqïnčsïz「說障法無畏」 1541; ämgäktin ündürdäči yoltaqï qorqïnčsïz「說出道無畏」1544
q.-lar 1537
q.-ta 891

qooš
「對」「雙」 H30R62, köztä bolmïš qooš-nung adï bolur köz qošuγ tep B683

qooša
「對にして」 558

qoš-
qoš-a uyur üčün tardγalï bu iki türlüg yevig tiziglärig 467; qoš-dačï vastu「繫事」 3374
q.-a 467
q.-dačï 3374
q.-γu B1965

qošuγ
「結」「繫」 B685, B699, B707, H38V1 bar körmäktä taryaryuluq ulatï bïšrunmaqta taryaryuluq alqu qošuγ üzä qošulγuluq bolmaqï「有見所斷及修所斷諸結所繫」 B707, qaltï ud qošuγ-luγ qanglïγ adamïš täg ud qanglï tep「如牛所駕車名曰牛車」3314; qošuγ baγ「繫縛」3256 qošuγ-tïn baγ-tïn öngi üdrülmiš「離繫縛」 3260; az qošuγ「貪結」「愛結」 1156, 4235 qayu vasduta az qošuγ-qa qošulγuluq bolsar「若於此事愛結所繫」 4235; köz qošuγ「眼結」 B682, B683, B686 mn yoqadturdum ičtin sïngarqï köz qošuγ-uγ「我無內眼結」 B681; qošuγ-luγ san-lïγ「繫屬」 birök bu nomnung tuγmaqï qošuγ-luγ san-lïγ ärsär ol nomqa išläšip anïng basasïnta bu temin bolur tuγγalï「若此

法生繫屬彼法要彼無間此乃得生」 H26R17
q.-lar 3807, B686, B688, B710
q.-larïγ H37V66
q.-larnïng 3809
q.-larqa B708
q.-luγ 3314, 3331, 3342, 3343, B344, B349
q.-nung 1156
q.-qa 4235, 4236
q.-tïn 3260
q.-uγ B681, B696

qošul-
「繫される」 qayu vasduta az qošuγqa qošul-yuluq bolsar ymä ök övkä qošuγqa qošul-yuluq bolur mu 「若於此事愛結所繫彼於此事恚結繫耶」 4236; qošul- bal-「繫（縛）される」 ol vastuta adamïš ol qošul-mïš bal-mïš tep 「名繫此事」 3254; tuγum qošul-「結生する」 269, 270
q.-dačï 3271
q.-yuluq 4236, 4236, B707; q.-yuluq bal-yuluq 4217, 4234, 4237
q.-maq 269; q.-maq bal-maq 3394
q.-mïš q.-mïš bal-mïš 3254, 3259
q.-u 270

qov-
「驅る」 inčä qïtï yertinčütäki oγrï-ïγ qov-dačï qapïγ bäklädäčilär täg 「猶如世間驅賊閉戸」 H38R63

qovuq
「穢」 ot qovuq oot-ï 「草穢火」 4335, cf. qavïq

quč-
adaq-ïn quč-「接足する」 yinčürü töpün yükünüp adaq-ïn quč-mïš 「稽首接足」 1323
q.-mïš adaqïn q.-mïš 1302, 1314, 1323

qud-
「濺ぐ」 kim bolγay bilgälärtä yïlïγ suvuγ qud-duqta qartqa bolmaq üzä azqya mängining tuγmaqï atqantačï qartïγ bolur mängi 「誰有智者握水濺雖有少樂生計雖爲樂」 H36V9

qudul-
yaγ- qudul-「降る」 ösgän yaγmur näčä tüzütä yaγ-sar qudul-sar ymä「甘雨雖普降」 1272; aqïl-qudul-「下澍する」 oqsuz üzüksüz kök qalïγtïn aqïl-u qudul-u「無間無斷從空下澍」 H27V26

qul
「奴隷」 tüzünlär qul-ï「聖奴」3183, cf. aryadazï

qulγaq
「耳」 B1505, B1571, B1576, B1582, B1584, B1599, B1647, B1650, B1657, B1673, B1687, B1697, B1913, B1945, B1948, B1981, B2049, B2049, B2127, B2400, B2401, B2403, B2404 köz qulγaq köngül alïr üčün tägmäzkänki adqanγuγ 「眼耳意根取非至境」 B1505, ün ulalu ävrilip kälip kirür üčün qulγaq-qa 「聲相續轉來入耳故」 B1652; qulγaq ärklig 「耳根」 B1571, B1576, B1585, B1647, B1913, B1945, B1948, B2049, qulγaq ärklig ymä ök yintäm alïp tägmiš ärmäz adqanγularïγ 「耳根亦唯取非至境」 B1571; qulγaq uγuš 「耳界」 B2401, B2403; qulγaq biligi 「耳識」 ančulayu oq qulγaq biligi-ngä ulatï birlä yaratïlmïš nomlarqa alqu ün 「如是耳識及相應法以一切聲」 H26V3
q.-ïntaqï B1652
q.-lar B1903
q.-larnïng B1601
q.-lï B1405, B1607
q.-nïng B1947
q.-nïngta 3704
q.-qa B1652, B1694, B1695, B2405
q.-ta B909, B1046, B1047, B1297, B1692, B2045
q.-taqï B1648, B1690

qum
「砂」 qaltï qum-ta ulatï yükmäklär täg B1756;

qum toz 「砂塵」 B2107

qun-

qun- alq-「拂拭する」 biligsizning küčin kösünin alqu barča qun-up alq-ïp 638

qurt

「蟲」 kadyot qurt 「螢」 mn uγradïm kadyot qurt-nung yaruqï kün tngrining yaruqïnga basudlayurïnča 「我將螢燿助陽光」 13

qurtik

< Skt. guṭikā 「小球」 qurdik täg qat qat ikšürü inčip turur 「重累如丸而住」（丸） B1938

quruγ

「空」 1452, 1482, 1877, 2453, 2653, B1783, tört türlüg tïdïγsïz uqmaqlar quruγ-ta quruγ küsüššüztä küsüššüz 「四無礙解空空無願無願」 2453; quruγ sav 「空言」 1388

q.-ïn 3643

q.-lï 1878

q.-ta 2453

qurul-

「惱む」「損ずる」 tüldayï tägmiš ödtä qurul-maq-qa anïlï munlï (birlä) amrïlmïš täg 「緣被損時彼此俱息」 B1681; qurul- örlät- 「惱亂する」「損惱する」 3757, 4399, B2134; qurul- kävil- 「損伏される」「衰損する」 kizlälmiš yïγïlmïš qurul-mïš kävil-miš üčün anïn adï bolmïš ol yükmäk tep 「隱積損伏故名爲藏」 3886

q.-maqqa B1681

q.-mïš 3757, 3886, 4399, 4400, B2108, B2111

q.-mïšï B2103

q.-ur B2133, B2134

qurultur-

「惱ませる」; qurultur- örlät- 「損惱させる」 öčmäkli yollï iki kertüli ärür üčün nizvanïlarnïng yayïsï quruldur-tačï örlät-däči bolmaz ornanïp turyalï 2788; qurultur- ämgät- 「損害する」 quruldur-ur ämgäd-ür üčün özli adïnlïγ 「損害自他故」 4427; qurultur- arta- 「損壞する」 adïnlarï ärmäz bar üčün qurultur-dačïsï arta-dačïsï 「餘非有損壞」 H28V18; qurultur- artat- 「損害する」 birök sözläsär sizlär qurultur-tačï artat-tačïsï ärür tep bar bolu tükätmäk üzä üklittäči ašdačïsï mängining barï bütgü kärgäk 「若謂損害既有饒益有樂應成」 H37R23; qurultur- käv- 「衰損する」 [qaltï] eti[glig nom-ta birök yoq ärti ärsär kävmäk bäl]güsi qurultur-dačï käv-däči [ädrämin]「謂有爲法若無異相衰損功能」 SC5

q.-dačï q.-dačï örlät-däči 2788, 2789, 2796, 3751, 4505, B2153, B2155

q.-yalï q.-yalï örlät-gäli 4504

q.-mamaq q.-mamaq örlät-mämäk 2780

q.-maq q.-maq örlät-mäk 2783, 2785, 2793; q.-maq ämgät-mäk 4428, 4431, 4432, 4433

q.-maqlïγ 4462

q.-ur q.-ur örlät-ür 4398, 4401; q.-ur ämgät-ür 4422, 4427, 4430

quš

「鳥」 2489; yuy quš 「孔雀」 935; quš käyik 「禽獸」 2489, B2215

q.-nung 935

qut

「福」「果」「福果」 tïldayï ägsük ärsär qud-qa tägmäzlär 「緣闕不得果」 1273; arxant(larnïng) qut-ï 「阿羅漢果」; sortapan qut-ï 「預流果」; sakardagam qut-ï 「一來果」; burxan qut-ï 「佛果」; qut küsüš 「願」 668, 1435, 1440, 1444, 1455, ulatï turγurmïšïn qut küsüš 「乃至起願」 H28V52; qut küsüš-lüg küč 「願力」 1425, 1426; qut küsüš bermäk(-i) 「與願」 1312, 1374, 1381, 1415, 1419, 1420

q.-ï q.-ï küsüš-i 366, 1043, 1037

q.-ïn burxan q.-ïn 814, 1036; sortapan q.-ïn B771
q.-ïndïn arxantlarnïng q.-ïndïn 2569; q.-ïntïn arxant
q.-ïntïn 2195; arxantlarnïng q.-ïntïn 2302
q.-ïnga burxan q.-ïnga 1026; sortapan q.-ïnga B771; sakardagam q.-ïnga B772
q.-lar 3455
q.-larïγ 3455
q.-larnïng 3452
q.-qa 1273, H38V50,51
q.-ta H38V27
q.-uγ 55, 4398; q.-uγ küsüš-üg 1421

qutγar-
ozγur- qutγar- 「解脱させる」 see ozγur-; qutγar-γuluq vainiki 「所化」 azu körmiš üčün mü qutγar-γuluq vainiki-larta tözi yïltïzï alp turulduryuluqï ärsär yänä bergäli tägimligin bir künlük tüklük čxšaptïγ 「爲觀所化根難調者且應授與一晝夜戒」 H33R20
q.-ayïn ozγur-ayïn q.-ayïn 2160
q.-γalï ozγur-γalï q.-γalï 365
q.-ïp ozγur-up q.-ïp 1281, 2166, H27V18
q.-ur ozγur-ur q.-ur 1243

qutrul-～ quturul-
「解脱する」 ol kišitä qudrul-maqlïγ uruγïnïng män körděm ärdä yinčgäsin 「彼人解脱種我觀極微細」 912, ïraq öngi üdrül-üp badačï bayïndïn tanuqlap bulmïš qudrul-maqnïng adï bolur bilip öčmäk tep 「遠離繫縛證得解脱名爲擇滅」 3216, uγrayu tïdïγïntïn qudrul-ur 「正從障解脱」 B831; qutrul-dačï vaynike 「所化」 322, 1101, 1219, 2123; qutrul-maq ülüš 「解脱分」 1244, 1265, 1266; ödčä qutrul-mïšlar 「時解脱」 3441, H38R53; qutrulmaq-ïγ bilmäk körmäk 「解脱智見」 3903; ödsüz qutrul-mïšlar 「不時解脱」 3443; qutrul-maq yol 「解脱道」 4376, B737, B740, B778; oz- qutrul- 「解脱する」 256, 897, 898, 1012, 1170, 1173, 1276, 1457, 2160, 2163, 3279, 3722, 3902, 3903, B827, see oz-
q.-dačï 322, 1101, 1219, 2123
q.-γalï B827
q.-γuluq 1173
q.-maq 1244, 1265, 1266, 3722, 3902, 4376, B737, B740; quturul-maq B778
q.-maqïγ 256, 898, 1170, 1276, 1285, 1457, 3903
q.-maqlïγ 386, 897, 912
q.-maqnïng 3216
q.-maqqa 1151
q.-mïš 3279
q.-mïšlar 3441
q.-mïšlarnïng 3443
q.-tuqta 1012
q.-u 2163
q.-up 2160
q.-ur B831

quvraγ
「衆」「聚」 1264, 1617, 2125, 2505, 3180, 3186, B1799 ärü ärü uduzup uluγ quvraγ-ïγ tägip ol taluynung qïdïγïnga 「遂將大衆至彼海岸」 2498; tüzünlär quvraγ-ï 「聖衆」 78, 144, H32V51; tngrilär quvraγ-ï 「天衆」 B2366; tärstä odγuraq quvraγ 「邪定聚」 1264; önglüg quvraγ 「色聚」 3180, 3186, 3193, 3197; äzrua quvraγ 「梵衆」 H28V38, 41; bilig quvraγ-ï 「識身」 3626, 3650, B623, B923 qaltï beš bilig-lär quvraγ-ï üzä tardïlïp tuγmïš bilgä bilig 「謂五識身所引發慧」 B923; terin quvraγ 「眷屬」 1611, 1613, 1616, 1617, 1634, 1636, 1666, 3807, 3809, H35V1, H38V3 arïγ bilgä biligning terin-i-ning quvraγ-ï-nïng adï bolur eyin yorïdačïlar tep 「淨慧眷屬名曰隨行」 1611; at quvraγ-ï 「名身」 (Skt. nāma kāya) SG21; padak quvraγ-ï 「句身」 (Skt. pada kāya) SG21; užik quvraγ-ï 「文身」 (Skt. vyañjana kāya) SG21
q.-ï 1613, 1616, 3626, 3809, B623, B923, B2362, H28V38
q.-ïγ 2498, B1798
q.-ïnda 78, 144, 3650
q.-ïnga 12, 2259

q.-ïnïng 1611, 1634, 1636, 1666, B2366, H28V47
q.-lïγ 11
q.-nïng 3193, 3197, 3807
q.-ta B1800, B1802

quyaš
「熱」 qaltï birök tušmaz ärkänki ödtä ačmaq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüštä ulatï ämgäklär üzä sïqïlmaq tangïlmaqta 「謂若未遭飢渇寒熱疲欲等苦所逼迫時」 H37R5

R

rakšaz
< Skt. rākṣasa 「惡魔」 tašagirve atlγ rakšaz-qa 1421

ridi
< Skt. ṛddhi 「神」 čoγluγ yalïnlïγ ridi 「威神」 17, 1386, 1424, 1426, 1435, 1439, 1444, 1455 küsüšüm ol čoγluγ yalïnlïγ ridi-larï üzä körüp küyü küzädü tudzunlar 「願以威神見護持」 17; ridi bögülänmäk(-i) 「神通（力）」 1313, 1375, 1381, 1384, 1416, 1446, 1447, 1451, 2132, 3135, 3136, H27V41 näng čoγluγ yalïnlïγ küčining qud küsüš bermäkining ridi bögülänmäk-i-ning uγurïnda ärmäz 「不由威力與願神通」 1313
r.-larï 17
r.-nïng 1424
r.-sï 1386

S

sa
< Skt. sa-「結合、類似、同等」 sa užiktä sïγar üč türlüg yörüglär 2903(s-')

sabaγam
sab-a-γam < Chin. 雜-阿-含 「雜阿含經」
s.-taqï 2252

sač-
「散ずる」 bar yeel sačdačï bar yeel büdürtäči B1763; sï- sač-「切り散ずる」; sač- artat-「散壞する」
s.-dačï B1763; s.-dačï artat-dačï B1803, B1808
s.-duqta B1784
s.-ïp sï-p s.-ïp 2478
s.-mïšï s.-mïšï artat-miši B1760

sačγïn
keng sačγïn 「擴散した」 1575

sačïl-
「散る」 bir ikintikä qarïšdurmïš ödtä nädägin sačïl-maz B1758; taral- sačïl- 「零散する」; sačïl- arta- 「散壞する」; bölül- sačïl- 「分散する」; täprätil- sačïl- örlätil- 「動亂する」 H39V59, see örlätil-
s.-duqta 4293
s.-γu s.-γu arta-γu B1931
s.-maz B1758, B1762; bölül-mäz s.-maz B1934;
s.-maz arta-maz B1990
s.-mïš taral-mïš s.-mïš B1931
s.-u B1928

sačuq
「散らばった」 H39V17,18,20, qaltï suvtïn törümiši täg buz suvtaqï sačuq parmanunung adï bolur bürüdüšmäzi tïldaγ bolmïš tep B1788, adïn yörügi barča sačuq uqïtmaz-nïngï birlä bir täk ärür 「餘義皆與散無表同」 H29V18; keng sačuq 1575
s.-ï H29R63

sačuqluγ
sačuqluγ-ïn yarlïqa- 「散說される」 2071, 2122, 2126, 2142, 2343, inčip adï ködrülmiš orun orun sayu sačuqluγ-ïn yrlïqa-mïš ärür abidarimïγ 「然佛世尊處處散說阿毘達磨」 2071

saγ-

「搾る」 saγ-a tükädmišining saγ-maduqïnïng barčanïng adï bolmïš täg süd tep 3941, 3942

sakardagam

< Skt. sakṛd-āgami sakardagam qut-ï「一來果」B772

samapati-koš ～ samapati-kooš

< Skt. samāpatti-koša 「定俱舍」「定品」 smapati-kooš D21

s.-uγ 61

samaz

< Skt. samāsa 「語釋」「合成語」 1922, 1932, munï iki türlüg samazlar üzä yörmiš kärgäk 1932; nïng samaz 「依士釋」「依主釋」 564, 566, 573, 583, 1933, 1941, 1960, 3518, 4357, 4395; lïγ samaz 「有財釋」 569, 573, 578, 586, 1922, 1933, 1947, 1955, 1960, 3515; tavarlïγ tegüči lïγ samaz 「有財釋」 1920; oq samaz 「持業釋」 4413, 4418; altï türlüg adïra qabšuru yörgülük samazlar 「六離合釋」 1919, 4356, 4394

s.-lar 1932

s.-larnïng 1919, 4356, 4394

s.-larqa 1960

san

「數」 3059 ken bar ärti balïqčï kiši anïng san-ï mïng 「後有漁人其數一千」 2493, san-ïnïng üküši azï anïng eyin yaraγïnča bolur 「餘數多少隨其所應」 H30V3

s.-ï 2493, 2495

s.-ïn 965

s.-ïnïng H30R28

san-

「屬する」 tudulmaz san-maz orunlarta 3580

sangitapiryayipat

see sanggitapiryayipat

sanïšïγlïγ

「相屬」 bir ikintikä sanïšïγlïγ üčün 「互相屬故」 B499; qošuγluγ sanïšïγlïγ 「繫屬」 B349; bilig sanïšïγlïγ 「有識屬」 B387, B388, B391, B392, B394, B397, B400

s.-ï B388

sanïšïγsïz

bilig sanïšïγsïz 「無識屬」 B387, B393, B394, B398, B400

sanke

< Skt. sāṃkhya sanke-lïγ baxšï「數論師」 1974, sanke ni'kay < Skt. sāṃkhya-nikāya「數論部」 2210

sankiya-sapdati-šastr

< Skt. sāṃkhya-saptati-śāstra 「金七十論」 1974 (s'nkyy'-s'pd'-ty-s'sdr)

sanlïγ

「數々の」 abidarim ärür sanlïγ kiši nomlamïš 2106; tïnlγ sanlïγ 「有情數」 B2202, tïnsïz sanlïγ 「無情數」 B2203; -qa/-kä sanlïγ 「・・に屬する」 576, 1903, 1903, 1953, 4331, 4336, 4387, 4388, 4389, 4390, 4396, 4402, 4542, 4544, B293, B294, B295, B391, B502, B503, B1034, B2202, B2203, B2235, B2236, B2237, B2252, B2253, B2255, B2256, B2256, B2257, B2258, B2259, B2260, B2262, B2263, B2265, B2266, B2267, B2268, B2269, B2270, B2270, B2272, B2272, B2273, B2273, B2275, B2275, B2276, B2286, B2287, B2288, B2289, B2290, B2291, B2292, B2293, B2294, H27R4 azuča ymä yükmäk sanlïγ üčün tudyaq-qa anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep 「或蘊屬取故名取蘊」 4336, bilig sanlïγ bolur bašdïnqï dyan-qa B2263; özkä sanlïγ tayar 「自歸依」 371; qošuγ-luγ san-lïγ 「繫屬」 birök bu nomnung tuγmaqï qošuγ-luγ san-lïγ ärsär ol nomqa išläšip anïng basasïnta bu temin bolur tuγγalï 「若此法生繫屬彼法要彼無間此乃得生」 H26R17

sanpan

< Skt. saṃ-panna「成就」「成立」 ašnuča uqïdmïš kärgäk säkiz koošlarnïng sanpan-ïnïng käzigin tizigin 23

sansar

< Skt. saṃsāra「生死」 1103, 1106, 1121, 1135, 1156, 1164, 1859, 2058, 2062 tardïp tašyarïp tïnlylarïγ ündürti ärsär sansar-lïγ kök tidigtin「拔衆生出生死泥」 73, alqu nizvanïlar uyur kim yerdinčüg qalanguladyalï tägzindürgäli sansar-lïγ uluγ taluyta「諸惑能令世間漂轉生死大海」 2043, uyurlar alqïp sansar-nïng učïn qïdïγïn ikiläyü täginmägäli「能盡生死際更不受後有」 4244

s.-ïγ 1111, 4582

s.-lï 35

s.-lïγ 73, 98, 99, 424, 436, 439, 446, 1098, 1215, 1225, 1229, 1311, 1373, 1379, 1413, 1454, 1469, 1471, 1474, 1475, 1483, 1484, 1523, 1525, 1526, 1534, 1860, 2043, 2055, 4281

s.-nïng 308, 1450, 2056, 4244

s.-ta 1129, 1177, 4130

s.-tïn 124, 1140, 1165, 1257, 1455

sansïz

sansïz saqïšsïz「無數」 yänä kälmädük ödki altï biliglär ymä ök bolur sansïz saqïšsïz 3706, biri biri ödläp ärigläp ozyurup qutyarïp sansïz saqïšsïz tïnlylarïγ kim tanuqladsarlar ymä qalïsïz nirvanlïγ uγušuγ inčip tüpükmäz alqïnmaz inčä qltï kök qalïγ täg「一一化度無數有情令證無餘般涅槃界而不窮盡猶若虛空」 H27V18

sanvar

< Skt. saṃvara「律儀」 1744, H29V66, H30R27, etc. qltï alqu dyanlï aqïysïzlï sanvar-lï ärür「謂諸靜慮無漏律儀」 H29V9; dyana-sanvar < Skt. dhyāna-saṃvara「靜慮律儀」 1749, 1751; sansar čxšapt「律儀戒」 üč ödki alqu burxanlarnïng nomï bu sanvar čxšapt simlïγ üčün 2561

sanggabadre ～ sanggabadire

< Skt. saṃghabhadra「衆賢」(人名) sanggabadre baxšï 1805, 1987, 1994, 2023, 2200, 2223, 2269, 2275, 2287, 2304, 2319, 2342, 2351, 2373, 2381, 2388, 2410, 2426, 2436, 2443, 2448, 2746, 2751, 2769, 3178, 3184, 3189, 3665, 3681, 4047, 4078, 4448, 4481, H28V9; sanggabadire baxšï 2740, B36, B208, B664, B726, B833, B1003, B1044, B1107, B1151, B1155, B1162, B1840 ayaγqa tägimlig sanggabadre baxšï sözlär「大衆賢說」 1805, ayaγqa tägimlig sanggabadire baxšï sözlär「阿闍梨衆賢云」 B36, sanggabadre baxšï kikinč berü sözlär「衆賢答云」 2223

sanggit

< Skt. saṃgīti「結集」 sanggit qïl-「結集する」 2127, 2137, 2147, 2224, 2226, 2229, 2230, 2232, 2232, 2234, 2236, 2239, 2241, 2243, 2259, 2344 kadyanapudreta ulatï alqu maxa širavaklar sanggit qïl-ïp「迦多衍尼子等諸大聲聞結集」 2127, sudur vinay iki aγïlïqïγ užiki eyin sanggit qïl-mïš ol yindäm abidarim aγïlïqïγ yörüg eyin sanggit qïl-mïš ol「經律二藏隨文結集唯對法藏隨義結集」 2229, 2230

sanggitapiriyay ～ sanggitapiryay ～ sanggitapariyay

< Skt. saṃgītiparyāya「集異門」 sanggitapiriyay 2476; sanggïdapiriyay sudur 2217 ～ sanggïdapiryay sudur 2470 ～ sanggitapariyay sudur 2256 qaltï sanggïdapariyay sudur「如集異門經」 2251

sanggitapiryayipat ～ sangitapiryayipat

< Skt. saṃgītiparyāyapāda「集異門足」 ulatï sanggïdapiryayipat darmaskandapat pradnïyapadï「及集異門法蘊施設」 2458; sangidapiryayipat šasdr「集異門足論」 2117

sangram

< Skt. saṅghārāma ikinti tapïnyu udunyu üčün törttin yïngaqtïnqï bursanglarqa qïlïp sangram bušï bersär yemišlik arïγ tört türlüg tapïγïn tapïnsar udunsar 「二爲供養四方僧伽造寺施園四事供給」 H35V44

sap

「稈」「幹」 H25R52, qaltï örtädüktä tuturqan sap-ï-lïγ uluγ yükmäkig kül bolmïštaqïsï ärür 「如燒稻稈大聚爲灰」 H25R47

sap-

「貫通する」 sap-ïp yumdarur üsdünkisin aldïnqïsïn 「貫通上下」 4297

saplan-

atïš- saplan- 「射合う」 cf. atïš-

s.-ïp B764

sapta-bau ～ saptabav

sapta-bau sudur < Skt. sapta-bhava-sūtra 「七有(經)」 2411, H28R41 qaltï saptabav sudur ärür anta sözlämiš ol yeti türlüg bolmaqlarïγ 「謂七有經彼說七有」 H28R14

saqï-

「見張る」 köz saqï-mïš üčün 2782

saqïn-

「考える」「思う」 yörüg tözinčä saqïn-mïš kärgäk 「如理應思」 B2284, äšidmäk saqïnmaq bïšrunmaq üzä büdgülük ärip 「聞思修所成」 1704; saqïn-bögün- 「思惟する」「思議する」 3536, 4085 alqu burxanlarnïng ädgüsin ädrämin išin kütükin alqu burxanlarnïng atqanγu uγušïn bolmaz saqïn-γalï bögün-gäli 「諸佛德用諸佛境界不可思議」 H26V8; könisinčä saqïnmaq bögünmäk 「正思惟」 1253, 1256, 1262, 1408; saqïnmaq yinčürmäk 「思量」 1405; saqïn- ülgülä- 「思量する」 B936; činγarusïnča saqïn- 「審慮する」 B938, B942, B962; saqïn- adïrtla- 「揀擇する」「思擇する」 2076, B1096 ymä ök bolmaz ärti ädrämi alqu nomlarnïng tözin yörüg tözinčä saqïn-γuluq adïrtla-γuluq 「亦無有能於諸法相如理揀擇」 2076, amtï saqïn-mïš adïrtla-mïš krgäk 「今應思擇」 H31V19

s.-γuluq 2076

s.-ïp B936, B938

s.-maq 201, 1253, 1256, 1262, 1405, 1408, 1689, 1696, 1698, 1704, 1709, 1712, 1713, 1739, 1743, 1764, 1789, 1790, 1806, 1809, B936, B942, B962

s.-maqtïn 1708

s.-matïn 3536

s.-mïš B1096, B2284, B2300

s.-mïšïngïz 654, 2233, 2240, 4488

s.-mïšïngïzlar 233, 2575, 3242, 4085, 4113

saqïnč

「思考」「考え」「想」 1906, B2348, B2350; anitiyat saqïnč 「無常想」 1441 ol alqu äzrua quvrayï turγururlar muntaγ osuγluγ saqïnč-ïγ 「彼諸梵衆起如是想」 H28V39; yinčgä saqïnč 「伺」 B161, B2348, yoγun saqïnč 「尋」 B60, B161 qaltï ädgü ayïγ yrlïγsïz köngültä yoγun saqïnč-lïγ yinčgä saqïnč-lïγ dyanta ulatïlarta 「謂善不善無記心中有尋有伺三摩地等」 H25R56; yoγun yinčgä saqïnč 「尋伺」 B60, B160, B170, B2350 azuča ymä yarïmča köngül yoγun yinčgä saqïnč-ïγ tayaq bolur üčün alqu barča yoγun saqïnč-lïγ yinčgä saqïnč-lïγ bolγu kärgäk 「或少分心尋伺依故應成有尋有伺」 B160, 161; saqïnč bodul- 「分別する」 H27R39 činkertü amranmaq ärsär qaltï kišilärning saqïnč bodul-maqqï ärür 「眞欲謂人分別貪」 H27R26; mängi saqïnč 「樂覺」 mängining tïltaγïnta tuγar ärmäz mängi saqïnč 「不於樂因生於樂覺」 H37R7

s.-ïγ 4376, B160

s.-larï 4377, H28V14

s.-lï B1407

s.-lïγ B60, B61, B161, B161

s.-nïng B170

s.-qa B60

s.-ta 1441, H25R63

saqïnčsïz

「無想」 3227; saqïnčsïz dyan 「無想定」 3042

saqïšsïz

sansïz saqïšsïz 「無數」 3707, see sansïz

saqla-

küzädin- saqla-「守護する」 tägimlig ol uz küzädin-gäli saqla-γalï tägmlig ol uz ornanïp turγalï köz ärkligin yïγïnmaqta 「應善守護應善安住眼根律儀」 H31V6

sare

< Skt. sāra 3339, see bimbasare

saru-a-astivad

saru-a-astivat nikay B1140 (s'rw-'-'sdyv't), see sarvaastivat

sarvaastivad

< Skt. sarvāsti-vāda 「說一切有」「有部」 sarvaastivad nikay 「說一切有部」 2481, 2537, 2538, 3113, 3384, B1412, H40R18 sarva-asdivat ni'kay-lïγ bir baxšï sözlär 「有部一師云」 3113, (s'rv'-'sdyv't s'rv''sdyv't)

sarvadyan

< Skt. sarva-jñāna 「一切智」 yindäm sarvadyan tükäl bilgä biligkä ök bilgülük ärür 「唯一切智知」 938

sarvaγ

< Sogd. s'rβ'γ sarvaγ äv 「宮殿」 sarvaγ äv-liglärkä körgülüki barča sarvaγ bolur B2118

sarvastivat

sarvastivat nikay B1179 (s'rv'sdyv't), see sarvaastivat

sarvïš

arvïš sarvïš 「呪術」 2625 cf. arvïš

sasirava

< Skt. sāsrava 「有漏」 2902 (s-'-syr'v')

satγa-

täpi-p satγa-p 「賂みつけ(て)」 1116

sav

「言」「語」「文」「說」「事」 136, 162, 482, 484, 485, 500, 502, 659, 706, 1309, 1332, 1351, 1361, 1368, 1494, 1520, 1584, 1718, 1757, 1941, 2235, 2241, 2299, 2532, 2556, 2688, 2968, 3029, 3817, 3867, 3880, 3957, 3984, 3985, 3985, 3989, 3990, 3990, 3992, 3992, 3996, 3998, 4020, 4021, 4026, 4044, 4057, 4069, 4072, 4073, 4075, 4076, 4114, 4123, 4205, 4572, B216, B578, B579, B655, B863, B865, B866, B869, B870, B871, B872, B999, B1031, B1098, B1334, B1426, B1779, B1812, B1955, B2017, B2036, B2038, B2041, B2042, B2064, B2231, H26V49, H27R20 qavïrïp kedärip ikin araqï savïn anïn munday tep sözlämiš ol 「略去中言故作是說」 3315, ang'ilki köni körüm tegüči sav-ta tükäl tudulur üčägü 「一正見言具攝三種」 B873, üč bölüklär qayu ol teptesär qaltï ad yörüg sav ärür「(三分者何)謂依義語」 4068, munday osuγluyta ulatï sav-larta「如是等文」 B234, bu sav-ta nägü yörüg ol 「此說何義」 666, az turzun bu sav-lar 「且止斯事」 3198, bu sav-lar ödrü bolmaz 「此事則無」 B1457; keng sav「廣文」 B125 ～「廣事」 B764; sav söz「言語」 969 öngi qïrtïšï čoγï yalïnï ädgüsi ädrämi sav-ï söz-i yruqï yaltrïqï ton ditim-tä ulatï sav-larï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V46; äzüg sav 「虛言」 94, 113; äzüg igit sav 「虛誑語」 H30V40; yoq quruγ sav 「空言」 1388; sav-lïγ ün 「言聲」 2050; sav-lïγ

yrlïγ「言教」 95, 101; iki ygrmi bölük sav「十二分教」 1206, 1207, 2338, 2442; köni sav söz「正語」 1620; sav tayaq-ï「言依」 3986, 3988, 3999, 4002, 4004, 4008, 4009, 4012, 4018, 4019, 4032, 4033, 4034, 4036, 4040, 4041, 4043, 4046, 4049, 4051, 4054, 4063, 4065, 4067, 4068, 4072, 4073, 4075, 4076, 4078, 4087, 4087, 4089, 4089, 4091,4093, 4097, 4099, 4104, 4108, 4113, 4115, 4118, 4119, 4122, 4124, 4271, 4277 qaltï sözlägüči sav tayaq-ï ärsär ad ärür birlä yörüglüg「如說言依謂名俱義」 4049, öčmäk sav tayaq-ï ärmäz sav tayaq-ï ärür ükmäk「滅非言依言依是蘊」 4087; sav ävriš-i「轉聲」 munï yänä sav ävriš-i tïn vibakdi üzä yörmiš kärgäk 4572; tigirtlig sav「諍論」 az turzun muntata ulatï üküš tälim tigirtlig sav-lar「且止此等衆多諍論」 H29R14; azuqï sav「傍論」 azuqï sav-lar ärtä tukädi yänä tägimlig ol uqïtyalï öngdünki uqïtur uqïtmaznïng bälgüsin「傍論已了復應辯前表無表相」 H30R6

s.-ï 66, 96, 2524, 2531, 2852, B33, B755, B1335

s.-ïγ 6, 332, 538, 654, 872, 1322, 2200, 2346, 2580, 3025, 3290, 3515, 3595, 3684, 3898, 3905, 3906, 3930, 4092, 4210, 4254, 4412, B125, B357, B764, B1012, B1398, B1484, B1986, B2370

s.-ïmïz H27R56

s.-ïn 136, 488, 497, 1590, 3315, 3378, B1906, H27R7

s.-ïnïng 104

s.-ïnta B829

s.-ïngïzlarqa 3433, B753, B1082

s.-lar 215, 674, 1982, 2225, 2579, 3198, B1402, B1457, B1577

s.-larï 4103

s.-larïn 334, 1396

s.-lartïn 66

s.-larta 939, 972, 2810, B234

s.-larïγ 476, 1395, 1397, 1402, 1952, 4095, H28V61

s.-lïγ 95, 101, 1754, 2050

s.-nïng 94, 113, 1855, 3993, B609, B613

s.-qa 2780, 3654, 3931, 4045, B653

s.-ta 301, 321, 345, 666, 681, 695, 738, 742, 744, 753, 1206, 1207, 1326, 1559, 1603, 2172, 2338, 2442, 2774, 2899, 3247, 3256, 3284, 3614, 3863, 3927, 4020, 4191, 4203, 4205, 4206, 4207, 4226, 4228, 4233, 4237, 4242, 4245, 4341, 4249, 4260, 4576, B608, B873, B1404, B2126

sayu

「各」「色々」 651, 686, 1108, 2071, 2122, 2142, 2343, 4180, 4569, B275, B1397, B2397 inčip adï ködrülmiš orun orun sayu sačuqluyïn yrlïqamïš ärür abidarimïγ「然佛世尊處處散說阿毘達磨」(orun orun s.「處處」) 2071, tuš tuš sayu 651, kšan kšan sayu 1108

säčä

「特に」「特別の」「選んで」「偏に」「獨り」 773, 1032, 1487, 1488, 1490, 1643, 1645, 1648, 1659, 1659, 1834, 1942, 2278, 2534, 2645, 3561, B1048, B1695, H35V28 anïn säčä ögmiš ärür biligsizig taryarmïšïn 774, nä üčün säčä sezinür tngri burxan yrlïqamïš ärmäz「何故偏疑非佛所說」 2278, inčip säčä adï bolur üčün körüm tep「而獨名見」 B1048, bu ärksinmä basutčïnïng nätägin säčä tözi keng bolur「此增上緣何獨體廣」 H26V31; yalnguz säčä「獨り」 B2221

säkiz

「八」 7, 23, 51, 61, 318, 319, 546, 767, 1726, 2397, 2451, 2491, 2628, 3273, B966, B1289, H30R23,27, yumdarsar munung iki tümän säkiz mïng girantlarï ol「惣二萬八千偈」 7, anïng ät'özi keng uluγ säkiz ygrmi bašlïγ「其形甚大有十八頭」 2491, ulatï säkiz bölük tüzün yoluγ「乃至八支聖道」 2451; säkiz tüzün yol「八聖道」 318, 319 ～ säkiz tüzün köni yol 2628; säkiz on bir bïšrunmaqtaqï nizvanïlar「八十一修惑」 831; säkiz türlüg sav ävriši vibaktilar「八轉聲」 1338, 1941 ～ säkiz türlüg vibaktilar 4354, 4392; säkiz ygrmi ni'kay「十八部」 2189, B1376; säkiz ygrmi uγušlar「十八界」 3989, 4013, 4015, 4017, B264, B279, B336;

säkiz on säkiz eyin yattačïlar 「八十八隨眠」 B559, B573, B615

säkizägü
「八」(集合) H31R23 säkizägü-ni adamïš ol körüm tep 「八種説名見」 B845, qaltï öngdünki säkizägü-tä yïdyïpar türtünmäk bäzäk üzä etinmäk bötimäk ïrlamaq körmäk tïnglamaqïγ adïrïp iki türlüg 「謂於前八塗飾香鬘舞歌觀聽開爲二種」 H30V49
s.-ni B845
s.-nüng B956, B1292

säkizär
「八ずつ」 säkizär-tä öngdünki üčägüsi yintäm amranmaq uyuštaqï öng orunuy adqanγu qïlur 「八中前三唯以欲界色處爲境」 H39V47

säkizinč
「第八」 H30R29, H30V44

sän
「汝」 895, 2500, 3172, 4222 dripidake-ya sän näčük'ol ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn 「三藏汝豈不是過去佛時三藏苾芻」 2500

säning
「汝の」(sän の屬格形) 921, 1676, 2258, säning anang tuγup turmïš ärür mariči yerdinčütä 「汝母生在摩利子世界」 921

särgür-
「住させる」 ki[m anča]qya ödün särgür-gülük 「令暫時住」 SA7; särgür-üp tut- 「住持する」「任時する」 B1004, B1018, B1020, B1021 köz biligining küči üzä särgür-üp tud-maqlïγ yeg adruq iši tuyar üčün 「眼識力所住持勝用生故」 B1004, bu uyušnung küči uyur üčün särgür-üp tut-γalï amranmaqïγ「此界力能任持欲故」H27R18 s.-täči SA11

säril-
「耐える」「住せられる」 kšanta säril-mäz üčün 1181; säril- küd-「耐久する」 ödrü ünär umaz säril-ip küd-üp täggäli ikinti kšanta B1814, ančaqya ödü[n] säril-gü-singä tïltaγ boltačïγ sözlämiš ol atï bolur turmaq bälgü [tep]「暫時住因説名住相」 SA2

särinmäk
「忍」 459, 460, buši čxšapt särinmäk üčägü ärür buyanlïγ yevig tizig 460; särinmäk paramit 「忍波羅蜜」 463
s.-ig 464

säv-
「愛する」「好む」 säv-ä taplayu tilägülük amra-γuluq säv-gülük üčün anïn taryarmaγuluq ärür B587, B588; säv- tapla-「慕う」「樂しむ」 birök tïnlγlarta säv-ä tapla-yu ädgüg tilätačilär ärsär uyurlar bïšrunup ädgü ögli köngüllüg dyanïγ kim trk tavraq bütürgäli「若於有情樂求德者能修慈定令速疾成 H39R19; köngül säv-「意樂する」1842
s.-ä B587
s.-däčilär 1348, 1349
s.-gülük B588, B1842
s.-ip 49
s.-mäz 1144
s.-miš 1842
s.-mišlări 1345

sävig
「愛」 tïnlγlarnïng köz ärkligi sävig-lig sävig-siz öngläri üzä tïdïlγuluq tudulγuluq bolur 「有情眼根愛非愛色之所拘礙」 B1485, yavïz tarïγlaγta bolur sävig-lig tüš 「惡田有愛果」 H35R15; sävig-lig「可意」, sävig-siz「非可意」 turqaru körür üčün sävig-lig yeg soγančïγ öngläri 「恆觀可意妙色故」 H27R41, ämgäk ärür üč ämgäklär

birlä qavïšmaq uyrïnta eyin yarayïnča alqu sävig-lig sävig-siz adïn aqïylïγ tavranmaq tegli nomlar「苦由三苦合如所應一切可意非可意餘有漏行法」 H36R6

s.-lärï 1276

s.-lärining 761

s.-lig B1485, H35R11

s.-siz B1485, H32R50

sävin-

ögir- sävin-「歡喜する」「欣慰する」 ögir-miš sävin-mišining abipirayïn 2168, ötrü artuqraq ögirür-lär sävin-ürlär čïnkertü mängi ay「便深欣慰」 H39R32

sävinč

ögrünč sävinč「喜び」「歡喜」 tuγurmïš üčün uluγ ögrünč sävinč-ig 2167

sävintür-

ögirüntür- sävintür-「歡喜させる」

s.-däči 2152, 2157

säviš-

「好みあう」 azuča ymä qaltï kiši kiši birlä köngül säviš-miš ärsär 2732

selu

< Chin. 靜慮 selu dyan「靜慮（定）」2455, 3825, B2419, H31R24,33,34,35 alqu yügärü uqmaqlarnïng tüpindäki alqu yïlayu bilgä biliglär qadšuru bïšrunγuluq dyanlar selu dyan-lar tigirtsiz dyanlar「諸現觀邊諸世俗智雜修靜慮無靜」 2455, tört selu dyan-lar「四靜慮」 B2419, alqu selu dyan oruntaqï aznïng atï bolur önglüg az tep「諸靜慮地貪名色貪」 H27R64

sezik

「疑い」「疑問」「問い」「難」 687, 757, 853, 962, 964, 1145, 1359, 1548, 1568, 1593, 1923, 1926, 1969, 1983, 1986, 2032, 2088, 2105, 2120, 2124, 2319, 2479, 2539, 2540, 2552, 2568, 2589, 2643, 2646, 2654, 2671, 2757, 2846, 2888, 2955, 3077, 3078, 3087, 3089, 3371, 3379, 3386, 3463, 3492, 3495, 3559, 3691, 3731, 3742, 3775, 3871, 3874, 4215, 4256, 4556, 4558, B364, B448, B462, B465, B746, B836, B842, B913, B1175, B1179, B1194, B1300, B1327, B1358, B1403, B1421, B1427, B1462, B1478, B1480, B1482, B1497, B1610, B1611, B1618, B1619, B1634, B1708, B1737, B1755, B1765, B1885, B1893, B1919, B1987, B2011, B2028, B2051, B2057, B2058, B2069, B2090, B2090, B2093, B2145, B2146, B2199 bar bolmaq üzä bu sezik-ning tuγmaqï「有此疑生」 237, qayu tïldayïn bar qïlïp bu sezik-ig turγurdï「何以有此問起」 B948, biligsiz sezik ödrü anday ärmäz「癡疑則不如是」 4556, qaltï az övkä küvänč qamaγlïγsïz biligsiz sezik birlä tuγmïš bilgä biliglär ärür「謂貪瞋慢不共無明疑俱生慧」 B913 bu sezik-ingizlär antaγ ärmäz「此難不然」 H38V2; sezik ayït-「問う」「徵問する」「詰問する」 853, 1548, 1969, 1983, 2088, 2120, B1175, B1358, etc. soturandike ni'kayïlïγlar sezik ayïd-u sözlär「經部問云」 2105, uqïtmaq tïltayïnta alqu qïlïnčlarïγ tägimlig ol yänä sezik ayït-u sözlägäli「因辯諸業應復問言」 H34V28; sezik qïl-「詰る」 tärs öz eltinmäklig ačvaki tirti ötrü sezik qïl-u ayaγqa tägimlig šariputreqa sözlädi「邪命外道便詰尊者舍利子言」 H27R30; tetrü sez-ik qïl「反質する」「反徵する」 ol ödtä šaripudre arxant tetrü sezik qïl-u anga sözlädi「時舍利子反質彼言」 H27R36, munta yänä tetrü sezik qïl-miš kärgäk tanïp yoq tesär sizlär mängig qayunung adï bolur ämgäk tep「且應反徵撥無樂者何名爲苦」 H37R18; sezik kikinč「問答」 H37V3

s.-i B986, B993, B1194, B1274

s.-ig 687, 1360, 1370, 1971, 1992, 2657, 2942, 3389, 4255, B217, B239, B247, B438, B446, B589, B618, B928, B934, B948, B953, B1427, B1432, B1466, B1703, B1717, B1726, B1734, B1738, B1892, B1926, B1932, B1937, B1941, B2010, B2066, B2093, B2151,

B2151, H38R33
s.-in B1163
s.-ingizlär 3699, B1158, B1305
s.-kä 1359, 1927, 2121, 3727, 3940, 3955, 4001, 4047, B1361, B1433, B1499, B1618, B1875
s.-lig 1147
s.-ning 237, 3774
s.-tä B659

sezin-
「疑う」「問う」「難る」 yangïlur yoluy ulatï sezin-ür yolta 「迷道及疑道」 1150, nä üčün säčä sezin-ür sizlär tngri burxan yrlïqamïš ärmäz 「何故儞疑非佛所說」 2279, bar adïn sezin-ü säzlädačlär 「有餘難言」 B1299
s.-gäli 3380
s.-gülük 2617, 2945, 2951, 3238, 3564
s.-gülüki 2020, 3575
s.-güsi B1420
s.-miš 293, 2822, 2851, 2940, 2944, 2974, 3441, 3561, 3564, 3893, B237
s.-ü 1550, 2951, B123, B1299, B1860, B1934, B2005
s.-ür 1148, 1150, 2279, 3386

sï-
「破る」「砕く」「混亂する」 sï-yur öd mänggü ol tep adqandačï taš azaq nomluγlarïγ 4269; sï- tan- 「否定する」 2189, 2396, 2577, bu abidarimïγ säkiz ygrmi ni'kaytaqïlar bir ikintikä sï-yurlar tanar-lar 2189; sï- sač- 「切り散ずる」 2478, 2478, üsdürti bärü sï-p sač-ïp qavïrasïnča körgidmiš boldï 2478; sï- ketär- 「破斥する」 B1165; tüt- sï- 「破る」 4267; čxšapt sï-tačï 「破壞者」 bolmayu krgäk ög itdürmäk üzä inčip čxšapt sïtačï-lar 「應無失念而破戒者」 H29R13
s.-γalï B1002, B1169, B1170
s.-maq 2577, B1165
s.-maqlïγ 294
s.-maqlïγlar 1578
s.-maz B766
s.-miš 2480
s.-mïšï B1759
s.-p 2396, 2478, B235
s.-yu B1258
s.-yur 4267, 4269, 4282, 4287
s.-yurlar 2189

sïčï
< Chin. 四至 sim-lïγ sïčï-lïγ bolmïš täg 2563

sïγ-
「入る」「適する」 terlär tegüči savta sïγ-ar ol iki yörüglär 2172, täk ikin ara sïγ-maz üčün bir parmanu tïdïγ qïldačï adamïš ol oqsuz tep B1771
s.-ar 1528, 1559, 2172, 2903
s.-γuluq 3083
s.-masar B1723
s.-maz B1771
s.-mïšï B1731
s.-sar 816

sïγur-
「入れる」 azuča ymä kök qalïq idiš täg ärür üčün sïγur-dačï 3083; sïγur- ičgär- 「入攝する」 3191, 3195, B2206, täginmäktä ulatï köngültäki nomlarnïng yoq üčün sïγur-maq ičgär-mäklig yörügi 3195
s.-dačï 3083, 3155, B2216
s.-maq 3191, 3195
s.-mazlar 2347
s.-up B2206

sïγurš-
「容れる」 ät'öztä bar üčün üd yarmïš anïn bolur bir ikintikä sïγuruš-γalï 「身有孔隙故得相容」 H29V38

sim
< Skt. sīmā 「境界」 üč ödki alqu burxanlarnïng nomï bu sanvar čxšapt sim-lïγ üčün 2561
s.-lïγ 2561, 2563, 2564

sïmtaγ

「放逸」 basa bolmïš birägü ärur sïmtaγ-sïz bölük 「次有一種是不放逸支」 H33V46; osal sïmtaγ 「放逸」 H33V49, H37R40 qaltï kim tuγurup čïnkertü bilgä biligig öngi üdrültürdačisi ärür osal sïmdaγ bolmaqlïγ ayïγ yorïqtïn 「謂佛令生智離放逸惡行」 1292

sïn

bod sïn 「形」 H28V26 köngülnüng yoq üčün bod-ï sïn-ï töz körki 「意无形質」 B1916; bod sïn ülgü-si 「形量」 B1917, H29V28 uqïtur qïlïnč tuγmïš ödtä azu iišläšip buzulur artayur mu töz ät'öznüng bod sïn ülgüsi azu antaγ bolmaz mu 「表業生時爲要破壞本身形量爲不爾耶」 H29V20; bod sïn oxšatïγ-ï 「形類」 B1929

s.-ï bod-ï s.-ï B1916

s.-ïnïng bod-ïnïng s.-ïnïng B1914

sïn-

「伺う」 sïnan-u alqu yörüglär 485; yinčgälä-sïnan- 「分析する」 yinčgälä-yü sïnan-u bölsär adïrtlasar 484

sïngar

ičtin sïngar 「内側」 222, 226, 1408, 4437, B2201, ičdin sïngar köngülindä bar qïlmïšïn süzük kirdgünčüg 223; ičtin sïngar köngül 226; taštïn sïngar 「外側」 1255, 1259, 3086, B1598, taštïn sïngar tïlday tegli burxanlïγ küčkä tüzü tükällig 「外緣佛力普成就」 1259

sïngarqï

ičtin sïngarqï 「内側（にある）」 1251, 1252, 1256, 1264, 1269, 1261, 3085, 4386, B18, B40, B44, B48, B51, B55, B81, B84, B86, B97, B99, B102, B105, B110, B120, B122, B123, B129, B131, B132, B140, B143, B191, B204, B206, B215, B216, B218, B222, B223, B224, B225, B233, B244, B245, B246, B282, B284, B680, B681, B682, B684, B2202, H29V2 köngülnüng adï bolur ičtin sïngarqï tep 「心名内」 B40, yoqadurtuqta ičtin sïngarqï köz uyušuγ 「於無内眼結」 B680; taštïn sïngarqï 「外側（にある）」 1252, 1253, 2300, 4381, 4386, 4436, B20, B41, B83, B111, B112, B118, B124, B137, (B285), B685, B1173, B1897, B1900, B2113, B2203, H27V58, köngültäki nom bolur taštïn sïngarqï 「心所爲外」 B41

sïq-

「逼る」; yaqïn sïq- 「隣逼する」 B1540, B1542, B1553 umaz üčün alγalï yaqïn sïq-a adqanγularïγ 「以不能取隣逼境故」 B1553; sïq- tang- 「逼迫する」 4485, birök sözläsär sizlär sïq-dačï tang-dačïsï ärür tep 「若謂逼迫」 H37R20

s.-a B1540, B1542, B1553, B1694

s.-duqta B1988

s.-γalï s.-γalï tang-γalï 4485

sïqïl-

「壓せられる」; ämgän- sïqïl- 「苦逼する」 cf. ämgän-; sïqïl-maq örlätil-mäk 「苦痛」; sïqïl-tangïl- 「逼迫される」 qaltï birök tušmaz ärkänki ödtä ačmaq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüštä ulatï ämgäklär üzä sïqïl-maq tangïl-maq-ta 「謂若未遭飢渴寒熱疲欲等苦所逼迫時」（所逼迫） H37R6

s.-γalï ämgän-gäli s.-γalï B1697

s.-maq s.-maq örlätil-mäk 1188

s.-ur 4181

sïqïlïš-

yaqïn sïqïlïš- 「隣逼しあう」 ärkliglär parmanusï adqanγular parmanusï ikigü bir ikindiškä yaqïn sïqïlïš-u B1730

sïqïnïš-

yaqïn sïqïnïš- 「隣逼しあう」 ärklig adqanγu yaqïn sïqïnïš-u oqsuz B1643

sïqïš

sïqïš tangïš 「逼迫」 4481, 4483, 4493, ärür üčün alqu sïqïš tangïš-larnïng tayanγuluq orunï anïn adï bolmïš ol ämgäk tep 「是諸逼迫所依處故」 4481

s.-nïng s.-nïng tangïš-nïng 4488

sikiz

yti sikiz 「利」 yaruq yašuq yti sikiz 「明利」 B848, B853, B2159, B2161, öngsüz nomlarta uγurï yaruq yašuq yti sikiz adqanγu uγušuγ yinčürdäči isdätäči 「無色法中行相明利推度境界」 B848

singir-

「呑み込む」 ašïγ singir-gäli uγramïš ödtä B1961; singir- aša- 「呑食する」 azuča ymä bolur üčün ürlügsüzkä singir-gülük aša-γuluq 「或爲無常所呑食故」 3967

s.-gäli B1961

s.-gülük s.-gülük aša-γuluq 3950, 3951, 3961, 3966, 3967, 3968, 3973, 3975

singiš-

bir ikintikä singiš- 「相繰する」

s.-ür bir ikintikä s.-ür B1750, B1752

siparir

< Skt. sphaṭika 「水晶」「頗胝迦」 4099, 4102, B1943, B2218, ymä ök uyur üčün alγalï siparir-ta ulatïlar üzä tïdïlγuluq önglärig 「亦能取頗胝迦等所障色故」 B1554

s.-ta B1554

siz

「あなた」 2024, 2029, 2213, 2270, 2276, 2288, 2304, 2320, 2342, 2351, 2374, 2441, 2476, 3690, B338, B1103, B1108, B1152, B1156, B1876, H37R62 sanggabadre baxšï sözläsär siz 「衆賢云」 2304, nä ymä sözläsär siz sanggitapiriyay ärür abidarim tep 2476

sizlär

「汝ら」 2186, 2330, 2368, 3496, B63, B126, B141, B157, B690, B1184, B1383, H25V28 sizlär qayu abipiraylïγ yörügkä tayaqlïγïn 「汝依何義」 3496, sizlär toyïnlara kimlär usar köztä taryaryalï amranmaq azïγ 「汝等芯芻若能於眼斷欲貪者」 B690; （文末） 234, 251, 707, 708, 709, 712, 714, 714, 853, 2119, 2248, 2265, 2279, 2288, 2319, 2331, 2361, 2361, 2367, 2389, 2437, 2439, 2527, 2572, 2574, 3119, 3122, 3386, 3418, 3419, 3421, 3434, 3438, 3456, 3497, 3536, 3561, 3582, 3705, 3712, B63, B822, B1026, B1033, B1050, B1076, B1078, B1085, B1090, B1091, B1093, B1094, B1100, B1105, B1120, B1133, B1139, B1140, B1147, B1311, B1354, B1383, B1462, B1489, B1666, B1671, B1707, B1761, B1765, B1865, B2364 munda nädägin sözläyür sizlär alïr tägmištäki adqanγuγ tep B1707

s.-kä 987, 2331, 2416, 3708, B1673, H37V11

s.-ni B1258

s.-ning 3433, B51, B1264, B1635

sodayi

< Skt. sodāyin 「蘇陀夷」 bešinč uzanïp yrašï kikinč bermäk uγrïnta qayu aydïγqa qaltï sodayi šarmire-nïng ärür 「五由善巧酬答所問謂蘇陀夷」 H32V44

soγančïγ

yeg soγančïγ 「勝妙」「妙」 322, 1365, 1405, 1936, 1949, H27R32,33,37, yeg yörüglär teptemiši ärsär qaltï yeg adruq yeg soγančïγ tep yörüg'ol 1936, yertinčüdäki alqu yeg soγančïγ višaylar čïn kertü amranmaq ärmäzlär 「世諸妙境非眞欲」 H27R25

soγïq

「冷たい」 qaltï alqu qayu barïnča ton kädim aš ičgü soγïq isig-tä ulatï savlarïγ 「謂諸所有衣服飲食冷煖等事」 H36V61; süzük soγïq 「清涼」 ay tngri süzük soγïq üčün 2784, qaltï süzük soγïq

üčün 「謂清涼故」 H30V60; tumlïγ soγïq 「冷」 taqmaq üzä tumlïγ soγïq tïldaγqa B1789

soq-
「打つ」 qaltï quruγ tayaγuta ulatïlarïγ soq-up B1783
s.-maqqa B1785
s.-up B1783

soqa
「適合の」 soqa šasdrïγ 2580

sorïnčan
sorïnčan taš 「磁石」 sorïnčan taš näčä usar ymä qapγalï tägmäzkänki tämürüg 「如何磁石吸不至鐵」 B1620

sortapan
< Skt. srota-āpanna 「預流」 sortapan qut-ï 「預流果」 qaltï sordapan qud-ïnga qadïγlandačï sordapan qud-ïn bulmïš B771
s.-larnïng B604

sotiraantike
B1447 (swdyr"ndyky), see soturantike

sotirantike
B949, B1448, (swdyr'ndyky), see soturantike

soturaantike
B1378 (swdwr"ndyky), see soturantike

soturantike
< Skt. sautrāntika 「經（量）部」 soturantike nikay 「經（量）部」 2094, 2104, 2105, 2347, 2367, 2379, 2386, 2939, 2945, 2965, 4025, 4115, 4120, 4206, 4210, B970, B992, B1137, B1141, B1142, B1171, B1184, B1187, B1195, B1207, B1216, B1234, B1239, B1258, B1280, B1287, B1316, B1331, B1343, B1377, B1379, B1410, B1446, B1982, H26R2, (swdwr'ndyky ～ swtwr'ndyky), bu sodurandike nikay-lïγ baxšïlarnïng kikinči ärür 「經部師答也」 B1171,
s.-lïγ B974

sögüt
「木」「樹」 4339, 4404, 4405, 4406 qaltï xualïγ čačäklig tüšlüg yemišlig sögüd timiš täg 「如花果樹」 4339; sögüt arïγ 「樹林」 B1545; toqmaq sögüt 「杌」 B1559 yörüg tözintäkičä ärsär čïnγaru (bilmäz) üčün kišining toqmaq sögüd-nüng adïrtïn 「理又不審知人杌異故」 B1559; niyagrod sögüt 「諾矱陀樹」 qaltï yinčgäkyä uruγtïn türüp niyagrod sögüt 「如細種生諾矱陀樹」 H25R50

söki
「元の」 vardi üzä yörär üčün ol söki karikïγ 331

söz
sav söz 「言語」 969, 4020, 4114, birök munda qayu nomuγ bolsar sav söz üzä sözlägäli 4114, öngi qïrtïšï čoγï yalïnï ädgüsi ädrämi sav-ï söz-i yruqï yaltrïqï ton ditimtä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V46; köni sav söz 「正語」 1620

sözlä-
「説く」「いう」「曰く」「語る」 abidarmakoš šasdïrïγ mn inčip sözlä-yin 「對法藏論我當説」 75, näčä sözlä-sär ymä özkä asïγ qïlmaqlïγ ädgüsin 「雖説自利（德）」 1076, anïn yindäm sözlä-miš ol üčägüni taryarmaqïγ 「故唯説斷三」 1151, yïlayusïnča sözlä-miš ol bolur män tep 「假説爲我」 B16, pančadišlïγ alqu baxšïlar sözlä-r beš türlüg bolur tep 「西方諸師説有五種」 B385, bar šlokta söz-lämiš 「有頌言」（言） 1078, inčip arïdï sözlä-mämiš ol abidarimnïng ulatï vinaynïng tayaq bolmaq üzäki adïrtïn 「而竟不言阿毘達磨及毘奈耶依有差別」 2311, šlokta sözlä-miš ol 「頌曰」 1928, oluru tükätdüktä oqïyu ol balïqïγ sözlä-di

「坐已呼彼魚云」（云） 2499, šlokta sözlä-mäki ärsär ayayu aγirlayu yükünüp tegüči savïγ 「頌云敬禮者言」 1321, sanggabadire baxšï kikinč berü sözlä-r 「衆賢答云」 B1044, sav ärsär qaltï sözlä-gülük sav ärür 「言謂語言」 3985

s.-däči 122, 123, 202, 2963, 3222, 4038, 4039, B1725

s.-däčilär B1299, B1381

s.-däčilärig 2581

s.-di 147, 301, 482, 534, 603, 732, 732, 755, 854, 980, 1046, 1097, 1378, 1522, 1571, 1848, 2258, 2483, 2499, 2512, 2514, 2586, 2591, 2661, 2685, 2828, 3466, 3469, 3470, 3872, 4476, B40, B108, B172, B798, B814, B1206, B1494, B1744, B1958, B2003, B2069, B2087, B2115, B2189; s.-ti 76, 703, 881, 898, 1225, 1513, 1515, 1685, 1916, 2611, 2624, 2974, 3030, 3047, 3080, 3100, 3202, 3244, 3382, 3458, 3487, 3734, 3868, 3909, 4141, 4164, B68, B795, B810, B817

s.-dimiz B407, B416, B1980

s.-dingiz 2023

s.-dingizlär 707

s.-düktä 2088, 2596, 2654, 2671, 3078, 3890, 3896, B217, B228, B354, B357, B836, B1227, B1497

s.-gäli 173, 1634, 1774, 2243, 2418, 2463, 2526, 2732, 2886, 3019, 3120, 3327, 3595, 3762, 4023, 4050, 4053, 4096, 4104, 4112, 4114, 4122, 4555, B38, B273, B371, B379, B444, B445, B838, B1011, B1025, B1049, B1088, B1101, B1128, B1469, B1476, B1479, B1970, B2057, B2090, B2229

s.-gälir 1820

s.-gäy 1020, 2826, 3036, 3310, B1002, B1934

s.-gäylär B358

s.-gil 4224

s.-gü 343, 1806, 1807, 2621, 2623, 2646, 2956, 3689, B1237

s.-güdä 3335, 3338, 3482

s.-gülük 235, 237, 344, 360, 537, 1466, 1477, 1481, 1569, 1819, 3050, 3221, 3985, 3990, 3996, 4153, 4208, B146, B169, B989, B1223, B1421, B1602, B1727, B1727, B1880, B2126, B2297, B2401

s.-gülüküg 4037, 4039

s.-lämäk 372, 376, 502, 503, 808, 815, 817, 2352, 2383, 2649, 2653, 2965, 2978, 3235, 3239, 3240, 3605, 4282, 4286, 4317, B9, B540, B808, B1074, B1226, B1477, B1873

s.-lim 969, 2747, 2751, 2798, 2872, 2967, 3126, 3372, 3374, 3387, 3405, 3502, 3507, 3670, 3743, 4417, B209, B221, B248, B476, B727, B953, B959, B975, B988, B1176, B1188, B1196, B1209, B1275, B1281, B1370, B1451, B1467, B1611, B1619, B1711, B1729, B1755, B1765, B1770, B1813, B2090

s.-mädi 2089, 2859, 4311, B2092

s.-mädimiz 2342, 2573, 3622

s.-mädin 159, 2661

s.-mädük 2955

s.-mägäli 2527

s.-mägäy 3063

s.-mäki 87, 346, 1321, 1322, 1588, 2433, 3020, 3479, 3485, 3500, 3510, 3970, 3990, 4289, B360, B988, B1210, B1221, B1222, B1319, B2212

s.-mäkig 2337, 2638, 3477

s.-mäklig 2654

s.-mäkning 3014

s.-mämäki 170, 776

s.-mämiš 33, 110, 774, 786, 807, 1629, 1630, 1776, 1812, 1850, 2311, 2435, 2447, 2613, 2639, 2683, 2965, 3384, 4074, 4559, B1338, B2181, B2411

s.-mäsär 370, 373, 2412

s.-mäti 30, 2610, 2614

s.-mäz 2253

s.-miš 36, 40, 43, 49, 60, 95, 142, 169, 218, 246, 333, 338, 393, 394, 415, 532, 543, 607, 619, 664, 687, 692, 723, 725, 728, 730, 756, 779, 782, 788, 795, 800, 820, 849, 854, 883, 915, 924, 935, 946, 1031, 1067, 1078, 1110, 1118, 1120, 1125, 1127, 1131, 1133, 1151, 1159, 1161, 1165, 1166, 1172, 1173, 1180, 1221, 1227, 1231, 1234, 1271, 1278, 1287, 1290, 1304, 1350, 1361, 1370, 1513, 1550, 1555, 1557, 1570, 1594, 1600, 1602, 1606, 1616, 1617, 1628, 1706, 1812, 1868, 1923, 1926, 1928, 1969, 2032, 2036,

2054, 2061, 2063, 2121, 2126, 2148, 2149, 2176, 2282, 2305, 2320, 2434, 2450, 2459, 2462, 2475, etc., B1, B3, B5, B16, B17, B27, B56, B78, B79, B116, B145, B154, B155, B164, B166, B182, B183, B197, B219, B227, B229, B231, B243, B256, B266, B293, B298, B316, B351, B359, B369, B378, B399, B425, B430, B438, B445, B457, B460, B461, B490, B493, B495, B499, B502, B504, B514, B515, B543, B572, B619, B648, B726, B742, B780, B801, B804, B830, B853, B878, B965, etc.

s.-miši 64, 527, 978, 983, 986, 1038, 1258, 1563, 2002, 2049, 2445, 2447, 2530, 2538, 2835, 2874, 2892, 3117, 3191, 3483, 4116, B15, B1283, B1285, B1413, B1855, B2063

s.-mišig 3594, B2250

s.-mišimiz 1665

s.-mišin 1868, 3389, B617, B1215, B1832, B1833

s.-mišindä 4209

s.-mišining 137, B1823, B1991

s.-mišintä B1404

s.-mišintäkičä B1828, B1856

s.-mišingiz 2326, 2708, B1848

s.-mišingizlär 694, 1993, 2280, 2294, 2439, 3293, 3295, 3723, 3741, 4070, 4155, B107, B191, B1064, B1521, B1515, B1654

s.-mišingizlärning 4077, B52, B757

s.-miškä B231, B233, B2005

s.-mišlär B611, B1110, B1150

s.-mišläri B1322

s.-mišläringä 2821

s.-p 24, 30, 33, 79, 175, 357, 369, 373, 380, 785, 811, 1332, 1972, 1977, 1978, 2464, 2472, 2596, 2598, 2623, 2633, 2637, 2827, 2937, 2951, 2959, 2962, 2969, 3066, 3068, 3079, 3520, 3591, 3593, 3892, 3897, 3906, 3928, 4314, 4566, B8, B110, B123, B842, B1853, B2091

s.-r 18, 71, 79, 80, 86, 221, 225, 460, 449, 483, 678, 694, 975, 981, 1320, 1325, 1706, 1731, 1757, 1805, 1811, 1867, 1892, 1988, 1993, 2106, 2200, 2224, 2233, 2280, 2385, 2389, 2395, 2410, 2414, 2436, 2426, 2433, 2438, 2444, 2446, 2448, 2462, 2481, 2507, 2510, 2516, 2518, 2525, 2533, 2540, 2541, 2547, 2553, 2559, 2569, 2573, etc., B37, B381, B385, B590, B664, B693, B833, B836, B921, B949, B950, B971, B972, B974, B1004, B1016, B1044, B1064, B1108, B1176, B1180, B1194, B1205, B1214, B1256, B1258, B1300, etc.

s.-sär 61, 125, 172, 234, 332, 355, 575, 581, 708, 709, 712, 960, 968, 974, 1065, 1076, 1087, 1612, 1623, 1686, 1770, 1774, 1906, 2024, 2029, 2176, 2213, 2231, 2244, 2248, 2265, 2270, 2276, 2288, 2288, 2304, 2320, 2342, 2351, 2366, 2374, 2386, 2389, 2420, 2422, 2424, 2436, 2439, 2441, 2461, 2469, 2473, 2476, 2527, 2544, 2556, 2617, etc., B126, B141, B157, B163, B171, B192, B376, B556, B647, B650, B765, B813, B1026, B1033, B1050, B1059, B1076, B1078, B1085, B1090, B1091, B1093, B1094, B1100, B1103, B1108, B1120, B1133, B1142, B1146, B1152, B1156, B1311, B1394, B1462, B1482, B1489, etc.

s.-särsizlär 2553, 3184, B1083, B1087, B1534

s.-yin 75, 1545, 1556, 1567, 1570

s.-yü 911, 1505, 1577, 2009, 2470, 2508, 2571, 2853, 3257, 3429, 3590, 3593, 3861, 3862, 4037, 4039, 4315, 4550, B113, B188, B414, B749, B841, B850, B947, B1353, B1560, B1849, B1850, B1935

s.-yür 251, 714, 1580, 1704, 1855, 1980, 2091, 2098, 2119, 2194, 2421, 2556, 2571, 2876, 2902, 2903, 2904, 2904, 2917, 2921, 3066, 3183, 3336, 3339, 3497, 3504, 3506, 3536, 3690, 3714, 3992, 4116, B338, B415, B822, B1105, B1139, B1170, B1706, B1761, B1864, B2364

s.-yürbiz B746

s.-yürlär 641, 1890, 4272, B1886

sözlägüči

「所説の」「所言の」「説く（もの）」 162, 653, 659, 660, 706, 941, 2094, 2202, 2247, 2346, 2379, 2395, 2449, 2523, 2524, 2535, 2687, 2915, 2945, 3033, 3044, 3089, 3093, 3278, 3462, 3511, 3537,

3612, 3667, 3999, 4030, 4049, 4107, 4188, 4261, 4298, 4310, 4330, 4463, 4536, B246, B382, B419, B420, B431, B614, B803, B956, B1167, B1190, B1289, B1378, B1840, B1862, B1876, B1884, B1906 qavïrasïnča qayu sözlägüči üč türlüg edigsizlärtä kök qalïq täk tüdïysïz tözlüg ärür 「於略所說三無爲中虛空但以無礙爲性」 3093, qaršï bolγu kärgäk pirakaranapat šasdrta sözlägüči-kä 「應違品類足論所說」 3988, qaltï üsdün sözlägüči 「如上所言」 1167

s.-g 4162, B2044

s.-kä 3988, 4012, 4023, 4029

s.-ni 4179

s.-ning 2954

s.-tä 432, 3010, 3594

sözläl-

「說かれる」 sav üzä sözläl-mäki 4045

sözläšgüči

「言い合うもの」 tigiräšü sözläšgüči-lärtä B1381

sudur

< Skt. sūtra 「經」「契經」「素怛纜」 1797, 1799, 2004, 2203, 2204, 2228, 2236, 2241, 2252, 2274, 2307, 2320, 2325, 2391, 2392, 2399, 2417, 2434, 2438, 2440, 2471, 2516, 2520, 2522, 2892, 3471, 3477, B1215 vinaytaqï ulatï sudur-taqï ol bolur yeg adruq 「於律及經彼爲殊勝」 2225, sudur-ta yrlïqamïš üčün yalnguzïn yorïdačï tep 「經說獨行故」 B179, ödrü qodulγu tidilgü kärgäk ülgülänčsiz sudur-lar 「便應棄捨無量契經」 2251, qaltï sudur-ta yrlïqamïš ol 「如契經言」 B690, tudunglar sudur-uγ ulatï vinay-ïγ madark-ïγ 「持素怛纜及毘奈耶摩怛理伽」 2444; sanggïdapiriyay sudur 「集異門經」 2217; daša'utar sudur 「十上經」 2237; pratimokš sudur 「別解脫經」 2247; saptabau sudur 「七有經」 2411; sudur-luγ ülgü 「經量」 2186, 2305, 2313, 2324, 2375, 2379 adï ködrülmiš yindäm ödlämiš üčün tayanïnglar sudur-luγ ülgü-kä tep 「世尊唯勸依經量故」 2324

s.-lar 2251, 2306

s.-larnïng 2377, 2399, 2407

s.-larta 2145, 2238, 2348, 2350, 3482, 3952

s.-luγ 2186, 2305, 2313, 2324, 2375, 2379

s.-nung 1994, 2274, 2277, 2310, 2322, 2327, 2359, 2376, 2378, 2409, 2441, 2441, 2871, 3497, 4225, 4417, B1252

s.-qa 2310, 2316, 2363, 2364, 2370, 2372, 2383, 2404, 2414, 2875, 3176

s.-ta 59, 894, B74, 941, 1406, 1674, 1996, 2006, 2009, 2047, 2185, 2217, 2224, 2237, 2252, 2290, 2330, 2343, 2357, 2383, 2385, 2444, 2470, 2471, 2859, 2876, 3392, 3466, 3475, 3479, 3484, 3528, 3554, 3900, 3902, 3958, 4033, 4035, 4042, 4046, 4219, 4242, 4251, 4384, 4413, 4430, 4472, 4495, 4567, B2, B3, B6, B7, B9, B179, B607, B679, B690, B1021, B1206, B1210, B1217, B1221, B1226, B1228, B1246, B1248, B1259, B1265, B1483, B1488, B2072, B2082, B2084, H25R13,23

s.-taqï 2141, 2225, 2287, B1208

s.-uγ 1801, 2154, 2217, 2237, 2253, 2256, 2278, 2332, 2355, 2411, 2413, 2416, 2444, 3464, 4078, B6

sudura

< Skt. sūtra 「契經」 2332

sun-

「延ばす」 sun-up kön nom nomlamaqlïγ ong eligin 1216

s.-up 1213, 1216

suqluq

「色」; süzuk suqluq 「淨色」 qaltï tört mxabutlartïn bolmïš süzük suqluq ärür köz 「謂四大種所造淨色是眼」 H28R7

suv

「水」 1115, 3164, 4291 suv üzä imlälmiš topraqïγ 「水浸於土」 1115, qaltï suv-tïn törümiš-i täg buz

「如従水生（氷）」 B1787; suv tilgän-i 「水輪」 3164, 3165; az suv 「食水」 1123; miyi suv-ï 「腦垢」 B1961, B1964, B1967

s.-ï B1961, B1964

s.-ïnïng B1967

s.-qa 2814

s.-ta 2814

s.-taqï B1787, B2215

s.-tïn B1787

s.-uγ H36V9

suzaq

「村」 amtï bu yolqa tayaqlïγïn bolur täggäli andaγ suzaq-qa andaγ orunqa 3983; suz-aq känt 「村落」 「村邑」 qaltï suzaq-ïγ känt-ig ulatï suzaq-nïng känt-ning tägräsisin yumtaru adamïš täg suzaq känt tep 「譬如村落及村落邊總名村落」 H28R38, qaltï suzaq-nïng känt-ning yaqïnï bulmïšï täg suzaq känt tegüči adïγ 「如近村邑得村邑名故」 H31R36

süčig

「甘い」「甘く」 511; süčig tatïγ 「甘い」 avïrda analarnïng süčig tadïγ-lïγ aš ičgülärig išlädip ilgündürmäklärі ärsär ät'özin 「乳母甘饍用資身」 1079

süt

「乳」 3890, 3941, 3942 kälmädük ödkisingä tïdïγ yoq süd täg odung täg 「未來無妨如乳如薪」 3941

s.-tin 69

süz-

amïrtγur- süz- 「澄淨にする」 öngi üdrülmäk üzä säkiz türlüg ada tudalarta köngülüg amïrtγur-dačï süz-täči üčün 「離八災患心澄淨故」 H39V12

süzük

「清淨（の）」 223, 227 tuγurzunlar süzük kirdgünč köngülüg 196; arïγ süzük 「清淨」 1042, 1899, H35V13; süzük soγïq 「清涼」 2784 qaltï süzük soγïq üčün 「謂清涼故」 H30V60; süzük ödvi 「清徹」 4102, B1933, B1937, B1942 süzük ödvilig ördüglüg ördülmiš üčün kim bölülmäz sačïlmaz 「清徹瞙翳令無分散」 B1933; süzuk suqluq 「淨色」 qaltï tört mxabutlartïn bolmïš süzük suqluq ärür köz 「謂四大種所造淨色是眼」 H28R7; süzük kertgünč 「淨信」 H32R11

s.-in arïγ-ïn s.-in 1911

Š

šariputre ～ šriputre

< Skt. śāri-putra 「舍利子」 šariputre 904, 905, 2006, 2112, 2117, 2217, 2237, 2256, H27R30, 36, H28R61, šriputre 898, šaripudre-ta ulatï alqu maxa širavaklarnïng 「舍利子等諸大聲聞」 2074, ayaγqa tägimlig šariputre arxant muntaγ tep sözläti 「尊者舍利子作是言」 H28R22

š.-ta 2074

š.-ya 895

šarmiranč

< Toch.B * ṣarmirāñca cf. Toch.B ṣanmirāñca 'novice (nun)' Adams(1999) p.648. šarmiranč sanvar-ï = Skt. śrāmaṇerī-saṃvara 「勤策女律儀」 H30R28,39,52 kim öngräki šarmire sanvarïnïng adï bolur šarmiranč sanvar-ï tep 「令本勤策律儀名勤策女律儀」 H30R51

šarmire

< Toch.B ṣarmire (～ ṣanmire) 'novice(nun)' (< BHS śrāmaṇera Adams (1999) p.648) šarmire sanvar-ï = Skt. śrāmaṇera-saṃvara 「勤策律儀」 H30R28,38,51,59, H30V26, H32V44 ornatïp uqïtmïš ol üčünč šarmire sanvar-ïn 「安立第三勤策律儀」 H30V47, cf. šarmiranč.

šastr ～ šastir

< Skt. śāstra 「論」 65, 76, 106, 158, 188, 205, 207,

212, 213, 215, 257, 264, 287, 299, 301, 301, 303, 309, 318, 320, 329, 335, 475, 498, 1317, 1547, 1554, 1557, 1559, 1566, 1568, 1569, 1586, 1587, 1691, 1761, 1901, 1915, 1947, 1948, 1953, 1958, 1959, 1965, 1967, 1972, 1977, 1980, 2171, 2242, 2416, 3058, 3061, 3062, 3062
š.-ïγ 15, 21, 23, 102, 154, 167, 236, 246, 290, 299, 1545, 1556, 1569, 1570, 1574, 1585, 1918, 1926, 1952, 1969, 2107, 2108, 2109, 2110, 2112, 2115, 2117, 2580; šastir-ïγ 74, H28R32
š.-inïng 210, 1985
š.-lar 291, 1687, 1692, 1752
š.-larïγ 209, 1572, 2328
š.-larnïng 1575, 1760, 2340
š.-larta 3062
š.-lartaqï 287
š.-lïγ 1954
š.-nïng 91, 147, 153, 160, 176, 178, 195, 203, 214, 219, 227, 234, 240, 254, 401, 402, 407, 421, 477, 1234, 1572, 1917, 1944, 3057, 3075, 3491; šastir-nïng B1968
š.-qa 1573, 1940, 1950, 1953; šastir-qa B647
š.-ta 25, 62, 63, 75, 83, 85, 91, 102, 119, 120, 138, 142, 151, 163, 168, 242, 338, 447, 482, 543, 602, 664, 687, 723, 725, 728, 730, 849, 853, 854, 880, 935, 1148, 1174, 1221, 1225, 1370, 1555, 1557, 1593, 1774, 1775, 1868, 1916, 1923, 1925, 1928, 1937, 1966, 1968, 1975, 1986, 2053, 2121, 2149, 2170, 2365, 2590, 2687, 2829, 2844, 3110, 3390, 3401, 3487, 3552, 3654, 3868, 3909, 3930, 3940, 3956, 3963, 3966, 3988, 3990, 3994, 4002, 4012, 4023, 4029, 4132, 4163, 4226, 4230, 4235, 4239, 4256, 4321, 4426, 4442; šastir-ta 2840, B14, B256, B266, B290, B316, B360, B364, B618, B648, B877, B965, B1499, B1709, B1764, B1782, B1833, B1865, B1941, B1944, B2063, B2174, B2247, B2250, B2281, B2403, B2416, H28R2,5, H29V25
š.-taqï 2, 3, 164, 319, 325, 861, 1794, 1931, 1935, 1939, 1949, 1952, 3065, 3095, 4005, 4584, 4585, B1823; šastir-taqï B1778, B1812, B1917
šastir-ï 2829
šastir-ïnda 2832

šastrakare ～ šastirakare
< Skt. śāstra-kāra 「論書の著者、論主」 šastrakare 1962, 2034, 2890, šastirakare 12, 80, 85, 185, 452, 494, B1445, abidarmikelïγ alqu uluγ šastirakare baxšïlar 「阿毘達磨諸大論師」 B693

šastraside
< śāstra-siddha 「論に精通した」 šasdraside vasubandu baxšï sözlär 980 (š'sdr-'-sydy)

šastrčï
「論師」 alqu šasdrčï-larta qamaγta yegi vasubandu baxšï ärti 207

šašuq
šašuq yangluq 「亂れた」 2013

šazin
< Skt. śāsana 「教」 nom šazin 「法教」 nomuγ šazin-ïγ ür keč turγuryu üčün 16

še
< Chin. 聲 var čün še 「八轉聲」 4354, 4392

šeg
< Chin. 釋 luγ li qab šeg 「六離合釋」 4355, 4393

šïmla-
「浸す」
š.-duqta 1014, cf. 1014, note

šikšamani
< Skt. śīkṣamāṇā 「正學」 H30R39; šikšamani sanvar(-ï) < Skt. śīkṣamāṇā-saṃvara 「正學律儀」 H30R28 azuča ymä šarmiranč sanvar-ïnïng ulatï šikšamani sanvar-ïnïng atï bolur šarmire sanvar-ï tep

「或勤策女律儀及正學律儀名勤策律儀」 H30R52

ši-i
< Chin.濕衣 ši-i ton 2806, 2807, 2812
cf. 2806 note.

širavak
< Skt. śrāvaka 「聲聞」 630, 862, 865, 1283 širavak-lar piradikabudlar näčä taryarsarlar ymä 「聲聞獨覺雖滅諸冥」 855, širavak-ta ulatïlarnïng bilgä biligi barčanï bilmäz ödgürmäz 「聲聞等智皆不了達」 940, šaripudreta ulatï alqu maxa širavak-lar-nïng 「舍利子等諸大聲聞」 2074
š.-lar 656, 657, 747, 799, 801, 803, 804, 855, 870, 931, 949, 2127, 2220, 2248, 2252, 2254, 2329, 2344
š.-larnïng 592, 659, 873, 902, 1000, 1017, 1348, 1349, 2074
š.-larqa 821
š.-larta 958
š.-ta 629, 874, 881, 899, 916, 918, 924, 940, 953, 996, 2130

širilate ～ širalate
< Skt. śrīlāta 「室利羅多」「勝受」(經量部の師) širilade baxšï sezik qïlu vaybaš baxšïlarqa B1300, širalade baxšï muntay tep adqanur 「有餘部師作如是執」 H36V48

šlok
< Skt. śloka 「頌、偈」 71, 911, 1324, 2130, 2140, 2141, 2144, 2156, 2168, 2171 šlok-ta sözlämiš ol 「頌曰」 1928, šlok sözläyü yrlïqadï 「說偈言」 911; ïnanmaq üzä ayïr ayay qïlmaqlïy šlok 「歸敬頌」 358
š.-nung 961, 963, 2347
š.-ta 64, 338, 352, 358, 393, 489, 527, 935, 946, 1038, 1067, 1078, 1090, 1097, 1258, 1271, 1290, 1321, 1332, 1512, 1515, 1563, 1587, 1594, 1600, 1616, 1685, 1928, 2036, 2170, 2345, 4242; š.-da 1458
š.-uy 1586, 2334

širi karani
< Skt. śrī kālakarṇī 「吉祥・黑耳」 širi karani birlä birlä bolurï uqulmïšï täg 「如示室利與黑耳俱」 SE23, cf. karana

šmnanč
< Sogd. šmn'nc = Skt. śrāmaṇerī 「尼」 3469, 3470, 3502; darmadine šmnanč 「法授尼」 3502
š.-qa 3467

šmnu
< Sogd. šmnw 「魔」; tört türlüg šmnu-lar-ïy 「四種魔」 524
š.-y 525, 526
š.-lar-ïy 524

šu
(願望・命令表現の小詞) 622, 3978, B1659 ün šu bolzun amrïlmaqï 「聲可息」 B1659, birök tutulsar šu säkiz koošlardaqï yörüglärning kärgäklig tügünin yumdarïp uqïtzun D23

šudi
< Skt. śuddhi 「清淨」「淨」 šudi xua-sïn 「香菱花」 B1927

T

ta
(位格表示接尾辭) ta vibakti 「依格」「位格」「所依聲」 563, 3287, 4575 yetinč ta vibakdi üzä yörmiš kärgäk 3287

tay
「山」 1980 körür üčün tay-ta ulatïlarïy 「見山等」 B1546; čakiravar tay 「鐵圍山」 2562, yinčürü töpün yükünürmn adï ködrülmišlig qamay ädgülüg tay-qa 「稽首薄伽衆德山」 10

t.-qa 10
t.-ta B1546, B1888, B1913

taytïn
「北」 qaltï bolur bilmäk uqmaqï bu küntin-ki taytïn-qï ol tep ulatï ïraq yaqïn bulung yïngaq taqï adïrt öngi ünüg yangquγ 「謂可了知此南北等方維遠近差別音聲」 B1574; taytïn yïngaq 「北方」 B1879 ～ taytïn bulung yïngaq ketin taytïn bulung yïngaq-taqïsï ymä ök yänä ančulayu oq ärür 「南西北方亦復如是」 H27V29

taluy
「海」 2056 alqu nizvanïlar uyur kim yerdinčüg qalanguladγalï tägzindürgäli sansarlïγ uluγ taluy-ta 「諸惑能令世間漂轉生死大海」 2043; taluy ögüz 「海」 11, 2490 tuγup taluy ögüz-tä tägindi uluγ balïq ät'özin 「生於海中受大魚身」 2490; bolmaqlïγ taluy 「有海」 2039, 2102 nizvanïlar uγurïnda yerdinčü qalngulayur bolmaqlïγ taluy-ta 「由惑世間漂有海」 2039; ämgäklig taluy 「苦海」 qaltï körüp tïnlγlarnïng batmïšïn qamaγ ämgäklig taluy-ta 「謂觀有情沒衆苦海」 H39R29
t.-nung 2498
t.-ta 2039, 2043, 2055, 2102

tam
「壁」 3155, 3156, 3156 qaltï tam-ta ulatïlar yemrilsär tüšsär kök qalïq yänä közünür 3152
t.-ta 3149, 3152, B1791, B1807

tamdur-
「燈す」 qaltï yula tamdur-γalï uγraduqta B819

tamïzïm
「滴」 tüpütin bir tamïzïm miyi suvï tüšüp turup B1961, qaltï tngritin yaγmur yaγmïš täg tamïzïm qaltï qanglïnïng čuγïnča 「譬如天雨滴如車軸」 H27V25

tamu
「地獄」「那落迦」 H27V52 mn alqa tükädtim tamu-γ 「我已盡那落迦」 B608, ol oq tamu-luγta ulatïlarïγ öz adlarïnča sözlämiš ol 「即地獄等如自名說」 H27V50; aviš tamu 「無間地獄」 2066, 1178, H36R59 tïnlγlar üsdün bavagirtïn aldïn aviš tamu-qadägi tägzinü tulïnu 1178; piratapan tamu 「熱地獄」 B1983
t.-γ B608, H28R30
t.-luγ H28R23
t.-luγlarnïng H28R8
t.-luγta H27V46
t.-qatägi 1178, 2066
t.-ta B1983, B1988, H28R14

tan
yïd tan 「香」 yït-lïγ tan-lïγ xuaγ küncit yaγïnga šïmladuqta 1014
t.-ï yïd-ï t.-ï 1015
t.-lïγ yïd-lïγ t.-lïγ 1014

tan-
「否定する」 munta yänä tetrü sezik qïlmïš krgäk tan-ïp yoq tesär sizlär mängig qayunung adï bolur ämgäk 「且應反徵撥無樂者何名爲苦」 H37R19, tan-ïp yoq teyür bilmätin öčmäkig 2996; sï- tan-「否定する」 säkiz ni'kaytaqïlar bir ikintikä sï-yurlar tan-arlar 2190
t.-arlar sï-yurlar t.-arlar 2190
t.-ïp 2996, 4280; sï-p t.-ïp 2396
t.-maqlïγ sï-maq t.-maqlïγ 2577

tanču
tanču aš 「段食」 H27R22

tanqar-
išläš- tanqar- 「要期する」 H32V60,62, H33R32 tägimlig ol näčä tänglig ödtä išläš-ip tanqar-ïp inčip tägingäli 「應齊幾時要期而受」 H32V56, ölmištä ken näčä bolsar ymä iišläš-mäk tanqar-maqï

inčip umaz tuyurγalï pratimokš čxšapt 「於命終後雖有要期而不能生別解脱戒」 H33R6
t.-γalï iišläš-gäli t.-γalï H33R42
t.-ïp iišläš-ip t.-ïp H33R48

tanqarïγ
tanqarïγ küsüš 「誓願」 bodistvlarnïng tanqarïγ-ï küsüš-i 1059

tanuq
「證」「證據」 853, 1680, 2326, 2436, 2509, 2571, B6, B185, B227, B1550, B1626, B2177 tegüči tanuq ärür köznüng yintäm alïrïnga tägmištäki ärmäz adqanγularïγ 「證眼唯取非至境者」 B1550
t.-lar 2473, B1595
t.-unguzlar B185

tanuqla-
「證する」 tuγmaqsïz törün tanuqla-yu yrlïqamïš üčün 「證不生法故」 731, tanuqla-γu kärgäk alqu taryaryuluq alqu nizvanïlarnïng öčmäkin 「應證一切所斷諸煩惱滅」 3403; tanuqla- ötgür- 「證明する」 893; tanuqla-p bul-「證得する」 ïraq öngi üdrülüp badačï bayïndïn tanuqla-p bul-mïš qudrulmaqnïng adï bolur bilip öčmäk tep 「遠離繫縛證得解脱名爲擇滅」 3216
t.-dačï 3355
t.-duqta 3544
t.-γalï 893, 4136
t.-γu 3403, 3421, 3428
t.-γuluq 3424, 3540
t.-lamïšïnïng 3512
t.-maduqï 3541
t.-maduqïnïng 3542
t.-maq 3430
t.-maqï 3522, 3550
t.-maqïγ 1073, 2628
t.-maqlïγ 3432
t.-maqqa 1077
t.-mïš 3297, 3401, 3408, H26R1
t.-p t.-p bul- 3216, 3409, 3414, 3415
t.-yu 610, 612, 666, 672, 688, 731, 751, 3538, 3542, 3547, 4398
t.-yur 3325, 3413, 3419, 3527, 3719, 3794
t.-yurlar 894, 1065

tanuqlat-
「證させる」 yïlayu abidarim umaz yaqïn yaγuq tanuqlad-γalï nirvanïγ 1910, biri biri ödläp äriglläp ozyurup qutγarïp sansïz saqïššïz tïnlylarïγ kim tanuqlat-sarlar ymä qalïšïz nirvanlïγ uyušuγ inčip tüpükmäz alqïnmaz inčä qaltï kök qalïγ täg 「——化度無數有情令證無餘般涅槃界而不窮盡猶若虛空」 H27V19

tanuqluq
qaršï tanuqluq 「違證」 2193, 2196, 2568, 2572
nädägin qaršï tanuqluq ärür 「如何違證」 2193; qaršï-sïz tanuqluq 「無違證」 2197
t.-ï qaršï t.-ï 2182, 2303
t.-ïn qaršï t.-ïn 2574

tang
tang-ta ertä 「晨旦」「旦」 H33R62, H33V24
bačaq sanvarïγ tang-ta ertä tägingülük ol 「近住律儀於晨旦受」 H33R65, birök tang-da ertä tüïγ tïltay bolsar bačaq ärdtüktä ymä ök bolur tägingäli 「若旦有礙緣齋竟亦得受」 H33V4

tang-
sïq- tang- 「逼迫する」 birök tamuta qamaγ ämgäklär sïq-duqta tang-duqta B1988, birök sözläsär sizlär sïq-dačï tang-dačïsï ärür tep bar bolur tükädmäk üzä ögirtdürtäči yasïltdurdačïsï mängining barï bütgü krgäk 「若謂逼迫既有適悅有樂應成」 H37R20
t.-duqta sïq-duqta t.-duqta B1988
t.-γalï sïq-γalï t.-γalï 4485

tangïl-
sïqïl- tangïl- 「逼迫される」 qaltï birök tušmaz

ärkänki ödtä ačmaq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüštä ulatï ämgäklär üzä sïqïl-maq tangïl-maqta 「謂若未遭飢渇寒熱疲欲等苦所逼迫時」 H37R6

tangïš

sïqïš tangïš 「逼迫」 ärür üčün alqu sïqïš tangïš-larnïng tayanyuluq orunï 「是諸逼迫所依處故」 4482

t.-larnïng sïqïš t.-larnïng 4482, 4483

t.-nïng sïqïš t.-nïng 4493; sïqïš-nïng t.-nïng 4488

tapča

ärkčä tapča 「自在」 528, B69, B70, B174, B175, B189 turqaru öz adqanyusïnta ärkčä tapča yorïyur 「恆於自境自在行」 B69

tapčalïγ

「有垢」 4461

tapï

tapï 「欲」 yükünüp čïnkertü tözlüg baxšïqa tapï-ng nägü qïlγuluq teptesär abidarmakoš šasdrïγ mn inčip sözläyin 「禮如理師欲何所作對法藏論我當說」 1544; tapï bol- 「欲する」 birök tapï bol-sar čïnγaru tïnglayuluq tägimlig ärmäz ämgängäli sïqïlγalï 「欲審聽者遮其苦逼」 B1696

t.-ng 1544, 1554, 1569

tapïγ

tört türlüg tapïγ 「四事」 ikinti tapïnγu udunγu üčün törttin yïngaqtïnqï bursanglarqa qïlïp sangram bušï bersär yemišlik arïγ tört türlüg tapïγ-ïn tapïnsar udunsar 「二爲供養四方僧伽造寺施園四事供給」 H35V45

tapïn-

tapïn- udun- 「供養する」 učuz ongay tapïn-γuluq udun-γuluq nomnïng adï bolur köni nom tep 1205, ang'ilki tapïn-γu udun-γu üčün ančulayu kälmišlärning sanvarïnga turγursar ästup öngrä turγurmaduq orunta 「一爲供養如來馱都建窣堵波於未曾處」 H35V41; aya- tapïn- 「敬養する」 ančulayu ymä uluγ baxšïnïng ärtä baru tükädmiš ärsär ymä istäyü tiläyü aya-sar tapïn-sar turγursar ät'öztäki tiltäki qïlïnčïγ 「如是大師雖已過去追伸敬養起身語業」 H35R8

t.-γuluq t.-γuluq udun-γuluq 1205

t.-ïp t.-ïp udun-up 1318

tapïrqan-

taplatïl- tapïrqan- 「許される」「滿足する」～ tapla- tapïrqan- adï ködrülmiškä tapla-γuluq tapïrqan-γuluq bolmïšï ärsär adï bolmaz tngri burxan yrlïqamïš tep 「若佛所許不名佛說」 2249

t.-dï tapla-dï t.-dï 2223

t.-γuluq tapla-γuluq t.-γuluq 2216, 2218, 2249, 2255

t.-madïn tapla-madïn t.-madïn 2199

t.-mamïšïn tapla-mamïš t.-mamïšïn 2173, 2176

t.-maz tapla-maz t.-maz 2179

tapïrqanïl-

taplatïl- tapïrqanïl- 「許される」 tngri burxanqa tapladïl-mïš tapïrqanïl-mïš üčün 2221

tapla-

「許す」「認める」「滿足する」「可とする」 ärü ärü tapla-p ävtin barqtïn ündürüp 「遂許出家」 910, sizlärkä odγuraq tägimlig ol tapla-γalï 「彼定應許」 B1673, yerdinčütäkilär yumγïγun taplamïšlar ol köz biligi ärür kördači tep 「世間同許眼識是見」 B1337, qayu tïltaγïn tapla-maz sizlär kälmädük ödtä bolur tüz arasïz basutcï 「何緣不許未來世有等無間緣」 H25V28 öngi bïšmaq tözlüg öng üzültüktä tapla-γu krgäk ikiläyü ulalur 「異熟色斷應可更續」 H29V23, tapla-γuluq tïltaγï öčmiš ödtä tüši anïlayu oq ulalïp turur 「可因滅時果仍續起」 H29V53; tapla- tapïrqan- 「許される」 2216, 2218, 2222, 2249, 2255, see tapïrqan-; säv- tapla- 「慕う」「樂しむ」 birök tïnlγlarta säv-ä tapla-γu

ädgüg tilätäčilär ärsär uyurlar bïšrunup ädgü ögli köngüllüg dyanïγ kim trk tavraq bütürgäli 「若於有情樂求德者能修慈定令速疾成」 H39R19

t.-dï 2222

t.-γalï B1673

t.-γu 2321, B129, B190

t.-γuluq 2216, 2218, 2249, 2255

t.-madïn 2199; t.-amatïn 2231

t.-mamïš 2173, 2534, 3377, 4210, B1828, B1830, B1987, H38R71

t.-mamïšïn 2175

t.-mamïšqa B1832

t.-maq 2321, B1307

t.-masar 3700, B1857, B1883, H36V2

t.-matï 907

t.-mayu H30V17

t.-maz 2179, 2536, 3705, B1354, B1825

t.-mïš 870, 1122, 1676, 1679, 2317, 2485, B263, B1671, B1775, B1777, B1870

t.-mïšï 2264

t.-mïšlar B1337

t.-mïšlarï 1346

t.-p 910, 1676, 3699, B113, B1071, B1832

t.-sar 2416, 3703, B1081, B1480, B1752, B1851, B1870

t.-yu 2195, 2257, 2262, B265, B587, B1180, B1185, B1261, B2144

t.-yurlar B279, B1449

taplaγ

「許可」「忍」「宗（派）」 1428, 2201, 3412, B602, B644, B649, B730, B816, B818, B827, B967, B1823 abidarim odyuraq ärür tngri burxan yrlïqamïš temäk taplaγ ärür「阿毘達磨是佛所許」 2201, nä ymä sözläsär sizlär alqu ni'kaylartaqï abidarimlarnïng yörüglări taplaγ-larï adïrïlmïš üčün「所言諸部阿毘達磨義宗異故」 2390, qaršï bolur üčün öz taplaγ-qa「便違自宗」 B262, munï üzä ötrü qarïšmïš ärtmiš bolur vaybaš šastirtaqï taplaγ-tïn「是則違越毘婆沙宗」 H29V25, bizing taplaγ-ïmzqa tayaqlïγïn tägimlig ol muntaγ tep sözlägäli「依我所宗應作是說」 H34V62; ämgäktä nom bilgä bilig taplaγ「苦法智忍」 643, 650, 698, H26R13; ämgäktä nom taplaγ tuš-ï「苦法忍位」 B644, B649, B730

t.-ï 3384, B1141, B1378, B1410

t.-ïγ 3848, B776

t.-ïmïzta B1180

t.-ïn B1892

t.-ïnča B1141

t.-ïndaqïča 4120

t.-ïnta B263, B279, B450, B1311, B1352, B1415

t.-ïnga 2001

t.-ïngïzlar B1309

t.-ïngïzlarqa B1306

t.-ïngïzlarta B1184, B1307

t.-lar 2181, 2188, 2393, 2552

t.-larï 1276, 2390

t.-larïnïng 761

t.-nïng 3829

t.-qa B262, B1414

t.-tïn 643, 698, 3416

taplal-

「引く」 H34V60, 61 azu bir qïlïnč uyrïnta täk taplal-ur bir tuyum mu azu taplal-ur üküš tuyum mu「爲由一業但引一生爲引多生」 H34V57,58

taplan-

「許される」 öngdün sözlädi ärdi parmanuγ taplan-mamïš ol bir ikindikä büridüšür tep B1744

t.-mamïš B1744, ärür bizing taplan-maqï「是我所宗」 H29R16

t.-mazta H33R28

t.-sar 3366

taplatïl-

「許される」「可し」 tngri burxannïng ïduq yrlïγï eyin sanggit qïlmïš ärür abidarimïγ ärür üčün tngri burxanqa tapladïl-mïš「隨佛聖教結集對法是佛所許」 2227, iki uč kïtïγlarta ölü ölgінčäligi

taplatïl-ur antaγ bolzun 「二邊際中盡壽可爾」 H33R5
t.-γuluq B1606
t.-maz 230, 2380, 2387, H33R29
t.-mïš 2221, 2227, 2231, 2246, 2262, 2381, 2387, B1124
t.-tï B1098
t.-ur 2545, 4083, 4359, 4455, B1053, B1704, B1862

taq-
「合致する」 taq-maq üzä tumlïγ soγïq tïldaγqa B1789

taqï
「更に」 4, 183, 216, 657, 1015, 1871, 2020, 2479, 2576, 2659, 2956, 3379, 3445, 4396, 4409, 4458; taqï nä ayïtmïš kärgäk 「況」 taqï nä ayïtmïš krgäk yrlïγsïz qïnmaq üzä tuγurulmïš uqïtur qïlïnčïγ 「況無記思所發表業」 H32V1-2, taqï nä ayïtmïš kärgäk pardakčanlarnïngïn 4409

taqšut
šlok taqšut 「頌」 2156; geyaa taqšut 「應頌」 2333
t.-uγ 2333

taquγ
「合致」「適正」 bu taquγ üzä bilmiš kärgäk 341

tar
tar kemi 「筏」 4137, 4188

taral-
taral- sačïl- 「零散する」 taral-mïš sačïl-mïš üčün 「以零散故」 B1931

taryar-
「斷つ」「滅する」「破る」「除く」 birdämläti taryar-mïš üčün alqu nizvanïlarïγ 「永斷諸惑故」 618, kimlär usar köztä taryar-γalï amranmaq azïγ munï üzä ödrü adï bolur közüg birdämläti taryar-γalï umïš tep 「若能於眼斷欲貪者是則名爲眼得永斷」 B691, B692, tanuqlamïš ödtä ämgäkig körmäk üzä taryar-γuluq nizvanïlarnïng öčmäkin 「證見苦所斷煩惱滅」 3402, qaltï nomuγ adïrtlamaqta öngi odγuraq yoq ärür adïn alqu nizvanïlarïγ taryar-dačï yeg adruq al alday 「若離擇法定無餘能滅諸惑勝方便」 2038, širavaklar piradikabudlar näčä taryar-sarlar ymä alqu qarangγu qararïγlarïγ 「聲聞獨覺雖滅諸冥」 855 bilgälär anta taryar-ü tükädürlär amranmaqïγ 「智者於中已除欲」 H27R28; taryar-alq- 「斷盡する」 anï adqanγučï nizvanïlarïγ taryar-maduq alq-maduq üčün 「緣彼煩惱未斷盡故」 B722; körmäk-tä taryar-γuluq 「見所斷」 B519, B522, B528, B545, B547, etc.; bïšrunmaq-ta taryar-γuluq 「修所斷」 B520, B523, B524, B536, B543, B544, etc.
t.-dačï 551, 565, 1423, 2038, 2042, 2051, 2080, 2084, 2096, 3048, 3354
t.-dačïsïn 276, 2046
t.-duqta 2555, 3324, 3347, 3372, 3387, 3400, 3407, 3411, 3804, 3809, 3811, B791; t.-tuqta 3297, 3305
t.-γalï 178, 554, 555, 557, 561, 562, 572, 635, 640, 642, 644, 676, 683, 684, 745, 780, 802, 821, 826, 829, 1406, 1425, 1427, 1436, 1448, 1450, 1453, 1457, 2044, 3050, 3053, 3064, 3291, 3294, 3306, 3361, 3790, 3801, 4244, 4247, B691, B692, B719, B743, B824, B832, H38R16
t.-γalïr 687, 2828
t.-γuluq 50, 275, 622, 623, 625, 649, 661, 685, 1411, 2845, 3052, 3246, 3402, 3403, 3408, 3410, 3423, 3538, B519, B520, B521, B522, B523, B523, B524, B525, B527, B528, B530, B530, B536, B543, B544, B545, B546, B547, B549, B550, B557, B558, B561, B577, B591, B595, B601, B604, B616, B621, B622, B625, B639, B642, B643, B657, B663, B665, B667, B672, B673, B706, B707, B730, B749, B752, B766, B795, B809, B810, B811, B813, B815, B835, B837, H38V33
t.-γuluqča 3417

t.-yuluqta B531
t.-yuluquγ B578
t.-ïp 750, 3428
t.-madï 875
t.-mayu B585
t.-mayuluq B521, B525, B532, B536, B545, B547, B550, B558, B588
t.-mayuluquγ B579
t.-maduq 748, 849, 860, B722, B769, B774
t.-mamaq 805
t.-mamïš 769
t.-mamïšta 934
t.-masar 713, 823, 1164, 1412, 1453, 2052, 2101
t.-maz 1404, 1445, B606
t.-mazlar 630, 880, 881
t.-mïš 364, 549, 575, 618, 670, 833, 847, 934, 3363, 3794, 3798, 3800, 3854, B661, B674, B698, B703, B708, B728, B767, B780, B781
t.-mïšča B900
t.-mïšï 558, 797
t.-mïšïn 755, 774, 779, 783, 783, 785, 787, 789, 796, 801, 807, 874, 1499
t.-mïšïnga 842
t.-sar 279, 739, 776, 822, 839, 3272, 3307, B697
t.-sarlar 747, 768, 855, 869, 991
t.-u 271, 514, 663, 871, 3522, B788, B798
t.-ur 686, 705, 724, 727, 728, 754, 872, 1404, 3413, 3805
t.-urlar 664, 799, 804, 834, 846, 856, 882
t.-zunlar 193, 199

taryarmaq
「斷」「斷ずること」「滅すること」 54, 92, 307, 576, 582, 604, 613, 619, 655, 681, 722, 794, 809, 1499, 3308, 3365, 3366, 3367, 3429, 3432, 3437, B608, B610, B613, B677, B678, B679, B689, B695, B695 taryarmaq-qa tükällig bolmaq ärür「斷圓滿」 1533; taryarmaq-lïγ ädgü「斷德」 469, 744, 748, 751, 753, etc.; baytïn öngi üdrülmäk üzä taryarmaq「離縛斷」 677, 679; atqanyutïn öngi üdrülmäk üzä taryarmaq「離境斷」 678, 689; öz tözin taryarmaq「自性斷」 695; atqaγïn taryarmaq「所緣斷」 695
t.-ïγ 1151, 2093
t.-lïγ 117, 133, 419, 469, 571, 577, 675, 736, 744, 748, 751, 753, 807, 808, 810, 813, 815, 819, 1030, 1464, 1467, 1479, 1486, 1510, 1521, 1522, 1524, 1561, 1564, B694, B825
t.-nïng B782, B790
t.-qa 1529, 1533

tarï-
「植える」 qudrulmaq ülüšlüg ädgü yïldïzïγ tarï-maduqlar 1265
t.-maduqlar 1265
t.-sar 1266

tarïγlaγ
「田」 buyanlïγ tarïγlaγ「福田」 187, tarïγlaγ-lïγ vasdu「田事」 4251, birök ädgü tarïγlaγ-ta tiksär bušï bermäklig qïlïnčlïγ uruγluγ yaraši tartar säviglig tüšüg「若於善田殖施業種可招愛果」 H35R10
t.-ï 187
t.-lïγ 4251
t.-ta H35R12, H35R15

tarïq-
「滅する」「斷つ」 munung umïš üčün tarïq-yalï qarangyusï anïn adamïš ol tarïq-mïš qarangyuluγ tep「此能破闇故稱冥滅」 544, qarangyu qararïγlarnïng tanuqlayu yrlïqamïš üčün tuγmaqsïz törün anïn adamïš ol tarïq-mïš tep「冥證不生法故稱爲滅」 611, ämgäkig körmäk üzäkisi tarïq-u tükätdüktä「於見苦已斷」 3275, qayu nom tarïq-madïn bulu tükädsär tuγmaqsïzïγ「若法未斷已得不生」 B724, ol alqu qošuγlar ulatï bir tüšlügtä ulatïlarnïng barčanïng adï bolur tarïq-u tükädmiš tep「彼諸結及一果等皆名已斷」 B711; tarïq- alqïn-「滅盡する」 710, 3454
t.-yalï 544, 545
t.-madïn B724

t.-maduq 3268, B800
t.-maduqï 3273
t.-mayïnča H32R13
t.-maduqïnga B807
t.-masar 627, B599
t.-maz 713
t.-mazun 650
t.-mïš 72, 432, 435, 443, 504, 544, 582, 587, 604, 611, 733, 736, 743, 752, 951, 1492, 1498, 1520, 1532, 1539, 3303, B715, B723, B729, B732, B735, B738, B741, B745, B768, B793
t.-mïšï 3406
t.-sar 284, 629, 633, 834, 1017, 3454
t.-u 651, 710, 3268, 3275, 3276, 3439, B711, B725, B797, B801, B806, H38R69
t.-ur 280, 284, 652, 653, 667, 668, 668, 669, 794, 3447, B604, B662, B717, B789
t.-zun 681

tarïqmaq
「滅」「斷」 B675, birök nizvanïlamïng tarïqmaq-ï bolsar ol üküš az 3449, tarïqmaq-nïng yörügi ymä qayu ol 「斷義云何」 B675
t.-ï 3449, 3450
t.-nïng B675

tart-
「曳く」「引く」「招く」「抜く」 ken sanï mïng kišilär birgärü birikip tard-ïp ündürüp 「後數千人同共曳出」 2495, azuča ymä uyur üčün adqanyalï tudyalï kenki bolmaqïy tard-tačï qïlïnčïy 「或能執持引後有業」 4345, köngülüg turuldurdačïlar uyurlar tard-yalï mängig 「心調能引樂」 B11, uyur üčün tard-yalï ämgäkig 「能招苦故」 4467, bu pardakčan tözi ulatï ayïy ažunuy tard-tačï ät'öztäki tiltäki qïlïnčta ulatïlar ärür körmäktä taryaryuluq 「異生性及招惡趣身語業等」 B590; tart- tašyar- 「抜く」「抜き出す」 tart-ïp tašyar-ïp tïnlylarïy ündürti ärsär sansarlïy kök tidigtin 「拔衆生出生死泥」 1098; tart- örit- 「引發する」 umaz tart-ïp örit-ip küčlüg qïlïnčïy kim tuyuryalï 「不能引發強業令生」 H29V52; yaqïn yayuq tüz tart-tačï 「親等起」 B748, B753
t.-ar 3022, 3022, B509, B513, H25V51, H35R11
t.-yalï 466, 467, 1233, 1235, 1247, 4467, 4508, B11, H36R68
t.-yu H35R12
t.-yučï B184
t.-yuta 1215
t.-ïp 309, 312, 995, 998, 1182, 1213, 1230, 1236, 1248, 1249, 1250, 1286, 1270, 1756, 1786, 1951, 2494, 2495, 2509, 3021, 3385, 3464, 4078, B6, B226, B505, B507, B511, B1193, B1344, B1626; t.-ïp tašyar-ïp 72, 97, 99, 423, 435, 439, 445, 1098, 1200, 1202, 1211, 1216, 1226, 1231, 1311, 1373, 1380, 1522, 1526, 1533, 1540,
t.-maqlïy 1562
t.-maqnïng B12
t.-maz 285, 3590, H35R26
t.-mïš 1093, 3333, 3543, B701
t.-sar B510, B512
t.-tačï 1566, 4345, B590, B606, B640, B727, B734, B744, B748, B753
t.-tačïsïn 1191

tartïl-
「引かれる」「引き出される」 bu angayu tüšnüng tartïl-yu-sïnga ičtin [sïngarqï tïltayïn...] 「此引別果勢力內因說名住相」 SA7; tartïl-ïp tuy- 「引生する」「引發する」～ tartïl- tur- bu angar tayaqlïyïn andïrtïn tardïl-ïp tuy-mïšqa ärür 「此依彼從彼引生」 1943, qaltï beš biliglär quvrayï üzä tardïl-ïp tuy-mïš bilgä bilig 「謂五識身所引發慧」 B923
t.-yuluq 756, 2643
t.-ïp t.-ïp tuy- 1943, B660, B923; t.-ïp tur- B661
t.-maz 3573
t.-mïš H27R22
t.-ur 2743, B504

tartïnla-

tart- tartïnla-「引く」 angar oxšadï ymä ök tard-ar tardïnla-yur üčün oxšadïsïn B513

t.-p tart- t.-p B505, B507, B511

t.-sar tart-sar t.-sar B510, B512

t.-yur tart-ar t.-yur B509, B513

tartïnlaš-

tartïl- tartïnlaš-「引き合う」 ～ tartïš- tartïnlaš-

t.-ur tartïl-ur t.-ur B504, tartïš-ur t.-ur B514

tartïš-

tartïš- tartïnlaš-「引き合う」 bir ikintikä tardïš-ur tardïnlaš-ur üčün B514

taš

「外」「他」 147, 902, 909, 917, 918, 923, 1353, 1355, 1357, 1358, 3108, 3440, 3638, 4079, B1924 B2127, qaltï ärtmiš kälmädük üč asanke kalp-ta taš「謂過去未來三阿僧祇劫外」902, üč mïnglïγ yerdinčü-tä taš「三千界外」923; taš azaq nom「外邪法」230, 375, 542, 1459, 2602, 3086, 3969, 4080, 4267, 4270, 4272, 4279, B1885; taš azaq nomluγ「外道」 taš azaq nomluγ-larïnïng yoq mu tägingülük čxšaptï「外道無有所受戒耶」H31R28; taš öngi「外」「他」792, 811, 1172, 1193, 1443, 1768, 2050, 2052, 2564, 2804, 3105, 3971, 4182, B1861, B1863; taš ïraq「疎遠」B117, B137; boš taš「自由」1010; taštïn sïngar(-qï)「外側」「外」 taštïn sïngar tïlday tegli burxanlïγ küčkä「外緣佛力」1259, köngülnüng adï bolur ičtin sïngar-qï tep köngültäki nom bolur taštïn sïngar-qï tep「心名內心所爲外」B41

t.-tïn t.-tïn sïngar(qï) 1252, 1253, 1255, 1259, 2300, 3085, 4381, 4385, 4436, B20, B41, B44, B83, B111, B112, B118, B124, B137, B685, B1173, B1598, B1897, B1900, B2113, B2203, H27V58

taš

「石」; sorïnčan taš「磁石」 sorïnčan taš näčä usar ymä qapγalï tägmäzkänki tämürüg「如何磁石吸不至鐵」B1620; altun taš「礦」 inčä qaltï alqu qamaγ altun taš-larïnïng arasïnta čïn altun ördülüp kizälip turmïš täg「猶如諸礦中眞金隱茲住」913

tašang

tüz tašang「平坦」B891, B896 inčip käzä yorïduqta tüz tašang orunta「而遊平坦」B896

tašdïnqï

「外にある」 205, B2217 tängridäm köz uyur körgäli tïdïγlïγ tašdïnqï alqu önglär B2217

tašγar-

「出す」; tart- tašγar-「抜く」「抜き出す」 tard-ïp tašγar-ïp tïnlγlarïγ ündürti ärsär sansarlïγ kök tidigtin「拔衆生出生死泥」1098

t.-γu t.-γu uγur-ï B549, cf. tašγaru

t.-ïp tart-ïp t.-ïp 72, 98, 99, 423, 436, 439, 445, 1098, 1200, 1202, 1211, 1216, 1226, 1231, 1311, 1373, 1380, 1522, 1526, 1533, 1540

tašγaru

「外」; tašγaru uγur-ï「外門」 B671, B834, B837, ol oq beš biligtä ulatïlar adqanïp öng adqanγuγ tašγaru uγur-ïn ävrilür üčün「即五識等緣色等境外門轉故」B671

tat-

「味わう」 tad-γalïr üčün bularnïng taplaγïn B1891

t.-γalïr B1891

t.-maq B985

tatar-

kökär-mäk tatar-maq「青瘀」 qïlur üčün kökär-mäk tatar-maqta ulatï alqu uγurlarïγ「作青瘀等諸行相故」H39V3

tatγan-

「味わう」 azuča [ymä känt]ü özi tayturmaq ittürmäk üzä tuγurur üčün [amranma]q tatγan-maq-ïγ 「或自退失生愛味故」 H27V7

t.-miš H37V20

tatïγ

「味」「甘い」 3637, 3639, B416, H26V6 adïn öng ün yïd tadïγ-ta ulatïlar ärdär 「餘色聲香味觸等謝」 3625, qaltï tadïγ-ta ulatïlar täg bu savlar barča bolmaγu kärgäk 「應如味等此事皆無」 B1577; süčig tatïγ 「甘い」 1079

t.-ï H35R19,21

t.-ïn B1960, B1967

t.-lï B2409, H27V11

t.-lïγ 394, 1079, H27V13

t.-ta 3625, B454, B1577

tavar

「財」 qaltï tavar-ï bar ärsär adï bolmïš täg tavar-lïγ tep 「如有財者名爲有財」 4148; äd tavar 「財」 4369, 4371 qaldï azlanïp qayu näčä yeg adruq orunqa üküš äd-kä tavar-qa aγïrqa ayaγqa adqa küükä täginmiš tutmïš arïγ čxšapt ärür 「謂貪諸有勝位多財恭敬稱譽受持淨戒」 H35V10; üküš tavar-lïγ tegüči lïγ samaz 「多財釋」「有財釋」 1920; tavar bušï 「財施」 tavar bušï-γ sözläyü tükädmiš boltï 「財施已說」 H35V64

t.-ï 4148, 4202

t.-ïγ 4369

t.-lïγ 1920, 4148, 4202

t.-ta 4371

tavγačča

「漢語」 äsdiramatï tegüči savïγ tavγačča-sïnča sözläyür 安惠 tep 6

tavran-

qatïγlan- tavran- 「精進する」

q.-u q.-u tavran-u 765, 767

tavranmaq

「精進」「行」 1095, 1100, 1718, 3306, B269, qaltï aqïγsïz tavranmaq-lar ärür 「謂無漏行」 4309; qatïγlanmaq tavranmaq 「精進」 3715, B269

t.-lar 4309, 4328, B269, H36R10

t.-larnïng 4329, H33R2

t.-ta 4419

tavraq

「速やかに」 köztä tavraq ävrilür B1911; tärk tavraq 「速疾に」 B1890, birök tïnlylarta sävä taplayu ädgüg tilätäčilär ärsär uyurlar bïšrunup ädgü ögli köngüllüg dyanïγ kim tärk tavraq bütürgäli 「若於有情樂求德者能修慈定令速疾成」 H39R21

tay-

「降りる」 ken tay-ïp tuγmïš ärsär 1729

taya-

「依る」 öz-kä sanlïγ taya-r 「自歸依」 371

tayaγu

「泥團」 qaltï quruγ tayaγu-ta ulatïlarïγ soqup B1783

tayan-

「依る」 adï ködrülmiš yindäm ödlämiš üčün tayan-ïnglar sudurluγ ülgü-kä tep 「世尊勸依經量故」 2324, qaltï oγul ana-qa tayan-mïš täg 「如子依母」 4196, näčük ol köngültäki nom yïlayu män köngül-kä tayan-maz mu 「豈不心所依假我心」 B42, üsdün oruntaqï bilig tayan-maz aldïn oruntaqï köz-kä 「上識不依下地眼」 B2358; yaqïn tayan 「親附する」 inčip közünur ödkisi yaqïn tayan-ur öz tayaq-ïnga 「然於現在親附自所依」 H26V20

t.-ïnglar 1989, 1996, 2027, 2181, 2185, 2265, 2268, 2269, 2271, 2289, 2291, 2298, 2298, 2309, 2315, 2316, 2324, 2352, 2359, 2375, 2383, 2403, 2539, 2541

t.-ïp 2005, 4195, B2025

t.-madïn B1583

t.-manaq 2005

t.-manïš 236

t.-manïšïn 2372

t.-manglar 1990, 1997, 2027, 2309, 2404

t.-maq 107, B2021, B2361

t.-maqïγ 2299, 2359, 2365, 2366, 2376

t.-maqlïγ 2313

t.-maz 685, B42, B2358

t.-miš 193, 2362, 4196, B2059

t.-mïšï B982, H29V31

t.-mïšïn 250, 1573, 2372

t.-mïšïngïzlar 2370

t.-sar 342, 343, B1975

t.-ur 324, B2027, B2027

t.-urlar 1147

t.-zun 2187, 3175

tayandačï

「能依」 649, 929, 930, 1958, 1959, B470, B1011, B1241, B1241, B1245, B2141, B2142, anïn tägimlig ärmäz sözlägäli tayandačï bilig körür tep 「故不應說能依識見」 B1011; tayandačï töz 「能依性」 B43, B91, B94, B98, B100, B128, B2088, bu tayandačï töz ol tayaqïnga körü odγuraq yaqïn yaγuq 「是能依性對彼所依極親近」 B43

t.-sï B1465

t.-sïn B51, B1250

tayanγuluq

「所依」 397, 413, 426; 929, 929, 1119, 1477, 1478, 1958, 1959, 2303, 3262, 3711, 3996, 4194, 4195, 4482, B364, B1050, B1242, B2142, ärür üčün alqu sïqïš tangïšlarnïng tayanγuluq orunï anïn adï bolmïš ol ämgäk tep 「是諸逼迫所依處故」 4482, tayanγuluq ärkliglär adïrïlmïš üčün 「所依根差別故」 B1050; umunγuluq tayanγuluq orun 「歸依處」 397, 413, 426

tayanïštur-

iliništür- tayanïštur- 「依持させあう」 iki užiklärig bir ikintikä ilinišdür-ü tayanïšdur-u sözläp 380

tayaq

「棒」 näčä inčip tayaq-ï ediz boγay bolmaq üzä tängikmäsär ymä B1952

t.-ï B1952

t.-ïnga B1950

tayaq

「依」「所依」 35, 1619, 1633, 1947, 2275, 2275, 2294, 2296, 2304, 2306, 2311, 2312, 2318, 2318, 2321, 2322, 2325, 2326, 2425, 2545, 2547, 2551, 2716, 2717, 2718, 2900, 2901, 3501, 3826, 3995, 3997, 3997, 4006, 4021, 4026, 4027, 4028, 4483, 4485, 4489, 4493, B19, B19, B22, B23, B28, B35, B46, B47, B50, B53, B56, B58, B60, B88, B92, B96, B101, B119, B121, B138, B146, B147, B147, B155, B158, B160, B164, B166, B168, B194, B197, B199, B200, B200, B202, B203, B241, B243, B245, B255, B276, B469, B1052, B1066, B1068, B1070, B1211, B1320, B1324, B1327, B1359, B1360, B1463, B1465, B1970, B1971, B1993, B1996, B2007, B2031, B2035, B2041, B2048, B2060, B2063, B2089, B2091, B2092, B2092, B2096, B2101, B2129, B2131, B2137, B2163, B2165, B2168, B2169, H26R29 munung tayaq-ï ärsär bu oq inčip ärür ad birlä yörüglüg 「此所依者即名俱義」 3985, alqu köngüllüg tayaqlarnïng barčalarnïng adï bolur ičtin sïngarqï tep 「一切心依皆名爲內」 B54, bilig tayaq uγurïnta adïrïlmïš üčün 「識由所依有差別故」 B1052, bu qamaγta angkenki köngülüg ärür tayaq bolmaqlïγ yörügi 「此最後心有所依義」 H26R31; sav tayaq-ï 「言依」 3880, 3957, 3986, 3988, 3999, 4004, 4009, 4012, 4018, 4019, 4032, etc. sav tayaq-ï bolur üč törtsüz bešsiz 「言依有三無四無五」 4036, öčmäk sav tayaq-ï ärmäz sav tayaq-ï ärür ükmäk 「滅非言依言依是蘊」 4087; tayaq orun 「依處」 4483,

4485, 4489, 4493; tayaq töz 「所依性」 B47, B96, B194, B199, B2035, B2041, B2048, B2060, B2063, etc. tayaq töz bolduqta bolmaz üčün bir ikindikä adïrïlïšmaz tüdïlïšmazï 「爲所依性無相間隔」 B96; tayaq ätöz 「依身」 tayaq ät'öz-i adrïlmïš üčün 「依身別故」 H33R7

t.-ï 648, 648, 1428, 2009, 2010, 3286, 3880, 3957, 3985, 3985, 3993, 3994, 3999, 4008, 4009, 4009, 4032, 4033, 4035, 4036, 4041, 4041, 4041, 4043, 4043, 4046, 4049, 4051, 4054, 4057, 4063, 4065, 4067, 4069, 4072, 4073, 4075, 4076, 4078, 4087, 4087, 4089, 4089, 4091, 4091, 4093, 4097, 4099, 4104, 4108, 4113, 4115, 4118, 4119, 4123, 4124, 4271, 4277, 4471, 4561, B144, B628, B1054, B1055, B1072, B1183, B1468, B1473, B1474, B1704, B1923, B1924, B2012, B2014, B2015, B2016, B2022, B2024, B2030, B2134, B2183, B2190, B2190, B2204

t.-ïγ 2356

t.-ïn 2713, 3753, 4019, B128, B197, B1222, B1241, B1245, B1249, B1363, B2081

t.-ïnïng B142, B142, B1925, B2174, B2191

t.-ïnlï B1182

t.-ïnta B1924; t.-ïnda 3264, 3986, 3988, 4002, 4004, 4013, 4018, H26V17

t.-ïnga B43, B2141, H26V21

t.-ïngïzlar 2362, 2370

t.-larnïng B54

tayaqlïγ

「(所) 依もてる」「依るもの」 248, 1134, 1929, 1946, 1960, 2361, 2369, 2549, 2899, 2907, B170, B1057, B1060, B1995, B2017, B2020, B2076 män amtï äsän ärkän yerdinčütä sizlär manga tayaqlïγ ärür sizlär 「我在依於我」 2361, yintäm közkä tayaqlïγ bilig körür adïnï ärmäz 「唯依眼識見非餘」 B1060; ärkä tayaqlïγ temištäki nïng samaz 「依士釋」 564, 4356, 4394

tayaqlïγïn

「・・に依て」 54, 242, 245, 340, 362, 481, 549, 556, 560, 562, 596, 711, 1155, 1619, 1625, 1943, 2186, 2305, 2490, 2611, 2614, 2612, 2617, 2619, 3162, 3164, 3165, 3166, 3168, 3169, 3170, 3176, 3361, 3362, 3433, 3458, 3461, 3487, 3489, 3496, 3501, 3503, 3515, 3932, 3982, 3998, 4045, 4096, 4224, 4224, B76, B127, B180, B693, B1006, B1043, B1061, B1212, B1658, B1686, B2067, B2071, B2083, B2146, B2148, B2149, H25R25, H27V40 biz üküšinčä angar tayaqlïγïn yördümüz abidarimïγ 「我多依彼釋對法」 340, bu angar tayaqlïγïn andïrtïn tardïlïp tuγmïšqa ärür 「此依彼從彼引生」 1943, qayu yörüg-kä tayaqlïγïn sözläti öčmäkig oxšadïsïz tep 「依何義說滅無同類」 3458, ol iišlašip köngül-kä tayaqlïγïn uyur üčün yorïγalï adqanγularta 「彼要依心能行境故」 B180, ol käzig tizig-kä tayaqlïγïn uqïdmïš ol iki türlüg taryarmaqlïγ 「依彼次第立二種斷」 B693

taymaq

「退轉」 2195, B231, arxantlarnïng qudïndïn taymaq-ta ulatïlarïγ 2570; taymaq-sïz törü-lüg 「不墮法者」 B227, 228

t.-sïz 730, B227, B228, B605

t.-ta 2302, 2570

taymamaq

「不退」 taymamaq-ïγ bulmaq ärsär bilmädin öčmäkning yörüg ärür 677

t.-ïγ 677

t.-lïγ 675

taytur-

taytur- ittür- 「退失させる」 azuča [ymä käntü özi taytur-maq ittür-mäk üzä tuγurur üčün [amranma]q tatγanmaqïγ 「或自退失生愛味故」 H27V7

täg

「・・の如し」「・・の如く」 69, 235, 283, 333, 472, 510, 515, 521, 532, 825, 840, 843, 914, 915, 924, 994, 1010, 1015, 1042, 1042, 1072, 1082, 1153,

1161, 1184, 1195, 1227, 1238, 1240, 1303, 1383, 1421, 1429, 1442, 1550, 1577, 1647, 1655, 1678, 1706, 1736, 1800, 1835, 1905, 1915, 1951, 2129, 2139, 2204, 2213, 2217, 2287, 2305, 2320, 2345, 2346, 2372, 2507, 2563, 2576, 2579, 2783, 2785, 2794, 2806, 2807, 2812, 2814, 2820, 2912, 2914, 3026, 3082, 3190, 3261, 3315, 3331, 3393, 3394, 3526, 3890, 3890, 3933, 3941, 3941, 3942, 3943, 3976, 3981, 4006, 4071, 4101, 4102, 4117, 4137, 4148, 4168, 4188, etc., B107, B78, B115, B120, B170, B208, B228, B235, B236, B243, B295, B320, B329, B353, B374, B394, B417, B420, B437, B439, B445, B446, B449, B457, B458, B461, B461, B463, B496, B674, B688, B746, B821, B851, B887, B892, B895, B897, B904, B947, B1007, B1058, B1099, B1058, B1178, B1189, B1255, B1259, B1260, B1264, B1304, B1321, B1322, B1521, etc. inčä qaltï ayaγqa tägimlig tarmadirate baxšï nä ymä yïymïš täg aniyadavargta ulatïlarïγ udan šlok üzä「猶如大德法救所集無常品等鄔陀南頌」2129, inčä qaltï yula yaruqï ïraq yaqïn iki bulung yïngaqlarqa birgärü tägip inčip yarudmïš täg「譬如明燈遠近二方俱至而照」B1525, qaltï tavarï bar ärsär adï bolmïš täg tavarlïγ tep「如有財者名爲有財」4148, qaltï pardakčanlarta tüšmädäči törülügi täg「如異生中不墮法者」B107, qaltï yaqïnta odyuraq bilmiš täg「如近決了」B1592, süt täg odung täg「如乳如薪」3890

täg-

「至る」「詣でる」「得る」「被る」 täg-ip ol taluynung qïdïγïnga「至彼海岸」2498, ïraq yaqïn iki bulung yïngaqlarqa birgärü täg-ip「遠近二方俱至」B1524, yït tïdïγ büridmäk üčägü ärkliglärkä täg-düktä temin alyuluq「香味觸三至根方取」B441, bir ikintikä täg-mäzkä tïdïlmaq tudulmaqlïγ yörüg büdär ärmäz「非不相至拘礙義成」B1486, bu kiši täg-ip tngri burxanqa tilädi ävtin barqtïn üngäli「此人詣佛以求出家」908, tïldayï ägsük ärsär qudqa täg-mäzlär「緣闕不得果」1273, tïldayï täg-miš ödtä qurulmaqqa「緣被損」B1681, tïdïγqa täg-miš önglärtä「被障色」B1174; körümkä täg-miš「見至」3851; täg-miš ärmäz adqanγu「非至境」B1572, cf. tägmištäki

t.-ä 3981

t.-däčilig B1646

t.-düktä B441, B1200, B1576, B1587, B1688, B1712, B2362; t.-tükdä B1590

t.-gäli 3983, B1814

t.-gü B1815

t.-gülük B1519, B1563, B1565

t.-ip 908, 2498, B250, B1524, B1526, B1552, B1664

t.-ir B1560

t.-mädük B1628

t.-mädüktä B1201

t.-mäzkä B1486

t.-mäzlär 1273

t.-miš B736, B739, B1174, B1521, B1557, B1572, B1681

t.-mišining H26V12

t.-mišlär 3851

t.-sär B397

tägi

-qa/-kä tägi「・・まで」1496, 3075, üzlünčü-singä tägi uqïdu yörüp temin ök ärdär üčün 3075

tägil-

「盲になる」 tägil-miš käzlüg「盲者」398, tägimlig ol titip biligsizlig qaranγu üzä tägil-miš alqu taš azaq nomluγlarnïng adqaγïn ayïγ körümlüglärming qayu qïlmïšïn tilägäli bilgä biliglig közüg「應捨闇盲諸外執惡見所爲求慧眼」H40R6

tägimlig

「應に」「所應」 1243, 1245, 1278, 1287 qaltï qudrulmaq ülüšlüg ädgülüg yïldïzï bïšmïšlarnïng adï bolur tägimlig tep 1245, yänä tägimlig teptemišï ärsär「又所應者」1279; -yalï/-gäli tägimlig「應に・・すべし」172, 379, 535, 586, 1212, 1236,

1275, 1281, 1285, 1433, 1591, 1634, 1988, 2001, 2004, 2010, 2017, 2019, 2028, 2139, 2144, 2191, 2242, 2295, 2331, 2356, 2418, 2463, 2522, 2580, 2886, 3327, 3548, 3576, 3619, 3652, 3667, 3685, 3724, 3762, 3790, 4023, 4030, 4138, 4162, 4179, 4188, 4555, B10, B38, B55, B144, B236, B288, B371, B379, B445, B457, B838, B858, B1011, B1048, B1052, B1054, B1077, B1088, B1101, B1119, B1128, B1129, B1143, B1336, B1400, B1408, B1476, B1478, B1529, B1552, B1634, B1641, B1673, B1696, B1736, B1752, B1843, B1969, B2057, B2184, B2185, B2187, B2188, B2197, B2199, B2229, B2250, B2330, B2331, H26V19 azuča ymä tägimlig ärti ašnu ötdä tayaqïy yindäm bir ök ol tep yrlïqa-yalï「或應先時依唯説一」2356, anïn tägimlig ol qadnayu sözlä-gäli azta ulatïlarïy「故應重説貪等」4555, tägimlig ol turuldur-yalï yavaldur-yalï köngülüg「應善調伏心」B10, täk tägimlig ol isdä-gäli tüpgär-gäli「但應尋究」B1843, tägimlig ärmäz ayïd-yalï abidarimïy nomladačï kišig「不應問説對法人」1988, munung uyurïnta tägimlig ärmäz munday tep yör-gäli「由此不應作如是釋」B55, ymä ök yänä tägimlig ärmäz ada-yalï körmäksiz tep「亦復不應名無見者」B1119; ayayqa tägimlig「尊」「尊者」4, 21, 293, 919, 1805, 1987, 2034, 2107, 2108, 2111, 2113, 2115, 2117, 2126, 2128, 2138, 2143, 2144, 2200, 2740, 3111, 3178, 3182, 3376, 3665, 4047, 4078, 4109, 4163, 4219, 4448, 4481, B36, B664, B1003, B1107, B1162, B1316, B1835, B1839, B1841, B1854, B1875, H25R38,43, see ayay

t.-i -yalï t.-i 1239, 3673

t.-in -gäli t.-in 1922

t.-lär ayayqa t.-lär 3111

t.-ning ayayqa t.-ning B1835, B1854

t.-tä ayayqa t.-tä B1316

tägin-

「及ぶ」「受ける」 tuyup taluy ögüztä tägin-di uluy balïq ät'özin「生於海中受大魚身」2490, birök anday ärsär uluy orunluy nomlar tägin-gü kärgäk ičdin sïngarqï tegüči adïy「若爾大法應受內名」B104; ičgär- tägin-「攝受」384, 391, 1448, 2427, tngri burxan ičgär-miš tägin-miš üčün üč ayïlïq nomuy「由佛攝受三藏教故」2427, sizlärning baxšïngïzlarnïng adï bolyu krgäk amranmaqïy tägin-täči kiši tep「汝師應名受欲人」H27R41; kertgün- tägin-「信受する」1992, 1998, 2001, 2004, 2020, 2025, 2030; ämgäk tägin-mäk「苦受」4478, B2109, B2136 tuyar ämgäk tägin-mäk birlä yaradïlmiš ät'öz biligi「發生苦受相應身識」B2136

t.-däči 2025

t.-di 2490, 2491

t.-gäli 1992, 2001, 2004, 2020, B218

t.-gü B104, B206

t.-gükä H28R25

t.-gülük B1348, B1351

t.-ip 1448, 1998

t.-mägäli 4245

t.-mäk B31, 4478, B2107, B2109, B2136

t.-mäkig 2030

t.-mäkläri 4477

t.-mäkning H25R61

t.-mäktä 3184, 3187, 3194, 3198, 3200, 3203, B834

t.-mäktin H25R60

t.-mäz 713, 899

t.-mäzlär 47, 273

t.-miš 391, 2427

t.-ü 384

t.-ür 1263, B2024

tägінčä

「・・ほどに」「・・のみに」「・・に齊しい」 anï ad tägінčä qïlïp 639, uqïtur ulatï uqïtmazta kimlär tükällig bolurlar qayusïnga qayu öd ülüši tägінčä「表及無表誰成就何齊何時分」H31V20

tägintür-

「受けさせる」 qayu ärsär buyan usar bulturup

bir kalp ödün tngri yerintä tuγmaqïγ tägintür-gäli alqu mängi tongaq bu ärür bir buyannïng ülgüsi 「隨福能感一劫生天受諸快樂是一福量」 H35V52

tägirmi

tolu tägirmi 「圓滿」 B2121, B2122

täglük

「盲」「盲者」 B1110, B1112, B1116, B1118, B1122, B1124, B1127, B1129, B1133, B1135, B1151 inčip tükäl ärdüki üzä köz biligi adï bolmaγu kärgäk täglük tep 「而成眼識應不名盲」 B1118, yänä alqu täglüklärning näčä ägsük ärsär ymä köz ärkligi 「又諸盲者雖闕眼根」 B1117; közsüz täglük 「無目」 inčä qaltï közsüz täglük-lär täg 「猶如无目」 1655

t.-in B2213

t.-lär 1655, B2079

t.-lärning B1117, B1130, B1134, B1138

t.-üg B1129

täglükän

「鵂鶹」 2489, cf. 2489, note

tägmäk

「至ること」,「至」,「得」(Skt. prāpti) 2013, 3808, 3808, 3811, B569, B571, B705, B713, B1502, B1504, B1591, B1637, B1719, B1722, B1724, B1726, B1786 ärkliglärning adqanγularnïng bir ikintikä tägmäk-ning anïng yörügi odγuraqsïz ärür 「根境相至其義不定」 B1501, birök tözining bälgüsining uγušïn tudsar adï bolur tägmäk tep 「若就體相無間名至」 B1504, nädägin taryarur üč ödki tägmäk-ig 「如何斷(三)世得」 3805; tägmäk tägmäk-i 「得得」(prāpti-prāpti) 3808, 3811, B569 munung pirapdisï tägmäk tägmäk-indin bolur 3808; eyin yorïdačï-larï tägmäk-lärï 「隨行得」 B564; tägmäk tuγmaq 「得生」 B705, B713

t.-i 3281, 3298, 3808, 4145, B565, B566, B569

t.-ig 3805, B1144

t.-in 3811, 4143

t.-indin 3808

t.-lär B581

t.-lärï B564

t.-lärig 2689

t.-lärning 1777

t.-ning B1501, B1502

t.-tä 2569

tägmämäk

「不得」「不至」

t.-i 3282

t.-lig B1637

tägmäzkänki

「不至」「非至」 1618, 3825, B1481, B1483, B1487, B1505, B1507, B1519, B1570, B1596, B1612, B1613, B1620, B1621, B1622, B1624, B1640, B1649, B1697 sorïnčan taš näčä usar ymä qapγalï tägmäzkänki tämürüg 「如何磁石吸不至鐵」 B1620, köz qulγaq köngül alïr üčün tägmäzkänki adqanγu-γ 「眼耳意根取非至境」 B1505; tägmäzkänki tayaq dyan 「未至定」 1618, 3825, H31R58,60,61 tägmäzkänki tayaq dyan-taqï toquz ooqsuz yol 「未至定中九無間道」 H31R51

t.-g B1477, B1479, B1498, B1625, B1640

tägmištäki

「至にある(もの)」 B1476, B1479, B1481, B1497, B1649, B1674, B1703, B1709 äšidmiš ödtä tägmištäki ünüg 「聞至聲時」 B1674, nädägin bolur bilgäli burunnung yintäm aldačïsïn tägmištäki yïdïγ 「如何知鼻唯取至香」 B1709; tägmištäki atqanγu 「至境」 B1490, B1494, B1503, B1510, B1514, B1516, B1550, B1557, B1600, B1604, B1607, B1609, B1617, B1638, B1639, B1643, B1649, B1651, B1674, B1693, B1699, B1703, B1707, B1709, B1716, B1732, B1737, B1767, B2408 alqu ärkliglär yintäm alïr üčün tägmištäki adqanγu-γ 「一切根唯取至境」 B1503, näčä tursar ymä qulγaqta anïlayu oq

tägmištäki adqanγu ärmäz「雖在耳中仍非至境」 B1693

t.-g B1476, B1479, B1497

tägrä

「邊り」 qaltï suzaqïγ käntig ulatï suzaqnïng käntning tägrä-si-sin yumtaru adamïš täg suzaq känt tep「譬如村落及村落邊總名村落」H28R39

tägšil-

「轉ずる」「變ずる」「改易する」 ärkliglär tägšil-miši eyin biliglär öngi bolur「隨根變識異」 B27, qaltï ot ïγačqa ud mayaqïnga qïγqa od at näčä tägšil-sär ymä inčip isig tözläri bir täk bolmïšï täg「如依草木牛糞糠火名雖改易而煖性同」B1057, bälgüsi tägšil-tükdä adï öngi bolmïš üčün「形轉名異故」H30R24; tägšil- qïγïl-「轉變する」3973; ävril- tägšil-「轉ずる」B968, B1238; tägšil- ävril-「改轉する」 bälgüsi tägšil-mäk ävril-mäk uγrïnta「由形改轉」H30R41; tägšil- tïdïl-「變礙する」B1858, B1859, B1868; tägšil-ip turur bälgü-si「堅相」B1561; tägšil-mak-siz tïdïγ-sïz「無變礙」H29R69; tägšil- arta-「變壞する」H37R42 qaltï öngi uγurïnga tayanmaqï ärür ymä ök ärur üčün ürlügsüz tägšil-däči arta-tačï törülüg「謂依異門亦是無常變壞法故」H37V18

t.-ip B1053, B1055, B1561

t.-mäk 3973, B1859, H30R46, 56

t.-mäklig B968, B1868, B1871

t.-mäktä B1238

t.-mäz B1858

t.-miši B27

t.-sär B1057

t.-ür 4180, B1869

tägšiltür-

tägšiltür-üp kigür-「轉入させる」; tägšiltür-qïγïltur-「轉變（變壞）させる」

t.-gäli t.-gäli qïγïltur-γalï 1823

t.-üp t.-üp kigür-mäk 4173

tägšür-

「轉ずる」「易える」 tägšür-ürlär ol tuγmaq bälgüg 3607, qaltï tuγum tägšür-miš tüzünlär tïnlγlarta uqïtur qïlïnčïγ tuγurmaduqlar azuča ymä tuγuru tükädüktä titmiš-lär ärür「謂易生聖補特伽羅表業未生或生已捨」H32V5; tägšür- ketär-「易脫する」 tsi iryapadïγ tägšür-düktä ketär-tüktä yörügi ymä antaγ oq bolγu kärgäk「威儀易脫理亦應然」H37R1

tägšütinčä

「違」「相違」「翻」 698, 3281, 3283, B82, B852, B1700, H26V45,62 munung tägšüdinčä-si ärsär inčip tidip öngi üdrülgülük ayïγ ögli ärür「違此即捨離」 1293, munung tägšütinčä-si ärür aqïγsïz nom「與此相違是無漏法」 2865, munung tägšütinčä adïn nomlarnïng atï bolur taštïn sïngarqï tep「與此相違餘法名外」 B82, [ätöz]lär öngi ulatï saqïnčlarï öngi ät'özläri öngi bir täk bir saqïnčlïγ munung tägšütinčä ät'özläri saqïnčlarï bir birlä yänä öngsüz asraqï üčägü ärür「身異及想異身異同一想翻此身想一并無色下三」 H28V15

t.-ning 3771

t.-si 1293, 2865, 2880, 3038, 3259, 3279, B1799

t.-sin 3772

tägzin-

tägzin- tulïn-「旋環する」 turup qulγaqnïng tälük ičindä tägzin-ü tulïn-u inčip turur「耳穴旋環而住」 B1947; tägzin- qatna-「輪轉する」4132; tägzin-ulal-「轉續する」; ävril- tägzin-「迴轉する」 see ävril-; qalangula- tägzin-「漂轉する」

t.-däči t.-däči tulïn-dačï 4130

t.-ip t.-ip tulïn-ïp 2067; ävril-ip t.-ip B1581

t.-mäk qalangula-maq t.-mäk 2064, 3716

t.-mäkkä ävril-mäk t.-mäkkä B1583

t.-mäz t.-mäz qatna-maz 4132

t.-ü t.-ü tulïn-u 1125, 1179, 1262, B1947; t.-ü ulal-u 3713

tägzinč
「卷子」 bašdïnqï tägzinč 4

tägzintür-
qalangulat- tägzintür 「漂轉させる」
cf. qalangulat-
q.-γalï t.-gäli 2043, 2055

täk
「單に」「ただ」 355, 369, 373, 450, 567, 705, 780, 794, 808, 815, 952, 1209, 1322, 1447, 1628, 1630, 1634, 1700, 1812, 1849, 1904, 1924, 1938, 2317, 2404, 2440, 2463, 2468, 2475, 2477, 2596, 2640, 2646, 2664, 2669, 2877, 2880, 2882, 2997, 3093, 3111, 3142, 3146, 3300, 3336, 3340, 3384, 3601, 3616, 3620, 3686, 3689, 3781, 3890, 3905, 3926, 3934, 4116, 4319, 4349, B3, B13, B78, B182, B286, B337, B381, B390, B412, B1053, B1110, B1112, B1173, B1355, B1405, B1469, B1580, B1771, B1825, B1828, B1843, B1955, B2124, B2157, B2191, B2371 yänä ymä yänä birök täk sözläp anï öz tep 「又復若但言自」 369, kök qalïq täk tïdïγsïz tözlüg ärür 「虛空但以無礙爲性」 3093, iki dyanlar täk üčägününg uyrïnda 「二定但由三」 3934, inčip täk yegin tuda sözlämiš täg turulmïš yavalmïš köngüllüg 「而但就勝說調伏心」 B78, angar oxšadï köz täk bolur tört türlüg 「彼同分眼但有四種」 B381; bir täk 「同一」「同じ(く)」「單一の」 109, 110, 367, 368, 1615, 1618, 2891, 2904, 2906, 2907, 3056, 3318, 3368, 3373, 3781, 3916, 3922, 3924, 4145, 4326, 4463, 4475, 4580, B13, B323, B324, B325, B327, B389, B390, B479, B482, B486, B492, B493, B527, B700, B756, B803, B1038, B1058, B1158, B1526, B1680, B2177, inčip isig tözläri bir täk bolmïšï täg 「如・・而煖性同」 B1058, alqu aqïγlïγ nomlar bir täk bir bilip öčmäklig mü ol 「一切有漏法同一擇滅耶」 3368, ol yula yaruqï birlä bir täk ot yruq tözlüg üčün 「同彼明燈火明性故」 B1526

tälim
üküš tälim 「多い」「多く(の)」「多大」 66, 346, 347, 939, 1072, 1117, 1180, 1220, 1568, 1937, 2032, 2496, 2525, 3457, 3465, 3929, 4203, 4253, B221, B1998, B2133, B2205, H29R13, see üküš

tälük
「穴」 qulγaqnïng tälük 「耳穴」 B1947

tämür
「鐵」 sorïnčan taš näčä usar ymä qapγalï tägmäzkänki tämür-üg 「如何磁石吸不至鐵」 B1620
t.-ig B1622
t.-üg B1620, B1621

täng
「等しく」「等しい」 B1889, B1895, B1908, B1909, B1954, B2376 öng biligkä körü yumdaru täng bolur üsdün bolur aldïn bolur 「色望於識通等上下」 B2376; täng tüz 「等しく」「等しい」「平等」 109, 1637, 2595, 3451, H25V8 alqu aqïγlar anda täng tüz eyin ükliyür üčün 「諸漏於中等隨增故」 2595; täng tüz köngül 「平等心」 1501, 1507
t.-ig B1905

tängik-
「等しくなる」「齊う(ととのう)」 üsdünki yorïγuluq yörüg üzä yörsär öd yolïn bu yörüg tängik-mäz 3978, inčip ol köngültäki nomlar ulalïp tuymïš ödtä ymä ök bolmaz mu az üküš bölük uγuš üzä tängik-mämäki 「豈不心所無間生時亦有少多品類非等」 H25R55, inčip öz uγušluγïnta bolmaz tängik-mämäklig yörügi 「然自類中無非等義」 H25R59
t.-mämäklig H25R64
t.-mäsär B1952
t.-mäz 3978, B167

t.-ü B930

tänginičä
「・・のごとくして」「・・のごとく」「・・として」 1332, 1388, 1452, 2479, B1164, B1167, B1387 yintäm nomnung tildayï tüši tänginičä ök ärür B1387

tänglä-
「比量する」「量る」「比べる」 alïp yïtïγ bäkiz bälgülüg bilmäk uyurïnta tänglä-p bilir adïrtïn 「取香明了比知差別」 B1582, tänglä-mäk üzä ärtmiš kälmädük közünür ödki nomlarïγ inčip yüüz yügärü bilir üčün 「比過現法而現知故」 H25V33; tänglä-mäk ülgü 「比量」; änglä-mäk bilgä bilig 「比智」 H25V52 näčä muntaγ bilsär ymä inčip tänglä-mäk bilgä bilig üzä ärmäz 「雖如是知而非比智」 H25V45
t.-gäli 2028
t.-mäk 2030; t.-mäk ülgü 1511, 1512
t.-p 1516, 1524, B1582, B1901, H26R4

tänglig
「等しい」 B1897, B1899, B1910, B1959 ärkliglär parmanusïnïng ülgüsinčä tänglig B1897; näčä tänglig 「どれほど」 2513, 3398 birök bolsar tükällig bolmaqï azuča näčä tänglig öd ärtginčä bolur 「設有成就爲經幾時」 H32R3; anča tänglig 「その程度」 3405, 3406; ülgülüg tänglig 「有量」 3611
t.-i B1979

tängri
(tnkry, t'nkry) 「天」 tnkry 42, 81, 83, 85, 88, 89, 96, 100, 107, 108, 112, 116, 126, 131, 132, 133, 137, 140, 140, 141, 147, 151, 153, 156, 158, 160, 162, 165, 167, 176, 186, 190, 196, 208, 211, 217, 218, 220, 221, 224, 231, 234, 236, 241, 243, 245, 250, 252, 348, 349, 360, 363, 381, 382, 389, 403, 404, 409, 425, 437, 486, 490, 493, 494, 495, 496, 498, 499, 505, 512, 521, 524, 557, 558, 571, 576, 582, 695, 740, 781, 818, 895, 908, 1035, 1042, 1085, 1088, 1090, 1091, 1240, 1280, 1289, 1294, 1295, 1472, 1494, 1514, 1517, 1521, 1524, 1553, 1554, 1797, 1978, 1979, 1982, 1989, 1996, 1997, 2001, 2003, 2007, 2008, 2008, 2009, 2011, 2011, 2018, 2019, 2021, 2040, 2069, 2072, 2073, 2102, 2119, 2133, 2134, 2147, 2153, 2177, 2185, 2190, 2197, 2201, 2202, 2206, 2208, 2210, 2214, 2215, 2216, 2219, 2220, 2221, 2226, 2227, 2228, 2231, 2246, 2247, 2250, 2262, 2266, 2266, 2268, 2271, 2272, 2277, 2279, 2289, 2316, 2330, 2338, 2339, 2340, 2360, 2368, 2374, 2382, 2384, 2385, 2390, 2403, 2415, 2426, 2427, 2431, 2431, 2443, 2482, 2483, 2486, 2504, 2518, 2521, 2523, 2557, 2560, 2578, 2585, 2664, 2784, 4368, 4370, B890, t'nkry 155, B9, B12, B1565, B2122 kün tängri 「日天」「日」 1237, 1240, 2781, B1370, B1372, B1373, 14; ay tängri 「月天」「月」 1042, 2784, B1456, B1459, B1565, B2119, B2122, ödrü yüüz yügärü közünür iki ay tängri-tä ulatïlar 「便於現前見二月等」 B1456; äzru-a tngri 「梵天」 42, B2362; išvare tngri 「自在天」 42, 2475, 2478; maxešvare tngri 「大自在天」 1420; xormuzta tngri 「帝釋天」 1673, 1677, 1679; tngri yer-i 「天(界)」「天上」 1978, 1979, 1982, 2504, 4368, 4370 munung tïldayïnda ölüp tuydï tngri yer-indä 「因茲命終生於天上」 2504; tngri burxan 「(天)佛」 81, 83, 85, 88, 89, 96, 100, 107, 108, 112, 116, 126, 131, 132, 137, 140, 141, etc. see burxan
t.-g 2781, 2784; t'nkry-yk B1374
t.-lär 1421, B2362, B2366
t.-läming 763
t.-lig 262
t.-litä 305, 307; t'nkry-ly-t' 304
t.-litäki 184
t.-ning 14, 1237, 1420, 1677, 1679, 4275, 4278, B894; tängri-ning B1370
t.-tä 42, 1420, 1673; tängri-tä B1372, B1456, B1459, B2119

tängridäm
「天の」 t'nkryd'm B1492, B1601, B1605, B2001, B2217, B2397, tnkryd'm B1599, B2397, olar tängridäm köz üzä körür alqu tïnlylarïγ「彼以天眼觀諸有情」 B1492

täp-
täpi-p satγa-p 「踏みつけ(て)」 1116, täp-mäk qašï-maq 「掻き蹴あげる(こと)」 1116

täprä-
「動く」 bärk yarp adqanïp täprä-mätin eyin üklip yadur üčün 「堅執無動隨增眠故」 4553; täprä-p bar- 「發趣する」 azuča ymä küsämäz täprä-p bar-γalï 「或不欲發趣」 1149; titrä-täprä- 「振動する」
t.-mäk 1126
t.-mätin 4553
t.-mišcä 1117
t.-p 1149; titrä-p t.-p 1187

täprämäk
ämitmäk täprämäk 「傾動」 yörügining bolmaz ämidmäk-i täprämäk-i 「理無傾動」 B1552; yorïmaq täprämäk 「行動」 bolγu kärgäk yorïmaq täprämäk 「應有行動」 B1517
t.-i ämitmäk-i t.-i B1552
t.-lig yorïmaq t.-lig B1517

täpränčsiz
täpränčsiz qïlïnč 「不動業」 4363, 4365, 4374

täprät-
「動かす」 bu ayïγ körümlärig täpräd-mäkin täpräd-mäk üzä 1126; tigirät- täprät- 「觸動する」 4438
t.-ip 4438
t.-mäk 1126, 1418
t.-mäkin 1126
t.-mäktä 1417
t.-ür 4422, 4435

täprätil-
「動かされる」 yïγïlmïš terilmiš parmanu ödrü täprädil-ür B1859; täprätil- sačïl- örlätil-「動亂される」 öz oruntaqï yeg soγančïγ mängi üzä täprätil-gülük sačïl-γuluq örlätil-gülük bolmïš üčün 「自地妙樂所動亂故」 H39V58

täring
「深い」「深さ」 232, 1177; täring-tä täring 「甚深の」 mäning bar ärür täring-dä täring abidarimïm ulatï vinayïm 「我有甚深阿毘達磨及毘奈耶」 1675
t.-dä 1675
t.-i 2057, 2059, 2061
t.-inčä B50

täringäd-
「深める」 anča anča oq täringäd-ür üčün 1118, anïn ärü ärü täringäd-ür 1127

tärk
tärk tavraq 「速疾に」 B1890 birök tïnlylarta sävä taplayu ädgüg tilätäčilär ärsär uyurlar bïšrunup ädgü ögli köngüllüg dyanïγ kim tärk tavraq bütürgäli 「若於有情樂求德者能修慈定令速疾成」 H39R21

tärs
「邪」 tärs yol 「邪道」 1147; tärs körüm 「邪見」 2846, 4279; tärs atqaγ 「邪緣」 4283; tärs yörüg 「邪義」 B329; tärs azaq nomluγ 「外道」 4284, 4290, B148, B1905, B2066; tärs-tä odyuraq quvraγ 「邪定聚」 1264; tärs öz eltinmäklig ačvaki tirti 「邪命外道」 H27R29; tärs-gärü yorïmaq 「邪行」 üčünč amranmaqta tärs-gärü yorïmaq 「三欲邪行」 H30V34

tätrü
「倒」「顚倒」「逆」 B882 körgülükčä önglärning

körklärning bolmaz ärsär tädrü ärmäz bolmaqï 「所見色像無非顛倒」 B882, činkertü tädrü-süz 「如實無倒」 1305, anï üčün bolmaz umaq tätrü istäyü tükällig bolyalï 「是故無能逆追成者」 H32R34

t.-süz 1305, 1482

tätrül-

「顛倒する」 säkiz türlüg tädrül-mäklär üzä tädrül-mišlärning anïn adï bolmaz baxšï tep 767, ämgäkig sözläsär mängi tep adï bolur tätrül-mäk tep 「於苦謂樂名爲顛倒」 H36V58

t.-mäk H37V36,41,45

täz-

「逃げる」 täz-ä yanduru turur 1013

te-

「いう」「・・という」 tarïqmaqnïng yörügi ymä qayu ol tep te-sär qavïrasïnča bolur iki türlüg 「斷義云何略有二種」（云） B676, köztä bar üčün yruq bulduqmaz bu mün qadaγ te-sär yörügi ymä ök andaγ ärmäz 「眼有明故無斯過者理亦不然」 B1567, yukdi yoq tep te-miši ärsär qulγaqta ulatï biliglär birlä adïrtsïz üčün 「言理無者與耳等識無差別故」 B1045, bar adïn baxšïlar tep te-miši ärsär「言有（餘）師者」（言） B1315, anïn ašnuča ögüp ädgülärig te-mäktä ulatï ärsär 478; te-gli 「という」 azuča ymä qayu ärsär bir bir adïn eyinki nizvanï tegli alqu köngültäki nomlarïγ tep 「或隨一一餘隨煩惱諸心所法」 2870; te-güči 「という」 kim te-güči sav üzä uqïdur qaltï burxan adï ködrülmišig 「諸言所表謂佛世尊」 482, činkertü tözlüg baxšï te-güči sav üzü 「如理師言」 1308, köni körüm te-güči sav-ta tükäl tudulur üčägü 「正見言具攝三種」 B873, bulmïš ol tngri burxan yrlïqamïš ol te-güči adïγ 「得佛說名」 2228, uluγ orunluγ nomlar tägingü kärgäk ičtin sïngarqï te-güči ad-ïγ 「大法應受內名」 B206; te-gü täg 「というごとく」「というごとし」 qaltï umaq ärür alyalï te-gü täg ol B374; te-gmä 「という」「即ち」（漢語に後續） var čün še te-gmä säkiz türlüg vibakdilarnïng arasïnda 4354, luγ li qab šeg te-gmä altï türlüg adïra qabšuru yörgülük samazlarnïng arasïnda 4355; te-r-lär 「傳わる」「傳說する」

bu tïldaγïn te-rlär tngri burxan yrlïqamïš ol abidarimïγ te-p 「因此傳佛說對法」 2040, vaybašikelïγ baxšïlar te-rlär mundaγ tep 「毘婆沙師傳說如此」 2150, te-rlär te-güči sav 「傳說之言」 B1955, te-rlär adï kötrülmiš körüp ärtmiš ödki muntaγ osuγluγ qïlïnčtïn muntaγ osuγluγ tüš-ning tuγmïš-ïn 「傳說。世尊見從過去如此類業此類果生」 H25V35

t.-däči B1461

t.-di 873, 3079

t.-düktä 1422

t.-gäli 2192, B1263

t.-gäγ 2941

t.-gli 87, 1259, 1261, 2709, 2870, H28R29

t.-gmä 4354, 4355, 4392, 4393

t.-gü t.-gü täg 235, 510, 825(note), 1661, 1916, 2024, 2192, 3029, 3899, B374, B746, B895, B1099, B1260, B1321, B2375

t.-güči 6, 301, 321, 345, 482, 484, 485, 500, 502, 654, 681, 695, 716, 738, 742, 744, 753, 847, 872, 1002, 1008, 1033, 1308, 1321, 1326, 1339, 1351, 1361, 1368, 1493, 1520, 1603, 1632, 1644, 1693, 1782, 1785, 1787, 1794, 1801, 1821, 1902, 1904, 1909, 1913, 1919, 1920, 1932, 1940, 1954, 2097, 2100, 2103, 2103, 2172, 2199, 2228, 2235, 2241, 2299, 2450, 2540, 2541, 2552, 2568, 2588, 2688, 2774, 2780, 2790, 2899, 2920, 2922, 2967, 2970, 3025, 3028, 3036, 3040, 3131, 3247, 3256, 3284, 3290, 3292, 3329, 3343, 3379, 3462, 3481, 3502, 3520, 3614, 3817, 3863, 3898, 3905, 3906, 3927, 3930, 3932, 3991, 3992, 4080, 4092, 4105, 4191, 4203, 4205, 4205, 4206, 4207, 4210, 4225, 4228, 4233, 4237, 4242, 4245, 4249, 4254, 4260, 4269, 4271, 4279, 4283, 4295, 4296, 4321, 4341, 4349, 4376, 4386, 4402, 4406, 4412, 4439, 4576, B73, B99, B102, B105, B178, B204, B206, B218, B255, B303, B357,

B552, B578, B579, B608, B609, B613, B653, B653, B654, B729, B738, B753, B755, B770, B780, B781, B863, B865, B866, B869, B869, B871, B872, B873, B999, B1000, B1043, B1054, B1550, B1610, B1955, B1986, B2017, B2036, B2038, B2041, B2042, B2064, B2096, B2101, B2102, B2126, B2176, B2230, H26V49

t.-güčitä 3499

t.-güdä 3342

t.-gülük 1819

t.-mäk 1428, 1428, 1429, 1538, 1540, 1543, 1935, 1906, 1964, 2072, 2201, 2203, 2204, 3777, B1168, B1183

t.-mäki B567

t.-mäkig B760

t.-mäkkä 1946

t.-mäkkä-täki-si 1946

t.-mäklig 3071

t.-mäkning 3009

t.-mäktä 477, 478, 1541, 2086

t.-mäktin 1946

t.-miš 2577, 2912, 3412, 4335, 4337, 4339, 4424, 4445, 4447, 4458

t.-miši 425, 510, 604, 722, 1089, 1177, 1182, 1316, 1595, 1597, 1668, 1694, 1735, 3103, 3397, 3529, 3819, 4235, 4251, 4329, 4388, 4524, 4575, B211, B258, B261, B300, B301, B302, B310, B339, B371, B382, B385, B401, B403, B405, B410, B431, B471, B483, B488, B533, B537, B542, B552, B560, B562, B564, B569, B577, B585, B845, B1045, B1299, B1315, B1345, B1348, B1376, B1388, B1435, B1446, B1507, B1509, B1701, B1780, B1825, B1914, B2012, B2018, B2018, B2020, B2077, B2126, B2129, B2191, B2284, B2330, B2333, B2351, B2368, B2373, B2378, B2400, B2417, B2419, B2424

t.-miškä 1555

t.-mištäki 564, 1338, 1942, 4357, 4394, B1509

t.-r 268, 612, 809, 937, 966, 990, 1042, 1115, 1115, 1336, 1360, 1384, 1390, 1538, 1695, 1774, 1778, 1871, 1950, 2050

t.-rlär 2040, 2069, 2072, 2103, 2131, 2141, 2150, 2170, 2171, 2176, 2199, 2585, 3175, 4192, 4204, 4206, 4209, B998, B1001, B1955, B1986

t.-sär 4, 58, 59, 113, 116, 170, 190, 227, 229, 269, 304, 311, 382, 441, 661, 667, 675, 696, 723, 759, 884, 901, 984, 1060, 1106, 1146, 1211, 1250, 1097, 1327, 1328, 1337, 1343, 1695, 1464, 1666, 1695, 1703, 2331, 2353, 2719, 2723, 2742, 2932, 2970, 3127, 3427, 3562, 3711, 3963, 4065, 4307, 4322, 4324, 4347, 4359, B19, B65, B148, B151, B194, B239, B257, B263, B266, B275, B282, B288, B299, B308, B318, B321, B348, B429, B434, B438, B462, B489, B491, B492, B534, B535, B554, B589, B592, B610, B616, B633, B647, B649, B658, B676, B933, B949, B954, B975, B980, B1007, B1040, B1041, B1063, B1069, B1157, B1172, B1231, B1236, B1243, B1276, B1277, B1301, B1339, B1340, B1360, B1365, B1373, B1396, B1441, B1458, B1473, B1477, B1488, B1494, B1551, B1553, B1567, B1638, B1688, B1703, B1709, B1717, B1751, B1753, B1776, B1816, B1919, B1921, B1966, B1989, B2000, B2096, B2180, B2196, B2210, B2235, B2359

t.-yür 2902, 2996, B1303

t.-yürlär 4280

tel-

「言われる」「説かれる」 ymä ök tel-ürlär tigirtlig ulatï ämgäk tergin yertinčü körüm orunï üč bolmaq tep ulatï tep 「亦説爲有諍及苦集世間見處三有等」 4305

temin

temin (ök) 「方に」「乃ち」 55, 134, 145, 190, 232, 448, 451, 453, 473, 585, 653, 829, 1192, 1450, 1456, 1991, 2025, 2029, 2734, 2736, 3075, 3156, 3241, 3308, 3324, 3345, 3366, 4057, 4275, 4478, B132, B441, B666, B674, B738, B741, B768, B780, B991, B993, B1189, B1354, B1533, B1536, B1552, B1576, B1657, B1688, B1713, B1747, B1817, B2081, B2083 ašnuča ögüp küläp ädgülär basa temin ayayu

ayïrlayu yükünmišin uqïdur「先讃德方申敬禮」448, yït tïdïy büridmäk üčägü ärkliglärkä tägdüktä temin alyuluq「香味觸三至根方取」B441, anï adqandačï nizvanïlar(ïy) birdämläti taryarmïš ödtä temin ök adï bolur üčün tarïqmaq tep「緣彼煩惱究竟斷時方名斷故」B674, birlä bolmaq birlä qatïlmaq tïltaylarnïng nom öčä turur tušta temin ök ükliyür išï kütüki「俱有相應於法滅位方興作用」H26V52, birök bu nomnung tuymaqï qošuyluy sanlïy ärsär ol nomqa išläšip anïng basasïnta bu temin bolur tuγγalï「若此法生繫屬彼法要彼無間此乃得生」H26R18

tep

「. . と」(te- の副動詞形) 7, 18, 18, 26, 28, 29, 31, 31, 33, 34, 41, 48, 55, 57, 58, 69, 75, 75, 80, 84, 113, 116, 119, 120, 125, 127, 140, 146, 149, 170, 190, 203, 211, 220, 225, 227, 229, 236, 248, 249, 256, 257, 264, 269, 287, 290, 298, 300, 301, 302, 302, 303, 305, 306, 308, 310, 320, 321, 328, 330, 331, 345, 345, 346, 351, 356, 357, 361, 368, 369, 370, 378, 382, 390, 399, 410, 411, 418, 425, 441, 447, 449, 481, 483, 502, 507, 508, 509, 510, 510, 516, 517, 518, 531, 535, 536, 537, 552, 559, 561, 562, 566, 573, 590, 598, 602, 604, 606, 611, 614, 624, 629, 641, 654, 657, 660, 662, 664, 666, 667, 674, 678, 693, 696, 704, 707, 708, 714, 715, 722, 722, 723, 731, 733, 753, 756, 759, 772, 777, 812, 820, 849, etc., B15, B16, B18, B103, B105, B111, B111, B113, B118, B120, B122, B123, B124, B129, B131, B133, B138, B140, B143, B144, B145, B148, B148, B151, B151, B154, B156, B165, B167, B169, B173, B183, B1001, B1002, B1012, B1015, B1016, B1023, B1024, B1026, B1028, B1033, B1035, B1040, B1041, B1042, B1044, B1045, B1048, B1051, B1063, B1064, B1069, B1072, B1076, B1076, B1078, B1080, B1081, B1083, B1086, B1088, B1090, B1092, B1094, B1095, B1102, B1104, B1105, B1107, B1109, B1110, B1118, B1119, B1122, B1124, B1127, B1129, etc.

teptedi

=te-p te-di 320, 411, 4340 cf. tep, te-

teptegülük

= te-p te-gülük 2585, cf. tep, te-

teptemäk

= te-p te-mäk 475, cf. tep, te-

teptemiš

= te-p te-miš 1534, 2578, 4475 ayayu ayïrlayu yükünüp ol anday osuyluy činkertü tözlüg baxšïqa teptemiš-i ärsär yinčürü töpün yükünüp adaqïn tudmïš üčün「敬禮如是如理師者稽首接足故」1301, šasdr teptemiš-i ärsär qaltï ulap tuyurdačï ärür aqïysïz bilgä bilig tözlüg nomuy「論謂傳生無漏慧教」1691, birdämläti tïdmaqtïn ken tuydačï nomlarïy bululur bilmätin öčmäk teptemiš-i ärsär qaltï umaq ärür birdämläti tïdyalï kälmädük ödki nomnung tuymaqïn「永礙當生得非擇滅謂能永礙未來法生」3599, cf. tep, te-

t.-i 326, 432, 437, 444, 446, 465, 506, 518, 523, 546, 587, 614, 620, 669, 671, 673, 734, 736, 866, 1022, 1025, 1219, 1274, 1279, 1296, 1301, 1314, 1493, 1498, 1502, 1504, 1531, 1532, 1536, 1547, 1567, 1572, 1582, 1583, 1584, 1605, 1609, 1691, 1695, 1697, 1716, 1822, 1832, 1833, 1859, 1872, 1934, 1935, 1964, 1971, 2071, 2073, 2130, 2150, 2153, 2158, 2170, 2747, 2770, 2809, 2913, 3035, 3037, 3039, 3101, 3199, 3210, 3211, 3218, 3225, 3472, 3473, 3478, 3509, 3515, 3518, 3599, 3608, 3612, 3632, 3638, 3640, 3651, 3660, 3774, 3784, 3788, 3814, 3819, 3820, 3821, 3836, 3859, 3884, 3887, 3907, 3908, 3923, 3946, 3960, 4079, 4080, 4127, 4128, 4192, 4213, 4218, 4230, 4238, 4404, 4425, 4439, 4441, 4445, 4509, 4545

teptesär

= te-p te-sär 93, 96, 177, 226, 258, 260, 262, 265, 271, 275, 276, 281, 312, 313, 338, 361, 403, 405, 407,

415, 429, 442, 463, 486, 488, 491, 494, 498, 509, 549, 551, 571, 589, 606, 626, 645, 646, 680, 706, 718, 724, 728, 738, 744, 764, 789, 797, 809, 857, 862, 878, 886, 887, 891, 904, 919, 1003, 1004, 1034, 1107, 1112, 1167, 1193, 1243, 1264, 1268, 1288, 1291, 1297, 1354, 1356, 1404, 1417, 1419, 1423, 1468, 1473, 1478, 1512, 1515, 1522, 1545, 1557, 1560, 1571, 1587, 1603, 1633, 1684, 1720, 1749, 1753, 1775, 1786, 1795, 1808, 1832, 1854, 1858, 1893, 1911, 1934, 1949, 1971, 1994, 1995, 2026, 2046, 2179, 2183, 2185, 2188, 2193, 2204, 2216, 2307, 2328, 2372, 2399, 2402, 2438, 2451, 2529, 2558, 2593, 2594, 2679, 2681, 2690, 2694, 2700, 2702, 2710, 2713, 2749, 2774, 2778, 2798, 2837, 2857, 2930, 2985, 2994, 3023, 3025, 3054, 3089, 3092, 3104, 3107, 3108, 3110, 3133, 3149, 3150, 3160, 3179, 3186, 3207, 3245, 3246, 3247, 3250, 3278, 3303, 3323, 3330, 3332, 3350, 3359, 3369, 3411, 3419, 3434, 3447, 3459, 3479, 3488, 3516, 3546, 3547, 3549, 3560, 3568, 3571, 3573, 3584, 3614, 3618, 3634, 3645, 3654, 3656, 3658, 3694, 3697, 3712, 3715, 3718, 3722, 3736, 3747, 3757, 3769, 3778, 3805, 3815, 3911, 3927, 3966, 3969, 4014, 4032, 4040, 4052, 4059, 4062, 4068, 4106, 4120, 4152, 4159, 4168, 4181, 4183, 4190, 4204, 4206, 4231, 4239, 4241, 4257, 4281, 4359, 4378, 4382, 4390, 4397, 4426, 4452, 4453, 4456, 4497, 4498, 4500, 4502, 4564, 4568,

cf. tep, te-

tepteyür

= te-p te-yür 1756, 1756, cf. tep, te-

ter-

「集まる」; yïγ- ter- 「積集する」 kimlär yïγ-masar ter-mäsär 「若不積集」 1168

t.-ip 4509

t.-mäsär yïγ-masar t.-mäsär 1168

tergin

「集」 1846, 1880, 3409, 3422, 3539, 4157, 4305, 4467, 4473, 4508, 4509, 4514, 4514, 4515, 4516, 4520, 4565, ämgäk tergin yol 「苦集道」 1846, ymä ök telürlär tigirtlig ulatï ämgäk tergin yertinčü körüm orunï üč bolmaq tep ulatï tep 「亦説爲有諍及苦集世間見處三有等」 4305, ymä ök adï ol tergin tep 「亦名爲集」 4467

t.-kä 3268, 3269

t.-li 3524, 4486, 4521

t.-lig B795

t.-ning 4491

t.-tin 4562

teril-

「集まる」; yïγïl- teril- 「聚集する」 qamaγ basudčïlar yïγïl-ïp teril-ip yumïdmaqïndïn bolmïš üčün 「衆縁聚集共所作故」 3888, munda ülüš ärsär yïγïl-maq teril-mäk tep yörüg ol B468

t.-ip yïγïl-ïp t.-ip 3888, 3909

t.-mädüklärning yïγïl-maduq t.-mädüklärning 179

t.-mäk yïγïl-maq t.-mäk 3914, B468, B1774, B1995

t.-mäki yïγïl-maq t.-mäki B1997

t.-mäkintin yïγïl-maq t.-mäkintin 4510

t.-miš yïγïl-mïš t.-miš 3917, 4325, B1740, B1774, B1777, B1858, B1861, B1863, B1870

t.-ü B1928

t.-ür yïγïl-ur t.-ür 3911, B1997

terin

terin quvraγ 「眷屬」 1617 arïγ bilgä biligning terin-ining quvraγ-ïnïng adï bolur eyin yorïdačïlar tep 「淨慧眷屬名曰隨行」 1611

t.-i t.-i quvraγ-ï 1613, 1616, 3809

t.-ining t.-ining quvraγ-ïnïng 1611, 1634, 1636, 1666

t.-ning t.-ning quvraγ-nïng 3807

teš-

「話し合う」 bir ikintikä ärür umaz teš-gäli 2192

tet-

「いう」「述べる」 arïγ ärsär qaltï aqïγsïz ted-ir 「淨謂無漏」 1596, anïn amtï az ted-timiz B238, adïnlarï šasdïrtaqï giranttaqï täg ted-ir B1918, qaltï šasdïrta sözlämiš täg ted-ir B2247

t.-ir 532, 543, 621, 915, 924, 1254, 1331, 1488, 1596, 1706, 2507, 2579, 2931, B463, B851, B936, B947, B1918, B1944, B1968, B1973, B2065, B2247, B2281

t.-mäz 2825, 2842, H26V62

t.-miš 638

t.-timiz B238, B843, B1167; t.-dimiz 2823

tetik

tetik yaruq 「聰明な」 tedik yaruq bilgä biliglig keng bilmäklig tüzü tükäl uqmïš ärti üč ayïlïqlarïγ 「聰明博學俱閑三藏」 2486

tïd-

「妨げる」「障る」「遮る」「礙する」 alqu bilmämäklär uyur üčün ördgäli čïnkertü yörügüg ulatï tïdγalï čïnkertü körümüg 「以諸無知能覆實義及障眞見」 607, azuča ymä tïd-γuluq ärmäz ymä ök tït-dačï ärmäz 「或非所障亦非能障」 3181, birdämlätï tïd-maqtïn ken tuγdačï nomlarïγ bululur bilmätin öčmäk 「永礙當生得非擇滅」 3598, azuča ymä inčip anda tïd-ïp kišikä tayanmaqïγ 「或即於彼已遮依人」 2358, tïd-ar üčün alqu töz üzäki yazuqγ 「爲防諸性罪」 H33V41; tïd- sï-「破る」 4267; ört- tïd-「覆障する」 3180, ; tïd- ört-「障覆する」3104; tïd- tut-「障礙する」B2207 otγuraq bolmaz alqu nomlarta ulatï alqu tïnlγlarta udačï tïd-ïp tud-up kim anï turγurmayalï 「定無諸法及諸有情能爲障礙令彼不起」 H26R36

t.-a 2358,

t.-ar 600, 886, 1390, 3037, 3561, 3582, 3608, 3820, 4081, 4267, 4272, 4279, 4283, B300, B301, B1509, B1640, B2038, B2038

t.-dï 1390

t.-ïp 599, 1147, 2358, 3141, 3530, 3603, 3729, 4088, 4170, B1829, B1852

t.-γalï 607, 884, 886, 1150, 3135, 3138, 3139, 3140, 3140, 3159, 3160, 3180, 3576, 3599, 3724, B64, B593, B594

t.-γalïr 1867, 2606, 2679, 2839, 3034, 3388, 3817, 3819, 3820, 3970, 4079, 4289, B377, B617, B1446, B1932, B1936, B1941, H28V4

t.-γu 3570

t.-γuluq 3158, 3181

t.-madïn B2207; t.-matïn 3127, 3129

t.-maq 592, 2457, 3586, B2041

t.-maqï 3583

t.-maqtïn 3597, 3598

t.-maz 885, 3603, B2065

t.-mïš 3565, 3584, 3590, 4083, 4084, B187, B420, B1940

t.-sar 3610

t.-tačï 773, 776, B1837; t.-dačï 738, 3104, 3149, 3158, 3181, B1838, H30R12

tïdïγ

「障礙」「障」「妨」 986, 1137, 1541, 3890, 3941, B440, B1721, B1724, B1732, B1772, B1826, B1829, B1830, B2208 bošγudsuz köngül tuγmïš ödtä uγrayu tïdïγ-ïntïn qudrulur 「無學心生時正從障解脫」 B831, kälmädük ödkisingä tïdïγ yoq süt täg odung täg 「未來無妨如乳如薪」 3890; tïdïγ ada 「障礙」 181; tïdïγ tutuγ 「障礙」 B2208; kkir tïdïγ 「垢障」 B904; tïdïγ yol 「障道」 1541; tïdïγ-qa täg- 「被障する」 B1174, B1200, B1201; turγan tïdïγ 「隄塘」 H29R9 čxšaptnïng turγan tïdïγ bolmaqlïγ yörügi ymä ök bu yangča bolγu krgäk 「戒爲隄塘義亦應准此」 H29R4

t.-ï 181, 2053, B169, B904, B1073, B1160, B1309, B1964

t.-ïn 178, B832, B1183

t.-ïntïn B826, B831

t.-qa B1174, B1200, B1201

tïdïγlïγ

「(有)障礙」「有對」 3157, B997, B999, B1168,

B1173, B1177, B1178, B1181, B1181, B1190, B1191, B1471, B1598, B1614, B1615, B1630, B1753, B1753, B1839, B2217; tïdïγlïγ tutuγluγ「(有) 障礙」「障隔」 927, 928, 3108, 3150, B1630; tïdïγlïγ öng「障色」「礙色」 B997, B999, B1168, B1177, B1181, B1191

t.-ta 3105

tïdïγsïz

「無障礙」「無礙」「無障」「無對」 3093, 3101, 3103, 3105, 3106, 3109, 3111, 3114, 3128, 3131, 3143, 3144, 3146, 3175, 3182, 3210, 3211, 4090, B996, B1186, B1614 kök qalïq täk tïdïγsïz tözlüg ärür tïdïγsïz-ïnïng uγurïnda anda öng anda yorïγur「虛空但以無礙爲性由無障故色於中行」 3094; tört türlüg tïdïγsïz uqmaqlar「四無礙解」 2453; tïdïγsïz tutuγsuz「無障礙」 429, 433, 519, 740, 760, 770, 771, 777, 927, 928, 1480, 1494, 1507, 4090; tägšilmäksiz tïdïγsïs「無變礙」 H29R70

t.-ï 3126, 3178

t.-ïnïng 3094

t.-nïng 3103

tïdïl-

「妨げられる」「隔てられる」「遮ぎられる」「制される」 käntü özi adïnïγ tïdmatïn adïnta käntü özi tïdïl-maz üčün 3127, ymä ök uyur üčün alγalï siparirta ulatïlar üzä tïdïl-yuluq bolmïš önglärig「亦能取頗胝迦等所障色故」 B1555, birök uqïtmaznïng uγrïnta uyur tïdïl-γalï čxšapt yazmaq「若由無表能遮犯戒」 H29R11, tükäl tïdïl-ïp ölürmäk käyiklämäk tuzaqlamaq oγrïlamaqtïn tïnlγlar「具制屠獵姦盜有情」 H33V27; tïdïl- tutul-「隔てられる」「障礙せられる」「拘礙せられる」 B1203, B1485, B1486, B1488, B1943 tïnlγlarnïng köz ärkligi säviglig sävigsiz önglări üzä tïdïl-yuluq tudul-yuluq bolur「眼根愛非愛色之所拘礙」 B1485; tägšil- tïdïl-「變礙する」 1860, 1868, 1869, 1871, B1858

t.-ïp 2696

t.-γalï 3134

t.-γuluq B1485, B1488, B1555, B2219

t.-maduq B1200

t.-maq B1486

t.-maqlïγ B1860, B1868, B1871

t.-masar 3588

t.-maz 3127, 3129, 4091, B1438, B1858

t.-mazun B1204

t.-sar 3635, B2119

t.-ur 3620, B1869

t.-zun B1203

tïdïlïš-

「妨げあう」; tïdïlïš- tutuluš-「障礙しあう」 qaldï siparir täg bir ikintikä tïdïlïš-(maz) tuduluš-(maz)「如頗胝迦不相障礙」 B1943; adïrïlïš-maq tïdïlïš-maq「相間隔」 B96, B99,

t.-maq B1943

t.-maqï B96, B99

t.-maz 3132

tïdïluš-

t.-ur B1754, see tïdïlïš-

tïdïn-

「禁じる」 tilin tïdïn-mamaqnïng atï asanvar tep「不禁身語名不律儀」 H32R54; tïdïn- tutun-「制時する」 uyur kntü özi tïdïn-ïp tudun-up kim yazmaγalï čxšaptïγ「能自制持令不犯戒」 H29R8

tïltaγ

「因」「緣」 212, 325, 697, 1407, 1407, 1255, 1259, 1261, 1275, 1411, 1428, 1456, 1561, 1561, 1562, 1563, 1564, 1581, 1668, 1715, 1781, 1787, 1789, 1790, 1791, 1792, 1793, 1798, 1876, 1880, 1883, 1906, 1982, 2203, 2284, 2387, 3478, 3480, 3508, 3519, 3531, 3573, 3577, 3578, 3581, 3587, 3589, 3647, 3701, 3754, 4191, 4205, 4208, 4238, 4242, 4246, 4247, 4247, 4250, 4486, 4511, 4513, 4516,

4521, B34, B62, B113, B162, B281, B320, B373, B420, B487, B494, B495, B498, B500, B500, B501, B1000, B1013, B1015, B1022, B1024, B1025, B1026, B1126, B1149, B1252, B1261, B1392, B1680, B1687, B1785, B1788, B1793, B1810, B2073, B2074, B2165, B2169, B2175, B2181, B2211, B2338, B2342, H25R8

tüš tayanïp tïldaγ-qa tïldaγ-tïn tuγar üčün qaltï oγul anaqa tayanmïš täg 「果依於因從因生故如子依母」 4195, 4196, tïldaγ-lïγ üčün vasdu tegüči savta munda tïldaγ tep yörüg'ol 「以有因故事是因義」 4190, 4191, aqïγsïz bilgä uyur nirvanqa tïldaγ bolγalï 「(無) 漏慧與涅槃爲因」 1793, bilig ärür üčün körümnüng tïldaγ-ï 「識是見因故」 B1015, tïldaγ-ï ägsük ärsär qudqa tägmäzlär 「緣闕不得果」 1273, köngültäki nomlar bir täk bar qamaγlïγ tïldaγ tep tuγup 「心所同共緣生」 B1680; tïltaγ basutčï 「因緣」 212, 1407, B62, B281 ～ tïltaγ atlïγ basutčï 3647, 3701, 3754 ～ avant tïltaγ B1013; tïltaγ-lïγ basutčï-lïγ nom 「緣起法」 4239, 4240; tïldaγ-tïn tur-uγma 「緣起」 1278; öngrä tïltaγ 「宿因」 382; utpadï tïltaγ-ï 「因緣 (物語) 923; tïltaγ-lïγ tuš 「因位」 1036, B1784; tïltaγ-lïγ yorïq 「因行」 1063; oxšatï tïltaγ 「同類因」 「同分因」 3478, 3486, 3488, 3500, 3504, B373, B375, B377, B420, etc.; öngi bïšmaq tïltaγ 「異熟因」 3570, 3571, 3573, B2338; ärksinmä tïltaγ 「能作因」 3587, 3589

t.-ï 41, 113, 149, 152, 177, 288, 289, 758, 915, 923, 956, 1264, 1269, 1273, 1431, 1439, 1440, 1442, 1710, 1856, 1858, 3055, 3437, 3504, 3560, 3563, 3565, 3566, 3568, 3572, 4198, 4199, 4200, 4243, 4471, 4484, 4515, 4519, 4561, B1015, B1131, B1386, B1522, B1562, B1681, B1796

t.-ïγ 51, 169, 170, 171, 174, 175, 1141, 1432, 2245, 3531, 3570, 3576, 3583, 3584, 4197, 4248, 4249, H25R5

t.-ïn (對格・3單) 308, 931, 1821, 1855, 2091, 2099, 2472, 2503, 2536, 4514, 4517, 4518, B1389, B1390

t.-ïnda 57, 58, 94, 105, 109, 114, 114, 115, 115, 878, 1711, 1712, 1714, 1719, 2072, 2181, 2183, 2494, 2504, 2530, 2698, 2700, 2800, 3301, 3351, 3601, 3614, 3616, 3734, 3998, 4037, 4076, 4105, 4274, 4275, 4277, 4278, 4292; t.-ïnta B685, B687, B1031, B1148, B1168, B1253, B1255, B1262, B2089, B2180

t.-ïngïzlar B1527, B1548

t.-lar 318, 1251, 2180, 2473, 2535, 3560, B1198, B1202

t.-larïγ 941, 2198, 3586

t.-larnïng 1879

t.-larqa B2155

t.-larta H25R18

t.-lï 1123, H25V47

t.-lïγ 382, 454, 472, 936, 1036, 1063, 4190, 4217, 4239, 4287, B1784

t.-lïγï 455

t.-lïγïn 1803

t.-nïng 1905, 3486, 3571, 3585, 4194, B375, B377

t.-qa 324, 1503, 1508, 4195, B1786, B1789

t.-sïz 3459, 3488, 3500, 3514, 3533, 3555, 4240, 4284, 4285, 4288

t.-ta 1437, 4197

t.-tïn 937, 1278, 3031, 3505, 3517, 3588, 4196, B1683

tïltaγïn

(tïltaγ の具格形) 「・・の因で」「・・に因って」「・・を以って」「・・緣って」 53, 58, 161, 185, 188, 203, 225, 240, 257, 299, 307,464, 496, 639, 650, 659, 715, 764, 795, 820, 877, 903, 949, 999, 1076, 1086, 1105, 1111, 1116, 1167, 1171, 1249, 1257, 1359, 1413, 1437, 1443, 1445, 1573, 1638, 1659, 1808, 1961, 1963, 2033, 2040, 2069, 2071, 2078, 2085, 2097, 2178, 2242, 2350, 2397, 2399, 2403, 2529, 2585, 2609, 2633, 2728, 2789, 2827, 3053, 3070, 3084, 3133, 3149, 3157, 3185, 3205, 3246, 3325, 3349, 3426, 3481, 3565, 3707, 3764, 3780, 4008, 4074, 4093, 4132, 4329, 4332, 4397, 4452, 4502, 4507, 4564, B38, B68, B108, B124, B172, B238, B265, B287, B290, B317, B437, B462, B539, B546, B589, B592, B609, B626, B632, B790, B813, B817, B862, B927, B948, B984, B1042,

B1160, B1174, B1182, B1186, B1338, B1403, B1440, B1444, B1514, B1557, B1621, B1702, B1715, B1717, B1919, B1927, B1958, B1972, B1985, B2069, B2163, B2337, B2341, B2347, B2354 qayu tïldayïn nomladï ol abidarimïy 「何因說彼阿毘達磨」 1961, bu tïldayïn terlär burxan yrlïqamïš ol abidarimïy tep 「因此傳說佛說對法」 2040, qayu tïldayïn bolur bilgäli 「何以得知」 903, qayu tïldayïn bar qïlïp bu sezikig turyurdï 「何以有此問起」 B948, bu tïldayïn tidigkä yöläšdürmiš ärür 「所以譬泥」 1105, qayu tïldayïn sözläti köngül bolur män tep 「何緣說心爲我」 B68

tïn

「息」 tïn üzülmiš ödtä yïdlamaz üčün 「由斷息時不嗅香故」 B1710

tïn

(奪格表示接尾辭) qavïrïp kedärip tïn tuymïš tegüči iki užikïy täk sözlämiš ol tudyaq yükmäk tep 4349; tïn vibakti 「從格 (奪格)」 3288, 4355, 4572 munï yänä bešinč sav ävrišï tïn vibakdi üzä yörmiš kärgäk 4572

tïn-

「呼吸する」 temin ök tuyar üčün yïtqa tïn-mïštïn ančaqya üzüldük B1714, tïn-maq 「安息」 1866

tïnlïy

(tynlq) 「有情」 1180, 1181, 3260, 3394, B2202, B2203, beš yükmäk ärsär yïlayu adï bolur tïnlγ tep 3394, anïn näčä bolmadïn yangïrtï tuγdačï tïnlγ 故雖無有始起有情; tïnlγ yertinčü 「有情世間」 38

t.-nïng 3252, 3253, 3262

tïnlïylar

(tynlql'r) 「衆生」「群生」「有情」 128, 406, 1115, 1115, 1117, 1124, 1136, 1175, 1178, 1224, 1256, 1283, 1483, 2066, B2244, B2251, B2277 tardïp tašyarïp tïnlylarïγ ündürti ärsär sansarlïγ kök tidigtin 「拔衆生出生死泥」 73, tïnlylar anda čomrulup badïp umuysuz ïnaysïz bolmïšqa 「衆生於中淪沒無救」 1176, asïγ tusu qïlγu üčün tïnlγlarqa 「爲利群生」 16, yänä išlädürlär asïγlïγ mängilig qïlyalï alqu tïnlylar-ïγ 「復因利樂諸有情」 1071, olar tängridäm köz üzä körür alqu tïnlylar-ïγ 「彼以天眼觀諸有情」 B1492

t.-ïγ 15, 73, 98, 99, 365, 384, 392, 393, 424, 436, 439, 445, 513, 1057, 1071, 1096, 1098, 1102, 1191, 1215, 1233, 1247, 1311, 1374, 1380, 1389, 1392, 1414, 1448, 1469, 1471, 1523, 1526, 1533, 1540, 1562, 3959, B1492, B1983, B2226, H27V19

t.-nïng 83, 323, 381, 390, 401, 405, 760, 1219, 1241, 1289, 1387, 1345, 1802, 4285, 4291, 4379, B1484

t.-qa 16, 125, 327, 396, 426, 766, 1068, 1052, 1084, 1104, 1200, 1212, 1229, 1385

t.-ta 416, 430, 512, 576, 1274, 1285, 1495, 1501, 1507

tïnsïz

「非情」 B2203 tïnlγ birlä yänä tïnsïz sanlïγ B2203

t.-ta 4381, 4386

tïngla-

「聽く」 birök tapï bolsar čïnyaru tïngla-yuluq tägimlig ärmäz ämgängäli sïqïlyalï 「欲審聽者遮其苦逼」 B1696, altïnč yït yïpar türtünmäk bäzäk üzä etinmäk bötimäk ïrlamaq körmäk tïngla-maq 「六塗飾香聲舞歌觀聽」 H30V42; tïngla- äšid- 「聽聞する」 ～ äšid- tïngla-

t.-dačï t.-dačï äšid-täči 4273

t.-yuluq B1696

t.-maq äšid-mäk t.-maq 1254

t.-maqïy H30V50

tïngsim

< Chin. 燈心 qaltï yruq yula yänä tïngsim-täki ootta ulatï arduqraq yaqïn sïqa 「謂如明燈於油炷等極隣逼」 B1541

tïtsï

< Chin.弟子 385 üčünč burxan tïtsï-larï iki arqa bolu tükädüktä usar tüz baz qïlγalï 「三佛弟子破已能和」 H35V46, baxšï-lï tïdsï-lïnïng yörügi 「師子之義」 536; bošγutčï tïtsï 「學徒」 195, 255, 294, 303, 1546, 1558, 1921 ödlätäči äriglädäči üčün bošγudčï tïdsï-larïγ 「教誡學徒故」 1546

t.-lar 195, 255, 294, 2071, H38R1

t.-larï 1462, 1473, 1473, 1475

t.-larïγ 303, 1546, 1558

t.-larïnda 1462

t.-larqa 1921

t.-lïnïng 536

ti

< Chin. 地 ti bolmïš törüčä tükällig bolur ärsär 1722

tigiräš-

「諍ずる」 sizlär tigiräš-güčining 「汝等所諍」 B1384

t.-güčining B1384

t.-ü B1381

tigirät-

tigirät- täprät- 「觸動する」 tigiräd-ür täpräd-ür üčün ädgü bölüklärig 「觸動善品故」 4421

t.-ip t.-ip täprät-ip 4438

t.-ür t.-ür täprät-ür 4421, 4435

tigirt

「諍」 4421, 4425, 4429, 4434, 4436, 4439, 4440, 4441, 4446, 4448, 4449, 4452, 4455, 4549 bu aqïγlïγ nomlarnïng ymä ök adï bolur tigirt-lig nizvanïlarnïng adï ol tigirt tep 「此有漏法亦名有諍煩惱名諍」 4421, tayaq tigirt tudulmaqïn ymä öngdün sözläyü tükätmäti mü 「取諍攝前已說耶」 4549

t.-kä 4426

t.-lig 4156, 4305, 4421, 4424, 4440, 4444, 4450, 4451, 4459, H29R14

t.-ning 4423, 4442, 4457

t.-siz 2455

tik-

「植える」 birök ädgü tarïγlaγta tik-sär bušï bermäklig qïlïnčlïγ uruγluγ yarašï tartar säviglig tüšüg 「若於善田殖施業種可招愛果」 H35R10

t.-miš H35R27

tiki

～ Skt. ṭīkā 「注釋」 abidarim šastrtaqï čïnkertü tözlüg yörüglärning kengürü ačdačï tiki-sï 2

t.-sï 2, 4584

til

「舌」「口」「語」 990, B1603, B1698, B1895, B1959, B1960, B1963, B1963, B1966, B2050, B2050 burun til äṫöz üčägü 「鼻舌身三」 B1698, til biligingä birlä yaratïlmïš nomlarqa alqu taṫïγ 「舌識相應以一切味」 H26V5, olar äṫözin til-in köngülin ägri kkir čöp qïlïnčlarïγ qïlmïš üčün tamuta täginürlär beš yükmäklig öngi bïšmaqïγ 「彼身語意曲穢濁故於奈落迦中受五蘊異熟」 H28R26; til-täki qïlïnč 「口業」「語業」 1322, 1324, 1330, 2488, B591, B728, B640, til-täki qïlïnč üzä ängidmäk yenik ärür 「口業低屈者輕」 1330, uzaṫï til-täki qïlïnč üzä irär münäyür ärti alqu kišilärig 「嘗以語業毀罵出家在家人等」 2488; til ärklig 「舌根」 B1959, B1960, B1963, B1966

t.-in 988

t.-tä 836, 1034, B1605, B1608, B1958, B1966

t.-täki 992, 1018, 1316, 1322, 1324, 1329, 1330, 2488, B591, B640, B745, B1703; t.-däki B728

t.-täkisin 846

tilä-

「求める」 tilä-p uluγ yruq yaldïrïγnïng basutlamaqïn temin ök körür 「求大光明助方見」 B1535, bu kiši tägip tngri burxanqa tilä-di ävtin barqtïn üngäli 「此人詣佛以求出家」 908, näčä näčä tilä-sär täginsär üküš türlüg ögrätingülük orunuγ

「如如来受多種學處」 H30V7; tilä- küsä-「求める」 qaltï öngrä bar ärti kiši šaripudre arxantnïng yaqïnïnda tilä-ti küsä-di ävtin barqtïn üngäli「如昔有一人於舍利子邊求出家」905; istä- tilä-「尋求する」「追伸する」 2010, 2012, 2017, 2022, 2339 ančulayu ymä uluγ baxšïnïng ärtä baru tükätmiš ärsär ymä istä-yü tilä-yü ayasar tapïnsar turγursar ät'öztäki tiltäki qïlïnčïγ「如是大師雖已過去追伸敬養起身語業」 H35R7

t.-di 908; t.-ti 905

t.-düktä 1183

t.-gäli 2010, 2017, B1406

t.-gülük B587

t.-mäk 4371

t.-mäsär 2012

t.-miš 4368

t.-p B1532, B1535

t.-sär 2014, 2022, 2059, 2339

t.-yü 50, 406

t.-yür B1531

tilgän

「輪」 1449, 1456, 2164, 4281, B1890, B1911 anïng eyin eyin käzigčä qaltï tilgän yertä yorïduqta elig yer tayaq bolmïš täg「隨其次第如輪行於地手地爲依」H29R41; kün tängri tilgän-i「日輪」 inčä qaltï kündüz ülüšintä bulïd tuman yoqaru aγdïnïp ördmiš kölidmišintä kün tängri tilgän-in「譬如晝分雲翳上昇掩蔽日輪」 B890; ötlämäk äriglämäk üzäki tilgän「説法輪」 1499 ～ ötlämäk üzäki tilgän 1456; nomluγ tilgän「法輪」 2164; suv tilgän-i「水輪」 3164, 3165; yeel tilgän-i「風輪」 3166, 3167; kök qalïq tilgän-i「(虚) 空輪」 3169

t.-i 3165, 3167

t.-in B890

t.-indäki 936

t.-ingä 3164, 3166, 3169

t.-lär 1447, 1451

t.-lärig 1446

tinglä-

「聽く」 amtï tinglä-gäli qayvïlanγuluqnï「今聽所對」 B112, cf. tïngla-

tïrgük

「杭」「杌」 3393

tirti

ačvaki tirti < Skt. Ājīvaka-tīrthya「外道」 tärs öz eltinmäklig ačvaki tirti「邪命外道」 H27R29

tiši

「女」 erkäk tiši iki ärkliglärig「男女二根」 B1969, bu oq inčip erkäk tiši ärkliglär ärür bu iki ärkliglär uγrïnta erkäk tiši bälgü-si「即男女根由此二根男女形別」 H30R45,46

tit-

「捨てる」「棄捨する」 tayaq bolmaqlïγ tözni barča tid-mäzlär üčün「爲所依性皆不捨故」 B89, azuča ymä tid-ip alqu idiglig nomlarïγ köngül sävmiš üčün nirvanïγ「或諸有爲悉皆棄捨唯樂涅槃故」 1842; tit-ip öngi üdrül-「捨離する」 1293, 4137, B90, B92, munung tägšudinčäsi ärsär inčip tid-ip öngi üdrülgülük ayïγ ögli ärür「違此即捨離」 1293, odyuraq tid-ip öngi üdrül-ür üčün tayandačï tözin「必定捨離能依性故」 B90; bošu- tit-「自在にする」 1398, 1401; qod- tit-「棄捨する」 2253; ir- tit-「厭捨する」 4506

t.-düktä H30V15

t.-gäli 4162, 4188

t.-gülük 2253, 4506

t.-ip 1293, 1842, 4137, B90, B92

t.-mägінčä 1398

t.-mäz 1132

t.-mäzlär B89

t.-sär B94, 1401, B783, B786

titig

(tydyk)「泥」 1116, 1124, 1153 bu tïldayïn tidig-kä yöläšdürmiš ärür「所以醫泥」1105; kök titig「泥」73, 98, 99, 424, 437, 446, 1099, 1215, 1225, 1311, 1373, 1379, 1413, 1454, 1469, 1471, 1474, etc. tardïp tašyarïp tïnlylarïγ ündürti ärsär sansarlïγ kök tidig-tin「拔衆生出生死泥」73, sansarlïγ kök tidig-tin tardïp tašyarïp tïnlylarïγ「從生死泥拔衆生」1311; titig kärpič「泥土」B1791, B1792, B1807 qaitï tidig kärpič üzä turγurmïšï täg tamta ulatïlar(ïγ) B1791

t.-kä 1105, 1111, 1115, 1175

t.-tä 1211, 1215, 1225, 1483

t.-täki 1230

t.-tin 73, 98, 99, 424, 437, 446, 1099, 1311, 1373, 1379, 1413, 1454, 1469, 1471, 1474, 1475, 1485, 1523, 1525, 1527, 1534

titil-

「捨てられる」 azuča yänä taryarduqta bayïnïng pirapdisïn atï bolur tidil-miš tep B792, tözining näčä bolmasar ymä titil-mäk bululmaqï inčip ad üzä bar üčün adïrtï「體雖無捨得而名有異故」H30R42; qodul- titil-「棄捨される」 ödrü qodul-γu tidil-gü kärgäk ülgülänčsiz sudurlar「便應棄捨無量契經」2250

t.-gü 2250, H30V16

t.-ip H30R56

t.-miš B792

t.-ü B781

t.-ür B818, H30V21

titimlig

「強い」 luu titimlig「龍猛」 3336, 3337 naga-arčune tep munï sözläyür luu tidimlig tep 3336

titmäk

「捨」 B782, B785, B790, tidmäk taryarmaq-nïng yörügi nädägin adïrïlur B782

titrä-

titrä- täprä-「振動する」 ät'özi köngüli tidrä-p täprä-p 1186

tittür-

「捨てさせる」 angbašlayu angayu tittür-mäklig yörügkä tayaqlïγïn uqïtmïš ol pradimokša tep ad üzä「依初別捨義立別解脫名」H31R14

tiz-

「並べる」 birär birär tiz-sär B1164, tiz-ä tukättüktä adïn yänä sözlämiš ol qavšursar tegüči savïγ「列名已復說合言」H31V14

tizig

yevig tizig「資糧」457, 458, 461, 462, 465, 1772, 1904, 1907, 1908, 1914, 1915 bu alqu bilgä biliglär šasdrlar ärür üčün anïng yevig-i tizig-i ymä ök bulmïš ol abidarim tegüči adïγ「此諸慧論是彼資糧故亦得名阿毘達磨」1693, eyin yorïdačïlarï birlä birlä yeg adruq yevig-ining tizig-ining adï「隨行并勝資糧名」2292; käzig tizig「次」「次第」H26R11 adïnlarï iki basudčï uγurïnda tuγar išvaretïn ärmäz käzig tizig-tä ulatïlartïn tuγar üčün「餘由二緣生非天次等故」3935, ol käzig tizig-kä tayaqlïγïn uqïdmïš ol iki türlüg taryarmaqlïγ「依彼次第立二種斷」B693

t.-i yevig-i t.-i 1693, 1699, 1763; käzig-i t.-i B2013

t.-ig yevig t.-ig 633, 637, 1171

t.-in käzig-in t.-in 24, 3866, H25V47

t.-inčä käzig- t.-inčä H30V28

t.-ining yevig-ining t.-ining 2293

t.-kä käzig t.-kä B693

t.-lär yevig t.-lär 456

t.-lärig yevig t.-lärig 468, 1169

t.-lärkä yevig t.-lärkä 388

t.-lig (käzig-lig) t.-lig B1954

t.-tä käzig t.-tä 3935

tngri

see tängri

toγa

toγa täglük 「盲人」 inčä qaltï toγa täglük-lär täg B2079

tolγur-

「滿たす」 öz tüšin ašnuča tolγur-urlar 1061

t.-u 1063

t.-urlar 1061

tolp

「遍く」 B1989, B2220 tolp biligig tuγurur 「遍發識」 B1989, ädgü ärür tolp-tïn yïγïnmaq 「善哉遍律儀」 H31V4

tolu

「滿ちている」 815, 2502, B2121, B2122 közindä tolu yaši kölärdi 「涕淚溢目」 2502, mängi bermäklig uyuruγ bolmasar tüzütin tolu qïlmaduqï 「與樂行相無不遍滿」 H39R17; tolu tükäl 「圓滿」 815

t.-sïn t.-sïn tükäl-in 1309

tolulat-

「圓滿にする」 bir qïlïnč üzä taplalur bir tuγum üküš qïlïnčlar uyur tolulat-γalï 「一業引一生多業能圓滿」 H34V61

ton

「衣」 čoγï yalïnï ädgüsi ädrämi savï sözi yruqï yaltrïqï ton didimtä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V46; öl ši-i ton 「濕衣」 2807; ton kädim 「衣服」 qitï alqu qayu barïnča ton kädim aš ičgü soγïq isigtä ulatï sav-larïγ 「謂諸所有衣服飲食冷煖等事」 H36V61

t.-ta H36V71; öl š-i t.-ta 2806, 2812

tonan-

kid- tonan- 「著衣する」 tägimlig ärip munï munčulayu kit-gäli tonan-γalï 「應如是著衣」 H34V45

tong-

「凍る」 tong-up tügnip buz büdär üčün B1789

topraq

「土」 suv üzä yalqalïγ topraq-ïγ「水浸於土」1115; nom topraq 「法土」 öngi bïšmaq tözlüg nom topraq bolup 1123; tooz topraq 「埃」 2806, 2812

t.-ïγ 1115

topul-

ötgür- topul-「說明する」 qaltï qayu tïldaγïγ ödgür-sär topul-sar 4248

toqï-

「織る」「打つ」 qïlïnč bolmaq ärsär qaltï toqï-dačïqa oxšadï ärür 1860, sözlämiš ol toqï-mïš eligtä ulatïlarnïng üni tep B2182; toqï- yon- 「打ち碎く」 B1760

t.-dačïqa 1860

t.-maq B2180

t.-maqsïz 1861

t.-mïš B2182

t.-p B1760

toqïl-

「打たれる」 xuataqï yïdta toqïl-ïp B1712

toqïlïγ

toqïlïγ körklä 「端嚴」 528

toqïš

tütüš toqïš 「爭い」 4428, 4436, qaltï yerdinčütäki tüdüš toqïš anï munïča quruldurmaq ämgädmäk üzä 4428

toqïtïl-

toqïtïl- yügür- 「揺れる」 nizvanï qïlïnč üzä toqïdïl-u yügür-ü 2067

toqmaq

toqmaq sögüt 「杌」 yörüg tözintäkičä ärsär čïnγaru bolmaz üčün kišining toqmaq sögüd-nüng adïrtïn 「應理又不審知人杌異」 B1559

toquz

「九」 726, 830, 3271, B526, B529, B956, H31R50; toquz bölük nizvanïlar 「九品煩惱」 B527; toquz qošuγlar 「九結」 B686, B688; toquz orunlar 「九地」 830, B739, B773

toquzunč

「第九」 B733, B736, B740, B778 iišlälišmiš tägmiš tušta toquzunč qudrulmaq yolqa 「要至第九（解脱道）」 B736

toor

「網」 toor yadïp bu balïqïγ tartïp ündürmätin 「網著此魚曳之不出」 2494

toyïn

< Chin.道人 「苾芻」「比丘」 2486, 2501 sän näčük'ol ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn 「汝豈不是過去佛時三藏苾芻」 2501, toyïn-lar köngülin öčürüp amïrtγurup 「苾芻意寂靜」 4243; kapile toyïn 「迦比羅比丘」（劫比羅比丘） 2483; toyïn sanvar 「苾芻律儀」 H30R27,33

t.-ïγ 2483

t.-lar 2258, 2519, 4243, H27R34

t.-lara 2330, 4036, B690, B1218

t.-larïγ 4220, 4223

tooz ～ toz

「埃」「塵」 toz B2107; tooz topraq 「埃」 2806, 2812 inčä qaltï öl ši-i tonta tooz topraq eyin yapšïnmïšï täg 2806; qum toz 「砂塵」 B2107

t.-ta B2155

tooz

「樺皮」 qulγaq ärkligning parmanusï türgäklämiš tooz qadï täg ärür B1945

töltä-

orun töltä- 「敷座をなす」 orun töldä-p oluru tükätdüktä 「敷座坐已」 2499

töngitmäk

ängitmäk töngitmäk 「お辭儀」「低屈」 1327, 1330, 1331 tiltäki qïlïnč üzä ängidmäk töngidmäk yenik ärür 「口業低屈者輕」 1330

töpün

yinčürü töpün yükün- 「稽首する」 9, 10, 11, 1301, 1313, 1323, 1335 yinčürü töpün yükün-ür-mn adï ködrülmiš-lig qamaγ ädgülüg taγqa 「稽首薄伽衆德山」 9

törči-

「發する」 qaltï ig törči-gülük tïldaγnïng ymä ök adï bolmïš täg ig tep 1905

tört

「四」 38, 113, 118, 313, 314, 417, 468, 500, 524, 538, 589, 622, 862, 887, 927, 929, 930, 941, 942, 948, 949, 952, 1485, 1505, 1537, 1559, 1618, 1626, 1630, 1654, 1742, 1744, 1747, 1749, 1750, 1764, 1765, 1767, 1784, 1816, 1877, 1880, 1882, 1883, 1888, 2103, 2179, 2198, 2354, 2440, 2451, 2452, 2452, 2453, 2464, 2466, 2469, 2475, 2535, 2562, 2726, 2819, 2916, 2921, 3054, 3059, 3096, 3190, 3226, 3312, 3319, 3452, 3607, 3618, 3619, 3646, 3661, 3767, 3774, 3775, 3778, 3825, 3829, 3865, 3868, 3933, 4141, 4142, 4143, 4145, 4266, 4528, B381, B384, B408, B411, B418, B560, B563, B569, B570, B658, B2028, B2051, B2053, B2104, B2419, H25R7

sav tayaqï bolur üč tört-süz beš-siz 「言依有三無四無五」 4036; tört padak 「四句」(catuṣ-koṭi) 538, 3767, 3774, 3778, 4141, 4142, 4143, B2028, B2051, B2053, H26R41, etc. nomta bululγuluq bolmïš öčmäkig čadiškodi tört padak qïlmïš kärgäk 「於法得滅應作四句」 3767; tört tuγumlar 「四生」 38; tört kertülär 「四諦」 313, 314, 589, 622, 862, B560, etc.; tört yükmäklär 「四蘊」 927, 929, 930, 1626, 1630, etc.; tört agamlar 「四阿含」 2440; tört türlüg ög turuqlar 「四念住」 2451, 2464, 2469, 2475; tört divïplar 「四州」 2562; tört maxabutlar 「四大種」 2819; tört basutčïlar 「四緣」 3190, 3618, 3646, 3661

t.-süz 4036, 4078, 4079

törtägü

「四」(集合) 887, 1560, 1622, 3317, B2232, B2246, B2279 bular törtägü barča ärür bilgä biligning niznk adï 3317, säkiztä öngdünki törtägü ärür čxšapt bölüki「八中前四是尸羅支」 H33V43

t.-kä 1528, 3060, 3061

t.-ni 955, 957, 960, B2229

t.-nüng 1747, 1750, H39R50

t.-tä B857

t.-tin 3605

törtär

「四」(分配) H34R14 qaltï ärtmiš ödki qïlïnčnïng üč ödki nomlar öngin öngin bolur törtär tüši 「謂過去業以三世法各爲四果」 H34R23

törtünč

「第四」 1338, 1339, 2093, 2568, 2919, 3044, 3060, 3097, 3230, 3861, 4296, B907; törtünč dyan (orun) 「第四靜慮(地)」 B2233, B2248, B2261, B2262, B2266, B2269, B2272, B2274, B2275, B2282, B2295, B2298, B2303, B2305, B2306, B2314, B2314, B2321, B2323, B2324, H26R49 törtünč dyan-taqï köz özli adïnlïγ barča körür B2323

törü

「道理」「理」「法」 537, 1145, 1146, B227 divatadta ulatïlarnïng bolur ärmäz yorïmaq täprämäklig törü-si ïraq yaqïn iki bulung yïngaqlarta bir ödtä birgärü täggülük 「非天授等有行動法遠近二方一時俱至」 B1518, bu sözlämišingizlär törü-süz ärür 「此說非理」 B1654; tuγmaqsïz törü 「不生法」 611, 612, 665, 672, 688, 691, 731 ～ tuγmadačï törü 3785, 3814, 3817, 3821, 3836, 3838, B382, B386, B395, B399, B410, B460 tuγmaqsïz törü-n tanuqlayu yrlïqamïš üčün 「證不生法故」 731, tuγmadačï törü-lüg aqïγsïz ediglig 「不生法無漏有爲」 3821, tuγmadačï törü-lügi adïrïlïp bolur iki türlüg 「不生法復開爲二」 B386; tuγdačï törü 「(可)生法」 3770, 3783, 3786, 3858, B300, qaltï alqu aqïγlïγ ärtmiš közünür ödki tuγdačï törü-lüg nomlar 「謂諸有漏過現生法」 3783; čxšapt törü qavramaq 「戒禁取」 1145, 1146, 3860 nätägin uluγ äzrua adqaγlïγ anïlayu oq turγurur čxšapt törü qavramaq-ïγ 「云何緣大梵猶起戒禁取」 H28V63; tüšmädäči törü(-lüg) 「不墮法(者)」 B107 ～ taymaqsïz törü(-lüg) B227, B229, B605 qaltï pardakčanlarta taymaqsïz törü-lüglär täg 「如異生中不墮法者」 B227; taymaq törü 「墮法」 B231; yang törü 「軌則」 alqu yang-qa törü-kä yaraši ät'öztäki tiltäki köngültäki qïlïnčlarnïng ymä ök adï bolur qïlγalï tägimlig 「諸合軌則身語意業亦名應作」 H34V52; törü yang 「禮儀」 ol yarašmamaq uγrïnta yertinčülüg törü-kä yang-qa「由彼不合世俗禮儀」 H34V48

t.-čä 1722

t.-g B231

t.-lüg 1884, 3770, 3783, 3785, 3786, 3814, 3817, 3821, 3836, 3838, 3858, 3860, B229, B300, B395, B460, B605

t.-lügi B107, B382, B386, B410, B1007

t.-lügintä B399

t.-lüglärі B208

t.-n 611, 612, 665, 672, 688, 691, 731

t.-si 2763, 3833, B1518, H34V27

t.-süz B1536, B1654, H29R1

törü-

「生まれる」 qaltï suvtïn törü-miši täg「如從水生」B1787, qaltï azuča ymä birär ödtä üküšintin törü-yür azï「謂或有時從多生少」H25R46, qaltï yinčgäkyä uruytïn törü-p niyagrot sögüt「如細種生諸瞿陀樹」H25R50

t.-mäk H25R49

t.-mäki H25V8

t.-yür B1929, H35R19

törüt-

「生む」「造る」 qaltï törüd-mäk üzä xua čäčäk tüš yemišig 4404

töz

「性」「相」「體」「(根本)」 206, 213, 254, 401, 667, 717, 762, 933, 1062, 1231, 1618, 1633, 1747, 1867, 1871, 1871, 1878, 1879, 2998, 3005, 3005, 3008, 3008, 3009, 3023, 3025, 3026, 3027, 3209, 3210, 3378, 3380, 3383, 3383, 3385, 3825, 4208, 4208, 4211, 4211, 4212, 4212, 4214, 4229, 4254, 4261, 4294, B43, B64, B92, B96, B98, B101, B128, B194, B199, B202, B647, B648, B1019, B1059, B1095, B1107, B1414, B1659, B1672, B1674, B1686, B1915, B1916, B1921, B2032, B2035, B2041, B2048, B2060, B2063, B2367 öngrä yorïmïš amtï yorïp turur ken yorïdačï töz-lüg「已行正行當行性故」3950, anï üčün sözlämiš ol inčä tep tïdïγsïz töz-lüg tep「是故說言無障爲相」3182, bir bir bölüktäki öngin öngin angayu töz-lärtä u tursar bayïtïn öngi üdrülmäklig pirapdi「於一一品各別體上起離繫得」B710, munda kengürü yörär üčün pradimokš sudurnung töz-in「是廣釋戒經本故」2277; partakčan töz「異生性」B560, B596, B600, etc.; tayaq töz「所依性」1633, B47, B92, B202, etc.; tayandačï töz「能依性」B43, B91, B94, B96, etc.; atqaγ töz「緣性」B345 ～ bastučï töz H25R14 tüz arasïz basutčï töz「等無間緣性」H25R15; töz töz「本性」「實體」3209, 4208, 4211, 4212, B1019 töz baxšï「本師」206, 213, 254; töz köngül「本意」1062, 1231; töz tüp「根底」「根本」「本」788, 797, 3825 ～ töz yïltïz 1249 töz-tä tüp-tä tutulmïš üčün anïn adï bolmïš ol qïlïnč yolï tep「根本所攝故名業道」H32R53, qaltï töz tüp šastirta sözlädi ärti üč türlüg qlïnčlarïγ「如本論中所說三業」H34V29; töz tüp šastr「根本論」401, B647, B648; öz töz「自相」「自體」261, 667, 1657, 1814, 1823, 1867, 1871, 1878, 1889, 2749, 4216, 4229, 4254, B318, B326, B846, H25V6, H26V36, etc.; öz töz taryar-「自性斷」B695, B698; qamaγlïγ töz「共相」261, 1879; öz qamaγlïγ töz「自共相」1604; nomnung töz-i「法相」1804, 2136, B1055; töz bälgü「體相」B1504; yörüg töz-i「理」「實理」62, 66, 132, 149, 164, 340, 796, 812, 823, 979, 983, 1019, 1341, 1344, 1627, 1906, B49, B125, B129, etc.; činkertü tözlüg baxšï「如理師」74, 1301, 1310, etc.; töz uyuš「種姓」762, 933, 4294; töz körk「質」「形質」B1659, B1672, B1674, B1686, B1915

t.-i 28, 62, 266, 340, 708, 797, 987, 1083, 1249, 1341, 1871, 1451, 4117, 4212, 4260, 2007, 2147, 2400, 2835, 3088, 3143, 3150, 3260, 3446, 3526, 3580, 3733, 4212, 4410, 4524, 4553, B274, B331, B590, B600, B602, B616, B624, B641, B643, B648, B651, B727, B739, B744, B766, B785, B805, B815, B819, B846, B850, B1055, B1067, B1101, B1102, B1104, B1157, B1236, B1568, B1677, B1754, B1792, B1942, B2030, B2110, B2111, B2360

t.-in 66, 132, 261, 788, 850, 975, 1657, 1760, 1771, 1804, 1814, 1823, 1824, 1870, 1897, 1889, 2059, 2071, 2075, 2136, 2274, 2277, 2281, 2545, 2546, 2549, 2620, 2749, 2749, 2881, 3001, 3014, 3065, 3209, 3428, 3867, 3912, 4214, 4289, B49, B91, B94, B318, B655, B695, B698, B780, B789, B855, B1039, B2114

t.-inčä 796, 812, 823, 2057, 2410, 2570, 2621, B2284, B2317, B2300, B2329

t.-indākičā 149, 1019, 1341, 1344, 1627, 1906, 1978, 2000, 2071, 2622, 3898; t.-intākičā B1051, B1125, B1317, B1558

t.-ingä 979, 983, 2031, 2053, 2474, 2477, 2549, B125, B192, B246, B651

t.-ining 164, 3210, B596, B1504

t.-intä B601, B603, B816, B1019

t.-kä 4223, 4224, 4228

t.-lärï 282, 1877, 2976, 3542, B1034, B1037, B1057, B1153, B1391

t.-lärig 1604

t.-lärin 2123, 2877

t.-lärtä B709

t.-lüg 2, 3, 27, 74, 136, 201, 319, 363, 981, 1123, 1301, 1308, 1308, 1310, 1340, 1342, 1343, 1343, 1351, 1361, 1363, 1367, 1372, 1376, 1379, 1414, 1497, 1503, 1516, 1519, 1535, 1543, 1544, 1582, 1689, 1689, 1689, 1692, 1696, 1698, 1703, 1707, 1709, 1710, 1712, 1713, 1714, 1742, 1745, 1745, 1753, 1754, 1754, 1755, 1756, 1781, 1788, 1789, 1789, 1790, 1791, 1806, 1808, 1876, 1976, 2750, 2911, 3093, 3101, 3111, 3125, 3146, 3182, 3210, 3215, 3218, 3231, 3733, 3950, 3964, 4146, 4216, 4218, 4226, 4358, 4375, B47, B492, B700, B1016, B1038, B1049, B1055, B1161, B1521, B1527, B1530, B2088, B2336, B2340

t.-lügi 1757, 1758, 4090, B1528

t.-lügtä B109, B696, B698

t.-ni B88

t.-nüng 4262, B326

t.-süz 3107, 3125, 3260, 4259, B1104, B1104

t.-tä B318, B345, B638

t.-üg 4227, B326

tripitake

< Skt. tri-piṭaka「三藏」 2501, dripidake-ya sän näčük'ol ärmäz mü ärding ärtmiš ödki burxan ödindäki dripidake toyïn「三藏汝豈不是過去佛時三藏苾芻」 2500, 2501

t.-ya 2500, (drypyt'ky-y-') 2483

tuda

ada tuda「災難」「災橫」 qarïmaq iglämäk ölmäktä ulatï ada tuda-lïγ adruqlar üzä「老病死等災橫差別」 3885

t.-γ ada t.-γ 194

t.-lïγ ada t.-lïγ 3885

t.-sï ada-sï t.-sï 4160

tuγ-

「生まれる」「生ずる」「發生する」「起こる」 bu öngüg körmäk iš köztä öngi tuγ-γu kärgäk「此見色用離眼應生」B1008, adïnlarï iki basudčï uyrïnda tuγ-ar「餘由二緣生」3935, alqu aqïγlar näčä tuγ-sar ymä inčip eyin üklimäz üčün「諸漏雖生而不隨增故」2824, yerdinčü adïrtï qïlïnč uyrïnda tuγ-ar「世別由業生」4384, munung tïldayïnda ölüp tuγ-dï tngri yerindä「因茲命終生於天上」2504, säning anang tuγ-up tur-miš ärür mariči yerdinčütä「汝母生在摩利子世界」922, bošyudsuz köngül tuγ-mïš ödtä uγrayu tïdïγïntïn qudrulur「無學心生時正從障解脫」B831, tuγ-ar ämgäk täginmäk birlä yaradïlmïš ät'öz biligi「發生苦受相應身識」B2136, yertinčütäki alqu közlüglärning biligi tuγ-maduq tušta ymä ök adï bolyu kärgäk täglük tep「世間諸有目者識不起位應亦名盲」B1123; ken tuγ-dačï「當生」「後生」3597, 3598, 3606, 3608, 4171, B303, B373, B374, etc.; tuγ-dačï törü「(可)生法」3769, 3783, 3786, 3858, 3860, B300, etc.～ tuγ-dačï nom 4088, 4089; tuγ-maqsïz törü「不生法」611, 665, 672, 688, 691, 731, etc.～ tuγmadačï törü B382, B386, B395, B399, etc.; altïnč ärmäztin tuγ-mïš「非六生」B667, B669; tägmäk tuγ-maq「得生」B705, B713; ün-tuγ-「發起する」 kertülärning yörügin yangïlturdačïtïn yaqïn yayuq ün-miš tuγ-mïš ärmäz üčün「非迷諦理親發起故」B839; tuγ-maqsïz bilgä bilig「無生智」B917; tartïl- tuγ-「引發する」 beš biliglär quvrayï üzä tardïl-ïp tuγ-mïš bilgä bilig「五識身所引發慧」B923

t.-a 1724, 3228, 3786, 3945, 4173, B300, B301, B302, B393, B821, B1659, B1665, B1768, B1813, B1820, H25R10
t.-ar 54, 57, 57, 58, 171, 277, 1179, 1728, 2759, 3661, 3787, 3921, 3935, 3936, 4196, 4277, 4334, 4347, 4359, 4361, 4362, 4374, 4375, 4379, 4383, 4384, 4385, 4570, 4571, B1005, B1023, B1429, B1430, B1684, B1713, B1747, B1750, B1790, B1809, B1811, B2031, B2073, B2074, B2087, B2123, B2136, B2179, B2209, B2211, H25R28, 30
t.-dačï 2723, 3597, 3598, 3606, 3610, 3769, 3783, 3786, 3818, 3858, 3860, 3889, 3931, 4088, 4089, 4171, B300, B303, B373, B374, B406, B412
t.-dačïγ 3608
t.-dačïsï 2725
t.-dačïsïn 2722
t.-dï 2504
t.-duqta 1725
t.-γalï 324, 1393, 3619, 3760, 4368, B9, B1024, B2082, B2144
t.-γu B1008, B1558
t.-γuluq B482, B484
t.-γusïnga B34
t.-madačï 3141, 3730, 3780, 3784, 3814, 3817, 3821, 3836, 3838, B382, B386, B395, B399, B410, B460, B2046
t.-madačïsï 3652
t.-madačïsïn 3653, B301
t.-maduq 684, 4531, B1123
t.-maduqïnïng 3945, 3974
t.-maduquγ B1630, B1632
t.-mayu B2143
t.-mamaq 3693
t.-mamaqïn B1806
t.-mamaqlïγ 3517
t.-maq 2068, 3607, 4380, B303, B413
t.-maqï 237, 3621, 3714, 4574, B404, B553, B983, B1019
t.-maqïγ 4370, B2335
t.-maqïn 3600
t.-maqïnïng 3772, B1767, B1801, B1804
t.-maqlïγ B38, B85, B108
t.-maqnïng B12, B403
t.-maqsïz 611, 611, 665, 672, 688, 691, 731, 750, B917
t.-maqsïzïγ B724
t.-maqsïzïn B721
t.-maqta 1640, 1769, 1780, 3947, B705, B713
t.-masar 285, 704, 3728, 3763, B398
t.-maz 285, 2083, 3589, 3626, 3651, 3652, 3653, 3659, 3662, 3725, 3726, 3763, 4331, 4565, B799, B1138, B1174, B1184, B2078, B2080, B2223
t.-mazïn 3505
t.-mïš 364, 920, 1018, 1711, 1713, 1714, 1724, 1726, 3578, 4347, 4349, 4351, 4352, 4373, 4400, 4562, B653, B656, B660, B669, B669, B697, B826, B831, B834, B839, B914, B923, B926, B929, B1009, B1339, B1340, B1469, B1513, B1606, B1802, B1804, B1807, B2110, B2112, B2125, B2153, B2156, B2158, B2160, B2192, B2277, H25R24
t.-mïšï 3581, 4350, B667, B1006, B1608, B1817, B2396
t.-mïšïn B877
t.-mïšïnïng 1707, 1708, 1709
t.-mïšlar 1267, 1721, 1728, B2261, B2285, B2295, B2326, B2388, B2389, B2391, B2424
t.-mïšlarnïng B1114, B2240, B2306, B2318, B2324, B2393
t.-mïšlarqa B2302, B2304, B2310, B2312, B2314
t.-mïšqa 1943, B668
t.-sar 57, 283, 1729, 2824, 2841, 4431, B1390, B1643, B2148
t.-u B1239
t.-up 363, 921, 1110, 2066, 2490, 2794, 2814, 3227, 3609, 3725, B1655, B1680, B1731, B1818
t.-yuqlar H28V42
t.-zun 125

tuγum
「生」 47, 269, 270, 273, 713, 877, 933, 1690, 1715,

1716, 1717, 1719, 1721, 1723, 1727, 1739, 1741, 1764, 1784, 1788, 1807, 1810, B612 tuγum yarayïnča bululmïš üčün 「生便得故」 1716, uyur üčün adqanγalï tudyaqlanγalï üč bolmaqlïγ tuγum-uγ 「以能執三有生故」 4343; tuγum qošul- 「結生する」 269, 270; tuγum üzä bululmïš 「生得の」 1690, 1715, 1717, 1719, 1739, etc. qaltï tuγum üzä bululmïš bilgä bilig äšidmäk tözlüg bilgä biligkä tïlday bolur 「如生得惠與聞惠爲因」 1788

t.-ïnga 267

t.-lar H28R4

t.-larta 38, 1179

t.-ta H28R3

t.-uγ 4343

tuγur-

「生む」「起こす」「生じさせる」「發する」 qaltï ulap tuγur-dačï ärür aqïγsïz bilgä bilig tözlüg nomuγ 「謂傳生無漏慧教」 1691, ol balïq köngülindä tuγur-up ökünmäk qïnanmaqïγ 「其魚生悔」 2503, azuča ymä yükmäk tuγur-ur üčün tudyaqïγ anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep 「或藴生取故名取藴」 4337, birlä tuγmïš maxabutï kim tuγur-maq üzä yeg adruq ärkligig 「俱生大種令起勝根」 B1010, birlä uqïduruγ tuγur-dačï bilgä bilig 「發有表慧」 B924; tuγur- bädüt-「生長する」 2867, 4554 uqïdγalïr üčün aqïγlïγ nomlarnïng bu alqu körümlärig tuγur-dačï bädüt-däči orun ärtükin 「爲顯有漏是能生長此諸見處故」 4555

t.-dačï 47, 129, 135, 1691, 1880, 1982, 2867, 4555, B924, B2206, H36V69

t.-dï B462, B1703

t.-γalï 120, 121, 163, 166, 700, 1409, 1978, 1979, 2782, 2860, 2872, 2882, 4276, 4407, B452, B454, B1013, B1628, B1629, B1633, B1687, B2106, B2195, H29R1

t.-γaylar 231

t.-γu 2306

t.-γuluq 1447, 1480, 1998

t.-γusïnga B1482

t.-madačï B307

t.-maduq H32V6

t.-mayalï 3142

t.-mayay 106

t.-mamaq 4171

t.-mamaqnïng 4088

t.-maq 475, 487, 491, B1010

t.-maqïn B313

t.-maqlïγ B316, B341

t.-maqnïng 119, 148, 152

t.-maqta B899

t.-masar B1809

t.-matïn 2785

t.-maz 702, 4332, B1993, B2000

t.-mazunlar 201

t.-mïš 199, 2167, B446, B776, B1426, B1627, H28V54

t.-mïšïn 226

t.-unglar 2186

t.-up 1183, 1187, 1291, 1452, 2503, 2754, 2755, 3675, 4376

t.-ur 85, 91, 1188, 3596, 3729, 3911, 3918, 4337, 4402, 4408, 4516, B485, B1989, B2140, H25R32

t.-urlar 95, 102, 138, 232, 2029, 4479

t.-zunlar 196, 200, 255

tuγurt-

「起こさせる」 ymä ök küsüämiš üčün ärür kim adïnlarnïng tngri burxanta tuγurd-γalï ayïr ayančang köngüllärin 224

t.-γalï 224, 229

t.-γalïr 90

t.-mayu 20

t.-up 82

tuγurul-

「發せられる」 taqï nä ayïtmïš krgäk yrlïγsïz qïnmaq üzä tuγurul-mïš uqïtur qïlïnčïγ 「況無記思所發表業」 H32V2

tuγuruš-

「起こし合う」 aqïγlïγ aqïγsïz ädgü ayïγ ärkliglärning bir ikintikä biligig tuγuruš-γalï umaqïn B2194

tulïn-

tägzin- tulïn-「旋環する」 see tägzin-

t.-dačïlarnïng tägzin-däči t.-dačïlarnïng 4130

t.-ïp tägzin-ip t.-ïp 2067

t.-u tägzin-ü t.-u 1125, 1179, 1262, B1947

tuman

「霧」 bulït tuman「雲（霧）」 B889

tumlïγ

「寒い」「冷たい」 qaltï birök tušmaz ärkänki ödtä ačmaq usmaq tumlïγ quyaš armaq küsüštä ulatï ämgäklär üzä sïqïlmaq tangïlmaqta 「謂若未遭飢渇寒熱疲欲等苦所逼迫時」 H37R5; tumlïγ soγïq 「冷たい」 taqmaq üzä tumlïγ soγïq tïldaγqa tongup tügnip buz büdär üčün B1789,

tur-

「起こる」「生じる」「住する」「在る」「（正に）・・している」「止める」 bir bir bölüktäki öngin öngin angayu tözlärtä tur-sar baytïn öngi üdrülmäklig pirapdi 「於一一品各別體上起離繫得」 B709, öngdünki (ün) näčä öčär ymä kenki ün anïlayu oq tur-sar 「前聲雖滅後聲猶起」 B1685, birök qayu nomta tur-γalï nizvanïlar 「若生諸煩惱」 2830, tüš tur-up tïldayta uyur üčün ördgäli tïldaγïγ 「果住因能覆因故」 4197, qaltï kiši orunta tur-mïš täg 「如人住床」 4198, ol adqanγu uγušuγ adqandačï beš bilig quvraγï tur-up kälmädük ödtä 「緣彼境界五識身等住未來世」 3626, näčä tur-sar ymä quḫaqta anïlayu oq tägmištäki adqanγu ärmäz 「雖在耳中仍非至境」 B1692, ičdin sïngarqï tegüči ad tur-ur köngültä nomta ärmäz 「內名在心非所」 B103, öngrä yorïmïš amtï yorï-p tur-ur ken yorïdačï tözlüg 「已行正行當行性故」 3950, yol yintäm öč-ä tur-ur tušta uyur kim ol tïdïγïn taryaryalï 「道唯正滅位能令彼障斷」 B832, az tur-zun bu savlar 「且止斯事」 3198; ornan-ïp tur- 「安住する」 2772, 2774, 2775, 2779, 2780, 2783, 2786, 2788, 2789, 2795, 2797, 2801, 2803, 3256, nädägin ornan-ïp tur-mïš 「如何安住」 2801; yügärü tur-「現れる」 B784, B787; eyin tur-「隨住する」 2812; tur-u tur-ur 「起こっている」 B279, B824; tur-ur bälgü-si 「竪相」 B1561; turmaq bälgü 「住相」 SE28; tïlday-tïn tur-uγma「緣起」 1278

t.-dačï 793, 3697, B624, B1939

t.-dačïsï B249

t.-dačïsïn B1940

t.-duqta 842, B451, B1705, B2395, H25R44

t.-γalï 790, 791, 2783, 2786, 2788, 2789, 2795, 2800, 2803, 2830, 2839, 3156, 3157, B1397, B1513, B2086, B2095, B2138, B2184, B2186, B2187, B2188, B2189, B2197

t.-γay 3442

t.-γu 3764, B1948

t.-γuluq 690, 691, 992, 1431, 1477, 1864, 4194, 4196, B784, B787, B1131

t.-madačïsï 3760, 3765

t.-madïn B1205

t.-mayuluq B788

t.-maq 2002, 2771, 2774, 2780, 2786, 3256, B1677, H25V30

t.-maqï 876, B553, B2025, B2071, B2075, B2239

t.-maqïn B1364

t.-maqlïγ B85, B38, B109

t.-masar 689, B1177, B2019

t.-mayu B1131

t.-maz 683, 692, 706, 711, 1400, 3444, 3708, 3756, B1186, B1773, B2149

t.-mïš 699, 914, 922, 1177, 1619, 1625, 2797, 2801, 3160, 3646, 4198, B23, B240, B272, B297, B1068, B1198, B1346, B1349, B1676, B1686, B2085, H26R48

t.-mïšï 8212, 2815, 3754, B1773, B2227

t.-mïšïn 43, 1437
t.-mïšlar B596
t.-mïšqa 560, 562, 1007
t.-sar 2772, 3642, 4060, 4061, 4430, B298, B451, B506, B508, B565, B661, B709, B1685, B1692
t.-u B297, B824, B1353
t.-uγma 1278
t.-up 576, 582, 1781, 2440, 2775, 2779, 3626, 3650, 3718, 3719, 4197, 4398, 4470, 4545, B251, B306, B1202, B1212, B1431, B1564, B1815, B1946, B1962
t.-ur 28, 270, 711, 722, 746, 837, 850, 878, 922, 994, 1013, 1063, 1225, 1383, 1403, 1946, 2082, 2112, 2382, 2692, 2798, 2843, 3083, 3163, 3164, 3165, 3167, 3168, 3169, 3170, 3282, 3755, 3950, 3964, 4060, 4062, 4440, 4441, 4566, 4570, B26, B103, B205, B275, B297, B384, B398, B402, B404, B566, B567, B633, B824, B832, B1389, B1431, B1561, B1647, B1939, B1947, B2014, B2148, B2343, B2347, B2420, B2422
t.-ur H25V42
t.-urïn 3978
t.-uruγ 4037, 4039
t.-zun 2579, 2779, 2895, 3198, 3309

turγan
turγan tïdïγ 「隄塘」 H29R9 čxšaptnïng turγan tïdïγ bolmaqlïγ yörügi ymä ök bu yangča bolγu krgäk 「戒爲隄塘義亦應准此」 H29R4

turγur-
「起こす」「住させる」 alqu barčatïn öngi üdrülmäklig pirapdiγ ol ödtä turγur-mamïšqa adï bolmaz tarïqmïš tep 「諸離繫得爾時未起未名爲斷」 B715, qayu tïldayïn bar qïlïp bu sezikig turγur-dï 「何以有此問起」 B948, nomuγ šazinïγ ür keč turγur-γu üčün 「法久住」 16; omat-turγur- 「安住させる」 304, 305, 307, 1096; sezik turγur-「疑いを起こす」「起問する」「發問する」 962, 1593, 1923, 1986, 2032, 2589, 3691, 3874, B364, B465, B1610, B1919, etc.; tuγur- 「生起させる」 3596
t.-dačï 1407
t.-dï B239, B438, B589, B928, B948, B1734, B1919
t.-duqta B618
t.-γalï 385, 1434, 1448, 4567, B511, B2109
t.-γaylar 239
t.-γu 16
t.-γuluq 962, 3055
t.-madačï 1387
t.-maduq B731
t.-mayalï 311
t.-maq 475, 1096, 3021
t.-maqï 3439
t.-maz 703, 3604, 3855
t.-mïš 197, 1593, 1986, 1995, 2853, 3155, 3874, B364, B465, B2070, B2093, B2146, B2151
t.-mïšï B1791
t.-mïšqa 2589, B715
t.-sar 998
t.-up 1923, 2032, 2472, 3077, 3379, 3427, 3430, 3672, 3691, 3872, B1421, B1432, B1610, B2090
t.-ur 304, 305, 307, 3434, 3596
t.-zun 3436
t.-zunlar 197, 198

turqaru
「絶えず」「恆に」「繼續的」 636, 4180, B68, B173, B345, B1094 turqaru öz adqanγusïnta ärkčä tapča yorïγur 「恆於自境自在行」 B68, turqaru körür üčün säviglig yeg soγančïγ önglärig 「恆觀可意妙色故」 H27R41

turuγma (turuqma ?)
tïltaγ-tïn turuγma 「緣起」「因緣」「因生」 1278; iki ygrmi tïldaγtïn turuγma nomlar 「十二因生法」「十二因緣法」 3032
t.-ta 1278

turul-
turul- yaval- 「調伏する」 inčip täk yegin tuda

sözlämiš täg turul-mïš yaval-mïš köngüllüg 「而但就勝說調伏心」 B78
t.-γalï t.-γalï yaval-γalï 867
t.-maq t.-maq yaval-maq B8
t.-mïš t.-mïš yaval-mïš B78

turultur-
「調える」 köngülüg turuldur-dačïlar uyurlar tardγalï mängig 「心調能引樂」 B11, azu körmiš üčün mü qutγaryuluq vaynikelarta tözi yïltïzï alp turultur-γuluqï ärsär yänä bergäli tägimligin bir künlük tünlük čxšaptïγ 「爲觀所化根難調者旦應授與一晝夜戒」 H33R21; turultur- yavaltur- 「調伏させる」 qaltï alqu köngültäki nomlarïγ näčä ymä ök turuldur-sar yavaldur-sar「如諸心所雖亦調伏」 B77
t.-dačïlar B11
t.-γalï t.-γalï yavaltur-γalï B10
t.-γuluq t.-γuluq yavaltur-γuluq B3
t.-maz t.-maz yavaltur-maz 868
t.-sar t.-sar yavaltur-sar B77, B181, B183

turuq
tört türlüg ög turuq 「四念住」 2464, 2469, 2475, 2451, 2467, qaltï tört türlüg ög turuq-lar yänä ulatï säkiz bölük tüzün yoluγ 「謂四念住廣說乃至八支聖道」 2451, qaltï andata eyin käzigčä bilig turuq-ï bolur yeti「如其次第識住有七」 H28V12
t.-ïnda 2464, 2469, 2475, H35R59
t.-lar 2451
t.-larï 2467

tusu
asïγ tusu 「利益」「利」 16, 762, 766, 767, 1040, 1075, 1084, 1229, 1384, 1496, 1508, 1509, 1851, 2733, see asïγ
t.-luγ asïγ-lïγ t.-luγ 15, 1282, 1966
t.-sï asïγ-ï t.-sï 105, 120, 181, 1964, 1965, 1970, 1973, 1974, 1985
t.-sïn asïγ-ïn t.-sïn 2088
t.-suz asïγ-sïz t.-suz 1967

tuš ～ tuuš
「位」 651, 651, B395, tuuš 3227, 3748, 3748, inčip išläšip käztükdä tuš-ïn「然要歷位」 3424, yol yintäm öčä turur tuš-ta uyur kim ol tïdïγïn taryaryalï 「道唯正滅位能令彼障斷」B832 ang bašlayu turmïš ünüg äšidilmiš tuš-taqïsï anïlayu oq turmaq üzä 「初所起聲聞位猶存」B1676; partakčan tuš-ï 「凡夫位」837, 988, 993, 4397, 4503; oxšadï on tušlar「同類十位」1180; bïšrunmaq yolluγ tuš 「修道位」845, 778; ämgäktä nom taplaγ tuš-ï「苦法忍位」B644, B649, B828; tïltaylïγ tuš-nung öd-i 「因位時」1784
t.-ïn 3424
t.-ïnta B599, B649, B828; t.-ïnda B644, 988, 4397; tuuš-ïnta B730
t.-ïntaqï 993
t.-lar B1855
t.-larqï B126
t.-larta 1180, 3423
t.-nung B1784
t.-ta 627, 845, 3748, 3760, 4503, B240, B253, B736, B778, B822, B832, B990, B1123; tuuš-ta 3744, 3745, 3747
t.-taqï 837, H26R45
t.-taqïsï B278, B1676
t.-tïn 1036
tuuš-taqïlarnïng 3451

tuš-
「出會う」「遭遇する」 kišlär tuš-up ämgäkkä öz tuγurup tïlädüktä umuγuγ 1183, ken birök tuš-sar alqu čxšapt yazyuluq tïltaγlarqa 「以後若遇諸犯戒緣」 H33V11
t.-maq B1785
t.-masar 1169
t.-mïš 3764
t.-sar B2154
t.-up 1183

tušγar-

「對する」 bu uyur üčün ölänmäk-kä tušγar-γalï azuča ymä uyur üčün körmäk-kä tušγar-γalï anïn adamïš ol abidarim tep 「此能對向或能對觀故稱對法」 1817, 1818

t.-γalï 1885, 1886, 1817, 1818, 1828, 1829

t.-γardačï 1825, 1827, 1885, 1886, 1895, 1896

t.-ïp 1896

t.-maq 1884, 1887, 1888

t.-maqï 1898, 1900

t.-ur 1890, 1891, 1893, 1901, 1902

tušγur-

yïγ- tušγur- 「集會する」 basa basa bir ikintikä yïγ-maq tušγur-maq ärür 2069

tušïqmaq

kürägürmäk tušïqmaq 「憍逸」 H30V9, 21, 56, H33V64 kenki üčägütin öngi üdrülmäk uyur tïdγalï kürägürmäk tušïqmaq-ïγ 「後離三種能防憍逸」 H33V64

tušlï

「對（應）」 adqanγuqa tayaqlïγïn uqïdsar adïn ödrü bolur üčün yaraši tušlï B2150; tušlï körši 「對面」 inčip umamïš täg tuγuryalï arduqraq ïraqtaqï tïdïγlïγ tuduγluγuγ öčä tükädmäkig tuγmaduquγ ulatï tušlï körši ärmäz alqu ädlärig körkdäšig 「而不能生極遠障隔已滅未生及不對面一切物像」 B1631; yaraši tušlï 「契當」 arduqraq bolur yaraši tušlï 「深爲契當」 4177

tušuš-

「互いに會う」 qaltï udumbar xua täg burxanlar alp tušuš-γuluq üčün 1161

tušuštur-

yïγ-maq tušušdur-maq「集會（すること）」 2069

tut-

「取る」「得る」「持つ」「約す」「就く」「將つ」 birök alqu nomtaqï bilmätin öčmäkig tud-a「若約一切法上（非擇滅）」 3688, tud-unglar suduruγ ulatï vinayïγ madarkïγ「持素怛纜及毘奈耶摩怛理伽」 2444, inčip täk yegin tud-a sözlämiš täg turulmïš yavalmïš köngüllüg「而但就勝說調伏心」 B78, yänä tud-up bu ävrip buši bermišning buyanïn「又將此廻施之福」 1054; čxšapt tut-「持戒する」 4369; küy-ü küzäd-ü tut-「護持する」 17, 18 küsüšüm ol čoγluγ yalïnlïγ ridilarï üzä körüp küy-ü küzäd-ü tud-zunlar「願以威神見護持」 17; ičgär- tut-「加持する」; tïd- tut-「妨げる」「障礙する」 alïn aldayïn tït-dï tut-dï 1390, otyuraq bolmaz alqu nomlarta ulatï alqu tïnlγlarta udačï tïd-ïp tud-üp kim anï turyurmayalï「定無諸法及諸有情能爲障礙令彼不起」 H26R36

t.-a 169, 171, 353, 395, 594, 594, 595, 850, 883, 883, 1231, 1538, 1991, 2025, 2028, 2132, 2319, 2434, 2517, 2609, 2665, 2666, 2710, 2713, 2718, 2722, 2726, 2727, 2735, 2748, 2749, 2749, 2877, 2881, 2911, 3012, 3016, 3199, 3209, 3555, 3688, 3690, 3725, 3753, 3779, 3780, 3785, 4086, 4092, 4143, 4144, 4214, 4256, 4289, 4413, 4418, B78, B182, B197, B312, B314, B341, B376, B423, B425, B433, B804, B968, B969, B1040, B1211, B1223, B1241, B1245, B1250, B1270, B1288, B1321, B1363, B1364, B1367, B1389, B1390, B1471, B1502, B1637, B1798, B1915, B1928, B1930, B2001, B2002, B2054, B2055, B2113, B2114, B2177, B2195, B2226, B2227, B2371

t.-arlar 4369

t.-γalï 1814, 1822, 1869, 4345

t.-γïl 4224

t.-γu 2494

t.-madïn B2207

t.-maq 486, 487, 488, 488, 494, 497, 1392, 1415, B593, B1018

t.-maqïng 2428

t.-maqlïγ 1393, 1396, 1398, 1403, B1005

t.-masar B1021

t.-mïš 1302, 1314, 2910, B1020, B1658, B1661, B1762
t.-sar 4189, 4465, B375, B964, B1504
t.-tačï 122, 123, 1824, B1801, B1803, B1806, B1808; t.-dačï 202
t.-unglar 2444, 2445, 2447, 2448
t.-up 1054, 2065, ičgär-ip t.-up 1387
t.-zunlar 17, 18

tutčï
tutčï üzüksüz 「間斷なく」 192, 988 tudčï üzüksüz bulzunlar keng uluγ buyanïγ 192

tutuγ
「所持」 savï tuduγ-luγ yörügi üküš tälim ärtüki üzä 66; tïdïγ tutuγ 「障礙」「障隔」 B2208, näng bu tïdïγ-lïγ tuduγ-luγ nom ärmäz ärip 928, alqu türlüglär üzä tegüči sav üzä uqïdur tngri burxanïng tïdïγ-sïz tuduγ-suz bilgä biligin 1494, arduqraq ïraqtaqï tïdïγ-lïγ tuduγ-luγ-uγ öčä tükädmäk-ig tuγmaduq-uγ 「極遠障隔已滅未生」 B1630
t.-luγ tïdïγ-lïγ t.-luγ 927, 928, 3151
t.-luγta tïdïγ-lïγ t.-luγta 3108
t.-luγuγ B1630
t.-suz tïdïγ-sïz t.-suz 429, 434, 519, 740, 760, 770, 771, 777, 1481, 1494, 1507, 4090

tutul-
「攝せられる」「繫がれる」 ol abidarim šasdrtaqï yeg yörüglär kirip munda tudul-mïš üčün 「由彼對法論中勝義入此攝故」 1931, nom ulatï üčägü sudurta tudul-mïš üčün 「以法等三經所攝故」 2358, munï munčulayu beš türlüg nomlarta tükäl tudul-ur ediglig nomta ulatïlar 「如是五法具攝有爲（等）」 3883, ang'ilki köni körüm tegüči savta tükäl tudul-ur üčägü 「一正見言具攝三種」 B873, uč uγuštaqï ulatï tutul-maduq nomlarnïng bolur üčün birgärü yüüz yügärü bolmaqï 「三界及不繫可俱現前故」 H25V26, [munung] eyin ükligülükin adamïš ol öngsüz uγušta tutul-mïš [tep] 「此所隨增名爲無色界繫」 H27V4; tïdïl- tutul- 「拘礙せられる」 tünlγlarnïng köz ärkligi säviglig sävigsiz öngläri üzä tïdïl-γuluq tudul-γuluq bolur 「有情眼根愛非愛色之所拘礙」 B1486
t.-ar H26V12
t.-γalï 2612, 4001
t.-γuluq tïdïl-γuluq t.-γuluq B1486, B1489
t.-maγu 4015
t.-maqïn 4550
t.-maqlïγ tïdïl-maq t.-ɯaqlïγ B1487
t.-masar 2442, 2693
t.-matuq 3054, 3569
t.-maz 1938, 2442, 2468, 2695, 2897, 3133, 3300, 3348, 3580
t.-mïš 1931, 2358, 3206, 4472, 4561, B638, B2201, H25V52
t.-sar 816, 2386
t.-sarlar 2615, 2652
t.-u 679, 2471, 2647
t.-up 28, 580, 2382, 2692, 3207, 3346, 4015, 4499, B565, B566, B567
t.-ur 680, 681, 695, 735, 736, 738, 742, 744, 753, 733, 1352, 1354, 1528, 1537, 1755, 1759, 1761, 1938, 1942, 2384, 2386, 2440, 2449, 2468, 2660, 2690, 2700, 3300, 3883, 3987, 3989, 4002, 4013, 4018, 4167, 4253, 4454, 4563, B535, B541, B560, B569, B873, B1377, B1989, D23
t.-urlar 247, 1928, 1934
t.-zun tïdïl-zun t.-zun B1204

tutultur-
「攝せさせる」 amtï uγramïš üčün tuduldur-γalï qavïraγ 2618; ililtür- tutultur- 「とらえる」「つなぐ」
t.-γalï 1575, 2618, 2635, 2640
t.-γalïr 1936, 3875
t.-ɯasar 2944
t.-ɯïš ililtür-miš t.-mïš 3041
t.-up 3055

tutuluš-
「摂せられあう」 bolur bir ikintikä tuduluš-maqï 4005; tïdïlïš- tutuluš-「拘礙せられあう」 qaldï siparir täg bir ikintikä tïdïlïš-maq tuduluš-maq B1943
t.-maqï 4005
t.-maqlïγ 4522

tutun-
tïdïn- tutun- 「制持する」 uyur kntü özi tïdïn-ïp tudun-up kim yazmaγalï čxšaptïγ 「能自制持令不犯戒」 H29R8

tuturqan
「稲」 qaltï örtädüktä tuturqan sapïlïγ uluγ yükmäkig kül bolmïštaqïsï ärür 「如燒稻稈大聚爲灰」 H25R47; tuturqan tarïγ 「稲田」 bar inčä tep sözlämiši bu suzaqta känttä bar tuturqan tarïγ-lïγta ulatïlar 「有説言於此村邑有稲田等」 H31R38

tutyaq
「取」「執受」「受」 (upādāna) 4307, 4320, 4334, 4334, 4340, 4341, 4341, 4344, 4346, 4391, 4410, 4412, 4414, 4417, 4420, 4549 tudyaq-tïn tuγar üčün adamïš ol tudyaq yükmäk tep 「從取生故名取蘊」 4334 uqïtmaz öng tutyaq-sïz ärip 「無表無執受」 H29R62 bular ikägü birlä dyan üzä üklimiš ašïlmïš tutyaq-sïz 「此二俱依定所長養無受」 H29V10, munung qayu ät'özkä sanlïγï ärsär ärür tutyaq-lïγ 「此若屬身是有執受」 H29V17; tutyaq yükmäk 「取蘊」 2682, 2723, 3397, 4156, 4303, 4304, 4307, 4309, 4318, 4322, 4324, 4326, 4328, 4330, 4333, 4336, 4338, 4346, 4348, 4349, 4353, 4380, 4382, 4386, 4387, 4390, 4403, 4407, 4411, 4495, 4566, 4568, 4578, B65, B195 aqïγlïγ nomlar tudyaq yükmäk tep adanurlar 「有漏名取蘊」 4304, azuča ymä yükmäk sanlïγ üčün tudyaq-qa anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep 「或蘊屬取故名取蘊」 4336, bar ät'öz körüm adqanïp beš tudyaq yükmäk-ig adqanγu uyuš qïlur üčün 「以有身見緣五取蘊爲境界故」 B65
t.-ïγ 4332, 4337, 4403, 4407, 4408
t.-qa 2863, 2878, 4331, 4336, 4387, 4389, 4391, 4396, 4402
t.-sïz 2990
t.-tïn 4331, 4334, 4347, 4347, 4352, 4358, 4361, 4373, 4378

tutyaqlan-
「取る」「執る」 munda üklitdäči ašdačï tep yörüg'ol alqu bolmaqqa tudyaqlan-maqïγ 「是能增益諸有取義」 2864; atqan- tutyaqlan- 「執る」「執取する」 uyur üčün adqan-γalï tudyaqlan-γalï üč bolmaqlïγ tuγumuγ 「以能執三有生故」 4343
t.-γalï atqan-γalï t.-γalï 4343
t.-maq atqan-maq t.-maq 4342
t.-maqïγ 2864, 2879
t.-maz 4414
t.-ur 4414, 4415, 4416

tuy-
「覺る」「悟る」 yindäm burxanlar oq yalanguz tuy-arlar birdämläti taγarmïš üčün 「唯佛獨悟永斷諸惑故」 618; köni tüz tuy-uγlï 「正遍覺」 H37V31
t.-ar 865, B1960
t.-arlar 618
t.-γalï B2084
t.-γusuz B1158
t.-madïn B307, H36R53
t.-maz 1358, B1967, H36R56
t.-mïšïn B553
t.-up 1657

tuymaq
「悟り」「覺り」; köni tuymaq「正覺」 tükällig bolmïš ötdä köni tuymaq-qa 「成正覺時」 2163; köni tuymaq-taqï qorqïnčsïz「正(等)覺無畏」1539
t.-ïγ 389
t.-qa 2163
t.-ta 4038

t.-taqï 1539

tuyun-
「悟る」「覺る」 piradikabud teptemiši ärsär qaltï özin ök tuyun-up adïnlartïn tuyun-madïn 866, 867, üčünč tuyun-maq bölükingä eyin čxšapt 「三順覺支戒」 H35V12
t.-madïn 867,
t.-mïš 507, 509, 522
t.-up 866

tuyuntur-
tuyuntur- oduntur- 「悟らせる」 ymä ök tuyundur-tačï oduntur-dačï üčün alqu tïnlylarïγ 513

tuyunmaq
「覺り」「菩提」 barmaqlarï ärsär tuyunmaq-qa tözi tïnlylarqa asïγ tusu qïlγu üčün ärür näng käntü özi üčün ärmäz 「趣菩提本爲利生非爲自」 1084; tuyunmaq bilgä bilig 「覺慧」 B903
t.-ïγ 407, 1029
t.-qa 1083

tüü
tüü uč-ï 「毛端」 B1959, B1979, tüü uč-ïnča tänglig ülgülüg B1959

tüg-
「結ぶ」 karik ärür ašnu tüg-miš 330, anïn šasdirta tüg-üp sözlämiš ol B2174; yumdarïp tüg- 「惣結する」 B2192, SE15
t.-är 3494, 3509
t.-mäk B2129
t.-miš 330
t.-üp 2155, 2168, 3595, B15, B2174

tügük
「結合」「まとめ」 munday osuγluγta ulatï savlarta alïp ol kärgäklig tügük-in B235

tügün
「結合」 tügün kärgäklig 「綱要」 ölüki yänä iki türlüg bolur angilki tügün kärgäkligin yumdaru uqïtmaq ikinti angayu tözin tüpin yörmäk ärür D2

tükä-
「おわる」「滿ちる」 bu oq altï biliglär tükä-düktä ärtmiš ödlüg tušta ulatïlarqa B253
t.-di 2582
t.-düktä 3538, B253

tükäl
「完全」「一切」「圓滿」「具」「成」 172, 433, 489, 522, 815, 817, 892, 938, 953, 963, 1260, 1333, 1738, 1740, 1746, 1746, 1984, 2303, 2318, 2460, 2465, 2466, 2487, 2491, 2531, 2576, 3058, 3063, 3066, 3659, 3705, 3707, 3726, 3745, 3762, 3883, 3986, 4002, 4018, 4075, 4076, B277, B873, B1118, B1199, B1403 tükäl tudulur üčägü 「具攝三種」 B873, bir ažunta tükäl bar üčün beš ažuntaqïlarnïng qïlïnč nizvanïsï 「於一趣中具有五趣業煩惱故」 H27V63, inčip tükäl ärdüki üzä köz biligi 「而成眼識」 B1118, azu tözläri öngin öngin angayu ärip tükäl käztä mü tuyar 「爲體各別具足頓生」 H30R65, munï munčulayu beš türlüg nomlarta tükäl tudulur ediglig nomta ulatïlar 「如是五法具攝有爲」 3883; tükäl bilgä bilig 「一切智」 433, 522, 892, 938, 1984 yïndäm sarvadyan tükäl bilgä bilig-kä ök bilgülük ärür 「唯一切智知」 938; tüzü tükäl 「完全」「具足」「俱」「具」 953, 963, 1260, 1738, 1740, 2303, 2318, B1199, B1403, etc. näng košodira pidakta mundata ulatï alqu nomlar tüzü tükäl bolur ärmäz üčün 「非雜藏中此等諸法具足可得」 2460, tüzü tükäl tägindi alqu ämgäklärig 「俱受衆苦」 2491; tolu tükäl 「圓滿」 1310
t.-in 1310
t.-inčä 3327

tükällig
kimlär birök tükällig bolurlar qayu sanvarlarta 「誰

成就何律儀」 H31R23, näčä yänä tükällig bol(sar) ymä inčip sözlämiš ol bolur täglük tep 「雖復成就而說爲盲」 B1121; (-qa/-kä) tükällig「圓滿」「具」「成」「成就」 86, 116, 377, 387, 419, 505, 526, 627, 819, 893, 1029, 1077, 1102, 1198, 1247, 1260, 1303, 1443, 1464, 1466, 1479, 1503, 1504, 1509, 1509, 1518, 1528, 1529, 1529, 1530, 1531, 1533, 1535, 1536, 1560, 1564, 1637, 1644, 1649, 1660, 1722, 1748, 1750, 1984, 2162, 2653, 2656, 3060, 3061, 3615, 4228, B597, B703, B724, B731, B734, B777, B1112, B1113, B1113, B1121, B1135, B1139 qaltï bilgä bilig-kä tükällig bolmaq taryarmaq-qa tükällig bolmaq「謂智圓滿斷圓滿」 1529, bilgä bilig uyur üčün tükällig bolyalï üčägü-kä「慧能具三」 1644, tükällig bolmïš ötdä köni tuymaq-qa 「成正覺時」 2162, köz bilig-ingä tükällig bolmaq birlä yänä tükällig bolmamaq uyurïnda ärmäz 「不由眼識成與不成」 B1113, odyuraq andaqï pirapdi-qa tükällig bolmaqïntïn adamïš ärmäz adqayïn taryarmïš tep 「不必於中不成就名所緣斷」 B703, ärtmiš kälmätük ödki-singä ymä ök turqaru tükällig「過去未來亦恆成就」 H31V46,

t.-in 353, 359

t.-siz 19, 1746

tükät-

「おえる」; -u/-ü tükät-「・・し已える」「既に・・である」 ög-ä tükäd-miš boldï adï ködrülmišning özkä asïy qïlmaqlïy ädgüsining büdügin「已讚世尊自利德滿」 1021, orun töldäp olur-u tükät-düktä 「敷座坐已」 2499, uqïd-u tükäd-miš boldï aqïylïyïy 「已辯有漏」 2926, bul-u tükäd-ür tuymaqsïzïn「已得不生」 B721, mn alq-a tükäd-tim tamuy 「我已盡那落迦」 B607, bu anday bolma-yu tükäd-sär 「此既不爾」 B61, sözlä-yü tükäd-miš üzä tägir anda tep 「既言至彼」 B1560; tuy-a tükät-miš 「已生」 B300, B301, B302

t.-dilär 3981

t.-dimiz 2508

t.-gäli 185

t.-gäy 3099

t.-ip 451, 453, 472, 1090, 1109, 1298, 1505, 1549, 2163, 2310, 4311, B421, B820, B1849, B1935

t.-mädük B1820

t.-mäk 652, 705, 1064, 1198, 1589, 1651, 2009, 2120, 2262, 2394, 2471, 2484, 2684, 2935, 2952, 3012, 3451, 3551, 3592, 3695, 3937, 4258, 4329, B162, B188, B190, B394, B645, B662, B725, B930, B997, B1032, B1037, B1132, B1132, B1185, B1261, B1309, B1334, B1353, B1615, B1622, B1837, B1838, B2006, B2198

t.-mäki 286

t.-mäkig B1630

t.-mäti 4550

t.-miš 175, 384, 480, 515, 985, 1021, 1022, 1025, 1034, 1294, 1332, 1577, 1728, 1917, 1956, 2470, 2571, 2853, 2926, 2977, 2985, 3439, 3474, 3548, 3591, 3593, 3786, 3846, 3862, 4173, 4184, 4300, 4531, B300, B301, B302, B304, B393, B414, B463, B639, B712, B750, B806, B850, B947, B1232, B1239, B1560, B1659, B1675, B2144, H25R5

t.-miši B821, B1665

t.-mišig B1632

t.-mišin 3549, B841, B1664

t.-mišining 3542, 3941, 3943, 3945, 3974, 3976, B366

t.-miškä B1925

t.-mišlär B634

t.-mišlärning 272

t.-mišning B801

t.-mištä 1488

t.-sär 360, 2944, 2958, 3016, 3415, 3429, 4315, 1015, B61, B431, B724, B1230, B1768

t.-särlär 663

t.-ti twyk'dty B113, B1850; twyk'tdy 354, 683, 1550, 1554, 1591, 2164, 2936, 3000, 3029, 3239, 3592, 3891; twyk't-ty 3236, 3257

t.-tim B607, B612

t.-tüktä twyk'dtwk-t' 1725, B251, B403, B428, B442, B781, B788, B797, B799, B821, B1353, B1813;

twyk'tdwkt' 136, 690, 2137, 2154, 2167, 2499, 2501, 3228, 3268, 3275, 3276, 3522, 4185, 4399
t.-ür 356, 679, 710, 2597, 2647, 3073, 3532, 3548, 3896, B355, B643, B650, B721, B762, B809, B819, B1417
t.-ürlär 871

tümän
「萬」 iki tümän säkiz mïng girantlarï 「二萬八千偈」 7

tümgä
「鈍」 ärkligläri tümgä yti bolmaq uγrïnta adïrïp uqïtmïš ol iki adlar üzä alqu tümgä ärklig-liglärning atï bolur kertgünč eyin yorïtačï tep 「由根鈍利別立二名諸鈍根名隨信行者」 H38V56,57; qaramtï tümgä 「昧鈍」 bu qïnamaqïngïzlar uqïturï qaramtï tümgä üčün 「表昧鈍故」 H32R40; tümgä ärklig 「鈍根」 ödčä qudrulmïšlar ärsär tümgä ärkliglig üčün 3441
t.-si H38V48

tün
「夜」 H32V65, H33R4, yintäm bir kün tün üzä iišläšip tanqarïp inčip täginguluk 「唯一晝夜要期而受」 H32V62; tün ülüš-i 「夜分」 B878, B884, inčä qaltï tün ülüš-intä ayta ulatïlarnïng yaruq yoqïnta 「譬如夜分無月等明」 B878
t.-dä 511, H33R9 (-tä)
t-üg H32V66, H33V23

tünär-
「暗くなる」
t.-miš B2124

tünlä
「夜（に）」 B2214; biligsiz biliglig tünlä-ki tün 「無明深夜」 511

tünlük
「夜間」 H33R15,20, pratïmokšasanvar ölü ölgінčälig ärür azuča künlük tünlük ymä 「別解脫律儀盡壽或晝夜」 H32V58

tünglük
「窗」 tünglük-tä yorïdačï qoγ parmanu B1794

tüp
「底」「本」「邊」 alqu yügärü uqmaqlarnïng tüp-indäki 「諸現觀邊」 2454; töz tüp 「根本」 401, 1618, 1747, 3825, B647, B648, H32V15,17,
see töz
t.-i töz-i t.-i 798
t.-in 2057, 2062; töz-in t.-in 788, H35V1, D3
t.-intäki B967; t.-indäki 2454
t.-tä töz-tä t.-tä H32R53

tüpgär-
「探る」 tüpgär-sär olarnïng töz köngülin 1062;
istä- tüpgär- 「尋究する」 see istä-
t.-gäli B1843
t.-miš 1336
t.-sär 1062
t.-ü B1849

tüpsüz
üzlünčü tüpsüz 「無限」 bašlaγsïz üzlünčü tüpsüz 「無始無限」 1119; tözsüz tüpsüz 「無根」 tïnlγ tözi tözsüz tüpsüz ärür 3261

tüpü
「頂上」「上」 tüpü-tin bir tamïzïm miyi suvï tüšüp B1961

tüpük-
「窮まる」「邊際する」 barča yörüg tözi tüpük-mäz 987, inčip ol ödtä qïlγuluq iši küdüki tüpük-düktä 「即於爾時所作究竟」 H31R16; tüpük- alqïn- 「盡きる」 3723, biri biri ödläp

ärïgläp ozyurup qutyarïp sansïz saqïssïz tïnlylarïγ kim tanuqladsarlar ymä qalïsïz nirvanlïγ uyušuy inčip tüpük-mäz alqïn-maz inčä qltï kök qalïγ täg 「一一一化度無數有情令證無餘般涅槃界而不窮盡猶若虛空」 H27V20; tüpük-mäksiz 「無窮」 inčip tüpükmäksiz ärmäz 「然非無窮」 SG3; üzlünč-tä tüpük-mäz 1401

t.-mäksiz 3550

t.-mäz 987, 2727, 2835, 2956, 3723, B616, B1403

tüpükdür-

「究竟する」 körüp alqu kertülärning yörügin tüpükdür-mädük üčün 「見諸諦理未究竟故」 H38V38

türgäklä-

「巻く」 qulyaq ärkligning parmanusï türgäklä-miš tooz qadï täg ärür B1945

türlüg

「種の」 28, 40, 87, 88, 93, 113, 117, 118, 122, 133, 138, 257, 258, 265, 316, 318, 335, 353, 359, 377, 391, 422, 450, 454, 456, 468, 468, 474, 480, 489, 490, 500, 505, 507, 524, 526, 530, 531, 533, 546, 588, 588, 615, 616, 663, 670, 674, 701, 720, 734, 767, 770, 778, 780, 781, 782, 784, 786, 803, 817, 819, 820, 821, 824, 876, 879, 887, 936, 941, 942, 948, 949, 952, 965, 1023, 1030, 1070, 1113, 1134, 1251, 1283, 1298, 1298, 1317, 1318, 1333, 1351, 1352, 1353, 1355, 1356, 1358, 1407, 1407, 1458, 1465, 1467, 1476, 1485, 1487, 1505, 1511, 1537, 1548, 1552, 1559, 1580, 1580, 1583, 1588, 1590, 1638, 1654, 1702, 1767, 1816, etc., B322, B355, B356, B360, B361, B365, B372, B381, B383, B384, B385, B386, B408, B408, B411, B411, B418, B418, B459, B563, B569, B621, B657, B659, B676, B694, B768, B770, etc. nomlamïšča alqu nomlar qavïrasïnča bolur iki türlüg 「說一切不法略有二種」 2592, bu kök qalïqta ulatï üč türlüg edigsizlärning ulatï yol tüzünlär kerdüsining adï bolur aqïγsïz nom tep 「此虛空等三種無爲及道聖諦名無漏法」 2933, ol azta ulatïlar alqu türlüg bolur 「以彼貪等有一切種」 4557, angar oxšadï köz täk bolur tört türlüg 「彼同分眼但有四種」 B381, pančadišlïγ alqu baxšïlar sözlär beš türlüg bolur tep 「西方諸師說有五種」 B385

t.-i 1880

t.-lär 71, 431, 443, 503, 603, 609, 732, 734, 737, 742, 857, 951, 1492, 1493, 1513, 1530, 1538, 2637, 4552

t.-lärig 999

t.-üg 626, 628, 763, 1001

türtün-

「塗る」 qaltï öngdünki säkizägütä yïd yïpar türtün-mäk bäzäk üzä etinmäk bötimäk ïrlamaq körmäk tïnglamaqïγ adïrïp iki türlüg 「謂於前八塗飾香鬘舞歌觀聽開爲二種」 H30V49

t.-mäk H33V51

tüš

「果」「報」 1614, 1876, 1881, 3590, 3747, 3755, 4195, 4197, 4405, 4510, B501, B501, B1389, B1390, B1392, B1797, B2339 bu iki tïltaylarnïng kim birlä tuymïš tüš-intä bolur üčün išï kütüki 「由此二因令俱生果有作用故」 H26V53, munda tïldayï tüš-i üzä ördülgülük kösidilgülük bolmaq tep yörüg'ol 「是因爲果所映蔽義」 4198, ol alqu qošuylar ulatï bir tüš-lügtä ulatïlarnïng barčanïng adï bolur tarïqu tükädmiš tep 「彼諸結及一果等皆名已斷」 B711, bilip anïng tüš-ining üzülmišin 「知具報終」 2497; tüzün tüš 「聖果」 50, 53, 263, 326; yeg adruq tüš 「(殊)勝果」 184, 192; ämgäklig tüš 「苦果」 285, 286, 4510, 4514; aqïγsïz tüš 「無漏果」 1881; tüš ber- 「與果」 3747, 3755; öngi bïšmaq tüš-i 「異熟果」 4360, 4364, B2339; är išï tüš-i 「士用果」 4365; ärksinmä tüš-i 「增上果」 4366; tüš(-lüg) yemiš 「果(實)」 4405 qaltï xualïγ čäčäklig tüš-lüg yemišlig sögüd temiš täg 「如花果樹」 4338

t.-i 1040, 2700, 2701, 4198, 4199, 4200, 4360, 4364, 4365, 4366, B1100, B1387, B1796

t.-in 1050, 1061, 1064, 1070, 1678, B1149
t.-ining 2497
t.-li 1123
t.-lining H25V47
t.-lüg 455, 472, 4338, 4404, 4406
t.-lügi 468
t.-lügtä B39, B711
t.-nüng 53, 286, 1876, H25V37, H25V58
t.-tä 382, 386
t.-üg 50, 184, 192, 263, 285, 326, 442, 1077, 2245, 4514, B2338, H25V51

tüš-

「落ちる」; asïra tüš-「下落する」 umazlar adïnlarqa asïra tüš-üp ayïdyalï ödüngäli sansartïn üngülük tïldayïy 1140; öd-tä tüš-「墮世-」 4034, 4051, 4055 öd-tä tüš-mišining öd-tin öngi üdrülmišining bolmaz üčün birlä bolmaqlïy yörügi「墮世離世無俱理故」 4055; tüšmädäči törülüg 「不墮法者」 qaltï pardakčanlarta tüšmädäči törülüg-i täg 「如異生中不墮法者」 B107
t.-däči 4051
t.-däčisi 4034
t.-mädäči B107
t.-mäk 1981
t.-mäz H29R56, H34R42
t.-mišining 4055
t.-sär 3152
t.-üp 1140, B1962

tüšürül-

「落とされる」「落謝する」 tüšürül-ür üčün ärtmiš ödkä adï bolur ärdmäk tep 3644
t.-üp 3679, 3707, B241
t.-ür 3644

tüšüt

tüšüt ögrätig「慣習」 835, 993, 1006, 1012 ašnuqï nizvanïlarta tüšüd ögrädig qïlmaqlïy küči kösüni uyurïnda 835

tüšütlän-

tüšütlän- ögrätin- 「慣習化する」 ür keč tüšüdlän-mäk ögrädin-mäk üzä 989

tüšütlüg

「慣れている」「串れている」 tüšudlüg üčün yoyun öngüg körmäktä 「串見龕色」 B2356

tütät-

「薫る」 dyanta ädgüsining adï bolur bïšrunmaq tep artuqraq uyur üčün tütät-gäli köngülüg 「等引善名修極能熏心故」 H35V19

tütitil-

「薫る」 qaltï künčit yayï üzä tütitil-miš xua täg 「如花熏巨勝」 H35V28

tütüš

tütüš toqïš 「爭い」 4428, 4436

tüz

tüz-süz tuyar üčün「不等生故」 H25R28; täng tüz 「等」「平等」 109, 1501, 1508, 1637, 2595, 3451, B1954, H25V8 azuča näčä yänä täng tüz bolsar ymä täk ödsüzining uyrïnta ödrü ämgäkka tïltay bolup umïš üčün tuyuryalï ämgäkig「或雖平等但由非時便成苦因能生於苦」 H36V68, alqu aqïylar anda täng tüz eyin ükliyür üčün「諸漏於中等隨增故」 2595; tüz tašang「平擔」 B890, B895 inčip käzä yorïduqta tüz tašang orunta 「而遊平擔」 B890; tüz arasïz basutčï「等無間（緣）」 3648, 3663, 3664, 3756, 3758, 3919, B254, B2030, B2031, B2033, B2034, B2036, B2040, B2047, B2061, B2062, H25R9,15,23 qaltï köngül biligingä tayaq töz bolsar ymä ök ärür köngül biligingä tüz arasïz basudčï「謂是意識所依性者定是意識等無間緣」 B2060, alqu öng nomlar qadïlïšu bulyašu yüz yügärü bolur tüz arasïz basutčï-tïn tuymïšï qadïlmaqsïz bulyašmaqsïz üčün「以諸色法雜亂現前等無間緣生無雜亂

故」H25R35; tüz ulamalïγ「等無間」 qayu nom köngül tüz ulamalïγ bolsar köngülsüz dyanqa arasïz bolur mu「若法與心爲等無間與無心定爲無間耶」H26R53; yaqïn yaγuq tüz tarttačï「親等起」B748, B753; tüz baz「和やかに」 tüz-in baz-ïn sanggit qïlïp ančulayu kälmišning qayu yrlïγïn 2259, üčünč burxan tïtsïlarï iki arqa bolu tükädüktä usar tüz baz qïlγalï「三佛弟子破已能和」H35V46 t.-in t.-in baz-ïn 2259

tüz-

「平らにする」 tüz-däči üčün adalïγ qïlïnčlarïγ anïn bolmïš čxšapt tep「能平險業故名尸羅」H30V58

tüzgär-

「糺す」 tüzgär-sär olarnïng töz köngülin 1062

tüzü

「普く」「遍く」 817, 819, 1229, 1238, 3148, 3151, 3158, 3180, 3187, 4015, 4017, B1544, B1613, B1621, B1891, B1949, B1963 alqu barča umaz üčün tüzü ördgäli tïdγalï「一切不能遍覆障故」3180, oqsuz tüzü yarudmïšï täg「無間遍照」B1544, yangï turmïš maxabutlar tüzü-tä üklimiš ašïlmïš üčün「新生大種遍增益故」H29V34, ösgän yaγmur näčä tüzü-tä yaγsar ymä「甘雨雖普降」B1272; tüzü yapa「普遍」62, 3065, 3121, B335, B336 adqanur nomuγ barča tüzü yapa B335; tüzü tükäl「完全」「具足」「俱」「具」953, 963, 1260, 1738, 1740, 2303, 2318, 2430, 2460, 2465, 2466, 2487, 2491, 2531, 2575, B1199, B1403, etc. see tükäl

t.-kä 1056

t.-ni 1239, 3193, 3193, 3197, 3197

t.-tä 1272, B1984, H29V35

tüzün

「聖」「聖者、聖人」(複数形) 2518, 3449, 3451, B599, B603, B650, B769, B773, H31V45 yänä sözlämäk üzä tüzün-intin tegüči savïγ adïrïp almïš krgäk aqïγsïzïn「復說聖言簡取無漏」H32V21, qayu nom bälgülüg nom ärsär yumdaru tört türlüg tüzün-lär kertü-si ärür「若法相法通四聖諦」1816, ulatï tüzün-lär kerdü-sining adï bolur aqïγsïz nom tep「及道聖諦名無漏法」3091, uqïdγalïr üčün öz baxšïsïnïng anïng ät'özining yeg ayaγuluγ ärtüki üzä ärtmišin ašmïšïn alqu tüzün-lär quvraγïnda「爲顯自師其體尊高超諸聖衆」78, tüzün-lär köngülingä qaršï üčün「違聖心故」4466; tüzün tüš「聖果」50, 53, 263, 326; tüzün yol「聖道」318, 321, 323, 385, 633, 696, 699, 709, 712, 1027, 1148, 1166, 1167, 1169, 1170, 1171, 1172, 1382, 1383, 1409, 1452, 1677, 1678, 1681, 1840, 1853, 1856, 1858, 2060, 2062, 2452, 2631, 2678, 2679, 2692, 2695, 2696, 2697, 2699, 2701, 3294, 3562, 3562, 3567, 3579, 3719, 3822, 3823, 3824, 3827, 4135, 4136, 4136, 4150, 4174, 4181, 4184, 4188, B586, B593, B594, B649, B823, bu uγušluγ tüzün yol-uγ ašnu turγurmaduq üčün「此類聖道先未起故」H31V49, yänä ulatï säkiz bölük tüzün yol-uγ「乃至八支聖道」2452, säkiz tüzün yol「八聖道」319, 2628

t.-lär 12, 78, 144, 1654, 1816, 2929, 2933, 3091, 3098, 3183, 3312, 3319, 4466, 4479, B229, B232, B659, B719

t.-lärig 4476

t.-lärkä 499, H31V27

t.-lärning 56, 3448, 4474, 4489, 4493, 4502, H36R63

t.-lärtä 82, 412, 415, 421, 423, 533

TS

tsi

tsi iryapat「威儀」 tsi iryapat-ïγ tägšürdüktä kedärtüktä yörügi ymä antaγ oq bolγu kärgäk「威儀易脫理亦應然」H37R1

tsopïn

< Chin. 造本 (藏本 ?) mn asimarda atlγ ačari tsopïn-ïn qïldïm 8

tsoyurqa-
erinčkä- tsoyurqa-「哀愍する」 biligsizlär bilgä biligig yoqadturmaq üzä tägilmiš közlüglär erinčkä-gülük tsoyurqa-γuluq bolmïš ärürlär 399

U

uu
「睡眠」 511, 514 ančulayu oq ymä biligsiz biliglig uu-sïndïn odunmïš üčün 516
uu-din 515
u.-sïndïn 516

u
「そして」「また」 3588, B473, B709, B972, see 本文 1.4.2.2.2-5)

u-
-γalï/-gäli u-「・・できる」「能く・・す」「・・し得る」 u-yur üčün tïd-γalï qudrulmaqqa barmaqïγ 「能障趣解脱」 1150, män arïdï yrlïqamaz män u-yur könisinčä alq-γalï ämgäkig 「我終不説能正盡苦」 2048, köngülüg turuldurdačïlar u-yurlar tard-γalï mängig 「心調能引樂」 B11, aldïn oruntaqï köz u-maz kör-gäli üzdünki öngüg 「下眼不能見上色」 B2355, ol u-mamaqïnïng uγrïnda adqan-γalï ärdmiš ödki adqanγularïγ 「由彼不能縁過去境」 3627, u-p alïn aldaγïn nomla-γalï čïnkertü tözlüg köni nomuγ 「能方便説如理正教」 1310, nädägin u-zun taγar-γalï ol öngtä nomlarïγ 「云何能斷彼色等法」 B719, munï üzä ödrü adï bolur közüg birdämläti taγar-γalï u-mïš tep 「是則名爲眼得永斷」 B692
u.-dačï 309, 949, 1991, 2635, 4101, B1013
u.-γay 82, 1526
u.-γu B979, B1028, B1030, B1040, B1229, B1267, B1510, B1613
u.-γuluq 791, 3676, B456
u.-γuta 3758
u.-madačïsïn 1425
u.-madïngïzlar B1169
u.-maduq 1475
u.-mayay 815, 1453, 3172, B1579
u.-mayu B1511, B1538
u.-mayuluq 903, 918, B1002
u.-mayusïn 1050
u.-mamaqïn B2195
u.-mamaqïnïng 3627, 3655
u.-mamaqlïγ B1170
u.-mamïš 950, 974, 977, 2640, 2814, B329, B1000, B1172, B1629, B1633
u.-mamïšqa B1426
u.-maq 413, 676, 802, 1378, 1785, 1786, 3049, 3291, 3599, 4099, 4110, 4139, 4407, B29, B374, B1128, B1301, B1318, B1513
u.-maqï 780, 2833, 3292, B202, B1690
u.-maqïn B1211, B2194
u.-maqïnga B186
u.-maqïng 2258
u.-maqlïγ 1233, 1247, 1470, 1472, 1506
u.-masar 1781, 3064, 3139
u.-matïn 1154
u.-mayu B997, B1031, B1132, B1615, B1622
u.-maz 784, 972, 998, 1248, 1249, 1427, 1436, 1448, 1453, 1654, 1771, 1771, 1772, 1910, 1911, 1977, 2071, 2192, 2612, 2667, 3053, 3138, 3180, 3186, 3191, B23, B200, B240, B328, B824, B943, B1031, B1041, B1072, B1126, B1205, B1234, B1237, B1298, B1319, B1508, B1542, B1553, B1621, B1814, B1999, B2320, B2327, B2338, B2342, B2355, B2357, B2364
u.-mazlar 632, 635, 745, 893, 1138, 1140, 1164, 1170, 1257, 1268, 1270, 1402, 1466
u.-mazunlar 1422
u.-mïš 97, 117, 439, 544, 545, 572, 762, 1414, 1474, 1637, 4247, B692, B1255
u.-mïšï 554, 555, 557, 1238, B688
u.-p 867, 1310, B200; uu-p 2782
u.-sar 120, 260, 746, 765, 1255, 1241, 1394, 1396, 1400, 2830, 2860, 2872, 2882, 3361, 3651, 4096,

4503, 4504, B133, B691, B1475, B1597, B1612, B1620, B1623, B1628

u.-yu B1417

u.-yur 35, 55, 311, 324, 466, 467, 606, 640, 642, 644, 696, 699, 718, 740, 789, 826, 884, 886, 995, 1150, 1365, 1405, 1409, 1447, 1450, 1457, 1644, 1668, 1694, 1695, 1695, 1701, 1792, 1795, 1798, 1814, 1817, 1817, 1822, 1827, 1829, 1862, 1869, 1897, 1913, 2042, 2048, 2054, 2244, 2366, 2377, 2705, 2717, 2753, 2755, 2778, 2795, 2847, 900, 2900, 3134, 3135, 3139, 3140, 3141, 3159, 3160, 3294, 4001, 4026, 4112, 4136, 4197, 4342, 4344, 4464, 4467, 4485, 4508, B63, B76, B135, B136, B180, B193, B198, B406, B452, B454, B507, B511, B593, B594, B687, B718, B743, B832, B960, B971, B984, B989, B991, B993, B1010, B1021, B1024, B1027, B1027, B1106, B1180, B1202, B1206, B1210, B1213, B1219, B1221, B1222, B1228, B1230, B1238, B1240, B1253, B1273, B1273, B1275, B1275, B1294, B1296, B1297, etc.

u.-yurlar 60, 121, 124, 163, 166, 719, 829, B11, 1192, 1197, 1384, 4244, 4276

u.-zun B719, B1132

uč ～ uuč

「邊」「先」「端」 tüü uč-ïnča 「毛端」 B1959; uč qïdïγ 「際」 uyurlar alqïp sansarnïng uč-ïn qïdïγ-ïn ikiläyü täginmägäli kenki bolmaqïγ 「能盡生死際更不受後有」 4244, birök antaγ ärsär adï kötrülmišlär körmäkinčä öngdünki uuč-taqï kenki uuč-taqï nomlarïγ umaγu krgäk bilgäli 「若爾世尊未見前際於後際法應不能知」 H25V55; uč tutmaq körüm 「邊執見」 B592

u.-ïn B311; u.-ïn tïdïγ-ïn 3173, 4244

u.-ïnča B1959

u.-ïnga B1948, B1979

u.-ïntaqï B1890, B1911

učluγ

bir učluγ-ïn 「專ら」 3624, 3632, 3633, 3634, 3636, 3670, 3752, 3844 qaltï közli köngülli bir učluγ-ïn bir öngtä bolmïš ödtä 「如眼與意專一色時」 3624

učrum

učrum adalïγ 「險阻」 B881, B886 inčip käzä yorïduqta učrum adalïγ-qa 「而遊險阻」 B881

učsuz ～ uučsuz

učsuz qïdïγsïz 「無邊」 859, 3720, 4281, B308, B310, B312, B313, B314, B315 ulatï alqu yörüg uγušïnïng učsuz qïdïγsïz adïrdïntaqï 「及諸義類無邊差別」 859, üč uγušlar učsuz qïdïγsïz ärürlär qltï kök qalïγnïng ülgüsï täg 「三界無邊如虛空量」 H27V15; uučsuz qïdïγsïz 889, 932, 934, 970, 3114, 3115, 3116

učuz

「容易に」「簡單に」 266, 1205, 1622, 2620, 2641, 3085, 3630, B436, B1425, B1743, B1951, B2025, B2138 girant üzä učuz bolur bilgäli 「文易可知」(易) B436; učuz ongay「適した」 1205

učuzlamaq

yeniklämäk učuzlamaq 「輕侮」 ödrü turγuryaylar ärti yeniklämäk učuzlamaq-ïγ 240

ud

「牛」 3314, 3315, 3331, 3331, 3342 qaltï ud qošuγluγ qanglïγ adamïš täg ud qanglï tep 「如牛所駕車名曰牛車」 3314, 3315; ud mayaq-ï 「牛糞」 B1056

udan

< Skt. udāna 「鄔陀南（頌）」 2129, 2140, 2141, 2150, 2170, 2345, 2347, 2351 nä ymä yïγmïš täg anïtyadavargta ulatïlarïγ udan šlok üzä 「所集無常品等鄔陀南頌」 2129

udana

< Skt. udāna 「自説」（「鄔陀南（頌）」） 2334

uu dem
< Chin. 无念（人名） uu tem atlγ ačari tsopïn-ïn qïldïm 8

udï-
「眠る」 nizvanïlïγ uu üzä süčig ud-mïš tïnlγlarta 512
u.-mïš 512
u.-p 515

udïγ
uu udïγ 「睡眠」 azu yänä kkirlig kirsiz bilmämäklig uu udïγ-ïγ birdämläti taryaru tükädmiš üčün 514

udu
eyin udu「隨順」「隨從」 2402, 2407, 2414, 2817, 2820, 2863, 2878, 3911, 3916, B470, B473, B479
qaltï qayu näčä bar ärsär öng eyin udu alqu tudyaqqa 「謂所有色隨順諸取」 2863, uyur üčün eyin udu qïlγalï irip öngi üdrülmäklig köngül-kä 「以能隨順厭離心故」 H33V52

udumbar
< Skt. udumbara 「優曇」 udumbar xua 「優曇華」 qaltï udumbar xua täg burxanlar alp tušušyuluq üčün 1161

udun-
tapïn- udun- 「供養する」「供給する」 ašnuča üč türlüg qïlïnčlar üzä tapïn-ïp udun-up 1318, ikinti tapïnyu udunyu üčün törttin yïngaqtïnqï bursanglarqa qïlïp sangram buši bersär yemišlik arïγ tört türlüg tapïγïn tapïn-sar udun-sar 「二爲供養四方僧伽造寺施園四事供給」 H35V43,45
u.-γuluq tapïn-γuluq u.-γuluq 1205
u.-up tapïn-ïp u.-up 1318

uduš-
「了ずる」; uduš-γuluq yörüglüg 「未了義」 「不了義」 uyur odγuraqlap qamaγ sudurlarnïng qayu barïnča odγuraq yörügin bölgäli sudurnung udušulmïš yörüglüg-in uduš-γuluq yörüglüg-in 「能決衆經判經了義不了義」 2378
u.-γuluq 2310; u.-γuluq yörüglüg 2308, 2315, 2378, 2402, 2404, 2405, 2418, 2419, 2424
u.-γuluqïnga 2404
u.-up 2472

udušul-
「了ぜられる」 udušul-mïš yörüglüg 「了義」 2308, 2309, 2317, 2378, 2402, 2403, 2405, 2406, 2417, 2419, 2420, 2422, cf. uduš-

uduz-
「導く」「將いる」 ärü ärü uduz-up uluγ quvrayïγ tägip ol taluynung qïdïγïnga 「遂將大衆至彼海岸」 2498
u.-γalïr 1360
u.-mïš 2686
u.-up 1056, 2498

uγra-
-γalï/-gäli uγra- 「・・することを欲する」「將に・・する」 amdï uγra-duqta šastr yarad-γalï「今欲造論」 76, yula uγra-mïš ödtä yarud-γalï burnač böztä ulatïlarïγ「燈欲照瓶衣等時」 B1531, mn uγra-dïm kadyot qurtnung yaruqï kün tngrining yaruqïnga basudlayurïnča küčüm yedmišinčä kengürü uqïd-γalï abidarmakoš šasdrïγ「我將螢燿助陽光隨力弘宣對法藏」 13, uγra-sar yör-gäli bu šasdrïγ「將釋此論」 22
u.-dïm 13
u.-duqta 76, 182, 188, 475, 1317, B819
u.-maq 1091
u.-mïš 157, 177, 329, 491, 817, 1549, 1606, 1921, 2618, 3019, 3076, 4301, B464, B818, B825, B1531, B1961
u.-mïšï 3595
u.-mïšïn 479

u.-sar 22, 546, 1549

uγrat-

eyin uγrat- 「隨う」 ymä ök tägimlig ol yertinčü eyin uγrad-u yörgäli B1336

uγrayu

「まさに」 50, 80, 86, 100, 188, 235, 255, 479, 481, 1209, 1336, 1439, 1592, 2375, 2398, 2408, 3695, 3755, 3993, 4097, 4160, 4315, B733, B776, B818, B824, B826, B831, B951 yörügi uγrayu kizläglig badutluγ üčün「義將穩便」(將) 1592, tayanïnglar sudurluγ ülgükä tep uγrayu ödlämiš ärür abidarimqa tayanmaqïγ「依經量者正爲勘依阿毘達磨」(正) 2375, bošyudsuz köngül tuγmïš ödtä uγrayu tïdïγïntïn qudrulur「無學心生時正從障解脫」B831

uγrïnda

see uγurïnda

uγur

「場合」「機會」「條件」「行相」「門」 2922, 3521, 3524, 3527, 3545, 3545 öngsüz nomlarta uγur-ï yaruq yašuq yti sikiz「無色法中行相明利」B847, ämgäkkä tïltaγ bolγalï umaq terginning uγur-ï「能爲苦因是集行相」H36V32, uqïtu tükädmiš boltï qïlïnčï uγr-ïnïng iki üč beš öngi adïrtïn「已辯業門二三五別」H29V39; uγur-ï yïq-ï ...-γuluq/-gülük「・・す容き場合 (/機會/こと/ところ)」 yänä köznüng bolmaz üčün uγur-ï yïq-ï täggülük ïraqtaqï adqanγularqa bolmaz uγur-ï yïq-ï munda turup köz ärdip üküš mïng yočan ülgütä täggülük ay tängri tilgänlig adqanγuqa「又眼無容至遠境故無容住此眼越多千踰繕那量至月輪境」B1563, B1564, anta sözlämiš ol beš ažunlarta tuγum ulalur kšanta uγr-ï yïq-ï bolur bol-γuluq beš bölüktäki alqu nizvanilar tep「彼說五趣續生心中容有五部一切煩惱」H28R34-36, bu otγuraq baxšïtïn bolur bolmaz uγr-ï yïq-ï käntü özintin tägin-gülük「此必從師無容自受」H33V10; tašγaryu uγur-ïn ävril-「外門によって轉ずる」B549 ～ tašγaru uγur-ïn ävril- B671, B834, B837, ol oq beš biligtä ulatïlar adqanïp öng adqanγuγ tašγaru uγur-ïn ävril-ür üčün「即五識等緣色等境外門轉故」B671; ičgärü uγur-ïn ävril-「内門によって轉ずる」B849,

u.-ï 812, 3829, 4487, B847; u.-ï yïq-ï...-γuluq/-gülük 274, 689, 690, 758, 791, 1159, 1173, 1412, 2061, 3675, B450, B784, B787, B980, B1131, B1563, B1564

u.-ïn 279, 959, 1568, 1912, 2676, 3739, 4092, B549, B671, B834, B837, B849, B1624, B2099

u.-ïndaqï 2966

u.-larï 3321

uγurïnda ～ uγrïnda

(-nïng/-ning) u.「・・に由て」 ('wqwr-ynd') 37, 42, 43, 46, 55, 102, 105, 217, 264, 669, 835, 993, 1129, 1130, 1132, 1142, 1313, 1375, 1376, 1382, 1393, 1409, 1516, 1718, 1953, 2014, 2039, 2082, 2099, 2240, 2393, 2786, 2796, 2855, 3602, 3655, 3829, B1114, B2080; ('wqwrynd') 3094; ('wqwr-yn-t') B8, B55, B102, B143, B204, B216, B276, B281, B334, B557, B828, B981, B1009, B1052, B1106, B1112, B1130, B1145, B1457, B1547, B1569, B1581, B1595, B1604, B1767, B2072, B2074, B2076, B2161, B2175, B2179, B2192, B2199; ('wqwryn-t') B1339; ('wqwrynt') B31; uγrïnda 56, 1416, 3159, 3475, 3528, 3616, 3627, 3930, 3934, 3934, 3935, 4115, 4384, 4385, H25R26, nizvanïlar uγurïnda yerdinčü qalngulayur bolmaqlïγ taluyta「由惑世間漂有海」2039, bilig uγurïnta üklip ašïlïp birlä tuγmïš maxabutï「由識長益俱生大種」B1009, čoγluγ yalïnlïγ küč-ining qut küsüš bermäk-ining ridi bögülämäk-ining uγurïnda ärmäz「不由威力與願神通」1375, munung uγurïnta tägimlig ärmäz munday tep yörgäli「由此不應作如是釋」B55, köngül köngültäki nomlar tört basudčïlar uγrïnda iki dyanlar täk üčägü-nüng uγrïnda adïnlarï iki basudčï

uγrïnda tuγar「心心所由四二定但由三餘由二緣生」3934, 3935; qayu ol yukdi uγrïntaqïsï tep「云何由理」H36V59

uγuš

「界」「類」 762, 933, 938, B66, 1278, 1729, 1745, 2744, 4130, B117, B195, B295, B305, B345, B354, B357, B415, B439, B491, B493, B517, B544, B808, B906, B1036, B1065, B2050, B2331, B2419 anda sözlämiš ol sav tayaqïnda säkiz ygrmi uγuš-lar tudulur tep「彼說言依十八界攝」3989, bar ät'öz körüm adqanïp beš tudyaq yükmäkig adqanγu uγuš qïlur üčün「以有身見緣五取蘊爲境界故」B66, ulatï alqu yörüg uγuš-ïnïng učsuz qïdïγsïz adïrdïntaqï「及諸義類無邊差別」859, ärür üčün ol uγuš-luγ kälmädük ödkisingä tïdïγ yoq「是彼類故未來無妨」3890, köngüldäki nomlarnïng arqa uγuš-ï ardayuluq bolur üčün「心所朋類壞故」B106; nom uγuš-ï「法界」1057, B287, B289; köngül uγuš-ï「意界」B168, B252, B255; köngül bilig uγuš-ï「意識界」B574; öng uγuš-ï「色界」B416, B417; yeel uγuš-ï「風界」B1761; atqanγu uγuš「境界」938, B66; yïlayu uγuš「世俗界」1670; amranmaq uγuš「欲界」1725, 2988, B2232, B2238, H25R29; aqïlmaqlïγ uγuš「流類」3513; öngi uγuš「異類」B89, H25R57; bir uγuš「同類」B202, B211; töz uγuš「種姓 762, 933, B2367 ～ uγuš bay 1283, 1284; uγuš oxšatïγ「種類」 munta töz ärsär ärür basutčïnïng uγuš-ï oxšatïγ-ï「此中性者是緣種類」H25R17

u.-daqï B2372, B2426

u.-ï 3512, 3513, 3918, 3948, B106, B207, B220, B239, B241, B244, B250, B252, B255, B259, B259, B287, B306, B308, B337, B343, B537, B574, B574, B576, B582, B582, B583, B1059, B1761, B1995, B2036, B2064, B2402, B2421, B2422, B2427

u.-ïn B369, B430, B533, B538, B538, B1504, B2037, B2368, B2401, B2403

u.-ïnda 947

u.-ïndaqï 1057

u.-ïnga B296

u.-ïnïng 859, 889, 932, 945, B226, B410, B432, B1268, B1721, B1759, B2429

u.-lar 30, 32, 33, 40, 3989, 4013, 4015, 4015, 4017, 4292, B264, B280, B355, B358, B362, B532, B540, B543, B548, B551, B556, B573, B808

u.-larïγ 69, 594, B539, B2329

u.-larïnga 4294

u.-larqa 2613, B414

u.-larta 38, 1267, 1728, 1730, 2064, B337

u.-lartaqï 830

u.-luγ 128, 939, 1283, 1284, 1284, 1670, 2489, 2856, 2858, 2912, 3889, 3940, 3944, 3946, 3975, B87, B168, B202, B210, B211, B213, B213, B223, B906, B907, B907, B908, B908

u.-luγï B89

u.-luγlar 130, 132, 1990, 2024, 4264, 4577

u.-luγlarïγ 2459

u.-luγta B1038

u.-nïng B461

u.-nung 772, 1487, 1488, 1491, 2897, B289, B310, B352, B353, B417, B433, B844

u.-qa 2651, B294, B2257, B2260, B2264, B2267, B2271, B2274, B2276, B2288, B2363

u.-ta 29, 1721, 2614, B534, B633, B916, B919, B2232, B2240, B2261, B2347, B2367, B2387, B2391, B2410, B2424

u.-taqï 933, 3350, 3414, 4375, B535, B560, B909, B911, B915, B926, B2238, B2243, B2251, B2262, B2286, B2318, B2379, B2385, B2428

u.-taqïlar 1268, 1725, B2363

u.-tïn 1721

u.-uγ 2986, 2988, 3625, 3649, 4144, B346, B416, B440, B848

ula-

「傳える」「相續する」 qaltï ula-p tuγurdačï ärür aqïγsïz bilgä bilig tözlüg nomuγ「謂傳生無漏慧教」1691, bir ärmäzli birli ök ula-r「非一與一相續」B1669

u.-mïš 2022

ulal-

「相續する」「續ける」 töz körktin adïrïlmïšï üdlüm üdlüm ulal-u kälip kirür üčün qulγaq(qa) 「離質展轉相續來入耳故」 B1672, bir ät'öztä bir üklimä tözlüg öng ulal-ïp üzülmäzkän「於一身中一長養色相續不斷」 H25R39; tägzin- ulal-「轉續」 3713, 3716

u.-γalï 2779

u.-ïp 2775, 3722, B1660

u.-maqï 1108, 3716

u.-maqïn 2748, B423

u.-maqnïng 2779

u.-mïš 1721

u.-u 2795, 3713, B1651, B1657, B1672

ulaltur-

「續けさせる」 ulaldur-u tardmïš üčün kenkisin 1093

ulama

tüz ulama 「等無間」 qayu nom köngül tüz ulama-lïγ bolsar köngülsüz dyanqa arasïz bolur mu 「若法與心爲等無間與無心定爲無間耶」 H26R53, nätägin ol anga tüz ulama-lïγ bolur 「如何爲彼等無間耶」 H26R61

ulaq

「相續」 ulaq-ï adïrtsïz ärür qaltï biligning ulaq-ï täg qamaγlïγsïz tïldaγtïn tuγar 「相續無異如識相續不共緣生」 B1682, B1683, tïtdačï öčürdäči üčün ayïγ čxšaptnïng ulaq-ïn anïn adamïš ol sanvar tep「能遮能滅惡戒相續故名律儀」 H30R12

u.-ï B1679, B1682, B1683

u.-ïnta B1684

ulaš-

「結合する」 bir ikintikä ulaš-u sözlämiši 2530

ulatï

「及び」「更に」「乃至」,「等」(-ta/-tä に後續) 12, 31, 94, 122, 138, 167, 172, 175, 184, 192, 259, 262, 263, 270, 287, 290, 304, 306, 327, 334, 378, 386, 388, 402, 478, 529, 548, 607, 622, 643, 741, 754, 769, 783, 799, 814, 858, 889, 891, 914, 932, 934, 946, 970, 971, 984, 989, 991, 1020, 1036, 1039, 1055, 1074, 1145, 1150, 1174, 1224, 1265, 1267, 1278, 1298, 1350, 1386, 1387, 1397, 1402, 1410, 1418, 1418, 1421, 1446, 1459, 1495, 1575, 1586, 1609, 1614, 1614, 1634, 1635, 1640, 1641, 1665, 1672, 1675, 1678, 1690, 1705, 1731, 1734, 1736, 1739, 1747, 1760, 1764, 1765, 1768, 1769, 1780, 1784, 1797, 1800, 1810, 1825, 1840, 1889, 1956, 1982, 2074, 2097, 2127, 2130, 2170, 2194, 2196, 2225, 2239, 2239, 2260, 2286, 2292, 2312, 2328, 2329, 2340, 2357, 2444, 2451, 2457, 2457, 2458, 2459, 2460, 2467, 2467, 2556, 2569, 2573, 2632, 2659, 2662, 2682, 2714, 2741, 2752, 2843, 2846, 2865, etc., B39, B39, B85, B91, B94, B109, B109, B115, B119, B165, B185, B234, B283, B284, B292, B295, B322, B331, B369, B383, B400, B408, B429, B430, B432, B439, B454, B457, B466, B470, B472, B498, B538, B545, B547, B562, B580, B586, B590, B612, B617, B620, B627, B653, etc. alqu bilmämäklär uyur üčün ördgäli činkertü yörügüg ulatï tïdγalï činkertü körümüg「以諸無知能覆實義及障眞見」 607, tayaqïnïng yegi uladï qamaγlïγsïz tïlaγ bolmaqïnïng uγurïnta「由所依勝及不共因」 B2175, kengürü sözlämiš kärgäk ulatï köngül uγušïn ymä andaγ oq「廣說乃至意界亦爾」 B430, öng-dä ulatï beš yükmäklär ärsär qaltï ang'bašlayu öng yükmäk ulatï bilig yükmäk ärür「色等五蘊謂初色蘊乃至識蘊」 3881, 3882, bu pardakčan tözi ulatï ayïγ ažunuγ tardtačï ät'öztäki tiltäki qïlïnč-ta ulatï-lar ärür körmäktä taγaryuluq「異生性及招惡趣身語業等」 B590, qayu tïldayïn bir tuγmaqlïγ bir turmaqlïγ bir ärdmäklig ulatï bir tüšlüg-tä ulatï köngül köngültäki nomlarta「何緣一生一住一滅及一果等心心所中」 B39, munday osuγluγ-ta ulatï uγušluγlar ärür aqïγlïγ

nomlarnïng yörüg eyinki niznk adï「如是等類是有漏法隨義別名」4577, širavak-ta ulatï-larnïng bilgä biligi barčanï bilmäz ödgürmäz「聲聞等智皆不了達」940

u.-lar 31, 34, 42, 109, 230, 376, 477, 543, 631, 745, 830, 844, 875, 881, 899, 916, 1034, 1222, 1422, 1435, 1440, 1441, 1444, 1455, 1482, 1541, 1621, 1614, 1653, 1752, 1771, 1915, 1967, 1968, 1975, 2145, 2184, 2204, 2205, 2217, 2237, 2252, 2327, 2345, 2464, 2521, 2678, 2690, 2715, 2724, 2737, 2810, 3152, 3198, 3203, 3230, 3343, 3393, 3556, 3610, 3625, 3637, 3650, 3884, 3891, 3981, 4038, 4157, 4158, 4159, 4362, 4386, 4454, 4457, 4557, B22, B22, B28, B45, B133, B138, B526, B571, B575, B584, B586, B591, B593, B660, B662, B670, B685, B728, B750, B911, B995, B1456, B1489, B1490, B1555, B1577, B1602, B1608, B1627, B1628, B1633, B1691, B1766, B1785, B2047, B2119, B2214

u.-larï 836, 1019, 1400, 2302, 2988, 4379

u.-larïγ 327, 1807, 1981, 2129, 2138, 2140, 2451, 2570, 2665, 2871, 2961, 3034, 3623, 3878, 4371, 4556, B607, B684, B1323, B1511, B1532, B1546, B1655, B1783, B1888, B1913

u.-larïn 3137

u.-larïnga 1195

u.-larnï 408

u.-larnïng 63, 918, 925, 940, 947, 953, 996, 1416, 1420, 1647, 1649, 1657, 1662, 1673, 1766, 2470, 2475, 2739, 3539, 3639, 4381, B32, B64, B193, B220, B464, B640, B711, B879, B884, B1, 517, B2182

u.-larnïngï 2211

u.-larqa 1442, 2366, B45, B58, B115, B136, B158, B254, B506, B1792

u.-larta 39, 839, 1012, 2815, 3833, B26, B453, B1807, B2188, B2389; u.-larda 2614

u.-lartïn 3935

uluγ

「大きい」「大きな」10, 183, 193, 383, 395, 430, 437, 438, 463, 758, 772, 789, 1061, 1188, 1363, 1419, 1459, 1722, 1973, 1985, 2043, 2055, 2056, 2077, 2167, 2490, 2491, 2498, 2506, 3058, 3061, 3062, 3062, 3063, B104, B205, B217, B262, B693, B1445, B1535, B1793, B1809, B1888, B1896, B1908, B1909, B1913 yinčürü töpün yükünürmn nom ärtinilig uluγ bilgä biligli taluy ögüzkä「稽首達磨大智海」10, alqu nizvanïlar uyur kim yerdinčüg qalanguladγalï tägzindürgäli sansarlïγ uluγ taluyta「諸惑能令世間漂轉生死大海」2043, körülür üčün kičig yruqnung uluγï üzä yavalyuluq bolmïšï「現見小明大所伏故」B1537; keng uluγ「廣大」「甚大」193, 383, 1061, 2491, anïng ätʻözi keng uluγ「其形甚大」2491; uluγ baxšï「大師」758, 772; uluγ yrlïqančučï köngül-i「大慈悲心」395, 430, 438, 1188; uluγ äzrua tngri「大梵天」1419; uluγ quvraγ「大衆」2498; uluγ orunluγ nom「大(地)法」B104, B205, B217 birök andaγ ärsär uluγ orunluγ nomlar bolγu kärgäk ičtin sïngarqï tegüči adïγ「若爾大法應受內名」B217; uluγ mün qadaγ「大過」B262

u.-ï B1902, B1537, B1887

u.-ïn 89, 90, 129

ulun

「莖」 yïltïzï ulun-ï butïqï yapïrγaqï ančan ančan eyin käz-igčä ükliyü etilü「根莖枝葉漸次增榮」H25R50

uluš

「國」 bu yoltïn tägä tükätdilär ol ol balïq-qa uluš-qa 3982

umuγ

「救い」1184; umuγ ïnaγ「救濟」「救い」310, 312, 317, 427, 1182, 1200, 1202, 1211, 1213, 1217, 1226, 1230, 1231, 1235, 1236, 1248, 1250, 1250, 1270, 1287, 1565 tïnlylar anda čomrulup badïp umuγ-suz ïnaγ-sïz bolmïšqa「衆生於中淪沒無救」1176; tart- tašγar- umuγ ïnaγ 「拔濟する」

tard-ïp tašγar-ïp umuγ ïnaγ bolup ündürü yrlïqadï「拔濟令出」1202
u.-suz 1184; u.-suz ïnaγ-sïz 1176, 1181
u.-uγ 1183

umunč
umunč küsüš「希望」 ikinti umunč küsüš üzäki čxšapt「二希望戒」 H35V9

umunγuluq
umunγuluq ïnanγuluq orun「歸依處」 350 ～ umunγuluq tayanγuluq orun 397, 413, 426

unït-
unït- ittür-「忘失する」 tayanmïš yölänmišingizlär kärgäk sudurqa näng kim unïd-matïn idtür-mätin「應依杖經勿令忘失」 2363, bor bägni ičmiš ödtä uyur üčün kim unït-γalï ittür-gäli qïlγalï tägimlig tägimsiz alqu iš kütüglärig「以飲酒時能令忘失應不應作諸事業故」 H33V63
u.-γaylar u.-γaylar ittür-gäylär 2520
u.-matïn u.-matïn ittür-mätin 2363, 2371

unïttur-
unïttur- ittür-「忘失させる」 köni nomuγ kim unïdtur-matïn ïdtur-matïn 20

upadeša
< Skt. upadeśa「論議」 2337 ('wp'dys-')

upali
< Skt. upāli「優波離」 2284, 2518

upasanč
upasanč sanvar「近事女律儀」 H30R29,55
see upasï

upasï
「近事」 näng tïtduqta toyïn čaxšaptïn ötrü upasï ulatï bolmaz ärmäz「勿捨苾芻戒便非近事等」 H30V22; upasï sanvarï「近事律儀」 H30R34,39,54, H30V32, altïnč upasï sanvarï yetinč upasanč sanvarï「六近事律儀七近事女律儀」 H30R29, 40

uq-
「理解する」「了ずる」; uq- bil-「了知する」 977 ～ bil- uq- B680 čïnïnča kertüsinčä bil-ür uq-ar mn yoqadturdum ičtin sïngarqï köz qošuγuγ tep「如實了知我無內眼結」 B680, ïraq yaqïn bulung yïngaq tayaq bolur üčün bil-mäk uq-maqï「方維遠近可了知故」 B1573; yügärü uq-maq「現觀」 1641, 1650, 1660, 1638, 1643, 1652, 1657, 1664, 2454, B966 alqu yügärü uq-maqlarnïng tüpindäki alqu yïlayu bilgä biliglär「諸現觀邊諸世俗智」 2454, sözlämiš ol käztä yügärü uq-maq bolur tep「說頓現觀理亦無失」 H38R11; uq-maq ongra-maq「了悟」「理解」 1999, 2013; tïdïγsïz uq-maq「無礙解」 2453
u.-ar B680
u.-γalï 977
u.-γay 2574
u.-γuluq 1794, 2667, 3087, B1426
u.-γuluquγ 380
u.-γuluqnung 3997, 4027
u.-madïn 1994
u.-mamaqïγ B1099
u.-maq 1999, 2013, 4274, 4277
u.-maqï 1641, 1650, 1660, B1573, B1574
u.-maqïγ 3472, 4276
u.-maqlar 2453
u.-maqlarnïng 2454
u.-maqlarqa 1638
u.-maqlïγ 1643, 1652, 1657
u.-maqnïng B966
u.-maqta 1664
u.-mïš 2487, B2428
u.-mïšïn B1029
u.-up 2161, 2163

uqït-
「顯わす」「立てる」「表わす」「申す」「辯ずる」「解らせる」 uqïd-γalïr üčün öz baxšïsïnïng anïng ät'özining yeg ayaγuluγ ärtüki üzä ärtmïšin ašmïšïn alqu tüzünlär quvraγïnda 「爲顯自師其體尊高超諸聖衆」 77, birök uqïd-ur ülgü yörügüg tep tesär 「若顯量義」 2352, munï uqïd-mïš ol abidarmakoš tep ad üzä 「此立對法俱舍名」 1930, uqïd-mïš ol sav tayaqï bolur tep 「立爲言依」 4067, ol käzıgkä tayaqlïγïn uqïd-mïš ol iki türlüg taryarmaqlïγ 「依彼次第立二種斷」 B694, abidarimïnda uqïd-mïš ol antrabavïγ 「對法中建立中有」 2412, kim tegüči sav üzä uqïd-ur qaltï burxan adï ködrülmišig 「諸言所表謂佛世尊」 482, ašnuča ögüp küläp ädgülär basa temin ayayu ayïrlayu yükünmišin uqïdur 「先讃徳方申敬禮」 449 ančulayu ymä iki kikinčlär üzä barčanï kim uqït-mïšïngïzlar 「如是二答皆不令解」 H27R55, uqït-u tükädmiš boltï qïlïnčï uyrïnïng iki üč beš öngi adïrtïn 「已辯業門二三五別」 H29V38; uqïtur 「表」 uqïtmaz 「無表」 bu uqïtur uqïtmaz-nïng anïng uγušï qayu ärür 「此表無表其類是何」 H29R59, yänä tägimlig ol uqït-γalï öngdünki uqïtur uqïtmaz-nïng bälgü-sin 「復應辯前表無表相」 H30R7; uqït- körgit- 「顯示する」 25, 3018, 4108, 4302 ～ uqït- bildür- 490, 3000 azuča ymä uqït-γuluq körgit-gülük ol tep yörüg ol 「或示現義」 H7R11; uqït-u yör- 「解釋する」 492, 547, 987, 1091, 1963, 2035, 2851, 3019, 3075 ayayu ayïrlayu uqïd-u yörmišingiz kärgäk 「恭敬解釋」 1963; uqït- sözlä- 「顯説する」「解説する」 3036, 3126 anušayakošta käntü ken uqïd-u sözlä-gäy biz 「隨眠品中自當顯説」 2826, üsdürdi bärü öngi sözlä-dačïlärig uqïd-ïp ärdi 「上辯異説竟」 2581; birlä uqït-ur 「有表」 birlä uqïd-ur-uγ turγurdačï bilgä bilig 「發有表慧」 B924; ornat- uqït-「安立する」 upasï bačaqï šarmire toyïnnïngïnda ulatï tört türlüg sanvarlarïγ nätäg ornat-ïp uqït-dï 「近事近住勤策苾芻四種律儀云何安立」 H30V24
u.-ayïn 2162
u.-dačï 2577
u.-γalï 15, 51, 222, 241, 380, 536, 758, 778, 957, 974, 1288, 1771, 2296, 2580, 2656, 3014, 4057, 4071, 4316, B289, B363, B859, B951, B1143, B1916
u.-γalïr 77, 88, 141, 143, 226, 252, 433, 476, 660, 674, 1572, 1925, 2174, 2599, 2601, 2608, 2620, 2968, 3000, 3245, 3929, 4554, B655, B874, B876, B2231, B2353
u.-γay B854
u.-γu 3059, B2147
u.-γučï 2301, B1548
u.-γuluq 1873, 2050, 4108
u.-γusï 955
u.-ïp 32, 153, 1354, 1776, 2165, 2581, 2980, 4075, B50,
u.-mayu 4073
u.-mamïš 80, 1646, 4054
u.-maq 90, 421, 452, 479, 953, 1762, 2923, 3046, 3095, 3630
u.-maqï 89, 150, 168, 173, 957
u.-maqnïng 79
u.-matï 4076
u.-maz 1621, 2413
u.-mïš 22, 23, 29, 52, 56, 205, 219, 248, 473, 798, 1701, 1719, 1821, 1849, 1930, 2168, 2270, 2412, 2645, 2687, 2898, 2997, 3018, 3020, 3200, 3585, 3932, 4050, 4067, 4086, 4302, B568, B694, B1849, B1972, ornat-ïp u.-mïš H30V31,37,46
u.-mïšï 25
u.-mïšïn B2054, B2055
u.-mïšïnga B2058
u.-mïšlar 2604
u.-mïštaqïsï 4028
u.-sar 2642, B224, B2149
u.-tï 26; u.-dï 1359, 1635, 3456
u.-u 481, 492, 547, 987, 1091, 1963, 2035, 2483, 2826, 2851, 2886, 2926, 3019, 3019, 3036, 3075, 3126, 3497, 4311, B2250
u.-ur 146, 191, 348, 372, 376, 422, 425, 437, 442, 444, 446, 449, 454, 482, 490, 501, 671, 673, 1279,

1288, 1295, 1299, 1309, 1315, 1316, 1319, 1328, 1328, 1329, 1329, 1361, 1368, 1376, 1494, 1498, 1520, 1803, 1819, 1833, 1856, 1872, 2087, 2092, 2092, 2093, 2093, 2098, 2101, 2103, 2172, 2173, 2352, 2371, 2918, 2924, 3225, 3493, 3498, 4307, 4307, 4322, 4322, B404, B1435, B1507, B1638, B2017, B2334

u.-urïn 486

u.-uruγ B924

u.-zunlar 2543

uqïtïl-

「立てられる」 uqïdïl-maduq tayandačïsïn 「不立能依」 B51

uqul-

「理解される」「了ぜられる」「顯される」「立てられる」 munung uγurïnda ödrü uqul-ur 「由此便顯」 2855, yörügi uqul-maduq üčün abipirayï yolïn alp bolur bilgäli 「理未顯故意趣難知」 1844, köngül ärür tayaq üzä uqul-dačï iš kütük üzä uqul-tačï ärmäz 「意是依所顯非作用所顯」 H26R30

u.-dačï 3993

u.-γalï 740, 784

u.-maduq B1844, B1853

u.-maqïndïn 810

u.-maqlïγ 4045

u.-mïš 1834

u.-mïšta 340

u.-u B762

u.-up 567, 584

u.-ur 585, 781, 960, 2855, 3118, 3121, 3123, B279

uqunmaq

「理解」 yörügining bolur büdmäki uqunmaq-ï B283

uqušluγ

「智者」 öngdünki uqušluγ čïqïradï B1244

ur-

「置く」「打つ」「立てる」「刈る」 yoqsuz bïdatï ur-maq üzä keng savïγ yörüg tözingä bolmaz yarašï tušlarqï B125 qaltï otγuraq bolmaz ülägü ur-up baxšï udrusïnta tägingäli asanvarïγ qaltï bačaq čxšapt täg mn bir kün tün otγuraq täginürmn asanvar-ïγ tep 「謂必無有立限對師受不律儀如近住戒我一晝夜定受不律儀」 H33R35, qaltï ur-up atïzdaqï twtwr sarïγ yintäm qalsar bir eyin bolmamïš täg atanγalï bu atïzïγ urul-maduq 「如刈畦稻唯餘一科不可名爲此畦未刈」 H38V24,25; ornat-ïp ur- 「安置する」 alqu maxa širavaklar sanggit qïlïp ornad-ïp ur-dïlar 「諸大聲聞結集安置」 2128

u.-dï B1985

u.-dïlar ornat-ïp u.-dïlar 2128, 2137, 2146, 2345

u.-duqta H36R53

u.-maq B125

u.-mïš 68, 871, 2199, 3025, 3904, 3930, 4209

u.-up B356

u.-ur B1242

uruγ

「種（子）」 715, ol kišitä qudrulmaqlïγ uruγ-ïnïng män kördüm ärdä yinčgäsin 「彼人解脫種我觀極微細」 912, uruγ-suz qolunga ünmäz yašarmaz 「無種芽不生」 1272, yügärü körülü turur tarïγlayta uruγ tüš-ining tätrü bolmamïši 「現見田中種果無倒」 H35R17

u.-ïn 700, 706

u.-ïnïng 912

u.-ïntïn H35R18,20

u.-suz 1272

u.-ta H26R20

u.-uγ 716

uruγ

iz uruγ 「迹」 tört türlüg nomluγ iz uruγ-lar 「四法迹」 2453

urul-

「刈られる」 H38V26, see ur-

urungut

「支配者」 3339, 3340, qorqïnčïγ urungud 3339

us-

「目差す」「察する」 ävtin ünmiš kišilär särinmäkig us-tačï qïlurlar 464

u.-tačï 464

u.-tačïlïγ 1048, B942

ušaqčï

「兆し」 tïnlγlarnïng ät'özintä bar kälmädük ödki tüšnüng tïltaγlïγ öngdün ušaqčï-sï 「有情身内有未來世果因先兆」 H25V59

ut-

ut- yavaltur-「降伏させる」 ud-mïš yavaldur-mïš üčün tört türlüg šmnularïγ 524

utpati

< Skt. utpatti utpatï tïltaγ-ï 「因縁」 914, 923

ulatï bar bolmïš kengürü udpadi tïldaγ-ï 914

utru ～ uturu

「對して」 bu yörügkä udru šasdrta käntü kikinč berü sözlämiš ol 2053, uturu B984; utru-sïnta 「對して」 H33R39 qaltï otyuraq bolmaz ülägü urup baxšï utru-sïnta tägingäli asanvarïγ qaltï bačaq čxšapt täg mn bir kün tün otyuraq täginürmn asanvarïγ tep 「謂必無有立限對師受不律儀如近住戒我一晝夜定受不律儀」 H33R35, inčip bačaq čxšapt-ïγ yügärü baxšï utru-sïnta iišläšip tanqarïp täginmäkning küči 「然近住戒由現對師要期受力」 H33R48

uturu

see utru

uvut

uvut ïyat 「慚愧」 ken basa basa öp ödikläp uvut ïyat-ïγ yüüz yügärü qïlur 「後數億念慚愧現前」 H29R7; uvut äymänč 「慚恥」 uvut-luγ äymänč-lig ärsär uqïtmazïγ täginmäkning küčintä qïlmazlar qamaγ ayïγlarïγ anïn adï bolmïš ol qïlmamaq tep 「有慚恥者受無表力不造衆惡故名不作」 H31R1

uz ～ uuz

「妙」「勝妙」「善」 4, 162, 208, 340, 375, 660, 706, 1665, 2258, 2462, 4116, 4189, B3, B1779, uuz B2105, bu oq inčip ärür üčünč tep näng uz sözlämiš bolmaz 「即是第三非爲善説」 2462, uz turulduryuluq yavalduryuluq ol 「善調伏我」 B3, ol sözlämišingizlär uz ärmäz 「彼説非善」 H25V20, tägimlig ol uz küzädingäli saqlaγalï tägmlig ol uz ornanïp turγalï köz ärkligin yïγïnmaqta 「應善守護應善安住眼根律儀」 H31V6; uz uzaγut 「妙術」 375

uzaγut

uz uzaγut 「妙術」 uz uzaγud baxšï-ta 375

uzän-

「巧妙になす」 qaltï adï ködrülmišning uzan-maqlïγ alï aldaγï ärür 1094, bešinč uzan-ïp yaraši kikinč bermäk uyrïnta qayu aydïγqa 「五由善巧酬答所問」 H32V43

u.-ïp 322, 2619

u.-maq 969

u.-maqlïγ 1094, 1100, 1214, 1248

uzatï

「常に」 790, 793, 984, 1019, 1197, 2488, 2743, B45, B70, B175, B189, B218, B290, B1092, H33V19 kim kkirlig köngültä uzadï aqïlur tardïlur üčün 「令染汚心常漏泄故」 2743, yänä köztä ulatïlar köz biligintä ulatïlarqa uzatï tayaq bolur ärmäz 「又非眼等與眼識等常爲所依」 B45, qaltï öz

adqanγusïnta uzatï ärkčä tapča yorïdačï ärür 「謂於自境常自在行」 B70

uzatïqï

「常のもの」 bilsärlär ymä munday uzadïqï 1051

uzun

「長い」 632, 828, 988, 2062, 3622 biz öngrä körtümüz muntay osuγluγ tïnlγlarnïng uzun özlügin yašlïγïn ür keč turmïšïn 「我等曾見如是有情長壽久住」 H28V51

užik

「文字」「文」 1753, 1946, 1946, 1946, 2104, 2398, 2400, 2922, 3040, 3481, 4283, 4295, 4296 爲字 tegüči vi užik-ig ken inčip uqïdu sözlägäy biz 3036, üčünč padaknïng bašïndaqï ymä ök tegüči 亦 užik 4295, 稱 užik-ïγ tängläp ymä ter B1901, sudur vinay iki aγïlïqïγ užik-i eyin sanggit qïlmïš oi 「經律二藏隨文結集」 2229, yügärü körülür užik-lärining yörüglärining adïrtïnïng barï 「現見文義有差別」 2392

u.-i 2229

u.-ïγ 3343, 3932, 4321, 4349, B1901

u.-ig 2970, 3036

u.-in 2470, 2476, 2477, 2550, 3329, 3335, 3338, 3339, 3341

u.-indä 2113, 2115, 2118; u.-intä 2111

u.-indäki 68

u.-lär 322, 2097, 2103, 2921, 3504, 4005, 4269, 4279

u.-lärі 63, 292, 2468

u.-lärig 379, 1949, 4273

u.-lärin 68

u.-lärining 296, 2392

u.-ning 3502

u.-tä 2903

Ü

üč

「三」 38, 40, 122, 306, 310, 312, 314, 315, 317, 353, 359, 377, 387, 474, 480, 489, 490, 505, 563, 593, 593, 594, 594, 636, 686, 772, 830, 876, 879, 902, 909, 916, 917, 922, 925, 1134, 1283, 1298, 1298, 1318, 1333, 1446, 1458, 1458, 1487, 1487, 1488, 1491, 1527, 1579, 1580, 1583, 1625, 1637, 1701, 1702, 1745, 1846, 1862, 2064, 2427, 2429, 2430, 2432, 2433, 2482, 2484, 2487, 2509, 2512, 2561, 2604, 2903, 2928, 2929, 2930, 2933, 2959, 2961, 2984, 2993, 2997, 3001, 3008, 3018, 3024, 3027, 3029, 3030, 3035, 3067, 3077, 3079, 3090, 3093, 3099, 3101, 3329, 3334, 3350, 3414, 3435, 3455, 3455, 3492, 3498, 3569, 3619, 3704, 3705, 3707, 3797, 3803, 3805, 3830, 3862, 3867, 3867, 3900, 3921, 4034, 4036, 4040, 4059, 4066, 4067, 4074, 4078, 4157, 4306, 4330, 4343, 4362, 4471, 4472, 4474, 4560, 4561, 4579, B185, B264, B265, B274, B280, B307, B417, B459, B556, B560, B573, B621, B657, B874, B875, B1196, B1198, B1202, B2004, B2008, B2009, B2044, B2083 sav tayaqï bolur üč törtsüz bešsiz 「言依有三無四無五」 4036; üč uyuš 「三界」 38, etc. üč yavlaq yol 「三惡趣」 306, etc. üč maxakalp 「三大劫」 387, üč asanke kalp 「三阿僧祇劫」 636, üč ödlär 「三世」 594, etc. üč mïnglïγ yerdinčü 「三千世界」 etc. üč tilgänlär 「三輪」 1446, üč aγïlïq 「三藏」 2430, etc. üč aγïlïq nom 「三藏教」 2427, etc. üč etigsiz 「三無爲」 2928, etc. üč bolmaq 「三有」 4157, etc.

üčägü

「三」（集合） 457, 461, 1418, 1419, 2357, 4071, 4072, B441, B469, B486, B540, B862, B873, B1698, B1895, B2234, B2290, B2344, B2408, H28V16 anïn yindäm sözlämiš ol üčägü-ni taryarmaqïγ 「故唯說斷三」 1151, yït tüdïγ büridmäk üčägü ärkliglärkä tägdüktä temin alyuluq 「香味觸三至根方取」 B441

ü.-kä 1645, 1649, 1660

ü.-ni 1151, B448, B457
ü.-nüng 3934, B478, B484, B553, H30R58, H32R24
ü.-si H26V16
ü.-tä 3797, 4079, B1699

üčär
「各三」 B365, B541, B552, B556; kenki üčägü uγušlar yumdaru üčär bolur「後三界通三」 B541, uqïtmaz öng yrlïγlïγ ärip adïnlarï üčär türlüg bolur「無表記餘三」 H29V42

üčün
「故」 15, 16, 17, 20, 21, 25, 27, 29, 30, 35, 37, 43, 47, 55, 75, 77, 86, 88, 90, 92, 100, 102, 116, 130, 137, 141, 143, 146, 158, 171, 177, 192, 193, 197, 198, 199, 209, 214, 218, 222, 223, 226, 229, 241, 246, 247, 252, 258, 282, 283, 293, 298, 300, 302, 311, 318, 326, 329, 331, 347, 351, 367, 381, 385, 386, 389, 391, 392, 396, 404, 406, 406, 409, 433, 438, 466, 467, 476, 492, 496, 498, 513, 515, 517, 523, 524, 528, 528, 529, 529, 529, 533, 534, 543, 544, 545, 550, 552, 558, 572, 572, 586, 589, 597, 601, 606, 610, 612, 618, 625, 634, 637, 645, 660, 666, 673, 674, 684, 687, 689, 690, 692, 719, 730, 731, 731, 749, 751, 752, 755, 758, 762, 775, 776, 778, 784, 787, 797, 802, 806, 817, 846, 849, 850, 853, 857, 860, 865, 868, 870, etc., B19, B28, B35, B46, B56, B58, B60, B63, B66, B66, B75, B76, B89, B90, B96, B98, B129, B137, B140, B144, B152, B155, B158, B160, B163, B164, B166, B168, B174, B175, B179, B179, B180, B195, B196, B198, B200, B207, B214, B215, B219, B221, B223, B237, B243, B247, B255, B256, B262, B263, B272, B275, B299, B309, B314, B318, B326, B352, B359, B362, etc. munung umïš üčün tarïqyalï qarangγusï anïn adamïš ol tarïqmïš qarangγuluγ「此能破闇故稱冥滅」 544, nä üčün bu šasdrnïng adï boldï abidarmakoš tep「何故此論名對法藏」 1917, basudčïsï ägsük üčün bululur bilmätin öčmäk「緣不具故得非擇滅」 3628, anï üčün ol yörmišingizlärning yörügi odγuraq andaγ ärmäz「是故彼釋理定不然」 B196, köztä bar üčün yruq bulduqmaz bu mün qadaγ「眼有明故無斯過」 B1566

üčünč
「第三」 547, 548, 553, 1033, 1461, 2092, 2101, 2437, 2461, 2508, 2515, 2552, 2918, 3043, 3060, 3097, 3229, 3290, 3291, 3856, 3992, 4295, B907, B2233, B2240, B2247, B2252, B2255, B2258, B2259, B2271, B2272, B2281, B2285, B2286, B2289, B2292, B2294, B2298, B2303, B2304, B2304, B2312, B2321, B2324, B2326, H26R47, H30R11 üčünč ädgü aqïγlïγ uγušluγ「三善有漏類」 B907, üčünč üzä vibakdi 547, üčünč dyan「第三靜慮」 B2258
ü.-i 2950

üd
üd yarmïš「孔隙」 ät'öztä bar üčün üd yarmïš anïn bolur bir ikintikä sïyurušyalï「身有孔隙故得相容」 H29V37 (wd)

üdrül-
öngi üdrül-「離れる」「遠離する」 munung tägšüdinčäsi ärsär inčip tidip öngi üdrül-gülük ayïγ ögli ärür「違此即捨離・・」 1293, alqu aqïγlïγ nomlarta ïraq öngi üdrül-üp badačï bayïndïn「諸有漏法遠離繫縛」 3216, adqanγuluq vastuta ödrü bolur baγtïn öngi üdrül-gäli「所緣事便得離繫」 B702, qaltï öngdün sözlägüči amranmaq uγuštaqï alqularta öngi üdrül-mäk ärsär aztïn ol aznïng adï bolur amranmaq az tep「謂於前說欲界諸處未離貪者貪名欲貪」 H27R57; baγtïn öngi üdrülmäk「離繫」3213; ödtïn öngi üdrülmiš-i「離世」 4055
ü.-düktä öngi ü.-düktä 3398, 3849, B733
ü.-gäli öngi ü.-gäli 118, 1164, 1257, 3288, 3806, 4135, 4137, 4139, B702
ü.-gülük öngi ü.-gülük 1293
ü.-mäk öngi ü.-mäk 65, 3213, 3215, 3218, 3220, 3221, 3223, 3225, 3231, 3236, 3241, 3247, 3249, 3249, 3277, 3280, 3283, 3289, 3295, 3299, 3302, 3721,

4125, 4127, 4129, 4165, B677, B678, B678, B689

ü.-mäkig öngi ü.-mäkig 4187, 4480, 4516

ü.-mäkkä öngi ü.-mäkkä 1137

ü.-mäklig öngi ü.-mäklig 2691, 2698, 2699, 3357, 3364, 3370, 3375, B710, B714, B732, B737, B740, B779, B792

ü.-mäkning öngi ü.-mäkning 3263, 3264

ü.-mäktä öngi ü.-mäktä 3300

ü.-mäz öngi ü.-mäz B93

ü.-miš öngi ü.-miš 93, 300, 1003, 3260, 4052, 4131

ü.-mišin öngi ü.-mišin 187

ü.-mišining öngi ü.-mišining 4055

ü.-mišlär öngi ü.-mišlär 45, 2987, B630

ü.-ü öngi ü.-ü 4186, B634

ü.-üp öngi ü.-üp 3216, 3244

ü.-ür öngi ü.-ür 3285, B90

üdrültür-

öngi üdrüldür-「離れさせる」 öngi üdrültür-däčisi ärür osal sïmday bolmaqlïγ ayïγ yorïqtïn「離放逸惡行」 1292

ü.-däčisi öngi ü.-däčisi 1292

ü.-gäli öngi ü.-gäli 1977

üdürül-

üdürül-gäli B719, see üdrül-

ükli-

「増える」「興る」 köni körüm ančan ančan ükli-yü arïγ yaruq üzä adïrt öngi bolur「漸増明淨有異」 B902, munï munčulayu alqu basutčïlamïng qayu tušqï nomta inčip ükli-yür iši kütüki「如是諸緣於何位法而興作用」 H26V42; ükli- ašïl-「増大する」「長益する」「長養する」「増益する」「増盛する」 bilig uyurïnta ükli-p ašïl-ïp birlä tuymïš maxabutï「由識長益俱生大種」 B1009, bular ikägü birlä dyan üzä ükli-miš ašïl-mïš tutyaqsïz「此二俱依定所長養無受」 H29V10, birök tüzütä ükli-mäsär ašïl-masar nätägin tüzütä tuyurur uqïturuγ「若不遍増益如何遍生表」 H29V35, ämgäk ükli-miš ašïl-mïš ödtä anïng tözi temin ök bäkiz bälgülüg bolur「苦増盛時其相方顯」 H36V72; eyin ükli-「隨増する」 eyin üklidür üčün aqïγïγ adamïš ol aqïγnïng eyin ükli-gülüki tep「隨増漏故名漏隨増」 2746; ükli- etil-「増榮する」 yïltïzï ulunï butïqï yapïrγaqï ančan ančan eyin käzigčä ükli-yü etil-ü「根莖枝葉漸次増榮」 H25R50

ü.-gäli 2839; ü.-gäli ašïl- 2805; eyin ü-gäli 4464

ü.-gülük eyin ü.-gülük 2849, 2894

ü.-gülüki eyin ü.-gülüki 2707, 2746,4423, 4443, 4458; ü.-gülüki ašïl-yuluqï 3359

ü.-gülükining eyin ü.-gülükining H27R63

ü.-güsingä ü.-güsingä ašïl-yusïnga 2819

ü.-mäk B2340, B2343; ü.-mäk ašïl-maq 2765, 2776, 2782, 3256; eyin ü.-mäk 2809, 2817, 2858, 4445

ü.-mäki eyin ü.-mäki 2856, 2906, 3007

ü.-mäklig B1473, B1474; eyin ü.-mäklig B1468

ü.-mäkning eyin ü.-mäkning 2796

ü.-mämäklig eyin ü.-mämäklig 2854

ü.-mämäkning eyin ü.-mämäkning 2825, 2850

ü.-mäz eyin ü.-mäz 2816, 2825, 2842, 3011, 3092, 4549

ü.-miš B2106, B2110; ü.-miš ašïl-mïš 2803, 3251, 4553

ü.-miši B2103

ü.-p eyin ü.-p 4470, 4545, 4553; ü.-p ašïl-ïp B1009

ü.-sär B2159; ü.-sär ašïl-sar 1059, 3253, 3255, 3258, B2117; eyin ü.-sär H27R46,

ü.-yü B891, B902; ü.-yü ašïl-u 2909

ü.-yür ü.-yür ašïl-ur 1058, 2764, 3362; eyin ü.-yür 2595, 2730, 4313, 4444, 4547

üklimä

「長養」 yänä bolur ikinti üklimä tözlüg öngnüng tuymaqï qarsï arqa ärmäz üčün bolmaz uqïtγalï tüz arasïz basutčï bolur「復有第二長養色生不相違害故不可立等無間緣」 H25R40, ymä ök yumtaru üklimä ärür「亦通長養」 H28V10

üklit-

「増やす」 qaltï bolsar qayu nomnung üklit-gäli umaqï nizvanïlarïγ 「若増諸煩惱」 2833; üklit-aš- 「増長させる」「増大させる」 uyur üčün üklit-gäli aš-γalï äšidmäk tözlüg bilgä biligig 「以能増長聞等惠故」 1796; yïlayusïnča üklit- 「假興する」 yertinčütäkining köngülingä yïlayusïnča üklid-ip savïγ sözlämiš ol 「爲順世情假興言說」 B1398,

ü.-däči 267, 268, 2859; ü.-däči aš-dačï 2863, 2879, B2342

ü.-däčisi ü.-däči-si aš-dačïsï 2736

ü.-gäli ü.-gäli aš-γalï 1976, 2260, 2753, 2755, 2833, B134, B1027, B2342

ü.-gü ü.-gü aš-γu 2767

ü.-ip 2238, 2238, 2239; yïlayusïnča ü.-ip B1398

ü.-mäk ü.-mäk aš-maq 2727, 2747, 2748, 2760, 2768, 2770

ü.-mäz ü.-mäz aš-maz 1609, 2738

ü.-miš yïlayusïnča ü.-miš B1407

ü.-sär ü.-sär aš-sar B132, H28R25

ü.-ür 1137, 2745

ükmäk

4086, 4087, see yükmäk

üküš

「多」 66, 93, 180, 294, 294, 346, 347, 405, 417, 939, 1072, 1117, 1179, 1219, 1568, 1578, 1578, 1804, 1920, 1937, 2032, 2234, 2496, 2525, 2610, 2637, 3068, 3082, 3449, 3457, 3465, 3470, 3585, 3629, 3929, 4203, 4253, B101, B203, B210, B214, B221, B224, B231, B232, B312, B1564, B1998, B2039, B2133, B2205 biz üküš-ínčä tyaqlïγïn yördümüz abidarimïγ 「我多依彼釋對法」 340, tayandačï töz bolmaqï azu ymä üküš azu ymä az bolur 「爲能依性或多或少」 B101, adïn sanïnïng üküš-i az-ï anïng eyin yaraγïnča bolur 「餘數多少隨其所應」 H30V3; üküš tälim 「多大」「衆多」 66, etc. üsdünki täg üküš tälim buyanlï bilgä biligli yükmäklär üzä 「上衆多福智聚」 1072

ü.-i 3390

ü.-in 3386

ü.-inčä 340, 2665, 2910, 3052

ü.-üg 3381

ülä-

ülä-gü 「限り」 qaltï otγuraq bolmaz ülä-gü urup baxšï udrusïnta tägingäli asanvarïγ qaltï bačaq čxšapt täg mn bir kün tün otγuraq täginürmn asanvarïγ tep 「謂必無有立限對師受不律儀如近住戒我一晝夜定受不律儀」 H33R35

ülgü

「量」 1511, 2352, 2355, 2379, 2381, 2394, 2531, 2532, 2533, B1914, B1957 nädägin adï ködrülmiš ašnuča yrlïqap tört türlüg ülgü-lärig 「如何世尊先說四量」 2354, köz ärdip üküš mïng yočan ülgü-tä 「眼越多千踰繕那量」 B1565, üč uyušlar učsuz qïtïγsïz ärürlär qaltï kök qalïqnïng ülgü-sï täg 「三界無邊如虛空量」 H27V16; tänglämäk ülgü 「比量」 1511; bod sïn ülgü-si 「形量」 uqïtur qïlïnč tuγmïš ödtä azu iišläšip buzulur artayur mu töz ät'öznüng bod sïn ülgü-si 「表業生時爲要破壞本身形量」 H29V20; sudurluγ ülgü 「經量」 (sūtrānta) adï ködrülmiš yindäm ödlämiš üčün tayanïnglar sudurluγ ülgü-kä tep 「世尊唯勸依經量故」 2324

ü.-kä 2186, 2305, 2313, 2324, 2375

ü.-lärig 2354

ü.-lüg 3611, B1959

ü.-si 2376, 2511, 2513, 2514, 2515, 3370, 3375, 3396, H28V44

ü.-sinčä B1888, B1896, B1899, B1910

ü.-sintä H36V64

ü.-singä B1889, B1895, B1905, B1908, B1909

ü.-sining 1887, B1901, B1917

ü.-tä B1565

ülgülä-

「量る」; saqïn- ülgülä- 「思量する」

ü.-mäk 3316; saqïn-maq ü.-mäk B936

ü.-p 128, 1991, 2025; saqïn-ïp ü.-p B936

ü.-sär 2955

ülgülänčsiz

「無量」 1224, 1247, 2251 ödrü qodulγu tidilgü kärgäk ülgülänčsiz sudurlar「便應棄捨無量契經」 2251, ülgülänčsiz učsuz qïtïγsïz burxanlar ünüp blgürüp yertinčütä 「無量無邊佛出於世」 H27V17

ülüš

「分」 B468, B482, B1741, B1971, SG43 inčä qaltï tün ülüš-intä ayta ulatïlarnïng yaruq yoqïnta 「譬如夜分無月等明」 B879, birök bir ülüš-i bürüdsär büdär ülüš-lüg bolmaqlïγ mün qadaγ 「若觸一分成有分失」 B1873, üküš ülüš 「多分」 B224, etc.; az ülüš「少分」 inčip közünür kälmädük ötdäkisintä ymä ök bar az ülüš-inčä ärtmiš ödtäkisingä tayandačï 「然現在未來亦有少分依過去者」 H29R31; küntüz ülüš-i 「晝分」 B889, etc.; bulung yïngaq ülüš-i 「方分」 B1740, etc.; qutrulmaq ülüš 「解脱分」 1244, etc.; uγuš oxšatïγ ülüš 「部分」 B517; öd ülüš-i 「時分」 uqïtur ulatï uqïtmazta kimlär tükällig bolurlar qayusïnga qayu öd ülüš-i tägінčä 「表及無表誰成就何齊何時分」 H31V20

ü.-i B484, B1740, B1776, B1873, B1876, B1877, B1878, B1883, H36R1

ü.-indäki 3123

ü.-intä B879, B884, B889, B893

ü.-intin B231, B233

ü.-lüg 1244, 1265, 1266, B475, B1736, B1775, B1847, B1874, B1881

ü.-lügi B224

ü.-nüng B466

ün

「聲」 865, 1754, 3624, 3637, 3639, 3992, 4000, 4020, 4026, B416, B440, B1324, B1576, B1651, B1657, B1659, B1671, B1675, B1678, B1682, B1684, B1685, B1686, B1688, B1747, B2179, B2405, H26V4 ün clalu kälip kirdüktä qulγaq ičingä 「聲相續來入耳中」 B1657, qaltï adamïš täg kübrüg ün-i uladï buγday qolungasï tep uladï 「如名鼓聲及麥芽等」 B2178, adïn öng ün yïd tadïγta ulatïlar ärdär 「餘色聲香味觸等謝」 3624, ediglig edigsiz öng öng ärmäz ün-lüg ün-lügsüz-tä ulatï 2636; savlïγ ün 「言聲」 2050; ün yangqu 「音聲」 ïraq yaqïn bulung yïngaqtaqï adïrt öngi ün-üg yangquγ 「方維遠近差別音聲」 B1575

ü.-i B1656, B2178, B2181, B2182

ü.-ining B1662

ü.-lärtä B1593

ü.-li 4014, 4021, 4027, B2405

ü.-lüg 2636

ü.-lügsüztä 2636

ü.-nüng 2050

ü.-tä B1594

ü.-üg 4026, B1575, B1586, B1589, B1647, B1648, B1653, B1674, B1676, B1689, B1690

ün-

「出る」 üč asanke kalpta taš ün-miš bu kišining 「出僧祇外此人」 910, qaltï öčmäk dyantïn ün-mištäki köngül yanturu ašnu öčmiš dyanqa kirgütäki köngül tültaγ bolmaq üzä anïn turmïš täg 「如出滅定心還用先滅正入滅定心爲緣故起」 H25V18; ävtin barqtïn ün-～ ävtin ün-「出家する」 bu kiši tägip tngri burxanqa tilädi ävtin barqtïn ün-gäli 「此人詣佛以求出家」 909; aqïlïp ün-「流出する」; ün- bälgür-「出現する」; ün- öngi üdrül-「出離する」; ün- yašar-「生える」 ösgän yaγmur näčä tüzütä yaγsar qudulsar ymä uruγsuz qolunga ün-mäz yašar-maz 「甘雨雖普降無種芽不生」 1272; ün- tuγ-「發起する」 kertülärning yörügin yangïlturdačïtïn yaqïn

yaγuq ün-miš tuγ-mïš 「非迷諦理親發起故」 B839
ü.-ä B1232
ü.-är B1262, B1814, H39R48; aqïlïp ü.-är 1949
ü.-däči B1254
ü.-düktä 1160; ü.-düktä bälgür-düktä 2492
ü.-gäli 1120, 1154, 1155, 1159, 1474, 1475, 2058, 2064; ävtin barqtïn ü.-gäli 905, 909; ü.-gäli öngi üdrül-gäli 1164, 1257, B825, B1255
ü.-gülük 1114, 1121, 1122, 1128, 1133, 1141, 1146, 1152, 1155, 1160, 1162, 1167, 1174, 1413, 1455, B1254, B1255; ävtin barqtïn ü.-gülük 907
ü.-güsin ävtin barqtïn ü.-güsin 908
ü.-mädük-tä 1158
ü.-mägäy 1454
ü.-mäk B1263; ü.-mäk öngi üdrül-mäk 1137, 3721, 4127, 4129
ü.-mäti 1525
ü.-mäz 916, 925, 1165, 1454; ü.-mäz yašar-maz 1272
ü.-miš 69, 910, B2425; ävtin ü.-miš 464; aqïlïp ü.-miš 1948; ü.-miš öngi üdrül-miš 4131; ü.-mip tuγ-mïš B839, B1469, B1513, B2110, B2112, B2125, B2192; ünmiš-täki B2427
ü.-mištäki B2427, B2428
ü.-üp ü.-üp bälgür-üp 2627, 2631

üntür-
「出す」 tïnlγlarïγ ündür-ti ärsär sansarlïγ kök tidigtin 「衆生出生死泥」 73, alp ündür-gülük üčün bu tïldaγïn tidigkä yölašdürmiš ärür 「難可出故所以譬泥」 1105, tardïp tašγarïp umuγ ïnaγ bolup ündür-ü yrlïqadï 「拔濟令出」 1202, ärü ärü taplap ävtin barqtïn ündür-üp 「遂許出家」 911
ü.-däči 1543, 1884
ü.-gäli 98, 439, 1470, 1471, 1526, 1977, 2367
ü.-gülük 1105
ü.-mäk 477, 1484
ü.-mäki 99, 1374
ü.-mätin 2495
ü.-miš 1951
ü.-ti 73, 424, 436, 445, 1098, 1523, 1534
ü.-ü 1202, 1217, 1226, 1232, 1312, 1380
ü.-üp 911, 2495
ü.-ür 2104, 3494, 3510

ünüš
「離」「出離」 1882, 4125, 4127, 4132, 4146, 4150, 4164, alqu ediglig nomlarnïng bar üčün ol ünüš-i 「一切有爲有彼離故」 4126; ünüš-lüg 「有離」 ymä ök öd yolï sav tayaqï ünüš-lüg vasduluγ tep ulatï 「亦世路言依有離有事等」 3881
ü.-i 4126, 4133, 4134, 4140, 4148, 4149, 4151, 4152, 4154, 4166, 4177
ü.-lüg 1139, 1976, 3881, 3957, 4124, 4127, 4278, 4282
ü.-lügüg 4164, 4280

ür
ür keč 「久しく」「久遠に」 16, 989, 1006, 1008 ～ ür ïraq 2158, asïγ tusu qïlγu üčün tïnlγlarqa nomuγ šazinïγ ür keč turγuru üčün 「爲利郡生法久住」 16, biz öngrä körtümüz muntaγ osuγluγ tïnlγlarnïng uzun özlügin yašlïγïn ür keč turmišïn 「我等曾見如是有情長壽久住」 H28V51

ür-
「吹く」 sačdaï ardatdačï yeel ür-üp B1803

ürlüg
「常」 1839, 1840, 3557, 3563, 3712, 3970, 4538

ürlügsüz
「非常」「無常」 1877, 3043, 3148, 3153, 3161, 3229, 3606, 3606, 3948, 4167, 4172, 4175, 4526, 4533, 4543, B402, H37R42 azuča ymä bolur üčün ürlügsüz-kä singirgülük ašaγuluq 「或爲無常所吞食故」 3951, qayu ürlügsüz ärsär bu oq inčip ärür ämgäk tep 「若非常即是苦」 H36R37, tuγdačï öčdäči törülüg üčün körürlär bolur ürlügsüz 「生滅

法故觀爲非常」 H36V43
ü.-i 4541
ü.-in H37V32
ü.-indin 4180
ü.-ining 4543
ü.-kä 3951, 3967
ü.-li 1878
ü.-nüng 3950
ü.-tä 3319

üstä-
「加える」 üsdä-miš ärür yol kertü tegüči užikig 2969, yänä üstä-sär täginmäk yïymaqïy altun kümüš ulatï ärdinilärig「復加受畜金銀等寶」 H30V51; aš- üstä- 「增足」 bu üč sanvarlarïγ azu aš-maq üstä-mäk uγrïnta mu ïraq öngi ütrülgülük al altaγïγ uqïtdï angayu angayu at üzä 「此三律儀爲由增足遠離方便立別別名」 H30R60
ü.-gäli 2685, 3667
ü.-miš 2969, 4320

üstün
「上」 479, 941, 1178, 1488, 1683, 2120, 2305, 2896, 3360, 3362, 4302, B421, B1167, B1880, B1939, B2311, B2316, B2320, B2327, B2335, B2338, B2346, B2351, B2353, B2357, B2358, B2365, B2369, B2375, B2376, B2381, B2383, B2390, B2398, B2405, B2421, B2422 aqïγsïzï üsdün uγušnung adqaγï ärmäz 「非無漏上緣」 2896, üsdün oruntaqï bilig tayanmaz aldïn oruntaqï közkä 「上識不依下地眼」 B2358, öng biligkä körü yumdaru täng bolur üsdün bolur aldïn bolur 「色望於識通等上下」 B2376, akanïštata üstün yänä bar amranmaq uγuš 「色究竟上復有欲界」 H27V35
ü.-li B2334, H39V52

üstünki
「上にある」 51, 472, 1023, 1072, 1527, 3095, 3232, 3865, 3977, B2342, B2352, H34V26 azča ymä üsdünki üč padaklarta 「或上三句中」 1527, qaltï üsdünki täg üküš tälim buyanlï bilgä biligli yükmäklär üzä 「如上衆多福智聚」 1072,
ü.-lär 2925, 3812, 3856
ü.-ning B1700
ü.-sin 4297, H27V31

üstürti
「上（方）」 üstürti bärü 「上以來」 474, 860, 1955, 2478, 2581, B1811 üsdürti bärü yörä tükädmiš boldï 「上來已釋」 1955, üsdürdi bärü öngi sözlädäčilärig uqïdïp ärtdi 「上辯異說竟」 2581

ütlüm
ütlüm ütlüm 「展轉と」 171, 1058, B88, B1672, SE30 ～ ütlüm 々 3549, bir uγušluγ öngi uγušluγ köngüllär üdlüm üdlüm bir ikindikä körüšü 「同異類心展轉相望」 B88

üz-
「斷つ」 üz-üp bu sansarlïγ yipig 1860; odyuraqla-üz- 「決斷する」
ü.-är odyuraqla-p ü.-är B937
ü.-mäk 1860, odyuraqla-maq ü.-mäk B935
ü.-üp 1860

üzä
「において」「によって」「で以て」「故に」 17, 20, 28, 35, 65, 66, 67, 71, 78, 81, 91, 101, 107, 139, 141, 189, 204, 206, 211, 237, 249, 253, 273, 295, 306, 322, 330, 333, 340, 341, 342, 348, 352, 353, 358, 359, 372, 376, 379, 384, 392, 398, 410, 419, 422, 426, 431, 434, 442, 443, 482, 486, 487, 487, 488, 491, 494, 495, 497, 500, 500, 502, 502, 503, 503, 511, 530, 536, 537, 547, 548, 548, 548, 549, 552, 553, 554, 555, 558, 564, 566, 569, 573, 573, 574, 586, 590, 603, 642, 644, 652, 656, 660, 667, 668, 674, 691, 705, 706, 732, 734, 737, 767, 775, 780, 802, 805, 808, 815, 817, 829, 852, 853, 876, 877, 877, 899, 903, 918, 944, etc.9, B10, B15, B16, B29, B29, B35, B74, B162, B188, B190, B269, B290, B311, B334, B395, B402, B436, B456,

B479, B491, B518, B529, B540, B578, B579, B645, B654, B655, B658, B662, B677, B678, B678, B689, B691, B707, B717, B729, B759, B767, B795, B808, B864, B865, B866, B869, etc. küsüšüm ol čoγluγ yalïnlïγ ridilarï üzä körüp küyü küzädü tudzunlar「願以威神見護持」 17, olar tängridäm köz üzä körür alqu tïnlylarïγ 「彼以天眼諸有情」 1492, bu yörüg üzä anïn bulmïš ol abidarim tegüči adïγ 「以此義故得名對法」 1793, kim tegüči sav üzä uqïdur qaltï burxan adï ködrülmišig 「諸言所表讀佛世尊」 482, saqïnmaq tözlüg äšidmäk tözlüg tuγum üzä bululmïš bilgä bilig 「思聞生得慧」 1690, ämgäkig körmäk üzä taryaryuluq nizvanï 「見苦所斷煩惱」 3402, munda tïldaγï tüši üzä ördülgülük kösidilgülük bolmaq tep yörüg ol 「是因爲果所映蔽義」 4198, köngülüg baš bašlay qïlmaqï üzä 「意爲上首故」 B74, ; üzä vibakti 「具格」 548; baγtïn öngi üdrülmäk üzä taryarmaq 「離縛斷」 B677, adqanγutïn öngi üdrülmäk üzä taryarmaq 「離境斷」 B678

üzä

「上」 aš üzä-sintä aš birlä yörgälip boγuzqa enär B1962, til ärklig tüzü til üzä-sindä bolur B1963

üzäki

「の上にある」「における」「前にある」 559, 610, 762, 1449, 1456, 1637, 1650, 2312, B411, B1059, B1590 ämgäkig körmäk üzäki-si tarïqu tükätdüktä 「於見苦已斷」 3275, bolur üčün odγuraq bilmäk ikirčgülämäk üzäki adïrtï 「決了猶豫別故」 B1590; ödlämäk üzäki tilgän 「說法輪」 1456, munung töz üzäki uγuš orun üzäki adïrtï nätäg ol 「此性界地差別云何」 H29V40

ü.-g 857

ü.-si 1650, 2644, 3268, 3275

üzäliksiz

「無上の」 133, 186, 389, 1029, 1102, 1197, 1289, 1479, tngri burxanïng üzäliksiz bilgä biliglig taryarmaqlïγ iki türlüg ädgülärin 133

üzlünčü

「究極」「終」「後」 üzlünčü-tä büdär oxšadïsïz sïmaz 「終成似破」 B765, bašlaγsïz üzlünčü tüpsüz ärdüki 1119, šasdrnïng üzlünčü-singä tägi uqïdu 3015, ämgäktä nom bilgä bilig taplaγ bašlaγlïγ yolta basaqï bilgä bilig taplaγ üzlünčü-lüg 「苦法智忍爲初道類智忍爲後」 H38V11

ü.-si 4154

ü.-sin 195, 254, 1320

ü.-singä 3075

ü.-tä 388, 1064, 2257, B756, B765

üztä-

「加える」 cf. üstä-

ü.-gäli('wyz-t'k'ly) 3685

üztünki

('wyz-dwnky)「上にある」 3833, B2355, aldïn oruntaqï köz umaz körgäli üzdünki öngüg 「下眼不能見上色故」 B2355, cf. üstünki

üzük

「環」 qaltï murč ičgü vzir üzük te[yür] täg 「如胡椒飲如金剛環」 H27R8

üzüksüz

ančulayu oq ymä öngdün bulung yïnyaqtïn ooqsüz üzüksüz ülgülänčsiz yertïnčülär ol azuča ymä ardayu turur azuča ymä etilü turur 「如是東方無間無斷無量世界或壞或成」 H27V27; tutčï üzüksüz 「絶えず」 192, 989 tudčï üzüksüz bulzunlar keng uluγ buyanïγ 192

üzül-

「終わる、破れる、斷つ」 adï ködrülmiš qolulap körüp bilip anïng tüšining üzül-mišin 「世尊觀見知具報終」 2498, sanvarta asanvarta turmïšlar turγursarlar kkirlig kkirsiz uqïtmazïγ angbašlayu

tükällig bolurlar ikin araqïsïnga ken ikigükä kkirlig kirsizning küči kösüni üzül-gin̈čäkädäki 「住律不律儀起染淨無表初成中後二至染淨勢終」 H32R7, birök antay ärsär ymä ök bolmaz ülägü uryalï baxšï utrusïnta mn ulatï isig özüm üzül-gin̈čä otyuraq täginürmn ayïy čxšapt-ïy 「若爾亦無有立限對帥我乃至命終定受惡戒」 H33R40, tïn üzül-miš ödtä yïdlamaz üčün 「由斷息時不嗅香故」 B1710, ädgülüg yïltïzï üzül-mišlär pardakčan ärmäz bolyu kärgäk 「斷善根者應非異生」 B631 ; üzül- öč- 「斷滅する」 1143; üzül- käsil- 「破られる」 2775

ü.-dük B1714

ü.-düktä H29V23

ü.-gäy ü.-gäy öč-gäy 1143

ü.-gü B637

ü.-mäz 1110, ü.-mäz käsil-mäz 2775

ü.-mäzün 203

ü.-miš B635, B1710

ü.-mišin 2498

ü.-mišlär B631

u.-mišlarning H39R23

ü.-sär B1693

ü.-üp B635

üzüm

「ブドウ」 yürük üzüm「末度迦」(Skt. mṛdvīkā) martavik yürük üzüm uruy-ïntïn martavik yürük üzüm tüš törüyür aning tatïγï ärtingü ädgü bolur 「從末度迦種末度迦果生其味極美」 H35R18

üžik

「文字」 4271, B303, B552 sav tayaqï tegüči iki üžik-lär 4271, körülmiš bar čïn kertü üžig vyančanï üzä H38R19, cf. užik

ü.-i 2666

ü.-ig B653

ü.-in 3333, 3336

ü.-lär 4271

ü.-lärtä B1693

V

vačrapam ～ vačra'upam

< Skt. vajra-upama (vajropama) 「金剛喩」 v. dyan < Skt. vajra-upama-dhyāna 「金剛喩定」 vačrapam dyan 634, 643, 651, 653, 655 ～ včrapam dyan 640, 641 ～ včirapam dyan 629 ～ vačirapam dyan 625, 626, 698 ～ včra'upam 3417 ～ vačira'upam dyan 1026 ämgäktä nom bilgä bilig taplaγtïn vačirapam dyan-qadägi 698, uladï včra'upam dyan-nïng basasïnta yintäm tuyar alqïnču bilgä bilig tuymaz adïn nomlar 「乃至金剛喩定無間唯生盡智不生餘法」 H26R15

vačrasan

< Skt. vajrāsana 「金剛座」 včrasan örgün 「金剛座」 639

var

< Chin.八 var čün še 「八轉聲」 4354, 4392

varti

< Skt. vṛtti 「疏」「注」 330, 3242, 3622 amtï vardi-ta tüzü tükäl yörüp šloknung abipirayïn 963

v.-γ 355, 1586

v.-sïnda 1234

v.-ta 963, 1322, 1334, 2683, 2685, 3622

vasištasagotre

vasištasagodre braman

< Skt. vasiṣṭha-sa-gotra-brāhmaṇa 「筏蹉婆羅門」 1679

vastu

< Skt. vastu 「事」 1477, 1481, 2284, 3374, 3376, 4191, 4192, 4203, 4205, 4207, 4225, 4228, 4233, 4237, 4242, 4245, 4249, 4251, 4252, 4252, 4254, 4260 tïldaγlïγ üčün vasdu tegüči savta munda tïlday tep yörüg'ol 「以有因故事是因義」 4191,

munung bar üčün vasdu-sï sözlämiš ol vasduluγ tep 「此有事故說名有事」 4201; qošdačï vastu 「緊事」 3374; baytïn öngi üdrülmäklig vastu 「離緊事」 3376; tarïγlaylïγ vastu 「田事」 4251; ävlig barqlïγ vastu 「宅事」 4252; kedin käbitlig vastu 「店事」 4252

v.-larta 4252

v.-nung 4202, 4215, 4261

v.-sï 4201

v.-ta 3253, 3258, 4235, 3254, B701

vastuluγ

「有事」 3881, 3957, 4190, 4201, 4213, 4259, 4283, 4287, 4289 azuča ymä adï ol vasduluγ 「或名有事」 4190

vastusuz

「無事」 4257, 4258

vasubandu

< Skt. vasubandhu 「世親」 vasubandu baxšï 「世親師」 12, 21, 185, 208, 221, 235, 238, 242, 250, 288, 293, 298, 349, 362, 377, 400, 403, 452, 471, 494, 755, 795, 870, 956, 980, 1046, 1086, 1331, 1360, 1552, 1849, 1962, 2031, 2035, 2175, 2178, 2178, 2198, 2534, 2728, 2827, 2840, 2874, 2892, 3378, 3405, 3463, 3559, 3666, 3682, 4010, 4276, B749, B754, B817, B829, B840, B1305, B1362, B1433, B1618, B1728, B1831, B1834, B1986, B2204, H37R32, H38R64 yinčürü töpün yükünürmn bursang quvraylïγ alqu tüzünlär ïduqlar quvrayïnga šasdirakare vasubandu baxšï-qa ulatï mning öz baxšïm gunamati baxšïqa ymä 「稽首僧伽和合衆聖斯論主（世親）及吾師（德慧）」 12

v.-nung B757

vasumitre ～ vasimitre

< Skt. vasumitra 「世友」 ayaγqa tägimlig vasumidre baxšï 2108, 2115, ayaγta tägimlig vasimitre baxšï muntaγ tep söz-lär 「尊者世友作如是言」 H25R38

vatsi < Skt. Vātsya 「筏蹉」 vatsi uγušluγnung ödüngüsin ayïdγusïn ymä andaγ oq 1679

vatsiputri ni'kay

< Skt. vātsīputrīya-nikāya 「犢子部」 azuča ymä vatsipudri ni'kay-lïγlar uqïdmïšlar ol üč türlüg nomlarïγ 2604

vaybaš

< Skt. vaibhāṣya 「毘婆沙」 vaybaš baxšï 「毘婆沙師」 B1300, B1310, B1326, B1357, B1409, B1748, B1824, B1832, B1856, B1873, H35V60 munda vaybaš baxšï-lar yanduru sezik qïlur 「此毘婆沙師却難也」 B1326; vaybaš šastir(šastr) 「毘婆沙論」 61, B1778, B1782, B1812, B1823 munï üzä ötrü qarïšmïš ärtmiš bolur vaybaš šastir-taqï taplaγtïn 「是則違越毘婆沙宗」 H29V25

v.-ta 287

vaybašike

< Skt. vaibhāṣika vaybašike-lïγ baxšï 「毘婆沙師」 339, 2131, 2140, 2148, 2150, 2570, 3177, 3766, 4192, 4204, 4209, 4214, B380, B950, B972, B986, B995, B999, B1175, B1205, B1214, B1256, B1274, B1352, B1358, B1414, B1719, B1758, B1990, H33R25 vaybašike-lïγ baxšï-lar terlär munday tep 「毘婆沙師傳說如此」 4192, vaybašiki-lïγ baxšïlar sözlär 「毘婆沙師說」 H28V7, kašmir ellig vaybašike-lïγ baxšï-lar 「迦濕彌羅毘婆沙師」 B380

vaynike

< Skt. vaineyika 「所化」 azu körmiš üčün mü qutγaryuluq vaynike-larta tözi yïltïzï alp turulduryuluqï ärsär yänä bergäli tägimligin bir künlük tünlük čxšaptïγ 「爲觀所化根難調者旦應授與一晝夜戒」 H33R20; vaynike tïnlγlar 「所化（の衆生）」 1219, 1802 ～ vaynike-lïγ tïnlγlar, qudruldačï vaynike-lïγ tïnlγlar-nïng kim käzigläringä

323
v.-lar 2123
v.--larqa SE22
v.-lïγ v.-lïγ tïnlylar 323, 1101, B2226

vaypulya
< Skt. vaipulya 「方廣」 vaypulya kengürmäk 「方廣」 2337

vayšašike
< Skt. vaiśeṣika vayšašike-lïγ baxšï 「毘世師迦師」 3033

vazir
< Skt. vajra vzir üzük 「金剛環」 qaltï murč ičgü vzir üzük te[yür] täg 「如胡椒飲如金剛環」 H27R8

vi
< Chin.爲 edig tegüči vi užikig 「・・爲字」 3036(note)

vibačivadi
vibačivadi nikay < Skt. vibhajyavādin nikāya 「分別說部」 vibačivadi nikay-lïγ bsaxšïlar yänä sözlär 「有餘復言」(「分別說部の師が復た言う」) H25V56

vibakti
(vyp'kdy) < Skt. vibhakti 「名詞の格」 547, 548, 548, 552, 553, 563, 1033, 1339, 3287, 3288, 3290, 3292, 3989, 3991, 3992, 4355, 4393, 4572, 4575; säkiz türlüg sav ävriši vibakti-lar 「八轉聲」 1338, 1941; ol tegüči vibakti 「主格」; kä vibakti 「與格」 1339; üzä vibakti 「具格」 548, 3292, 3992; nïng vibakti 「屬格」 548, 1942, 4393; ta vibakti 「依格」 563, 3287, 4575; tïn vibakti 「從格」 3288, 4355, 4572
v.-lar 3284
v.-larïγ 559, 563
v.-larnïng 546, 1941, 4354, 4392
v.-qa 548, 550, 556
v.-ta 1942

vidyanakayapt
vidyanakayapt šastr < Skt. vijñāna-kāya-pāda-śāstra 「識身足論」 2109

vinay
< Skt. vinaya 「毘奈耶」「律」 1797, 1799, 2229, 2266, 2272, 2275, 2365, 2435, 2520, 2522, 2557, 2559 mäning bar ärür täringdä täring abidarim-ïm ulatï vinay-ïm 「我有甚深阿毘達磨及毘奈耶」 1675, sudur vinay iki ayïlïqïγ užiki eyin sanggit qïlmïš ol 「經律二藏隨文結集」 2229; vinay ayïlïq 「毘奈耶藏」 2266;
v.-ïγ 1802, 2445, 2516
v.-ïm 1675
v.-larta 2145, 2348, 2350
v.-nïng 2312, 2565
v.-ta 2203, 2204, 2273, 2276, 2281, 2544, 2546, 2548
v.-taqï 2142, 2225, 2506, 2554

vinayadare
< Skt. vinaya-dhara 「持律（者）」 sakizinč vinayadare bešinčlig kiši uγrïnta 「八由持律爲第五人」 H32V8

vinaya vaybašike
< Skt. vinaya-vibhāṣika vinaya vaybašike-lïγ baxšï 「毘奈耶毘婆沙師」 alqu vinaya vaybašike-lïγ baxšï-lar sözlär 「諸毘奈耶毘婆沙師說」 H32V34

višake
< Skt. viśākha 「毘舍佉」 višake bayaγut 「毘舍佉長者」 3467

višay
< Skt. viṣaya 「境」 yertinčüdäki alqu yeg soγančïγ

višay-lar čïn kertü amranmaq ärmäzlär 「世諸妙境非眞欲」 H27R25
v.-lar H27R26,32,33
v.-larïγ H27R38

viyakiran ～ vyakran
< Skt. vyākaraṇa 「文法」 578, 583, vyakran 2049 nïng samaz yörüg büdüp viyakiran yangïnga eyin bolur 583

viyakirt
< Skt. vyākṛta 「記別」 arxantlar käntü özlärin viyakirt qïlu sözlämišlär 「阿羅漢自記別言」 B611

viyduri
< Skt. vaiḍūrya 「瑠璃」 B2218

vyakarana
< Skt. vyākaraṇa 「記別」 vyakarana adïra yrlïqamaq 「記別」 2333

vyančan ～ viyančan
< vyañjana 「文」 2263; užik vyančan 「文」 šasdrtaqï užiklär vyančan-lar yörügkä tayaq bolmaq üzä 4005
v.-lar 1938, 4005
v.-ï B755; užik v.-ï H38R19
v.-ta 2049

X

xan
「王」「帝王」; xan buyruq-ï 「帝王臣」 4337, 4388, 4389 azuča ymä yükmäk sanlïγ üčün tudyaqqa anïn adamïš ol tudyaq yükmäk tep qaltï xan buyruq-ï temiš täg 「或蘊屬取故名取蘊如帝王臣」 4337; alqu nizvanïlarnïng elig-i xan-i 「諸煩惱王」 638; köngül xan-ï 「心王」 1633, 1642, 1634, 1640, 1646
x.-ï 638, 1633, 1640, 1642
x.-ïn 1646
x.-ïnïng 1634
x.-qa 4389

xarday
miširaka xarday šastr
< Skt. miśraka-hṛdaya-śāstra 「雜心論」 62, cf. miširaka

xormuzta
< Sogd. xwrmwzt' xormuzta tngri 「帝釋天」「天帝」 1673, 1677, 1678 burxan adï ködrülmiš bošumïš üčün xormuzta tngri-tä ulatïlamïng nä ymä ödüngüsin ayïdγusïn 「以佛世尊恣天帝等所請問故」 1673

xua (qw-')
< Chin. 花 1161, 4405, B1705, B1928 qaltï künčit yayï üzä tütidilmiš xua täg 「如花熏巨勝」 H35V28; udumbar xua 「優曇華」 1161; xua čäčäk 「花」 4338, 4403, 4405; köngüllüg xua 「心華」 1242; šudi xua-sï 「香菱花」 B1927
x.-γ 1014
x.-larïn 1242
x.-lïγ 4338, 4403, 4405
x.-sïn B1927
x.-taqï B1712

Y

yad-
「廣げる」 basa toor yad-ïp bu balïqïγ tartïp ündürmätin 「次網著此魚曳不出」 2494
y.-ïp 2494
y.-maqïγ B762

yadïl-
「廣がる」「舒する」「布かれる」 inčä qaltï kündüz ülüšintä kün tngrining yadïl-mïš isig čoγï üzä

bulït boγanaq arïγlayu tegü täg ačïlduqïnta 「譬如晝分烈日舒光霧霧廓清」 B894; ornan-u yadïl-「安布する」 B1949, B1926; ačïl- yadïl- 「開敷する」 näčä ačïl-sar yadïl-sar ymä köz-lärï umaz-lar körgali 「雖開殊眼不能睹」 H40R11
y.-mïš B894, B1949
y.-mïšï B1926
y.-ur B2349

yaγ
「油」 künčit yaγ-ï 「胡麻油」「巨勝」 qaltï künčit yaγ-ï üzä tütidilmiš xua täg 「如花熏巨勝」 H35V28, cf. künčit
y.-ïn künčit y.-ï 2818
y.-ïnga künčit y.-ïnga 1014

yaγ-
「降る」 inčä qltï tngritin yaγmur yaγ-mïš täg tamïzïm qltï qanglïnïng čuγïnča 「譬如天雨滴如車軸」 H27V24, ösgän yaγmur näčä tüzütä yaγ-sar qudulsar ymä uruγsuz qolunga ünmäz yašarmaz 「甘雨雖普降無種芽不生」 1272

yaγï
「敵」「怨家」 öčmäkli yollï iki kertüli ärür üčün nizvanïlarnïng yaγï-sï 2788, qaltï bolsar birär yaγï-γ ölürgäli taplïγlarnïng 「謂如有一欲害怨家」 H35R2

yaγmur
「雨」 H27V24; ösgän yaγmur 「甘雨」 1271, see yaγ-

yaγuq
yaqïn yaγuq 「親しく」「親近に」「直接に」 574, 775, 776, 1910, 3013, 3759, B17, B19, B43, B128, B130, B140, B658, B748, B750, B753, B754, B839, SG43 bu tayandačï töz ol tayaqïnga körü odγuraq yaqïn yaγuq 「是能依性對彼所依極親近」 B43, kertülärning yörügin yangïlturdačïtïn yaqïn yaγuq ünmiš tuγmïš ärmäz üčün 「非迷諦理親發起故」 B839

yalïn
「焔」「光」; yula yalïn-ï 「燈焔」「松明」 4168, B1670, yula yalïn-ï yänä öčä birlä ök ödrü körülmäz yaruq-ï 「燈焔纔滅則不見明」 B1670; čoγ yalïn 「威」 öngi qïrtïšï čoγ-ï yalïn-ï ädgüsi ädrämi savï sözi yruqï yaltrïqï ton ditimtä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V45, cf. yalïnlïγ
y.-ï 2782, 4168, B1670

yalïndïq
「ただ」「愼みのある」 355, 535, 2364, tägimlig ärmäz yalïndïq ad üzä uqïdyalï burxan tep 535; säkiz yalïndïq yeg üstünki äränlär 「八賢聖」 51

yalïnlïγ
čoγluγ yalïnlïγ 「威」「熾盛」 528; čoγluγ yalïnlïγ küč 「威力」 1312, 1374, 1381, 1415, 1423 näng čoγluγ yalïnlïγ küč-ining qud küsüš bermäkining ridi bögülänmäkining uγurïnda ärmäz 「不由威力與願神通」 1312; čoγluγ yalïnlïγ ridi 「威神」 17, 1386, 1424, 1426, 1434, 1439, 1444, 1455 küsüšüm ol čoγluγ yalïnlïγ ridi-larï üzä körüp küyü küzädü tudzunlar 「願以威神見護持」 17; čoγluγ yalïnlïγ ädgü 「威德」 1486

yalnguq ～ yalanguq
「人」 qaltï kim ornadïp turγurur yalnguq-lï tängri-litä 304, qaltï öngdün sözlägüči tamu yïlqï pret ulatï yalnguq tngri bularnïng adï bolur beš ažunlar tep 「謂前所說地獄傍生鬼及人天是名五趣」 H27V52
y.-larnïng 764, H28R9
y.-lï 304, 305, 307, yalanguq-lï 183, 262
y.-ta H28R15

yalnguz ～ yalanguz
「獨り」「唯」 399, 512, 617, 641, 755, 795, 894,

1778, B79, B1748, B1773, B2179, B2221 yalnguz köngül ök könglüdäki nomlarqa ärmäz 「唯心非所」 B79; bir yalnguz 「一」 bir yalnguz yuy qušnung ayčuq atlγ tilgänindäki alqu türlüg tildaγlïγ bälgüsi 「於一孔雀輪一切種因相」 935

yalnguzïn
「獨りで」 44, 324, 1060, B186, qïlïnč yalnguzïn ädrämlig ärmäz 「業不獨能」 44; yalnguzïn yorïdačï 「獨行」 B75, B179 sudurta yrlïqamïš üčün yalnguzïn yorïdačï tep 「經說獨行故」 B179

yalqalïγ
「浸された」 suv üzä yalqalïγ topraqïγ 「水浸於土」 1115

yaltïrïq ～ yaltrïq
「明」 yänä yula-lï yaldïrïq-ïn-lï-nïng ulaqï öngin öngin öngi ärür 「又燈與明相續各異」 B1678; yaruq yaltïrïq 「光明」 3173, B2214 tiläp uluγ yruq yaldïrïq-nïng basutlamaqïn temin ök körür 「求大光明助方見」 B1535, öngi qïrtïšï čoγï yalïnï ädgüsi ädrämi savï sözi yaruq-ï yaltrïq-ï ton ditimtä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V45
y.-ïγ yaruq y.-ïn B2206
y.-ïnlïnïng B1678
y.-nïng yaruq y.-nïng B1535
y.-ta yaruq y.-ta B2212

yaltïrt-～ yaltrït-
yaltïrt-u kör- 「觀照する」 B960, B969, B971, B973, B1085, B1086, B1087, B1346, B1936 köz ärklig uyur üčün yaldïrt-u kör-gäli alqu önglärig ymä ök adamïš ol körüm tep B960; yaruq yašuq yaltrït- 「明白にする」 yörüg tözin yaruq yašuq yaltrïd-tačï ärür 67

yamïraš-
birlä yamïraš- 「・・と混同する」 sezinmiš üčün lokik yol birlä yamïraš-γay tep 2975
y.-γay 2975, 3238, 3562, 3894

yamïrašmaq
「混同」 yamïrašmaq-lïγ mün qadaγnïng yoqïn 2976

yamu (ymu)
「也」 第二 bašladï ymu 2583

yanala (yänälä ?)
「及び」 kedärip alqïnču yanala tuγmaqsïz bilgä biliglärig B917

yanγï
yanγï kikinč 「答え」 birär々 yanγï kikinč bersär 2822

yantur-
「歸る」 ašnuqï täzä yandur-u turur 1013

yanturu
「却って」「還って」「むしろ」「反對に」 756, 839, 994, 1013, 1073, 1077, 1729, 2642, 2940, 4101, B271, B454, B1178, B1179, B1326 birök bar ärsär adïn äd yanduru udačï körgitgäli körklärig 4101, kim kälmädük ödtä bar bolmïš nomlarnïng yanduru adï bolγu kärgäk yoq tep B271, qaltï öčmäk dyantïn ünmištäki köngül yanturu ašnu öčmiš dyanqa kirgütäki köngül tïltaγ bolmaq üzä anïn turmïš täg 「如出滅定心還用先滅正入滅定心爲緣故起」 H25V18

yang
「仕方」「樣」「型」 inčip viyakiran yang-ïnga eyin bolmaz ärti 578, bu karik(nïng) abipirayï yang-ïnča 249; yang kib 「涸」「軌」 206, 1995, 3058 yangluqïnča turγurmïš üčün öngisin yang-ïγ kib-ig 「妄起圖故」 1995; yangγarïq yang 「仕方」「規範」 2480, B236; yang törü 「軌則」 alqu yang-qa törü-kä yarašï ät'öztäki tiltäki köngültäki qïlïnčlarnïng ymä ök adï bolur qïγalï tägimlig 「諸

合軌則身語意業亦名應作」 H34V52; törü yang 「禮儀」 ol yarašmamaq uyrïnta yertinčülüg törü-kä yang-qa 「由彼不合世俗禮儀」 H34V48
y.-ï 206, 3058
y.-ïγ 1995
y.-ïnča 249, 2480, B236
y.-ïnga 578, 583
y.-ïnta 2049
y.-qa y.-qa tötü-kä H34V52

yangča
「准ずる」「・・のように」 210, 3039, 3832, B944, B1435, B1981, B2128 änätkäkčä punïndaqï yangča ärsär 「准梵本」 3039, bu odγuraq(sïz) yangča ol 「此無定准」 B1435, bu yangča yorïmïš krgäk nom eyin yorïtačïlarïγ 「准此應釋隨法行者」 H38V67, čxšaptnïng turγan tïtïγ bolmaqlïγ yörügi ymä ök bu yangča bolγu krgäk 「戒爲隄塘義亦應准此」 H29R4

yangγar-
「比べる」 munung uγurïn yangγar-ïp bilmiš kärgäk 「由此比知」 B2100; yangγar- oxšat- 「類推する」 ymä ök bolmaz yangγar-maq oxšad-maq üzä inčip sözlägäli 4103; oxšat- yangγar-「比類する」 burxanlar oxšat-maq yangγar-maq uyrïnta ärtmiš közünür ödki tïltaγlï tüšlining käzigin tizigin 「由佛比類過去現在因果次第」 H25V46
y.-ïp B2100
y.-maq y.-maq oxšat-maq 4098, 4103

yangγarïq
「例」「規範」 3482, B432, B1097, B1269 girant üzä učuz bolur bilgäli yangγarïq-ïn B436, yangluq turγurmïš üčün öngi yangγarïq-ïγ 1995; yangγarïq yang 「規範」 2479, B236
y.-ča 2982, B1166, B1251
y.-ï 3586, B170, B1099, B1623, B1872
y.-ïγ B1288
y.-ïn B436
y.-ïngïzlar B167
y.-ïngïzlarnïng 3543

yangï
「新しい」「日」 289, H29V29, H33V22 yangï turmïš mxabutlar tüzütä üklimiš ašïlmïš üčün 「新生大種遍增益故」 H29V33, qaltï mn turqaru aynïng säkiz yangï-sïnta ulatï otγuraq inčip täginürmn bu bačaq sanvarïγ 「謂我恆於月八日等必當受此近住律儀」 H33V3; yangï bošγutluγ toyïn 「新學比丘」 4220, 4223 mundata ulatï yangï bošγutluγ toyïn-larïγ nädägin ödläyin 4220

yangïl-
「誤る」「迷う」 azuča ymä küsämäz täpräp barγalï yangïl-ur yoluγ ulatï sezinür yolta 「或不欲發趣迷道及疑道」 1150
y.-maq 2082
y.-maqlarïn 20
y.-ur 825, 827, 1150

yangïltur-
「誤らせる」「迷わせる」 kertülärning yörügin yangïltur-dačïtïn yaqïn yaγuq ünmiš tuγmïš ärmäz üčün 「非迷諦理親發起故」 B839
y.-dačï B641, B755
y.-dačïtïn B839
y.-maγalïr 3960
y.-maq B548, B658
y.-ur 589, 827, B750

yangïrtï
「新しく」「始めて」 1026, 1036, 1730, 3241 bulsar ašnuqï qayu bulmïšïn adï bolmaz yangïrdï bulmïš tep 1730, anïn näčä bolmadïn yangïrtï tuγdačï tïnlγ 「故雖無有始起有情」 H27V16

yangluq
「誤り」「妄り」 1946, 2013, 3477, 3481, 4287 yangluq-ïnča turγurmïš üčün öngisin yangïγ kibig

「妄起圖故」 1995, yangluq-ïnča bar qïlmaq üzä ärür ärmäz temäkig 「妄有是非」 B759, biligsiz äränlär yangluq-ïnča adqanurlar bu uyur tuγuryalï mängig 「愚夫妄計此能生樂」 H7R9; šašuq yangluq 「亂れた」 2013

y.-ïnča 1995, B759

y.-sïγ 2112

yangqu

ün yangqu 「音聲」 B1687, ïraq yaqïn bulung yïngaqtaqï adïrt öngi ün-üg yangqu-γ 「方維遠近差別音聲」 B1576

y.-γ ün-üg y.-γ B1576

yangšaq

「繁雜」「冗長」 63, 65, B765, bu šastr münsüz qadaγsïz ärür öngi üdrülmäk üzä yangšaq savlartïn 「此論無過雜繁文」 65; yangšaq keng 「冗長」 2577, 2617, 2822, B237, B842, B1165 ～ yangšaq qatčïγ 292, birök ikiläyü yinčgäläyü sezik qïlsar qorqmïš üčün yangšaq keng bolγay B842

yangšaq-ïnga y.-ïnga keng-ingä 295

yapa

tüzü yapa 「普く」「遍く」「普遍に」 62, 3065, 3121, B335, B336, inčip vaybaš-šastr-ta näčä sözläsär ymä säkiz bölüklärig yörüg tözi tüzü yapa bolmatuq ärür 62

yapïγaq

「葉」 yïltïzï ulunï butïqï yapïγaq-ï ančan ančan eyin käzigčä ükliyü etilü 「根莖枝葉漸次增榮」 H25R51

yapïš-

yapïš- mayïš- 「粘着する」 yapïš-ïp mayïš-ïp bolmaz üčün üngäli 1120

yapšïn-

「粘着する」「付着する」 azuča ymä tidig täg yapšïn-mïš üčün 1153; atqan- yapšïn-「執着する」「封著する」 2799, 2802, 2811, 3636 öčmäk kerdü yol kertü näng nizvanïlarqa adqan-γuluq yapšïn-γuluq orun ärmäz 2802, bilgälär ärsär anda tägimlig ärmäz adqan-γalï yapšïn-γalï 「智者於中不應封著」 B1400; eyin yapšïn- 「隨着する」 2806, 2808; bal- yapšïn- 「縛著される」 4503, 4505 bu yol kertütä bolmaz bal-maq yapšïn-maq 4505; tayan- yapšïn-「依著する」 olarnïng qayu täginmišining uyurïnda bolmaz üčün ädräm birdämlädi ozyuryuluq alqu ayïγlartïn bolmaqta tayan-maq yapšïn-maqtïn 「由彼所受無有功能永脫諸惡依著有故」 H31R32

y.-γalï 2814, B1400

y.-γuluq 2799, 2802, 2808, 2811

y.-maq 2809, 4505

y.-mïš 1153

y.-mïšï 2806

y.-sar 3635, 3636, 4503

yapšïntur-

azlantur- yapšïntur- 「愛執させる」 adqanγuluq adqanγuta alqu-qa barča azlandur-ur yapšïndur-ur 1158

yaqïn

「近い」「近邊」 107, 1573, 1668, 1809, 1894, 1894, B119, B121, B328, B1495, B1496, B1518, B1520, B1524, B1525, B1540, B1541, B1553, B1572, B1575, B1579, B1583, B1585, B1589, B1642, B1666, B1691, B1730, B1948 qaltï öngrä bar ärti kiši šaripudre arxantnïng yaqïn-ïnda tiläti küsädi ävtin barqtïn üngäli 「如昔有一人於舍利子邊求出家」 905, inčä qaltï yula yaruqï ïraq yaqïn iki bulung yïngaqlarqa birgärü tägip inčip yarudmïš täg 「譬如明燈遠近二方俱至而照」 B1524, qaltï yaqïn-ta odγuraq bilmiš täg 「如近決了」 B1592; yaqïn yaγuq 「親しく」「親近に」 574, 775, 776, 1910, 3013, 3759, B17, B19, B43, B128, B130, B140, B658, B748, B750, B753, B754, B839, SG43, see

yayuq; yaqïn yayuq tüz tarttačï 「親等起」 B748, B753; yaqïn tayan- 「依附する」「親附する」 107, 1573 yaqïn tayan-maq üzä tngri burxannïng yrlïγïnga 「依附佛語」 107, inčip közünur ödkisi yaqïn tayan-ur öz tayaqïnga 「然於現在親附自所依」 H26V20; yaqïn sïq- 「隣逼する」 B1549, B1542, B1553 yaqïn sïq-a odγuraq yarudmïšï körülmäz üčün 「隣逼無間照不見故」 B1540; yaqïn sïqïlïš- 「隣逼しあう」 B1730

y.-ï H31R37

y.-ïn 1813

y.-ïnda 905

y.-ïnga B1713

y.-ïntïn 1810

y.-ta B1592

y.-taqï B1493, B1543, B1549, B1592, B1594, B1598, B1614, B1689

yaqïnqï

「附した」 ang bašlayu töz körk-kä yaqïnqï ün ärdä ök ärdä öčä tükädmiš bolur 「初附質聲久謝滅」 1675

y.-sï B1695

yar-

「碎く」 ol yeg yar-mïštaqï parmanuta B1805, cf. parmanu; ač- yar- 「開敷する」 inčä qaltï kün tngrining yaruqï yarudup yerdinčüg tüzü umïšï täg ač-γalï yar-γalï 1238; üd yar-mïš 「孔隙」 ät'öztä bar üčün üd yar-mïš anïn bolur bir ikintikä sïyurušγalï 「身有孔隙故得相容」 H29V37

y.-dačï ač-dačï y.-dačï 521

y.-γalï ač-γalï y.-γalï 1238, 1241

y.-mïšï ač-mïš y.-mïšï 1240

y.-mïštaqï B1795, B1805

yara-

büt- yara- 「成ずる」「成就する」 809 büd-miš yara-mïš yörügtä 「於成理上」 B758

y.-mïš büt-miš y.-mïš B758

y.-yur büt-är y.-yur 809

yarayïnča

「所應として」「適切に」 1201, 1218, 1235, 1622, 1717, 1724, 1727, 3436, 3442, B2328, B2407, H26V1 eyin yarayïnča berip köni nom nomlamaqlïγ ong eligin tardïp tašγarïp umuγ ïnaγ bolup ündürü yrlïqadï 「隨授所應正法教手拔濟令出」 1201, eyin yarayïnča kengürüsin köznüng täg yörmiš kärgäk 「隨其所應廣如眼釋」 B2407

yaraš-

「適する」「合う」; eyin yaraš- 「隨應する」 arduqraq birsi bir ikindikä eyin yaraš-maz B761, ol yaraš-mamaq uγrïnta yertinčülüg törükä yangqa 「由彼不合世俗禮儀」 H34V47

y.-maz B761

y.-ur B1259

yarašï

「適切な」「相應しい」「所應」「可く」「巧い」 233, 766, 821, 823, 979, 983, 1221, 1239, 1260, 1279, 1281, 1347, 1651, 2000, 2003, 2177, 2233, 2325, 2474, 2477, 2543, 2646, 2966, 3242, 3296, 3570, 3572, 3581, 3667, 3672, 3724, 3724, 3742, 3898, 4177, 4179, 4213, B126, B192, B198, B1079, B1097, B1163, B1223, B1346, B1481, B1855, B1902, B1936, B2150 yänä ymä yarašï teptemiši ärsär 「又所應者」 1279, anïn bu sözlämišingizlär yörüg tözingä yarašï bolmaz B192, nä üčün tep tesär bir qatïlmiš qavïšmïštïn bolur inčgä yoγun tüš tep tesär yörüg tözingä yarašï bolmaz üčün tep 「所以者何。從一和合有細麤果不應理故」 H29R25, birök ädgü tarïγlayta tiksär bušï bermäklig qïlïnčlïγ uruγluγ yarašï tartar säviglig tüšüg 「若於善田殖施業種可招愛果」 H35R11, bešinč uzanïp yarašï kikinč bermäk uγrïnta qayu aydïγqa 「五由善巧酬答所問」 H32V43; eyin yarašï 「隨應の」「順じて」 1260 nätäg ärsär täginmäk täginmäkka eyin yarašï alqu tvranmaqlar ymä antaγ oq ärür 「如受

順受諸行亦然」 H36R38; yaraši tušlï「契當」 4177, cf. tušlï

yarat-

「造る」 äsdiramatï baxšï yarad-mïš ärür 「悉地羅末提造」 5, amdï uyraduqta šastr yarad-γalï 「今欲造論」 76, qayu tïldayïn šasdr yarat-dï 「何因造論」 257; qïl- yarat- 「造作する」 kimlärning tamuluγ qïltačï alqu aqïγlarï yüüz yügärü bolmïš üčün anïn qïl-ïp yarat-ïp üklitsär ašsar tamuta tägingükä eyin yaraši qïlïnčïγ 「若有地獄諸漏現前故造作增長順地獄受業」 H28R25

y.-ayïn 301, 320, 321, 326, 327, 330, 331, 333, 344, 345

y.-dačïlar 1977

y.-γalï 76, 158, 188, 329, 475, 1317, 1585

y.-γuluq 213, 288, 1554

y.-ïp 21, 289, 1972, 4368

y.-mamïš 154

y.-maqnïng 1969, 1972

y.-mïš 5, 101, 160, 177, 195, 210, 227, 234, 236, 243, 246, 251, 254, 299, 477, 1952, 1965, 1967, 1792, 1974, 1977, 1980, 2016, 2018, 2021, 2021, 2108, 2109, 2110, 2111, 2114, 2115, 2116, 2118, 2118, 2184, 2214, 2329, 2528, 2831

y.-mïšïnta 1973

y.-tačï 212

y.-tačïlarnïng 205

y.-tï 1574; y.-dï 257

y.-urlar 207

yaratïγ

etig yaratïγ「嚴飾」 etig yaratïγ-ïγ öngi ketärip kün tün üzä「離嚴飾晝夜」 H33R64

y.-ïγ etig y.-ïγ H33V19

yaratïl-

birlä yaratïl-「相應する」 aqïγ birlä birlä yaradïl-ïp uladï aqïγqa adqanγu uyuš bolup「與漏相應及漏境界」 2744, tärs körüm sezik birlä yaradïl-mïš ulatï qamaγlïγsïz biligsiz altïγu uyur adqanγalï aqïγsïzïγ「邪見疑相應及不共無明六能緣無漏」 2846, tuyar ämgäk täginmäk birlä yaradïl-mïš ät'öz biligi「發生苦受相應身識」 B2136, ažunnung yörügi birlä birlä yaratïl-maz üčün「趣義不相應故」 H28R50

y.-ïp birlä y.-ïp 790, 793, 2744, B623, B699

y.-maq birlä y.-maq 2811, 4443, 4453

y.-mayu birlä y.-mayu 985

y.-maz birlä y.-maz 985, 2421, 3196, 3732, 4457

y.-mïš birlä y.-mïš 1095, 1101, 2720, 2721, 2846, B30, B562, B574, B582, B860, B861, B919, B921, B928, B931, B2107, B2109, B2136, H26V2, 4, 5, 6

y.-mïšïn birlä y.-mïšïn 2718

y.-mïšïnïng birlä y.-mïšïnïng 2773

y.-mïšqa birlä y.-mïšqa B864

y.-sar birlä y.-sar 2752

y.-tuqta birlä y.-tuqta 2772

y.-ur birlä y.-ur 168, 3194, 4371, B863

yarïl-

ačïl- yarïl-「開敷される」 qaltï lenxua čäčäk özin ačïl-ïp yarïl-ïp bolmamïšï täg kišilärtä ačdačï yardačï 520

y.-ïp ačïl-ïp y.-ïp 520, 522

y.-maq ačïl-maq y.-maq 508

y.-mïš ačïl-mïš y.-mïš 508, 518, 520

yarïm

「一分」「少分」 köztä ulatï nom uyušnung yarïm-ï säkizägüni 「眼及法界一分八種」 B844, üč uyušlarta öngin öngin bar tngri ažunnïng yarïm-ï 「三界各有天趣一分」 H27V55

y.-ï B844

y.-ïnda 3740, 3741

yarïmča

「少分として」「一分として」 1227, 3668, 3680, 3683, 3689, B53, B57, B59, B141, B158, B159, B230, B887, B1030, B1288, B1295, B1966 azuča

ymä yarïmča köngül yoyun (inčgä) saqïnčqa tayaq bolur üčün「或少分心尋伺依故」 B59, körgülük önglär körklär yarïmča yaruq arïγ bolmïš täg「所見色像少分明淨」 B887, bar önglüg tïnlylar ät'özläri öngi saqïnčlarï öngi qaltï yalnguqlar yarïmča tngrilär ärür「有色有情身異想異如人一分天」 H28V20

yarlïγ

(yrlyq y'rlyq)「教へ」 363, tngri burxannïng ïduq yrlïγ-ï eyin sanggit qïlmïš ärür abidarimïγ「隨佛聖教結集對法」 2226; savlïγ yarlïγ「言教」 95, 101, adï ködrülmišning qayu yrlïqamïš savlïγ yarlïγ-ï üzä 101

y.-ï 101, 2226

y.-ïn 243, 2260

y.-ïnda 95

y.-ïnga 107, 209, 236, 250, 2219, 2222

y.-ïnïng 112

y.-lïγ 2424

yarlïγsïz

(yrlyq-syz y'rlyq-syz)「無記」 714, 836, 975, 976, 994, 1016, 4452, B93, B94, B212, B496, B497, B582, B625, B626, B638, B639, B805, B906, B909, B2143, B2196, B2198 birök ädgü köngültäki nomlar kkirlig ulatï yrlïγsïz köngülkä körü tidsär tayandačï tözin「若善心所望彼染污及無記心捨能依性」 B94, qaltï ädgü ayïγ yrlïγsïz köngültä「謂善不善無記心中」 H25R55; örtügsüz yarlïγsïz「無覆無記」 4361, B910 köz qulγaqta ulatï alqu ärkliglär alqu ördügsüz yrlïγsïz bilgä biligtä ulatïlar alqu barča körüm ärmäz「耳等諸根一切無覆無記慧等悉皆非見」 B910

y.-ï B94

y.-ïn B865

y.-ïnïng B861

y.-ta 2724, 4454, 4456

yarlïqa-

(yrlyq'- y'rlyq'-)「説く」「告げる」「言う」(動作主は常に「佛」) bu tïldayïn terlär tngri burxan yrlïqa-mïš ol abidarimïγ tep「因此傳佛説對法」 2040, nä üčün säčä sezinür sïzlär tngri burxan yrlïqa-mïš ärmäz tep「何故懐疑非佛所説」 2279, nädägin adï ködrülmiš ašnuča yrlïqa-p tört türlüg ülgülärig「如何世尊先説四量」 2354, qaltï sudurta yrlïqa-mïš ol mäning bar ärür täringdä täring abidarimïm ulatï vinayïm bošuyur män säning ödüngüngin ayïdyungïn tep「如契經言我有甚深阿毘達磨及毘奈耶恣汝請問」 1675, adï ködrülmiš yrlïqa-dï säning anang tuγup turmïš ärür marïči yerdinčütä tep「佛告汝母生在摩利子世界」 921; -u/-ü yarlïqa-「(佛が)・・したまう」 yindäm burxan adï ködrülmišlär ök bul-u yrlïqa-p birdämlig yörüngäkin「唯佛世尊得永對治」609; vyakarana adïra yrlïqa-maq「記別」 2333

y.-dï 911, 921, 1202, 1226, 1232, 2085, 2286, 2521, B1484, B1488, B1491, H25R13

y.-dïngïz H37R65, 68

y.-γalï 2357

y.-γay 2355

y.-madï 4046, B2082

y.-mayay 2365

y.-mamaq 2181, 2184, 2265, 2288

y.-mamïš 2187, 2300, 2316, 2431, 2482, 4043

y.-maq 2430

y.-maqï 1312, 1380, 1996, 3554, 3958, 4495, B1249

y.-maqïγ 2333

y.-masar 2315

y.-maz 2048

y.-mïš yrlyq'mys 101, 107, 109, 138, 245, 389, 409, 498, 610, 612, 666, 672, 689, 730, 731, 751, 894, 942, 1217, 1222, 1406, 1675, 1797, 2011, 2011, 2018, 2019, 2026, 2040, 2047, 2067, 2071, 2073, 2079, 2102, 2119, 2122, 2126, 2147, 2185, 2190, 2201, 2203, 2206, 2208, 2210, 2215, 2215, 2224, 2228, 2250, 2261, 2266, 2267, 2272, 2277, 2279, 2289, 2290, 2298, 2299, 2309, 2330, 2339, 2360, 2368, 2390, 2403, 2415, 2417, 2427, 2428, 2431, 2443, 2523, 2539, 2557, 2560, 2578, 2585, 2862, 2864,

2870, 2881, 3176, 3392, 3952, 4034, 4035, 4042, 4222, 4242, 4251, 4384, 4413, 4415, 4431, 4567, B75, B179, B607, B679, B690, B1022, B1023, B1218, B1220, B1246, B1401, B1492, B2073, B2084, B2208, B2224, B2224, H25R7; y'rlyq'mys 59, 2177, 2866, B1265

y.-mïšï 103, 2197, 2444, 2890, 3900, 3902

y.-mïšïγ 2143, 2344

y.-mïšïn B2

y.-mïšïnïng 104, 134

y.-p 609, 665, 671, 688, 693, 728, 1185, 1189, 1208, 2354, 2364

y.-sar B2225

y.-yu 2310

y.-yur H37V6

y.-yurlar 721

yarlïqančučï

(yrlyq'ncwcy) yarlïqančučï köngül 「慈悲心」 366, 383, 392, 1060, 1196, 1364 bodistvlarnïng yrlïqančučï köngül-i qutï küsüši odyuraq inčip burxanlarnïng birlä bir täk ärür 366; uluγ yarlïqančučï köngül 「大（慈）悲心」 383, 395, 430, 438, 438, 1043, 1188

yarp

bärk yarp 「堅固に」 757, 2532, 4552, 4559, B1408, B1642, see bärk; bäk yarp 「堅固に」 1130, see bäk

yaršmalaš-

「競いあう」 bir ikintikä sïp tanïp bir ikintikä yaršmalaš-u 2397

yaruq

(y'rwq yrwq)「光」「燿」「明」 3173, B879, B2121, yrwq B1527, B1528, B1531, B1534, B1535, B1539, B1541, B1543, B1566, B2103, B2111, B2122, B2125, B2160, B2193, B2206, B2212, B2214, H33R3 mn uyradïm kadyot qurtnung yaruq-ï kün tngrining yaruq-ïnga basudlayurïnča 「我將螢燿助暘光」 14, körülür üčün kičig yruq-nung uluγï üzä basïdïlγuluq bolmïšï 「現見小明大所伏故」 B1537; yaruq yašuq 66, 3118, 3121, 3123, B278, B848, B852, B853, B1535, B1723, B2120, B2125, B2158, B2160, see yašuq; yaruq yašuq uqul- 「明了される」 3118, 3121, 3123; tetik yaruq 「聰明」 kašïp tngri burxan ödintä bar ärti bir toyïn tedik yaruq bilgä biliglig keng bilmäklig tüzü tükäl uqmïš ärti üč aγïlïqlarïγ 「迦葉佛時有一苾芻聰明博學俱閑三藏」 2486; yaruq arïγ「明淨」 B887, B897, B902 körgülük önglär körklär yarïmča yaruq arïγ bolmïš täg 「所見色像少分明淨」 B887; čoγ yaruq「光明」 B1200, B1533 ～ yaruq yaltïrïq B1535, B2206, B2212, B2214, tiläp uluγ yruq yaldïrïq-nïng basutlamaqïn temin ök körür 「求大光明助方見」 B1535, öngi qïrtïšï čoγï yalïnï ädgüsi ädrämi savï sözi yaruq-ï yaltrïq-ï ton ditimtä ulatï savlarï 「容貌威德言語光明衣冠等事」 H28V46, cf. yaltïrïq

y.-ï 14, 1042, 1237, B884, B1523, B1526, B1530, B1569, B1671, B1678, H28V46

y.-ïnïng 1042, B1567

y.-ïnlï B1669

y.-ïnga 14

y.-lï 282, B1200

y.-lïnïng B1533

y.-nung B1537

yarut-

「照らす」 näng ... angayu tiläp čoγlï yruqlïnïng basutlamaqïn temin ök uyur ärmäz yarud-γalï 「非・・・別求光明助方能照」 B1533, qaltï yruq yula alqu ïraqtaqï yaqïntaqï yarud-γuluq ädlärkä oqsuz tüzü yarud-mïšï täg 「如明燈於諸遠近所照之物無間遍照」 B1544

y.-γalï B1532, B1533

y.-γu 1042

y.-γuluq B1543

y.-maqï B1372

y.-mïš B1524

y.-mïšča B1371

y.-mïšï 1042, B1540, B1544

y.-up 1237

yarutïl-

「照らされる」 kim burxanïγ kün tngrining savlïγ yaruqï üzä yarutïl-mïš-ïγ「諸佛日言光所照」 H40R11

yaš

「涙」「涕涙」 ol balïq äšidü tükätdüktä közindä tolu yaš-ï kölärdi 「彼魚聞已涕涙溢目」 2502

yaš

öz yaš 「壽命」 biz öngrä körtümüz muntaγ osuγluγ tïnlγlarnïng uzun öz-lüg-n yaš-lïγ-ïn ür kеč turmïšïn 「我等曾見如是有情長壽久住」 H28V51, ang'ilki öz yaš-ï učï qïtïγï「一壽命邊際」 H32V65

yaša-

「生きる」 braxmapuroxittaqï tngrilär birlä bir täk bir kalp yaša-yur üčün 「同梵輔天一劫壽故」 H35V55

yašar-

ün- yašar- 「生える」 ösgän yaγmur näčä tüzütä yaγsar qudulsar ymä uruγsuz qolunga ün-mäz yašar-maz 「甘雨雖普降無種芽不生」 1272

yaše

< Skt. yaśa 耶舍（人名） üčünč tngri burxan oqïmaq uγrïnta kälmišing ädgü toyïn tep qaltï yaše-ta ulatïlarnïng ärür「三由佛命善來苾芻謂耶舍等」 H32V41

yašïl

「緑」 qaltï urtuqda yašïl burčaqïγ qara burčaqlïγ yükmäktä 「如置綠豆烏豆聚中」 H36V6

yašuq

yaruq yašuq 「明るい」「明」「光明」 67, 3118, 3121, 3123, B278, B848, B852, B853, B1535, B1723, B2111, B2120, B2125, B2158, B2161 iši küdüki yaruq yašuq yti sikiz üčün sözlämiš ol köznüng adï bolur körüm tep 「用明利故說眼名見」 B853, qarangyuta küsäsär tiläyür üčün yruq yašuq-uγ 「闇中欲見求光明故」 B1531

y.-uγ yaruq y.-uγ B1531

yat-

「眠る」 körüm turup anda eyin üklip yad-ur üčün ymä ök adï ol üč bolmaq tep 「見住其中隨增眠故亦名三有」 4470, yetinč yat-maq olurmaq etïz keng etiglig körklä orunluqlarta orunlarta 「七眠坐高廣嚴麗床座」 H30V43

y.-ïp 4547

y.-ur 4470, 4545, 4553

yatdačï

eyin yatdačï 「隨眠」 ämgäkig körmäk üzäkisi tarïqu tükätdüktä adïn qamaγta yorïdačï eyin yatdačï-lar ulatï öngdünki bölüklügi tarïqu tükätdüktä「於見苦已斷餘遍行隨眠及前品已斷」 3275, ol anta sözlämiš üčün beš ažunlar alqu eyin yatdačï-larnïng eyin ükligülüki ärür 「彼說五趣一切隨眠所隨增故」 H28R33; säkiz on säkiz yatdačï-lar 「八十八隨眠」 B559, B573, B615

y.-lar 48, 3276, B559, B573, B579, B580, B615

y.-larï 3253, 3254

yaval-

「伏する」 körülür üčün kičig yruqnung uluγï üzä yaval-γuluq bolmïšï 「現見小明大所伏故」 B1537; turul- yaval-「調伏する」 inčip täk yegin tuda sözlämiš täg turul-mïš yaval-mïš köngüllüg 「而但就勝說調伏心」 B78

y.-γalï turul-γalï y.-γalï 867

y.-γuluq B1537

y.-maq turul-maq y.-maq B8
y.-mïš turul-mïš y.-mïš B78

yavaltur-
turultur- yavaltur- 「調伏させる」「調伏する」 alqu köngültäki nomlarïγ näčä ymä ök turuldur-sar yavaldur-sar ymä 「諸心所雖亦調伏」 B77; ut-yavaltur- 「降伏させる」
y.-γalï turultur-γalï y.-γalï B10
y.-γuluq turultur-γuluq y.-γuluq B3
y.-maz turultur-maz y.-maz 868
y.-mïš ut-mïš y.-mïš 524
y.-sar turultur-sar y.-sar B77, B182, B183

yavïz
「惡い」 B1967; yavïz öd 「惡時」 294, 1578, kenki yavïz ödtäki kenki bošyudčï tïdsïlar 294, birök yavïz tarïγlayta näčä bušï bersär ymä täk tartyu krgäk sävigsiz tüšüg 「若於惡田雖施但應招非愛果」 H35R12

yavlaq
「惡」 üč yavlaq yol 「三惡趣」 306, 310, 312, 314, 315, 317 birök körsär tört kerdülärig üč yavlaq yol-ta bulur bilmädin öčmäkig 314

yaz-
「犯す」 uyur kntü özi tïtïnïp tudunup kim yaz-mayalï čxšaptïγ 「能自制持令不犯戒」 H29R8, ken birök tušsar alqu čxšapt yaz-yuluq tïltaylarqa 「以後若遇諸犯戒緣」 H33V11
y.-ar H33V49
y.-mayalï H33V13
y.-maq H29R11

yazuq
「罪」 tïtar üčün alqu töz üzäki yazuq-uγ 「爲防諸性罪」 H33V41, bular törtägü öngi üdürur üčün töz üzäki yazuq-tïn「由此四種離性罪故」H33V45
y.-uγ H33V59

yäk
「鬼」 alqu tngrilär yäk-lär asureta ulatïlar 1422

yämä (ymä)
ymä (ök) 「また」「・・も」 13, 46, 61, 98, 114, 114, 115, 115, 168, 170, 172, 175, 177, 189, 210, 223, 228, 230, 231, 243, 248, 272, 275, 288, 291, 328, 330, 332, 360, 361, 369, 400, 401, 413, 423, 428, 428, 440, 440, 510, 512, 516, 521, 540, 540, 541, 542, 553, 557, 574, 578, 579, 589, 593, 594, 595, 595, 600, 601, 612, 623, 630, 652, 657, 662, 664, 684, 717, 726, 726, 746, 747, 757, 767, 768, 777, 787, 796, 799, 799, 800, 804, 809, 816, 816, 821, 825, 834, 835, 839, 844, 855, 863, 864, 867, 869, 887, 930, 937, 942, 956, 959, 966, 968, 974, 979, 982, 983, 990, 991, 997, 998, 1006, 1010, 1013, 1015, 1015, 1017, 1042, etc., B4, B25, B34, B59, B73, B77, B78, B79, B86, B93, B95, B101, B101, B108, B115, B116, B121, B126, B133, B134, B136, B146, B157, B159, B163, B168, B171, B171, B178, B181, B182, B183, B189, B190, B198, B203, B203, B212, B213, B223, B230, B232, B249, B268, B268, B273, B286, B297, B306, B307, B312, B320, B324, B325, B326, B328, B343, B347, B370, etc. kengürü yrlïqamïš ol ulatï biligig ymä ančulayu oq 「廣說乃至識亦如是」（亦） 2865, qaltï bay boldačï ädining ülgüsi eyin baytïn öngi üdrülmäklig ädi ymä ök anday oq ärür 「謂隨繫事暈離繫事亦爾」 3371, bu alqu bilgä biliglär šasdrlar ärür üčün anïng yevigi tizigi ymä ök bulmïš ol abidarim tegüči adïγ「此諸慧論是彼資糧故亦得名阿毘達磨」 1693, kkirlig yrlïysïz köngül ymä anday oq ärür「染汚無記心亦如是」（又） B93; nä ymä 「ともあれ」「ともかく」 98, 423, B108, B126, etc. see nä; azuča ymä 「或は」～ azu ymä see azuča/azu; -sar/-sär ymä（讓歩文構成） 61, 232, 272, 328, 360, 746, 776, B34, B86, B133, etc.
ösgän yaγmur näčä tüzütä yaγ-sar qudul-sar ymä uruysuz qolunga ünmäz yašarmaz 「甘雨雖普降無種芽不生」 1272, öčmäkli yollï kertülärig

adqanïp alqu aqïγlar näčä tuγ-sar ymä inčip eyin üklimäz üčün anïn aqïγlïγ tedmäz 「緣滅道諦諸漏雖生而不隨增故非有漏」 2824, sorïnčan taš näčä u-sar ymä qapγalï tägmäzkänki tämürüg qayu tïldayïn umaz tüzü qapγalï alqu tägmäzkänki tämürüg 「如何磁石吸不至鐵非吸一切不至鐵耶」 B1620; 又....ymä ter 「又・・・・ともいう」 （訂正文） 4, 16, 18, 31, 56, 57, 68, 71, 75, 111, 161, 185, 210, 342, 361, 529, 816, 828, 992, 890, 943, 1081, 1082, 1302, 1307, 1314, 1344, 1419, 1542, 1546, 1567, 1580, 1912, 1918, 2066, 2104, 2132, 2397, 2458, 2540, 2541, 2580, 2598, 2626, 2765, 2930, 3461, 3513, 3660, 4028, 4233, 4585, B113, B925, B1538, B1631, B1695, B1796, B1901, B2122, B2208, B2375, etc. asïγlïγ tusuluγ qïlγu üčün tïnlγlarïγ 又 asïγ tusu qïlγu üčün tïnlγlarqa ymä ter 16

yänä

「又」「亦」「復」 131, 176, 205, 233, 273, 309, 320, 326, 335, 347, 369, 369, 381, 513, 526, 528, 557, 570, 579, 580, 588, 601, 647, 655, 657, 663, 682, 683, 693, 701, 708, 720, 727, 732, 756, 780, 803, 836, 840, 850, 959, 975, 981, 1013, 1053, 1054, 1070, 1078, 1109, 1116, 1119, 1232, 1271, 1279, 1338, 1403, 1729, 1750, 1777, 1861, 1875, 1908, 1924, 1946, 1947, 1957, 1958, 1961, 1967, 1970, 1977, 1986, 2023, 2033, 2088, 2131, 2136, 2163, 2235, 2235, 2241, 2241, 2248, 2275, 2287, 2292, 2319, 2327, 2342, 2351, 2374, 2381, 2389, 2410, 2436, 2443, 2448, 2451, 2510, 2513, 2517, 2527, 2551, 2568, 2575, 2575, 2609, etc., B6, B9, B44, B49, B49, B53, B57, B63, B84, B85, B100, B126, B131, B134, B136, B141, B141, B147, B157, B192, B193, B198, B201, B237, B248, B270, B320, B443, B486, B510, B510, B580, B623, B656, B664, B666, B672, B672, B684, B713, B791, B876, B925, B925, B978, B0670, B1033, B1042, B1086, B1089, B1103, B1113, B1116, B1119, B1121, B1133, B1146, B1151, B1190, etc. yänä čodake sözlär taqï ymä bar adïn qavïra 「又問更有餘略」 2658, yänä ymä alqu ediglig nomlar ärsär qaltï öngdä ulatï beš yükmäklär ärür 「又諸有爲法謂色等五蘊」 3879, yänä ymä yänä birök täk sözläp öz tep 「又復若但言自」 369, yänä köngül yarïmča ärür ärsär män andaγqa tayaq 「又心少分是我執依」 B53, yänä išlädürlär asïγlïγ mängilig qïlγalï alqu tïnlγlarïγ 「復因利樂諸有情」 1070, näčä yänä köngül birlä bir tuymaqlïγ turmaqlïγ ulatï ärsär ymä 「雖復與心一生住等」 B85, ymä ök yänä tägimlig ärmäz adaγalï körmäksiz tep 「亦復不應名無見者」 B1119; birlä yänä 「並びに」「併せて」 528, 570, 580, 588, 647, 2291, B131, B147, B713, etc. see birlä

ye-

「食べる」 ol balïq köngülindä tuγurup ökünmäk qïnanmaqïγ ikiläyü ičmädin ye-mätin 「其魚生悔更不飲噉」 2504, säkizinč ödsüz aš ye-mäk ärür 「八食非時食」 H30V44

y.-gäli H34V47

yeg

「勝れた」 51, 217, 247, 1103, 1633, 1659, 1798, 1815, 1828, 1828, 1831, 1832, 1832, 1835, 1837, 1837, 1838, 1843, 1844, 1845, 1848, 1849, 1853, 1854, 1854, 1857, 1869, 1929, 1931, 1935, 1935, 1937, 1938, 1939, 2621, 2645, 3354, 3534, B601, B1333, B1795, B1805, B2100, B2124 tudulurlar üčün andaqï yeg yörüglär angar ymä tayaqlïγ üčün 「攝彼勝義依彼故」 247, tayaqïnïng yeg-i uladï qamaγlïγsïz tïldaγ bolmaqïnïng uγurïnta 「由所依勝及不共因故」 B2175, yeg-in tegüči sav üzä uqïtur yeg-in tuta qïlmïš savïγ 「勝言爲顯就勝爲言」 H35V35,36; yeg ayaγuluγ 「尊高」 77, 81, 84, 127, 142, 144, 150, 154, 155, 163, 166, 168, 173, 222, 410, 411, 428, 440, 529 uqïdyalïr üčün öz baxšïsïnïng anïng ät'özining yeg ayaγuluγ ärtüki üzä ärtmišin ašmïšïn alqu tüzünlär quvrayïnda 「爲顯自師其體尊高超諸聖衆」 77; yeg adruq 「殊勝」「勝れた」 164, 184, 192, 196, 198, 198, 198, 199, 239, 256, 418, 1032, 1391, 1597, 1602, 1639,

1645, 1664, 1834, 1841, 1843, 1949, 2038, 2041, 2052, 2096, 2226, 2292, 3047, B185, B860, B1005, B1006, B1010, B1018, B1272, B2100, B2124, B2360, H32R8 vinaytaqï ulatï sudurtaqï ol bolur yeg adruq 「於律及經彼爲殊勝」 2226, odyuraq yoq ärür adïn alqu nizvanïlarïγ taryardačï yeg adruq al alday 「定無餘能滅諸惑勝方便」 2038, odungnung küčingä tayaqïïγïn yeg aduruq išlig oot tuγmïšï täg 「如依薪力勝用火生」 B1006; qamaγ-ta yeg 「最勝」 208, 219, 420; yeg soγančïγ 「勝妙」 「妙」 322, 1365, 1405, 1936, 1949, H27R25,27; yeg qodïqï 「階降」 3450, B2098, B2192
y.-i 208, 3450, B2095, B2098, B2175
y.-in 2624, B78, B182

yegäd-
「勝る」 adïn qavïra nomlar umaz yegäd-gäli bu aqïγlïγ aqïγsïzta 2667

yegirmi
(ygrmy) 「十」 bir ygrmi 「十一」 2325; iki ygrmi 「十二」 596, 596, 1206, 1207, 2324, 2338, 2442, 3031, 3207, B283; beš ygrmi 「十五」 B543, B548, B808 bu beš ygrmi uyušlar odyuraq bïšrunmaqta taryaryuluq 「此十五界唯修所斷」 B543; altï ygrmi 「十六」 3320; yeti ygrmi 「十七」 B362; säkiz ygrmi 「十八」 2189, 2397, 2491, 3989, 4013, 4015, 4017, B264, B280, B336, B1376 anïng ät'özi keng uluγ säkiz ygrmi bašlïγ tüzü tükäl tägindi alqu ämgäklärig 「其形甚大有十八頭俱受衆苦」 2491

yeel
「風」 4292, B1763, B1763, B1801, B1803, B1803, B1806, B1808, B1808, B2154 tïnlγlarnïng barča yer suv oot yeel kök qalïq tïldayïnda büdär ät'özlări 4292, bar yeel sačdačï bar yeel büdürtäči B1763; yeel ig 「風病」 2818; yeel tilgän-i 「風輪」 3166, 3167; yeel uyuš-ï 「風界」 B1759, B1761

yemir-
「破壞する」 yeel uyušïnïng ïyačïγ sïmïšï ävig yemir-miši B1760

yemiš
tüš yemiš 「果實」 qaltï xualïγ čäčäklig tüš-lüg yemiš-lig sögüd temiš täg 「如花果樹」 4339
y.-ig tüš y.-ig 4405
y.-lig tüš-lüg y.-lig 4339, 4404, 4406

yemišlik
yemišlik arïγ 「園」 ikinti tapïnyu udunyu üčün törttin yïngaqtïnqï bursanglarqa qïlïp sangram buší bersär yemišlik arïγ tört türlüg tapïγïn tapïnsar udunsar 「二爲供養四方僧伽造寺施園四事供給」 H35V44

yemril-
「破壞される」 qaltï tamta ulatïlar yemril-sär tüš-sär kök qalïq yänä közünür 3152

yenik
「輕」 1330, 2556, 2565 tiltäki qïlïnč üzä ängidmäk töngidmäk yenik ärür 「口業低屈者輕」 1330

yeniklä-
yeniklä- učuzla- 「輕侮する」 ödrü turyuryaylar ärti yeniklä-mäk učuzla-maqïγ 240

yer
「地」 3162, 3164, 4291 tïnlγlarnïng barča yer suv oot yeel kök qalïq tïldayïnda büdär ät'özlări 4291; tngri yer-i 「天界」「天上」 munung tïldayïnda ölüp tuγdï tngri yer-indä 「因茲命終生於天上」 2504
y.-indä tngri y.-indä 1978, 1979, 1982, 2504, 4368, 4370, B9, B12, H35V33

yer-
yer- yïrt- 「裂く」 yumγïyun yïγïlïp yer-är yïrd-ar

osuγluγ qïlunur sizlär kök qalïqqa B1382

yersigsiz
「異端」
y.-ig B763

yertinčü
「世間」「世」「世界」 922, 2039, 2100, 4157, 4305, 4383, 4468, 4474, 4522, 4525, 4527, 4527, 4529, 4530, 4532, 4534, 4535, 4536, 4539, B1336
nizvanïlar uγurïnda yerdinčü qalngulayur bolmaqlïγ taluyta 「由惑世間漂有海」 2039, yertinčü-lüg köni körüm ärsär qaltï köngül bilig birlä yaradïlmïš ädgü aqïγlïγ yeg atruq bilgä bilig 「世間正見謂意識相應善有漏勝慧」 B859, säning anang tuγup turmïš ärür mariči yerdinčü-tä 「汝母生在摩利子世界」 922; yertinčü-täkilär「世間のもの」「世俗のもの」 bu beš türlüg nomluγ bilgülük adqanγularïγ yerdinčü-täkilär barča bilmäzlär 「於此五法所知境中世皆不了」 617, küsämiš üčün kim yerdinčü-täkilärkä bulduryalï nom adïrtlamaqïγ 「欲令世間得擇法故」 2070, eyin bolγalïr üčün yertinčü-täkilärning köngülingä yïlayusïnča üklidip savïγ sözlämiš ol köznüng adï bolur kördäči biligning adï bolur bildäči tep 「爲順世情假興言說眼名能見識名能了」 B1397; tïnlγ yertinčü 「有情世間」 38; idiš yertinčü 「器世間」 39; üč mïnglïγ yertinčü 「三千世界」「三千界」 917, 923, 925; on bulung yïngaq yertinčülär 「十方世界」 1042; ämgäk tergin yertinčü 「苦集世間」 4157, 4305; yertinčü-lügtä yeg nom「世第一法」 B601 nä üčün täk sözlädi yertinčü-lügdä yeg nom-nung basasïnta yintäm tuγar ämgäktä nom bilgä bilig taplaγ tuγmaz adïn nomlar 「何故但言世第一法無間唯生苦法智忍不生餘法」 H26R12
y.-g 843, 1237, 2043, 2054
y.-kä 4542; yertinčü-kä B1109, B1147
y.-lär 41
y.-lärig 1042
y.-lüg 4121, B855, B859, B887, B1254, B1290
y.-lügtä 1798, B601
y.-nüng 38, 4541
y.-tä 39, 917, 922, 923, 925, 1159, 1160, 1273, 2341, 2361, 2492, 2627, 2631
y.-täki 599, 1194, 1430, 4428, B1122, B1148
y.-täkilär 397, 617, B1109, B1150, B1243, B1322, B1337, B1341
y.-täkilärkä 818, 2070, 2078, 3332, B851
y.-täkilärning 2049, 2531, B1332, B1335, B1397, B1404

yet-
「及ぶ」「至る」 bilgä bilig adqanïp yet-mäz üčün 943, ämgäk tägin-mäk yet-düktä ät'özlärin 4478
y.-düktä 4478
y.-gülük B1617
y.-mägülük 943(note)
y.-mišinčä 14

yetgür-
「及ばせる」 ävrip buši bermišning buyanï üzä yedgür-ürlär öz asïγïn 「廻施之福及利己」 1069

yeti
「七」 3272, 3504, azuča ymä beš altï yeti säkiz bölüklüg nizvanïlarïγ 3272; yeti ygrmi「十七」B362

yetigü
「七」(集合) olar yetigü qayu ol 「其七者何」 H28V13
t.-nüng H29V6

yetinč
「第七」 563, 3284, 3287, 4575, H30R29 yetinč ta vibakdi üzä yörmiš kärgäk 3287

yeväš-
「資する」
y.-ip B132, B134, B139 ymä ök yänä bir ikintikä yeväš-ip B134

yevig

「具」 uzatï ät'özin edtür yevig-ligig otyuraq krgäk ärmäz titgäli 「常嚴身具不必須捨」 33V20; yevig tizig 「資糧」 388, 456, 457, 458, 461, 462, 465, 468, 633, 637, 1169, 1171, 1772, 1904, 1907, 1908, 1913, 1915 bu alqu bilgä biliglär šasdrlar ärür üčün anïng yevig-i tizig-i ymä ök bulmïš o: abidarim tegüči adïγ 「此諸慧論是彼資糧故亦得名阿毘達磨」 1693

y.-i y.-i tizig-i 1693, 1763

y.-ining y.-ining tizig-ining 2292

yevin-

「資糧とする」「充す」 bodistvlarnïng tanqarïγï küsüši ymä ök yalnguzïn yevinür ärmäz 1060

y.-mäz 1060

y.-ür 45

yeviš

yeviš basut 「助け」「補充」 yol kerdüg öngi kedärip adïn ediglig nomlar ymä ök uyur yeviš basud bolγalï 2705

ygrmi see yegirmi

yïd

「香」「薫」 3624, 3637, 3639, B416, B440, B450, B454, B1715 adïn öng ün yïd tadïγta ulatïlar ärdär 「餘色聲香味等謝」 3624, alïp yït-ïγ bäkiz bälgülüg bilmäk uyurïnta tängläp bilir adïrtïn 「取香明了比知差別」 B1581, näng yït-ta ulatïlar burunta ulatï ärkliglärkä yaqïn bolmïš täg ärmäz 「非如香等隣鼻等根」 B1691, burun biligingä birlä yaratïlmïš nomlarqa alqu yïd 「鼻識相應以一切香」 H26V5; yïd yuq 「習氣」「薫習」 631, 634, 646, 647, 648, 649, 652, 708, 715, 716, 841, 847, 966, 981, 1006, 1008, 1017, 1018 näčä tarïqsar ymä nïzvanïlar yïd-ï yuq-ï anïlayu oq qalïr üčün 634; yïd tan 「香」 1014, 1015 qaltï yït-lïγ tan-lïγ xuaγ küncit yayïnga šïmladuqta 1014; yïd yïpar 「香」 qaltï öngdünki säkizägütä yïd yïpar türtünmäk bäzäk üzä etinmäk bötimäk ïrlamaq körmäk tïnglamaqïγ adïrïp iki türlüg 「謂於前八塗飾香璧舞歌觀聽開爲二種」 H30V49

y.-ï 634, 646, 647. 652, 847, 1015, 1017

y.-ïγ B1581, B1706, B1709

y.-ïn 841, B1713

y.-ïnïng 631

y.-nïng B1579, B1704

y.-lï B2409, H27V11

y.-lïγ 1014, y.-lïγ yïpar.-lïγ 1014

y.-qa B1714

y.-ta B448, B457, B1691, B1712

yïdï-

「(香を) 嗅ぐ」「薫る」

y.-yur 1019

yïdla-

「(香を) 嗅ぐ」 tïn üzülmiš ödtä yïdla-maz üčün 「由斷息時不嗅香故」 B1710

y.-maq B985

y.-maz B1710, B1715

y.-sar B452

yïdyuq

「習氣」「薫習」 966, cf. yïd

yïγ

< ? Chin.域 bulung yïngaq yïγ-lïγ savta B1404

yïγ-

「集める」 qaltï ayaγqa tägimlig tarmadirate baxšï nä ymä yïγ-mïš täg anityadavargta ulatïlarïγ udan šlok üzä 「猶如大德法救所集無常品等鄔陀南頌」 2129, uyur üčün yïγ-yalï qamaγ ämgäk-lig 「能集衆苦故」 H36V14; ävdi- yïγ- 「收集する」 2146, 2238, 2151, 2157; yïγ- tušyur- 「集會する」 2069; yïγ- ter-「積集する」 kimlär yïγ-masar

ter-mäsär 若不積集」1168; tägin- yïγ-「受畜する」 yänä üsdäsär tägin-mäk yïγ-maqïγ altun kümüš ulatï ärdinilärig onunčluγï ärür「復加受畜金銀等寶以爲第十」H30V51
y.-ïp 2143, 2146, 2155, 2238
y.-maq 2069, 2151, 2153, 2157
y.-masar 1168
y.-mïš 2129, 2139

yïγïl-
「集められる」 nädägin yumγïγun yïγïl-ïp「如何共聚」B1382; yïγïl- teril-「聚集される」 qamaγ basudčïlar yïγïl-ïp teril-ip yumïdmaqïndïn bolmïš üčün「衆緣聚集共所作故」3888; kizläl-yïγïl-「隱積される」 kizläl-miš yïγïl-mïš qurulmïš kävilmiš üčün「隱積損伏故」3886
y.-duqta 4293
y.-ïp B1382; y.-ïp teril-ip 3888, 3909
y.-maduq y.-maduq teril-mädük 178
y.-maq y.-maq teril-mäk 3914, 4510, B468, B1774, B1995, B1997
y.-mïš B1793, y.-mïš teril-miš 3917, 4325, B1740, B1774, B1777, B1858, B1860, B1863, B1870, kizläl-miš y.-mïš 3886
y.-ur y.-ur teril-ür 3910, B1997

yïγïn-
「攝する」 kimlär köngülin yïγïn-sarlar「若攝心者」59

yïγïnmaq
「律儀」 ät'öz üzä yïγïnmaq ädgü ärür ädgü ärür til üzä yïγïnmaq köngül üzä yïγïnmaq ädgü ärür ädgü ärür tolptïn yïγïnmaq「身律儀善哉善哉語律儀意律儀善哉善哉遍律儀」H31V3,4,5

yïγïnyaq
yïγïnyaq-lïγ orun「定地」(dhyāna-bhūmi) qaltï tütädmäk ögrätinmäk ärür köngülüg nätägin tep tesär yïγïnyaq-lïγ orun-taqï ädgü köngüllüg käzigig artuqraq uyur üčün tütidip kim bütürgäli ädgü tözlüg「謂重習心以定地善於心相續極能重習合成德類」H35V25

yïγïnča
「適切に」 174, 4465; yïγïnča yaraγïnča「適切に」「任せて」 3436, 3442 turγurzun yïγïnča yaraγïnča yöründäkin「起任對治」 3436

yïlayu
「假」「世俗」 1956, 3262, B24, B50, B127, B169, B2117; yïlayu bilgä bilig「世俗智」955, 998, 2455; yïlayu uyuš「世俗界」1670; yïlayu abidarim「世俗阿毘達磨」「世俗對法」1684, 1686, 1891, 1892, 1903, 1908, 1910 birök sözläsär yïlayu abidarim-ïγ「若說世俗阿毘達磨」1686; yïlayu at「假名」3394; yïlayu män köngül「假我心」B42, B50
y.-sï 1895, 1957
y.-sïnïng 1899
y.-sïnga 1903

yïlayusïnča
「假に」 2997, B16, B56, B145, B155, B164, B1398, B1407 yïlayusïnča sözlämiš ol bolur män tep「假說爲我」B16, eyin bolγalïr üčün yertinčütäkilärning köngülingä yïlayusïnča üklidip savïγ sözlämiš ol「爲順世情假興言說」B1398

yïlqï
「傍生」(畜生) H28R9 qaltï öngdün sözlägüči tamu yïlqï pret ulatï yalngüq tngri bularnïng adï bolur beš ažunlar tep「謂前所說地獄傍生鬼及人天是名五趣」H27V52
y.-ta H28R14

yïltïz
「根」 yïltïz-ï ulunï butïqï yapïrγaqï ančan ančan eyin käzigčä ükliyü etilü「根莖枝葉漸次增榮」H25R50; ädgülüg yïltïz「善根」 178, 907, 910,

1244, B631 ～ ädgü yiltïz 1265, B635, H33V34 bu kišitä bilip yoqïn ävtin barqtïn üngülük ädgülüg yïldïz-ï ärü ärü taplamatï ävtin barqtïn üngüsin 「此人無出家善根遂不許」 907; töz yiltïz 「根本」 2007, 1249; yiltïz tayaq 「根本依」 B628
y.-ï 178, 907, 1244, 1249, 2007, B628, B631, B635
y.-ïγ 1265, H29V59
y.-ïnïng 910

yïngaq
「方」 öngdün yïngaq 「東方」 B1878; kedin yïngaq 「西方」 B1879; kündün yïngaq 「南方」 B1879; taytïn yïngaq 「北方」 B1879; üstün yïngaq 「上方」 B1880; altïn yïngaq 「下方」 B1880; bulung yïngaq 「方」「方維」「方隅」 2479, B1164, B1573, B1580 inčä qaltï yula yaruqï ïraq yaqïn iki bulung yïngaq-larqa birgärü tägip 「譬如明燈遠近二方俱至」 B1524, köz qulyaq kördüktä äšidtüktä ïraq yaqïn bulung yïngaq-taqïn 「眼耳見聞方維遠近」 B1583; on bulung yïngaq yertinčülär 「十方世界」 1042; bulung yïngaq yïγ 「方域」 B1404; bulung yïngaq ülüš 「方分」 B1740, B1742, B1775, B1776, B1876, B1877, B1878, B1882
y.-ï bulung-ï y.-ï 3202, 3204, B21, B25, B1468, B1472
y.-lar bulung y.-lar H27V33
y.-larïγ bulung y.-larïγ 1042
y.-larqa bulung y.-larqa B1524
y.-larta bulung y.-larta B1518
y.-lïγ bulung-luγ y.-lïγ B1644, B1645
y.-taqï bulung y.-taqï B1402, B1575, B1579
y.-taqïsï bulung y.-taqïsï H27V29
y.-taqïn bulung y.-taqïn B1583
y.-tïn bulung y.-tïn H27V27

yïpar
yïd yïpar 「香」 1014, H30V41,49, see yïd

yïq
uγur-ï yïq-ï ... -γuluq/-gülük 「・・す容き場合/機會/こと」 see uγur; ooq yïq 「間隙」 birök sözläsär alqu parmanularnïng büdün yoq ärip ooq-ï yïq-ï inčip bir ikintikä qadïlïšmaz tep 「若說諸微全無間隙然不相雜」 B1846
y.-ï uγur-ï y.-ï ... -γuluq/-gülük 274, 689, 691, 758, 791, 1159, 1173, 1412, 2061, 3675, B450, B784, B787, B980, B1131, B1563, B1564; ooq-ï y.-ï B1846

yïqïlïn-
yïqïlïn- käl- 「沒來する」 ol tngri yerintin yïqïlïn-ïp käl-ip tuγmïš üčün munta 「從彼天沒來生此故」 H28V58

yïrt-
yer- yïrt- 「裂く」 yumγïγun yïγïlïp yer-är yïrd-ar osuγluγ qïlunur sizlär kök qalïqqa B1382

yinčgä
「細かい」「微細」 977, B1163, B1799, B2357
ol kišitä qudrulmaqlïγ uruγïnïng män kördüm ärdä yinčgä-sin 「彼人解脫種我觀極微細」 913, bu ikiläyü yinčgä üčün sözlämiš ol yinčgä-tä yinčgä tep 「此更微細故曰微微」 H39V39,40; yinčgä saqïnč 「伺」 B61, B161, B170, B2348 alqu barča yoγun saqïnč-lïγ yinčgä saqïnč-lïγ bolγu kärgäk 「一切應成有尋有伺」 B61, yoγun saqïnč-lïγ yinčgä saqïnč-lïγ dyanta ulatïlarta 「有尋有伺三摩地等」 H25R56; yoγun yinčgä saqïnč 「尋伺」 B160, B2350 azuča ymä yarïmča köngül yoγun yinčgä saqïnč-(qa) tayaq bolur üčün 「或少分心尋伺依故」 B160
y.-sin 913

yinčgäkyä
「細かい」 qaltï yinčgäkyä uruγtïn törüp niyagrot sögüt 「如細種生諾瞿陀樹」 H25R49

yinčgälä-

「伺う」 munda birök yinčgälä-yü sczik qïlïp sözlädüktä B836; yinčgälä-yü bil- 「察知する」; yinčgälä-yü sïnan- 「分析する」

y.-yü 134, 3088, B746, B836, B842; y.-yü bil- 342; y.-yü sïnan-u 483

yinčür-

「お辭儀する」 yinčür-ü töpün yükün-「稽首する」 yinčür-ü töpün yükün-ürmän adï ködrülmišlig qamaγ ädgülüg taγ-qa「稽首薄伽衆德山」9; yinčür- istä-「推度する」「決度する」「披閱する」 öngsüz nomlarta uγurï yaruq yašuq yti sikiz adqanγu uγušuγ yinčür-däči isdä-täči「無色法中行相明利推度境界」B848, olar ašnu ödtä kntü özläri yinčür-mäk istä-mäk uγrïnta sudurta ulatï nomlarïγ「彼於先時由自披閱契經等法」H38V69; saqïn- yinčür-「思量する」; yinčür-ü saqïn-「尋思する」 muntaγ osuγluγ yörügüg yumγïγun yinčür-ü saqïn-mïšïngïzlar krgäk「一晝夜故於如是義應共尋思」H33R16

y.-däči y.-däči istä-täči B848, B938, B953, B954, B959, B962

y.-gäli y.-gäli istä-gäli B943

y.-mäk B935; y.-mäk istä-mäk B957, B958; sqïn-maq y.-mäk 1405

y.-miš y.-miš istä-miš 1983

y.-ü y.-ü töpün yükün- 9, 10, 11, 1301, 1313, 1323, 1335

y.-ür y.-ür istä-yür B938

yindäm

yindäm...(oq/ök) 「唯」 yynd'm 30, 160, 278, 498, 551, 553, 556, 565, 566, 573, 582, 584, 608, 617, 625, 635, 639, 655, 718, 721, 749, 785, 788, 805, 806, 822, 893, 938, 1047, 1151, 1163, 1332, 1388, 1411, 1449, 1451, 1456, 1598, 1626, 1649, 1750, 1803, 1815, 1828, 1848, 2051, 2229, 2242, 2270, 2271, 2310, 2323, 2356, 2370, 2526, 2599, 2601, 2608, 2610, 2618, 2637, 2641, 2650, 2652, 2661, 2668, 2682, 2714, 2719, 2723, 2974, 2992, 2995, 3023, 3034, 3087, 3201, 3205, 3237, 3329, 3388, 3474, 3483, 3531, 3532, 3565, 3603, 3656, 3694, 3699, 3709, 3765, 3768, 3777, 3778, 3779, 3782, 3813, 3839, 4000, 4013, 4034, 4042, 4069, 4093, 4141, 4152, 4158, 4166, 4308, 4327, 4332, 4451, 4457, 4476, 4492, 4541, 4566, B600, B1192, B2390, yynt'm B47, B184, B185, B186, B199, B231, B259, B260, B286, B287, B288, B290, B305, B354, B410, B460, B535, B542, B544, B544, B545, B546, B546, B547, B549, B566, B615, B633, B716, B809, B832, B846, B847, B919, B959, B990, B1025, B1060, B1266, B1282, B1294, B1297, B1386, B1391, B1503, B1507, B1550, B1570, B1572, B1600, B1604, B1616, B1697, B1698, B1701, B1709, B1715, B1894, B1995, B2003, B2006, B2007, B2012, B2014, B2024, B2027, B2032, B2091, B2201, B2210, B2224, B2306, B2339, B2343, B2344, B2347, B2408, B2410, B2412, H25V1,5,9, yindäm burxan adï ködrülmišlär ök bulu yrlïqap birdämlig yörüntäkin 「唯佛世尊得永對治」 608, qayu yeg yörüglüg nom ärsär yindäm ärür nirvan 「若勝義法唯是涅槃」 1815, yindäm abidarim aγïlïqïγ yörüg eyin sanggit qïlmïš ol 「唯對法藏隨義結集」 2229, edigsiz yindäm yörüg ök üčün anïn sav tayaqï ärmäz tep 「無爲唯義故非言依」 4069, alqu nomlarta yintäm iki türlüg nomlar oq ärür körümnüng tözi「一切法中唯有二法是見自體」 B846, yintäm közkä tayaqlïγ bilig körür adïnï ärmäz「唯依眼識見非餘」 B1060, nädägin bolur bilgäli burunnung yintäm aldačïsïn tägmištäki yïdïγ 「如何知鼻唯取至香」 B1709

yip

「繩」 3394, bu sansar ärsär qaltï yip-kä oxšadï ärür 1859

y.-ig 1861

y.-kä 1859

yiti

(yty yyty) 「利」 yti sikiz 「利」 yaruq yašuq yti

sikiz「明利」 B848, B853, B2159, B2161 öngsüz nomlarta uyurï yaruq yašuq yti sikiz adqanγu uγušuy yinčürdäči isdätäči 「無色法中行相明利推度境界」B848; yiti ärklig「利根」 3854; tümgä yiti「鈍利」 ärkliglärning tümgä-li yiti-li bolmaq uγrïnta adrïlïp「由根鈍利別」 H38V48

yitlin-

「失する」 ang bašlayu turmïš ünüg äšidilmiš tuštaqïsï anïlayu oq turmaq üzä yidlin-ür kšanik tözi「初所起聲聞位猶存失刹那性」 B1677

y.-ür B1677

ymä see yämä

ymu see yamu

yočan

< Skt. yojana「踰繕那」 bolmaz uγurï yïqï munda turup köz ärdip üküš mïng yočan ülgütä täggülük ay tängri tilgänlig adqanγuqa「無容住此眼越多千踰繕那量至月輪境」 B1565

yoγun

「粗い」「麁」「麤」 4200, B1797, B1798, B1800, B1802, B2356, B2367 yoγun öngüg körmäktä「見麁色」 B2356, bir qatïlmïš qavïšmïštïn bolur inčgä yoγun tüš tep tesär yörüg tözingä yaraši bolmaz üčün「從一和合有細麤果不應理故」 H29R24; yoγun saqïnč「尋」 B60, B161 yoγun saqïnč-lïγ yinčgä saqïnčlïγ dyanta ulatïlarta「有尋有伺三摩地等」 H25R56; yoγun yinčgä saqïnč「尋伺」 B59, B160, B170, B2350 azuča ymä yarïmča köngül yoγun yinčgä saqïnč-qa tayaq bolur üčün alqu barča yoγun saqïnčlïγ yinčgä saqïnčlïγ bolγu kärgäk「或少分心尋伺依故一切應成有尋有伺」 B160, B161

yogačare

< Skt. yogācāra「修行」「修行者」「行者」 näčä näčä yogačare-lar ančan ančan ögrädinip bilgä biligig tuγurmaqta「如如行者漸習慧生」 B899, yogačare-lar qayu tïltayïn bïšrunurlar arïγïn qutrulmaqïγ「行者何緣修淨解脫」 H39V60; yogačare-lïγ baxši「瑜伽師」 B1380

y.-lar B899

y.-larqa B1605

y.-lïγ B1380

y.-ta 1442

yol

「道」「趣」「路」 319, 319, 323, 633, 696, 699, 1166, 1167, 1171, 1542, 1681, 1846, 1858, 1883, 1978, 2063, 2679, 2683, 2684, 2686, 2688, 2690, 2701, 2704, 2801, 2928, 2929, 2933, 2934, 2938, 2940, 2943, 2961, 2967, 2969, 2970, 2971, 2971, 2971, 2972, 2975, 2975, 2979, 2992, 3008, 3012, 3015, 3023, 3026, 3091, 3098, 3098, 3294, 3297, 3303, 3304, 3306, 3307, 3308, 3324, 3347, 3352, 3353, 3353, 3356, 3358, 3359, 3360, 3367, 3422, 3562, 3563, 3567, 3579, 3719, 3827, 3876, 3952, 3979, 3980, 4135, 4137, 4150, 4174, 4300, 4376, 4497, 4501, 4505, 4507, 4514, 4517, 4517, 4518, 4520, 4520, 4526, 4533, 4537, 4540, 4542, 4544, 4563, 4564, B170, B586, B649, B717, B717, B729, B824, B832 yangïlur yol-uγ ulatï sezinür yol-ta「迷道及疑道」 1150, yol-uγ öngi kedärip adïn ediglig nomlarnïng munung adï bolur aqïγlïγ tep「除道餘有爲法是名有漏」 3869, yol yintäm öčä turur tušta uyur kim ol tïdïγïn taryaryalï「道唯正滅位能令彼障斷」 B832; üč yavlaq yol「三惡趣」 306, 310, 312, 314; 316, 317; tüzün yol「聖道」 321, 323, 385, 633, 696, 709, 712, 1027, 1148, 1166, B586, B593, B594, H31V49, etc.; säkiz tüzün yol「八聖道」 319, 2628; bïšrunmaq yol「修道」 622, 649, 828, 845, 3271, B523, B530, B778, etc.; köni yol「正道」 1147; tïdïγ yol「障道」 1541; yol kertü「道諦」 2684, 2686, 2690, 2704, 2801, etc. aqïγsïzï ärsär qaltï yol kerdü ärtür「無漏謂道諦」 2688; yol tüzünlär kertü-si「道

聖諦」 3091, 3098; yörüg yol-ï 「理趣」 2915, 2966, 3296, 3723, 3741, B52; ɨokik yol 「世間道」 2968, 2971, 2975, 3297, 3303, 3304, 3307, etc.; aqïγsïz yol 「無漏道」 3308, 3353, 3365; öd yol-ï 「世路」 3880, 3937, 3949, 3956, 3963, 3978, 4269 bu ediglig nomlarnïng ymä ök adï ol öd yol-ï 「此有爲法亦名世路」 3949; atï kötrülmiš yol 「世尊道」 3952; qutrulmaq yol 「解脱道」 4376, B737, B740, B779; körmäk yol 「見道」 B521, B595, B598, B717, B729, B743, etc.; oqsuz yol 「無間道」 B717, B734, H31R58; abipiray-ï yol-ï 「意趣」 B1842, B1845, B1854 yörügi uqulmaduq äčün abipiray-ï yol-ïn alp bolur bilgäli 「理未顯故意趣難知」 B1845

y.-ï 3822, 3824, 3880, 3937, 3949, 3956, 3963, 4269, B52

y.-ïn 1981, 3978, B1842, B1845, B1854

y.-ïnda 3823

y.-ïnga 2915, 2966, 3296, 3723, 3741

y.-lar 1382, B529, B586

y.-larnïng 3832

y.-larta 649, B524, B531

y.-lï 2711, 2712, 2737, 2758, 2761, 2764, 2766, 2768, 2777, 2778, 2787, 2790, 2792, 2793, 2804, 2812, 2816, 2823, 2836, 2837, 2841, 2854

y.-lïγ 2815, 2843, 2845

y.-lïta 2739

y.-luγ 316, 845, 2060, 3629, B778

y.-nïng 306

y.-nung 1027, 1678, 1853, 2697, 2700, B595, B598

y.-qa 1147, 1148, 3360, 3365, 3982, 4184, B737, B740

y.-ta 310, 314, 317, 386, 622, 709, 712, 828, 1150, 1172, 1409, 1840, 2631, 2678, 2692, 2695, 3410, 3436, 3438, 3443, 3539, 3831, 4136, 4181, B521, B523, B530, B639, B734, B743, B779, B785, B789, B799

y.-taqï 1544, 3271, 3322, B747, B752

y.-taqïlar 1383

y.-tïn 312, 318, 3981

y.-uγ 322, 865, 1139, 1147, 1150, 1169, 1170, 1269, 1452, 1541, 1677, 1856, 2452, 2594, 2628, 2674, 2968, 2680, 2696, 2974, 3005, 3410, 3422, 3869, 4188, 4311, B593, B594, B598

yon-

「切る」 bičäk kändü özin yon-mamïš täg B320; toq- yon- 「打ち碎く」 B1760

y.-mamïš B320

y.-up B1760

yoq

「無い」 64, 105, 274, 289, 421, 533, 686, 705, 717, 792, 813, 813, 948, 1159, 1173, 1182, 1184, 1258, 1357, 1385, 1388, 1389, 1412, 1452, 1471, 1852, 1867, 1974, 2037, 2041, 2045, 2050, 2052, 2086, 2095, 2362, 2369, 2445, 2446, 2465, 2482, 2515, 2626, 2634, 2653, 2684, 2693, 2703, 2789, 2888, 2950, 2996, 2997, 3047, 3052, 3143, 3153, 3156, 3195, 3204, 3204, 3380, 3423, 3423, 3432, 3504, 3529, 3533, 3556, 3560, 3566, 3568, 3575, 3685, 3733, 3737, 3739, 3890, 3928, 3941, 3953, 3971, 4084, 4106, 4108, 4117, 4144, 4212, 4263, 4271, 4280, 4290, 4294, 4330, 4419, B21, B21, B24, B33, B52, B271, B858, B904, B940, B1045, B1045, B1071, B1098, B1111, B1116, B1235, B1236, B1313, B1387, B1388, B1394, B1467, B1520, B1846, B1863, B1866, B1877, B1882, B1916, B1959, B1966, B2078, B2079, B2215 bu kišitä bilip yoq-ïn ävtin barqtïn üngülük ädgülüg yïldïzï 「此人無出家善根」 906, män nirvan bolmïšta ken yoq ärür angayu tayaqïngïzlar 「我滅度無別所依」 2362, kälmädük ödkisingä tüdïγ yoq süt täg odung täg 「未來無妨如乳如薪」 3890, inčä qaltï tün ülüšintä ayta ulatïlarnïng yaruq yoq-ïnta 「譬如夜分無月等明」 B879, näng köz biligi yoq oq ärmäz 「非無眼識」 B1111, činkertü yoq ärsär iši küdüki 「實無作用」 B1387; yoq quruγ 「空」 1452, 2653, yoq quruγ sav 「空言」 1388

y.-ïn 906, 2046, 2081, 2084, 2600, 2601, 2977, 3383,

3385

y.-ïndïn 3104

y.-ïnïng 46, 3159

y.-ïnta B879, B2214

yoqad-

「無くなる」 pardakčan tözi yoqad-u tükädür B819, näng ol täk öngnüng yoqad-maqï tözlüg ärmäz 「非彼但用色無爲體」 H27R13

y.-maq 1500

y.-u B819, B821

y.-ur 1500

y.-urïn 1500

yoqadtur-

「無くす」 čïnïnča kertüsinčä bilür uqar mn yoqadtur-dum ičtin sïngarqï köz qošuyuy tep 「如實了知我無內眼結」 B681

y.-dum B681

y.-maq 398

y.-sar H38R33

y.-tuqta B679

y.-zunlar 194

yoqaru

「上」「以上」 B889, B1114, B2349 inčä qaltï kündüz ülüšintä bulïd tuman yoqaru aydïnïp 「譬如晝分雲翳上昇」 B889

yoqaruqï

「上にある」 B2382, B2384, B2396 qaltï ikinti dyan-ta yoqaruqï önglär ärür B2384

yoqsuz ～ yooqsuz

yoqsuz bïdatï B125 ～ yoqsuz bdatï 1282, 3717 ～ yooqsuz bdatï 1075, 「唐捐」「徒に」 özli adïnlï ikigükä asïγ tusu qïlmaqï yooqsuz bdatï bolmaz 「自他俱利不唐捐」 1075, yoqsuz bïdatï urmaq üzä keng savïγ 「徒置廣文」 B125

yorï-

「行く」 tïdïγsïzïnïng uγurïnda anda öng anda yorï-yur 「由無障故色於中行」 3094, turqaru öz adqanγusïnta ärkčä tapča yorï-yur 「恆於自境自在行故」 B69; qolula- yorï-「觀行する」 52; bïšrun-u yorï-「修行する」 123, 203, 351, 382, 383, 396, 1049, 2521; saqïnmaq yinčürmäk bïšrun-u yorï-maq 「思量修行」 1405; yügärü yorï-「現行する」 837, 840, 852, 1157, 3263; qamaγta yorï-dačï 「遍行」 3269, 3275, B796; küsüštä yorï-mïš buyan 「行願福」 1074; eyin yorï-dačï 「隨行」 1600, 1611, 1617, 1628, 1631, 1639, 1672, 1690, 1734, 1735, 1737, 1738, 1740, 1742, 1765, 1772, 1776, 1825, 2292, B564, B568, B572 bilgä bilig-ning terin-ining quvraγïnïng adï bolur eyin yorï-dačï-lar 「慧眷屬名曰隨行」 1611; eyin yorï-madačï 「非隨行」 1777; kertgünč eyin yorï-dačï (ärän) 「隨信行者」 3822, 3824; nom eyin yorï-dačï 「隨法行者」 3823; öngrä yorï-mïš 「已行」 3949, 3964, 3979; amtï yorï-p turur 「正行」 3950 ～ amtï yorï-yu turur 3964 ～ yorï-yu turur 3978; ken yorï-dačï 「當行」 3950, 3964; käz-ä yorï-「遊ぶ」 B880, B886, B890, B895, B2423, H25V63 inčip käz-ä yorï-duqta učrum adalïγqa 「而遊險阻」 B880; yorï-maq täprä-mäk 「行動」 B1516, B1517

y.-dačï 123, 123, 1765, 1772, 3275, 3822, 3950, 3964, B70, B75, B179, B568, B796, B1304, B1794, H26V58

y.-dačïlar 203, 1611, 1617, 1628, 1690, B564, B572

y.-dačïlarï 1600, 1631, 1639, 1734, 1735, 1737, 1740, 1742, 2292

y.-dačïlarïn 1738

y.-dačïlarïnïng 1825

y.-dačïlarnïng 1672, 3823, 3824

y.-dačïsï 3269

y.-dačïsïn 1776

y.-dï 3203, 3205

y.-duqta 3823, B880, B886, B890, B895, B976

y.-γalï B76, B180, B186

y.-γuluq 52, 3961, 3962, 3965, 3977, 3979, 3980

y.-yuluqnung 3984
y.-madačïsïn 1777
y.-mayuluq B71, B176
y.-maq 1405, B1516, B1517
y.-maqï 396
y.-maqïn B1838
y.-maqïnga 837, 852
y.-maz 3201
y.-mïš 351, 382, 383, 1049, 1074, 3949, 3964, 3984, B2423
y.-mïšï 840
y.-mïšïn 3979
y.-p 3950
y.-sar 1157, 3263
y.-yu 3964, 3978, B190
y.-yur 3094, 3199, 3211, B69, B174, B175, B189, B571
y.-zunlar 2521

yorïq
「行」 1274 qaltï kim tuyurup čïnkertü bilgä biligig öngi üdrültürdäčisi ärür osal sïmday bolmaqlïy ayïy yorïq-tïn 「謂佛令生智離放逸惡行」 1292; ämgäklig yorïq 「苦行」 334; yorïq küsüš 「行願」 367, 368; bïšrunmïš yorïq 「修行」 1048; tïltaylïy yorïq 「因行」 1063; yorïq mangïy 「歩行」 1009
y.-ï 367, 368, 992, 1009, 1037, 1045, 1048, 1365
y.-ïn 1063
y.-ta 334
y.-tïn 1292

yorït-
yügärü yorït-「現行させる」
y.-maq 1132

yorïtïl-
「遊ぶ」 bu nirvanlïy orduqa yalnguz eltdäči keng yoluy mïng mïng tüzünlär üzä yorïtïl-mïš mnsiz tözlügüg 「此涅槃宮一廣道千聖所遊無我性」 H40R10

yölän-
tayan- yölän- 「依る」 tayan-mïš yölän-mišingizlär kärgäk sudur-qa 「應依杖經」 2363
y.-mäkig tayan-maqïy y.-mäkig 2365
y.-mišingizlär tayan-mïš y.-mišingizlär 2363

yöläštür-
「たとえる」 bu tïldayïn tidig-kä yöläšdür-miš ärür 「所以譬泥」 1105
y.-di 1111
y.-miš 1105, 1175

yöläšürüg
「喩え」 1429, 2204, 2911, 3686, 3690, B1098, B1321, B1369, B1370, B1601, B1626, B1928, B1930, B2177, SE27, SG37 qaltï sudur vinayta ulatïlar täg temäk yöläšürüg ärür 2204, yöläšürüg abipirayïn sözlälim 「喩之意云」 B1370, munung uyurïnta yula yöläšürüg-üngüzlär köz birlä birikmäz 「由茲燈喩與眼不同」 B1547; avadana yöläšürüg 「譬喩」 2335
y.-üg 2335, 3333, B226, B1193, B1471
y.-üngüzlär B1539, B1547

yör-
「釋す」 yör-ä tükädmiš boldï abidarimïy 「已釋對法」 1917, birök vinayta inčip munda kengürü yör-är üčün pradimokš sudurnung tözin ärür tngri burxan yrlïqamïš tep 「若毘奈耶是廣釋戒經本故是佛説者」 2276, bu adïy yör-güčä ärsär uyur üčün tudyalï öz tözin 「釋此名者能持自相」 1813, munung uyurïnta tägimlig ärmäz munday tep yör-gäli 「由此不應作如是釋」 B144, anï üčün ol yör-mišingizläming yörügi odyuraq anday ärmäz 「是故彼釋理定不然」 B196; yör-ä sözlä-p 「釋曰」 18, 79, 449, 483, 1947, 2826, etc.; altï türlüg adïra qabšuru yör-gülük samazlar「六離合釋」 1919, 4356, 4394; uqït-u yör-「解釋する」 492,

547, 987, 1091, 1963, 2035, 2851, etc. see uqït-; kengürü yör-「廣釋する」851, 964, 965, 2276, 2278, 2281, etc. see kengürü; at yörügin yör-gü「訓釋詞」(nirvacana) ad yörügin yör-gü-ča ärsär qaltï süzük soyïq üčün qaltï šlokta sözlämiš ol「訓釋詞者謂清涼故如佛他言」H30V60
y.-ä 18, 79, 449, 480, 483, 1034, 1090, 1325, 1488, 1591, 1916, 1955, 2337, 2596, 2826, 2832, 3242, 4426, 4442, B243, B256, B266, B304, B316, B421, B877, B1321, B1471, B1875, B1941, H26R63
y.-älim 987
y.-är 331, 481, 549, 550, 861, 1684, 1933, 1947, 2104, 2276, 2278, 2281, 2544, 2919, 2925, 3866, 3866, 3913, B423, B652, B1288, B1834, H36V5
y.-äyin 343
y.-däči 336, 337
y.-di 552, 573, 3980
y.-dümüz 341
y.-gäli 23, 479, 492, 546, 586, 1091, 1592, 1607, 3017, 3076, 4158, 4301, B56, B144, B237, B440, B464, B1336, B2250
y.-gäy 851, 3623
y.-gü 3164
y.-güčä 1813
y.-güči 3208, 3621, 4580, B1409, B1811
y.-güčilär 1023
y.-gučining 474
y.-gülük 336, 337, 1919, 4356, 4394
y.-gülüki 3068
y.-gütä 355, 2898, 2935, 2937, 2943, 2944, 2952, 3012, 3257, 4164
y.-mädäčisi 2546
y.-mädimiz 1622
y.-mädin 573
y.-mädüki 2548
y.-mäk 1819, 1820, 1822, 2550, 3289, 3518, 3864, 4318, 4419, 4575
y.-mäkig B1411
y.-mäklig 2852
y.-mämiškä 3019
y.-mäz 1720, 2274
y.-miš 209, 547, 553, 556, 564, 570, 1590, 1683, 1921, 1932, 1933, 2287, 3287, 3290, 3515, 3989, 4357, 4395, 4413, 4446, 4572, B291, B1981, B2128, B2407
y.-miši 4473
y.-mišin 242
y.-mišingiz 1963, 2035
y.-mišingizlär B37, H36V31
y.-mišingizläming B66, B196
y.-sär 167, 566, 569, 574, 964, 1759, 1922, 2851, 3978, 3979, 4022, 4029, 4161, 4486, 4563, B1259
y.-üp 963, 965, 1585, 2925, 3075, 3864, 4300, 4582, B463, B1208

yörgäl-
「くるまれる」aš üzäsintä aš birlä yörgäl-ip boγuzqa enär B1962

yörüg
「義」「理」7, 62, 66, 132, 149, 164, 174, 225, 340, 372, 379, 568, 569, 577, 578, 583, 666, 796, 812, 823, 859, 863, 889, 932, 945, 947, 979, 983, 987, 1019, 1065, 1152, 1234, 1341, 1344, 1376, 1604, 1627, 1771, 1793, 1832, 1833, 1845, 1845, 1851, 1853, 1855, 1906, 1978, 2000, 2031, 2053, 2071, 2075, 2157, 2230, 2232, 2234, 2236, 2240, 2243, 2268, 2313, 2398, 2400, 2401, 2409, 2474, 2477, 2567, 2570, 2620, 2621, 2622, 2710, 2786, 2835, 2886, 2887, 2915, 2955, 2960, 2962, 2963, 2964, 2966, 3065, 3296, 3428, 3479, 3485, 3528, 3530, 3558, 3558, 3592, 3656, 3723, 3741, 3898, 3927, 3978, 3978, 3979, 3980, 3999, 4004, 4008, 4014, 4023, 4030, 4031, 4037, 4057, 4064, 4068, 4069, 4083, 4105, 4145, 4161, 4168, 4189, 4206, 4254, 4263, 4319, 4325, 4352, 4455, 4465, 4551, 4578, 4581, B13, B49, B52, B125, B192, B246, B276, B286, B447, B463, B468, B472, B482, B483, B489, B542, B609, B616, B651, B670, B823, B1039, B1039, B1051, B1125, B1138, B1144, B1256, B1282, B1317,

B1393, B1487, B1558, B1641, B1701, B1704, B1781, B1781, B1853, B1862, B2130, B2135, B2284, B2300, B2317, B2329, B2348, qayu yeg yörüg-lüg nom ärsär yindäm ärür nirvan「若勝義法唯是涅槃」1815 abidarïm ayïlïqïy yörüg eyin sanggit qïlmïš ol「對法藏隨義結集」2230, alqu ni'kaylartaqï abidarimlarnïng yörüg-lärï taplaylarï adïrïlmïš üčün「諸部阿毘達磨義宗異故」2390, yügärü körülür užiklärining yörüg-lärining adïrtïnïng barï「現見文義有差別」2392, birök uqïdur ülgü yörüg-üg tep tesär yörüg-i odyuraq anday ärmäz「若顯量義理未必然」2353, anï üčün ol yörmišingizlärning yörüg-i odyuraq anday ärmäz「是故彼釋理定不然」B196, yörüg-i uqulmaduq üčün abipirayï yolïn alp bolur bilgäli「理未顯故意趣難知」B1844; yörüg yol-ï「理趣」anïn sizlärning qayu sözlämišingizlärning yoq arduqraq yörüg yol-ï「故彼所言無深理趣」B52; yörüg töz-i「理」「理實」62, 66, 132, 149, 164, 340, 796, 812, 823, B49, B125, B129, etc. yörüg töz-inčä saqïnmïš kärgäk「如理應思」B2284; (tep) yörüg'ol = (tep) yörüg ol「(という)義がある/義である」302, 321, 346, 508, 508, 509, 510, 518, 1326, 1327, 1597, 1603, 1833, 1852, 1936, 2152, 2152, 2153, 2157, 2771, 2774, 2781, 2809, 2818, 2864, 2879, 2899, 2913, 3022, 3103, 3247, 3248, 3257, 3473, 3473, 3478, 3614, 3640, 3641, 3961, 3962, 3995, 3996, 4128, 4149, 4191, 4199, 4204, 4206, 4208, 4208, 4211, 4216, 4217, 4217, 4218, 4218, 4226, 4229, 4230, 4234, 4234, 4237, 4238, 4242, 4246, 4247, 4250, 4250, 4261, 4342 vasdu tegüči savta munda tïlday tep yörüg'ol「事是因義」4191, munda tïldayï tüši üzä ördülgülük kösidilgülük bolmaq tep yörüg'ol「是因爲果所映蔽義」4199

y.-i 66, 109, 167, 230, 339, 361, 411, 536, 602, 678, 960, 1210, 1488, 1589, 1589, 1592, 1618, 1706, 1804, 2314, 2353, 2388, 2407, 2421, 2423, 2437, 2641, 2676, 2696, 2780, 2954, 3067, 3068, 3073, 3074, 3080, 3081, 3098, 3103, 3125, 3145, 3192, 3194, 3194, 3195, 3196, 3197, 3209, 3210, 3212, 3419, 3426, 3463, 3486, 3517, 3534, 3544, 3629, 3687, 3732, 3962, 3965, 3966, 3968, 3969, 3984, 4022, 4027, 4033, 4045, 4048, 4051, 4054, 4056, 4058, 4060, 4062, 4065, 4077, 4131, 4195, 4203, 4263, 4457, 4541, 4544, 4580, B14, B67, B196, B226, B273, B285, B329, B396, B398, B481, B676, B756, B782, B947, B1330, B1384, B1501, B1567, B1819, B1844, B1973, B1991, H25R59

y.-in 32, 329, 481, 486, 488, 590, 677, 851, 863, 885, 885, 2146, 2377, 2396, 2551, 2686, 2825, 2850, 2855, 2898, 2920, 2925, 2980, 3012, 3016, 3037, 3100, 3199, 3401, 3431, 3546, 3684, 3744, 3913, 4316, 4491, 4491, B289, B304, B422, B659, B751, B755, B801, B839, B933, B1001, B1169, B1170, B1251

y.-ining B282, B1551

y.-intä 825; y.-indä 2449, 3666, 4016

y.-ingä 3189, 3460, 3489, 3501, 3514

y.-kä 1103, 2053, 2654, 2656, 3458, 3487, 3496, 4006, 4010, B1061, B1208, B1259, B1396, H24R25

y.-lär 247, 316, 322, 485, 500, 507, 530, 531, 533, 682, 1113, 1174, 1485, 1559, 1588, 1929, 1931, 1935, 1938, 1939, 2151, 2169, 2172, 2196, 2225, 2393, 2903, 2916, 3567, 3863, 3961, 4074, 4330, B1036, B1285, B1637

y.-lärï 63, 292, 968, 1826, 2056, 2390, 2469, 3219, 4193, 4215, 4262, B930

y.-lärig 22, 949, 1020, 1476, 1506, 1576, 1580, 1590, 1937, 1950, 1952, 2239, 2573, 2726, 4273

y.-lärin 68, 1575

y.-lärining 296, 2392

y.-lärkä 214, 527

y.-lärning 2, 3, 4584, 4585

y.-lärtä 4253, B1432, B2115

y.-li 4062

y.-lüg 1482, 1815, 1828, 1828, 1835, 1837, 1848, 1849, 1857, 1869, 1937, 2308, 2316, 2380, 2404, 2406, 2418, 2419, 2420, 2420, 2423, 2425, 3219, 3221, 3220, 3222, 3223, 3224, 3250, 3318, 3986, 3995, 4007, 4016, 4049, 4463, B151, B473, B610, B614

y.-lügi 2317, 2402, 2405, 2406
y.-lügin 2378
y.-lügingä 2403, 2405
y.-lügkä 2309
y.-nüng 111, 1923, 4048
y.-süz 4009
y.-tä 408, 574, 757, 967, 1645, 1819, 1936, B759
y.-üg 60, 68, 125, 159, 546, 571, 607, 660, 674, 675, 1288, 1705, 1708, 1712, 1762, 1771, 1778, 1798, 1820, 1925, 2347, 2353, 2509, 2577, 2910, 2911, 2977, 3022, 3023, 3025, 3225, 3493, 3495, 3499, 3511, 3521, 3700, 3970, 4028, 4046, 4052, 4049, B7, B363, B777, B964, B968, B1002, B1143, B1345, B1436, B1597, B1849, B1987, B2227, B2231; y.-ig B316
y.-üngüzlär 2529, 3382
y.-üngüzlärning 3457

yöründäk
「對治」「治」 278, 280, 434, 669, 682, 694, 1223, 1432, 1438, 3425, 4496, 4526, 4526 yindäm burxan adï ködrülmišlär ök bulu yrlïqap birdämlig yöründäk-in「唯佛世尊得永對治」609, bïšrunmaq adïn yöründäk-in ödrü išsiz bolur「修餘對治則爲無用」3404, yöründäk-i tuγmïš ödtä anïng pirapdisïn taryarsar「對治生時於彼得斷」B696, yörüntäk-ingä öčmäkkä tayanmaq üzä arïγ bolur「依治滅淨等」H35R34, yöründäk qïlγu ödün ämgäkkä temin ök turur mängi saqïnč「又治苦時方起樂覺」H37R2, yaqïn yörüntäk bolur üčün azqa「近治貪故」H39R62
y.-i 689, 701, 2081, 3418, B696
y.-ig 678, 3425, 3431, 3435
y.-in 609, 665, 688, 671, 690, 693, 721, 729, 1434, 3404, 3427, 3436, 3438, 3439, 3443, 3444, 3852
y.-lig 4469, 4523

yuγrut
「酥」 süttin yuγrut gartaman ünmiš täg 69

yukti
< Skt. yukti 「理」B2076, SE18, qayu ol yukdi uγrïntaqïsï「云何由理」H36V59; yukti agam「理教」 yukdi-lar agam-lar yoq üčün yukdi yoq tep temiši ärsär qulγaqta ulatï biliglär birlä adïrtsïz üčün「理教無故言理無者與耳等識無差別故」B1045, qayu yukti-qa agam-qa tayaqlïγïn muntaγ tep sözlädi「依何理教作如是言」H33R23
y.-lar y.-lar agam-lar B1045, agam-lar y.-lar B2072
y.-lï y.-lï agam-lï B1411, agam-lï yukti-lï H36V51

yula
「燈」「松明」 4168, B819, B820, B0670, B1523, B1526, B1531, B1539, B1541, B1543, B1547, B1666, B1678 qaltï yruq yula alqu ïraqtaqï yaqïntaqï yarudyuluq ädlärkä oqsuz tüzü yarudmïšï täg「如明燈於諸遠近所照之物無間遍照」B1543, yänä yula-lï yaldïrïqïnlïnïng ulaqï öngin öngin öngi ärür「又燈與明相續各異」B1678
y.-lï B1669, B1678

yum-
「閉じる」 bir közüg yum-up bir közüg ačmïš ödtä B1417, birin yum-up büridtüktä bu savlar ödrü bolmaz「閉一觸一此事則無」B1457
y.-duqta B1418, B1451
y.-maq B1425
y.-sar B1436
y.-up B1417, B1423, B1457, B1977

yumdar-
「總ずる」「まとめる」「通す」 munï munčulayu yumdar-ïp sözläsär「如是總說」1612, yumdar-sar adï bolur ang'ïlki pratimokša sanvar tep「總名第一別解脫律儀」H30R31; yumdar- tüg-「惣結する」 bu yumdar-ïp tüg-mäk ärür「此惣結也」B2129; sap-ïp yumdar-「貫通する」 sap-ïp yumdar-ur üsdünkisin aldïnqïsïn「貫通上下」4297
y.-ïp 1612, 1623, 2036, B2129, H28R37
y.-sar 7, 3868, B905

y.-ur 4297

yumdaru
「總じて」「通して」 459, 459, 467, 531, 622, 623, 624, 661, 662, 1028, 1056, 1599, 1631, 1799, 1816, 1959, 2090, 2384, 2579, 2916, 2939, 2941, 2946, 2951, 2968, 3042, 3095, 3709, 3710, 3797, 3943, 4006, 4007, 4021, 4128, 4581, B259, B260, B264, B265, B274, B280, B355, B382, B421, B536, B540, B551, B556, B560, B1351, B1649, B1797, B1798, B2004, B2008, B2009, B2052, B2344, B2369, B2376, B2412 qayu nom bälgülüg nom ärsär yumdaru tört türlüg tüzünlär kertüsi ärür「若法相法通四聖諦」1816, kenki üčägü uγušlar yumdaru üčär bolur「後三界通三」B540, öng biligkä körü yumdaru täng bolur üsdün bolur aldïn bolur「色望於識通等上下」B2376, öngdünki köngül bölüklüg nom yumdaru kenki bölüklügingä tüz arasïz basutčï bolur「前心品法總爲後品等無間緣」H25V4

yumγï
「共通」「共」 yertinčütäkilärkä yumγï-qa bililmiš üčün「世間共了」B851
y.-qa 2387, 3086, 3332, B851

yumγïγun
「共に」 B1337, B1341, B1382, nädägin yumγïγun yïγïlïp「如何共聚」B1382, muntaγ osuγluγ yörügüg yumγïγun yinčürü saqïnmïšïngïzlar krgäk「一晝夜故於如是義應共尋思」H33R16

yumït-
「共同する」 qamaγ basudčïlar yïγïlïp terilip yumïd-maqïndïn bolmïš üčün「衆緣聚集共所作故」3888
y.-maqïndïn 3888, 3921, 3922, B484
y.-maqtïn 3909

yuq
yïd yuq「習氣」「薫習」 646, 649, 708, 715, 716, 966, 981, 1006, 1008 näčä tarïqsar ymä nizvanïlar yïd-ï yuq-ï anïlayu oq qalïr üčün 634, käzigdä uruγuγ arïdmasar bulmïš ol yït yuq tegüči adïγ 716
y.-ï yïd-ï y.-ï 634, 646, 647, 652, 847, 1017
y.-ïn yïd-ïn y.-ïn 841
y.-ïnïng yïd-ïnïng y.-ïnïng 631
y.-nung yïd y.-nung 648
y.-tïn yïd y.-tïn 1018

yuy
yuy quš「孔雀」 bir yalnguz yuy quš-nung ayčuq atlγ tilgänindäki alqu türlüg tïldaγtïn bolmïš bälgüsi「於一孔雀輪一切種因相」935

yüd-
yük yüd-「擔ぐ」 qaltï aγïr yük yüd-mišlig ančaqya ängintä ulatïlarïn tägšürmiš täg「如荷重擔暫易肩等」H37R13

yügärü
「現前」「現に」「現の」 633, 836, 850, 1387, 1393, 1400, 2392, B297, B404, B784, B787, B966, B968, B989, B1345, B1364, B1365, B1646, B1661, B1669, B1759, B1957, B2085, B2189 yügärü körülür užiklärining yörüglärining adïrtïnïng barï「現見文義有差別」2392, näng yügärü dyanta bögülänmäk bilgä biligtä käzä yorïmaqïγ iišläšip ärmäz「非要現遊靜慮通慧」H25V62; yüüz yügärü (～ yüz yügäru)「現に」「現の」「現前」837, 840, 852, 1132, 2868, 3362, 3827, 3829, B978, B1115, B1120, B1197, B1366, B1368, B1373, B1456, B1631, B2085, see yüüz; (yüüz); yügärü yorï-「現行する」837, 840, 852, 1132, 1157, 3263, 3822; yügärü uqmaq「現觀」1638, 1641, 1643, 1650, 1652, 1656, 1659, 1663, 1897, 2454, H38R12,17 alqu yügärü uqmaq-larnïng tüpindäki「諸現觀邊」2454
y.-ki 169, 173, 4536, B1957

yügün
「馬勒」 inčä qaltï bolduqta ayïtdačï yügün kimning ol tep 「猶如有問縛馬者誰」 H27R51

yügür-
「馳せる」: toqïtïl- yügür- 「搖れる」 nizvanï qïlïnč üzä toqïdïl-u yügür-ü 2067
y.-gülük B858
y.-ü 2067

yük
「荷」 beš yükmäklig ayïr yük-nüng 1865, qaltï ayïr yük yüdmišlig ančaqya ängintä ulatïlarïn tägšürmiš täg 「如荷重擔暫易肩等」 H37R13
y.-üg 1865

yük-
「積む」 qaltï qumta ulatï yük-mäklär täg B1757

yükmäk ～ ükmäk
「蘊」「聚」 29, 30, 31, 34, 700, 717, 926, 929, 930, 930, 1109, 1109, 1277, 1621, 1624, 1626, 1630, 1742, 1744, 1765, 2651, 2682, 2689, 3394, 3397, 3882, 3883, 3884, 3886, 3891, 3898, 3906, 3907, 4156, 4303, 4304, 4308, 4308, 4309, 4318, 4320, 4323, 4323, 4324, 4326, 4327, 4327, 4328, 4330, 4331, 4332, 4333, 4334, 4335, 4335, 4336, 4337, 4338, 4346, 4347, 4348, 4349, 4352, 4353, 4381, 4382, 4386, 4387, 4387, 4389, 4390, 4390, 4402, 4403, 4406, 4407, 4408, 4411, 4411, 4412, 4417, 4448, 4449, 4451, 4452, 4455, 4456, 4497, 4499, 4568, B687, ükmäk 4086, 4087, aqïysïz beš yükmäk-ning adï bolur abidarim tep 「無漏五蘊名爲對法」 1612, yänä ymä alqu ediglig nomlar ärsär qaltï öngdä ulatï beš yükmäk-lär ärür 「又諸有爲法謂色等五蘊」 3880, öčmäk sav tayaqï ärmäz sav tayaqï ärür ükmäk 「滅非言依言依是蘊」 4087, qaltï örtädüktä tuturqan sapïlïγ uluγ yükmäk-ig kül bolmïštaqïsï ärür 「如燒稻稈大聚爲灰」 H25R47; čxšaptlïγ yükmäk 「戒蘊」 896; dyanlïγ yükmäk 「定蘊」 896; bilgä bilig yükmäk 「慧蘊」 897, 2291, 2296; ozmaq qutrulmaqlïγ yükmäk 「解脫蘊」 687; ozmaq qutrulmaqïγ bilmäk körmäklig yükmäk 「解脫智見蘊」 898; öng yükmäk 「色蘊」 926, 929, 930, 2990; qïlïnč yükmäk 「行蘊」 1758 ärür köngültä öngi qïlïnč yükmäk-ning adruqï 「是不相應行蘊差別」 H25V60; bilig yükmäk 「識蘊」 3883; tutyaq yükmäk 「取蘊」 2682, 2723, 3397, 4156, 4303, 4304, 4307, 4309, 4318, B65, B195, etc. aqïγlïγ nomlar tudyaq yükmäk tep adanurlar 「有漏名取蘊」 4304, azu ymä bar yindäm yükmäk bolup inčip tudyaq yükmäk bolmadačï 「或有唯蘊而非取蘊」 4309, bar ät'öz körüm adqanïp beš tudyaq yükmäk-ig adqanγu uγuš qïlur üčün 「以有身見緣五取蘊爲境界故」 B66
y.-i 696, 2990, 4395, 4400
y.-ig 700, 1133, 4171, 4398, 4495, B66, B195
y.-imin 896, 896, 897, 897, 898
y.-in 1629, 1630
y.-ingä 4477
y.-kä 697
y.-lär 927, 929, 1072, 1134, 1614, 1738, 3880, 3882, 3887, 3892, 3893, 3895, 3901
y.-lärі 4399
y.-lärig 1740, 2609, 2688, 3900, 3903
y.-lärkä 1748, 1751, 2612
y.-lärning 926, 1108, 2723
y.-lärtä 1758, 1761, 2611
y.-lig 525, 1865, 4169
y.-ning 697, 1599, 1612, 1624, 2291, 2296, 3398, 3897, 4307, 4322, 4410
y.-tä 1222, 1754, 1766, 3206, 3971, 4270, 4318, 4379, 4440, 4441, 4546, 4566
y.-täki 3206
y.-tin 4579

yükün-
「禮する」「作禮する」 burxan-qa yükün-mäktä ulatï yeg adruq ädgü qïlïnč 「作禮佛等諸勝善業」 H32R11; yinčürü töpün yükün- 「稽首する」 9,

10, 11, 1301, 1314, 1323, 1335 yinčürü töpün yükün-ürmn adï ködrülmišlig qamaγ ädgülüg taγ-qa 「稽首薄伽衆徳山」 9, yinčürü töpün yükün-üp adaqïn qučmïš üčün anïn adamïš ol ayayu aγïrlayu yükün-üp tep 「稽首接足故稱敬禮」 1301; ayayu aγïrlayu yükün- 「敬禮する」 73, 146, 191, 449, 453, 473, 1295, 1299, 1300, 1303, 1316, 1321, 1334, 1542 ～ yükün- aya- 451, ayayu aγïrlayu yükün-üp ol andaγ osuγluγ činkertü tözlüg baxšï-qa 「敬禮如是如理師」 73, ašnuča ögüp küläp ädgülär basa temin ayayu aγïrlayu yükün-mišin uqïdur 「先讃徳方申敬禮」 449; ögä küläyü yükün- 「讃禮する」 353 ～ yükün- ög- 354, 359, 1319; yükün- ängit- 「禮する」 450

y.-gülük 1553

y.-mäk 353, 359, 450, 450, 1319, 1326

y.-mämiš 497, 499

y.-mämišin 354

y.-miš 492, 496, 499, 1334

y.-mišin 146, 191, 354, 449, 451, 453, 473, 1295, 1299

y.-üp 73, 1300, 1301, 1303, 1314, 1316, 1321, 1323, 1335, 1542, 1544, 1547, 1554

y.-ürmn 9, 10, 11

yürük

「杏」 yürük üzüm「末度迦」(Skt. mṛdvīkā「葡萄」) martavik yürük üzüm uruγ-ïntïn martavik yürük üzüm tüš törüyür anïng tatïγï ärtingü ädgü bolur 「從末度迦種末度迦果生其味極美」 H35R18

yüüz (～ yüz)

yüüz yügärü 「現に」「現の」「現前」 837, 840, 852, 1132, 2868, 3362, 3827, 3829, B978, B1115, B1120, B1197, B1366, B1368, B1373, B1456, B1631, B2085 qayu näčä bar ärsär öng tuγurdačï bädütdäči yüüz yügärü azïγ azuča ymä övkäg azuča ymä biligsizig 「諸所有色生長現貪或瞋或癡」 2868, kördäči bilig yüüz yügärü bolmaduq üčün 「見識不現前故」 B1120, ödrü yüüz yügärü közünür iki ay tängritä ulatïlar 「便於現前見二月等」 B1456, alqu öng nomlar qadïlïšu bulγašu yüz yügärü bolur tüz arasïz basutčïtïn tuγmïšï qadïlmaqsïz bulγašmaqsïz üčün 「無以諸色法雜亂現前等無間緣生雜亂」 H25R35

yüz

「百」 azuča ärsär ymä altï yüz käzig karik ärür šasdr 「或六百行頌是論」 328

Ž

žimpa

< Chin. 賃婆 (ńiəm-bua) < Skt. nimba-bīja (果實名) žimpa qatïγan uruγ-ïntïn žimpa qatïγan tüš törüyür anïng tatïγï ärtingü ačïγ bolur 「從賃婆種賃婆果生其味極苦」 H35R20

々

々

(單語重複記號) 2258, 2258, 2343, 2421, 2567, 2822, 3549 qayu tuγmïš köngül 々-täki nomlar quruldurur örlädür üčün 4400 (= köngül köngül-täki nomlar 「心心所法」); angayu 々 「別々に」 (= angayu angayu) 1604, 3521, 3525, 3525, 3527; öngin 々 「各々」「各」 (= öngin öngin) 1648, 1651, 1662, 2422, 2505, 2821, 3241, 3553 baγ boldačï ädi eyin öngin 々 adïrïlur 「隨繫事各別」 3553; käntü 々 「各自」 (= käntü käntü) 2567, 3523, 3543, 4293

々-täki 4400

略號表と參照文獻

略號表

BTT = Berliner Turfantexte, Berlin
EDPT = Clausan（1972）
Kāšγarī = Dankoff, R/J. Kelly（1982-1985）
M.Chin. =「中古漢語」(Middle Chinese)
N.Uig. = 新ウイグル語（New Uighur）
Suv = Radloff/ Malov（1913-1917）
TT = Türkische Turfan-Texte （*SPAW, ADAW*）
Uig.p.Chin. =「ウイグル漢字音」(Inherited Uighur pronunciation of Chinese characters)
UWb = Röhrborn（1977-1998）
『維漢』=『維漢詞典』(1982)
荻原 = 荻原（1986）
織田 = 織田（1995）
中村 = 中村（1981）

參照文獻

和・漢文

阿依達爾・米爾卡馬力（Aydar Mirkamal 2005）：「敦煌莫高窟北區 B157 窟出土回鶻文『阿毘達磨俱舍論實義疏』殘葉研究」『京都大學言語學研究』24. pp. 1-14.
梅村坦（1980）：「敦煌探檢・研究史」『敦煌の自然と現状』講座敦煌 1. pp.127-241.
赤沼智善（1967）：『印度佛教固有名詞辭典』京都 法藏館.
『維漢詞典』(1982)：新疆大學中國語文系編 新疆人民出版社.
江島惠教（1986）：「スティラマティの『倶舍論』註とその周邊」『佛教學』No.19. pp. 5-27.
荻原雲來（1933 譯注）：『阿毘達磨俱舍論明瞭義釋』甲子社印刷所.
--------（1986）：『梵和大辭典』東京 講談社.
織田得能（1995 新訂八刷）：『佛教大辭典』大藏出版.
百濟康義（1980a）：「ウイグル譯『倶舍論頌註』一葉」『印度學佛教學研究』Vol.28, No.2. pp. 44-48.
--------（1980b）：「入阿毘達磨論の註釋書について」『印度學佛教學研究』Vol. XXIX, No.1. pp. 72-77.
-------（1982a）：「ウイグル譯アビダルマ論書に見える論師・論書の梵名」『印度學佛教學研究』Vol.31, No.1. pp. 112-115.
-------（1982b）：「ウイグル譯『阿毘達磨順正理論』抄本」『佛教學研究』No.38. pp. 1-27.
-------（1984）：「ウイグル譯『阿毘達磨倶舍論』初探」『龍谷大學論集』No.425. pp. 65-87.
-------（1988）：「サンスクリット文法のウイグル語譯例」『龍谷大學論集』No.431. pp.55-82.
耿世民（1987）：「回鶻文『阿毘達磨倶舍論』殘卷研究」『中央民族學院學報』1987, No.4.

pp. 86-89.
------- (2001) : 『新疆文史論集』中央民族大學出版社.
櫻部建 (1975) : 「アビダルマ論書雜記一、二 (1~3)」『三藏集』(國譯一切經印度撰述部月報) Vol.3. pp. 89-107.
------- (1997) : 『增補佛教語の研究』文榮堂.
庄垣内正弘 (1974) : 「ウイグル語寫本・大英博物館藏 Or.8212 (109) について」『東洋學報』Vol.56, No.1. pp. 044-057.
------- (1976) : 「ウイグル語寫本・觀音經相應ー觀音經に關する avadāna ー」『東洋學報』Vol.58 No.1/2.
------- (1982, 1985) : 『ウイグル語・ウイグル語文獻の研究ー觀音經に相應しい三篇の avadāna 及び『阿含經』についてー』I (1982), II (1985) 神戸市外國語大學.
------- (1978) : 「古代ウイグル語におけるインド來源借用語彙の導入經路について」『アジア・アフリカ言語文化研究』15, 東京外國語大學アジア・アフリカ言語文化研究所. pp. 79-110.
------- (1987) : 「ウイグル文獻に導入された漢語に關する研究」『内陸アジア言語の研究』II. pp. 17-156.
------- (1988) : 「ウイグル文『阿毘達磨順正理論』ー大英圖書館所藏 Or.8212-75B からー」『内陸アジア言語の研究』III. pp. 159-207.
------- (1989) : 『ウイグル語・ウイグル語文獻の研究』III (テキスト) 神戸市外國語大學 (研究叢書第 19 册).
------- (1990) : 『ウイグル語・ウイグル語文獻の研究』IV (テキスト) 神戸市外國語大學 (外國學研究 XX).
------- (1991) : 「ウイグル文『阿毘達磨俱舍論實義疏』の性格について」『西南アジア研究』34. pp. 33-42.
------- (1991-1993) : 『古代ウイグル文阿毘達磨俱舍論實義疏の研究』I (1991), II (1993a), III (1993b) 松香堂.
------- (1995) : 「ウイグル文字音寫された漢語佛典斷片についてーウイグル漢字音の研究」『言語學研究』(京都大學言語學研究室) 第 14 號. pp. 65-152.
------- (1997) : 「ウイグル文字音寫された漢語佛典斷片についてーウイグル漢字音の研究」(續編)『西南アジア研究』No.46. pp. 1-31.
------- (1999) : 「ロシア所藏ウイグル語斷片の研究 1」『言語學研究』No.17-18. pp. 93-121.
------- (2000) : 「ロシア所藏ウイグル語斷片の研究 2」『京都大學言語學研究』No.19. pp. 147-191.
------- (2001) : 「ロシア所藏ウイグル語斷片の研究 3」『京都大學言語學研究』No.20. pp. 243-277.
------- (2003a) : 「文獻言語と言語學ーウイグル語における漢字音の再構と漢文訓讀の可能性ー」『言語研究』No.124. pp. 1-36.
------- (2003b) : 『ロシア所藏ウイグル語文獻の研究ーウイグル文字表記漢文とウイグル語佛典テキストー』京都大學大學院文學研究科.
------- (2004a) : 「ウイグル語譯「阿毘達磨俱舍論實義疏」斷片 1 葉」*Approaches to Eurasian*

Linguistic Areas, CSEL 7. pp. 261-270.

------- (2004b) :「ウイグル文「入阿毘達磨論」の注釋書斷片」*Approaches to Eurasian Linguistic Areas*, CSEL 7. pp. 271-295.

------- (2006) :「ウイグル文「阿毘達磨倶舍論」注釋書の斷片二葉」*Philological Studies on Old Central Asian Manuscripts*, CSEL 10. pp. 1-14.

-------/L. Tugushewa/藤代節 (1998) :『ウイグル文 Daśakarmapathāvadānamālā の研究』松香堂.

蘇軍 (1993) :「敦煌本安慧『阿毘達磨倶舍論實義疏』發現漢譯新本」『佛學研究』1994, No.2. pp. 270-286.

------- (1995) :「『阿毘達磨倶舍論實義疏』」方廣錩主編『藏外佛教文獻』Vol.1, 北京. pp. 169-250.

張鐵山 (2001) :「北京大學圖書館藏兩葉敦煌本回鶻文殘片研究」『西北民族研究』No.30. pp. 95-110.

------- (2003) :「敦煌莫高窟北區出土三件回鶻文佛教殘片研究」『民族語文』2003, No.6. pp. 44-52.

-------/王梅堂 (1994) :「北京圖書館藏回鶻文『阿毘達磨倶舍論』殘卷研究」『民族語文』1994, No.2. pp. 63-70.

中村元 (1981) :『佛教語大辭典』東京 東京書籍株式會社.

------- (2001) :『廣説佛教語大辭典』上中下 東京書籍株式會社.

中村隆敏 (1987) :「プールナヴァルダナの『隨相論』抄本 (1)」『三康文化研究所年報』No.19. pp. 1-40.

羽田亨 (1925) :「回鶻譯本安慧の倶舍論實義疏」『白鳥博士還曆記念東洋史論叢』. pp. 745-792.『羽田博士史學論文集』下卷 (1975) に收録.

平川彰他 (1973-1977) :『倶舍論索引』 I II, 東京 大藏出版株式會社.

彭金章/王建軍/敦煌研究院編 (2000~2004) :『敦煌莫高窟北區石窟』1 (2000), 2 (2004a), 3 (2004b) 文物出版社.

松涛泰雄 (1990) :「アビダルマ佛説論 ― Tattvārtha を中心として ―」『法然學會論叢』No.7. pp. 1-14.

------- (1995) :「Tattvārthā (VII) ―冒頭部の解釋をめぐって―」『梵語佛教文獻の研究』大正大學綜合佛教研究所 171-198.

------- (2000) :「Tattvārthā (眞實義) における根見説と識見説について」『アビダルマ佛教とインド思想』. pp. 97-110.

箕浦曉雄 (2004) :「『倶舍論』における蘊 (skandha) の意味規定 ― 『倶舍論實義疏』・『倶舍注疏隨相』研究小史 ―」『眞宗教學研究』No.25. pp. 92-105.

------- (2005) :「スティラマティ『五蘊論釋』和譯 ― 行蘊 (1) ―」『佛教とジャイナ教』(長崎法潤博士古稀記念論集). pp. 267-288.

宮下晴輝 (1983) :「倶舍論註釋書 Tattvārtha の試譯 ― 第七章第一偈より第六偈まで ―」『佛教學セミナー』No.38. pp. 110-88.

森安孝夫 (1985) :「ウイグル語文獻」『敦煌胡語文獻』講座敦煌 6. pp. 1-98.

歐文

Adams, D. (1999) : *A Dictionary of Tocharian B*, Amsterdam-Atlanta.

Barutçu, S. (1990) : *Abidarim Ḳunlıġ koşavarti şastirtaḳı çınkirtü yörüglerning kingürüsi'nden üç itigsizler*, Ankara.

------- (1998) : 同上改訂版.

Clauson, G. (1972) : *An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth-Century Turkish*, Oxford.

Dankoff, R. / J. Kelly (1982-1985) : *Compendium of the Turkic Dialects (Dīwān Luγāt at-Turk)* I, II, III, Sources of Oriental Languages and Literatures 7, Harvard University.

Edgerton, F. (1953) : *Buddhist Hybrid Sanskrit Dictionary*, New Haven.

Ejima, Y. (1989) : *Abhidharmakośabhāṣya of Vasubandhu Chapter* I : *Dhātunirdeśa*, Tokyo.

Erdal, M. (1991) : *Old Turkic Word Formation*, Vol.I, II, Wiesbaden.

------- (2004) : *A Grammar of Old Turkic*, Leiden-Boston.

Geng Shimin (2002) : On the Lanzhou Version of the Uighur Abhidharma kośabhāṣya-ṭīkā Tattvārthā, *Splitter aus der Gegend von Turfan*, Istanbul-Berlin. pp. 75-85.

Gharib, B. (1995) : *Sogdian Dictionary, Sogdian-Persian-English*, Tehran.

Judaxin, K. (1965) : *Kirgizsko-russkij slovar'*, Moskva.

Kara, G. / P. Zieme (1976) : *Fragmente tantrischer Werke in uigurischer Übersetzung*, BTT VII.

Kudara, K. (1981) : A fragment of a Uigur version of the Abhidharmakośakārikā, *Journal Asiatique* CCLXIX. pp. 325-346.

Monier-Williams, M. (1970) : *Sanskrit-English Dictionary*, (1st ed. 1899) , Oxford.

Nadeljaev, V.M. / D.M. Nasilov / E.R. Tenišev / A.M. Ščerbak (1969) : *Drevnetjurkskij slovar'*, Izdatel'stvo "Nauka", Leningrad.

Radloff, W. / S. Malov (1913-1917) : *Suvarṇaprabhāsa*, Bibliotheca Buddhica XVII.

Röhrborn, K. (1983) : Zur Terminologie der buddhistischen Sekundär-überlieferung in Zentralasien, *ZDMG* Band 133-Heft 2. pp. 273-296.

------- (1977-1998) : *Uigurisches Wörterbuch*, 1-6, Wiesbaden.

Shōgaito, M. (1991) : On Uighur elements in Buddhist Mongolian texts, *Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko*, No.49. pp. 27-49.

------- (1996) : On the Contents of the Uighur Version of the Abhidharmakośabhāṣya-ṭīkā Tattvārthā, *Turfan, Khotan und Dunhuang*, Berlin. pp. 293-306.

------ (2003) : Uighur influence on Indian words in Mongolian Buddhist texts, *Indien und Zentralasien Sprach-und Kulturkontakt*, Wiesbaden. pp. 119-143.

------ (2004) : How were Chinese characters read in Uighur?, *Turfan Revisited — The First Century of Research into the Arts and Cultures of the Silk Road*, Berlin. pp. 321-324.

------./A. Yakup (2001) : Four Uyghur fragments of *Qian-zi-wen* 'Thousand Character Essay', *Turkic Languages*, Vol.5. pp. 3-28.

Tekin, Ş. (1970) : *Abhidharma-kośa-bhāṣya-ṭīkā tattvārtha-nāma, The Uigur Translation of Sthiramati's Commentary on the Vasbandhu's Abhidharmakośaśāstra: abidarim košavardi šastr* I, Text in Facsimile with Introduction, New York.

Wilkens, J. (2001) : *Die drei Körper des Buddha* (*trikāya*) , BTT XXI.

Yakup, A. (2006) : Uigurica from the Northern Grottoes of Dunhuang, *Studies on Eurasian Languages*, Kyoto. pp. 1-41.

Zieme, P. (1975) : *Manichäisch-türkische Texte*, BTT V.

------ (1985) : *Buddhistische Stabreimdichtungen der Uiguren*, BTT XIII.

Zieme, P / G. Kara (1978) : *Ein uigurisches Totenbuch*, Budapest.

©Masahiro Shōgaito 2008 Printed in Japan

平成19年度日本学術振興会科学研究費補助金(研究成果公開促進費)助成出版

ウイグル文アビダルマ論書の文獻學的研究　**定価　13,020円**

2008年2月20日印刷　本体　12,400円
2008年2月29日発行　消費税　620円

著　者　庄垣内　正弘
印　刷　中西印刷株式会社
京都市上京区下立通小川東入る
発　行　松香堂
京都市上京区小川西大路町146
中西印刷株式会社出版部　松香堂書店
Tel　075-441-3155
Fax　075-417-2050
E-mail　shoukadoh@nacos.com

ISBN978-4-87974-611-5